輪島小学校建設工事
（中央地区小学校災害復旧・建築工事）

校舎棟　図面リスト

建築意匠

図面番号	図面内容
a	目次・特記仕様書
b	基本図
c	詳細図　矩計・平面詳細図
d	詳細図　展開図
e	詳細図　建具図・家具図・サイン図
f	詳細図　部分詳細図
g	付帯外構図（本工事）
h	付帯外構図（別途工事）
Ａ－a01	建築工事仕様書　その１
Ａ－a02	建築工事仕様書　その２
Ａ－a03	建築工事仕様書　その３
Ａ－a04	建築工事仕様書　その４
Ａ－a05	建築工事仕様書　その５
Ａ－a06	建築工事仕様書　その６
Ａ－a07	建築工事仕様書　その７
Ａ－b01	敷地求積図，付近見取図
Ａ－b02	配置図
Ａ－b03	面積表　１
Ａ－b04	面積表　２
Ａ－b05	面積表　３
Ａ－b06	面積表　４
Ａ－b07	面積表　５
Ａ－b08	１階平面図（全体）
Ａ－b09	２階平面図（全体）
Ａ－b10	３階平面図（全体）
Ａ－b11	Ｒ階平面図（全体）
Ａ－b12	ピット伏図（全体）
Ａ－b13	校舎棟　仕上表　１
Ａ－b14	校舎棟　仕上表　２
Ａ－b15	校舎棟　仕上表　３
Ａ－b16	立面図（１）
Ａ－b17	立面図（２）
Ａ－b18	校舎棟　１階天井伏図
Ａ－b19	校舎棟　２階天井伏図
Ａ－b20	校舎棟　３階天井伏図
Ａ－b21	校舎棟　Ｒ階天井伏図
Ａ－b22	１階　壁リスト
Ａ－b23	２階　壁リスト
Ａ－b24	３階、Ｒ階　壁リスト

図面番号	図面内容
Ａ－c01	校舎棟　矩計図　（１）
Ａ－c02	校舎棟　矩計図　（２）
Ａ－c03	校舎棟/屋内運動場棟　矩計図　（３）
Ａ－c04	校舎棟　矩計図　（４）
Ａ－c05	校舎棟　階段詳細図　（１）
Ａ－c06	校舎棟　階段詳細図　（２）
Ａ－c07	１階平面詳細図　（１）　校舎棟/屋内運動場棟
Ａ－c08	１階平面詳細図　（２）　校舎棟/屋内運動場棟
Ａ－c09	１階平面詳細図　（３）　校舎棟
Ａ－c10	１階平面詳細図　（４）　校舎棟
Ａ－c11	２階平面詳細図　（１）　校舎棟/屋内運動場棟
Ａ－c12	２階平面詳細図　（２）　校舎棟/屋内運動場棟
Ａ－c13	２階平面詳細図　（３）　校舎棟
Ａ－c14	２階平面詳細図　（４）　校舎棟
Ａ－c15	３階平面詳細図　（１）　校舎棟/屋内運動場棟
Ａ－c16	３階平面詳細図　（２）　校舎棟/屋内運動場棟
Ａ－c17	３階平面詳細図　（３）　校舎棟
Ａ－c18	３階平面詳細図　（４）　校舎棟
Ａ－c19	Ｒ階平面詳細図　校舎棟
Ａ－d01	校舎棟　ＣＲ・多目的教室展開図
Ａ－d02	校舎棟　１階展開図　１
Ａ－d03	校舎棟　１階展開図　２
Ａ－d04	校舎棟　１階展開図　３
Ａ－d05	校舎棟　１階展開図　４
Ａ－d06	校舎棟　１階展開図　５
Ａ－d07	校舎棟　１階展開図　６
Ａ－d08	校舎棟　１階展開図　７
Ａ－d09	校舎棟　１階展開図　８
Ａ－d10	校舎棟　１階展開図　９
Ａ－d11	校舎棟　１階展開図　10
Ａ－d12	校舎棟　１階展開図　11
Ａ－d13	校舎棟　２階展開図　１
Ａ－d14	校舎棟　２階展開図　２
Ａ－d15	校舎棟　２階展開図　３
Ａ－d16	校舎棟　２階展開図　４
Ａ－d17	校舎棟　２階展開図　５
Ａ－d18	校舎棟　２階展開図　６
Ａ－d19	校舎棟　２階展開図　７
Ａ－d20	校舎棟　２階展開図　８
Ａ－d21	校舎棟　３階展開図　１
Ａ－d22	校舎棟　３階展開図　２
Ａ－d23	校舎棟　Ｒ階展開図

図面番号	図面内容
Ａ－e01	１階　建具符号図
Ａ－e02	２階　建具符号図
Ａ－e03	３階・Ｒ階　建具符号図
Ａ－e04	建具リスト（１）　校舎棟
Ａ－e05	建具リスト（２）　校舎棟
Ａ－e06	建具リスト（３）　校舎棟
Ａ－e07	建具リスト（４）　校舎棟
Ａ－e08	建具リスト（５）　校舎棟
Ａ－e09	建具リスト（６）　既設屋内運動場棟 改修
Ａ－e10	建具リスト（７）　既設屋内運動場棟 改修
Ａ－e11	１階　家具符号図
Ａ－e12	２階　家具符号図
Ａ－e13	３階　家具符号図
Ａ－e14	家具リスト（１）　校舎棟
Ａ－e15	家具リスト（２）　校舎棟
Ａ－e16	家具リスト（３）　校舎棟
Ａ－e17	家具リスト（４）　校舎棟
Ａ－e18	家具リスト（５）　校舎棟
Ａ－e19	家具リスト（６）　校舎棟
Ａ－e20	家具リスト（７）　校舎棟
Ａ－e21	家具リスト（８）　校舎棟
Ａ－e22	外部サイン配置図
Ａ－e23	１階サイン配置図
Ａ－e24	２階サイン配置図
Ａ－e25	３階・Ｒ階サイン配置図
Ａ－e26	サインリスト１
Ａ－e27	サインリスト２
Ａ－e28	サインリスト３
Ａ－e29	サインリスト４
Ａ－e30	サインリスト５
Ａ－f01	部分詳細図（１）
Ａ－f02	部分詳細図（２）
Ａ－f03	部分詳細図（３）
Ａ－f04	部分詳細図（４）
Ａ－f05	部分詳細図（５）
Ａ－f06	部分詳細図（６）
Ａ－f07	部分詳細図（７）
Ａ－f08	部分詳細図（８）
Ａ－f09	木・アルミ複合サッシ詳細図
Ａ－f10	ＥＸＰ．Ｊ詳細図
Ａ－f11	ＡＷ－１０詳細図
Ａ－f12	エレベーター詳細図（１）（参考図）
Ａ－f13	エレベーター詳細図（２）（参考図）
Ａ－f14	ダムウェーダー詳細図

図面番号	図面内容
Ａ－g01	外構図（計画図）
Ａ－g02	外構図（舗装計画）
Ａ－g03	外構図（排水計画①）
Ａ－g04	外構図（排水計画②）
Ａ－g05	外構図（植栽計画）
Ａ－g06	外構図（擁壁計画）
Ａ－g07	外構図（地盤改良計画）
Ａ－g08	外構部分詳細図（１）
Ａ－g09	外構部分詳細図（２）
Ａ－g10	外構部分詳細図（３）
Ａ－g11	外構部分詳細図（４）
Ａ－g12	外構部分詳細図（５）
Ａ－g13	外構部分詳細図（６）
Ａ－g14	自由勾配側溝展開図（１）
Ａ－g15	自由勾配側溝展開図（２）
Ａ－g16	自由勾配側溝展開図（３）
Ａ－g17	自由勾配側溝展開図（４）
Ａ－g18	自由勾配側溝展開図（５）
Ａ－g19	自由勾配側溝展開図（６）
Ａ－g20	断面図（１）
Ａ－g21	断面図（２）
Ａ－g22	現況レベル図・撤去図
Ａ－g23	乗入部計画図（１）
Ａ－g24	乗入部計画図（２）
Ａ－g25	乗入部計画図（３）
Ａ－g26	乗入部計画図（４）
Ａ－g27	乗入部計画図（５）
Ａ－g28	乗入部取壊し詳細図（１）
Ａ－g29	乗入部取壊し詳細図（２）
Ａ－g30	乗入部取壊し詳細図（３）
Ａ－g31	乗入部取壊し詳細図（４）
Ａ－g32	乗入部取壊し詳細図（５）
Ａ－g33	乗入部構造図
Ａ－h01	法チェック図　バリアフリー　配置図
Ａ－h02	法チェック図　バリアフリー　１階
Ａ－h03	法チェック図　バリアフリー　２階
Ａ－h04	法チェック図　バリアフリー　３階
Ａ－h05	法チェック図　防火避難　１階
Ａ－h06	法チェック図　防火避難　２階
Ａ－h07	法チェック図　防火避難　３・Ｒ階
Ａ－h08	法チェック図（日影図）
Ａ－h09	法チェック図（平均地盤面算定図）
Ａ－h10	法チェック図（採光補正算定図）
Ａ－i01	指定仮設図

建築構造

図面番号	図面内容
Ｓ－01	構造設計標準仕様書
Ｓ－02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［１］
Ｓ－03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［２］
Ｓ－04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［３］
Ｓ－05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［４］
Ｓ－06	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［５］
Ｓ－07	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［６］
Ｓ－08	鉄骨構造標準図［１］
Ｓ－09	鉄骨構造標準図［２］
Ｓ－10	鉄骨構造標準図［３］
Ｓ－11	鉄骨構造標準図［４］
Ｓ－12	クラウンパイルアンカー工法標準図（１）
Ｓ－13	クラウンパイルアンカー工法標準図（２）
Ｓ－14	ＮＣＰアンカー工法標準図
Ｓ－15	地盤改良設計施工特記仕様書
Ｓ－16	露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図（１）
Ｓ－17	露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図（２）
Ｓ－18	露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図（３）
Ｓ－19	露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図（４）
Ｓ－20	高強度せん断補強筋特記仕様書
Ｓ－21	ＲＣ梁貫通孔補強筋設計施工仕様書
Ｓ－22	鉄骨梁貫通孔補強工法標準図
Ｓ－23	地質調査図（１）
Ｓ－24	地質調査図（２）
Ｓ－25	地質調査図（３）
Ｓ－26	地質調査図（４）
Ｓ－27	杭伏図
Ｓ－28	基礎伏図
Ｓ－29	１階柱壁１階床梁伏図
Ｓ－30	１階柱壁２階床梁伏図
Ｓ－31	２階柱壁３階床梁伏図
Ｓ－32	３階柱壁Ｒ階床梁伏図
Ｓ－33	ＰＨ階梁伏図
Ｓ－34	軸組図（１）
Ｓ－35	軸組図（２）
Ｓ－36	軸組図（３）
Ｓ－37	軸組図（４）
Ｓ－38	軸組図（５）
Ｓ－39	軸組図（６）
Ｓ－40	軸組図（７）
Ｓ－41	基礎リスト
Ｓ－42	基礎梁リスト
Ｓ－43	柱リスト／鉄骨部材リスト
Ｓ－44	大梁リスト（１）／小梁リスト（１）

図面番号	図面内容
Ｓ－45	大梁リスト（２）／小梁リスト（２）
Ｓ－46	スラブリスト・壁リスト／雑リスト
Ｓ－47	架構配筋詳細図／鉄骨詳細図
Ｓ－48	部材リスト（厨房付属棟）
Ｓ－49	屋外設備基礎構造図
Ｓ－50	屋外擁壁地盤改良図

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	図リスト	縮尺		図番	Ａ－

最終改訂　令和８年４月１日

建築工事仕様書

Ⅰ 工事概要

1 工事場所　輪島　市郡　河井　町　　地内

2 工事内容　（1）・本体工事　（種別．棟別．構造．階．面積）

校舎棟	ＲＣ造（一部：Ｓ造）	３階建て	5,505.32㎡
屋内運動場棟	ＳＲＣ造	２階建て	2,960.90㎡
厨房付属棟	Ｓ造	平屋建て	37.63㎡

既設屋内運動場一部改修　図示による

（2）・屋外付帯工事

図示による　本工事

（3）・電気設備工事　※別契約関連工事

（4）・給排水衛生設備工事　※別契約関連工事

（5）・解体工事

3 完成期日　令和 10 年　7 月　末 日　（概成工期　令和　年　月　日）

（余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。）

4 別契約関連工事

・屋外付帯工事 本工事	・植栽工事 本工事
⊙電気設備工事	⊙給排水衛生設備工事
⊙暖房設備工事	⊙冷房設備工事
⊙換気設備工事	⊙空調設備工事
・昇降機設備工事 本工事	⊙電話設備工事
・浄化槽設備工事	・
・	・

Ⅱ 建築工事仕様

1 共通仕様

1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標仕」という。）による。

2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図、機械設備工事は（　／　）図による。

2 特記仕様

1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

3）特記事項に記載の（　．　．　）内表示番号は、「標仕」の該当項目、当該図又は当該表を示す。

4）特記事項に記載の（別図－　．　．　）は、「標仕」の別図「各部配筋」の当該番号を示す。

5）特記事項に記載の［　．　．］内表示番号は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「改修標仕」という。）の当該項目、当該図又は当該表を示す。

6）Ｇ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）の特定調達品目を示す。該当する項目については、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。

7）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。

8）斜線で消去した章は適用しない。

1章　一般共通事項

項目	特記事項

① 適用基準等

設計図書の他に、下記の図書の該当事項を適用する。
⊙建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和４年版）
⊙建築構造設計基準の資料（国土交通省大臣官房官庁営繕部　令和３年通知）のうち第３章
⊙営繕工事写真撮影要領（令和３年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
⊙営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部　令和３年度版）
・建築物解体工事共通仕様書（令和４年度版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
・公共建築木造工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成３１年版）
・屋根瓦工事共通仕様書（石川県土木部営繕課監修　令和５年版）
⊙鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
・壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
⊙鉄骨構造標準図（石川県土木部営繕課監修）
⊙石川県バリアフリー社会の推進に関する条例に基づく整備基準（施設整備の手引き）
⊙石川県公共事業景観形成ガイドライン

② 工事実績情報の登録

※登録する（但し工事請負代金額500万円以上の工事。）　(1.1.4)

③ 情報共有システム

石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。　(1.1.5)
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html

・利用する（発注者指定型）
※現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

④ 発生材の処理

1）産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により運搬し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。
また、処分に際しては産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。

2）発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に引き渡す。　(1.3.11)
イ）引渡しを要するもの及び引渡し場所　・引渡を要するもの
　　・引渡し場所
ロ）特別管理産業廃棄物の有無　・有　・無
ハ）特別管理産業廃棄物の処理方法　※図面　番　図参照

3）発生材のうち、現場で再利用を図るもの及び再資源化を図るものは、下記による。
・現場で再利用を図るもの　・
・再資源化を図るもの　・

4）建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法第18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無
・有　・無

⑤ 電気保安技術者

※　適用する　(1.3.3)

⑥ 施工条件

・仮設校舎、既設屋内運動場、既設プール施設を使用しながらの工事である。

⑦ 建築材料等

1）本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、又はこれらと同等のものとする。　(1.4.1)(1.4.2)(1.4.4)
①「評価名簿による」と特記されたものについては、「建築材料・設備機械等品質性能評価事業評価名簿（最新年版）」（(社)公共建築協会）によるほか、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、次の②に準じ監督員の承諾を受ける。また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとみなす。
②JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次のイ）からヘ）の事項を満たすものとする。また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等品以上を使用するものとし、監督員の承諾を受けるものとする。
イ）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
ロ）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
ハ）安定的な供給が可能であること。
ニ）法令等で定める許可、認定、又は免許等を取得していること。
ホ）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
ヘ）販売保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出する。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。

2）請負契約約款第６条の２第７項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認願」により監督員の確認を受け、工事完了後は地元産品について「使用材料報告書」を提出する。

3）請負契約約款第13条第２項に定める監督員等の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。
⊗杭　⊙型枠類　⊙防水材料　・石材　⊙木材
但し、杭以外のJIS規格品は除く。

4）請負契約約款第14条第１項に定める監督員等の立会いのうえ調合等をし使用すべき工事材料は次のものとする。
※高強度コンクリート試し練り　⊙地盤改良材の調合　・土壁仕上げ材調合

5）請負契約約款第14条第３項に定める見本は次のものとする。
⊙金属製品　・合成樹脂製品　⊙木製建具　⊙塗装　・土壁仕上げ材調合
⊙家具及び家具の金物　・畳　⊙内外装材料　⊙屋根材料
なお、監督員が承諾した材料は、証明となる資料と使用箇所を付し、工事完成まで現場事務所に掲示する。ただし、掲示が困難な材料等はカタログ、その他に代えることができる。

6）本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないものとする。（「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則等の一部を改正する省令の施行等について」（厚生労働省労働基準局長通達平成18年８月）参照）。安全データシート（SDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。

⑧ 特別な材料の工法

「標仕」に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。

⑨ 技能士等

適用する技能士等及び技能士の適用工事種別及び作業の種別は次の通りとする。
※　技能士　(1.5.2)

適用工事種別	技能検定作業
仮設工事	⊙とび作業
鉄筋工事	⊙鉄筋組立て作業
コンクリート工事	⊙型枠作業　⊙コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	⊙構造物鉄工作業　⊙とび作業
ブロック・ALCパネル工事 押出成形セメント板工事	・コンクリートブロック工事作業 ⊙エーエルシーパネル工事作業
防水工事	⊙アスファルト防水工事作業　・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業　・FRP防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業　⊙シーリング防水工事作業
石工事	・石材加工作業　・石張り作業　・石積み作業
タイル工事	⊙タイル張り作業
木工事	⊙大工工事作業
屋根及びとい工事	⊙内外装板金作業　・かわらぶき作業
金属工事	⊙鋼製下地工事作業　⊙内外装板金作業
左官工事	⊙左官作業
建具工事	⊙ビル用サッシ施工作業　・自動ドア施工作業 ⊙ガラス工事作業
カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	⊙建築塗装作業
内装工事	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業 ⊙カーペット系床仕上げ工事作業　・木質系床仕上げ工事作業 ⊙ボード仕上げ工事作業　・壁装作業
排水工事	⊙建築配管作業
植栽工事	⊙造園工事作業

・「石川の伝統的建造技術を伝える会」のうち、金沢城公園整備工事従事者の認定を受けた者。

⑩ 総合試運転調整

・行う　(1.5.7)

⑪ 完成図等

1）完成図　(1.7.1～3)(表1.7.1)
工事完成図は、A3版製本（※１部　⊙２部　・　部）を提出する。
⊙工事完成図の作成は、設計変更による訂正を含め、施工会社の責任において行うものとする。

2）屋外付帯工事実測図　※提出する（１部）　⊙提出しない

3）保全に関する資料　※提出する（１部）　・提出しない
保全に関する資料のうち「建物等の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物保全の手引き(改訂版)」（（一財）建築保全センター）に建物の構造、機器、保全業務等の説明及び清掃の要点、使用材料の製造品名、連絡先等を記載したものに代えることができる。
別契約の関連する設備工事等がある場合は、連携のうえ作成する。

⑫ 工事写真等の記録

1）工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和３年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）により整備し、下記により提出する。また、本仕様書の「第１章29電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
各区分の写真はA4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。

※写真帳

区分	分類	大きさ	撮影枚数	部数
着工前	※カラー ・	※100×148程度 ・	※　6 景以上	※　1 部
工事中	※カラー ・	※85×115程度 ・	「営繕工事写真撮影要領」による	※　1 部
完成時	※カラー ・	※100×148程度 ・	※ 60 景以上	※　1 部 ・

・アルバム

区分	分類	大きさ	撮影枚数	部数
完成時	※カラー ・	※127×178程度 ・	※ 60 景以上	※　1 部 ・

・写真パネル

区分	分類	大きさ	仕様	部数
完成時	※カラー ・	※457×560程度 ・	※木製枠ﾌｯｸ付き	※　1 部 ・

2）完成写真の撮影　⊙専門業者の撮影（撮影者を明記）　・専門業者以外の撮影

3）原版の使用権を次の者に移譲する。　⊗発注者　⊙設計者
移譲を受けた者は、写真を撮影者の了解なしに撮影者名を表示しないで自由に使用できる。
撮影者が写真を使用する場合は、発注者・設計者の承諾を必要とする。

4）中間検査または、監督員の指示により手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

⑬ 責任施工

特記事項中、責任施工の指示のあるものは、受注者及び下負請人の連帯責任とし保証書を提出する。

⑭ 工事報告書

工事の進捗度表、作業員の出面報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月~~15日及び~~月末毎に提出する。

⑮ 設備工事との取合い

1）設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受ける。

2）設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。なお箇所数等は下記による。

位置、大きさ、箇所数等

位置／大きさ		100㎜	125㎜	150㎜	200㎜	250㎜	300㎜	350㎜	600㎜	700x200	1100x200
補強筋箇所数	RC梁	261		142	59	51	150	2	8		
	S梁			2	3						
	RC床		8								4
	RC壁									1	

3）鉄骨部のスリーブ及び補強は本工事に含むものとする。

4）軽鉄下地で天井、壁等の補強は本工事に含むものとする。なお箇所数は、下記による。
イ）天井部分　箇所　ロ）壁部分　箇所

設備関連工事との取合いは下記による。

他工事との取合い		建築工事	電気工事	機械工事	備考
機器の基礎、換気扇取付用枠				○	
梁、床、壁貫通部の補強		○			
梁、床、壁貫通部のスリーブ、型枠			○	○	
外気取付ガラリ、床下水槽マンホール蓋		○			ガラリは立面図に図示
ステンレス流し台等		○			排水トラップ共
排気フード、レンジフードファン取り付け枠（鋼製）とも				○	
天井、壁、床、点検口、プロパンボンベ庫		○			
下流し、足洗場の給水、排水、玄関の排水				○	
小便器仕切板(陶器製)、タオル掛(下地共)				○	下地補強は建築工事
洗面所、手洗所等の鏡		○		○	特殊なものは建築工事
ボイラーの煙突					鋼板製は機械設備工事
実験台に付属する設備機器		○			
実験台の配管等の接続			○	○	
埋込み分電盤、端子盤等の壁補強		○			
埋込み分電盤、端子盤等の型枠			○		
天井、壁ボード類の下地補強			○	○	墨出し、ボード類切り込みは設備工事
簡易間仕切り(内装ﾊﾟﾈﾙ)内の位置ボックス及び配管の取付		○			
屋内・屋外に設置する発電機、配電盤、制御盤、受水槽、ポンプ等の基礎、防油堤		○			
屋上に設置するテレビアンテナ、避雷針等の設備基礎		○			屋根伏図に図示
配線ピット及び蓋		○			
照明器具幹線等の吊りボルト用インサート			○		
身体障害者用の手すり		○			
洗濯機用防水パン及びトラップ				○	
ＦＦ暖房機・クーラー等の配管用スリーブ		○			
電話・テレビ等の配線用スリーブ			○		
クーラー取付ボルト用インサート		○			建築図に図示
ユニットバス本体・付属品（シャワー金具・手すり・鏡・照明）		○			配管接続以降は設備工事
ユニットバス用換気扇				○	
消火器				○	公共住宅に適用
自動扉、電動Ｓ、電動ルーバー、防火設備の閉鎖制御機器、感知器	１次側配管配線		○		機器は建築工事
	２次側配管配線	○			
地下タンク室		○			

⑯ 設計ＧＬ

※図示　・設計ＧＬ＝現状ＧＬ

⑰ 建築基準法に基づき指定する条件

⊙地区の区分に応じた風速（Ｖ（m/sec））　30（県内全域）
⊙地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ
⊙多雪地域の指定　垂直積雪量　１００ｃｍ

⑱ 工事現場の掲示板

工事現場には、下記掲示板を設置する。　（記入例）　(2.3.1)

90cm

工　事　名
工　期　自　年　月　日～至　年　月　日
発注者　石川県土木部営繕課
（監　修）
設　計
監　理
施　工　建　築　（業者名を記入する）
電　気　（業者名を記入する）
給排水　（業者名を記入する）
暖　房　（業者名を記入する）
この工事は、週休２日に取り組んでいます

60cm（75cm）

上段の地色は、白色
文字は、青色
下段の地色は、青色
文字は、白色

（注意事項）
①（監　修）内は、監修を委託した場合。
②業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。
③工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

19 総合評価時における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

⑳ 施工の検査等

監督員等の検査を受ける工種は次のものとする。　(1.5.5)
※敷地状況確認及び縄張り　※ベンチマーク　※遣方　※根切り掘削完了時
※主要構造部の配筋　・型枠の組立て　・鉄骨原寸図　※鉄骨ボルト締付け　※鉄骨建方
その他監督員等の指示するもの

㉑ 施工の立会い等

請負契約約款第14条第２項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。
※杭打ち　⊙コンクリートのスランプ確認及び打込み　・屋外タイル接着力試験
・地盤改良部試験体採取　その他監督員等の指示するもの　(1.5.7)

㉒ 中間検査

中間検査の実施　※有　・無　(1.6.2)
実施時期　※躯体工事完了時　⊙２階の梁、床配筋工事完了時

㉓ 公共事業労務費調査等に対する協力

・受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。

1）調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。

2）調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。

3）正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。

4）対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前各号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

5）本工事が「建設副産物実態調査」の対象となった場合、県の求めに対して速やかに調査票を作成し、県に提出しなければならない。

㉔ 保険

工事目的物、工事材料等に生ずる損害を填補する保険は、下記による。
※建設工事保険または組立保険（工事対象物を全て解体する工事を除く）
加入期間　引渡しまで（引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで）

㉕ 室内空気汚染対策

※実施する　・実施しない　(1.5.9)

1）測定の有無等
イ）測定の有無　※有　・無
測定する場合は、下記のとおり揮発性有機化合物について室内濃度を測定し、厚生労働省の定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
ロ）測定対象室
測定は原則として、内装仕上げ材料の仕様が大きく異なる居室毎に行う。ただし、居室の規模が著しく異なる場合は、それぞれ実施する。
内装工事を行った居室について測定を行う。
特別活動室（2カ所）、職員室（3カ所）、校長室（1カ所）、給食調理室（2カ所）、教育相談室（1カ所）、保健室（1カ所）、ＣＲ（2カ所）、理科室（2カ所）、図工室（2カ所）、特別支援学級（1カ所）、ラーニングコモンズ（2カ所）、音楽室（2カ所）、家庭室（2カ所）、ランチルーム（2カ所）　計２５カ所
ハ）１室当たりの測定箇所数

室の床面積　Ａ（㎡）	Ａ≦50	50＜Ａ≦200	200＜Ａ≦500	500＜Ａ
測定個所数	1	2	3	4

全ての測定個所において、ニ）の測定対象化学物質全ての濃度を同時に測定する。
ニ）測定対象化学物質及び測定方法
測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンとし、同時に測定する。測定方法は、パッシブ型採取機器を用い、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長通知（平成２４年４月５日　国営整第４号）「官庁営繕部におけるホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により行う。
ホ）測定時期
測定は下記の時期に行うものとする。
①測定対象化学物質が、関連工事による測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引き渡し後の室内空気環境と同程度になった時期。
②別途工事又は家具の設置等が行われる前。
③内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。
④中央式空気調和設備のように換気を行いながら空気調和を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していること。
ヘ）測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合の措置
測定結果が厚労省の指針値を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。
ト）その他採取、測定及び分析の方法は、上記ニ）の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。

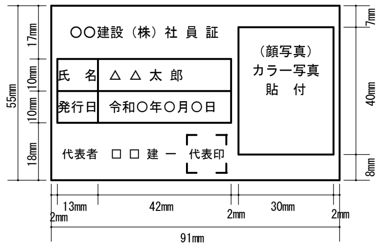
2）施工中・施工後の通風、換気
接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に放散した溶剤成分等の希釈を図るものとする。

3）引き渡し時
室内空気中に化学物質を発散するおそれのある建築材料等を使用している場合は、監督員の指示により、その使用状況の一覧表を提出する。

4）揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のイ)からホ)の事項を満たすものとする。
イ）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗り材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ロ）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ハ）接着剤は、フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ニ）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ホ）上記のイ)、ハ)、ニ)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。
※「規制対象外」のもの
①JIS又はJASのＦ☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の７第４項による国土交通大臣認定品
③下記表示のあるJAS規格品
ア）非ホルムアルデヒド系接着剤使用
イ）接着剤等不使用
ウ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料を使用
エ）ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
オ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
カ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
・「第三種」のもの
①JIS又はJASのＦ☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の７第３項による国土交通大臣認定品
③旧JISのＥ０規格品
③旧JASのＦ０規格品

㉖ 名札の着帯

現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。（ただし、請負額1,000万円以上の工事）



（注意事項）
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。
②顔写真（ｶﾗｰ写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。

㉗ 施工体制台帳の作成等

当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げること。

設計 教育委員会教育総務課	工事名　中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）		
	図面名　建築工事仕様書　その１	図面番号	Ａ－a01

㉘ **排出ガス対策型建設機械 G**
次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。
1）バックホウ
2）トラクターショベル
3）発動発電機
4）空気圧縮機
5）ローラ類
6）ホイールクレーン

㉙ **創意工夫等**
工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

㉚ **保険の付与及び事故の補償**
1）受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。

2）受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）

3）受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結１ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

㉛ **電子納品**
※行う（「電子納品仕様書」による。）　　・行わない
電子納品仕様書
1　電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。
ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名　　称
営繕工事電子納品要領（令和３年版）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和３年度版）

基準・要領類のダウンロード　http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html
2　工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＲ－Ｄで１部納品する。
3　工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。
4　発注者が行うＣＡＬＳ／ＥＣ電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

㉜ **騒音振動の防止**
低騒音（ G ）、低振動型建設機械を使用する。

㉝ **隣接建物又は工作物の調査**
※行う　　　・行わない
⊙木造家屋　２棟　着手前及び竣工後　外壁及び内部

㉞ **敷地の状況確認**
着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がないか関係機関の協力を得て確認し、監督員に報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。

㉟ **ダンプトラック等による過積載等の防止**
1）積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

2）さし枠装着車、不表示車等に土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。

3）過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。

4）取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。

5）建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。

6）「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年８月月２日法律第131号。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。

7）１から６につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

㊱ **景観への配慮**
当該工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施工に努めること。

37 **住宅瑕疵担保履行法に基づく資力確保措置**
本建物の住宅瑕疵担保履行法に基づく資力確保措置は、本工事に含める。

２章　仮設工事

項目 ／ 特記事項

① **監督職員事務所**
※設ける　　・設けない　(2.3.1)
イ）監督職員事務所の規模（単位：㎡）

種別号	・１号	・２号	⊙３号	・４号	・５号
面積程度	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

ロ）監督職員事務所に設ける備品等
※保護帽　※墜落制止用器具　※長靴　※合羽　※原図大及びＡ３縮小の設計図面製本各２部
※机　※椅子　※懐中電灯　・書棚　・黒板　・寒暖計　⊙ネットワーク接続･オンライン会議が可能な環境

② **快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）**
・快適トイレを設置すること。
※監督員へ提案･協議し、快適トイレを設置することができる。
快適トイレを設置した場合は設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。

③ **工事用水**
構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）

④ **工事用電力**
構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）

⑤ **指定仮設**
指定仮設の適用　⊙仮囲い　⊙敷鉄板（※図示）

仮囲いは、下記により強風に対して倒壊、飛散しない堅固な構造とし、事前に施工図を提出して監督員の承諾を受けること。
イ）材料　⊙鋼板　　・亜鉛波形鉄板　　・
ハ）塗装　・する　・しない　⊙塗装品
ロ）高さ　・1.8m　　・2.0m　　・3.0m
ニ）延長　　図示　m
その他の指定仮設　⊙鋼矢板、Ⅳ型、W＝16.0m、L=10m、残置あり（図示）
（種別、規格、仕様）

⑥ **工事用道路**
工事用道路は、良好な維持管理を行い、使用後は受注者にて速やかに原形に復旧すること。

⑦ **足場**
1）足場の種類
※枠組本足場（手すり先行足場）　(2.2.4)
・くさび緊結式足場（手すり先行足場）

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省 令和5年12月26日）に規定する「（別紙1）手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２（１）手すり据置き方式又は（２）手すり先行専用足場方式により行うこと。

2）建枠・布枠の寸法等

建　枠	・1200枠	・900枠	・600枠
布　枠	・500布枠×２枚	※500＋240布枠 ・	・500布枠×１枚

3）防護シート等による養生
イ）防護シート等の有無　※設置する　・設置しない
ロ）防護シート種類
※ネット状養生シート又は養生シート（出入口等上部は必要に応じて防護柵を設ける。）

⑧ **危険物貯蔵所**
シンナー等有機溶剤を使用する場合は、特に火災及び盗難について管理を徹底する。　(2.3.2)

３章　土工事

項目 ／ 特記事項

① **埋戻し及び盛土**
種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 G　(3.2.3)（表3.2.1）
なお、処理に当たっては「建設発生土情報交換システム」等を活用する。

② **建設発生土の処理**
⊙現場内で処理
⊙現場外仮置き（旧大屋小学校屋外プール解体跡地、旧鵜巣小学校屋外プール解体跡地）
⊙構内指示の場所に堆積　　・構内指示の場所に敷き均し
・構外搬出適正処理　（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと）　(3.2.5)
・指定（想定）搬出先　　受入場所：
受入時間帯：　　時　　分～　　時　　分
仮置き等：

③ **六価クロム溶出試験**
（１）「六価クロム溶出試験」の対象工事の有無　　⊙有　　・無

（２）本工事が「六価クロム溶出試験」の対象工事である場合は、下記の要領で「六価クロム溶出試験」を実施し、厚生労働省の定める指針値（0.05mg/l）以下であることを確認し、試験結果（計量証明書）を提出すること。
参照：「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領(案)」
（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課長ほか　H13.4.20改正）
1）「六価クロム溶出試験」対象工種名及び検体数
イ）　地盤改良 工　表層安定処理工法・固結工法
⊙配合設計段階　　　１検体（試験方法１）・施工後段階　　　　検体
ロ）　　　工　　　工法
・配合設計段階　　　検体　　　・施工後段階　　　　検体
2）タンクリーチング試験対象工種名及び検体
イ）　　　工　　　工法　　　　検体
ロ）　　　工　　　工法　　　　検体

④ **山留め**
⊙存置する　　・存置しない
⊙鋼矢板：Ⅳ型、Ｌ＝１０ｍ、校舎棟南面（１６ｍ）

４章　地業工事

項目 ／ 特記事項

① **既製コンクリート杭地業**
1）種類
※遠心力高強度プレストレストコンクリート杭　(4.3.1)(4.3.3)
・

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	継手数	セット数	備考
試験杭	※本杭の１本目を試験杭とする。				
本　杭	図示	図示	図示	図示	

イ）杭頭の処理　　※切断しない　　・　(4.3.8)
ロ）先端部形状　　※開放形　　・閉そく平たん形　(4.3.3)
ハ）杭の継手　　・溶接継手　　⊙機械式継手　(4.3.6)

2）施　工　法　(4.3.5)
⊙特定埋込杭工法（杭材料条件に適合するもの）
Ｈｙｐｅｒ－ＭＥＧＡ工法、または同等工法以上

・

2 **場所打ちコンクリート杭地業**
コンクリートの種別、設計基準強度及びスランプ　(4.5.4)(表4.5.1)
（　　）種かつ（　　）N/mm^2以上　　スランプ　※21cm　・18cm　・
イ）鉄筋の種類　　５章鉄筋工事の鉄筋の種類による　(4.5.4)
ロ）掘削工法　　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水掘削）　(4.5.5)
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張　・行う　・行わない）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　(4.5.6)
・拡底杭工法（※安定液使用　・　　）
ハ）セメントの種類　※高炉セメントB種 G　　・　(4.5.4)
ニ）孔壁測定　　・行う（　　　　）　・行わない　(4.5.5)

③ **砂利地業**
※再生クラッシャラン G　　・切込み砂利及び切込み砕石　(4.6.3)

④ **床下防湿層**
施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4.6.5)

⑤ **地盤改良**
1）深層混合処理工法　(4.7.2)(4.7.3)
イ）固化材の種類　　⊙セメント固化材　　・
ロ）工法　　※機械撹拌方式　　⊙ウルトラコラム工法、または同等工法以上
ハ）六価クロム溶出試験　　⊙適用する（３章３（２）による）　・適用しない

2）浅層混合処理工法　(4.8.2)(4.8.3)
イ）固化材の種類　　⊙セメント固化材　　・
ロ）工法　　※原位置混合方式　　・
ハ）六価クロム溶出試験　　⊙適用する（３章３（２）による）　・適用しない

５章　鉄筋工事

項目 ／ 特記事項

① **鉄筋の種類**
(5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼　び　名（mm）
⊙SD295	※D16以下
⊙SD345	※D19～D25
⊙SD390	※D29以上

② **溶接金網**
網目の形状、寸法等　(5.2.2)

形状、寸法等（縦×横）（mm）	鉄線の径又は呼び名（mm）	規　格
※100×100　・	※6.0　・	JIS G 3551による
・	・	

③ **鉄筋の継手**
呼び名19mm以上の柱、梁の主筋　(5.3.4)
※ガス圧接継手　・重ね継手　・機械式継手　・溶接継手

④ **鉄筋の最小かぶり厚さ**
1）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地底から算定する。　(5.3.5)
2）塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施　工　箇　所	「標仕」表5.3.6の値に加える寸法（mm）
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※10　・20　・25

⑤ **帯筋**
※Ｈ形　　・ＳＰ形　　⊙溶接閉鎖形　（別図2.2）

⑥ **最上階柱頭補強**
※行う　　・行わない　（別図2.1）

⑦ **壁開口部の補強**
一般壁　※Ａ形　・Ｂ形　⊙図示　（別図4.3）（別表4.3～4）
耐震壁　※図示

⑧ **梁貫通孔の補強形式**
※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　⊙既製品　（別図7.1）（別表7.1～3）

⑨ **圧接完了後の試験**
※超音波探傷試験　　・引張試験　(5.4.10)

⑩ **鉄筋の台直し**
鉄筋の台直しは絶対に認めない。止むを得ず生じた場合は、監督員の承認を得た後に補修または補強を行うこと。監督員の承諾なきものは、全てやり直しとする。

６章　コンクリート工事

項目 ／ 特記事項

① **コンクリートの種類及び強度等**
普通コンクリートの設計基準強度　(6.2.1～2)（6.14.1）

設計基準強度Fc（N/㎟）	スランプ（cm）	施工箇所
⊙18	⊙15　・18	⊙無筋コンクリート適用箇所
⊙21	⊗18　・	⊙押え
⊙24	⊙15　・18	⊙土間ピットスラブ
⊙27	⊙15　・18	⊙基礎、ピットスラブ、１Ｆスラブ
⊙27	・15　⊙18	⊙上部躯体
⊙24	・15　⊙18	⊙雑、設備基礎
⊙24	⊙15　・18	⊙厨房附属棟基礎躯体、厨房付属棟土間

軽量コンクリートの設計基準強度　(6.2.1～2)(6.10.1)(表6.10.1)

設計基準強度Fc（N/㎟）		種　別	施工箇所
・21	・21　・	・１種　・２種	
・	・		

② **寒中コンクリート　マスコンクリート　無筋コンクリート　流動化コンクリート　高流動コンクリート**
(6.11.1～6.16.4)

種　　類	適　用　箇　所	備　考（適用期間）
・寒中コンクリート		
マスコンクリート ・高炉セメントＢ種 G ・中庸熱ポルトランドセメント		
⊙無筋コンクリート	均しコンクリート	
・流動化コンクリート		
・高流動コンクリート		

③ **レディーミクストコンクリートの類別**
※Ⅰ類　　・Ⅱ類　(6.2.1)(6.4.1～2)(表6.2.1)
JISマーク表示認証製品を製造している工場で、かつ、コンクリート主任技士等が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）で製造したものとする。

④ **セメントの種類**
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種（マスコンクリートを除く）
・高炉セメントＢ種 G　(6.3.1)(表6.3.1)
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水　和　熱	７ｄ：350J/ｇ以下	28ｄ：400J/ｇ以下	

⑤ **骨材の品質**
アルカリシリカ反応性による区分　(6.3.4)(6.5.4)
※Ａ　　・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m3以下）

⑥ **混和材料の種別**
※混和剤　　・混和材　(6.3.1～2)

⑦ **構造体強度補正値**
構造体強度補正値の決定に用いる「予想平均気温θ」は、気象庁金沢地方気象台発表の過去の平均値より決定する。　(6.3.2)(監理指針 表6.11.2)

⑧ **型枠（せき板）の種別**
1）塗装の有無　　※無　　・有
2）打放し仕上げの種別　(表6.2.4)

種　別（表面の仕上り程度）	材　料（せき板）	塗装	施工箇所
⊙Ａ種 目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とする	厚さ12mmのJAS規格品による表面加工品又は同等と見なせる程度のもの	⊙有 ・無	図示
⊙Ｂ種 目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とし、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとする	厚さ12mmのJAS規格品によるＢ－Ｃ又は同等と見なせて、ほとんど損傷のないもの	⊙有 ・無	図示
⊙Ｃ種 打放しのままで、目違いばらいを行ったもの	厚さ12mmのJAS規格品によるＢ－Ｃ又は同等と見なせて、使用上差支えのない程度のもの	⊙有 ・無	図示

⑨ **コンクリートの打増し**
仕上げその他の納まりによる打増しは下記による。

打増し（mm）	・	⊙図示
施工箇所	外断熱取合い（図示）	⊙図示

10 **断熱材兼用型枠**
適用箇所及び品質等は19章９断熱材による　(6.8.3)

11 **コンクリート躯体の表面処理**
外装タイル後張り面の躯体表面の処理　(6.8.3)(11.3.5)
ＭＣＲ工法又は15.3.4(3)による目荒らし工法とする。なお、目荒らし工法の場合は、モルタルの接着に適した粗面に仕上げる工法を、1.2.2「施工計画」による品質計画で定める。
また、粗面の状態は、監督職員の承諾を受ける。
適用範囲は11章タイル工事　コンクリート素地面の処理による
コンクリートの増打ち厚さ　※20mm

７章　鉄骨工事

項目 ／ 特記事項

① **鉄骨の製作工場**
⊙監督職員の承諾する製作工場　(7.1.3)
⊗建築基準法第77条の56第１項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた㈱日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構により下記グレードとして国土交通省から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。
・Ｓグレード以上　・Ｈグレード以上　⊙Ｍグレード以上　・Ｒグレード以上

② **施工管理技術者**
※適用する　(7.1.3～4)(7.6.2)(7.12.2)

③ **鋼材**
鋼材の材質　(7.2.1)(7.2.10)(表7.2.1)

種類の記号	使　用　箇　所	規格等
図示	図示	※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による

④ **普通ボルト**
ボルトの径、縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※図示　(7.2.3)(7.3.2)

⑤ **高力ボルト**
1）ボルトの区分　(7.2.2)(7.3.2)(7.4.1～9)
※トルシア形高力ボルト　　・JIS形高力ボルト
2）ボルトの径、縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※図示
3）すべり係数試験　※行わない　・行う　試験方法等（　　　　）

⑥ **溶融亜鉛めっき高力ボルト**
1）ボルトの径、縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※図示
2）摩擦面の処理　(7.2.2)(7.3.2)(7.12.4)
※　ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・　リン酸塩処理
3）すべり耐力等の確認方法
※　すべり耐力等の確認方法等　※図示

⑦ **完全溶込み溶接部の試験**
1）現場溶接　※全て　(7.6.12)
2）工場溶接
ＡＯＱＬ　・レベルⅠ（2.5%以下）　※レベルⅡ（4.0%以下）
検査水準　※第６水準　　・図示
(7.6.12)(表7.6.2～3)

検査の種別	試　験　箇　所	試験方法
⊙超音波探傷試験	柱梁等の突合せ溶接部	※「標仕」7.6.12(イ)による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

⑧ **耐火被覆**
(7.9.2～8)

種　別		所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り		
⊙耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ⊙湿式ロックウール ・	図示
・耐火板張り		
⊙耐火シート		図示
⊙耐火塗料		図示

⑨ **アンカーボルトの保持及び埋込み方法**
⊙構造用アンカーボルト（Ｍ１６、Ｍ２０　　　）
・建方用アンカーボルト（・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種）　(7.10.3)(表7.10.1)
⊙露出型弾性固定柱脚

⑩ **柱底均しモルタル工法**
※Ａ種　　・Ｂ種　(7.10.3)(表7.10.2)

⑪ **溶融亜鉛めっき工法**
(7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材　　料	適用部位
Ａ種	最低板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	図示
Ｂ種	最低板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	図示
Ｃ種	最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板 普通ボルト、アンカーボルト	図示

⑫ **スカラップ**
・改良型スカラップ　⊙ノンスカラップ　(7.6.7)

⑬ **溶接条件**
1）入熱、パス間温度の溶接条件
適用箇所　・図示
⊙柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・

2）鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料の規格	溶接材料の種類	入　熱	パス間温度
400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	40kJ/cm以下	350℃以下
		YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3211	引張強さが570MPa以上のものを除く。	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3214	引張強さが570N/mm2以上のものを除く。		
	JIS Z 3315	YGA-50W, YGA-50P		
490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3211	引張強さが570MPa以上のものを除く。	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3214	引張強さが570N/mm2以上のものを除く。		
	JIS Z 3315	YGA-50W, YGA-50P		
520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	250℃以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級炭素鋼（STKR, BCR及びBCPに限る。）	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
490N級炭素鋼（STKR及び BCPに限る。）	JIS Z 3312	YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	250℃以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

⑭ **仮組**
・行う　⊙行わない　(7.3.10)

⑮ **錆止め塗装**
耐火被覆材の接着する面の塗装　(7.8.2)
・行う（※「標仕」18.3.2による　・　　　）　⊙行わない

設　計 教育委員会教育総務課	工事名　中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	
	図面名　建築工事仕様書　その２	図面番号　Ａ－a02

8 章　コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事

項目｜特記事項

1　建築用コンクリートブロック

1）補強コンクリートブロック造　(8.2.2)

断面形状及び圧縮強さによる区分	厚さ（mm）	適用箇所
※空洞ブロックC(16)		
・空洞ブロックC(16)-W		

2）コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3.2)
※「標仕」表8.3.1及び下表による。

適用箇所			厚さ（mm）
・外壁			・
・間仕切壁			・
・地下二重壁			・
・塀	高さ	２ｍ以下	・120
		２ｍを超える	・150

2　ALCパネル

(8.4.2～6)(表8.4.2～4)

種　類	単位荷量（N/㎡）	厚さ（mm）	取付け工法種別等
・外壁パネル ※平パネル ・意匠パネル	・1180　・1960	・100 ・120 ・	・Ａ種　・Ｂ種 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する
・間仕切壁パネル ※平パネル	――――――	・80　・100 ・	・Ｃ種　・Ｄ種 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する
・屋根パネル	・960	・100　・	※Ｆ種 耐火性能　・有り （・１時間　・２時間）
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	

外壁と間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅
※　２０　・　図示による　(mm)

③　押出成形セメント板（ＥＣＰ）

(8.5.2～5)(表8.5.1～2)

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	ﾛｯｸｳｰﾙ充填	工法	耐火性能
[✓ 外壁パネル]	※Ｆ	・50　[✓ 60]		・有　[✓ 無]	・Ａ種 ・Ｂ種	[✓ 有り]（ 1.0h ） ・無し
	・Ｄ	・50　・60		・有　・無		
	・Ｔ	・60		・有　・無		
・間仕切壁パネル	※Ｆ			・有　・無	・Ｂ種 ・Ｃ種	・有り（　　） ・無し
	・Ｄ			・有　・無		
	・Ｔ			・有　・無		

製造所 JIS A 5441による
[✓ ＥＣＰはＬＺ工法とする]

4　外壁パネル工法

外壁パネルの取り付け工法　(8.4.3)(8.5.3)
パネルの取り付け工法は図示による。なお、建築基準法に定める風圧力に対応した工法（建設省告示第109号による）を、1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。

9 章　防　水　工　事

項目｜特記事項

1　アスファルト防水

1）種別及び施工箇所　(9.2.2～3)(表9.2.3～9)

種　別	施　工　箇　所
※ＡＩ－２	
・Ａ－２	
・Ｄ－２	
・ＢＩ－２	床型枠用鋼製デッキプレートを使用したコンクリートスラブ
・	
・	

2）アスファルト　※３種　・４種　(9.2.2)

3）断熱工法の断熱材　厚さ（mm）　※25　・　(9.2.2)
ただし、オゾン層破壊物質を含まないもの。

4）立ち上り部の保護材　(9.2.2)
・乾式保護材
・れんが　※市販品れんが、又は市販品のれんが形コンクリートブロック（見え隠れ部分）

乾式保護材の種類		厚　さ（mm）	適　用
・押出成形セメント板 （窯業系パネル）	※Ⅰ類 ・Ⅱ類	・約15×300 ・約26×600 ・	※無石綿に限る
・金属複合板		・約12×900	

製造所 JIS規格又は「評価名簿」による

②　改質アスファルトシート防水

種別及び施工箇所　(9.3.2～3)(表9.3.1～3)

種　別	施　工　箇　所
[✓ ＡＳ－Ｔ１]	図示（屋上）
・ＡＳ－Ｔ２	
・	

3　合成高分子系ルーフィングシート防水

1）種別及び施工箇所　(9.4.2～3)(表9.4.1～2)

種　別	厚さ（mm）	施　工　箇　所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・Ｓ－Ｆ１	※1.2　・		・ｼﾙﾊﾞｰ　・ｶﾗｰ	※非歩行 ・軽歩行
・Ｓ－Ｆ２	※2.0　・			
・Ｓ－Ｍ１	※1.5　・		・シルバー　・カラー	
・Ｓ－Ｍ２	※1.5　・			

2）PCコンクリート部材下地　(9.4.4)
目地処理（接着工法）　※図示
入隅部の増張り（S-F1, SI-F1及びS-C1工法の場合）　※行わない　・行う（幅　mm程度）

④　塗膜防水

1）種別及び施工箇所　(9.5.2～3)(表9.5.1～2)

種　別	施　工　箇　所	備　考
・Ｘ－１		仕上げ塗料塗り
[✓ Ｘ－２]	バルコニー	[✓ シルバー]　・カラー
・Ｙ－１	地下外壁防水	Ｙ－２工法の保護シート
・Ｙ－２	屋内防水	※適用する　・適用しない

2）種別Ｘ－１の脱気装置　・設ける

種　類	材　料	設置数量
・平面部脱気型	※製造所標準仕様 ・ステンレス製　・アルミ製又はアルミ鋳物	・製造所指定数量 ・１箇所／約50㎡当たり
・立上がり部脱気型	※製造所標準仕様	・製造所指定数量 ・１箇所／約10ｍ間隔

⑤　シーリング

1）下表以外は、「標仕」表9.7.1による。　(9.7.2)(表9.7.1)

施　工　箇　所	シーリング材の種類（記号）
図示	変成シリコーン系（ＭＳ－２）

2）接着性試験　※簡易接着性試験　・引張接着性試験（施工部位　　）(9.7.5)

⑥　防水工事保証年限

防水工事は責任施工とし、下記により保証書を提出する。

施工箇所	種　別	保証年限	備　考
・屋上	[✓ ＡＳ－Ｔ１]	[✓ 10年]　・	
・バルコニー	[✓ Ｘ－２]	[✓ 10年]　・	
		・10年　・	

10 章　石　工　事

項目｜特記事項

1　天然石張り

1）石の品質　(10.2.1)
イ）床用石材　※２等品　・１等品（施工箇所　　）
ロ）壁及びその他の石材　※１等品　・２等品（施工箇所　　）

2）石の種類・表面仕上げ　(10.2.1)(表10.2.1～2)

施　工　箇　所	種　類	産地・名称	厚さ（ｍ）	仕上げの種類

2　テラゾ張り

1）種石の種類　※大理石　・　(10.2.1)

2）表面仕上げ　※本磨き　・　(表10.2.2)

3　壁の石張り工法

1）外壁石張り　(10.2.2)(10.3.2～3)
①工法　(10.5.2～3)(表10.2.4)
・外壁湿式工法（※流し筋工法　・　　）
・外壁乾式工法（・スライド方式　・ロッキング方式）
※外壁乾式工法の場合は、「建築基準法に基づき指定する条件」により、建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を、1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。
②あと施工アンカー　材質　※ステンレス（SUS304）　・
③石裏面処理　※行う（・小口共）　・行わない
④裏打ち処理　※行う　・行わない
⑤ドレインパイプ　※樹脂ネット製パイプ25～30φ（クロスメッシュ巻）
・ステンレス（SUS304）

2）内壁石張り　(10.2.2)(10.4.2～3)(10.5.2～3)
①工法
・内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法）
・乾式工法　（・スライド方式　・ロッキング方式）
②あと施工アンカー　材質　※ステンレス（SUS304）　・
③石裏面処理　※行う（・小口共）　・行わない
④裏打ち処理　※行う　・行わない

4　床及び階段の石張り

1）床石張りの石裏面処理　※行う　・行わない　(10.6.2)

2）階段石張りの裏面の処理　※行う　・行わない　(10.6.3)

3）屋内のワックス掛け　※行う　・行わない　(10.1.5)

11 章　タ　イ　ル　工　事

項目｜特記事項

①　セラミックタイル

1）タイルの種類　(11.2.2)(11.3.2)

施工箇所	形状寸法（mm）	再生材の適用 G	吸水率による区分			釉　薬		役　物		色		備　考
			Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	施釉	無釉	有	無	標準	特注	
昇降口	50角磁器質		[✓]	・	・	・	[✓]	[✓]	・	[✓]	・	LIXILｱｺﾙﾃﾞｨG同等品
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	

備考欄に記載された商品名等は、品質の程度を示すための参考商品名である。
役物：標準曲がり　（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする

2）タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　）

3）原料に再生材料を用いる再生材利用タイルの品質
イ）20章　ユニット及びその他工事の「石川県リサイクル認定製品」を使用すると特記されている場合は、特記による。
ロ）イ）以外は、再生材料を用い焼成されたタイルとし、再生材料利用率は総原材料の重量比で20%以上（複数の再生材料を用いる場合は、その合計）使用されているものとし、再生材に用いる原料の種類及び焼成前処理方法は下表による。ただし、再生材料は通常製造している同一工場からの廃材は除くものとする。（グリーン購入法「特定調達品目」判断基準）

再生材に用いる原料の種類	焼成前処理方法
採石及び窯業廃土、無機珪砂、鐵鋼スラグ、非鉄スラグ、鋳物砂、陶磁器屑、石灰廃、廃プラスチック、建設廃材（汚泥を除く）、廃ゴム、廃ガラス、製紙スラッジ、アルミスラッジ、磨き砂汚泥、石材屑、上水道汚泥、湖沼等の汚泥	前処理によらず対象
都市ゴミの焼成灰	熔解スラグ化
下水道汚泥	焼成灰化又は溶融スラグ化

2　壁タイル張りの工法

1）内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・改良積上げ張り　(11.2.6)(11.3.5)(表11.2.3)(表11.3.2)

2）外装タイル　・密着張り　・マスク張り　・改良圧着張り　・接着剤張り

3）下地モルタル塗り　※「標仕」15.2.2～5

4）タイルの試験張り　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　）(11.2.2)(11.1.4)

5）既調合モルタルの品質及び性能　(11.2.3)

項　目	単位容積質量（ｋｇ／ｌ）	保水率（%）	接着強さ（Ｎ／mm2）		長さ変化率（%）	曲げ強さ（Ｎ／mm2）
			標準時	温冷繰返し後		
品質・項目	1.8以上	70.0以上	0.6以上	0.4以上	0.2以上	4.0以上

3　コンクリート素地面の処理

・ＭＣＲ工法　・目荒らし工法　(11.2.6)(11.3.5)(6.8.3)(15.2.3)
施工範囲　※図示　・

12 章　木　工　事

項目｜特記事項

①　県産材の使用

能登ヒバ（アテ）、杉は、県産材とし、代用樹種は認めない。

②　木材の品質

木材の材質等は、下記による。　(12.2.1)
1）現場搬入時の含水率　※Ａ種　・Ｂ種

2）木材の品質
（イ）製材 G　・日本農林規格　・一般建築用材
（ロ）保存処理木材の適用箇所　※「標仕」12.4.1(2)による。
日本農林規格に規定する保存処理k3以上とし、木材保存剤はクレオソート油を除く。
※JAS1083（木質材料の加圧式保存処理方法）による防腐処理木材
（ハ）下地材の等級は２級とする　(12.2.1(2)(ｱ))
（ニ）造作材の材面の品質　※Ａ種　・Ｂ種
（ホ）壁板類の品質　・無節　[✓ 上小節]　・小節　・

※能登ヒバ　FIR乾燥品（遠赤外線乾燥）とする

※杉不燃集成材　「もえんげん」すぎ不燃集成材 米ぬか系油塗装 NM-１７１６同等品
リン系薬剤不使用すぎ不燃集成材　同等品
サイズｔ15、ｗ105　施工箇所：図示

3）樹種

	土台、水掛り枠類	見え掛り部分	見え隠れ部分	備　考
下地材（柱等を含む）	・檜・能登ヒバ・草槇	・松・檜・杉	・松・杉	
造作材	・檜・能登ヒバ・草槇	・松・檜・杉[✓ 能登ヒバ]・ラワン無節	――――	・ラワン材 防虫処理
板　材	・	・	・	

（イ）代用樹種（県産材を除く）　※認める　・認めない
（ロ）堅木と図示のあるものの樹種は、ナラ、シオジ、セン、タモ、とし等級は１等とする。
（ハ）断面の割増し
代用樹種を使用する場合は、建築基準法施行令第89条の規定の許容応力度に基づき断面を検討し、監督員の承諾を得て使用する。

3　集成材 G

1）造作用集成材　(12.2.1)

品　名	見付け材面の品質	樹種名
	※１等　・２等	※たも　・なら　・しおじ
	※１等　・２等	※たも　・なら　・しおじ

2）化粧ばり造作用集成材

品　名	見付け材面の品質	化粧薄板樹種名	化粧薄板の厚さ（mm）
	※１等　・２等		
	※１等　・２等		
	※１等　・２等		

3）造作用単板積層材

品　名	表面の品質	防虫処理
	・天然木化粧 ・塗装加工あり　・化粧加工なし（　　等）	・する　・しない

④　合板等 G

ホルムアルデヒドの放散量　(12.2.1)
※規制対象外　・第三種

⑤　接着剤

1）接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。　(12.2.2)

2）ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・第三種

6　防腐・防蟻処理

1）防腐処理　・薬剤加圧注入　・薬剤塗布（適用範囲　　）(12.3.1)

2）防蟻処理　・薬剤加圧注入　・薬剤塗布（適用範囲　　）

3）防腐・防蟻剤は、クロルピリホス等を含有しない非有機リン系の表面処理用木材保存材とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督職員に提出し承諾を受ける。

4）防腐・防蟻処理の方法
現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に、現場にて表面処理用木材保存材を塗布することとする。

⑦　防虫処理

(12.3.2)
ラワン材及びならを使用する場合は、JAS1083-6（製材－第６部：広葉樹製材）による保存処理の性能区分K1の防虫処理を行う。

⑧　出荷証明及び県産材使用証明 G

木材及び合板等は、品質や出荷量等を記録した出荷証明書を提出する。　(12.2.1)
また、設計図書において、県産材の使用が明記されている場合は、工事受注者（資材の発注者）は、合法木材供給事業者の認定を受けた納品者が発行する「県産材産地及び合法木材証明書」及び「納品書」（合法木材団体認定番号及び産地名が（石川県産）と明記されたもの）を監督員に提出する。

13 章　屋　根　及　び　と　い　工　事

項目｜特記事項

①　長尺金属板葺

(13.2.2～3)(表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板　厚（mm）
・立平葺き（勘合式） ・	[✓ ハイレタンＳＧＬ（厚膜ｳﾚﾀﾝ塗装　SGL鋼板）]	※0.4 [✓ 0.5]

建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法（建設省告示第109号による）を1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。
保証年限　・10年　・15年　・20年
※塩害保証条件により素材を決定すること。

②　折板葺

1）折板葺の形式等　(13.2.2～3)(表13.2.1)

形　式	※重ね形　・はぜ締め形　・かん合形		
形状（mm）	山高（ 150mm ）山ピッチ（ 300mm ）　板厚※0.6　[✓ 0.8]		
材料（規格等）	※塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板（CZACCR-20-Y25） ・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板（CGLCCR-20-AZ150） [✓ ハイレタンＳＧＬ（厚膜ウレタン塗装　ＳＧＬ鋼板）]		
軒先面戸板	※有り　・無し		
断 熱 材	※有り（種別：　厚さ：　mm）　[✓ 無し]		
耐 火 性 能	※30分耐火　・無し	その他	材料はJIS規格に基づく

建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法（建設省告示第109号による）を1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。

2）保証年限　・10年

3　粘土瓦葺

(13.4.2)

形状による区分	寸法による区分	製法による区分	備　考
※Ｊ形	※53Ａ　・	・ゆう薬がわら ・いぶしがわら ・無ゆうがわら	色調（　　） 役物瓦（図示）
・Ｓ形	・49Ａ　・49Ｂ		
・Ｆ形	・40		

建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法（建設省告示第109号による）を、1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。
（イ）産地　※指定無し　・
（ロ）下地コンクリートの場合の特殊モルタル
①材料の使用量（１㎡当たり）セメント480kg、川砂0.45㎥、水280kg
特殊パーライト560㎥（メーカ仕様による）
②水セメント比60%、スランプ15cm
③４週保釘力40kg/本以上

④　とい

1）材　種　(13.5.2)(表13.5.1)
[✓ 配管用鋼管]　[✓ 硬質ポリ塩化ビニル管（ｶﾗｰ）] G　[✓ アルミ市場品]

2）鋼管製といの防露　※「標仕」表13．５．４による　(13.5.2)(表13.5.3～4)

3）防露材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

4）掃除口　※有り　・無し

14 章　金　属　工　事

項目｜特記事項

1　あと施工アンカーの引抜き耐力試験

※適用する　・適用しない　(14.1.3)

②　アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表14.2.1)

種　別	色合い	施　工　箇　所
[✓ ＢＢ－１種]	無着色	Ｒ階　屋根 幕板
・ＢＢ－２種	・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー	

③　鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施　工　箇　所
溶融亜鉛めっき	[✓ Ａ種]	屋外階段、外部手摺の鉄部、折板屋根ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

④　軽量鉄骨天井下地

天井材の質量が20kg/㎡を超える天井、水平でない天井、システム天井は図示による。これら以外は以下による。
1）野縁等の種類　屋外　※25型　・19型　(14.4.2)(表14.4.1)
屋内　※19型　・25型

2）屋外の場合の形式及び寸法　(14.4.3～4)(表14.4.2)
※下記以外は、「標仕」14．４．３及び表14．４．２による。

下地材の間隔（mm）			施　工　箇　所
野縁受、吊りボルト、ｲﾝｻｰﾄ		野縁	
中央部	周辺部		

3）天井下地材における耐震性を考慮した補強　・行う　補強箇所　(14.4.4)

5　金属成形板張り

(14.6.2)

形　状	製　法	材　種	寸法（mm）	厚（mm）	表面処理	色合い
・スパンドレル形	・押出し ・ロール	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・			・BB－１種	無着色
					・BB－２種 ・	・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー
・パネル形	※プレス ・					

伸縮調整継手　※設けない　・設ける（施工箇所は図示）　(14.6.3)

⑥　アルミニウム製笠木

(14.7.2～3)(表14.2.1)(表14.7.1)

種　類	最小呼称肉厚（mm）	表面処理及び色合い	固定間隔・方法
[✓ 250形]	1.6以上	※ＡＢ－１又はＢＢ－１種 無着色 ・ＢＢ－２種 （・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）	・「建築基準法に基づき指定する条件」により、建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法を、1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。
・300形	1.8以上		
・350形	2.0以上		

隅角部及び突当り部等の役物は笠木本体製造所の仕様による。

7　体育館の鋼製床下地

体育館の鋼製床下地は、JIS A 6519（体育館用鋼製床下地構成材）による。

15 章　左　官　工　事

項目｜特記事項

1　モルタル塗り材料

1）防水剤（モルタルに混入する防水剤）の品質　(15.3.2)

項目	混合割合	凝結及び安定性（JIS R 5201）		曲げ及び圧縮強度比（%）	吸水比（%）	透水比（%）
		凝結時間	安定性			
品質	セメント質量の５%以下	始発１時間以上 終結10時間以内	収縮性、膨張性のひび割れ・そりがないこと	70以上	95以下	80以下

2）既製目地材　※適用しない　・適用する（形状　　）(15.3.2)

②　床コンクリートの直均し仕上げ

下表以外は「標仕」表6.2.5及び「標仕」15.4.2による。　(表6.2.5)(15.4.1～2)

施工箇所	平たんさ（mm）	備　考
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（パネル構法）範囲	１ｍにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（溝構法）範囲	３ｍにつき７以下	

③　セルフレベリング材塗り

1）せっこう系　施工箇所及び厚さ　※図示　(15.5.2)
2）セメント系　施工箇所及び厚さ　※図示

④　仕上塗材仕上げ

1）仕上塗材の種類等　(15.6.2)(表15.6.1)

種　類	呼　び　名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	砂壁状
	・内装薄塗材Ｃ	・
	・内装薄塗材Ｌ	・
	・内装薄塗材Ｓｉ	・
	・内装薄塗材Ｅ	砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材Ｗ	京壁状じゅらく
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・ゆず肌状　・凸部処理　※凹凸模様
	⊗複層塗材ＲＥ	耐候性　※３種　・
	・複層塗材Ｓｉ	上塗材
	・複層塗材Ｅ	溶媒　※水系　・溶剤系
	・可とう形複層塗材ＣＥ	樹脂　※アクリル系
	・防水形複層塗材ＣＥ	・ポリウレタン系
	・防水形複層塗材ＲＥ	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材Ｅ	・メタリック
		防水形の増塗材　※行う
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

2）建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種

3）防火材料の指定　※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。　(15.6.2)

⑤　ロックウール吹付け

厚さ（mm）　※図示　・　(15.12.3)

設計	工事名	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
教育委員会教育総務課	図面名	建築工事仕様書　その３
	図面番号	Ａ－a03

16 章　建具工事

項目		特記事項

1　見本の製作等

・特殊な建具の仮組等（建具番号：　　　　　　　）　(16.1.4)

2　防犯建物部品

※建具表による　(16.1.6)

③　アルミニウム製建具

1）外部に面する建具の性能値等　(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	※Ａ－３ ・	※Ｗ－４ ・	※70（(注)共） ・	図示
⊙Ｂ種	※Ｓ－５				
・Ｃ種	Ｓ－６	・Ａ－４	・Ｗ－５	・100	

2）表面処理　(16.2.4)(表14.2.1)

施工箇所	種別	色合い等
外部建具	※ＢＢ－１種	無着色
	・ＢＢ－２種	※標準色(・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー)
	・	
内部建具	※AC－１種又はBB－１種	無着色
	・AC－２種又はBB－２種	※標準色(・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー)

3）防音ドアセット　※適用は建具表による

4）断熱ドアセット　※適用は建具表による

5）耐震ドアセット　※適用は建具表による

4　樹脂製建具

1）外部に面する建具の性能値等　(16.3.2)(16.3.4)(表16.3.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	・Ａ－４	※Ｗ－４ ・Ｗ－５	・60　・80	
・Ｂ種	Ｓ－５			・100	
・Ｃ種	Ｓ－６			・125	

2）表面色　※白色　・（　　　　　）

3）ガラス　※複層ガラス　・単層ガラス　・三重ガラス　(16.3.3)

⑤　網戸

防虫網　(16.2.3)
　イ）網の種別　・合成樹脂製　⊙ガラス繊維入り合成樹脂製(ｸﾞﾚｲ)・ステンレス製（SUS316)
　ロ）形　式　※外部可動式　・固定式

⑥　鋼製建具

1）簡易気密型ドアセット性能値　(16.4.2)(表16.4.1)
　※適用する（適用箇所は建具表による）

2）外部に面する建具の耐風圧性　(16.4.2)(表16.2.1)
　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
　※施工箇所は建具表による

3）鋼板類の厚さ（１枚の戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,400mmを越える場合）
　※下表以外は表16．４．２による。　(16.4.4)(表16.4.2)

区分		使用箇所	厚さ（mm）
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3
出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3
	戸	中骨	・2.3　⊙1.6

⊙図示

7　標準型鋼製建具

1）簡易気密型ドアセット性能値　(16.4.2)(16.4.6)(表16.4.1)
　※適用する（適用箇所は建具表による）

2）外部に面する建具の耐風圧性　(16.4.2)(16.4.6)(表16.2.1)
　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
　※施工箇所は建具表による

⑧　鋼製軽量建具

1）簡易気密型ドアセット性能値の適用は建具表による　(16.5.2)

2）防音性能を高める場合の充填材　・グラスウール　・ロックウール　(16.5.3)

9　標準型鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット性能値の適用は建具表による　(16.5.2)(16.5.6)

⑩　ステンレス製建具

1）簡易気密型ドアセット性能値　(16.4.2)(16.6.2)(表16.4.1)
　※適用する（適用箇所は建具表による）

2）外部に面する建具の耐風圧性　(16.2.2)(16.6.2)(表16.2.1)
　・Ｓ－４　⊙Ｓ－５　・Ｓ－６
　※施工箇所は建具表による

3）表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・No８鏡面仕上げ　・　(16.6.4)

4）曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）　(16.6.5)

⑪　木製建具

1）建物内部の木製建具に使用する表面剤及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　(16.7.2)
　※規制対象外　・第三種

2）フラッシュ戸の表面材の種類　(16.7.2)(表16.7.2)(表16.7.6)
　※難燃合板　⊙ ポリ合板

3）かまち戸の樹種　かまち（ タモ　　）　鏡板（　　　　　）

4）ふすまの上張り　※新鳥の子又はビニル紙程度　・鳥の子

5）枠及び靴ずりの材料
　枠　※木枠　・
　靴ずり　※ステンレス　・木製

⑫　建具用金物

1）マスターキー　※製作する　・製作しない　(16.8.4)

2）建具用金物　(表16.8.1)

金物の種類	製造所
シリンダー箱錠　シリンダー本締まり錠	「評価名簿」による
ドアクローザ、ヒンジクローザ、フロアヒンジ	

13　自動ドア開閉装置

1）自動ドアの開閉機構　(16.9.2～3)(表16.9.1～6)

開閉方法	検出装置の種類
※スライディングドア ・スイングドア	※光線(反射)センサー　・電波センサー　・タッチスイッチ ・熱線センサー　・音波センサー　・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ　・光電センサー

2）凍結防止措置　※行わない　・行う（　　　　　）　(16.9.3)

3）製造所　大型回転自動ドア機構のみ「評価名簿」による。

⑭　自閉式上吊り引戸装置

製造所「評価名簿」による　(16.10.2)

15　重量シャッター

1）外部に面するシャッターの耐風圧強度　(16.11.2)
　耐風圧性能（　　　　）N/㎡

2）開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式　(16.11.2)(表16.11.1)

3）危害防止機構　※危害防止装置　(16.11.2)
　・

4）一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない　(16.11.2)

16　軽量シャッター

1）開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.12.2)(表16.12.1)

2）外部に面するシャッターの耐風圧強度　(16.12.2)
　耐風圧性能（　　　　）N/㎡

3）電動式の場合の安全装置　(16.12.2)
　急降下停止装置　・設置する（適用箇所は建具表による）　・設置しない

4）スラット　厚さ（mm）　※0.5　・0.8　(表16.12.2)
　材質　※JISG3312(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)　(16.12.3)
　　・JISG3322(塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
　形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形　(16.12.4)

5）ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304　(表16.12.2)
　厚さ　※1.0　・1.5

17　オーバーヘッドドア

(16.13.2～3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 （SUS304）

耐風圧性能（　　　　）N/㎡　(16.13.2)

⑱　ガラス

ガラスの厚さ・構成等は建具表により、その他ガラス性能等は下記による。　(16.14.2)

1）合わせガラス
　特性による種類　※Ⅱ－１類（JIS R 3205)

2）強化ガラス

材料板ガラスによる種類	衝撃特性による種類（JIS R 3206)
※フロート強化ガラス ・型板強化ガラス	Ⅲ類（曲面はＩ類）

3）熱線吸収板ガラス

板ガラスによる種類	日射熱取得率	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	※２種	・ブルー　・グレー　・ブロンズ ・グリーン

4）複層ガラス

種類	断熱性、日射遮へい性による区分（JIS R 3209)
※断熱複層ガラス	※Ｕ３－１　・Ｕ３－２　・Ｕ１　・Ｕ２
・日射熱遮へい複層ガラス	・Ｅ４　・Ｅ５

5）熱線反射板ガラス

品質	反射皮膜面	材料板ガラスの種類	映像調整
※熱線反射ガラス ・高性能熱線反射ガラス	※内面・外面 内面	・フロート板ガラス ・熱線吸収フロート板ガラス ・強化ガラス ・倍強度ガラス ・	※行わない ・行う ただし、メタルカーテンウォール工事は17章による

6）倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※フロート倍強度ガラス	
・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー　・ブルー　・ブロンズ　・

7）ガラスの小口処理　(16.14.4)
　ガラス端部で枠にのみ込まない部分の小口加工　※適用は建具表による

⑲　ガラス留め材及び溝

ガラス留め材　(16.14.2)(表9.7.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材
樹脂製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）

ただし、防火戸は建築基準法に基づく規定に定められたもの又は認定を受けた条件による。

板ガラスをはめ込む溝の大きさ　(16.14.3)(図16.14.1)
　※「標仕」図16.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等が確認できる資料を監督員に提出し、承認を受ける。

20　ガラスブロック積み

ガラスブロック　(16.14.5)

寸法（mm）		表面形状		性能等	
呼び寸法	厚さ	色調	パターン	防火性能	耐火性能
		※クリア ・		※無し ・	※無し ・

壁用金属枠及び補強材　(16.14.5)

壁用金属枠の種類	規格及び補強材等
※アルミニウム製	※「標仕」16.2.3のアルミニウム製建具の材料による ・

化粧目地モルタルの色　※モルタル色　・

シーリング材料
　下記以外は「標仕」表9.7.1による。　(9.7.2)(表9.7.1)

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記号	主成分による区分	耐久性による区分

ただし、防火区画等に用いる場合は、建築基準法に基づく規定に定められたもの、又は認定を受けた条件による。
製造所等 JIS A 5212によるもの又は「評価名簿」による。

㉑　ガラス用フィルム

名称	記号	張り面
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	ＧＩ	※内張り　・外張り
・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	ＧＤ	
⊙ガラス飛散防止フィルム（透明タイプ）		

品質　ＪＩＳ　Ａ５７５９による。

17 章　カーテンウォール工事

項目		特記事項

1　メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14による。

カーテンウォール材料の種類　(17.2.2)

種類	規格等
※アルミニウム製	※「標仕」16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	・

カーテンウォール方式
　・方立方式
　・バックマリオン方式（・単純２辺支持構法　・ＳＳＧ構法）
　・スパンドレル方式
　・パネル方式
　・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料
　下記以外は「標仕」表9.7.1による。　(17.2.2)(9.7.2)(表9.7.1)

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造ガスケット　※適用しない　(17.2.2)
　・適用する（施工箇所：　　　　　　　　）

断熱材 Ｇ　※適用しない　(17.2.2)
　・適用する（種類：　　　厚さ（mm）　　　：施工箇所※図示）

製品の寸法許容差　※下記以外は「標仕」表17.2.1による。　(17.2.3)(表17.2.1)
　・製造所標準製作規定寸法許容差による。

アルミニウムの表面処理　(17.2.3)(表17.2.1)

種別	色合い等
・ＡＢ－１種　・ＢＢ－１種	無着色
・ＡＢ－２種　・ＢＢ－２種	※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー　・
・着色塗膜　塗装材料（　　　　　　）焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク	

耐風圧性能　(17.1.3)
　性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
　・正圧　　N/㎡以上及び負圧　　N/㎡以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（ｈ）	たわみ量	状態
※４ｍ以下	※±（1/150）×ｈ かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形 有害な変形が起らないこと
・４ｍを超える		

耐震性能　(17.1.3)
　設計用震度　水平方向（K_H）　※1.0　・
　　垂直方向（K_V）　※0.5　・

構造種別	許容層間変位量（ｈ＝支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	※±（1/100）×ｈ以上 ・	※部材・ガラス等の損傷、破損及び脱落が起こらないこと 主要部材に有害な歪みが起こらないこと シーリングの損傷は補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×ｈ以上 ・	

水密性　・Ｗ－４　・Ｗ－５　(17.1.3)(表16.2.1)

気密性　・Ａ－３　・Ａ－４　(17.1.3)(表16.2.1)

耐火性能　※適用しない　・適用する（　　時間、施工箇所：図示）

映像調整　※行わない　・行う（建具表による）

2　ＰＣカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14による。　(17.3.2)

コンクリートの種類及び品質
　※「標仕」17.3.2による。
　・下表による。ただし下表以外は17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Ｆｏ）	所要スランプ（cm）

鉄筋　※SD295　・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質
　下記以外はカーテンウォール製作所の仕様による。　(17.3.2)(14.2.2)(表14.2.2)

金物種類及び部位	内部	外部
PC版打込み金物	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
PC版打込み取付けボルト	※Ｅ種　・	※ステンレスボルト
２次ファスナー	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
取付けボルト	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
レベル調整ボルト	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
	・	・

シーリング材料
　下記以外は「標仕」表9.7.1による。　(17.2.2)(9.7.2)(表9.7.1)

施工箇所	シーリング材の種別		
	記号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

断熱材 Ｇ　※適用しない
　・適用する（種類：　　　厚さ（mm）　　　：施工箇所※図示）

製品の寸法許容差　※下記以外は「標仕」表17.3.1による。　(17.3.3)(表17.3.1)
　・製造所標準製作規定寸法許容差による。

表面仕上げ　（　　　　　　　　　　）

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能　(17.1.3)
　性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
　・正圧　　N/㎡以上及び負圧　　N/㎡以上に対して安全であること。

耐震性能　(17.1.3)
　設計用震度　水平方向（K_H）　※1.0　・
　　垂直方向（K_V）　※0.5　・

構造種別	許容層間変位量（ｈ＝支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	※±（1/100）×ｈ以上	※部材・ガラス等の損傷、破損及び脱落が起こらないこと シーリングの損傷は破損程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×ｈ以上	

18 章　塗装工事

項目		特記事項

①　材料

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いたホルムアルデヒドの放散量　(18.1.3)
　※規制対象外　・第三種
屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。

②　素地ごしらえ

木部の素地ごしらえ　不透明塗料塗り　※Ａ種　・Ｂ種　(18.2.2)(表18.2.1)
　透明塗料塗り　・Ａ種　※Ｂ種
鉄鋼面の素地ごしらえ　・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種　(表18.2.2)
亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ　⊙Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　(表18.2.3)
モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ　(表18.2.4)
　・Ａ種　※Ｂ種
コンクリート面、ＡＬＣパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ　(表18.2.5～6)
　・Ａ種　※Ｂ種　(表18.2.7)
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ
　・Ａ種　※Ｂ種

③　錆止め塗料塗り

錆止め塗料種別　(18.3.2)
・鉄鋼面　・Ａｓ種　・Ｂｓ種　・Ｃｓ種　・Ｄｓ種　(表18.3.1)
・亜鉛めっき鋼面　・Ａｚ種　・Ｂｚ種　・Ｃｚ種　(表18.3.2)

錆止め塗料塗り　(18.3.3)
・鉄鋼面（SOP、EP-G、錆止め塗装のままの場合）　見え掛り　※Ａ種　・Ｂ種　(表18.3.3)
　見え隠れ　・Ａ種　※Ｂ種
・亜鉛めっき鋼面（SOP、EP-Gの場合）　鋼製建具　※Ａ種　・Ｂ種　(表18.3.5)
　その他　・Ａ種　※Ｂ種

④　合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)

塗料の種別　※１種　・２種　(18.4.2)
・鉄鋼面種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.4.3)(表18.4.2)

⑤　クリヤラッカー塗り(CL)

種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.5.2)(表18.5.1)

6　アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）

種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.6.2)(表18.6.1)

⑦　耐候性塗料塗り（DP）

鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面　(18.7.2～3)
　等級　・１級　・２級　・３級
コンクリート面及び押出成形セメント板面　(18.7.4)(表18.7.3)
　種別　・Ａ種　・Ｂ種　⊙Ｃ種

⑧　つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)

種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.8.2)(表18.8.1)
　(18.8.4)(表18.8.3)

9　合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)

種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.9.2)(表18.9.1)

10　ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)

種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.10.2)(表18.10.1)

⑪　木材保護着色塗料塗り（WP)

種別　・Ａ種　※Ｂ種　(18.12.2)(表18.12.1)

19 章　内装工事

項目		特記事項

①　材料

(19.2.2)(19.3.2)(19.4.2)(19.5.2)(19.7.2)(19.8.2)(19.9.2)
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤、塗料、フェノールフォーム保温材のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

②　ビニル床シート張り Ｇ

(19.2.2)

種類	ＪＩＳの記号	色柄	厚さ（mm）
※発泡層のないもの	※ＦＳ　・	※無地　⊙マーブル	※2.0　・2.5
・発泡層のあるもの	・ＨＳ	※柄物　・無地	
・			
・			

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されていること。
（ＫＳの場合を除く）

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　　　　　）　(19.2.3)

3　ビニル床タイル張り Ｇ

(19.2.2)

種類	JISの記号	厚さ（mm）	寸法（mm）	備考
※コンポジションビニル床タイル［接着形］	ＫＴ	※2.0 ・	・300×300 ・450×450	
・複層ビニル床タイル［接着形］	ＦＴ	※2.0 ・	・300×300 ・450×450	

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されていること。

4　帯電防止床タイル張り

(19.2.2)

種類	厚さ（mm）	性能
・コンポジションビニル床タイル	※２	体積抵抗値（JIS K 6911による） $1.0\times10^{9}\Omega$ 以下、または、 漏洩抵抗値（JIS A 1454による） $1.0\times10^{10}\Omega$ 未満
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は5.0	
・	・	
・	・	

⑤　ビニル幅木

高さ（mm）　※60　・　(19.2.2)

設計 教育委員会教育総務課	工事名	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	
	図面名	建築工事仕様書　その４	図面番号　Ａ－a04

⑥ カーペット敷き 🄶

防炎性能は、消防法で定める防炎性能を有し、登録されているものとする。 (19.3.1)

・織じゅうたん (19.3.2～3) (表19.3.1)

種 別	織り方	パイル形状	色柄等	帯電性
・Ａ種	・ウィルトンカーペット	・カットパイル	※単一色（無地）	人体帯電圧
・Ｂ種	・ダブルフェースカーペット	・ループパイル	・柄物（標準色）	※3kv以下
・Ｃ種	・アキスミンスターカーペット	・カット、ループ併用	・	・

・タフテッドカーペット (19.3.2～3) (表19.3.2)

パイル形状	パイル長（㎜）	工 法	帯電性
・カットパイル	※５～７ ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	人体帯電圧 ※３kv以下 ・
・マルチレベルループ	※４～６ ・		
・レベルループパイル	※４ ・		
・カット、ループ併用	・		

・ニードルパンチカーペット (19.3.2)
厚さ(㎜) ・帯電性 人体帯電圧 ３kv以下 備考

⊙タイルカーペット (19.3.2)

種 別	パイル形状	寸法(㎜)	総厚さ(㎜)	帯電性	備考
※第一種 ・第二種	※ループパイル ・カットパイル ・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※500×500 ・	※6.5 ・	人体 耐電圧 ３kv以下	

7 合成樹脂塗り床

(19.4.2～3) (表19.4.1～8)

	種 別	仕上げの種類
厚膜型	・弾性ウレタン樹脂系塗床材	※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
	・エポキシ樹脂系塗床材	※薄膜流し展べ工法（※平滑 ・防滑） ・厚膜流し展べ工法（※平滑 ・防滑） ・樹脂モルタル工法（※平滑 ・防滑）
薄膜型	・エポキシ樹脂系塗床材	※平滑仕上げ ・

8 床用塗料塗り

材質 ウレタン樹脂系塗料（※標準色 ・ ）
仕上種別 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ
塗布量 プライマー塗のうえ主剤２回塗りとし、総塗布量は0.5kg/㎡以上とする。

⑨ 防塵用塗料塗り

材質 水性アクリル系樹脂塗料（※標準色 ・ ）
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量 主剤２回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする。

⑩ フローリング張り

(19.5.2～6) (表19.5.1～6)

品 名	樹 種	工 法	種 別	仕上塗装等
※天然木化粧 複合フローリング 🄶	・なら ・ひのき ⊙能登ひば ・	※釘どめ工法（根太張工法） ・釘どめ工法（直張り工法） ⊙接着工法（直張用）	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	※塗装品 ・無塗装品 ・合成樹脂発泡シート
・	・	・	・	・

11 畳敷き

(19.6.2) (表19.6.1)

下地の種類	畳の種別
「標仕」表12.6.1による床組	・Ａ種（畳表：・ＪＳ ・Ｊ１） ※Ｂ種 ・Ｃ種（畳床：・ＰＳ－Ｃ２０ ・ＰＳ－Ｃ２５ ・ＰＳ－Ｃ３０） ・Ｄ種（畳床：・ＫＴ－Ⅰ ・ＫＴ－Ⅱ ・ＫＴ－Ⅲ ・ＫＴ－Ｋ ・ＫＴ－Ｎ）
ポリスチレンフォーム床下地	・Ｃ種（畳床：・ＰＳ－Ｃ２０ ・ＰＳ－Ｃ２５ ・ＰＳ－Ｃ３０） ※Ｄ種（畳床：・ＫＴ－Ⅰ ・ＫＴ－Ⅱ ・ＫＴ－Ⅲ ・ＫＴ－Ｋ ・ＫＴ－Ｎ）

12 ポリスチレンフォーム床下地材

畳下地 厚さ（㎜） ※40 ・65 ・80
フローリング類下地 厚さ（㎜） ※80 ・95

13 特殊合板等の種類

特殊合板の仕上げの種類などは、下記による。 (19.7.2)

施工箇所		
仕上げの種類	・天然木化粧合板（・ ）	・特殊加工化粧合板（・ ）
防火性能	・難燃 ・準不燃 ・不燃	・難燃 ・準不燃 ・不燃
表面の品質	・１等 ・２等 ・３等	・１等 ・２等 ・３等
接着剤の種類	・１種 ・２種 ・３種	・１種 ・２種 ・３種
工 法	・Ａ種 ・Ｂ種 ・釘打 ・タッピング	・Ａ種 ・Ｂ種 ・釘打 ・タッピング
目地処理	・目透し・突付け・Ｖ目地・底目地	・目透し・突付け・Ｖ目地・底目地

⑭ 壁紙張り

(19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の級別	備 考
	紙製	繊維（織物）	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ（ﾋﾞﾆﾙ）	無機質製	その他		
図示	・	・	⊙	・	・	※不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃 ・難燃	

素地ごしらえ (19.8.3) (表19.8.1～3)
モルタル面及びせっこうプラスター面 ※Ｂ種 ・Ａ種（施工箇所： ）
コンクリート面 ※Ｂ種 ・Ａ種（施工箇所： ）
せっこうボード面及びけい酸カルシウム板面 ※Ｂ種 ・Ａ種（施工箇所： ）

⑮ 断熱材 🄶

断熱材は、原則として「グリーン購入法」における特定調達品目を使用する。
ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 (19.9.2)

(19.9.2) (19.9.3)

種 類		施工箇所	厚さ（㎜）	品質等
⊙押出法ポリスチレンフォーム保温板	※２種ｂ	※一般部	⊙25 ・	特定フロンを使用しないもの 🄶
	※３種ｂ（スキン層付）	・接地部分 ・	・25 ・	
・現場発泡断熱材		※断熱材補修部分	―――	特定フロンを使用しないもの 難燃性 ※３級 ・２級
		⊙一般部 ・	・15 ⊙30	
		製造所 JIS A 9526又は「評価名簿」による		
・断熱材兼用型枠		・壁（図示の範囲） ・	・40以下 ・	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.676以上 （㎡・K/w）

16 体育館のフローリング張り

体育館のフローリング張りは、下記による。
（イ）材種 下張り（組床式の場合）・１類ラワン合板（厚15）・構造用合板１類２級（厚15）
上張り ・かば桜18㎜ ・
（ロ）工法 下張りとは、鋼製下地にタッピングビス止め。上張りは、下張り材に接着剤と釘打ち併用とする。
上張り材と他の材料との取合いは、ネオプレンゴムとし、コートラインは、上塗り前に、監督員の指示により施工する。

17 浴室天井材

市販品

材 質	表面仕上げ	性 能	幅（㎜）	備 考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※200	回り縁は樋付きとし、製造所の標準品とする。
	・アルマイト処理品		・100	
・硬質塩ビ製	※塗装品 ・木目調		※300 ・100	

⑱ せっこうボードその他のボード張り

(19.7.2) (表19.7.1)

種 類	ＪＩＳの記号	厚さ（mm）、規格等	
・硬質木毛セメント板 🄶	ＨＷ	・15 ・20 ・25	再生の木質材又は植物繊維の質量比割合が50%以上であること。ただし、体積比20%以下の接着材、混和剤等の質量は除くことができる。
・普通木毛セメント板 🄶	ＮＷ	・15 ・20 ・25	
・ミディアムデンシティファイバーボード 🄶	ＭＤＦ	・	
・パーティクルボード 🄶		・	
⊙けい酸カルシウム板	0.8ＦＫ	タイプ２（無石綿）	
⊙ロックウール化粧吸音板	ＤＲ	※フラットタイプ（※９ ・12 ・ ） ・凹凸タイプ（※12 ・15 ・19 ・ ）	
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）		※フラットタイプ９（（個）不燃） ・凹凸タイプ（※12 ・15）（（個）不燃）	
⊙せっこうボード	ＧＢ－Ｒ	・12.5（不燃） （テーパエッジボード施工箇所は図示）	
⊙不燃積層せっこうボード	ＧＢ－ＮＣ	9.5（不燃） ・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）	
⊙シージングせっこうボード	ＧＢ－Ｓ	12.5（（個）不燃）	
⊙強化せっこうボード	ＧＢ－Ｆ	※12.5（不燃） ・15.0（不燃） ⊙21.0（不燃）	
・せっこうラスボード	ＧＢ－Ｌ	9.5	
・化粧せっこうボード（木目）	ＧＢ－Ｄ	12.5（不燃） 幅440mm程度 模様（※柾目 ・板目）専用下地材付き	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による 厚さ1.2	
・難燃合板 🄶			

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (19.7.2) (表19.7.1)
※適用する ・適用しない

⑲ 吸音材

(表19.7.1)

種 類	記 号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード１号	ＲＷ－Ｂ	※25 ・
※グラスウール吸音ボード２号32Ｋ	ＧＷ－Ｂ	※25 ・

⑳ 乾式耐火間仕切壁

耐火性能	下地材	構造方法	仕上げ材等
60分耐火（非耐力壁）	軽量鉄骨壁下地	両面	⊙強化せっこうボード（厚さ12.5㎜）下張り ＋強化せっこうボード系（厚さ12.5㎜） ・けい酸カルシウム板系（厚さ８㎜）二重張り ・けい酸カルシウム板系（厚さ８㎜） ＋せっこうボード系（厚さ12.5㎜）
		片面	⊙強化せっこうボード系（厚さ21㎜二重張り）

品質・規格 建築基準法に基づく耐火構造の通則的指定及び個別的指定を受けたもの。

㉑ 誘導用及び注意喚起用床材

視覚障害者用タイル (19.2.2)

適用箇所	種 類	寸法（mm）	形 状
屋 内	⊙ステンレス系	※300×300 ・	ブロックパターンはJIS T 9251による
	・磁器又はせっ器タイル	・	
屋 外	⊙コンクリート系	※300×300×60 ・300×300×30	
	・レジンコンクリート系	※300×300 ・	
	・磁器又はせっ器タイル	・	

20 章 ユニット及びその他工事

項 目	特 記 事 項

① 耐震スリット

方 向	タイプ	耐火性能	防水性能
⊙垂直方向	※完全（全貫通型）スリット	⊙耐火型	⊙有り
⊙水平方向	・部分スリット	・非耐火型	・無し

目 地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（㎜）	※20×10 ⊙図示	※20×10 ⊙図示

② ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ金物

材 質	クリアランス	防火性能	防水性能
⊙アルミ ⊙樹脂（内部）	・50 ・100 ・150 ⊙250	⊙あり ⊙なし	・あり ・なし

③ 止水板

形 状 ⊙差込式 ・据置式 ・壁張り式
施工箇所 ※図示

④ フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構 法	仕上り高（㎜）	適用地震時水平力	耐荷重性能（注１）	表面仕上げ材（注２）
図示	⊙パネル構法 ・溝構法	100	⊙1.0Ｇ ・0.6Ｇ	⊙3,000Ｎ ・5,000Ｎ	・帯電防止床タイル ⊙タイルカーペット
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0Ｇ ・0.6Ｇ	・3,000Ｎ ・5,000Ｎ	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0Ｇ ・0.6Ｇ	・3,000Ｎ ・5,000Ｎ	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット

注１ 耐荷重性能5,000Ｎについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等のものとする。
注２ 表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による。

構成材の材質 ・アルミニウム ・鋼製 ・
スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様（ただし、構成材は「標仕」による） ・図示
コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル ※配線取り出し開口：パネル１枚につき40㎜×80㎜程度の開口１ヶ所以上

フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
※20～30パーセント ・
空調用吹き出しパネル ※無し
・有り（※固定式 ・可変式 ：施工箇所は図示）

5 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ(㎜)	表面材種厚さ(㎜)	仕上げ	遮音性（透過損失）	不燃材料の認定
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式	・	※鋼板 （※0.5 ・ ） ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・15dB程度 ・30dB程度 ・36dB以上 ・	・あり

製造所等 JIS A 6512によるもの又は「評価名簿」によるもの

6 移動間仕切

(20.2.4)

遮音性能による区分	厚さ（㎜）	表面材	表面仕上げ（注２）	操作方法	施工箇所
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	
・遮音タイプ（注１）		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	

注１ JIS A 1416による試験方法において、中心周波数500Hzの音の透過損失が36dB以上の性能を有するものとする。
注２ 表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事 14壁紙張りによる。

パネル圧接装置操作方法 ※製造所標準仕様 ・

⑦ トイレブース

(20.2.5)

表面仕上げ材	脚部の形状・材質		ドアエッジの形状・材質	
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・支柱タイプ	・アルミニウム ・ステンレス	・フラット形 ・曲面形	※アルミニウム製 ・ステンレス製

⑧ 手すり

(20.2.6)

材料の種別	表 面 処 理
※ステンレスSUS304	※ＨＬ程度 ・鏡面程度 ・
⊙鉄	亜鉛めっき 外部 ※Ｃ種 ・ 内部 ※Ｅ種 ・

⑨ 階段滑止め

材種 ステンレスSUS304 ⊙木製踏板 堀込（図示） (20.2.7)
形状 ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド ※有り（・ステンレス製 ※ビニル製） ・無し
幅（㎜） 約35
取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法

⑩ 階段手すり

種 別	仕上げ等	手すり径等（㎜）	施工箇所
⊙集成材（市販品）	※クリアラッカー	・45 ・	
・ビニル製ハンドレール ※アルミ製 塩ビ被覆	・耐候性タイプ ・	・50（幅） ・34 ・40	
・ステンレスパイプ ・鋼製パイプ	・ＨＬ ・	・40 ・	

⑪ 黒板及びホワイトボード

⊙図示 (20.2.9)

種 類		寸法（㎜）	備 考
・黒板	・焼付け		※平面 ⊙曲面 ・スクリーン付引分
・ホワイトボード	・ほうろう		※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分

12 表示標識

衝突防止表示 ※図示 (20.2.11)
（市販品 ※ステンレス製 径 約30㎜ ・ ）
・無し
法令に基づく表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。
製造所 監督職員の承諾する製造所

⑬ タラップ

(20.2.12)

材料の種別	表 面 処 理
※ステンレスSUS304	※研磨なし ・
・鉄	亜鉛めっき 内外部 ※Ｃ種 ・ ・

14 煙突用成形ライニング材

適用安全使用温度 ※400℃ ・650℃ (20.2.13)
製造所「評価名簿」による。

15 ブラインド

(20.2.14)

形 式	種 類	スラットの材質	スラットの幅（㎜）
※横型	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25
・縦型	・１本操作コード ・２本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

⑯ ブラインドボックス及びカーテンボックス

※市販品（アルミニウム製 押出し型材）

使用区分	溝幅×深さ（㎜）
⊙横型ブラインド	※90×150 ・120×150 ・
・縦型ブラインド	※120×80 ・150×80 ・
⊙カーテン（又はレース共）	※150×80 ・180×80 ・
・カーテン＋横型ブラインド	※180×150 ・

色彩 ※Ｂ－１ ・Ｂ－２（※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー） ・図示

⑰ ロールスクリーン

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの種類	品質等
・プルコード式（ストッパー付） ・ワンタッチチェーン式 ⊙チェーン式 ・電動式	⊙無地 ・柄物 ・遮光タイプ	

製造所

⑱ カーテン及びカーテンレール

(20.2.16)

施工箇所	形 式		装 置			名称・品質	ひだの種類	備 考
	片引	引分	電動	ひも引	手引			
⊙図示	⊙	⊙	・	・	⊙			
	・	・	・	・	・			
	・	・	・	・	・			

⑲ ピクチャーレール

レール 材 質 アルミニウム製（シルバー）
形 式 先付け天井埋込型（見切縁兼用）
ランナー 材 質 本体：真鍮性 フック：ステンレス製（可動式）
耐荷重 25kg程度/個
個 数 ２個/レール１ｍ

⑳ 天井点検口

目地形状	運用箇所	寸法（mm）
額縁タイプ	下記以外全て	※450×450 ⊙600×600 ・
目地タイプ	※図示 ・天井仕上げ材がＤＲの範囲	

品質及び性能等 (表14.2.1)

項 目	材料の品質・規格及び性能	
内外枠の材質	アルミニウム合金押出型材（表面処理：Ｃ－１種又はＣ－２種による）	
内外の仕上げ材 留付け金具	アルミニウム合金押出型材、亜鉛めっき鋼板類及び同等の性能を有するもの	
コーナービス及び取付け金物等	鋼材に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの	
寸法許容差	枠の許容差	±0.5㎜以内
	外枠と内枠のクリアランス	2.0㎜以内

㉑ 床点検口

本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法（mm）
※アルミ製 ・ステンレス製	※アルミ ・ステンレス ・黄銅	下記以外全て	※600×600 ・

品質及び性能等

材 質	品質・規格及び性能	
アルミ合金押出型材	JIS H 4100 A6063Sによる	表面処理 Ａ－１種又はＡ－２種による
アルミニウム板	JIS H 4000 A1100PH24による	
ステンレス製	JIS G 4305（目地材はG 4308も含む）のSUS304による	表面処理 ＨＬ又はＮｏ２Ｂ程度
寸法許容差（㎜）	受け枠寸法の許容差	±0.5
	蓋枠寸法の許容差	±0.5
	受け枠と蓋枠のクリアランス（片側）	2.0以内
耐荷重性能	荷重Ｐｎ＝1,000Ｎにおける蓋中央部の残留たわみ	点検口有効径の0.08%以内
	耐破壊荷重	荷重値Ｐｎの２倍以上

㉒ 収納家具・書架・物品棚

	品質	主要構造部材の材料	形状寸法(㎜)	備 考
・収納家具	JIS S1033(ｵﾌｨｽ用収納家具)による	・鋼製 ・木製	・図示 ・	
・書架	JIS S1039(書架物品棚)による	・鋼製 ・	・図示 ・	JIS S1039による種類 ・１種 ・２種 ・３種
・物品棚		・鋼製 ・	・図示 ・	JIS S1039による種類 ・５種 ・６種 ・７種
・移動式 書架・物品棚		・図示 ・木製	・図示 ・	

ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種
⊙図示

㉓ かぎ箱

市販品
形 式 ・30組用 ・60組用 ⊙120組用

24 くつふきマット

市販品
材 質 ・塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製受枠）
・ビニル製（ステンレス製受枠）
・硬質アルミニウム製（受枠とも）
・ステンレス製（受枠とも）

㉕ 流し台ユニット

種 類	寸法（Ｌ＝㎜）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200 ・1500 ・1800	トラップ付き	※優良住宅部品 （ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝⅠ型） ・
・コンロ台	※600 ・700 ・	バックガード ※有り	
・つり戸棚	※1200 ・900 ・800		
・水切り棚	※1200 ・900	ステンレス製 ※１段式	※市販品

⊙図示

㉖ 屋内掲示板

枠の材質 ※アルミニウム製 ⊙木製
表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・
⊙図示

㉗ 洗面カウンター

材 種 ・メラミン樹脂化粧張り（心材：集成材） ・人工大理石（仕様は図示）
奥行き（㎜） ・約450 ・約600
⊙図示

28 防煙垂れ壁

・固定式

材 質	厚さ（㎜）	高さ（㎜）	備 考
・網入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き
・線入り磨板ガラス	・	・	

・可動式

種 類	材 質	高さ（㎜）	備 考
・垂直降下式（巻取り型）	不燃布（不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）
品質、規格 （財）日本建築センターの防災性能評定品

29 敷地境界石標

・かこう岩（文字記号等入り）
※コンクリートブロック製の市販品程度

30 旗竿

材 質 ※アルミニウム合金製
形 式 ※テーパー型 ・同一断面型
地上高さ（ｍ） ・６ ・８ ・10 ・12
操作方法 ※ハンドル式 ・ロープ式
固定方法 ・埋込式 ・ベース式 ・バンド式

31 旗竿受金物

材 種 ステンレス製SUS304

㉜ フェンス

・耐雪型 ・一般型
・ビニル被覆エキスパンドフェンス ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス
⊙図示

33 屋外掲示板

照明器具 ※有り ・無し
施 錠 ※有り ・無し
製造所

㉞ 車止め支柱

・ステンレス製（上下式鎖内蔵型、反射テープ付き） 径114.3㎜ ｔ＝2.5㎜ Ｈ＝ＧＬ＋700㎜
※スプリング付 ・スプリング無し
⊙図示

㉟ 建築銘板

建築銘板の設置等は、下記による。
（イ）設置 ⊙設置する ・設置しない
（ロ）材料、大きさ ⊙黒又は白御影石水磨き仕上げ（450×600×25）
・アクリル樹脂板（450×600×10）
（ハ）記入内容（参考）

45（60）
60（45）

工事名
完成 令和 年 月 日
（監修）
設計
監理
建築 （業者名を記入する）
電気 （業者名を記入する）
給排水 （業者名を記入する）
空調 （業者名を記入する）
合併処理（業者名を記入する）
昇降機 （業者名を記入する）

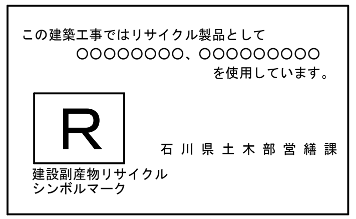
設 計
教育委員会教育総務課
工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
図面名 建築工事仕様書 その５
図面番号 Ａ－a05

㊱ **リサイクル製品の使用**

(1)リサイクル製品は、「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。
石川県エコ・リサイクル認定製品　⊙使用する

使用箇所	製　　品	備考
・		
・		
・		

「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。
http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県 生活環境部 資源循環推進課）
(2)その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。
(3)建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの）
看板の寸法は90cm×60cm程度とする。


この建築工事ではリサイクル製品として
〇〇〇〇〇〇〇〇、〇〇〇〇〇〇〇〇〇
を使用しています。

（注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること

37 **伝統産業工芸品の使用**

使用箇所	製　　品	備考
・		
・		
・		

21 章　排水工事

項目	特記事項

① **排水管**

排水管用材料　(21.2.1)(表21.2.1)

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	※ＶＰ　・ＶＵ	
・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 [G]	※ＲＳ-ＶＵ	

② **排水桝及びふた**　(21.2.1)

種　類	適用荷重	鍵
・水封形　・密閉形（テーパー・パッキン式） ・簡易気密形（パッキン式） ・中ふた付密閉形（テーパー・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－20用	・あり ・なし

グレーチングふた　(21.2.1)

材　質	形　式	種　類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
・鋼製 ・ステンレス製	※受枠付き ・ ボルト固定 ※無し ・図示	・溝ふた用（横断） ・溝ふた用（縦断） ・桝ふた用 ・かき上げ用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	※細目	※凹凸形
			・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－14用 ・Ｔ－20用	※普通目 ・細目	※平形 ・凹凸形

3 **埋戻し土**

※Ｂ種　・建設汚泥から再生した処理土 [G]　(21.2.1)

22 章　舗装工事

項目	特記事項

① **盛土に用いる材料**

(22.2.3)(表3.2.1)
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 [G]

② **凍上抑制層の材料**

※再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切り込み砂利　(22.2.3)

③ **路床**

1）路床安定処理　(22.2.2～3)(表22.2.1)
※添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントＢ種
・高炉セメントＢ種 [G]　・生石灰（　　　）　・消石灰（　　　）
添加量　　　kg／㎡（目標ＣＢＲ　※５以上　・　　　）
・ジオテキスタイルによる安定処理
ジオテキスタイルの品質
単位面積質量　60ｇ／㎡以上
厚さ（mm）　0.5～1.0
引張り強さ　98Ｎ／５cm（10kgf／５cm）以上
透水計数　1.5×10cm／sec以上

2）透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ　(22.2.2)
車道部　※150㎜　・（　　　）
歩道部　※50㎜　・（　　　）

3）路床土の支持力比試験　※行う（※乱した土　・乱さない土）　(22.2.5)

4）路床締固め度の試験　※行う　(22.2.5)

5）砂の粒度試験　※行う　(22.2.5)

④ **路盤**

1）材料 [G]
※再生クラッシャラン（ＲＣ－40）　(22.3.3)(表22.3.1)
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－40）

2）路盤の厚さ　(22.3.2)

舗装の種類	路盤の厚さ（㎜）	
	車道部	歩道部
アスファルト舗装	・100　⊙150　・250　・300	⊙100
コンクリート舗装	・150	・100
カラー舗装	・100　・150　・250　・300	・100
透水性アスファルト舗装		・100
インターロッキングブロック舗装	・100　⊙150　・250	・100

3）路盤の締固め度試験　※行う　(22.3.5)

⑤ **アスファルト舗装**

アスファルト舗装の構成及び厚さ　(22.4.2)

部位	舗装の厚さ（㎜）	
	基層	表層
車道部（基層なし）		・50　・
車道部（基層あり）	⊙50　・	・30　・
歩道部		⊙30　・

アスファルト　※再生アスファルト [G]　・ストレートアスファルト　(22.4.3)

再生加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

区分	・一般地域	※寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13Ｆ）

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲：　　　）　(22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

⑥ **コンクリート舗装**

早強セメント　※使用しない　・使用する　(22.5.3)
注入材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ　(22.5.3)(表22.5.2)
溶接金網　※有り　・無し　(22.5.3～4)
厚さ試験　※行う　・行わない　(22.5.6)

⑦ **カラー舗装**

カラー舗装の種類　(22.6.2～4)(表22.6.1～2)

種　類	車道部の基層	着色骨材等	顔料の添加量等	カラー舗装の厚さ　（㎜）
※アスファルト混合物	※なし	・有色骨材（焼成）	・５～７％	※50　⊙30
・石油樹脂系混合物	・あり	・着色骨材（樹脂被覆）	・　％	・30　・
・樹脂系混合物		・自然石		５～10
・ニート工法		・エメリー ・着色磁器質骨材		３～５
・塗布工法				１程度以下

⑧ **透水性アスファルト舗装**

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.7.6)

⑨ **ブロック系舗装**

・コンクリート平板舗装　(22.8.2～3)

種　類	寸法（㎜）	厚さ（㎜）	目地材	表面加工
※普通平板（Ｎ）	※300角	※60	※砂	・研ぎ出し　・洗い出し
・透水平板（Ｐ）	・		・モルタル	・たたき出し

・インターロッキングブロック舗装　(22.8.2～3)

種　類	曲げ強度	厚さ（㎜）	表面加工及び色彩等
※普通タイプ ・誘導、注意喚起用タイプ	5N/mm^{2}以上	車道部　※80　・ 歩道部　※60　・	※標準タイプ ・表面化粧タイプ 誘導、注意喚起用は 黄色とする
・透水性タイプ	3N/mm^{2}以上		
・植生タイプ	4N/mm^{2}以上	※100　・80	

製造所 JIS A 5371による。

・舗石舗装　(22.8.2～3)

種　類	厚さ（㎜）	施工方法	基　層
※小舗石（花こう岩）	※80～100	※うろこ張り	※コンクリート舗装
・	・	・	・アスファルト舗装

⑩ **区画線**

路面表示用塗料

規格番号	種　類	施工時の条件	適　用	寸法（mm）	色　彩
JIS K 5665	・１種 [G]	常　温	液状	幅　※150　・ 厚さ　※1.0　・	※　白 ・　黄
	・２種 [G]	加　熱			
	※３種１号	溶　融	粉体状		

揮発性有機溶剤の含有率は、塗料総質量に対して５％以下とする。

23 章　植栽工事

項目	特記事項

1 **土壌の酸度、塩分量試験**

※行う　(23.1.3)

② **樹木の植栽基盤整備**

芝及び地被類　(23.2.2～3)(表23.2.1～2)

適　用	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
※行う　・行わない	※30　・	※Ｂ種　・	※植栽範囲　・図示

樹木　(23.2.2～3)(表23.2.1～2)

樹木の樹高（ｍ）	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
・12以上	※100　・	※Ａ種	※葉張りの範囲 ただし、低木は植栽範囲 ・図示
・７以上～12未満	※80　・	・Ｂ種	
・３以上～７未満	※60　・	・Ｃ種	
・３未満	※50　・	・Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

③ **植込み用土**

※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土）　(23.2.3)

④ **土壌改良材 [G]**

※適用する　(23.2.3～4)
施工箇所　※植栽範囲　・図示
・バークたい肥

有機物の含有量（乾物）	：70%以上
炭素窒素比（Ｃ／Ｎ比）	：35以下
陽イオン交換容量（乾物）	：70meq／100g以上
ｐＨ	：5.5～7.5
水分	：55～65%
幼植物試験の結果	：生育阻害その他の異常が認められない
窒素全量（現物）	：0.5%以上
りん酸全量（現物）	：0.2%以下
カリ全量（現物）	：0.1%以上

・発酵下水汚泥コンポスト
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

ひ素	：0.005%以下
カドミウム	：0.0005%以下
水銀	：0.0002%以下
ニッケル	：0.03%以下
クロム	：0.05%以下
鉛	：0.01%以下
有機物の含有量（乾物）	：35%以上
炭素窒素比（Ｃ／Ｎ比）	：20以下
ｐＨ	：8.5以下
水分	：50%以下
窒素全量（現物）	：0.8%以上
りん酸全量（現物）	：1.0%以上
アルカリ分（現物）	：15%以下

⑤ **支柱材**

※丸太又は間伐材 [G]　・竹　(23.3.2)

6 **幹巻き用材料**

※幹巻き用テープ　・わら及びこも　(23.3.2)

⑦ **芝張り**

種類　※こうらい芝　・野芝　(23.4.2)

⑧ **枯補償**

※１年　・　(23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)(23.5.5)

9 **吹付けは種**

種子の種類　※洋芝類又はクローバー（採取後２年以内）　(23.4.2)
種子の量　※発芽率80%以上

10 **屋上緑化 [G]**

植栽基盤及び材料　(23.5.2～3)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示
保水・排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　　　）　・板状成型品
植込み用土　※改良土　・人工軽量土
樹木の材種、寸法、株立数、寸法等　※図示
・屋上緑化軽量システム　(23.5.3)
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示　(23.5.4)
固定方法は、「建築基準法に基づき指定する条件」により。建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。
支柱　・設置する（種類　・図示　・　　　）
かん水装置　・設置する（工事区分は図示による）

24 章　その他

項目	特記事項

① **いしかわ週休２日工事**

工事現場において週休２日に取り組む「いしかわ週休２日工事」（以下、「週休２日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。
なお、週休２日工事の定義(様式)等については、石川県土木部監理課技術管理室ＨＰの「いしかわ週休２日工事　実施要領」を参照すること。

（１）当初設計において、週単位の週休２日にかかる補正係数を乗じている。
（２）受注者は、工事現場に週休２日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。
（３）受注者は、現場着手前に休日取得［計画］表を作成し、監督員に提出・共有すること。
（４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得［計画］表を修正し、監督員に提出・共有すること。
（５）受注者は、工期最終日までに、休日取得［実績］表を記入し、監督員に提出すること。
（６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて１日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。
（７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休２日に満たない場合は、月単位の週休２日（４週８休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休２日（４週８休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。
なお、週休２日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。

2 **余裕期間制度試行工事**

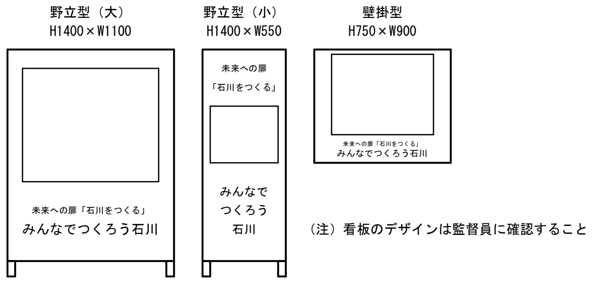
1）余裕期間制度対象工事の内容
（１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。
（２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。
（３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。
（４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。
（５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。
（６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。
（７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。
（８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。
（９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。
（10）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。

（着工日の期限）　契約締結日から起算して〇ヶ月以内

③ **イメージアップ看板**

・設置する
・設置しない（別途工事で設置等）
⊗監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする）

【参考図】



（注）看板のデザインは監督員に確認すること

改訂履歴
平成10年４月１日
平成10年11月１日
平成12年４月１日
平成13年４月１日
平成14年４月１日
平成15年４月１日
平成15年７月１日
平成15年10月１日
平成16年４月１日
平成16年８月20日
平成17年４月１日
平成17年６月１日
平成19年10月１日
平成20年４月１日
平成21年４月１日
平成21年８月１日
平成22年４月６日
平成23年４月１日
平成24年４月１日
平成25年４月１日
平成26年４月１日
平成27年４月１日
平成28年４月１日
平成29年４月１日
平成29年７月１日
平成30年４月１日
令和２年４月１日
令和３年４月１日
令和３年５月１日
令和４年４月１日
令和５年４月１日
令和６年７月１日
令和６年10月１日
令和７年４月１日
令和７年10月１日
令和８年４月１日

設計 教育委員会教育総務課	工事名	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	
	図面名	建築工事仕様書　その６	図面番号　Ａ－a06

工事仕様書補足版（昇降機）

● 一般共通事項

項目	特記事項
① 適用基準等	本工事において、図面及び本工事仕様書補足版並びに「工事仕様書」に記載されていない事項は、すべて次の図書による。 1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和７年度版 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和７年度版 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　令和７年度版 2) 公共住宅事業者等連絡協議会編集 公共住宅建設工事共通仕様書　令和４年度版　※公共住宅に限る 3) 石川県土木部建築住宅課発行 石川県バリアフリー社会の推進に関する条例施設整備の手引き
② 維持管理	使用開始後３ヶ月間は受注者が維持管理を行い、書面にて報告する。

③ 耐震施工（エレベーター）

次に示す震度に基づく地震力により、エレベーター各部の機器及び部材が移動、転倒及び離脱をせず、主索が綱車等より外れないものとし、移動ケーブル等が昇降路内の突起物により、損傷を受けないよう防護措置を行う。また、機器の固定等（エスカレーター含む）は、（一財） 日本建築設備・昇降機センター「昇降機技術基準の解説　２０１６年版」による。

1）高さが60ｍ以下の建物の設計用水平震度は、下表の設計用水平標準震度に、地域係数を乗じたものとし、耐震安全性の分類は、下記による。(2.2.6.1) (3.2.6)

設計用水平標準震度

対象機器			乗用･寝台･人荷共用ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ		荷物用ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ	
耐震安全性分類			・S14	・A14	・S14	・A14
懸垂機器	２階以上の階	防振支持	１．５	１．０	１．５	１．０
		固定支持	１．０	０．６	１．０	０．６
	１階及び地階	防振支持	１．０	０．６	１．０	０．６
		固定支持	０．６	０．４	０．６	０．４
昇降案内機器	２階以上の階	——	１．０	０．６	０．７５	０．４５
	１階及び地階	——	０．６	０．４	０．６	０．４

注１　表中の耐震安全性分類欄の○印を適用する。

注２　免震構造及び制震構造の建築物については、特記による。

（エスカレーター）

次に示す震度に基づく地震力及び建築物の層間変形によりはり等の支持材から脱落しないようにする。

１）高さ60ｍ以下の建築物の設計用水平震度は、下表の設計用水平標準震度に地域係数を乗じて求めたものとする。(6.2.9)

設計用水平標準震度

設置階	設計用水平標準震度
上層階及び屋上	１．０
中間階	０．６
地階及び１階	０．４

注１　上層階は、２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、10～12階建の場合は上層３階、13階建て以上の場合は上層４階とする。

○ エレベーター仕様

項目	特記事項
① 用途	・乗用　・非常用 (1.1.1) ・寝台用　・人荷共用　・荷物用
② 方式・構造	※ ロープ式　・ 機械室　・あり　⊙ なし
③ 回生電力備蓄システム	・あり　⊙ なし
④ 積載量	１，７５０Kg （　２６ 人） (2.1.1)
⑤ 運転速度	４５ m/min
⑥ 停止階	３ 箇所 （ １階～ ３階）
⑦ 戸形式	1)開き形　・両開き（・２枚戸　・４枚戸）　⊙ 片開き（⊙ ２枚戸　・３枚戸） 2)防犯窓　・要　⊙ 不要 3)遮煙性能　⊙ 要　・不要
⑧ かご内寸法	幅 １５００mm × 奥行 ２５００mm × 高さ ２３００mm
⑨ 出入口寸法	幅 １２００mm × 高さ ２１００mm
⑩ 電源	動力（※ 三相200V　・　） (2.2.1) 照明（※ 単相100V　・　） 高調波対策は図示による。
⑪ かご室	1)上板、壁、戸　⊙ 化粧鋼板　・ (2.2.2) 2)袖壁　⊙ ステンレスヘアライン仕上　・ 3)幅木　⊙ ステンレスヘアライン仕上　・アルミアルマイト仕上 ・その他（　） 4)床　・タイル張り　⊙ その他（ t3.0ゴムタイル ） 5)その他　・各階案内表示板　⊙ 館内放送用スピーカー ⊙ 着脱式壁保護材（H1800）　⊙ ゴム床マット
⑫ 車椅子仕様	⊙ かご内専用正副操作盤　⊙ かご内手すり（床上800mm） (2.2.2.1) (2.2.2.5) ⊙ かご内鏡（幅約700mm×高さ約1400mm）⊙ かご内専用インジケータ ⊙ キックプレート（床上300mm）　⊙ 専用乗場ボタン ・
⑬ 視覚障害者対応	⊙ 点字銘板　⊙ 自動放送装置
⑭ かごの戸	セーフティシュー（・両側　⊙片側　） (2.2.2.2) 出入口検出装置（⊗ 多光軸式　・光電式　）
⑮ 乗　場	1)三方枠　・大枠　⊙ 小枠 (2.2.3) ・ステンレスヘアライン仕上　⊙ 鋼板塗装仕上 ・その他（　） 2)戸　・ステンレスエッチング仕上　・ステンレスヘアライン仕上 ⊙ 鋼板塗装仕上　・その他（　） 3)幕板　・ステンレスエッチング仕上　・ステンレスヘアライン仕上 ・鋼板塗装仕上　⊙ その他（幕板なし　） 4)敷居（かご室共）　・ステンレス製　⊙ 硬質アルミ製
⑯ 敷居間の間隔	⊗ 20mm以下　・　mm以下 (2.2.3.2)
⑰ インジケータ	⊙ デジタル表示　・点灯表示 (2.2.3.6) ・幕板取付（　階～　階） ⊙ 乗場左側側面取付（ １階～ ３階）
⑱ インターホン	⊗ 要　・不要 (2.2.5.2)
⑲ 管制運転	⊙ 地震時管制運転（⊗Ｐ波＋Ｓ波　・　） (2.2.7) Ｓ波感知器（⊙普通級　・精密級） ※ 高さ60mを超える建物の場合は、地震感知器の種類を精密級とする。 ※地震時管制運転は、閉じ込め時リスタート運転機能を備えたものとする。 ⊙ 火災時管制運転 ・自家発時管制運転 ⊙ 停電時救出運転（バッテリー付） ⊙ ピット冠水時管制運転（巻上機を低部に設置する場合） ・自家診断仮復旧運転
⑳ 監視盤	・要　⊙ 不要 (2.2.8)
㉑ 塗　装	かご室内、三方枠、戸の見え掛り部及びこれらに類するものは、次の塗装仕上げを有した塗装を施す。(3.2.10.3) 乗用エレベーター　・１種（表面平面度 0.30mm）　・２種（表面平面度0.40mm）
㉒ トランクルーム	・要　⊙ 不要
㉓ その他の付加仕様	・かご内防犯カメラ ・各階強制停止運転（容易に時間帯設定、無効設定が可能とする。） ⊙ かご室床補強（荷重500kg）
㉔ 除外工事	・建築基準法及び同法施行令に基づく昇降路本体工事 ・昇降路直上部の吊フック又は吊ビーム取付工事 ・昇降路ピット内の防水仕上及び防錆塗料仕上 ・出入口三方枠及び乗り場釦取付用穴あけ工事 ・三方枠取付用部材の工事 ・昇降路内レール取付用ファスナー、中間ビームの設置工事 ・敷居受用床持ち出し工事 ・エレベーター据付後の出入口壁、床、その他建築補修仕上工事 ・昇降路ピットの点検用コンセント設置工事 ・エレベーターホール保守点検盤付近天井部の非常照明設置工事 ・エレベーター受電盤までの動力電源、照明電源、接地線の引込工事 ・インターホンの制御盤から通話先までの配管、配線工事 ・昇降路内煙感知器設置工事 ・自動通報システム又は遠隔点検用電話線の引込工事 ・エレベーター制御盤までの火災時発報信号線の引込工事 ・エレベーター制御盤までの放送用信号線の引込工事

○ エスカレーター仕様

項目	特記事項
1 型式	・S600型　・S1000型 (6.1.1)
2 運転速度	m/min（定格速度45m/min以下）
3 傾斜角度	度（定格速度45m/min以下で勾配30度以下） （定格速度30m/min以下で勾配35度以下）
4 階高	m（揚程は6m以下）
5 踏段の幅	m（1.1m以下）
6 踏段レール	・鋳鉄製　・鋼材製　・アルミニウム合金製 (6.2.1.2)
7 踏板	・アルミニウム合金製　・ステンレス鋼板製 (6.2.3.1)
8 踏段ローラ	・硬質ゴム製　・ポリウレタン製 (6.2.3.2)
9 欄干内側板	・ステンレスヘアライン仕上　・透明強化ガラス (6.2.4.1)
10 デッキボード	・ステンレスヘアライン仕上　・アルミニウム合金アルマイト仕上 (6.2.4.3)
11 スカートガード	・ステンレスヘアライン仕上　・鋼板製 (6.2.4.4) ・アルミニウム板 ※　表面仕上げは、高分子系潤滑剤を表面に塗布したもの又は低摩擦仕上げとする。
12 くし	・合成樹脂製　・アルミニウム製 (6.2.5.1)
13 くし板	・アルミニウム合金製　・ステンレス鋼板製 (6.2.5.2)
14 運転方式	・方向可逆式　・自動運転機能 (6.2.7(2))
15 安全装置	・踏段チェーン安全スイッチ　・有　・無 (6.2.8) ・駆動チェーン切断時停止装置　・有　・無 ・スカートガードスイッチ　・有　・無 ・インレットスイッチ　・有　・無 ・踏段浮上がり検出装置　・有　・無 ・ハンドレールスリップ停止検出装置　・有　・無 ・ブレーキ　・有　・無 ・保護板　・有　・無
15 車椅子仕様	・要　・不要
16 視覚障害者対応	・オートアナウンス機能
17 除外工事	・エスカレーター周辺床開口部等に関する安全対策 ・トラス支持梁工事（中間支持梁を含む） ・コンクリート床穴開け工事 ・ピット築造工事及び防水工事 ・エスカレーター周囲穴埋め及び仕上工事（穴埋めの為の下処理を含む） ・エスカレーター搬入口工事及び搬入後の復旧工事 （電気その他の設備関係） ・機械室受電盤までの動力電源、照明電源、接地線の引込工事 ・外装照明工事 ・外装スプリンクラー工事

最終改訂　R８．４．１

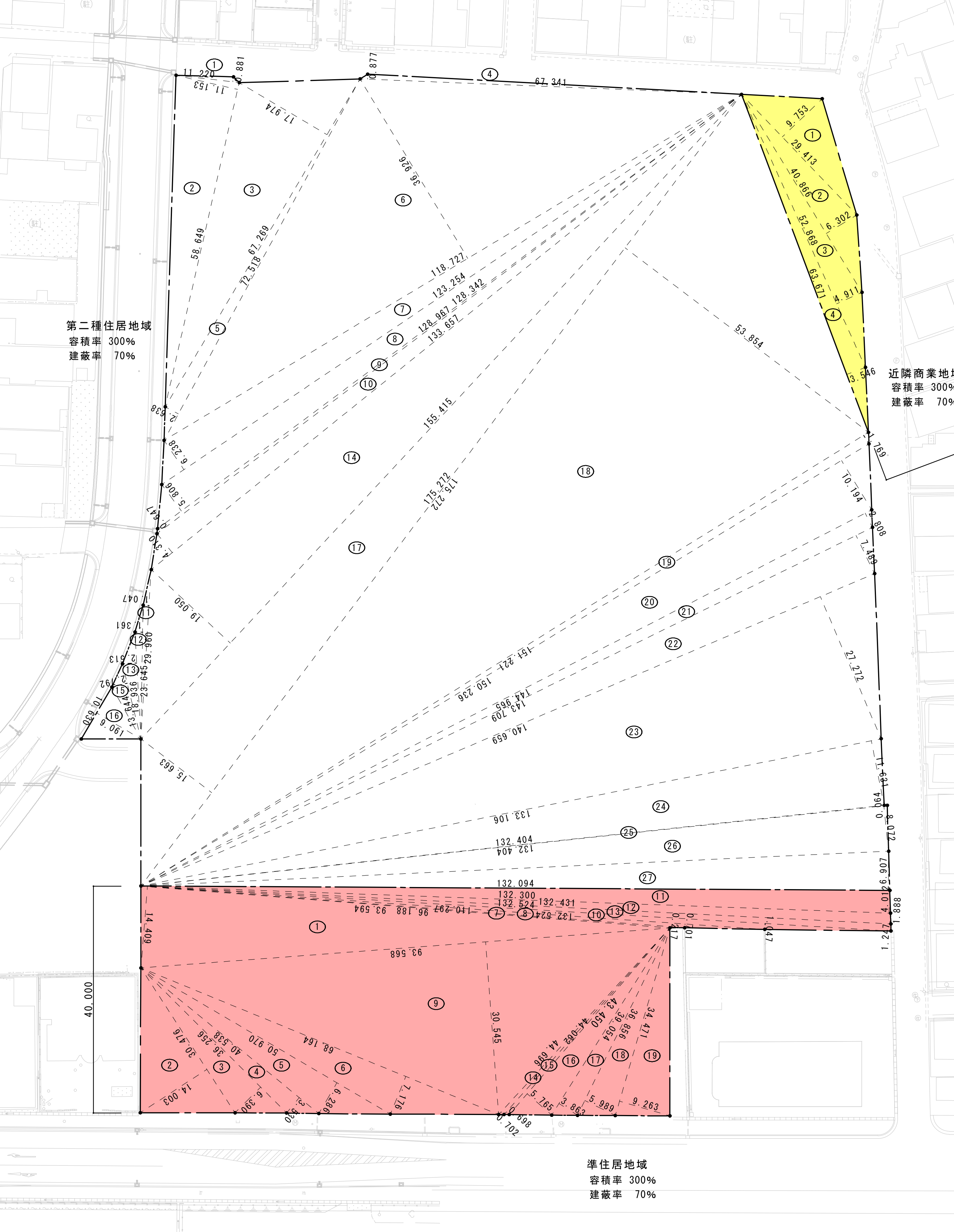
工事名	番号
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	A －a07
図面名　建築工事仕様書　その７	縮尺　——
設　計　教育委員会教育総務課	

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	29.413	9.753	286.864989	143.4324945
2	40.866	6.302	257.537532	128.7687660
3	52.868	4.911	259.634748	129.8173740
4	63.671	3.546	225.777366	112.8886830
			合　計	514.9073175
近隣商業地域			敷地面積	514.907 m²

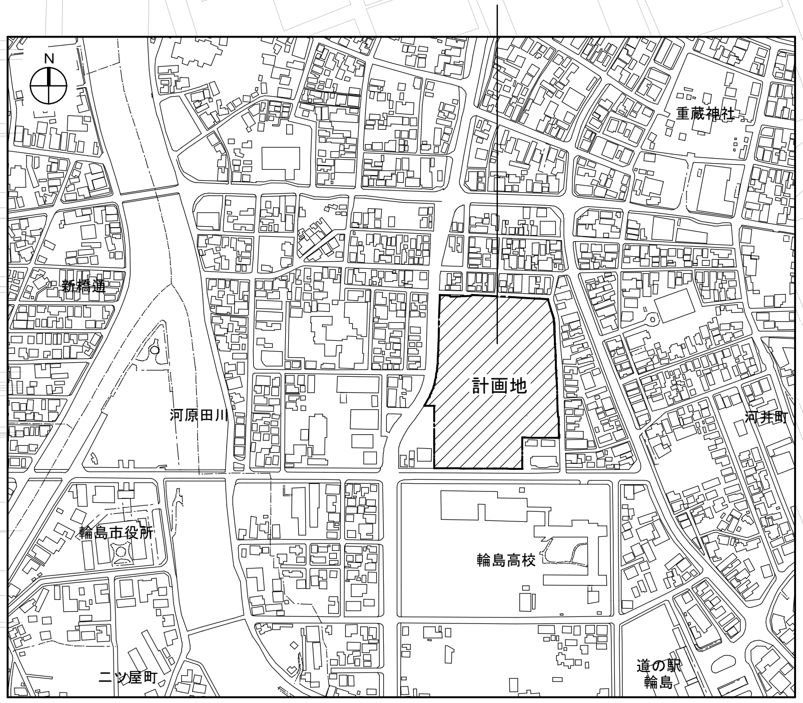
番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	11.220	0.881	9.884820	4.9424100
2	58.649	11.153	654.112297	327.0561485
3	67.269	17.974	1,209.093006	604.5465030
4	67.341	0.877	59.058057	29.5290285
5	72.518	2.638	191.302484	95.6512420
6	118.727	36.926	4,384.113202	2,192.0566010
7	123.254	6.238	768.858452	384.4292260
8	128.342	5.806	745.153652	372.5768260
9	128.967	0.647	83.441649	41.7208245
10	133.657	4.310	576.061670	288.0308350
11	29.960	1.047	31.368120	15.6840600
12	23.645	1.361	32.180845	16.0904225
13	18.936	2.513	47.586168	23.7930840
14	155.415	19.050	2,960.655750	1,480.3278750
15	13.644	2.792	38.094048	19.0470240
16	10.630	9.061	96.318430	48.1592150
17	175.272	15.663	2,745.285336	1,372.6426680
18	175.272	53.854	9,439.098288	4,719.5491440
19	151.221	1.769	267.509949	133.7549745
20	150.236	10.194	1,531.505784	765.7528920
21	144.965	2.808	407.061720	203.5308600
22	143.709	7.489	1,076.236701	538.1183505
23	140.659	27.272	3,836.052248	1,918.0261240
24	133.106	11.631	1,548.155886	774.0779430
25	132.404	0.064	8.473856	4.2369280
26	132.404	8.072	1,068.765088	534.3825440
27	132.094	6.907	912.373258	456.1866290
			合　計	17,363.9003820
第二種住居地域			敷地面積	17,363.900 m²

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	93.594	14.409	1,348.595946	674.2979730
2	30.476	14.003	426.755428	213.3777140
3	36.256	6.390	231.675840	115.8379200
4	40.538	3.530	143.099140	71.5495700
5	50.970	6.286	320.397420	160.1987100
6	68.164	7.176	489.144864	244.5724320
7	96.188	0.217	20.872796	10.4363980
8	110.297	0.701	77.318197	38.6590985
9	93.568	30.545	2,858.034560	1,429.0172800
10	132.524	1.047	138.752628	69.3763140
11	132.300	4.012	530.787600	265.3938000
12	132.431	1.888	250.029728	125.0148640
13	132.524	1.247	165.257428	82.6287140
14	44.696	0.702	31.376592	15.6882960
15	44.062	0.698	30.755276	15.3776380
16	43.450	5.765	250.489250	125.2446250
17	39.054	3.863	150.865602	75.4328010
18	36.856	5.989	220.730584	110.3652920
19	34.471	9.263	319.304873	159.6524365
			合　計	4,002.1218760
準住居地域			敷地面積	4,002.121 m²

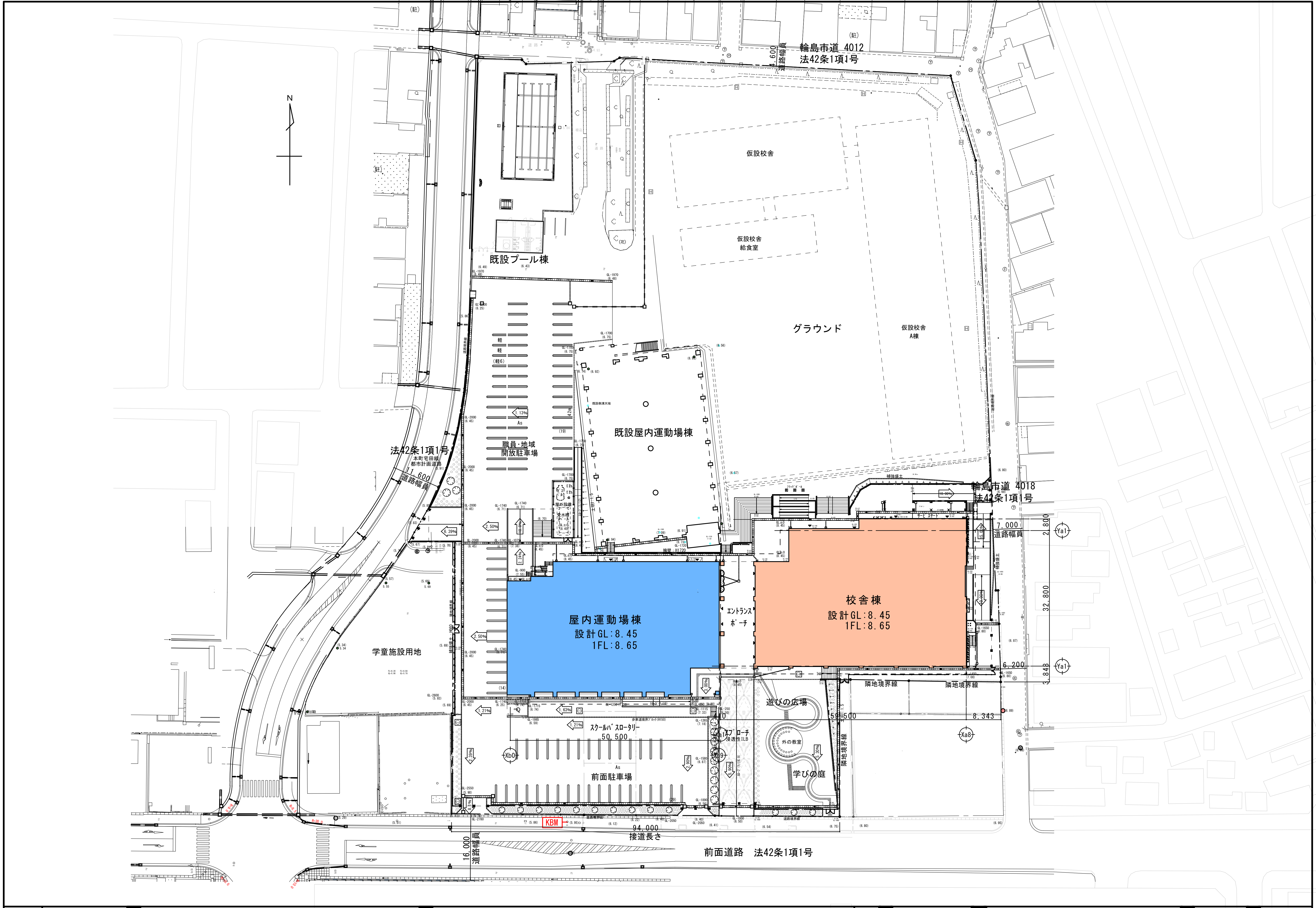
敷地面積	
近隣商業地域	514.907 m²
第二種住居地域	17,363.900 m²
準住居地域	4,002.121 m²
計	21,880.928 m²



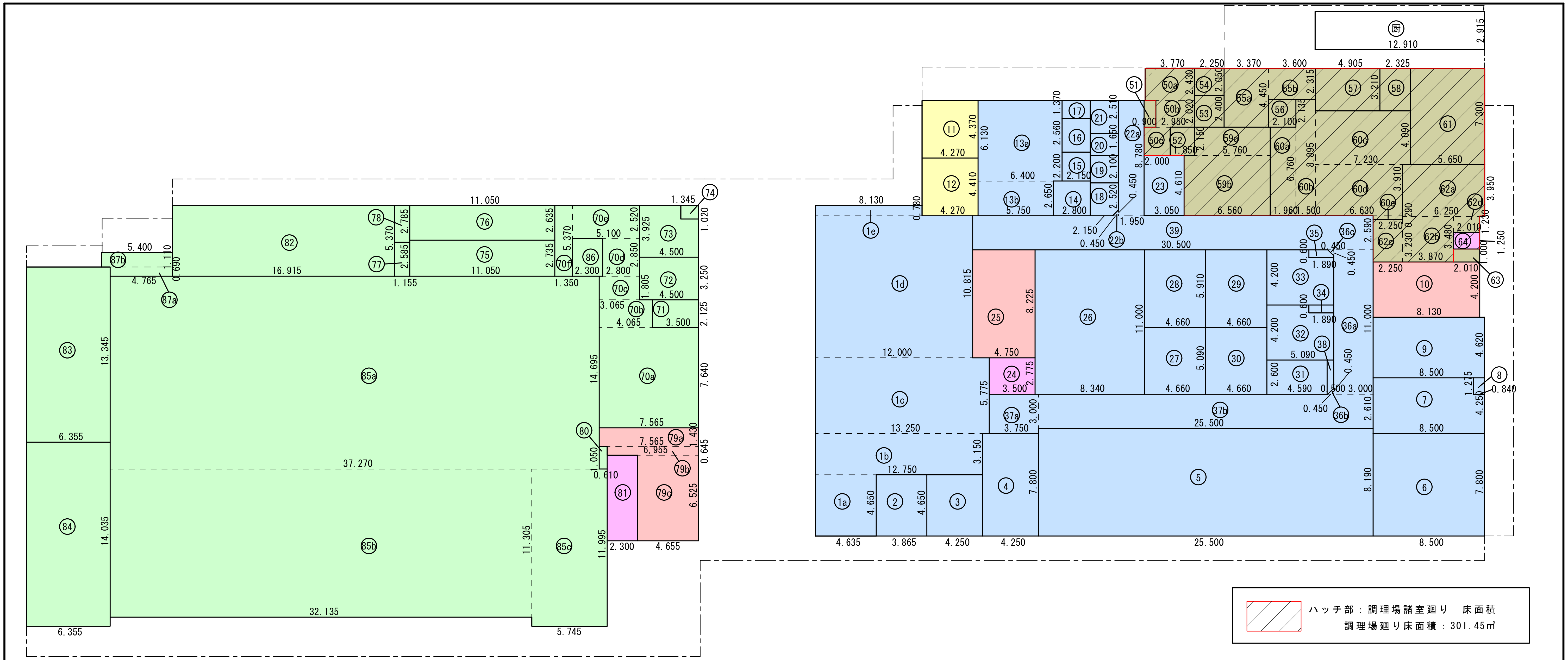
住所：輪島市河井町１８部１－２



JOB NO.								
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	敷地求積図・付近見取図	縮尺 A1：1/400 A3：1/800
							図番	A－b01 B－b01



JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　配　置　図	縮尺　A1：1/400　A3：1/800　図番　A －b02　B －b02



▨ ハッチ部：調理場諸室廻り　床面積

調理場廻り床面積：301.45㎡

1階延床面積表（屋内運動場棟）

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
70a	ｴﾝﾄﾗﾝｽ・廊下	7.565 × 7.640	57.7966	
70b		4.065 × 2.125	8.6381	
70c		3.065 × 1.805	5.5323	
70d		2.800 × 2.850	7.9800	
70e		5.100 × 2.520	12.8520	
70f		1.350 × 5.370	7.2495	100.0485
71	ミーティング室	3.500 × 2.125		7.4375
72	Mwc	4.500 × 3.250		14.6250
73	Wwc	4.500 × 3.925	17.6625	
	ー［番号74］	×	▲ 1.3719	16.2906
74	PS	1.345 × 1.020		1.3719
75	更衣室M	11.050 × 2.735		30.2218
76	更衣室W	11.050 × 2.635		29.1168
77	シャワーM	1.155 × 2.585		2.9857
78	シャワーW	1.155 × 2.785		3.2167
79a	階段	7.565 × 1.430	10.8180	
79b		6.955 × 0.645	4.4860	
79c		4.655 × 6.525	30.3739	45.6779
80	NS	0.610 × 1.695		1.0340
81	消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室	2.300 × 6.525		15.0075
82	外部倉庫	16.915 × 5.370		90.8336
83	備蓄倉庫	6.355 × 13.345		84.8075
84	用具庫	6.355 × 14.035		89.1924
85a	サブアリーナ	37.270 × 14.695	547.6827	
85b		32.135 × 11.305	363.2862	
85c		5.745 × 11.995	68.9113	979.8802
86	UWC	2.300 × 2.850		6.5550
87a	掃除具入れ	4.765 × 0.690	3.2879	
87b		5.400 × 1.110	5.9940	9.2819
			列小計	1,527.5845

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
屋内運動場棟１階　延床面積合計				1,527.5845
改め				1,527.58
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）				
【容積率非算入部分】		83	備蓄倉庫	-84.8075
屋内運動場棟１階　容積率算定用床面積				1,442.7770
改め				1,442.77

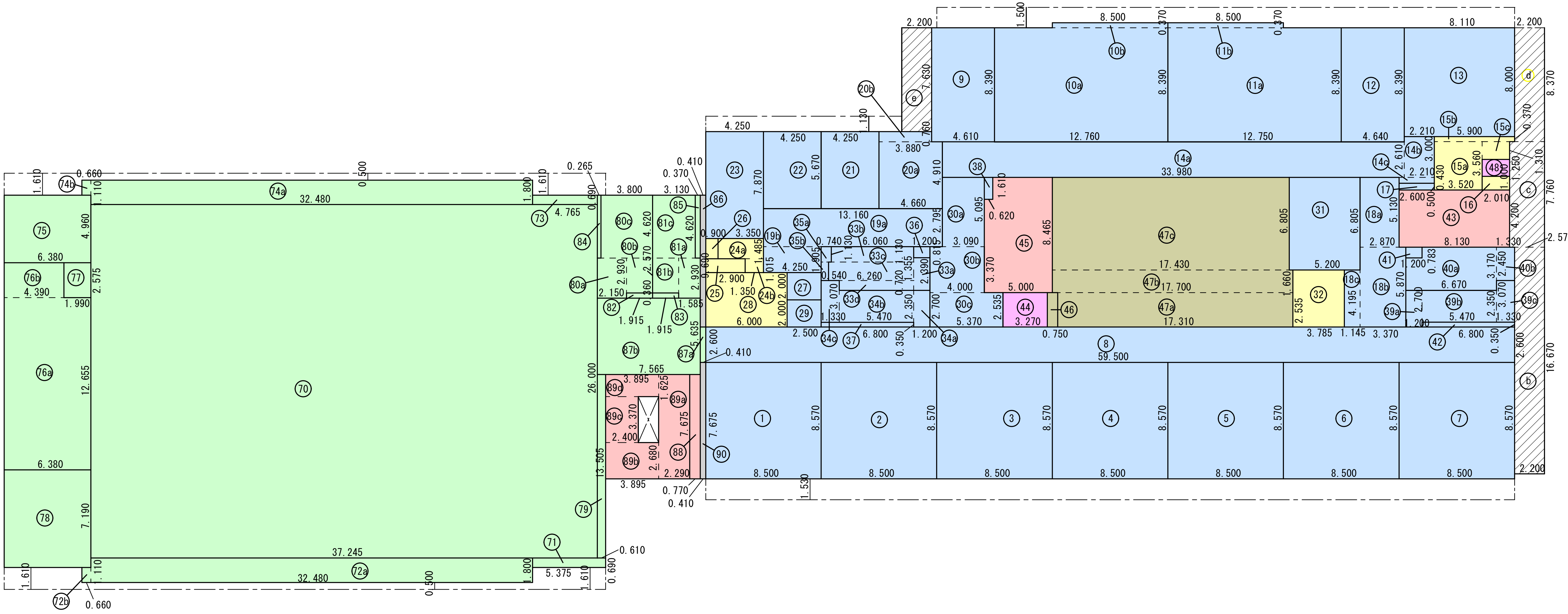
１階延床面積表（校舎棟）

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
1a	昇降口・ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	4.635 × 4.650	21.5528	
1b		12.750 × 3.150	40.1625	
1c		13.250 × 5.775	76.5188	
1d		12.000 × 10.815	129.7800	
1e		8.130 × 0.780	6.3414	274.3555
2	教育相談室１	3.865 × 4.650		17.9723
3	教育相談室２	4.250 × 4.650		19.7625
4	事務室	4.250 × 7.800		33.1500
5	職員室	25.500 × 8.190		208.8450
6	給湯室・ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	8.500 × 7.800		66.3000
7	印刷室	8.500 × 4.250	36.1250	
	ー［番号８］		▲ 1.0710	35.0540
8	PS	0.840 × 1.275		1.0710
9	校長室	8.500 × 4.620		39.2700
10	階段B	8.130 × 4.200		34.1460
11	外部WWC	4.270 × 4.370		18.6599
12	外部MWC	4.270 × 4.410		18.8307
13a	保健室	6.400 × 6.130		39.2320
13b		5.750 × 2.650		15.2375
14	保健相談室	2.800 × 2.650		7.4200
15	保健WC	2.150 × 2.200		4.7300
16	保健前室	2.150 × 2.560		5.5040
17	保健US	2.150 × 1.370		2.9455
18	だれでもwcC	2.150 × 2.520	5.4180	
	ー［番号22b］	×	▲ 0.1013	5.3167
19	だれでもwcB	2.150 × 2.100		4.5150
20	だれでもwcA	2.150 × 1.650		3.5475
21	ゴミステーション	2.150 × 2.510		5.3965
22a	通用廊下	1.950 × 8.780	17.1210	
22b		0.45*0.45/2	0.1013	17.2223
			列小計	878.4839

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
23	倉庫	3.050 × 4.610		14.0605
24	EV	3.500 × 2.775		9.7125
25	階段A	4.750 × 8.225		39.0688
26	特別活動会議室	8.340 × 11.000		91.7400
27	同、倉庫	4.660 × 5.090		23.7194
28	職員更衣（M）	4.660 × 5.910		27.5406
29	職員更衣（W）	4.660 × 5.910		27.5406
30	放送室	4.660 × 5.090		23.7194
31	相談室	4.590 × 2.600		11.9340
32	教員Wwc	5.090 × 4.200	21.3780	
	ー［番号34］	×	▲ 1.1340	20.2440
33	教員Mwc	5.090 × 4.200	21.3780	
	ー［番号35］	×	▲ 1.0327	
	ー［番号36c］	×	▲ 0.1013	20.2440
34	PS	1.890 × 0.600		1.1340
35	PS	1.890 × 0.600	1.1340	
	ー［番号36c］	×	▲ 0.1013	1.0327
36a	廊下（東）	3.000 × 11.000	33.0000	
36b		0.45*0.45/2	0.1013	
36c		0.45*0.45/2	0.1013	33.2026
37a	廊下（南）	3.750 × 3.000	11.2500	
37b		25.500 × 2.610	66.5550	77.8050
38	PS	0.500 × 2.600	1.3000	
	ー［番号36b］	0.45*0.45/2	▲ 0.1013	1.1987
39	廊下（北）	30.500 × 2.590		78.9950
50a	給食事務	3.770 × 2.430	9.1611	
50b		2.950 × 2.020	5.9590	
50c		2.000 × 2.150	4.3000	19.4201
51	PS	0.900 × 2.020		1.8180
			列小計	524.1299

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
52	給食WC	1.850 × 2.150		3.9775
53	前室１	2.250 × 2.400		5.4000
54	更衣室	2.250 × 2.050		4.6125
55a	検収室	3.370 × 4.450	14.9965	
55b		3.600 × 2.315	8.3340	23.3305
56	前室２	2.100 × 2.135		4.4835
57	食品庫	4.905 × 3.210		15.7451
58	物品庫	2.325 × 3.210		7.4633
59a	下処理室	5.760 × 2.150	12.3840	
59b		6.560 × 4.610	30.2416	42.6256
60a	調理室	1.960 × 6.760	13.2496	
60b		1.500 × 8.895	13.3425	
60c		7.230 × 4.090	29.5707	
60d		6.630 × 3.910	25.9233	
60e		2.250 × 0.290	0.6525	82.7386
61	洗浄室	5.650 × 7.300		41.2450
62a	配膳室	6.250 × 3.950	24.6875	
62b		3.870 × 3.480	13.4676	
62c		2.250 × 3.230	7.2675	
62d		2.010 × 1.230	2.4723	47.8949
63	PS	2.010 × 1.000		2.0100
64	DW	2.010 × 1.250		2.5125
校舎棟１階　延床面積合計				1,686.6528
改め				1,686.65
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）				
【容積率非算入部分】		24	EV	-9.7125
【容積率非算入部分】		64	DW	-2.5125
校舎棟１階　容積率算定用床面積				1,674.4278
改め				1,674.42

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	面積表 1	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－b03 B－b03



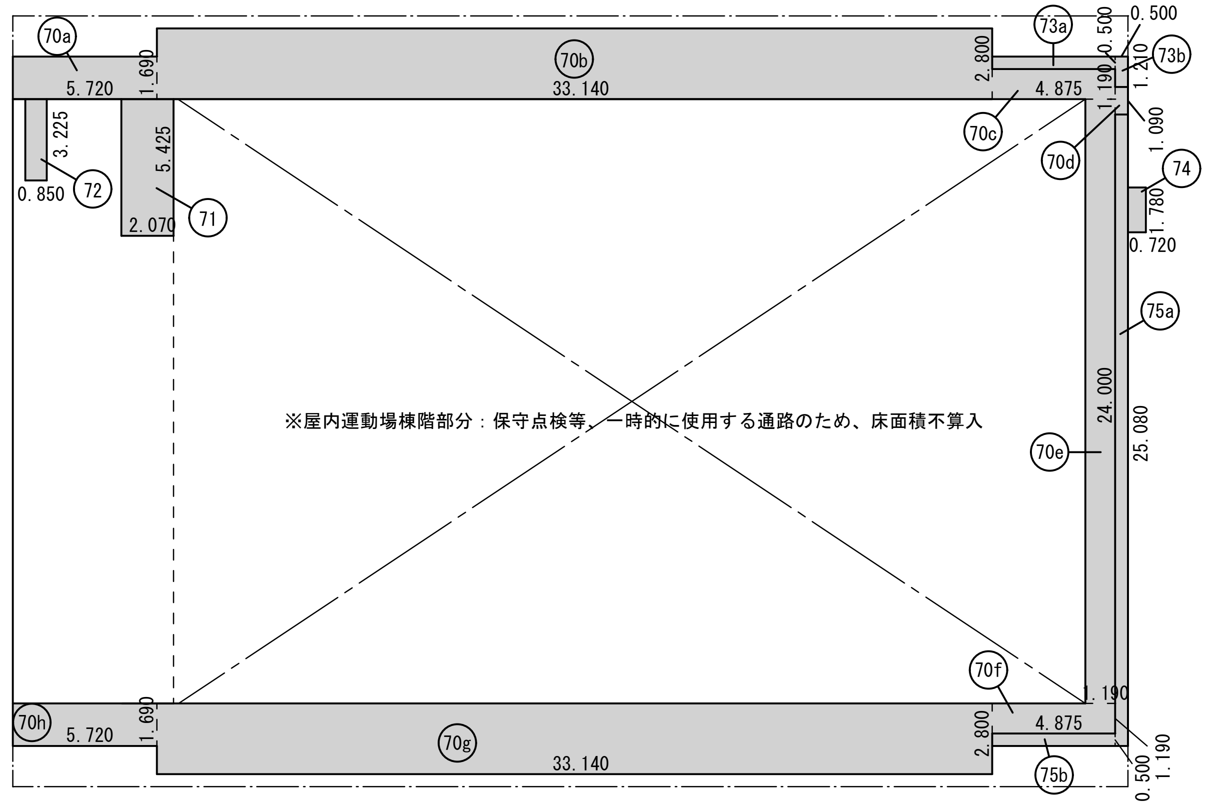
２階延床面積表(屋内運動場棟)

番号	室名	計算式 X-Y			面積	合計
70	アリーナ	37.245	×	26.000		968.3700
71	掃除用具置場	5.375	×	0.690		3.7088
72a	設備置場	32.480	×	1.800	58.4640	
72b		0.660	×	1.110	0.7326	59.1966
73	掃除用具置場	4.765	×	0.690		3.2879
74a	設備置場	32.480	×	1.800	58.4640	
74b		0.660	×	1.110	0.7326	59.1966
75	用具庫１	6.380	×	4.960		31.6448
76a	ステージ	4.390	×	2.575	11.3043	
76b		6.380	×	12.655	80.7389	92.0432
77	放送室	1.990	×	2.575		5.1243
78	用具庫２	6.380	×	7.190		45.8722
79	NS	0.610	×	13.505		8.2381
80a	アリーナMWC	2.150	×	2.930	6.2995	
80b		1.915	×	2.570	4.9216	
80c		3.800	×	4.620	17.5560	28.7771
81a	アリーナWWC	1.585	×	2.930	4.6441	
81b		1.915	×	2.570	4.9216	
81c		3.130	×	4.620	14.4606	24.0263
82	PS	1.915	×	0.360		0.6894
83	PS	1.915	×	0.360		0.6894
84	PS	0.265	×	4.620		1.2243
85	PS	0.370	×	4.620		1.7094
86	EXP	9.690	×	0.410		3.9729
87a	ホール	0.410	×	2.600	1.0660	
87b		7.565	×	5.635	42.6288	43.6948
88	NS	0.770	×	7.675		5.9098
89a	階段	2.290	×	7.675	17.5758	
89b		3.895	×	2.680	10.4386	
89c		2.400	×	3.370	8.0880	
89d		3.895	×	1.625	6.3294	42.4318
90	EXP	0.410	×	8.570		3.5137
屋内運動場棟２階　延床面積合計						1,433.3214
改め						1,433.32
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）						

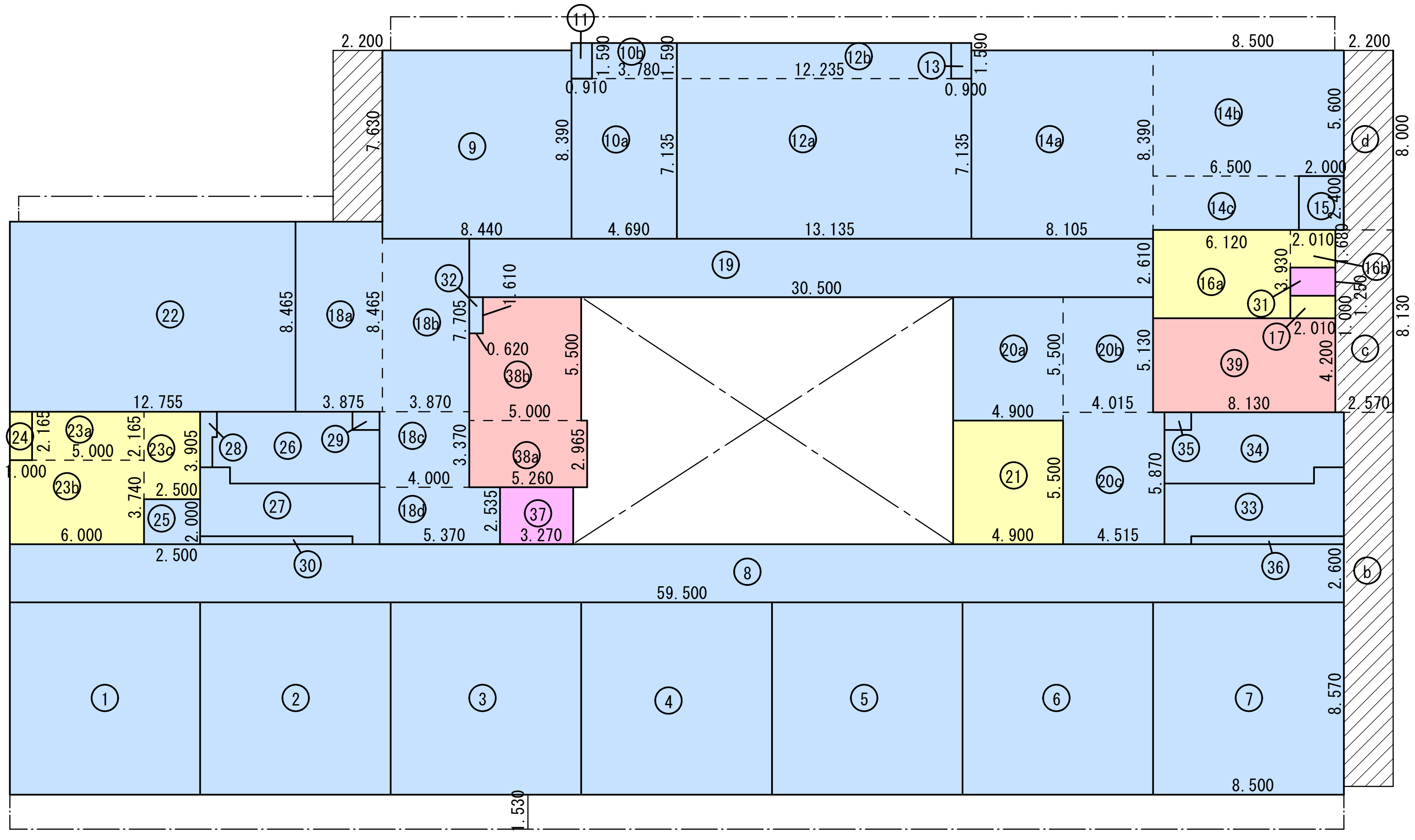
２階延床面積表（校舎棟）

番号	室名	計算式 X-Y			面積	合計
1	多目的教室	8.500	×	8.570		72.8450
2	CR1	8.500	×	8.570		72.8450
3	CR2	8.500	×	8.570		72.8450
4	CR3	8.500	×	8.570		72.8450
5	CR4	8.500	×	8.570		72.8450
6	CR5	8.500	×	8.570		72.8450
7	CR6	8.500	×	8.570		72.8450
8	廊下（南）	59.500	×	2.600		154.7000
9	図工準備室	4.610	×	8.390		38.6779
10a	図工室	12.760	×	8.390	107.0564	
10b		8.500	×	0.370	3.1450	110.2014
11a	理科室	12.750	×	8.390	106.9725	
11b		8.500	×	0.370	3.1450	110.1175
12	理科準備室	4.640	×	8.390		38.9296
13	通級教室	8.110	×	8.000		64.8800
14a	廊下（北）	33.980	×	2.610	88.6878	
14b		2.210	×	3.000	6.6300	
14c		2.600	×	0.430	1.1180	96.4358
15a	配膳室	3.520	×	3.560	12.5312	
15b		5.900	×	0.370	2.1830	
15c		2.010	×	1.310	2.6331	17.3473
16	PS	2.010	×	1.000		2.0100
17	PS	2.600	×	0.500		1.3000
18a	廊下（東）	2.870	×	5.130	14.7231	
18b		3.370	×	5.870	19.7819	
18c		1.145	×	4.195	4.8033	39.3083
					列小計	1,183.8228
19a	特支廊下	13.160	×	2.795	36.7822	
19b		4.250	×	1.905	8.0963	44.8785
20a	特別支援学級１	4.660	×	4.910	22.8806	
20b		3.880	×	0.760	2.9488	25.8294
21	特別支援学級２	4.250	×	5.670		24.0975
22	特別支援学級３	4.250	×	5.670		24.0975
23	特別支援学級４	4.250	×	7.870		33.4475
24a	脱衣室	3.350	×	1.485	4.9748	
24b		1.350	×	1.015	1.3703	6.3451
25	US	2.900	×	1.015		2.9435
26	PS	0.900	×	1.485		1.3365
27	支援学級UWC	2.500	×	2.000		5.0000
28	教材庫	6.000	×	4.000		24.0000
29	UWC	2.500	×	2.000		5.0000
30a	廊下（西）	3.090	×	5.095	15.7436	
30b		4.000	×	3.370	13.4800	
30c		5.370	×	2.535	13.6130	42.8366
31	フリースペース	5.200	×	6.805		35.3860
32	書庫	3.785	×	4.195		15.8781
33a	WWCa	1.200	×	2.390	2.8680	
33b		6.060	×	1.130	6.8478	
33c		6.260	×	1.355	8.4823	
33d		5.470	×	0.720	3.9384	22.1365
34a	MWCa	1.200	×	2.700	3.2400	
34b		5.470	×	2.350	12.8545	
34c		1.330	×	3.070	4.0831	20.1776
35a	PS	0.740	×	1.130	0.8362	
35b		0.540	×	1.355	0.7317	1.5679
36	PS	1.200	×	0.815		0.9780
37	PS	6.800	×	0.350		2.3800
38	PS	0.620	×	1.610		0.9982
					列小計	339.3144
39a	WWCb	1.200	×	2.700	3.2400	
39b		5.470	×	2.350	12.8545	
39c		1.330	×	3.070	4.0831	20.1776
40a	MWCb	6.670	×	3.170	21.1439	
	－［番号41］		×		▲ 0.9420	
40b		1.330	×	2.450	3.2585	23.4604
41	PS	1.200	×	0.785		0.9420
42	PS	6.800	×	0.350		2.3800
43	階段Ｂ	8.130	×	4.200		34.1460
44	EV	3.270	×	2.535		8.2895
45	階段A	5.000	×	8.465	42.3250	
	－［番号38］		×		▲ 0.9982	41.3268
46	PS	0.750	×	2.535		1.9013
47a	ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ	17.310	×	2.535	43.8809	
47b		17.700	×	1.660	29.3820	
47c		17.430	×	6.805	118.6112	191.8741
48	DW	2.010	×	1.250		2.5125
					列小計	327.0102
a	欠番					
b	外部算入部分	2.200	×	16.670		36.6740
c	外部算入部分	2.570	×	7.760		19.9432
d	外部算入部分	2.200	×	8.370		18.4140
e	外部算入部分	2.200	×	7.630		16.7860
校舎棟２階　延床面積合計						1,941.9646
改め						1,941.96
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）						
【容積率非算入部分】			44	EV		-8.2895
【容積率非算入部分】			48	DW		-2.5125
校舎棟２階　容積率算定用床面積						1,931.1626
改め						1,931.16

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	面積表 2	縮尺 A1：1/150 A3：1/300 図番 A－b04 B－b04



※屋内運動場棟階部分：保守点検等、一時的に使用する通路のため、床面積不算入



３階延床面積表(屋内運動場棟)

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
70a	ﾒﾝﾃﾅﾝｽ通路	5.720 × 1.690	9.6668	
70b		33.140 × 2.800	92.7920	
70c		4.875 × 1.190	5.8013	
70d		0.500 × 1.090	0.5450	
70e		1.190 × 24.000	28.5600	
70f		4.875 × 1.190	5.8013	
70g		33.140 × 2.800	92.7920	
70h		5.720 × 1.690	9.6668	245.6252
71	通路	2.070 × 5.425		11.2298
72	ﾒﾝﾃﾅﾝｽ通路階段	0.850 × 3.225		2.7413
73a	NS	4.875 × 0.500	2.4375	
73b		0.500 × 1.210	0.6050	3.0425
74	ハト小屋	0.720 × 1.780		1.2816
75a	NS	0.500 × 25.080	12.5400	
75b		4.875 × 0.500	2.4375	14.9775
		屋内運動場棟３階　延床面積合計		278.8979
			改め	278.89

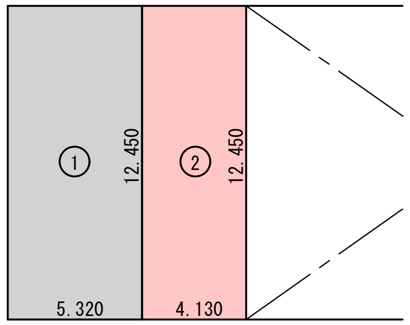
※新体育館3階部分：保守点検等、一時的に使用する通路のため、床面積不算入

３階延床面積表（校舎棟）

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
1	多目的教室	[2階１より]		72.8450
2	CR7	[2階２より]		72.8450
3	CR8	[2階３より]		72.8450
4	CR9	[2階４より]		72.8450
5	CR10	[2階５より]		72.8450
6	CR11	[2階６より]		72.8450
7	CR12	[2階７より]		72.8450
8	廊下（南）	59.500 × 2.600		154.7000
9	通級学級２	8.440 × 8.390		70.8116
10a	家庭準備室	4.690 × 7.135	33.4632	
10b		3.780 × 1.590	6.0102	39.4734
11	PS	0.910 × 1.590		1.4469
12a	家庭室	13.135 × 7.135	93.7182	
12b		12.235 × 1.590	19.4537	113.1719
13	PS	0.900 × 1.590		1.4310
14a	ランチルーム	8.105 × 8.390	68.0010	
14b		8.500 × 5.600	47.6000	
14c		6.500 × 2.400	15.6000	131.2010
15	ランチルーム倉庫	2.000 × 2.400		4.8000
16a	配膳室	6.120 × 3.930	24.0516	
16b		2.010 × 1.680	3.3768	27.4284
17	PS	2.010 × 1.000		2.0100
18a	廊下（西）	3.875 × 8.465	32.8019	
18b		3.870 × 7.705	29.8184	
18c		4.000 × 3.370	13.4800	
18d		5.370 × 2.535	13.6130	89.7133
19	廊下（北）	30.500 × 2.610		79.6050
			列小計	1,225.7075

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
20a	廊下（東）	4.900 × 5.500	26.9500	
20b		4.015 × 5.130	20.5970	
20c		4.515 × 5.870	26.5031	74.0501
21	教材庫	4.900 × 5.500		26.9500
22	音楽室	12.755 × 8.465		107.9711
23a	楽器庫	5.000 × 2.165	10.8250	
23b		6.000 × 3.740	22.4400	
23c		2.500 × 3.905	9.7625	43.0275
24	PS	1.000 × 2.165		2.1650
25	UWC	2.500 × 2.000		5.0000
26	WWCa	[2階33より]		22.1365
27	MWCa	[2階34より]		20.1776
28	PS	[2階35より]		1.5679
29	PS	[2階36より]		0.9780
30	PS	[2階37より]		2.3800
31	DW	2.010 × 1.250		2.5125
32	PS	0.620 × 1.610		0.9982
33	WWCa	[2階39より]		20.1776
34	MWCa	[2階40より]		23.4604
35	PS	[2階41より]		0.9420
36	PS	[2階42より]		2.3800
37	EV	3.270 × 2.535		8.2895
38a	階段A	5.260 × 2.965	15.5959	
38b		5.000 × 5.500	27.5000	
	ー［番号32］	×	▲ 0.9982	42.0977
39	階段B	8.130 × 4.200		34.1460
			列小計	441.4076

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
a	欠番			
b	外部算入部分	[2階oより]		36.6740
c	外部算入部分	2.570 × 8.130		20.8941
d	外部算入部分	2.200 × 8.000		17.6000
e	外部算入部分	2.200 × 7.630		16.7860
		校舎棟３階　延床面積合計		1,759.0692
			改め	1,759.06
		建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）		
	【容積率非算入部分】	31	DW	−2.5125
	【容積率非算入部分】	37	階段A	−8.2895
		校舎棟３階　容積率算定用床面積		1,748.2672
			改め	1,748.26

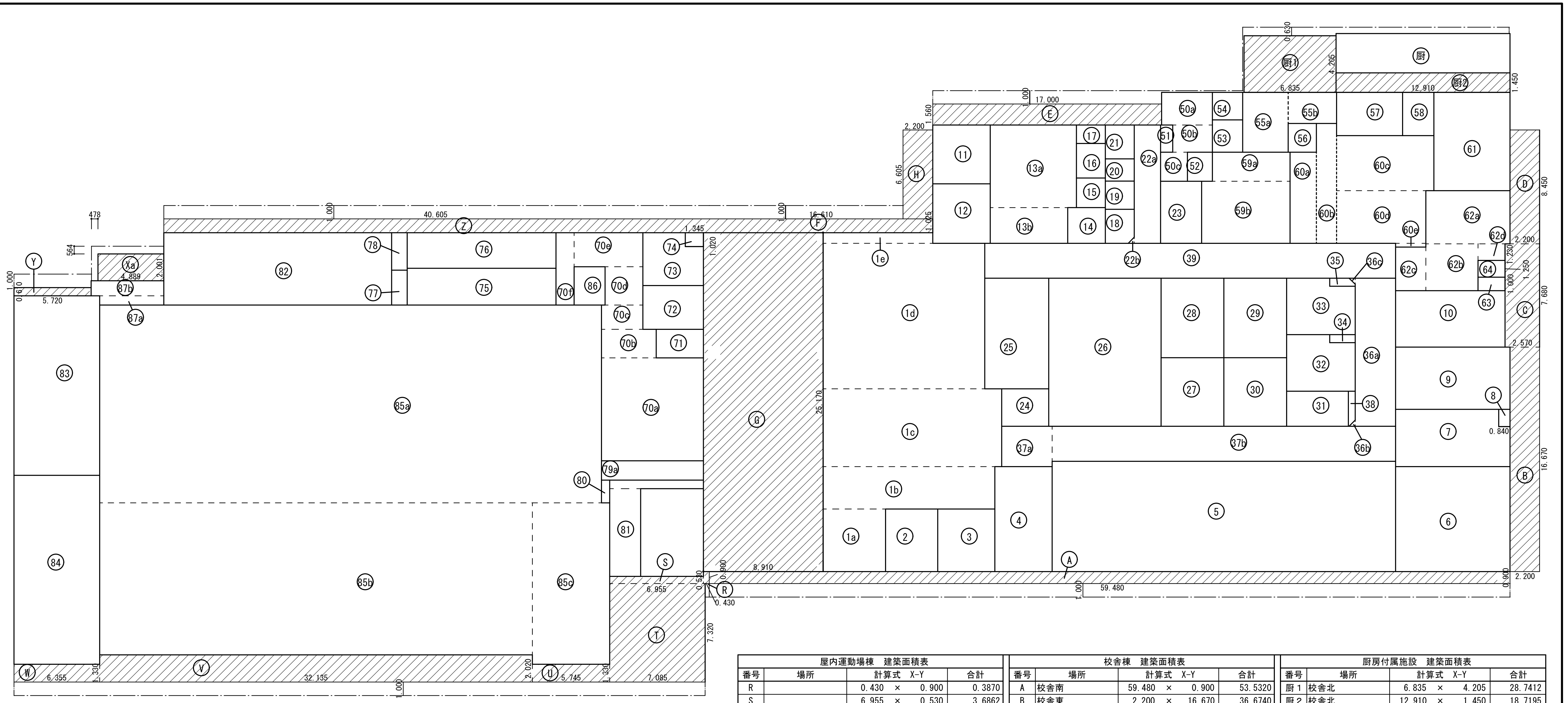


PH階延床面積表(校舎棟)

1	電気室	5.320 × 12.450		66.2340
2	階段A	4.130 × 12.450		51.4185
		校舎棟PH階　延床面積合計		117.6525
			改め	117.65

建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	面積表 3	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番 A－b05 B－b05



屋内運動場棟　建築面積表					
番号	場所	計算式　X-Y			合計
R		0.430	×	0.900	0.3870
S		6.955	×	0.530	3.6862
T		7.085	×	7.320	51.8622
U		5.745	×	1.330	7.6409
V		32.135	×	2.020	64.9127
W		6.355	×	1.330	8.4522
Xa		4.889	×	2.001	9.7829
Y		5.720	×	0.610	3.4892
Z	体育館北	40.605	×	1.025	41.6201
	１階床面積	床面積表より			1,527.5845
				屋内運動場棟　建築面積合計	1,719.4179
				改め	1,719.41

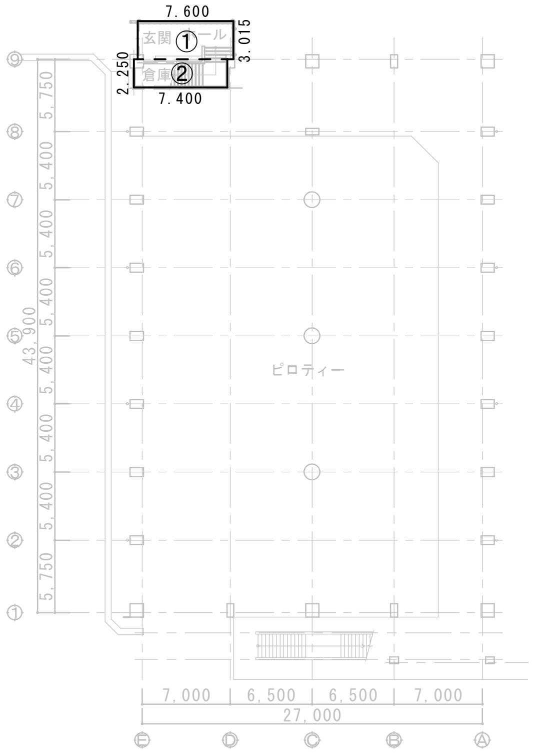
校舎棟　建築面積表					
番号	場所	計算式　X-Y			合計
A	校舎南	59.480	×	0.900	53.5320
B	校舎東	2.200	×	16.670	36.6740
C	〃	2.570	×	7.680	19.7376
D	〃	2.200	×	8.450	18.5900
E	校舎北	17.000	×	1.560	26.5200
F	〃	16.610	×	1.025	17.0253
G	校舎西	8.910	×	25.170	224.2647
H	〃	2.200	×	6.605	14.5310
	１階床面積	床面積表より			1,686.6528
				校舎棟　建築面積合計	2,097.5274
				改め	2,097.52

厨房付属施設　建築面積表					
番号	場所	計算式　X-Y			合計
厨１	校舎北	6.835	×	4.205	28.7412
厨２	校舎北	12.910	×	1.450	18.7195
	１階床面積	床面積表より			37.6327
				厨房付属施設　建築面積合計	85.0934
				改め	85.09

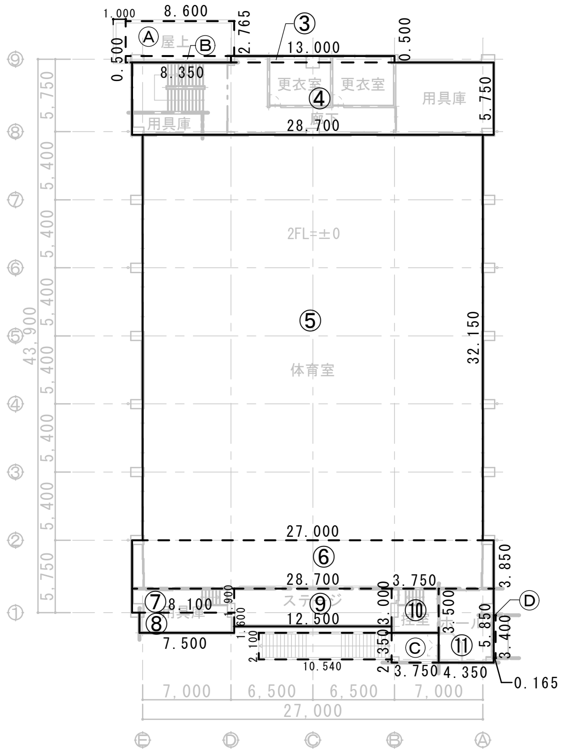
面積区画集計表（m2）							
区画	範囲		１階	２階	３階	４階	合計
A	１階校舎	１階1-9、13-23、26-39	1,260.9578				1,260.9578
B	校舎階段A	１階25、２階45、３階38、４階2	39.0688	41.3268	42.0977	51.4185	173.9118
C	校舎階段B	１階10、２階43、３階39	34.1460	34.1460	34.1460		102.4380
D	校舎EV	１階24、２階44、３階37	9.7125	8.2895	8.2895		26.2915
E	校舎DW	１階64、２階48、３階31	2.5125	2.5125	2.5125		7.5375
F	厨房	１階50-63	302.7646				302.7646
G	サブアリーナ	１階70-78、80、82-86	1,466.8991				1,466.8991
H	体育館階段	１階79、２階89	45.6779	48.3416			94.0195
I	消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室	１階81、２階88	15.0075				15.0075
J	外部トイレ	１階11-12	37.4906				37.4906
K	２階校舎	２階1-14、18-23、27、29-31、33-42		1,498.9367			1,498.9367
L	２階ラーニングコモンズ	２階46-47		193.7754			193.7754
M	２階配膳室	２階15-16		19.3573			19.3573
N	２階教材庫	２階32		34.6251			34.6251
O	２階書庫廻り	２階24-26、28		15.8781			15.8781
P	EXP	２階86		3.9729			3.9729
Q	EXP	２階90		3.5137			3.5137
R	アリーナ	２階70-85、87、		1,377.4932			1,377.4932
S	３階校舎	３階1-15、18-20、25-36			1,478.4885		1,478.4885
T	３階配膳室	３階16-17			29.4384		29.4384
U	３階教材庫	３階21			26.9500		26.9500
V	３階楽器庫廻り	３階23-24			45.1925		45.1925
W	４階電気室	４階1				66.2340	66.2340
X	２階PS	２階17		1.3000			
		合計面積（参考面積、屋内面積）	3,214.2373	3,283.4688	1,667.1151	117.6525	8,281.1737

延床面積 建築面積 集計表	申請部分				申請以外の部分			合計
	校舎棟	屋内運動場棟	厨房付属棟	申請部分合計	既存屋内運動場棟	プール管理棟	申請以外部分合計	
１階(㎡)	1,686.65	1,527.58	37.63	3,251.86	39.56	84.00	123.56	3,375.42
２階(㎡)	1,941.96	1,433.32	–	3,375.28	1,253.53	–	1,253.53	4,628.81
３階(㎡)	1,759.06	–	–	1,759.06	166.63	–	166.63	1,925.69
PH階(㎡)	117.65	–	–	117.65	–	–	0.00	117.65
延床面積　計	5,505.32	2,960.90	37.63	8,503.85	1,459.72	84.00	1,543.72	10,047.57
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）								
【容積率算定面積】								
１階(㎡)	1,674.42	1,442.77	37.63	3,154.82	39.56	84.00	123.56	3,278.38
２階(㎡)	1,931.16	1,433.32	–	3,364.48	1,253.53	–	1,253.53	4,618.01
３階(㎡)	1,748.26	–	–	1,748.26	166.63	–	166.63	1,914.89
PH階(㎡)	117.65	–	–	117.65	–	–	0.00	117.65
容積率算定延床面積　計	5,471.49	2,876.09	37.63	8,385.21	1,459.72	84.00	1,543.72	9,928.93
建築面積(㎡)	2,097.52	1,719.41	85.09	3,902.02	1,312.99	84.00	1,396.99	5,299.01

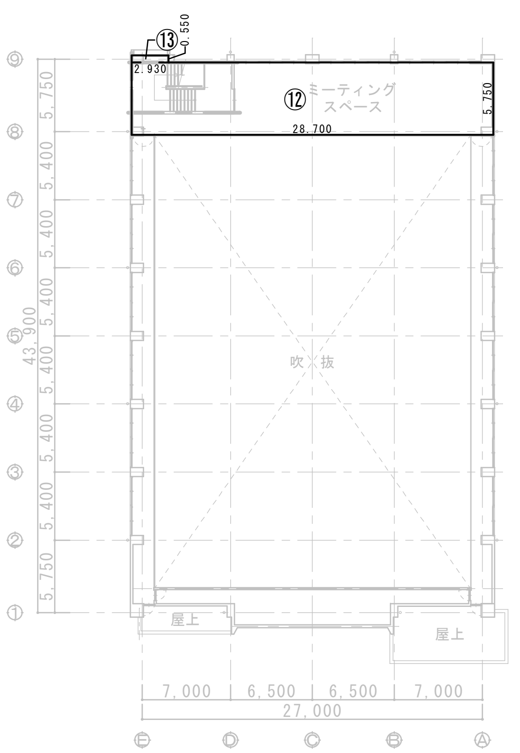
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社 浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	面積表　４	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－b06 B－b06



既存屋内運動場１階平面図



既存屋内運動場２階平面図



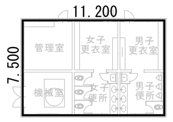
既存屋内運動場３階平面図

既存屋内運動場棟　延べ床面積表

番号	室　名	計 算 式	面　積	改　め	小　計
①	１階床面積	7.600 × 3.015 = 22.9140	39.5640	39.56	1,459.72
②	〃	7.400 × 2.250 = 16.6500			
③	２階床面積	13.000 × 0.500 = 6.5000	1,253.533	1,253.53	
④	〃	28.700 × 5.750 = 165.0250			
⑤	〃	27.000 × 32.150 = 868.050			
⑥	〃	28.700 × 3.850 = 110.4950			
⑦	〃	8.100 × 1.900 = 15.3900			
⑧	〃	7.500 × 1.600 = 12.0000			
⑨	〃	12.500 × 3.000 = 37.5000			
⑩	〃	3.750 × 3.500 = 13.1250			
⑪	〃	4.350 × 5.850 = 25.4475			
⑫	３階床面積	2.930 × 0.550 = 1.6115	166.6365	166.63	
⑬	〃	28.700 × 5.750 = 165.0250			

既存屋内運動場棟　建築面積表

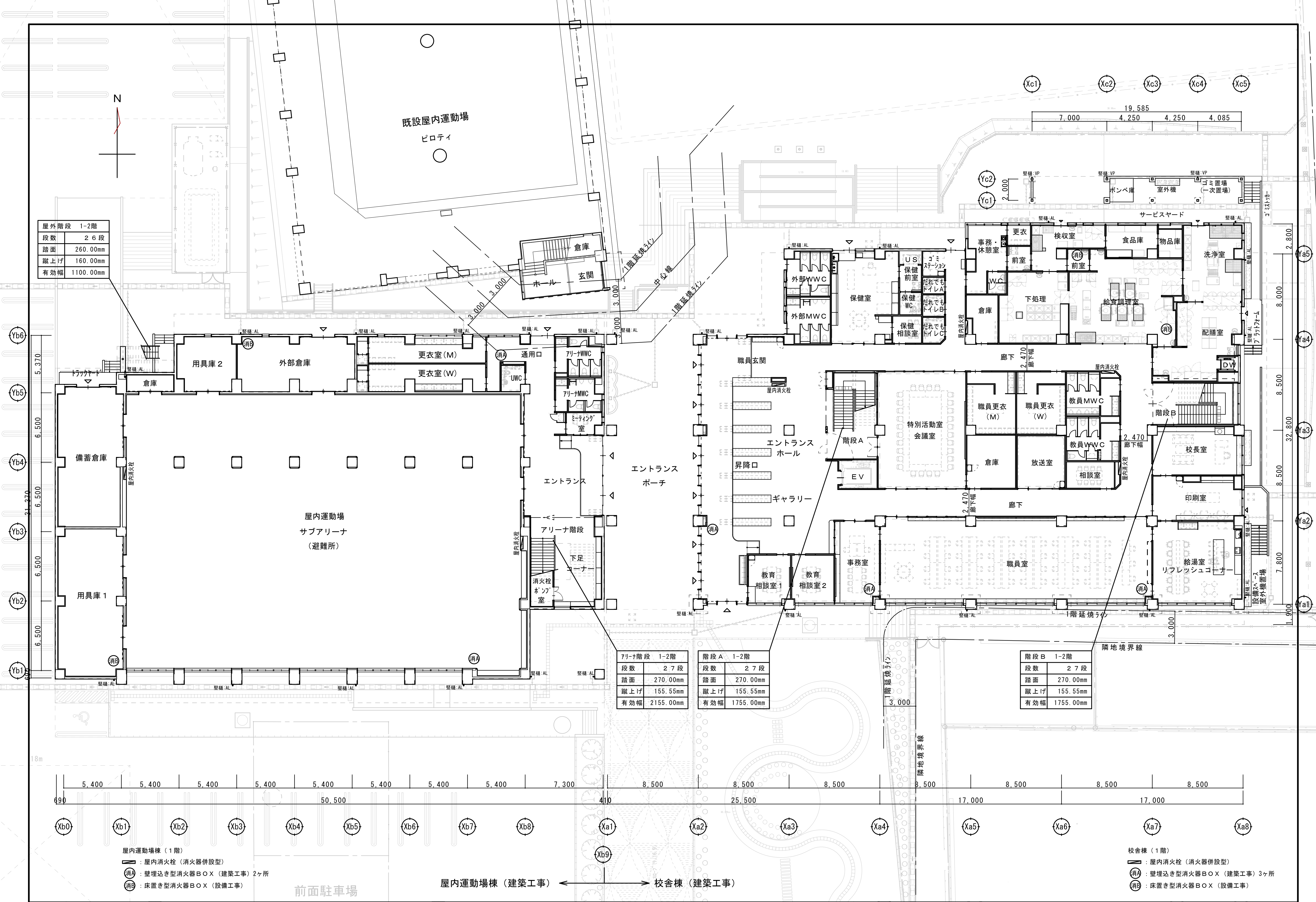
番号	室　名	計 算 式	面　積	改　め	小　計
	２階床面積	1,253.533	1,312.995	1,312.99	1,312.99
Ⓐ	屋外算入部分	8.600 × 2.765 = 23.7790			
Ⓑ	屋外算入部分	8.350 × 0.500 = 4.1750			
Ⓒ	屋外算入部分	3.750 × 2.350 = 8.8125			
Ⓓ	屋外算入部分	0.165 × 3.400 = 0.5610			
Ⓔ	屋外算入部分	10.540 × 2.100 = 22.1340			



既存プール管理棟

既存プール管理棟　延床・建築面積表

番号	室　名	計 算 式	面　積	改　め	小　計
	プール管理棟	11.200 × 7.500 =	84.000	84.00	84.00



屋外階段　1-2階	
段数	２６段
踏面	260.00mm
蹴上げ	160.00mm
有効幅	1100.00mm

ｱﾘｰﾅ階段　1-2階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.55mm
有効幅	2155.00mm

階段Ａ　1-2階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.55mm
有効幅	1755.00mm

階段Ｂ　1-2階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.55mm
有効幅	1755.00mm

屋内運動場棟（１階）

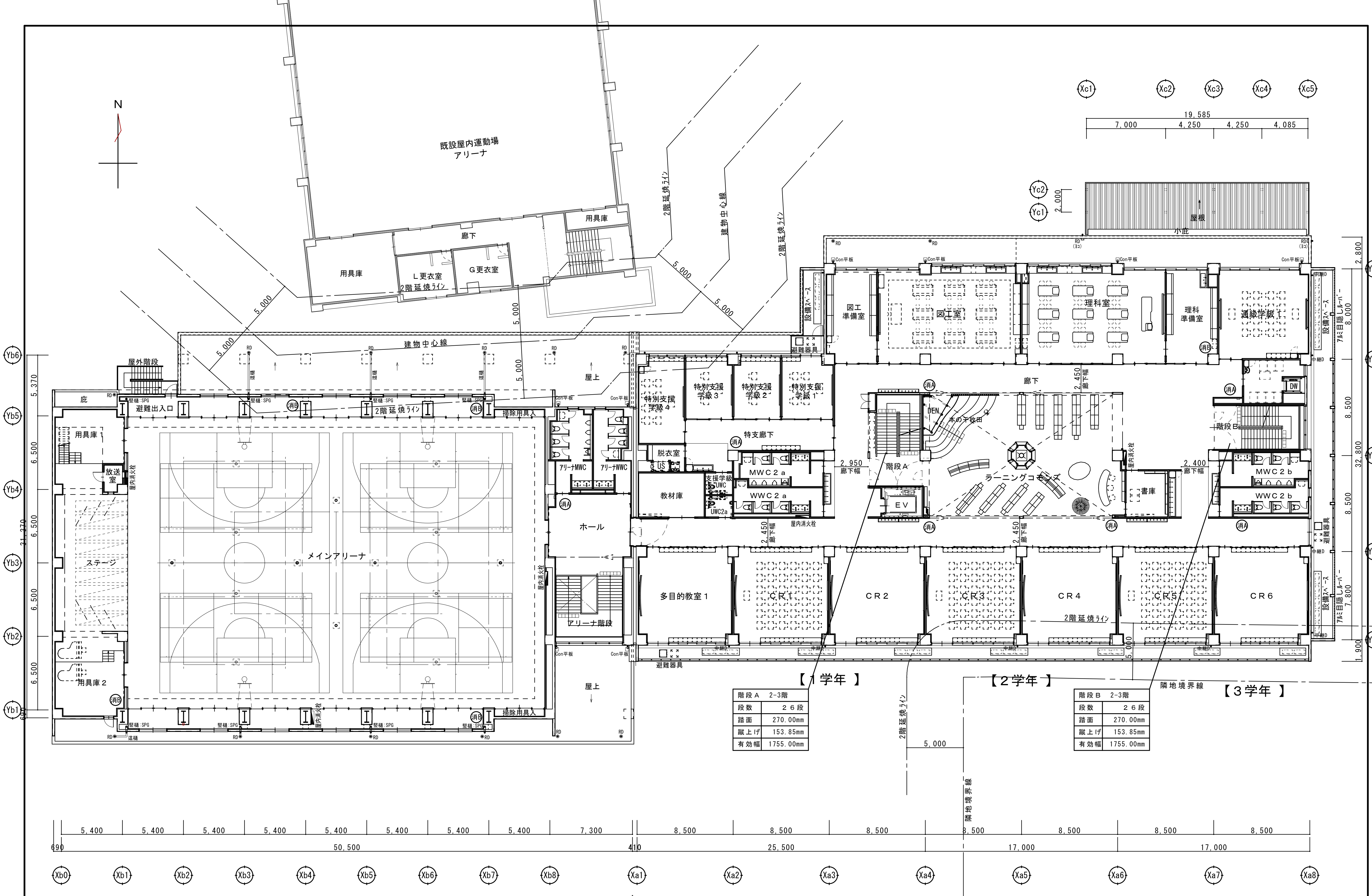
▬：屋内消火栓（消火器併設型）
消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）2ヶ所
消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

屋内運動場棟（建築工事）←→校舎棟（建築工事）

校舎棟（１階）

▬：屋内消火栓（消火器併設型）
消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）3ヶ所
消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO.		工事名						
125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	１階平面図（全体）	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－b08 B－b08



階段Ａ　2-3階	
段数	２６段
踏面	270.00mm
蹴上げ	153.85mm
有効幅	1755.00mm

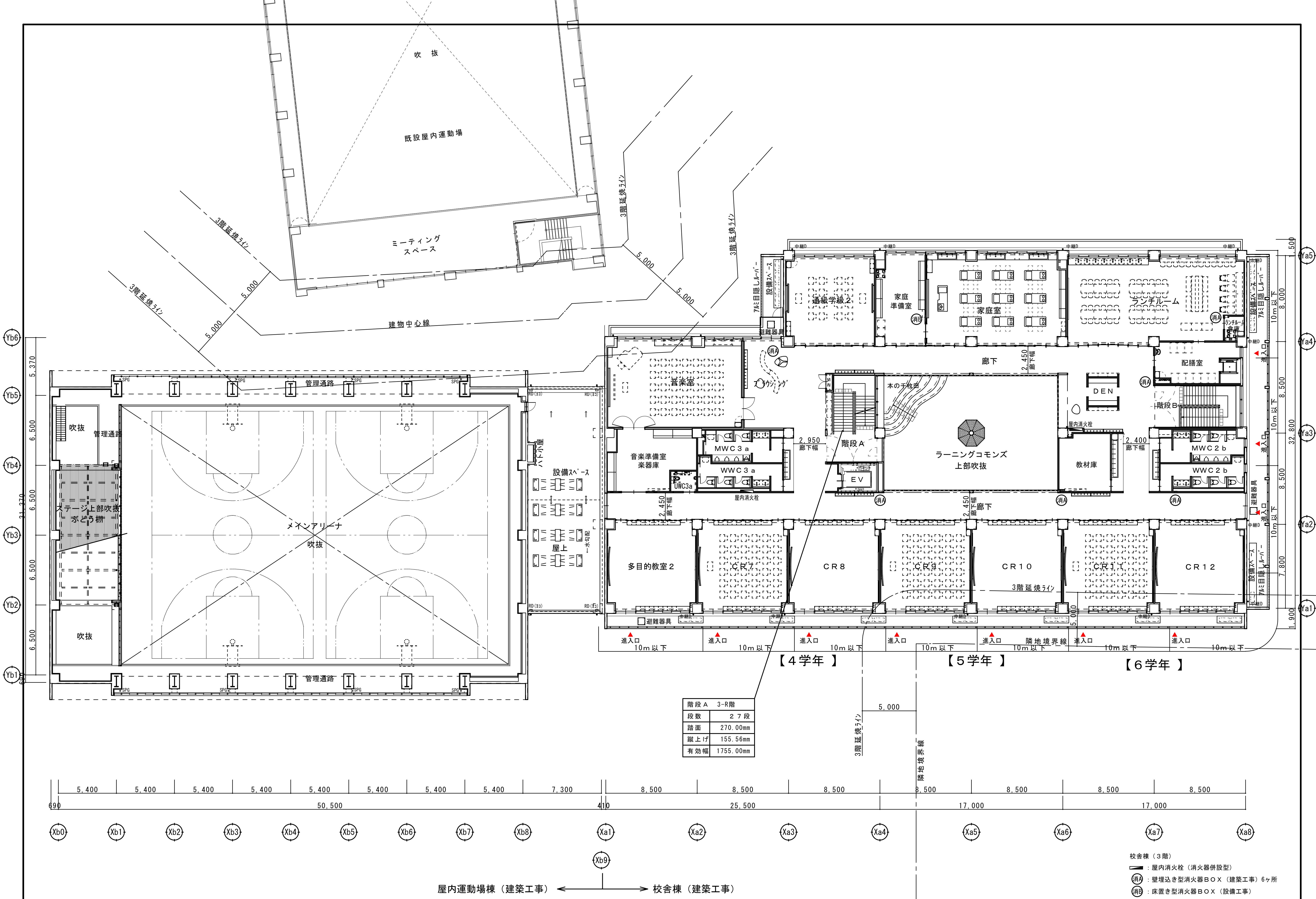
階段Ｂ　2-3階	
段数	２６段
踏面	270.00mm
蹴上げ	153.85mm
有効幅	1755.00mm

屋内運動場棟（２階）
▬：屋内消火栓（消火器併設型）
消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）1ヶ所
消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

屋内運動場棟（建築工事）←→校舎棟（建築工事）

校舎棟（２階）
▬：屋内消火栓（消火器併設型）
消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）5ヶ所
消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	２階平面図（全体）	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A －b09 B －b09

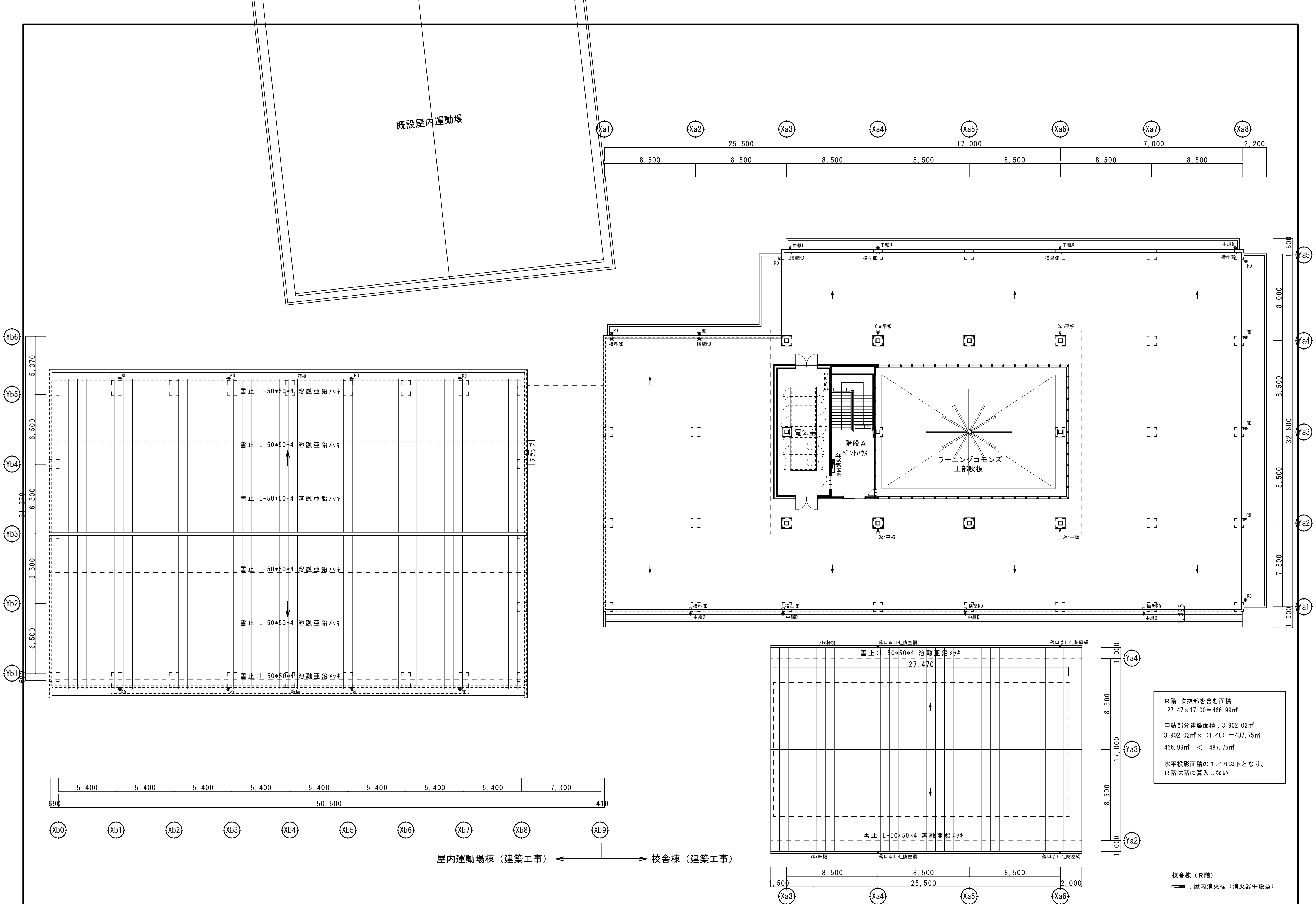


階段Ａ　3-R階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.56mm
有効幅	1755.00mm

屋内運動場棟（建築工事） ← → 校舎棟（建築工事）

校舎棟（３階）
- ：屋内消火栓（消火器併設型）
- 消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）6ヶ所
- 消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO.	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	３階平面図（全体）	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A －b10 B －b10
125280											



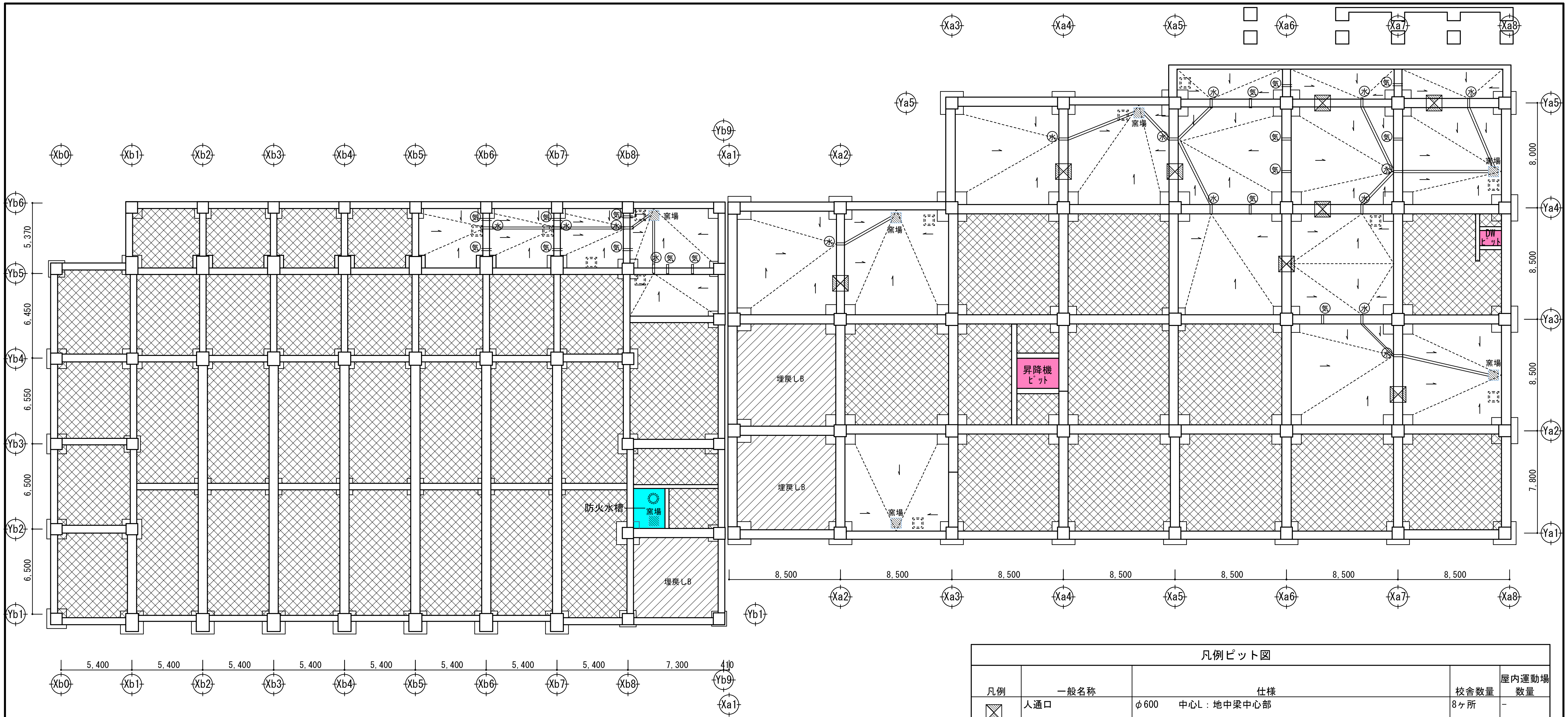
R階 吹抜部を含む面積
27.47×17.00＝466.99㎡

申請部分建築面積：3,902.02㎡
3,902.02㎡×（1／8）＝487.75㎡
466.99㎡　＜　487.75㎡

水平投影面積の１／８以下となり、
R階は階に算入しない

校舎棟（R階）
▭：屋内消火栓（消火器併設型）

JOB NO.							
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 R階平面図（全体）	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A －b11 B －b11



凡例ピット図

凡例	一般名称	仕様	校舎数量	屋内運動場数量
☒	人通口	φ600　　中心L：地中梁中心部	8ヶ所	−
⓪═	連通管	VPφ100　中心L：1FL−1850	11ヶ所	4ヶ所
⓪═	通気管	VPφ100　中心L：地中梁中心部	8ヶ所	8ヶ所
▨	窯場	（500×500×H500）防水モルタル	5ヶ所	2ヶ所
⬚	上部：床下点検口	（600×600）（防臭・防水・鍵付）タラップ４段共	7ヶ所	5ヶ所
◌	上部：マンホール	（φ600）（防臭・防水・鍵付）水槽を除き、タラップ４段共	−	1ヶ所
	配管ピット 排水勾配0.25%	床L：1FL−1900、床：t120土間スラブ、壁：コンクリート打放し 断熱：屋内床に面するスラブ裏：t30ポリスチレン３種ｂ打ち込み 土・外気に面する壁：t30現場発泡ウレタン吹付		
🟪	昇降機ピット	EVピット床L：1FL−1250、DWピット床L：1FL−700 床壁共：コンクリート打放補修、無機質浸透性塗布防水		
🟦	防火水槽	床L：1FL−1900 床壁5面：t1.5塩ビシート防水		
▩	埋戻しA	ｔ30発泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ敷込み＋ｔ0.15防湿ｼｰﾄ		
▧	埋戻しB	ｔ0.15防湿ｼｰﾄ		

※タラップ：SUSφ22打込み式タラップ、200＊400

JOB NO.	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	ピット図（全体）	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A − b12 B − b12
125280											

外部仕上表

A	屋上	改質アスファルトシート防水　AS-T1	L	手摺	St.FB12×40加工 溶融亜鉛メッキ
B	屋根	t0.5ハイレタンSGL鋼板立平葺き（勘合式）	M	軒裏	t12.0×ｗ105アテ板（能登ヒバ）目透かし張り＋ＷＰ 下地：スギ野縁ｔ15×ｗ57@230
C	屋根	t0.5ハイレタンSGL鋼板立平葺き（勘合式）	N	屋外階段	鉄部　溶融亜鉛メッキ（屋内運動場棟）
D	外壁	コンクリート打放し＋複層塗材ＲＥ吹付	O	竪樋	アルミ製竪樋　Φ114（バンドレスタイプ）シルバー
E	外壁	コンクリート打放し＋DP塗装	P	軒樋	アルミ製　１２型（校舎棟Ｒ階　屋根）
G	笠木	アルミ押出型材　シルバー（市場品）	Q	外壁	t60押出成形セメント板+複層塗装材RE吹付
H	柱型	コンクリート打放し＋ＤＰ塗	R	幕板	t2.0アルミパネル（シルバー）t4.0グライト裏打
I	柱型	スチール+耐火シート張り			
J	ルーバー	木調アルミルーバー　50*50@150			
K	手摺	木調アルミ手摺			

【その他　共通事項】
水回り：t12.5GB-R+9.5GB-S
ガラス　アルミサッシ：
ペアガラス　建具図による

【断熱】
外壁裏：t30現場発泡ｳﾚﾀﾝ吹付
ｽﾗﾌﾞ裏：t30現場発泡ｳﾚﾀﾝ吹付

内部下地　外壁側：t12.5GB-R
内部下地　界壁部：t12.5+9.5GB-R（2重張り）両面

共通事項

（不燃材）
柱・梁：鉄骨「建告第1400号」

GB-R(12.5)	：不燃	NM-8619	国交省HP記載
GB-F(12.5)	：不燃	NM-8615	国交省HP記載
GB-NC(9.5)	：不燃	NM-0441	国交省HP記載
GB-R-H(9.5)	：不燃	NM-9645	国交省HP記載
GB-D(9.5)	：不燃	NM-1864	国交省HP記載
KB	：不燃	NM-8578	国交省HP記載
化粧KB	：不燃	NM-8577	国交省HP記載
AT	：不燃	NM-8599	国交省HP記載
GB-S(12.5)	：不燃	NM-9639	国交省HP記載
ECP(60)	：不燃	NM-9259	国交省HP記載
EPG/EP	：不燃	NM-8585	国交省HP記載
t9.5吸音PB	：不燃	NM-0879	国交省HP記載

（準不燃材）

GB-R(9.5)	：準不燃	QM-9828	国交省HP記載
GB-S	：準不燃	QM-0898	国交省HP記載

（耐火間仕切壁：面積区画）
GB-F(12.5)+GB-R-H(9.5)　両面張り(LGS下地)：
　１時間耐火　FP060NP-0199　国交省HP記載
（耐火間仕切壁：防火上主要な間仕切）
GB-F(12.5)+GB-R-H(9.5)　両面張り(LGS下地)：
　１時間耐火　FP060NP-0199　国交省HP記載

※ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板	不燃NM-8599
※ﾛｯｸｳｰﾙ保温材	不燃NM-8600
※ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	不燃NM-8605
※ｸﾞﾗｽｳｰﾙｶﾞﾗｽｸﾛｽ額縁貼り	不燃NM-8606
※ｸﾛｽ　防火１級	不燃NM-0532、NM-0391
※ｸﾛｽ　防火２級	準不燃QM-9440、QM-9411
※ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞﾌｨﾙﾑ	不燃NM-2394
※木目ｼｰﾄ貼り（横）	不燃PB下地NM-1431
※化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	不燃材認定品ﾄｽﾙ
※無石綿硅酸ｶﾙｼｳﾑ板	不燃材認定品ﾄｽﾙ
※t12ﾊﾟﾙﾌﾟ繊維混入ｾﾒﾝﾄ板	不燃 NM-3010
※t9.5 ﾆｭｰﾀｲｶﾞｰﾄﾝ	不燃NM-5430
※ﾓｰｴﾝ3	不燃NM-5152

※天井下地ﾊ　特記ﾅｷ限ﾘ　軽鉄下地ﾄｼ
　内部19形　外部25形ﾄｽﾙ
※壁軽鉄下地ﾊ　特記ﾅｷ限ﾘ　65形ﾄｽﾙ
※特記ﾅｷ限ﾘ内部仕上・塗料・建具・造付家具等ﾊ
　Ｆ☆☆☆☆以上ﾄｽﾙ
※特記ﾅｷ限ﾘ天井裏等の使用材料ﾊ
　Ｆ☆☆☆以上ﾄｽﾙ
※法37条に定める指定建築材料はJIS、JASに
　適合するものとする

柱　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第2.第1号(イ)
梁　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第4.第1号(イ)
外壁　：一部t60ECPﾀﾃ張　FP060NE-9037　国交省HP記載
　ECP 耐火1h
屋根　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第5.第1号
床　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第3.第1号(イ)

屋根30分耐火構造：一部耐火野地板
　鉄骨耐火被覆（ｔ25ロックウール吹付耐火被覆）
　柱1時間耐火：FP060CN-9460（CD登載）
　梁1時間耐火：FP060BM-9408（CD登載）

　一部：耐火シート張り：FP060CN-0009（CD登載）

校舎棟
内部仕上表

■下地
C　：ｺﾝｸﾘｰﾄ
CB　：ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ
LGS　：軽量鉄骨
W　：木下地
2W　：二重床
WF　：木組床下地
NF　：ﾈﾀﾞﾌｫｰﾑ
SL　：ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ

■仕上
VS　：長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ
VT　：ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ
CF　：ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱｰ
CP　：ｶｰﾍﾟｯﾄ
CPT　：ｶｰﾍﾟｯﾄﾀｲﾙ
F　：ﾌｪﾙﾄ
VF　：ﾋﾞﾆｰﾙ巾木
HF　：硬質樹脂巾木
RF　：ﾚﾝｼﾞﾃﾗｿﾞｰ巾木
WF　：木製巾木
M　：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ
GB-R　：石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-F　：強化石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-S　：ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-RH　：硬質石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-NC　：不燃積層石膏ﾎﾞｰﾄﾞ
GB-D　：化粧石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
FB　：ﾌﾚｼｷﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ
C　：ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ
KB　：硅酸ｶﾙｼｳﾑ板
PB(杉)　：杉柾化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ
AT　：岩綿吸音板
WB　：練付合板
GT　：磁器質ﾀｲﾙ
TT　：陶器質ﾀｲﾙ
TB　：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ
TP　：内部用吹付ﾀｲﾙ

■塗料
SOP　：合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ
VEP　：ﾋﾞﾆﾙ系ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
AEP　：ｱｸﾘﾙ系ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
EPG　：つや有ｱｸﾘﾙ系ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
FP　：ﾌﾀﾙ酸樹脂ｴﾅﾒﾙﾍﾟｲﾝﾄ
AP　：ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙﾍﾟｲﾝﾄ
PW　：ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂
LE　：ﾗｰｶｰｴﾅﾒﾙ
CL　：着色ｸﾘｱｰﾗｯｶｰ
PUC　：ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｸﾘｱ
OSW　：ｵｲﾙｽﾃｲﾝﾜｯｸｽ
OSCL　：ｵｲﾙｽﾃｲﾝｸﾘｱｰﾗｯｶｰ
FE　：ﾌﾀﾙ酸樹脂ｴﾅﾒﾙ
WP　：木材保護塗料
DP　：耐候性塗料

■廻縁
E　：塩ﾋﾞ製
A　：ｱﾙﾐ製
W　：木製

■ｶｰﾃﾝBOX
W　：木製
S　：鋼製

■ｶｰﾃﾝ
VB　：ﾀﾃ型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ
BB　：ﾖｺ型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ
L　：ﾚｰｽｶｰﾃﾝ
D　：ﾄﾞﾚｰﾌﾟｶｰﾃﾝ
K　：ｹｰｽﾒﾝﾄｶｰﾃﾝ
R　：ﾛｰﾙｽｸﾘｰﾝ
S　：ｼｪｰﾄﾞｶｰﾃﾝ

室名	床			幅木		壁				天井		廻縁	H	ｶｰﾃﾝBOX	ｶｰﾃﾝﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ	ｻｲﾝ	備考
	仕上	ﾚﾍﾞﾙFL±0	下地	材料	H	仕上	外壁断熱	下地	間仕切壁ｽﾗﾌﾞ下まで	仕上	下地						
1階																	
昇降口	50角モザイクタイル	-100 ～ -75	C+ ﾓﾙﾀﾙ	50角 ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ	100	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3075~3100				下足棚、手洗い、掃除具入、SUS上框
ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000				カウンター 掃除具入
廊下(北東南)、通用廊下	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：クロス張り（不燃） 一部腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000				
教育相談室１・２	ｔ6.5カーペットタイル 教育相談室１一部：50角モザイクタイル	±0 、 -100	ﾓﾙﾀﾙ C+SL	ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ5.5シナ合板+ＷＰ	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2700	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	ホワイトボート 掃除具入
事務室	ＯＡフロア（H100）＋ ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	カウンター 掃除具入
職員室	ＯＡフロア（H100）＋ ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	窓下収納 上下式予定白板
給湯室・リフレッシュコーナー	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ5.5シナ合板+ＷＰ	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D		手洗いカウンター、システムキッチン、カウンター、鏡（設備工事）
印刷室	ｔ2.5VS	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	オープン棚 掃除具入 吊棚
校長室	ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000,3400	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	手洗いカウンター 窓下収納、鏡（設備工事）
特別活動会議室	ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	S+ SOP	暗幕 ｶｰﾃﾝ	室名 ｻｲﾝ	昇降式曲面黒板、スクリーン、スクリーンBOX
特別活動倉庫	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2700			室名 ｻｲﾝ	掃除具入
放送室	ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	t8.0有孔ケイカル板（不燃）＋EPG塗		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000		暗幕 ｶｰﾃﾝ ｸﾛﾏｷｰ ｶｰﾃﾝ	室名 ｻｲﾝ	掃除具入
職員更衣（W）（M）	ｔ2.5塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄ ｻｲﾝ	手洗いカウンター、姿見鏡、鏡（設備工事）
教員WC（M）（W）	ｔ2.0長尺塩ビシート（消臭） 汚垂石(TOTOハイドロセラ・フロアPU薄型同等品)	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：ｔ6.0化粧ケイカル板張り（不燃）		LGS 65		ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄ ｻｲﾝ	手洗いカウンター、鏡（設備工事）、プライベートBox（W）
相談室	ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	クロス張り（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			室名 ｻｲﾝ	
保健室	ｔ15.0複合フローリング直張り 一部：50角モザイクタイル張り	-100 ±0	ﾓﾙﾀﾙ C+SL	ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ WF+WP	150 60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ5.5シナ合板+ＷＰ	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D 仕切り ｶｰﾃﾝ	室名 ｻｲﾝ	折りたたみベット、ベッドサイド収納 薬品収納戸棚、資料収納戸棚、大型器具収納棚 流し台

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳		設計	・　・	標題	仕上表　1	縮尺	N.S.	図番	Ａ－b13

室名	床			幅木		壁				天井		廻縁	H	カーテンBOX	カーテンブラインド	サイン	備考
	仕上	レベル FL±0	下地	材料	H	仕上	外壁断熱	下地	間仕切壁スラブ下まで	仕上	下地						
保健相談室	t6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	クロス張り（不燃）		LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			室名サイン	
保健前室	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65		t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2700				洗濯機パン(設備工事) ユニットシャワー(本工事)
保健WC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			ピクトサイン	
だれでもトイレABC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700			ピクトサイン	ベビーチェア・手すり・おむつ交換台(設備工事)
ゴミステーション	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	●	C LGS 65		t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	3000				掃除具入
倉庫	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2700			室名サイン	
給食事務休憩室・更衣室	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	クロス張り（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2700	W+ WP	L･D	室名サイン	ミニキッチン
給食更衣室	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	クロス張り（不燃）	●	LGS 65		t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2300				
給食前室１	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65		t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600				洗濯機パン(設備工事) 手洗い・鏡(設備工事)
給食WC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り		C LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2600			ピクトサイン	手洗い・鏡(設備工事)
給食検収室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	各厨房設備（移設・設備工事） 手洗い・鏡(設備工事)
給食下処理室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	各厨房設備（移設・設備工事） 受渡しハッチ 手洗い・鏡（設備工事）
給食前室２	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65		t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600				手洗い・鏡(設備工事) くつ入れ
給食調理室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	各厨房設備（移設・設備工事） 手洗い・鏡・SUSフード(設備工事)
給食食品庫	t2.0長尺塩ビシート	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65		t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	ラック（移設・設備工事） 受渡しハッチ
給食物品庫	t2.0長尺塩ビシート	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65		t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	ラック（移設・設備工事）
給食配膳室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	各厨房設備（移設・設備工事） 手洗い・鏡・洗濯機パン(設備工事)
給食洗浄室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	±0	t200シンダーC	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	t6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2600			室名サイン	各厨房設備（移設・設備工事） 手洗い・鏡・SUSフード(設備工事)
外部WC(M)(W)	50角モザイクタイル 汚垂石(TOTOハイドロセラ・フロアPU薄型同等品)	-100	C+ モルタル	モザイクタイル	150	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			ピクトサイン	手洗いカウンター・鏡（設備工事）
2階																	
ラーニングコモンズ	t6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り・シナ合板+ＣＬ 腰壁：t15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	10900				カウンター 湾曲大型本架、壁面書架、床置中書架
通級学級１	t15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名サイン	曲面黒板、児童ロッカー 掃除具入
図工室	t15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	100	木下地+t5.5有孔シナ合板+ＷＰ	●	C LGS 65	●	躯体現し、一部t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	C LGS	E	2800~3795	W+ WP	L･D	室名サイン	上下式黒板、教師棚、ステンレスシンク 作業台、掃除具入
図工準備室	t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名サイン	大型収納棚
理科室	t2.5長尺塩ビシート(耐薬品)	±0	C+SL	VF	60	t6.0ケイカル板+ＧＥＰ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名サイン	上下白板、教師用実験台、生徒用実験台、ステンレスシンク、教師棚、掃除具入、作業台カウンター
理科準備室	t2.5長尺塩ビシート(耐薬品)	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2800	S+ SOP	L･D	室名サイン	ステンレスシンク、大型収納棚 洗濯機パン(設備工事)
特支廊下	t15.0複合フローリング直張り 一部、t2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）			●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	S+ SOP	L･D	室名サイン	ステンレスシンク、掃除具入
特別支援学級1-4	t15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 75	●	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名サイン	昇降式曲面黒板 児童ロッカー 教師棚

JOB NO. 125280　2026 年 月　中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

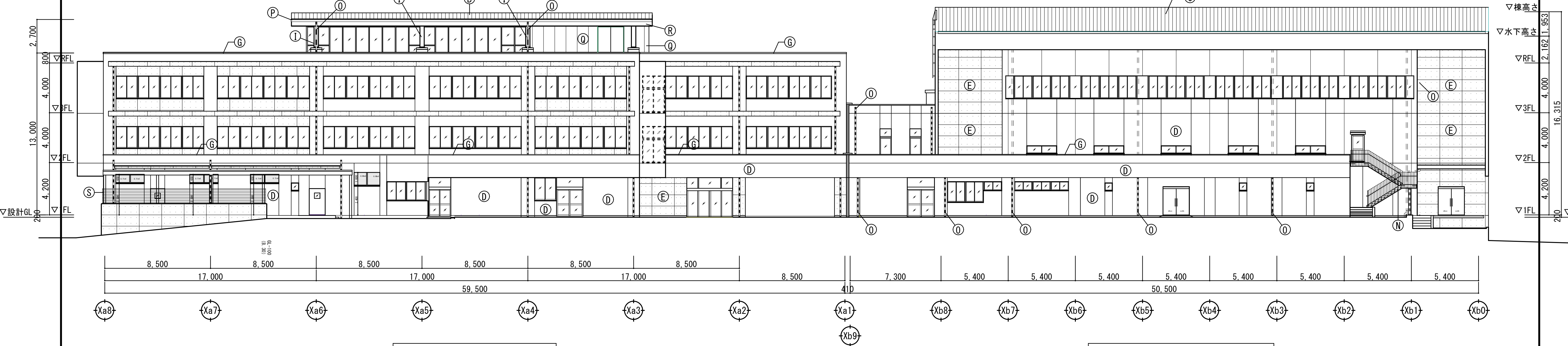
設計　・　・　標題　仕上表　２　縮尺　N.S.　図番　Ａ－b14

室名	床			幅　木		壁				天　井		廻縁	H	ｶｰﾃﾝ BOX	ｶｰﾃﾝ ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ	ｻｲﾝ	備　考
	仕　上	ﾚﾍﾞﾙ FL±0	下地	材　料	H	仕　上	外壁断熱	下地	間仕切壁ｽﾗﾌﾞ下まで	仕　上	下地						
支援学級UWC	ｔ2.0長尺塩ビシート （消臭）	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：ｔ6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄ ｻｲﾝ	
脱衣室	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：ｔ6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄ ｻｲﾝ	ユニットシャワー、洗濯機パン(設備工事)
教材庫	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2700			室名 ｻｲﾝ	
書庫	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2700				ホワイトボード 壁面高書架
3階																	
通級学級２	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 75	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	曲面黒板、児童ロッカー、 掃除具入
ブラウジングコーナー	ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	60	木下地+ｔ5.5有孔シナ合板+ＷＰ	●	C LGS 65		ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2950	W+ WP	L･D		書架
音楽室	ｔ6.5カーペットタイル	±0	C+SL	WF+WP	100	木下地+ｔ5.5有孔シナ合板+ＷＰ	●	C LGS 100	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	上下白板（五線譜入り）、教師棚、ステンレスシンク 掃除具入、スクリーン、スクリーンＢＯＸ
音楽室準備室	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	3000			室名 ｻｲﾝ	大型収納棚
家庭準備室	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	LGS 65		ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･ 暗幕	室名 ｻｲﾝ	ステンレスシンク、掃除具入 、大型収納棚
家庭室	ｔ2.5長尺塩ビシート（木調）	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･ 暗幕	室名 ｻｲﾝ	教師用調理台、生徒用調理台、ステンレスシンク 掃除具入、大型収納棚
ランチルーム	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	3000	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	ステンレスシンク、掃除具入 スクリーン、スクリーンＢＯＸ
ランチルーム倉庫	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	WF+WP	60	ＥＰＧ塗　（不燃）	●	LGS 65	●	ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	3000			室名 ｻｲﾝ	洗濯機パン(設備工事)、掃除具入
配膳室	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ｔ6.0ケイカル板+ＧＥＰ塗　（不燃）	●	LGS 65	●	ｔ6.0ケイカル板（V目地）+ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2700			室名 ｻｲﾝ	手洗い 掃除具入
教材庫	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ＥＰＧ塗　（不燃）		LGS 65		ｔ9.5化粧石膏ボート（不燃）	LGS	E	2700			室名 ｻｲﾝ	
R階																	
電気室	防塵塗装	+165				t50グラスウールマット(24kg/m3充填)				t50グラスウールマット（不燃）			図示				
共通																	
階段A	ｔ15.0複合フローリング直張り 踏面ｔ30ナラ集成材＋ＰＵＣ 蹴上ｔ18ナラ集成材＋ＰＵＣ		S+ ﾓﾙﾀﾙ	鉄部+SOP		上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E					手摺
階段B	ｔ15.0複合フローリング直張り 踏面ｔ30ナラ集成材＋ＰＵＣ 蹴上ｔ18ナラ集成材＋ＰＵＣ		S+ ﾓﾙﾀﾙ	鉄部+SOP		上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E					手摺
2-3階廊下(北東南西)	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2950				手洗い、書架、掃除具入
多目的教室	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 75	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	昇降式曲面黒板、平面黒板、児童ロッカー、教師棚 掃除具入、コート・体操着掛け、背面黒板
CR1 - 12	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	C+SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C LGS 75	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2800	W+ WP	L･D	室名 ｻｲﾝ	昇降式曲面黒板、平面黒板、児童ロッカー、教師棚 掃除具入、コート・体操着掛け、背面黒板
UWC	ｔ2.0長尺塩ビシート （消臭）	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：ｔ6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄ ｻｲﾝ	バリアフリートイレパック
WC_a・b(M)(W)	ｔ2.0長尺塩ビシート（消臭）	±0	C+SL	VF	60	上壁：ＥＰＧ塗　（不燃） 腰壁：ｔ6.0化粧ケイカル板張り		LGS 65	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0AT（不燃）	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄ ｻｲﾝ	手洗いカウンター・化粧鏡、姿見鏡
2-3階配膳室	ｔ2.5長尺塩ビシート	±0	C+SL	VF	60	ｔ6.0ケイカル板+ＥＰＧ塗　（不燃）	●	C LGS 65	●	ｔ6.0ケイカル板（V目地）+ ＥＰＧ塗（不燃）	LGS	E	2700			室名 ｻｲﾝ	手洗い 掃除具入

JOB NO.								
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題　仕上表　3	縮尺　N.S.	図番　Ａ－b15

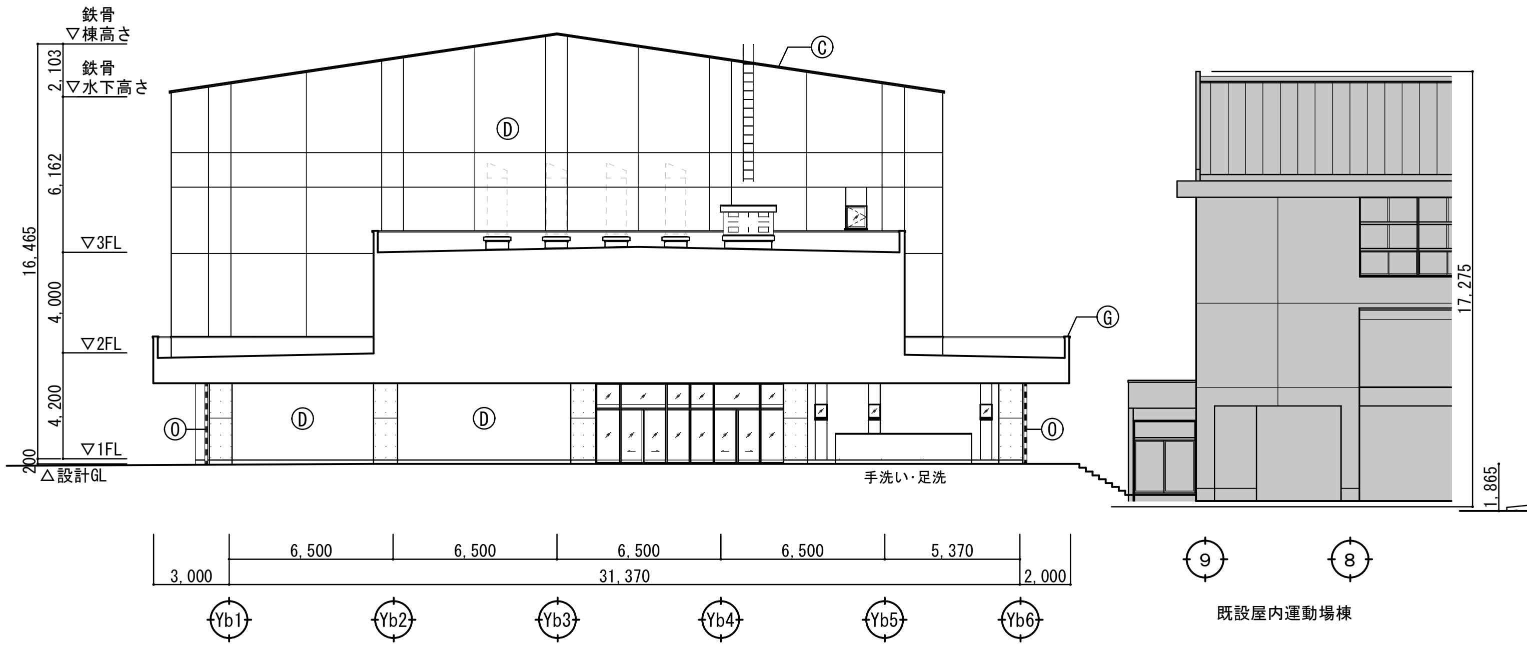
Ⓐ	屋上	改質アスファルトシート防水ＡＳ－Ｔ１
Ⓑ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）0.5寸
Ⓒ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）1.5寸
Ⓓ	外壁	コンクリート打放し＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓔ	外壁	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓕ	水切り	アルミシルバー
Ⓖ	笠木	アルミ押出型材　シルバー（市場品）
Ⓗ	柱型	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓘ	柱型	スチール＋耐火シート張り
Ⓙ	ルーバー	木調アルミルーバー　50*50@150

Ⓚ	手摺	木調アルミ手摺
Ⓛ	手摺	St.FB12×40加工 溶融亜鉛メッキ
Ⓝ	屋外階段	鉄部　溶融亜鉛メッキ
Ⓞ	竪樋	アルミ製竪樋　Φ114（バンドレスタイプ）シルバー
Ⓟ	軒樋	アルミ製　１２型
Ⓠ	外壁	ｔ60押出成形セメント板＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓡ	幕板	ｔ2.0アルミパネル（焼付塗装）ｔ4.0グライト裏打
Ⓢ	ｽｸﾘｰﾝ	H1600　アルミ製目隠しスクリーン

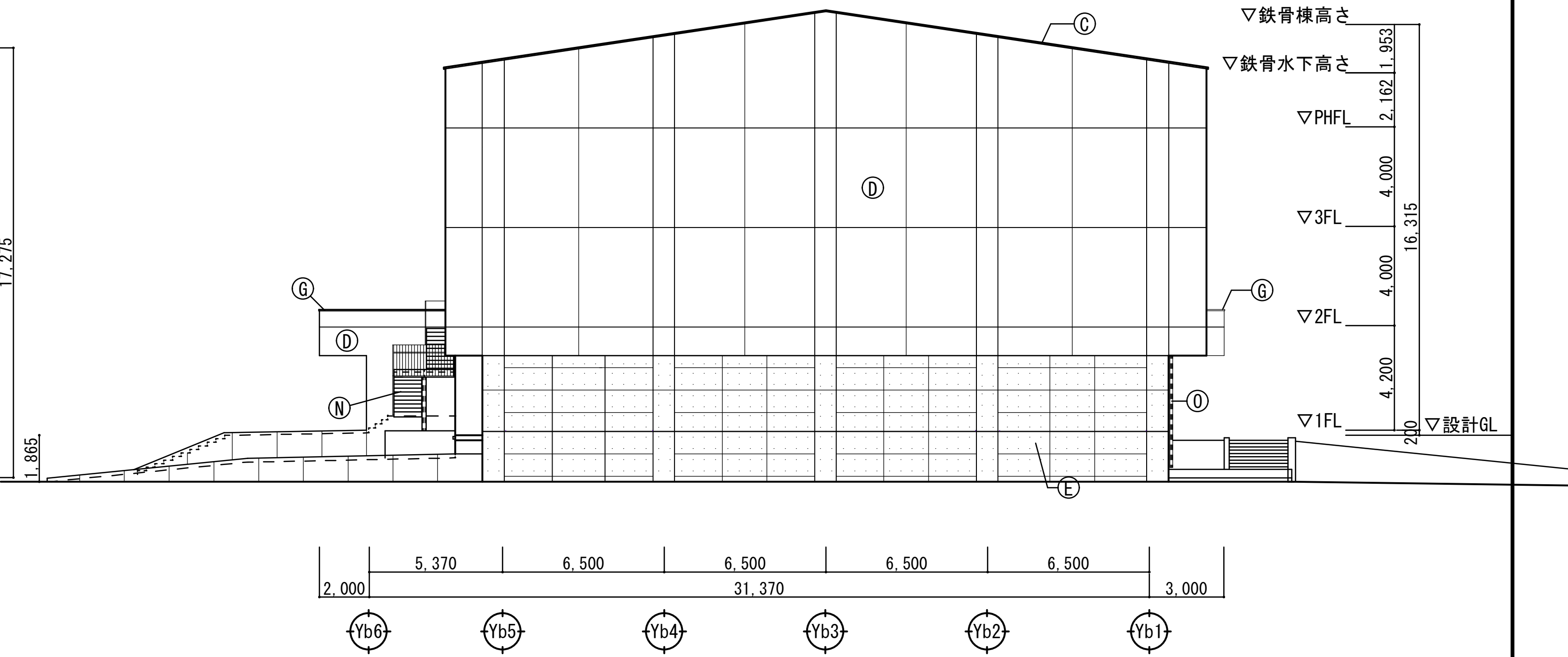


校舎棟　北側　立面図　s=1/150

屋内運動場棟　北側　立面図　s=1/150



屋内運動場棟　東側　立面図　s=1/150



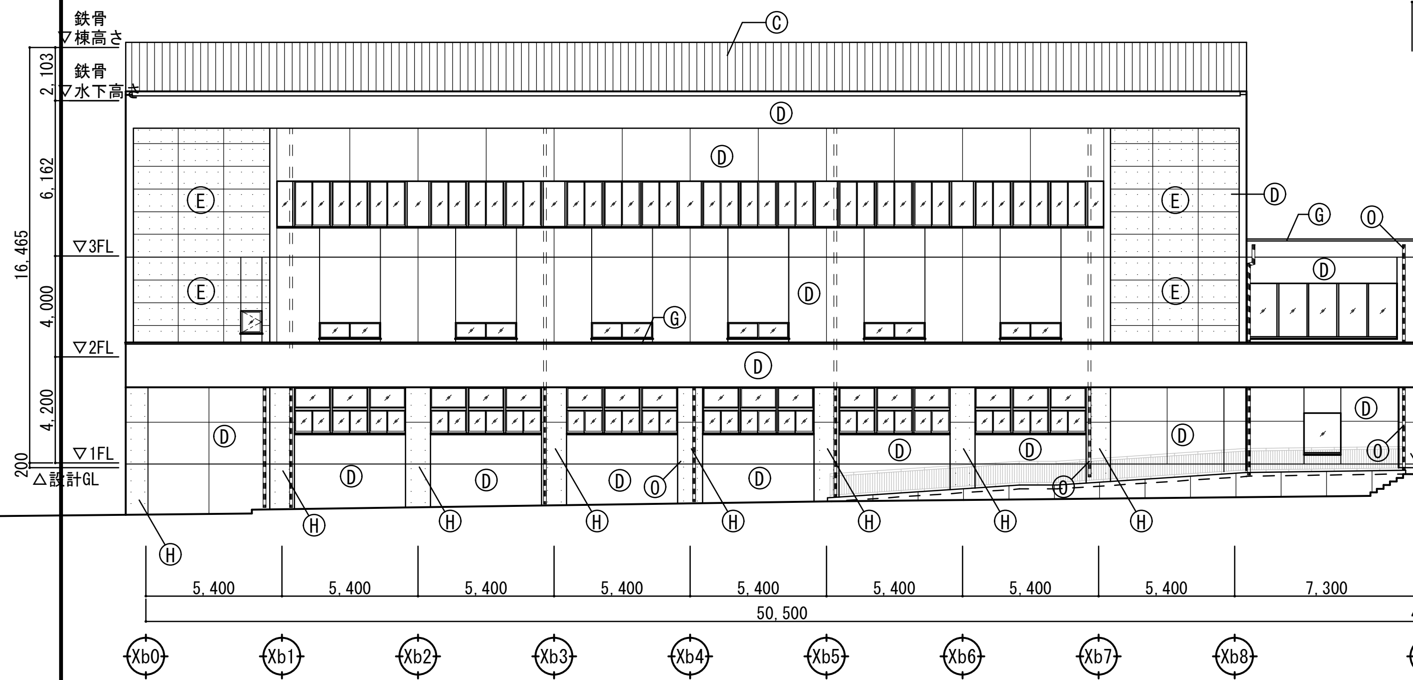
屋内運動場棟　西側　立面図　s=1/150

JOB NO.									
124135	2026　年　　月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	立面図（１）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100

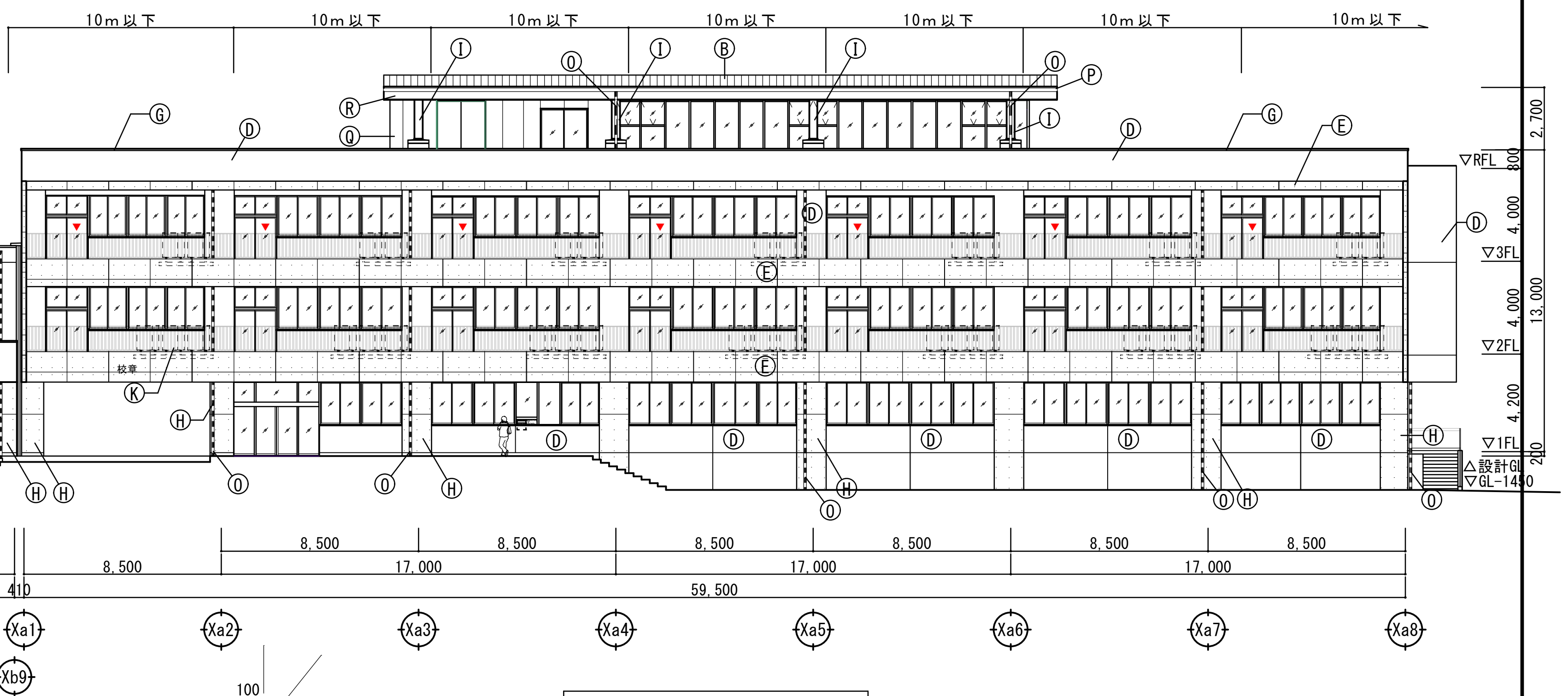
図番　A －b16　B －b15

Ⓐ	屋上	改質アスファルトシート防水ＡＳ－Ｔ１
Ⓑ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）0.5寸
Ⓒ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）1.5寸
Ⓓ	外壁	コンクリート打放し＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓔ	外壁	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓕ	水切り	アルミシルバー
Ⓖ	笠木	アルミ押出型材　シルバー（市場品）
Ⓗ	柱型	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓘ	柱型	スチール＋耐火シート張り
Ⓙ	ルーバー	木調アルミルーバー　50*50@150

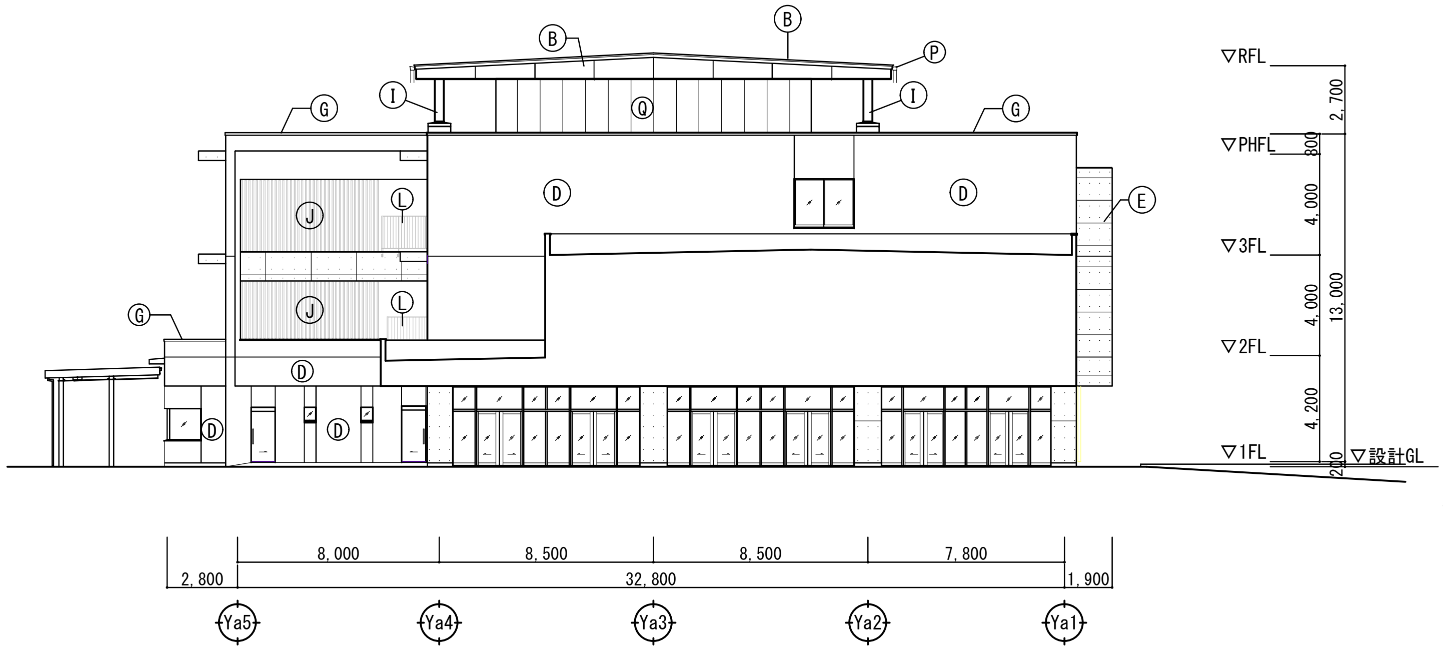
Ⓚ	手摺	木調アルミ手摺
Ⓛ	手摺	St.FB12×40加工 溶融亜鉛メッキ3
Ⓝ	屋外階段	鉄部　溶融亜鉛メッキ
Ⓞ	竪樋	アルミ製竪樋　Φ114（バンドレスタイプ）シルバー
Ⓟ	軒樋	アルミ製　１２型
Ⓠ	外壁	ｔ60押出成形セメント板＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓡ	幕板	ｔ2.0アルミパネル（焼付塗装）ｔ4.0グライト裏打
Ⓢ	ｽｸﾘｰﾝ	H1600　アルミ製目隠しスクリーン



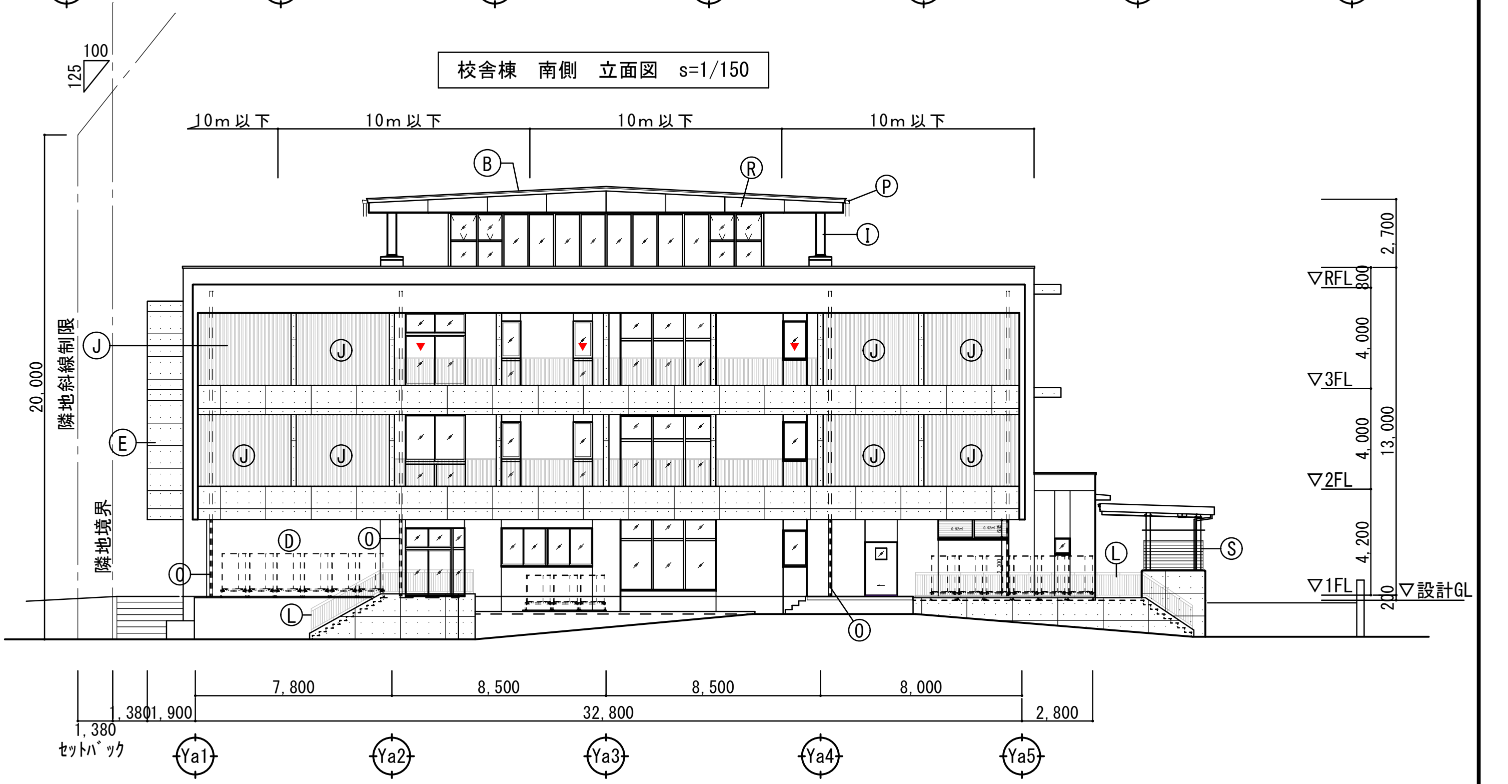
屋内運動場棟　南側　立面図　s=1/150



校舎棟　南側　立面図　s=1/150



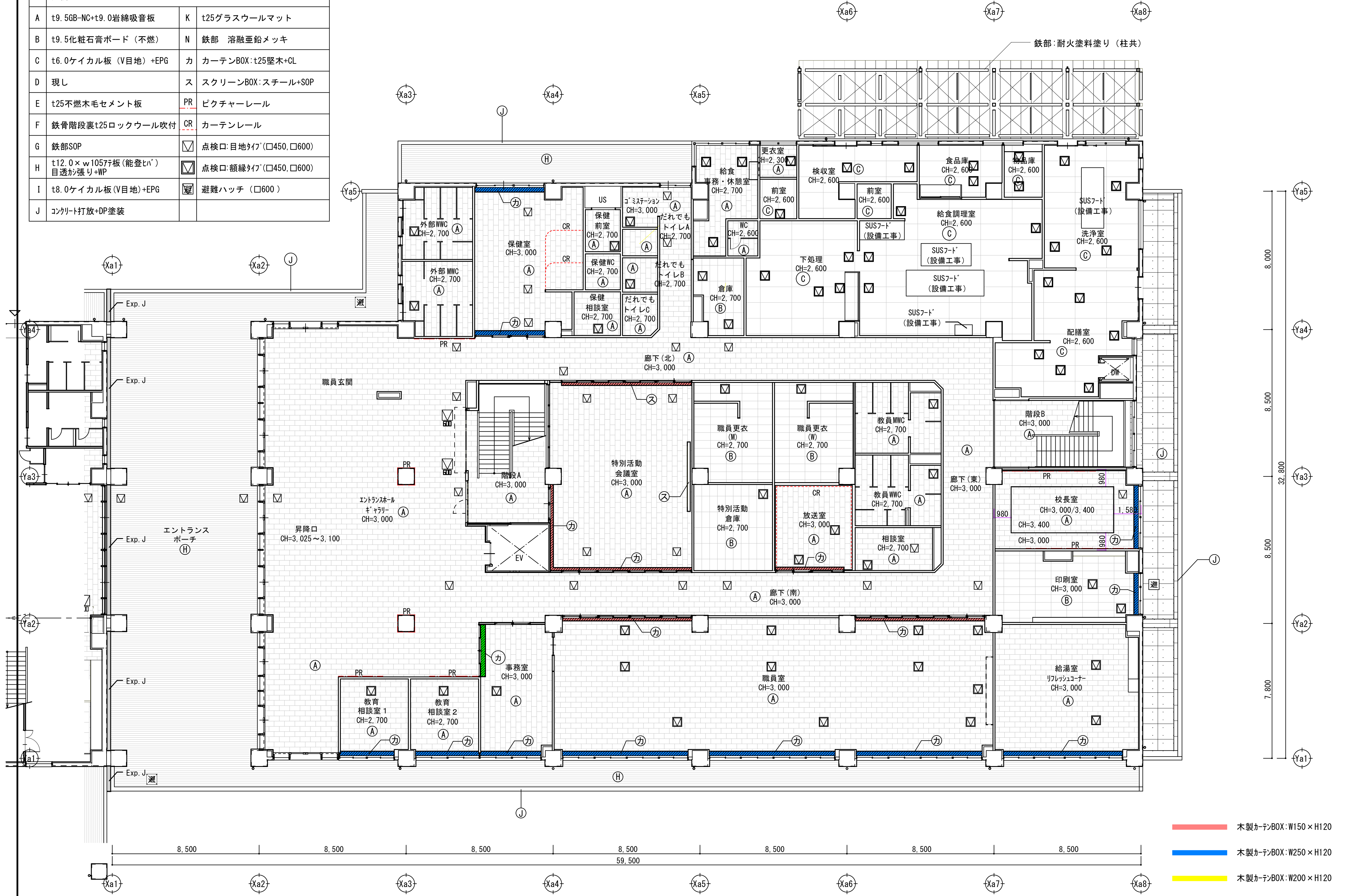
校舎棟　西側　立面図　s=1/150



校舎棟　東側　立面図　s=1/150

JOB NO.										
124135	2026 年 月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	立面図（２）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番 A－b17 B－b16

	凡例		
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板	K	t25グラスウールマット
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG	カ	カーテンBOX:t25堅木+CL
D	現し	ス	スクリーンBOX:スチール+SOP
E	t25不燃木毛セメント板	PR	ピクチャーレール
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付	CR	カーテンレール
G	鉄部SOP	▽	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
H	t12.0×w105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP	▽	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG	避	避難ハッチ（□600）
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装		



🟥 木製ｶｰﾃﾝBOX:W150×H120

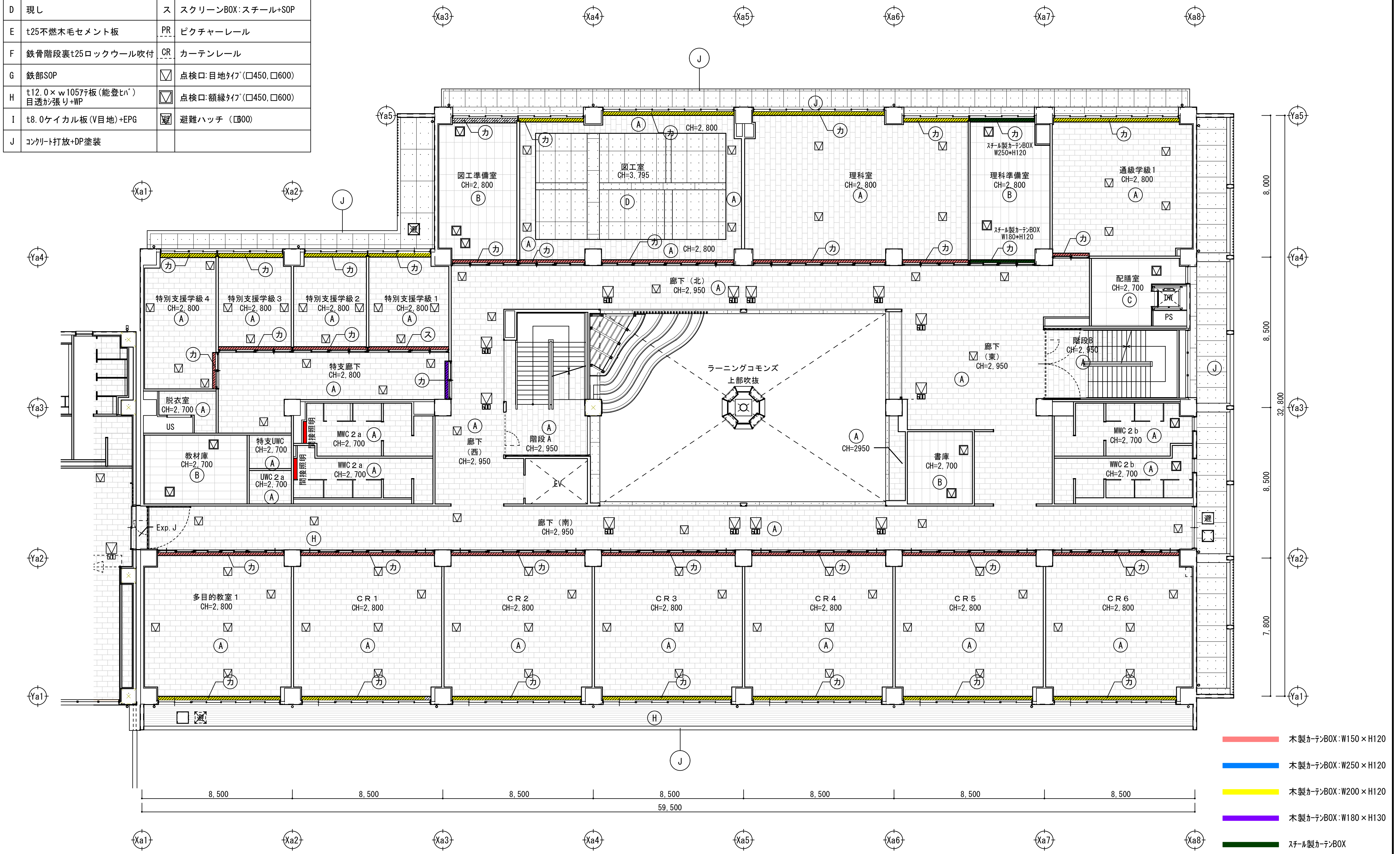
🟦 木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120

🟨 木製ｶｰﾃﾝBOX:W200×H120

🟩 木製ｶｰﾃﾝBOX:W255×H190　壁付コ型

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟_1階天井伏図	縮尺	A1=1:100 A3=1:200	図番	A －b18

	凡例		
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板	K	t25グラスウールマット
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG	カ	カーテンBOX:t25堅木+CL
D	現し	ス	スクリーンBOX:スチール+SOP
E	t25不燃木毛セメント板	PR	ピクチャーレール
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付	CR	カーテンレール
G	鉄部SOP	⍂	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
H	t12.0×w105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP	⍂	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG	避	避難ハッチ（□600)
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装		



🟥 木製ｶｰﾃﾝBOX:W150×H120

🟦 木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120

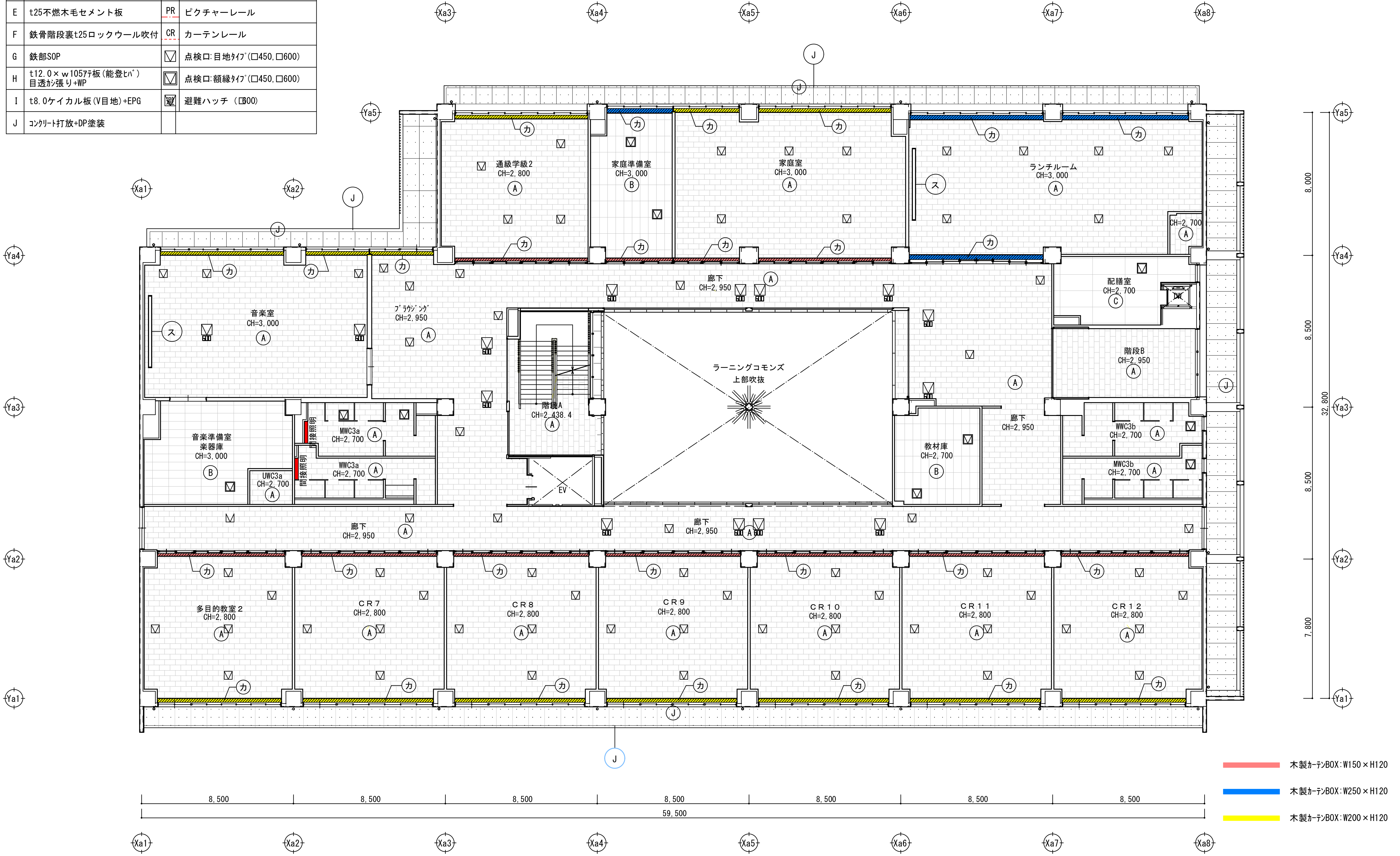
🟨 木製ｶｰﾃﾝBOX:W200×H120

🟪 木製ｶｰﾃﾝBOX:W180×H130

🟩 ｽﾁｰﾙ製ｶｰﾃﾝBOX

JOB NO.										
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟_2階天井伏図	縮尺 A1=1:100 A3=1:200	図番	A－b19

	凡例		
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板	K	t25グラスウールマット
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG	カ	カーテンBOX:t25堅木+CL
D	現し	ス	スクリーンBOX:スチール+SOP
E	t25不燃木毛セメント板	PR	ピクチャーレール
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付	CR	カーテンレール
G	鉄部SOP	⍔	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
H	t12.0×w105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP	⍔	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG	避	避難ハッチ（□600)
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装		

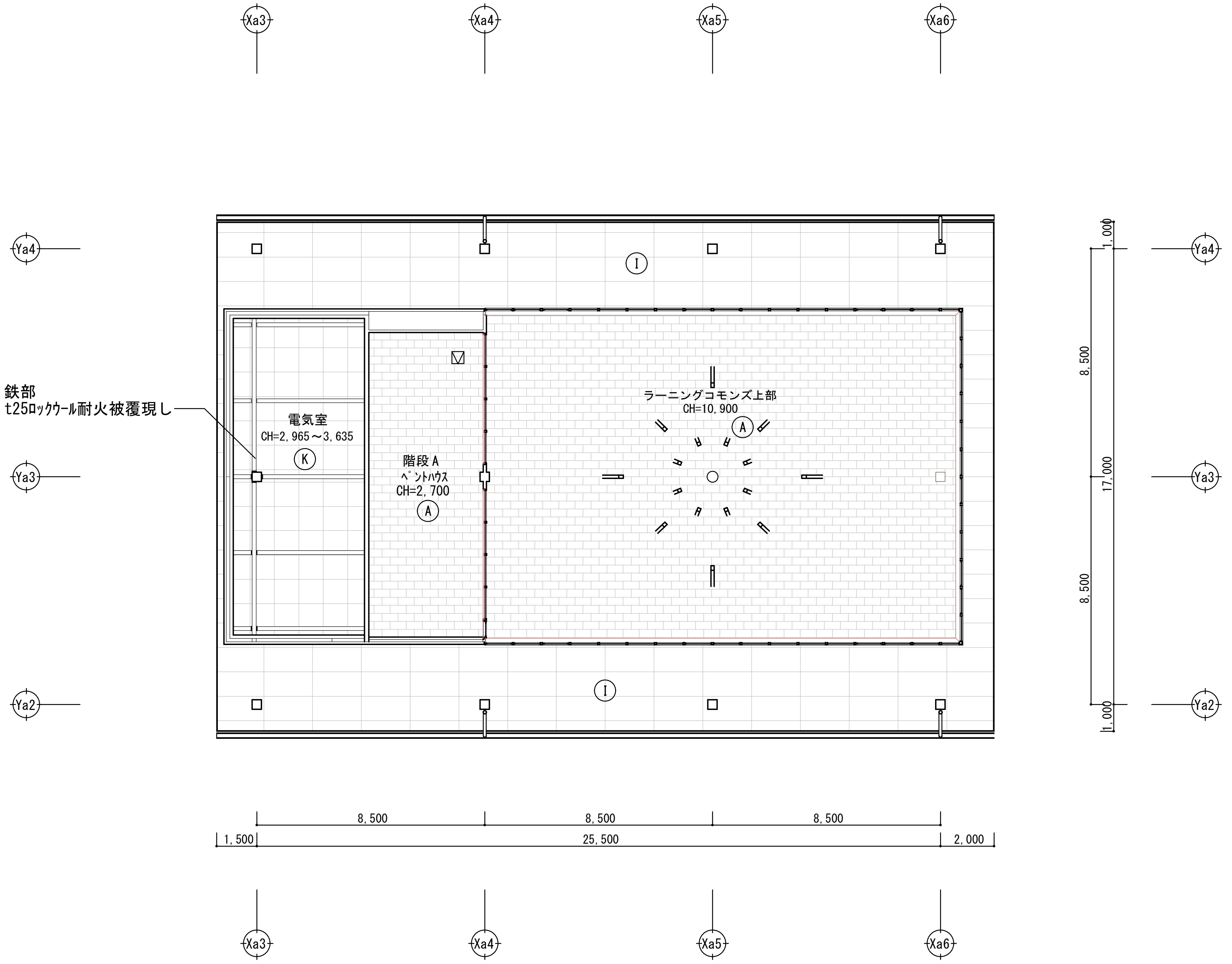


JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟_3階天井伏図	縮尺	A1=1:100 A3=1:200	図番	A－b20

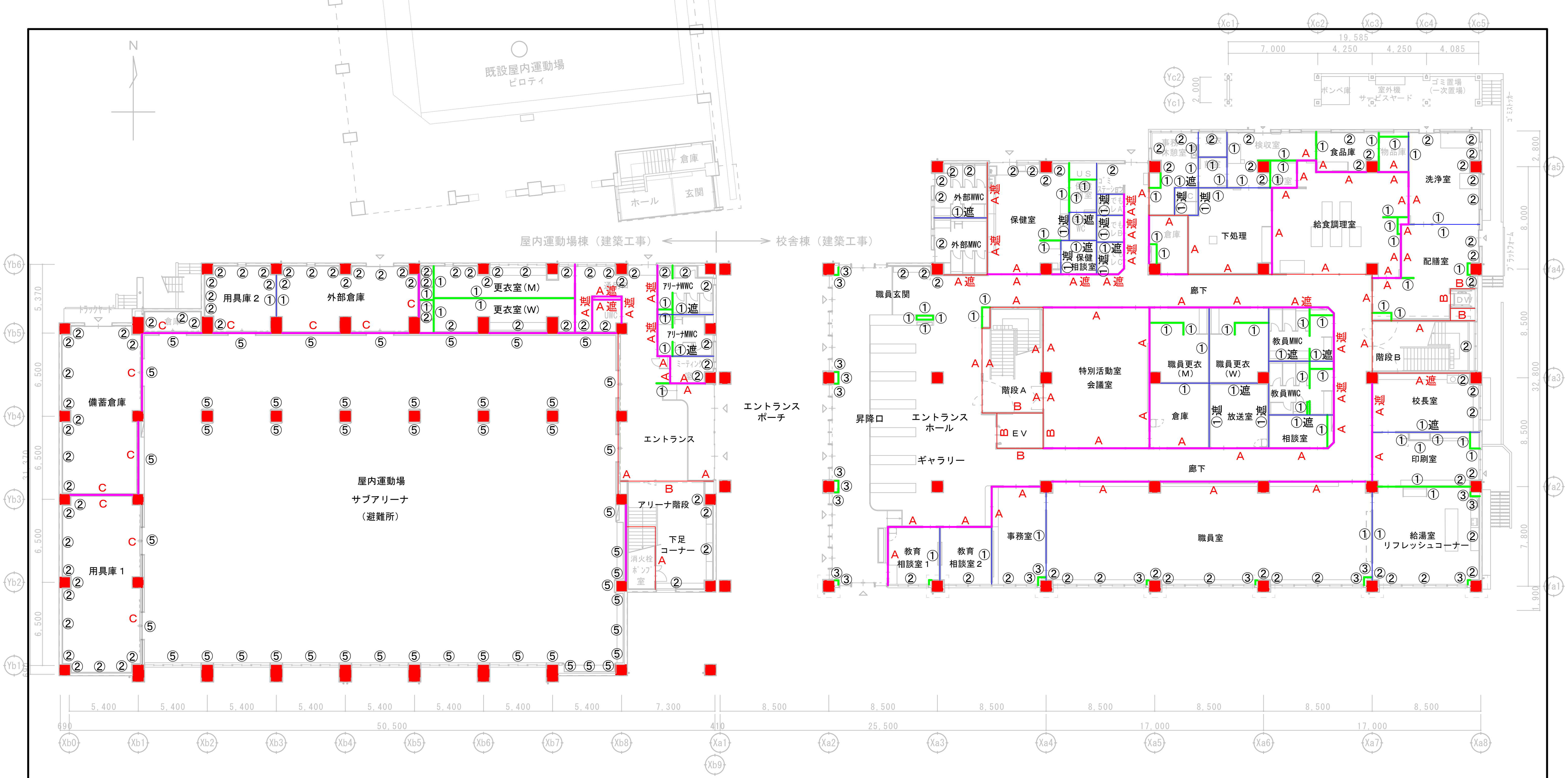
	凡例		
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板	K	t25グラスウールマット
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG	カ	カーテンBOX:t25堅木+CL
D	現し	ス	スクリーンBOX:スチール+SOP
E	t25不燃木毛セメント板	PR	ピクチャーレール
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付	CR	カーテンレール
G	鉄部SOP	▽	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
H	t12.0×ｗ105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP	▽	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG	避	避難ハッチ（□600)
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装		

天井点検口集計表

場所	タイプ	呼びサイズ	個数
屋内運動場棟　1階	目地タイプ	450	6
屋内運動場棟　1階	目地タイプ	600	2
屋内運動場棟　1階	額縁タイプ	450	10
18			
屋内運動場棟　2階	目地タイプ	450	1
屋内運動場棟　2階	目地タイプ	600	2
屋内運動場棟　2階	額縁タイプ	450	3
6			
校舎棟　1階	目地タイプ	450	26
校舎棟　1階	目地タイプ	600	2
校舎棟　1階	額縁タイプ	450	63
91			
校舎棟　2階	目地タイプ	450	77
校舎棟　2階	目地タイプ	600	12
校舎棟　2階	額縁タイプ	450	12
101			
校舎棟　3階	目地タイプ	450	68
校舎棟　3階	目地タイプ	600	14
校舎棟　3階	額縁タイプ	450	10
92			
校舎棟　R階	目地タイプ	450	1
1			



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟_R階天井伏図	縮尺	A1=1:100 A3=1:200	図番	A－b21



番号	下地	備考
A	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、両面、吉野石膏S12（FP060NP-0483(1)）同等品以上
A遮	〃	1時間耐火構造壁、両面、GW充填、吉野石膏S12（FP060NP-0483(2)）同等品以上
B	t21GB-F(強化)+t21GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、片面、吉野石膏Sｳｫｰﾙ（FP060NP-0007）同等品以上
C	コンクリート壁、柱	1時間耐火構造、壁：建告1399_第1_第1号(ｲ)、柱：建告1399_第2_第1号(ｲ)
D遮	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏S12WI(FP060NP-0290、SOI-0110)同等品以上
E遮	t9.5GB-R-H(硬質)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏A-2000・WI-60(FP060NP-0473-1(2)、SOI-0170-1)同等品以上
①	t12.5+12.5GB-R	LGS下地
①遮	t12.5+12.5GB-R	LGS下地、GW充填
②	t12.5GB-R(GL)	GL工法
③	t12.5GB-R	LGS下地
④	木下地	（仕上げ表参照）
⑤	LGS下地	（仕上げ表参照）

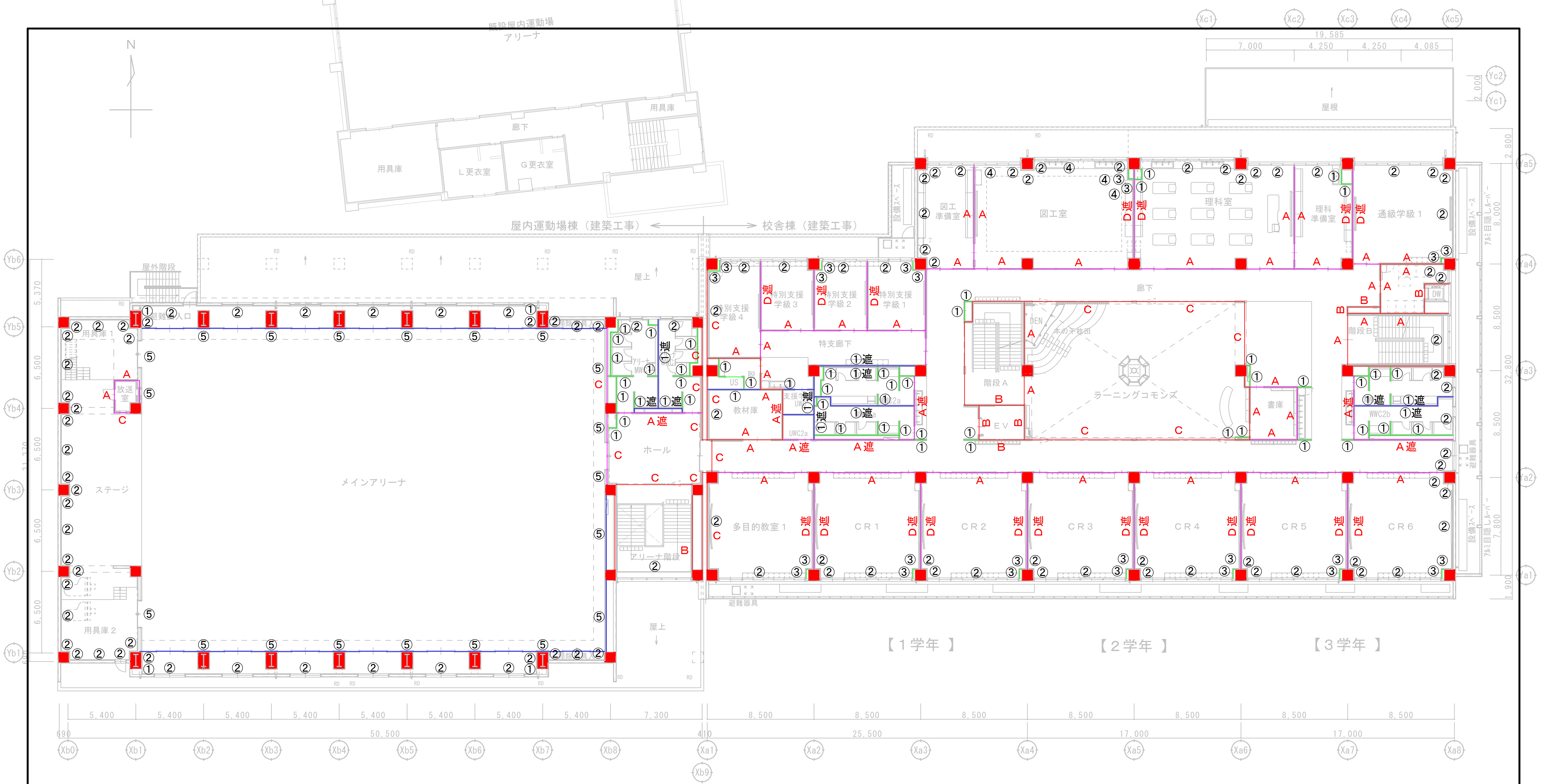
※壁リストは壁下地を記載、仕上げは仕上げ表を参照
※水廻り（給湯、WC、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）の床・壁の取り合いはｼｰﾘﾝｸﾞ処理をすること
※水廻り（給湯、WC、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）は　GB-R→ GB-S　とする
※GW:グラスウール充填　24kg/m3

🟥	耐火１時間壁　面積区画　梁下スラブ裏まで
🟪	耐火１時間壁　防火上主要間仕切り　梁下スラブ裏まで
🟦	雑壁　梁下スラブ裏まで
🟩	雑壁　天井まで

※建具が着色されている場合、建具が取付く壁の仕様を示す。

JOB NO.								
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	１階　壁リスト	縮尺 A1：1/150 A3：1/300

図番　A－b22
B－b20



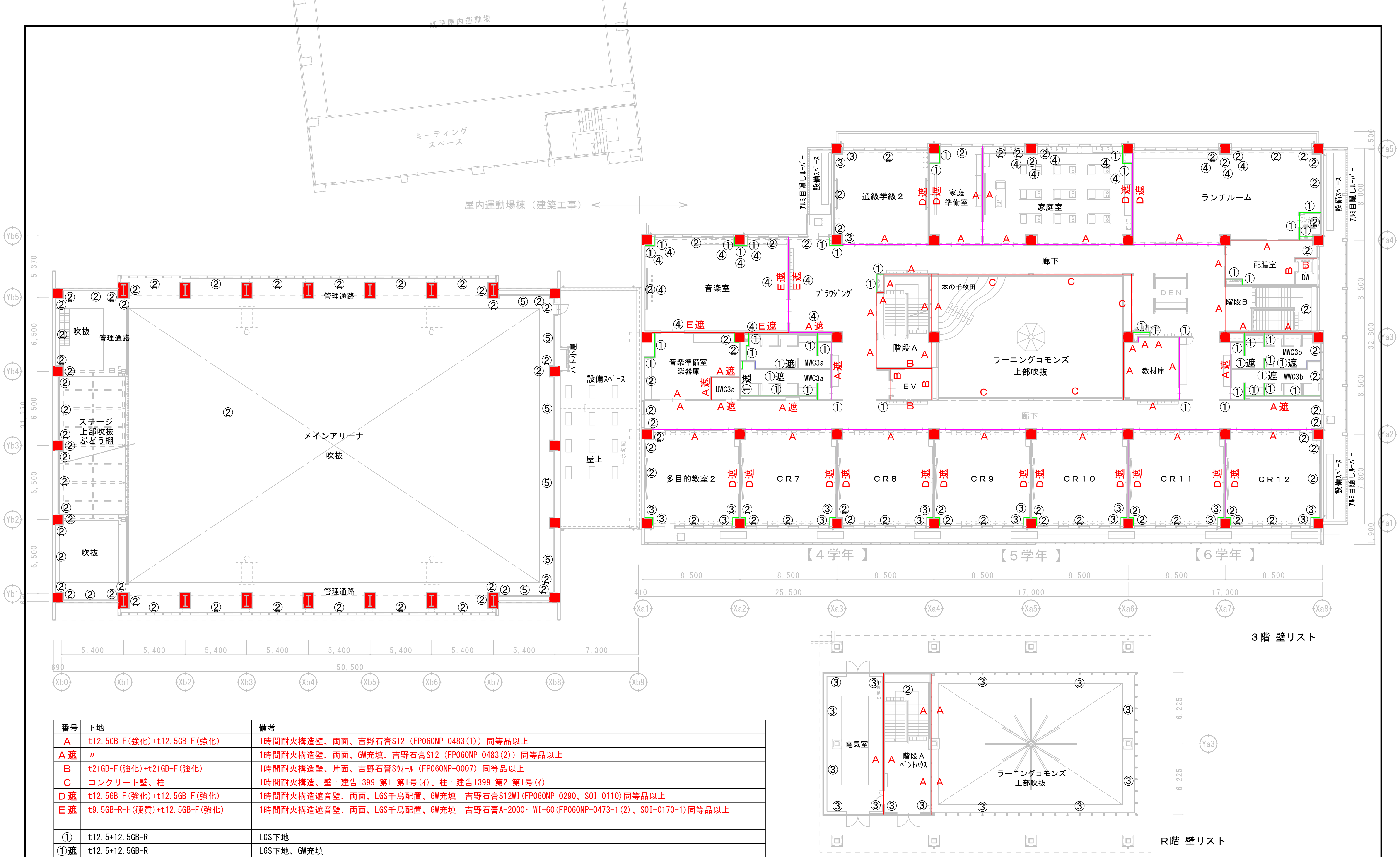
番号	下地	備考
A	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、両面、吉野石膏S12（FP060NP-0483(1)）同等品以上
A遮	〃	1時間耐火構造壁、両面、GW充填、吉野石膏S12（FP060NP-0483(2)）同等品以上
B	t21GB-F(強化)+t21GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、片面、吉野石膏Sｳｫｰﾙ（FP060NP-0007）同等品以上
C	コンクリート壁、柱	1時間耐火構造、壁：建告1399_第1_第1号(ｲ)、柱：建告1399_第2_第1号(ｲ)
D遮	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏S12WI(FP060NP-0290、SOI-0110)同等品以上
E遮	t9.5GB-R-H(硬質)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏A-2000・WI-60(FP060NP-0473-1(2)、SOI-0170-1)同等品以上
①	t12.5+12.5GB-R	LGS下地
①遮	t12.5+12.5GB-R	LGS下地、GW充填
②	t12.5GB-R(GL)	GL工法
③	t12.5GB-R	LGS下地
④	木下地	（仕上げ表参照）
⑤	LGS下地	（仕上げ表参照）

※壁リストは壁下地を記載、仕上げは仕上げ表を参照
※水廻り（給湯、WC、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）の床・壁の取り合いはｼｰﾘﾝｸﾞ処理をすること
※水廻り（給湯、WC、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）は　GB-R→ GB-S　とする
※GW:グラスウール充填　24kg/m3

━	耐火1時間壁　面積区画　梁下スラブ裏まで
━	耐火1時間壁　防火上主要間仕切り　梁下スラブ裏まで
━	雑壁　梁下スラブ裏まで
━	雑壁　天井まで

※建具が着色されている場合、建具が取付く壁の仕様を示す。

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	2階　壁リスト	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－b23 B－b21



３階 壁リスト

Ｒ階 壁リスト

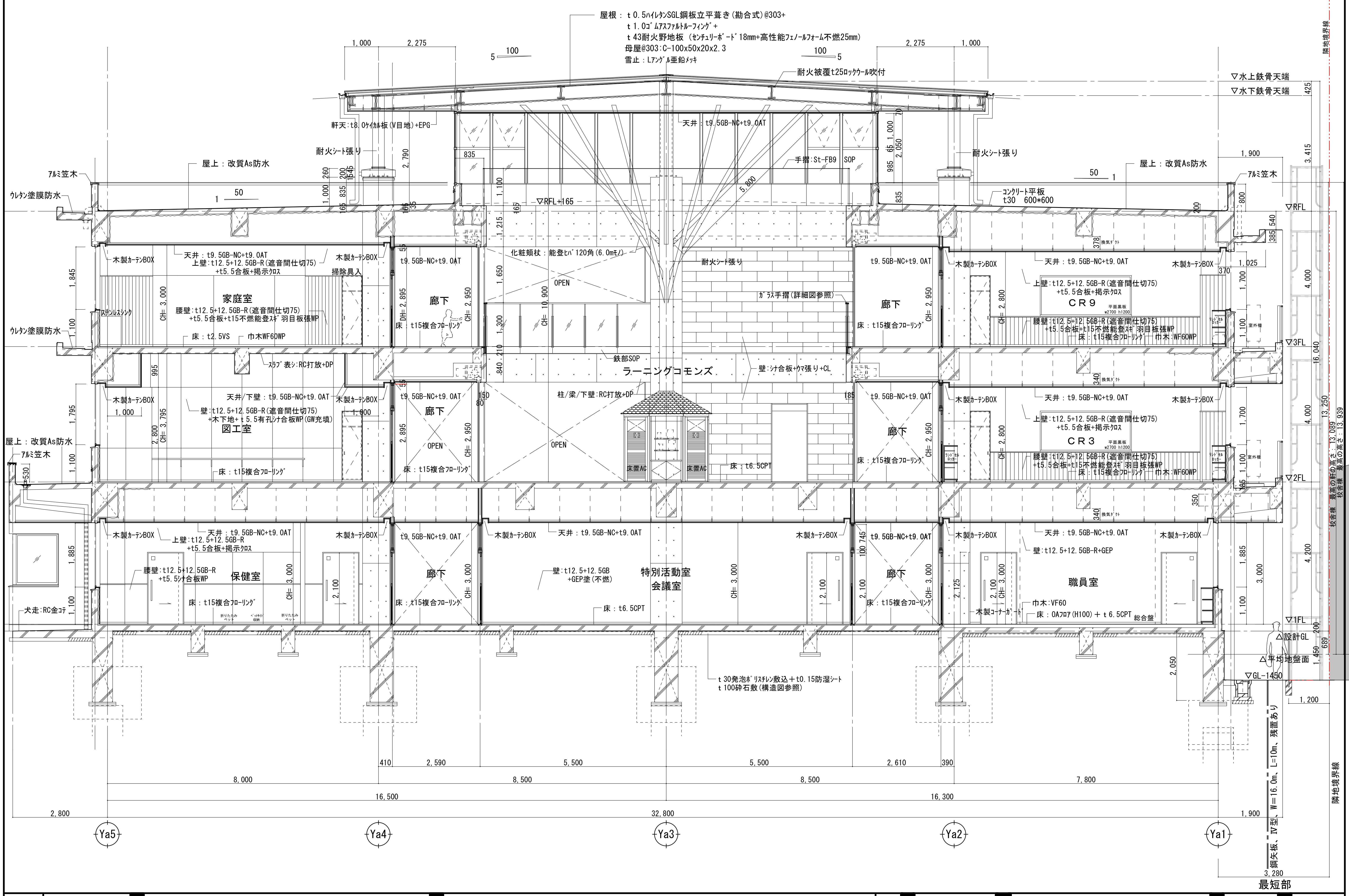
番号	下地	備考
A	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、両面、吉野石膏S12（FP060NP-0483(1)）同等品以上
A遮	〃	1時間耐火構造壁、両面、GW充填、吉野石膏S12（FP060NP-0483(2)）同等品以上
B	t21GB-F(強化)+t21GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、片面、吉野石膏Sｳｫｰﾙ（FP060NP-0007）同等品以上
C	コンクリート壁、柱	1時間耐火構造、壁：建告1399_第1_第1号(ｲ)、柱：建告1399_第2_第1号(ｲ)
D遮	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏S12WI(FP060NP-0290、SOI-0110)同等品以上
E遮	t9.5GB-R-H(硬質)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏A-2000・WI-60(FP060NP-0473-1(2)、SOI-0170-1)同等品以上
①	t12.5+12.5GB-R	LGS下地
①遮	t12.5+12.5GB-R	LGS下地、GW充填
②	t12.5GB-R(GL)	GL工法
③	t12.5GB-R	LGS下地
④	木下地	（仕上げ表参照）
⑤	LGS下地	（仕上げ表参照）

※壁リストは壁下地を記載、仕上げは仕上げ表を参照
※水廻り（給湯、ＷＣ、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）の床・壁の取り合いはｼｰﾘﾝｸﾞ処理をすること
※水廻り（給湯、ＷＣ、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）は　GB-R→ GB-S　とする
※GW:グラスウール充填　24kg/m3

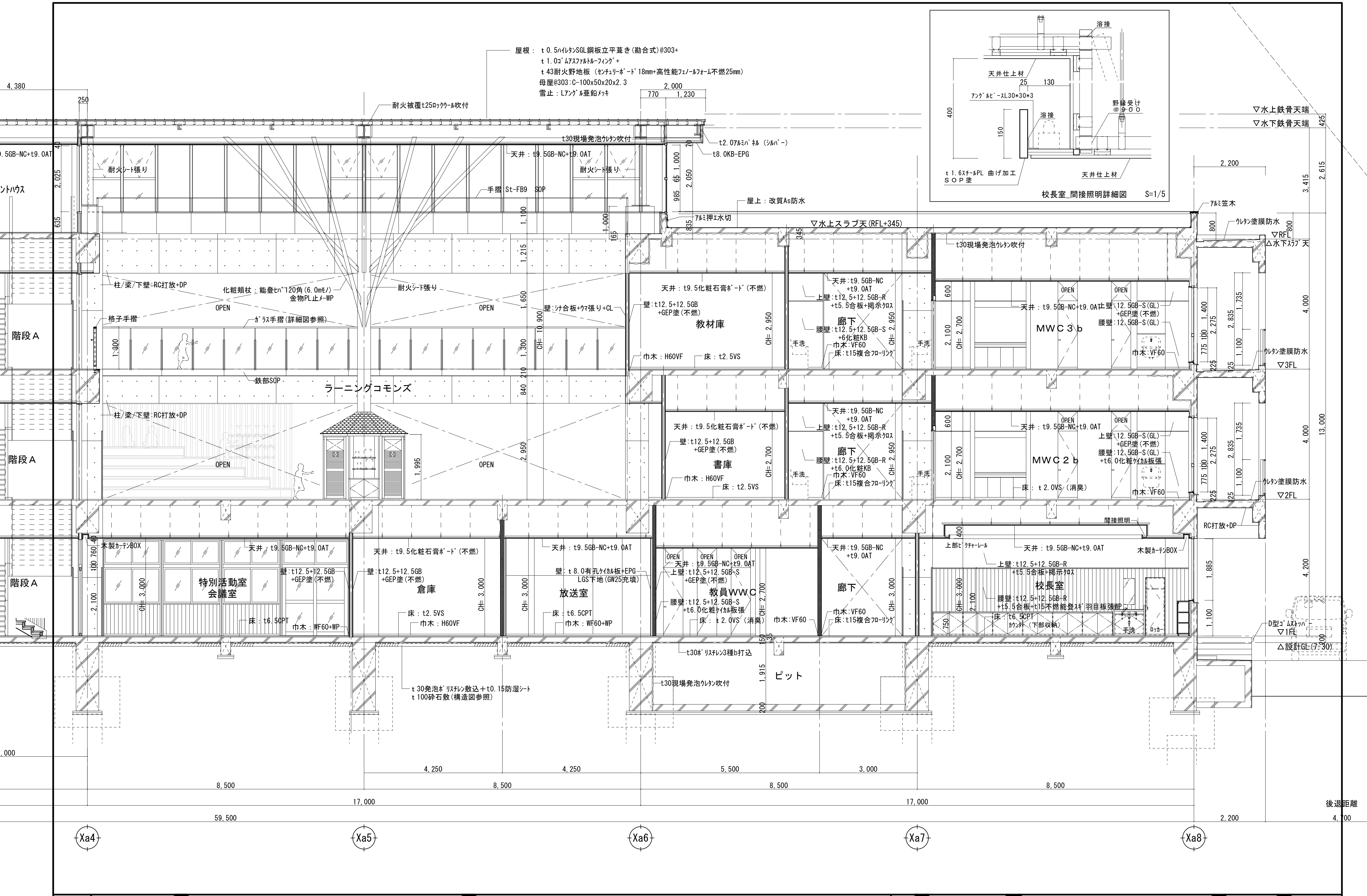
🟥	耐火１時間壁　面積区画　梁下スラブ裏まで
🟪	耐火１時間壁　防火上主要間仕切り　梁下スラブ裏まで
🟦	雑壁　梁下スラブ裏まで
🟩	雑壁　天井まで

※建具が着色されている場合、建具が取付く壁の仕様を示す。

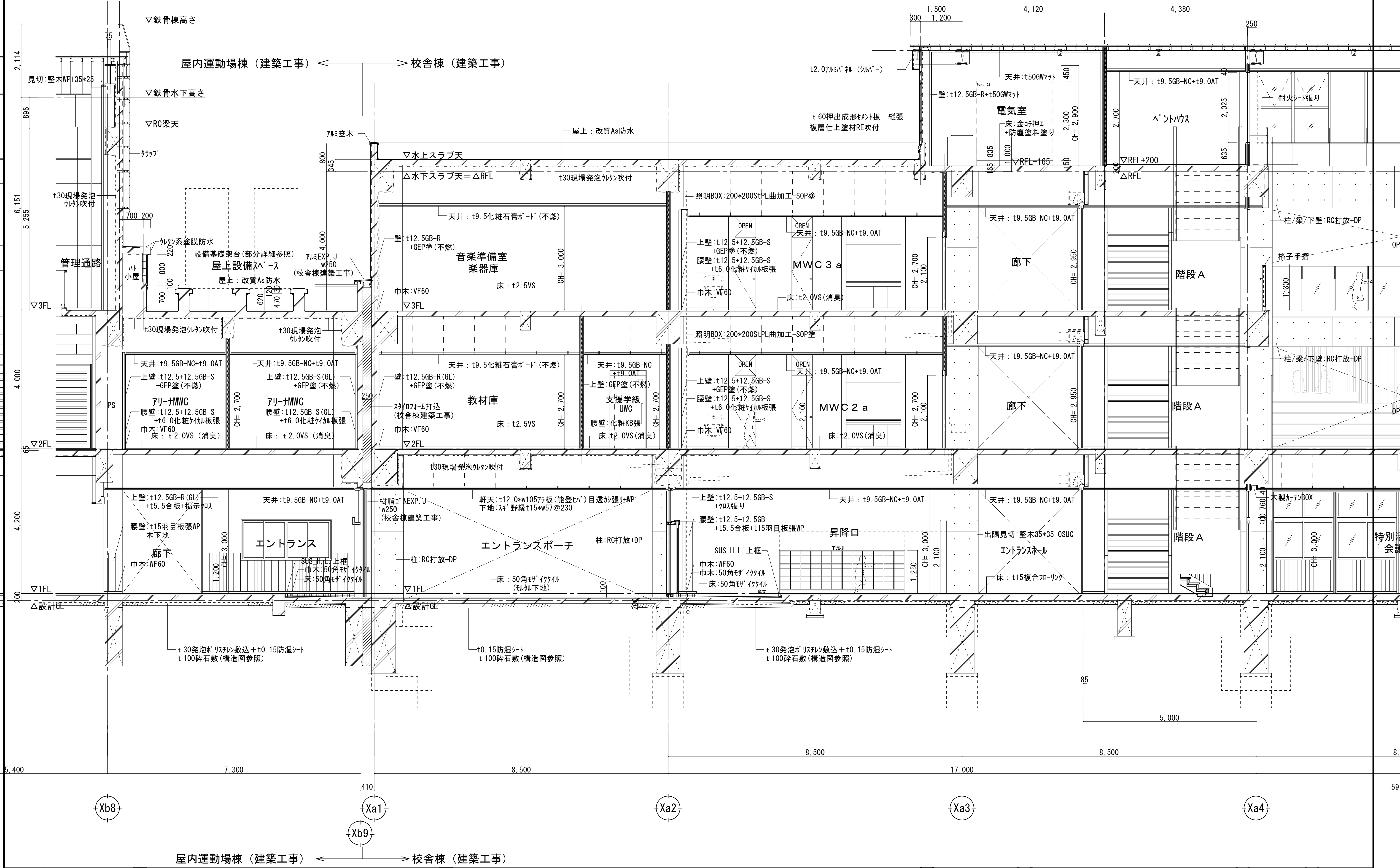
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	３・Ｒ階　壁リスト	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番 A－b24 B－b22



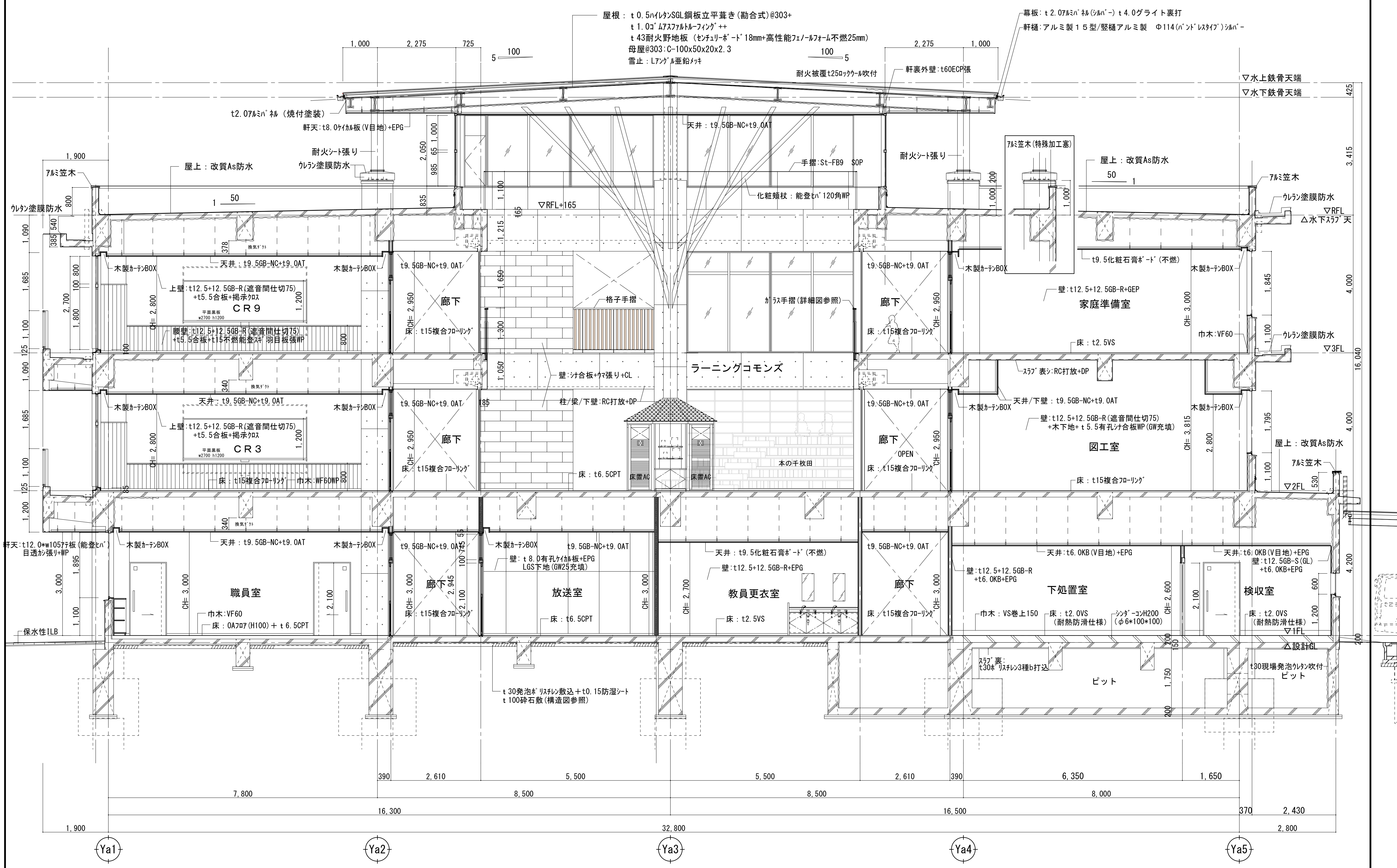
JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　矩計図（1）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －c01



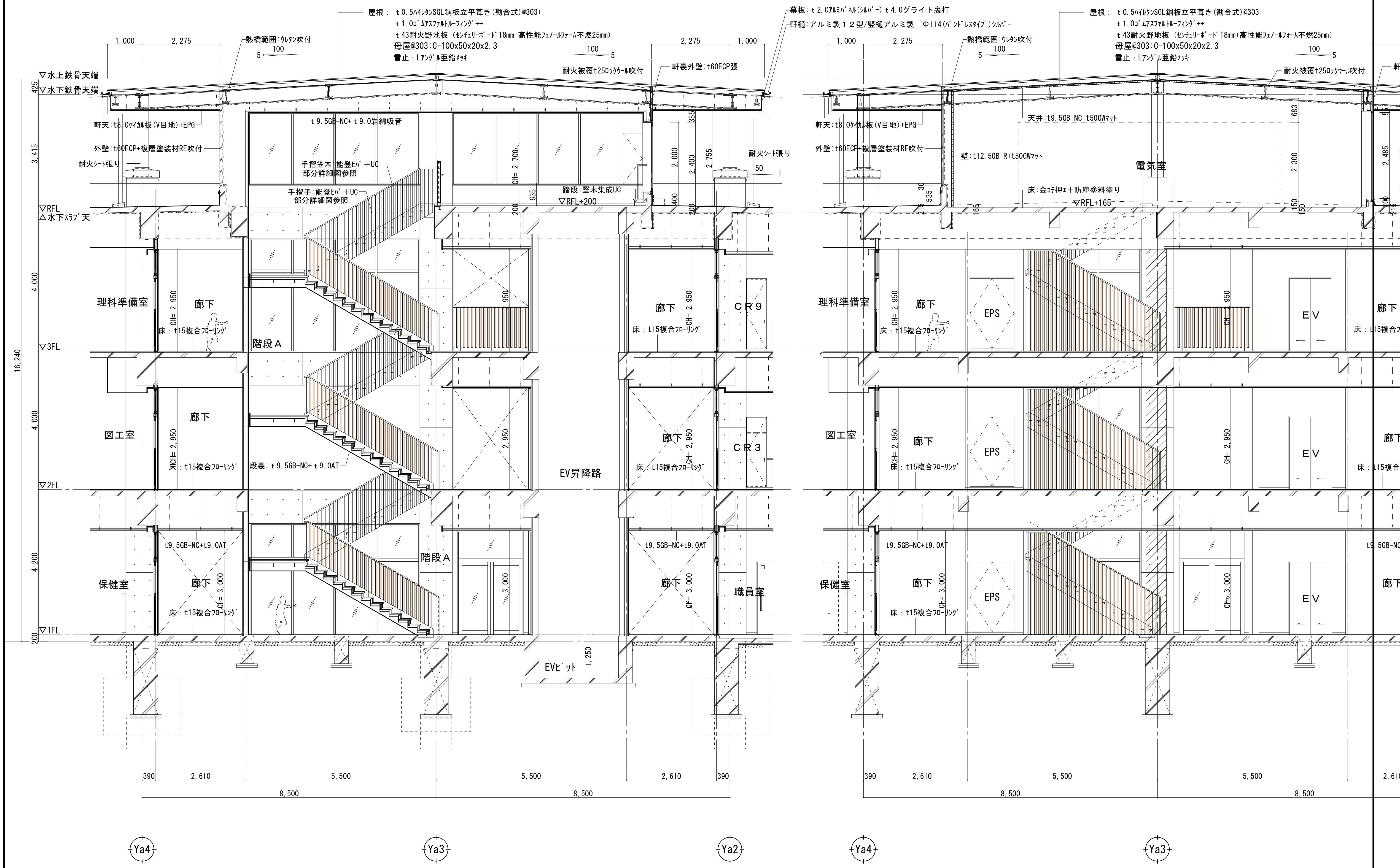
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟 矩計図（２）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －c02



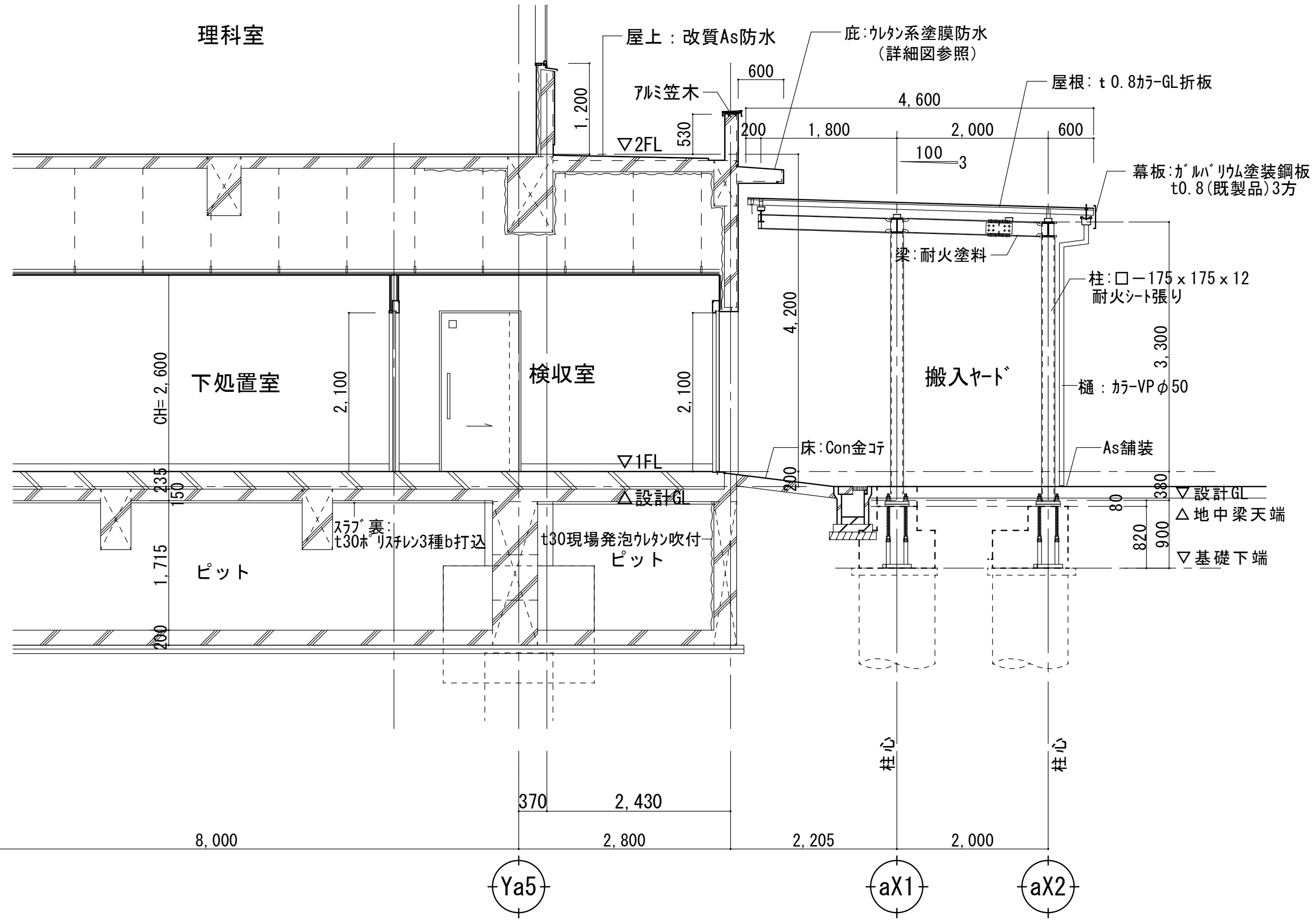
JOB NO.										
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟/屋内運動場棟　矩計図（３）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番 A－c03 B－c03

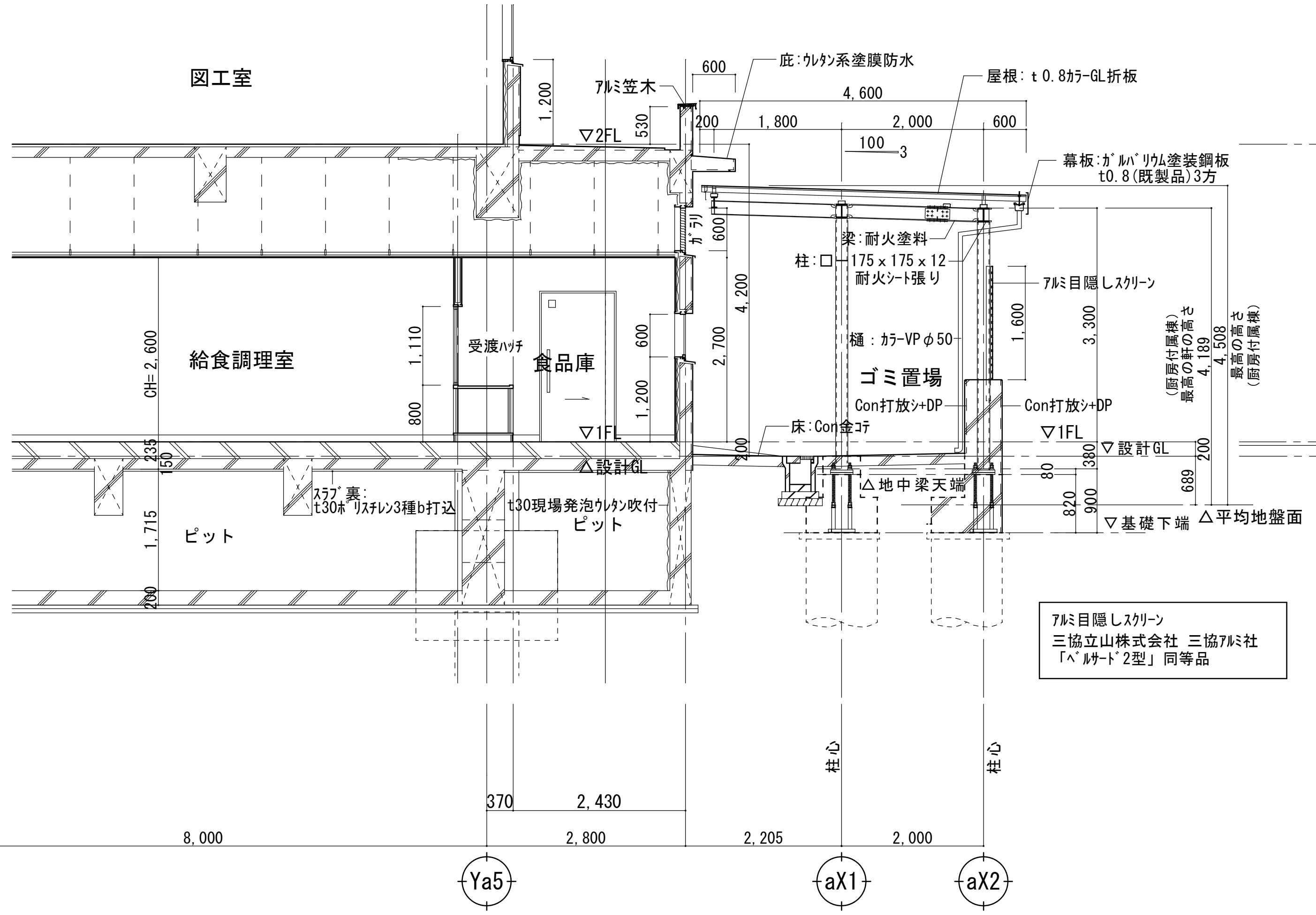


JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　矩計図（４）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －c04



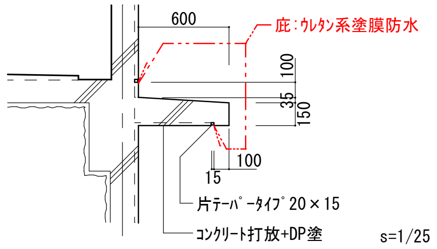
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟 階段詳細図（１）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －c05

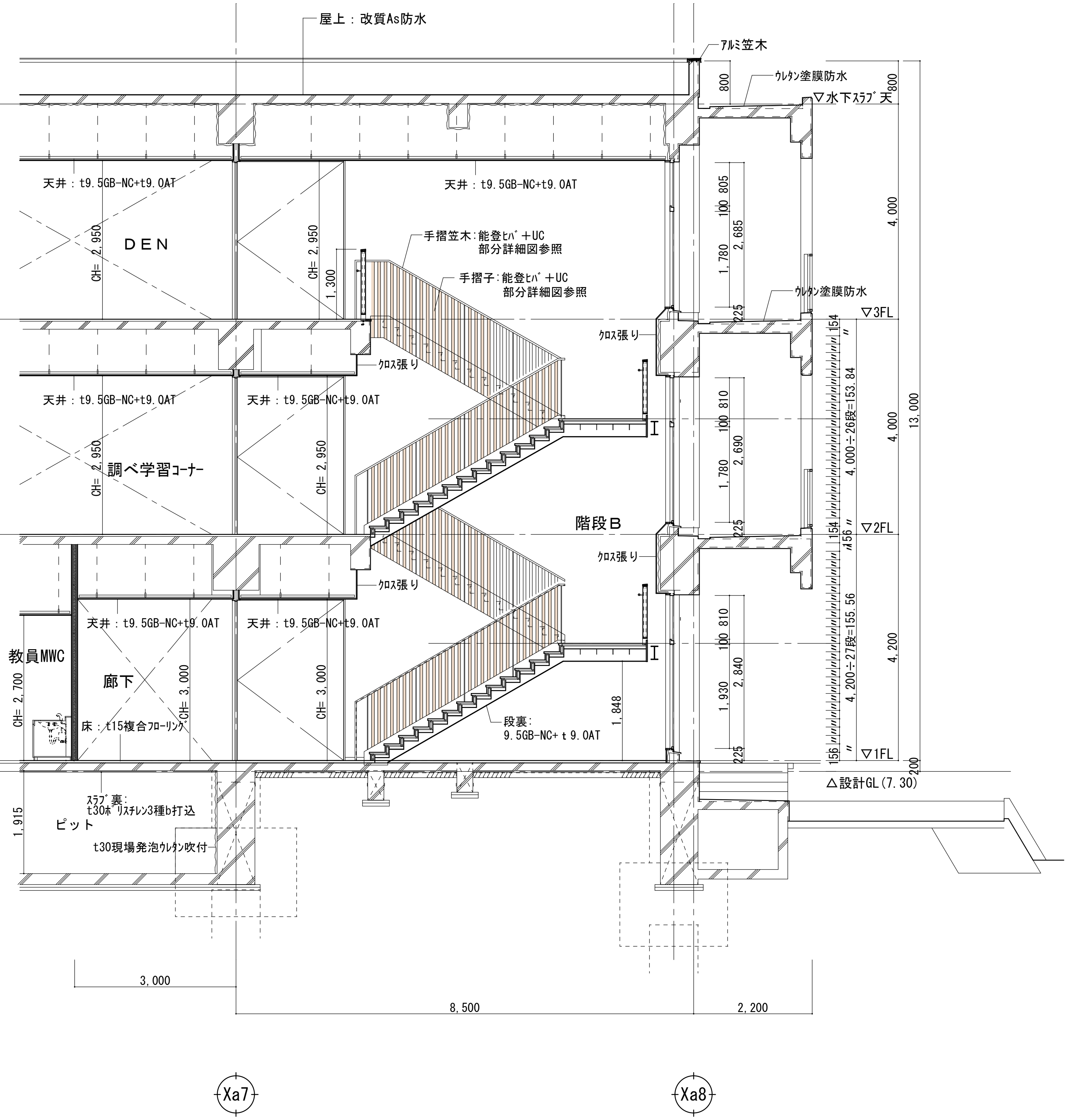




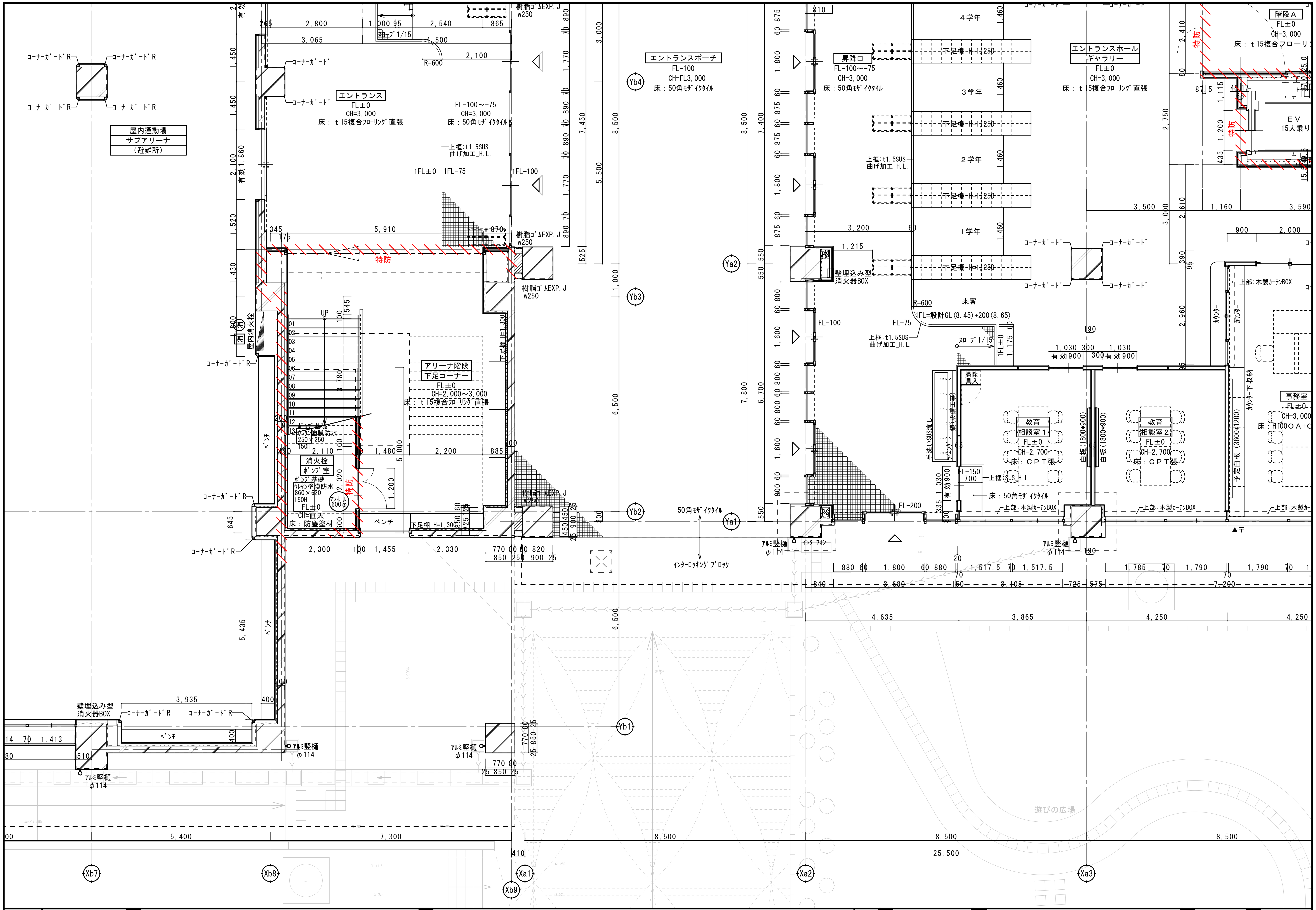
ｱﾙﾐ目隠しｽｸﾘｰﾝ
三協立山株式会社 三協ｱﾙﾐ社
「ﾍﾞﾙｻｰﾄﾞ2型」同等品

小庇（給食調理室ごみ置き場・搬入ヤード上部）

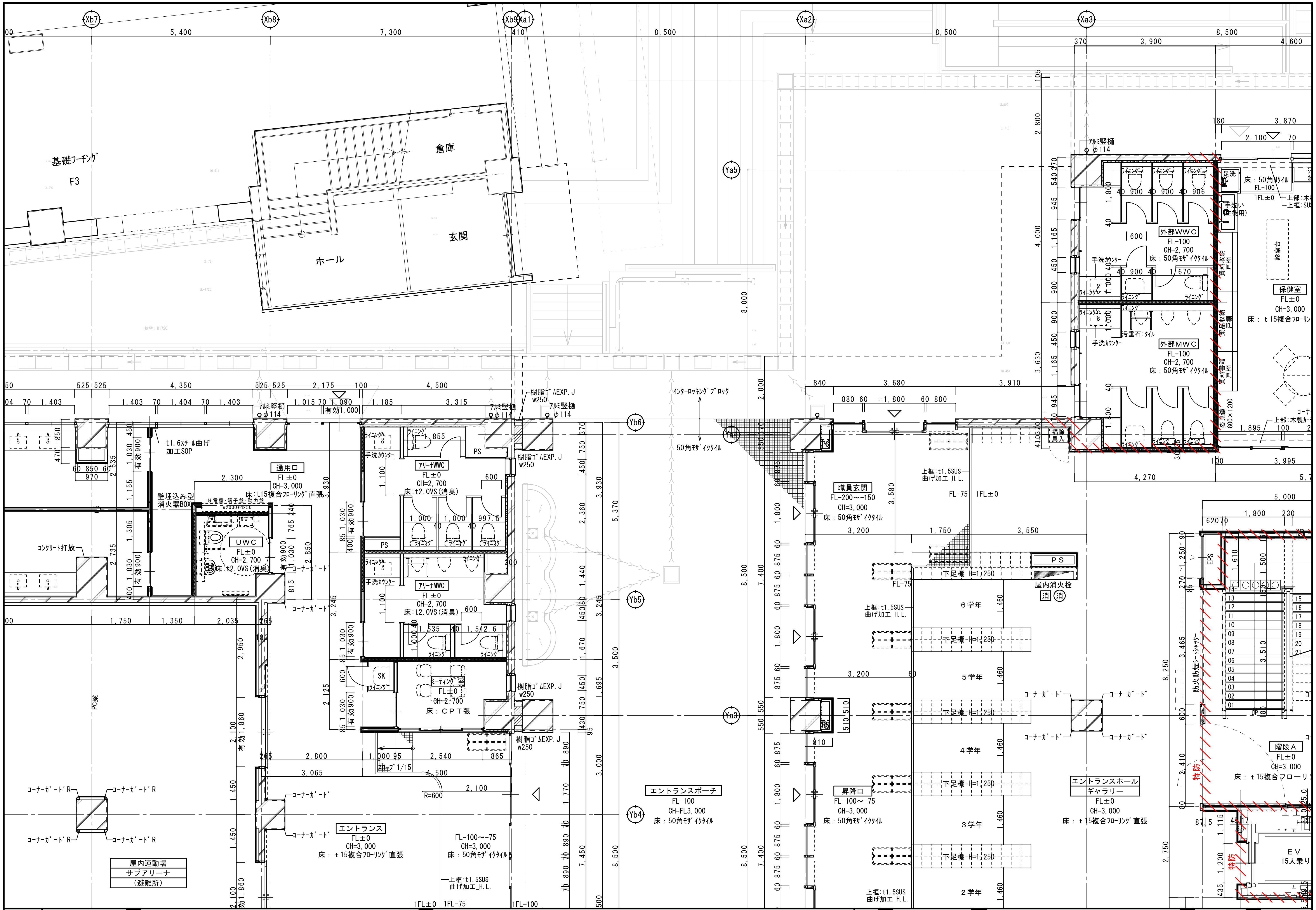




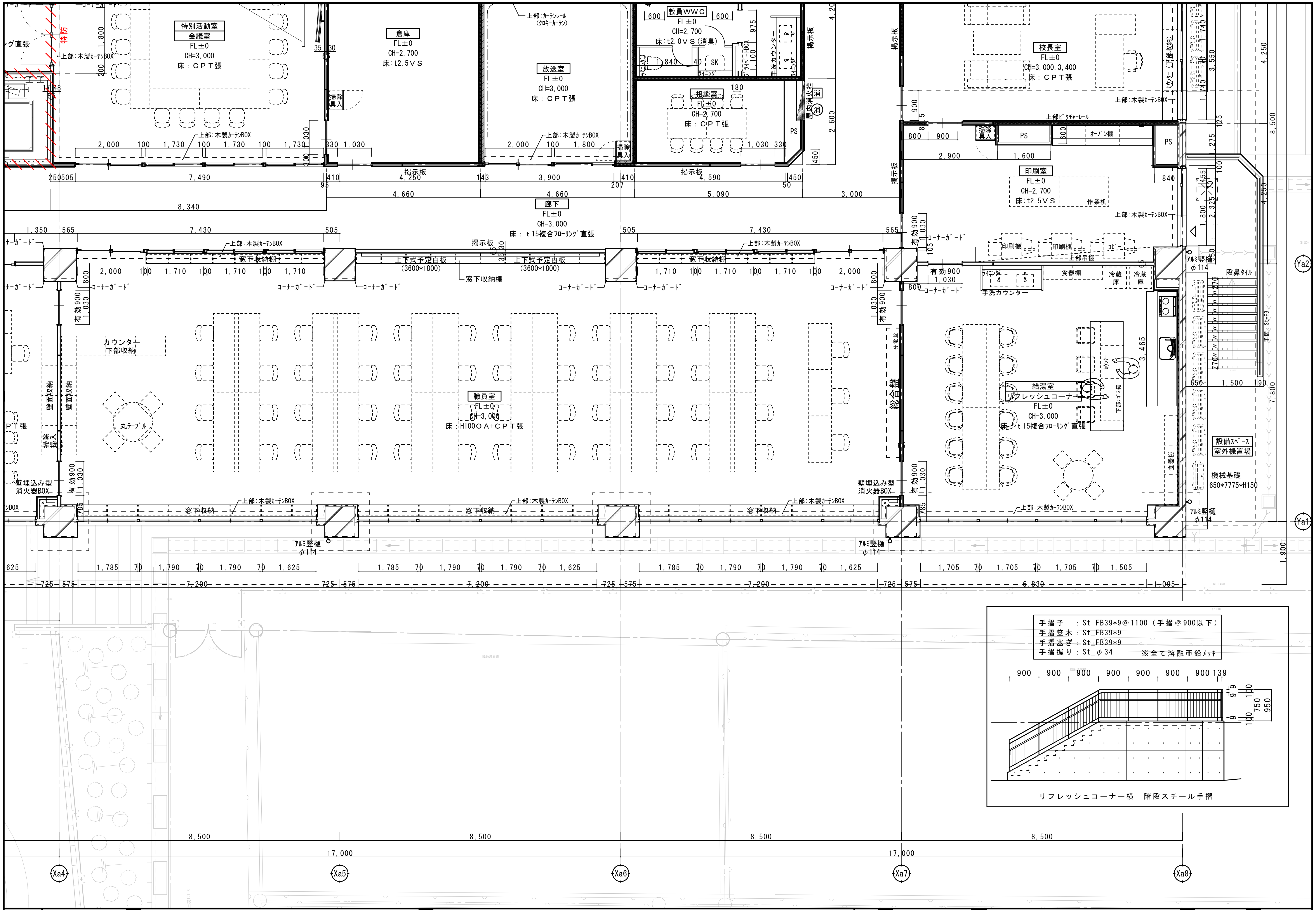
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟 階段詳細図（２）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	A －c06



JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計　・　・	標題　1階平面詳細図　（1）	縮尺　A1：1/50 A3：1/100　図番　A－c07 B－c07



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	1階平面詳細図 （2）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	A－c08 B－c08



JOB NO.
125280

2026　年　　月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

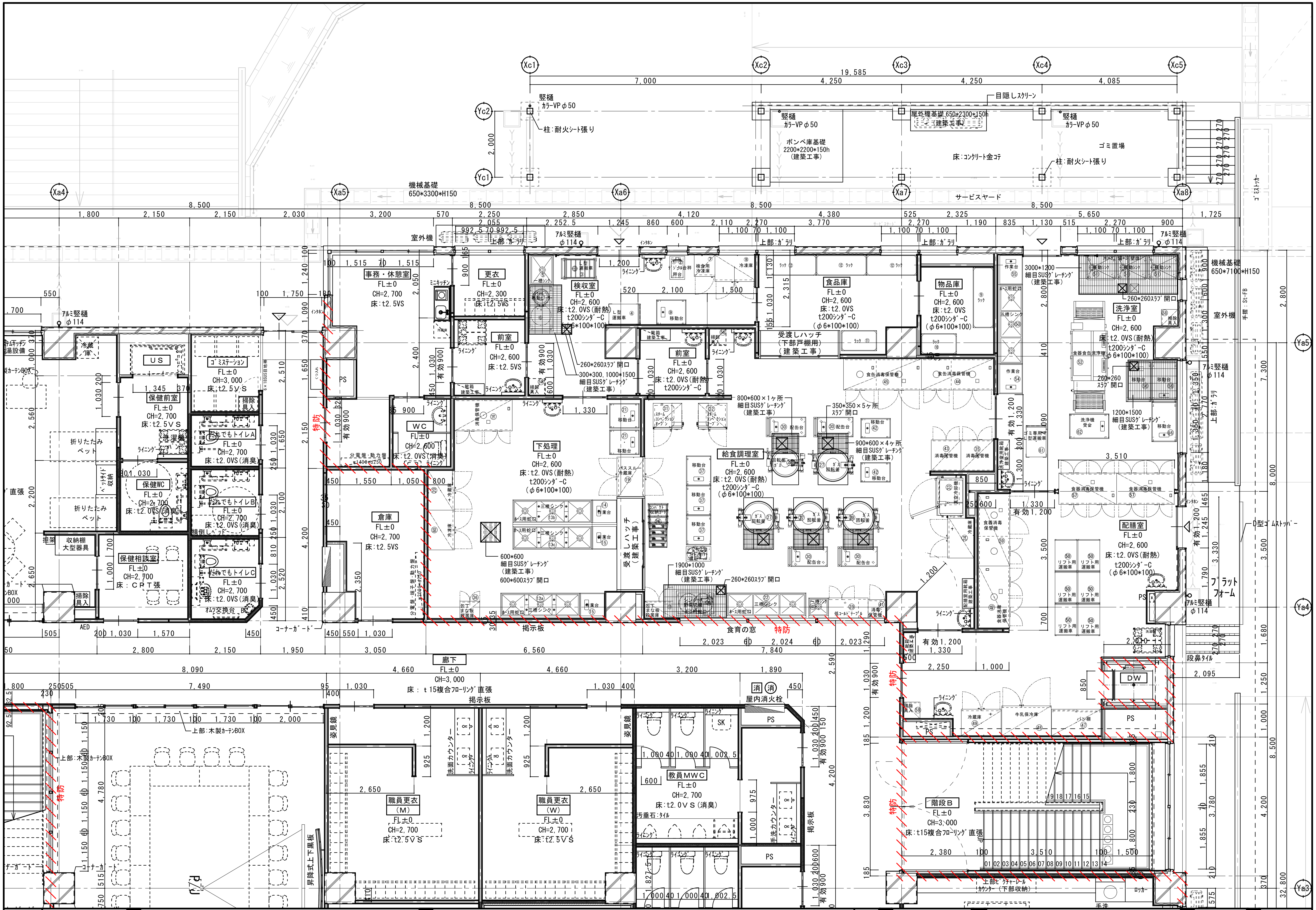
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

設計　・　・

標題　1階平面詳細図　（３）

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図番　A －c09



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

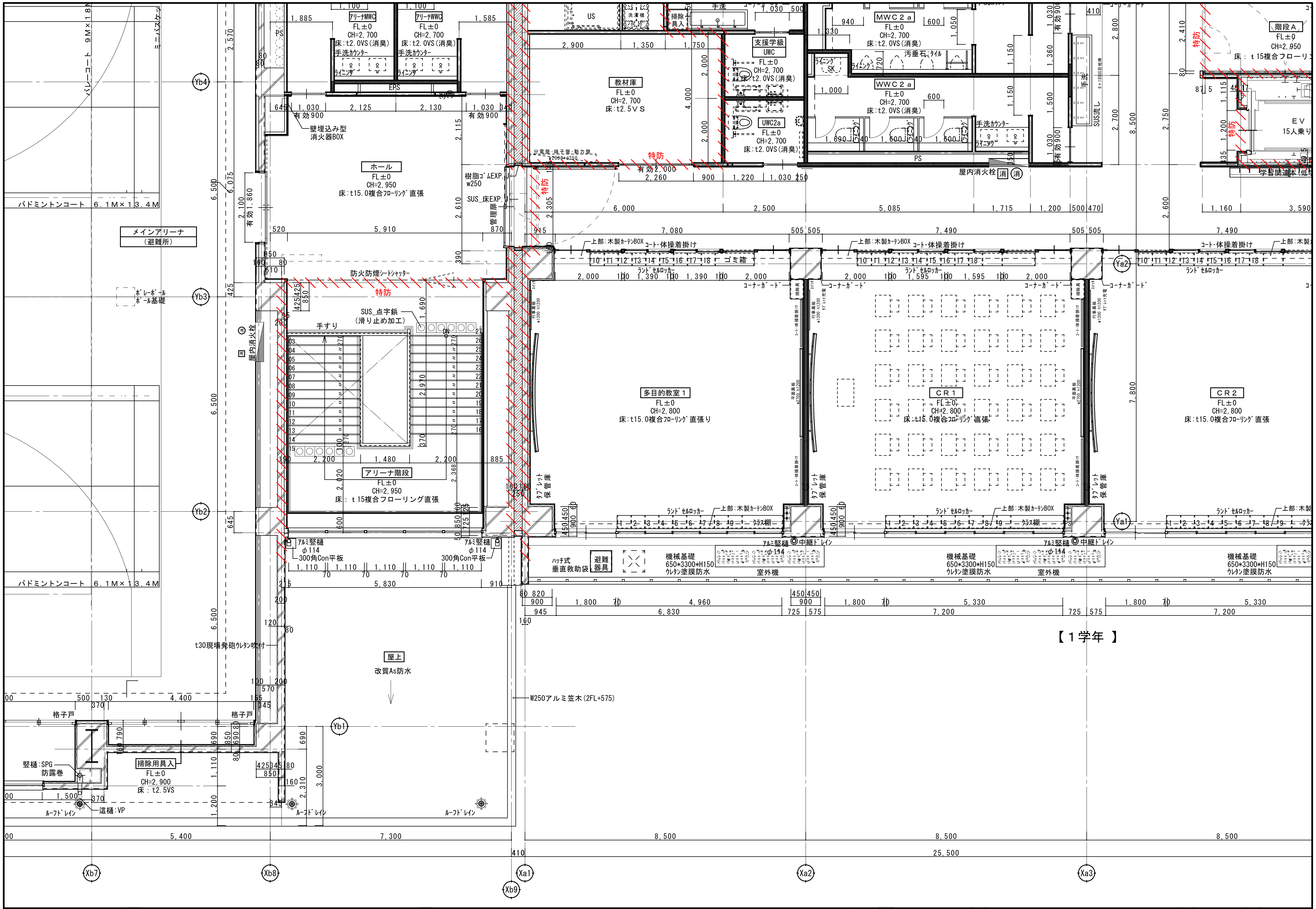
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

標題 1階平面詳細図 （4）

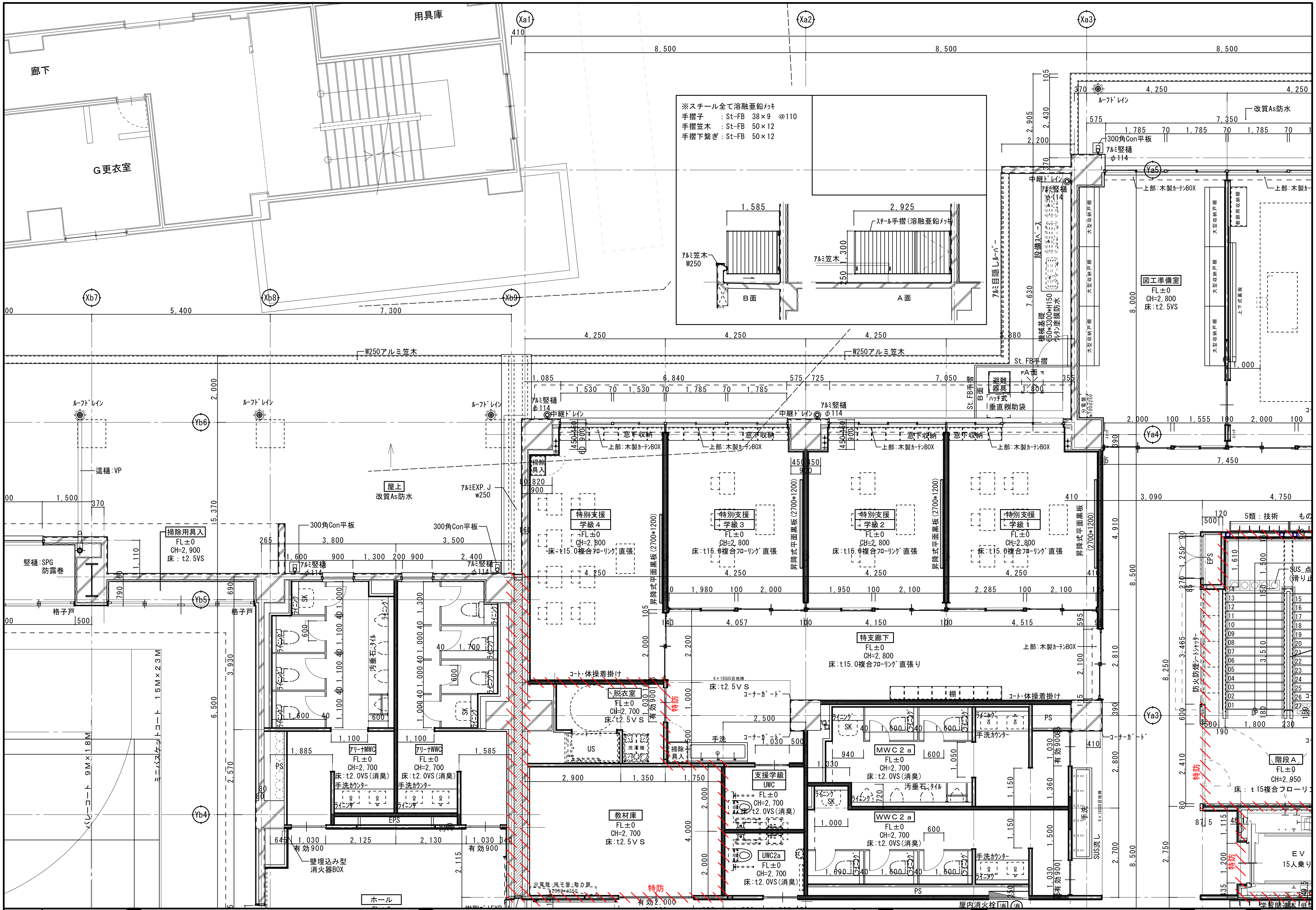
縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図番 A－c10

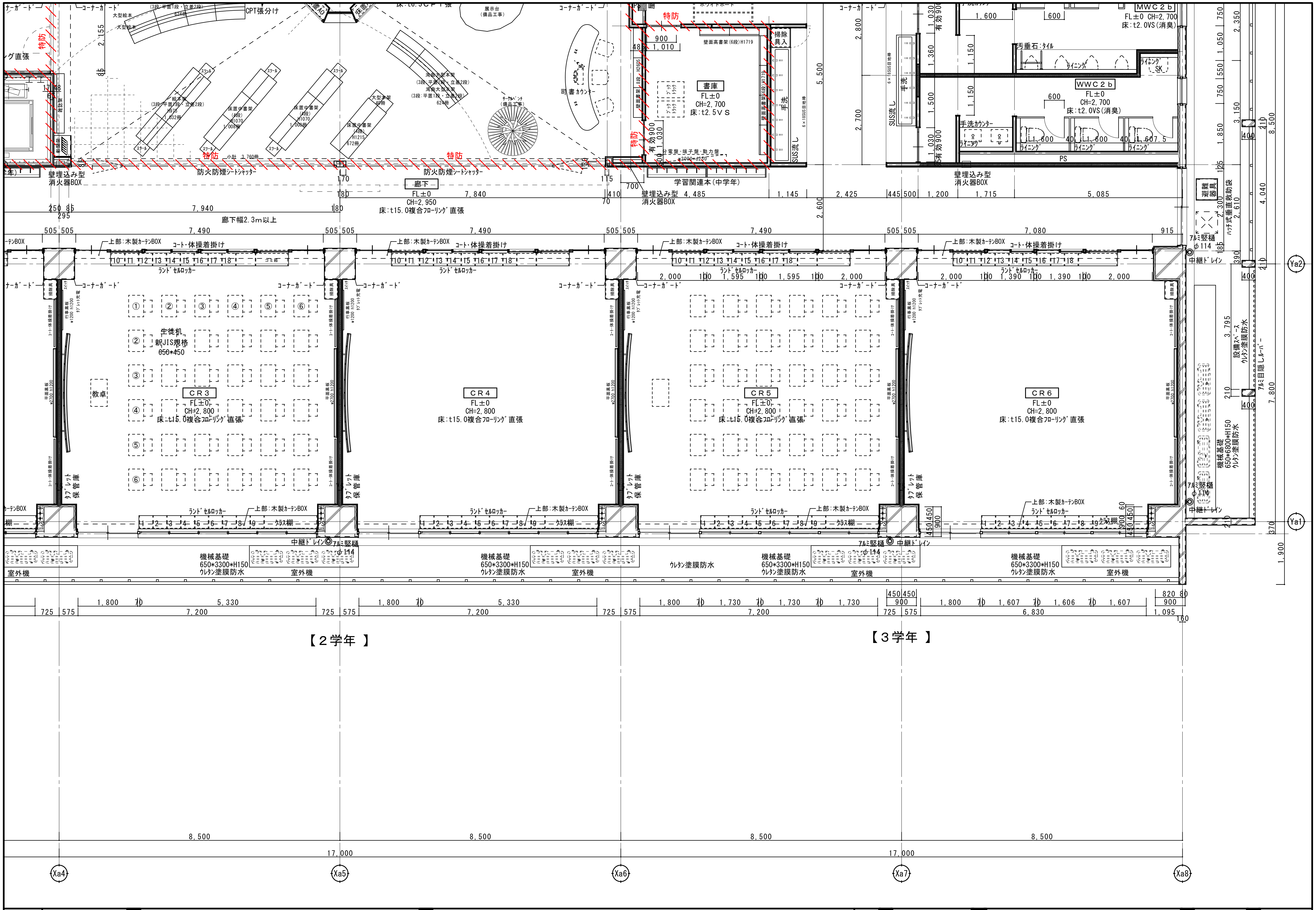


JOB NO.			
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計	標題	縮尺	図番
・ ・	２階平面詳細図 （１）	A1：1/50 A3：1/100	A－c11 B－c11



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 2階平面詳細図 （2）	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図番 A－c12 B－c12



JOB NO. 125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

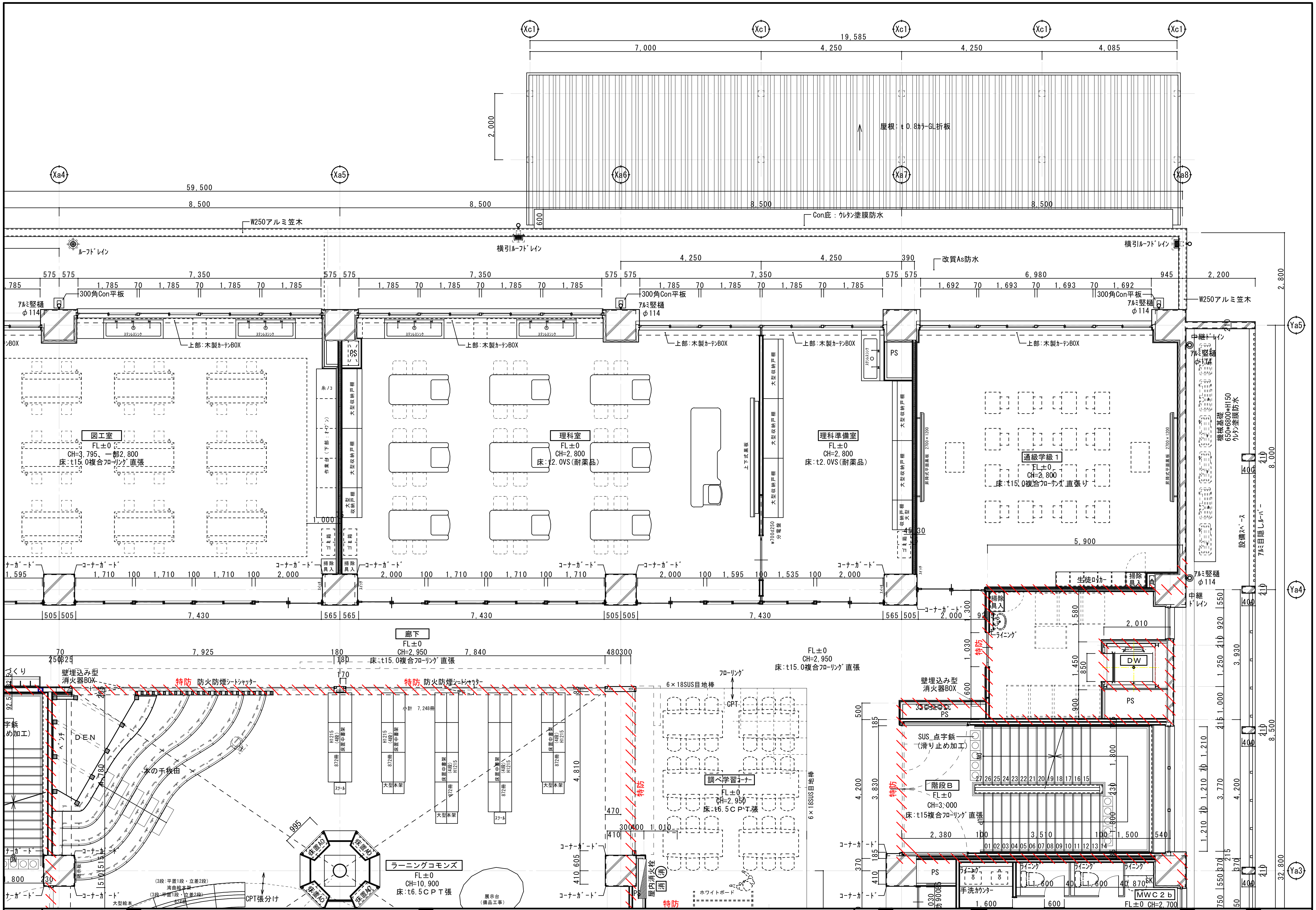
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

標題 ２階平面詳細図 （３）

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図番 A－c13



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

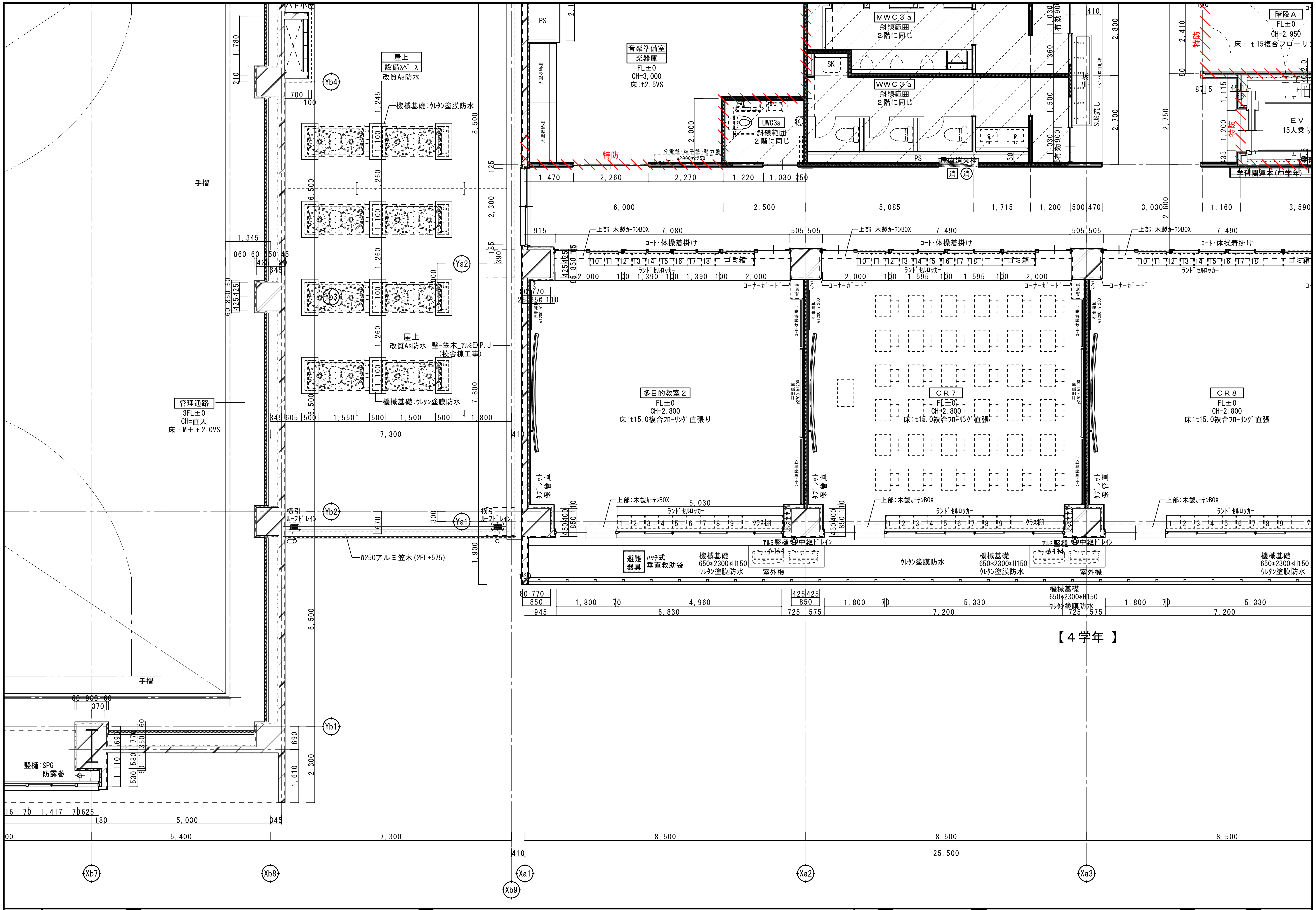
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

標題 ２階平面詳細図 （４）

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図番 Ａ－c14



JOB NO.
125280

2026　年　　月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

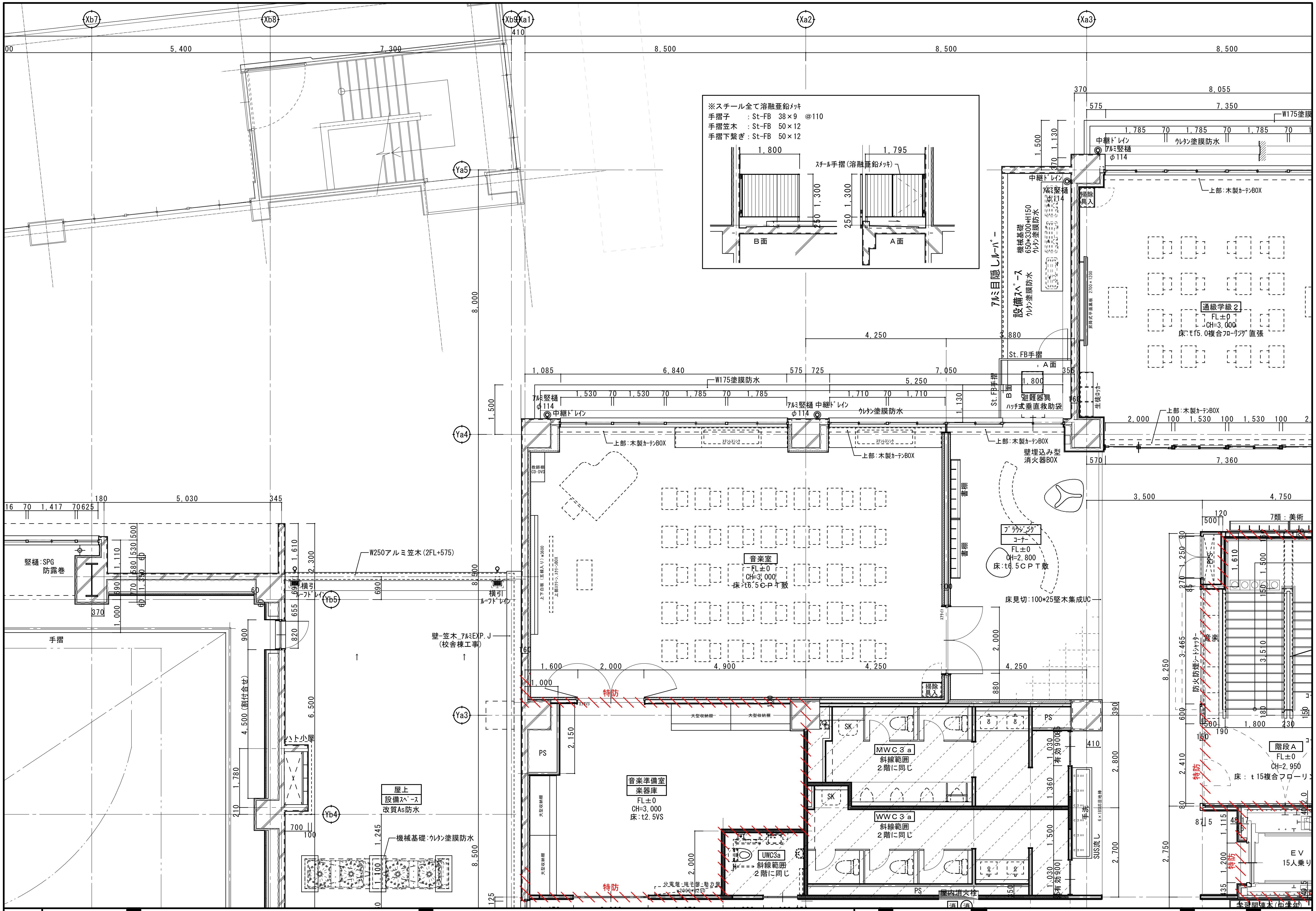
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳

設計　・　・

標題　3階平面詳細図　（1）

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図番　A－c15　B－c15



JOB NO.
125280

2026　年　　月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

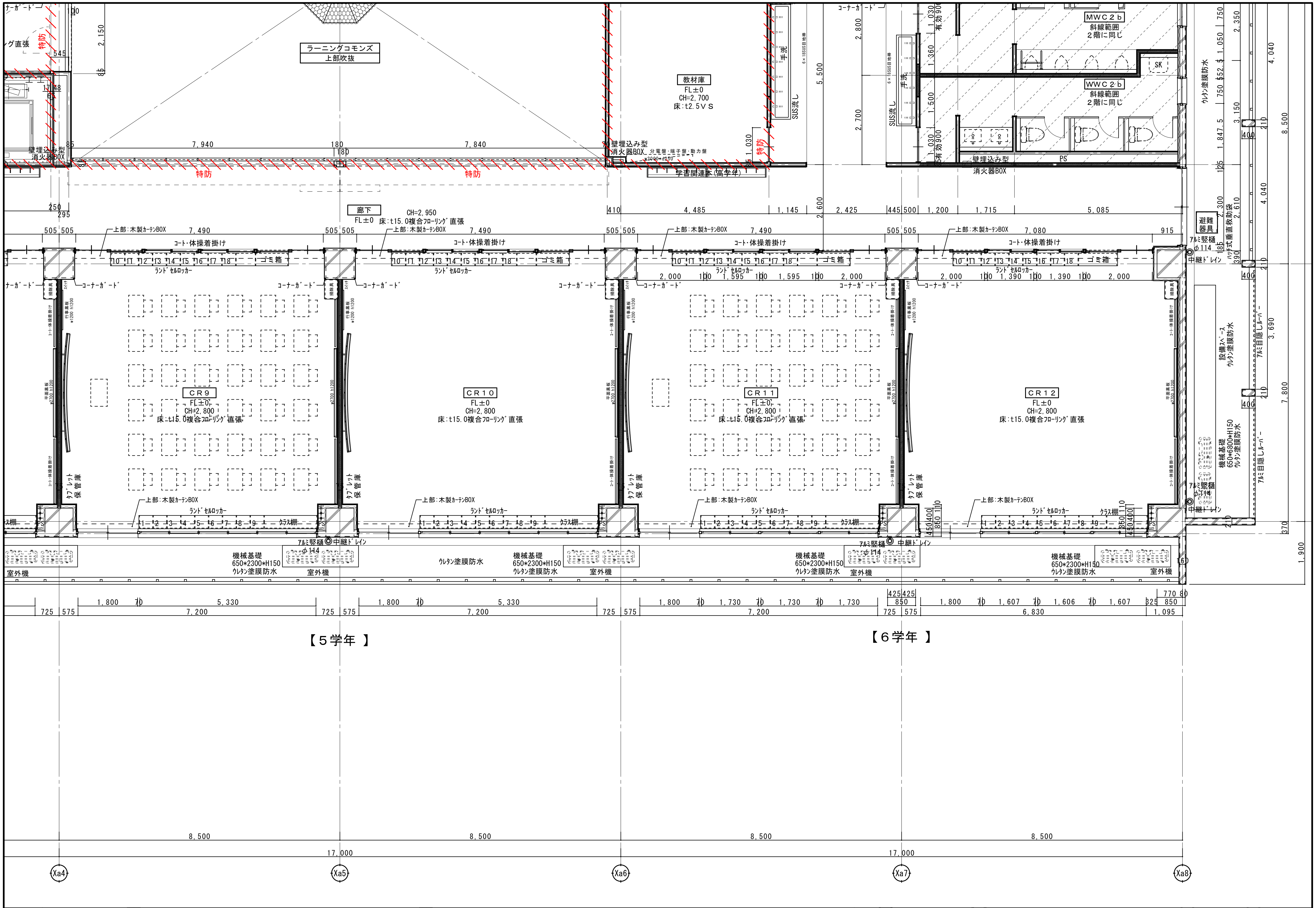
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

設計　・　・

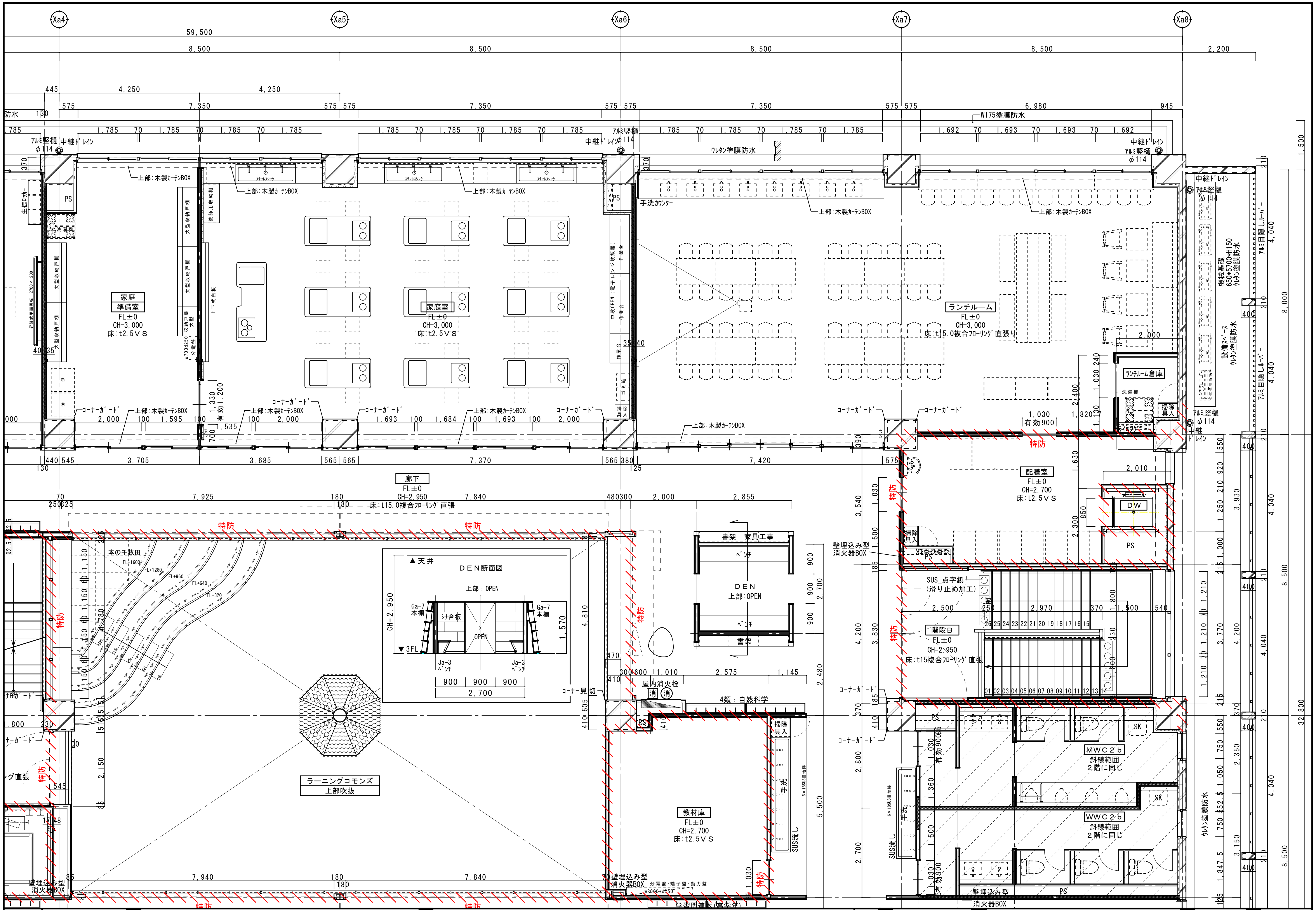
標題　3階平面詳細図　（2）

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図番　A－c16　B－c16



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	３階平面詳細図 （３）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	A －c17



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

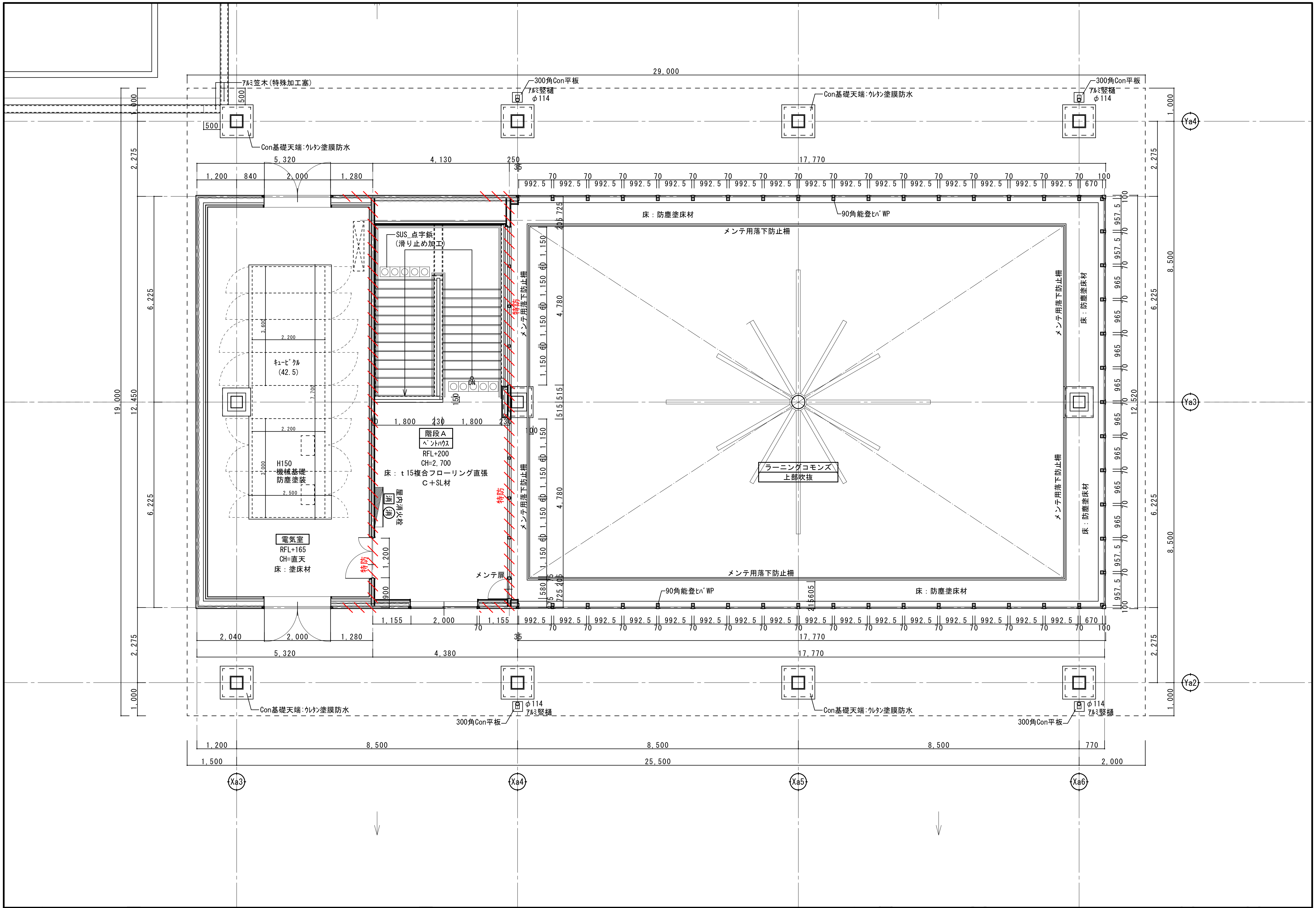
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

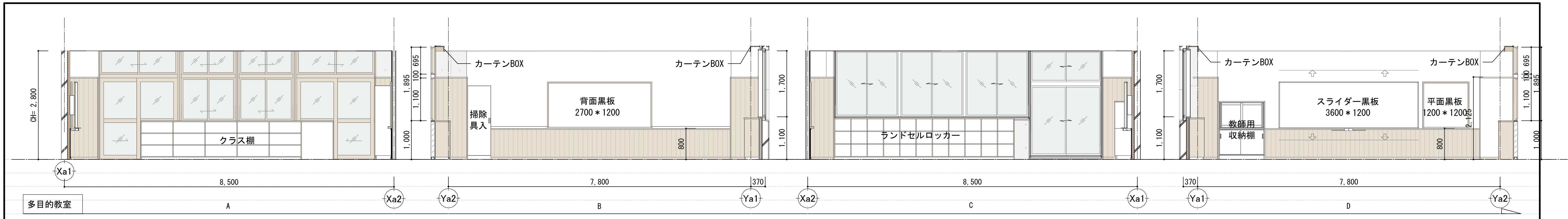
標題 3階平面詳細図 （4）

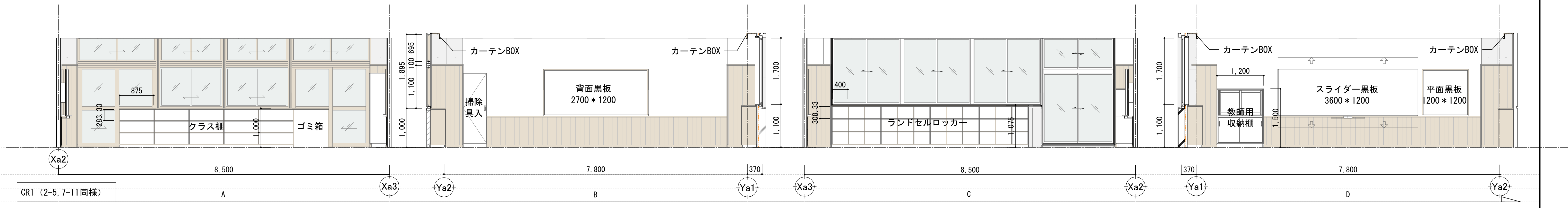
縮尺 A1：1/50 A3：1/100

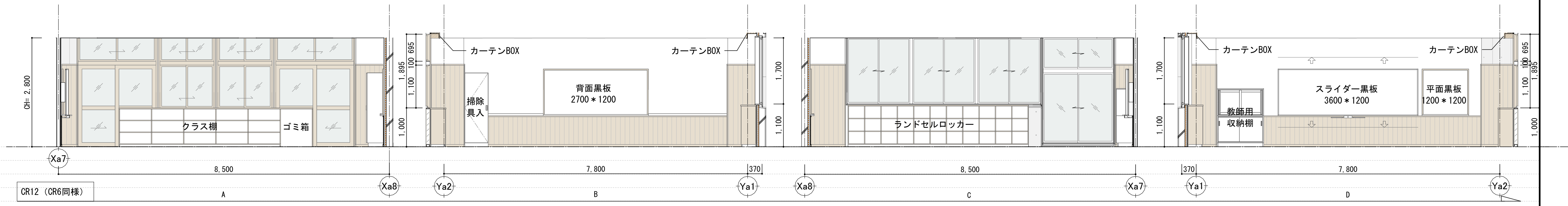
図番 A－c18



JOB NO.											
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	R階平面詳細図	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番 A－c19

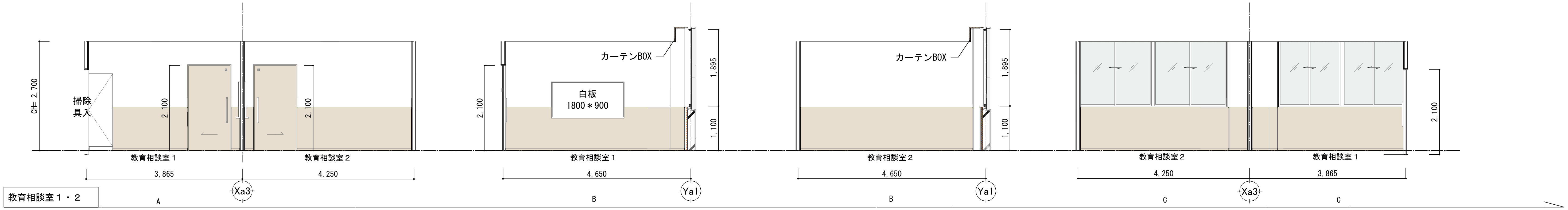


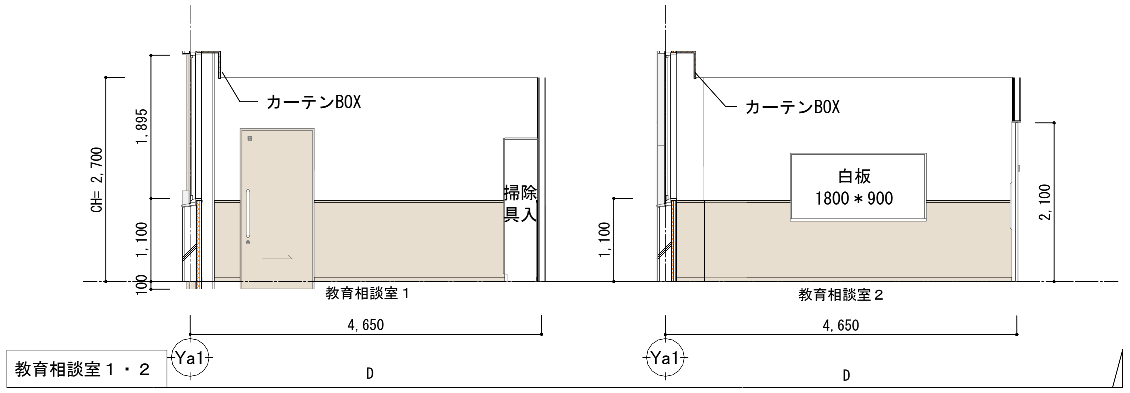


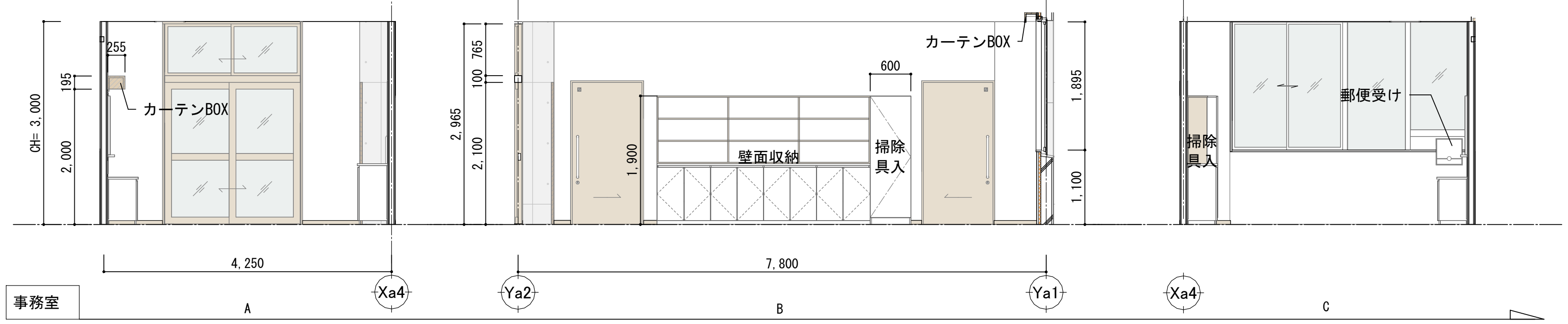


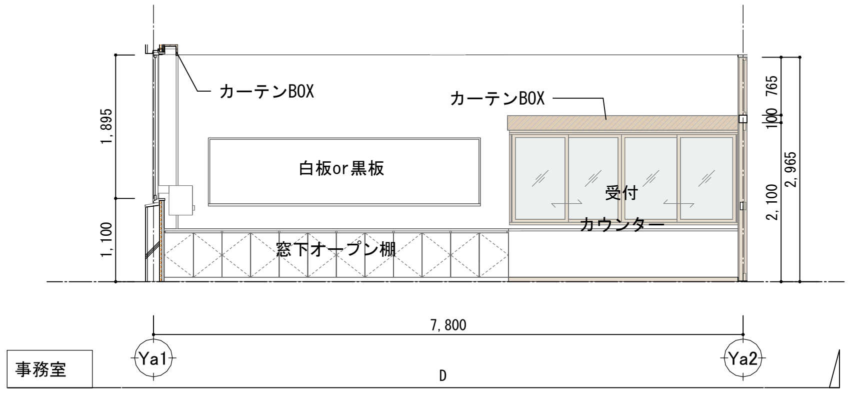
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
CR1 － 12	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2800
多目的教室	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2800

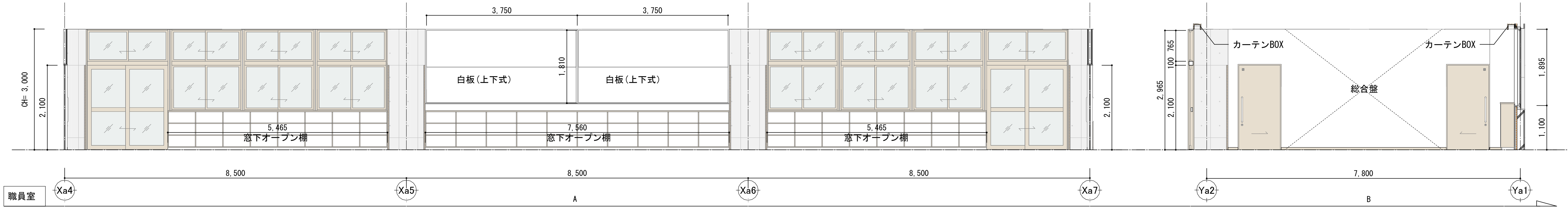
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　校舎棟　CR・多目的教室展開図	縮尺　A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2　図番　A-d01

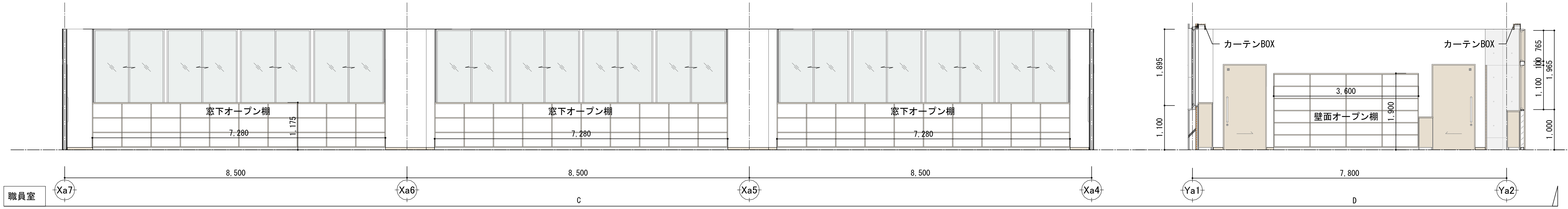






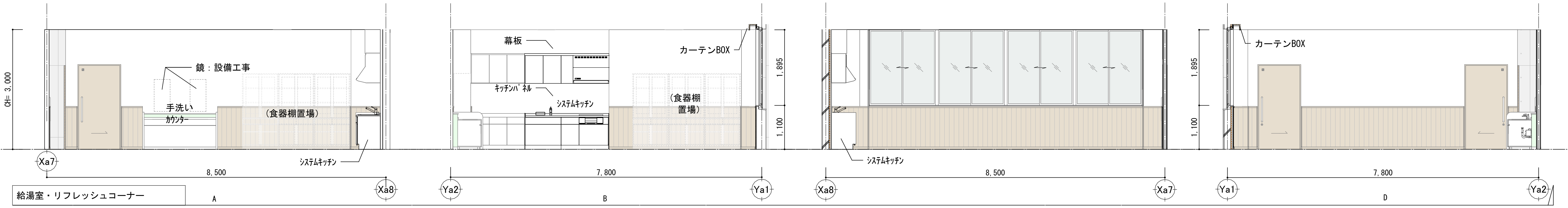




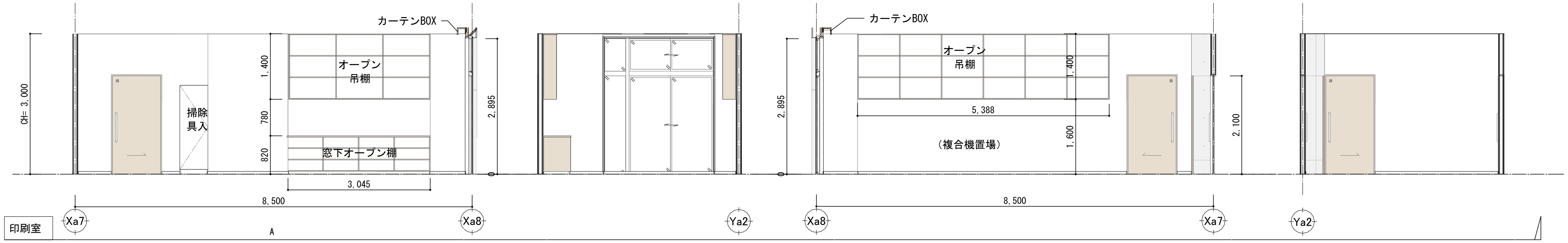


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
事務室	OAフロア（H100）＋ t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	EPG塗　（不燃）	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	3000
職員室	OAフロア（H100）＋ t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	EPG塗　（不燃）	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	3000
教育相談室1・2	t6.5カーペットタイル 教育相談室１一部：50角モザイクタイル	ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t5.5シナ合板+WP	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	2700

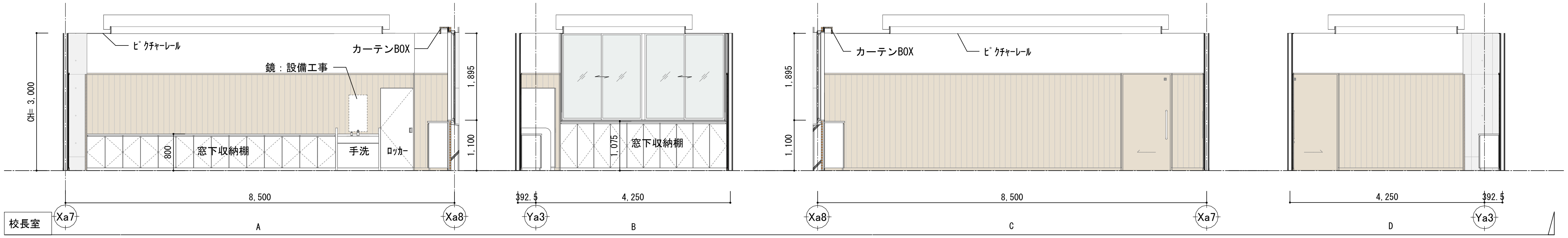
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　1階展開図　1	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d02



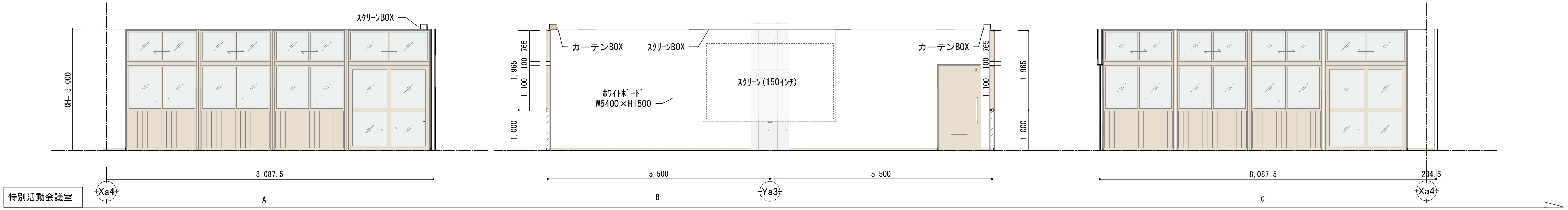
給湯室・リフレッシュコーナー



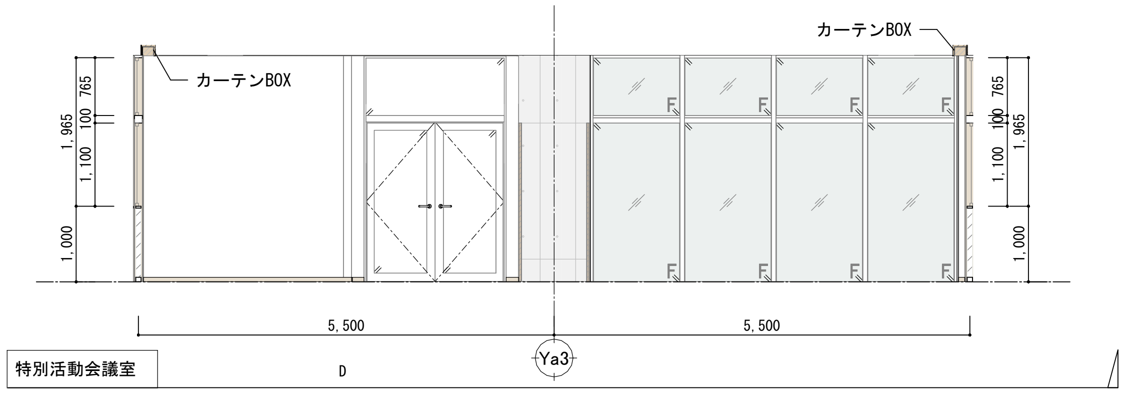
印刷室



校長室



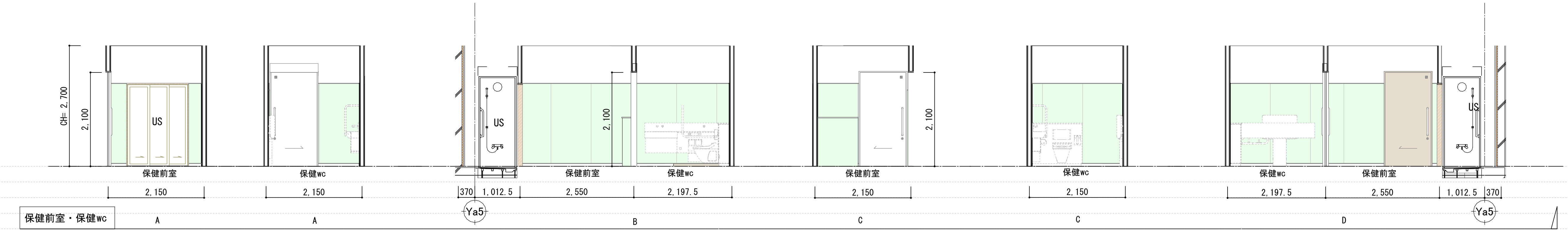
特別活動会議室



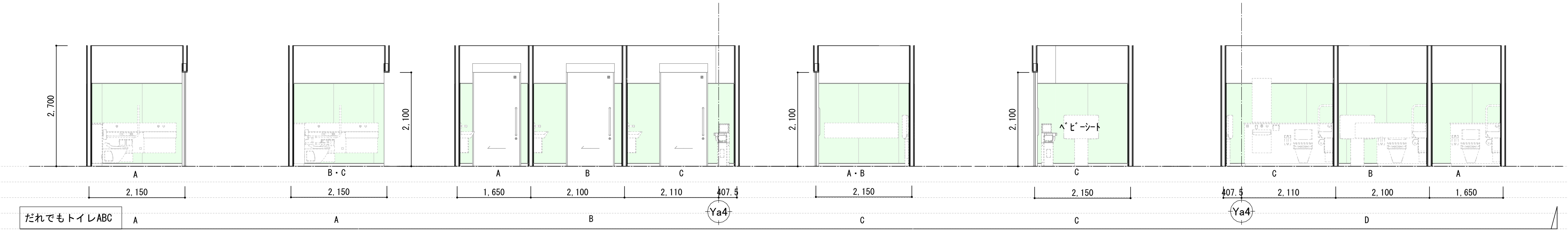
特別活動会議室

室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
給湯室・リフレッシュコーナー	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t5.5シナ合板+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	3000
印刷室	t2.5VS	VF	60	EPG塗（不燃）	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	3000
校長室	t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	3000,3400
特別活動会議室	t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	EPG塗（不燃）	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	3000

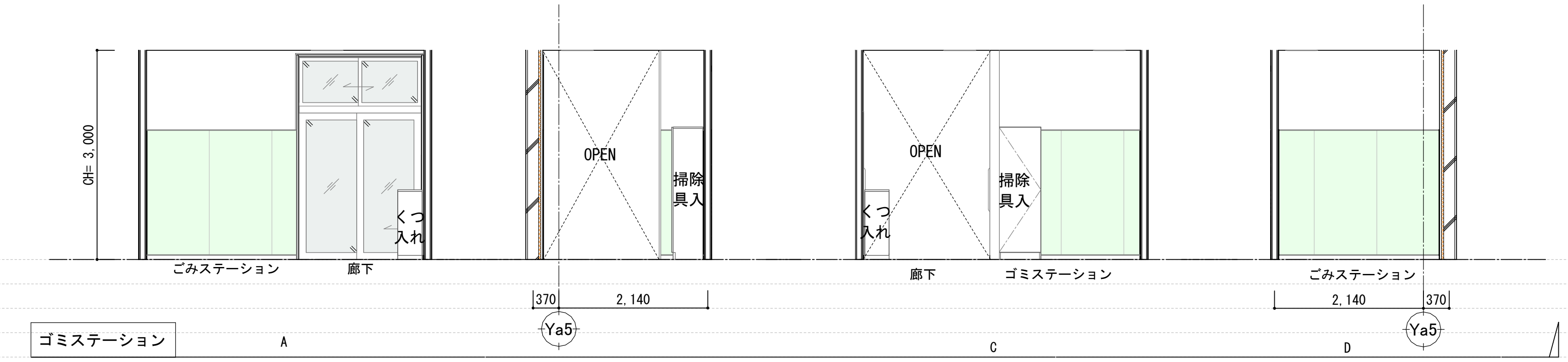
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟 1階展開図 2	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d03



保健前室・保健wc

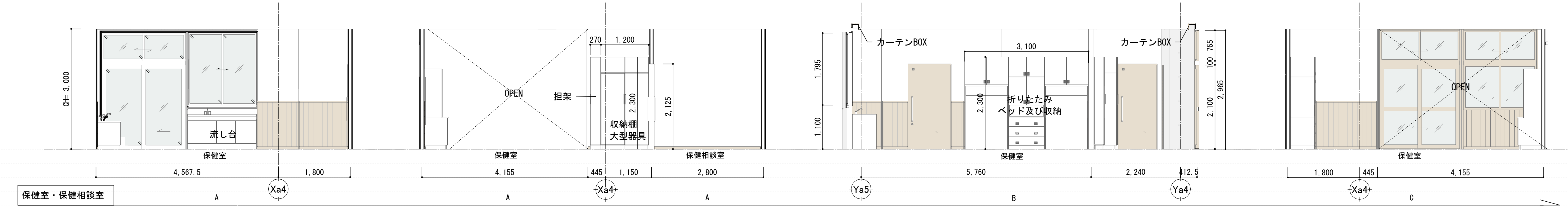


だれでもトイレABC

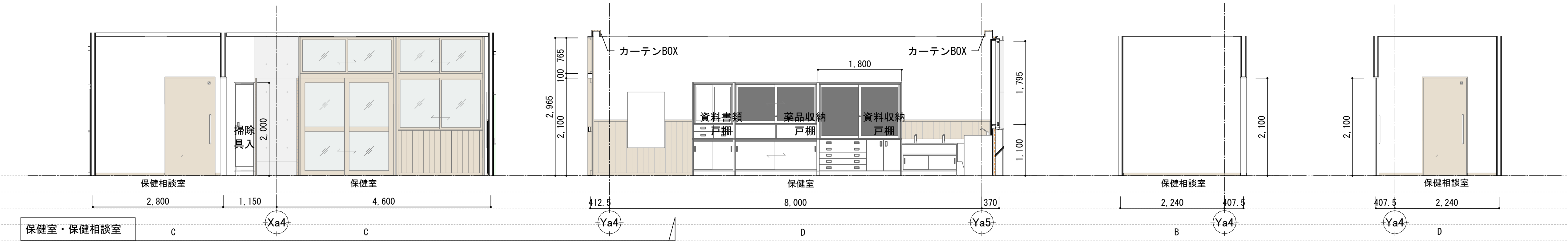


ゴミステーション

室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
だれでもトイレABC						
保健前室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	2700
保健WC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	2700
保健相談室	t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	クロス張り（不燃）	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	2700
保健室	t15.0複合フローリング直張り 一部：50角モザイクタイル張り	ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ WF+WP	150 60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t5.5シナ合板+WP	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	3000
ゴミステーション	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	3000

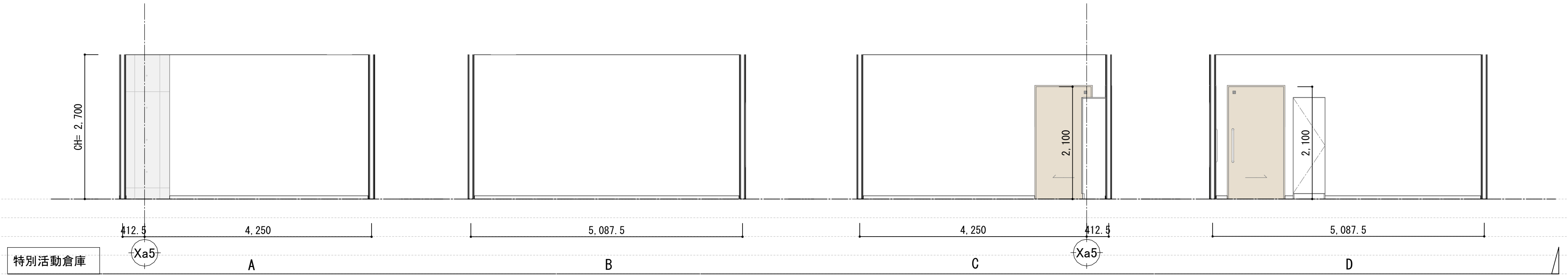


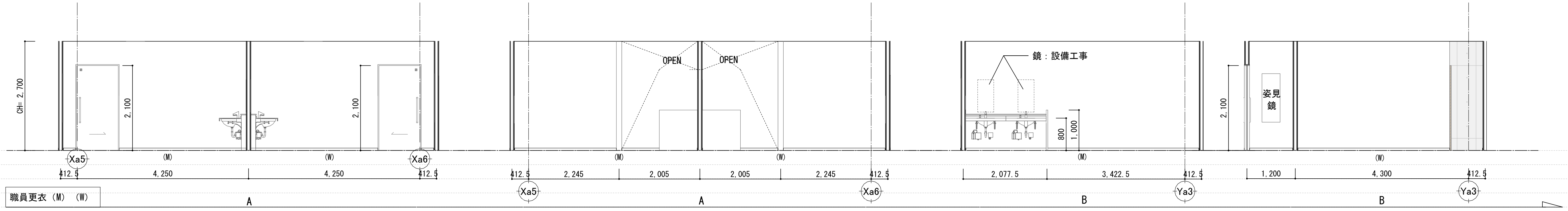
保健室・保健相談室

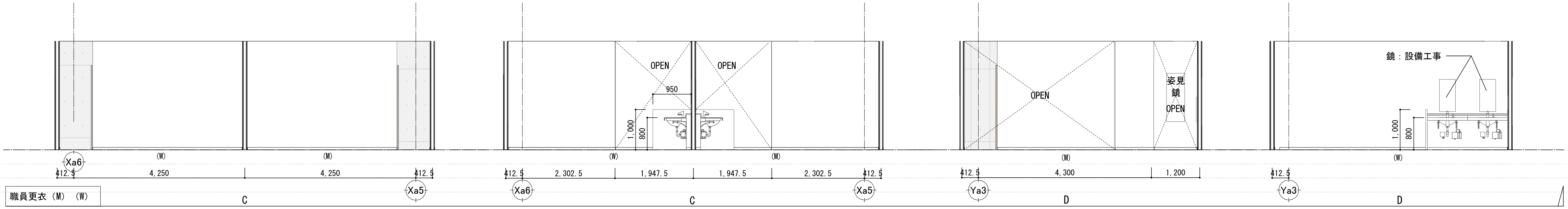


保健室・保健相談室

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟 1階展開図 3	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d04

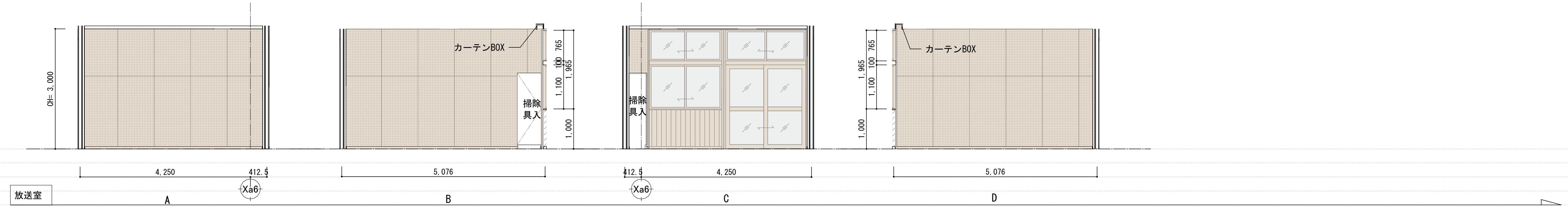


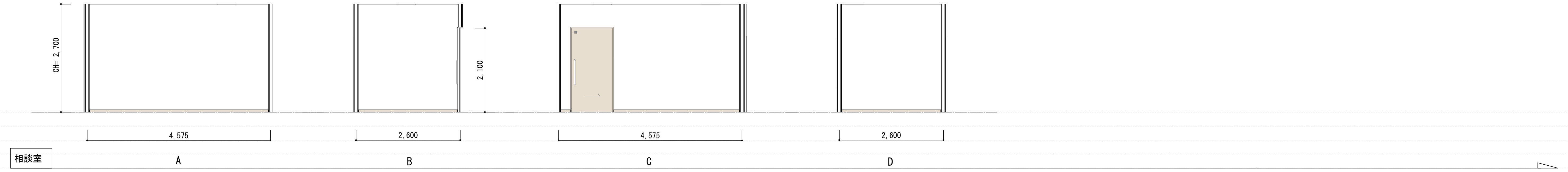


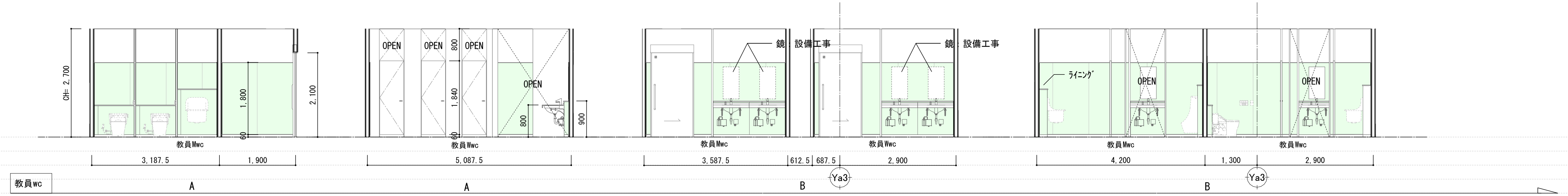


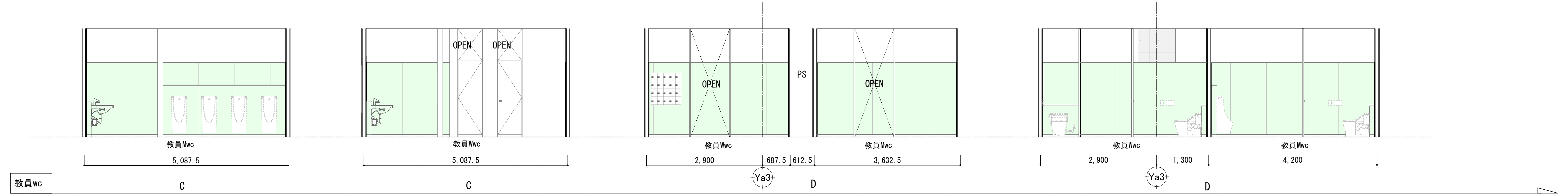
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
職員更衣(W)(M)	t2.5塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	2700
特別活動倉庫	t15.0複合フローリング直張り	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	2700

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟 1階展開図 4	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d05



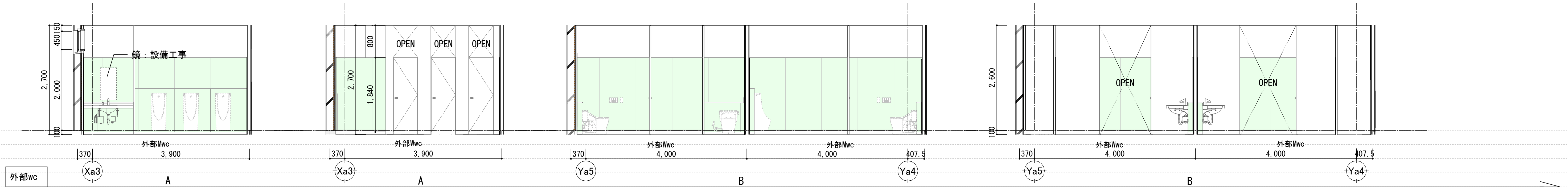


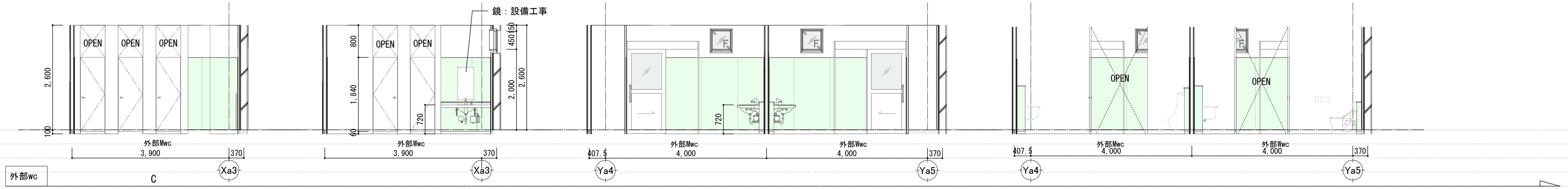


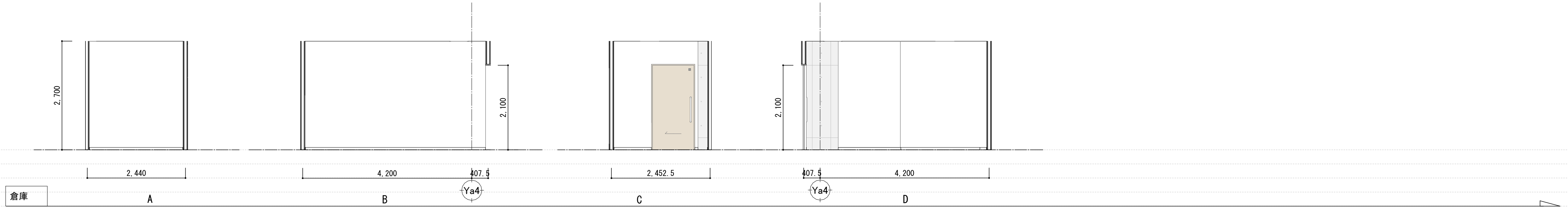


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
職員WC(M)(W)	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：GEP塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り（不燃）	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700
相談室	t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	クロス張り（不燃）	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700
放送室	t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	t8.0有孔ケイカル板（不燃）＋EPG塗	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	3000

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・　・	標題	校舎棟　1階展開図　5	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d06

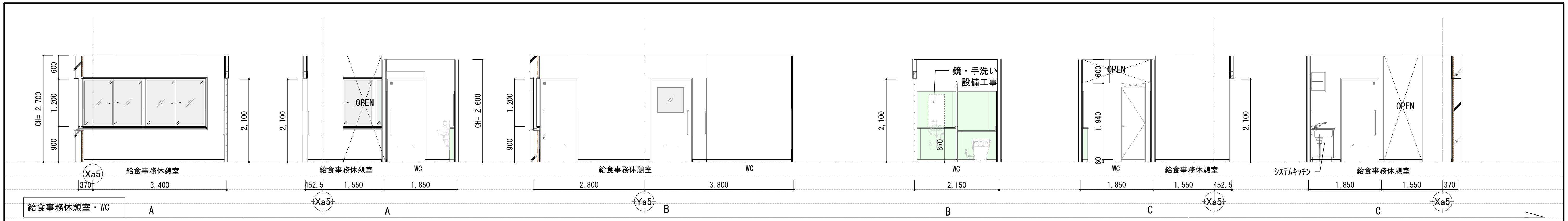




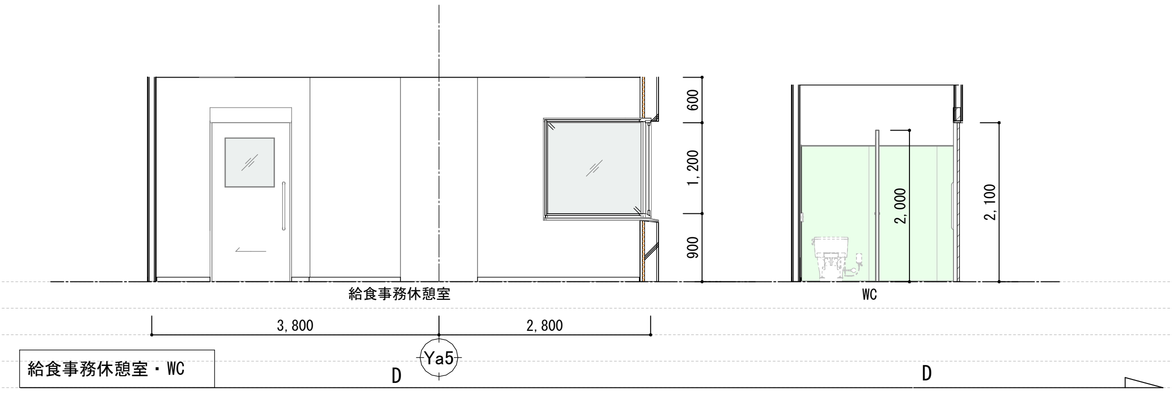


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
倉庫	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	2700
外部WC(M)(W)	50角モザイクタイル 汚垂石(TOTOハイドロセラ・フロアPU薄型同等品)	ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ	150	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り（不燃）	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700

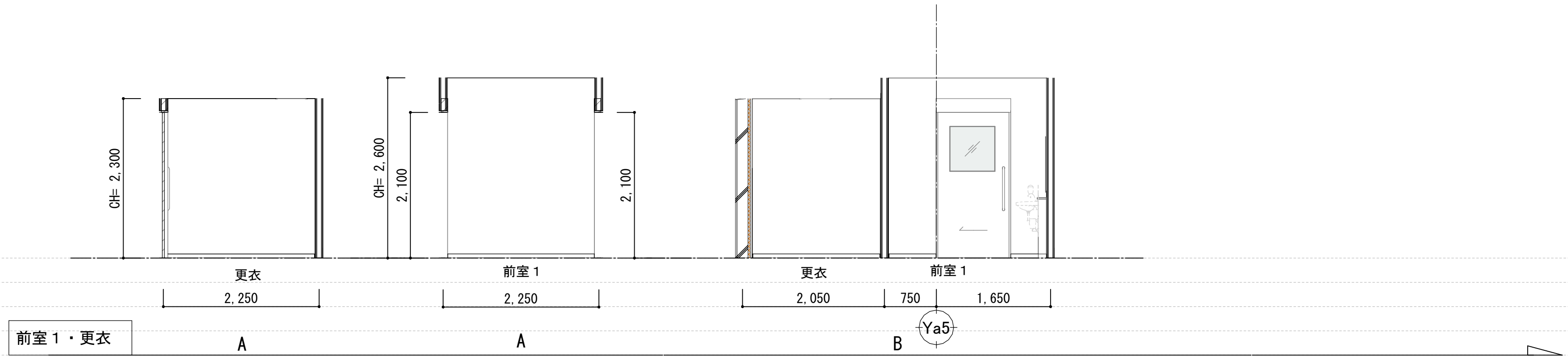
JOB NO. 125280
2026 年 月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳
設計 ・ ・
標題 校舎棟 1階展開図 6
縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2
図番 A-d07



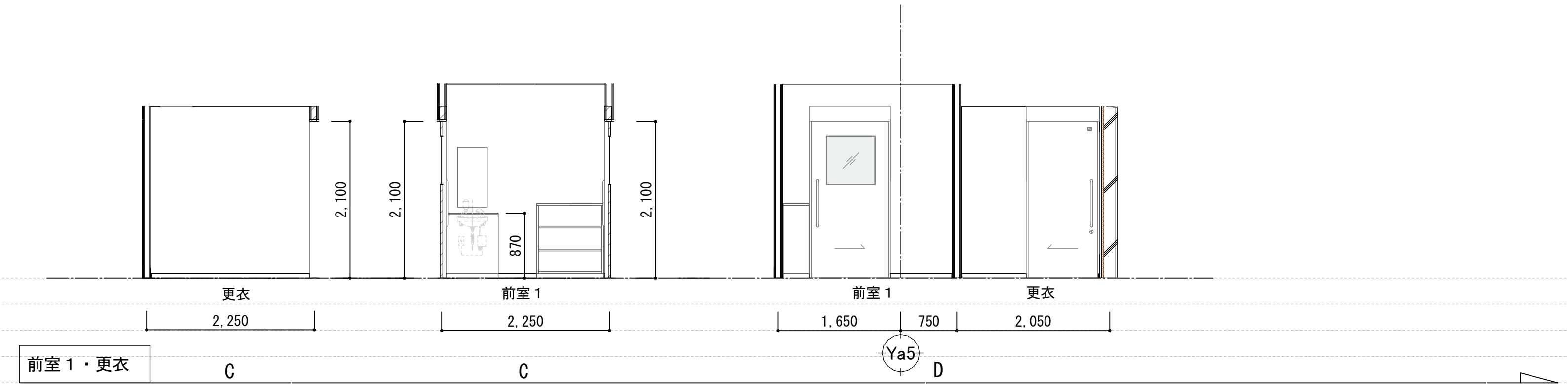
給食事務休憩室・WC



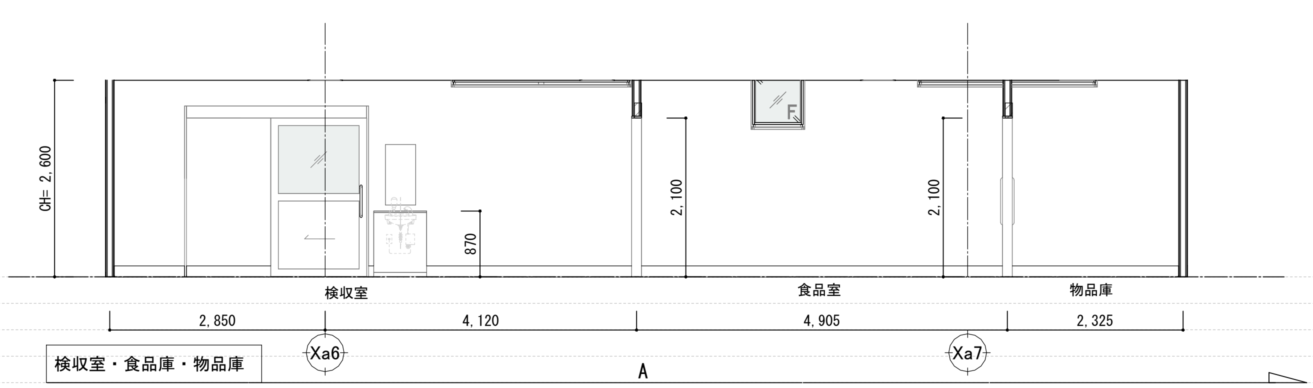
給食事務休憩室・WC



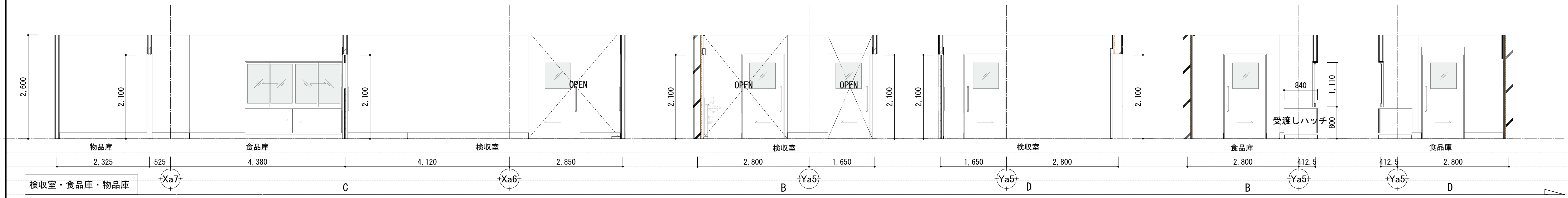
前室１・更衣



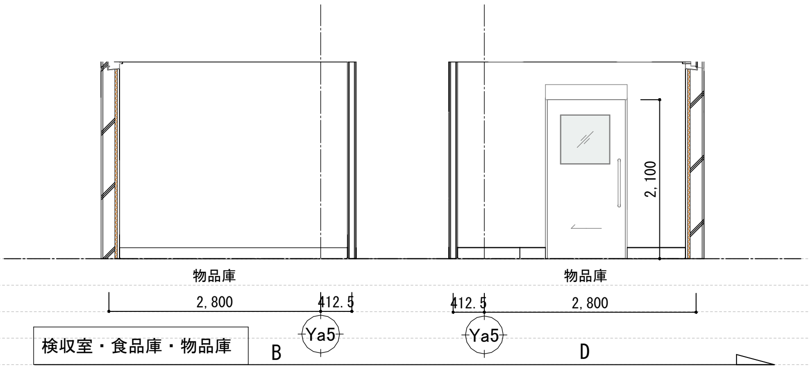
前室１・更衣



検収室・食品庫・物品庫



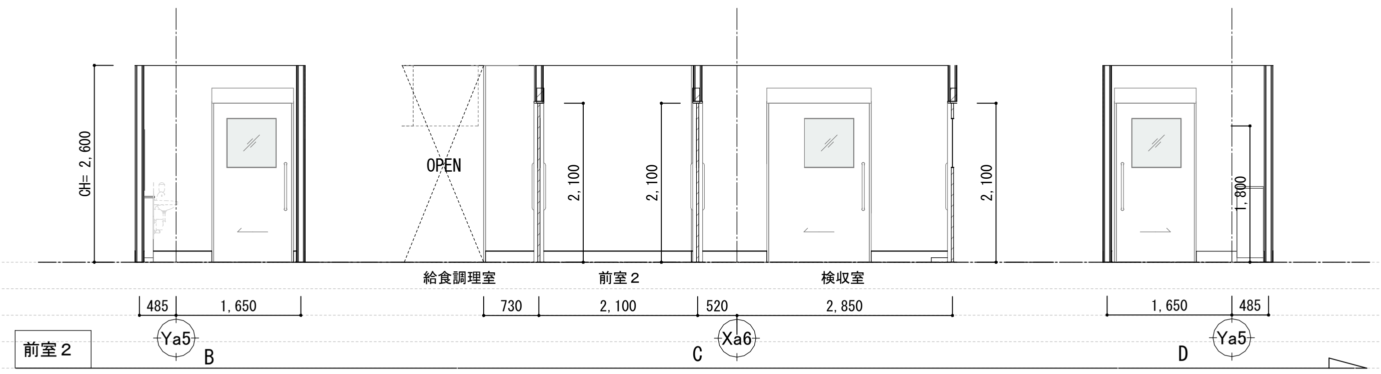
検収室・食品庫・物品庫



検収室・食品庫・物品庫

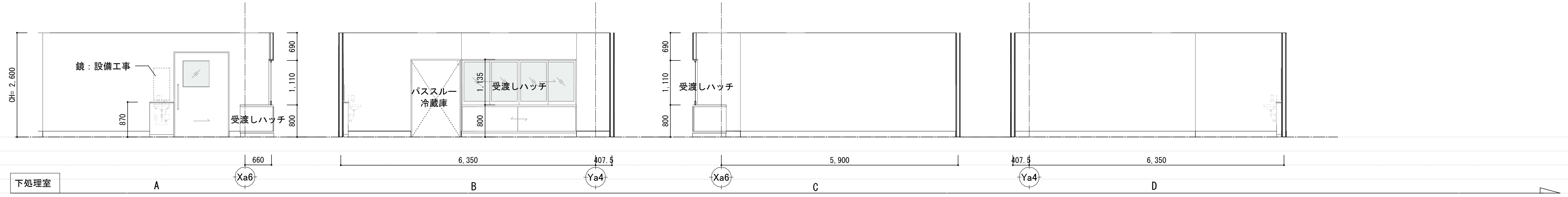
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
給食物品庫	t2.0長尺塩ビシート	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗 （不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食食品庫	t2.0長尺塩ビシート	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗 （不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食検収室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗 （不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食前室1	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食WC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2600
給食事務休憩室・更衣室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60		t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　１階展開図　７	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d08

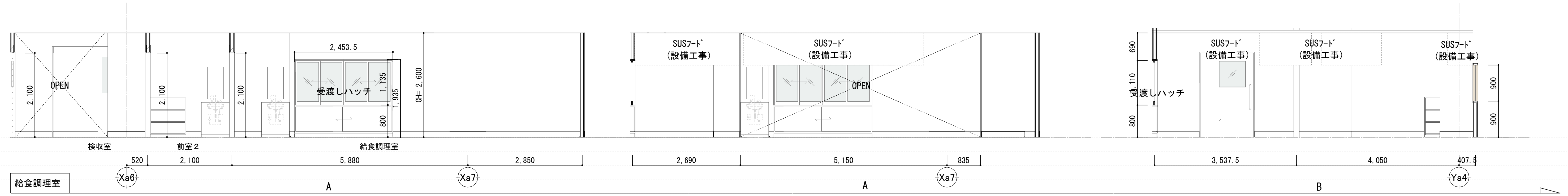


前室２

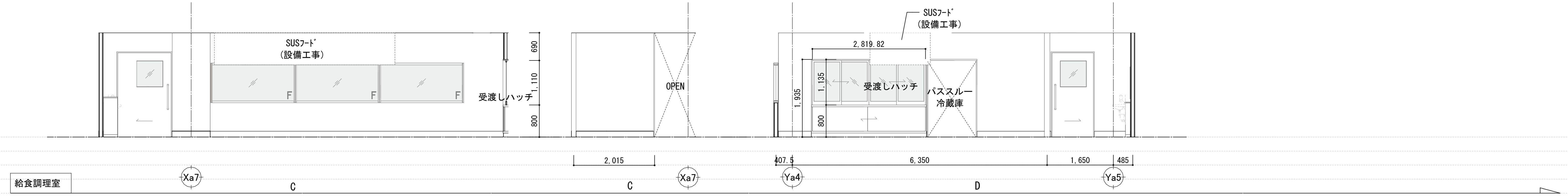
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
給食調理室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗　（不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食洗浄室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗　（不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食前室2	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗　（不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600
給食下処理室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗　（不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600



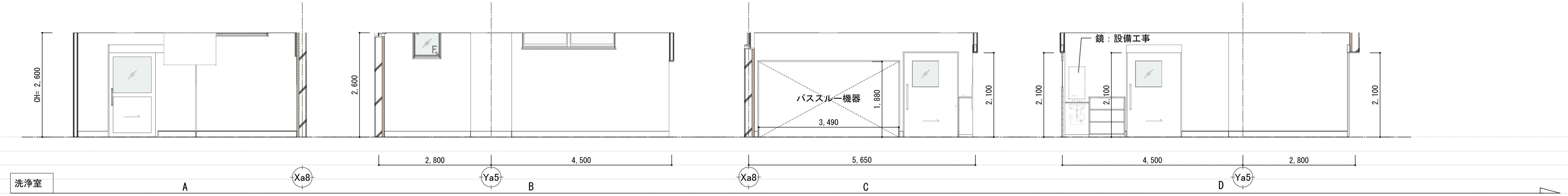
下処理室



給食調理室

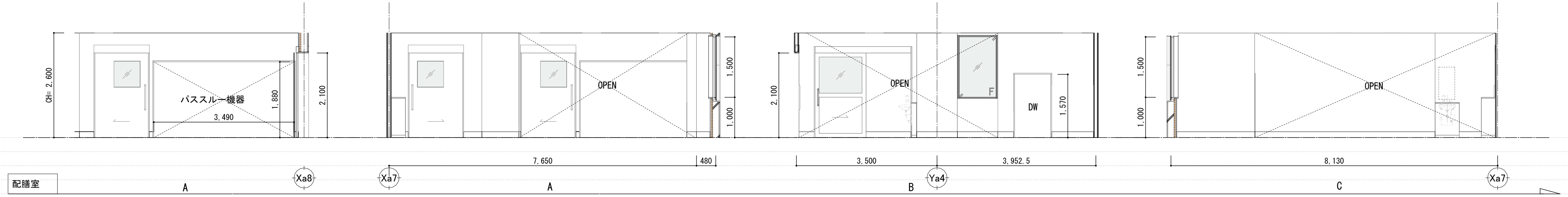


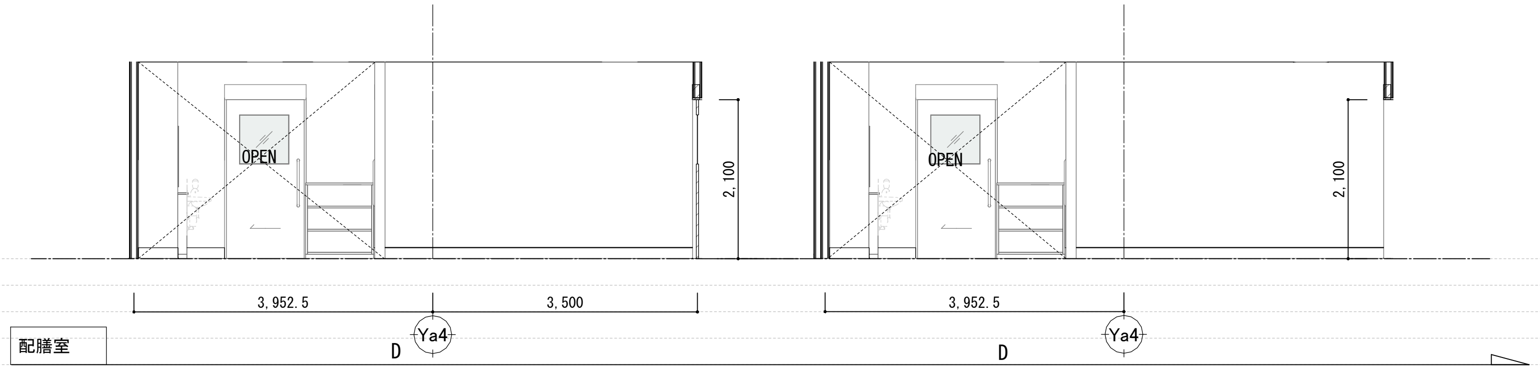
給食調理室



洗浄室

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社 浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　1階展開図　8	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d09





室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
給食配膳室	t2.0長尺塩ビシート （耐熱防滑仕様）	VS巻上	150	t6.0ケイカル板+EPG塗 （不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2600

JOB NO.
125280

2026 年　月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

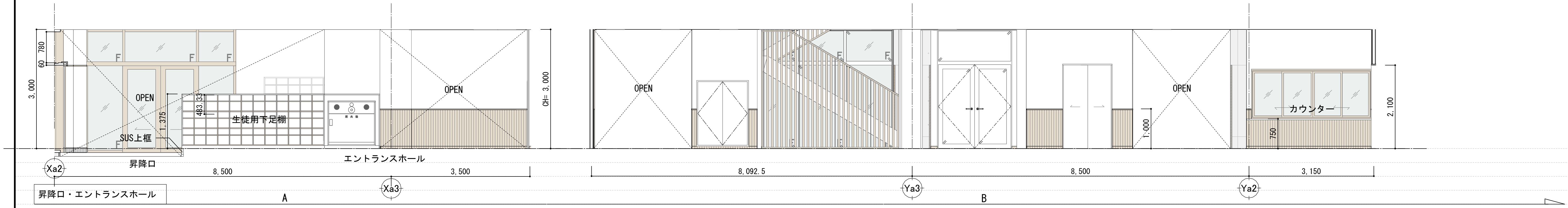
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

設計　・　・

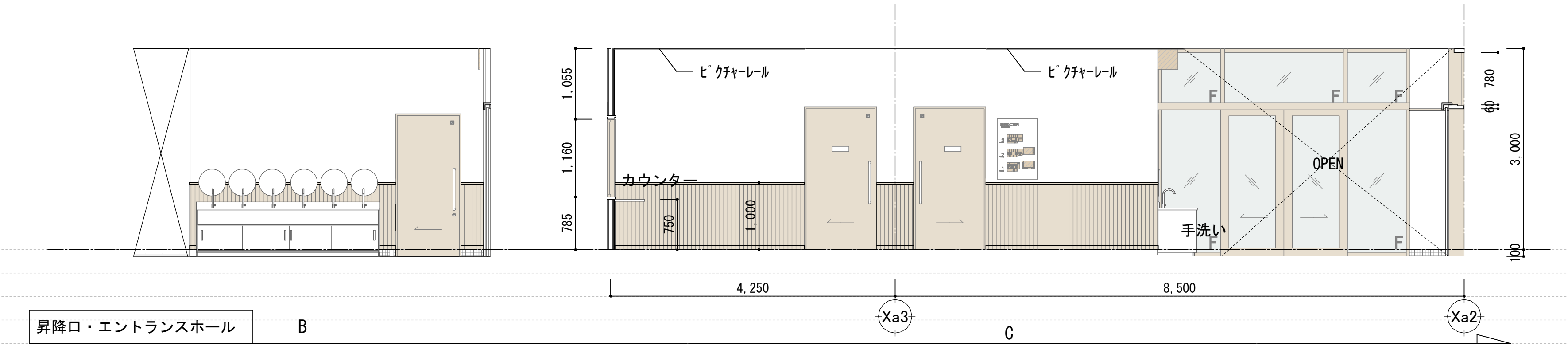
標題　校舎棟　1階展開図　9

縮尺　A1= 1 : 50　A3:A1 = 1:2

図番　A-d10

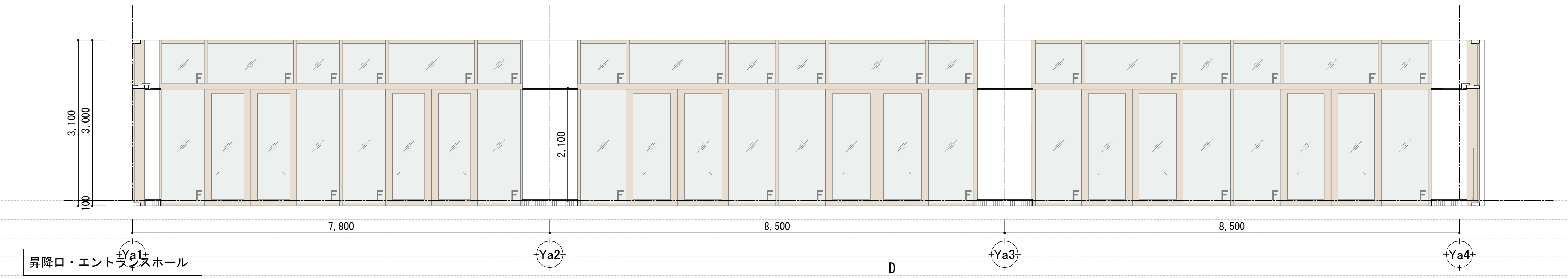


昇降口・エントランスホール

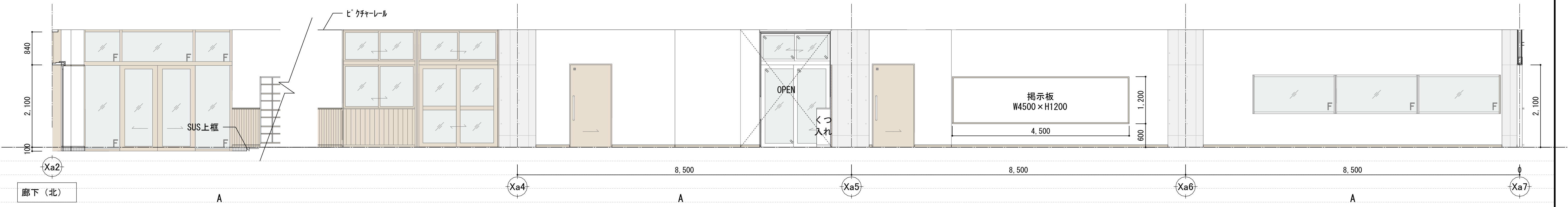


昇降口・エントランスホール

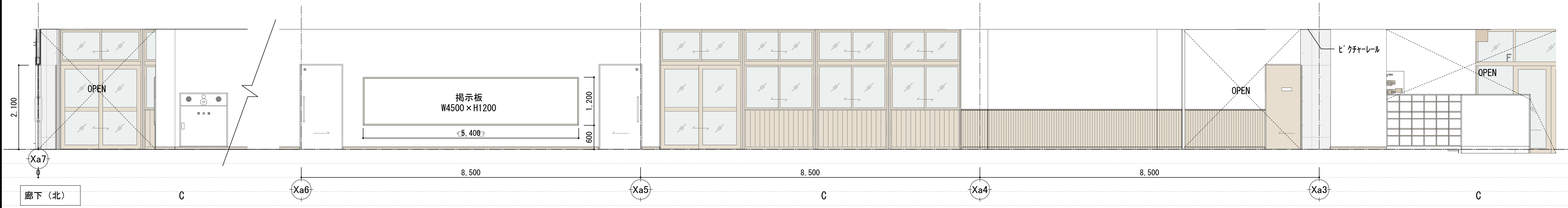
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
廊下(北東南)、通用廊下	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁:クロス張り(不燃) 一部腰壁:t12.0不燃能登ヒバ羽板張り+WP(不燃)	t9.5GB-NC+ t9.0AT(不燃)	3000
エントランスホール	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁:クロス張り(不燃) 腰壁:t12.0不燃能登ヒバ羽板張り+WP(不燃)	t9.5GB-NC+ t9.0AT(不燃)	3000
昇降口	50角モザイクタイル	50角 モザイクタイル	100	上壁:クロス張り(不燃) 腰壁:t12.0不燃能登ヒバ羽板張り+WP(不燃)	t9.5GB-NC+ t9.0AT(不燃)	3075~3100



昇降口・エントランスホール

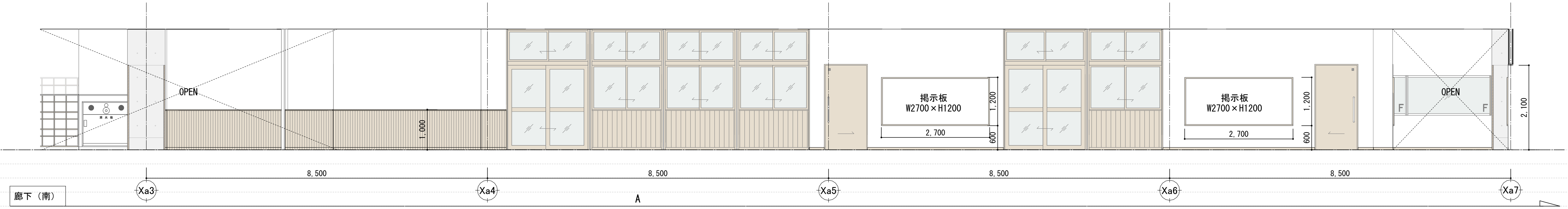


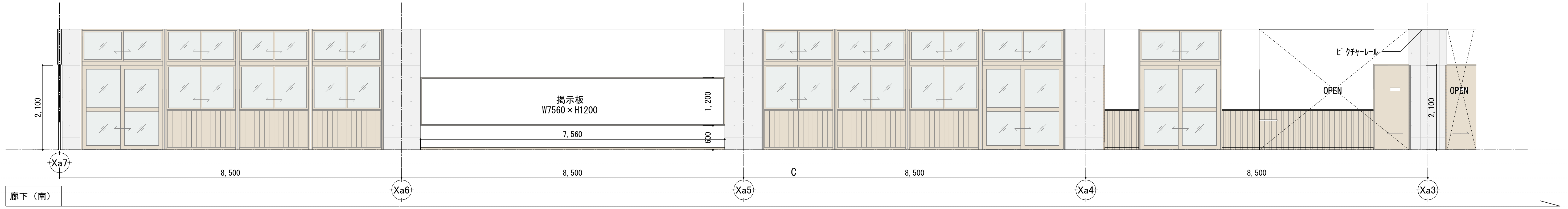
廊下（北）

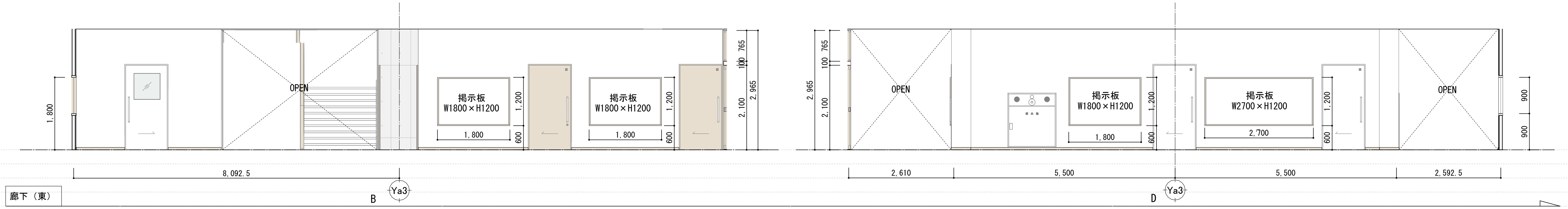


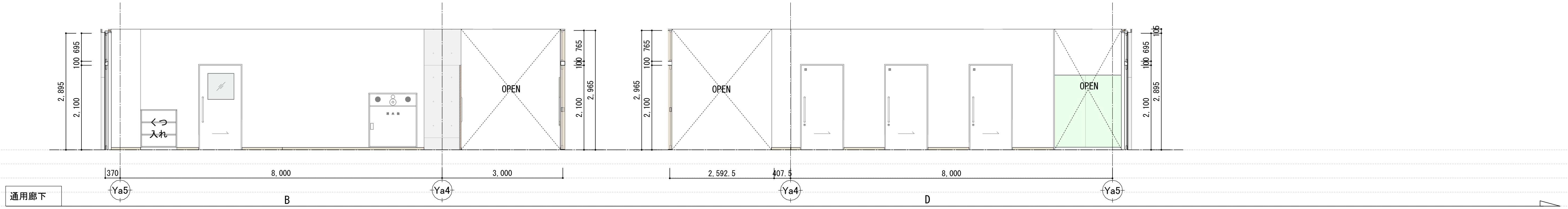
廊下（北）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟 1階展開図 10	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d11

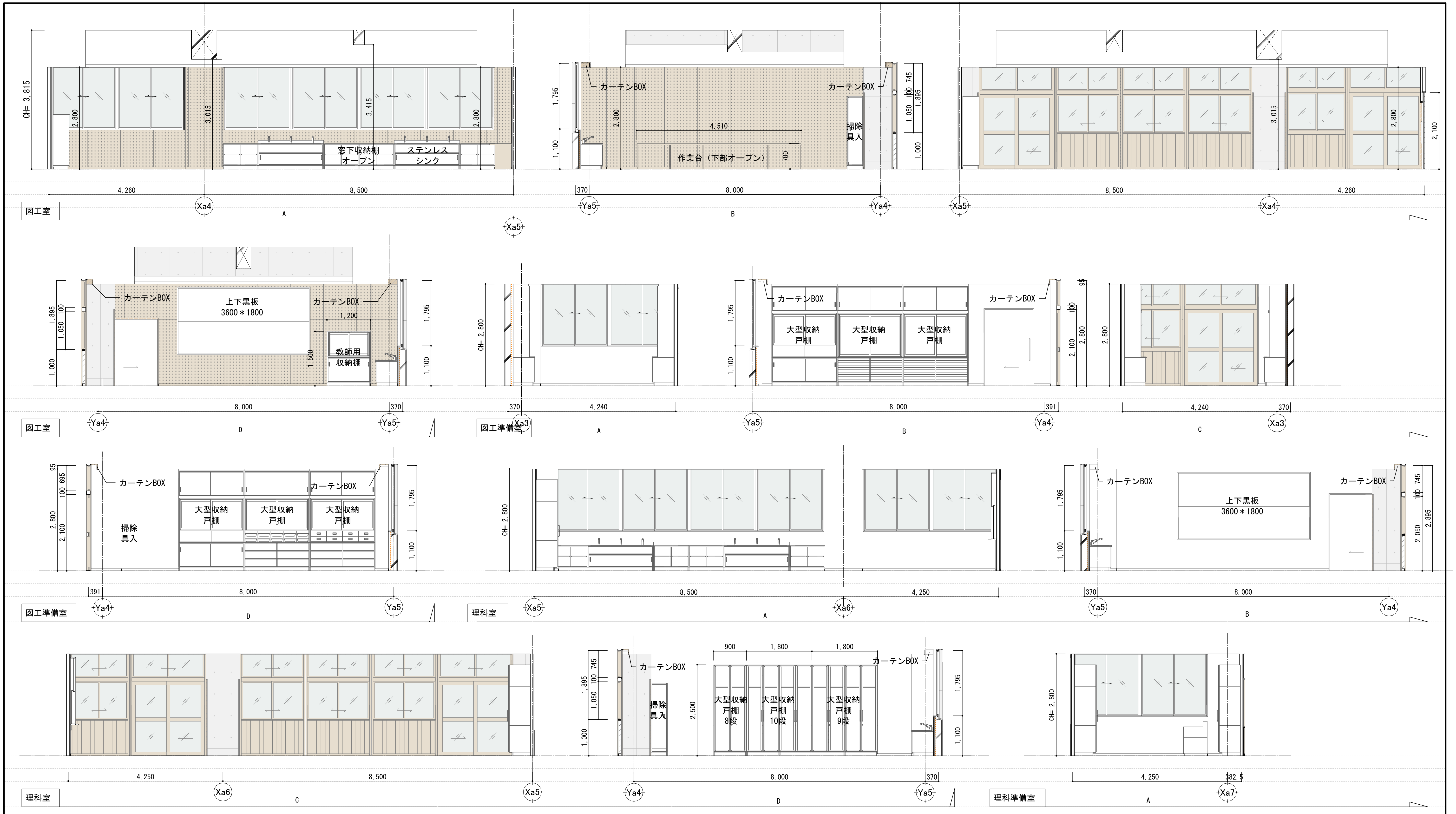


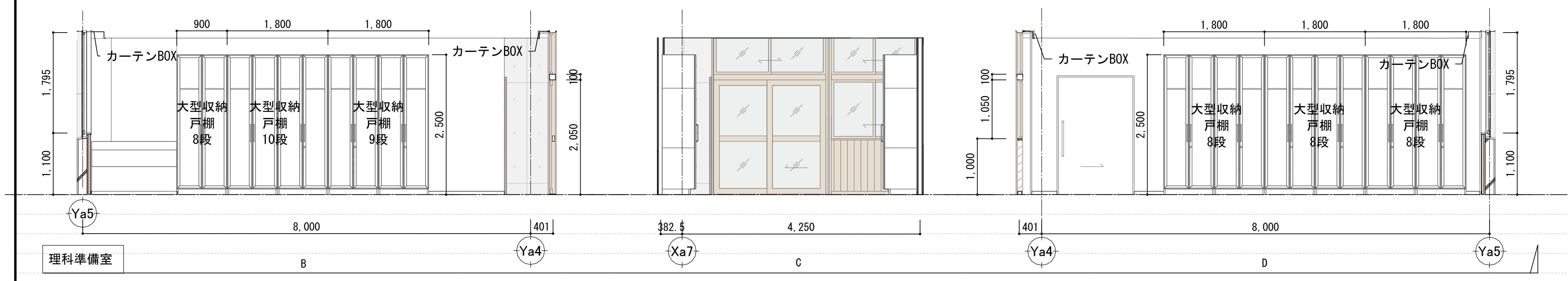






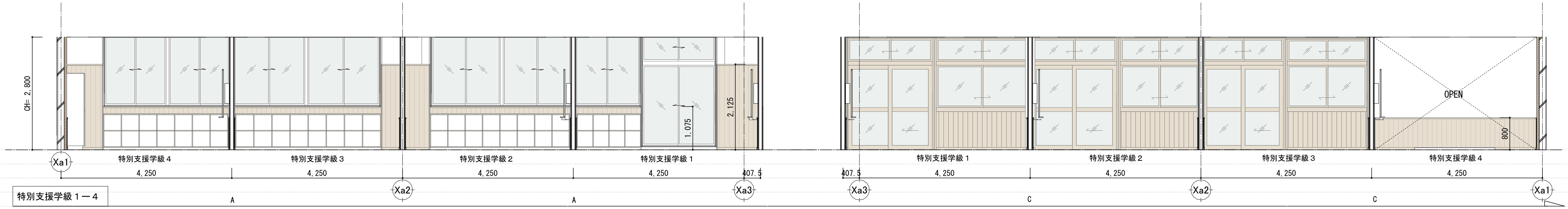
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　1階展開図　11	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d12



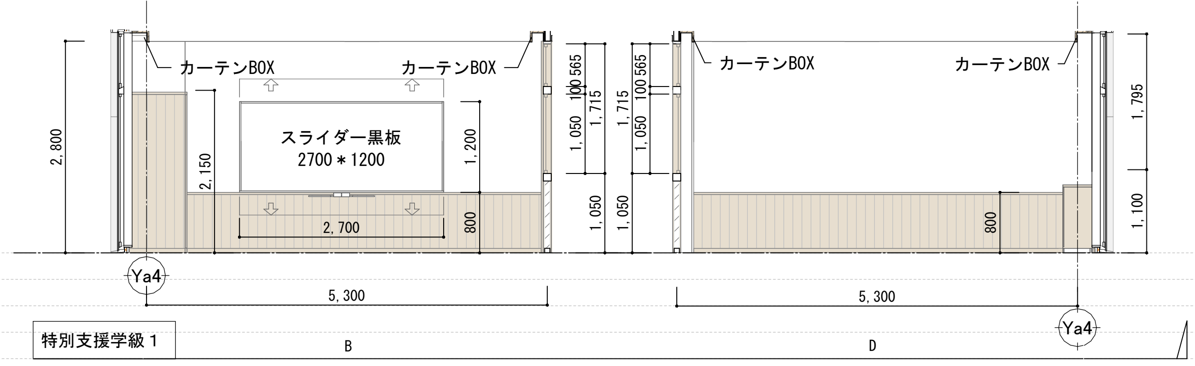


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
図工準備室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	2800
図工室	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	木下地+t5.5有孔シナ合板+WP	躯体現し、一部t9.5GB-NC+t9.0AT（不燃）	2800~3795
理科室	t2.5長尺塩ビシート(耐薬品)	VF	60	t6.0ケイカル板+GEP塗 （不燃）	t9.5GB-NC+t9.0AT（不燃）	2800
理科準備室	t2.5長尺塩ビシート(耐薬品)	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	2800

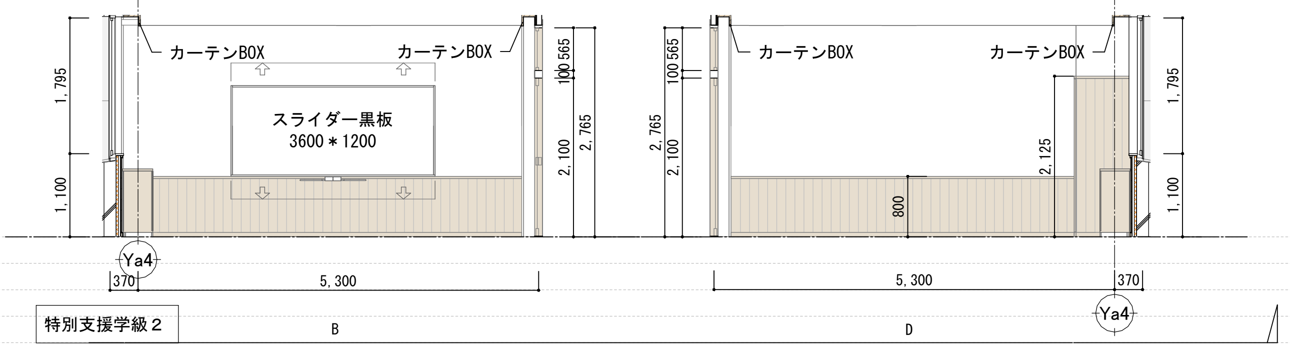
JOB NO. 125280
2026 年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　校舎棟　２階展開図　１
縮尺　A1=　1 : 50　A3:A1 = 1:2
図番　A-d13



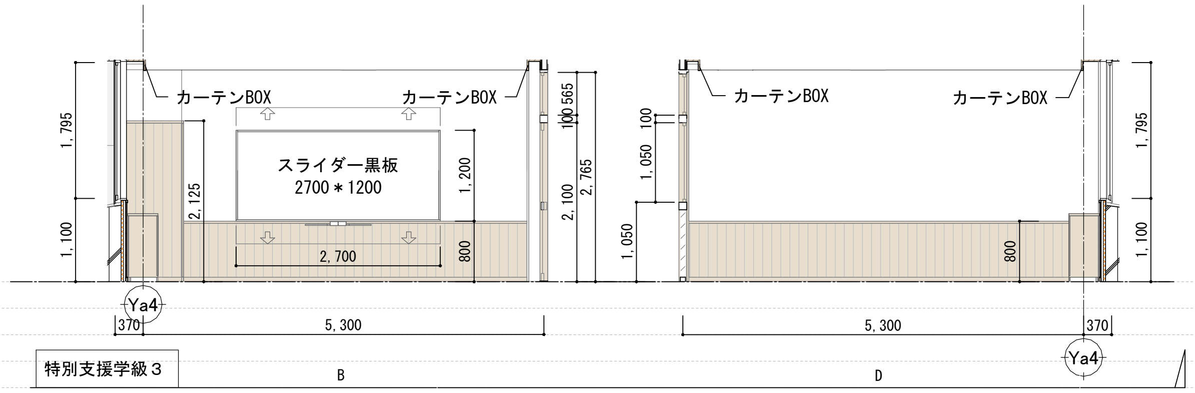
特別支援学級１－４



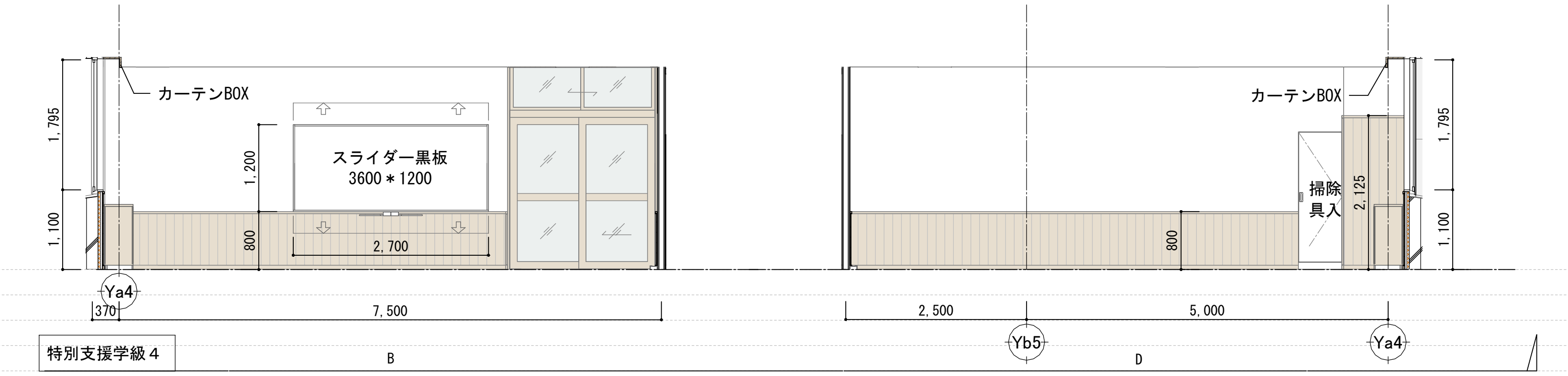
特別支援学級１



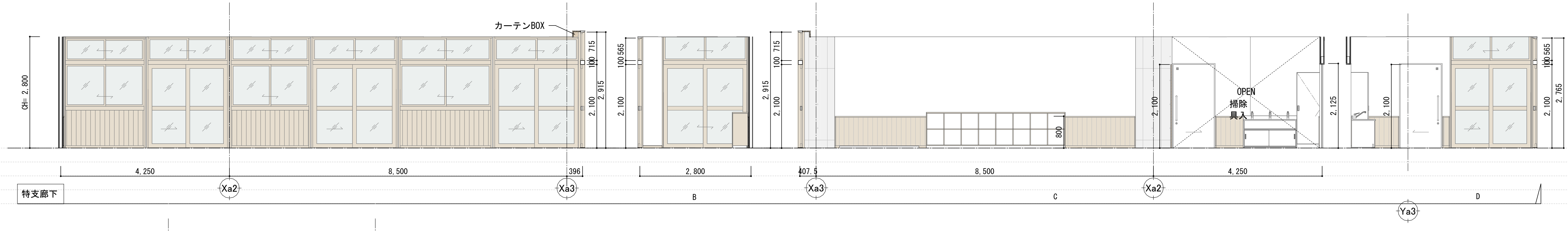
特別支援学級２



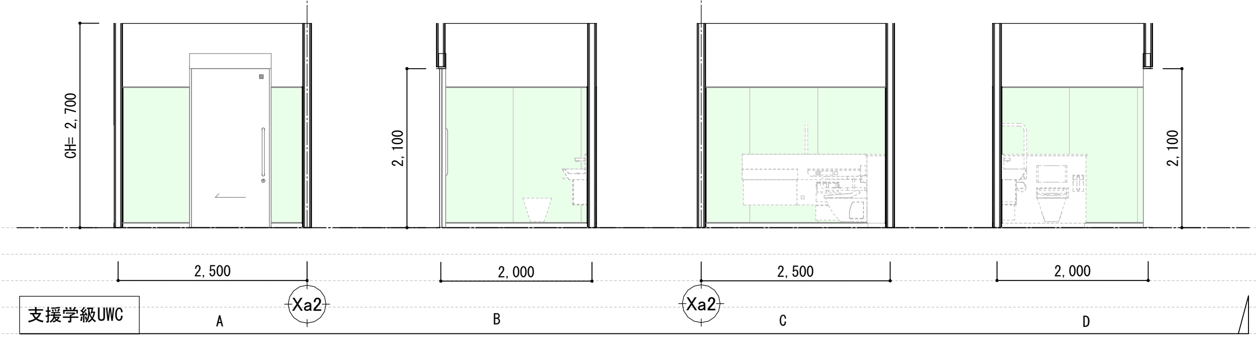
特別支援学級３



特別支援学級４



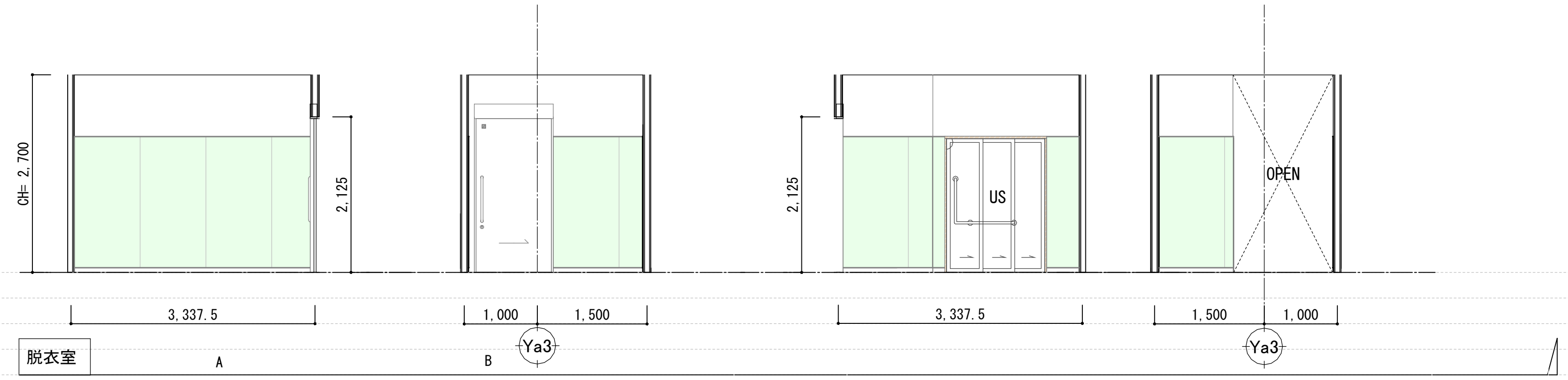
特支廊下



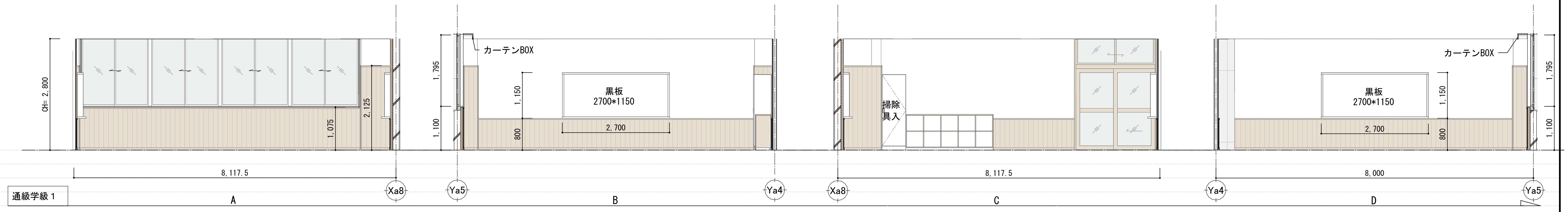
支援学級UWC

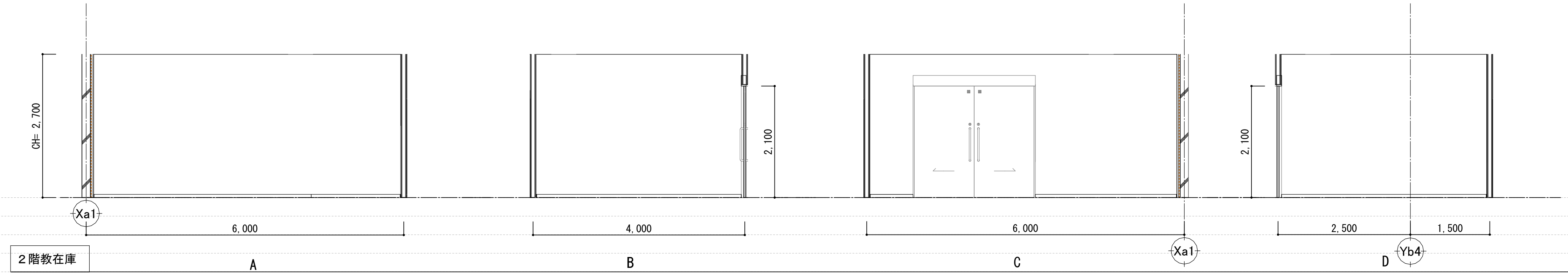
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
特別支援学級1-4	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2800
特支廊下	t15.0複合フローリング直張り 一部、t2.5長尺塩ビシート	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2800
支援学級UWC	t2.0長尺塩ビシート （消臭）	VF	60	上壁：EPG塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700

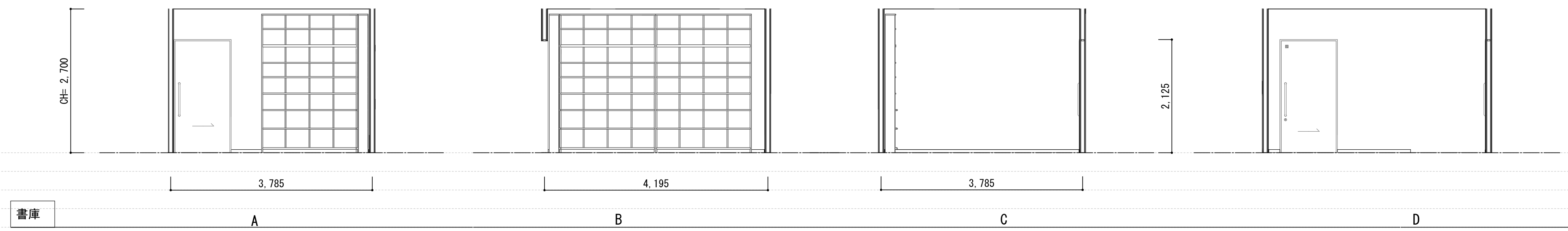
JOB NO.
125280
2026 年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　校舎棟　２階展開図　２
縮尺　A1=　1 ： 50
A3:A1 = 1:2
図番　A-d14

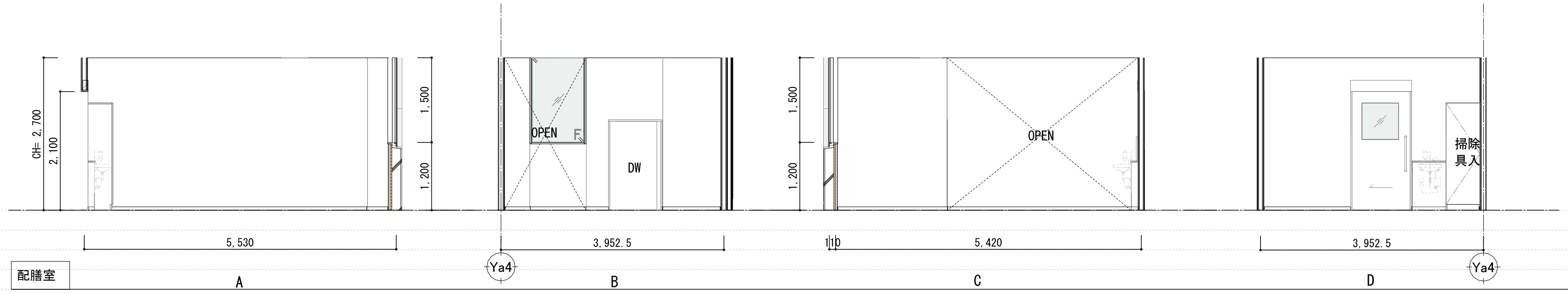


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
脱衣室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB-NC+ t9.0岩綿吸音板	2700
教材庫	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	2700
通級学級１	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2800
2-3階配膳室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	t6.0ケイカル板+EPG塗 （不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+ EPG塗（不燃）	2700
書庫	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボード（不燃）	2700

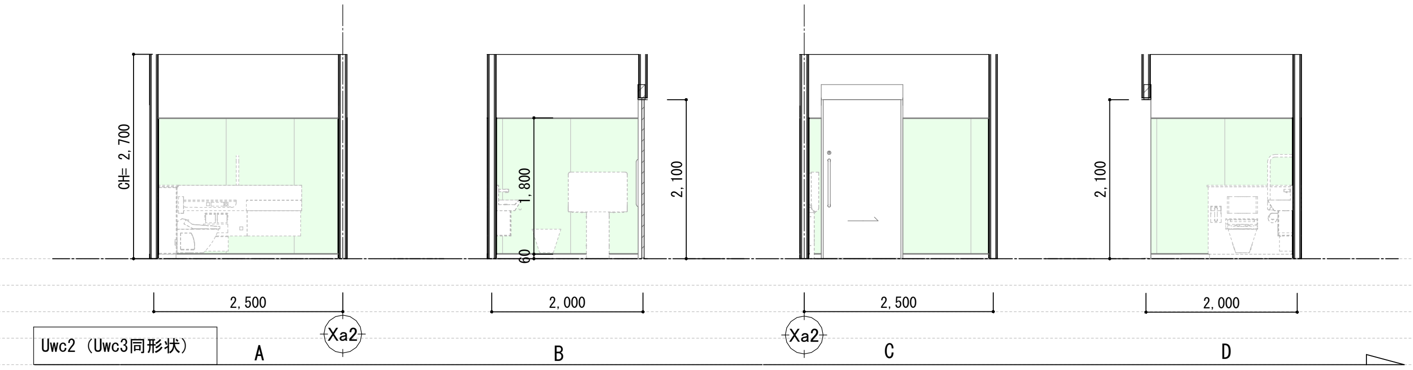


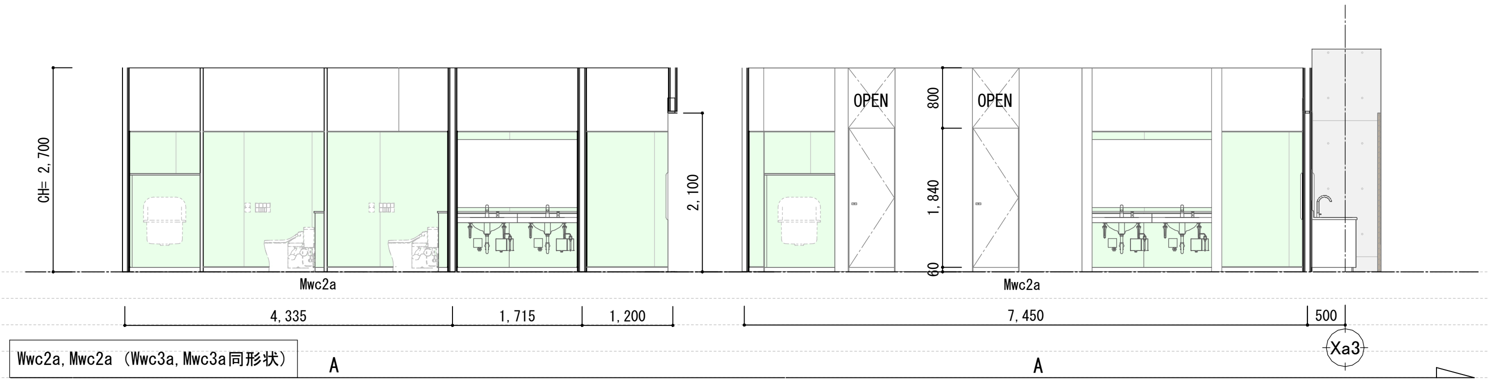


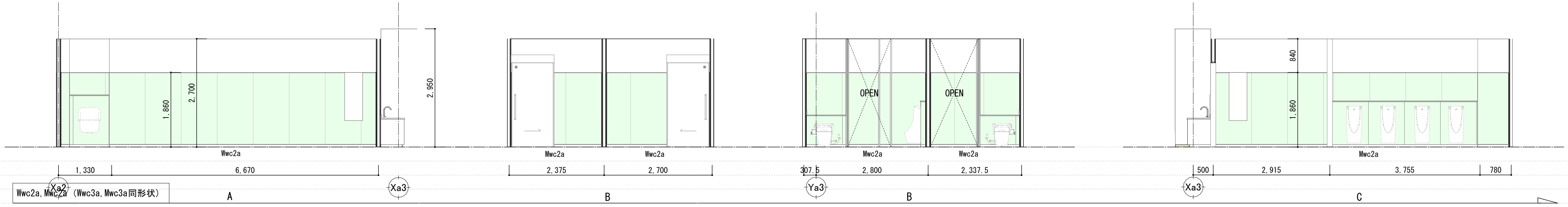


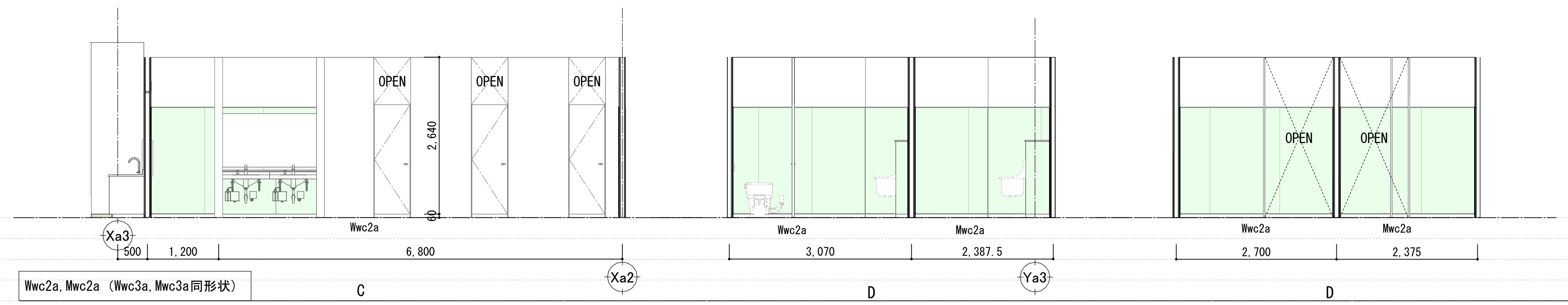


JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟 ２階展開図 ３	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d15

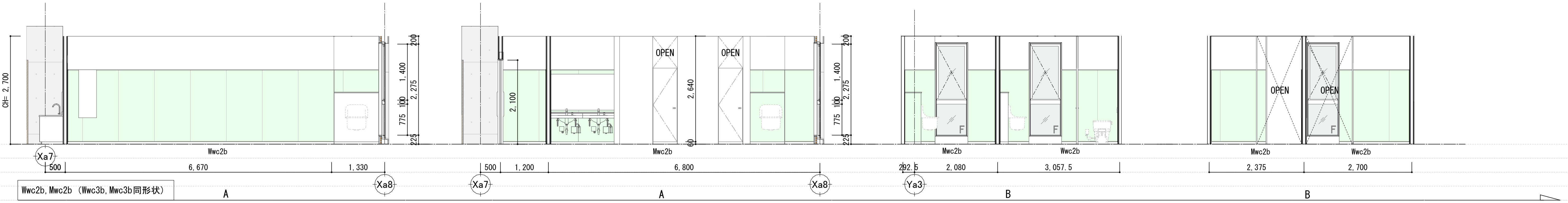


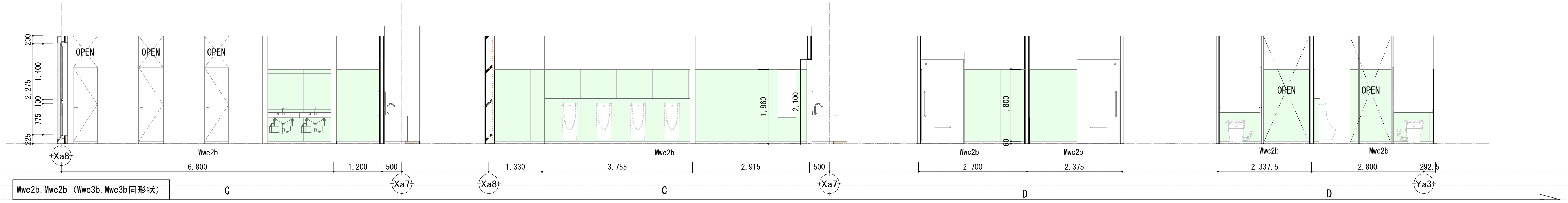




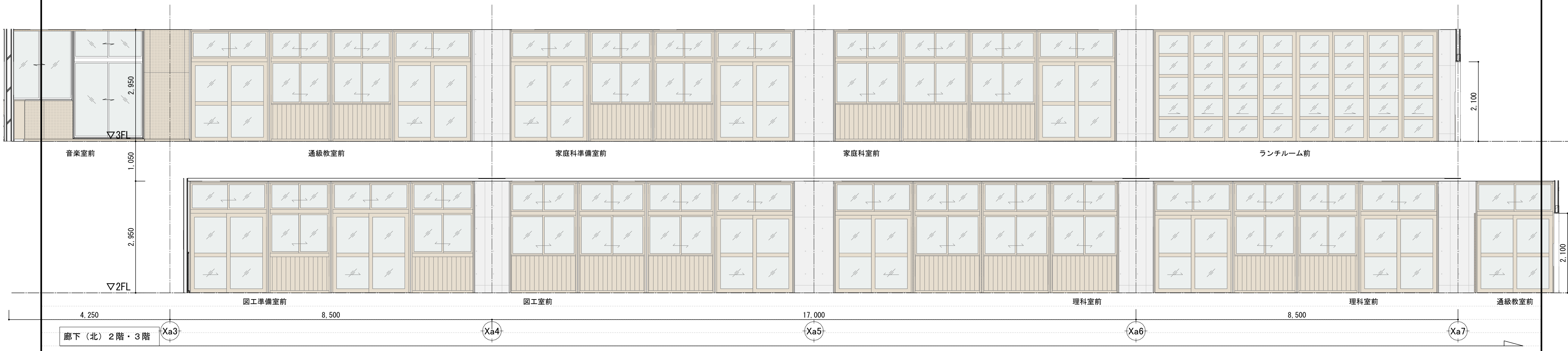


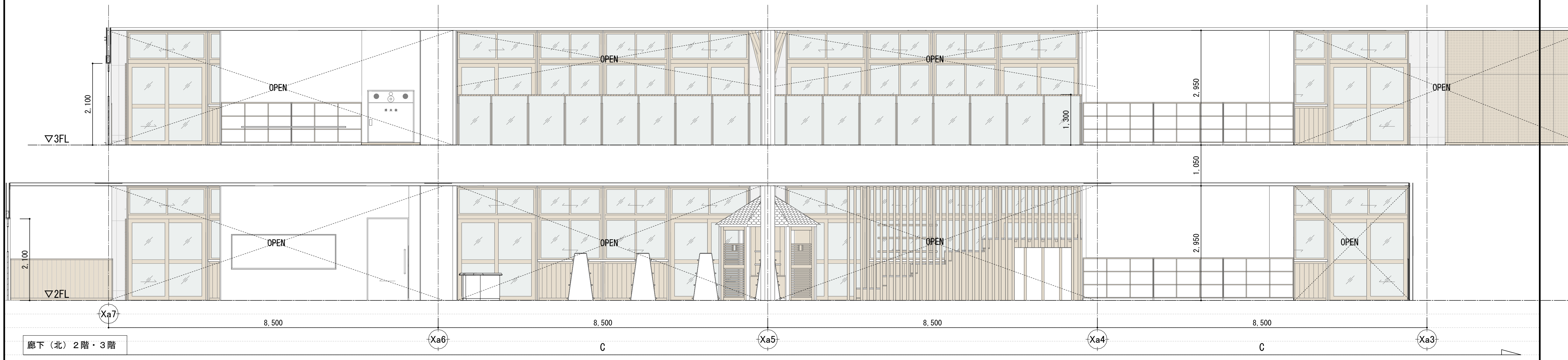
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
UWC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：EPG塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700
WC_a・b(M)(W)	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：EPG塗　（不燃） 腰壁：t6.0化粧ケイカル板張り	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	2700





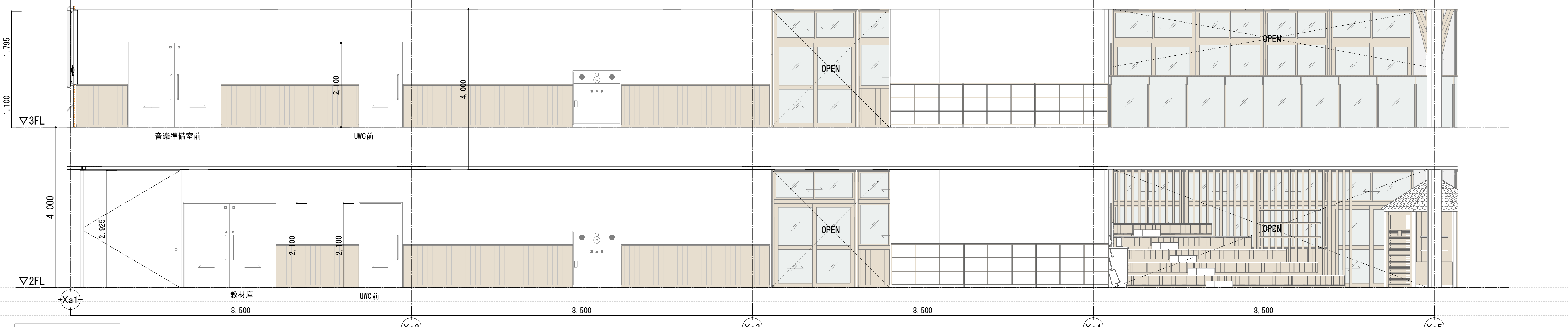
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計 ・ ・	標題	校舎棟　２階展開図　４	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d16



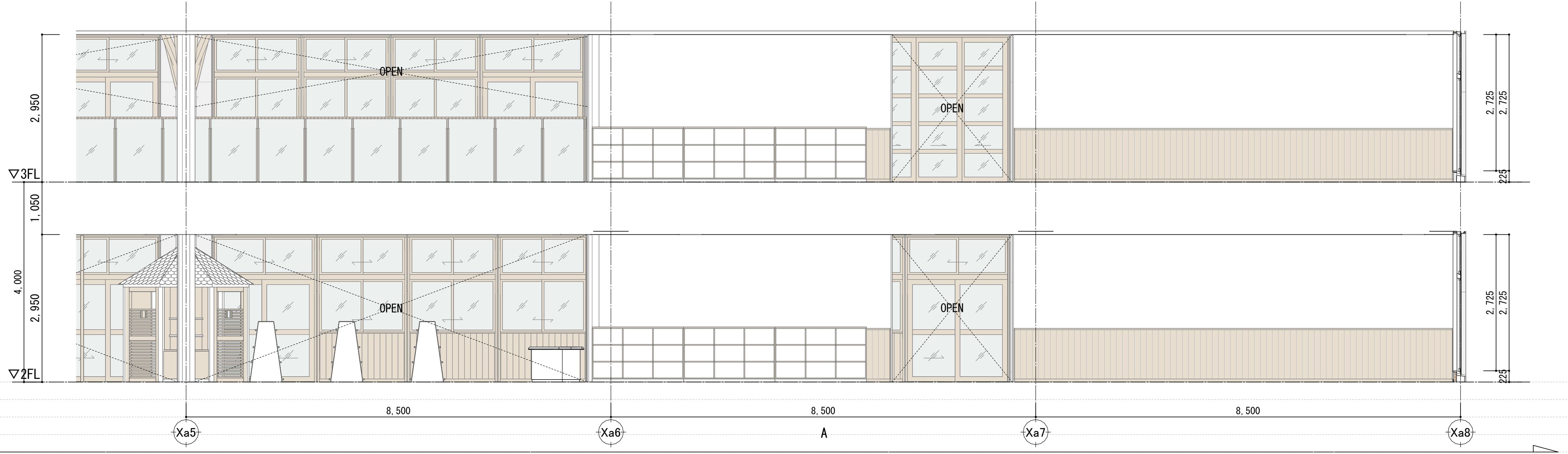


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
2-3階廊下(北東南西)	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+t9.0AT（不燃）	2950

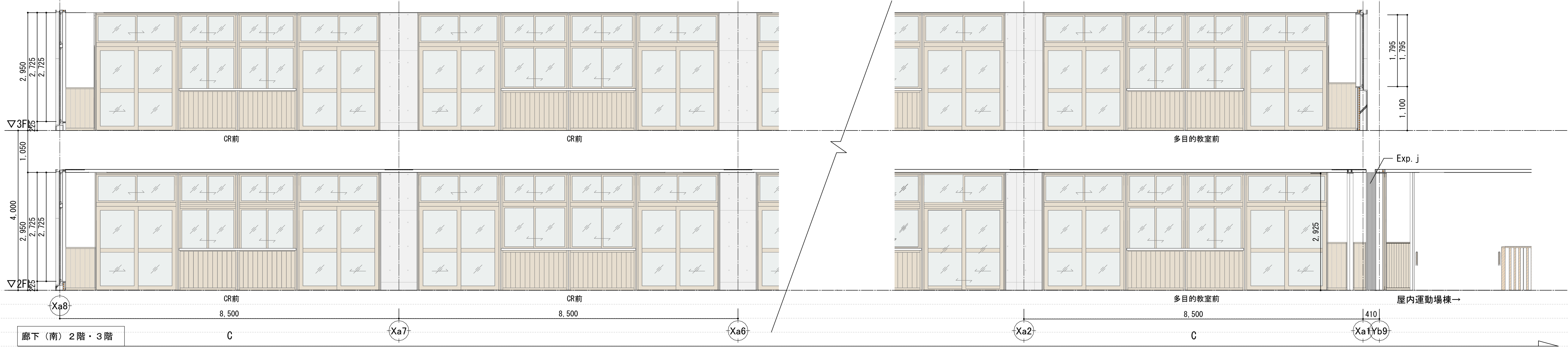
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士　第276761号　浦　淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟　２階展開図　５	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d17



廊下（南）２階・３階

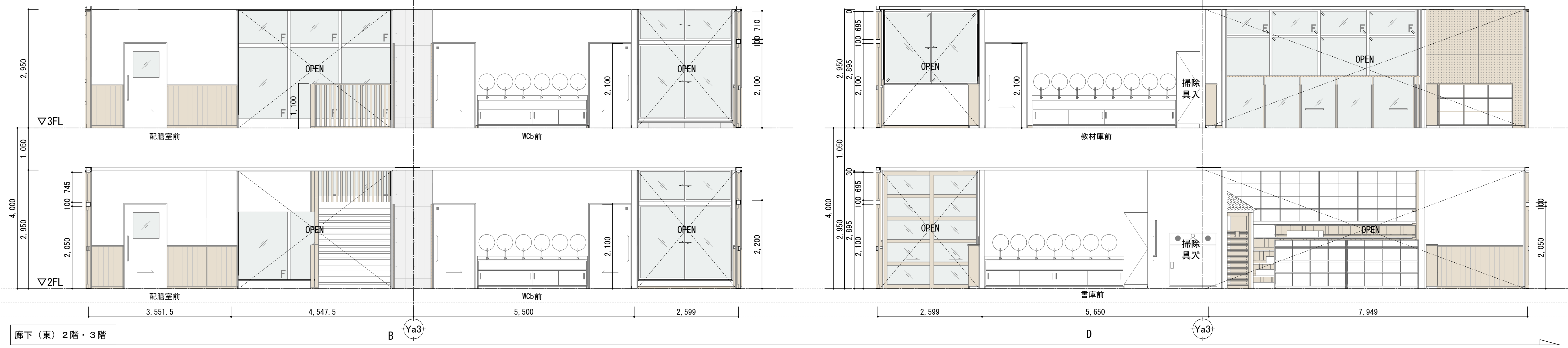


廊下（南）２階・３階

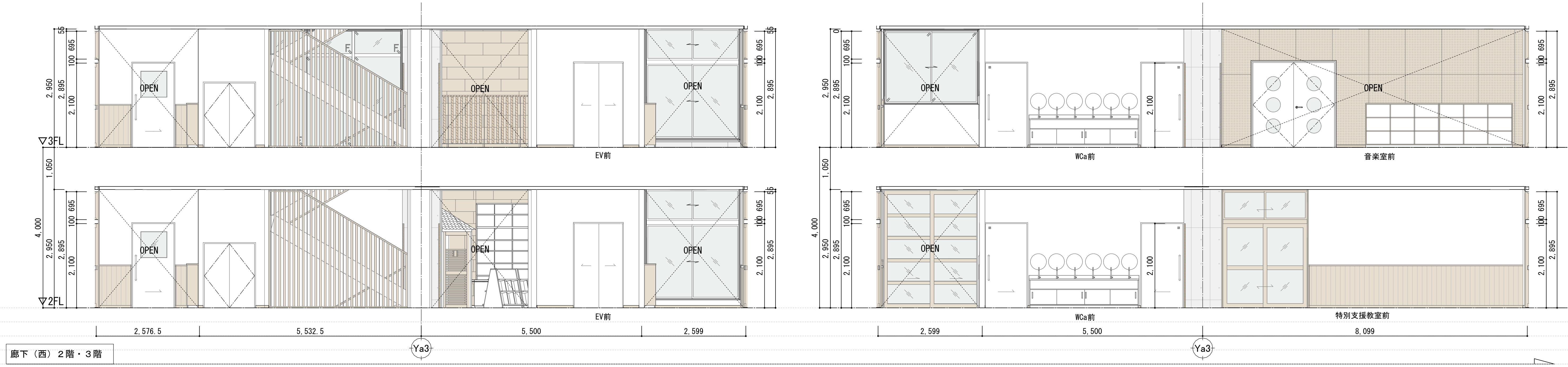


廊下（南）２階・３階

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社 浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　校舎棟　２階展開図　６	縮尺　A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番　A-d18

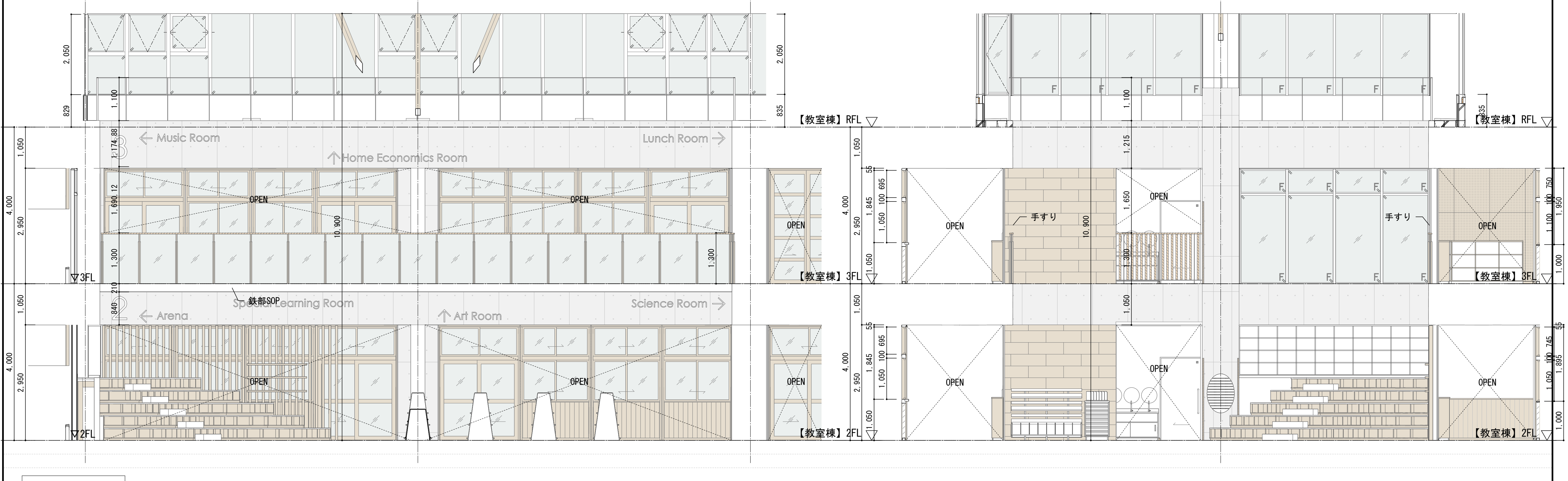


廊下（東）２階・３階

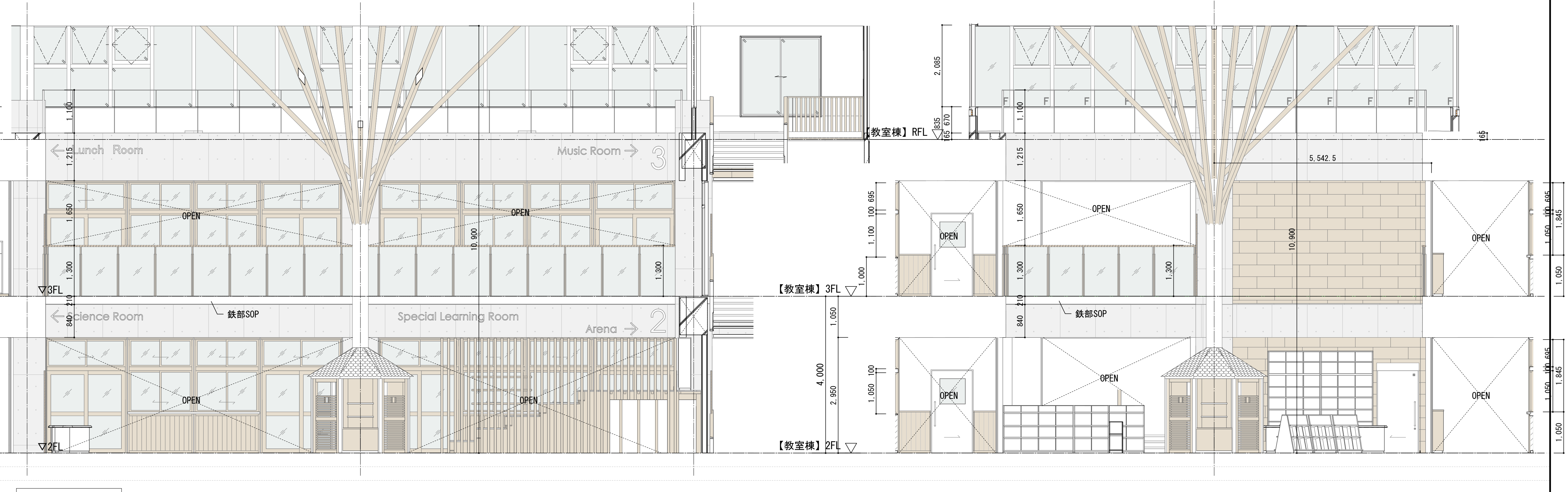


廊下（西）２階・３階

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	校舎棟　２階展開図　７
縮尺	A1=　1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d19				

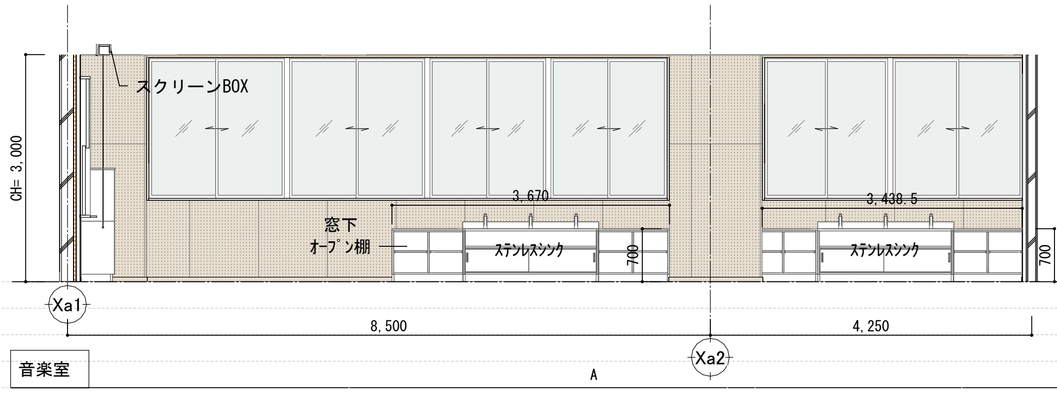


廊下（南）２階・３階

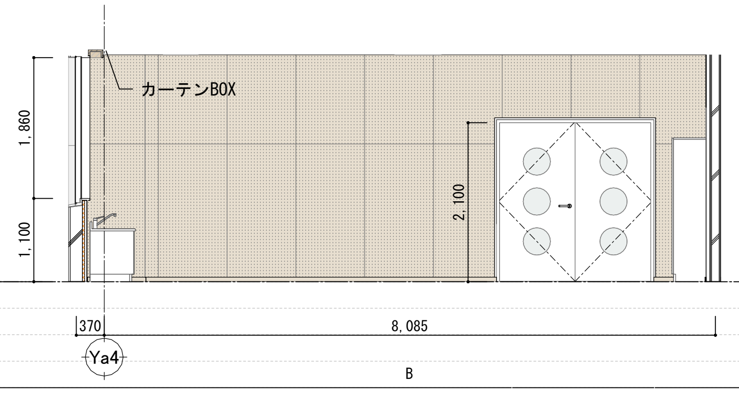


廊下（東）２階・３階

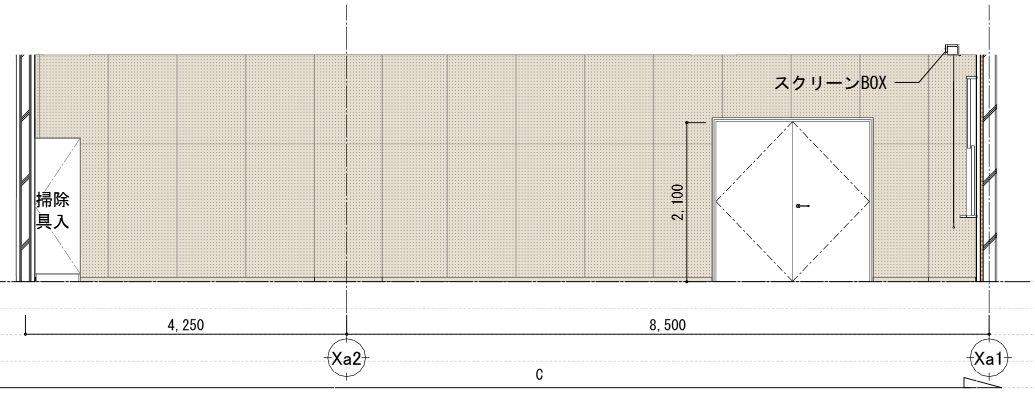
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟 ２階展開図 ８	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2
							図番	A-d20



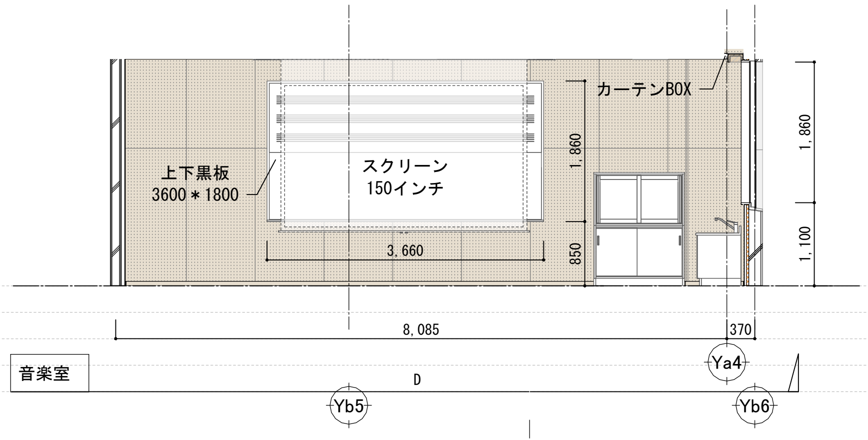
音楽室　A



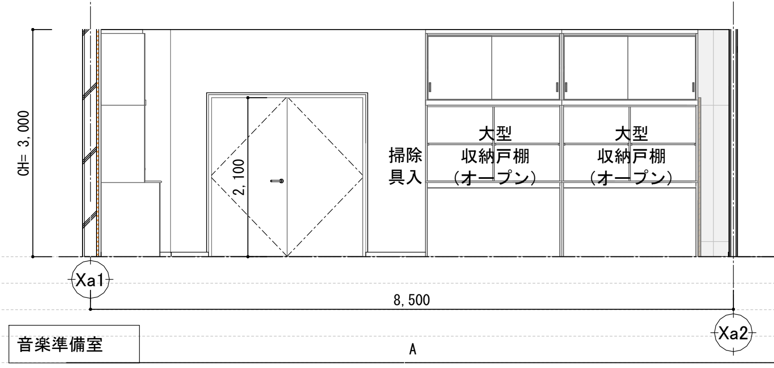
B



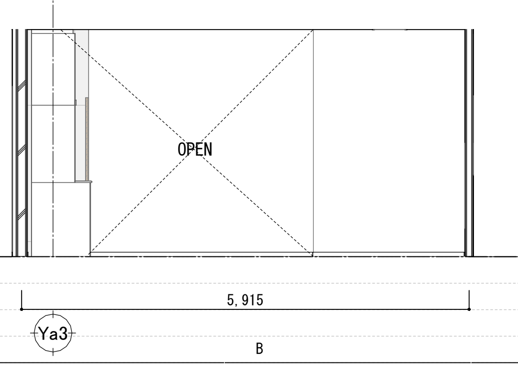
C



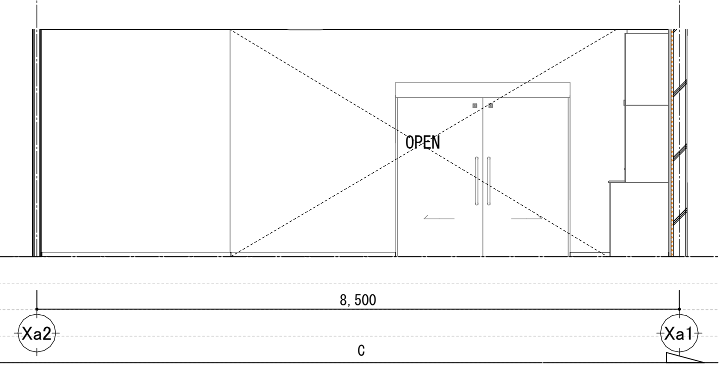
音楽室　D



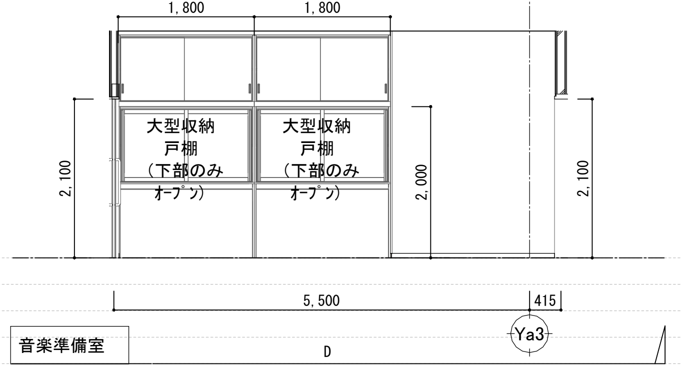
音楽準備室　A



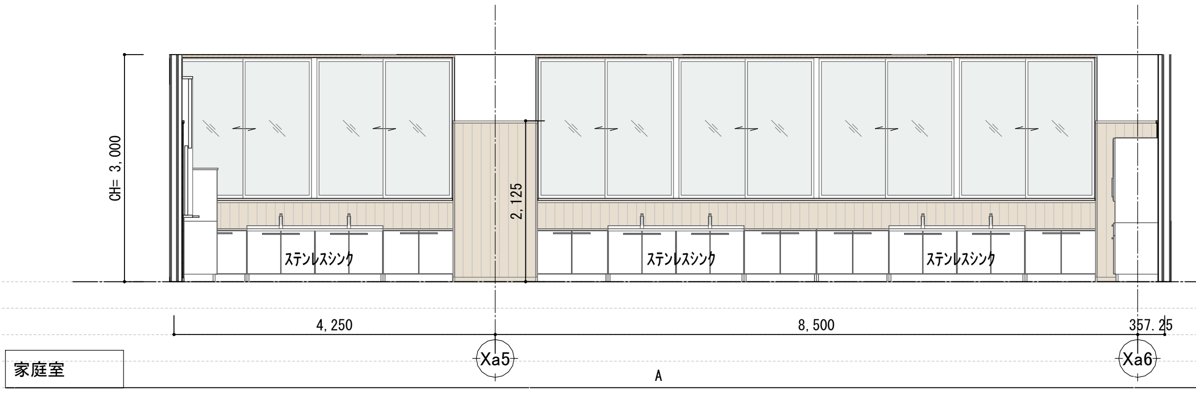
B



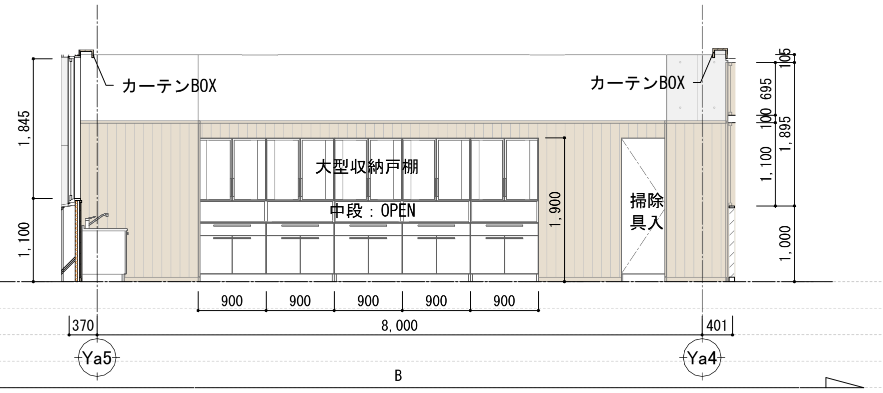
C



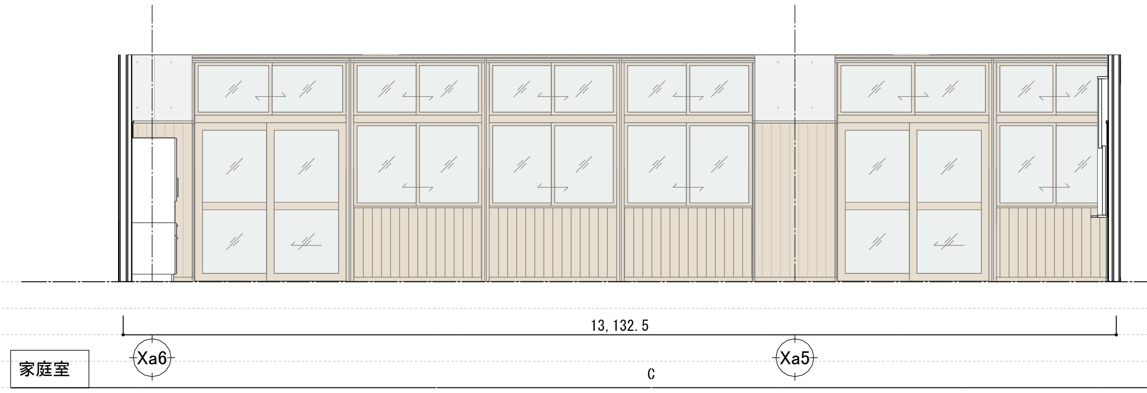
音楽準備室　D



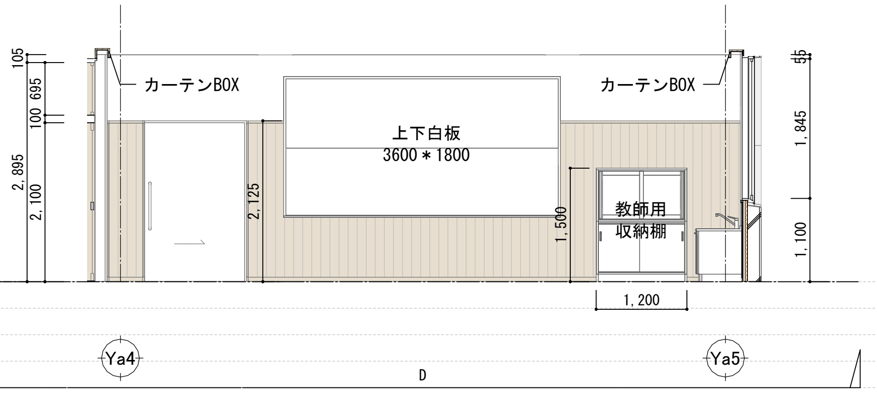
家庭室　A



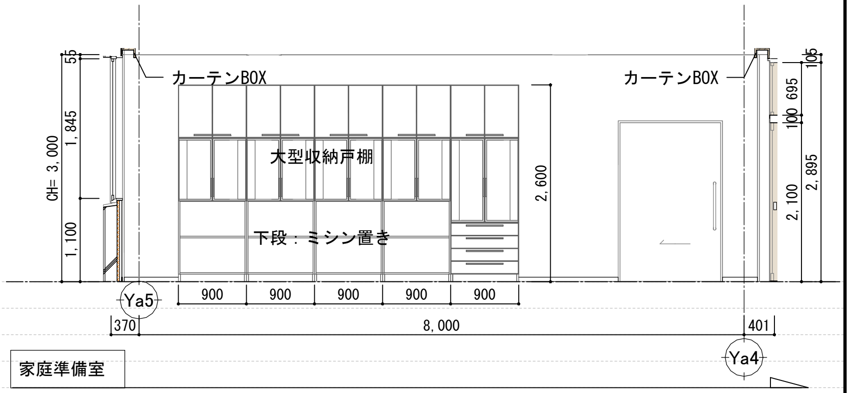
B



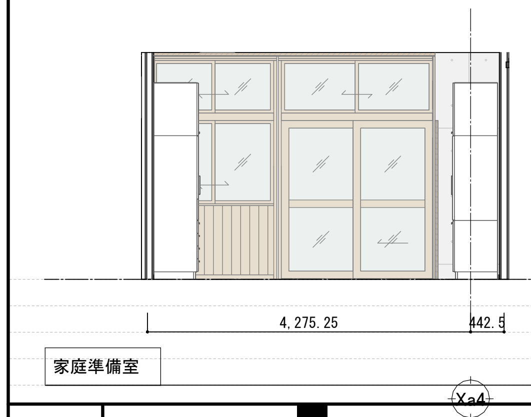
家庭室　C

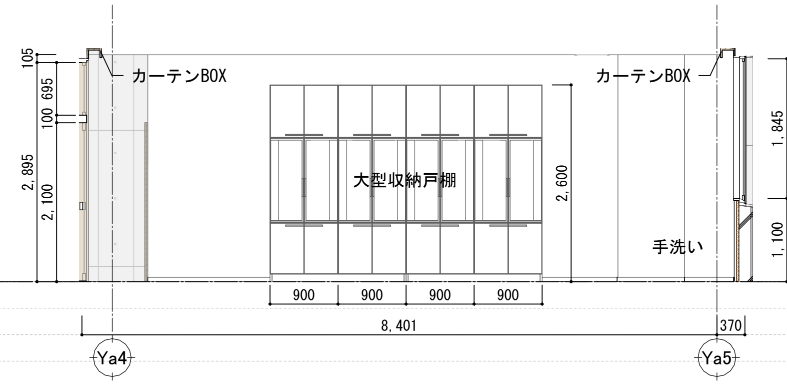


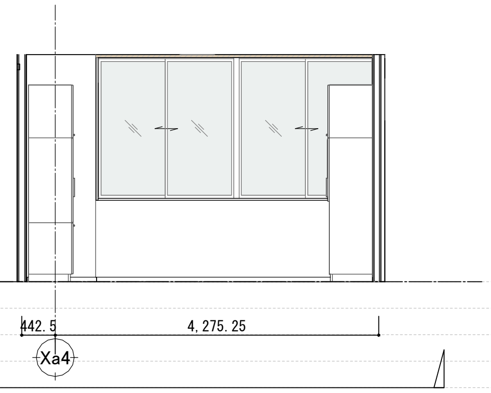
D



家庭準備室



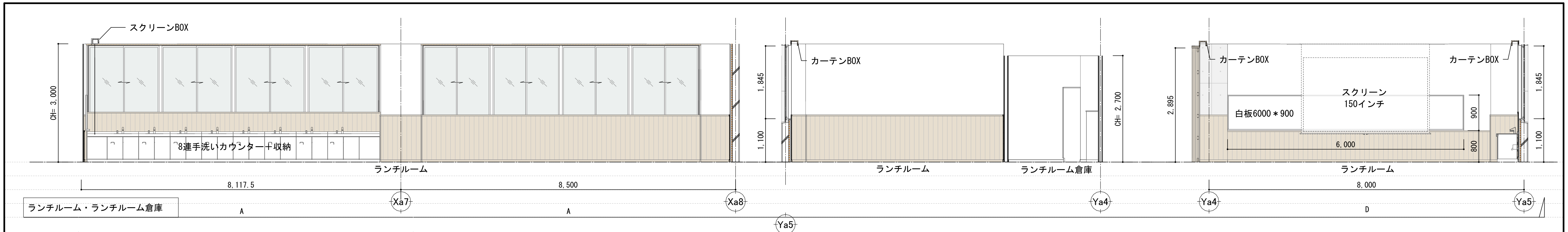


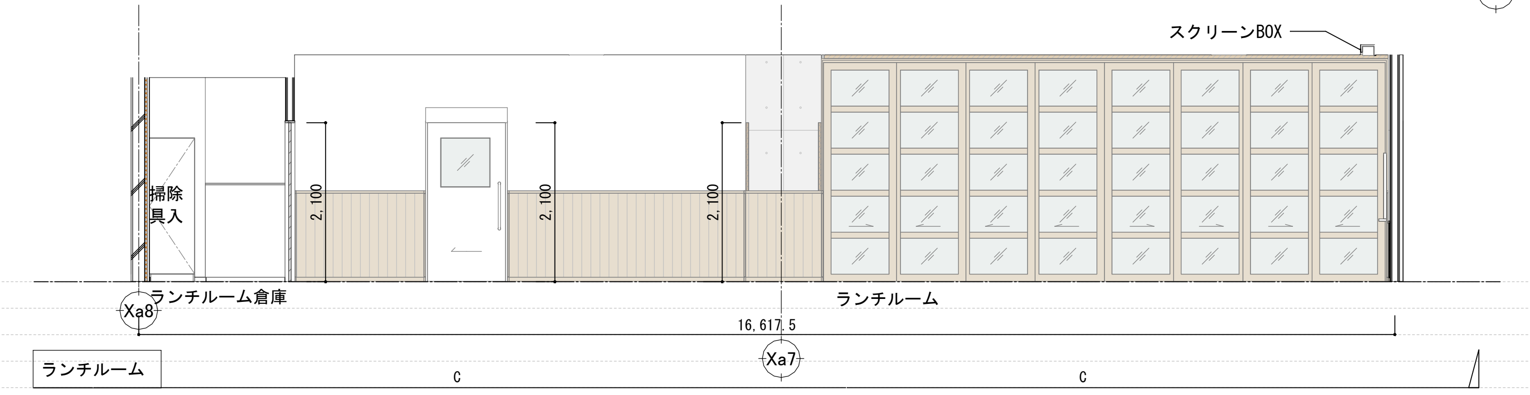


家庭準備室

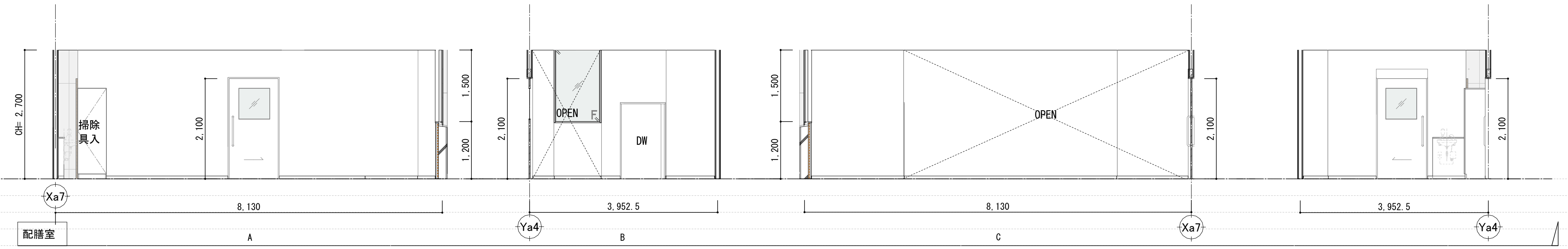
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
音楽室	t6.5カーペットタイル	WF+WP	60	木下地+t5.5有孔シナ合板+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	3000
音楽室準備室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボート （不燃）	3000
家庭準備室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボート （不燃）	3000
家庭室	t2.5長尺塩ビシート（木調）	WF+WP	60	上壁：EPG塗 （不燃） 腰壁：t12.0不燃能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB-NC+ t9.0AT（不燃）	3000

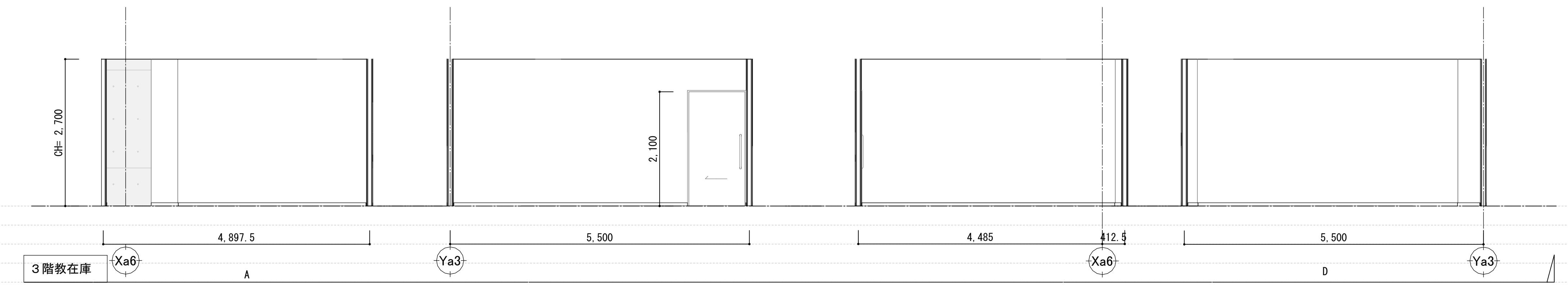
JOB NO. 125280
2026 年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社 浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　校舎棟　3階展開図　1
縮尺　A1= 1：50　A3：A1 = 1：2
図番　A-d21

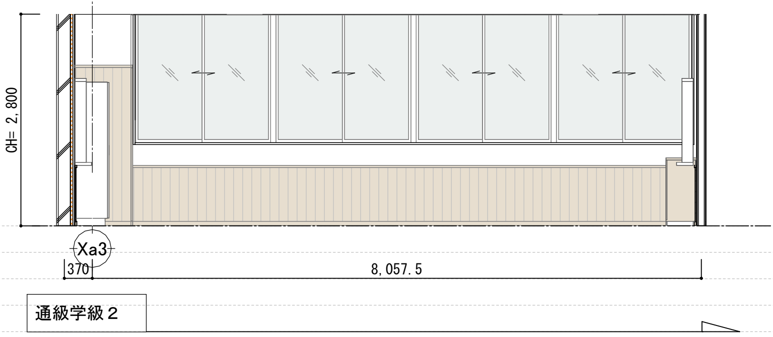


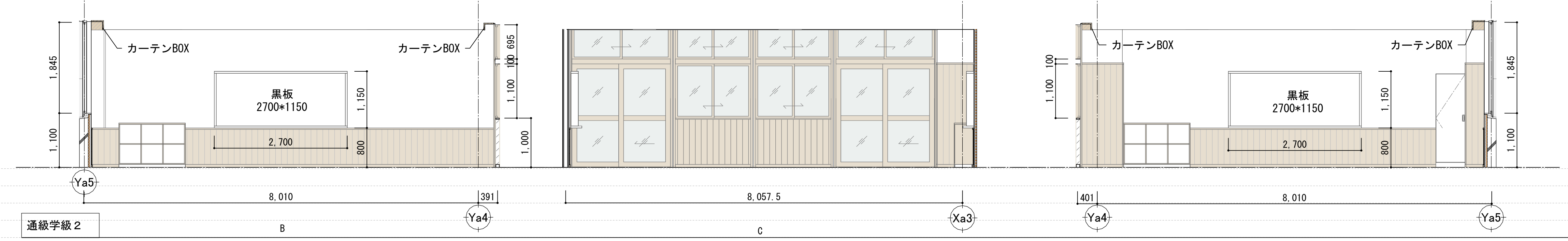


室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
通級学級2	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	2800
配膳室	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	t6.0ケイカル板+GEP塗 （不燃）	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG塗（不燃）	2700
教材庫	t2.5長尺塩ビシート	VF	60	EPG塗 （不燃）	t9.5化粧石膏ボート（不燃）	2700
ランチルーム	t15.0複合フローリング直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB−NC+ t9.0AT（不燃）	3000



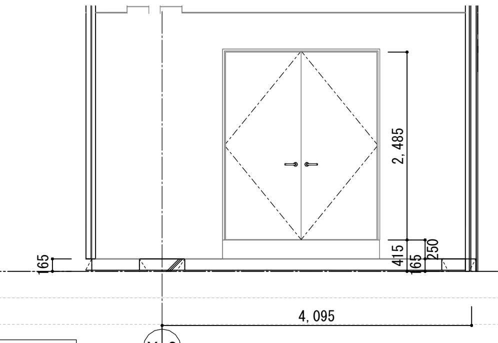




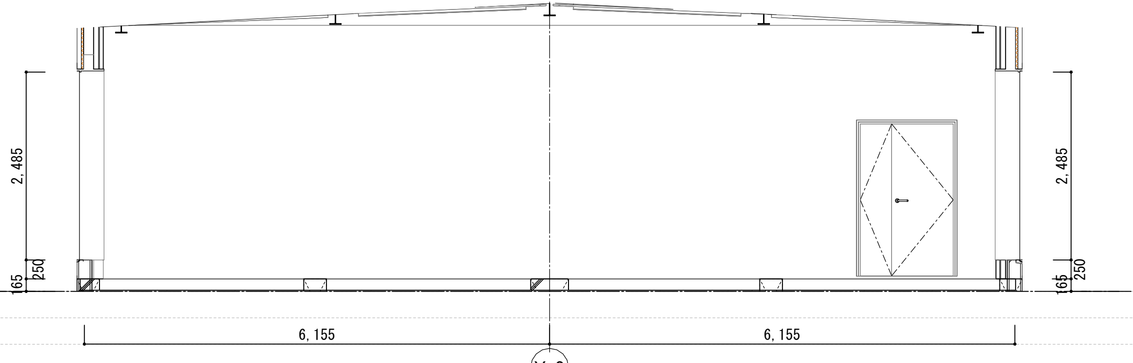


JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 校舎棟 3階展開図 2	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 A-d22

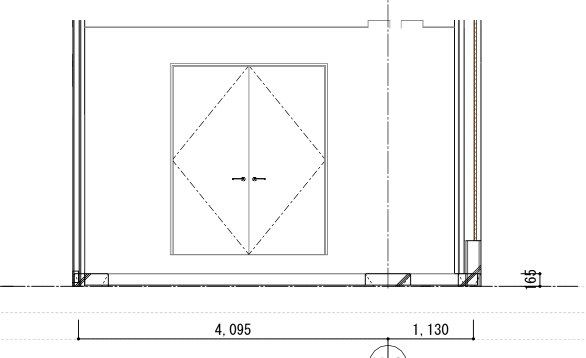
電気室



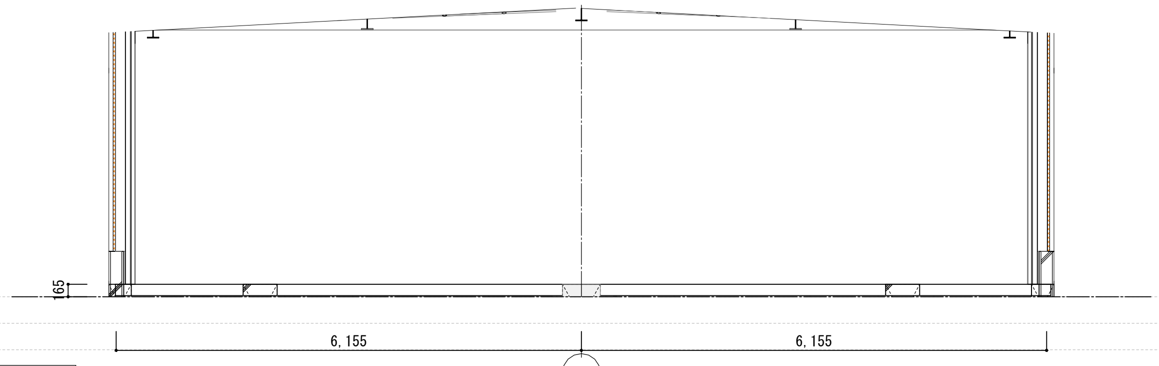
A



B



C

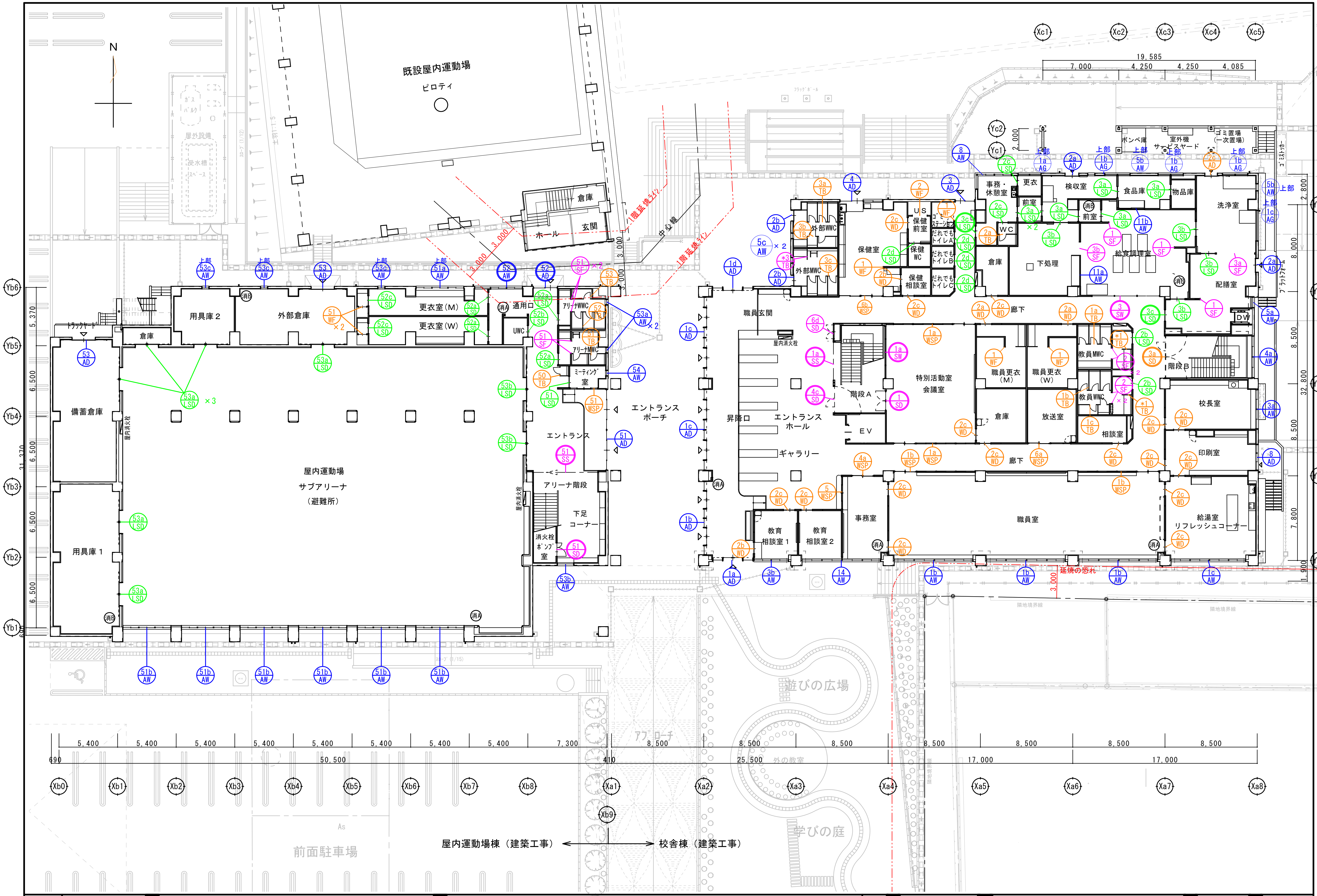


電気室

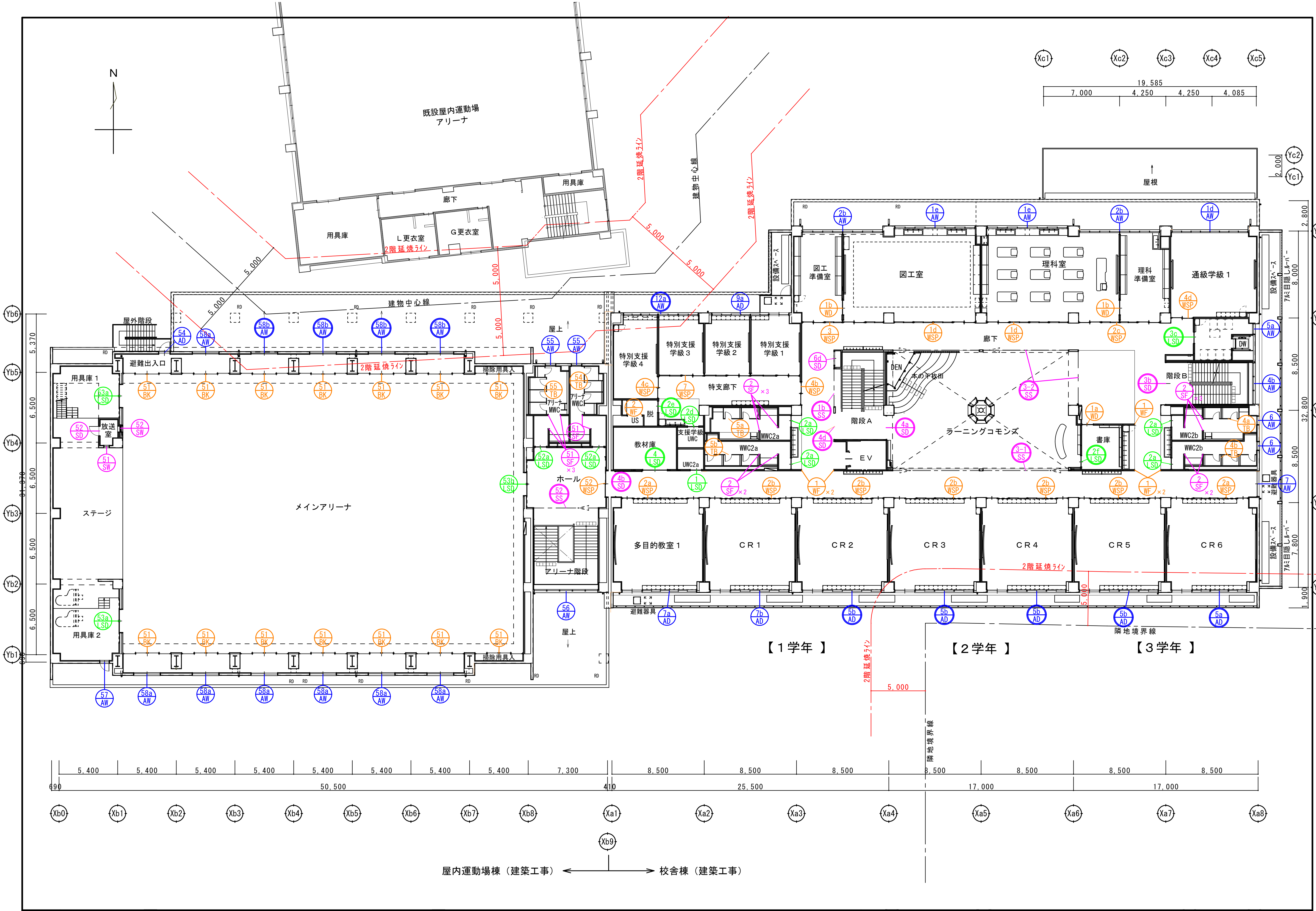
D

室名	仕上 床	幅木	幅木 H	仕上 壁	仕上 天井	CH
電気室	防塵塗装			t50グラスウールマット(24kg/㎥充填)	t50グラスウールマット（不燃）	図示

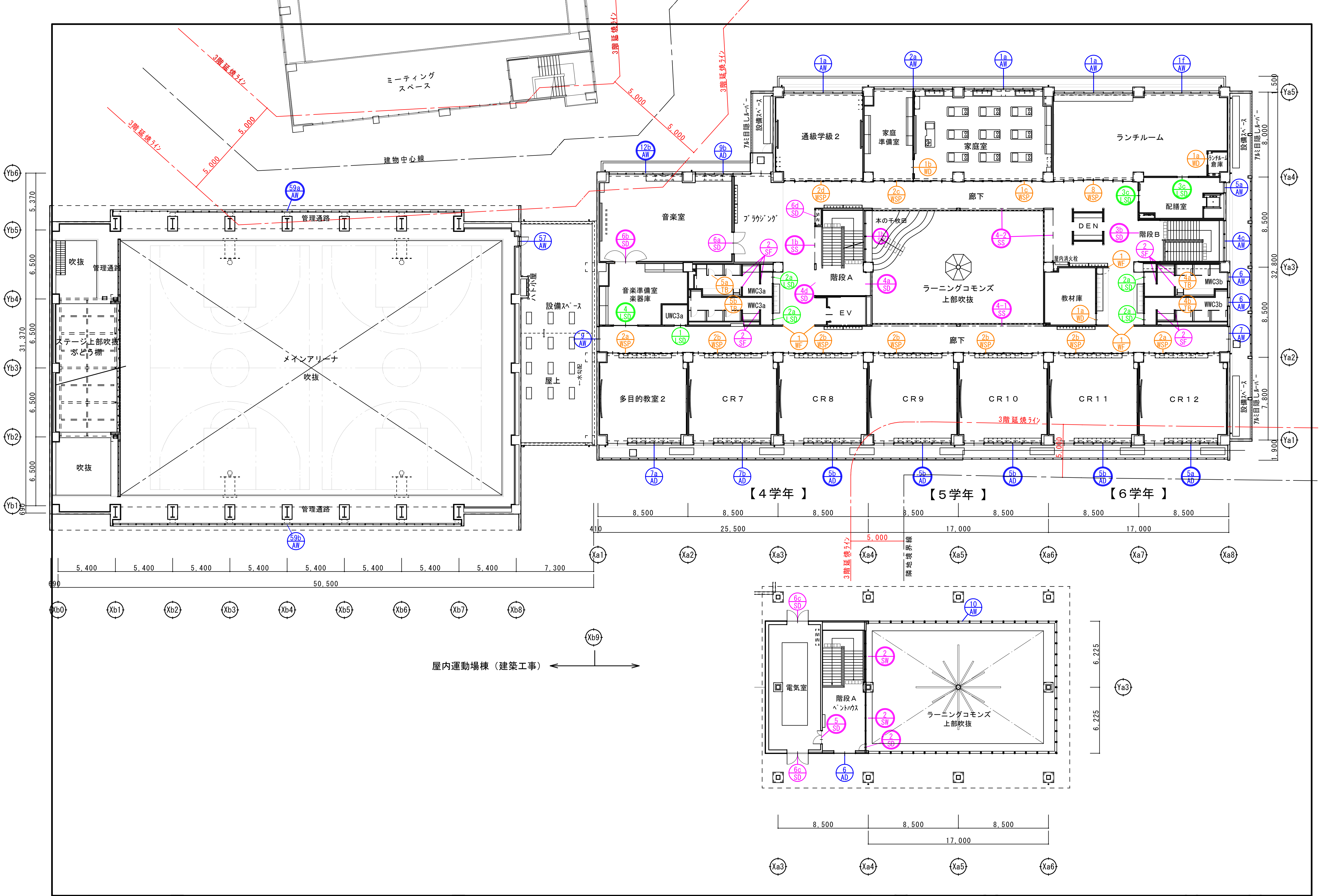
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟 R階展開図	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	A-d23



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 1階 建具符号図	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－e01 B－e01



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	2階 建具符号図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－e02 B－e02



JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題　3階・R階　建具符号図	縮尺　A1：1/150 A3：1/300	図番　A－e03 B－e03

建具リスト特記事項

ＡＤ	アルミ製ドア	枠見込 70M/M	ＬＳＤ	軽量鋼製ドア	M/M
ＡＷ	アルミ製窓	70M/M	ＷＤ	木製ドア	70M/M
ＡＧ	アルミ製ガラリ	70M/M	ＷＷ	木製窓	70M/M
ＳＤ	スチール製ドア	図示M/M	ＷＰ	木パーテーション	
ＳＷ	スチール製窓	図示M/M	ＴＢ	トイレブース	40M/M
ＳＦ	スチール製枠	図示M/M	ＴＰ	トップライト	
ＳＳ	シートシャッター	M/M	ＷＳＰ	学校用スチールパーティション	
ＳＦ	スチール枠	M/M			

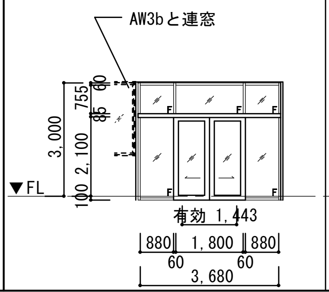
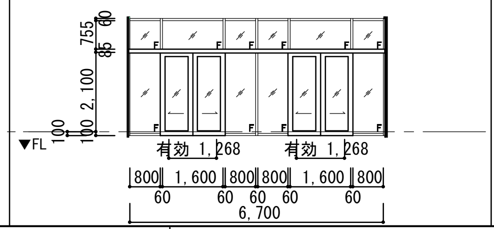
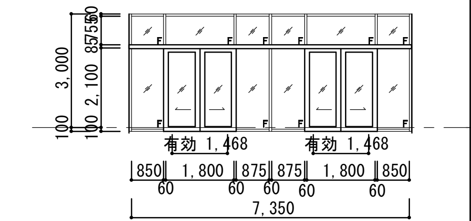
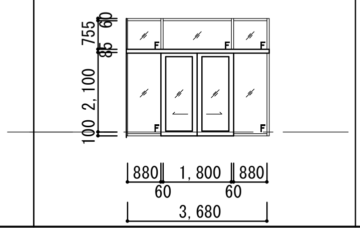
- ・気密性Ａ-３，水密性W-４とする。耐風圧は風圧計算による。
- ・金物は全てステンレス製（SUS304,18.8cr）とする。
- ・錠は全てマスターキー付，キーBOXは市場品とする。
- ・水切は二重水切とする。
- ・FIX部分は結露受取付とする。
- ・鋼製建具は施工図作成の上、係員の承認を得ること。
- ・網戸、ガラリ防虫網はグラスファイバー製とする。
- ・スチール額縁はＳＯＰ塗とする。
- ・開放制限ｽﾄｯﾊﾟｰは鍵付とし外部より解錠可能とする。
- ・衝突防止ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ貼りは必要に応じて取付とする。
- ・ガラリは開口率３６％、山形とする。
- ・Low-E複層ｶﾞﾗｽは、特記なき限り日射取得型とする。

ガラス凡例

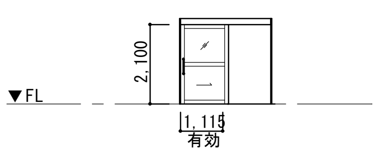
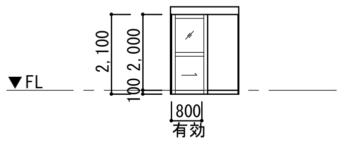
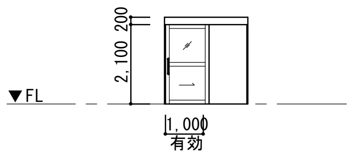
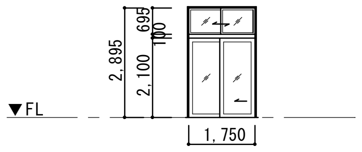
FL	フロート板ガラス	PW	網入り磨きガラス
F	型板ガラス	FW	網入り型ガラス
TP	強化ガラス（学校用）		

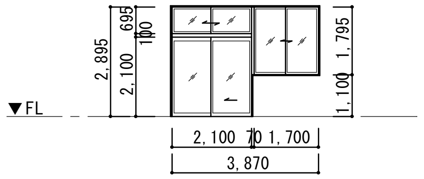
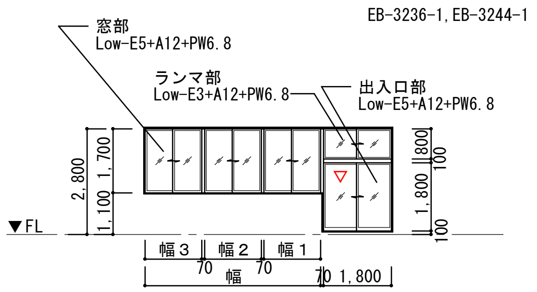
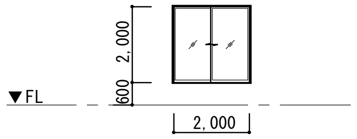
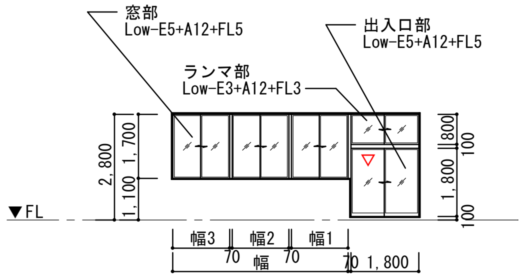
- ・クレセント、オペレーター装置の操作位置はFL+800～1500とする。
- ・出入口と窓が連続する場合、出隅額縁に樹脂カバー取付とする。
- ・水切端部は全て樹脂カバー取付とする。
- ・ガラス押エは、特記なき限りシーリングとする。
- ・○ 特定防火設備、防火設備を示す。
- ・アルミパネルは、フラット板とする。
- ・シナ合板は、単体ベニヤとする。
- ・ポリ合板は、アイカラビアン同等品とする。
- ・電気錠は火災報知器連動により開錠とする。

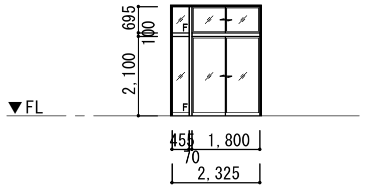
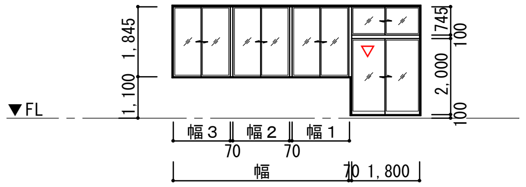
ＦＨ：フロアーヒンジ，ＰＨ：ピボットヒンジ，ＡＨＳ：オートヒンジ磁気ストッパー有，ＡＨＮ：オートヒンジストッパー無，
ＤＣＳ：ドアチェックストッパー有，ＤＣＮ：ドアチェックストッパー無，ＬＨ：レバーハンドル，ＧＨ：グレモンハンドル
ＣＨ：ケースハンドル，Ｔ：丁番，ＰＤ：シリンダー本締錠，Ｃ：クレセント，Ｆ：フランス落し，Ａ：結露受型アングルピース
ＣＬ：シリンダー鎌錠，ＡＦ：アルミ額縁，ＷＦ：内部木製額縁(着色WP)，Ｍ：水切，ＴＡ：戸当り
ＯＰ：オペレーター装置，ＯＤ：自動ドア装置　　※金物類は原則として、仕上及び色調を建具に合わせる。

名　称	1a AD 木・アルミ複合建具 欄間Fix窓＋引き分け戸	1b AD 木・アルミ複合建具 欄間Fix窓＋引き分け戸	1c AD 木・アルミ複合建具 欄間Fix窓＋引き分け戸	1d AD 木・アルミ複合建具 欄間Fix窓＋引き分け戸
数　量	１ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	１ヶ所
場　所	１階：昇降口	１階：昇降口	１階：昇降口	１階：昇降口
仕　上	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照
金　物	引棒、PD、戸先安全ゴム	引棒、PD、戸先安全ゴム	引棒、PD、戸先安全ゴム	引棒、PD、戸先安全ゴム
硝　子	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照
備　考	電気錠　飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	電気錠　飛散防止ﾌｨﾙﾑ
形　状				

木アルミ複合断熱サッシ仕様
■仕上
・外部アルミ：陽極酸化複合被膜
・外部化粧木：熱処理木
・内部集成材：市産能登ヒバ集成材
・方立・無目 UC塗装（２回塗）
・扉　　　　：WP塗装
■ガラス
・欄間部：Low-E3+A12+FL3
・障子部：Low-E強化5+A12+TP5
・他Fix部：障子部に同じ
■断熱材
・ｸﾞﾗｽﾌｧｲﾊﾞｰ入りﾎﾟﾘｱﾐﾄﾞ樹脂
■その他
・ニュースト
　アルタスウッドスクリー　同等品以上

名　称	2a AD 窓付き片引きﾊﾝｶﾞｰ框ﾄﾞｱ	2b AD 窓付き片引きﾊﾝｶﾞｰ框ﾄﾞｱ	2c AD 窓付き片引きﾊﾝｶﾞｰ框戸	3 AD 欄間引き違い窓＋引き違い戸
数　量	２ヶ所	２ヶ所	１ヶ所	１ヶ所
場　所	１階：検収室、配膳室	１階：外部Wwc、Mwc	１階：洗浄室	１階：通用廊下
仕　上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金　物	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺、PD	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺、PD	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺、PD	Ｃ、Ｍ、ＷＦ
硝　子	Low-E強化4＋A12＋FL3	Low-E強化4＋A12＋FL3	Low-E強化4＋A12＋FL3	Low-E強化5＋A12＋FL5
備　考	断熱ハニカムパネル、枠GW充填　飛散防止ﾌｨﾙﾑ	断熱ハニカムパネル、枠GW充填　飛散防止ﾌｨﾙﾑ	断熱ハニカムパネル、枠GW充填　飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ
形　状				

名　称	4 AD 欄間付き引き違い戸＋引き違い窓	5a AD ～ 5b AD 欄間付き掃出し窓＋連窓引き違い窓	6 AD 引き違いﾄﾞｱ	7a AD ～ 7b AD 欄間付き掃出し窓＋連窓引き違い窓
数　量	１ヶ所	集計表参照	１ヶ所	集計表参照
場　所	１階：保健室	集計表参照	Ｒ階：ペントハウス	集計表参照
仕　上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金　物	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	ＣＬ、Ｍ、ＷＦ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ
硝　子	Low-E強化5＋A12＋FL5	図示	Low-E5＋A12＋FL6	図示
備　考	窓部：網戸　飛散防止ﾌｨﾙﾑ	窓部：網戸　飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	窓部：網戸　飛散防止ﾌｨﾙﾑ
形　状				

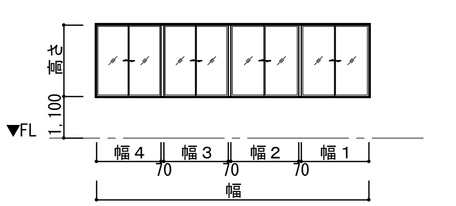
名　称	8 AD 欄間引き違い窓＋引き違い戸＋袖FIX窓	9a AD ～ 12b AD 欄間付き掃出し窓＋連窓引き違い窓		
数　量	１ヶ所	集計表参照		
場　所	１階：印刷室	集計表参照		
仕　上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜		
金　物	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ		
硝　子	Low-E強化5＋A12＋FL5、欄間部：Low-E3＋A12＋FL3	Low-E強化5＋A12＋FL5、欄間部：Low-E強化4＋A12＋FL3		
備　考	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	網戸、壁取り合い方立1ヶ所　飛散防止ﾌｨﾙﾑ		
形　状				

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所　一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 建具リスト（１）	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図番 Ａ－e04

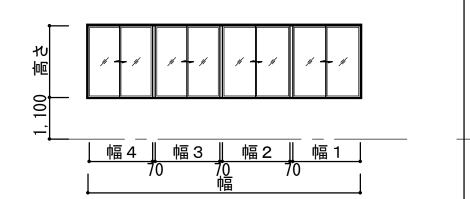
名称	1a AW～1f AW 方立レス連窓引き違い窓	2a AW～2b AW 連窓引き違い窓	3a AW 連窓引き違い窓	3b AW 連窓引き違い窓	4a AW～4c AW 連窓FIX窓	5a AW FIX窓	5b AW FIX窓	5c AW FIX窓
数量	集計表参照	集計表参照	１ヶ所	１ヶ所	集計表参照	３ヶ所	２ヶ所	２ヶ所
場所	集計表参照	集計表参照	１階：校長室	１階：教育相談室１	集計表参照	各階：配膳室	１階：検収室、洗浄室	１階：外部WC
仕上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ	Ｍ、ＷＦ	Ｍ、ＡＦ	Ｍ、ＡＦ	Ｍ、ＡＦ
硝子	AW1b,1c：Low-E5＋A12＋FL5、その他：Low-E強化5＋A12＋FL5	Low-E強化5＋A12＋FL5	LowE5＋A12＋FL5	LowE5＋A12＋FL5	欄間部Low-E3＋A12＋TP4、 __その他Low-E5＋A6＋TP5	Low-E5＋A12＋TP4	強化Low-E5＋A12＋FL3	強化Low-E5＋A12＋FL3
備考	網戸	網戸、壁取り合い方立１ヶ所 飛散防止ﾌｨﾙﾑ	網戸	網戸		飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ

形状

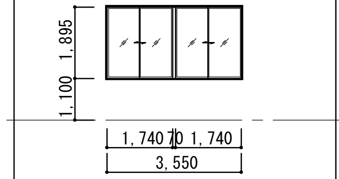
1a～1f：飛散防止ﾌｨﾙﾑ（但し、職員室・給湯室は無し）



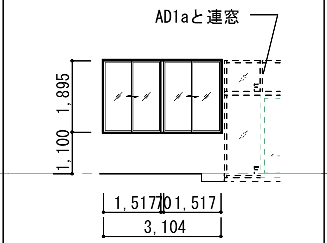
2a～2b



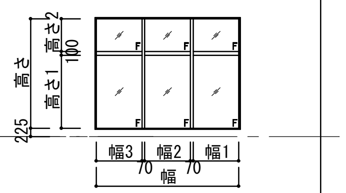
3a



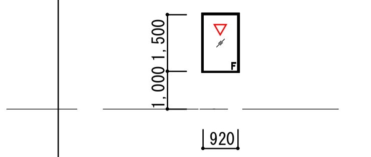
3b



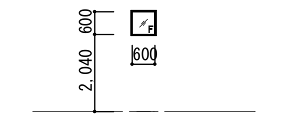
4a～4c：飛散防止ﾌｨﾙﾑ



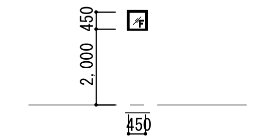
5a：３階のみ消防隊進入▽ﾏｰｸ



5b



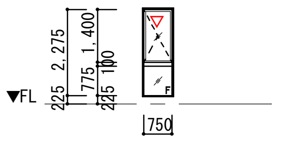
5c



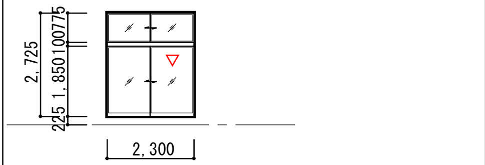
名称	6 AW 腰窓付き縦すべり窓	7 AW ランマ引違い窓付引違い戸	8 AW 引き違い窓＋Fix窓	9 AW 引き違い窓	11a AW 引き分け窓（左右スライド）	11b AW 引き分け窓	12a AW～12b AW 連窓引き違い窓 【防火設備】
数量	４ヶ所	２か所	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所	集計表参照
場所	２・３階：ＭＷＣｂ、ＷＷＣｂ	２階：廊下南、３階：廊下南	１階：給食事務室	３階：廊下南	１階：給食調理室	１階：給食調理室	集計表参照
仕上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物	Ｍ、ＡＦ、ＧＨ、縦すべり装置一式	Ｍ、ＷＦ、Ｃ、開放制限装置	Ｍ、ＡＦ、Ｃ	Ｍ、ＷＦ、Ｃ、開放制限装置	ＡＦ、Ｃ	ＡＦ、Ｃ	Ｃ、Ｍ、ＷＦ
硝子	Low-E5＋A12＋TP4	Low-E5＋A12＋TP4	強化 Low-E5＋A12＋FL5	Low-E5＋A12＋TP4	TP5（学校用）	TP5（学校用）	Low-E5＋A12＋耐熱強化t5
備考	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	網戸 飛散防止ﾌｨﾙﾑ	網戸 飛散防止ﾌｨﾙﾑ			網戸 飛散防止ﾌｨﾙﾑ

形状

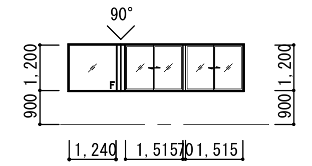
6：３階：MWCbのみ消防隊進入▽ﾏｰｸ



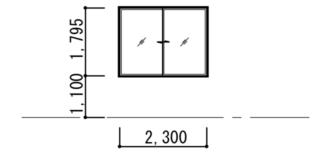
7：３階：廊下南のみ消防隊進入▽ﾏｰｸ



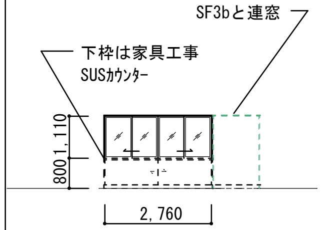
8



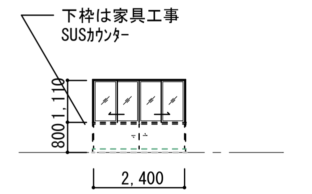
9



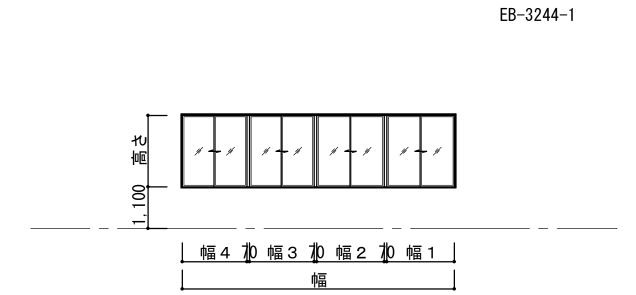
11a



11b



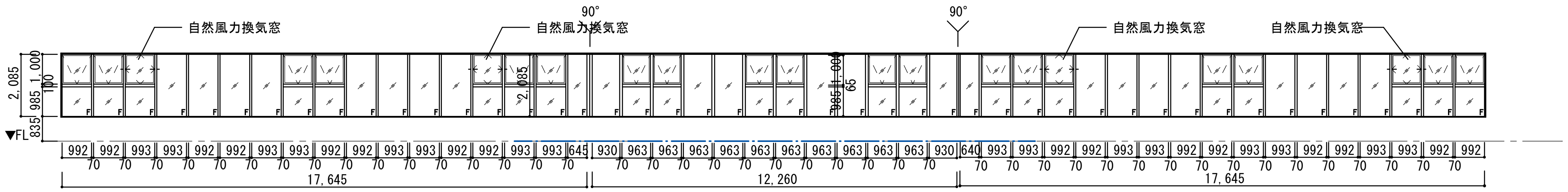
12a～12b



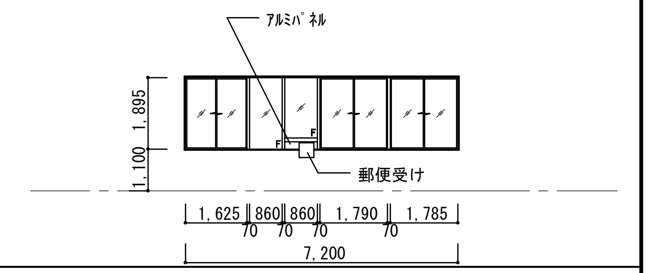
名称	10 AW 一部欄間外倒し窓付きFIX連窓＋重力換気窓	14 AW 連窓引き違い窓＋Fix窓＋郵便受け
数量	１ヶ所	１ヶ所
場所	Ｒ階：ラーニングコモンズ上部吹抜け	１階事務室-教育相談室１
仕上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物	ＯＰ（操作部２階と３階に設置）、ＷＦ、Ｍ、外倒し金物一式、重力換気窓金物一式	Ｃ、Ｍ、ＷＦ、郵便受け（前入後出、口金・防滴タイプ）
硝子	重力換気窓：Low-E6＋A6＋FL6、その他：Low-E5＋A12＋FL6	Low-E5＋A12＋FL5、ｱﾙﾐ断熱ハニカムパネル
備考		網戸、郵便受け：　Nasta_KS-MAB2-15LK　同等品以上、 壁取合方立１ヶ所

形状

10



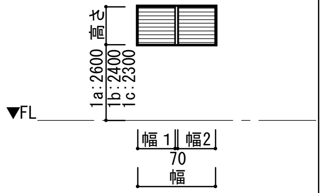
14



AD5, AD7, AD9, AW1, AW2, AW4, AW12集計表

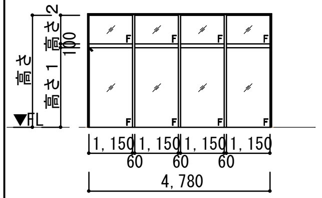
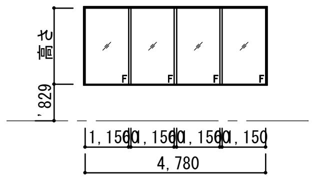
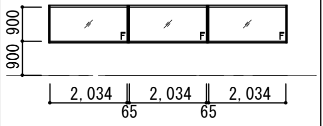
建具種類	建具番号	個数	場所	幅	高さ	幅1	幅2	幅3	幅4	高さ1	高さ2	飛散防止フィルム	備考
AD	5a	2	２階ＣＲ６、３階ＣＲ１２	4,960	1,700	1,607	1,606	1,607		1,700		●	防火設備、CR12のみ消防隊進入▽ﾏｰｸ×1
AD	5b	8	２階ＣＲ×４、３階ＣＲ×４	5,330	1,700	1,730	1,730	1,730		1,700		●	防火設備、３階CRのみ消防隊進入▽ﾏｰｸ×4
AD	7a	2	２階多目的教室１、３階多目的教室２	4,960	1,700	1,607	1,606	1,607		1,700		●	多目的教室2のみ消防隊進入▽ﾏｰｸ×1
AD	7b	2	２階ＣＲ１、３階ＣＲ７	5,330	1,700	1,730	1,730	1,730		1,700		●	CR7のみ消防隊進入▽ﾏｰｸ×1
AD	9a	1	２階：特別支援学級１－２	5,180	1,795	1,620	1,710	1,710		1,795		●	
AD	9b	1	３階音楽室-ブラウジング	5,180	1,845	1,620	1,710	1,710		1,845		●	
AW	1a	3	３階ﾗﾝﾁﾙｰﾑ、家庭室、通級教室２	7,350	1,845	1,785	1,785	1,785	1,785	1,845		●	
AW	1b	3	１階職員室	7,200	1,895	1,748	1,747	1,747	1,748	1,895			
AW	1c	1	１階給湯室	6,830	1,895	1,655	1,655	1,655	1,655	1,895			
AW	1d	1	２階通級教室１	6,980	1,795	1,692	1,693	1,693	1,692	1,795		●	
AW	1e	2	２階図工室、理科室	7,350	1,795	1,785	1,785	1,785	1,785	1,795		●	
AW	1f	1	３階ﾗﾝﾁﾙｰﾑ	6,980	1,845	1,692	1,693	1,693	1,692	1,845		●	
AW	2a	1	３階家庭室、家庭科準備室	7,350	1,845	1,785	1,785	1,785	1,785	1,845		●	
AW	2b	2	２階図工室-図工準備、理科室-理科準備	7,350	1,795	1,785	1,785	1,785	1,785	1,795		●	
AW	4a	1	１Ｆ東階段	3,770	2,890	1,210	1,210	1,210		1,930	860	●	
AW	4b	1	２Ｆ東階段	3,770	2,740	1,210	1,210	1,210		1,780	860	●	
AW	4c	1	３Ｆ東階段	3,770	2,685	1,210	1,210	1,210		1,780	805	●	
AW	12a	1	２階特別支援学級3・4	6,840	1,795	1,530	1,530	1,785	1,785	1,795		●	防火設備
AW	12b	1	３階音楽室	6,840	1,845	1,530	1,530	1,785	1,785	1,845		●	防火設備

消防隊進入▽ﾏｰｸ：杉田エース　進入反射ステッカー　同等品

名称	1a AG ～ 1c AG　２連ガラリ
数量	集計表参照
場所	集計表参照
仕上	陽極酸化複合被膜
金物	M、防虫網 ﾁｬﾝﾊﾞ-BOX：別途工事(機械設備)
硝子	
備考	開口率４０％
形状	

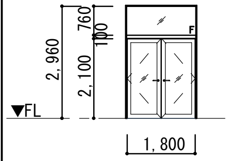
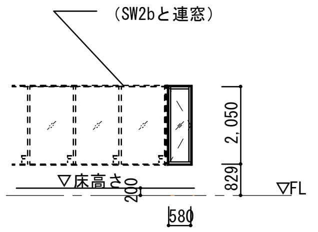
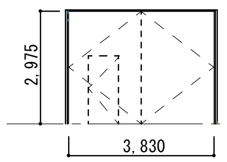
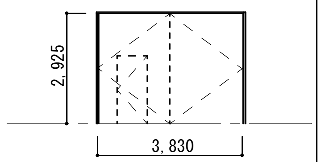
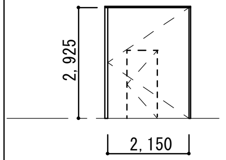
AG集計表

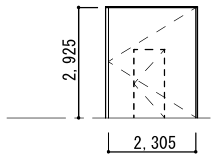
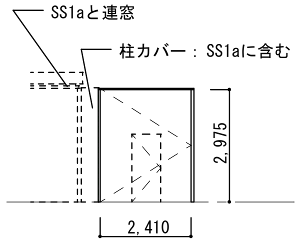
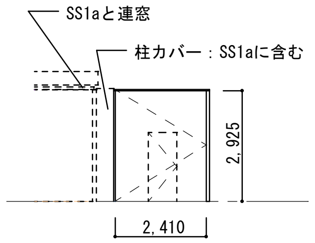
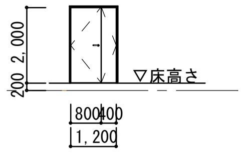
建具_種類	建具番号	個数	場所	幅	高さ	幅1	幅2	高さ1	備考
AG	1a	1	１階：給食更衣上部	2,055	1,000	993	993	1,000	
AG	1b	3	１階：給食物品庫上部、洗浄室上部	2,270	650	1,100	1,100	650	
AG	1c	1	１階：給食洗浄室	2,270	685	1,100	1,100	685	

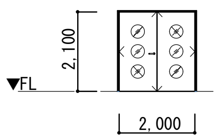
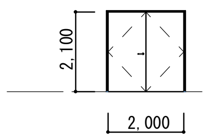
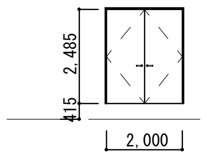
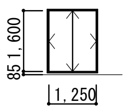
名称	1a SW ～ 1b SW　欄間付き連窓FIX窓【特定防火設備・遮煙】	2 SW　連窓FIX窓【特定防火設備・遮煙】	3 SW　連窓FIX窓【特定防火設備】
数量	集計表参照	集計表参照	１ヶ所
場所	集計表参照	集計表参照	１階北廊下（給食調理室）
仕上	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
金物	ＷＦ	ＷＦ	ＷＦ
硝子	耐熱強化t8	耐熱強化t8	耐熱強化t8
備考	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	飛散防止ﾌｨﾙﾑ	見込 135　飛散防止ﾌｨﾙﾑ
形状			

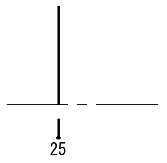
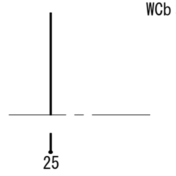
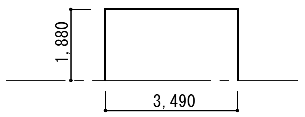
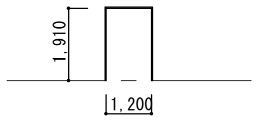
SW1･2集計表

建具_種類	建具番号	個数	場所	幅	高さ	幅1	幅2	幅3	幅4	高さ1	高さ2
SW	1a	1	１階：階段A	4,780	2,960	1,150	1,150	1,150	1,150	2,100	760
SW	1b	1	３階：階段A	4,780	2,860	1,150	1,150	1,150	1,150	2,225	555
SW	2	2	Ｒ階：階段A×２	4,780	2,050	1,150	1,150	1,150	1,150	2,050	

名称	1 SD　欄間FIX＋両開き框戸【特定防火設備・遮煙】	2 SD　常閉片開き戸【特定防火設備・遮煙】	3a SD　常時開放両開き戸【特定防火設備・遮煙】	3b SD　常時開放両開き戸【特定防火設備・遮煙】	4a SD　常時開放片開き戸【特定防火設備】
数量	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	２ヶ所
場所	１階：特別活動室	Ｒ階ﾍﾟﾝﾄﾊｳｽ	１階：階段Ｂ	２・３階：階段Ｂ	２・３階：階段Ａ
仕上	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
金物	PH、AHN、LH、PD、SF、順位調整器、TA	T、DCN、PD、LH、TA	AHN、CH、潜戸(W800×H1800)、SF、煙感知器連動装置一式	AHN、CH、潜戸(W800×H1800)、SF、煙感知器連動装置一式	AHN、CH、潜戸(W800×H1800)、SF、煙感知器連動装置一式
硝子	耐熱強化t8	耐熱強化t8			
備考	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	90°、枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	90°、枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	90°、枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
形状	飛散防止ﾌｨﾙﾑ 	飛散防止ﾌｨﾙﾑ 			※3階は潜り戸なし SD-4a 

名称	4b SD　常時開放片開き戸【特定防火設備】	4c SD　常時開放片開き戸【特定防火設備】	4d SD　常時開放片開き戸【特定防火設備】	5 SD　常閉親子開き戸【特定防火設備・遮煙】
数量	１ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	１ヶ所
場所	２階：廊下（南）	１階：階段Ａ	２・３階：階段Ａ	Ｒ階：電気室
仕上	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
金物	AHN、CH、潜戸(W800×H1800)、SF、煙感知器連動装置一式	AHN、CH、潜戸(W800×H1800)、SF、煙感知器連動装置一式	AHN、CH、潜戸(W800×H1800)、SF、煙感知器連動装置一式	T、DCN、順位調整器、PD、LH、F、TA
硝子				
備考	90°、枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	90°、枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	90°、枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
形状				

名称	6a SD　両開き戸	6b SD　両開き戸【特定防火設備】	6c SD　両開き戸	6d SD　両開き点検扉
数量	１ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	３ヶ所
場所	３階：音楽室	３階：音楽準備室	Ｒ階：電気室×２	各階：廊下西
仕上	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP、GW充填	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP、GW充填	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP、GW充填	t1.2亜鉛メッキ鋼板＋SOP塗装
金物	T、DCS、CL、F、SUS沓摺、４周エアタイト、GH、TA	T、DCN、順位調整器、CL、F、TA、SUS沓摺、４周エアタイト、GH	T、DCS、CL、F、SUS沓摺、GH、四周エアタイト、TA	T、CH、F
硝子	φ300　FL5			
備考	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP塗装
形状				

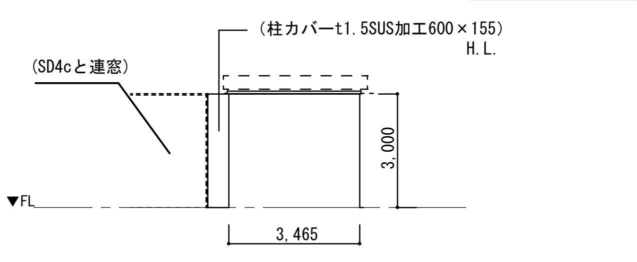
名称	1 SF　スチール製一方枠	2 SF　スチール製一方枠	3a SF　スチール製三方枠	3b SF　スチール製三方枠
数量	３ヶ所	２４ヶ所	１ヶ所	１ヶ所
場所	下記	下記	１階：給食洗浄室	１階：給食調理室
仕上	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
金物				
硝子				
備考	枠見込み135	枠見込み135	枠見込み135	枠見込み135
形状	給食調理室　×２　H:2600 配膳室　×１　H:2600 	１階：　教員 WC×４　H:2700 ２階：　WCa×５　H:2700 WCb×５　H:2700 ３階：　WCa×５　H:2700 WCb×５　H:2700 		

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題　建具リスト（３）	縮尺　A1：1/100 A3：1/200	図番　A −e06

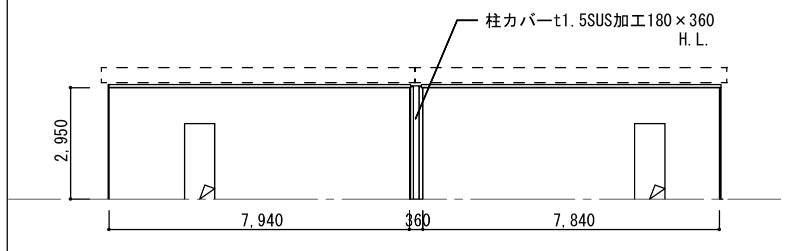
	1a SS	3-1 SS	3-2 SS
名称	防火シートシャッター　【特定防火設備・遮煙】	２連防火・防煙シートシャッター【特定防火設備・遮煙】	３連防火・防煙シートシャッター【特定防火設備・遮煙】
数量	１ヶ所	２ヶ所	１ヶ所
場所	１階：階段Ａ	２階：廊下南	２階：廊下北
仕上	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL
金物	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構、ｳｫｰｸｽﾙｰ潜り戸×２	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構、ｳｫｰｸｽﾙｰ潜り戸×２
硝子	シート：耐熱ガラスクロス	シート:耐熱ガラスクロス	シート:耐熱ガラスクロス
備考	天井内納まり	天井内納まり	天井内納まり

形状

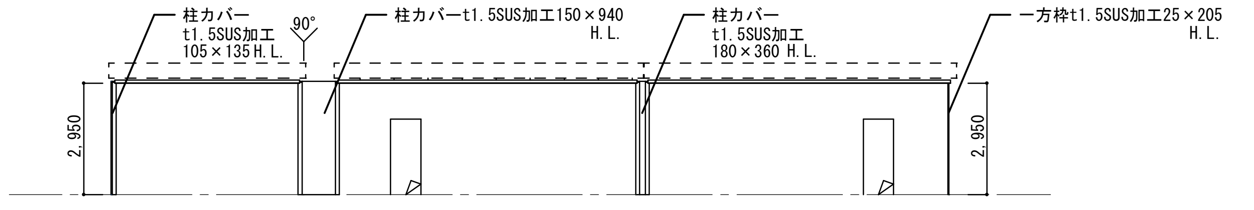
認定番号:CAS-0255



認定番号:CAS-0255



認定番号:CAS-0255

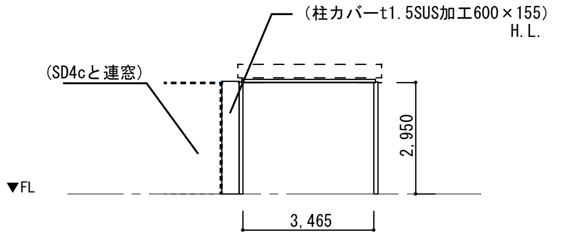


H.L.＝ヘアライン仕上

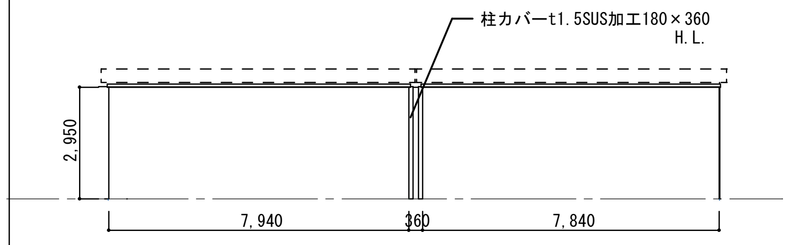
	1b SS	4-1 SS	4-2 SS
名称	防火シートシャッター　【特定防火設備】	２連防火・防煙シートシャッター【特定防火設備・遮煙】	３連防火・防煙シートシャッター【特定防火設備・遮煙】
数量	２ヶ所	１ヶ所	１ヶ所
場所	２・３階：階段Ａ	３階：廊下南	３階：廊下南
仕上	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL
金物	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構
硝子	シート：耐熱ガラスクロス	シート:耐熱ガラスクロス	シート:耐熱ガラスクロス
備考	天井内納まり	天井内納まり	天井内納まり

形状

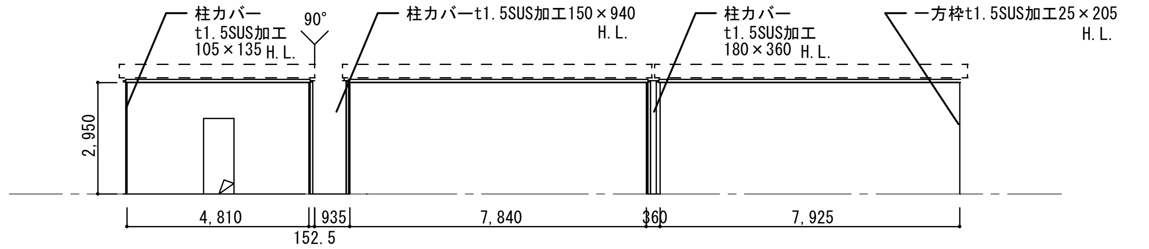
認定番号:CAS-0255



認定番号:CAS-0255

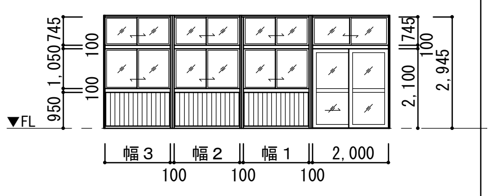


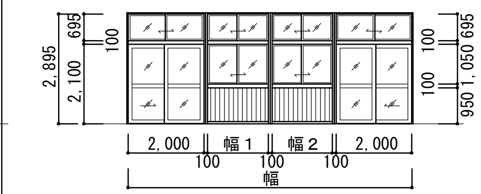
認定番号:CAS-0255

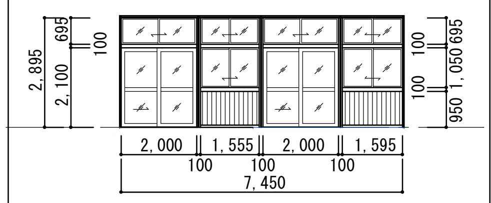


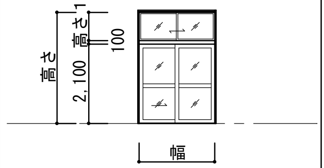
	1a WSP ～ 1d WSP	2a WSP ～ 2d WSP	3 WSP	4a WSP ～ 4d WSP	5 WSP	6a WSP ～ 6b WSP
名称	欄間付き連窓引き違い窓＋引き違いﾄﾞｱ	欄間付き連窓引き違い窓＋引き違いﾄﾞｱ	欄間付き連窓引き違い窓＋引き違いﾄﾞｱ	欄間付き引き違いﾄﾞｱ	引き分け窓	欄間付き引き違い窓＋ﾄﾞｱ
数量	集計表参照	集計表参照	1	集計表参照	1	集計表参照
場所	集計表参照	集計表参照	2F 図工準備室	集計表参照	１階：事務室	集計表参照
仕上	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照		別表参照
金物	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照	C、ｱﾙﾐﾚｰﾙ、その他付属金物一式	別表参照
硝子	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照	別表参照
備考						

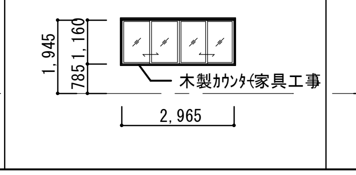
形状

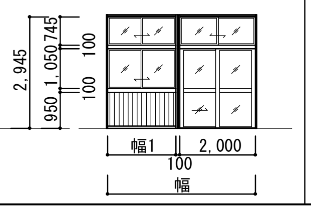












木製学校用パーティション仕様
特記無き限り下記仕様とする

■仕上
- 枠材表面材：ラジアタパイン集成材＋桧突板貼り
- 枠材心材　：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
- パネル部　：市産能登ヒバ羽目板＋WP
- 扉部　　　：ラジアタパイン集成材＋桧突板貼り

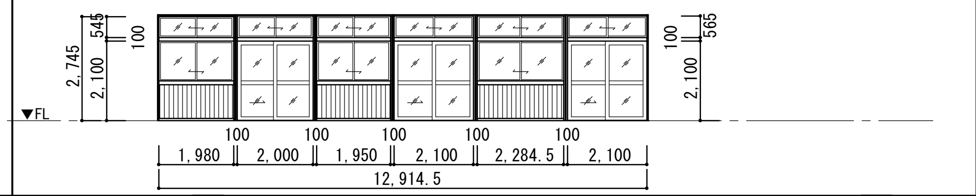
■ガラス
- 欄間部：TP4（学校用）
- 扉部　：TP4＋飛散防止フィルム
- 窓部　：FL5

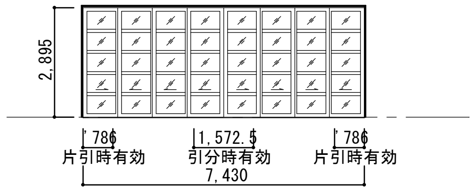
■金物他
- 枠　　：WF
- 扉部　：PD、SUS製M型ﾚｰﾙ、ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ入り戸車、SUS船底引手、　TA、手詰防止ﾊﾟｯｷﾝ、その他付属金物一式
- 窓部　：C、ｱﾙﾐﾚｰﾙ、その他付属金物一式

■その他
- コマニー
  SPart Wタイプ　同等品以上

	7 WSP	8 WSP
名称	欄間付き連窓引き違い窓＋引き違いﾄﾞｱ	８枚引き戸
数量	１ヶ所	１ヶ所
場所	２階：特別支援廊下	３階：ﾗﾝﾁﾙｰﾑ
仕上	別表参照	別表参照
金物	別表参照	WF、PD、SUS製M型ﾚｰﾙ、ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ入り戸車、SUS船底引手、TA、手詰防止ﾊﾟｯｷﾝ、その他付属金物一式
硝子	別表参照	別表参照
備考		

形状

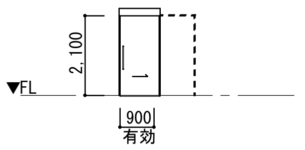
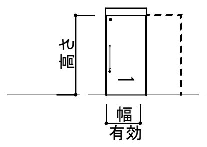
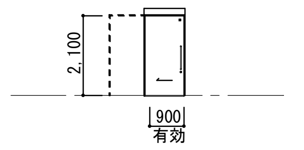
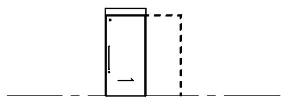
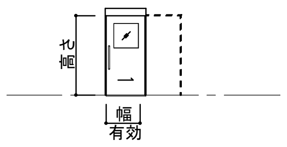
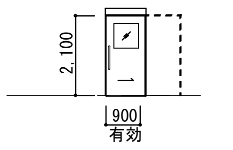
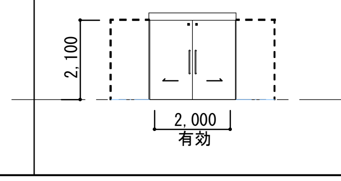


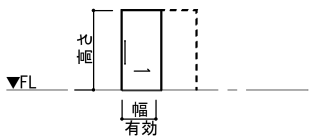
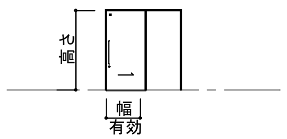
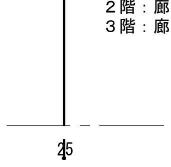
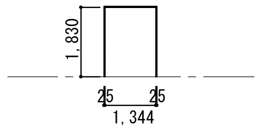


WSP1-6集計（7・8は図示の通り）

建具記号	建具番号	場所	数量	幅	幅１	幅２	幅３	高さ	高さ１
WSP	1a	１階：特別活動室×2	2	7,490	1,730	1,730	1,730	2,945	745
WSP	1b	１階：職員室×2	2	7,430	1,710	1,710	1,710	2,945	745
WSP	1c	３階：家庭科室	1	7,370	1,693	1,694	1,693	2,895	695
WSP	1d	２階：図工室、理科室	2	7,430	1,710	1,710	1,710	2,895	695
WSP	2a	２・３階：多目的教室×2、CR6、CR12	4	7,080	1,390	1,390		2,895	695
WSP	2b	２階：CR1-5、３階CR7-11	10	7,490	1,595	1,595		2,895	695
WSP	2c	２階：理科室、３階家庭科室	2	7,430	1,595	1,535		2,895	695
WSP	2d	３階：通級学級2	1	7,360	1,530	1,530		2,895	695
WSP	3	２階:図工準備室	1	7,450	1,555	1,595		2,895	745
WSP	4a	１階：事務室	1	2,000				2,945	745
WSP	4b	２階：特支廊下	1	2,100				2,895	695
WSP	4c	２階：特別支援学級4	1	2,000				2,745	545
WSP	4d	２階：通級学級1	1	2,000				2,895	695
WSP	5	１階：事務室	1	2,965				1,160	
WSP	6a	１階：放送室	1	3,900	1,800			2,945	745
WSP	6b	１階：保健室	1	3,920	1,820			2,945	745

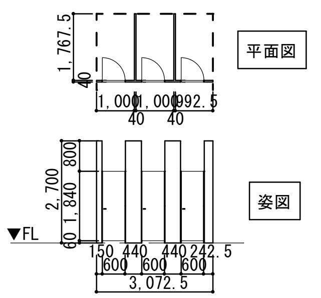
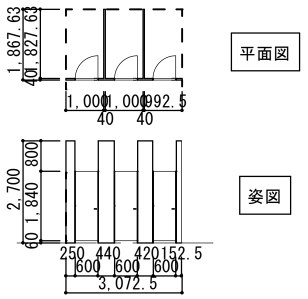
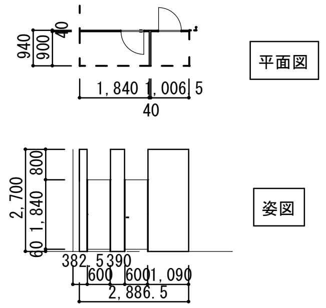
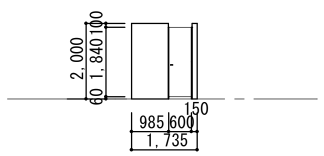
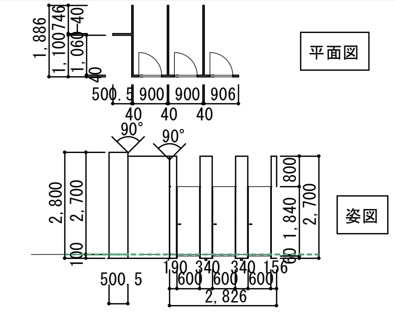
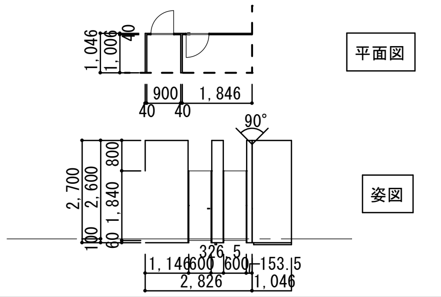
JOB NO. 125280
2026　年　　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所
一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　建具リスト（４）
縮尺　A1：1/100　A3：1/200
図番　A－e07

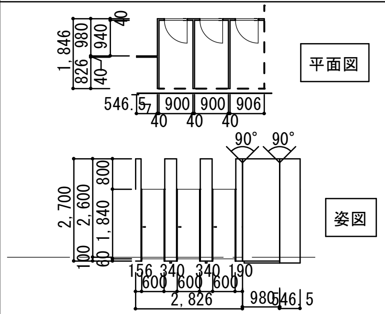
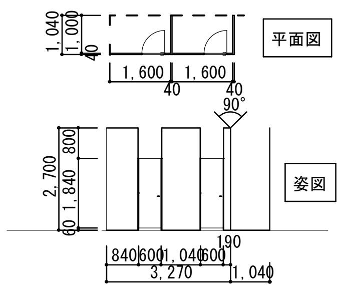
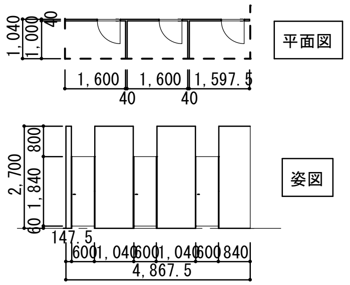
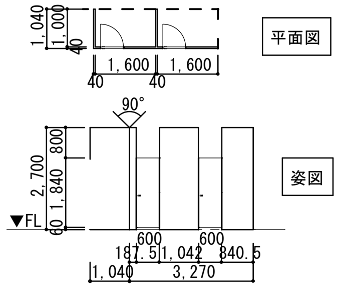
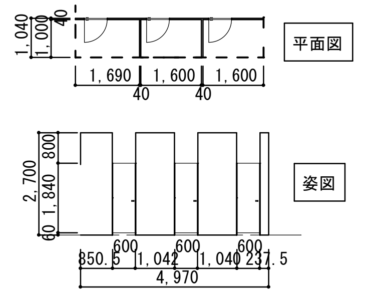
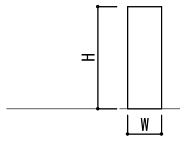
名　称	1 LSD 引き込みﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ	2a LSD ～ 2d LSD 小窓付引込ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ	2e LSD 小窓付引込ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ 【特定防火設備】	2f LSD 小窓付引込ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ 【特定防火設備・遮煙】	3a LSD ～ 3b LSD 窓付引込ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ	3c LSD 常閉引込ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ 【特定防火設備】	4 LSD 常閉引込引分ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ 【特定防火設備】
数　量	２ヶ所	集計表参照	１ヶ所	１ヶ所	集計表参照	５ヶ所	２ヶ所
場　所	２・３階：ＵＷＣ	集計表参照	２階：特支廊下	２階：書庫	集計表参照	１階：廊下×２、２階配膳室、３階配膳室×２	２階：教材庫、３階：楽器庫
仕　上	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	t0.6亜鉛メッキ鋼板焼付塗装	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り
金　物	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 自在ｽﾄｯﾊﾟｰ付き、引棒、SUS沓摺、表示錠	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 自在ｽﾄｯﾊﾟｰ付き、引棒、SUS沓摺	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 自在ｽﾄｯﾊﾟｰ付き、引棒、SUS沓摺	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、 引棒、SUS沓摺、下框錠
硝　子		型４	耐熱強化t5	耐熱強化t5	TP4	耐熱強化t5	耐熱強化t5
備　考	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板焼付塗装	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り
形　状	 	小窓サイズ60×60  	小窓サイズ60×60  	小窓サイズ60×60 	 	配膳室⇔ﾗﾝﾁﾙｰﾑ間の鍵は 配膳室側ｻﾑﾀｰﾝ、ﾗﾝﾁﾙｰﾑ側空錠  	小窓サイズ60×60 

名　称	1a WD ～ 1b WD 引き込みﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	2a WD ～ 2c WD 小窓付き引き込みﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	1 WF 木製一方枠	2 WF 樹脂製三方枠
数　量	集計表参照	集計表参照	１４ヶ所	２ヶ所
場　所	集計表参照	集計表参照	下記	１階：保健室前室、２階：特支脱衣室
仕　上	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ(木目調)、小口堅木練付＋ＣＬ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ(木目調)、小口堅木練付＋ＣＬ	t25堅木集成＋OS	PVC（化粧面ｱｸﾘﾙｺｰﾃｨﾝｸﾞ）
金　物	PD、ﾌﾗｯﾀｰﾚｰﾙ、戸車、引手 ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ	PD、ﾌﾗｯﾀｰﾚｰﾙ、戸車、引手 ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ		
硝　子		型4		
備　考	指詰め防止ﾊﾟｯｷﾝ、枠:堅木集成材＋ＣＬ	指詰め防止ﾊﾟｯｷﾝ、枠:堅木集成材＋ＣＬ	枠見込145	
形　状	 	小窓サイズ60×60  	１階：保健室　H:3000 職員更衣×２　H:2700 通用廊下　H:3000 ２階：廊下×５　H:2950 ３階：廊下×５　H:2950  	

LSD/WD集計表

建具記号	建具番号	個数	場所	有効幅	高さ	鍵	備考
LSD	1	2	２・３階：UWC	900	2,100	表示錠	
LSD	2a	8	２・３階WCa×4、WCb×4	900	2,100	鍵なし	
LSD	2b	2	１階：教員WC	900	2,100	鍵なし	
LSD	2c	2	１階：給食事務×２	800	2,100	表示錠	
LSD	2d	5	１階：保健室、誰でもトイレ×3、2階：特支WC	900	2,100	表示錠	
LSD	2e	1	２階：特支廊下	900	2,100	表示錠	特定防火設備
LSD	2f	1	２階：書庫	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
LSD	3a	6	１階：給食前室1×2、前室2×2、食品庫×2	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
LSD	3b	4	１階：給食調理室×2、洗浄室、下処理室	1,200	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
LSD	3c	5	１階：廊下x2、２階配膳室、３階配膳室x2	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	特定防火設備
LSD	4	2	２階：教材庫、３階：楽器庫	2,260	2,100	下框錠	特定防火設備
WD	1a	3	２階：書庫、３階：教材庫、ﾗﾝﾁﾙｰﾑ	900	2,100	<各種>	
WD	1b	3	２階：図工室、理科室、３階：家庭科室	1,200	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
WD	2a	2	１階：職員更衣×2	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
WD	2b	2	１階：教育相談室1、保健相談室	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
WD	2c	16	１階：保健前室、教育相談室×2、職員室×4、印刷室×2、 校長室×2、相談室、特別活動倉庫×2、倉庫、保健相談室	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	

名　称	1a TB トイレブース	1b TB トイレブース	1c TB トイレブース	2a TB トイレブース	3a TB トイレブース	3b TB トイレブース
数　量	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所
場　所	１階：教員ＭＷＣ	１階：教員ＷＷＣ	１階：教員ＷＷＣ	１階：ＷＣ	１階：外部ＷＷＣ	１階：外部ＷＷＣ
仕　上	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ
金　物	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木
硝　子						
備　考						
形　状	 平面図 姿図 1,767.5 40 1,000 1,000 992.5 40 40 2,700 1,840 800 60 ▼FL 150 440 440 242.5 600 600 600 3,072.5	 平面図 姿図 1,867.63 1,827.63 40 1,000 1,000 992.5 40 40 2,700 1,840 800 60 250 440 420 152.5 600 600 600 3,072.5	 平面図 姿図 940 900 40 1,840 1,006.5 40 2,700 1,840 800 60 382.5 390 600 600 1,090 2,886.5	 	 平面図 姿図 1,886 1,100 746 1,060 40 40 500.5 900 900 906 40 40 40 90° 90° 2,800 2,700 100 1,840 800 2,700 60 190 340 340 156 500.5 600 600 600 2,826	 平面図 姿図 1,046 1,006 40 900 1,846 40 40 90° 2,700 2,600 1,840 800 100 60 326.5 1,146 600 600 153.5 2,826 1,046

名　称	3c TB トイレブース	4a TB トイレブース	4b TB トイレブース	5a TB トイレブース	5b TB トイレブース	*1 TB トイレブース
数　量	１カ所	２カ所	２カ所	２カ所	２カ所	集計表参照
場　所	１階：外部ＭＷＣ	２・３階：ＭＷＣ２ｂ	２・　３階：ＷＷＣ２ｂ	２・３階：　　ＭＷＣ１ｂ	２・３階：ＷＷＣ１ｂ	集計表参照
仕　上	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ
金　物	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、 表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木
硝　子						
備　考						
形　状	 平面図 姿図 1,846 980 940 826 40 40 546.5 900 900 906 40 40 40 90° 90° 2,700 2,600 1,840 800 100 60 156 340 340 190 600 600 600 2,826 980 546.5	 平面図 姿図 1,040 1,000 40 1,600 1,600 40 40 90° 2,700 1,840 800 60 190 840 600 1,040 600 1,040 600 3,270 1,040	 平面図 姿図 1,040 1,000 40 1,600 1,600 1,597.5 40 40 2,700 1,840 800 60 147.5 600 1,040 600 1,040 600 840 4,867.5	 平面図 姿図 1,040 1,000 40 1,600 1,600 40 40 90° 2,700 1,840 800 60 ▼FL 600 600 187.5 1,042 840.5 1,040 3,270	 平面図 姿図 1,040 1,000 40 1,690 1,600 1,600 40 40 2,700 1,840 800 60 600 600 600 850.5 1,042 1,040 237.5 4,970	

番号	個数	場所	W	H
＊1	2	１階：教員MWC・　WWC	900	2700
＊3	1	１階：外部MWC	1042.5	2650

JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　建具リスト（５）	縮尺　A1：1/100　A3：1/200	図番　A－e08

建具リスト特記事項

(1 ※※) 防火設備・特定防火設備を示す

(1 ※※) 一般建具を示す

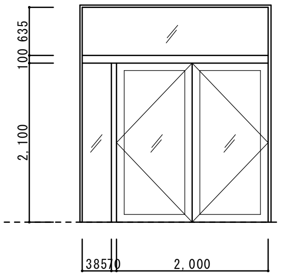
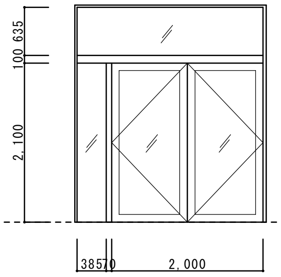
ＡＤ	アルミ製ドア	枠見込		M/M	・網戸は塩ビ製とする
ＡＷ	アルミ製窓	枠見込		M/M	・アルミはステンカラーとする
ＷＤ	木製ドア	戸見込		M/M	・水切は二重水切とする
ＷＷ	木製窓	戸見込	36	M/M	・丁番は３枚吊とする。
ＳＤ	鋼製ドア	戸見込	40	M/M	・FIX部分は結露受取付とする
ＬＳＤ	軽量鋼製ドア	戸見込	ﾒｰｶｰ標準寸		

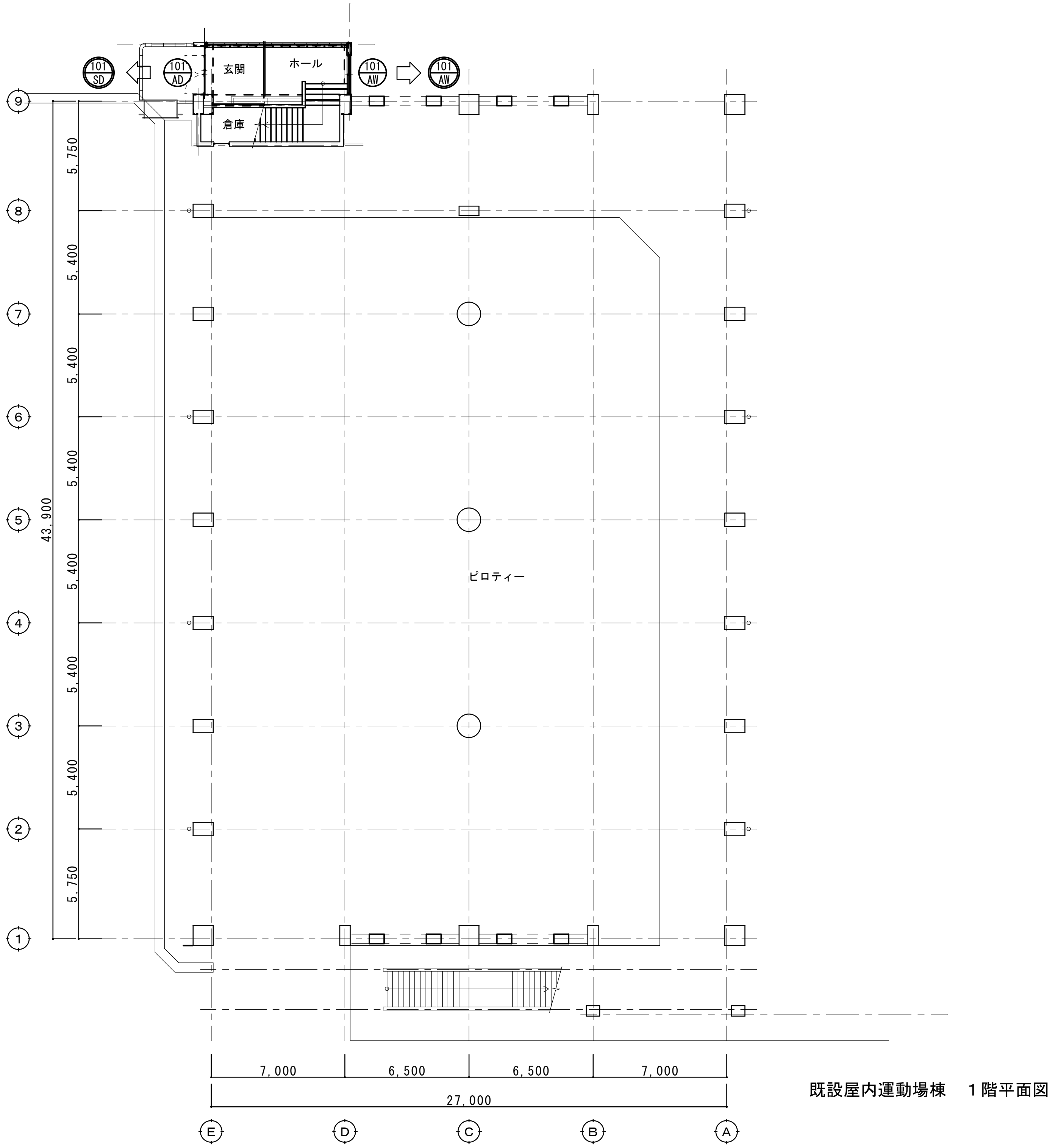
特記なきアルミ建具はＲＣ枠＋内額縁仕様とする
・強度　S-4，気密性 A-4，水密性 W-4 とする
・金物は全てステンレス製（SUS304,18.8cr）とする
・鋼製建具は施工図作成の上、係員の承認を得ること
・Low-Eガラスは特記なき限り日射遮蔽型とする

ＬＨ：レバーハンドル
ＣＨ：ケースハンドル
ＫＨ：カムラッチハンドル
ＣＬ：シリンダーロック錠
ＣＮＬ：ｼﾘﾝﾀﾞｰﾓﾉﾛｯｸ錠
Ｃ：クレセント
Ａ：アングルピース

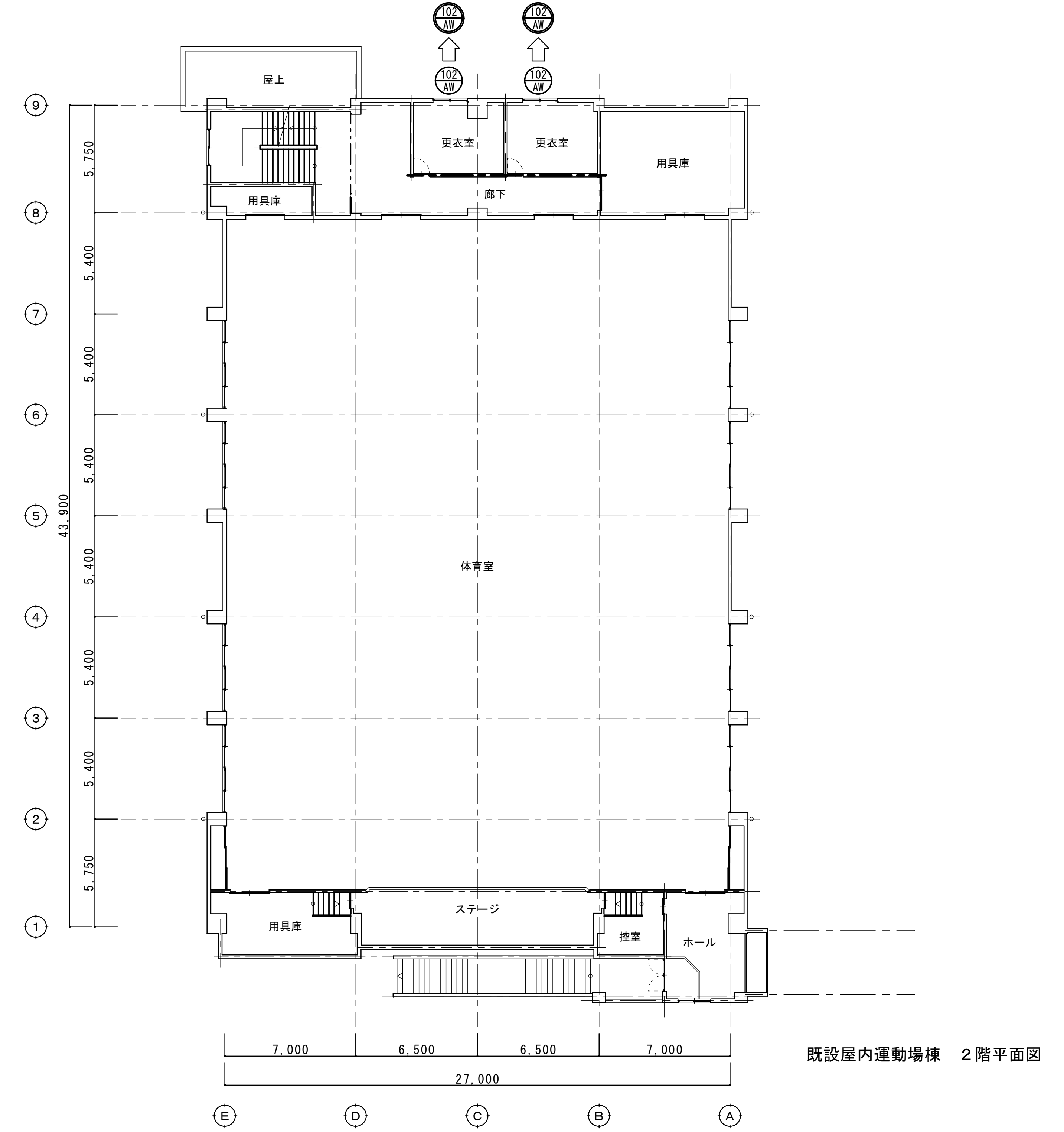
ＦＨ：フロアヒンジ
Ｆ：フランス落し
ＧＨ：グレモンハンドル
ＰＤ：シリンダー本締錠
ＯＤ：自動ドア装置
ＡＧ：アルミ額縁
ＷＧ：木製額縁（ＭＤＦ既製品）

ＤＣ：ドアチェック
ＤＣＮ：ドアチェック(ｽﾄｯﾊﾟｰ無し)
ＰＨ：ピボットヒンジ
Ｔ：丁番
ＡＲＳ：アームストッパー
ＯＰ：オペレーター装置
ＡＦ：アルミ額縁

名　称	101 AD　ランマ袖Fix窓＋両開きドア	101 SD　ランマ袖Fix窓＋両開きドア【防火設備】
数　量	1ヶ所　1階ホール	1ヶ所　1階ホール
仕　上		t1.6亜鉛メッキ鋼板＋フッ素樹脂焼付塗装
金　物		T、PD、F、M
硝　子	t 6FL撤去	PW6.8
備　考	下枠・障子：撤去、枠：残置	新設
形　状		建告１３６０号 

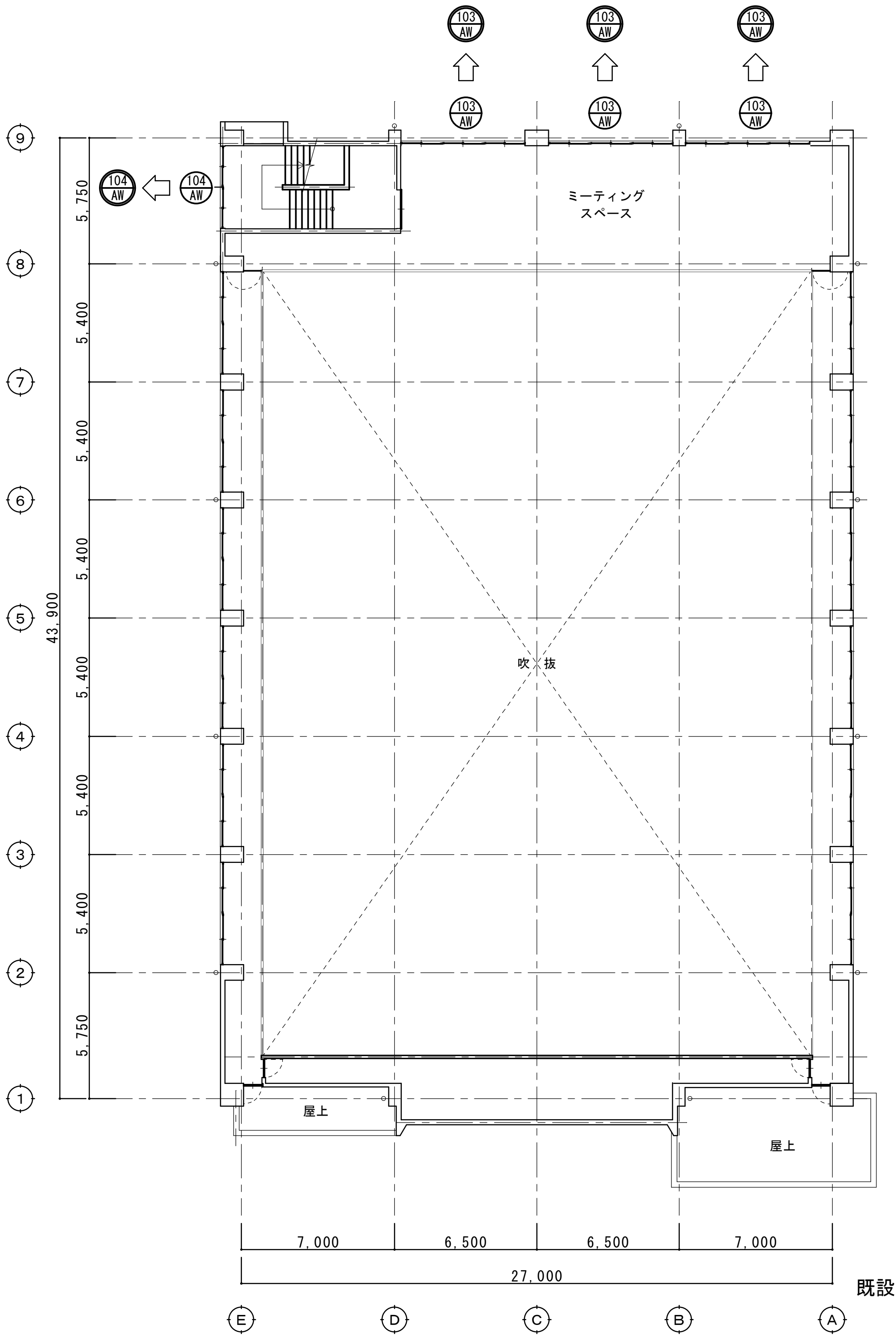


既設屋内運動場棟　１階平面図



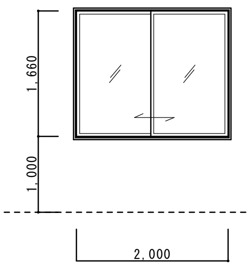
既設屋内運動場棟　２階平面図

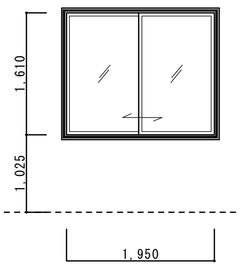
JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	建具リスト（６）　既設屋内運動場 改修	縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図番	Ａ －e09



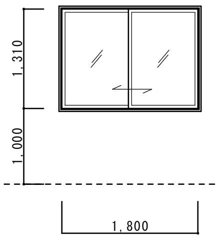
既設屋内運動場棟　3階平面図

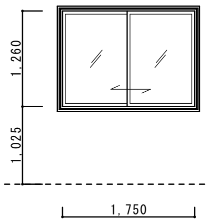
名称	101 AW 引き違い窓（防火設備）	101 AW 引き違い窓【カバー工法】（防火設備）
数量	1ヶ所　1階ホール	1ヶ所　1階ホール
仕上		陽極酸化複合被膜
金物		C、AF
硝子	t 6FL撤去	PW6.8
備考	障子撤去	
形状		EB-2937-1



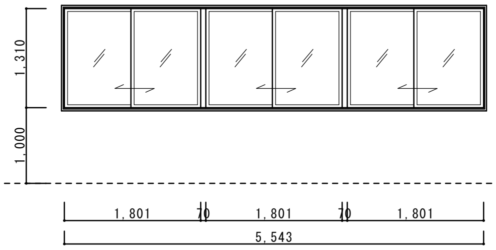


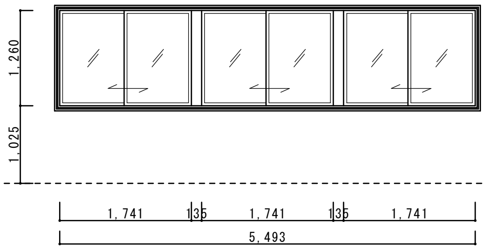
名称	102 AW 引き違い窓	102 AW 引き違い窓【カバー工法】（防火設備）
数量	2ヶ所　2階更衣室	2ヶ所　2階更衣室
仕上		陽極酸化複合被膜
金物		C、AF
硝子	t 6FL撤去	PW6.8
備考	障子撤去	
形状		EB-2938-1



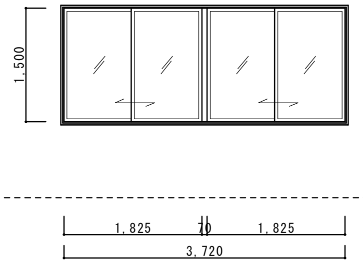


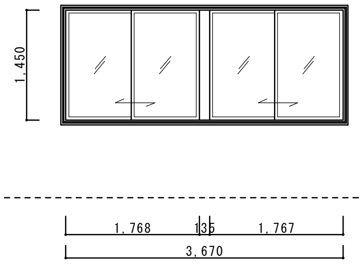
名称	103 AW 連窓引き違い窓	103 AW 連窓引き違い窓【カバー工法】（防火設備）
数量	3ヶ所　3階ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ	3ヶ所　3階ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ
仕上		陽極酸化複合被膜
金物		C、AF
硝子	t 6FL撤去	PW6.8
備考	障子撤去	
形状		EB-2938-1





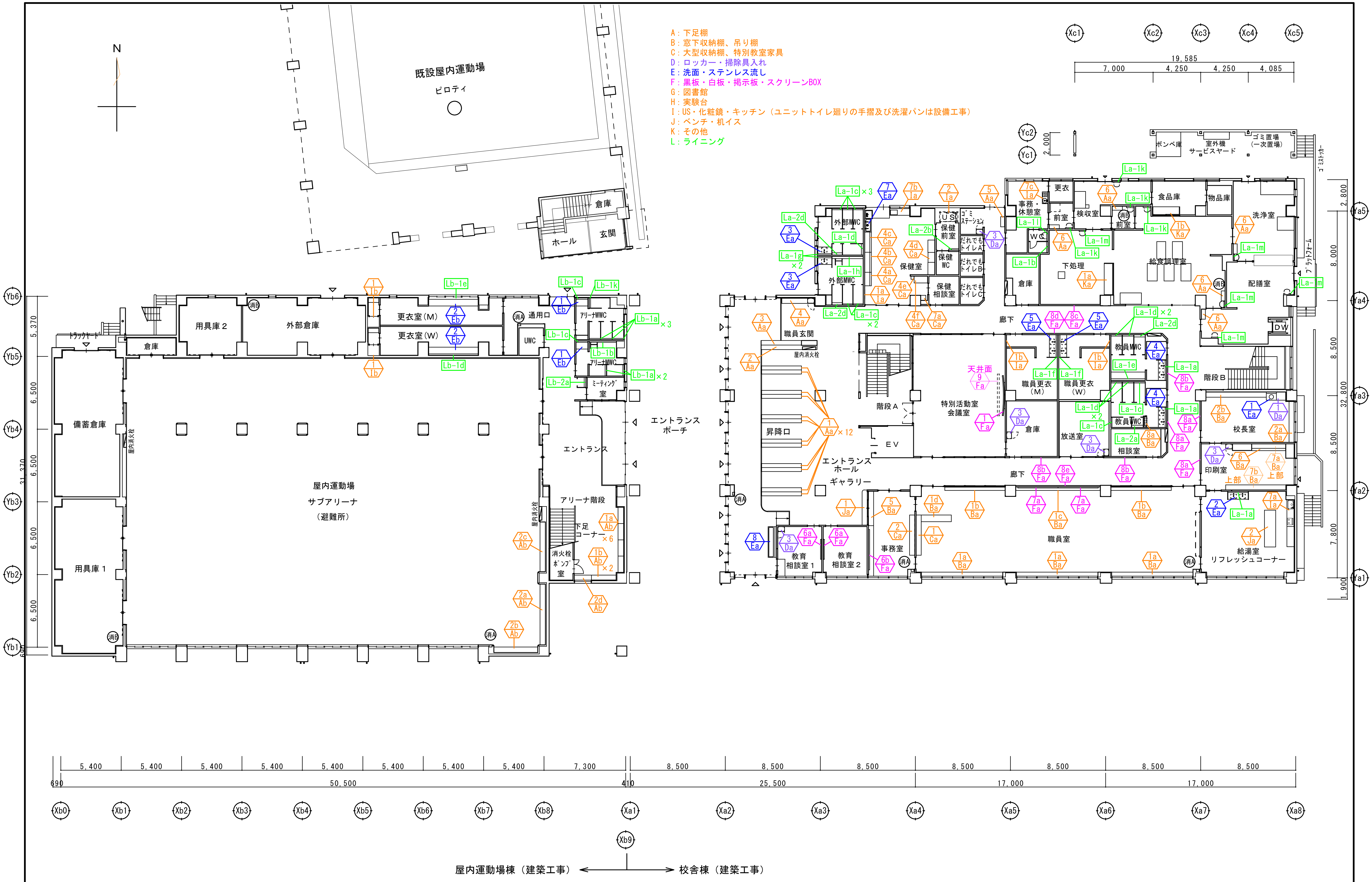
名称	104 AW 連窓引き違い窓	104 AW 連窓引き違い窓【カバー工法】（防火設備）
数量	1ヶ所　3階階段	1ヶ所　3階階段
仕上		陽極酸化複合被膜
金物		C、AF
硝子	t 6FL撤去	PW6.8
備考	障子撤去	
形状		EB-2938-1



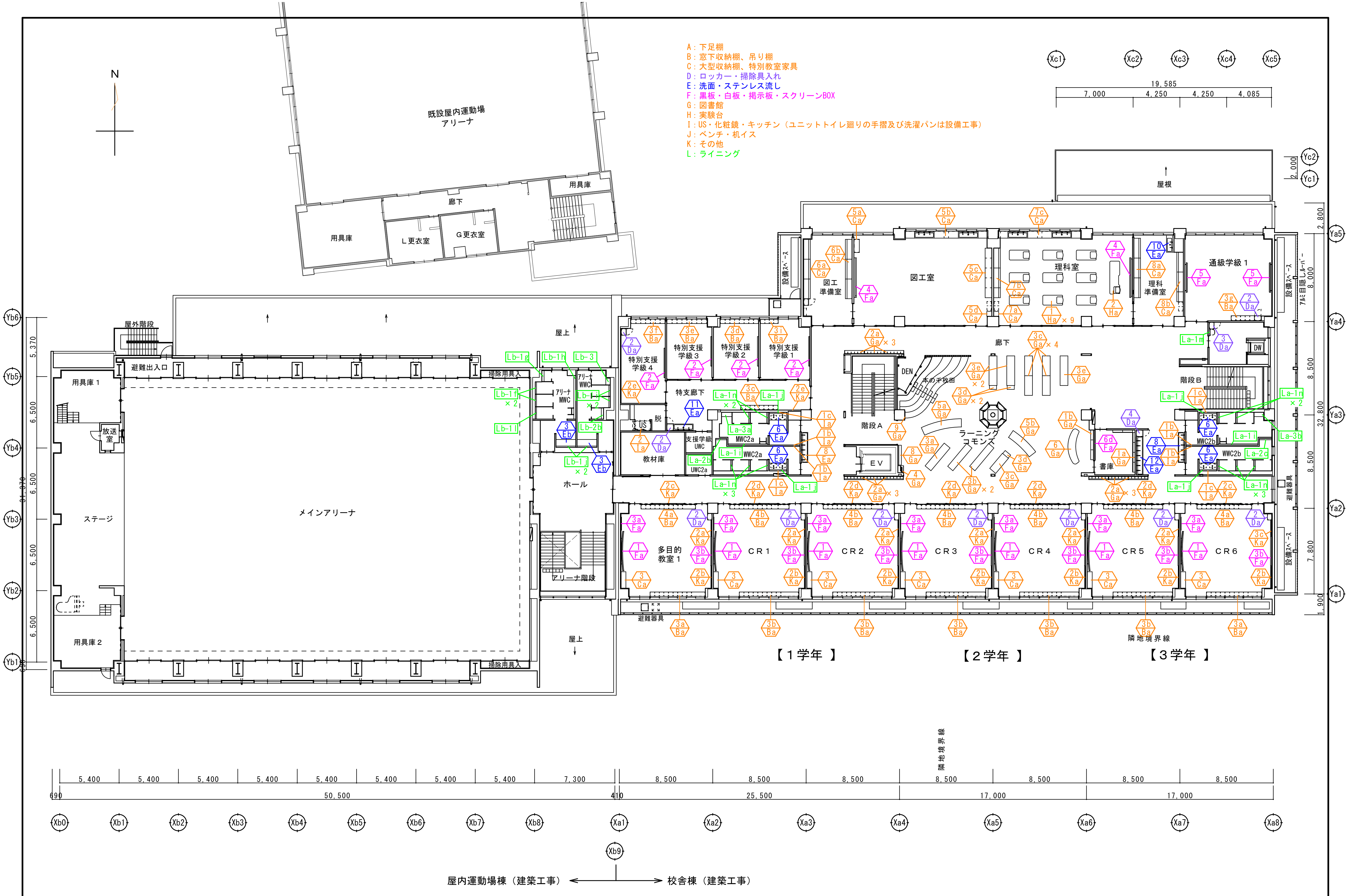


JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	建具リスト（７） 既設屋内運動場 改修	縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図番	A ーe10

A：下足棚
B：窓下収納棚、吊り棚
C：大型収納棚、特別教室家具
D：ロッカー・掃除具入れ
E：洗面・ステンレス流し
F：黒板・白板・掲示板・スクリーンBOX
G：図書館
H：実験台
I：US・化粧鏡・キッチン（ユニットトイレ廻りの手摺及び洗濯パンは設備工事）
J：ベンチ・机イス
K：その他
L：ライニング



JOB NO.											
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	１階　家具符号図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－e11 B－e06

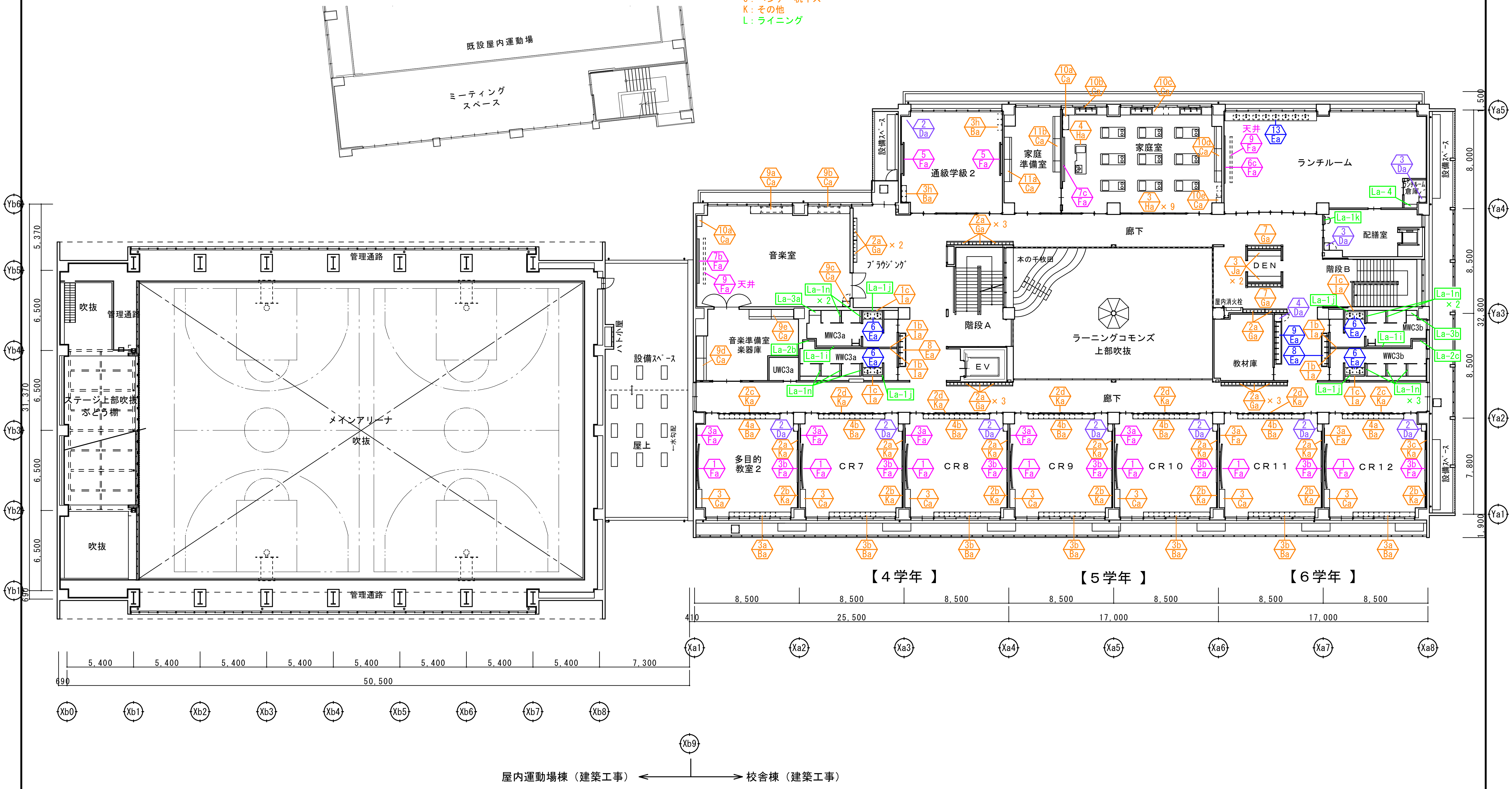


A：下足棚
B：窓下収納棚、吊り棚
C：大型収納棚、特別教室家具
D：ロッカー・掃除具入れ
E：洗面・ステンレス流し
F：黒板・白板・掲示板・スクリーンBOX
G：図書館
H：実験台
I：US・化粧鏡・キッチン（ユニットトイレ廻りの手摺及び洗濯パンは設備工事）
J：ベンチ・机イス
K：その他
L：ライニング

屋内運動場棟（建築工事） ←→ 校舎棟（建築工事）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	２階　家具符号図	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－e12 B－e07

A：下足棚
B：窓下収納棚、吊り棚
C：大型収納棚、特別教室家具
D：ロッカー・掃除具入れ
E：洗面・ステンレス流し
F：黒板・白板・掲示板・スクリーンBOX
G：図書館
H：実験台
I：US・化粧鏡・キッチン（ユニットトイレ廻りの手摺及び洗濯パンは設備工事）
J：ベンチ・机イス
K：その他
L：ライニング



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

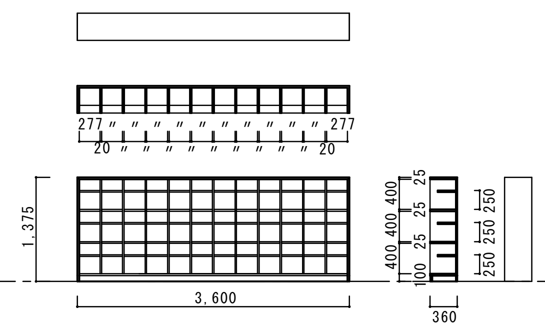
設計　・　・

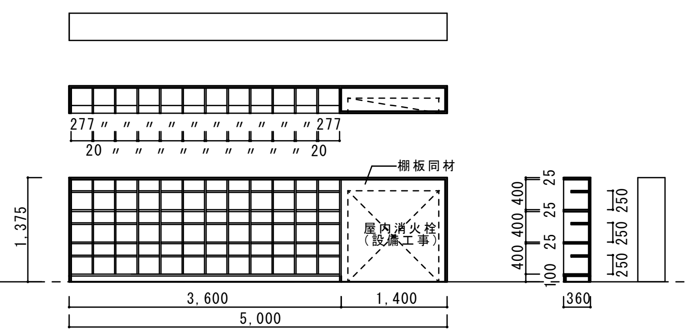
標題　3階　家具符号図

縮尺　A1：1/150　A3：1/300

図番　A－e13　B－e08

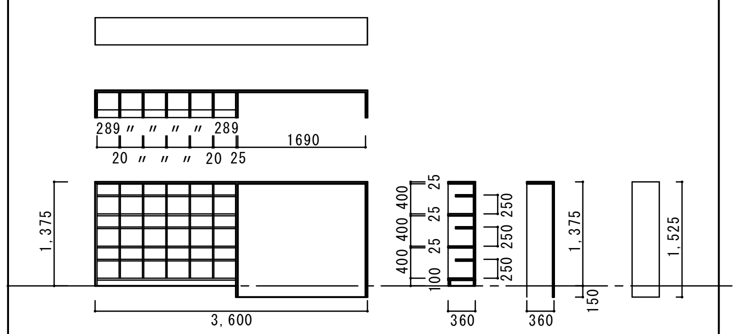
記号	数量	名称		記号	数量	名称	
1/Aa	12	生徒用下足棚	昇降口	2/Aa	1	生徒用下足棚＋屋内消火栓	昇降口

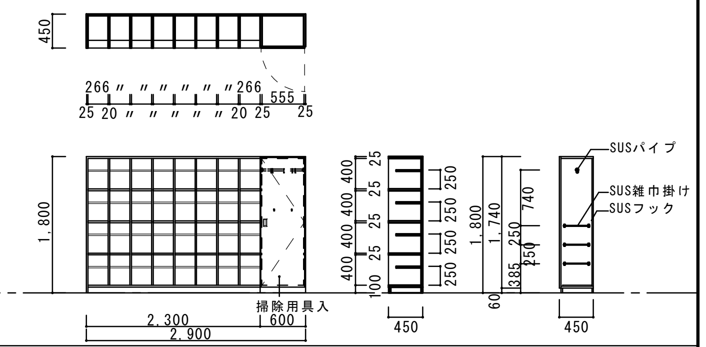




	1/Aa 生徒用下足棚	2/Aa 生徒用下足棚＋屋内消火栓
仕上・材料	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、背板･内部･仕切板:t4ﾎﾟﾘ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、背板･内部･仕切板:t4ﾎﾟﾘ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)
建具		
金物 硝子	名差し金具	名差し金具
備考	木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板、棚板:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(t9合板下地)	木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板、棚板:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(t9合板下地)

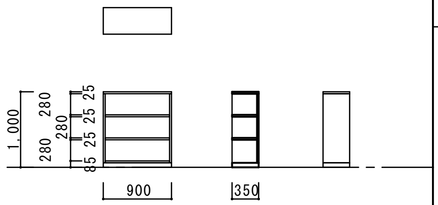
記号	数量	名称		記号	数量	名称	
3/Aa	1	来客職員用下足棚	昇降口	4/Aa	1	来客職員用下足棚＋掃除用具	昇降口





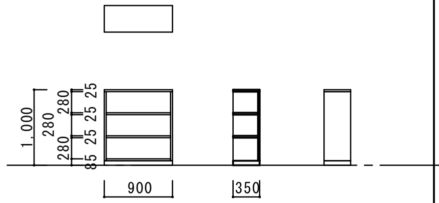
	3/Aa 来客職員用下足棚	4/Aa 来客職員用下足棚＋掃除用具
仕上・材料	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、背板･内部･仕切板:t4ﾎﾟﾘ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、背板･内部･仕切板:t4ﾎﾟﾘ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)
建具		
金物 硝子	名差し金具	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ、SUSﾀｵﾙ掛け SUS巻ﾊﾟｲﾌﾟφ25（Sカン5個付）、SUS製玉付ﾌｯｸTF-30、SUS露受
備考	木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板、棚板:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(t9合板下地)	木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板、棚板:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(t9合板下地)

記号	数量	名称	
5/Aa	1	職員用くつ入れ	通用廊下



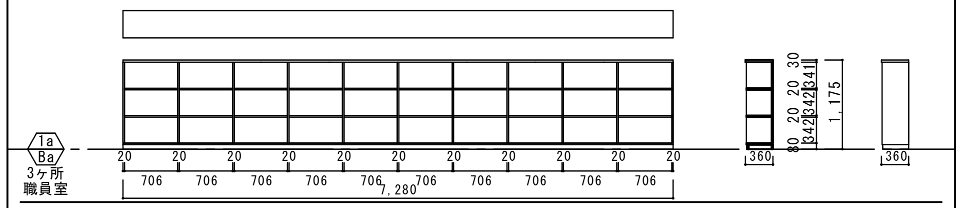
仕上・材料	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、
建具	背板･内部:t4ﾎﾟﾘ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)
金物	
硝子	
備考	木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板、棚板:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(t9合板下地)

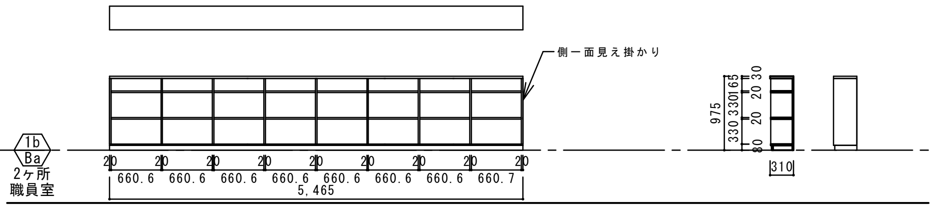
記号	数量	名称	
6/Aa	5	給食用くつ入れ	各所

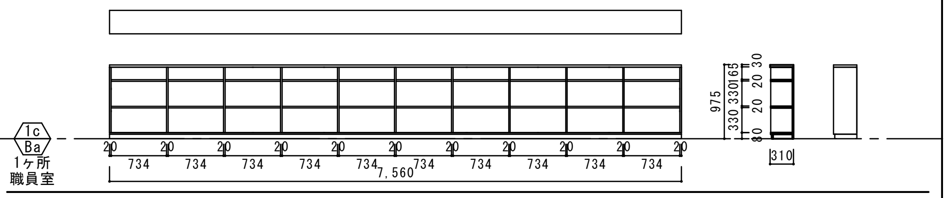


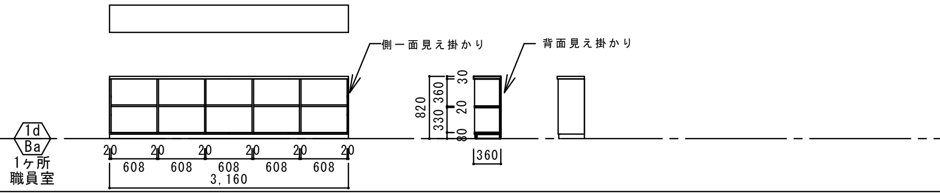
仕上・材料	天板･側板:メラミン化粧板貼りフラッシュ、
建具	小口･巾木:メラミン化粧板貼り
金物	棚板、中段:ｔ25メラミン化粧板貼りフラッシュ
硝子	
備考	

記号	数量	名称	
1a～1d/Ba	下記	窓下収納棚	職員室



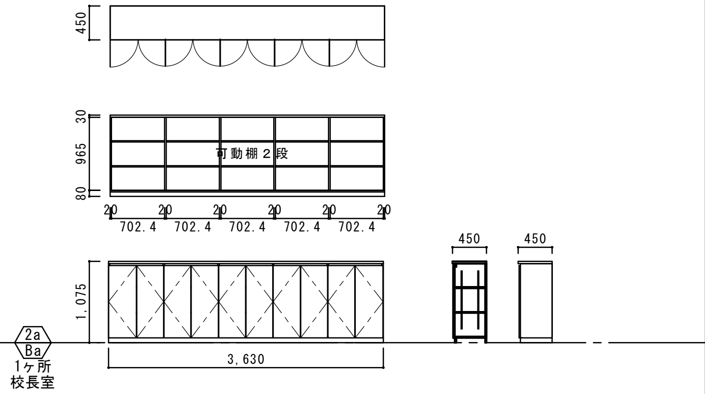


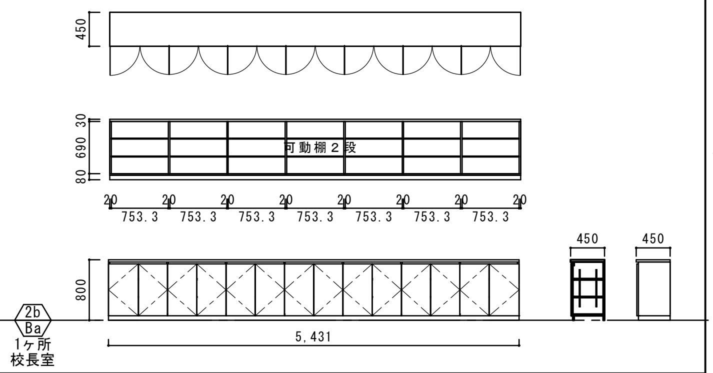




仕上・材料	天板:t25堅木集成材＋UC、本体:t4ｼﾅ合板貼り、内部:ﾎﾟﾘ合板、木口:ｼﾅ無垢板、巾木:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板
建具	
金物	
硝子	
備考	棚板:t4シナ合板貼り(ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ)(木口:ｼﾅ無垢板)

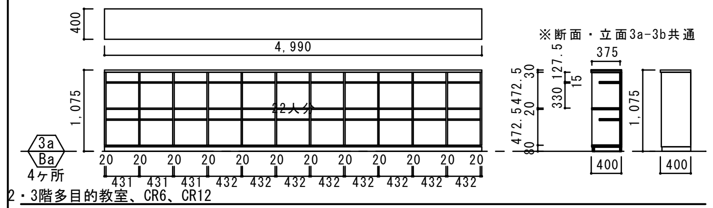
記号	数量	名称	
2a－2b/Ba	各1	扉付き窓下収納棚	校長室

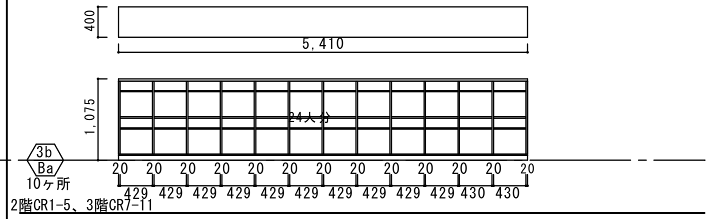


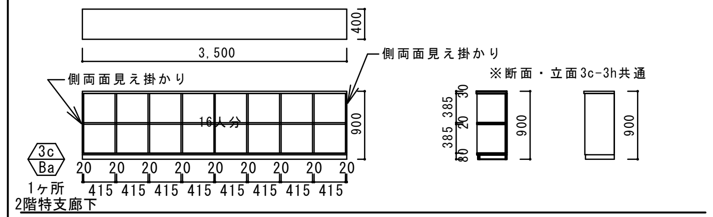


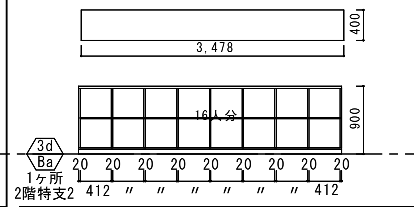
仕上・材料	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、見え隠れ部:t4ﾎﾟﾘ合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)、木口・巾木:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り
建具	扉:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)　上部彫込手掛
金物	ｽﾗｲﾄﾞ丁番（ﾊﾞﾈ付）、全可動面付棚柱・ﾀﾞﾎﾞ
硝子	
備考	棚板:ﾎﾟﾘ合板貼り(ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ)(木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧板貼り)

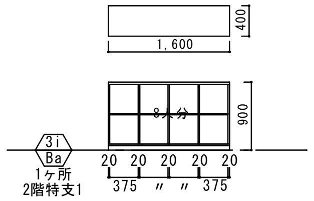
記号	数量	名称	
3a～3h/Ba	下記	生徒用ロッカー	下記

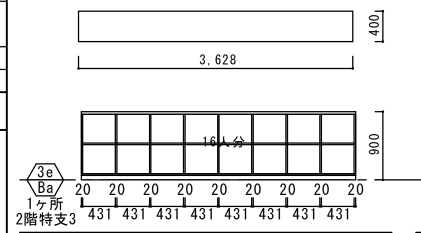


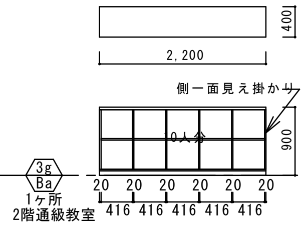


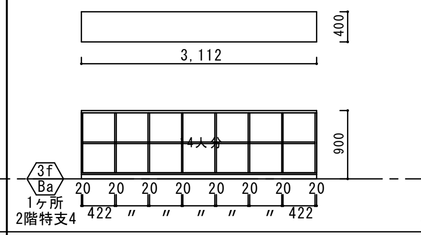


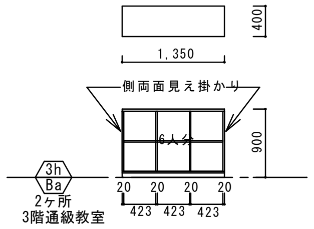








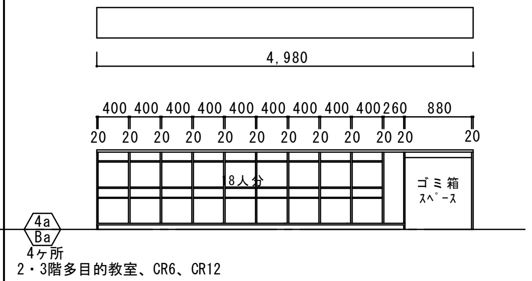


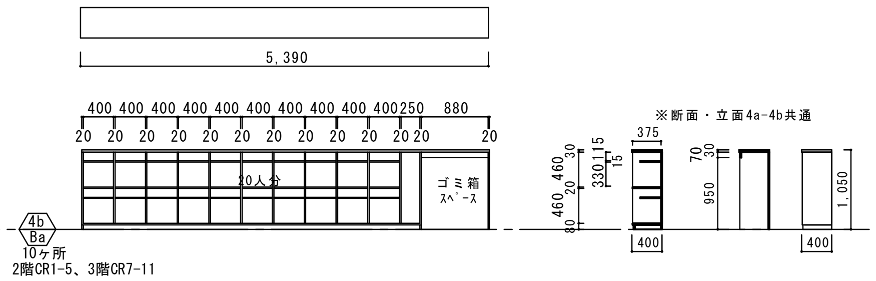


仕上・材料	天板:t25堅木集成材＋UC、本体:t4ｼﾅ合板貼り、内部:ﾎﾟﾘ合板、木口:ｼﾅ無垢板、
建具	巾木:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板
金物	名差し金具
硝子	
備考	棚板:t4シナ合板貼り(ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ)(木口:ｼﾅ無垢板)

記号	数量	名称	
4a－4b/Ba	下記	クラスロッカー	下記

【ﾛｯｶｰ数】
多目的教室,CR6,12:Ba3a+Ba4a=　35人＋5
CR1-5,7-11　　　　:Ba3a+Ba4a=　35人＋9



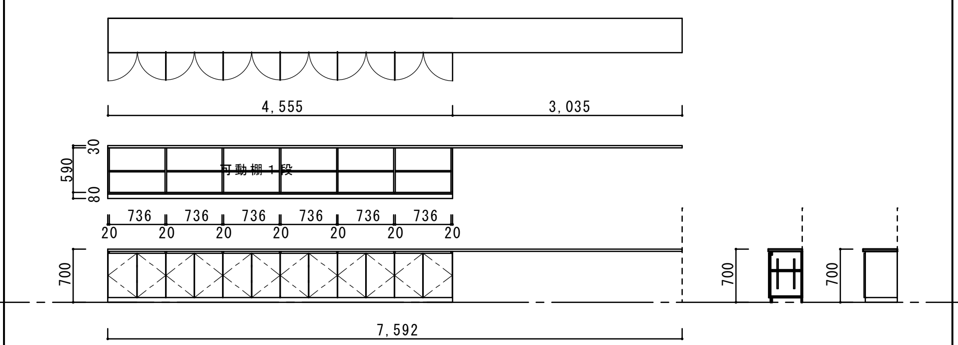
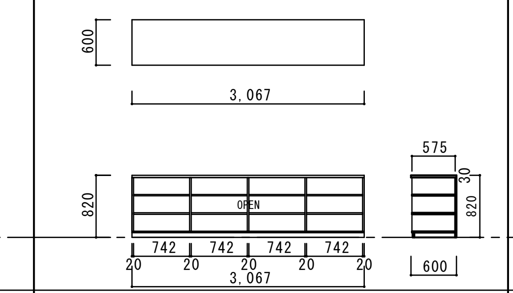
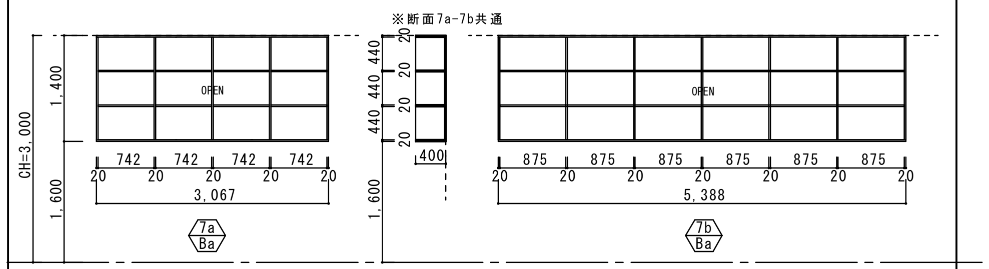
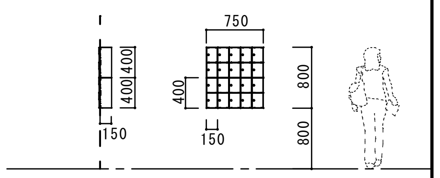


仕上・材料	天板:t25堅木集成材＋UC、本体:t4ｼﾅ合板貼り、内部:ﾎﾟﾘ合板、木口:ｼﾅ無垢板、巾木:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板
建具	
金物	
硝子	
備考	棚板:t4シナ合板貼り(ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ)(木口:ｼﾅ無垢板)

JOB NO.									
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	家具リスト（１）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	図番 Ａ－e14

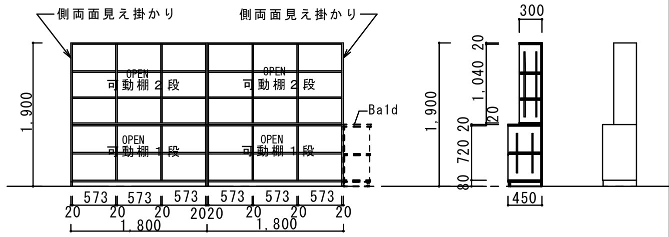
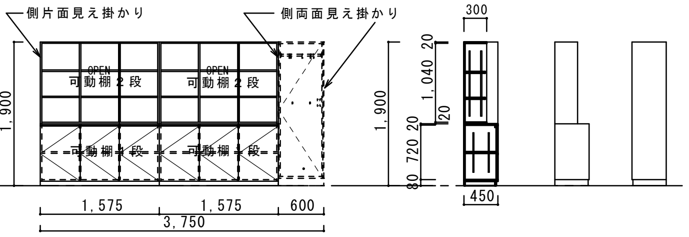
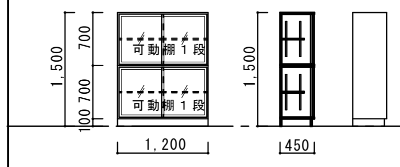
上の段使いずらすぎないか？

記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称	
5 Ba	1	袖カウンター＋扉付き窓下収納	1階事務室	6 Ba	1	オープン棚	1階印刷室	7a-7b Ba	各1	オープン吊棚	1階印刷室	8a Ba	1	プライベートＢＯＸ	教員ＷＷＣ

形状				
形状				

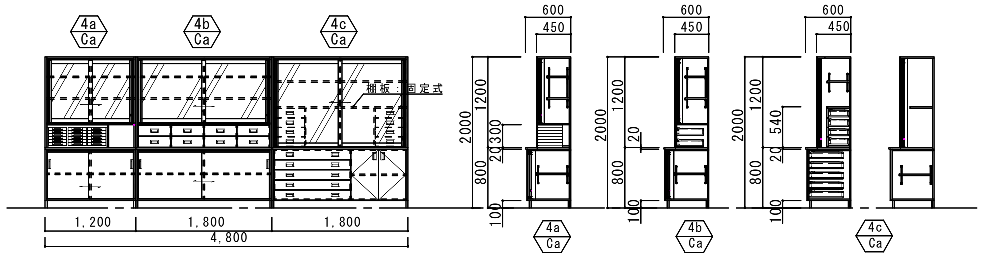
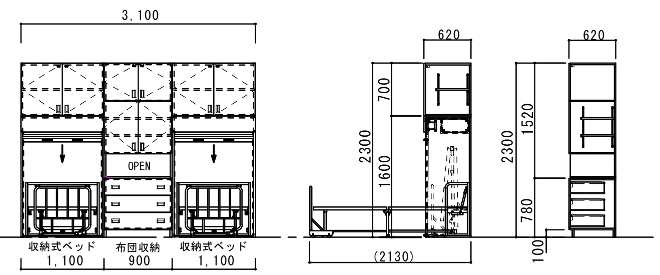
	5 Ba	6 Ba	7a-7b Ba	8a Ba
仕上・材料	天板・側板：t25堅木集成材＋UC、見え隠れ部：t4ﾎﾟﾘ合板貼り（ﾌﾗｯｼｭ）木口：t4ポリ合板貼り、巾木：t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り	天板：t25堅木集成材＋UC、巾木：ﾒﾗﾐﾝ化粧板	側板・棚板：t4ﾎﾟﾘ合板貼り（ﾌﾗｯｼｭ）木口	本体：SUS304　t＝0.7
建具	扉：t4ポリ合板貼り（ﾌﾗｯｼｭ）　上部彫込手掛	側板・棚板：t4ﾎﾟﾘ合板貼り（ﾌﾗｯｼｭ）木口		扉　：ＰＣ樹脂（ポリカーボネイド）
金物 硝子	ｽﾗｲﾄﾞ丁番（ばね付き）、ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、隠しﾌﾞﾗｹｯﾄ金具@600、全可動面付棚柱・ﾀﾞﾎﾞ			錠前：静音ダイヤル錠
備考	棚板：ﾎﾟﾘ合板貼り（ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ）（木口：t4ﾒﾗﾐﾝ化粧板貼り）			Nasta　KS-PV200-2　（同等品）

記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称	
1 Ca	1	オープン棚	1階職員室	2 Ca	1	腰扉付き棚＋オープン棚＋掃除用具入れ	1階事務室	3 Ca	14	端末収納棚	2・3階多目的室、CR

形状			
形状			

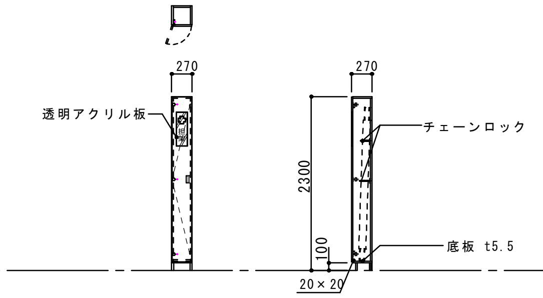
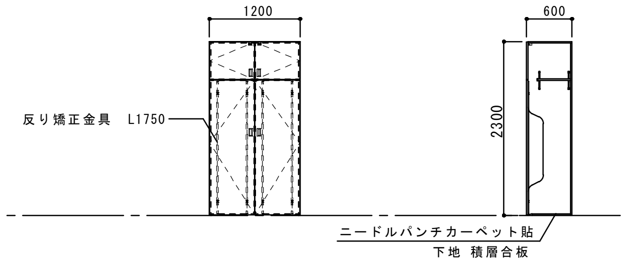
	1 Ca	2 Ca	3 Ca
仕上・材料	下段天板：t25堅木集成材＋UC、本体：t4ｼﾅ合板貼り、内部：ﾎﾟﾘ合板、木口：ｼﾅ無垢板、	下段天板：t25堅木集成材＋UC、本体：t4ｼﾅ合板貼り、内部：ﾎﾟﾘ合板、木口：ｼﾅ無垢板、	本体：t4ｼﾅ合板貼り、内部：ﾎﾟﾘ合板、木口：ｼﾅ無垢板、
建具	巾木：ﾒﾗﾐﾝ化粧板	巾木：ﾒﾗﾐﾝ化粧板	巾木：ﾒﾗﾐﾝ化粧板　　　框扉：堅木集成＋UC
金物 硝子	全可動面付棚柱・ﾀﾞﾎﾞ	扉上部堀込手掛け、ｽﾗｲﾄﾞ丁番（ﾊﾞﾈ付）、全可動面付棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、 掃除用具入れの金物はDa-2b同様	手掛け、ｱﾙﾐﾚｰﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、全可動面付棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 扉：t4TP
備考	棚板：t4シナ合板貼り（ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ）（木口：ｼﾅ無垢板）	棚板：t4シナ合板貼り（ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ）（木口：ｼﾅ無垢板）	棚板：t4シナ合板貼り（ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ）（木口：ｼﾅ無垢板）

記号	数量	名称		記号	数量	名称	
4a-c Ca	各1	大型収納棚	1階保健室	4d Ca	1	収納型ベッド＋収納	1階保健室

形状		
形状		

	4a-c Ca	4d Ca
仕上・材料	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ	外装（OPEN棚含む）：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、引違ｶﾞﾗｽ戸：t20樹脂化粧ｱﾙﾐﾗｲﾝｻｯｼ	t20木目調ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、引出：通気孔付取手・ｽﾁｰﾙ製ｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ TP4	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、引出：通気孔付取手・ｽﾁｰﾙ製ｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ、 天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ、ﾍﾞｯﾄﾞ本体：ｽﾁｰﾙﾌﾚｰﾑ（手動式）、樹脂製ｼｬｯﾀｰ一式
備考	ﾄﾚｰﾕﾆｯﾄ共	ﾏｯﾄﾚｽ共

記号	数量	名称		記号	数量	名称	
4e Ca	1	担架収納	1階保健室	4f Ca	1	大型計器収納	1階保健室

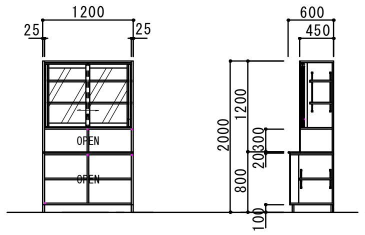
形状		
形状		

	4e Ca	4f Ca
仕上・材料	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	t20木目調ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ	t20木目調ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ 上部扉：感知式耐震ﾗｯﾁ
備考	担架別途	

JOB NO.										
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	家具リスト（２）	縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図番 A －e15

記号	数量	名称	
5a/Ca	1	大型収納棚	2階図工室

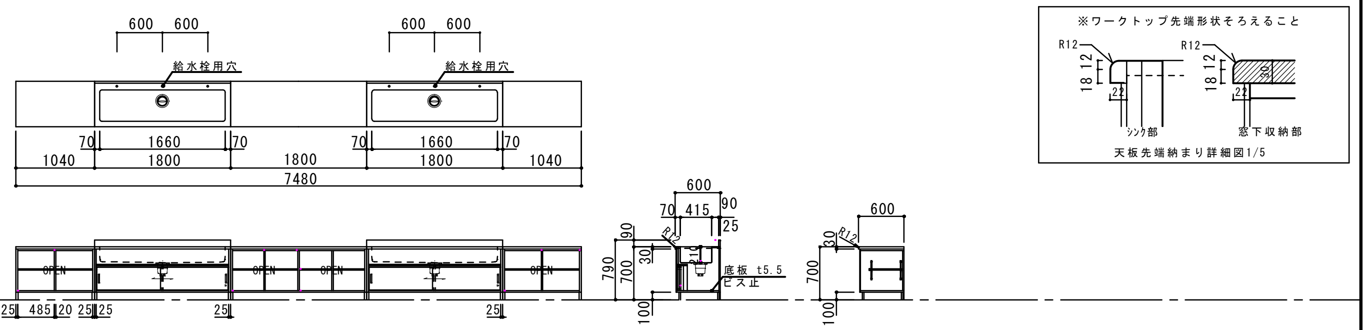
形状



仕上・材料	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装(OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	引違ｶﾞﾗｽ戸：t20樹脂化粧ｱﾙﾐﾗｲﾝｻｯｼ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、 棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、強化型ガラス4mm
備考	

記号	数量	名称	
5b/Ca	1	窓下流し台＋収納	2階図工室

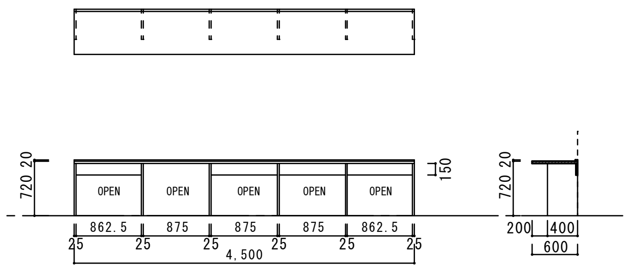
形状



仕上・材料	天板：t30ﾀﾓ集成材＋UC、外装(前板・OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 流し：SUS304 t1.0 （正面R加工）、大型排水トラップ（ゴミカゴ付）
備考	（設備工事：水栓）

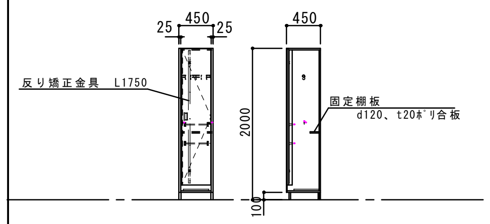
記号	数量	名称	
5c/Ca	1	作業台	2階図工室

形状



仕上・材料	天板：t30ﾀﾓ集成材＋UC、支柱板：t25ﾀﾓ集成材＋UC、
建具	
金物 硝子	
備考	

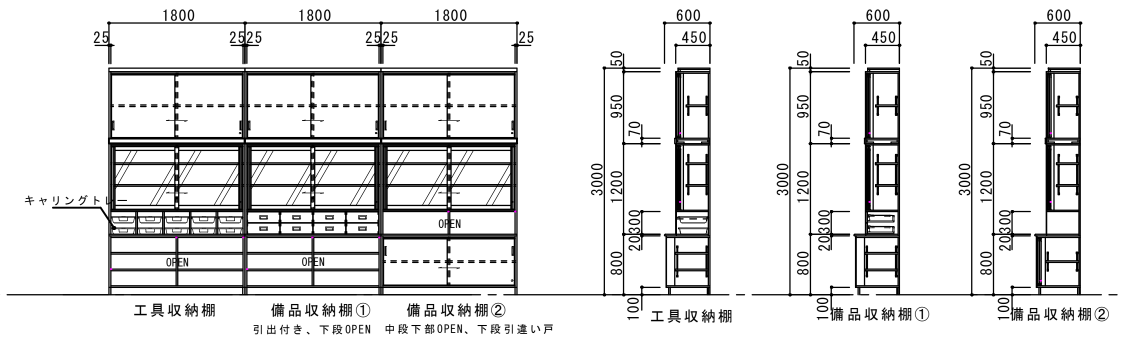
記号	数量	名称	
5c/Ca	1	掃除用具入れ	2階図工室
7a/Ca	2	掃除用具入れ	1階保健室 2階理科室



仕上・材料	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	t20木目調ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ、SUSﾀｵﾙ掛け SUS巻ﾊﾟｲﾌﾟφ25 (Sカン5個付)、SUS製玉付ﾌｯｸTF-30、SUS露受
備考	

記号	数量	名称	
6a/Ca	1	大型収納棚	2階図工準備室

形状



工具収納棚　備品収納棚①　備品収納棚②

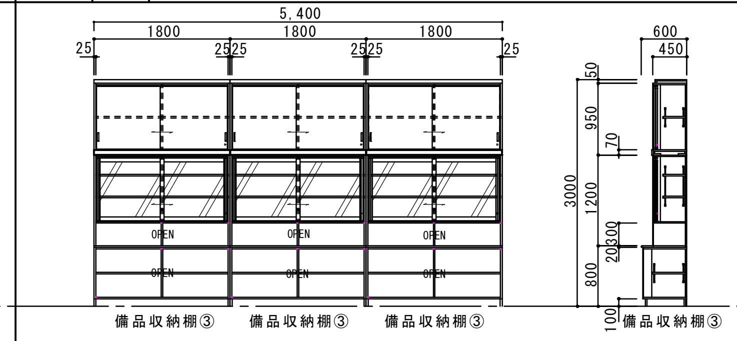
引出付き、下段OPEN　中段下部OPEN、下段引違い戸

工具収納棚　備品収納棚①　備品収納棚②

仕上・材料	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装(OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、引違ｶﾞﾗｽ戸：t20樹脂化粧ｱﾙﾐﾗｲﾝｻｯｼ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、引出：通気孔付取手・ｽﾁｰﾙ製ｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ、天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ 強化型t4
備考	ﾄﾚｰﾕﾆｯﾄ共

記号	数量	名称	
6b/Ca	1	大型収納棚	2階図工準備室

形状

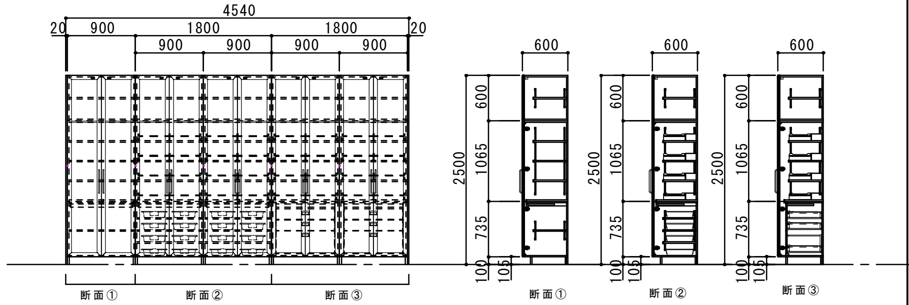


備品収納棚③　備品収納棚③　備品収納棚③　備品収納棚③

仕上・材料	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装(OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、引違ｶﾞﾗｽ戸：t20樹脂化粧ｱﾙﾐﾗｲﾝｻｯｼ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ 強化型t4
備考	

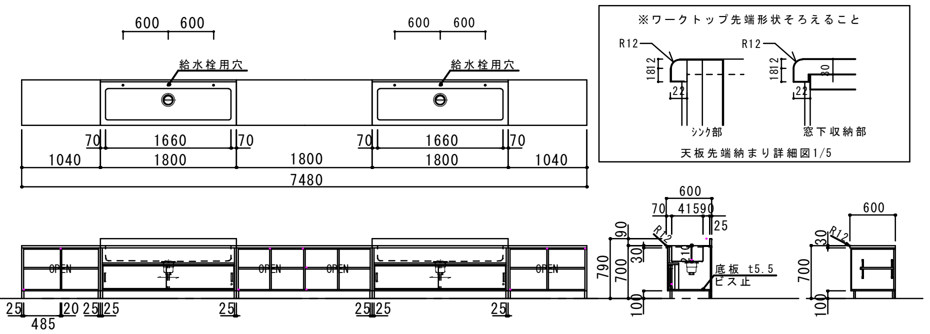
記号	数量	名称	
7b/Ca	1	大型収納棚	2階理科室
8b/Ca	1	大型収納棚	2階理科準備室

形状



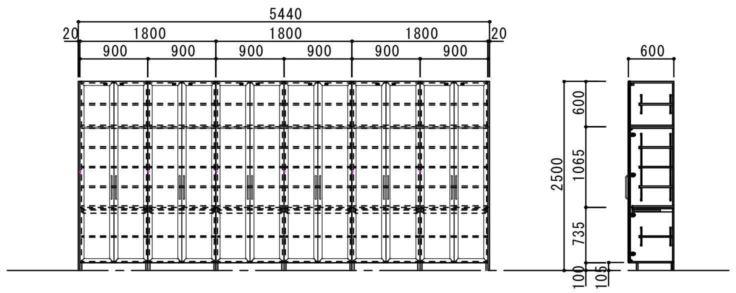
仕上・材料	本体・棚板・ｽﾗｲﾄﾞ天板・引出：t20両面ﾒﾗﾐﾝ化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、見付け：防虫ﾊﾟｯｷﾝ付樹脂ｴｯｼﾞ、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	開戸：大型ﾌﾚｰﾑｱﾙﾐｻｯｼ、扉内引出：t20両面ﾒﾗﾐﾝ化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ
金物 硝子	開戸：ｱﾙﾐﾛﾝｸﾞﾊﾝﾄﾞﾙ・3点ﾛｯｸ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・感知式耐震ﾗｯﾁ・t3ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ(ﾌﾛｽﾄ調) ｽﾗｲﾄﾞ天板：ｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ底受ﾀｲﾌﾟ、引出：ｽﾁｰﾙ製ｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ、内部棚：棚柱・ﾀﾞﾎﾞ・棚ｽﾞﾚ防止棚受,
備考	ﾄﾚｰﾕﾆｯﾄ共、ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ1面共

記号	数量	名称	
7c/Ca	1	窓下流し台＋収納	2階理科室



仕上・材料	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装(前板・OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 流し：SUS304 t1.0 （正面R加工）、大型排水トラップ（ゴミカゴ付） YT-50XSP
備考	（設備工事：水栓）

記号	数量	名称	
8a/Ca	1	大型収納棚	2階理科準備室

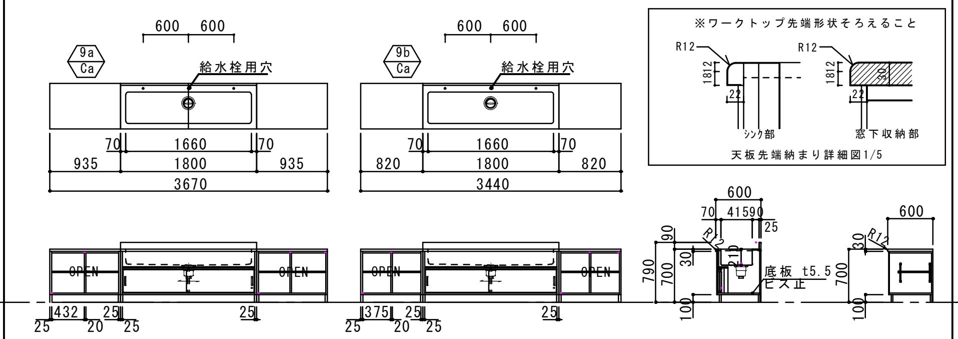


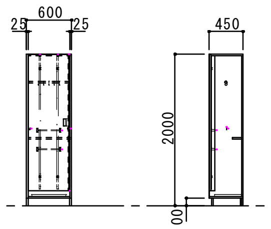
仕上・材料	本体・棚板・ｽﾗｲﾄﾞ天板：t20両面ﾒﾗﾐﾝ化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、見付け：防虫ﾊﾟｯｷﾝ付樹脂ｴｯｼﾞ、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	開戸：大型ﾌﾚｰﾑｱﾙﾐｻｯｼ、扉内引出：t20両面ﾒﾗﾐﾝ化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ
金物 硝子	開戸：ｱﾙﾐﾛﾝｸﾞﾊﾝﾄﾞﾙ・3点ﾛｯｸ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・感知式耐震ﾗｯﾁ・t3ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ(ﾌﾛｽﾄ調) ｽﾗｲﾄﾞ天板：ｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ底受ﾀｲﾌﾟ、内部棚：棚柱・ﾀﾞﾎﾞ・棚ｽﾞﾚ防止棚受
備考	ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ2面共

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 家具リスト（３）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	図番 A ーe16

記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称	
9ab Ca	各1	窓下流し台＋収納	3階音楽室	9c Ca	1	掃除用具入れ	3階図工室				

形状

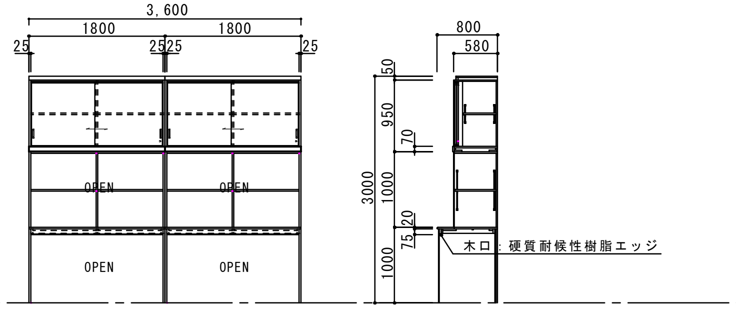


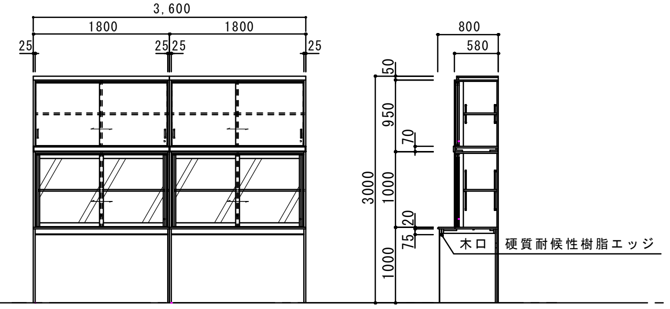


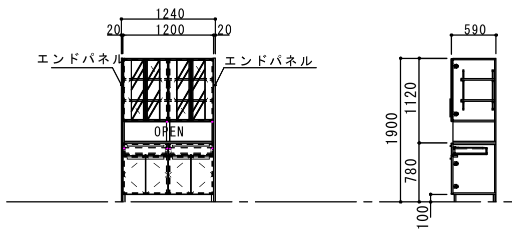
仕上・材料	天板：t30ﾀﾓ集成材＋UC、外装(前板･OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ
建具	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ	t20木目調ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 流し：SUS304 t1.0 （正面R加工）、大型排水トラップ（ゴミカゴ付）	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ、SUSﾀｵﾙ掛け SUS巻ﾊﾟｲﾌﾟφ25 (Sカン5個付)、SUS製玉付ﾌｯｸTF-30、SUS露受
備考	（設備工事：水栓）	

記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称	
9d Ca	1	大型収納棚	3階音楽準備室	9e Ca	1	大型収納棚	3階 音楽準備室	10a Ca	2	教師棚	3階 家庭室 3階 音楽室

形状



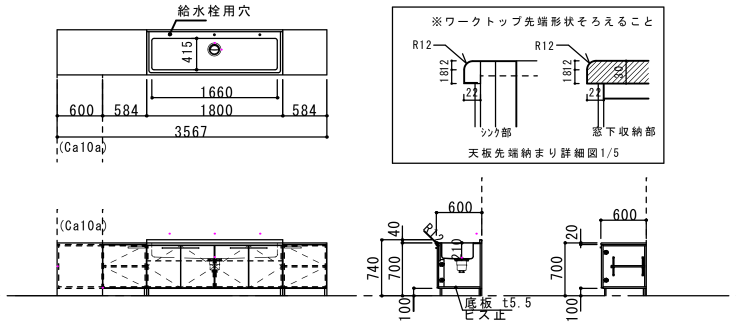


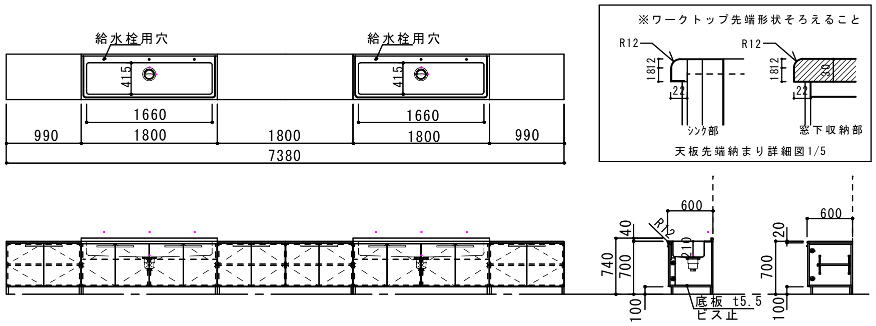


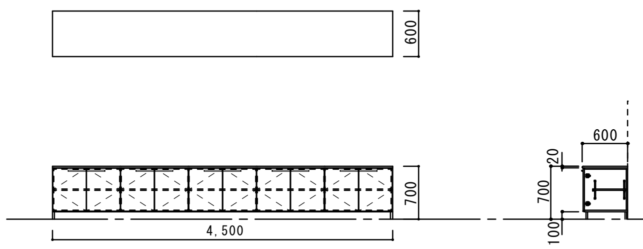
仕上・材料	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装(OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、	天板：t20ﾒﾗﾐﾝ化粧板ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ加工、外装(OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、	外装(OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ、ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ・棚板：t20ﾎﾟﾘ合板
建具	棚板：t20ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ	見付：樹脂ｴｯｼﾞ　引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、引違ｶﾞﾗｽ戸：t20樹脂化粧ｱﾙﾐﾗｲﾝｻｯｼ	扉・引出前板：t20ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、ｶﾞﾗｽ扉：t22.5ｱﾙﾐﾌﾚｰﾑ
金物 硝子	引違戸：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、 引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ	引違戸：引手・樹脂ﾚｰﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ、天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ 強化型t4	扉・ｶﾞﾗｽ扉：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番、強化型t4 棚内部：棚ズレ防止棚受･棚柱･ﾀﾞﾎﾞ、引出：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ･ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ
備考			ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ2ヶ所

記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称	
10b Ca	1	大型収納棚	3階家庭室	10c Ca	1	大型収納棚	3階家庭室	10d Ca	1	大型収納棚	3階 家庭室

形状



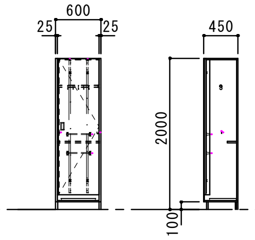


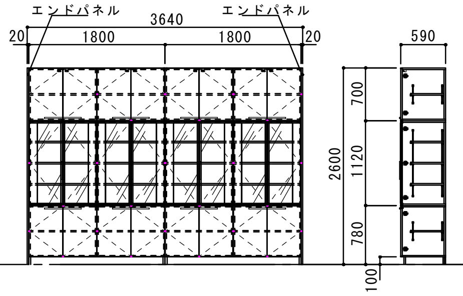


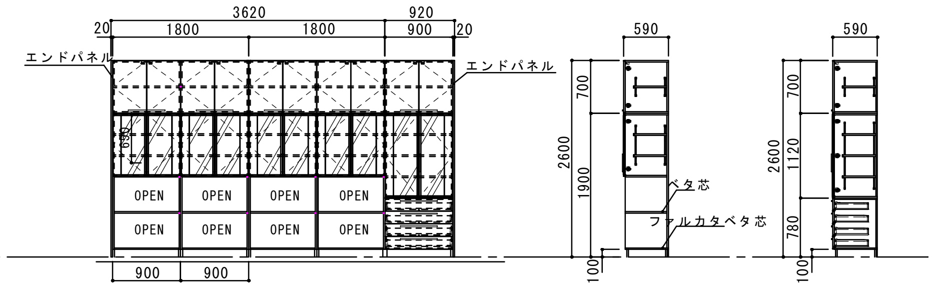
仕上・材料	天板：t30ﾀﾓ集成材＋UC、外装(前板･OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板	天板：t30ﾀﾓ集成材＋UC、外装(前板･OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板	天板：t30ﾀﾓ集成材＋UC、外装(前板･OPEN棚含む)：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	扉：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ	扉：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ	扉：t20木目調ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	扉：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 流し：SUS304 t1.0 （正面R加工）、大型排水トラップ（ゴミカゴ付）	扉：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 流し：SUS304 t1.0 （正面R加工）、大型排水トラップ（ゴミカゴ付）	扉・ｶﾞﾗｽ扉：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番 棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ
備考	（設備工事：水栓）	（設備工事：水栓）	

記号	数量	名称		記号	数量	名称		記号	数量	名称	
10e Ca	1	掃除用具入れ	3階家庭室	11a Ca	1	大型収納棚	3階家庭準備室	11b Ca	1	大型収納棚	3階家庭準備室

形状

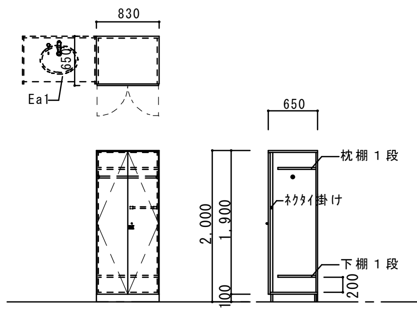
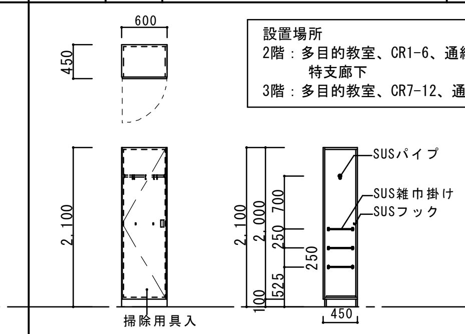
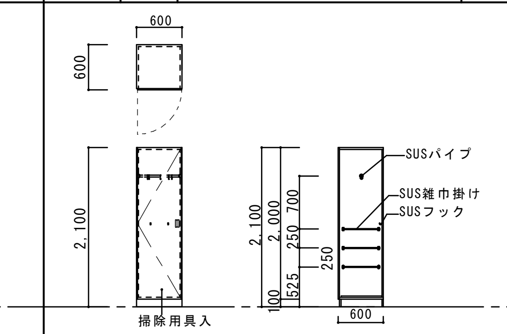


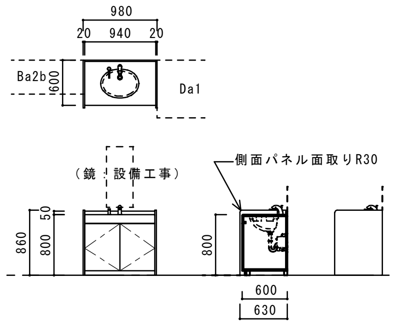
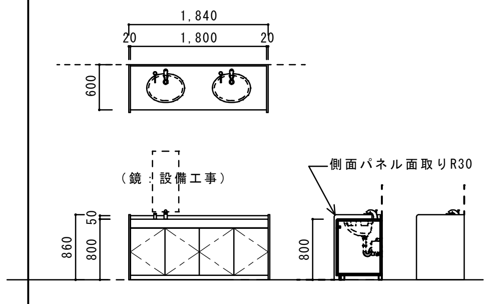
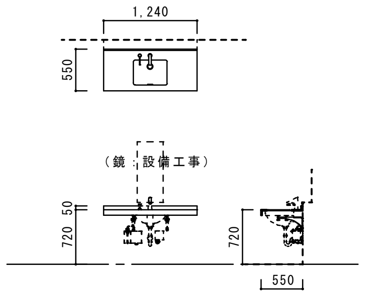
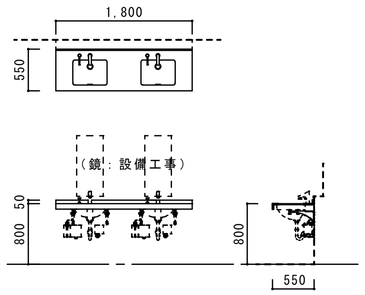


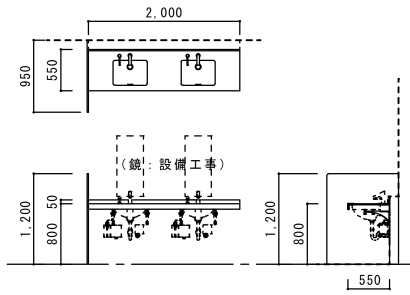
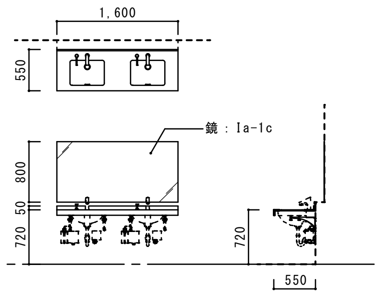
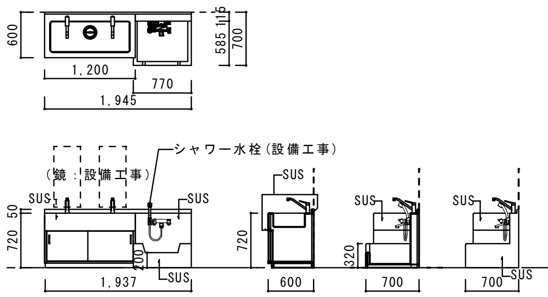
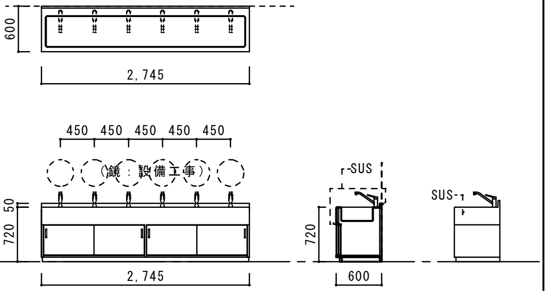
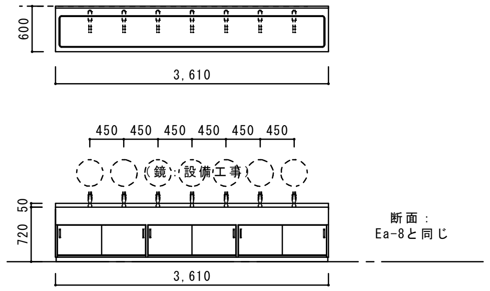


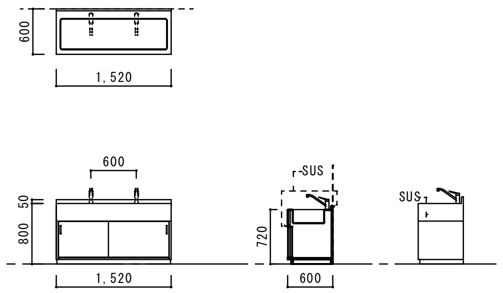
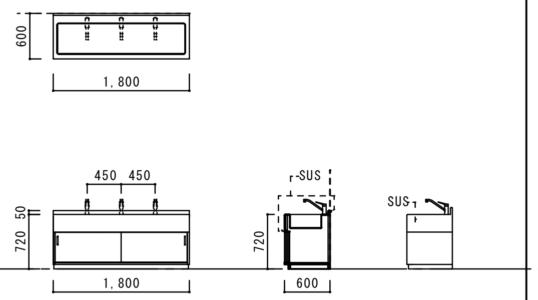
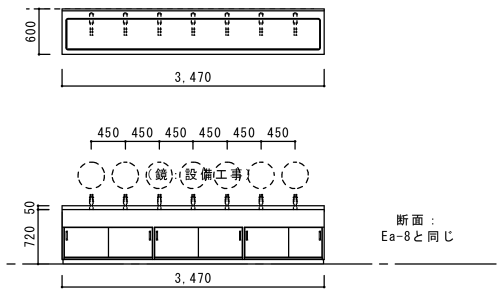
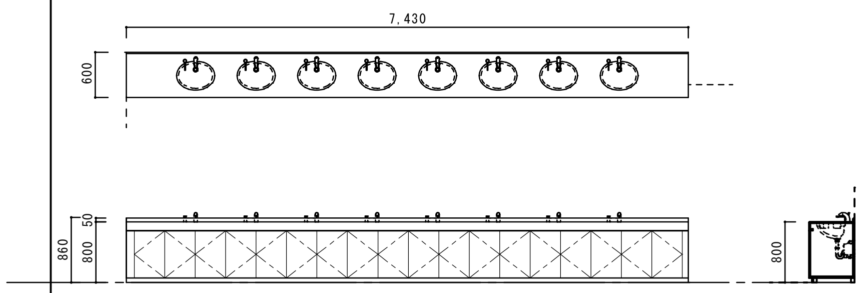
仕上・材料	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ、ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ・棚板：t20ﾎﾟﾘ合板	外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板、見付：樹脂ｴｯｼﾞ、ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ・棚板：t20ﾎﾟﾘ合板
建具	t20木目調ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ	扉：t20ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、ｶﾞﾗｽ扉：t22.5ｱﾙﾐﾌﾚｰﾑ	扉・引出前板：t20ﾎﾟﾘ合板・木口樹脂ｴｯｼﾞ、ｶﾞﾗｽ扉：t22.5ｱﾙﾐﾌﾚｰﾑ
金物 硝子	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ、SUSﾀｵﾙ掛け SUS巻ﾊﾟｲﾌﾟφ25 (Sカン5個付)、SUS製玉付ﾌｯｸTF-30、SUS露受	扉・ｶﾞﾗｽ扉：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ、強化型t4	扉・ｶﾞﾗｽ扉：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝﾀﾞｰﾌﾟｯｼｭ錠・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付ｽﾗｲﾄﾞ丁番、棚内部：棚ズレ防止棚受・棚柱・ﾀﾞﾎﾞ 天袋：感知式耐震ﾗｯﾁ、引出：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ、強化型t4
備考		ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ2ヶ所	ｴﾝﾄﾞﾊﾟﾈﾙ2ヶ所

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	家具リスト（４）
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図番	A ーe17				

記号	Da1	Da2	Da3	Da4
数量	1	18	7	2
名称	ロッカー	掃除用具入れ	掃除用具入れ	掃除用具入れ
	1階校長室	下記	下記	2･3階：廊下東
形状	 830 Ea1 650 枕棚１段 ネクタイ掛け 下棚１段 2,000 1,900 100 200	設置場所 2階：多目的教室、CR1-6、通級教室1、特支4 特支廊下 3階：多目的教室、CR7-12、通級教室2  600 450 2,100 SUSパイプ SUS雑巾掛け SUSフック 2,100 2,000 700 250 250 525 100 450 掃除用具入 ※吊元左右は平面図参照	設置場所 1階：教育相談室1、印刷室、放送室、ｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝ 2階：配膳室 3階：ﾗﾝﾁﾙｰﾑ倉庫、配膳室 ※姿図はDa2同様 ※吊元左右は平面図参照	 600 600 2,100 SUSパイプ SUS雑巾掛け SUSフック 2,100 2,000 700 250 250 525 100 600 掃除用具入 ※吊元左右は平面図参照
仕上・材料	本体:t25堅木集成材＋UC、見え隠れ部:t4ﾎﾟﾘ合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)、	本体･側板:t25堅木集成材＋UC	本体:ﾎﾟﾘ合板　内装:ﾒﾗﾐﾝ化粧板	本体:ﾎﾟﾘ合板　内装:ﾒﾗﾐﾝ化粧板
建具	扉:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)、手掛、木口・巾木:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り	扉:t4ｼﾅ合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)(木口:ｼﾅ無垢板)	扉:t20ﾎﾟﾘ合板	扉:t20ﾎﾟﾘ合板
金物	ｽﾗｲﾄﾞ丁番（ﾊﾞﾈ付）、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、φ25ﾊﾝｶﾞｰﾊﾟｲﾌﾟ、ﾈｸﾀｲ掛け	ｽﾗｲﾄﾞ丁番(ﾊﾞﾈ付),通気孔付取手,SUS受皿1個,	ｽﾗｲﾄﾞ丁番(ﾊﾞﾈ付),通気孔付取手,SUS受皿1個,	ｽﾗｲﾄﾞ丁番(ﾊﾞﾈ付),通気孔付取手,SUS受皿1個,
硝子		内部:ﾒﾗﾐﾝ化粧板, 木口:ｼﾅ無垢板, 巾木:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	内部:ﾒﾗﾐﾝ化粧板, 木口:ｼﾅ無垢板, 巾木:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	内部:ﾒﾗﾐﾝ化粧板, 木口:ｼﾅ無垢板, 巾木:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板
備考	棚板:ﾎﾟﾘ合板貼り(ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ)(木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧板貼り)	SUS巻ﾊﾟｲﾌﾟφ25(Sｶﾝ5個)ﾌｯｸ3個,SUS雑巾掛L=250 3本	SUS巻ﾊﾟｲﾌﾟφ25(Sｶﾝ5個)ﾌｯｸ3個,SUS雑巾掛L=250 3本	

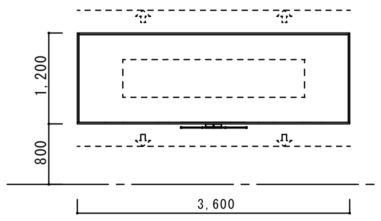
記号	Ea1	Ea2	Ea3	Ea4
数量	1	1	2	2
名称	手洗い	２連手洗いカウンター	手洗いカウンター	2連手洗いカウンター
	1階校長室	1階給湯室ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	1階外部Mwc、外部Wwc	1階教員Wwc、教員Mwc
形状	 980 20 940 20 Ba2b 600 Da1 （鏡：設備工事） 側面パネル面取りR30 860 800 50 800 600 630	 1,840 20 1,800 20 600 （鏡：設備工事） 側面パネル面取りR30 860 800 50 800	 	
仕上・材料	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ、側板：ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ、側板：ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ
建具	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照、扉:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)　彫込手掛	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照、扉:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)　彫込手掛	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照
金物	支持金物、ｽﾗｲﾄﾞ丁番	支持金物、ｽﾗｲﾄﾞ丁番	支持金物	支持金物
硝子				
備考	(設備工事：鏡・水栓・手洗い器)	(設備工事：鏡・水栓・手洗い器)	(設備工事：鏡・水栓・手洗い器)	(設備工事：鏡・水栓・手洗い器)

記号	Ea5	Ea6	Ea7	Ea8	Ea9
数量	2	8	1	5	1
名称	２連手洗いカウンター	２連手洗いカウンター	手洗いシンク＋足洗い	手洗いシンク	手洗いシンク
	1階更衣室(M)(W)	2･3階WwcA、WwcB、 MwcA、WwcB	1階 保健室	1階 昇降口 2･3階 東廊下、西廊下	3階 東廊下
形状	 2,000 950 550 （鏡：設備工事） 1,200 800 50 1,200 800 550	 	 600 1,200 770 1,945 585 115 700 シャワー水栓(設備工事) （鏡：設備工事） SUS 720 50 200 1,937 600 320 700 700	 600 2,745 450 450 450 450 450 （鏡：設備工事） SUS 720 50 720 2,745 600	 600 3,610 450 450 450 450 450 450 （鏡：設備工事） 720 50 3,610 断面： Ea-8と同じ
仕上・材料	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ、側板：ﾒﾗﾐﾝ化粧合板	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ	天板、ｼﾝｸ:ｽﾃﾝﾚｽ製304　外装:木目調ﾎﾟﾘ合板　内装:耐摩耗紙化粧板	天板、ｼﾝｸ:ｽﾃﾝﾚｽ製304　外装:木目調ﾎﾟﾘ合板　内装:耐摩耗紙化粧板	天板、ｼﾝｸ:ｽﾃﾝﾚｽ製304　外装:木目調ﾎﾟﾘ合板　内装:耐摩耗紙化粧板
建具	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照	扉:t20ﾎﾟﾘ合板　通気孔付取手　巾木,木口:ﾒﾗﾐﾝ化粧板	扉:t20ﾎﾟﾘ合板　通気孔付取手　巾木,木口:ﾒﾗﾐﾝ化粧板	扉:t20ﾎﾟﾘ合板　通気孔付取手　巾木,木口:ﾒﾗﾐﾝ化粧板
金物	支持金物	支持金物	ｱﾙﾐﾚｰﾙ	ｱﾙﾐﾚｰﾙ	ｱﾙﾐﾚｰﾙ
硝子					
備考	(設備工事：鏡・水栓・手洗い器)	鏡(本工事)	(設備工事：鏡・水栓・シャワー水栓)、排水目皿(ｶｺﾞ付)・ﾄﾗｯﾌﾟ等	(設備工事:鏡・水栓)、排水目皿(ｶｺﾞ付)・ﾄﾗｯﾌﾟ等	(設備工事:水栓)、排水目皿(ｶｺﾞ付)・ﾄﾗｯﾌﾟ等

記号	Ea10	Ea11	Ea12	Ea13
数量	1	1	1	1
名称	手洗いシンク	手洗いシンク	手洗いシンク	手洗いカウンター
	2階 理科準備室	2階 特支廊下	2階 東廊下	3階 ﾗﾝﾁﾙｰﾑ
形状	 600 1,520 600 SUS 800 50 720 1,520 600	 600 1,800 450 450 SUS 720 50 720 1,800 600	 600 3,470 450 450 450 450 450 450 （鏡：設備工事） 720 50 3,470 断面： Ea-8と同じ	
仕上・材料	天板、ｼﾝｸ:ｽﾃﾝﾚｽ製304　外装:木目調ﾎﾟﾘ合板　内装:耐摩耗紙化粧板	天板、ｼﾝｸ:ｽﾃﾝﾚｽ製304　外装:木目調ﾎﾟﾘ合板　内装:耐摩耗紙化粧板	天板、ｼﾝｸ:ｽﾃﾝﾚｽ製304　外装:木目調ﾎﾟﾘ合板　内装:耐摩耗紙化粧板	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ
建具	扉:t20ﾎﾟﾘ合板　通気孔付取手　巾木,木口:ﾒﾗﾐﾝ化粧板	扉:t20ﾎﾟﾘ合板　通気孔付取手　巾木,木口:ﾒﾗﾐﾝ化粧板	扉:t20ﾎﾟﾘ合板　通気孔付取手　巾木,木口:ﾒﾗﾐﾝ化粧板	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:La参照、扉:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り(ﾌﾗｯｼｭ)　彫込手掛
金物	ｱﾙﾐﾚｰﾙ	ｱﾙﾐﾚｰﾙ	ｱﾙﾐﾚｰﾙ	支持金物、ｽﾗｲﾄﾞ丁番
硝子				
備考	(設備工事:水栓)、排水目皿(ｶｺﾞ付)・ﾄﾗｯﾌﾟ等	(設備工事:水栓)、排水目皿(ｶｺﾞ付)・ﾄﾗｯﾌﾟ等	(設備工事:水栓)、排水目皿(ｶｺﾞ付)・ﾄﾗｯﾌﾟ等	(設備工事:水栓・手洗い器)

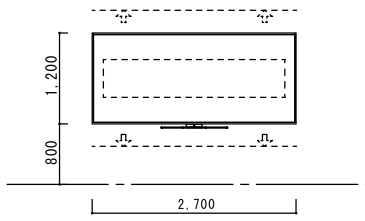
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	家具リスト（５）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100
							図番	A －e18

記号	数量	名称	
1/Fa	15	黒板　ｽﾗｲﾀﾞｰ曲面	1階 特別活動室 2·3階多目的室、CR



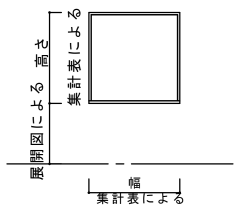
仕上・材料	アルミホーロー（グリーン　暗線入）
建具	
金物 硝子	
備考	取手兼用枠、チョークＢＯＸ、電動クリーナー（ダストル）

記号	数量	名称	
2/Fa	4	黒板　ｽﾗｲﾀﾞｰ平面	2階特支1-4



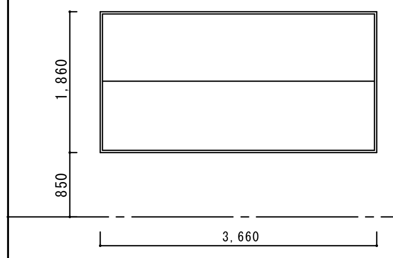
仕上・材料	←
建具	
金物 硝子	
備考	←

記号	数量	名称	
3a-3b/Fa	集計表による	黒板　平面	集計表による



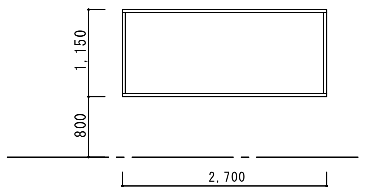
仕上・材料	アルミホーロー（グリーン　暗線入）
建具	
金物 硝子	
備考	

記号	数量	名称	
4/Fa	2	黒板　上げ下げ	2階:図工室、理科室



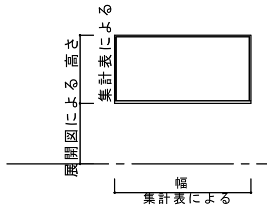
仕上・材料	アルミホーロー（グリーン　暗線入）
建具	
金物 硝子	
備考	取手兼用枠、チョークＢＯＸ、電動クリーナー（ダストル）

記号	数量	名称	
5/Fa	4	黒板　曲面	2階:通級教室1 3階:通級教室2



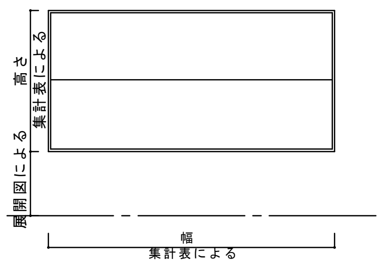
仕上・材料	アルミホーロー（グリーン　暗線入）
建具	
金物 硝子	
備考	チョークＢＯＸ、電動クリーナー（ダストル）

記号	数量	名称	
6a～6e/Fa	集計表による	白板　平面	集計表による



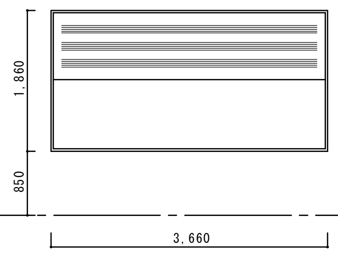
仕上・材料	アルミホーロー（ホワイト　暗線入）
建具	
金物 硝子	
備考	

記号	数量	名称	
7a, 7c/Fa	集計表による	白板　上げ下げ	集計表による



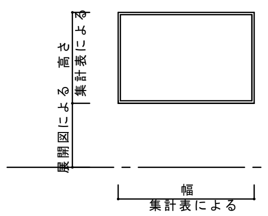
仕上・材料	アルミホーロー（ホワイト　暗線入）
建具	
金物 硝子	
備考	取手兼用枠、チョークＢＯＸ、電動クリーナー（ダストル）

記号	数量	名称	
7b/Fa	1	白板　上げ下げ	3階:音楽室



仕上・材料	アルミホーロー（ホワイト　暗線入、五線入り）
建具	
金物 硝子	
備考	取手兼用枠、チョークＢＯＸ、電動クリーナー（ダストル）

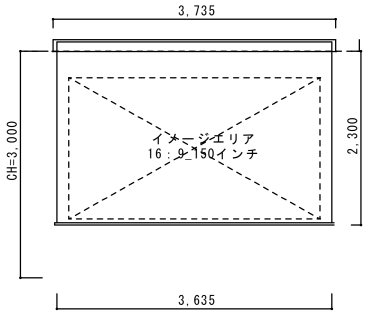
記号	数量	名称	
8a～8e/Fa	集計表による	掲示板	集計表による



仕上・材料	t5.5合板＋掲示ｸﾛｽ
建具	枠：堅木集成＋UC
金物 硝子	
備考	

番号	名称	数量	W	H	場所	ﾁｮｰｸBox	電動ｸﾘｰﾅｰ	罫線		備考
1	黒板　ｽﾗｲﾀﾞｰ曲面	14	3,600	1,200	2·3階：多目的教室、CR	○	○			
2	黒板　ｽﾗｲﾀﾞｰ平面	4	2,700	1,200	2階：特支1-4	○	○			
3a	黒板　平面	14	1,200	1,200	2·3階：多目的教室、CR	○				
3b	黒板　平面	14	2,700	1,200	2·3階：多目的教室、CR、	○				
4	黒板　上げ下げ	2	3,660	1,860	2階：図工室、理科室	○	○			
5	黒板　曲面	4	2,700	1,150	2階:通級教室１、3階:通級教室２	○	○			
6a	白版　平面	2	1,800	900	1階:教育相談室１・２					
6b	白版　平面	1	3,600	900	1階:事務室					
6c	白版　平面	1	6,000	900	3階:ﾗﾝﾁﾙｰﾑ					
6d	白版　平面	1	2,700	900	2階:図書準備室					
7a	白板　上げ下げ	2	3,780	1,860	1階:職員室					
7b	白板　上げ下げ	1	3,660	1,860	3階:音楽室			○		片面五線３段
7c	白板　上げ下げ	1	3,660	1,860	3階:家庭室					
8a	掲示板	3	1,800	1,200	1階:廊下					
8b	掲示板	3	2,700	1,200	1階:廊下					
8c	掲示板	1	4,500	1,200	1階:廊下					
8d	掲示板	1	5,400	1,200	1F：廊下					
8e	掲示板	1	7,560	1,200	1階:廊下					

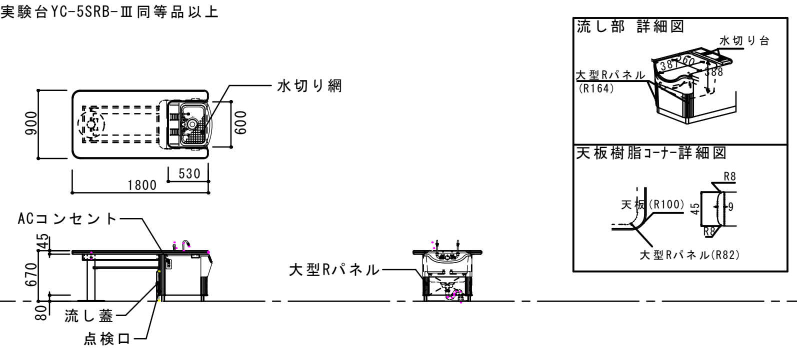
記号	数量	名称	
9/Fa	2	天井埋込電動ｽｸﾘｰﾝ 150ｲﾝﾁ	1階特別活動室 3階ﾗﾝﾁﾙｰﾑ



仕上・材料	ﾌﾛﾝﾄﾀｲﾌﾟ巻上式映写ｽｸﾘｰﾝ(手動式)150ｲﾝﾁ
建具	ｽｸﾘｰﾝBOX：堅木＋UC
金物 硝子	取付金物一式
備考	

記号	数量	名称	
1/Ha	9	生徒用実験台	2階理科室

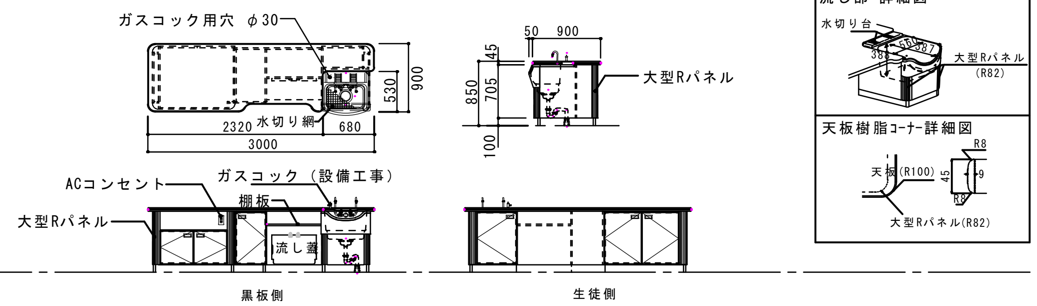
※ﾔｶﾞﾐ_生徒用実験台YC-5SRB-Ⅲ同等品以上



仕上・材料	天板：耐薬品性ﾌｪﾉｰﾙ樹脂積層板・木口ｴｽﾄﾗﾏｰ樹脂ｺｰﾅｰ、外装：ﾎﾟﾘ合板、脚：Stφ101.6焼付塗装
建具	棚板：t20ﾎﾟﾘ合板
金物 硝子	流し：FRP製耐薬品ｼﾝｸ、樹脂製流しフタ共、浅型排水ﾄﾗｯﾌﾟ(ｺﾞﾐかご付)、 水切り網、給水栓：折りたたみ式化学水栓（2ツロ）泡沫ｿｹｯﾄ共
備考	ｺﾝｾﾝﾄ：交流2連（15A125V AC）

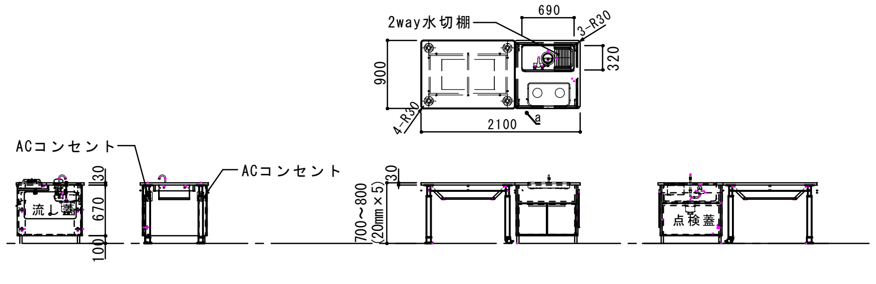
記号	数量	名称	
2/Ha	1	教師用実験台	2階理科室

※ﾔｶﾞﾐ_教師用実験台YCR-30B同等品以上



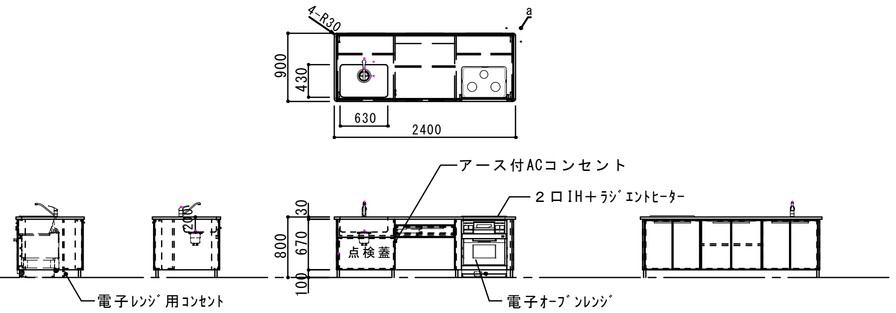
仕上・材料	天板：耐薬品性ﾌｪﾉｰﾙ樹脂積層板・木口ｴｽﾄﾗﾏｰ樹脂ｺｰﾅｰ、外装・内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	棚板・開戸：t20ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	開戸：通気孔付取手・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番・ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｬｯﾁ、流し：FRP製耐薬品ｼﾝｸ、樹脂製流しフタ共、 浅型排水ﾄﾗｯﾌﾟ(ｺﾞﾐかご付)、水切り網、給水栓：折りたたみ式化学水栓（2ツロ)泡沫ｿｹｯﾄ共
備考	ｺﾝｾﾝﾄ：交流2連（15A125V AC）

記号	数量	名称	
3/Ha	9	高さ可変生徒用調理台	3階家庭室



仕上・材料	天板・流し：SUS430t1.0加工、外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	棚板・開戸・点検蓋：t20ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	開戸：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番 流し：樹脂製流しフタ共、浅型排水ﾄﾗｯﾌﾟ(ｺﾞﾐかご付)、水切り網、2way水切棚
備考	ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合栓、ｸﾞﾘﾙ付き2口IH+ﾗｼﾞｴﾝﾄｺﾝﾛ(ﾋﾞﾙﾄｲﾝﾀｲﾌﾟ、単相200V5.8kW)、ｱｰｽ付2連ｺﾝｾﾝﾄ

記号	数量	名称	
4/Ha	1	教師用調理台	3階家庭室



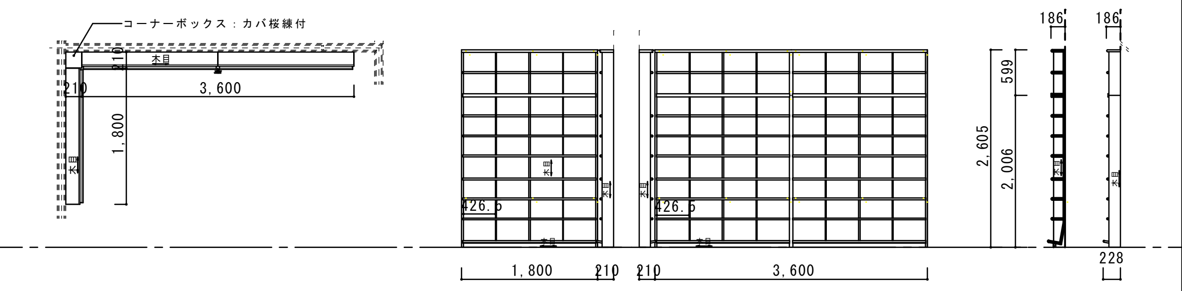
仕上・材料	天板・流し：SUS430t1.0加工、外装：木目調ﾎﾟﾘ合板、内装：ﾎﾟﾘ合板
建具	棚板・開戸・引出前板・点検蓋：t20ﾎﾟﾘ合板、木口樹脂ｴｯｼﾞ
金物 硝子	開戸：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞ丁番、引出：L型ﾊﾝﾄﾞﾙ・ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付きｽﾗｲﾄﾞﾚｰﾙ、棚内部：金属ダボ3段 流し：樹脂製流しフタ共、浅型排水ﾄﾗｯﾌﾟ(ｺﾞﾐかご付)、水切り網、2way水切棚
備考	ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合栓、ｸﾞﾘﾙ付き2口IH+ﾗｼﾞｴﾝﾄｺﾝﾛ(ﾋﾞﾙﾄｲﾝﾀｲﾌﾟ、単相200V5.8kW)、電子ｵｰﾌﾞﾝﾚﾝｼﾞ(ﾋﾞﾙﾄｲﾝﾀｲﾌﾟ、単相200V3.8kW)、ｱｰｽ付2連ｺﾝｾﾝﾄ

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　家具リスト（６）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100　図番 A －e19

記号	数量	名称	
1a Ga	1	大型書架	2階図書準備室

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

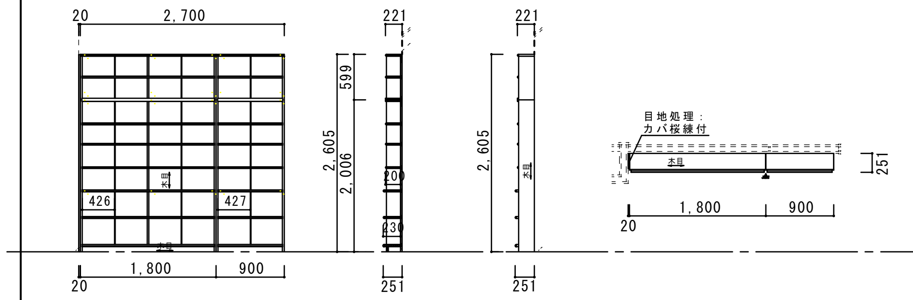
形　状



仕上・材料	本体・棚板・仕切板：ｶﾊﾞ桜錬付合板＋PU塗装、背板：ｼﾅ合板＋PU塗装
建　具	木口：ｶﾊﾞ桜t５＋PU、巾木：ｶﾊﾞ桜錬付合板
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
1b Ga	1	大型書架	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

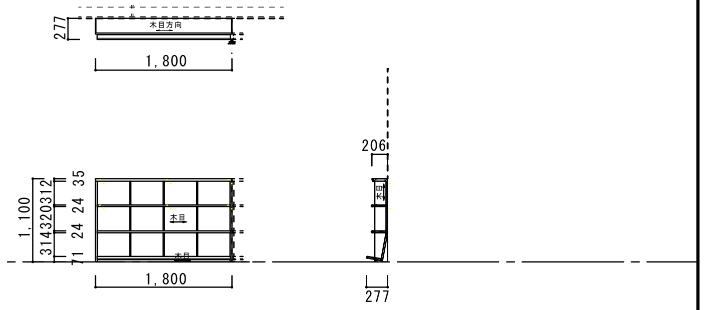
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
2a Ga	2階 9 3階13	低書架	2･3階廊下

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

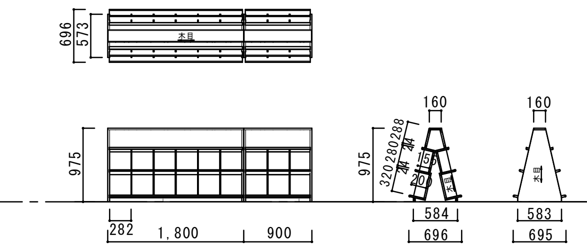


仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
3a Ga	1	中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

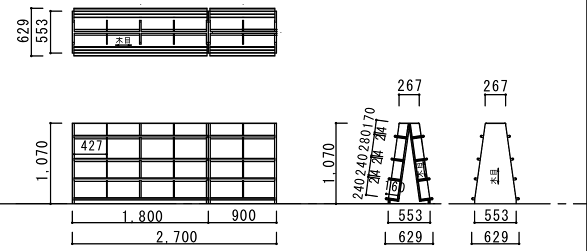
形　状



仕上・材料	本体・棚板・仕切板：ｶﾊﾞ桜錬付合板＋PU塗装、背板：ｼﾅ合板＋PU塗装
建　具	木口：ｶﾊﾞ桜t５＋PU、巾木：ｶﾊﾞ桜錬付合板
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
3b Ga	2	中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

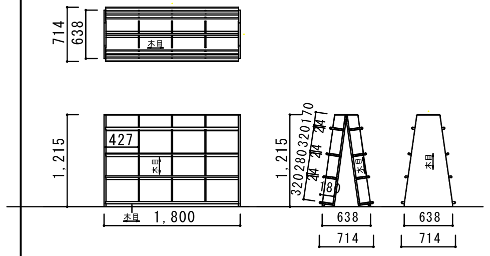
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
3c Ga	5	中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

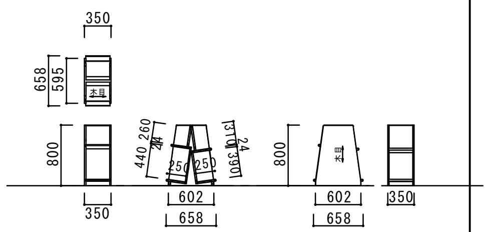
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
3d Ga	3	中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

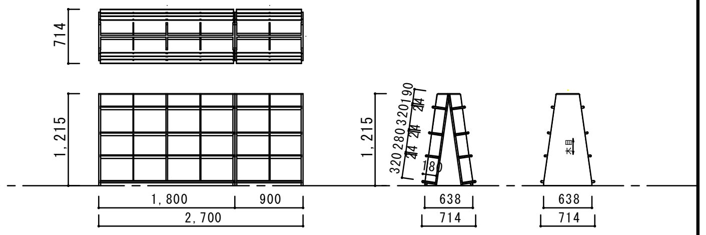
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
3e Ga	3	中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

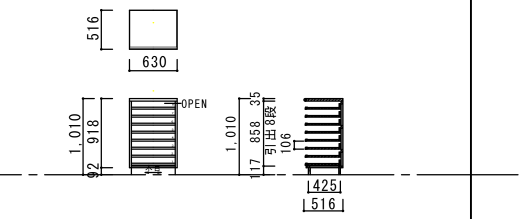


仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
4 Ga	1	新聞架	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

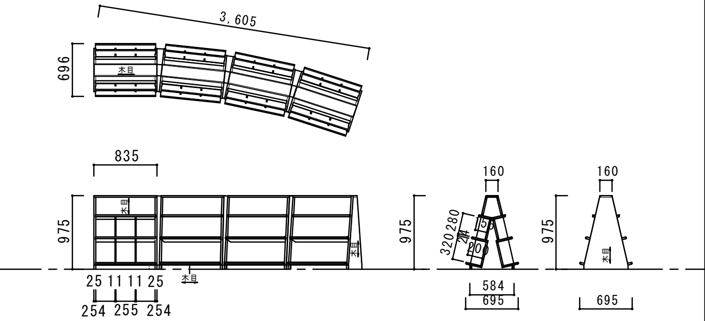
形　状



仕上・材料	本体：ｶﾊﾞ桜錬付合板＋PU塗装、背板：ｼﾅ合板＋PU塗装
建　具	木口：ｶﾊﾞ桜t５＋PU、巾木：ｶﾊﾞ桜錬付合板
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
5a Ga	1	曲面中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

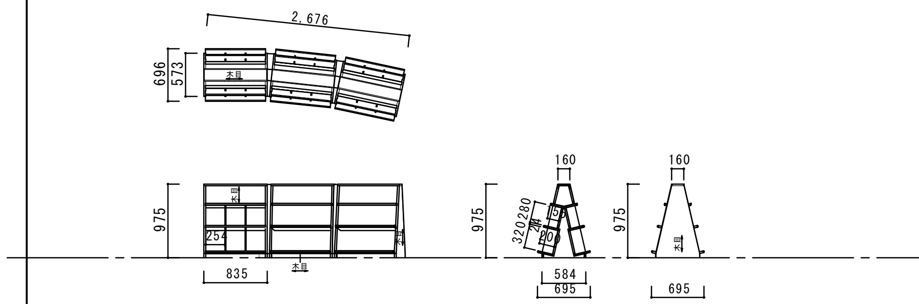
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
5b Ga	1	曲面中書架（両面）	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

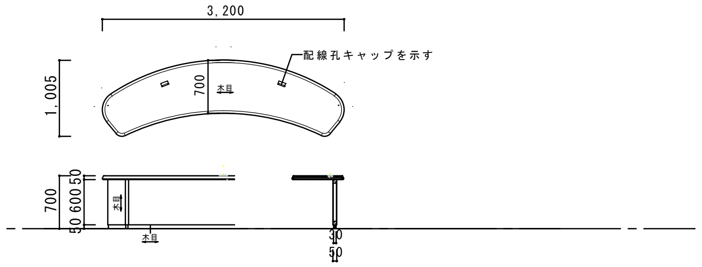
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	←
建　具	←
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
6 Ga	1	司書カウンター	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

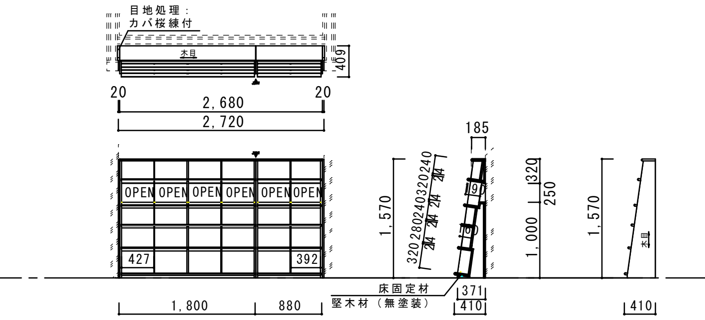


仕上・材料	天板：ｶﾊﾞ桜集成材（下地：ﾗﾝﾊﾞｰｺｱ合板）、本体：ｶﾊﾞ桜錬付合板＋PU塗装
建　具	木口：ｶﾊﾞ桜t５＋PU、巾木：ｶﾊﾞ桜錬付合板
金　物	配線孔キャップ２ヶ所
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
7 Ga	2	高書架	3階北廊下

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上

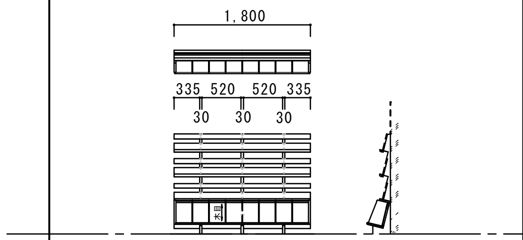
形　状



仕上・材料	本体・棚板・仕切板：ｶﾊﾞ桜錬付合板＋PU塗装、背板：ｼﾅ合板＋PU塗装
建　具	木口：ｶﾊﾞ桜t５＋PU、巾木：ｶﾊﾞ桜錬付合板
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
8 Ga	1	雑誌架	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

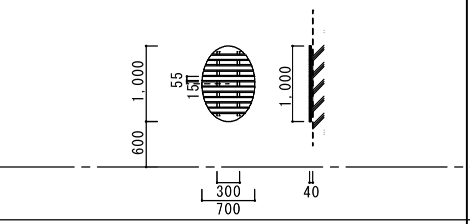
※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	本体：ｼﾅ合板＋PU塗装、木口：ﾊﾟｲﾝ
建　具	
金　物	
硝　子	
備　考	

記号	数量	名称	
9 Ga	1	掲示板	2階ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ

※axona AICHI_平湯式ﾓﾃﾞﾙ_同等品以上



仕上・材料	本体：t15ﾊﾟｲﾝ材＋PU塗装
建　具	桟木：35x25ﾊﾟｲﾝ材＋PU塗装
金　物	
硝　子	
備　考	

JOB NO.								
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	家具リスト（７）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	図番 A －e20

記号	数量	名称		
1 Ia	下記	大型鏡	下記	
2 Ia	2	ユニットシャワー	1階保健室、2階特支	
3 Ia	6	小便器手摺	下記	
4 Ia	3	おむつ替えシート	下記	
5 Ia	3	ベビーチェア	下記	
6 Ia	1	収納型ベッド	下記	

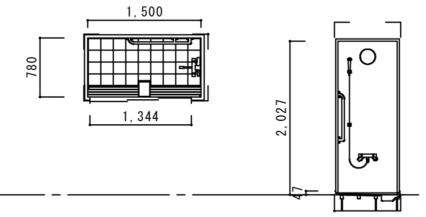
形　状

1 Ia 大型鏡

番号	名称	数量	W	H	場所	備考
1a	姿見鏡	1	800	1,200	1階：保健室	
1b	姿見鏡	10	450	1,200	1階：職員更衣室(M)(W) 2･3階：WwcA、MwcA、WwcB、MwcB	
1c	大型耐食鏡	8	1,600	900	2･3階：WwcA、MwcA、WwcB、MwcB	

仕上・材料：t5耐蝕鏡面取り加工

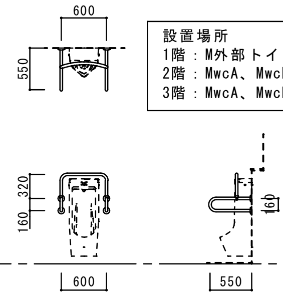
2 Ia ユニットシャワー



仕上・材料：メーカー標準仕様による
建具：3枚引戸
金物：シャワーヘッド、サーモスタット水栓、半球型照明、換気扇、L型手摺、タオル掛け
備考：(TOTO 押入れシャワールーム0815サイズ同等品以上)

3 Ia 小便器手摺

※符号図に記載省略　※下地補強共

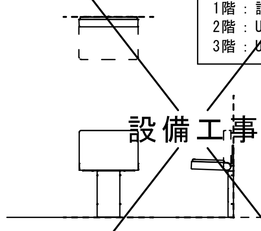


設置場所
1階：M外部トイレ、職員Mwc
2階：MwcA、MwcB
3階：MwcA、MwcB

仕上・材料：φ34　SUS軟質樹脂被覆　抗菌ﾀｲﾌﾟ
備考：(TOTO：T112CU2同等品)

4 Ia おむつ替えシート

※符号図に記載省略　※下地補強共



設置場所
1階：誰でもトイレC
2階：Uwc
3階：Uwc

設備工事

仕上・材料：樹脂製ベビーシート
備考：(TOTO：YKA25R同等品)

5 Ia ベビーチェア

※符号図に記載省略　※下地補強共

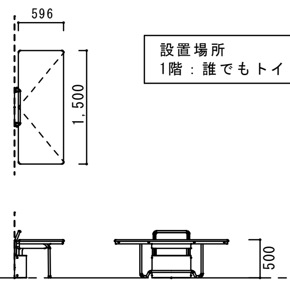
設置場所
1階：誰でもトイレC
2階：Uwc
3階：Uwc

設備工事

仕上・材料：樹脂製コーナー設置タイプ
備考：(TOTO：YKA16R同等品)

6 Ia 収納型ベッド

※符号図に記載省略

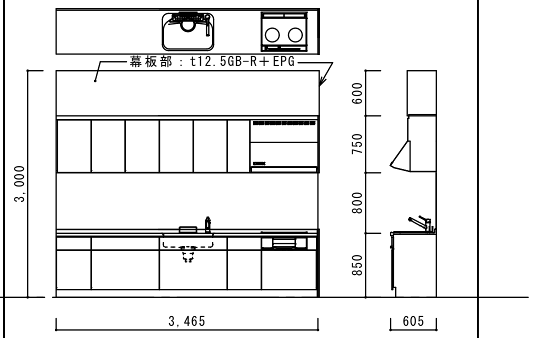


設置場所
1階：誰でもトイレB

仕上・材料：ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ折りたたみｼｰﾄ
備考：(TOTO:EWC520ARN 同等品)

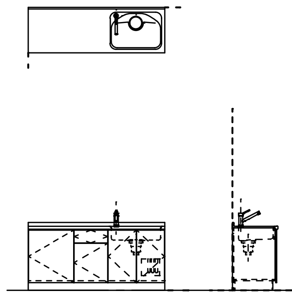
記号	数量	名称		
7a Ia	1	システムキッチン	1階 給湯室 ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	
7b Ia	1	システムキッチン	1階 保健室	
7c Ia	1	システムキッチン	1階 給食休憩室	
1 Ja	1	カウンター	1階 事務室前	
2 Ja	1	机	1階 給湯室	
3 Ja	2	ベンチ	3階 廊下	

7a Ia システムキッチン



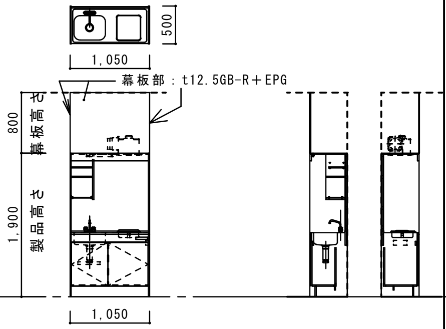
仕上・材料：SUSワークトップ、その他仕様はメーカー標準仕様による
建具：開き戸（メーカー標準仕様による）
金物：側面パネル１面、手元灯、上部幕板、シングルレバー水栓、ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ、IH2口（ﾋﾞﾙﾄｲﾝ、ｸﾞﾘﾙ無、単相200V4kW)
備考：(LIXIL　ティオ同等品以上)

7b Ia システムキッチン



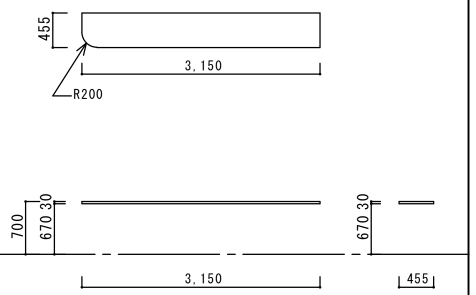
仕上・材料：SUSワークトップ、その他仕様はメーカー標準仕様による
建具：開き戸（メーカー標準仕様による）
金物：側面パネル１面、シングルレバー水栓
備考：(LIXIL　ティオ同等品以上)

7c Ia システムキッチン



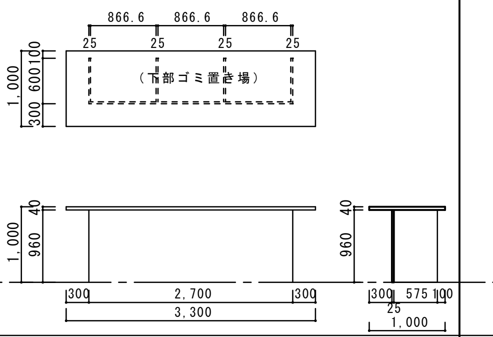
金物：扉タイプ、IHｺﾝﾛ1口(単相200V,2kw)、２ハンドル水栓、手元灯、換気扇
備考：(LIXIL　ミニキッチン同等品以上)

1 Ja カウンター



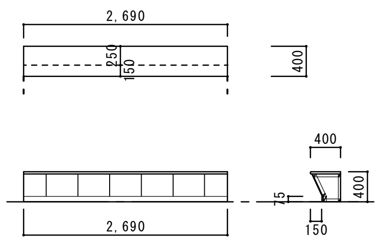
仕上・材料：天板：t30堅木集成＋UC
金物：隠しﾌﾞﾗｹｯﾄ金具@600

2 Ja 机



仕上・材料：天板：t40堅木集成＋UC、本体：ポリ合板

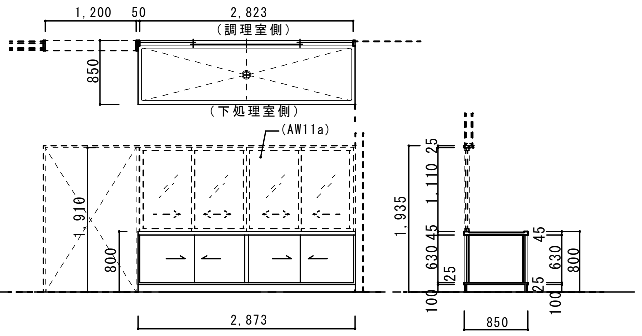
3 Ja ベンチ



仕上・材料：座板:t30タモ積層材＋ウレタン塗装
建具：前板:木下地＋t5.5シナ合板＋ＷＰ、巾木:H=75堅木＋ＷＰ

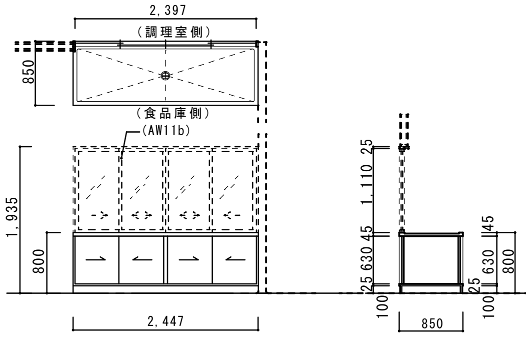
記号	数量	名称		
1a Ka	1	SUS受け渡しカウンター	1階 給食調理室	
1b Ka	1	SUS受け渡しカウンター	1階 給食調理室	
2a-e Ka	1	体育着・コート掛けフック	下記	

1a Ka SUS受け渡しカウンター



仕上・材料：ｶｳﾝﾀｰ：SUS304ｔ1.5 加工 ﾊﾞﾌ仕上　裏面防露処理
建具：下部収納：ｽﾃﾝﾚｽﾌﾗｯｼｭ、内部：ｽﾃﾝﾚｽ張り、ｻｯｼ用ﾚｰﾙ
金物：排水ﾄﾗｯﾌﾟ（ｺﾞﾐ収納器付 防臭50A用）、排水目皿(ｶｺﾞ付)、ｽﾃﾝﾚｽ引手

1b Ka SUS受け渡しカウンター

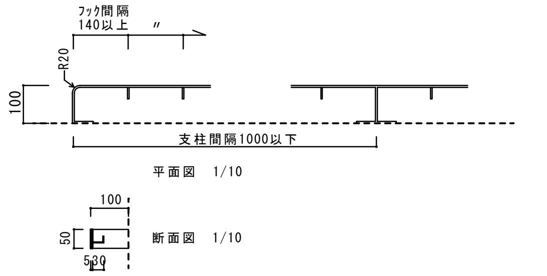


仕上・材料：ｶｳﾝﾀｰ：SUS304ｔ1.5 加工 ﾊﾞﾌ仕上　裏面防露処理
建具：下部収納：ｽﾃﾝﾚｽﾌﾗｯｼｭ、内部：ｽﾃﾝﾚｽ張り、ｻｯｼ用ﾚｰﾙ
金物：排水ﾄﾗｯﾌﾟ（ｺﾞﾐ収納器付 防臭50A用）、排水目皿(ｶｺﾞ付)、ｽﾃﾝﾚｽ引手

2a-e Ka 体育着・コート掛けフック

番号	数量	W	ﾌｯｸ数	場所	備考
2a	12	1,455	8	2･3階：多目的教室、CR	
2b	14	2,015	12	2･3階：多目的教室、CR	
2c	4	2,930	18	2･3階：多目的教室前廊下、CR6･12前廊下	
2d	10	3,370	20	2･3階：CR1-5,CR7-11前廊下	
2e	2	2,000	12	2階：特支廊下、特支4	

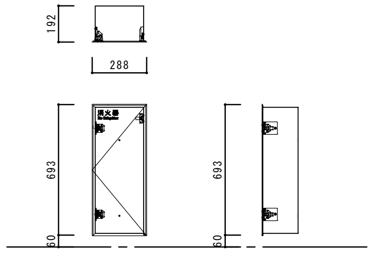
【教室別ﾌｯｸ数】
多目的教室,CR6,12：Ka2a+2b+2c=　Ba3a+Ba4a= 35人＋3
CR1-5,7-11　：Ka2a+2b+2d=　Ba3b+Ba4b= 35人＋5



仕上・材料：StFBt5加工＋SOP、ﾌｯｸ：Stφ4加工＋SOP
備考：下地補強共

記号	数量	名称		
A 消	14	壁埋め込み型消火器ＢＯＸ	各　所	
B 消	10	床置き型消火器ＢＯＸ	各　所	
1-4 La	下記	ライニング	下記	

A 消 壁埋め込み型消火器ＢＯＸ

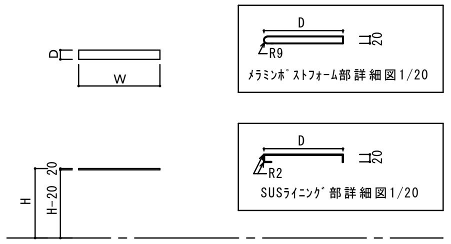


仕上・材料：本体：ｔ1.6ボンデ鋼板　焼付塗装
建具：扉：ｔ2.3ボンデ鋼板　焼付塗装
金物：プッシュラッチ、マグネットキャッチ
備考：ﾕﾆｵﾝ:UFB-1F-3025-PWH同等品

B 消 床置き型消火器ＢＯＸ

設備工事

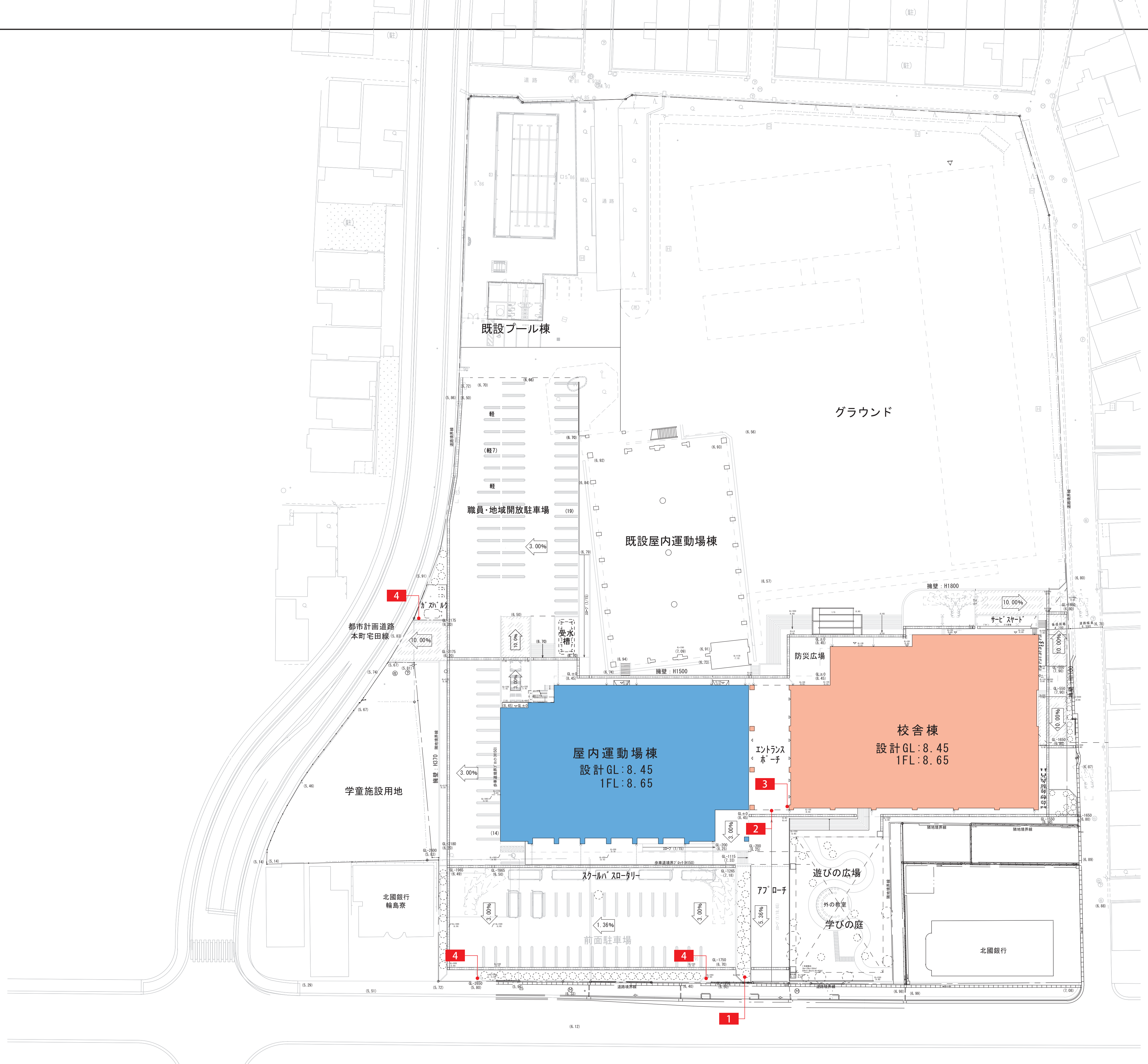
1-4 La ライニング

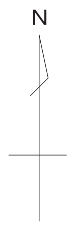


番号	数量	D	W	参考腰高	場所	材質
1a	3	120	1,800	900	1F：給湯室ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ、教員MWC、教員WWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1b	1	120	985	800	1F：給食WC	SUS304　ﾍｱﾗｲﾝ
1c	7	120	900	800	1F：教員WWC、教員MWC、外部MWC、外部WWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1d	5	120	1,000	800	1F：教員WWC、教員MWC、外部WWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1e	1	120	3,073	1,300	1F：教員MWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1f	2	120	2,000	900	1F：職員更衣(M)、職員更衣(W)	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1g	2	120	1,240	800	1F：外部MWC、外部WWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1h	1	120	2,780	1,150	1F：外部MWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1i	4	120	3,630	1,150	2F・3F：MWC2a、MWC2b	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1j	8	120	1,590	800	2F・3F：MWC2a、WWC2a、MWC2b、WWC2b	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1k	5	120	700	870	1F：検収室、前室、前室、給食調理室　3F：配膳室	SUS304　ﾍｱﾗｲﾝ
1l	1	120	600	870	1F：給食WC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1m	6	120	600	870	1F：下処理室、給食調理室、洗浄室、配膳室　2F：配膳室	SUS304　ﾍｱﾗｲﾝ
1n	21	120	995	800	2F・3F：MWC2a、WWC2a、MWC2b、WWC2a	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
2a	1	200	1,015	1,300	1F：教員WWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
2b	3	200	990	1,300	1F:保健室前室、2F・3F：WWC2a	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
2c	2	200	1,120	1,300	2F・3F：WWC2b	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
2d	3	200	900	1,200	1F：教員MW、外部MWC、外部WWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
3a	2	400	935	1,300	2F・3F：MWC2a	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
3b	2	405	865	1,300	2F・3F：MWC2b	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
4	1	300	1,062	1,300	3F：ﾗﾝﾁﾙｰﾑ倉庫	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ

仕上・材料：右記：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ：NPAﾀｲﾌﾟ　t=20
備考：腰高は展開図参照

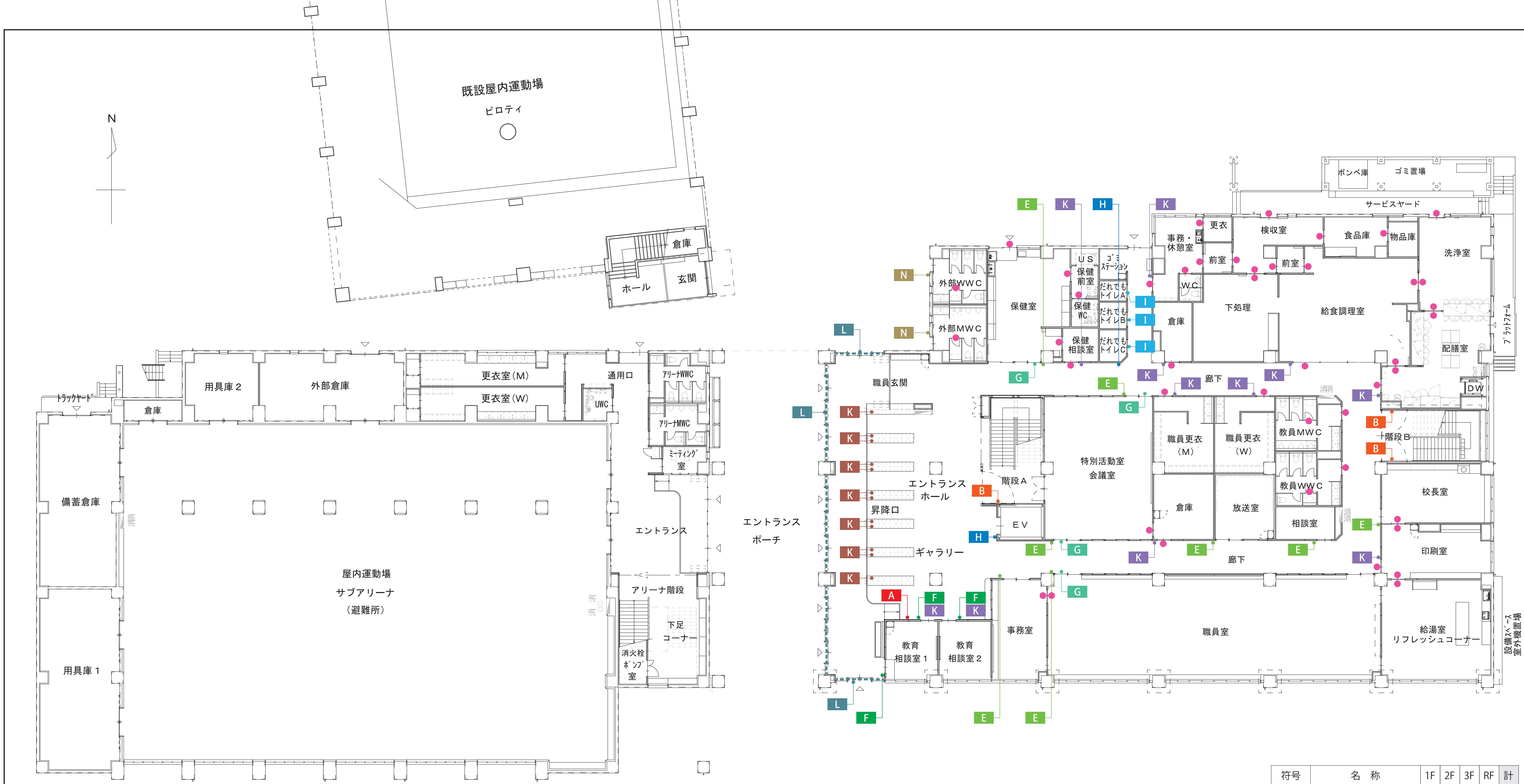
JOB NO.										
125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	家具リスト（８）	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	図番 A －e21





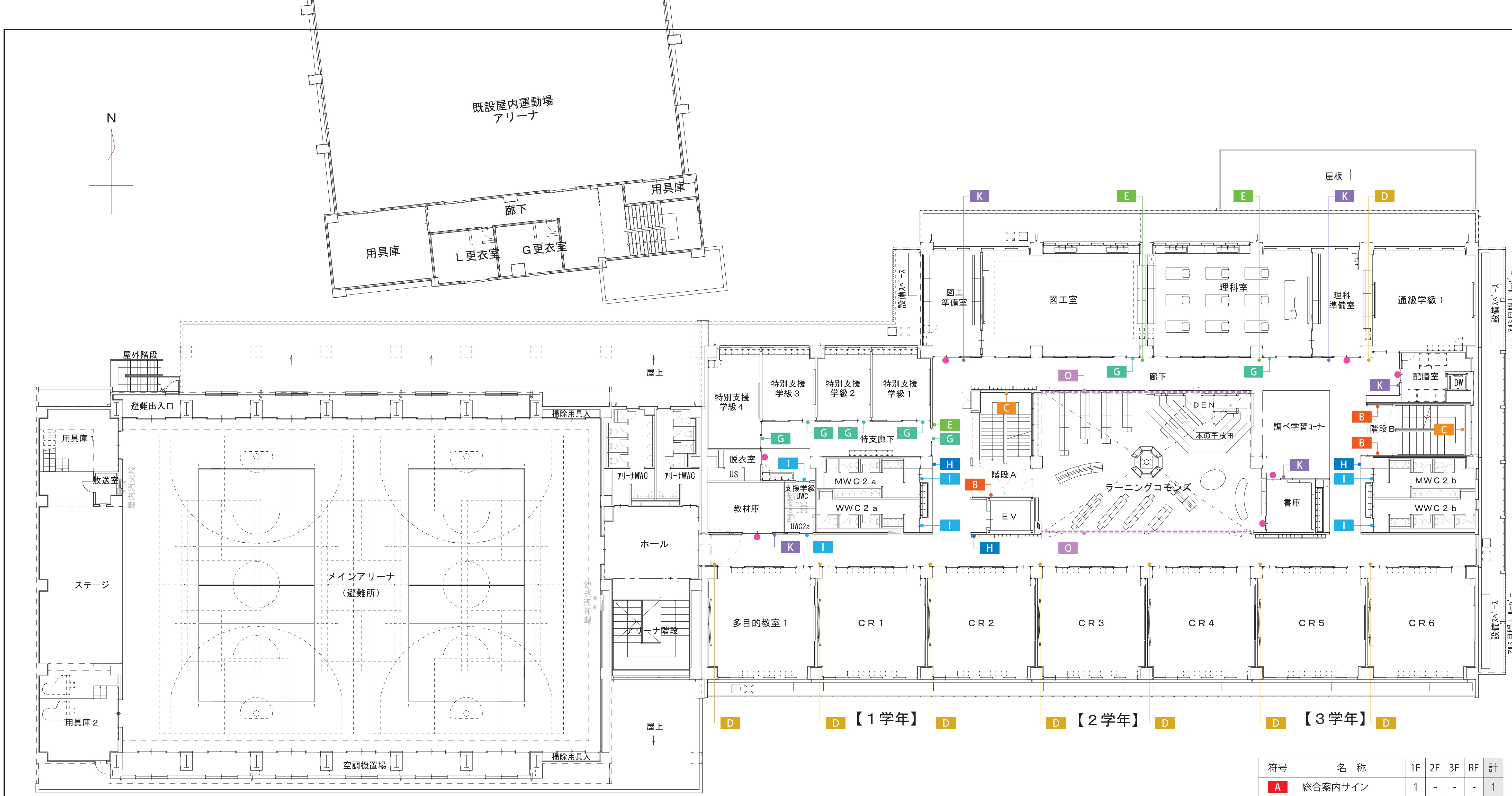
符号	名　称	計
1	建植サイン	1
2	校章	1
3	校名サイン	1
4	Pサイン	3

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 外部サイン配置図	縮尺 A1：1/400 A3：1/800	図番 A −e22



符号	名　称	1F	2F	3F	RF	計
A	総合案内サイン	1	-	-	-	1
B	フロアサイン	3	3	3	-	9
C	階数表示サイン	-	1	2	-	3
D	クラスサイン	-	8	8	-	16
E	室名サイン（突出）	8	3	3	-	14
F	室名サイン（平付）	3	-	-	-	3
G	室名サイン（切文字）	4	7	3	-	14
H	ピクトサイン（突出）	2	3	3	-	8
I	ピクトサイン（切文字）	3	6	5	-	14
● J	切文字サイン	44	7	8	1	60
K	火元責任者名札	11	5	4	-	20
L	衝突防止サイン	≒28m	-	-	-	≒28m
M	下足入れサイン	12	-	-	-	12
N	外部トイレサイン	2	-	-	-	2
O	グラフィックサイン	-	2	2	1	5

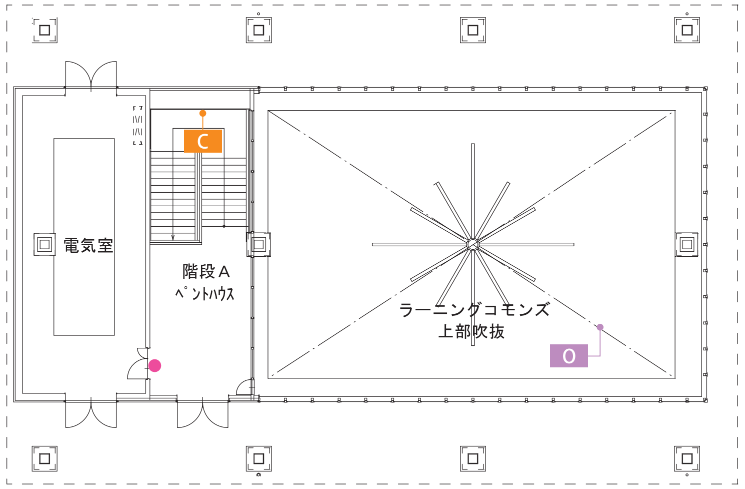
JOB NO.	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	1階サイン配置図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A ⁻e23
125280											



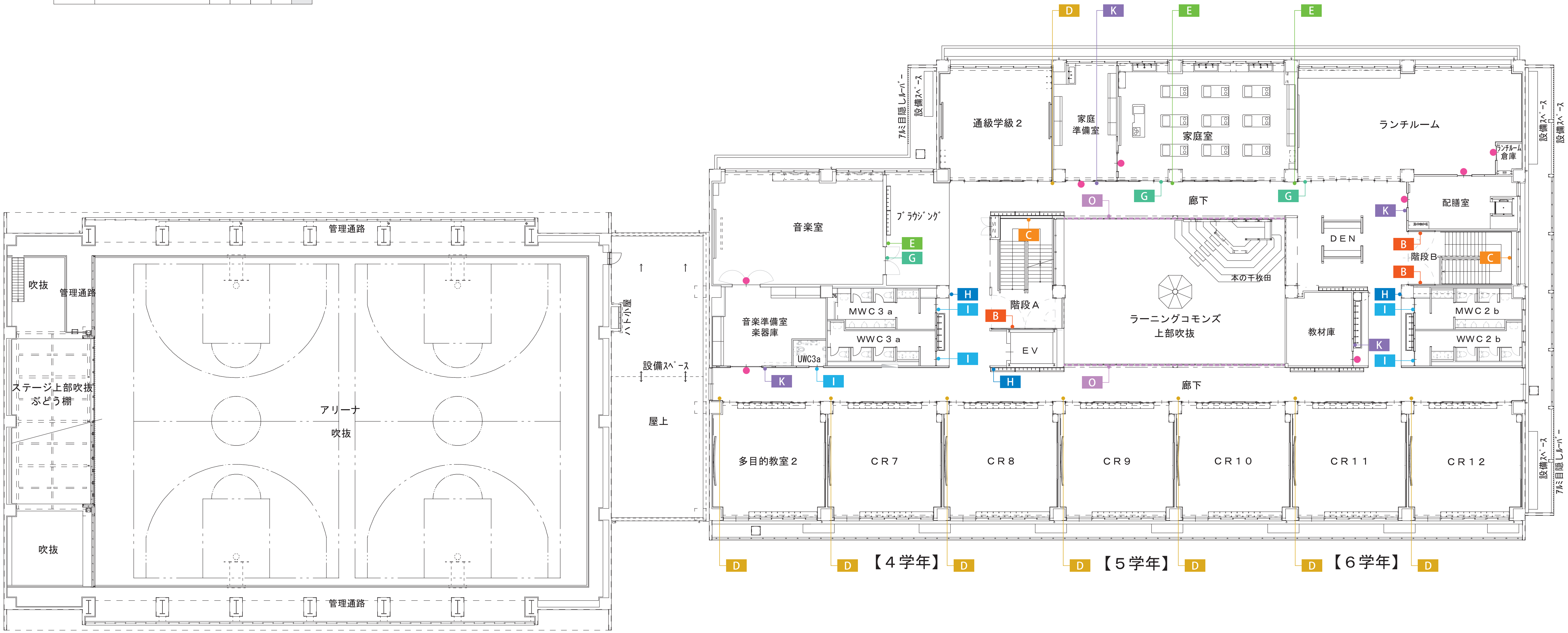
符号	名　称	1F	2F	3F	RF	計
A	総合案内サイン	1	-	-	-	1
B	フロアサイン	3	3	3	-	9
C	階数表示サイン	-	1	2	-	3
D	クラスサイン	-	8	8	-	16
E	室名サイン（突出）	8	3	3	-	14
F	室名サイン（平付）	3	-	-	-	3
G	室名サイン（切文字）	4	7	3	-	14
H	ピクトサイン（突出）	2	3	3	-	8
I	ピクトサイン（切文字）	3	6	5	-	14
● J	切文字サイン	44	7	8	1	60
K	火元責任者名札	11	5	4	-	20
L	衝突防止サイン	≒28m	-	-	-	≒28m
M	下足入れサイン	12	-	-	-	12
N	外部トイレサイン	2	-	-	-	2
O	グラフィックサイン	-	2	2	1	5

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	２階サイン配置図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A －e24

符号	名　称	1F	2F	3F	RF	計
A	総合案内サイン	1	-	-	-	1
B	フロアサイン	3	3	3	-	9
C	階数表示サイン	-	1	2	-	3
D	クラスサイン	-	8	8	-	16
E	室名サイン（突出）	8	3	3	-	14
F	室名サイン（平付）	3	-	-	-	3
G	室名サイン（切文字）	4	7	3	-	14
H	ピクトサイン（突出）	2	3	3	-	8
I	ピクトサイン（切文字）	3	6	5	-	14
● J	切文字サイン	44	7	8	1	60
K	火元責任者名札	11	5	4	-	20
L	衝突防止サイン	≒28m	-	-	-	≒28m
M	下足入れサイン	12	-	-	-	12
N	外部トイレサイン	2	-	-	-	2
O	グラフィックサイン	-	2	2	1	5



R階平面図

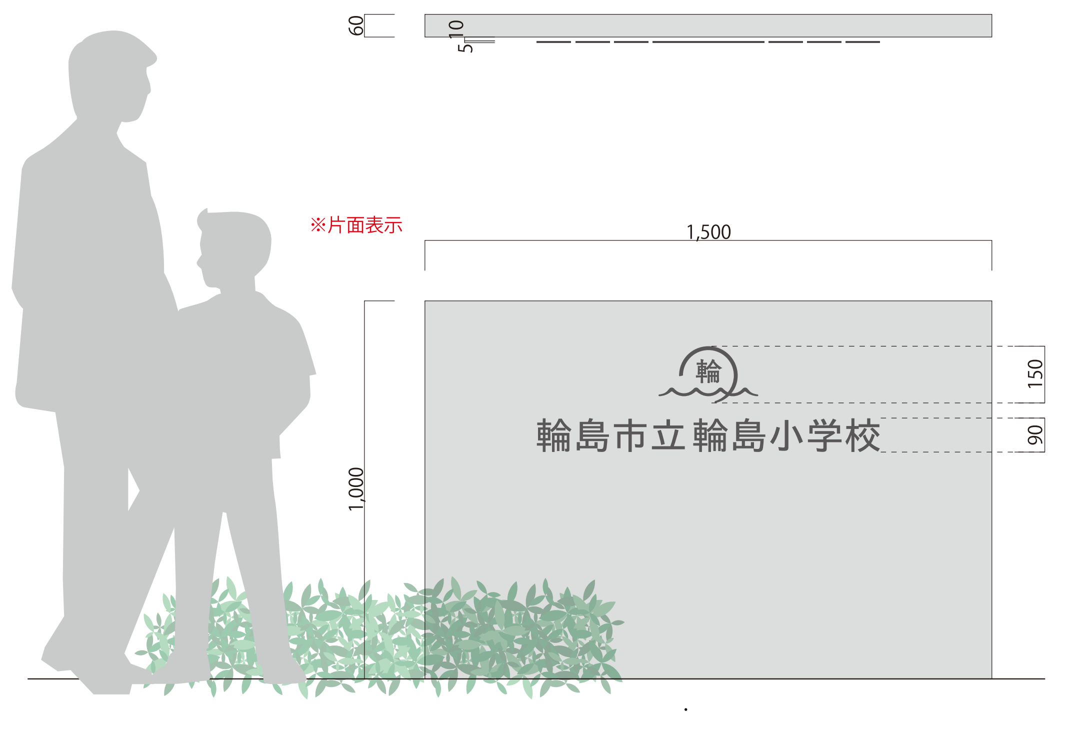


３階平面図

JOB NO. 125280
2026 年 月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳
設計 ・ ・
標題 ３階，Ｒ階サイン配置図
縮尺 A1：1/150 A3：1/300
図番 A ‾e25

1 建植サイン S=1/20 1ヶ所

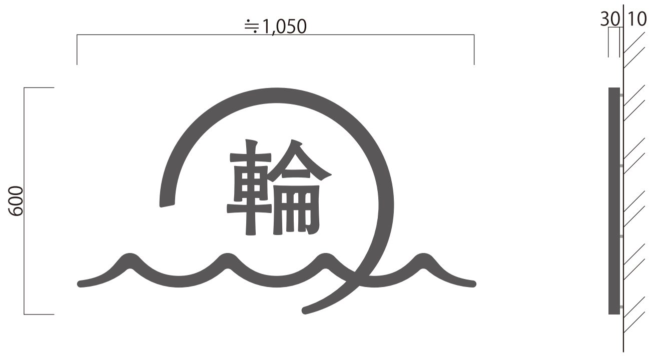
※校章・校名 要確認



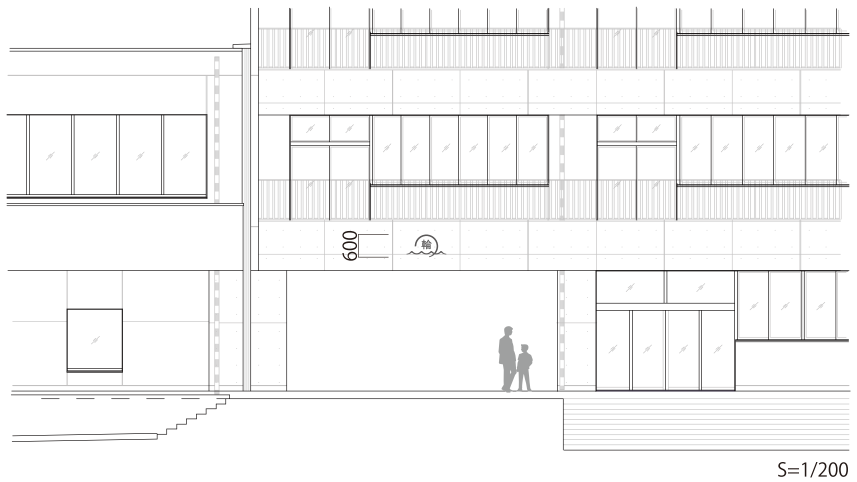
校章・文字／SUS切文字 t=5.0mm 焼付塗装仕上げ
10mm浮かし付け

2 校章 S=1/20 1ヶ所

※校章 要確認



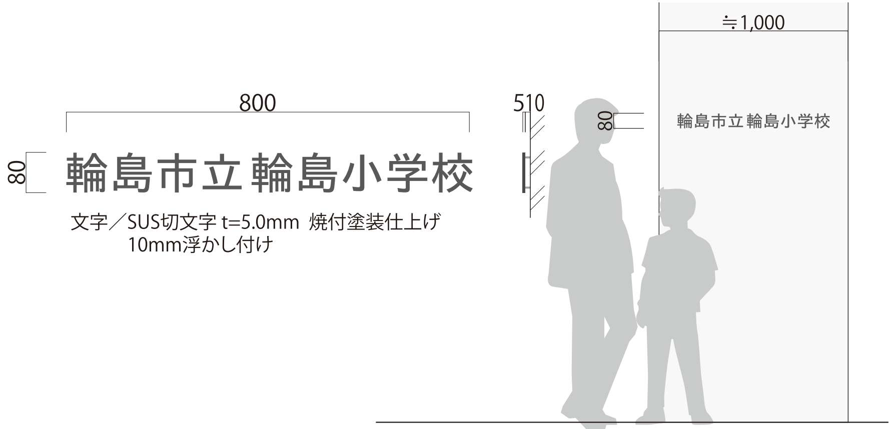
校章／SUS箱文字 D=30mm 焼付塗装仕上げ
10mm浮かし付け



S=1/200

3 校名サイン S=1/15 1ヶ所

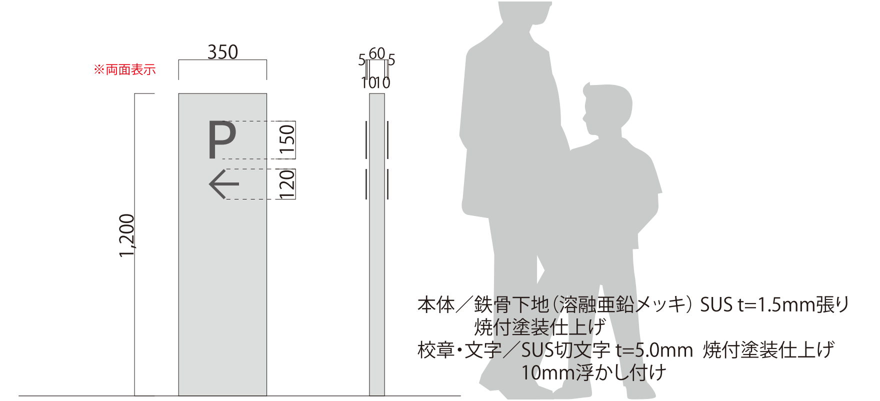
※校名 要確認



文字／SUS切文字 t=5.0mm 焼付塗装仕上げ
10mm浮かし付け

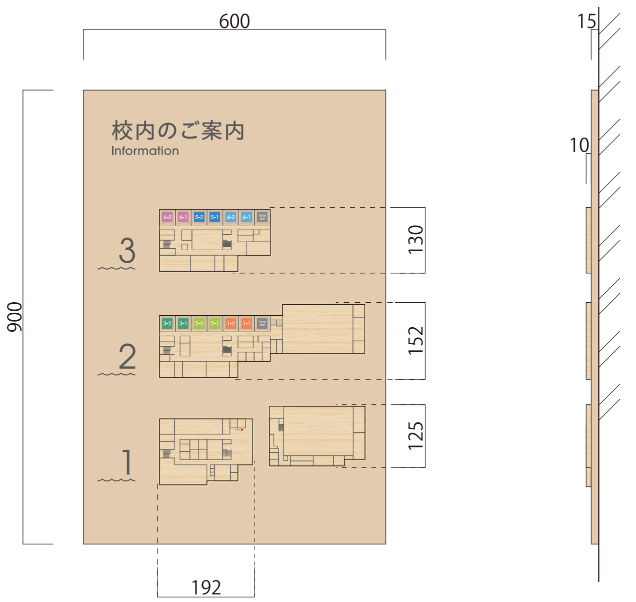
S=1/40

4 校名サイン S=1/30 3ヶ所



本体／鉄骨下地（溶融亜鉛メッキ）SUS t=1.5mm張り
焼付塗装仕上げ
校章・文字／SUS切文字 t=5.0mm 焼付塗装仕上げ
10mm浮かし付け

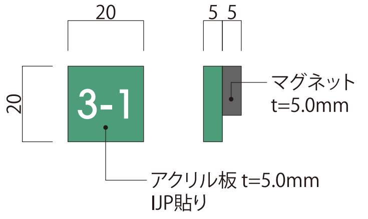
A 総合案内サイン S=1/15 1ヶ所



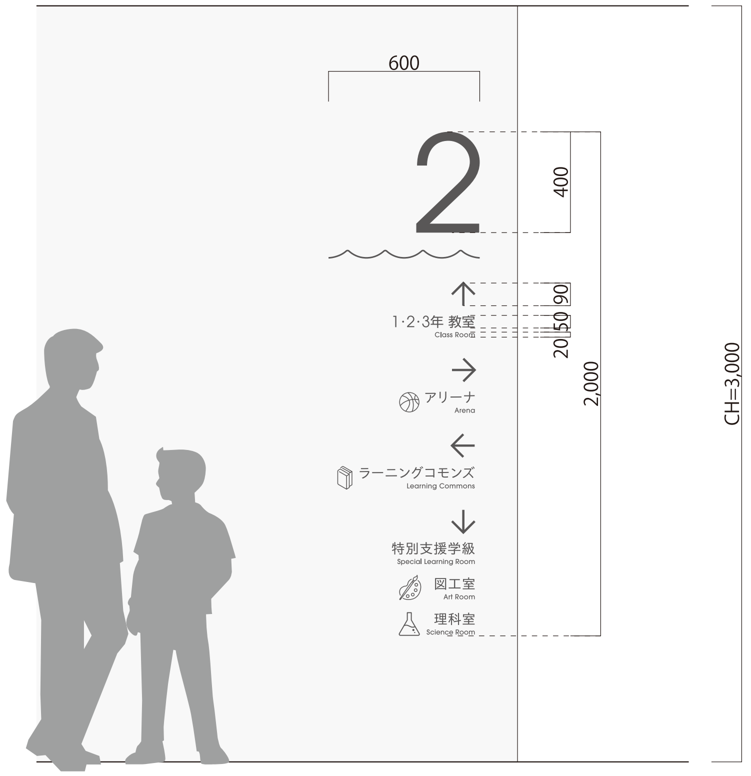
本体／スチール BOX加工 D=15mm 塗装仕上げ
文字／MF貼り
平面図／木板 t=10mm 型切り加工 IJP仕上げ
クラス部分：抜き加工
クラス表示／アクリル板 t=5.0mm IJP貼り
裏面：マグネット付（脱着式）

【クラス表示】 ※学年ごとにベースの色を変える

S=1/2

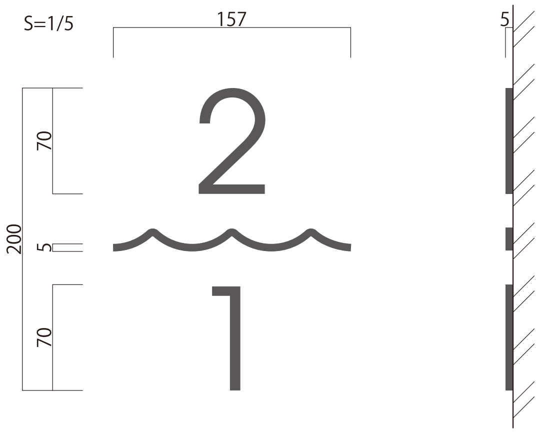


B フロアサイン S=1/30 9ヶ所



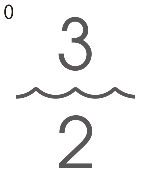
表示／壁面にMF貼り

C 階数表示サイン S=1/5 3ヶ所



表示／アクリル板 切文字 t=5.0mm
塗装仕上げ

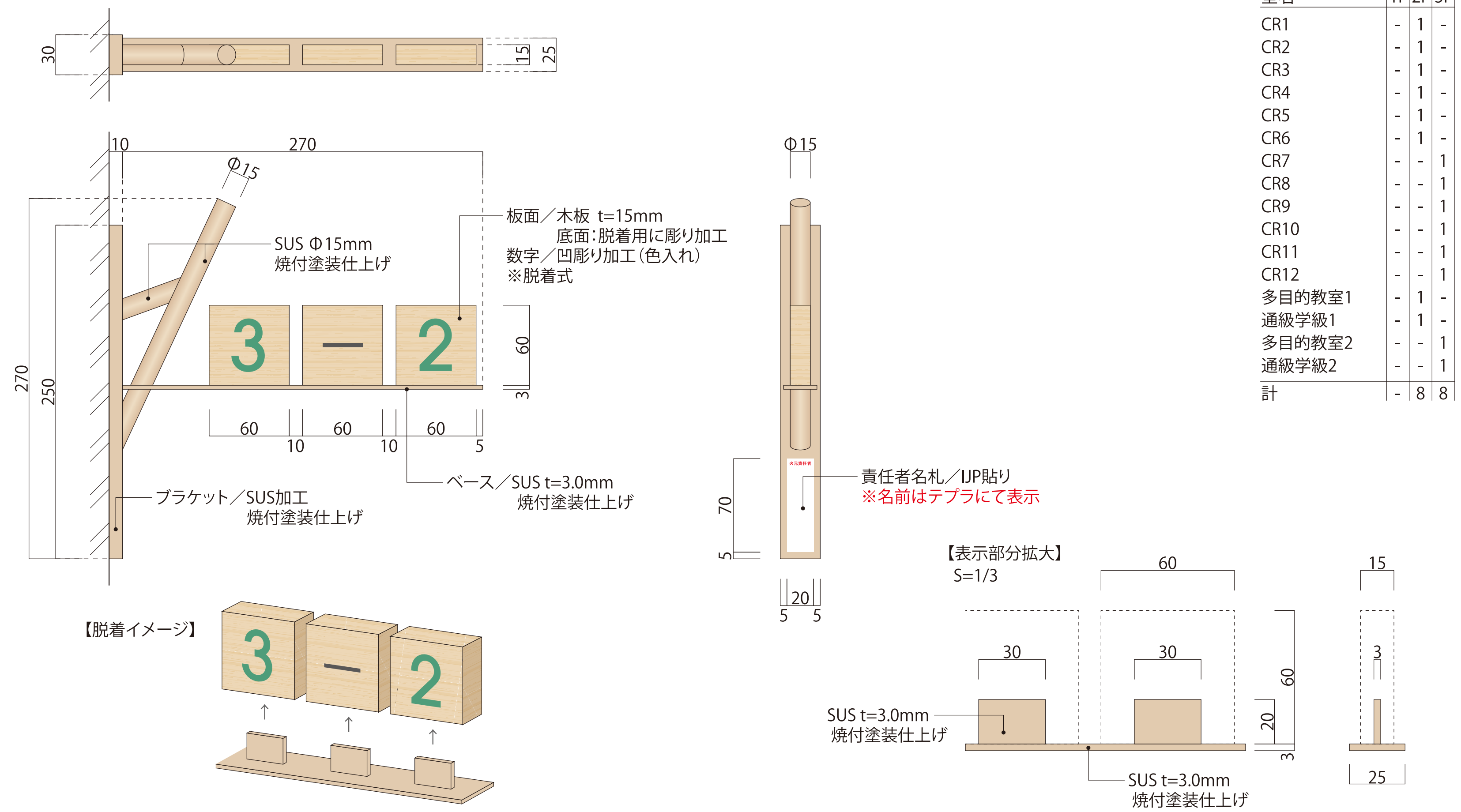
S=1/10



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 サインリスト１	縮尺	図番 A −e26

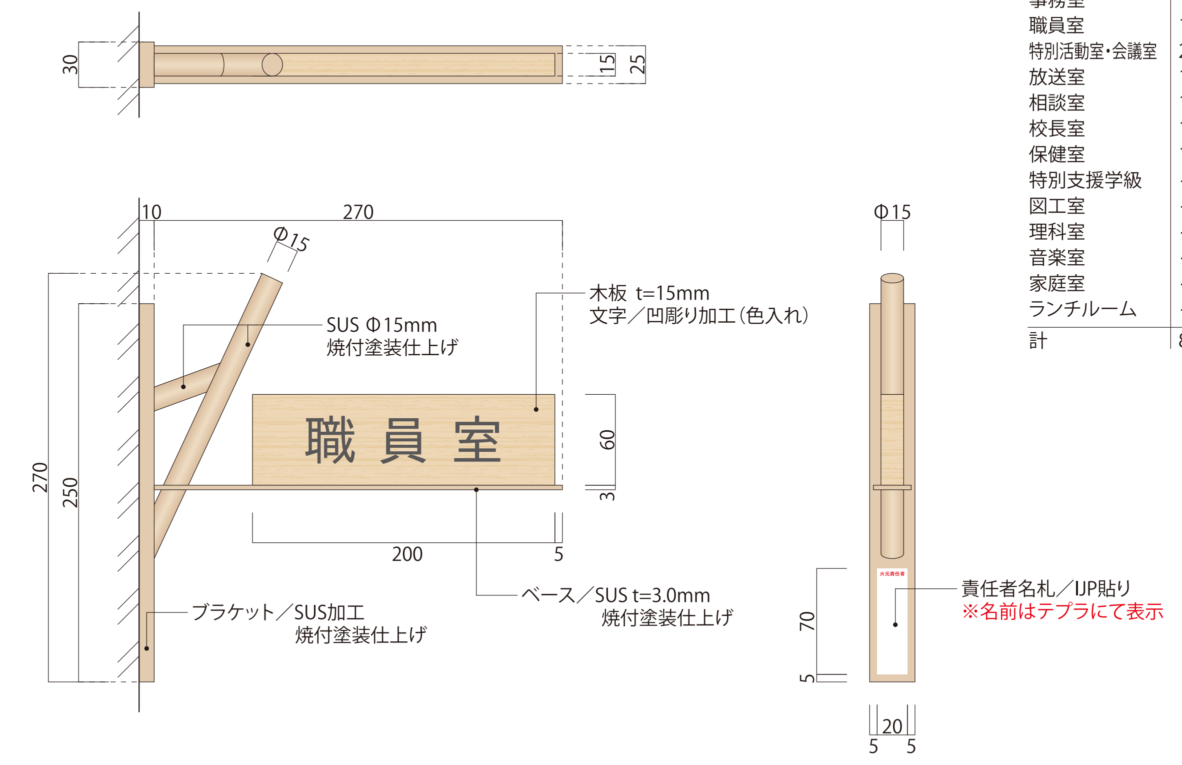
D クラスサイン S=1/5 16ヶ所

※学年ごとに数字の色を変える



室名	1F	2F	3F
CR1	-	1	-
CR2	-	1	-
CR3	-	1	-
CR4	-	1	-
CR5	-	1	-
CR6	-	1	-
CR7	-	-	1
CR8	-	-	1
CR9	-	-	1
CR10	-	-	1
CR11	-	-	1
CR12	-	-	1
多目的教室1	-	1	-
通級学級1	-	1	-
多目的教室2	-	-	1
通級学級2	-	-	1
計	-	8	8

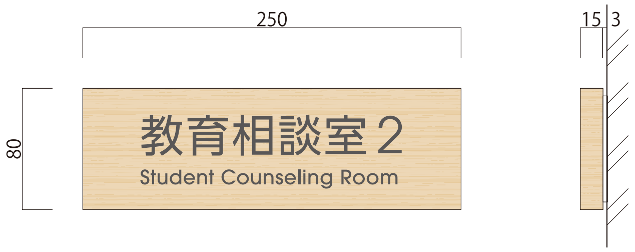
E 室名サイン（突出） S=1/5 14ヶ所



室名	1F	2F	3F
事務室	1	-	-
職員室	1	-	-
特別活動室・会議室	2	-	-
放送室	1	-	-
相談室	1	-	-
校長室	1	-	-
保健室	1	-	-
特別支援学級	-	1	-
図工室	-	1	-
理科室	-	1	-
音楽室	-	-	1
家庭室	-	-	1
ランチルーム	-	-	1
計	8	3	3

F 室名サイン（平付） S=1/5 3ヶ所

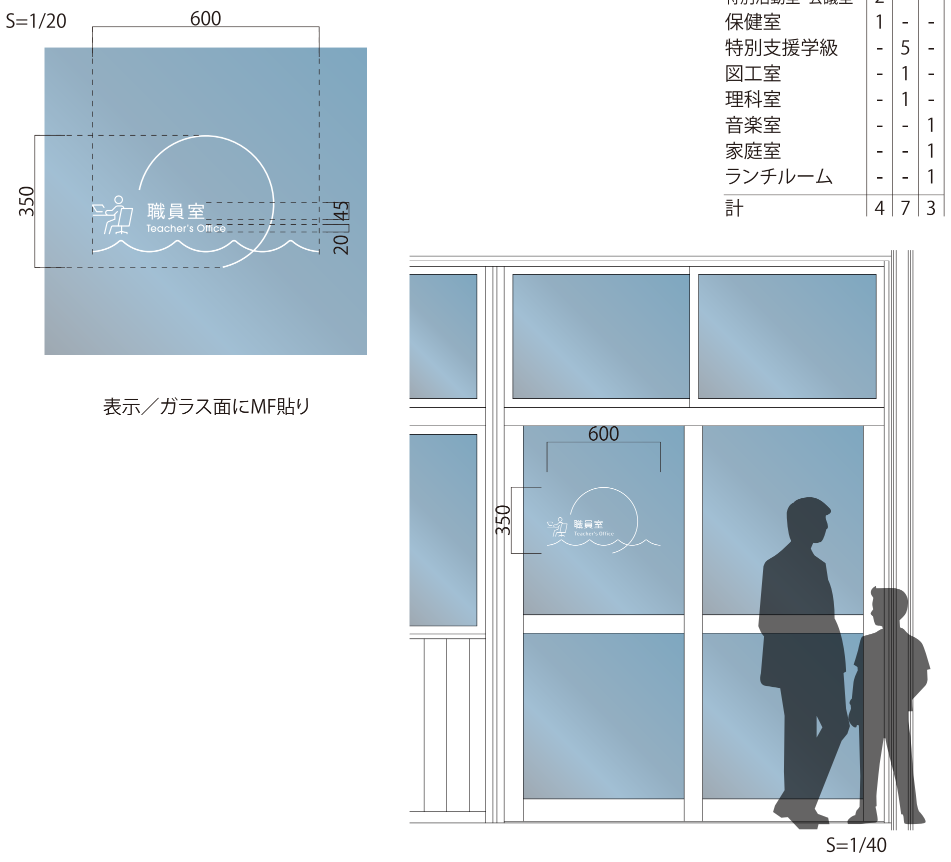
室名	1F	2F	3F
教育相談室1	2	-	-
教育相談室2	1	-	-
計	3	-	-



板面／木板 t=15mm 捨て板 t=3.0mm
文字／凹彫り加工（色入れ）

G 室名サイン（切文字） S=1/20 14ヶ所

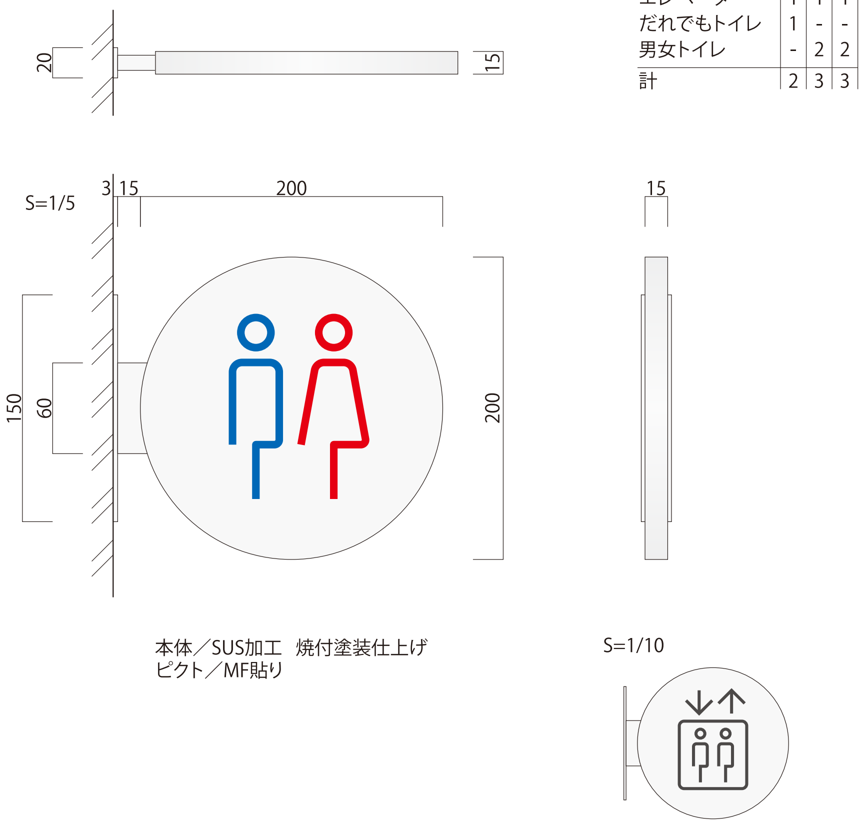
室名	1F	2F	3F
職員室	1	-	-
特別活動室・会議室	2	-	-
保健室	1	-	-
特別支援学級	-	5	-
図工室	-	1	-
理科室	-	1	-
音楽室	-	-	1
家庭室	-	-	1
ランチルーム	-	-	1
計	4	7	3



表示／ガラス面にMF貼り

H ピクトサイン（突出） S=1/5 8ヶ所

室名	1F	2F	3F
エレベーター	1	1	1
だれでもトイレ	1	-	-
男女トイレ	-	2	2
計	2	3	3

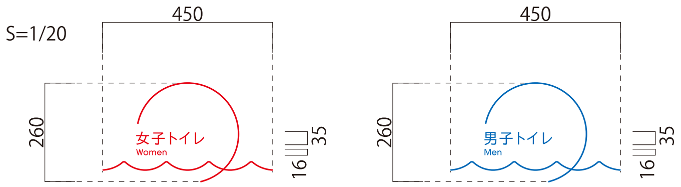


本体／SUS加工 焼付塗装仕上げ
ピクト／MF貼り

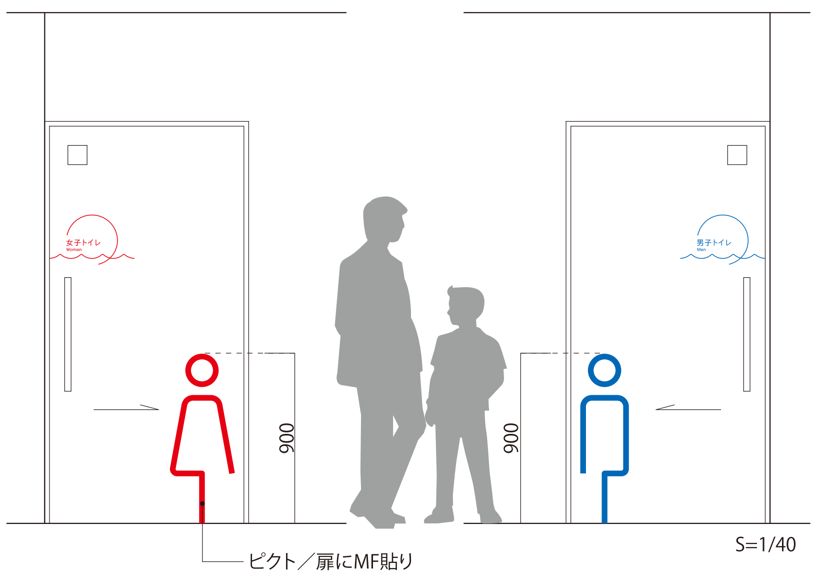
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	サインリスト２	縮尺		図番	A −e27

I ピクトサイン（切文字） S=1/20 14ヶ所

室名	1F	2F	3F
だれでもトイレ	3	-	-
多目的トイレ	-	2	1
男子トイレ	-	2	2
女子トイレ	-	2	2
計	3	6	5

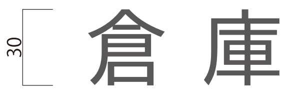


表示／扉にMF貼り



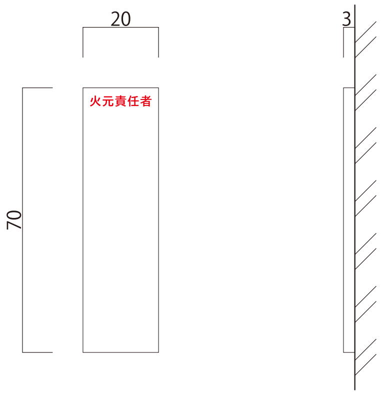
J 切文字サイン S=1/3 60ヶ所

室名	1F	2F	3F	RF
事務室	1	-	-	-
職員室	1	-	-	-
倉庫	3	-	1	-
男子職員更衣室	1	-	-	-
女子職員更衣室	1	-	-	-
男子職員トイレ	1	-	-	-
女子職員トイレ	1	-	-	-
SK	4	-	-	-
給湯室	1	-	-	-
印刷室	3	-	-	-
校長室	1	-	-	-
配膳室	3	1	2	-
給食調理室	4	-	-	-
洗浄室	3	-	-	-
検収室	4	-	-	-
食品庫	1	-	-	-
物品庫	1	-	-	-
下処理室	1	-	-	-
事務・休憩室	2	-	-	-
更衣室	1	-	-	-
トイレ	2	-	-	-
保健相談室	2	-	-	-
シャワー室	1	1	-	-
保健室	1	-	-	-
教材庫	-	1	1	-
書庫	-	2	-	-
理科準備室	-	1	-	-
図工準備室	-	1	-	-
家庭準備室	-	-	2	-
音楽準備室	-	-	2	-
電気室	-	-	-	1
計	44	7	8	1



表示／扉にMF貼り

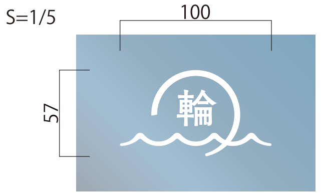
K 火元責任者名札 S=1/2 20ヶ所



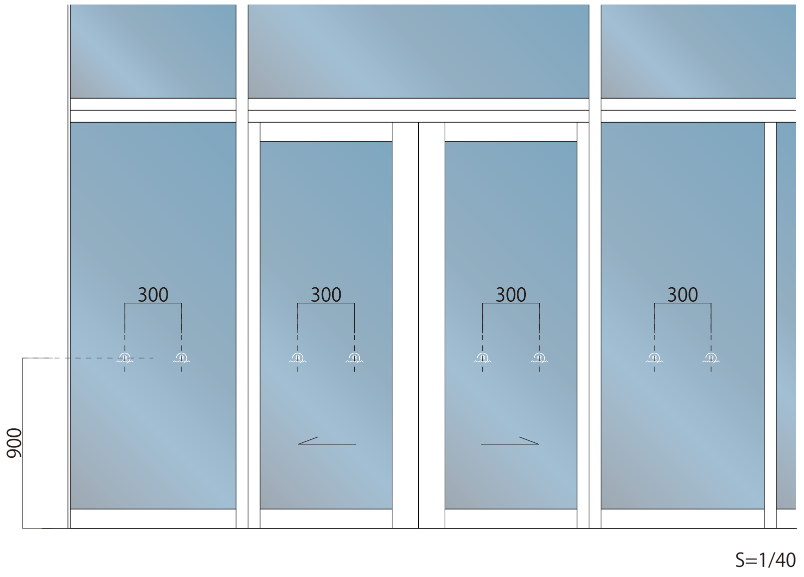
本体／アクリル板（白）t=3.0mm
表示／IJP貼り
※名前はテプラにて表示

L 衝突防止サイン S=1/5 ≒28m

※校章 要確認

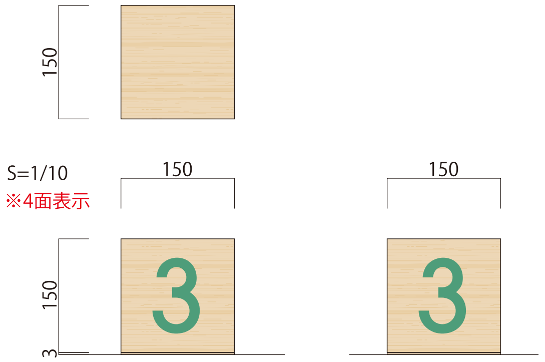


表示／ガラス面にMF貼り



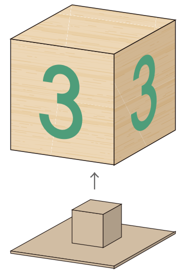
M 下足入れサイン S=1/10 12ヶ所

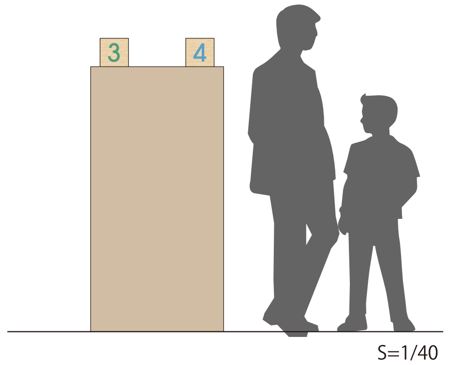
※学年ごとに数字の色を変える



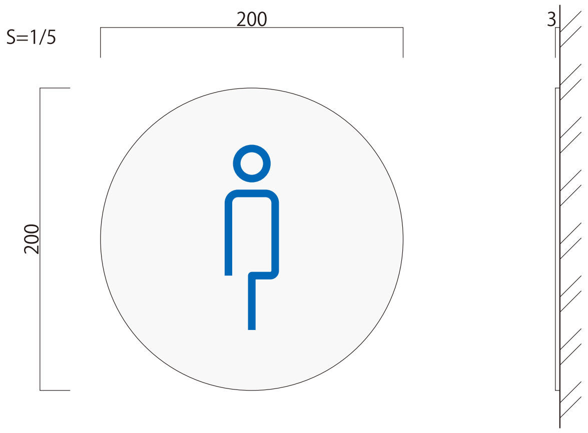
ベース／SUS加工　焼付塗装仕上げ
本体／木 加工
　　　底面：脱着用に彫り加工
数字／凹彫り加工（色入れ）
※脱着式

【脱着イメージ】

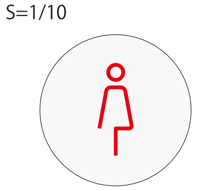




N 外部トイレサイン S=1/5 2ヶ所

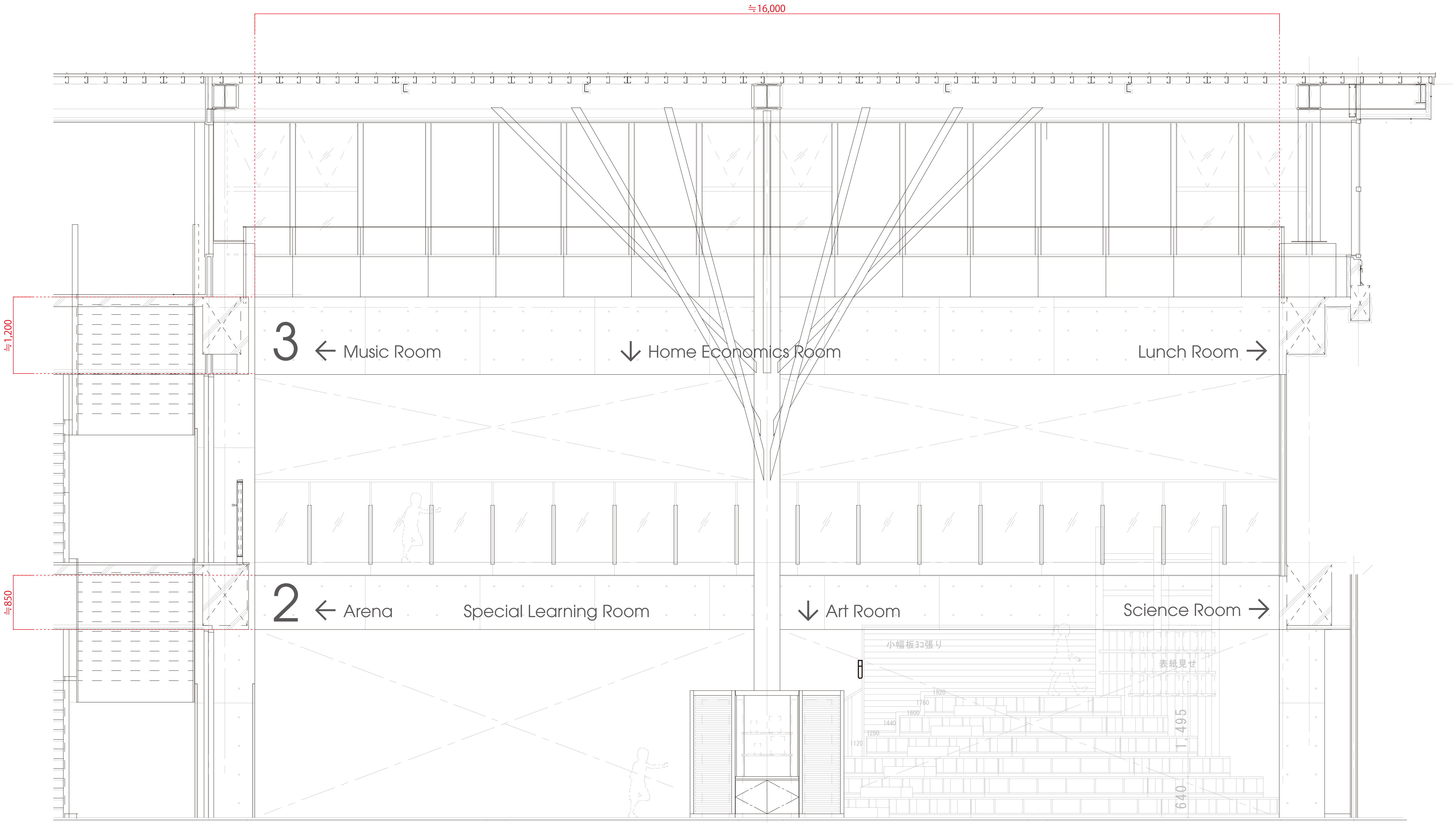


板面／SUS t=3.0mm　焼付塗装仕上げ
ピクト／MF貼り



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 サインリスト３	縮尺	図番 A −e28

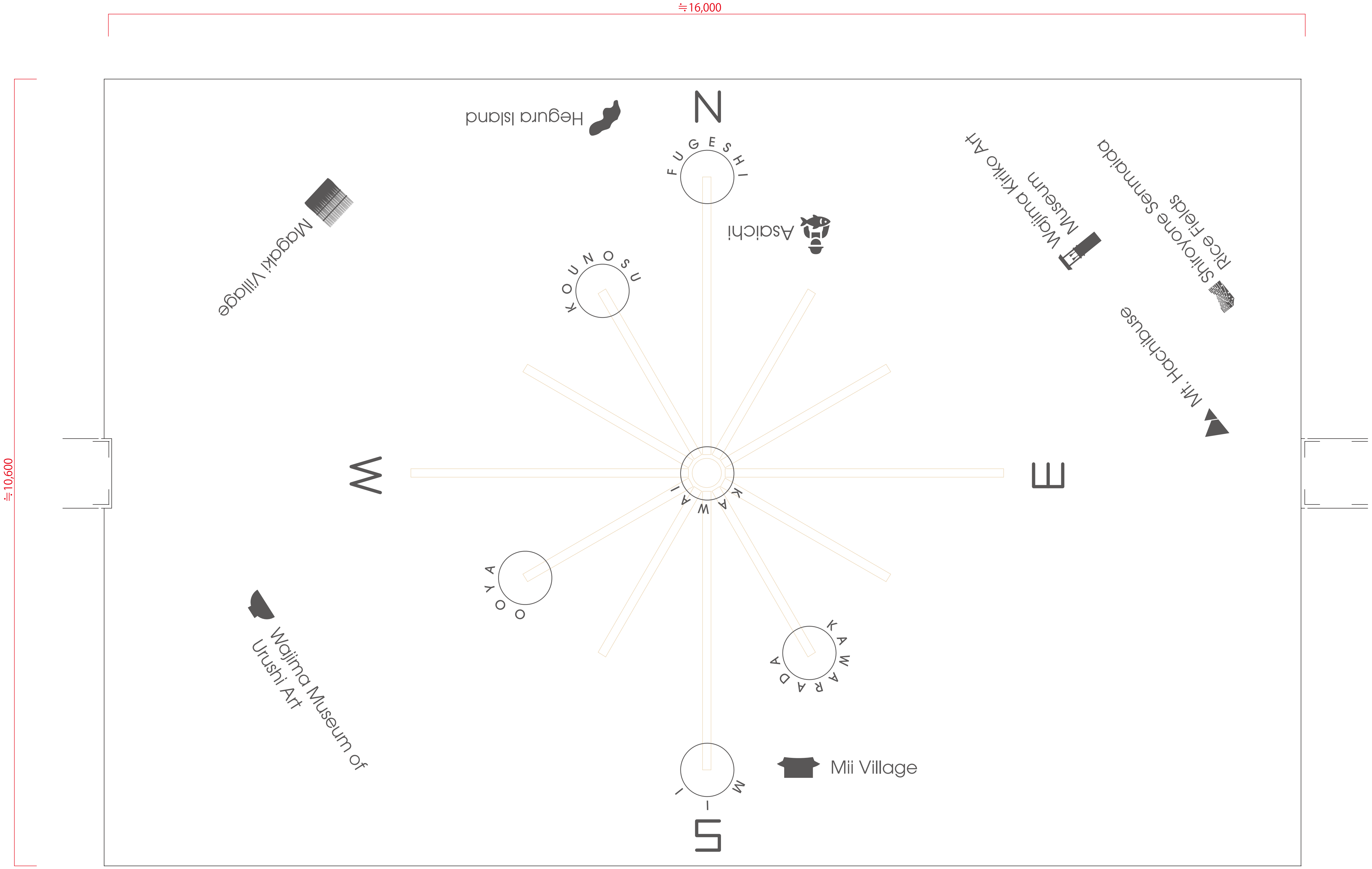
O グラフィックサイン　S=1/60　5ヶ所



表示／ペイントフィルムにインクジェット出力貼り(輪郭カット)

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	サインリスト４	縮尺	図番	A ‾e29

O	グラフィックサイン	S=1/60	5ヶ所



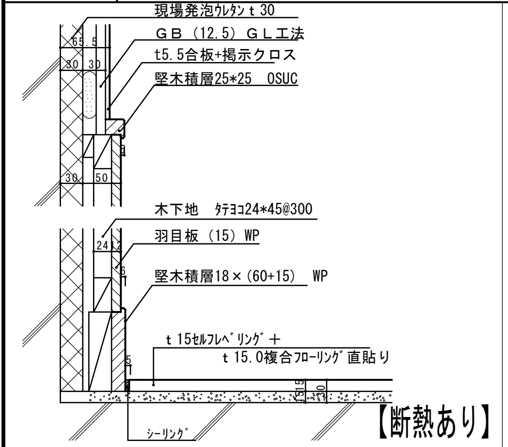
表示／ペイントフィルム貼り

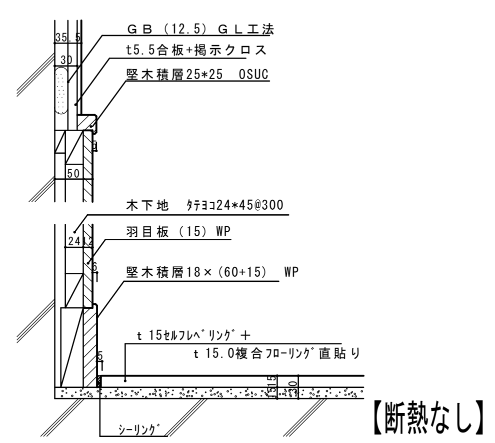
JOB NO. 125280	2026 年 月	、 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 サインリスト５	縮尺	図番 A −e30

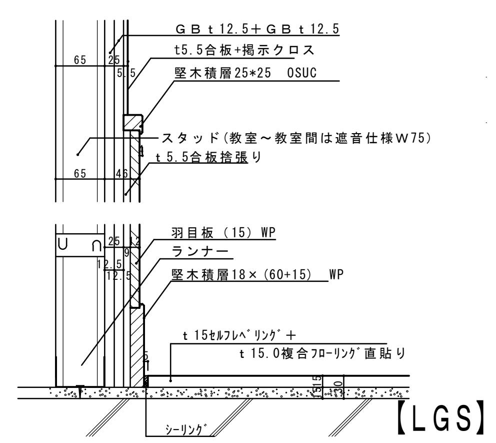
Ａ－１　内部標準詳細図

Ａ－１　内部一般諸室（床～壁）

各ＣＲ、校長室、廊下　A1:S=1/5 A3:S=1/10

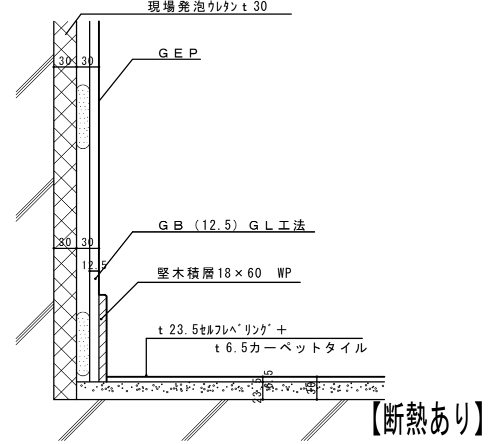


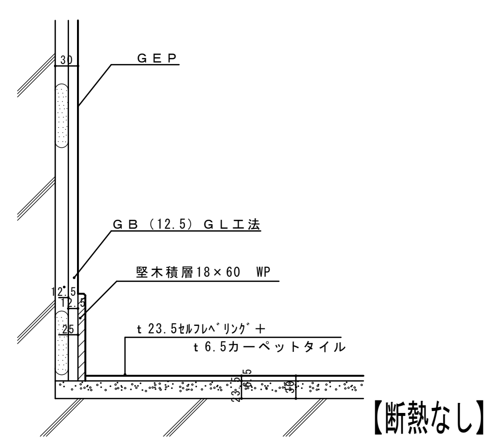


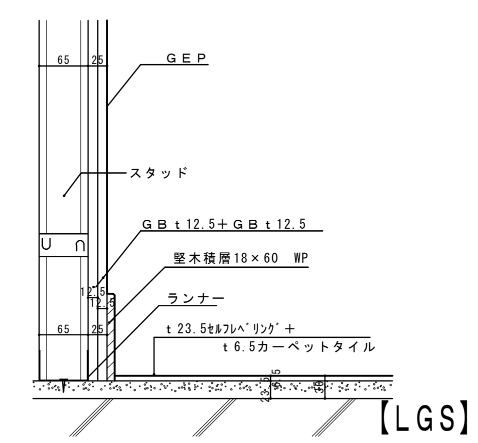


Ａ－２　内部一般諸室（床～壁）

特別活動　A1:S=1/5 A3:S=1/10

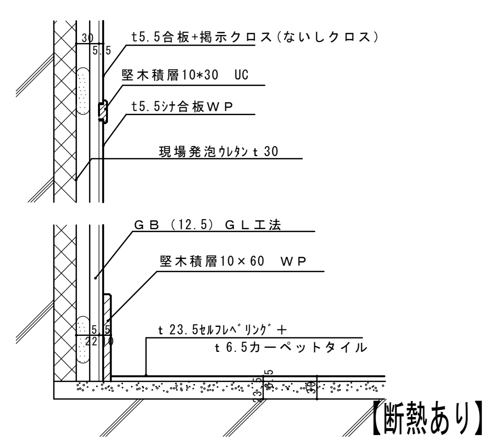


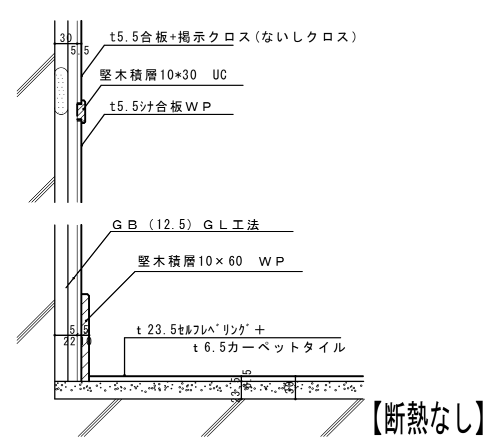


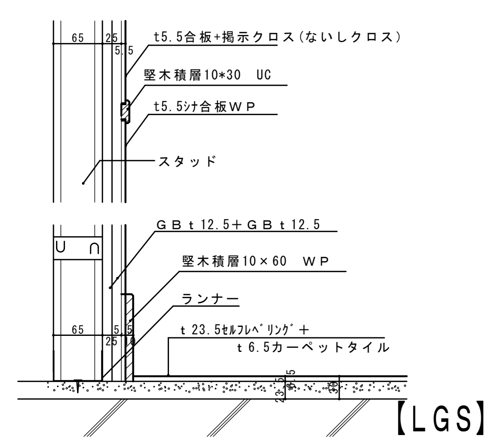


Ａ－３　内部一般諸室（床～壁）

相談室　A1:S=1/5 A3:S=1/10

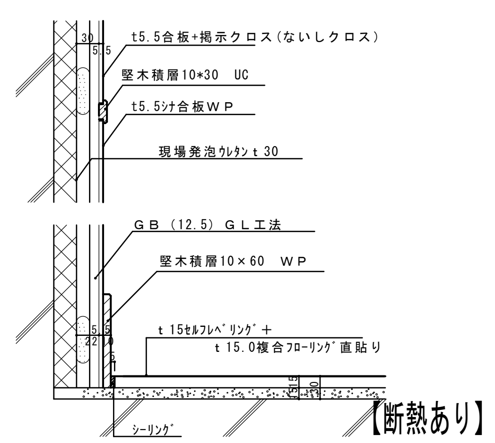


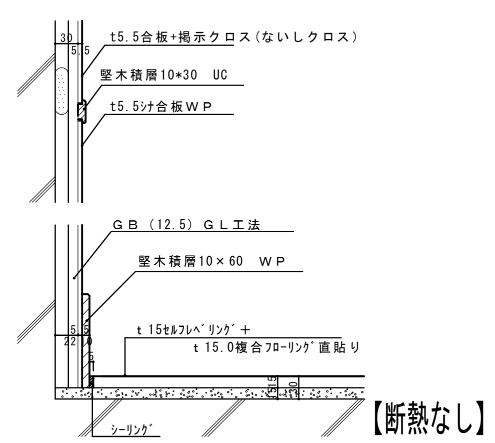


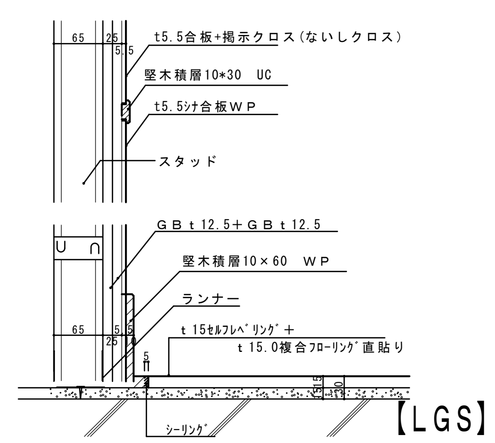


Ａ－４　内部一般諸室（床～壁）

保健室　A1:S=1/5 A3:S=1/10

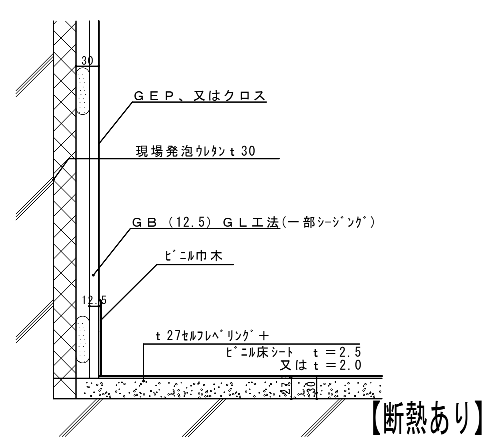


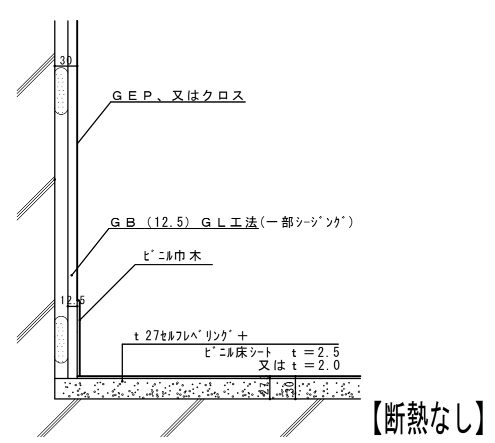


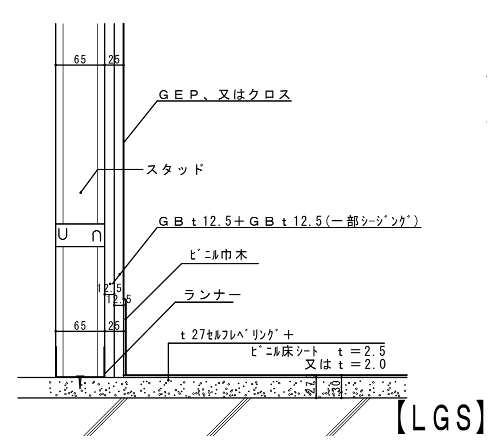


Ａ－５　内部一般諸室（床～壁）

印刷室、職員更衣、給食事務室　A1:S=1/5 A3:S=1/10

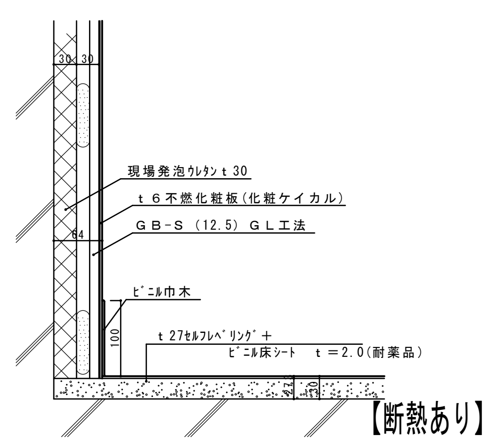


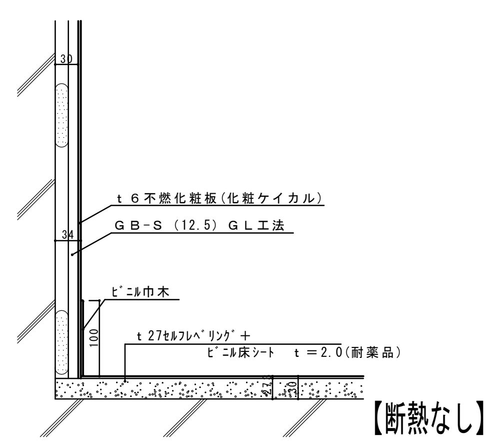


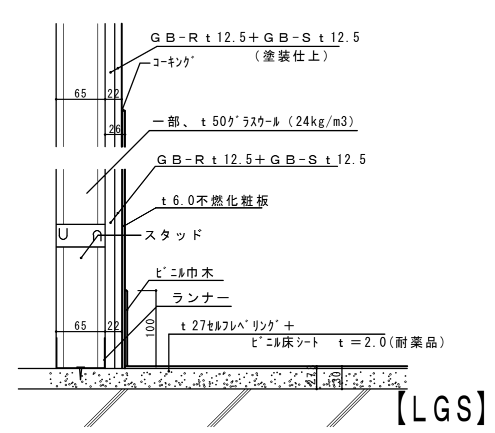


Ａ－６　内部一般諸室（床～壁）

各ＷＣ　A1:S=1/5 A3:S=1/10

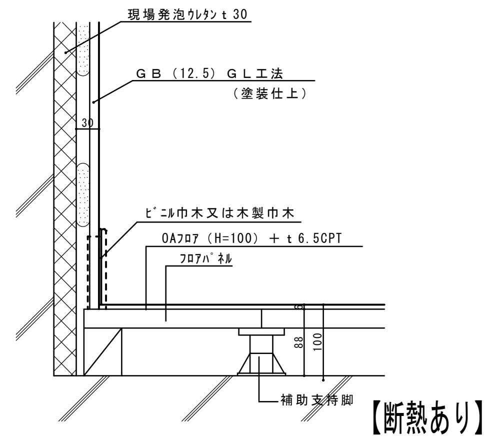


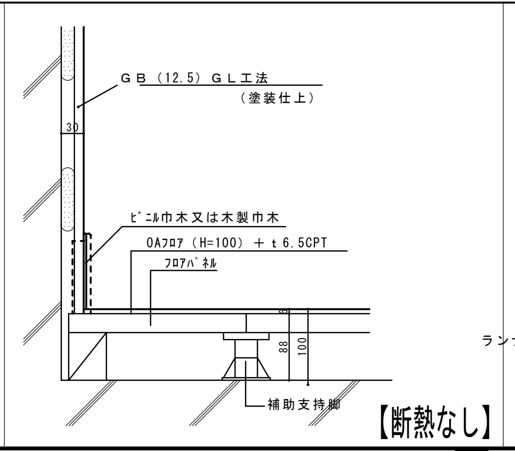


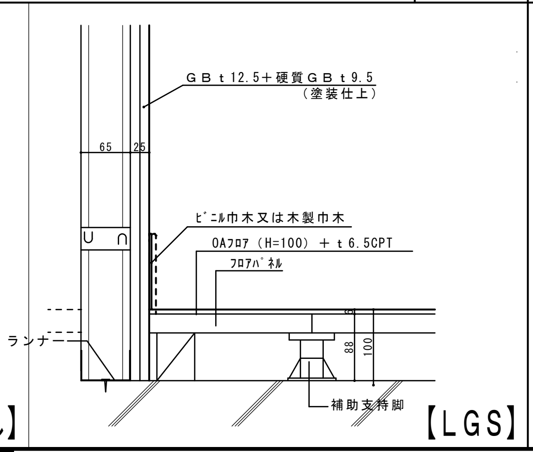


Ａ－７　ＯＡフロア（床～壁）

職員室　A1:S=1/5 A3:S=1/10

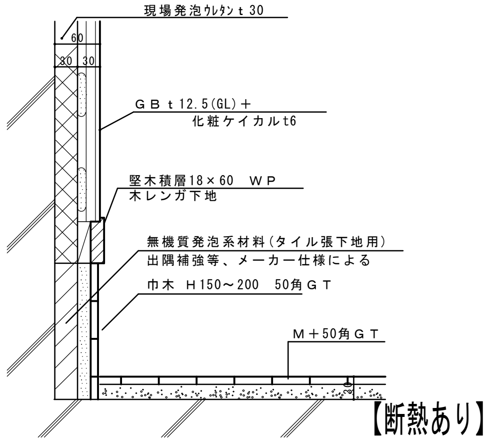


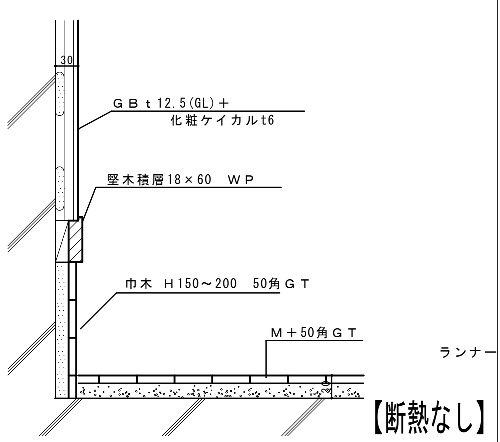


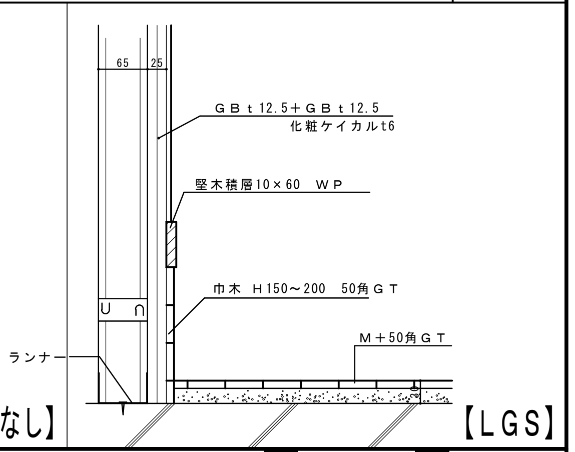


Ａ－８　内部　タイル床周り諸室（床～壁）

児童玄関　A1:S=1/5 A3:S=1/10





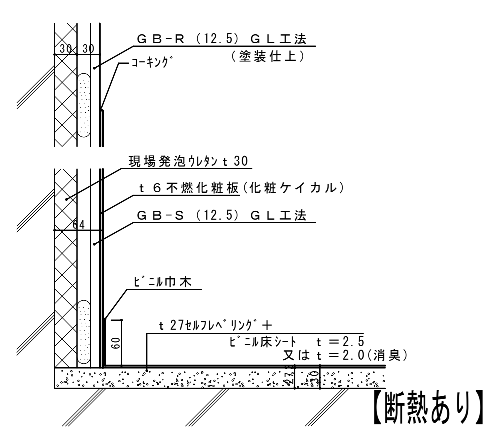


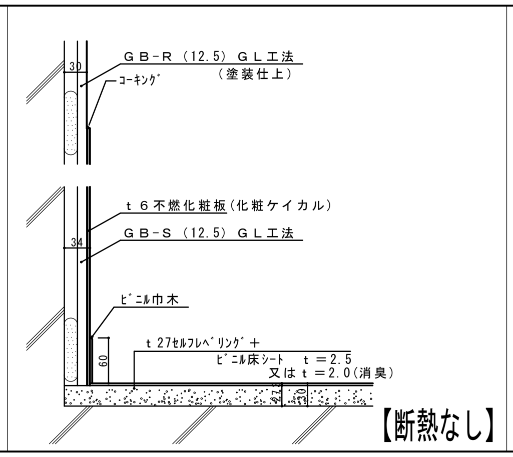
JOB NO.	年月	工事名	設計者	設計	標題	縮尺	図番
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	・　・	部分詳細図（１）	A1:- A3:-	Ａ－f01

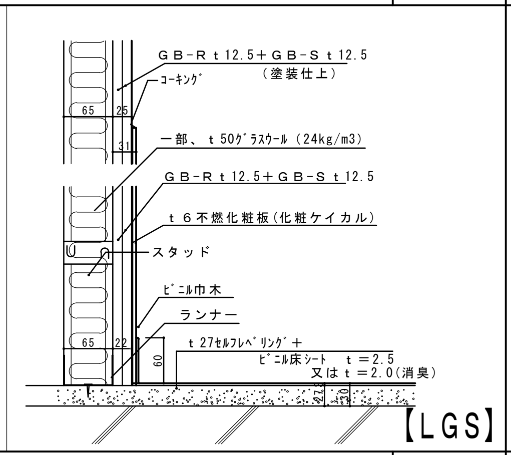
Ａ－１　内部標準詳細図

Ａ－９　内部　水周り諸室（床～壁）

各ＷＣ　A1:S=1/5　A3:S=1/10

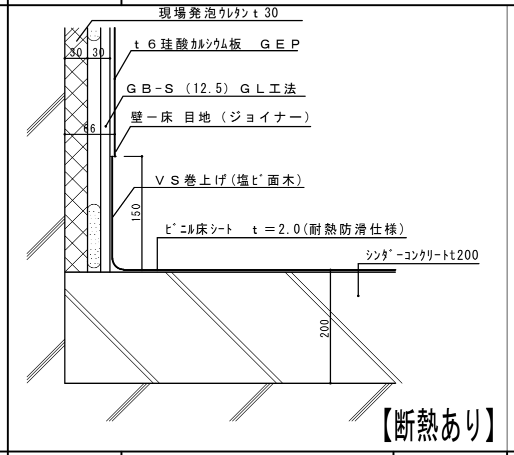


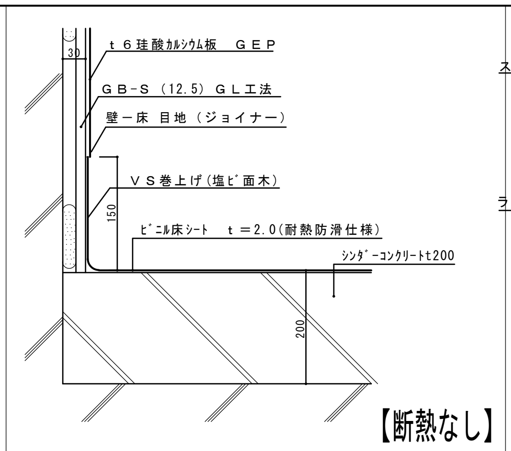


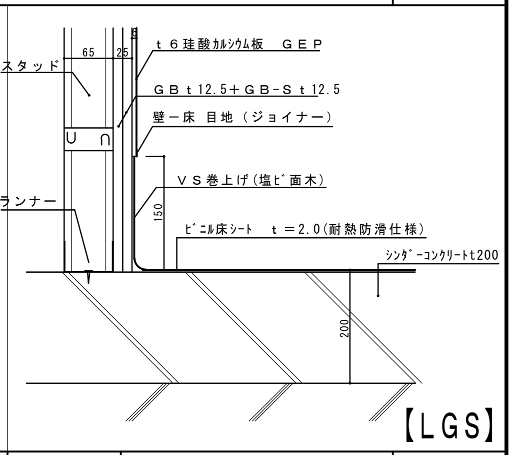


Ａ－１０　内部　水周り諸室（床～壁）

給食調理室、下処理検収室　A1:S=1/5　A3:S=1/10

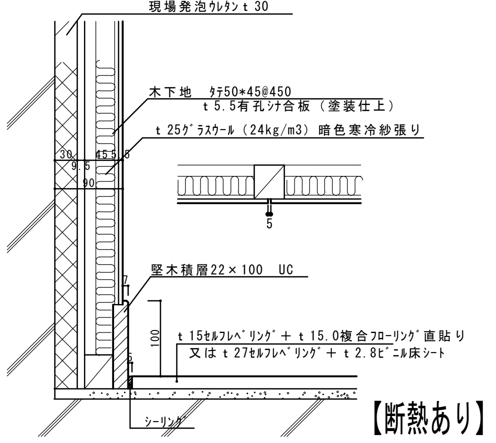


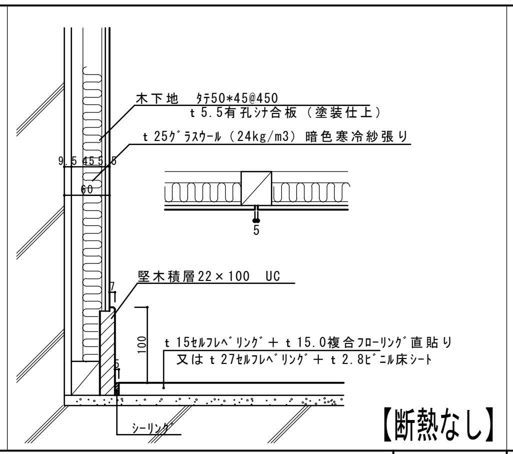


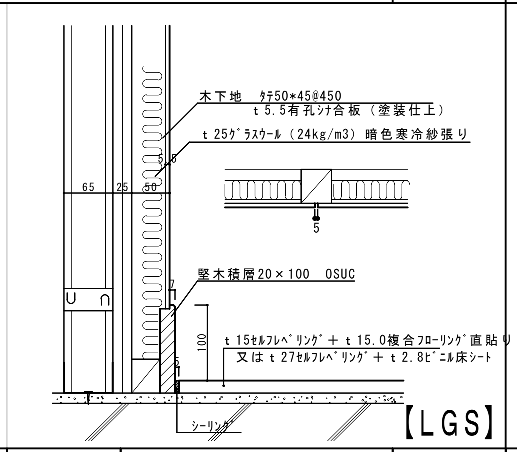


Ａ－１１　内部　吸音壁諸室（床～壁）

音楽室・図工室　A1:S=1/5　A3:S=1/10

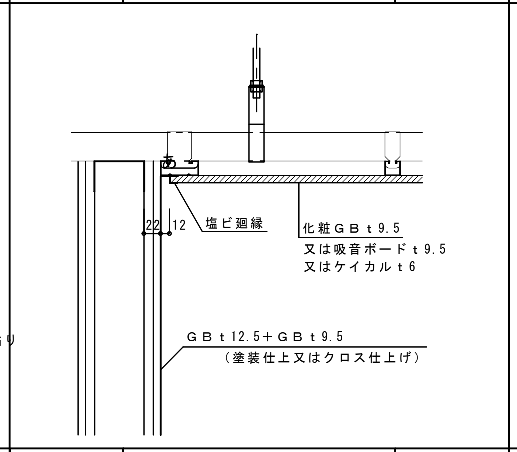



木下地　ﾀﾃ50*45@450
ｔ5.5有孔ｼﾅ合板（塗装仕上）
ｔ25ｸﾞﾗｽｳｰﾙ（24kg/m3）暗色寒冷紗張り
9.5 45 5.5
60
5
堅木積層22×100　UC
7
100
5
ｔ15ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ＋ｔ15.0複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ直貼り
又はｔ27ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ＋ｔ2.8ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ
ｼｰﾘﾝｸﾞ
【断熱なし】


木下地　ﾀﾃ50*45@450
ｔ5.5有孔ｼﾅ合板（塗装仕上）
ｔ25ｸﾞﾗｽｳｰﾙ（24kg/m3）暗色寒冷紗張り
5.5
65 25 50
5
堅木積層20×100　OSUC
7
100
5
ｔ15ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ＋ｔ15.0複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ直貼り
又はｔ27ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ＋ｔ2.8ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ
ｼｰﾘﾝｸﾞ
【ＬＧＳ】

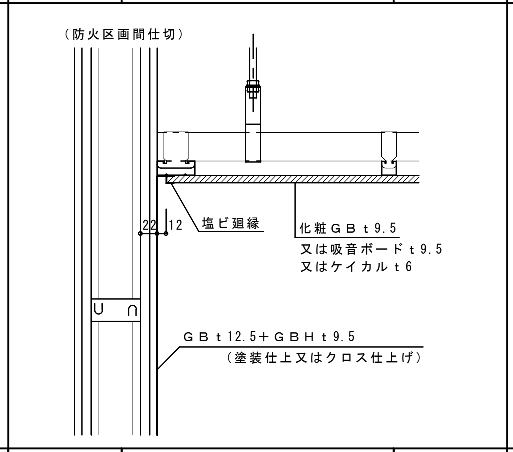
Ａ－１４　内部一般諸室（壁～天井）

A1:S=1/5　A3:S=1/10



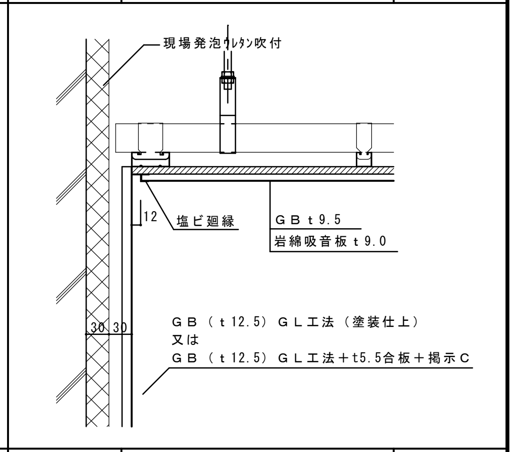
Ａ－１５　内部一般諸室（壁～天井）

A1:S=1/5　A3:S=1/10



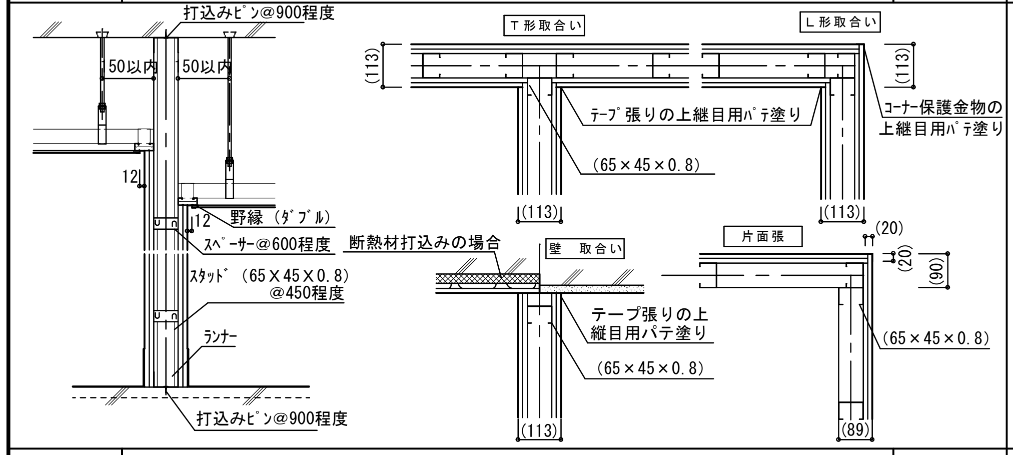
Ａ－１６　内部一般諸室（壁～天井）

A1:S=1/5　A3:S=1/10



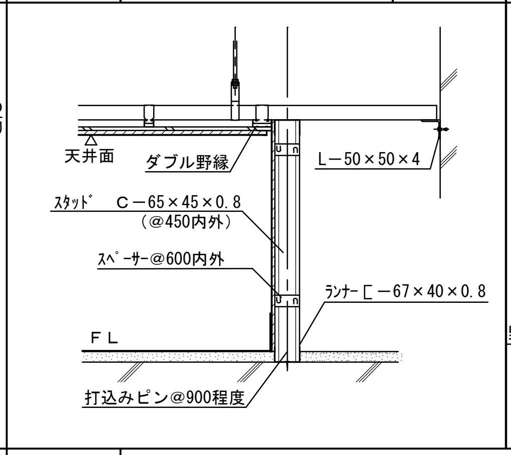
Ａ－２０　軽量鉄骨壁下地：各部取合

A1:S=1/10　A3:S=1/20



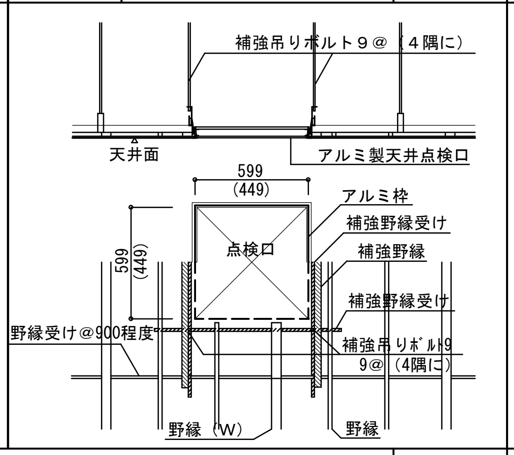
Ａ－２１　簡易軽鉄間仕切

A1:S=1/10　A3:S=1/20



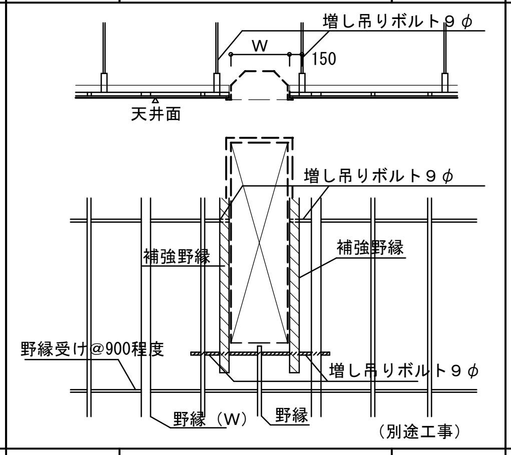
Ａ－２２　天井点検口　開口補強

A1:S=1/20　A3:S=1/40



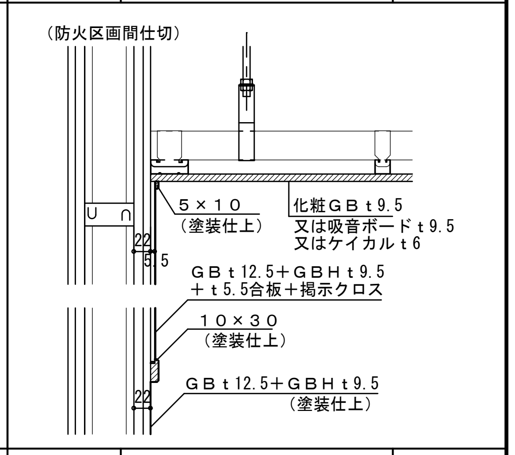
Ａ－２３　照明器具開口補強（別途工事）

A1:S=1/20　A3:S=1/40



Ａ－１７　内部掲示ｸﾛｽ壁（壁～天井）

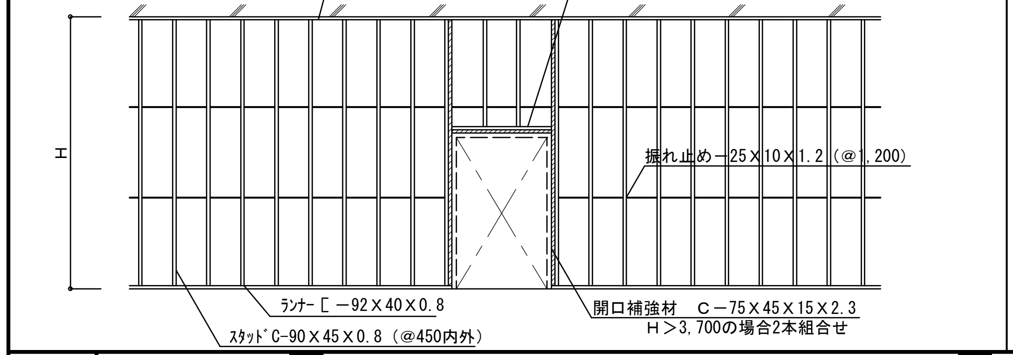
A1:S=1/5　A3:S=1/10



Ａ－２４　軽鉄間仕切開口補強（ドア）

A1:S=1/50　A3:S=1/100

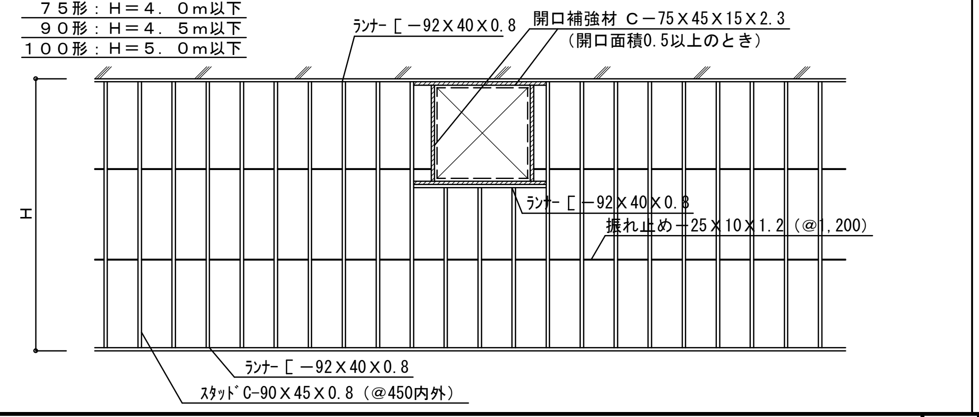
６５形：Ｈ＝４．０ｍ以下
７５形：Ｈ＝４．０ｍ以下
９０形：Ｈ＝４．５ｍ以下
１００形：Ｈ＝５．０ｍ以下


ﾗﾝﾅｰ［－92Ｘ40Ｘ0.8
ﾗﾝﾅｰ［－92Ｘ40Ｘ0.8
Ｈ
振れ止め－25Ｘ10Ｘ1.2（@1,200）
ﾗﾝﾅｰ［－92Ｘ40Ｘ0.8
ｽﾀｯﾄﾞC-90Ｘ45Ｘ0.8（@450内外）
開口補強材　Ｃ－75Ｘ45Ｘ15Ｘ2.3
Ｈ＞3,700の場合2本組合せ

Ａ－２５　軽鉄間仕切開口補強（ダクト　等）

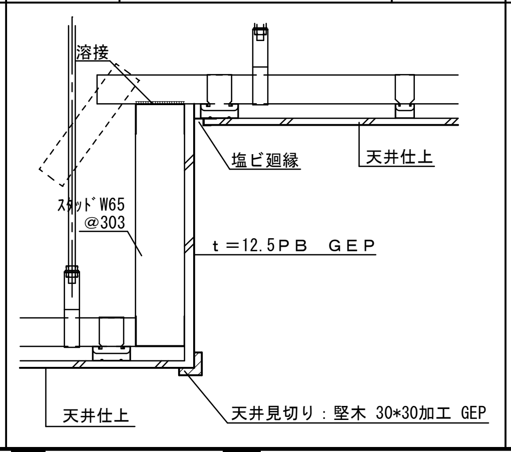
A1:S=1/50　A3:S=1/100

６５形：Ｈ＝４．０ｍ以下
７５形：Ｈ＝４．０ｍ以下
９０形：Ｈ＝４．５ｍ以下
１００形：Ｈ＝５．０ｍ以下


ﾗﾝﾅｰ［－92Ｘ40Ｘ0.8
開口補強材 Ｃ－75Ｘ45Ｘ15Ｘ2.3
（開口面積0.5以上のとき）
Ｈ
ﾗﾝﾅｰ［－92Ｘ40Ｘ0.8
振れ止め－25Ｘ10Ｘ1.2（@1,200）
ﾗﾝﾅｰ［－92Ｘ40Ｘ0.8
ｽﾀｯﾄﾞC-90Ｘ45Ｘ0.8（@450内外）

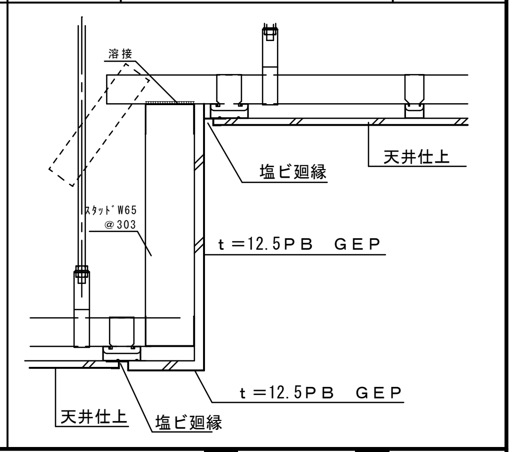
Ａ－１８　内部一般諸室下り天井　仕上納まり

A1:S=1/5　A3:S=1/10



Ａ－１９　内部一般諸室下り天井　仕上納まり

A1:S=1/5　A3:S=1/10

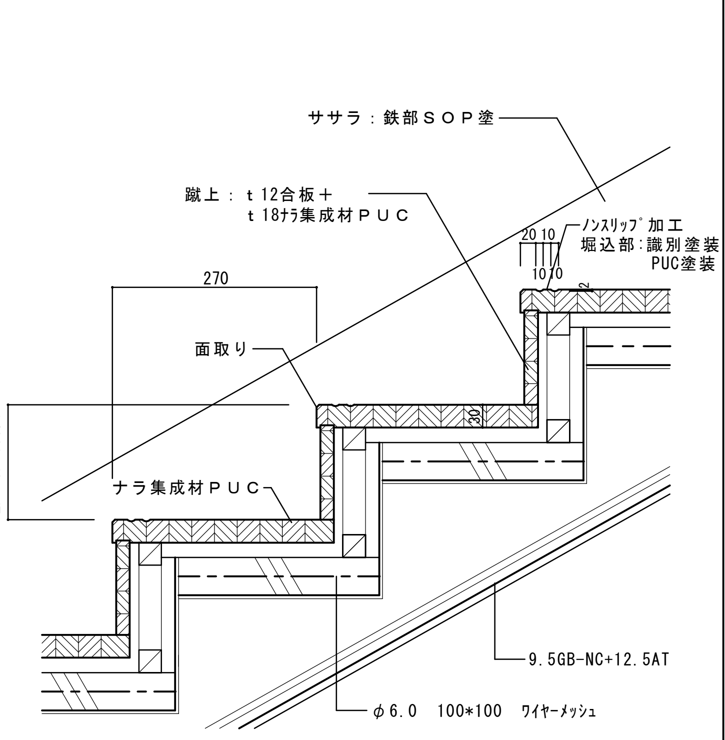


JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（２）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ａ －f02

Ａ－２　内部標準詳細図

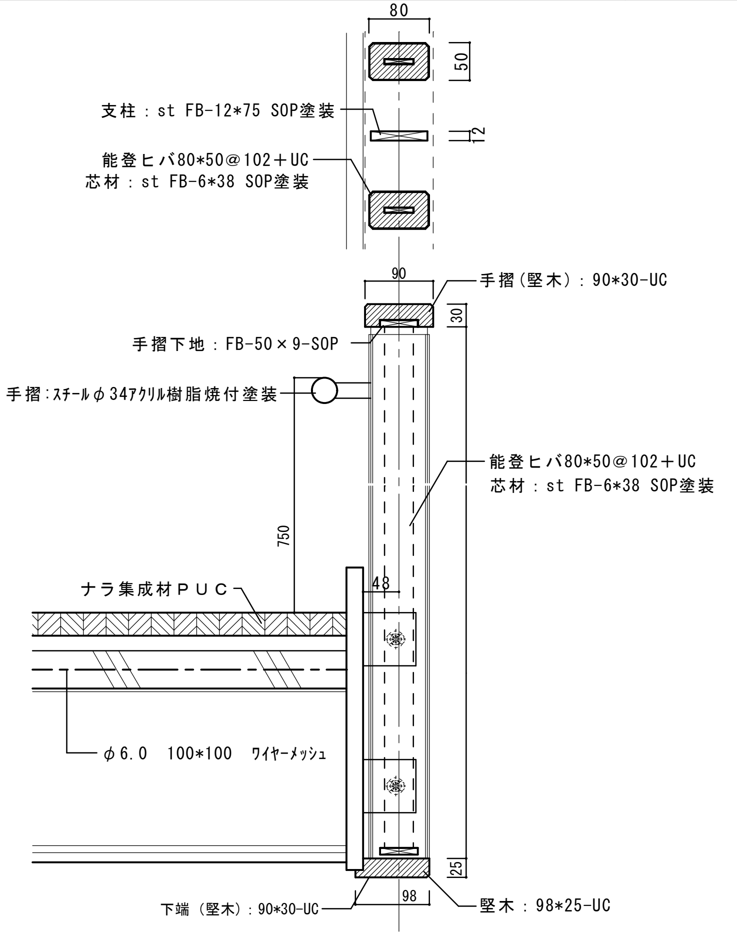
Ａ－２０　階段

A1:S=1/5
A3:S=1/10



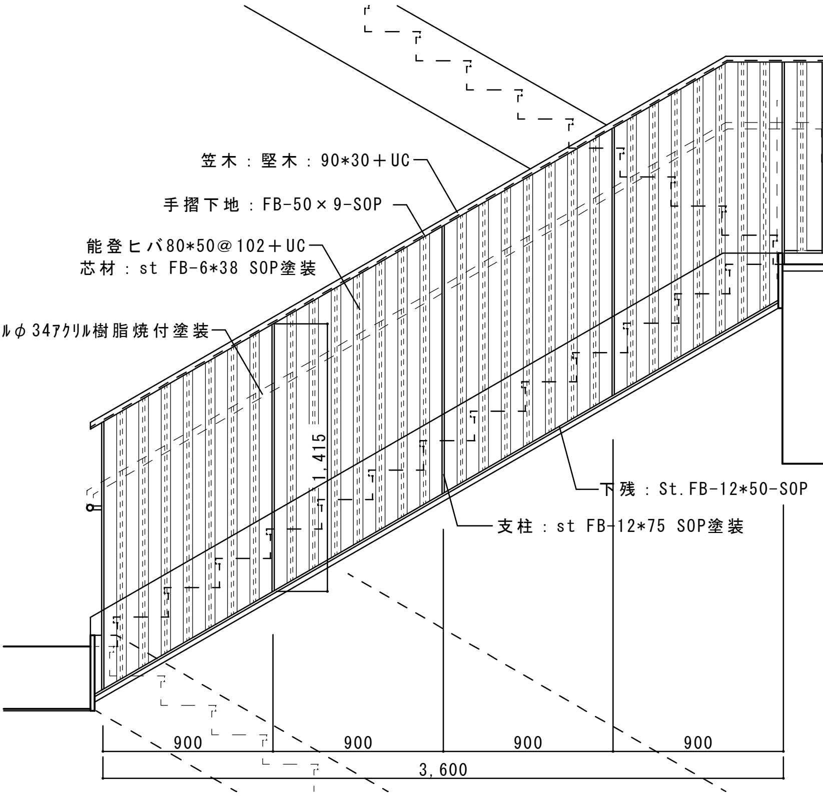
Ａ－２１　階段手摺

A1:S=1/5
A3:S=1/10

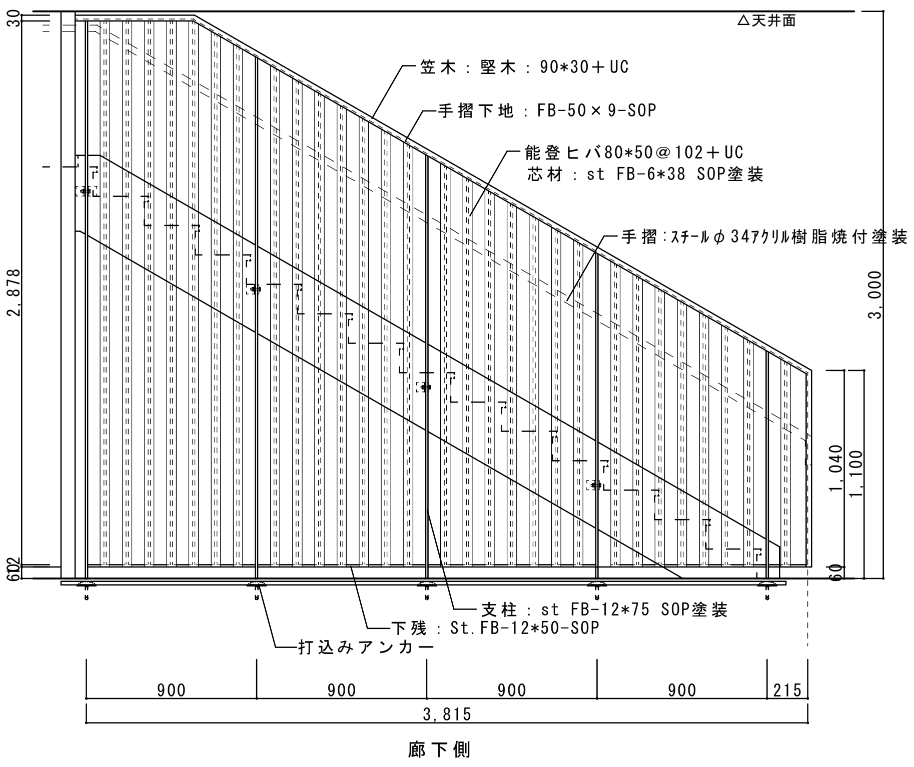


Ａ－２２　階段手摺　姿図

A1:S=1/20
A3:S=1/40



姿図　S=1/20

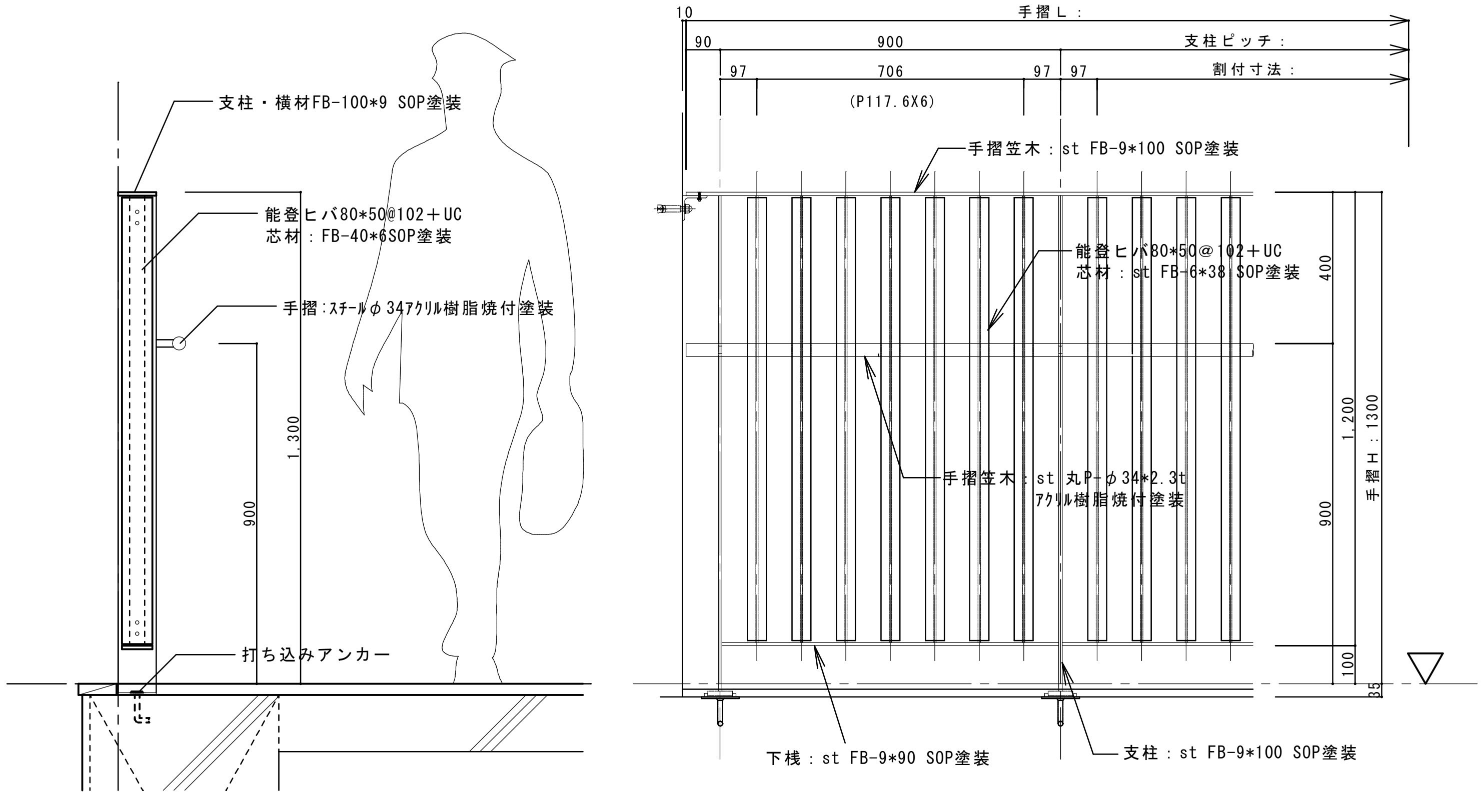


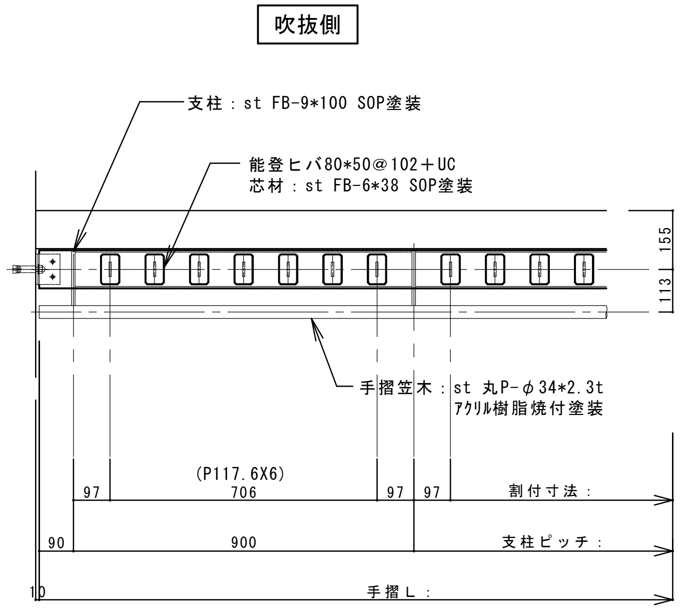
姿図　S=1/20

Ａ－２３　階段Ａ ３階吹抜手摺、階段最上階　手摺

A1:S=1/10
A3:S=1/20

姿図　S=1/10
（内観図）





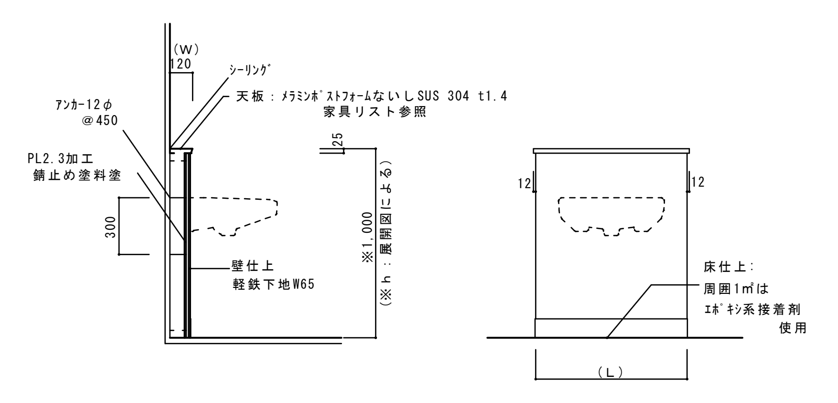
平面図　S=1/20

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（３）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ａ－f03

Ａ－３　内部標準詳細図

Ａ－２４　洗面ライニング（ＬＧＳ）

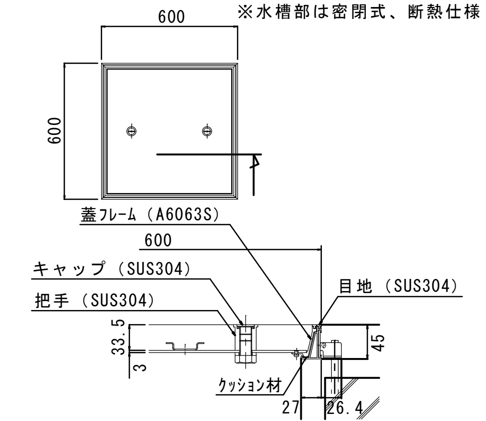
A1:S=1/20
A3:S=1/40



Ａ－２５　床点検口詳細図

A1:S=1/5
A3:S=1/10

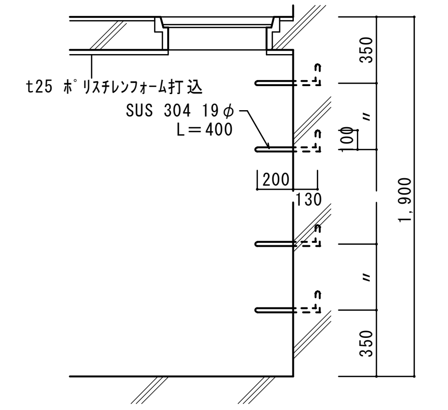
※特記なき限り、仕上材充填タイプ
※水槽部は密閉式、断熱仕様



Ａ－２６　床点検口詳細図

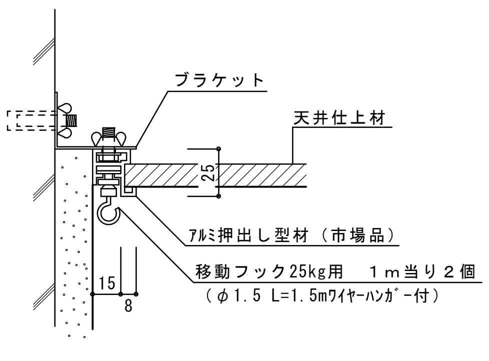
A1:S=1/20
A3:S=1/40

配管ピット　FL-2100：４段／１組



Ａ－２７　ピクチャーレール

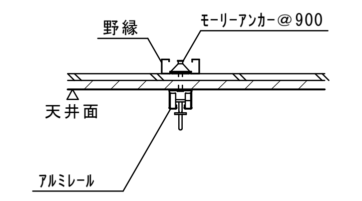
A1:S=1/2
A3:S=1/4



※　詳細はメーカー仕様による

Ａ－２８　カーテンレール

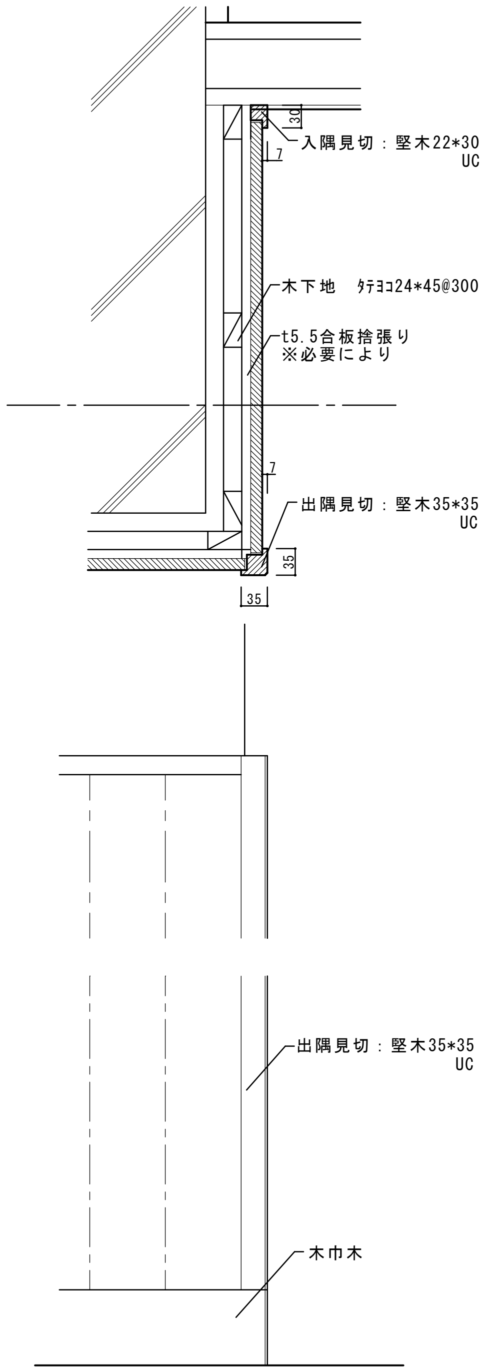
A1:S=1/5
A3:S=1/10



※　枠直付も本図に準ずる

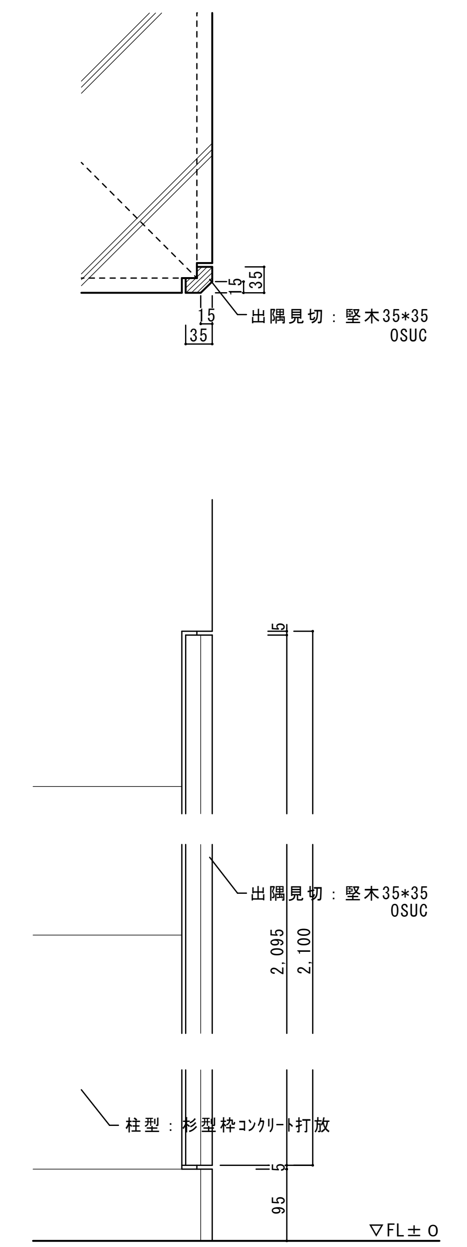
Ａ－２９　木部壁（柱型）出隅・入隅見切

A1:S=1/5
A3:S=1/10



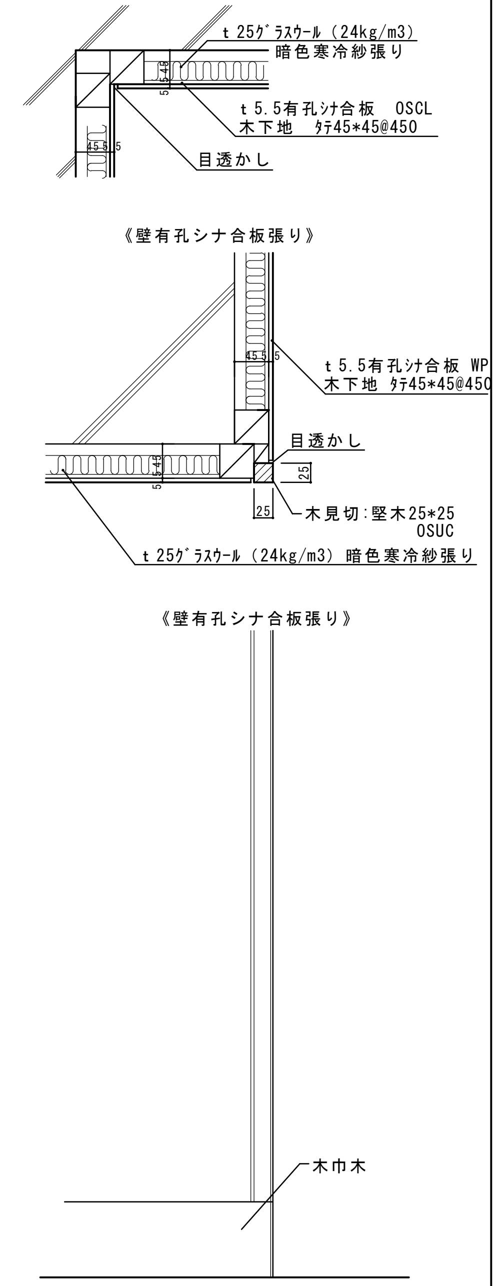
Ａ－３０　打放柱出隅

A1:S=1/5
A3:S=1/10



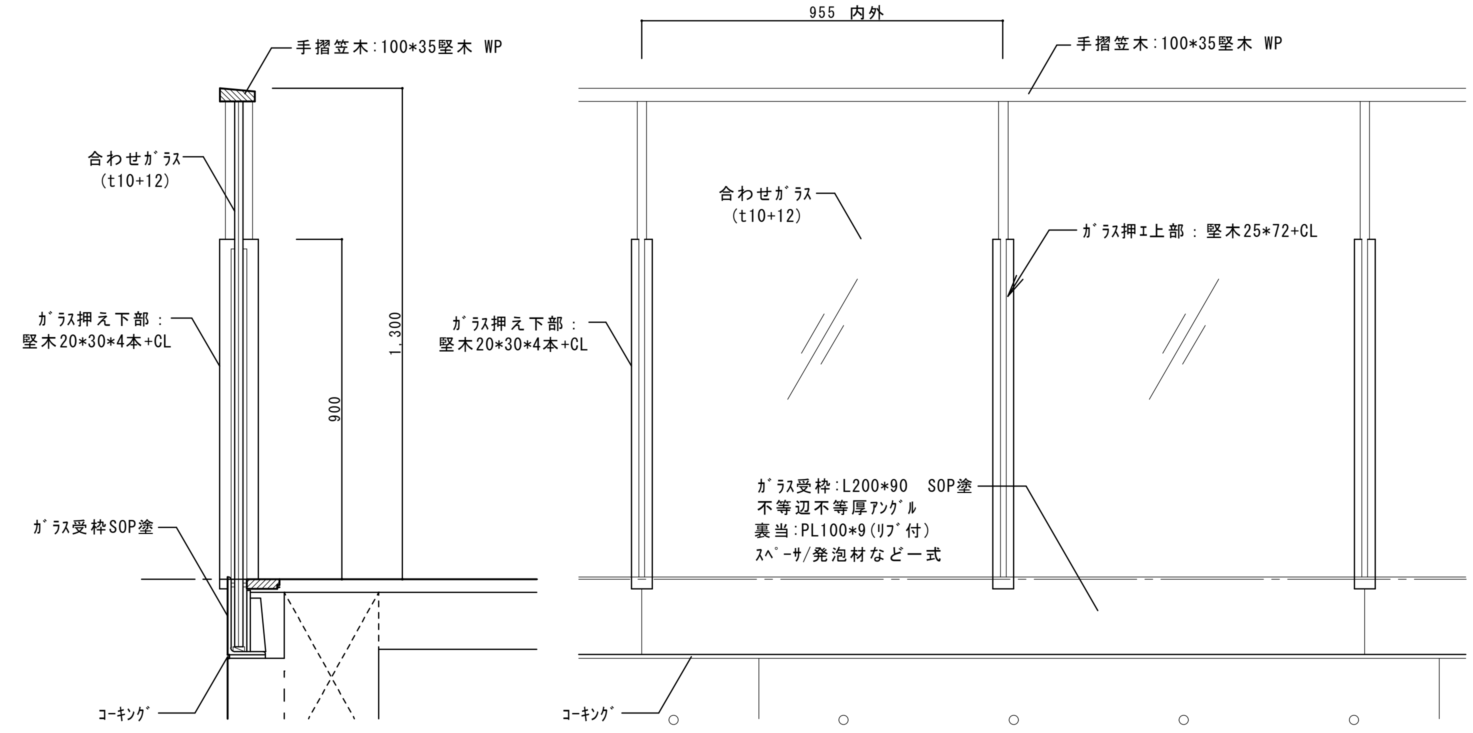
Ａ－３１　木部壁見切（入隅・出隅）

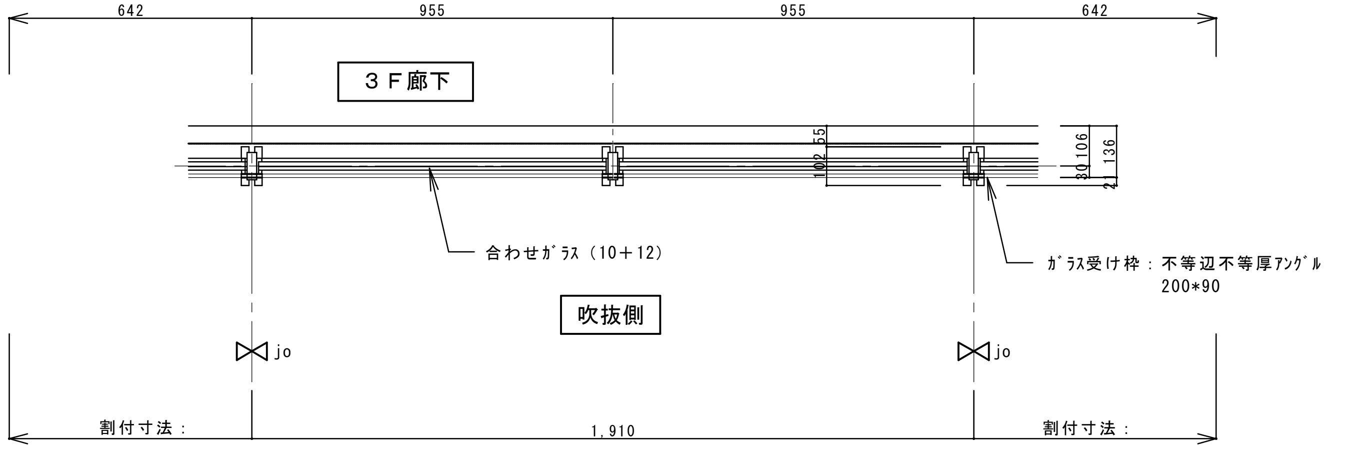
A1:S=1/5
A3:S=1/10



Ａ－３２　階段Ａ　３階吹抜手摺

A1:S=1/20
A3:S=1/40





平面図　Ｓ＝１／１０

JOB NO.
125280

2026　年　月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

設計　・　・

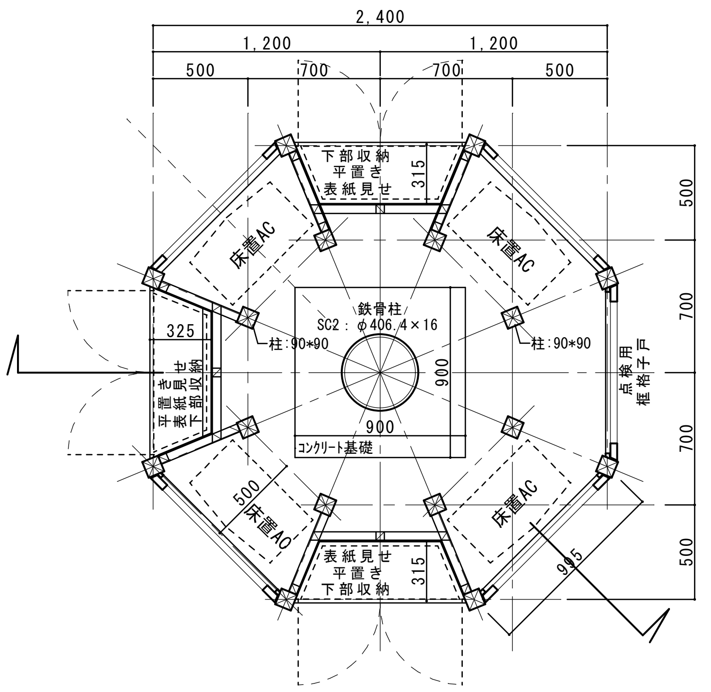
標題　部分詳細図（４）

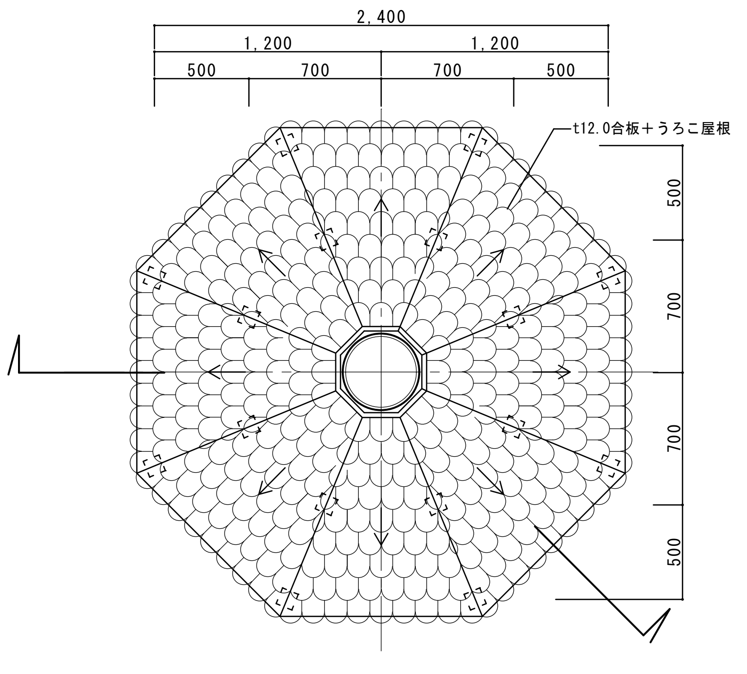
縮尺　A1:-
A3:-

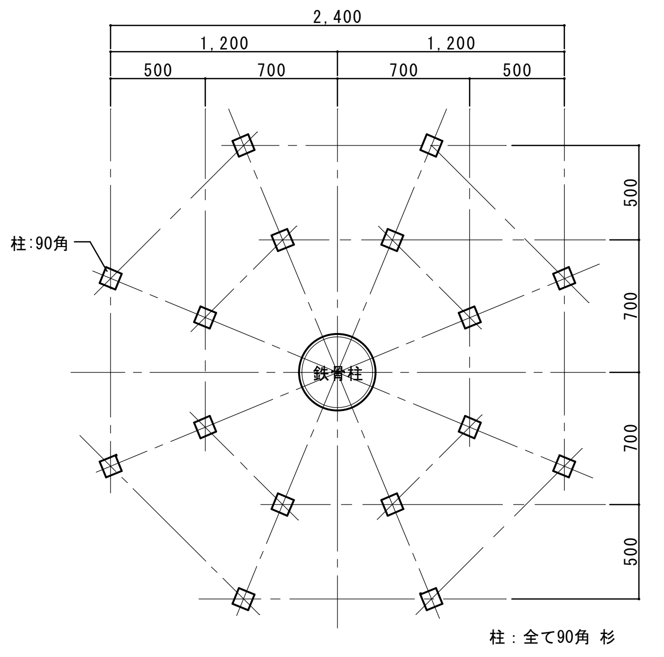
図番　Ａ－f04

Ａ－３　内部標準詳細図

Ａ－３３	床置きエアコン隠ぺい　展示棚	A1:S=1/20 A3:S=1/40

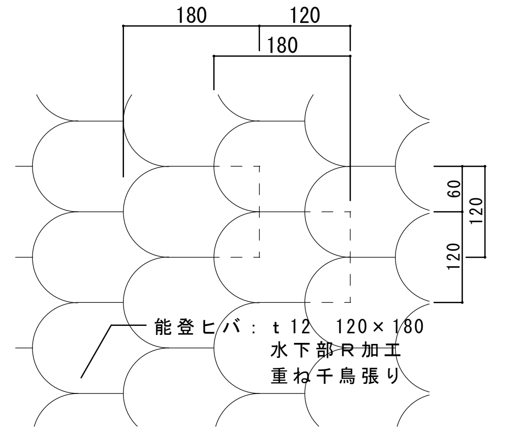


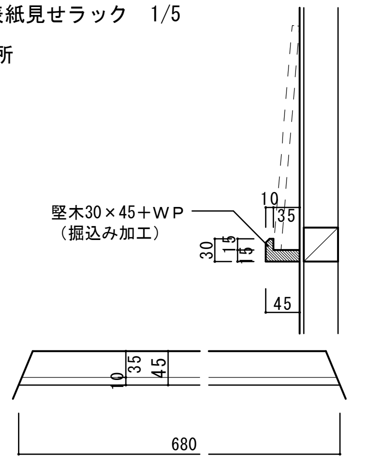


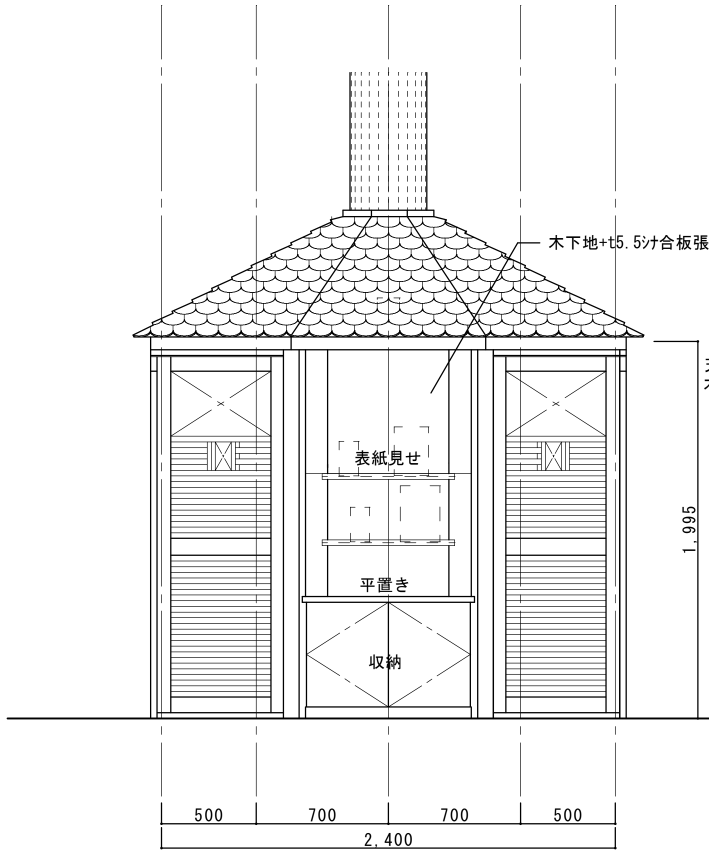


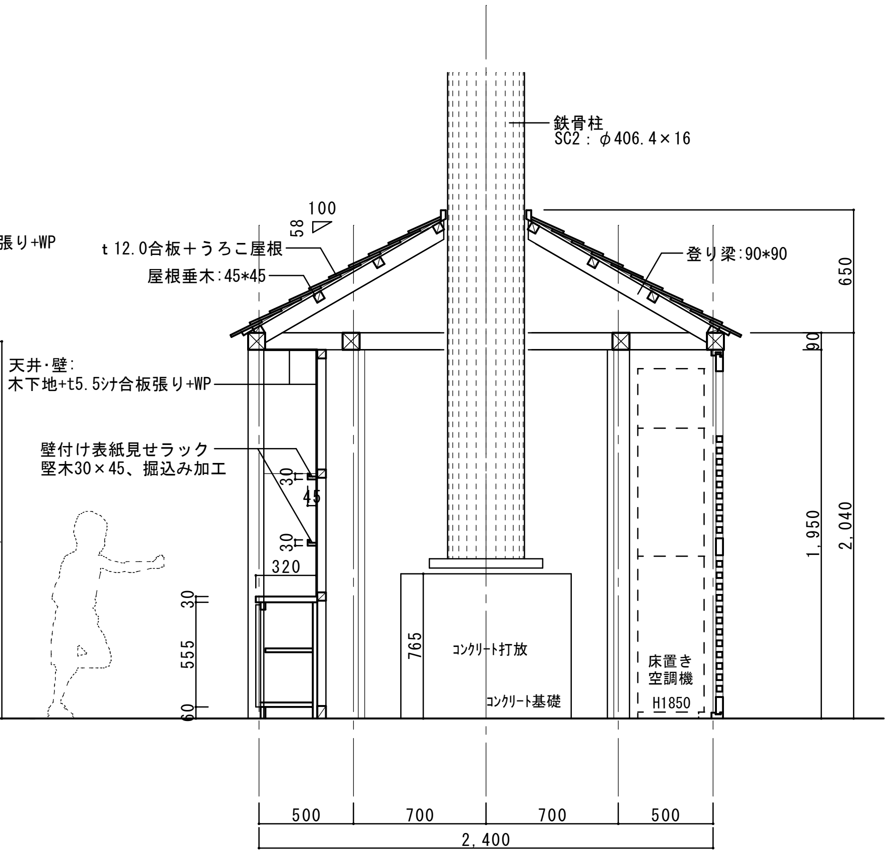
柱：全て90角 杉

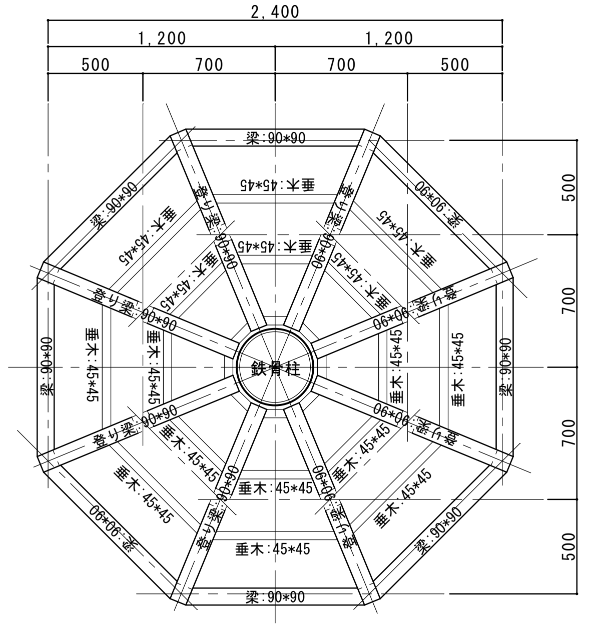
柱伏図　s=1/20





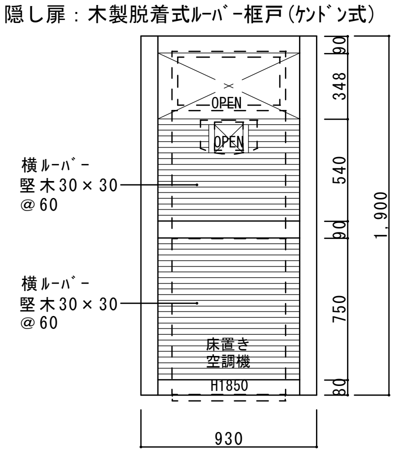




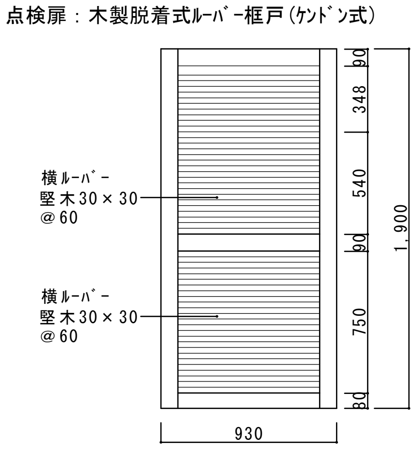


梁：全て90角 杉

柱伏図　s=1/20



４ヶ所

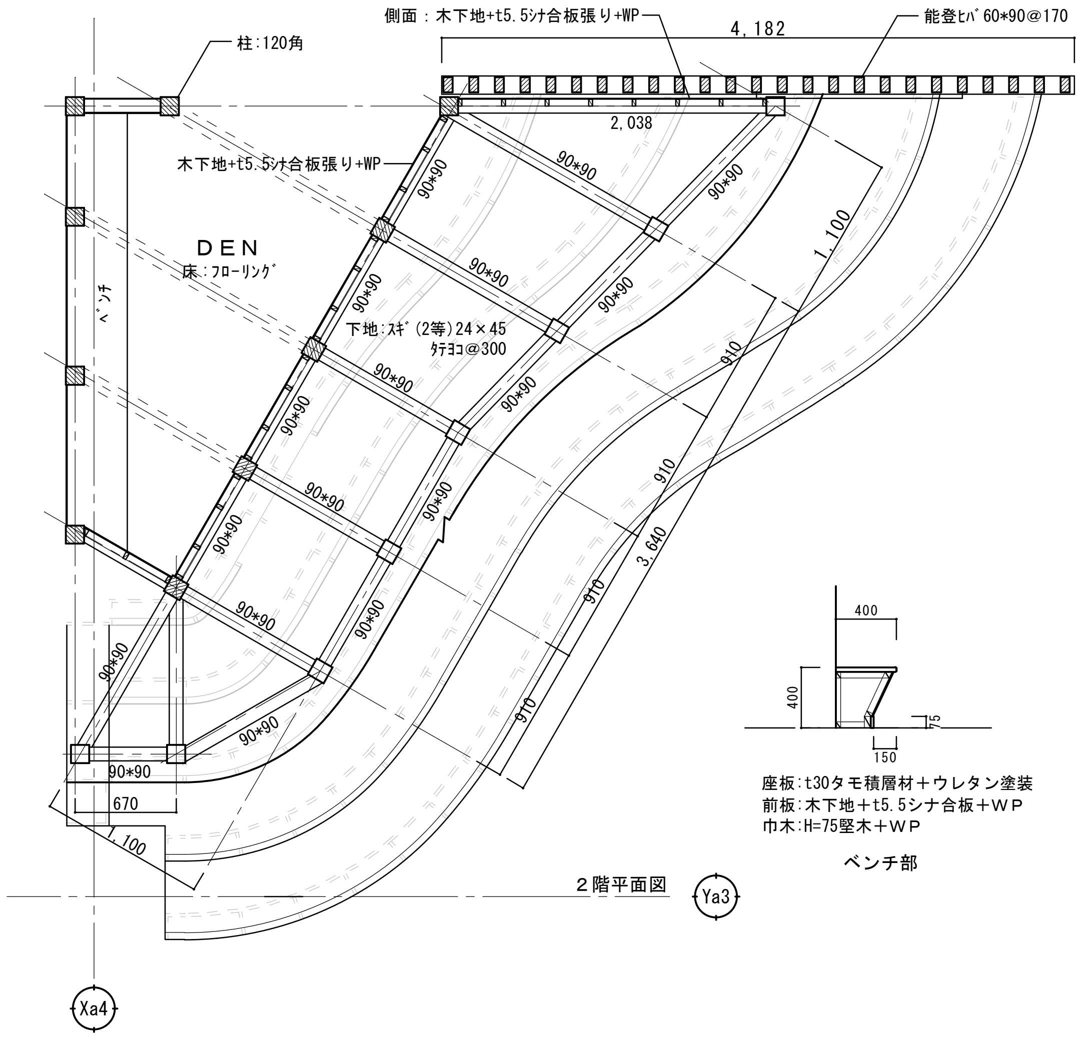


１ヶ所

JOB NO.									
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（５）	縮尺 A1:- A3:-	図番 A －f05

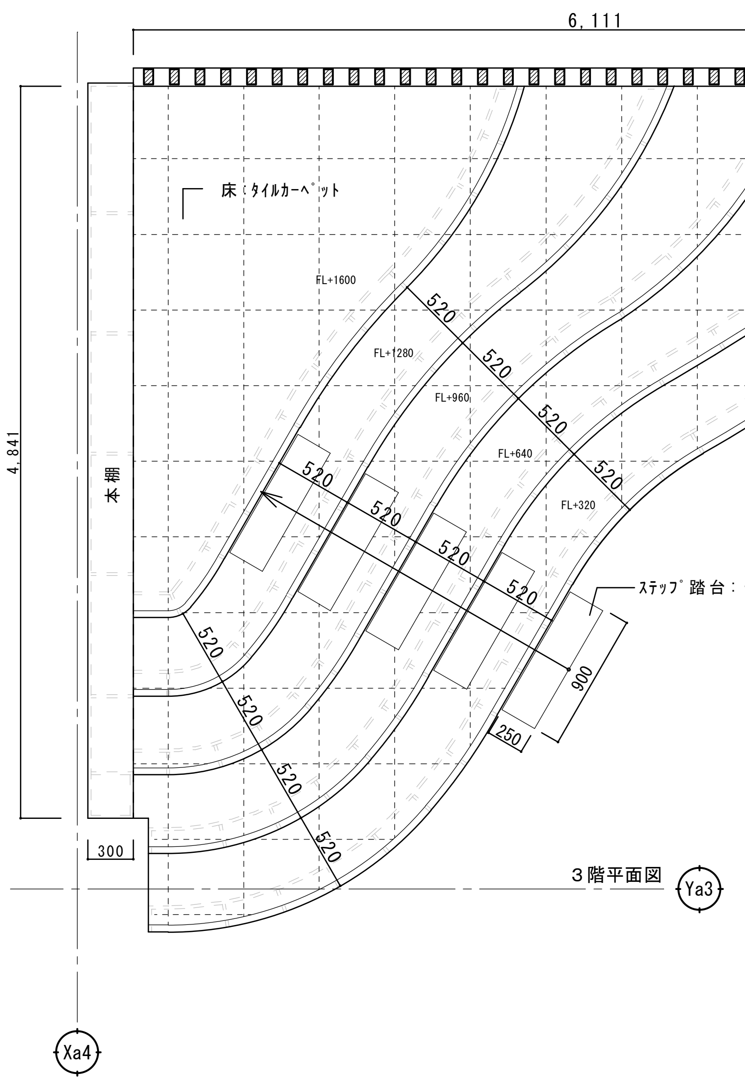
Ａ－３４　本の千枚田

A1:S=1/25
A3:S=1/50

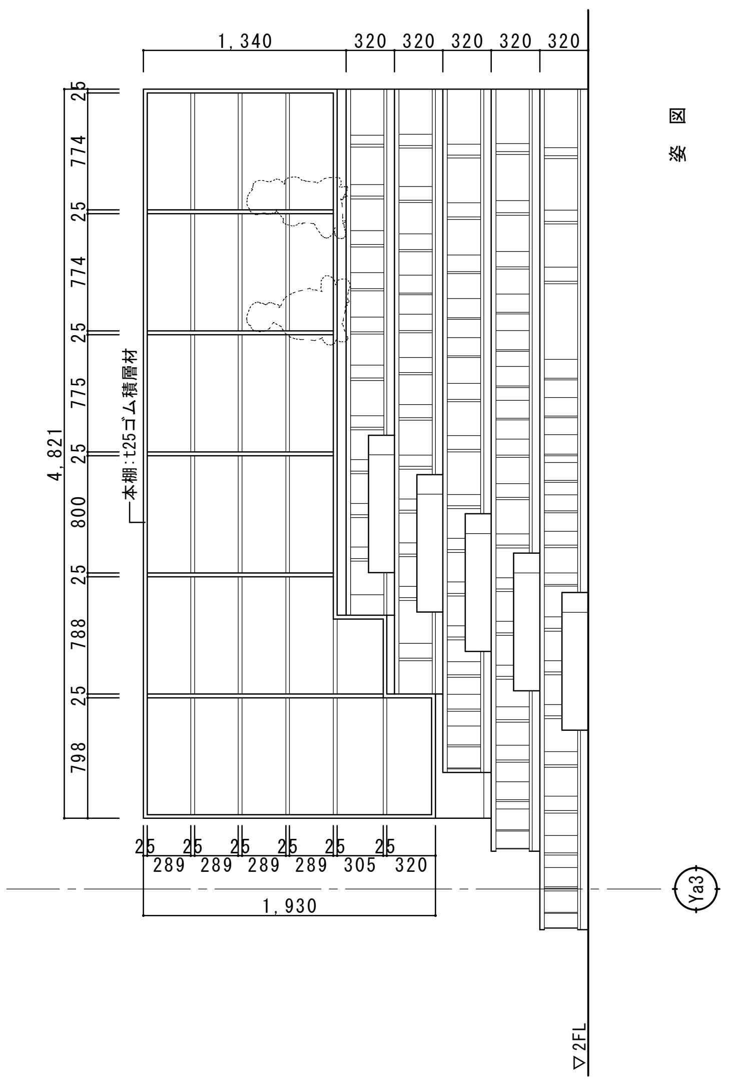


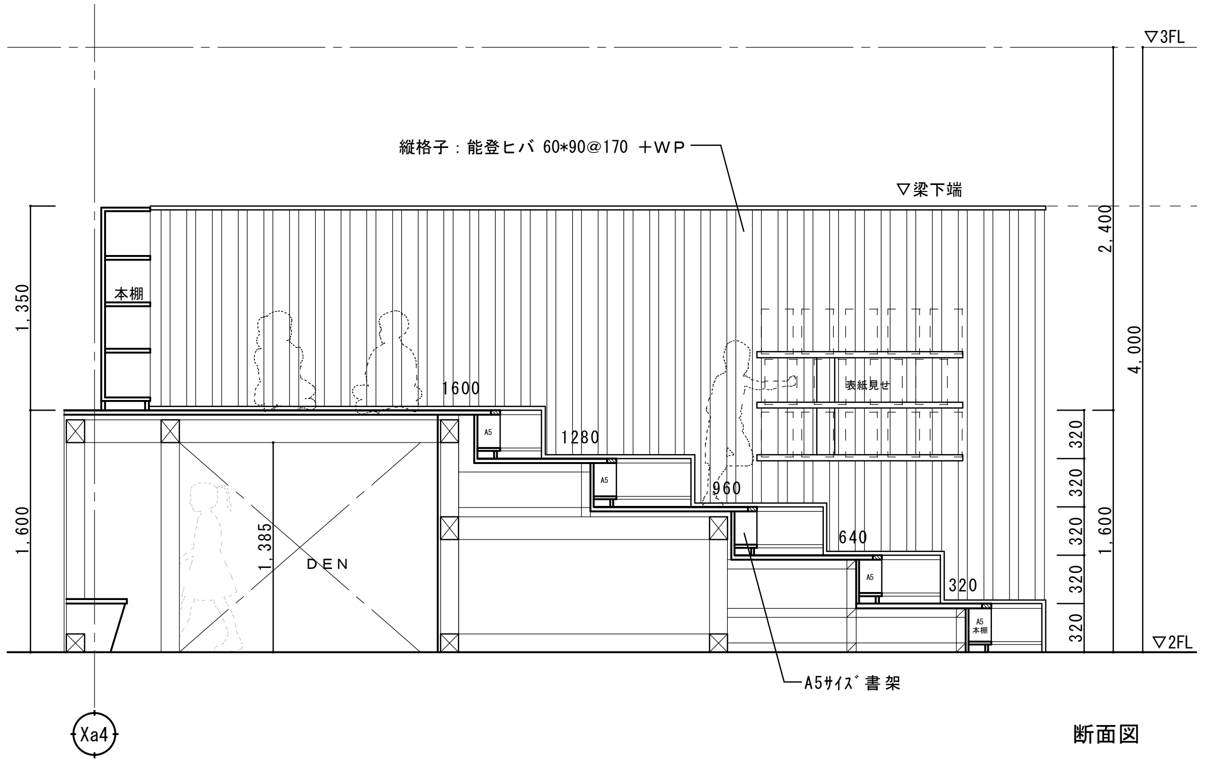
ベンチ部

２階平面図



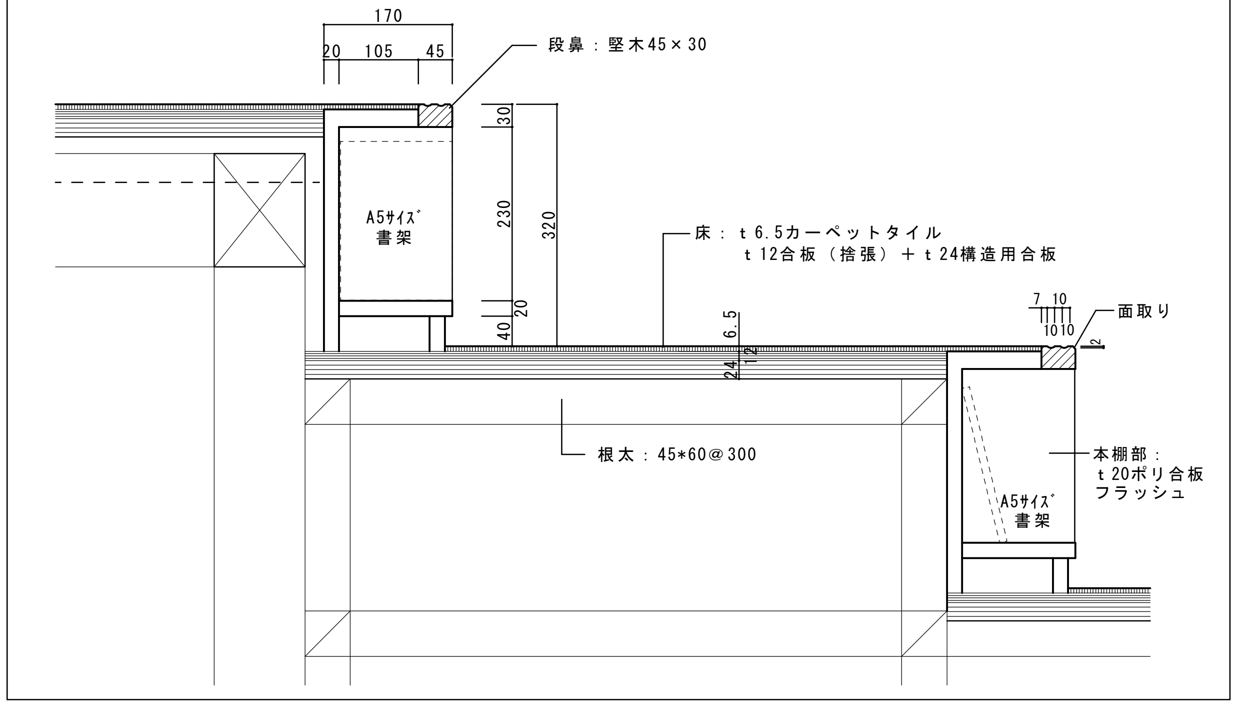
３階平面図





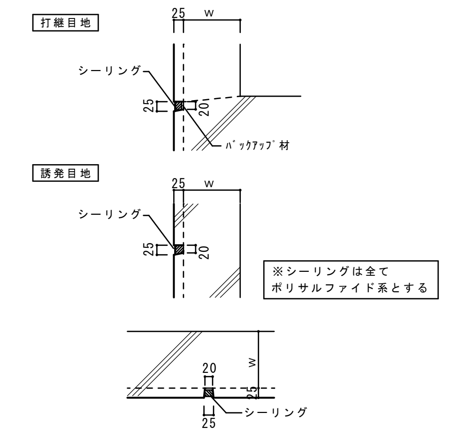
断面図

段差部 本棚　詳細　1/5

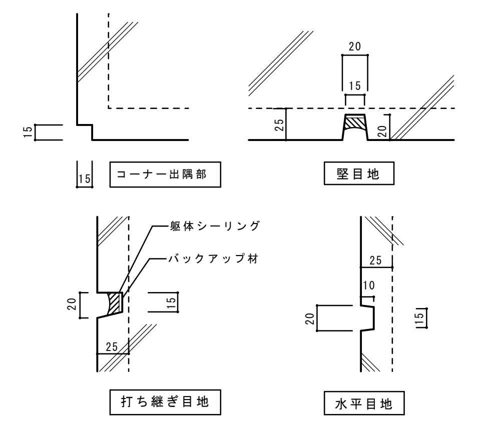


Ｂ－　外部標準詳細図

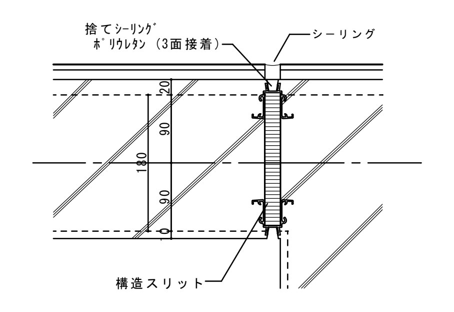
Ｂ－１　外壁目地　１：２０



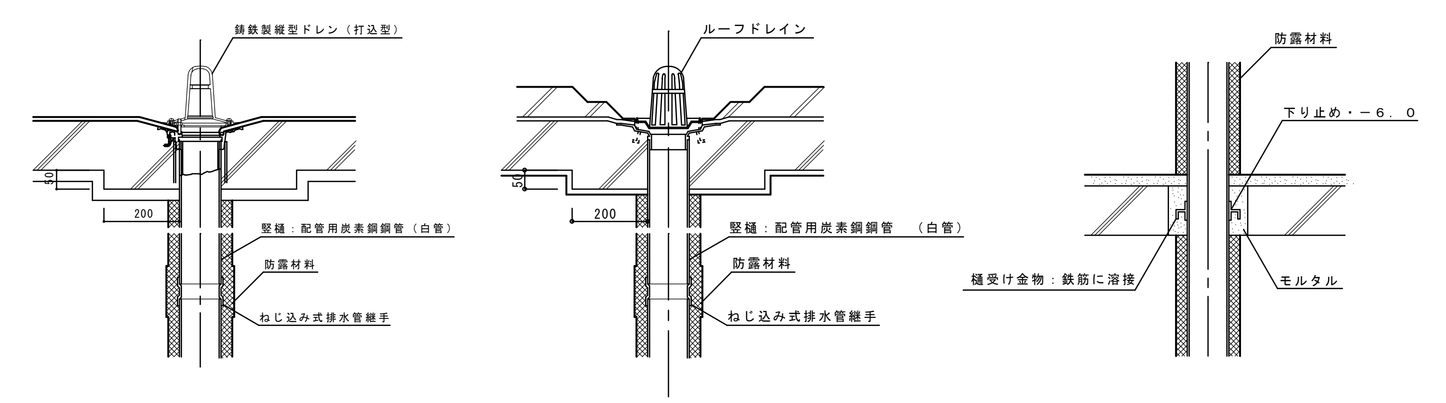
Ｂ－２　誘発目地　１：５



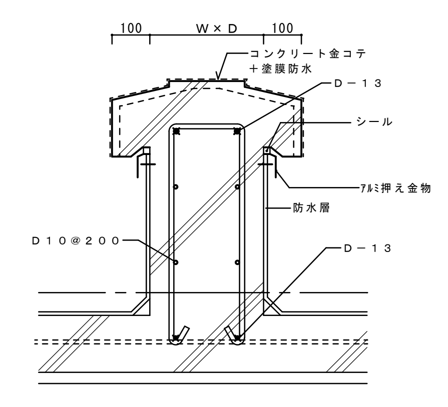
Ｂ－３　構造スリット　１：５



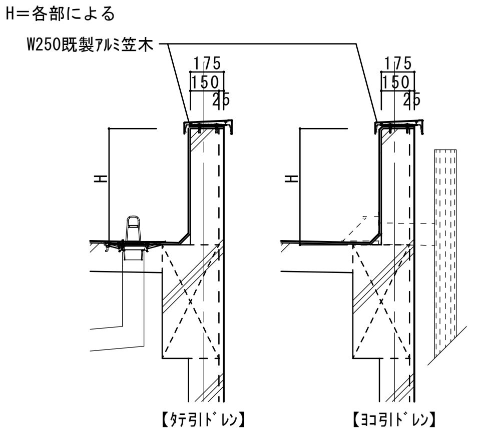
Ｂ－４　ルーフドレイン及び縦樋継手　１：１０



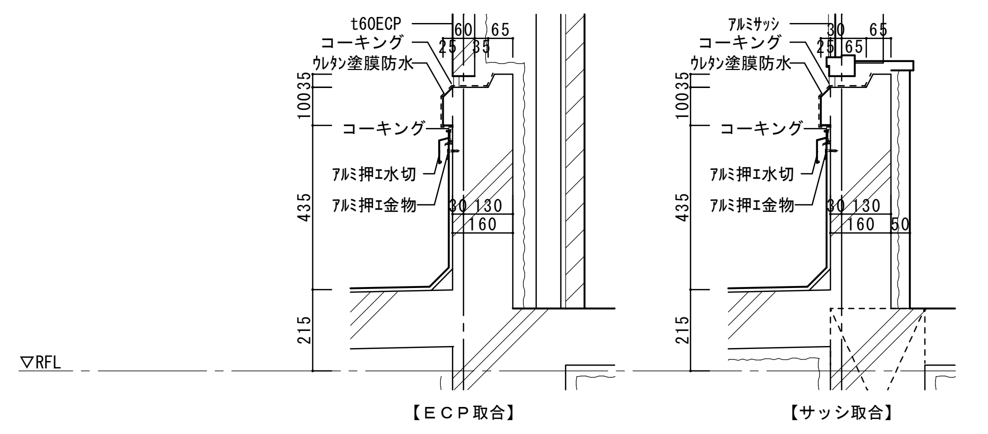
Ｂ－５　屋上　設備基礎　A1:S=1/10 A3:S=1/20



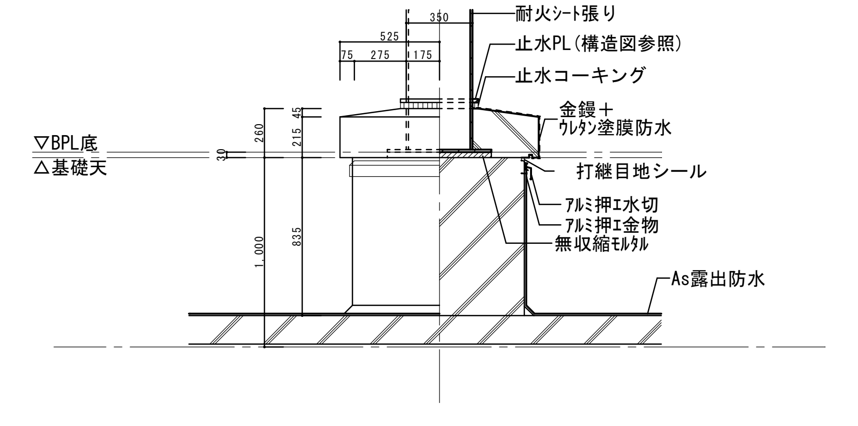
Ｂ－６　パラペット　A1:S=1/10 A3:S=1/20



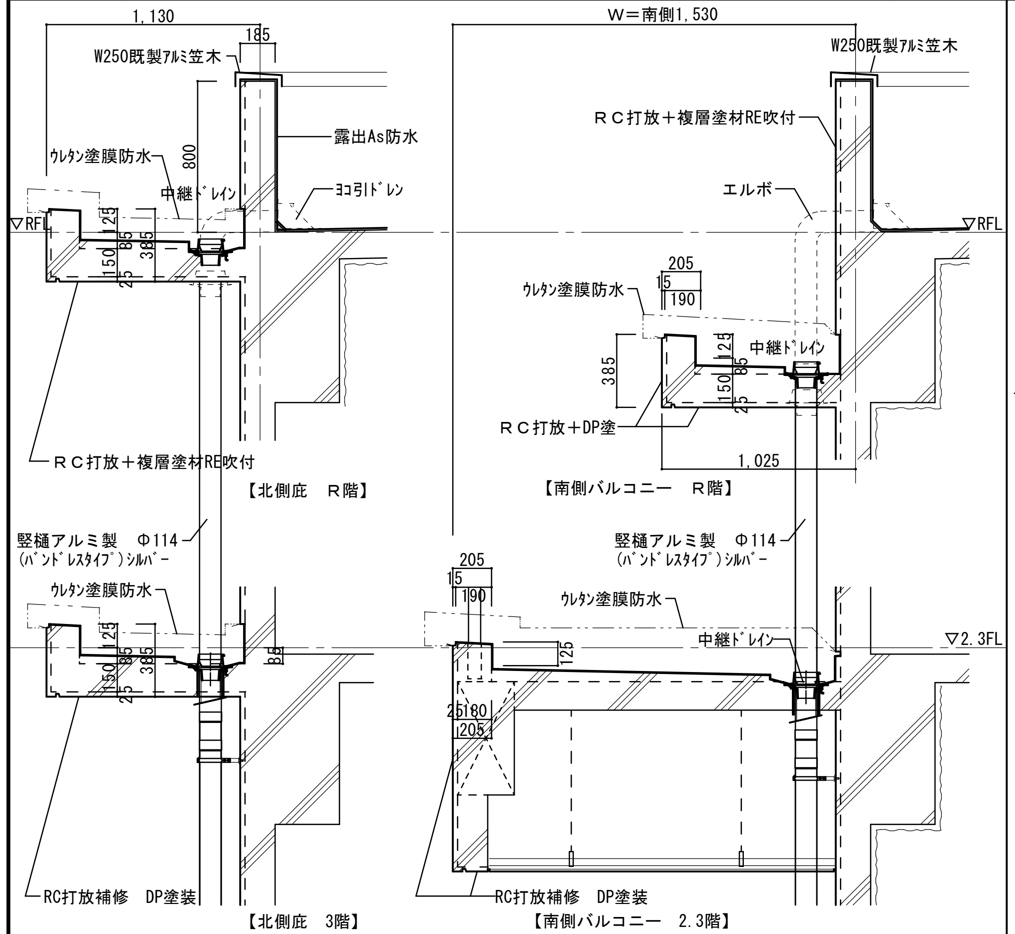
Ｂ－７　Ｒ階　As防水立上取合い　A1:S=1/10 A3:S=1/20



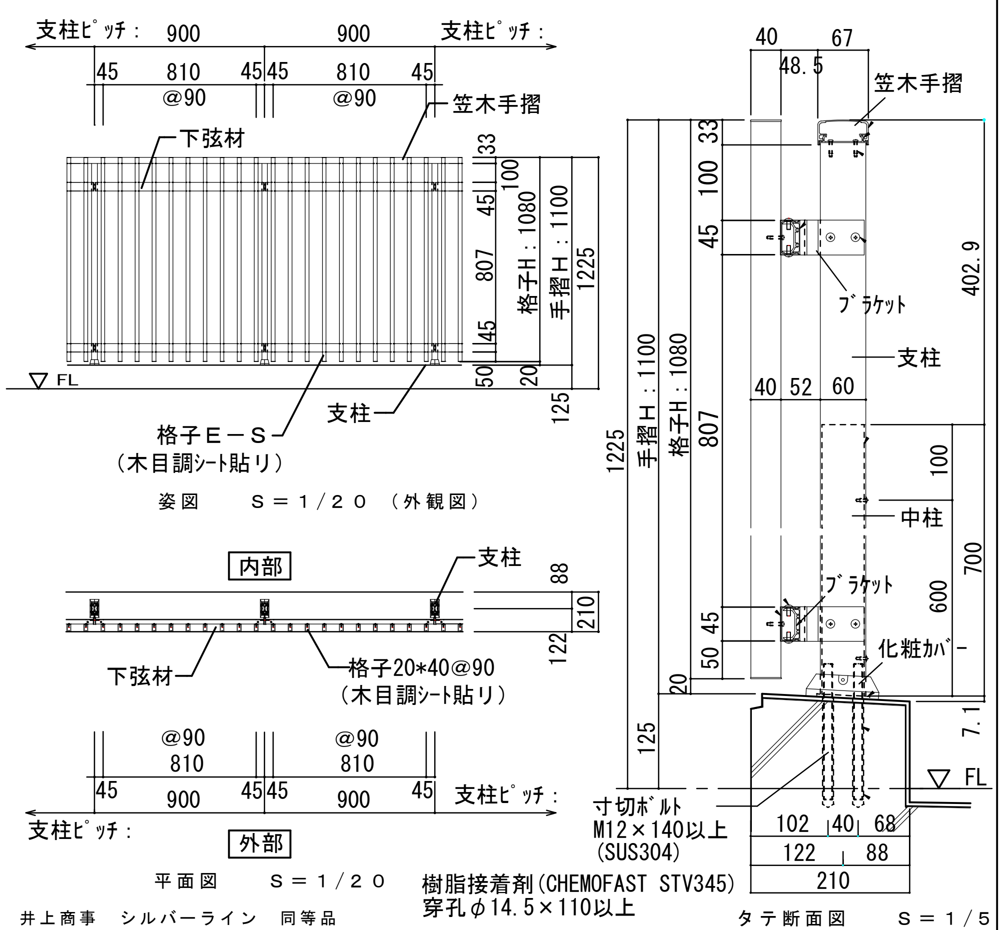
Ｂ－８　外部　鉄骨柱　柱脚　A1:S=1/20 A3:S=1/40



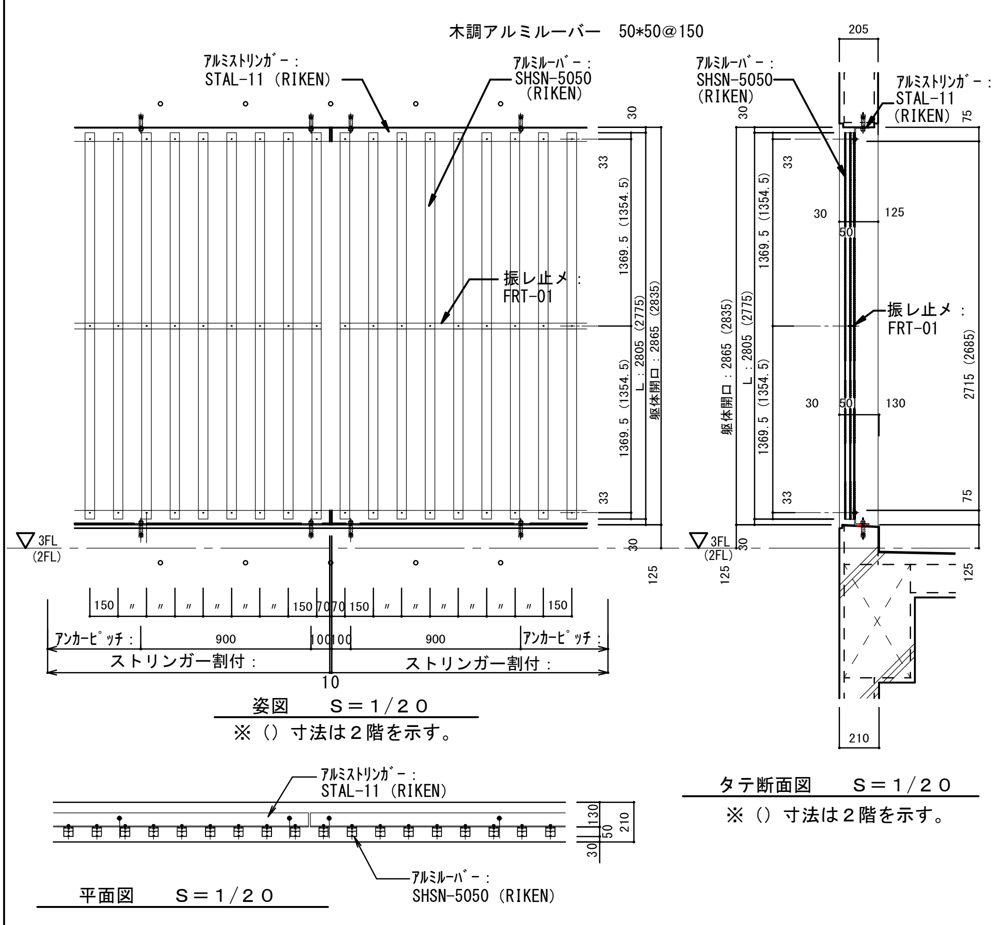
Ｂ－９　庇・バルコニー　詳細図　A1:S=1/20 A3:S=1/40



Ｂ－１０　外部手摺　詳細図　A1:S=1/20 A3:S=1/40



Ｂ－１１　外部格子　詳細図　A1:S=1/20 A3:S=1/40



JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（７）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ａ－f07

Ｂ－　外部標準詳細図

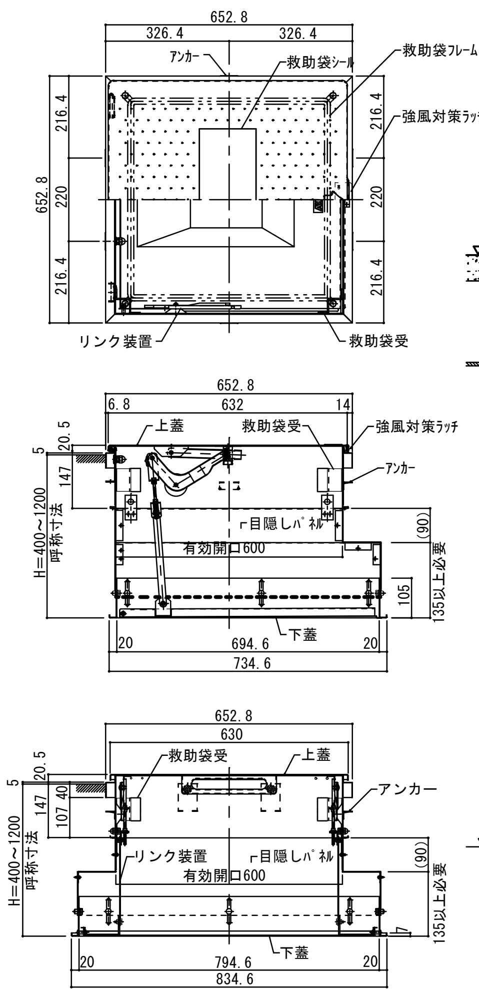
Ｃ－　建具詳細図

Ｂ－１２　垂直降下式救助袋

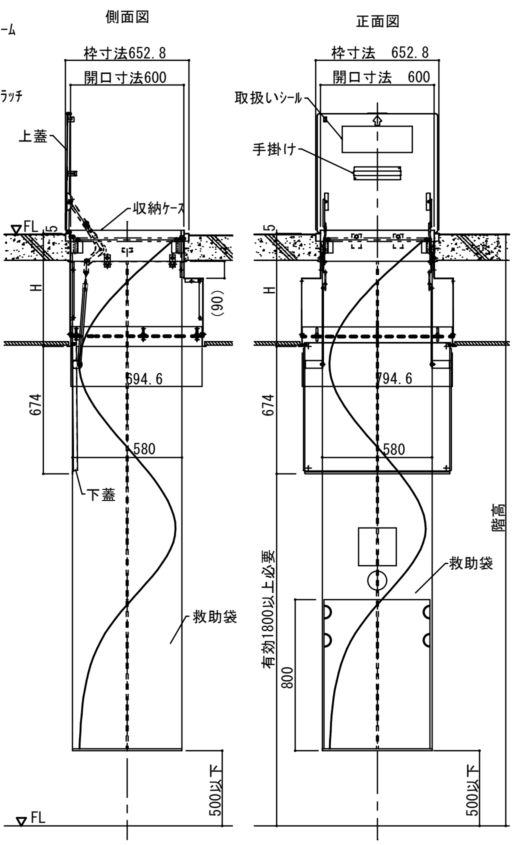
A1:S=1/20
A3:S=1/40

図は二重天井用 目隠しボックス付タイプ　を示す。

収納状態 S=1/10



展張状態 S=1/20



３階→２階	階高：4.0m　ＳＲＣタイプ　　２ヶ所 階高：4.0m　ＳＲＣＤタイプ　１ヶ所
２階→１階	階高：4.0m　ＳＲＣタイプ　　１ヶ所 階高：4.0m　ＳＲＣタイプ　　２ヶ所

仕　様　：

〈袋本体〉
- ●適応階高　ＳＲＣ図面参照
- ●材質　ポリエステル帆布

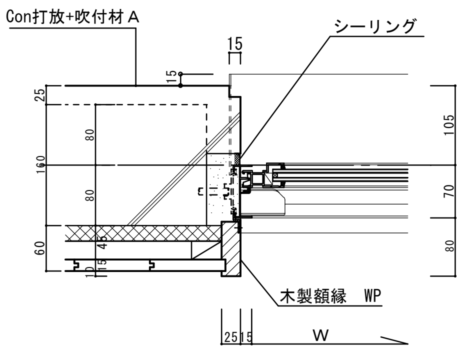
〈収納ケース〉
- ●外形寸法
  W652.8mm×L652.8mm×Hmm
  開口寸法
  600mm×600mm
- ●材質　ステンレスSUS304
  上蓋・ケース・下蓋・ラッチ

〈救助袋認定型式番号〉
（財）日本消防設備安全センター
ふＶ－００１－１号

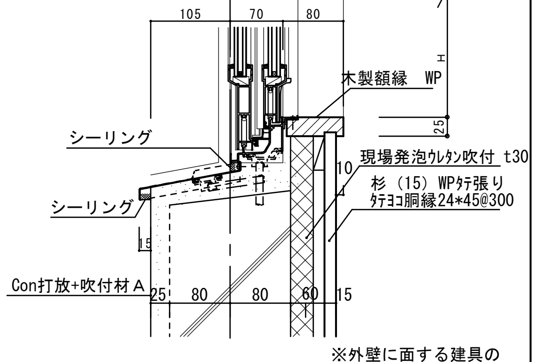
〈ケース認定番号〉
（社）全国避難設備工業会
Ｈｆ－０１３

ナカ工業株式会社　埋設式避難器具　ハッチ式垂直救助袋　ＳＲＣＤ型　同等品

Ｃ－１　アルミサッシ枠廻り（一般）



《腰壁　杉羽目板張り》

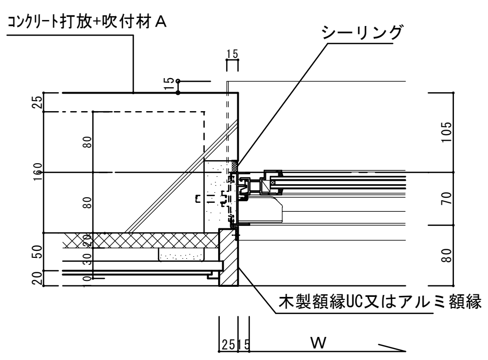


※外壁に面する建具の
周囲枠廻りはウレタン
充填を行う。

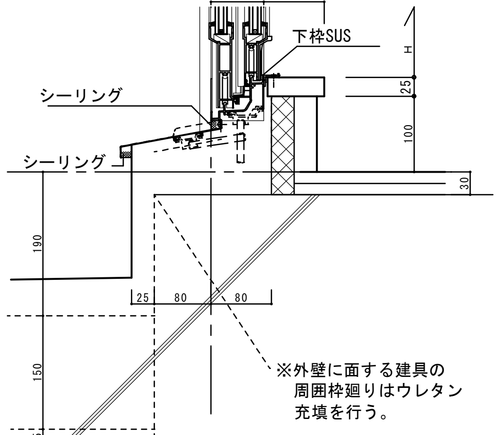
《腰壁　杉羽目板張り》

Ｃ－２　アルミサッシ枠廻り１（掃き出し部）

１：５



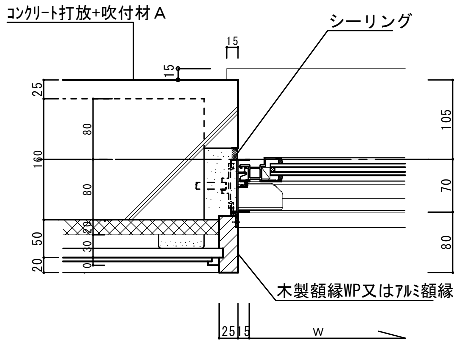
《上壁　掲示クロス壁》



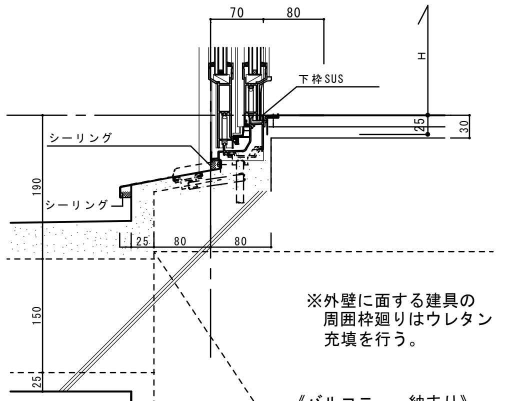
※外壁に面する建具の
周囲枠廻りはウレタン
充填を行う。

Ｃ－３　アルミサッシ枠廻り２（掃き出し部）

１：５



《上壁　掲示クロス壁》

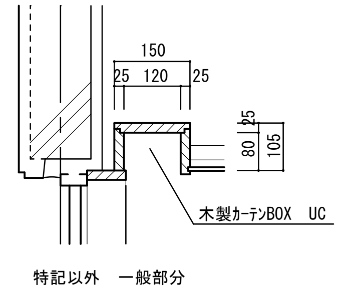


※外壁に面する建具の
周囲枠廻りはウレタン
充填を行う。

《バルコニー　納まり》

Ｃ－５　木製カーテンボックス

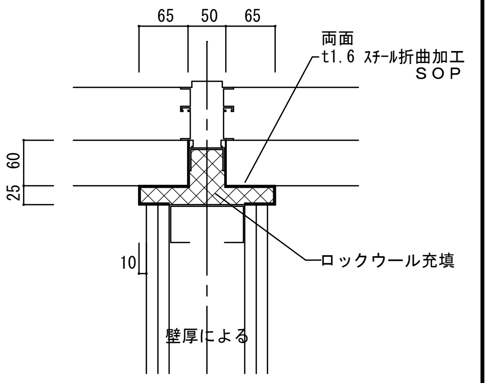
１：１０



特記以外　一般部分

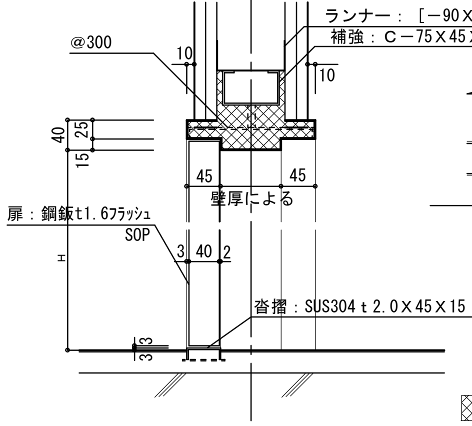
Ｃ－６　建具取合い枠

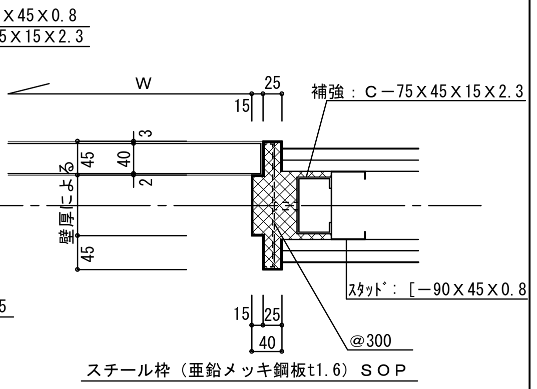
１：５



Ｃ－４　内部扉枠（ＬＳＧ壁）取合

１：５



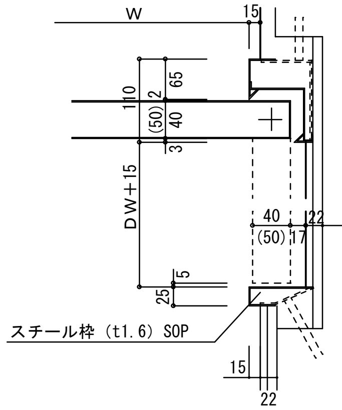


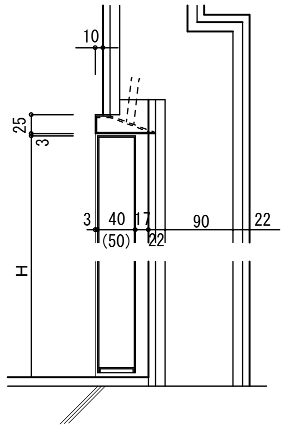
スチール枠（亜鉛メッキ鋼板t1.6）ＳＯＰ

▨：三方枠廻りは耐火壁、遮音壁の場合はﾛｯｸｳｰﾙ充填とする。

Ｃ－７　常時開放防火扉　取合

１：５

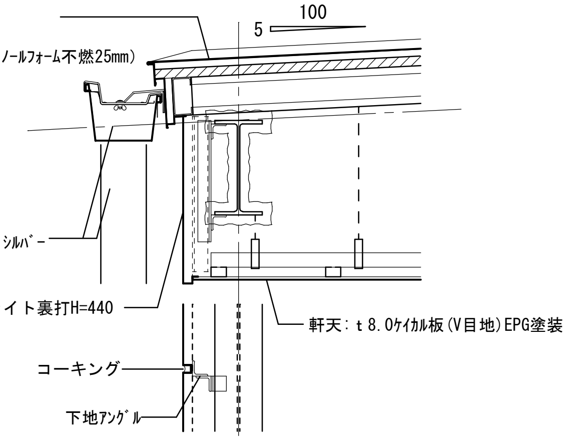




Ｂ－１３　金属屋根　軒先

A1:S=1/10
A3:S=1/20

屋根：ｔ0.5ﾊｲﾚﾀﾝSGL鋼板立平葺き(勘合式)@303+
ｔ1.0ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ++
ｔ43耐火野地板（ｾﾝﾁｭﾘｰﾎﾞｰﾄﾞ18mm+高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ不燃25mm)
母屋@303:C-100x50x20x2.3
雪止：Lｱﾝｸﾞﾙ亜鉛ﾒｯｷ



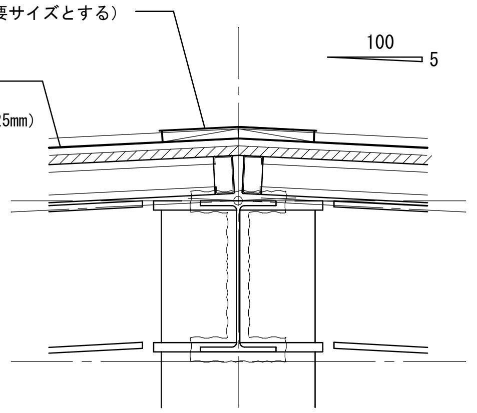
100
5
軒樋：アルミ製１２型
竪樋：アルミ製　Φ114(ﾊﾞﾝﾄﾞﾚｽﾀｲﾌﾟ)ｼﾙﾊﾞｰ
幕板：ｔ2.0ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ(ｼﾙﾊﾞｰ)＋ｔ4.0グライト裏打H=440
下部水抜加工（下地ｱﾝｸﾞﾙ）
軒天：ｔ8.0ｹｲｶﾙ板(V目地)EPG塗装
コーキング
下地ｱﾝｸﾞﾙ

Ｂ－１４　金属屋根　棟

A1:S=1/10
A3:S=1/20

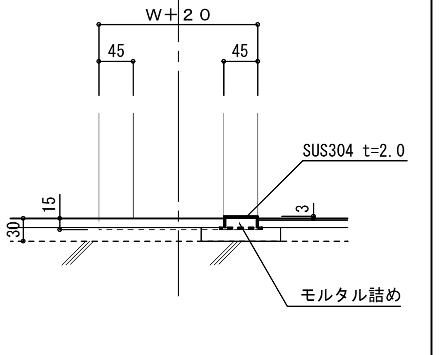
棟包：屋根同材(水勾配での必要サイズとする)

屋根：ｔ0.5ﾊｲﾚﾀﾝSGL鋼板立平葺き(勘合式)@303+
ｔ1.0ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ++
ｔ43耐火野地板（ｾﾝﾁｭﾘｰﾎﾞｰﾄﾞ18mm+高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ不燃25mm)
母屋@303:C-100x50x20x2.3
雪止：Lｱﾝｸﾞﾙ亜鉛ﾒｯｷ



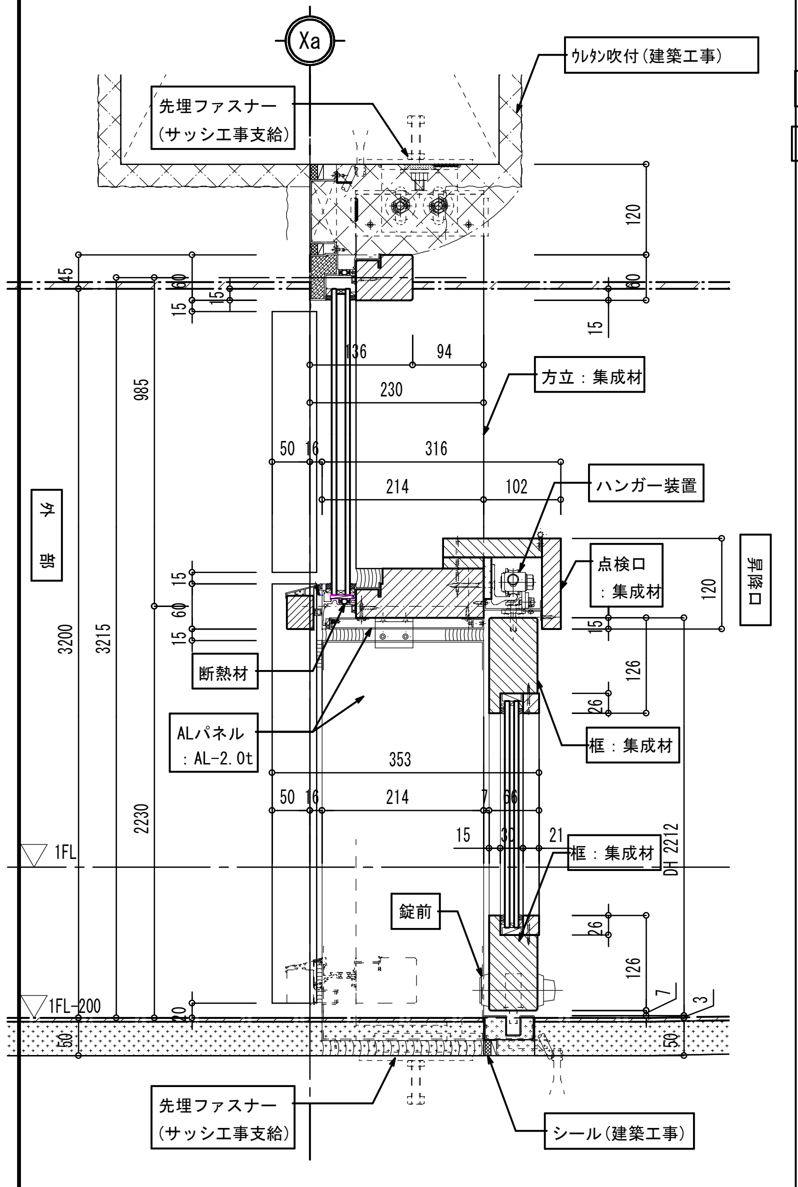
Ｃ－８　沓摺

１：５

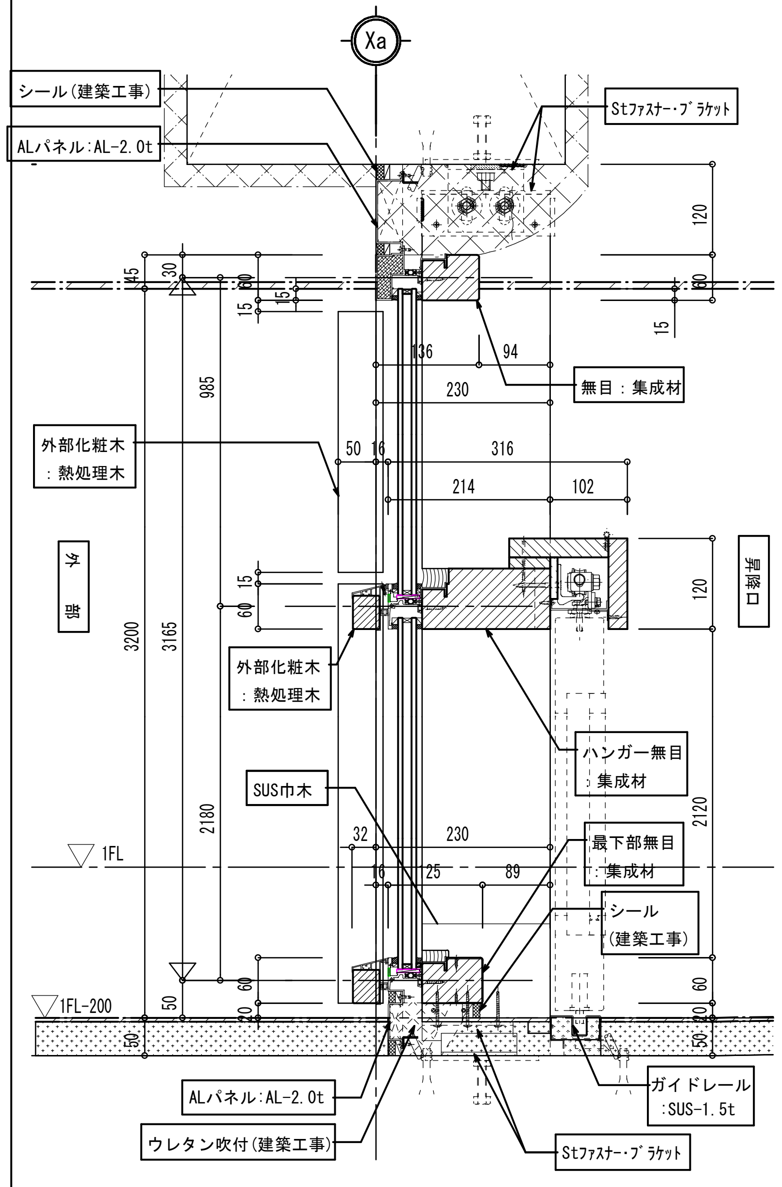


JOB NO.
125280
2026　年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　部分詳細図（８）
縮尺　A1:-　A3:-
図番　Ａ－f08

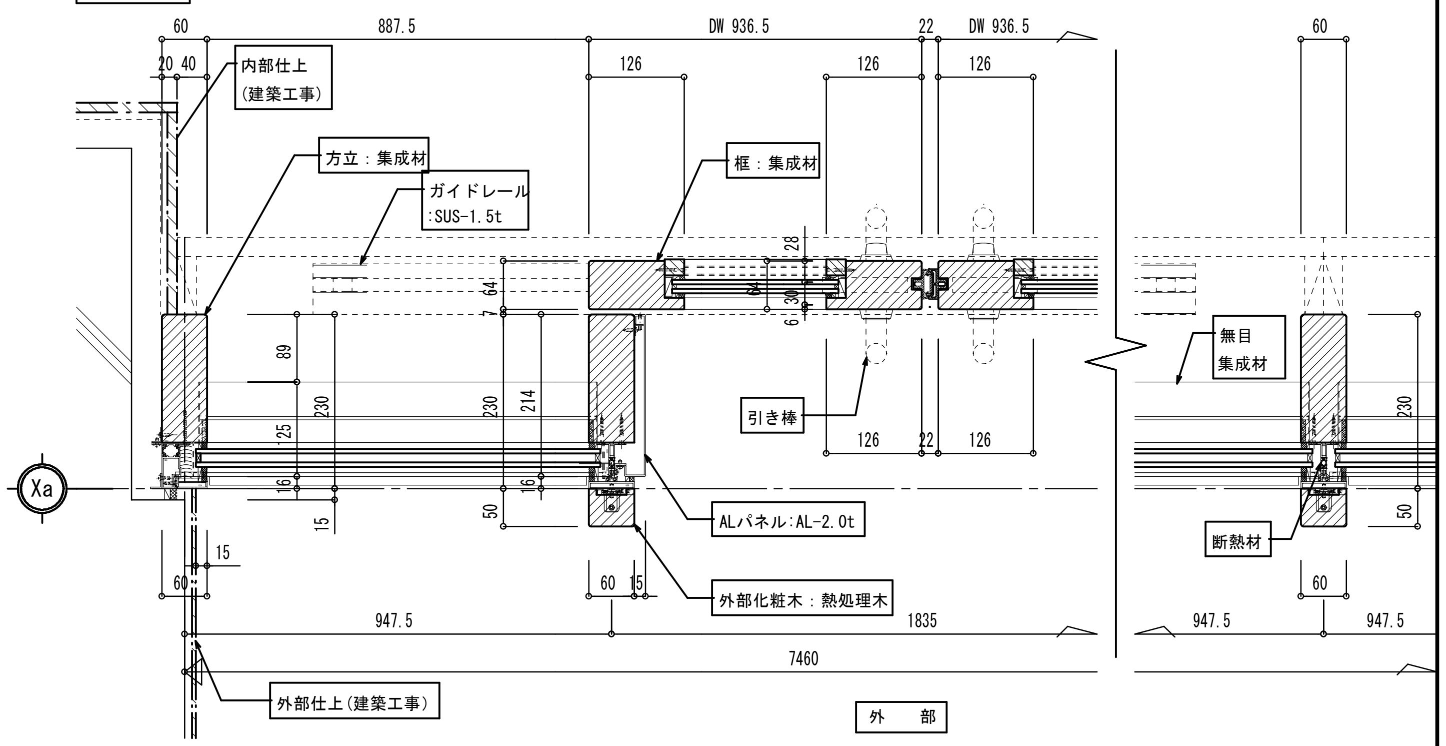
A sec　S=1/5



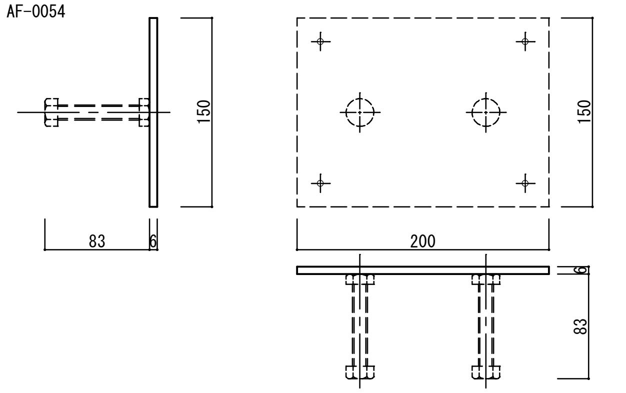
B sec　S=1/5



C sec　S=1/5

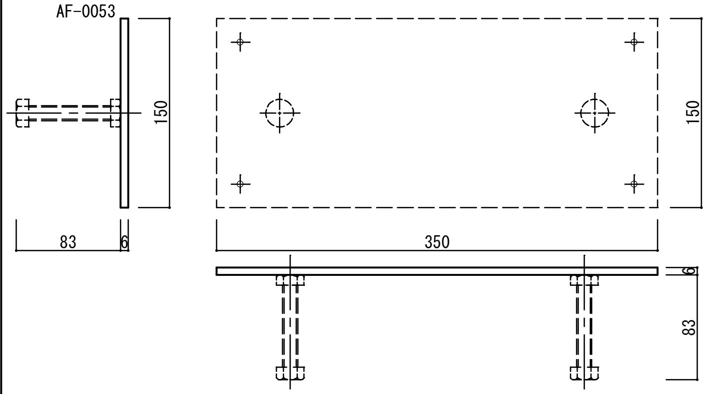


①ファスナー詳細　ＳｔＰＬ－200×150×ｔ6.0ｔ
AF-0054



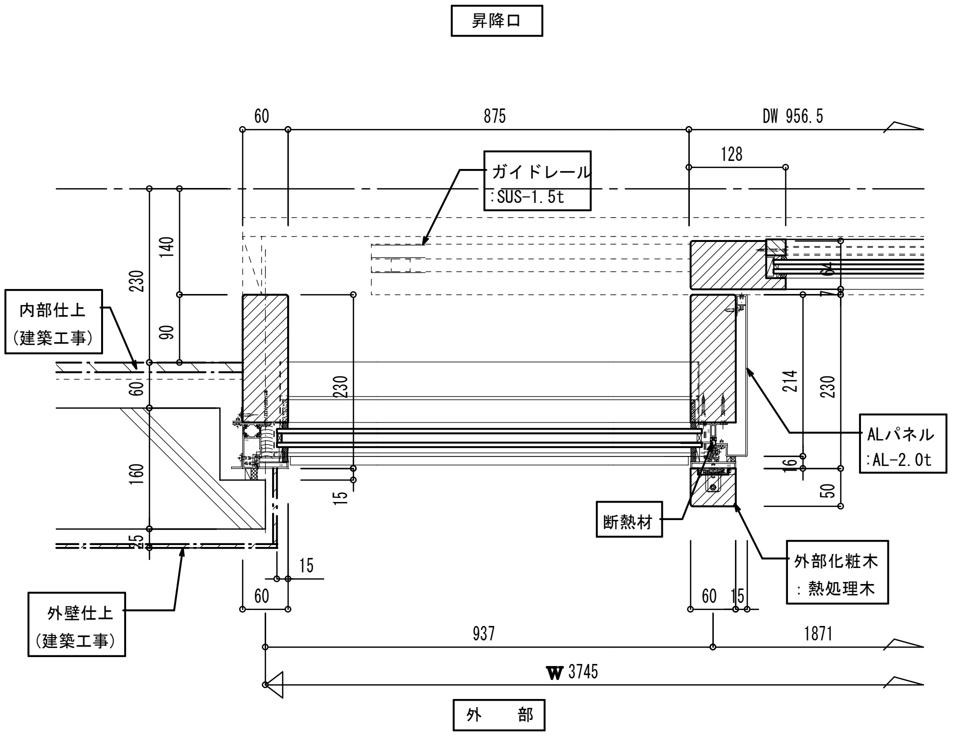
３２カ所（校舎棟26カ所、屋内運動場棟6カ所）

②ファスナー詳細　ＳｔＰＬ－350×150×ｔ6.0ｔ
AF-0053

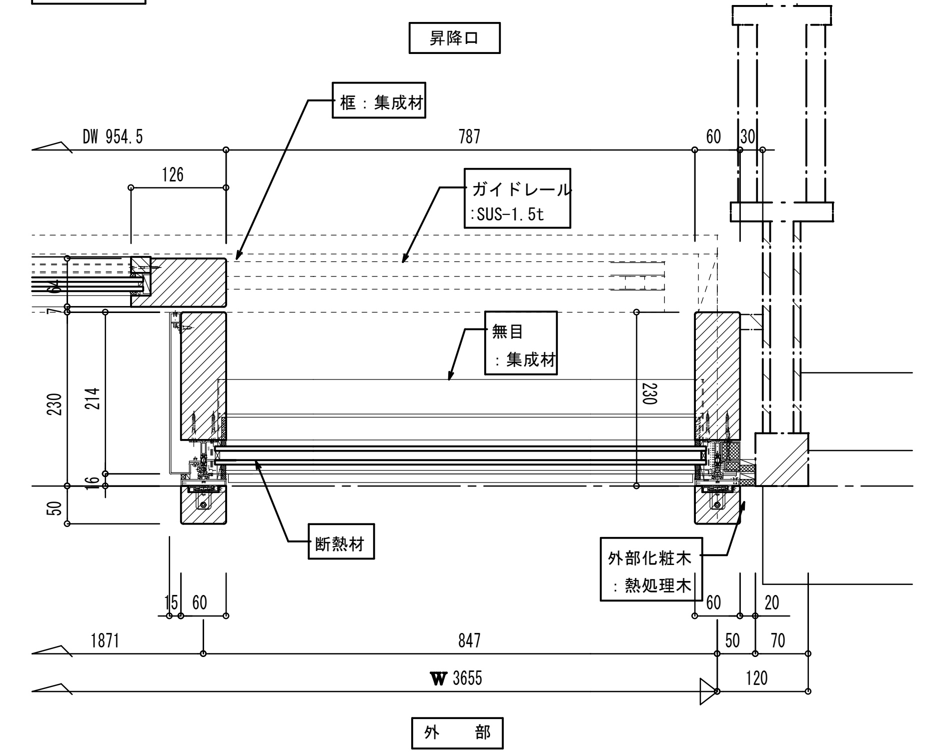


４カ所（校舎棟3カ所、屋内運動場棟1カ所）

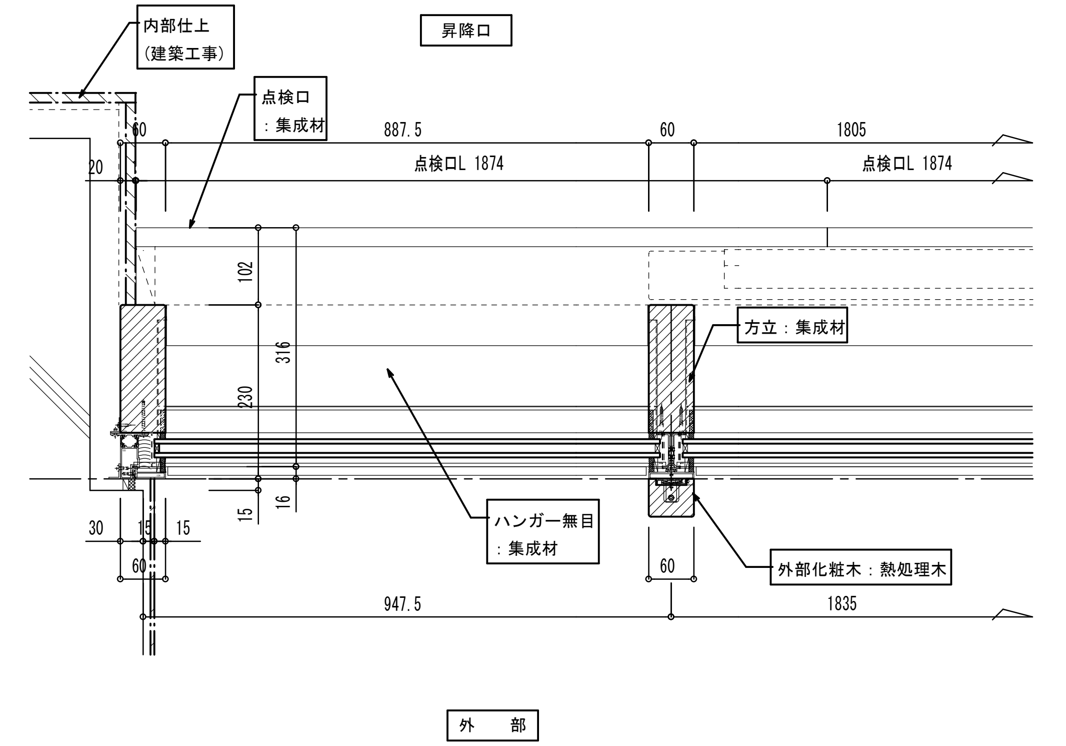
D sec　S=1/5



E sec　S=1/5

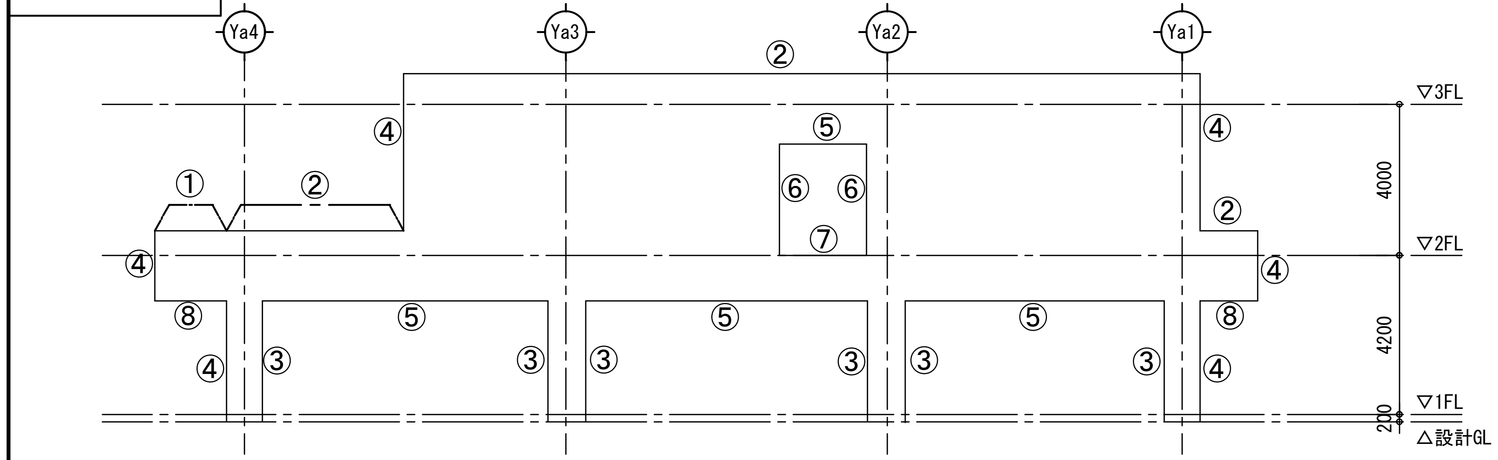


F sec　S=1/5



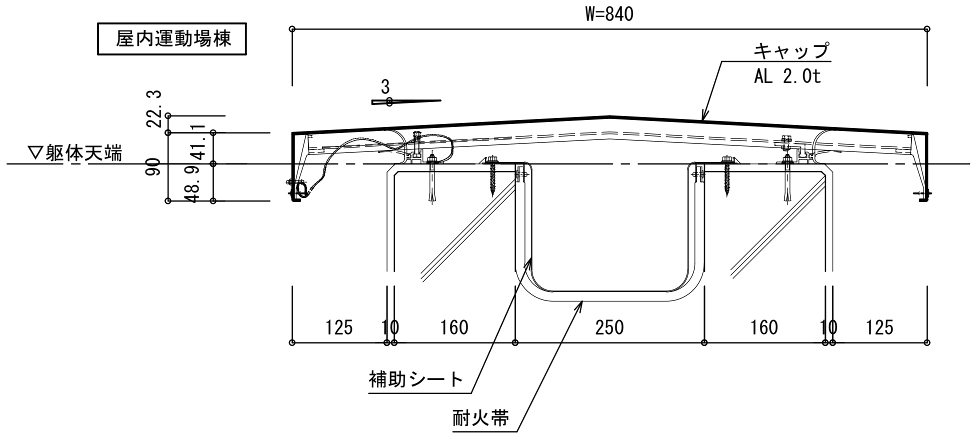
JOB NO.	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	木・アルミ複合サッシ詳細図	縮尺	A1：1/ 5 A3：1/10	図番	A －f09 B －f07
125280											

KeyPLAN



① 屋根 - 屋根(耐火仕様)12.5mm

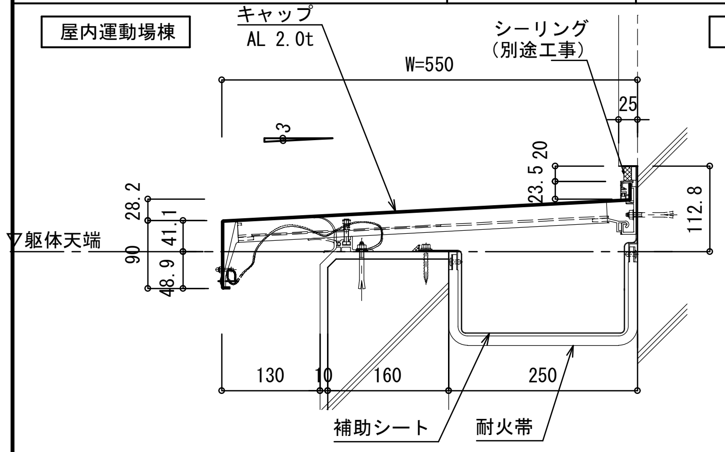
種別： アルミ
色：シルバー
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+フリー −フリー
Z	+30mm −30mm

② 屋根コーナー(耐火仕様)12.5mm

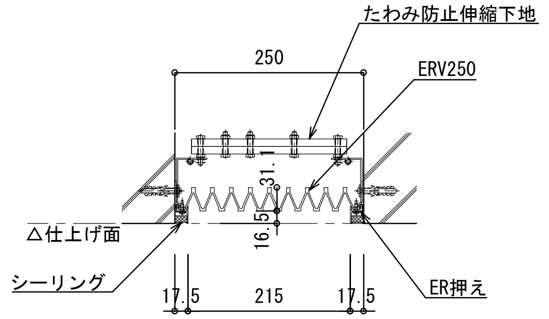
種別： アルミ
色：シルバー
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+フリー −フリー
Z	+30mm −30mm

③ 内壁 - 内壁

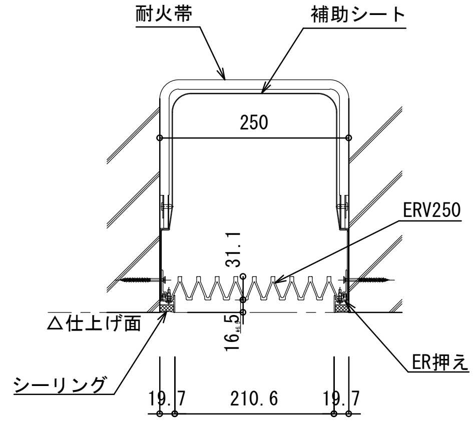
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+125mm −125mm
Z	+125mm −125mm

④ 外壁 - 外壁(耐火仕様)12.5mm

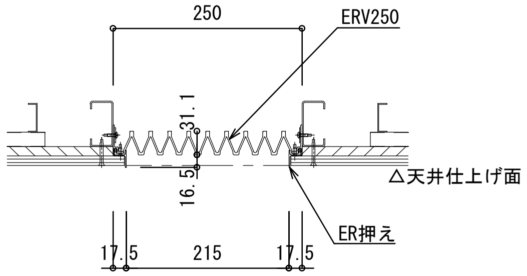
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+125mm −125mm
Z	+125mm −125mm

⑤ 天井 - 天井

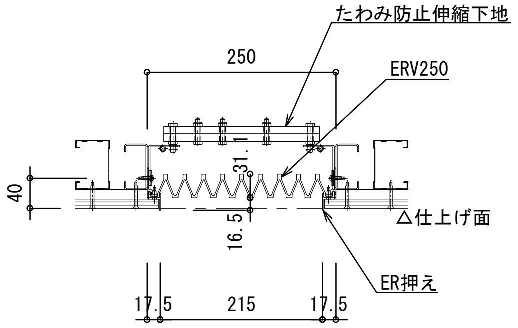
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+125mm −125mm
Z	+125mm −125mm

⑥ 内壁 - 内壁 (ボード貼り)

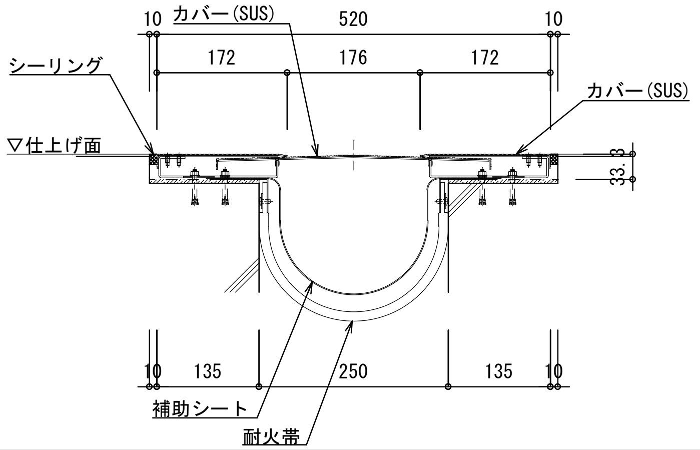
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+125mm −125mm
Z	+125mm −125mm

⑦ 床 - 床(耐火仕様)12.5mm

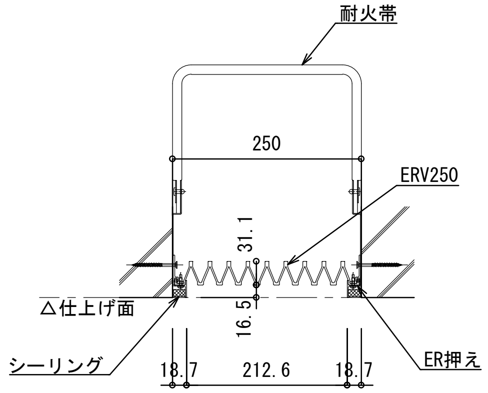
種別： ステンレス
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	+141mm -92mm
Y	+フリー −フリー
Z	+20mm −20mm

⑧ 天井 - 天井(耐火仕様)12.5mm

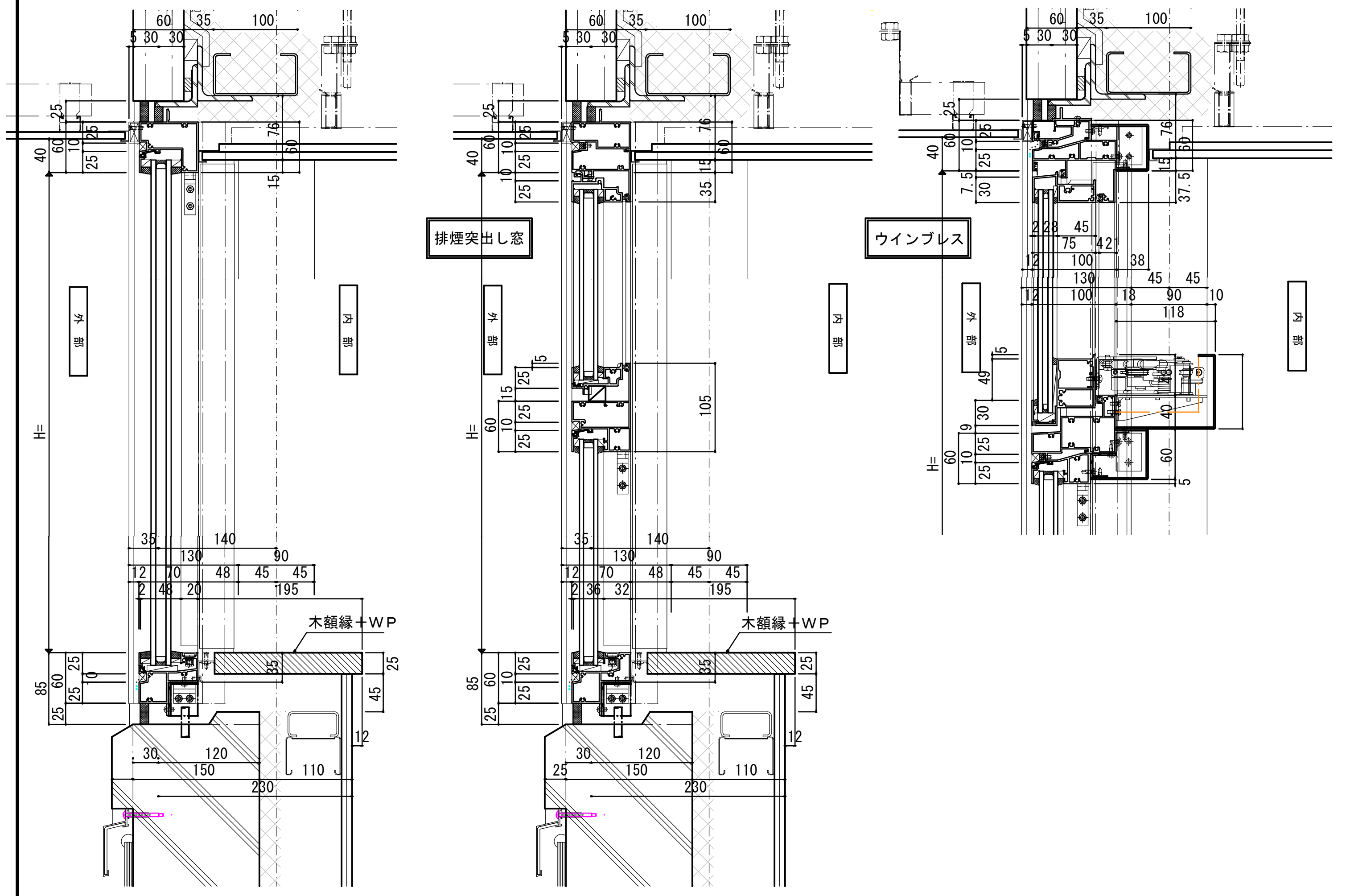
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



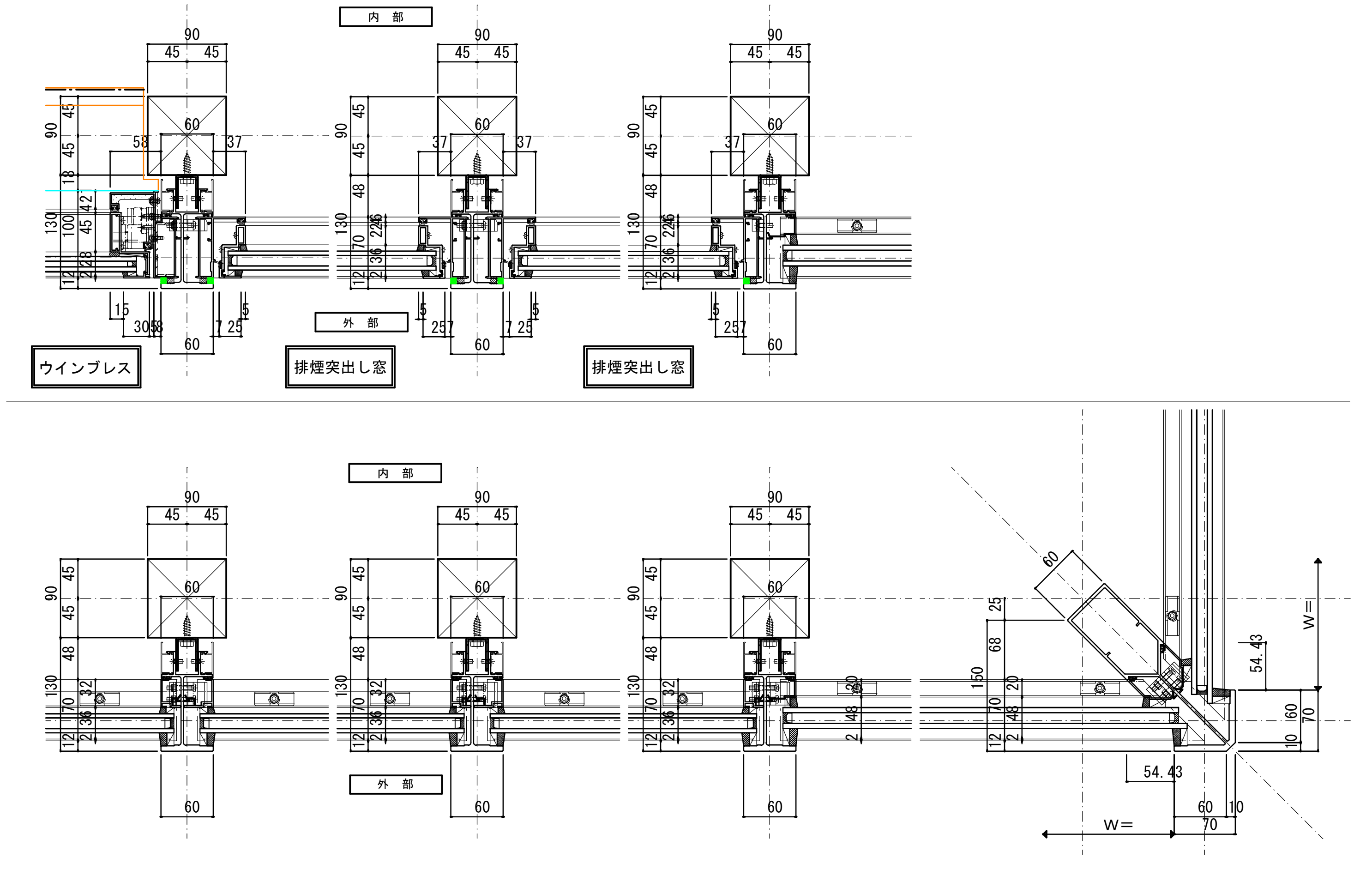
可動図	可動量
X	+125mm −125mm
Y	+125mm −125mm
Z	+125mm −125mm

校舎棟工事とする

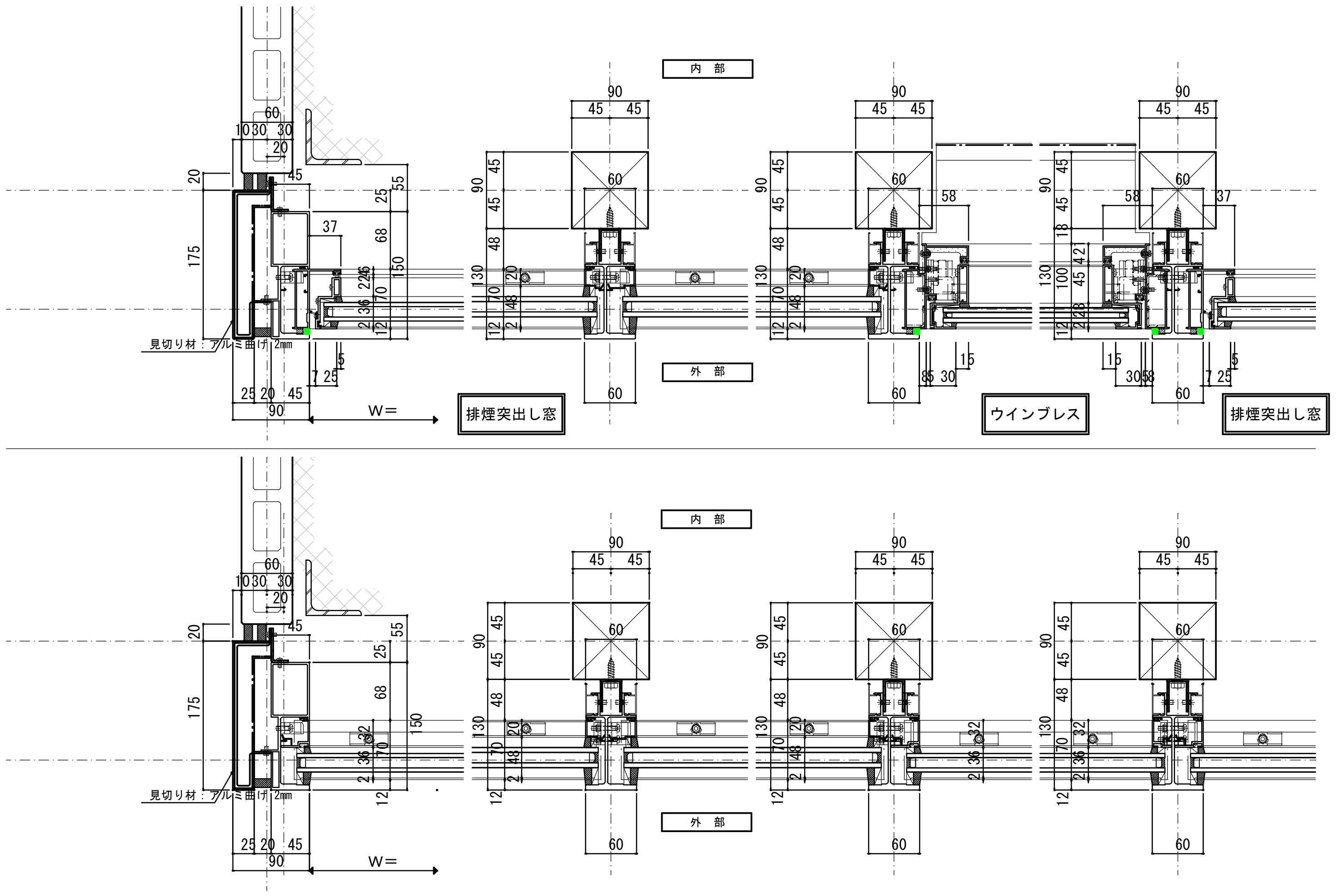
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所	株式会社浦建築研究所	一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	ＥＸＰ．Ｊ詳細図	縮尺	A1：1/ 5 A3：1/10	図番	A −f10 B −f08



不二サッシ　ＳＲ－ＧＡＲＥＬＩＡ／ウインプレス 同等品



不二サッシ　ＳＲ－ＧＡＲＥＬＩＡ／ウインプレス 同等品



不二サッシ　ＳＲ－ＧＡＲＥＬＩＡ／ウインプレス 同等品

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	AW－10詳細図	縮尺	A1：1／4 A3：1／8	図番	A －f11

注 意 事 項

1	躯体と昇降機承諾図に相違がある場合はエレベーター着工までに躯体を是正すること
2	(1)昇降路の壁又は囲いは隙間無きものとすること (2)昇降路の壁又は囲いは難燃材料（不燃材料・準不燃材料含む）とすること (3)昇降路の壁又は囲いは 5c㎡辺り300N の外力が作用した時に15㎜ を超える変形及び塑性変形が生じない構造とすること (4)コンクリート厚さは 150㎜ 以上とすること (5)コンクリート基準圧縮強度は 21N/㎜^{2} 以上 48N/㎜^{2} 以下とし、48N/㎜^{2} を超える場合は都度対応協議のこと (6)昇降路壁は後施工アンカーが可能な構造とすること
3	昇降路内にはエレベーターに関係のない配管・配線・ダクト・その他の機器を設置しないこと
4	昇降路壁には配管・消火栓等を埋め込まないこと
5	昇降路内には建築金物（ ALC クリップ等）が突出しないこと
6	昇降路内に断熱材（ウレタン・スタイロフォーム等）を施工する場合は溶接火花による火災のおそれがあるため難燃材料とすること
7	断熱材はガイドレール支持用ファスナー及び乗場出入口廻りの取付材を避けて施工すること
8	断熱材の施工時期は協議すること
9	昇降路内の温度は 5℃以上 40℃以下、湿度は月平均 90％以下、日平均 95％以下とし、氷結・結露しないこと
10	昇降路内及び乗場には風雨・塵埃・塩分・有害ガス等が入らないこと
11	昇降路内に換気設備を設置する場合は外部より点検可能な配置とし、雨水対策を実施すること
12	昇降路内の騒音・振動が居室に伝搬しない配置及び躯体構造 (防音・防振工事等)とすること
13	エレベーターホールと風除室が近い場合はドラフトによりエレベーターの戸が開閉できなくなるおそれがあるため建物側で気密性を上げること
14	保守・点検・緊急対応のため、外部より最上階のエレベーターホールへアクセスできる通路を設けること また、個人宅や占有部、鍵が必要な場所を経由する必要がないこと
15	電源電圧の変動は動力用 ±10％以内、照明用 ±5％以内とし、動力用の電圧不平衡率を5%以内とすること
16	高調波障害回避のため、以下の対応を推奨します (1)弱電機器の電源線・通信線はエレベーター動力線から 1m 以上分離すること (2)エレベーター動力用電源トランスは弱電機器のトランスと独立して設けること (3)弱電機器とのアース線共用は避けること (4)エレベーター動力線は弱電機器近くの床下や天井に設置しないこと (5)漏電遮断器・漏電継電器を設置する場合、不要動作防止のためインバータ対応のものを使用すること
17	搬入に支障のない経路を確保すること
18	据付工事用現場詰所及びエレベーター材料・据付工事用機材の保管場所を無償提供願います
19	仮設揚重機・重機 (ラフタークレーン、タワークレーン等)・搬入運搬用台車を無償貸与願います
20	据付工事用電源及び試運転調整時の動力電源を無償提供願います（容量は別途打ち合わせ）
21	必要に応じてモルタルを無償提供願います
22	エレベーターを工事用として使用する場合はこの使用に伴う検査費用・復旧（オーバーホール消耗部品の交換等）費用・定期保守費用・コールバック対応費用等が生じます
23	エレベーターを工事用として使用する場合、電力会社から供給される電源を使用願います 工事用発電機による工事用使用は電源電圧が不安定なため、内部基板への悪影響を引き起こす可能性が高いことから使用しないこと
24	かご内へ一度に搬入可能な積載は 4輪台車で積込み荷重制限（台車含む）以下とすること

工 事 区 分 表

分類	No.	工事項目	昇降路構造		建築			
			RC	S	建築	電気	設備	昇降機
昇降路	1	昇降路の築造工事及び躯体・オーバーヘッド・ピット寸法が昇降機承諾図と異なる場合の是正工事 オーバーヘッド：昇降機承諾図寸法に対し 20㎜ 以上低い場合（ただし、必要寸法を確保のこと） ピット：昇降機承諾図寸法に対し浅い場合又は 30㎜ 以上深い場合（防水面から確保のこと）	○	○	○			
	2	天井フック又はトロリービーム設置工事（荷重に対し安全率 5を確保のこと） （オーバーヘッド高さが 4000㎜ を超える場合、トロリービーム設置は必須のこと）	○	○	○			
	3	中間ビーム・セパレータビーム設置・インサート埋め込み工事	○	○	○			
	4	ガイドレール支持用ファスナー及び立柱設置・インサート埋め込み工事	○	○	○			
	5	溶接レスの場合のガイドレール支持用ファスナー及び立柱・三方枠取付用アングルへの穴加工	○	○	○			
	6	フェッシャープレート取付材設置工事（フェッシャープレート本体は昇降機工事）		○	○			
	7	昇降路内鉄骨材の耐火処理工事		○	○			
	8	ピット内防水工事	○	○	○			
	9	ピット下を使用する場合の二重スラブ、釣合おもり側の直下部厚壁等の建築躯体処置工事	○	○	○			
	10	併設されたエレベーターのピットに段差がある場合の間仕切り工事	○	○	○			
	11	急行ゾーンがある場合の昇降路救出口設置工事	○	○	○			
	12	昇降路内建築工事仮設床用（水平養生）の金網、デッキプレート等の撤去工事	○	○	○			
	13	昇降機承諾図に記載のない突出物や不要物の撤去切断等工事	○	○	○			
	14	昇降路内温度が 40℃を超える場合の換気設備工事又は空調設備工事	○	○			○	
乗場	1	乗場出入口の敷居取付用欠き込み・敷居受け持ち出し工事及び敷居取付後のモルタル充填工事	○	○	○			
	2	乗場出入口壁穴あけ・乗場出入口用品取付材設置工事及びインサート埋め込み工事 （三方枠・バックアングル・ドア・敷居・押しボタン・インジケータ・モニター等）	○	○	○			
	3	乗場出入口用品取付後の壁並びに床・天井等の仕上工事	○	○	○			
	4	三方枠・インジケータ等と壁間のモルタル又はロックウール充填工事	○	○	○			
	5	三方枠・インジケータ等と壁間の塞ぎ板による隙間塞ぎ工事	○	○				○
	6	開放廊下及び屋上等直接外気と接する乗場における雨水対策工事 （排水溝・水勾配・庇等）	○	○	○			
電気	1	昇降路頂部の煙感知器設備の設置工事（外部より点検可能な点検口の設置を含む）	○	○		○		
	2	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事 （昇降機工事による押しボタン・警報盤等の配線工事は除く）	○	○		○		
	3	昇降路内受電端子までの動力用電源・照明用電源・接地線の引込・立上工事及び一次側端子への接続工事	○	○		○		
	4	昇降路内受電端子までのインターホン・その他機器の配管配線工事並びに引込・立上工事 （放送・遠隔監視・防犯カメラ・故障信号・非常呼信号・火災信号・セキュリティ連動信号・監視盤等）	○	○		○		
	5	遮煙のりばドア適用時の建屋火災信号の供給	○	○		○		
	6	ピット内点検用コンセントの設置工事（単独回路）	○	○		○		
その他	1	エレベーター工事着工前までの各階出入口開口部の養生作業	○	○	○			
	2	エレベーター工事着手後の昇降路内への浸水防止工事、出入口先行着工時の止水工事	○	○	○			
	3	居室側防音及び防振工事	○	○	○			
	4	搬入用仮設開口及び搬入経路の段差解消・搬入後の復旧工事	○	○	○			
	5	エレベーターを工事用として使用する場合の各種養生手配及び設置工事	○	○	○			
	6	その他建築・電気・設備に関する工事	○	○	○	○	○	

エレベーター仕様

概略仕様	号機名（台数）		Ｎｏ．１ （1台）	
	用途（形式）		人荷共用 （ＳＰＦ１７５０（２６）−２Ｓ）車いす仕様	
	積載量（定員）		１７５０ｋｇ（２６人）	
	速度		４５m／ｍｉｎ	
	制御方式		交流インバータ制御方式（回生無）	
	操作方式		乗合全自動方式	
	停止ヶ所・出入口方向		（１～３ＦＬ） ３ヶ所 １方向	
	かご内法（ＷｘＤｘＨ）		１５００mm Ｘ２５００mm Ｘ２３００mm	
	出入口寸法（ＷｘＨ）		１２００mm Ｘ２１００mm	
	ドア方式		２枚戸片開き（電動式）	
	電動機出力		ＡＣ－８ kW （ギヤレス）	
	電源	動力	三相３線 ２００V ６０Ｈｚ	
		照明	単相 １００V ６０Ｈｚ	
	管制運転	地震時	有（Ｐ波＋Ｓ波感知器（３段検知）リスタート機能付）	
		火災時	有	
		自家発時	無	
		ピット冠水時	有 全自動形（ピット冠水時（最寄階））	
	停電時自動着床装置		有	
	耐震クラス		Ａ１４	
	かご内連絡装置		２４Ｖ同時通話インターホン	
	基本仕様及び標準装備仕様		ローラーガイド（かご、おもり） 照明・換気装置自動休止機能 ２Ｄ多光軸（マルチビーム）ドアセフティ 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りアナウンス機能（非常時４ヶ国語対応） イオン発生装置 故障時最寄階自動着床運転 しきい間すきまレス 広角ミラー付操作盤	
乗場仕様	三方枠		全階	小枠 鋼板製単色塗装仕上
	ドア		全階	鋼板製単色塗装仕上
		遮煙	全階	有
	敷居		全階	硬質アルミ製
	乗場インジケータボタン	ボタン	全階	抗菌凸矢印ボタン（ＳＩＡＡ認証）
		インジケータ	全階	デジタル階床表示式
		フェースプレート	全階	板曲げ ステンレス製ヘアライン仕上 （一部樹脂製）
かご仕様	天井照明		［ＳＴＤ－１１］アルミフレーム導光板ＬＥＤ照明	
	換気装置		ファン イオン発生機	
	リターンパネル		ステンレス製ヘアライン仕上	
	出入口柱		ステンレス製ヘアライン仕上	
	ドア		化粧鋼板	
	幕板		化粧鋼板	
	側板		化粧鋼板	
	幅木		ステンレス製ヘアライン仕上	
	床		ゴムタイル （ｔ３）	
	敷居		硬質アルミ製	
	操作盤	ボタン	抗菌凸文字ボタン（ＳＩＡＡ認証）	
		インジケータ	液晶（カラーユニバーサルデザイン認証）	
		フェースプレート	標準（広角ミラー付） ステンレス製ヘアライン仕上	

特記事項
- ・表示灯」休止」
- ・定格銘板「人荷用」表示
- ・非常呼びボタン応答灯
- ・非常呼びボタンカバー（透明樹脂製、スイング式）
- ・お知らせドアセンサー
- ・お知らせドアビーム
- ・ＢＧＭスピーカー
- ・磁石式保護マット（分割形、３面、Ｈ１８００）
- ・床マット
- ・オートアナウンス（方向・戸閉・階床・管制運転・戸開案内）
- ・荷摺（ステンレス製一体形ビス止めｔ１．５、Ｈ３５０）
- ・点字銘板
- ・かご床補強（荷重５００kg）
- ・警報回路
- ・発音ボタン（かご＋乗場）
- ・高調波対策
- ・国土交通省仕様

（0213507） V.23.08（Ｆ３）

車いす仕様
- ・かご専用操作盤
- ・乗場専用ボタン
- ・かご内鏡（合わせガラス）
- ・かご手摺（ステンレス製ユニバーサルタイプφ３８、３方向）
- ・非常呼びボタン応答灯
- ・非常呼びボタンカバー（透明樹脂製、スイング式）
- ・点字銘板
- ・戸開放時間の延長（車いす専用ボタンを押した場合のみ）

下記の事項については別途見積となります

負荷状況により作業を請負できない可能性がありますので弊社担当へ都度ご相談ください

1	標準施工作業時間以外でご用命の場合（標準：月曜日～金曜日 8:00～17:00）
2	夜間作業発生の場合
3	2階以上の階若しくは地下階への搬入作業の場合
4	荷下ろし場所から設置・仮置き場所までの距離が30m を超える場合
5	横引き通路に段差・階段・障害物がある場合
6	搬入に際し、警備員・誘導員及び道路使用許可を要する場合
7	床・壁に養生を必要とする場合
8	昇降機据付工事以外で立会いが発生する場合
9	据付工事短縮を必要とする場合
10	昇降路を養生する必要がある場合（ガラス壁等）
11	昇降機着工前までに各階出入口開口部養生材設置作業（養生材のみの貸与含む）をご用命の場合
12	昇降機を工事用として使用する場合の社内検査費用・復旧（オーバーホール・消耗部品の交換等）費用・定期保守費用・コールバック対応費用等 ただし、積載量,000kg以上の場合、別途労働基準監督署の落成検査費用が発生します 落成検査費用につきましてはご利用者様負担となります （検査費用は【労働安全衛生法関係手数料令】別表第一の四をご参照ください）
13	コンクリート基準圧縮強度が 48N/㎜^{2} を超える場合
14	その他特殊な事情がある場合

（1台1回線）

電源設備

号機名		Ｎｏ．１		
電源設備容量	動力	２００V ８ｋＶＡ		
	照明	１００V １．５kＶＡ		
最大電流		４７．６Ａ		
動力線サイズ（mm^2）		５．５	８	１４
最大引込み距離（m）		３４	５２	９２
建屋側ＭＣＣＢ		６０Ａ		
接地線最小サイズ		５．５ mm^2		
インターホン用配線		φ ０．９× １０本		
電話用配管・配線		φ １９配管 ・電話線１Ｐ		
ピットコンセント容量		１ｋＶＡ／台		

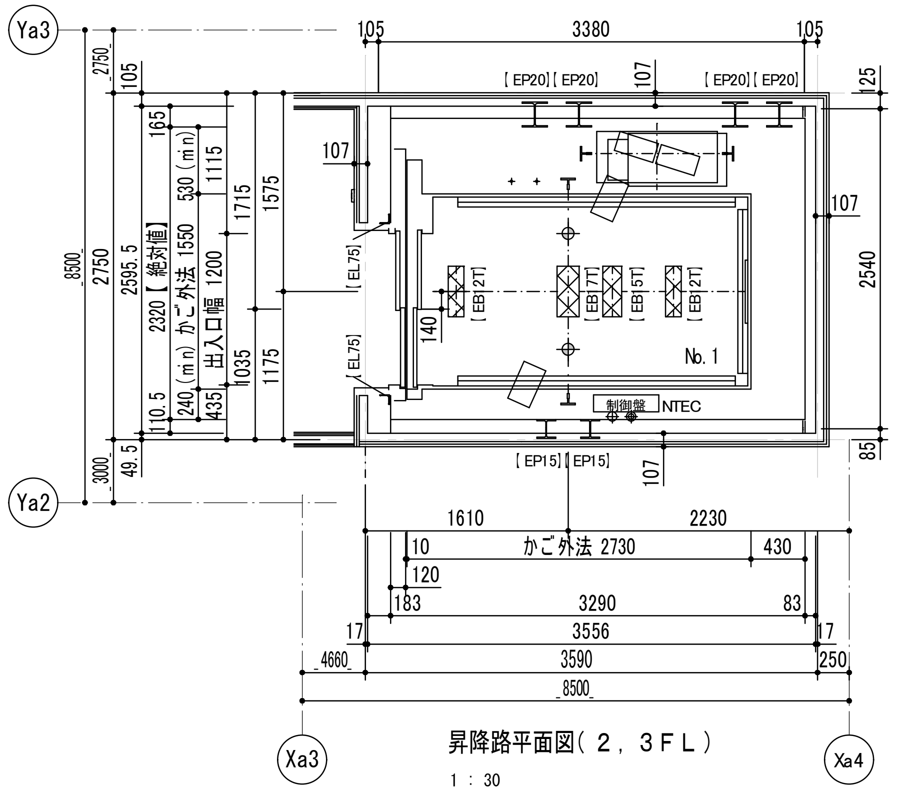
Ｎｏ．１

遮煙のりばドア (Smokeproof)			
適用階	１～３ＦＬ	認定番号	ＣＡＳ－１０７２（２）

【エレベーター遠隔監視メンテナンス】

※ このエレベーターは、遠隔監視メンテナンス契約可能対応機種です。
※ 遠隔監視メンテナンスでは、エレベーターの遠隔診断・遠隔監視が可能です。
※ 上記サービスに必要な機器は、保守会社との遠隔監視メンテナンス契約時に貸与されます。

積込み荷重制限	荷重条件	500kg (4輪台車を使用するものとし、台車の重量を含む)
	重量物の積込みは、一回当り荷重条件以下で積込み下さい。 ※フォークリフトの使用はできません。	



昇降路平面図（2，3FL）

1 : 30

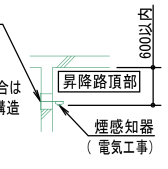
⊕	吊元フック ・荷重:　19.6 kN	（建築工事）
⊕	電源引込み（受電盤への接続） ・動力・照明、接地線 最上停止階FL－1700 mm 引出長さ 2 m	（電気工事）
⊕	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階FL－1700 mm 引出長さ 2 m	（電気工事）

※絶対値の昇降路寸法を適用した場合、以下の寸法は許容出来ません。
誤差等にてハツリが発生した場合、建築工事にて対応願います。

1）建屋施工誤差
2）昇降路寸法内面に施工するピット防水代

煙感知器詳細

施錠装置付点検扉
1.5mm以上の鋼板製（電気工事）
リミットスイッチ付（エレベーター工事）



昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。

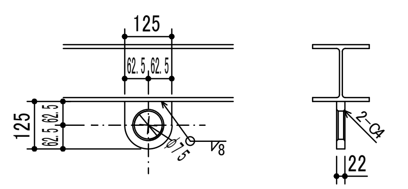
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品として下さい。

・ホーチキ	（KUS-1C（W））
・能美防災	（FXS J001A-HU）
・ニッタン	（NID-T-G）
・パナソニック	（BV95351+BV95381H）

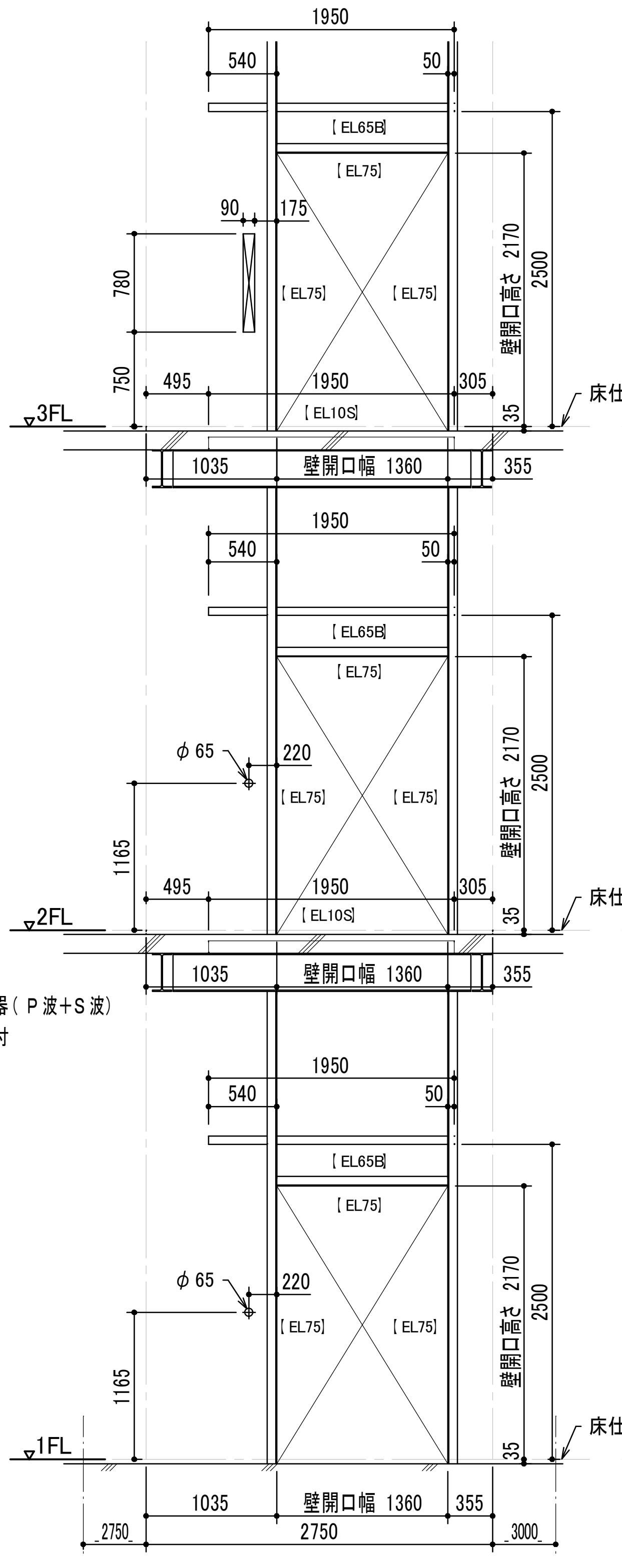
製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細

⊕ 吊元フック荷重: 19.6kN【EHST19】

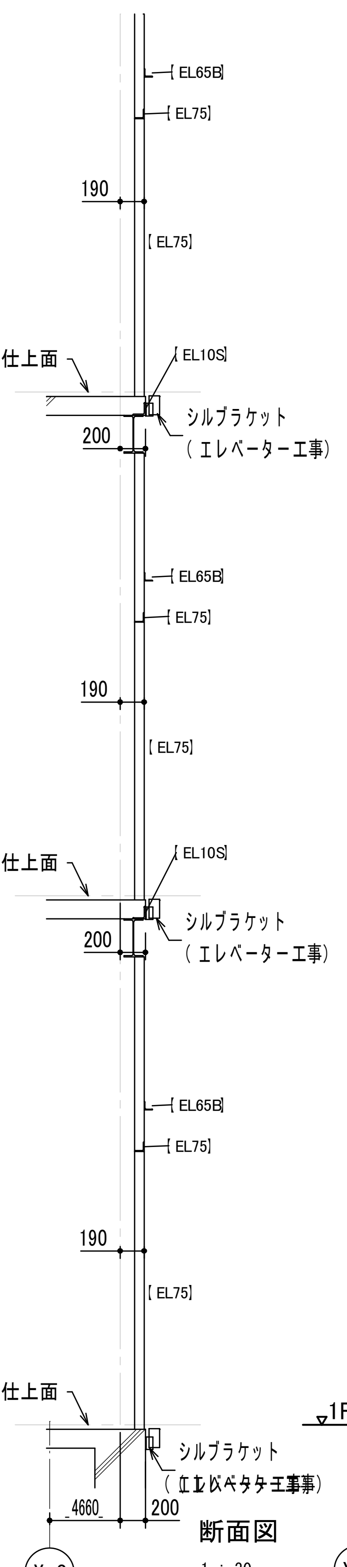


※全周すみ肉溶接脚長8mm



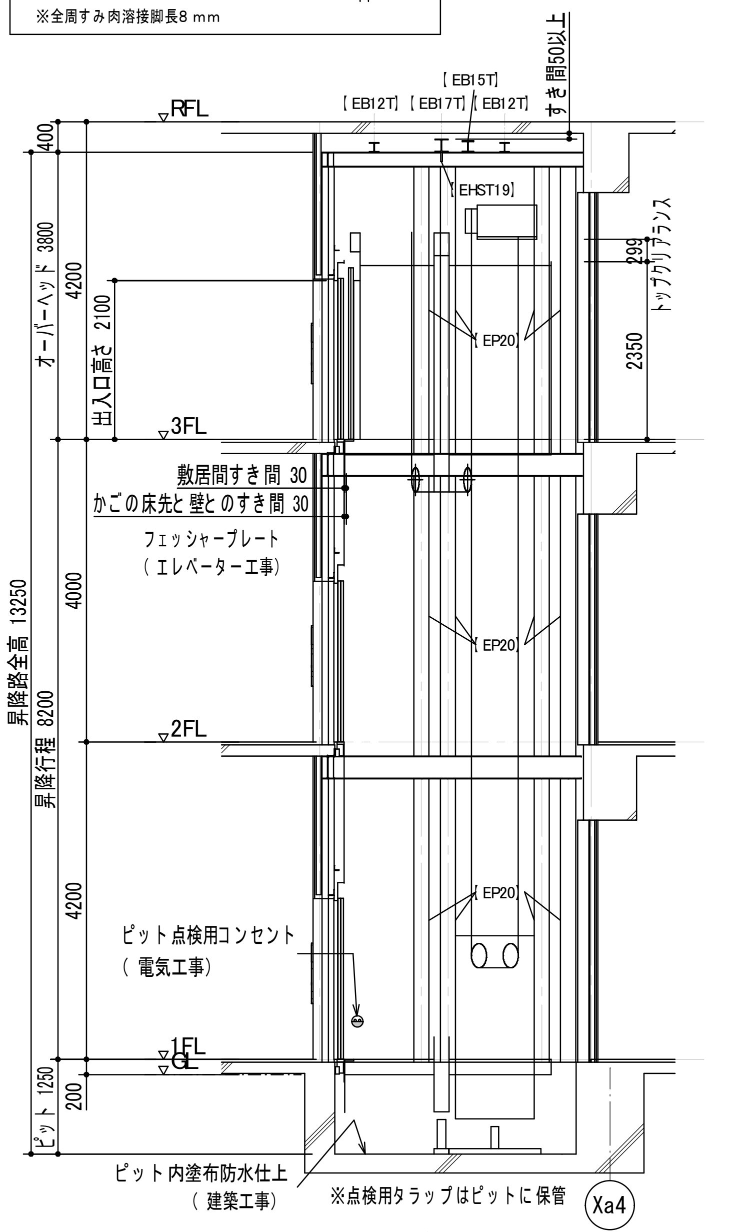
出入口壁穴明図

1 : 30



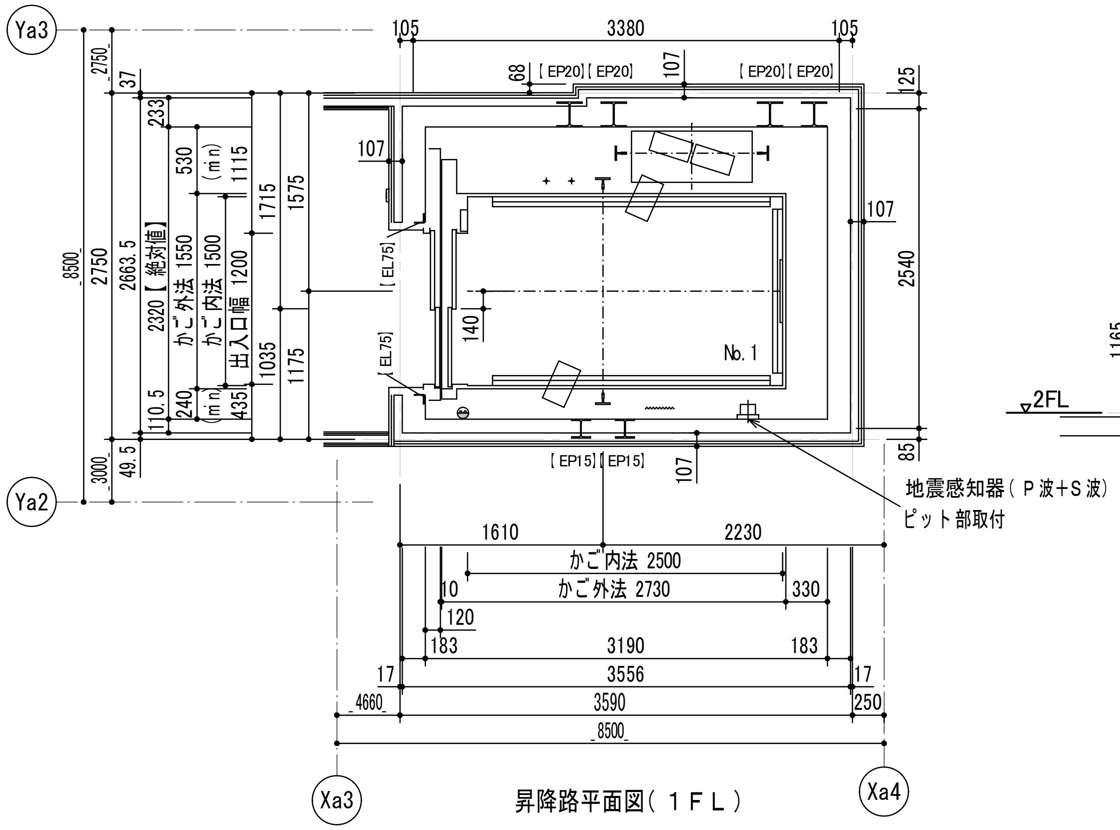
断面図

1 : 30



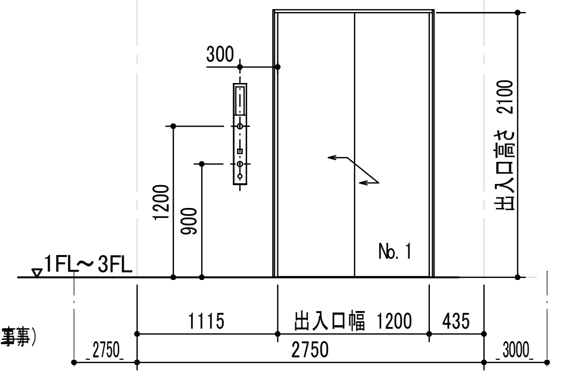
昇降路縦断面図

1 : 50



昇降路平面図（1FL）

1 : 30



出入口正面図

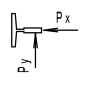
1 : 30

鉄骨部材記号表　（建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元（荷重19.6kN用）	t22（φ75穴付）
EB17T	トロリービーム（荷重29.4kN）	H-175x175x7.5x11
EB15T	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10
EB12T	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-125x125x6.5x9

⊖	ピット点検用コンセント	（電気工事）
≀	T．C保護金網	（エレベーター工事）

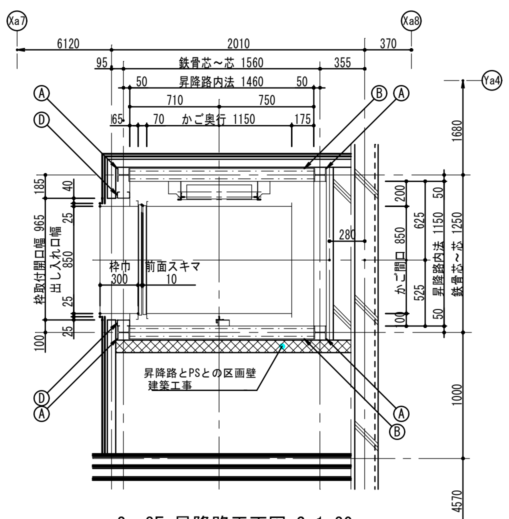
No．1

ピット反力		159．20 kN
ピット衝撃荷重	かご側	135．20 kN
	C／W側	104．40 kN

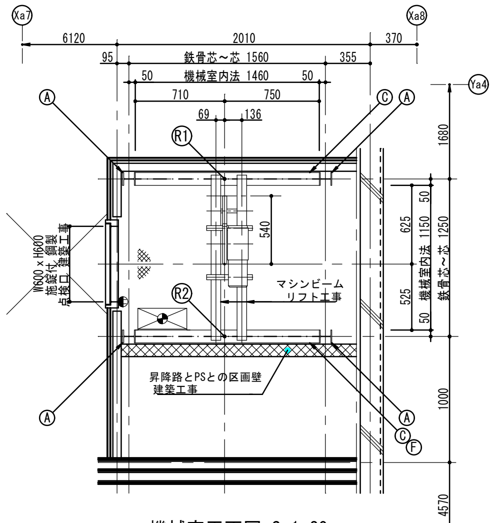
レール反力リスト（地震時作用荷重）			No．1
	かご側 一般階	Px	8．70 kN
		Py	4．40 kN
	かご側 最上階	Px	9．00 kN
		Py	6．10 kN
	おもり側 一般階	Px	13．70 kN
		Py	6．90 kN
	おもり側 最上階	Px	16．00 kN
		Py	9．20 kN

上記　荷重による柱及び梁のたわみは5 mm以下となるよう選定下さい。

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	エレベーター詳細図（2）（参考図）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －f13



2・3F 昇降路平面図 S=1:20


Xa7
Xa8
Ya4
Ya3
6120
2010
370
鉄骨芯～芯 1560
機械室内法 1460
点検口前面折り上げ天井（ロ800x800以上開放）建築工事
W600xH600 施錠付 鋼製 点検口 建築工事
R1
R2
マシンビーム リフト工事
昇降路とPSとの区画壁 建築工事
A
C
E
F

機械室平面図 S=1:20

部材リスト（建築工事）

符号	名称	部材
Ⓐ	柱	H-100 x 100 x 6 x 8
Ⓑ	中間ビーム	C-100 x 50 x 20 x 3.2
Ⓒ	マシンビーム受材	H-100 x 100 x 6 x 8
Ⓓ	出し入れ口下地材	C-100 x 50 x 20 x 3.2
Ⓔ	天井吊ビーム	H-100 x 100 x 6 x 8
Ⓕ	制御盤取付材	C-100 x 50 x 20 x 3.2

電気工事

◐：一次側電源引込位置（3相 200V 60Hz 1.5Kw）

◒：コンセント（単相 100V 15A）

反力

Ⓡ1 ≒ 8.4 KN

Ⓡ2 ≒ 5.9 KN

A-4866

小荷物専用昇降機　仕様要項

機種	方向	MH16-200		一方向（S）
積載質量	速度	200 Kg		45 m/min
停止個所		1・2・3 F		3 停止
かご寸法		間口 850	奥行 1150	高さ 1200
出し入れ口寸法		間口 850	高さ 1200	枠巾 300
昇降行程	全高	8.2 m		11.0 m
出し入れ口戸の形式		中央上下引分け式		
ロープ		8 φ 2 本		1 : 1
釣合おもり		加減式		
レール		1.6 t A型		
動力用電源		AC・3 相 210V ± 10 60 Hz		
電動機		1.5 Kw 4P		
制御方式		インバータ マイコン制御		
表示方式		タッチパネル付液晶		
連絡装置		カメラ付ハンズフリーインターホン		
安全装置		ドアロック ドアスイッチ 非常停止ボタン その他法令に定められたもの		
オプション		過荷重検出装置		

特記事項

出し入れ口自動戸	全自動戸光電センサー
戸開放警報装置	到着前お知らせ機能
音声合成アナウンス	優先運転モード付
かご戸連動開閉機能付	機械室床縞鋼板貼（前面）
他階モニタ機能	点検口戸スイッチ
他階一斉通報	
パーキング機能（テンキーロック式）	
サービス階切り離し機能（テンキーロック式）	
基準階復帰機能付（無し／手動設定／学習設定）	
戸防火区画対策（開閉機構で相じゃくり処理）	
自動切り替わり省エネモード（標準）	
抗菌・抗ウイルス加工（操作盤）	

部品名	色	材質／仕上	板厚
三方枠		鋼板 焼付塗装	1.6 t
枠戸		鋼板 焼付塗装	1.6 t
かご床	ピュアホワイト	縞鋼板焼付塗装	3.2 tCPL
かご内部	ピュアホワイト	鋼板 焼付塗装	1.6 t
踏板		縞鋼板焼付塗装	3.2 tCPL
かご戸	ピュアホワイト	鋼板 焼付塗装	1.6 t

建築工事区分

1	W600 x H600 施錠付 鋼製 点検口の取付	
2	柱の設置	Ⓐ材
3	中間ビームの設置	Ⓑ材
4	機械室内にマシンビーム受材の設置	Ⓒ材
5	出し入れ口下地材の設置	Ⓓ材
6	昇降路頂部に天井吊ビーム（5KN用）の設置	Ⓔ材
7	機械室内に制御盤取付材の設置	Ⓕ材
8	三方枠取付後の壁・床仕上工事	
9	ピット部防水仕上工事	
10	三方枠部床カキコミ及びリフト工事終了後埋戻工事	
11	点検口前面折り上げ天井（ロ800x800以上開放）の施工	
12	区画壁の築造	

電気工事区分

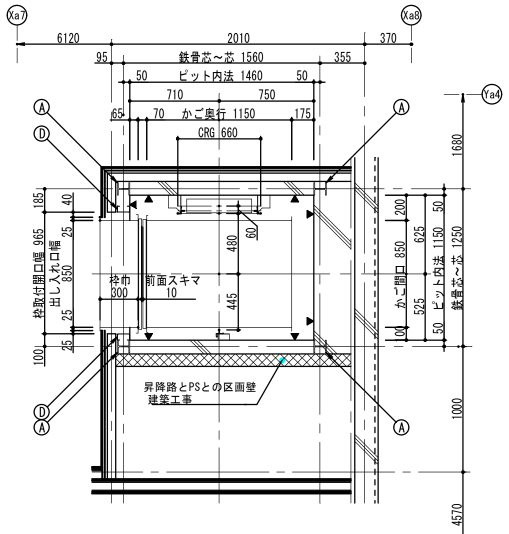
1 機械室内に動力用電源の引込み工事
電線は電線管で保護をし引込み長さは2mとして下さい

電線太さ	2	3.5	5.5	8	14	mm²
最大こう長	31	55	86	125	220	m
変圧器の容量 3.0 KVA			ブレーカーの容量 20 A			

2 D種接地線の引込み工事

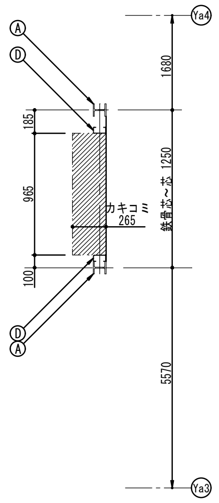
3 機械室内に煙感知器の取付工事（必要な場合）

4 機械室内に100V 15A のコンセントの取付工事



▼：ピット防水仕上面を示す。建築工事

1F 昇降路平面図 S=1:20

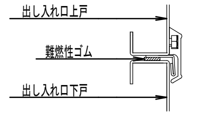


▨：床カキコミ部（FL-40）を示す。建築工事

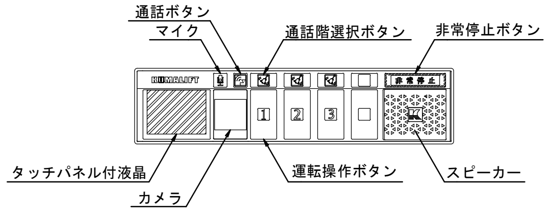
床カキコミ平面図 S=1:20

小荷物専用昇降機については、戸をJEAS-207A（標改10-02）に定める構造として0.8mm以上の鋼板製とし、戸当たり部分を難燃性ゴムを用いて相じゃくりとすれば、すき間のない構造として平成12年建設省告示第1360号による遮炎・遮煙性能を有する防火設備及び、1.5mm以上の鋼板で同様の構造とすれば、同告示第1369号による特定防火設備とみなされる。

また、出し入れ口の戸は、通常、常時閉鎖状態が保持されているので、「常時閉鎖式の防火戸」として取り扱われる。但し、閉め忘れ防止警報装置を備えなければならない。

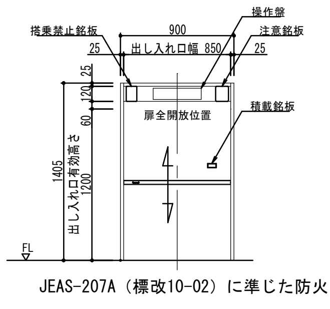


出し入れ口戸相じゃくり部



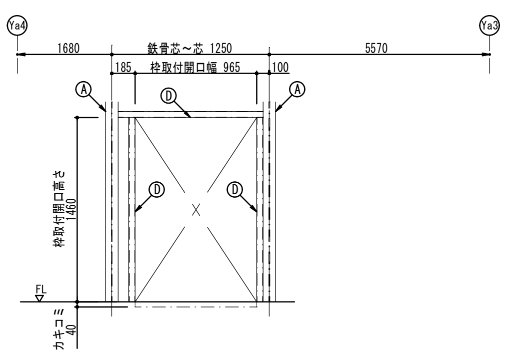
操作盤詳細図

抗菌・抗ウイルス加工を施しております

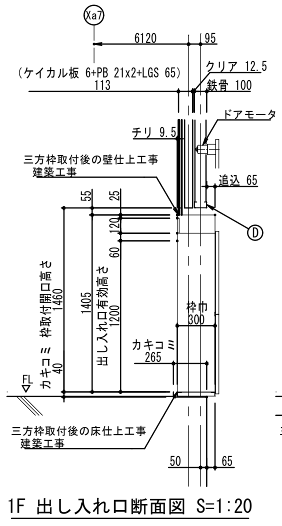


JEAS-207A（標改10-02）に準じた防火戸

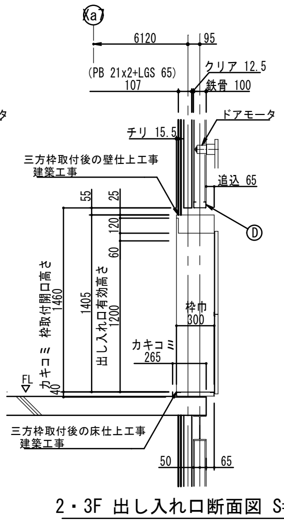
出し入れ口正面図 S=1:20



出し入れ口開口図 S=1:20



1F 出し入れ口断面図 S=1:20

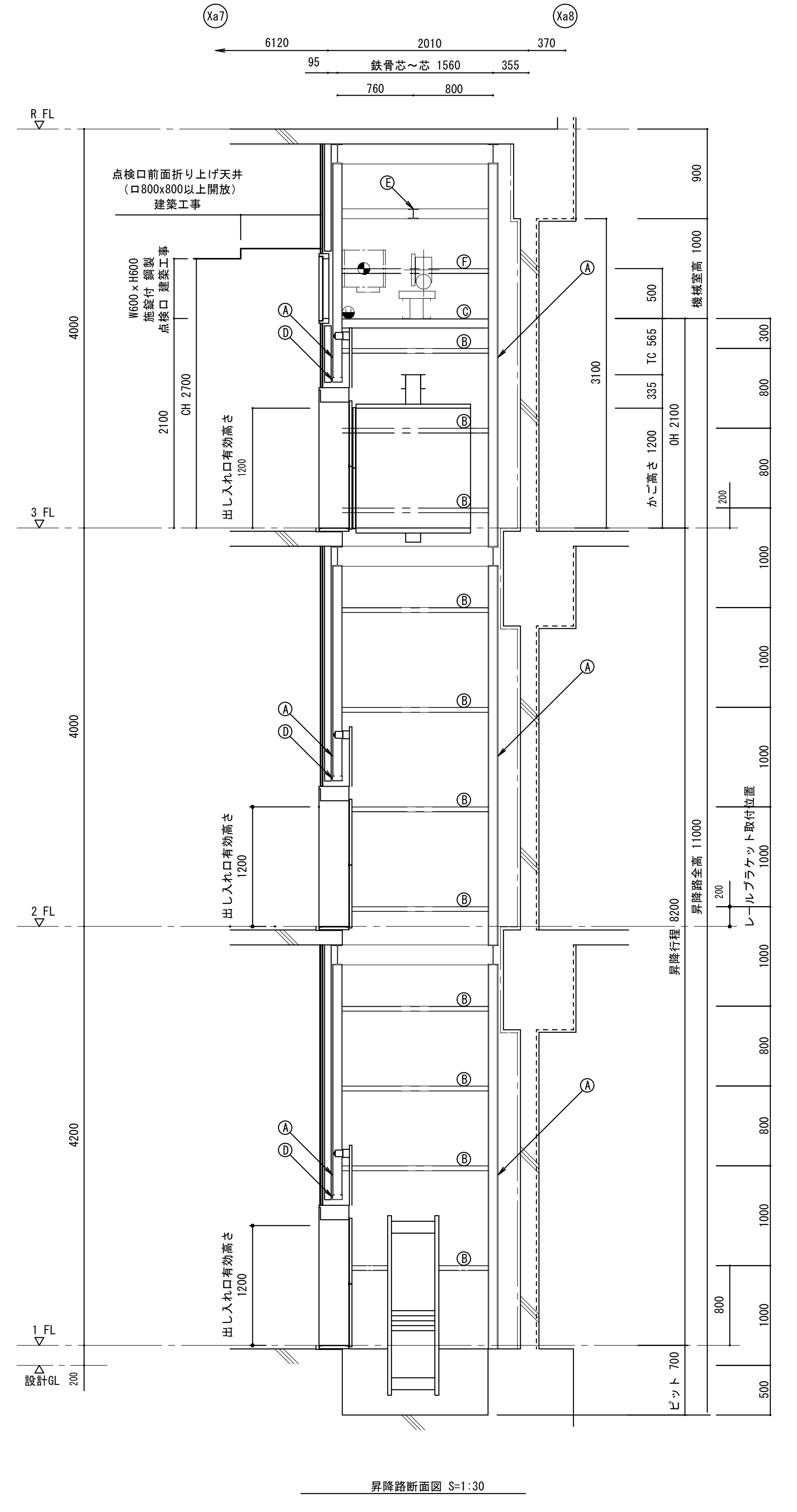


2・3F 出し入れ口断面図 S=1:20

電気工事

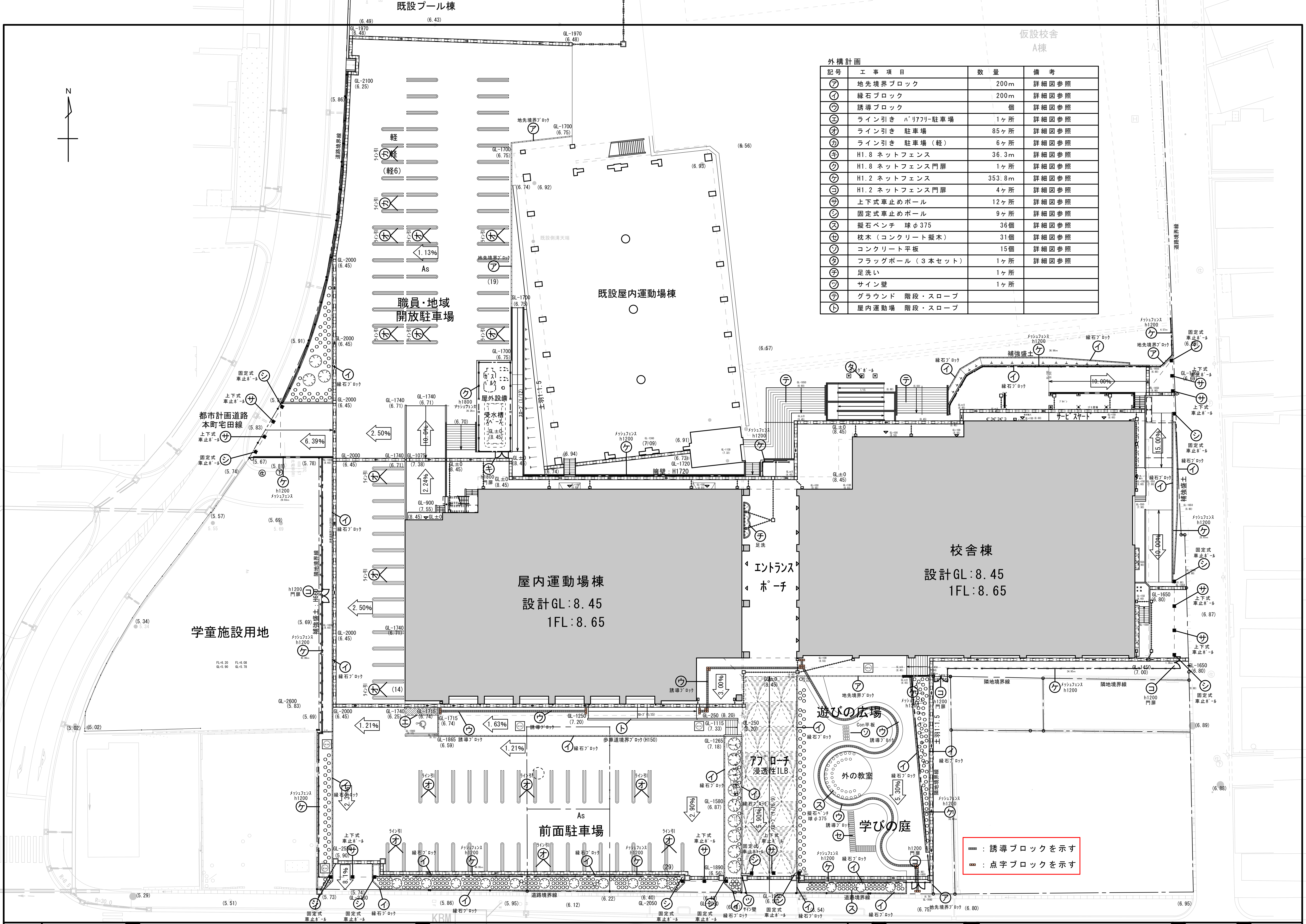
◐：一次側電源引込位置（3相 200V 60Hz 1.5Kw）

◒：コンセント（単相 100V 15A）



昇降路断面図 S=1:30

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳
設計	・ ・	標題	ダムウェータ詳細図（参考図）
縮尺	A1：1/ 30 A3：1/ 60	図番	A －f14



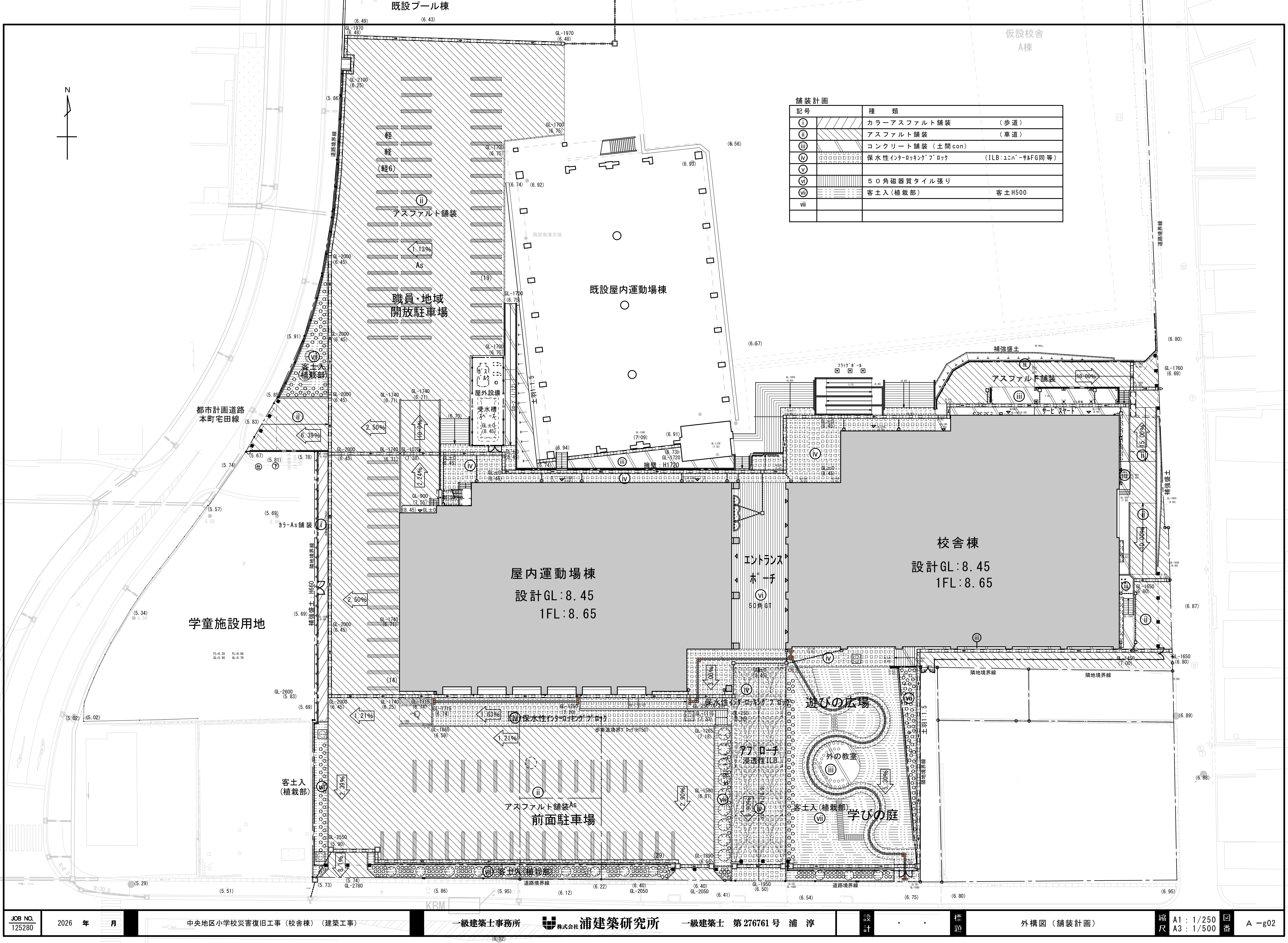
外構計画

記号	工　事　項　目	数　量	備　考
㋐	地先境界ブロック	200m	詳細図参照
㋑	縁石ブロック	200m	詳細図参照
㋒	誘導ブロック	個	詳細図参照
㋓	ライン引き　ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ駐車場	1ヶ所	詳細図参照
㋔	ライン引き　駐車場	85ヶ所	詳細図参照
㋕	ライン引き　駐車場（軽）	6ヶ所	詳細図参照
㋖	H1.8 ネットフェンス	36.3m	詳細図参照
㋗	H1.8 ネットフェンス門扉	1ヶ所	詳細図参照
㋘	H1.2 ネットフェンス	353.8m	詳細図参照
㋙	H1.2 ネットフェンス門扉	4ヶ所	詳細図参照
㋚	上下式車止めポール	12ヶ所	詳細図参照
㋛	固定式車止めポール	9ヶ所	詳細図参照
㋜	擬石ベンチ　球φ375	36個	詳細図参照
㋝	枕木（コンクリート擬木）	31個	詳細図参照
㋞	コンクリート平板	15個	詳細図参照
㋟	フラッグポール（３本セット）	1ヶ所	詳細図参照
㋠	足洗い	1ヶ所	
㋡	サイン壁	1ヶ所	
㋢	グラウンド　階段・スロープ		
㋣	屋内運動場　階段・スロープ		

▬：誘導ブロックを示す

▬：点字ブロックを示す

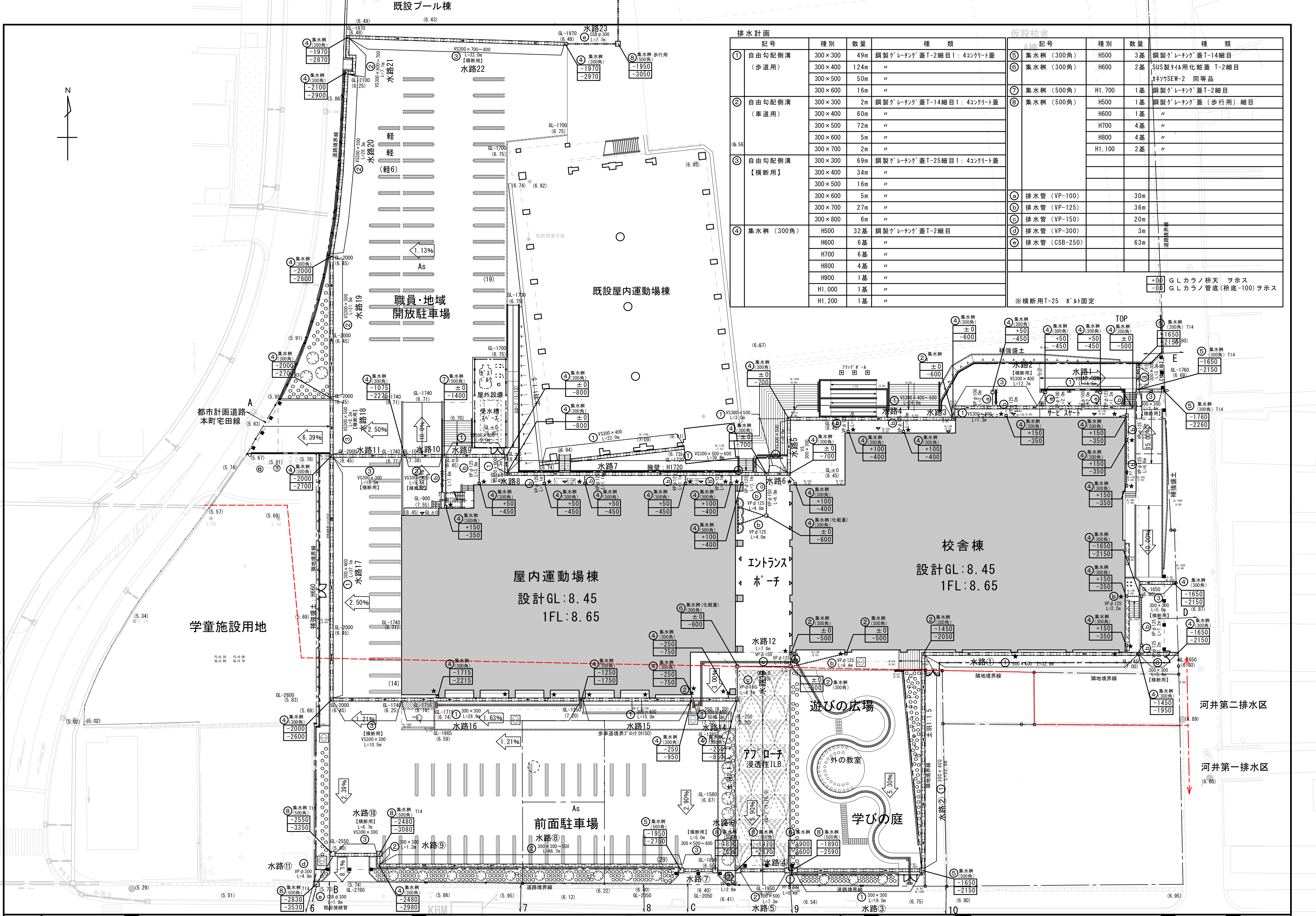
JOB NO.											
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	外構図（計画図）	縮尺	A1：1/250 A3：1/500	図番	A －g01



舗装計画

記号		種　　類	
ⅰ	▨	カラーアスファルト舗装	（歩道）
ⅱ	▨	アスファルト舗装	（車道）
ⅲ	▨	コンクリート舗装（土間con）	
ⅳ	▨	保水性ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ	（ILB：ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙFG同等）
ⅴ			
ⅵ	▥	５０角磁器質タイル張り	
ⅶ	▤	客土入（植栽部）	客土H500
ⅷ			

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構図（舗装計画）	縮尺	A1：1/250 A3：1/500	図番	A －g02



排水計画

記号		種別	数量	種　類
①	自由勾配側溝 （歩道用）	300×300	49m	鋼製グレーチング蓋T-2細目1：4コンクリート蓋
		300×400	124m	〃
		300×500	50m	〃
		300×600	16m	〃
②	自由勾配側溝 （車道用）	300×300	2m	鋼製グレーチング蓋T-14細目1：4コンクリート蓋
		300×400	60m	〃
		300×500	72m	〃
		300×600	5m	〃
		300×700	2m	〃
③	自由勾配側溝 【横断用】	300×300	69m	鋼製グレーチング蓋T-25細目1：4コンクリート蓋
		300×400	34m	〃
		300×500	16m	〃
		300×600	5m	〃
		300×700	27m	〃
		300×800	6m	〃
④	集水桝（300角）	H500	32基	鋼製グレーチング蓋T-2細目
		H600	6基	〃
		H700	6基	〃
		H800	4基	〃
		H900	1基	〃
		H1,000	1基	〃
		H1,200	1基	〃

記号		種別	数量	種　類
⑤	集水桝（300角）	H500	3基	鋼製グレーチング蓋T-14細目
⑥	集水桝（300角）	H600	2基	SUS製タイル用化粧蓋　T-2細目 カネソウSEW-2　同等品
⑦	集水桝（500角）	H1,700	1基	鋼製グレーチング蓋T-2細目
⑧	集水桝（500角）	H500	1基	鋼製グレーチング蓋（歩行用）細目
		H600	1基	〃
		H700	4基	〃
		H800	4基	〃
		H1,100	2基	〃
ⓐ	排水管（VP-100）		30m	
ⓑ	排水管（VP-125）		36m	
ⓒ	排水管（VP-150）		20m	
ⓓ	排水管（VP-300）		3m	
ⓔ	排水管（CSB-250）		63m	

+00　ＧＬカラノ枡天　ヲ示ス
-00　ＧＬカラノ管底（枡底-100）ヲ示ス

※横断用T-25　ボルト固定

JOB NO.										
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	外構図（排水計画 ①）	縮尺	A1：1/250 A3：1/500	図番　A －g03

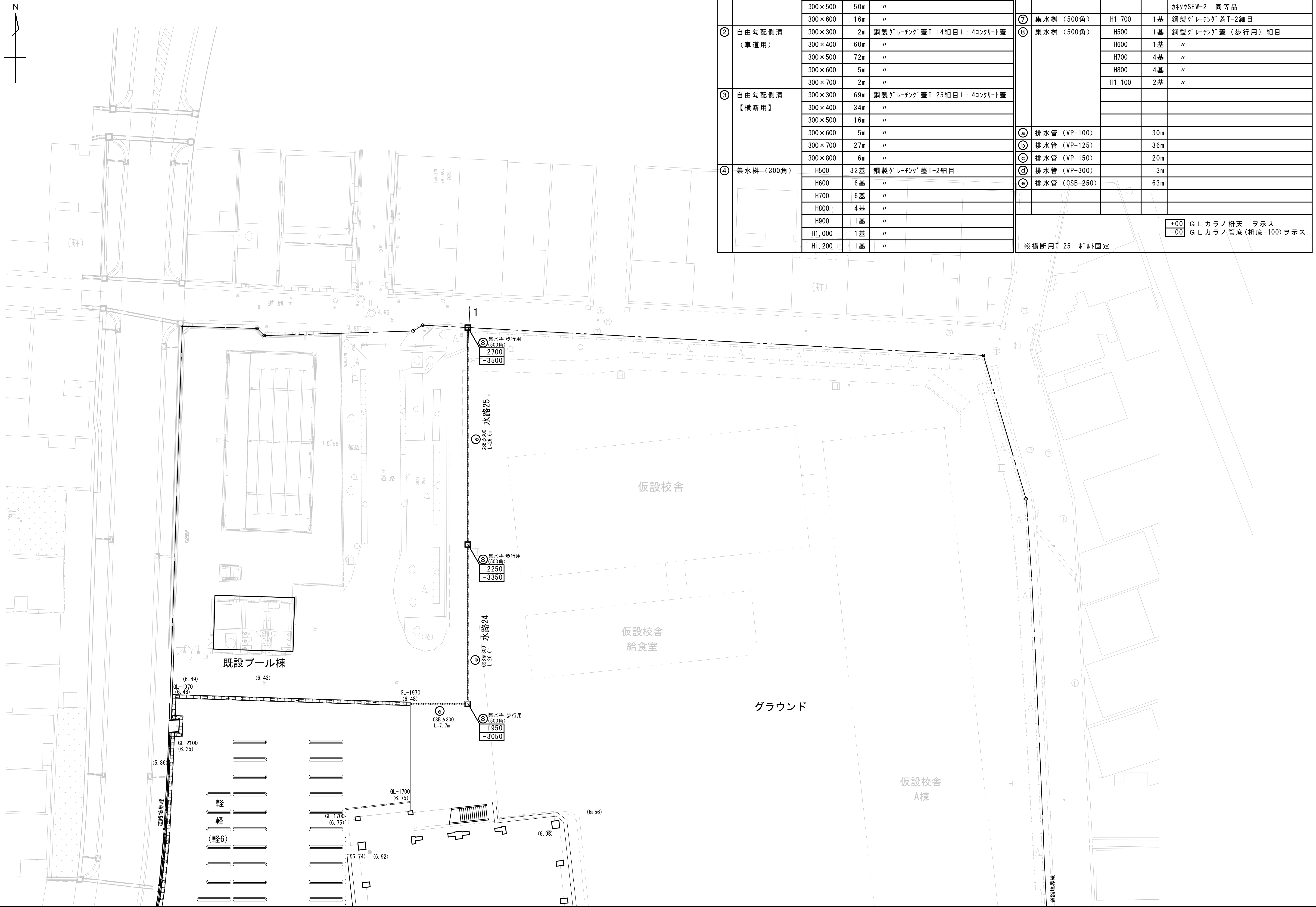
排水計画

記号		種別	数量	種類
①	自由勾配側溝 （歩道用）	300×300	49m	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2細目1：4ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋
		300×400	124m	〃
		300×500	50m	〃
		300×600	16m	〃
②	自由勾配側溝 （車道用）	300×300	2m	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-14細目1：4ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋
		300×400	60m	〃
		300×500	72m	〃
		300×600	5m	〃
		300×700	2m	〃
③	自由勾配側溝 【横断用】	300×300	69m	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-25細目1：4ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋
		300×400	34m	〃
		300×500	16m	〃
		300×600	5m	〃
		300×700	27m	〃
		300×800	6m	〃
④	集水桝（300角）	H500	32基	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2細目
		H600	6基	〃
		H700	6基	〃
		H800	4基	〃
		H900	1基	〃
		H1,000	1基	〃
		H1,200	1基	〃

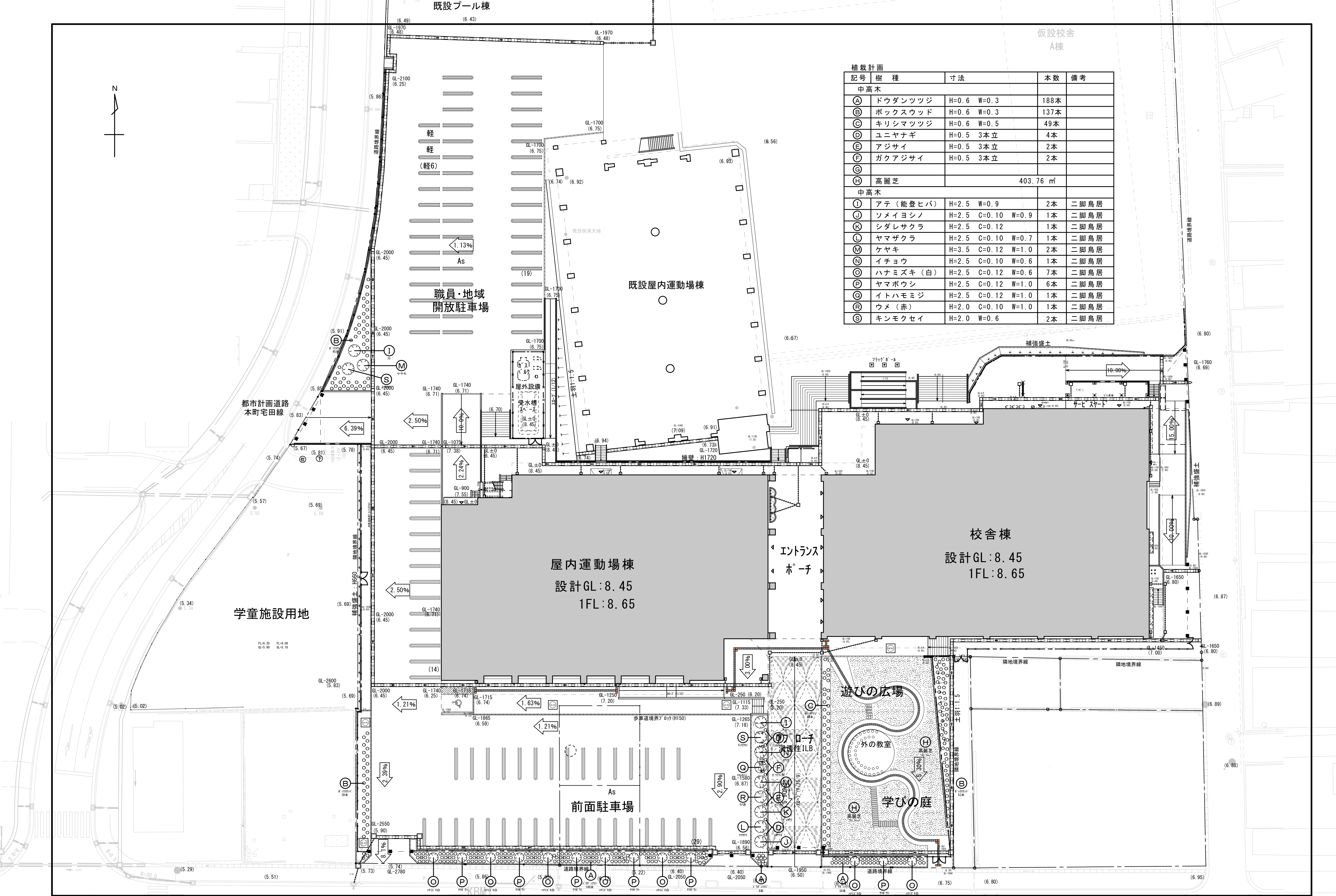
記号		種別	数量	種類
⑤	集水桝（300角）	H500	3基	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-14細目
⑥	集水桝（300角）	H600	2基	SUS製ﾀｲﾙ用化粧蓋 T-2細目 ｶﾈｿｳSEW-2 同等品
⑦	集水桝（500角）	H1,700	1基	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2細目
⑧	集水桝（500角）	H500	1基	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋（歩行用）細目
		H600	1基	〃
		H700	4基	〃
		H800	4基	〃
		H1,100	2基	〃
ⓐ	排水管（VP-100）		30m	
ⓑ	排水管（VP-125）		36m	
ⓒ	排水管（VP-150）		20m	
ⓓ	排水管（VP-300）		3m	
ⓔ	排水管（CSB-250）		63m	

+00 ＧＬカラノ枡天　ヲ示ス
-00 ＧＬカラノ管底（枡底-100）ヲ示ス

※横断用T-25　ﾎﾞﾙﾄ固定



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構図（排水計画 ②）	縮尺	A1：1/250 A3：1/500	図番 A -g04



植栽計画

記号	樹　種	寸法	本数	備考
中高木				
Ⓐ	ドウダンツツジ	H=0.6　W=0.3	188本	
Ⓑ	ボックスウッド	H=0.6　W=0.3	137本	
Ⓒ	キリシマツツジ	H=0.6　W=0.5	49本	
Ⓓ	ユニヤナギ	H=0.5　3本立	4本	
Ⓔ	アジサイ	H=0.5　3本立	2本	
Ⓕ	ガクアジサイ	H=0.5　3本立	2本	
Ⓖ				
Ⓗ	高麗芝	403.76 ㎡		
中高木				
Ⓘ	アテ（能登ヒバ）	H=2.5　W=0.9	2本	二脚鳥居
Ⓙ	ソメイヨシノ	H=2.5　C=0.10　W=0.9	1本	二脚鳥居
Ⓚ	シダレサクラ	H=2.5　C=0.12	1本	二脚鳥居
Ⓛ	ヤマザクラ	H=2.5　C=0.10　W=0.7	1本	二脚鳥居
Ⓜ	ケヤキ	H=3.5　C=0.12　W=1.0	2本	二脚鳥居
Ⓝ	イチョウ	H=2.5　C=0.10　W=0.6	1本	二脚鳥居
Ⓞ	ハナミズキ（白）	H=2.5　C=0.12　W=0.6	7本	二脚鳥居
Ⓟ	ヤマボウシ	H=2.5　C=0.12　W=1.0	6本	二脚鳥居
Ⓠ	イトハモミジ	H=2.5　C=0.12　W=1.0	1本	二脚鳥居
Ⓡ	ウメ（赤）	H=2.0　C=0.10　W=1.0	1本	二脚鳥居
Ⓢ	キンモクセイ	H=2.0　W=0.6	2本	二脚鳥居

JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

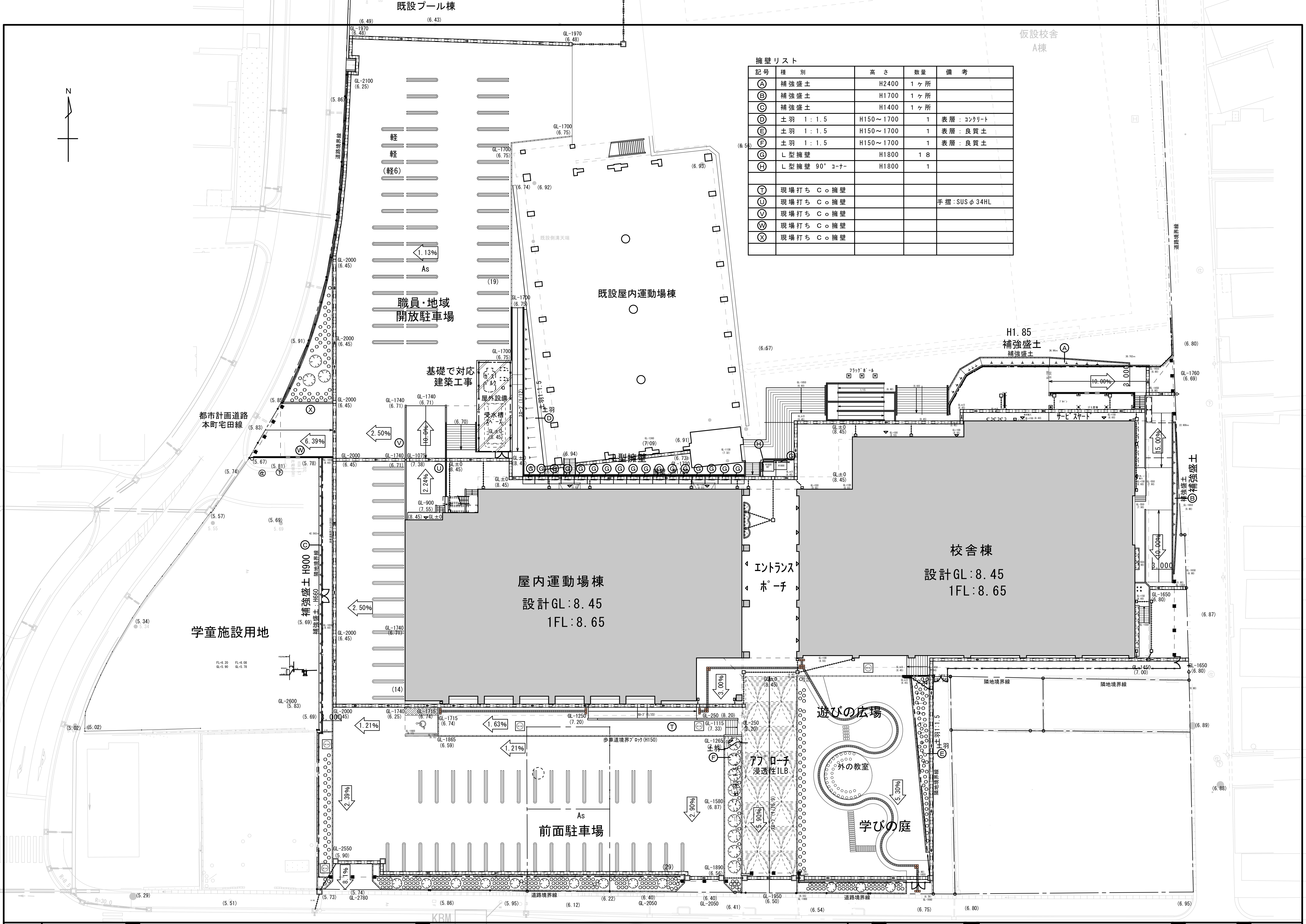
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

標題 外構図（植栽計画）

縮尺 A1：1/250 A3：1/500

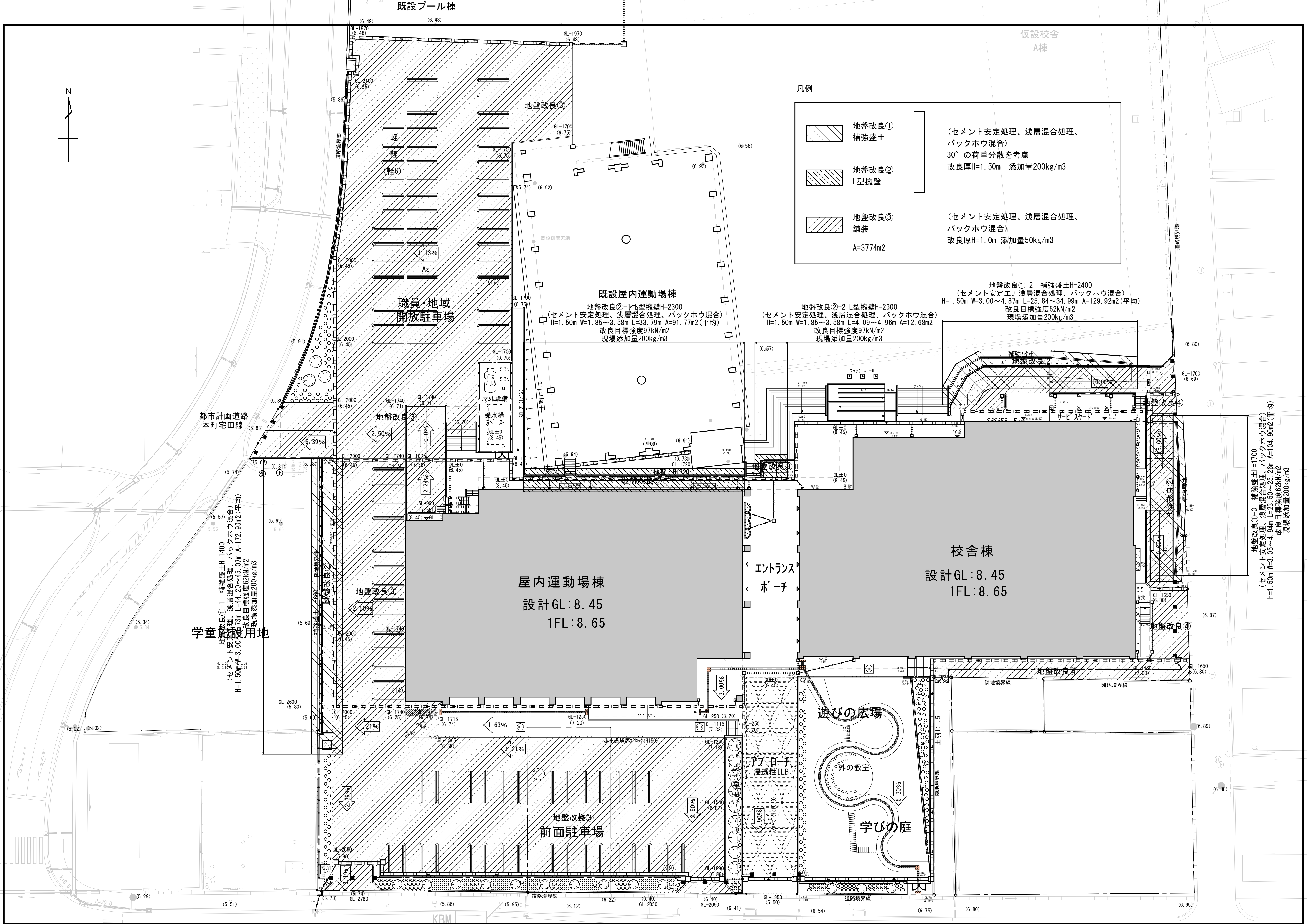
図番 A －g05



擁壁リスト

記号	種　別	高　さ	数量	備　考
Ⓐ	補強盛土	H2400	1ヶ所	
Ⓑ	補強盛土	H1700	1ヶ所	
Ⓒ	補強盛土	H1400	1ヶ所	
Ⓓ	土羽　1：1.5	H150～1700	1	表層：ｺﾝｸﾘｰﾄ
Ⓔ	土羽　1：1.5	H150～1700	1	表層：良質土
Ⓕ	土羽　1：1.5	H150～1700	1	表層：良質土
Ⓖ	Ｌ型擁壁	H1800	１８	
Ⓗ	Ｌ型擁壁 90° ｺｰﾅｰ	H1800	1	
Ⓣ	現場打ち Ｃｏ擁壁			
Ⓤ	現場打ち Ｃｏ擁壁			手摺：SUSφ34HL
Ⓥ	現場打ち Ｃｏ擁壁			
Ⓦ	現場打ち Ｃｏ擁壁			
Ⓧ	現場打ち Ｃｏ擁壁			

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 外構図（擁壁計画）	縮尺 A1：1/250 A3：1/500	図番 A －g06

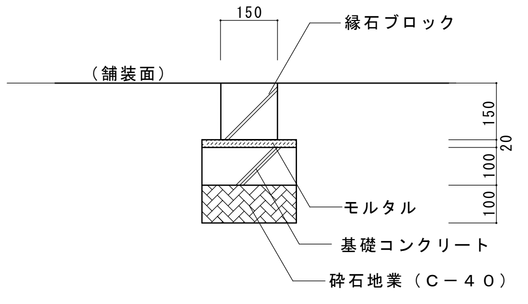


凡例

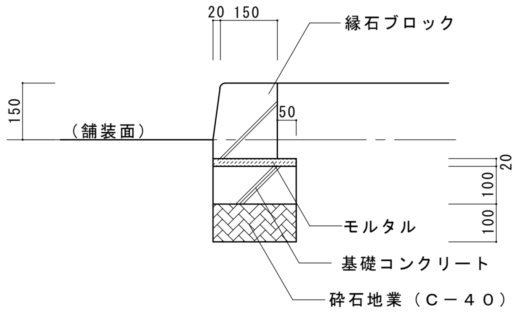
▨	地盤改良① 補強盛土	（セメント安定処理、浅層混合処理、バックホウ混合） 30°の荷重分散を考慮 改良厚H=1.50m 添加量200kg/m3
▨	地盤改良② L型擁壁	
▨	地盤改良③ 舗装 A=3774m2	（セメント安定処理、浅層混合処理、バックホウ混合） 改良厚H=1.0m 添加量50kg/m3

JOB NO.										
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構図（地盤改良計画）	縮尺	A1：1/250 A3：1/500	図番 A－g07

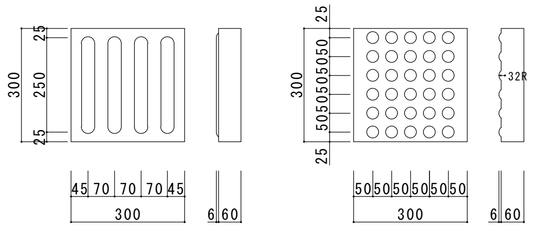
㋐ 縁石工
A1:1/10 A3:1/20



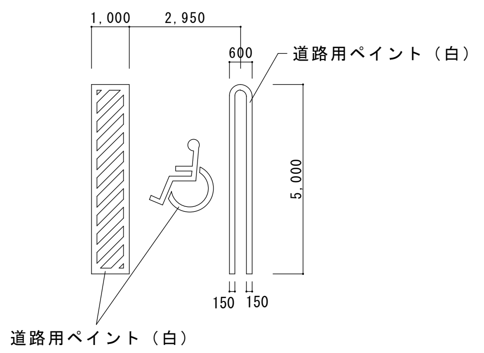
㋑ 見切縁石工
A1:1/10 A3:1/20



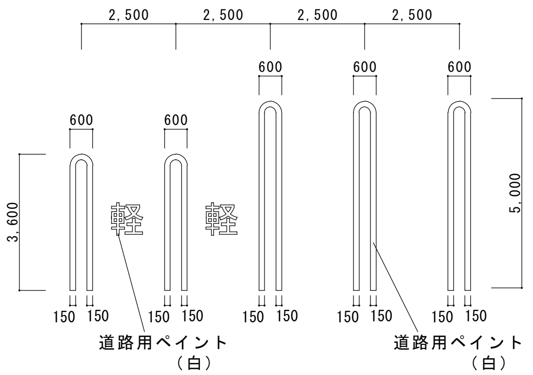
㋒ 誘導ブロック
A1:1/10 A3:1/20



㋓ ライン引き バリアフリー駐車場
A1:1/100 A3:1/200

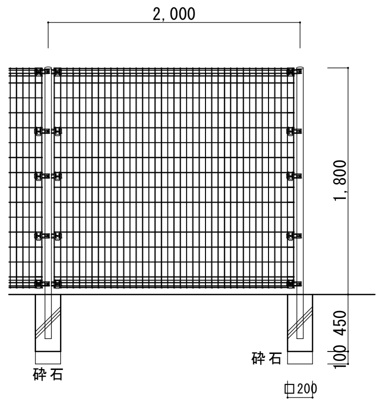


㋔㋕ ライン引き 駐車場
A1:1/100 A3:1/200



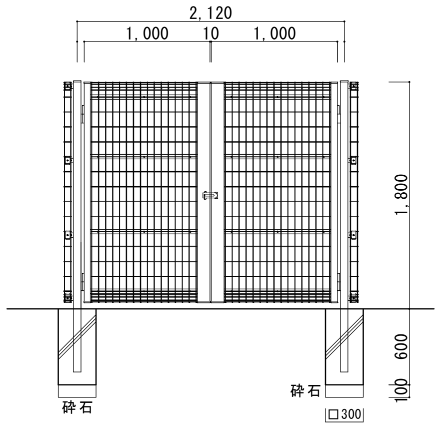
㋖ h=1.8m スチールメッシュフェンス
A1:1/30 A3:1/60

スチールメッシュフェンス
三協アルミ ユメッシュＲ型フェンス（同等品以上）



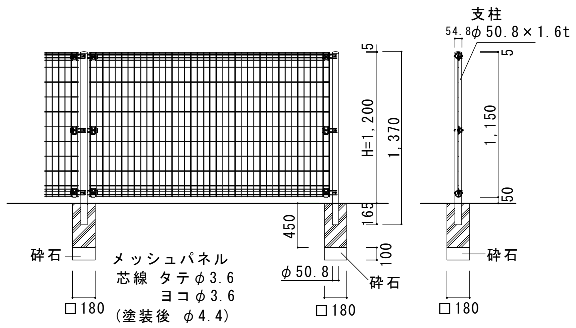
㋗ h=1.8m スチールメッシュ門扉
A1:1/30 A3:1/60

スチールメッシュフェンス
三協アルミ ユメッシュＲ型フェンス（同等品以上）



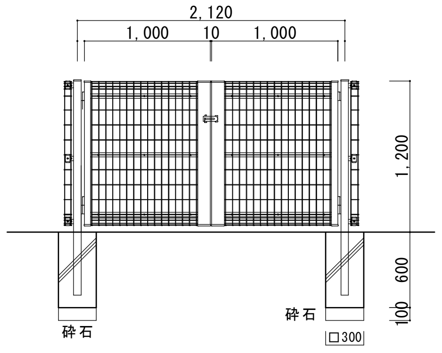
㋘ h=1.2m スチールメッシュフェンス
A1:1/30 A3:1/60

スチールメッシュフェンス
三協アルミ ユメッシュＲ型フェンス（同等品以上）

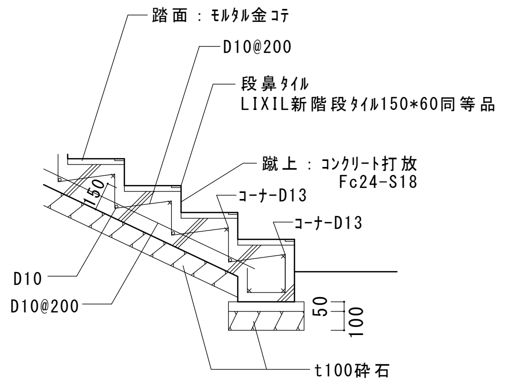


㋙ h=1.2m スチールメッシュ門扉
A1:1/30 A3:1/60

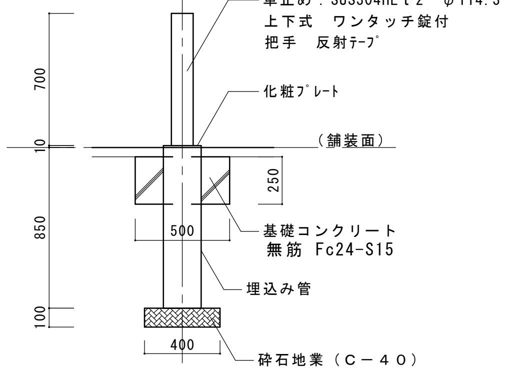
スチールメッシュフェンス
三協アルミ ユメッシュＲ型フェンス（同等品以上）



階段納まり

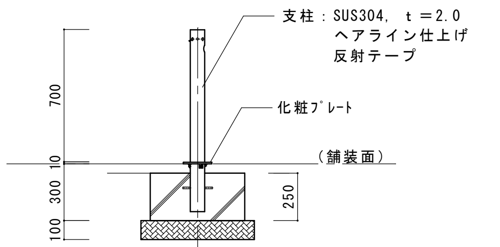


㋚ 上下式車止めポール
A1:1/20 A3:1/40



カネソウ(株) UD1170N 同等品

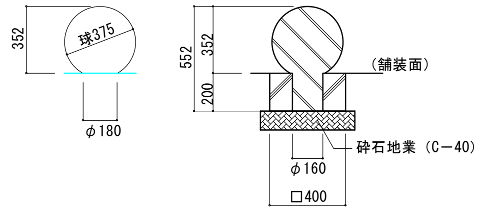
㋛ 固定式車止めポール
A1:1/20 A3:1/40



鎖：ＳＵＳ３０４

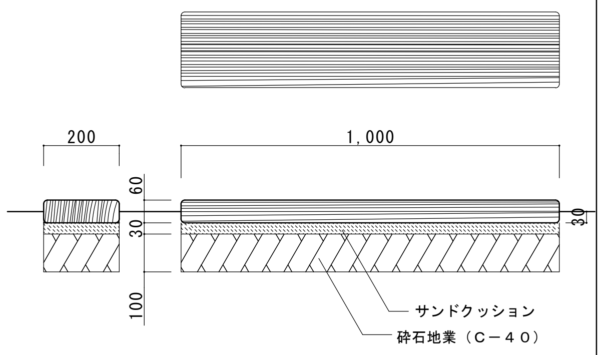
カネソウ(株) UK0770C（チェーン内臓タイプ）同等品

㋜ 擬石ベンチ 球φ375
A1:1/20 A3:1/40



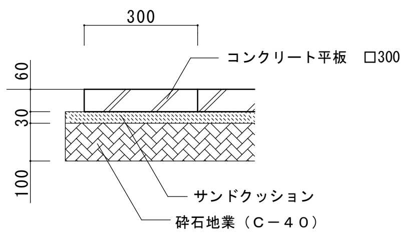
東洋工業 SKT-W 固定式 同等品

㋝ 枕木（コンクリート擬木）
A1:1/10 A3:1/20



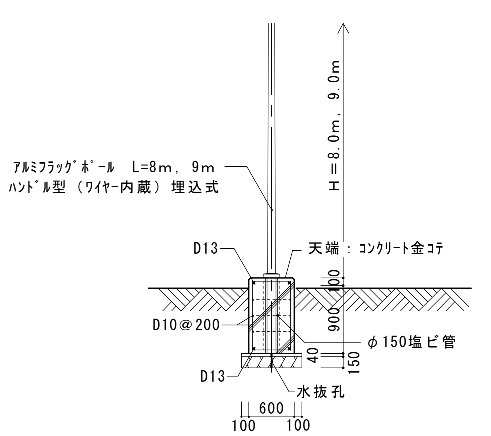
四国化成 EXS-W10 同等品

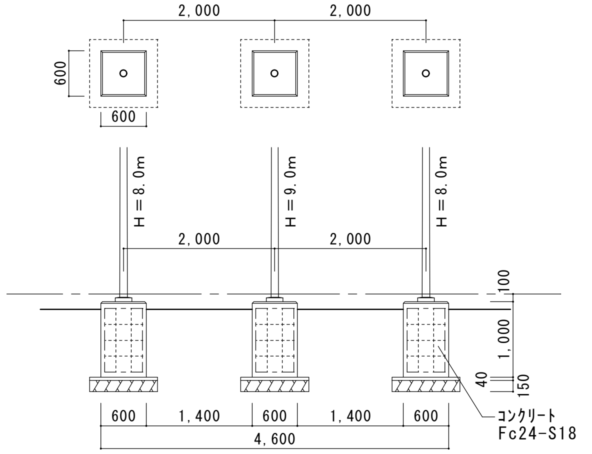
㋞ コンクリート平板
A1:1/10 A3:1/20



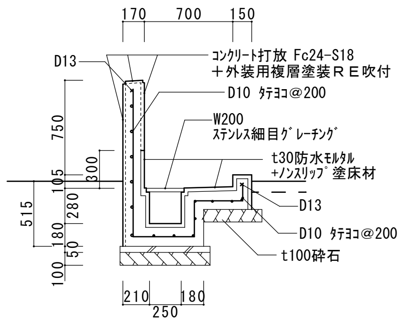
リビオ[ai] ユニソン 同等品

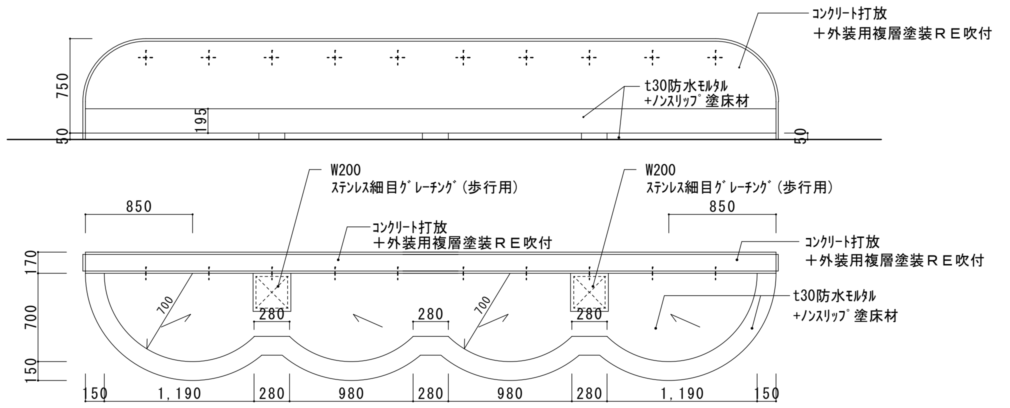
㋟ フラッグポール
A1:1/50 A3:1/100





㋠ 足洗場 詳細
A1:1/30 A3:1/60

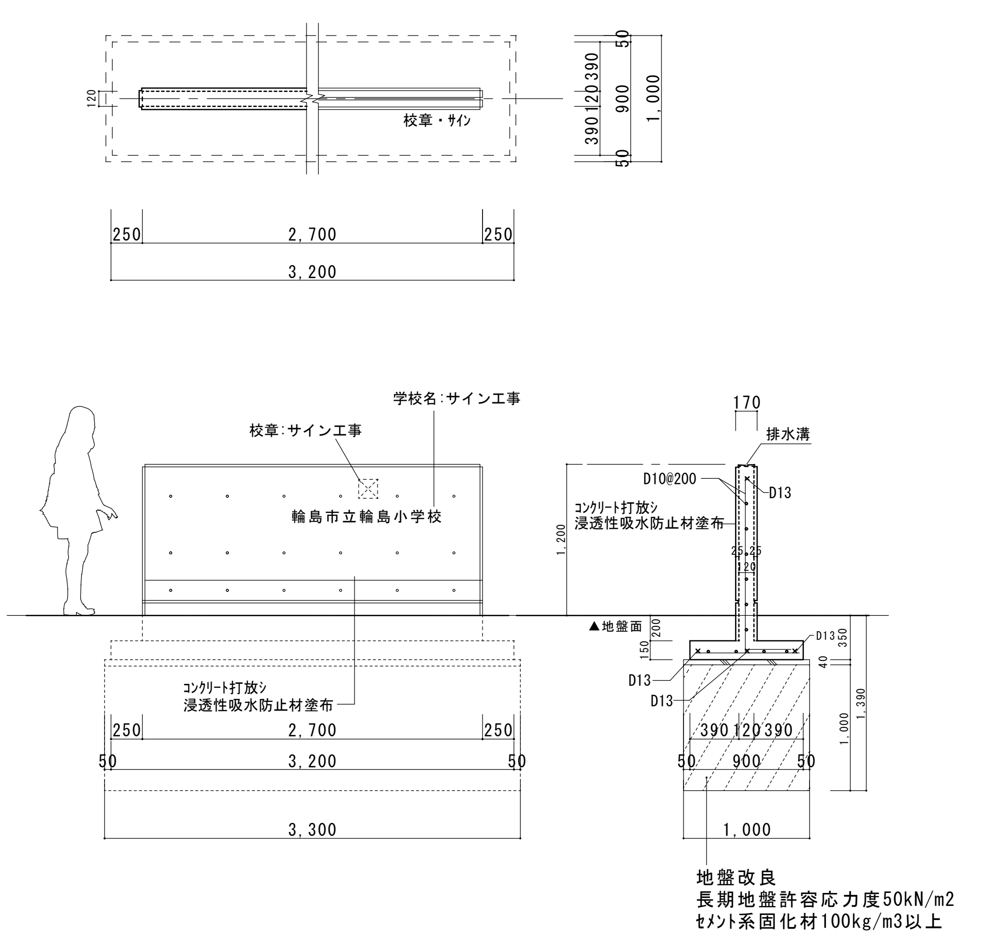




JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構部分詳細図（1）	縮尺	A1：図示 A3：図示	図番	A －g08

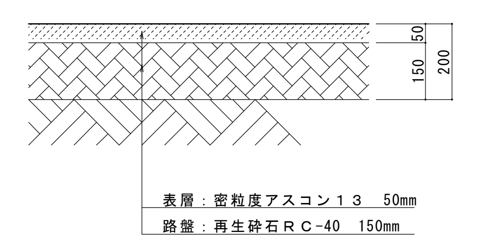
ツ サイン壁

A1:1/30
A3:1/60



ⅰ アスファルト舗装

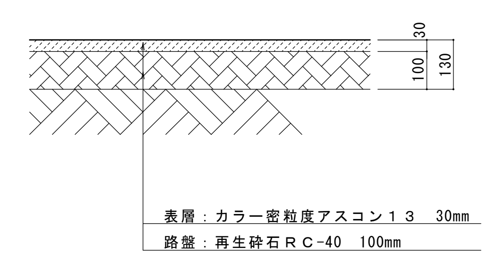
A1:1/10
A3:1/20



※施工時には路床部でＣＢＲ試験を行い、ＣＢＲ3%以上があることを確認すること。

ⅱ カラーアスファルト舗装（歩道）

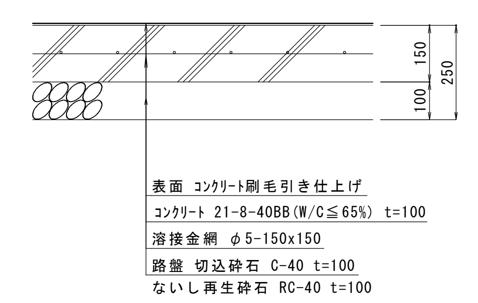
A1:1/10
A3:1/20



※施工時には路床部でＣＢＲ試験を行い、ＣＢＲ3%以上があることを確認すること。

ⅲ コンクリート舗装

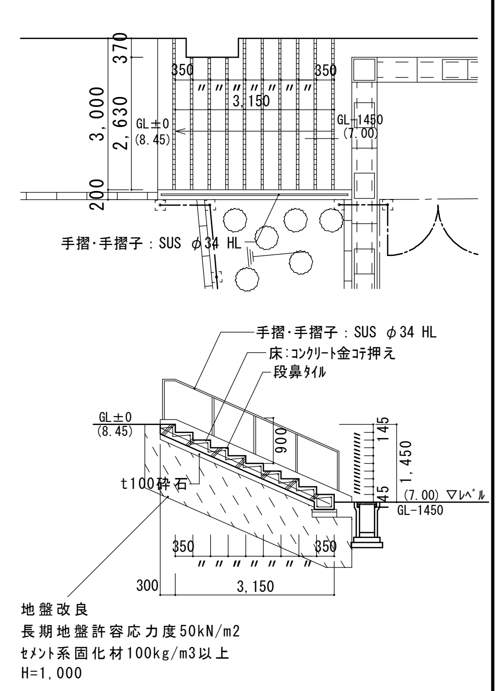
A1:1/10
A3:1/20



150
100
250
表面　コンクリート刷毛引き仕上げ
コンクリート 21-8-40BB(W/C≦65%)　t=100
溶接金網　φ5-150x150
路盤　切込砕石 C-40 t=100
ないし再生砕石 RC-40 t=100

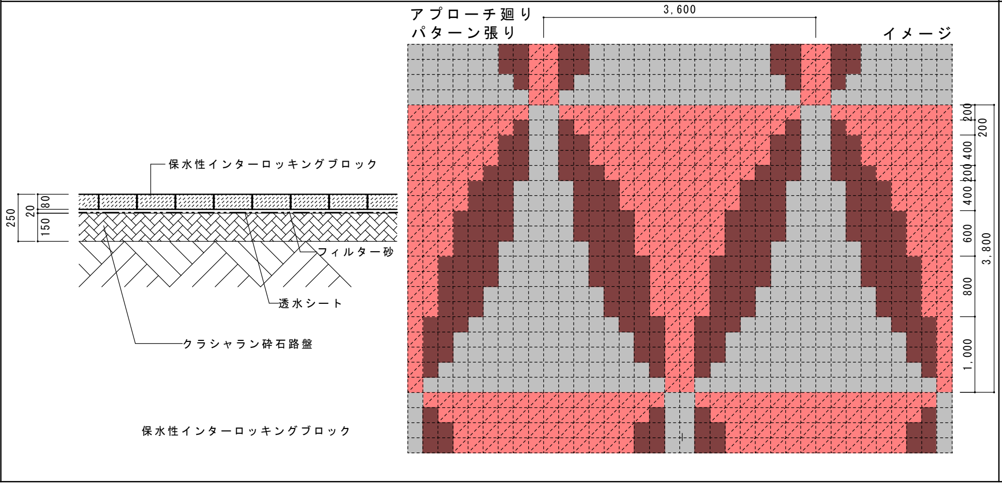
※目地間隔は、概ね@5mとし、目地箇所は現場監督員の指示により決定すること。
※目地材は、変性シリコン系目地材t=10とする。
※別舗装部と連続しない端部は面取り(50mm程度)とする。

校舎棟　南階段



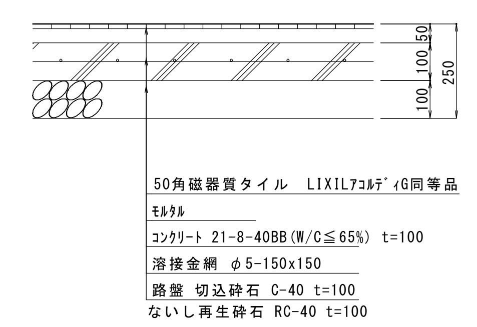
ⅳ 保水性インターロッキング舗装工

A1:1/20
A3:1/40



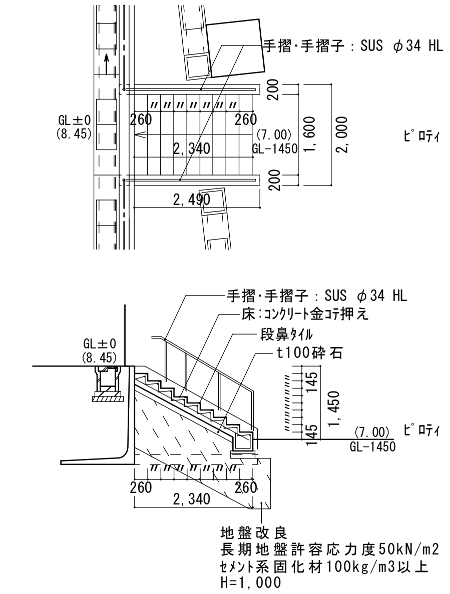
ⅵ ５０角磁器質タイル張り

A1:1/10
A3:1/20

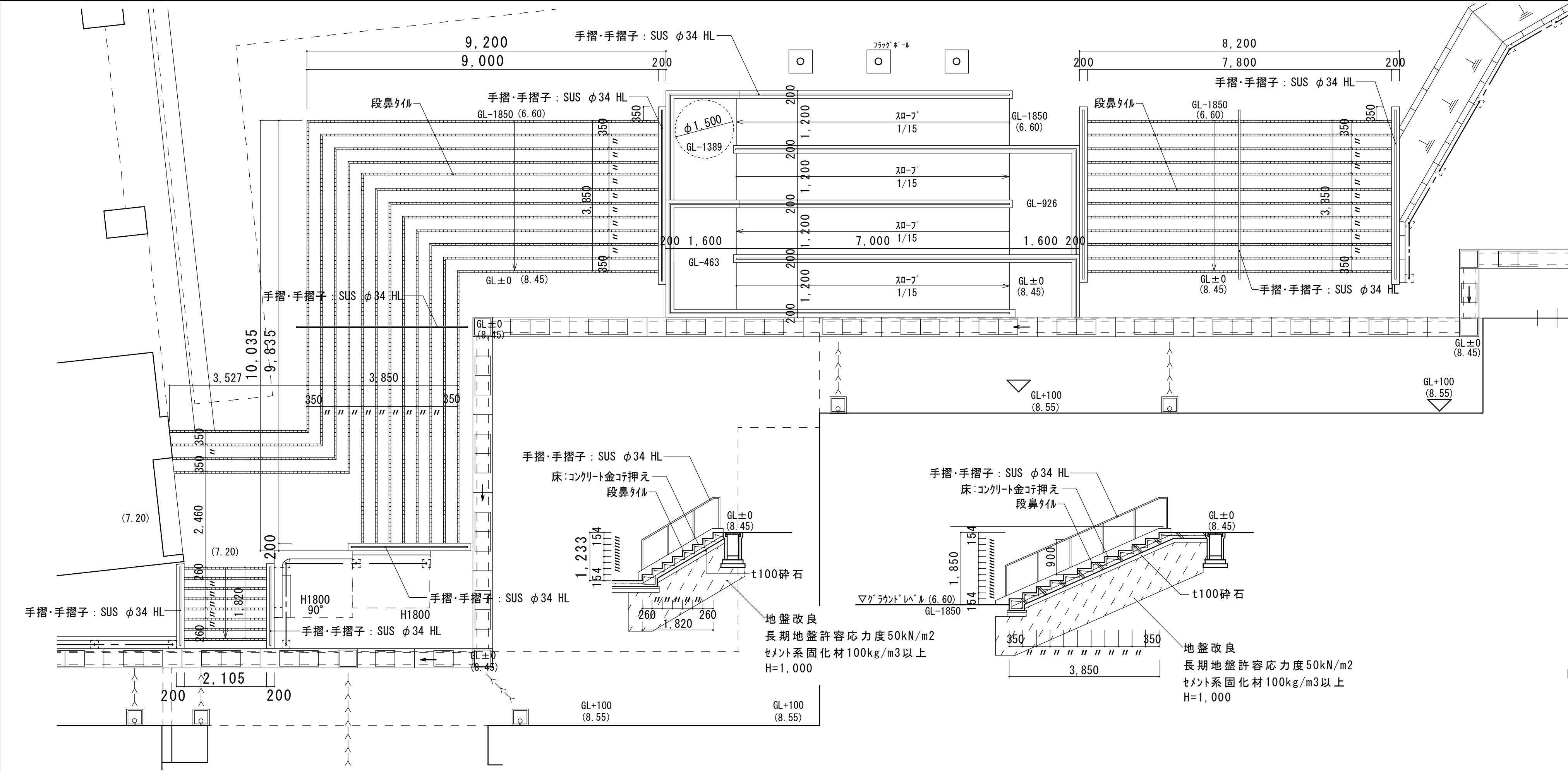


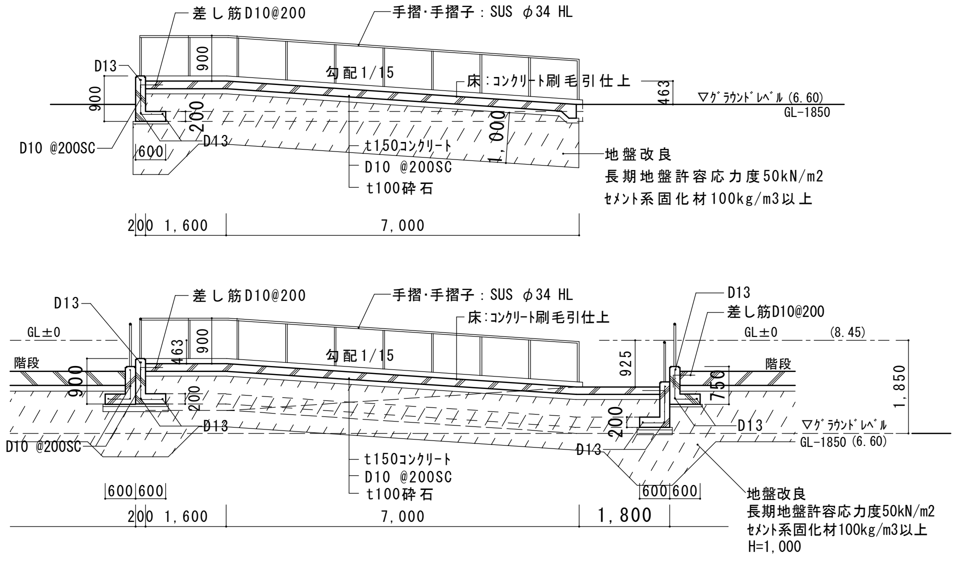
50
100
100
250
50角磁器質タイル　LIXILアコルディG同等品
モルタル
コンクリート 21-8-40BB(W/C≦65%)　t=100
溶接金網　φ5-150x150
路盤　切込砕石 C-40 t=100
ないし再生砕石 RC-40 t=100

既設屋内運動場　南階段



テ グラウンド　階段・スロープ

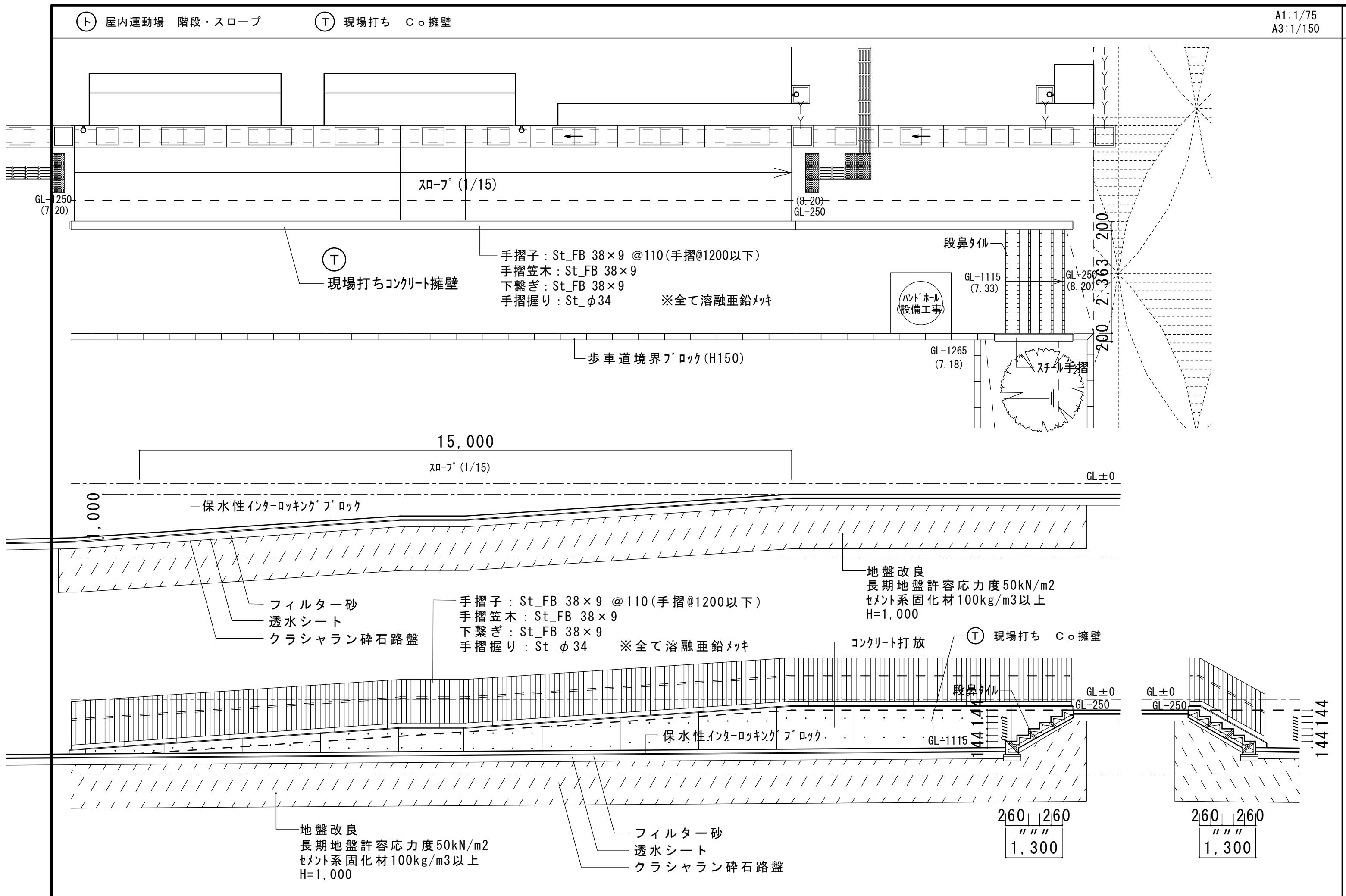




JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構部分詳細図（２）	縮尺	A1：図示 A3：図示	図番	A −g09

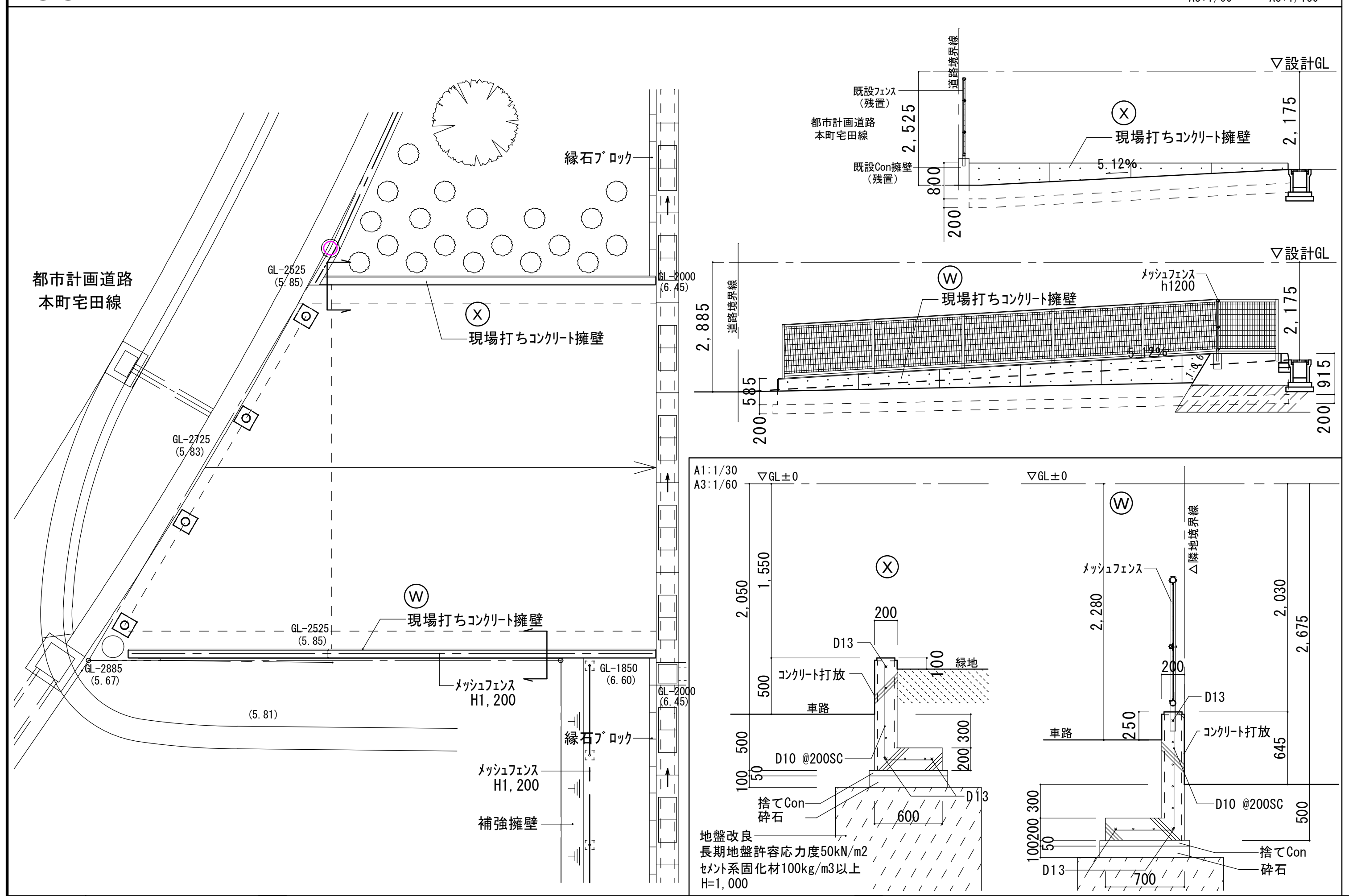
㋣ 屋内運動場 階段・スロープ　Ⓣ 現場打ち Ｃｏ擁壁

A1:1/75
A3:1/150



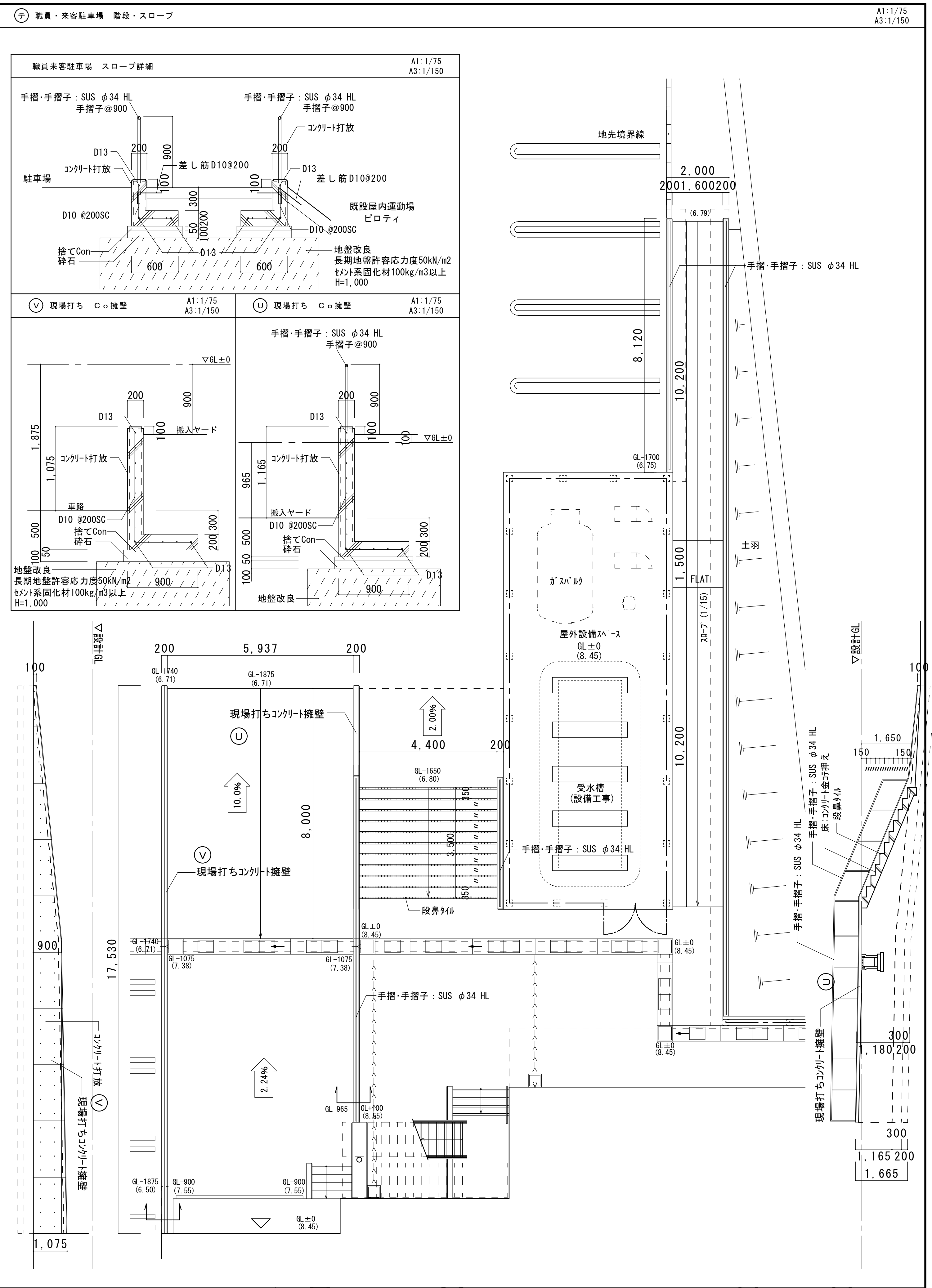
ⓍⓌ 現場打ち Ｃｏ擁壁

A1:1/30
A3:1/60
A1:1/75
A3:1/150



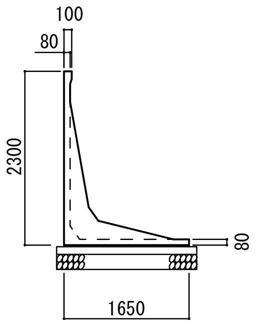
㋢ 職員・来客駐車場　階段・スロープ

A1:1/75
A3:1/150



JOB NO.											
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構部分詳細図（3）	縮尺	A1：図示 A3：図示	図番	A －g10

Ｌ型擁壁
H=2300



ミルウォールⅡ寸法及び基礎工数量表　（基礎工は10m当たり）

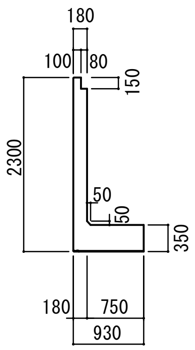
種 別	寸　法 (mm)					参考質量 (kg/本)	基 礎 工			
	壁 高 H	底版長 B	製品長 L	T1	T2		敷 モルタル (m³)	均し コンクリート (m³)	型枠 (m²)	基礎 砕石 (m²)
2300S	2300	1650	2000	100	80	2105	0. 33	1. 85	2. 00	18. 50

※擁壁のタイプの記号は、次を表す。
　S ： 砂質土タイプ

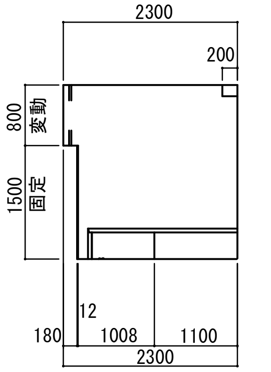
Ｌ型擁壁（90° コーナー）
H=2300

フリーアングルウォール
Ｈ-2300（Aブロック）砂質土用

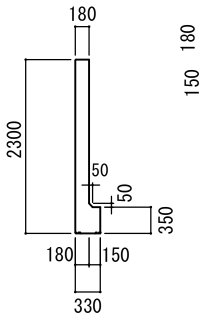
A-A断面
（PCa底版有り）



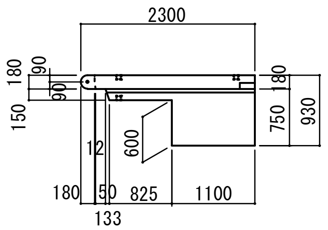
背面図



B-B断面
（PCa底版無し）

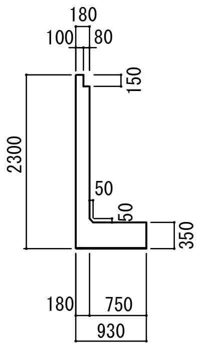


平面図

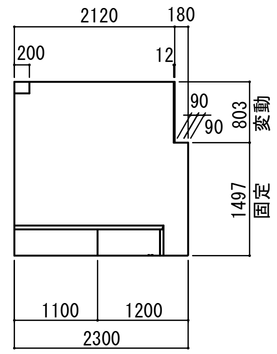


フリーアングルウォール
Ｈ-2300（Bブロック）砂質土用

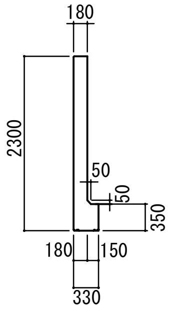
A-A断面
（PCa底版有り）



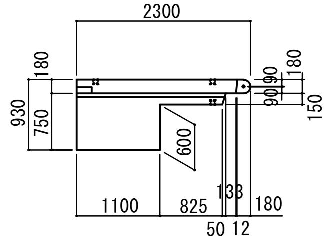
背面図



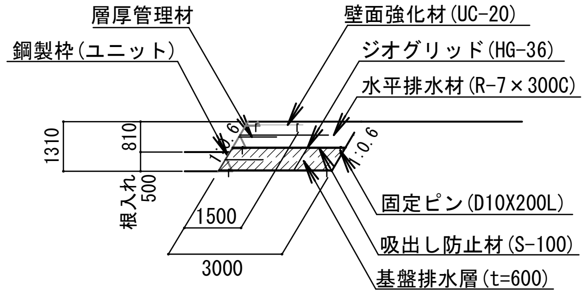
B-B断面
（PCa底版無し）



平面図



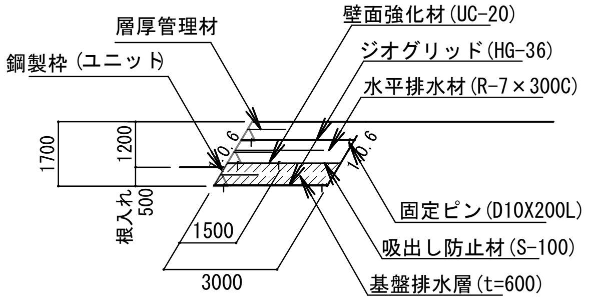
補強盛土
H=1400



設 計 条 件

盛土材定数	γ=19.0kN/m³ φ=30° C=0.0kN/m²
載　荷　重	活荷重　q = 10kN/m²
円弧すべりに対する安全率	常　時
	Fs ≧ 1.20
引き抜きに対する安全率	Fs ≧ 2.00
転倒に対しての安全率	e ≦ L/6
滑動に対しての安全率	Fs ≧ 1.50
支持に対しての安全率	Fs ≧ 3.00

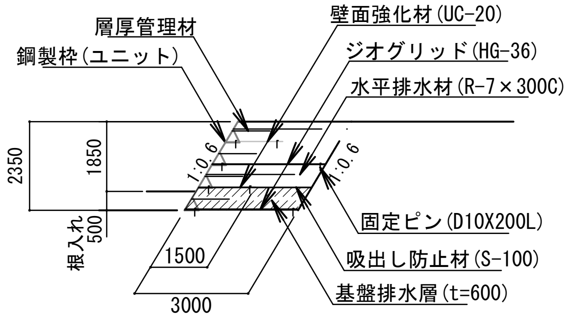
補強盛土
H=1700



設 計 条 件

盛土材定数	γ=19.0kN/m³ φ=30° C=0.0kN/m²
載　荷　重	活荷重　q = 10kN/m²
円弧すべりに対する安全率	常　時
	Fs ≧ 1.20
引き抜きに対する安全率	Fs ≧ 2.00
転倒に対しての安全率	e ≦ L/6
滑動に対しての安全率	Fs ≧ 1.50
支持に対しての安全率	Fs ≧ 3.00

補強盛土
H=2400

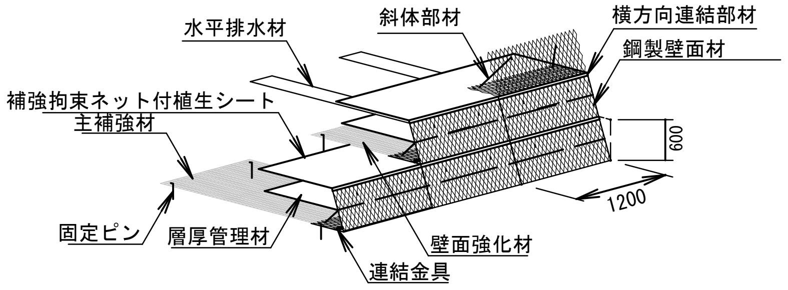


設 計 条 件

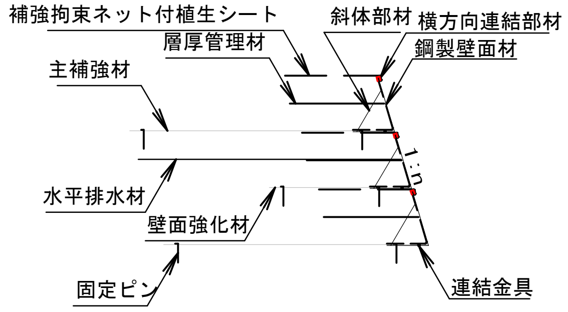
盛土材定数	γ=19.0kN/m³ φ=30° C=0.0kN/m²
載　荷　重	活荷重　q = 10kN/m²
円弧すべりに対する安全率	常　時
	Fs ≧ 1.20
引き抜きに対する安全率	Fs ≧ 2.00
転倒に対しての安全率	e ≦ L/6
滑動に対しての安全率	Fs ≧ 1.50
支持に対しての安全率	Fs ≧ 3.00

概念図

のり面詳細図



壁面部詳細図

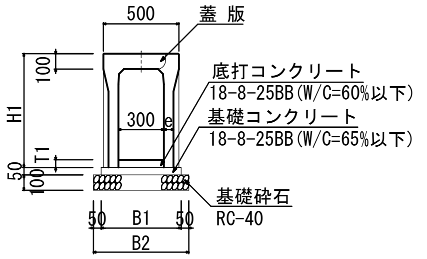


特記事項

補強土壁工	面状補強材（ジオテキスタイル）を層状に敷設し、補強材の引張力と土との摩擦抵抗力によってせん断強さを補強し、安定した盛土構造物を構築する			
盛土材料	土質条件	単位体積重量	粘着力	せん断抵抗角
		γ=19.0kN/m³	c= 0.0kN/m²	φ=30.0°
	・施工前に盛土材の土質試験を実施し、設計定数を確認する ・発注機関の定める規定値に従い、締固め管理を行う ・盛土材料は適切な含水比とする			
基礎地盤	・良好な地盤又は適切な処置が施された地盤とする ・床堀り完了後に所定の支持力を満足するか確認する			
排水工	・適切な排水処理を施す ・予期せぬ湧水が確認された場合は速やかに排水対策を行う ・施工中は仮排水工を設けるなどして、盛土本体や壁面部へ水を導かないよう排水処理を行う ・補強土壁の底盤は排水対策を施す			
壁面材	・鋼製壁面材は、盛土材を拘束し所定の締固め度が得られる十分な剛性（断面係数：0.8cm3/m以上）を有すること ・壁面材の座屈や回転等を防止するため、斜体部材，横方向部材および回転防止部材を用いた構造とする			
補強材	・主補強材は（財）土木研究センターの建設技術審査証明報告書を有する製品とする ・主補強材は、4.5%程度の伸度で所定の引張強さを発現する面状の材料とする ・礫材等による主補強材の耐衝撃性は、90%以上の強度保持率を有する材料とする ・隣接する主補強材の敷設は、突合せを基本とする（ラップする必要は無い） ・曲線部や折れ部において、隣接する主補強材間の隙間が10cm程度以上となった場合は、同質･同等の材料にて隙間を埋める			
安全管理	・労働安全衛生法および労働安全衛生規則などに遵守する			

JOB NO.	年月	工事名	事務所	設計	標題	縮尺	図番
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（ 校舎棟）（ 建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	・　・	外構部分詳細図（４）	A1：図示 A3：図示	A －g11

自由勾配側溝工
(縦断用)300型

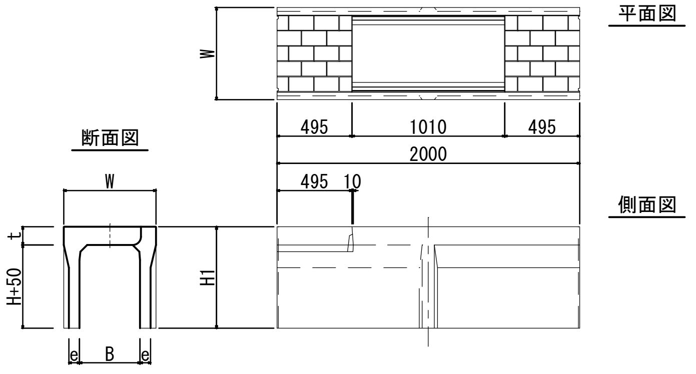


※底打コンクリート厚は50mm以上とする。

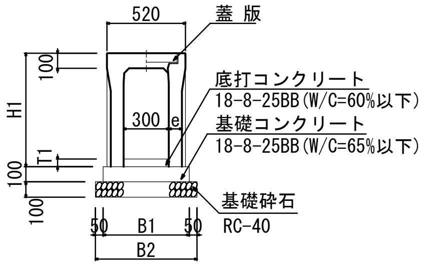
自由勾配側溝工（縦断用）300型　数量表　（10m当り）

呼 び 名 (B×H)	寸　法　(mm)				基礎 砕石 (m²)	基礎 コンクリート (m³)	型枠 (m²)	底打 コンクリート (m³)	製品 (本)	コンクリート 蓋 (枚)	グレーチング 蓋 (枚)
	B1	B2	H1	e							
300x 300	500	600	450	50	6.00	0.25	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x 400	510	610	550	55	6.10	0.26	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x 500	510	610	650	55	6.10	0.26	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x 600	530	630	750	65	6.30	0.27	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x 700	530	630	850	65	6.30	0.27	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x 800	530	630	950	65	6.30	0.27	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x 900	560	660	1050	80	6.60	0.28	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x1000	560	660	1150	80	6.60	0.28	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x1100	560	660	1250	80	6.60	0.28	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x1200	590	690	1350	95	6.90	0.30	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x1300	590	690	1450	95	6.90	0.30	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0
300x1400	590	690	1550	95	6.90	0.30	1.00	別途計上	5.0	8.0	2.0

※グレーチング蓋は、10mに2枚設置するものとして計上。
※コンクリート蓋及びグレーチング蓋の製品長は、L=0.5mとする。



自由勾配側溝工
(横断用)300型

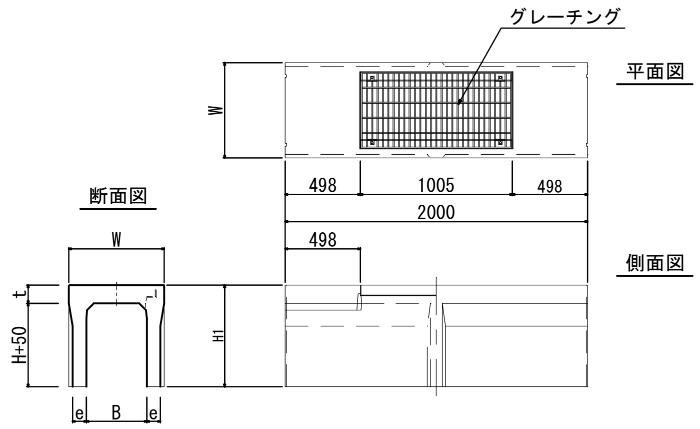


※底打コンクリート厚は50mm以上とする。

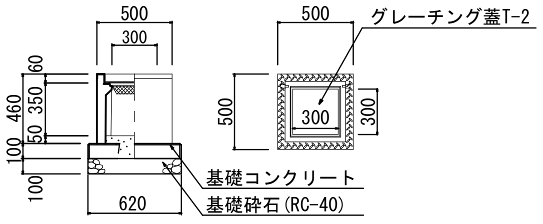
自由勾配側溝工（横断用）300型　数量表　（10m当り）

呼 び 名 (B×H)	寸　法　(mm)				基礎 砕石 (m²)	基礎 コンクリート (m³)	型枠 (m²)	底打 コンクリート (m³)	製品 (本)	グレーチング 蓋 (枚)
	B1	B2	H1	e						
300x 300	570	670	450	85	6.70	0.57	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x 400	570	670	550	85	6.70	0.57	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x 500	570	670	650	85	6.70	0.57	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x 600	570	670	750	85	6.70	0.57	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x 700	620	720	850	110	7.20	0.62	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x 800	620	720	950	110	7.20	0.62	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x 900	620	720	1050	110	7.20	0.62	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x1000	620	720	1150	110	7.20	0.62	2.00	別途計上	5.0	5.0
300x1100	620	720	1250	110	7.20	0.62	2.00	別途計上	5.0	5.0

※グレーチング蓋の製品長は、L=1.0mとする。



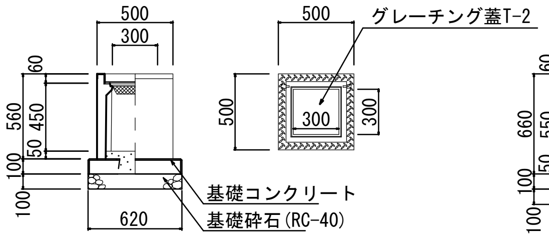
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×400



AS型 可変側溝用桝300×300×400　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×400	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

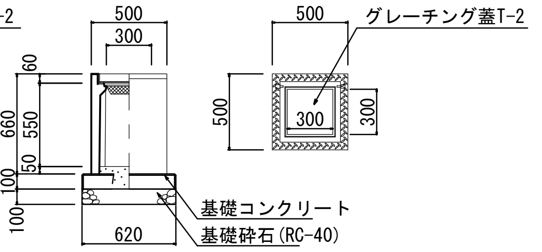
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×500



AS型 可変側溝用桝300×300×500　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×500	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

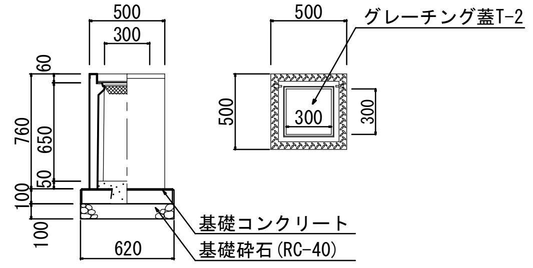
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×600



AS型 可変側溝用桝300×300×600　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×600	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

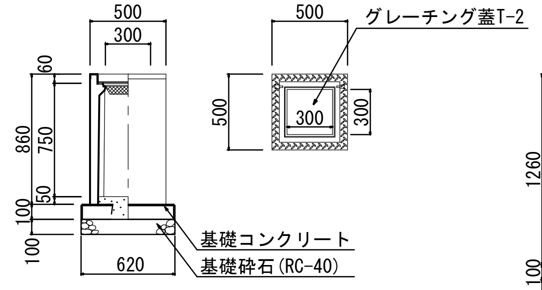
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×700



AS型 可変側溝用桝　300×300×700　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×700	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

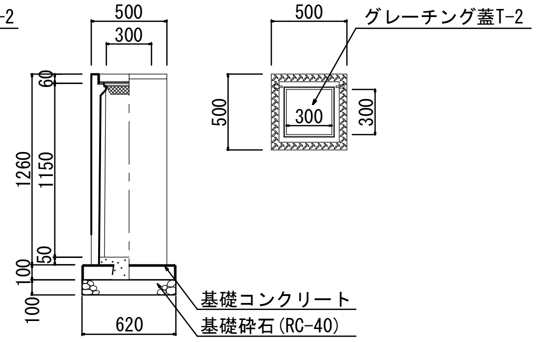
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×800



AS型 可変側溝用桝　300×300×800　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×800	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

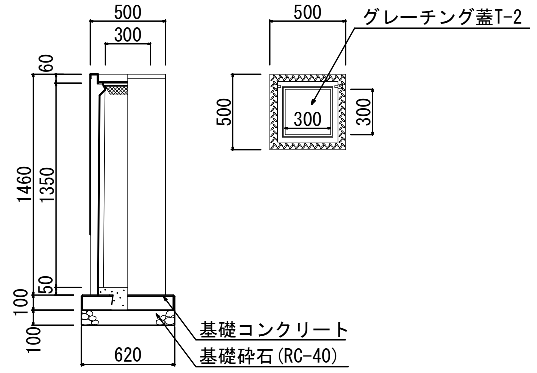
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×1200



AS型 可変側溝用桝　300×300×1200　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×1200	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-2)
□300×1400



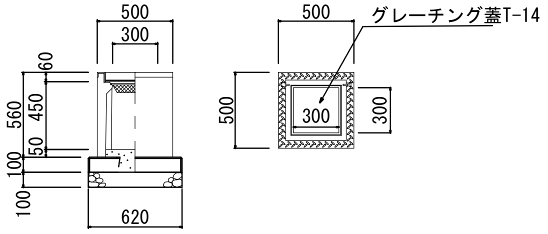
AS型 可変側溝用桝　300×300×1400　１基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×1400	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40　ｔ＝100	m^2	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m^3	0.02	
グレーチング蓋(T-2)	300×300 用	枚	1.00	

参考図

JOB NO.	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（ 校舎棟）（ 建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	外構部分詳細図（５）	縮尺	A1：図示 A3：図示	図番	A －g12
125280											

集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-14)
□300×500

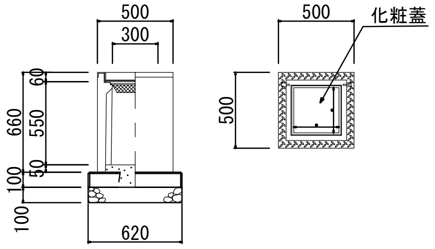


AS型 可変側溝用桝 300×300×500　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×500	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝100	m²	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m³	0.02	
グレーチング蓋(T-14)	300×300 用	枚	1.00	

※基礎砕石は必要に応じて計上して下さい。

集水桝(化粧蓋)
□300×600

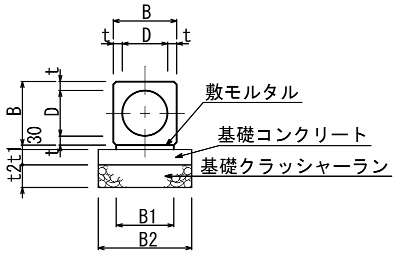


AS型 可変側溝用桝 300×300×600　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
ＡＳ型 可変側溝用桝	300×300×600	基	1.00	
桝ベース	300×300 用	枚	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝100	m²	0.38	
ｲﾝﾊﾞｰﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	18－8－25	m³	0.02	
化粧蓋	300×300 用	枚	1.00	

※基礎砕石は必要に応じて計上して下さい。

遠心ボックスカルバート

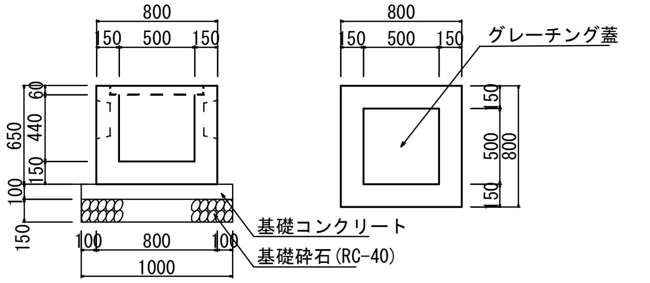


寸法表及び数量表　　（10m当り）

呼び名（内径）	寸法（mm） D	B	B1	B2	t	t1	t2	参考質量（kg）	基礎クラッシャーラン（m³）	t=150(m²)	t=200(m²)	基礎CON（m³）	型枠（m²）	敷ﾓﾙﾀﾙ（m³）	製品（本）
150	150	254	214	450	52	100	150	220	0.68	4.5	—	0.45	2.0	0.06	5.0
200	200	308	268	510	54			301	0.77	5.1		0.51		0.08	
250	250	362	322	560	56			470	0.84	5.6		0.56		0.10	4.2
300	300	420	380	620	60			610	0.93	6.2		0.62		0.11	
350	350	478	438	680	64			766	1.02	6.8		0.68		0.13	
400	400	540	480	740	70			963	1.11	7.4		0.74		0.15	
450	450	604	564	800	77			1200	1.20	8.0		0.80		0.17	
500	500	666	626	870	83			1440	1.31	8.7		0.87		0.19	
600	600	786	746	990	93	150	200	1960	1.98	—	9.9	1.49	3.0	0.22	
700	700	910	870	1110	105			2590	2.22		11.1	1.67		0.26	
800	800	1032	992	1230	116			3270	2.46		12.3	1.85		0.30	
900	900	1152	1112	1350	126			4030	2.70		13.5	2.03		0.33	
1000	1000	1270	1230	1470	135			4830	2.94		14.7	2.21		0.37	
1100	1100	1400	1360	1600	150			5900	3.20		16.0	2.40		0.41	

プレキャスト集水桝
参考ﾒｰｶｰ：株式会社ミルコン

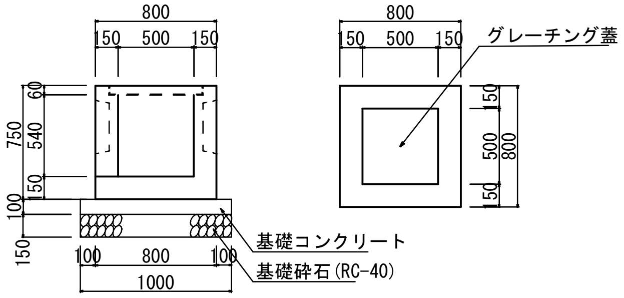
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)
□500×500



集水桝 □500×500　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
集水桝	500×500×500	基	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝150	m²	1.00	
基礎コンクリート	t＝100	m³	0.10	
型枠		m²	0.40	
グレーチング蓋	500×500 用	枚	1.00	

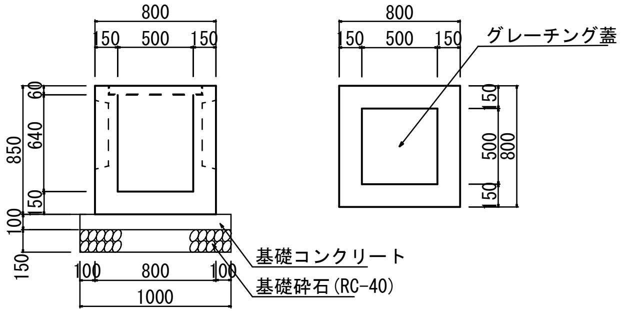
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)
□500×600



集水桝 □500×600　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
集水桝	500×500×600	基	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝150	m²	1.00	
基礎コンクリート	t＝100	m³	0.10	
型枠		m²	0.40	
グレーチング蓋	500×500 用	枚	1.00	

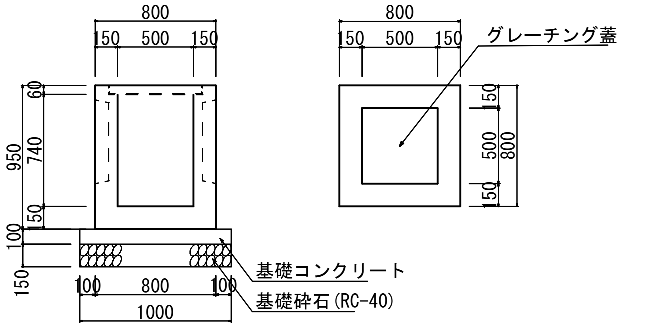
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)
□500×700



集水桝 □500×700　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
集水桝	500×500×700	基	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝150	m²	1.00	
基礎コンクリート	t＝100	m³	0.10	
型枠		m²	0.40	
グレーチング蓋	500×500 用	枚	1.00	

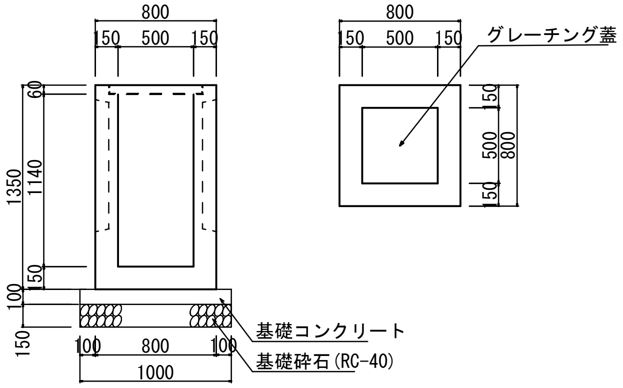
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)
□500×800



集水桝 □500×800　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
集水桝	500×500×800	基	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝150	m²	1.00	
基礎コンクリート	t＝100	m³	0.10	
型枠		m²	0.40	
グレーチング蓋	500×500 用	枚	1.00	

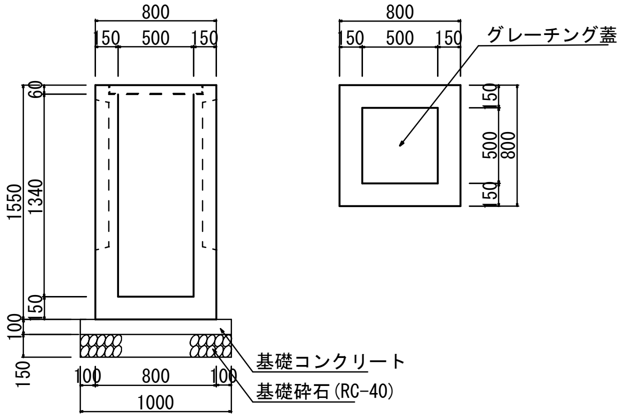
集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)
□500×1200



集水桝 □500×1200　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
集水桝	500×500×1200	基	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝150	m²	1.00	
基礎コンクリート	t＝100	m³	0.10	
型枠		m²	0.40	
グレーチング蓋	500×500 用	枚	1.00	

集水桝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋)
□500×1400



集水桝 □500×1400　　1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量	備考
集水桝	500×500×1400	基	1.00	
基礎砕石	RC-40 t＝150	m²	1.00	
基礎コンクリート	t＝100	m³	0.10	
型枠		m²	0.40	
グレーチング蓋	500×500 用	枚	1.00	

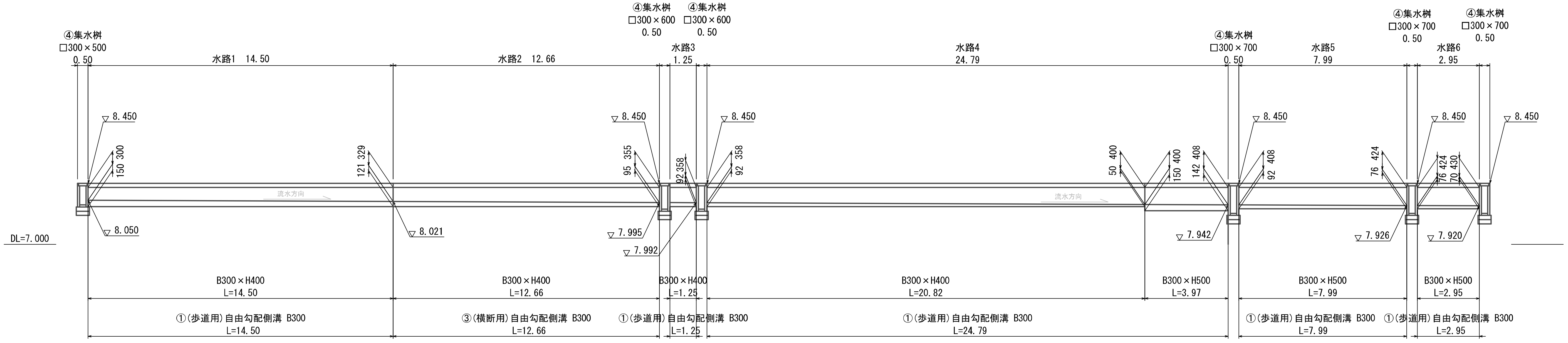
参考図

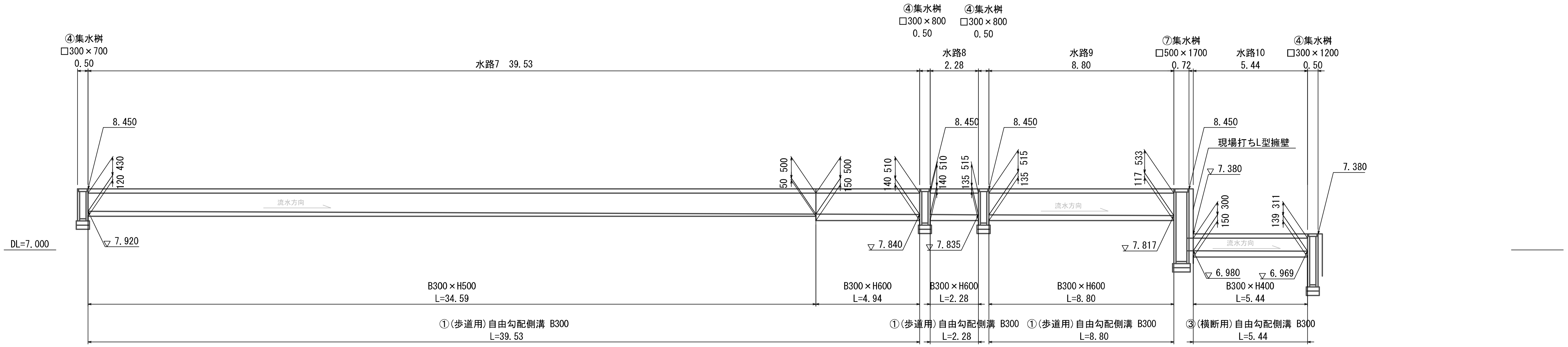
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	外構部分詳細図（6）	縮尺	A1：図示 A3：図示	図番	A－g13

展開図(1)

SV=1:100(A3)
SH=1:200(A3)　※ 延長方向の寸法はm単位、高さ方向の寸法はmm単位での表記とする。

(北側へ流下)



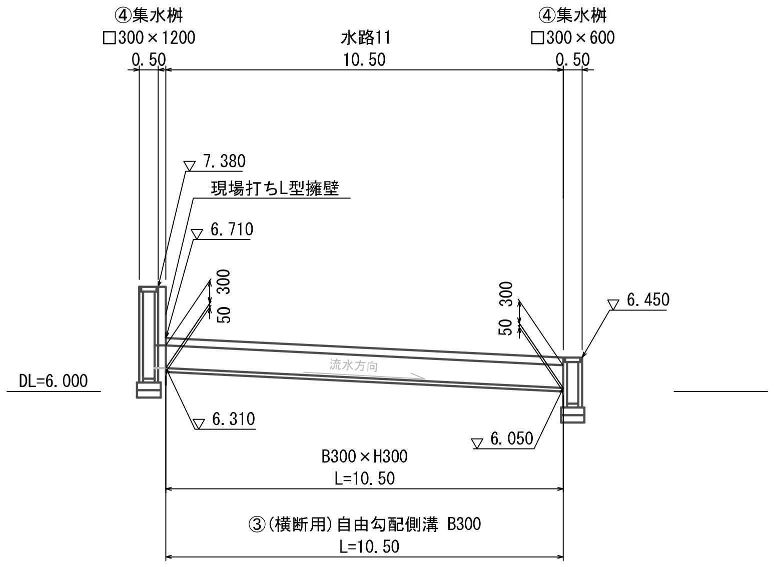


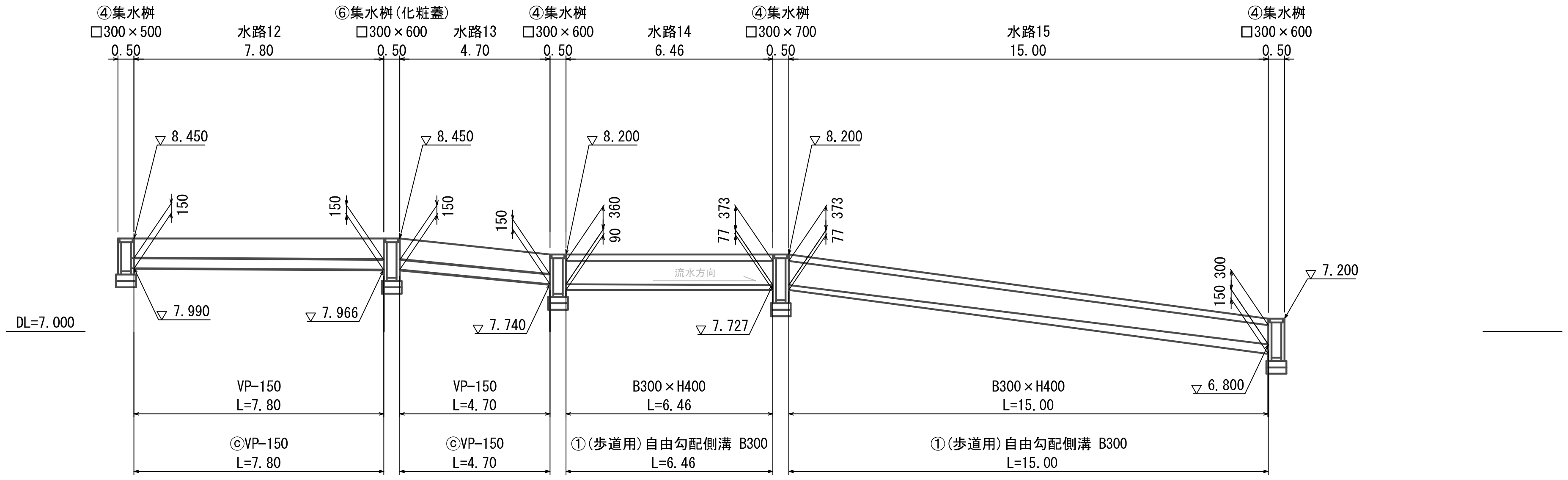
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 自由勾配側溝展開図（１）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図番 A－g14

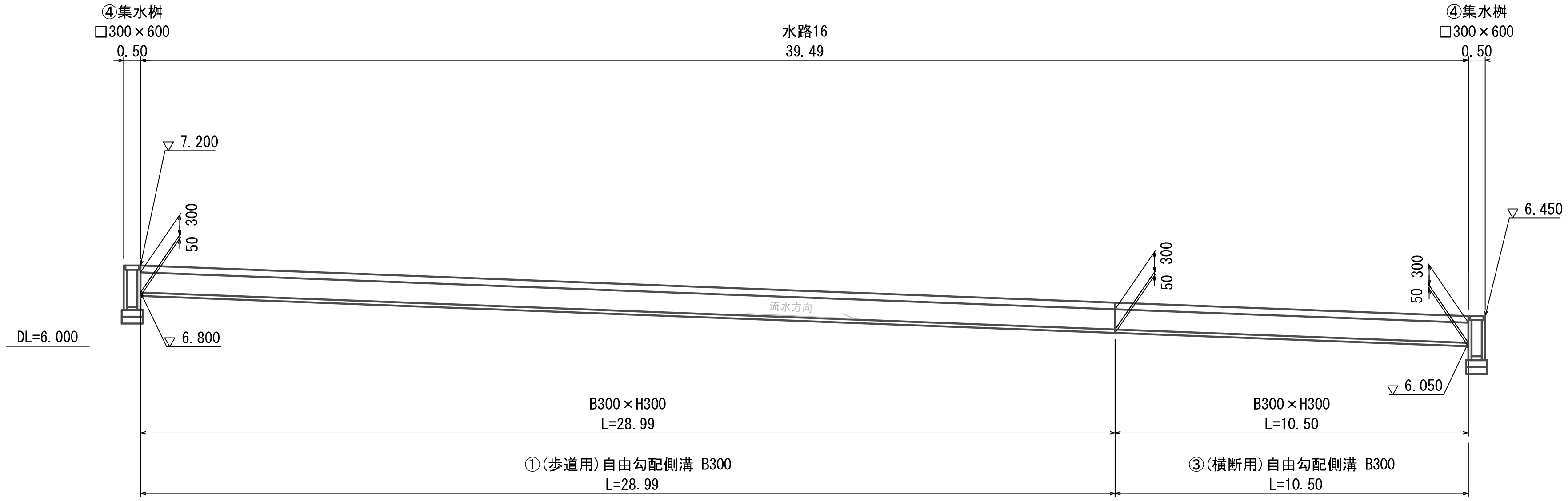
展 開 図(2)

SV=1:100(A3)
SH=1:200(A3)　※ 延長方向の寸法はm単位、高さ方向の寸法はmm単位での表記とする。

（北側へ流下）





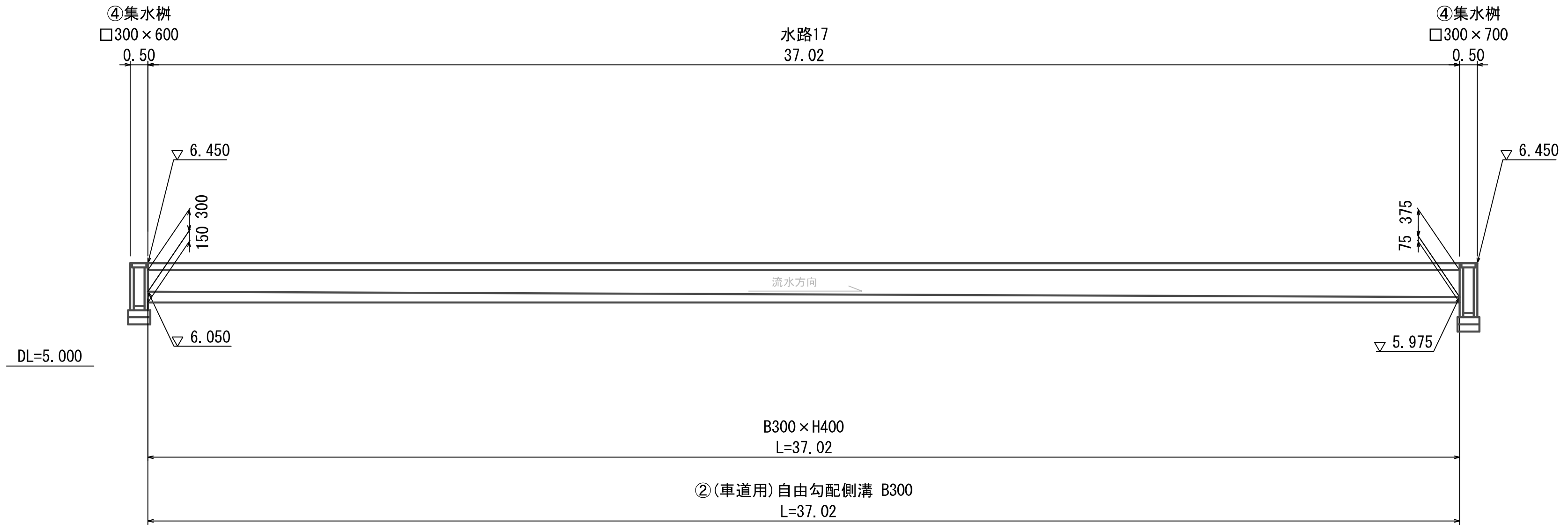


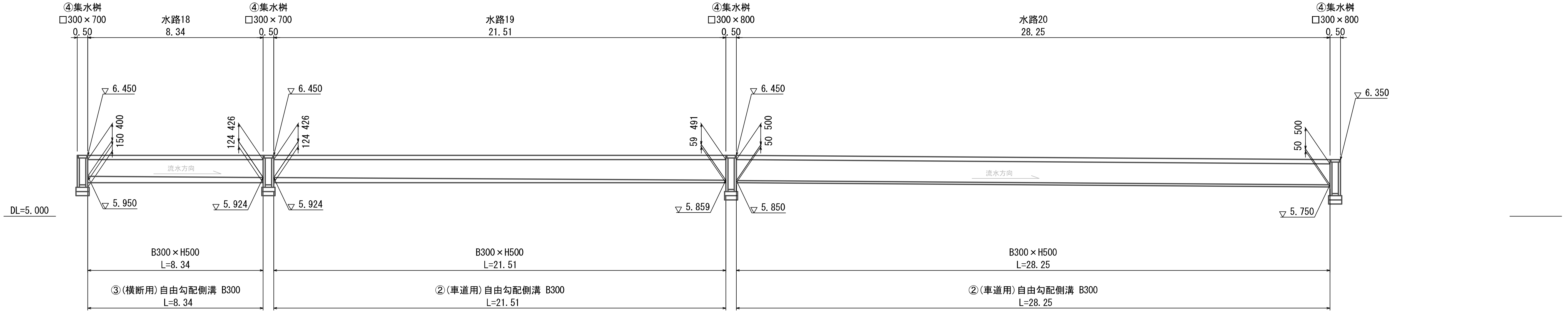
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 自由勾配側溝展開図（２）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図番 A － g24

展 開 図(3)

SV=1:100(A3)
SH=1:200(A3)　※ 延長方向の寸法はm単位、高さ方向の寸法はmm単位での表記とする。

（北側へ流下）



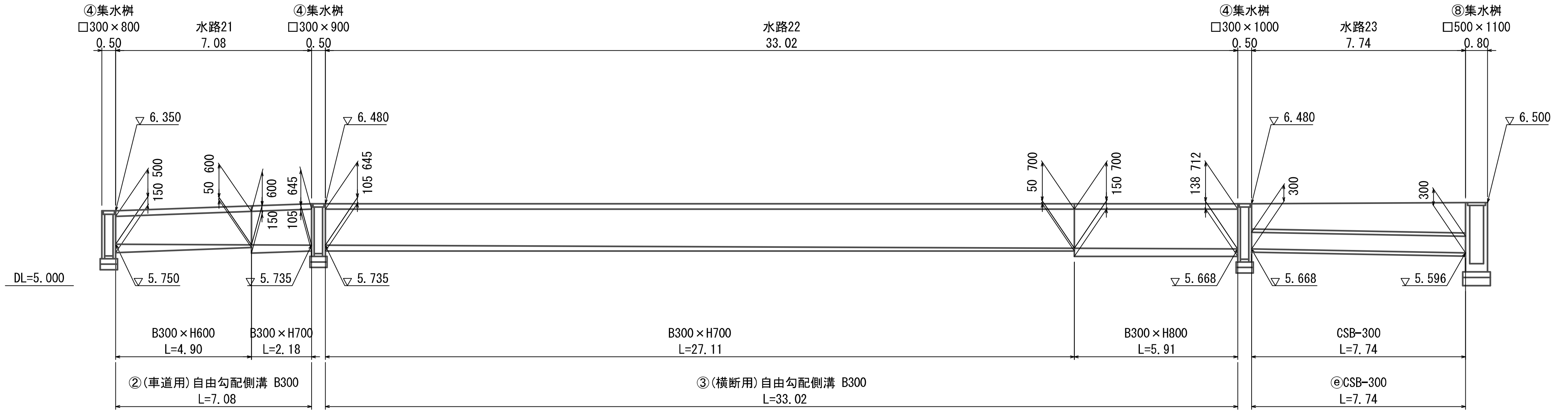


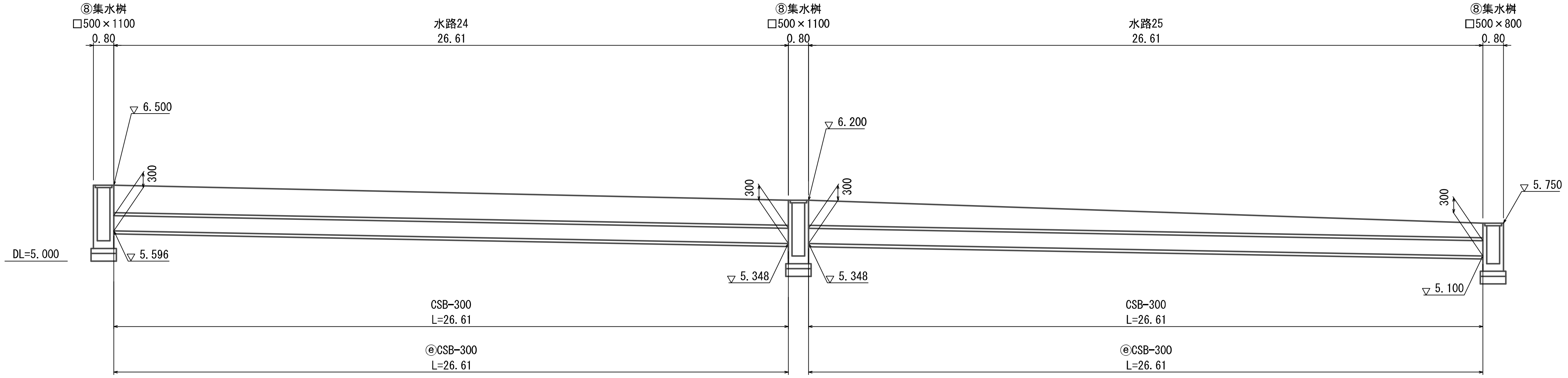
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・　・	標題	自由勾配側溝展開図（３）	縮尺	A1：1/200 A3：1/400	図番 A－g16

展 開 図(4)

SV=1:100(A3)
SH=1:200(A3)　※ 延長方向の寸法はm単位、高さ方向の寸法はmm単位での表記とする。

(北側へ流下)



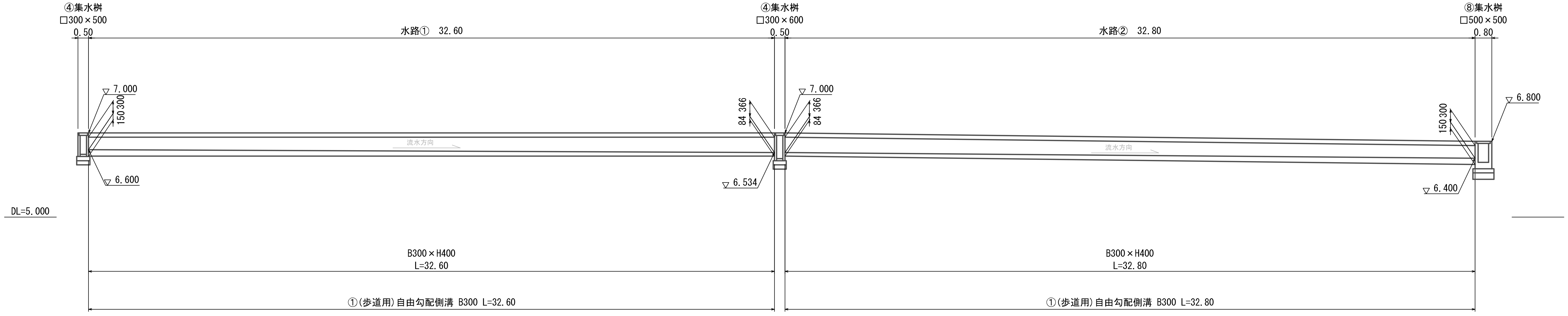


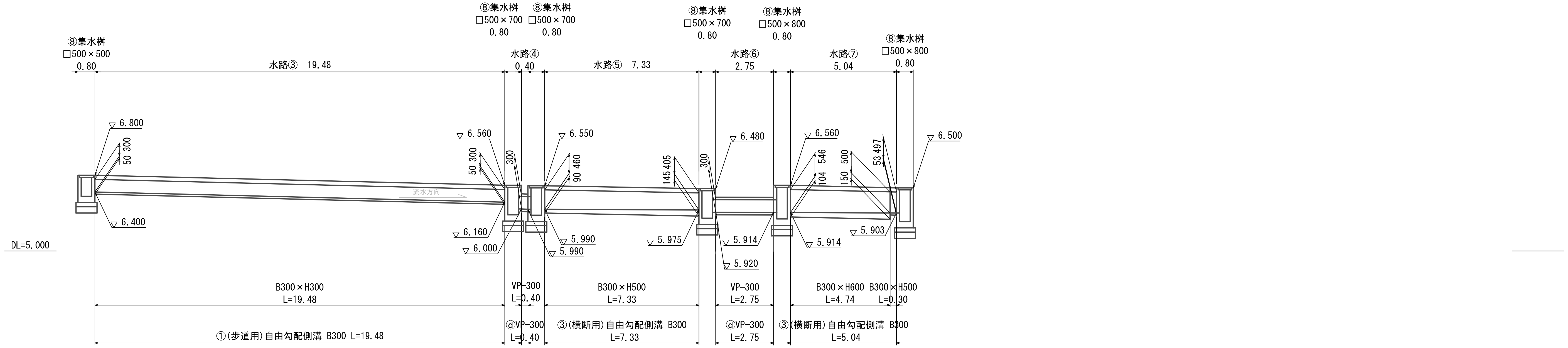
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所	株式会社浦建築研究所	一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	自由勾配側溝展開図（４）	縮尺	A1：1/200 A3：1/400	図番	A－g17

展開図(5)

SV=1:100(A3)
SH=1:200(A3)　※ 延長方向の寸法はm単位、高さ方向の寸法はmm単位での表記とする。

(南側へ流下)



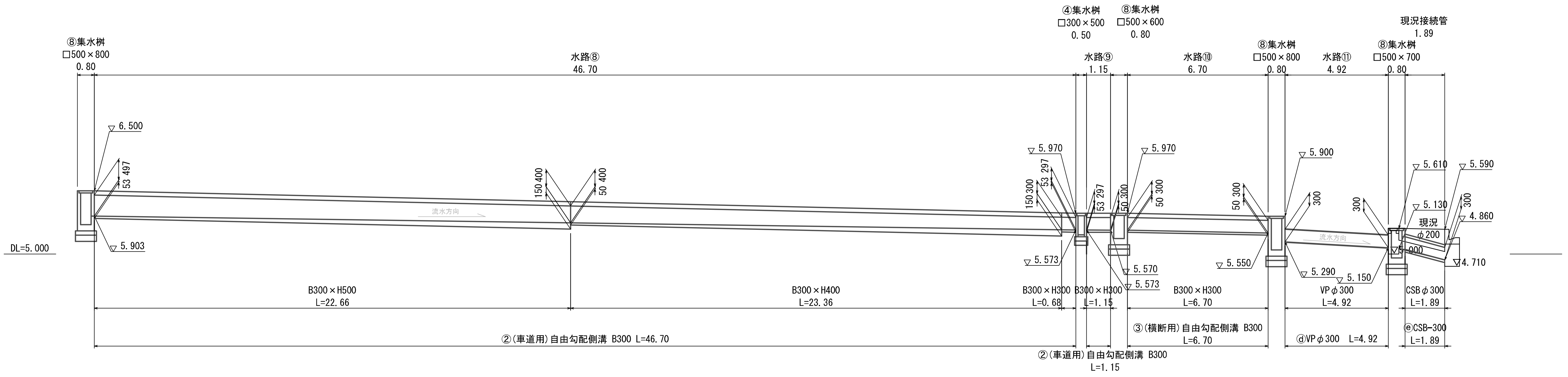


JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	自由勾配側溝展開図（５）
縮尺	A1：1/200 A3：1/400	図番	A－g18				

展開図(6)

SV=1:100(A3)
SH=1:200(A3)　※ 延長方向の寸法はm単位、高さ方向の寸法はmm単位での表記とする。

（南側へ流下）



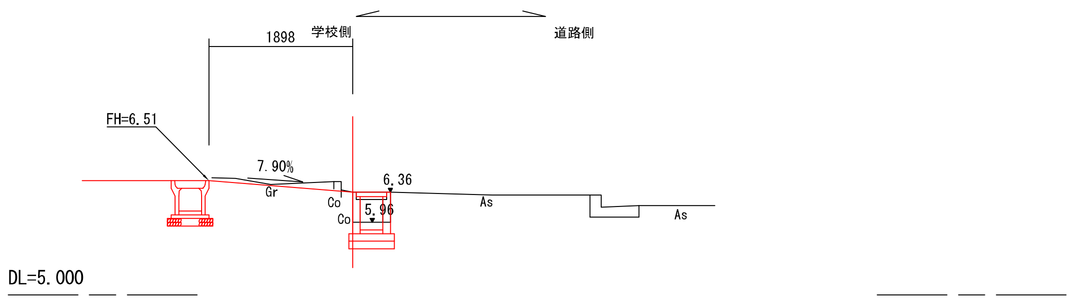
JOB NO.							
125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　自由勾配側溝展開図（6）	縮尺　A1：1/200 A3：1/400	図番　A－g19

断面図 (1)

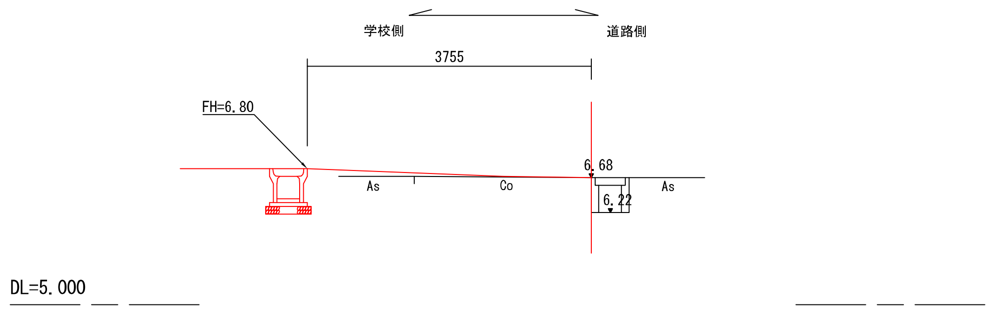
(A3) S= 1 :100

輪島市河井町　地内

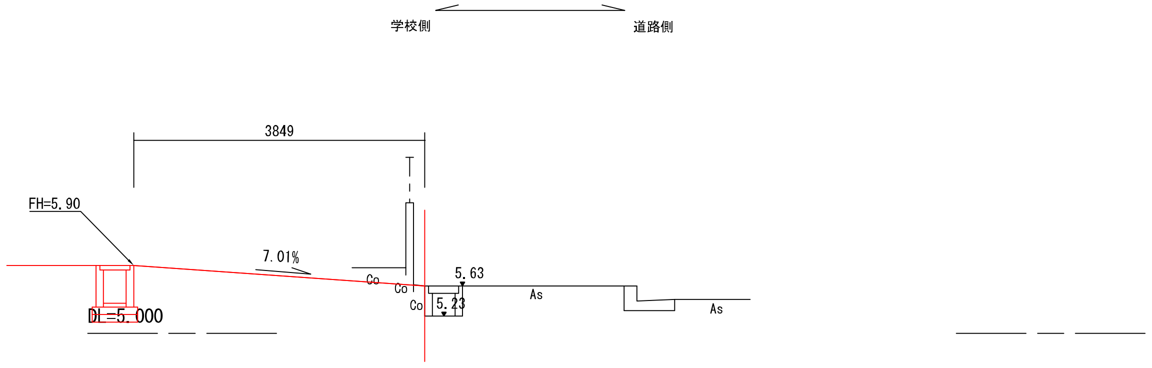
道路断面C



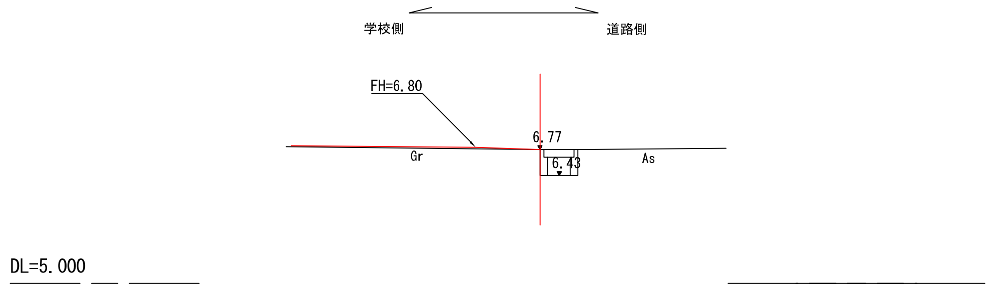
道路断面E



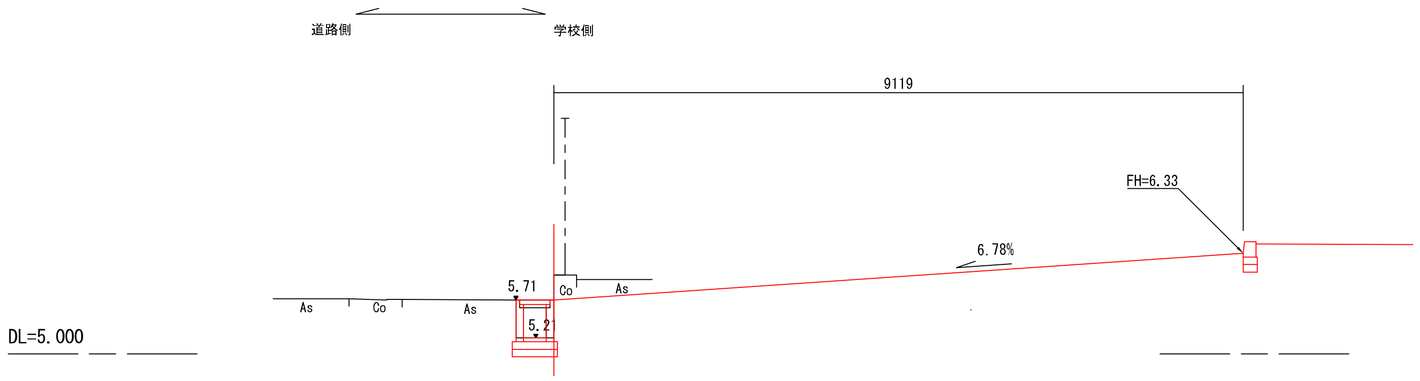
道路断面B



道路断面D



道路断面A



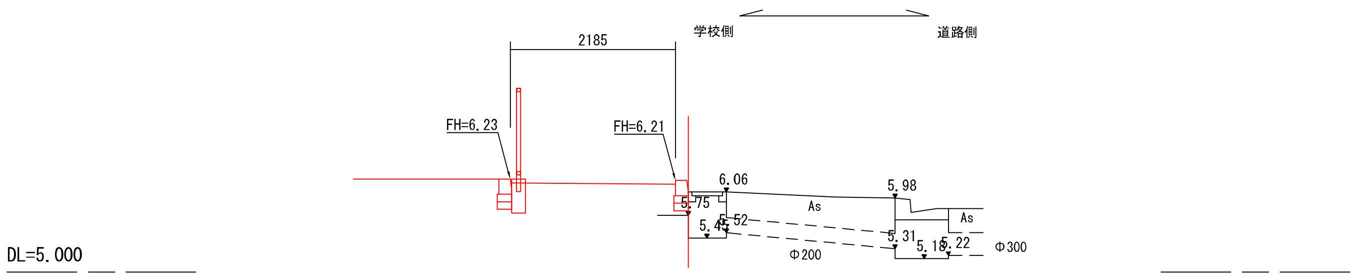
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	断面図（１）	縮尺	A1：1/200 A3：1/400	図番 A － g20

断　面　図　(2)

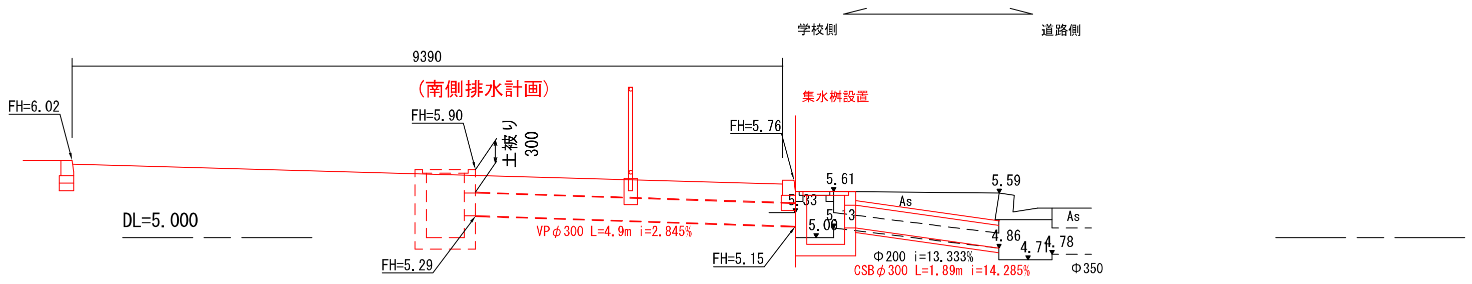
(A3)S= 1 :100

輪島市河井町　地内

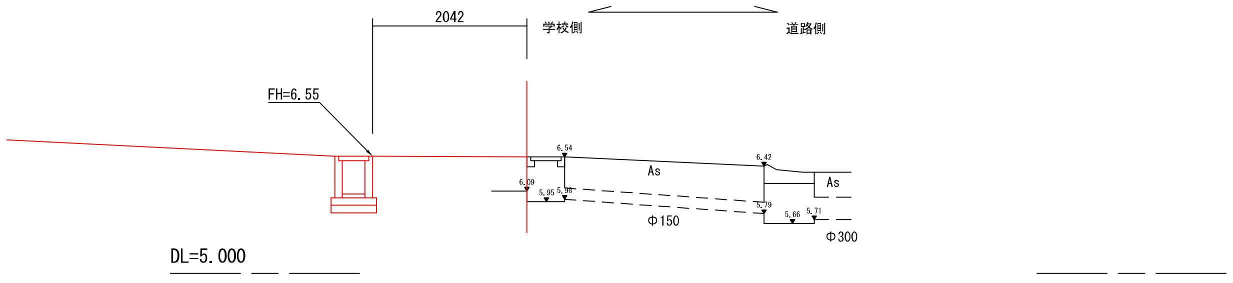
水路断面7



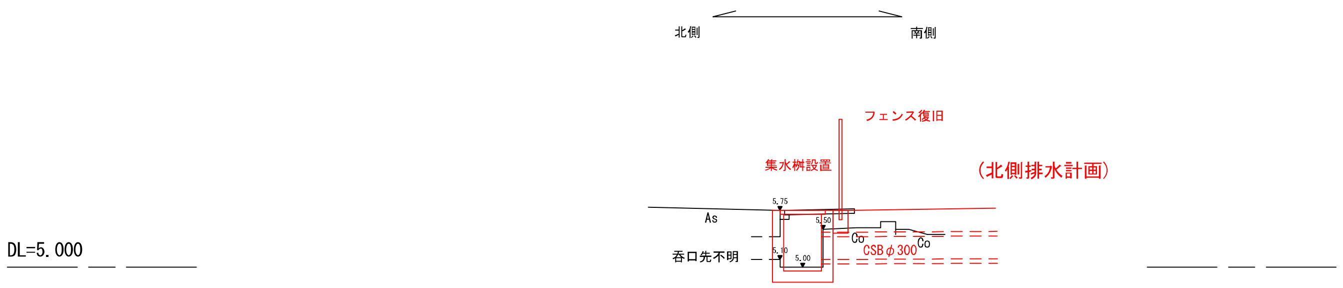
水路断面6



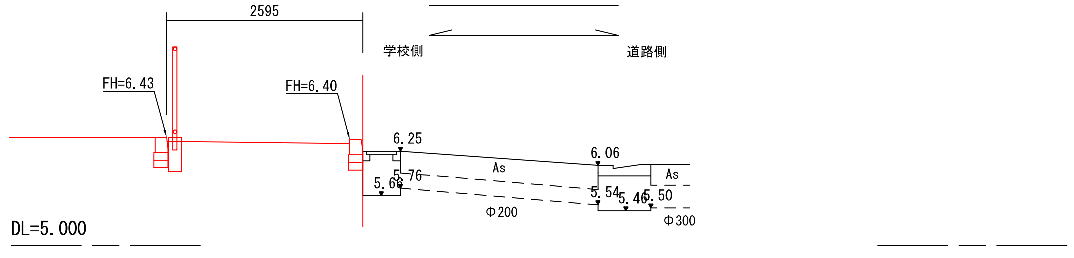
水路断面9



水路断面1



水路断面8



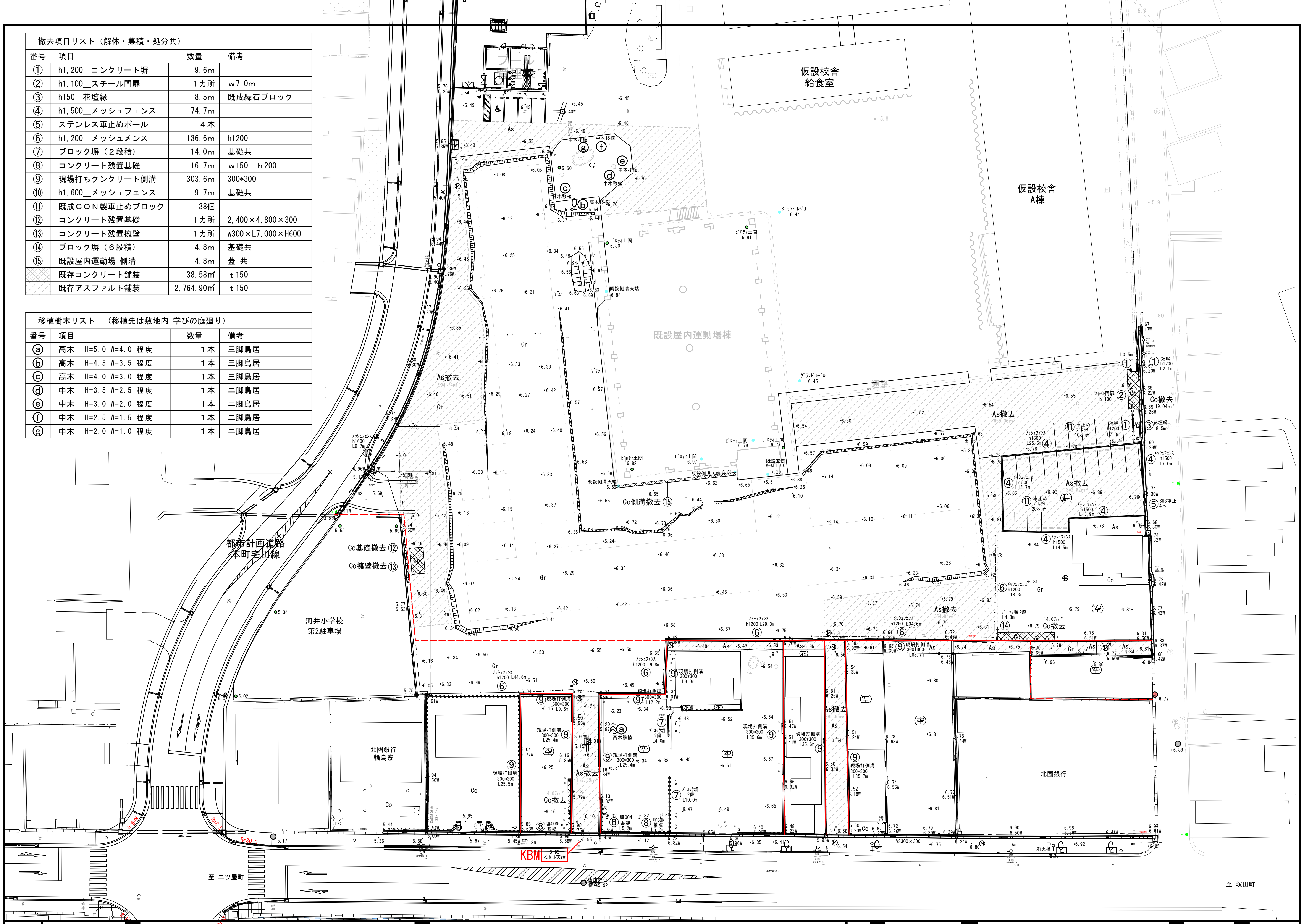
JOB NO. 125280	2026 年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計　・　・	標題　断面図（２）	縮尺　A1 : 1/200 A3 : 1/400	図番　A − g21

撤去項目リスト（解体・集積・処分共）

番号	項目	数量	備考
①	h1,200＿コンクリート塀	9.6m	
②	h1,100＿スチール門扉	1カ所	w7.0m
③	h150＿花壇縁	8.5m	既成縁石ブロック
④	h1,500＿メッシュフェンス	74.7m	
⑤	ステンレス車止めポール	４本	
⑥	h1,200＿メッシュメンス	136.6m	h1200
⑦	ブロック塀（２段積）	14.0m	基礎共
⑧	コンクリート残置基礎	16.7m	w150　h200
⑨	現場打ちクンクリート側溝	303.6m	300*300
⑩	h1,600＿メッシュフェンス	9.7m	基礎共
⑪	既成ＣＯＮ製車止めブロック	38個	
⑫	コンクリート残置基礎	1カ所	2,400×4,800×300
⑬	コンクリート残置擁壁	1カ所	w300×L7,000×H600
⑭	ブロック塀（６段積）	4.8m	基礎共
⑮	既設屋内運動場 側溝	4.8m	蓋 共
▩	既存コンクリート舗装	38.58㎡	t150
▨	既存アスファルト舗装	2,764.90㎡	t150

移植樹木リスト　（移植先は敷地内 学びの庭廻り）

番号	項目	数量	備考
ⓐ	高木　H=5.0 W=4.0 程度	１本	三脚鳥居
ⓑ	高木　H=4.5 W=3.5 程度	１本	三脚鳥居
ⓒ	高木　H=4.0 W=3.0 程度	１本	三脚鳥居
ⓓ	中木　H=3.5 W=2.5 程度	１本	二脚鳥居
ⓔ	中木　H=3.0 W=2.0 程度	１本	二脚鳥居
ⓕ	中木　H=2.5 W=1.5 程度	１本	二脚鳥居
ⓖ	中木　H=2.0 W=1.0 程度	１本	二脚鳥居

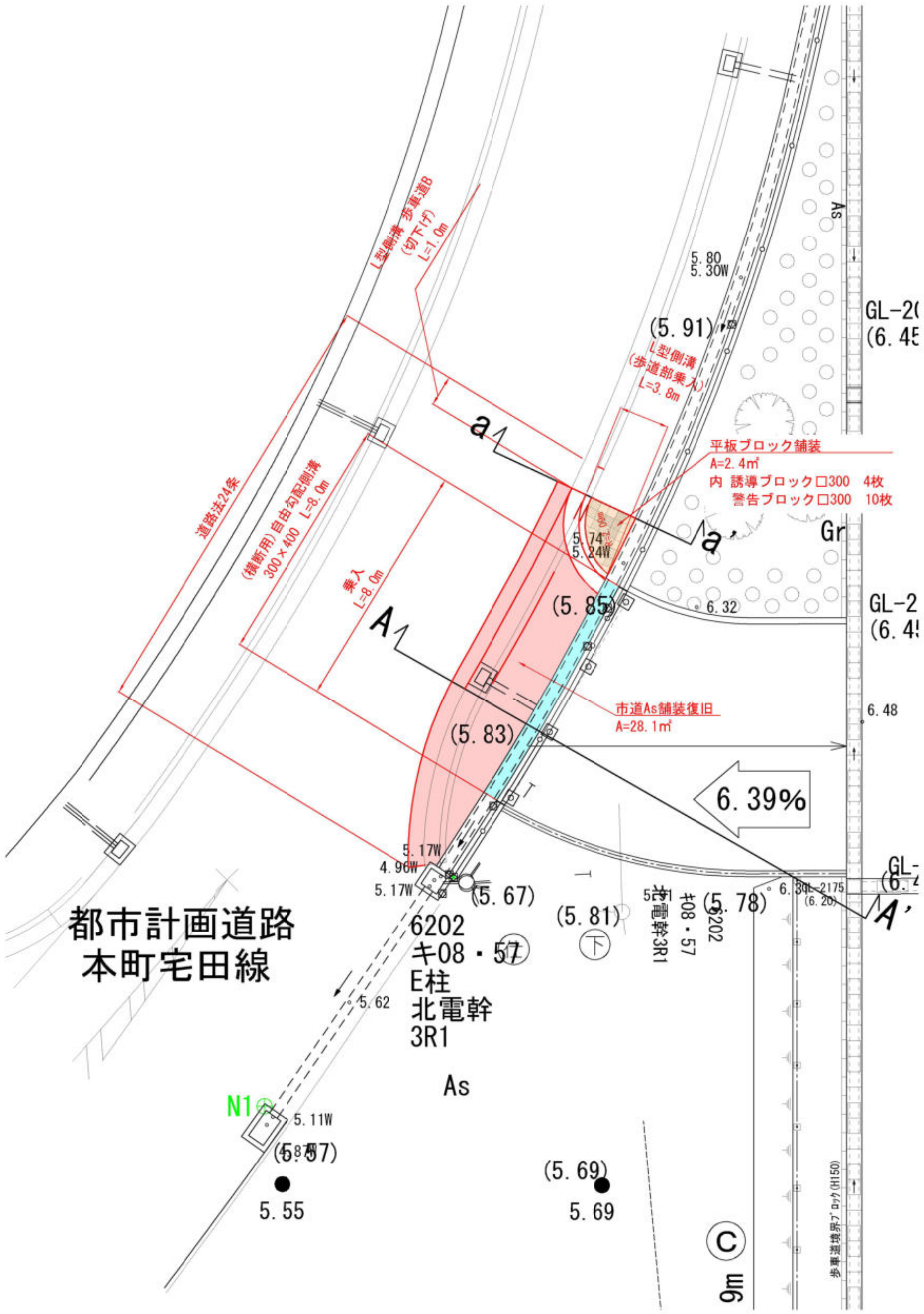


JOB NO.									
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	撤去図・現況レベル図	縮尺 A1：1/300 A3：1/600	図番 A −g22

乗入計画図(1)

平面図

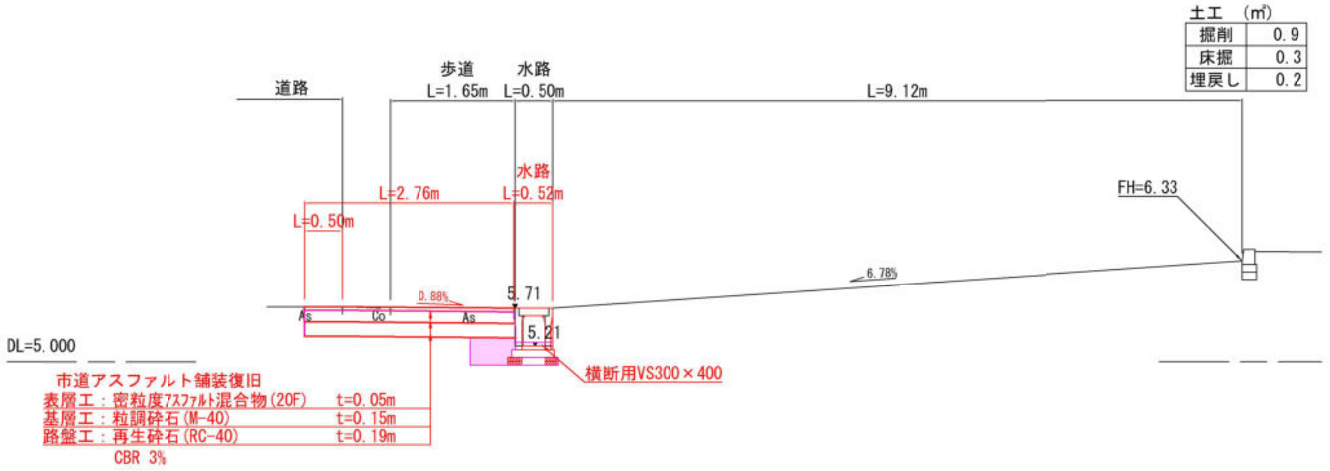
S=1:200(A3)



断面図

S=1:100(A3)

A-A'断面

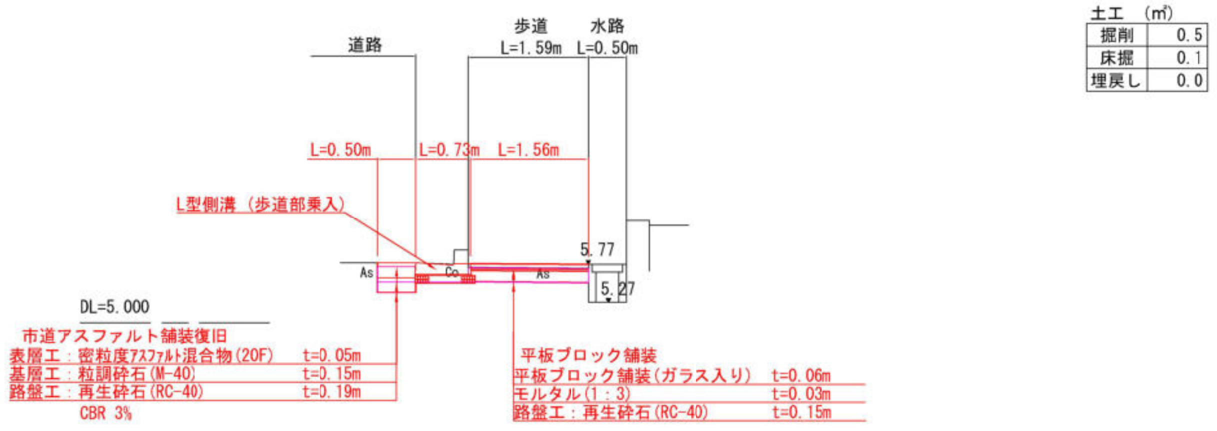


土工 (㎡)

掘削	0.9
床掘	0.3
埋戻し	0.2

市道アスファルト舗装復旧
表層工：密粒度アスファルト混合物(20F) t=0.05m
基層工：粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

a-a'断面



土工 (㎡)

掘削	0.5
床掘	0.1
埋戻し	0.0

市道アスファルト舗装復旧
表層工：密粒度アスファルト混合物(20F) t=0.05m
基層工：粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

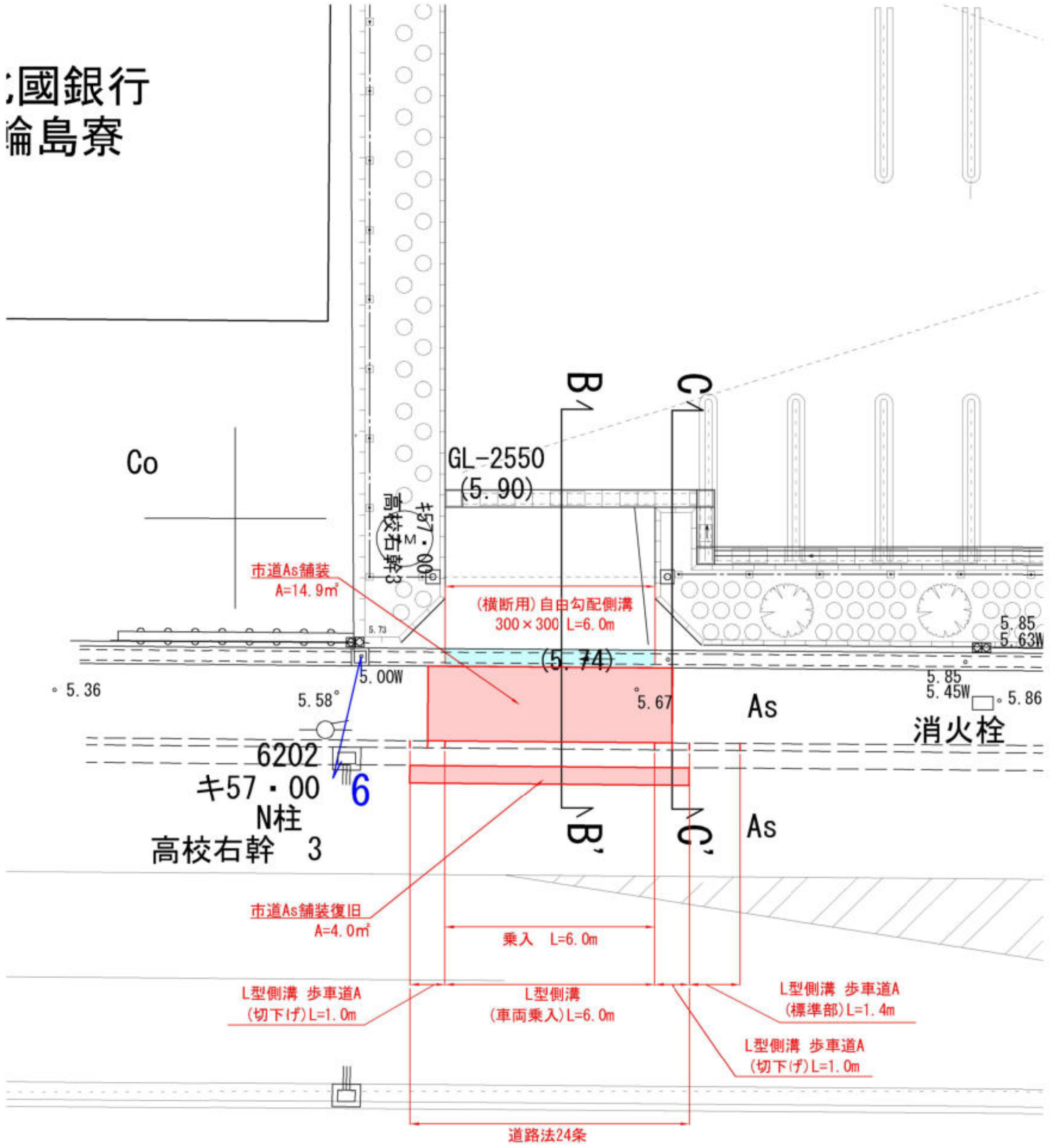
平板ブロック舗装
平板ブロック舗装(ガラス入り) t=0.06m
モルタル(1：3) t=0.03m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.15m

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計	・ ・	標題	乗入部計画図（１）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400
							図番	A － g23

乗入計画図(2)

平面図

S=1:200(A3)



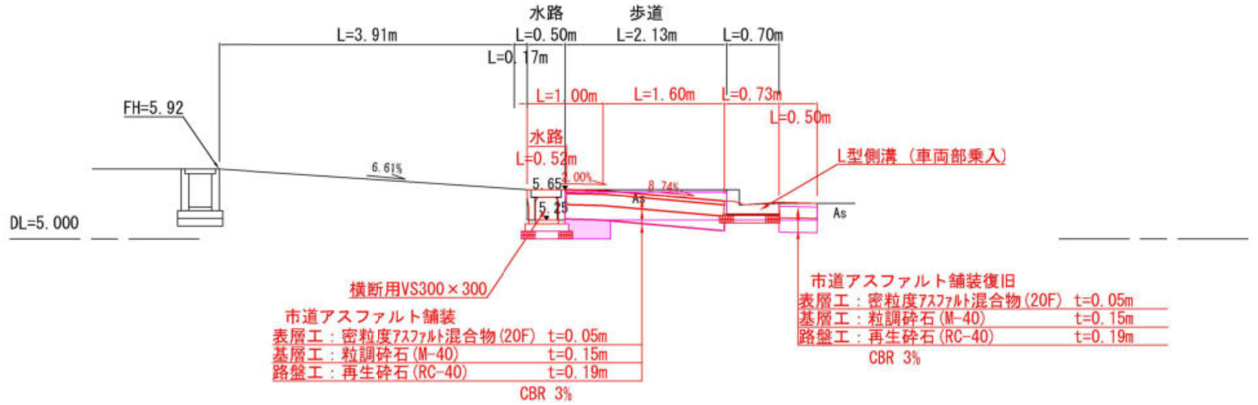
断面図

S=1:100(A3)

B-B' 断面

土工 (㎥)

掘削	0.9
床掘	0.4
埋戻し	0.1



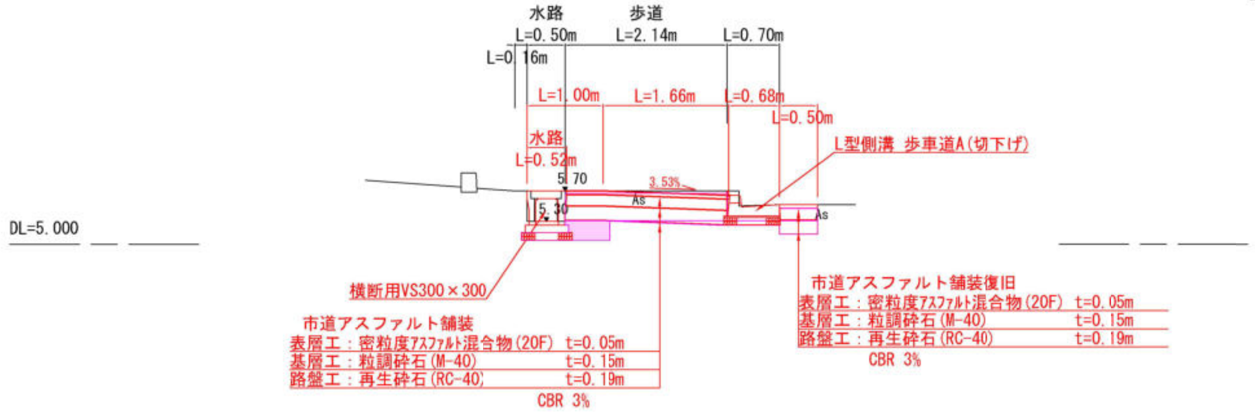
市道アスファルト舗装
表層工:密粒度アスファルト混合物(20F) t=0.05m
基層工:粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工:再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

市道アスファルト舗装復旧
表層工:密粒度アスファルト混合物(20F) t=0.05m
基層工:粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工:再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

C-C' 断面

土工 (㎥)

掘削	0.9
床掘	0.4
埋戻し	0.1



市道アスファルト舗装
表層工:密粒度アスファルト混合物(20F) t=0.05m
基層工:粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工:再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

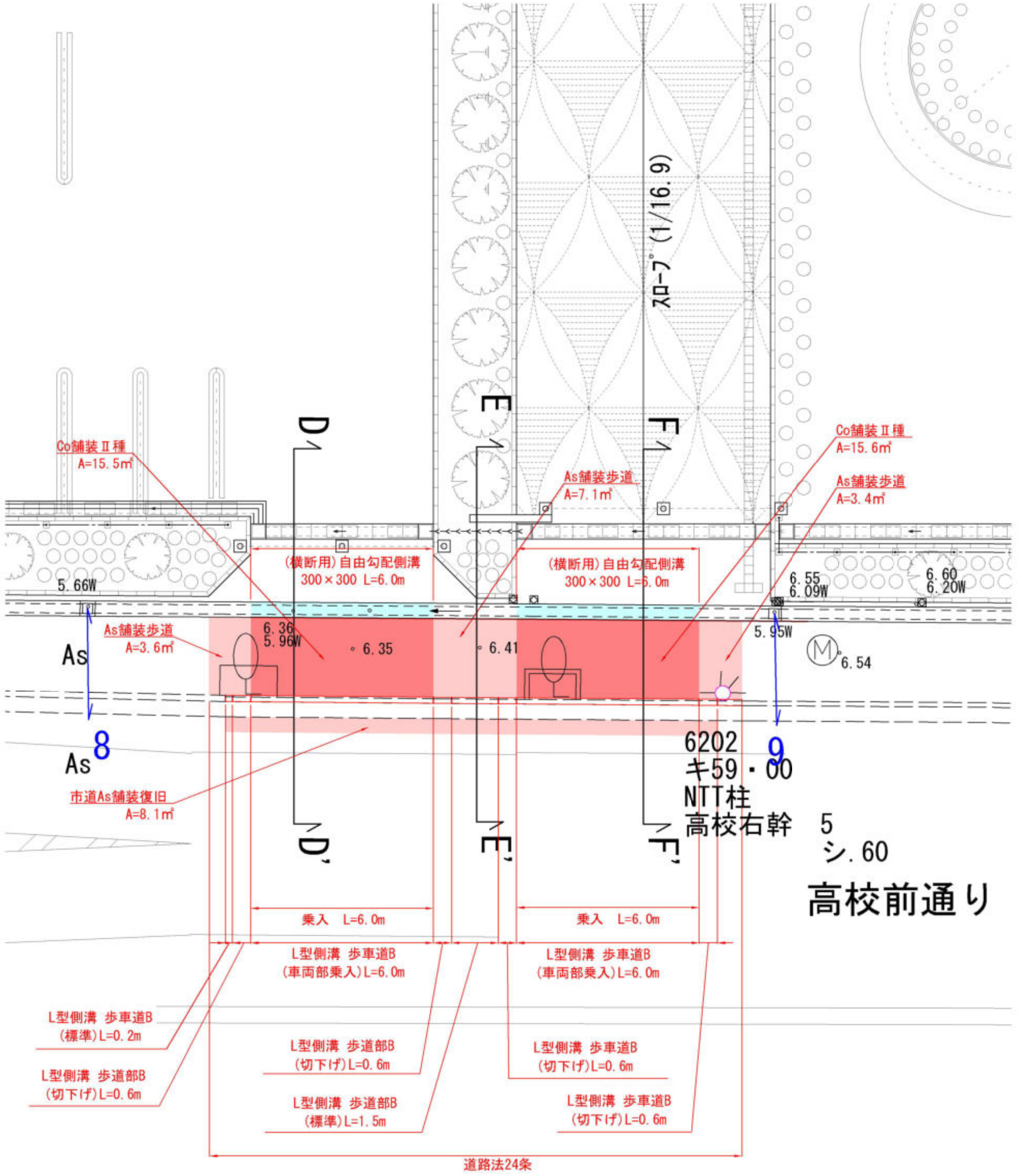
市道アスファルト舗装復旧
表層工:密粒度アスファルト混合物(20F) t=0.05m
基層工:粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工:再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事(校舎棟) (建築工事)	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題 乗入部計画図(2)	縮尺 A1:1/200 A3:1/400	図番 A－g24

乗入計画図(3)

平面図

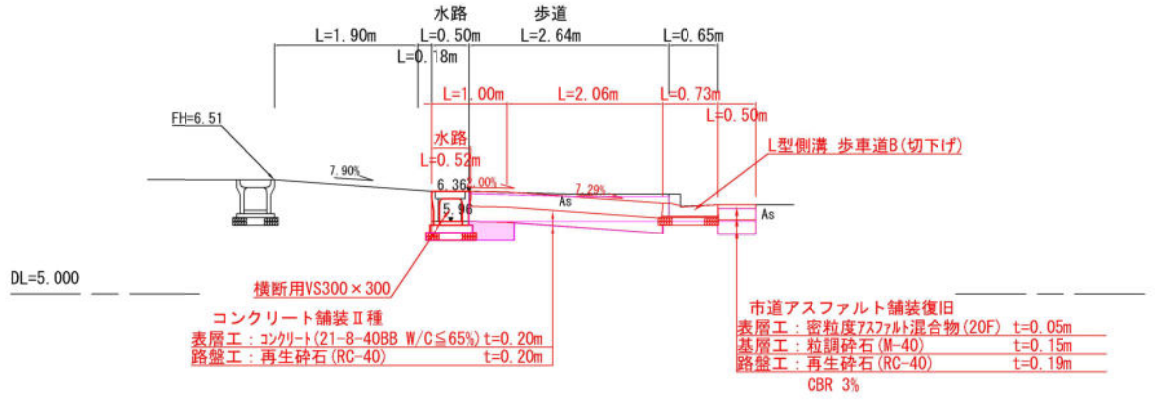
S=1:200(A3)



断面図

S=1:100(A3)

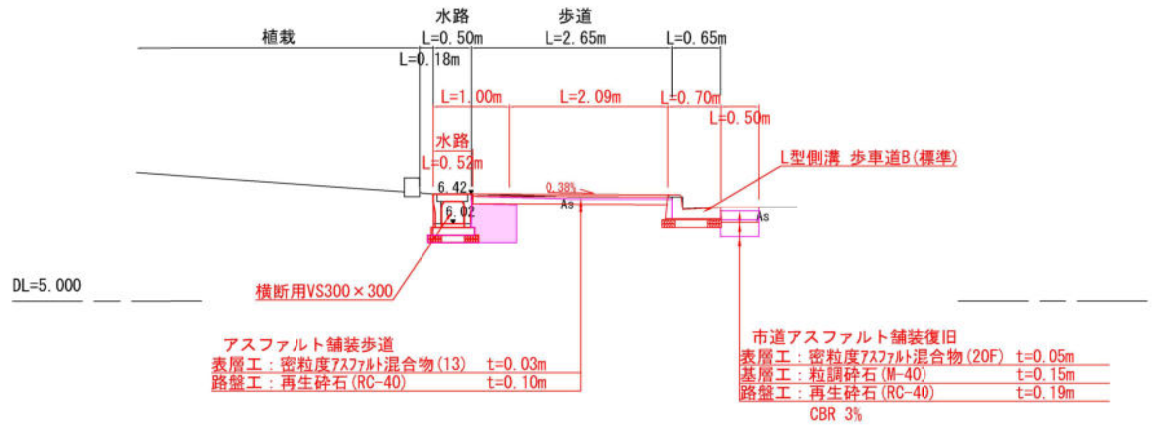
D-D' 断面



土工　(㎥)

掘削	1.0
床掘	0.5
埋戻し	0.1

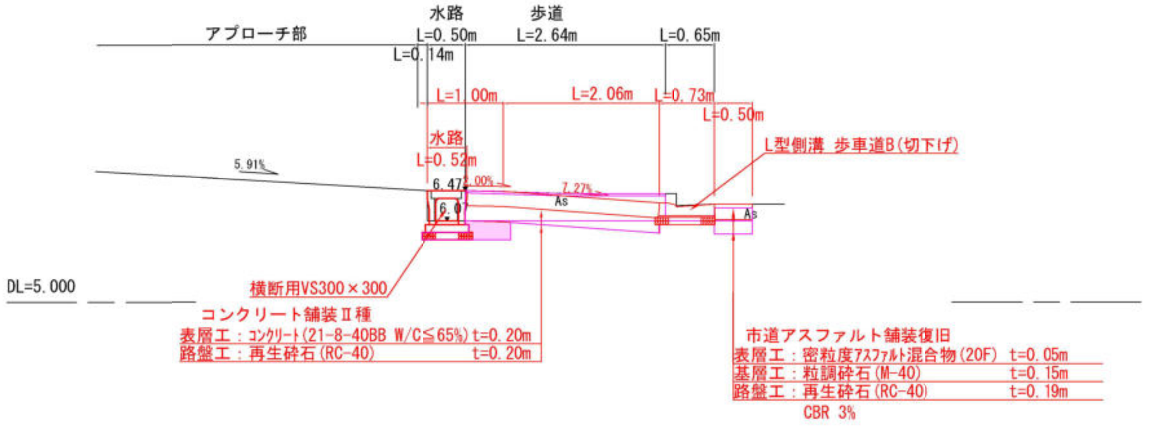
E-E' 断面



土工　(㎥)

掘削	0.3
床掘	0.5
埋戻し	0.3

F-F' 断面



土工　(㎥)

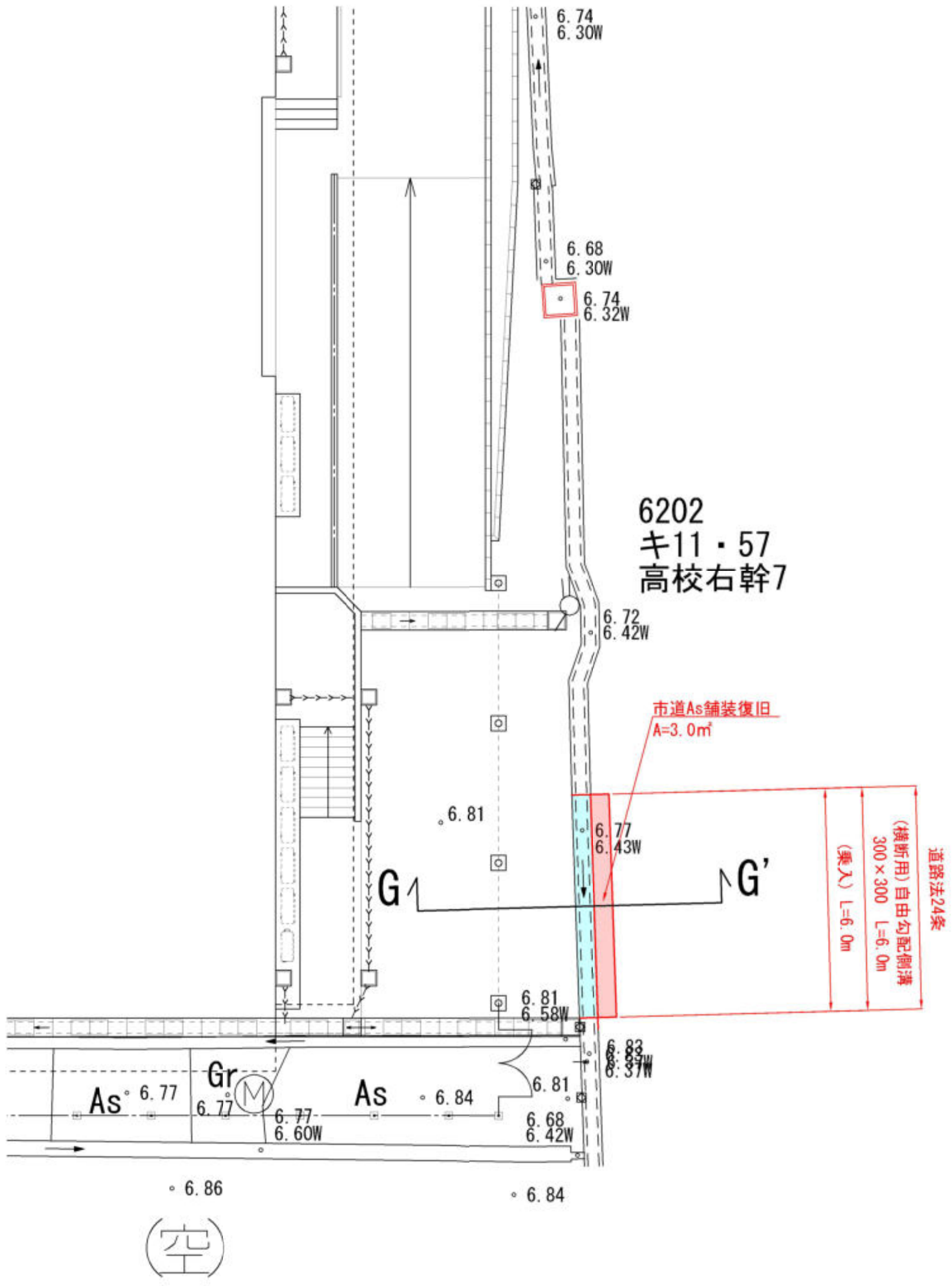
掘削	1.0
床掘	0.5
埋戻し	0.1

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	乗入部計画図（３）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図番 A － g25

乗入計画図(4)

平面図

S=1:200(A3)



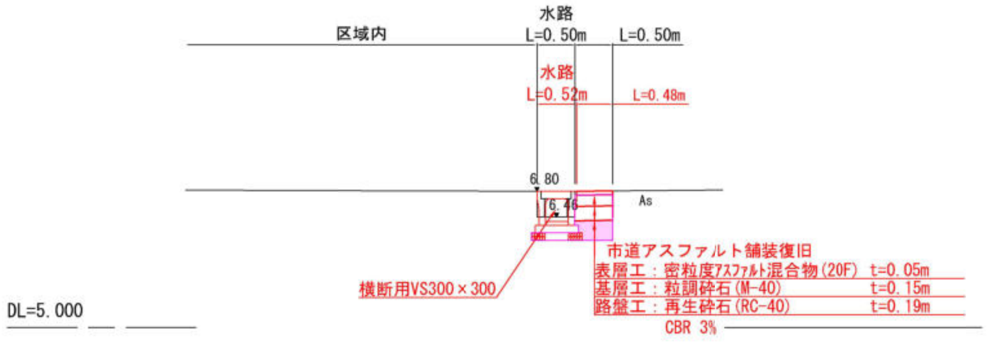
断面図

S=1:100(A3)

G-G' 断面

土工 (㎡)

掘削	0.0
床掘	0.4
埋戻し	0.1

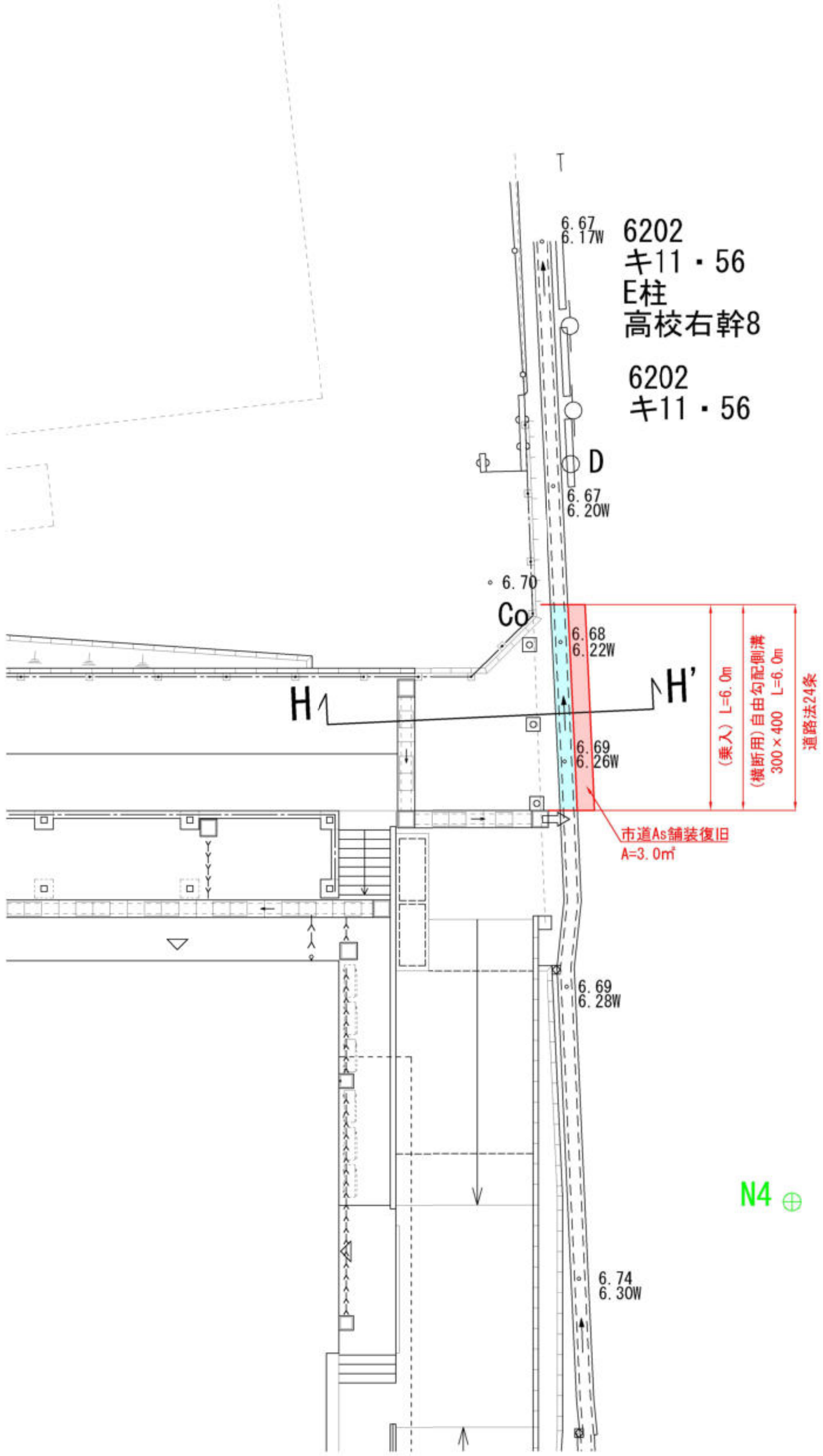


JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	乗入部計画図（４）	縮尺	A1：1/200 A3：1/400	図番	A － g26

乗入計画図(5)

平面図

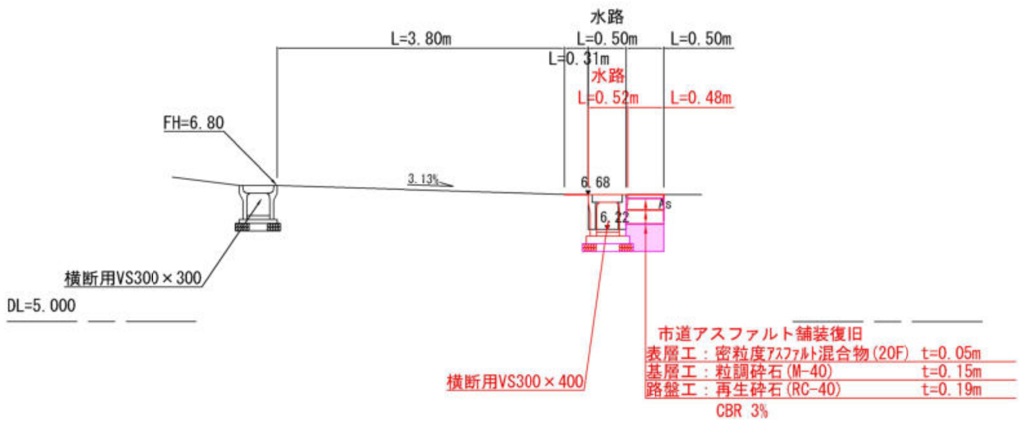
S=1:200(A3)



断面図

S=1:100(A3)

H-H' 断面



土工 (㎡)

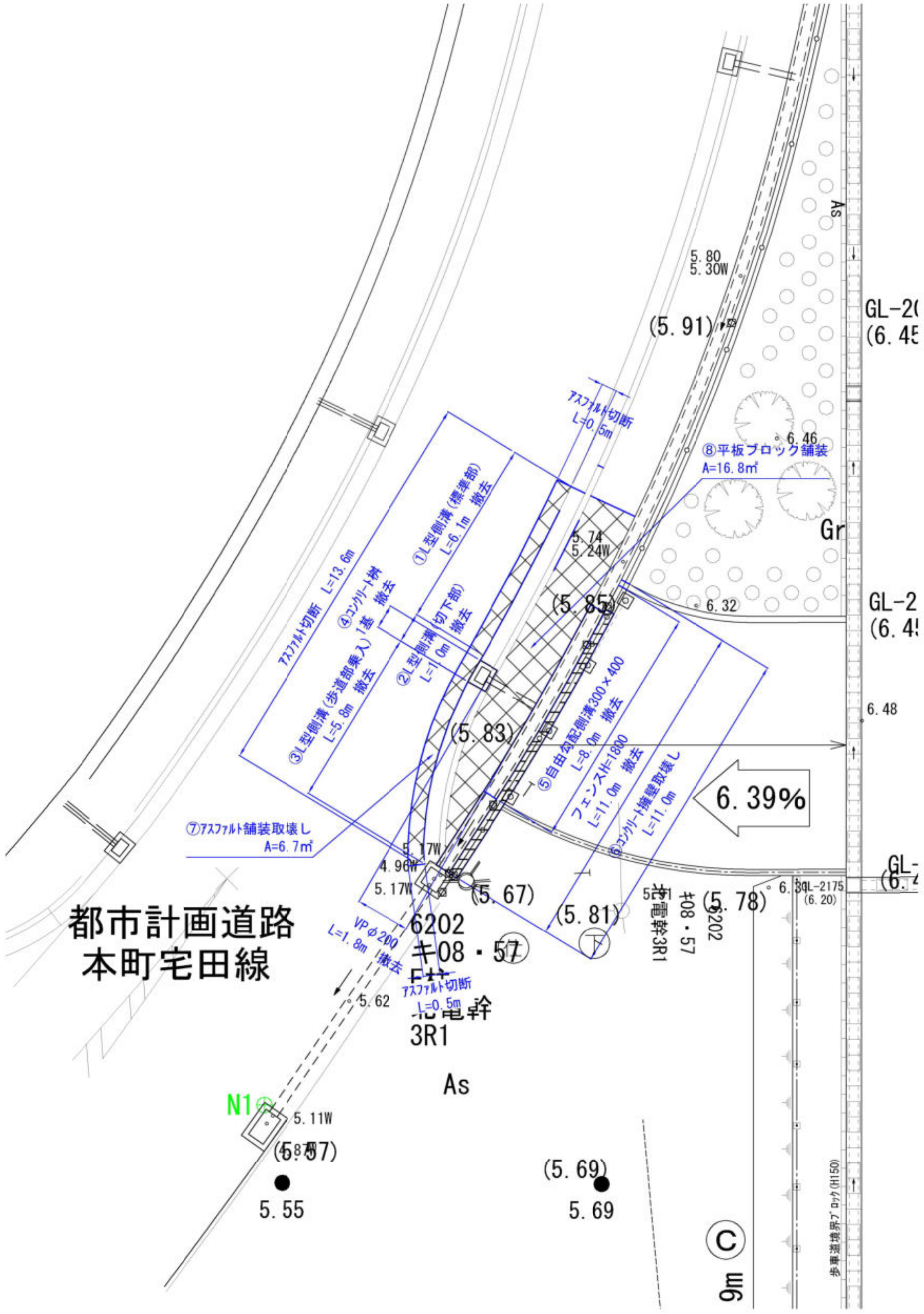
掘削	0.0
床掘	0.4
埋戻し	0.2

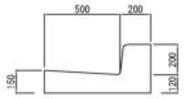
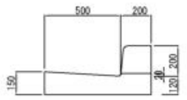
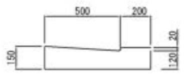
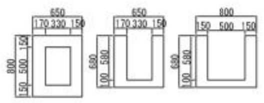
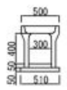
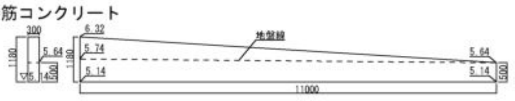
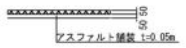
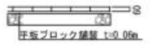
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 乗入部計画図（５）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図番 A－g27

取壊し詳細図(1)

平面図

S=1:200(A3)



番号	断面図	面積・体積	延長・箇所	数量
①	L型側溝 (標準部) 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.20)×0.20 0.13㎡	6.1 6.1m	0.79㎡
②	L型側溝 (切下部) 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	{(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.20)×0.20+(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.02)×0.20}/2 0.11㎡	1.0 1.0m	0.11㎡
③	L型側溝 (歩道部乗入) 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.02)×0.20 0.10㎡	5.8 5.8m	0.58㎡
④	コンクリート桝 鉄筋コンクリート S=1:100(A3) 	0.80×0.65×0.68-0.50×0.33×0.58 0.26㎡	1箇所	0.26㎡
⑤	自由勾配側溝 (300×400) 鉄筋コンクリート S=1:100(A3) 	自由勾配側溝300×400　二次製品 2.0m 403kg 1m当たり202kg≒0.08㎡ 基礎コン　0.51×0.05　=0.03㎡ 底打ちコン0.30×0.05　=0.02㎡ コンクリート蓋300型L=0.5m 43kg 1m当たり1枚　43kg≒0.02㎡ 0.15㎡	8.0m	1.20㎡
⑥	コンクリート擁壁　S=1:200(A3) 無筋コンクリート 	(0.50+1.18)/2×0.30(平均断面積) 0.25㎡	11.0 11.0m	2.75㎡
⑦	アスファルト舗装 アスファルト 	0.05m	6.7㎡	0.34㎡
⑧	平板ブロック舗装 		16.8㎡	16.8㎡

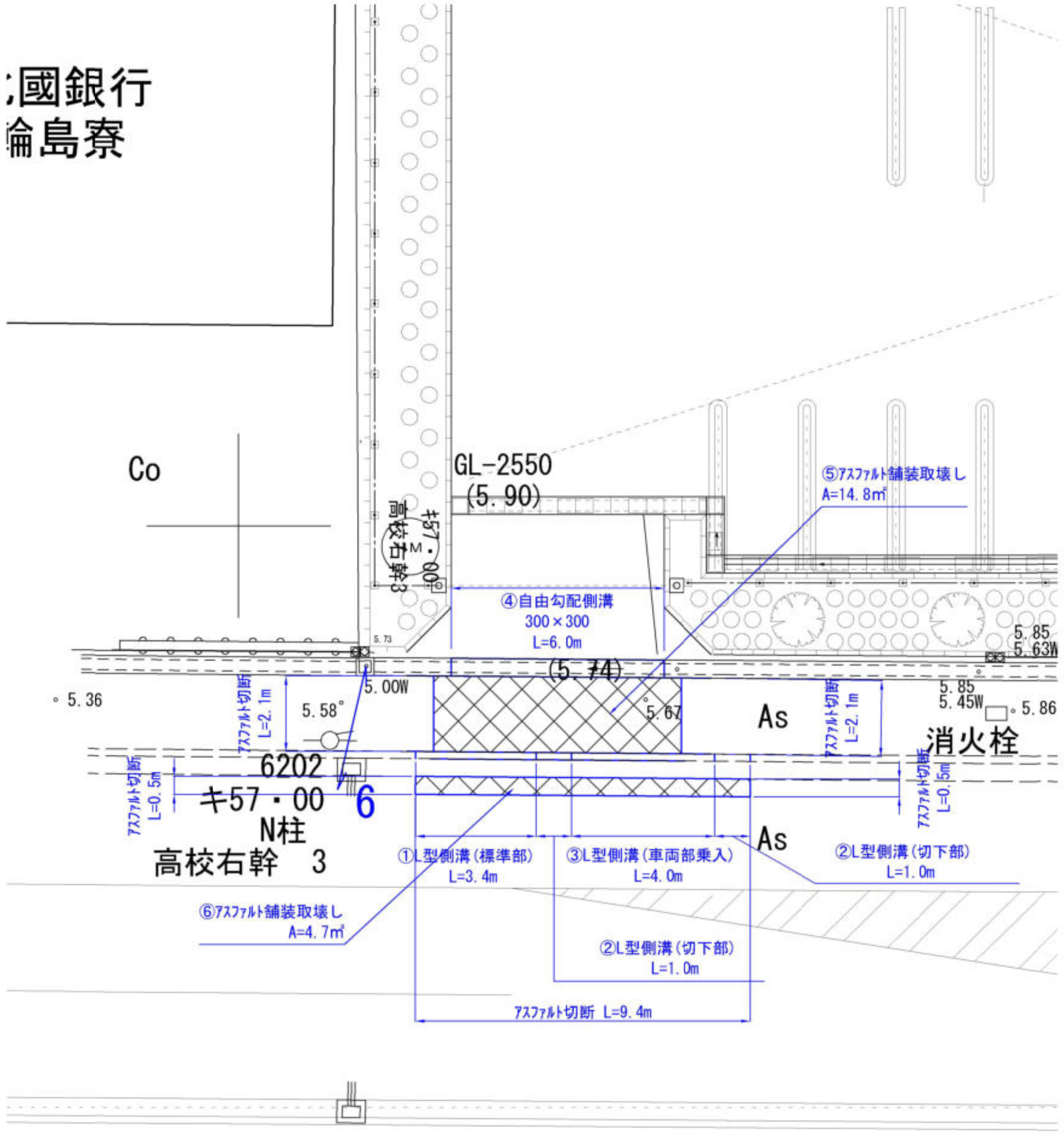
フェンスH=1800	L=11.0	11.0 m
VPφ200	L=1.8	1.8 m
アスファルト	V=0.34	0.34㎥
無筋コンクリート	V=2.75	2.75㎥
鉄筋コンクリート	V=0.79+0.11+0.58+0.26+1.20	2.94㎥
アスファルト切断(15cm以下)	L=13.6+0.5+0.5	14.6 m
平板ブロック舗装(t=6cm)	A=16.8	16.8 ㎡
グレーチング(300型L=0.5m)	N=2.0	2.0 枚
グレーチング(350×500)	N=1.0	1.0 枚

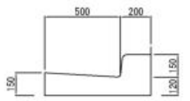
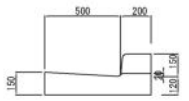
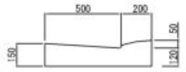
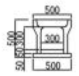
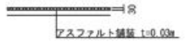
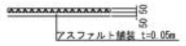
JOB NO.	年月	工事名	事務所	設計	標題	縮尺	図番
125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士　第276761号　浦　淳	・　・	乗入部取壊し詳細図（１）	A1：1/200 A3：1/400	A − g28

取壊し詳細図(2)

平面図

S=1:200(A3)



番号	断面図	面積・体積	延長・箇所	数量
①	L型側溝 (標準部) 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.15)×0.20 0.12㎥	3.4 3.4m	0.41㎥
②	L型側溝 (切下部) 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	{(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.15)×0.20+(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.02)×0.20}/2 0.11㎥	1.0+1.0 2.0m	0.22㎥
③	L型側溝 (車道部乗入) 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	(0.15+0.12)/2×0.50+(0.12+0.05)×0.20 0.10㎥	4.0 4.0m	0.40㎥
④	自由勾配側溝 (300×300) 鉄筋コンクリート S=1:100(A3) 	自由勾配側溝300×300　二次製品 2.0m 336kg 1m当たり168kg≒0.07㎥ 基礎コン　0.50×0.05　=0.03㎥ 底打ちコン0.30×0.05　=0.02㎥ コンクリート蓋300型L=0.5m 43kg 1m当たり1枚　43kg≒0.02㎥ 0.14㎥	6.0m	0.84㎥
⑤	アスファルト舗装 アスファルト 	0.03m	14.8㎡	0.44㎥
⑥	アスファルト舗装 アスファルト 	0.05m	4.7㎡	0.24㎥

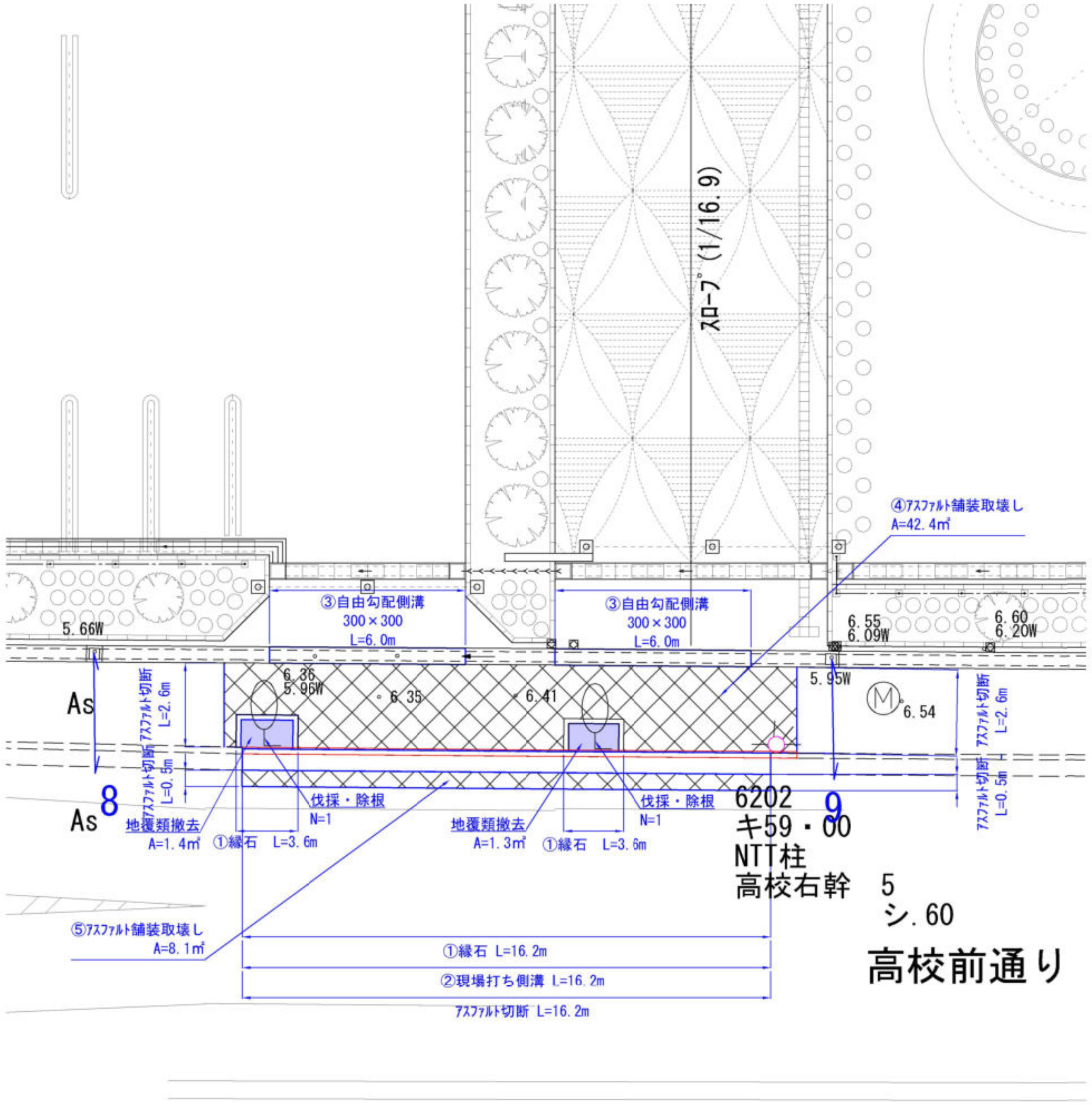
アスファルト	V=0.44+0.24	0.68㎥
鉄筋コンクリート	V=0.41+0.22+0.40+0.84	1.87㎥
アスファルト切断(15cm以下)	L=2.1+2.1+0.5+0.5+9.4	14.6 m
グレーチング(300型L=0.5m)	N=2.0	2.0 枚

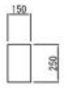
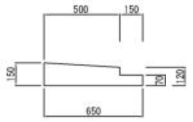
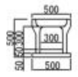
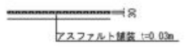
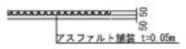
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	一級建築士　第276761号　浦　淳	設計 ・ ・	標題 乗入部取壊し詳細図（２）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図番 A－g29

取壊し詳細図(3)

平面図

S=1:200(A3)



番号	断面図	面積・体積	延長・箇所	数量
①	縁石 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	0.15×0.25 0.04㎡	3.6+3.6+16.2 23.4m	0.94㎡
②	現場打ち側溝 鉄筋コンクリート S=1:50(A3) 	(0.15+0.12)/2×0.5+0.15×0.07 0.08㎡	16.2 16.2m	1.30㎡
③	自由勾配側溝 (300×300) 鉄筋コンクリート S=1:100(A3) 	自由勾配側溝300×300　二次製品 2.0m 336kg 1m当たり168kg≒0.07㎡ 基礎コン　0.50×0.05　=0.03㎡ 底打ちコン0.30×0.05　=0.02㎡ コンクリート蓋300型L=0.5m 43kg 1m当たり1枚　43kg≒0.02㎡ 0.14㎡	6.0+6.0 12.0m	1.68㎡
④	アスファルト舗装 アスファルト 	0.03m	42.5 42.4㎡	1.27㎡
⑤	アスファルト舗装 アスファルト 	0.05m	8.1㎡	0.41㎡

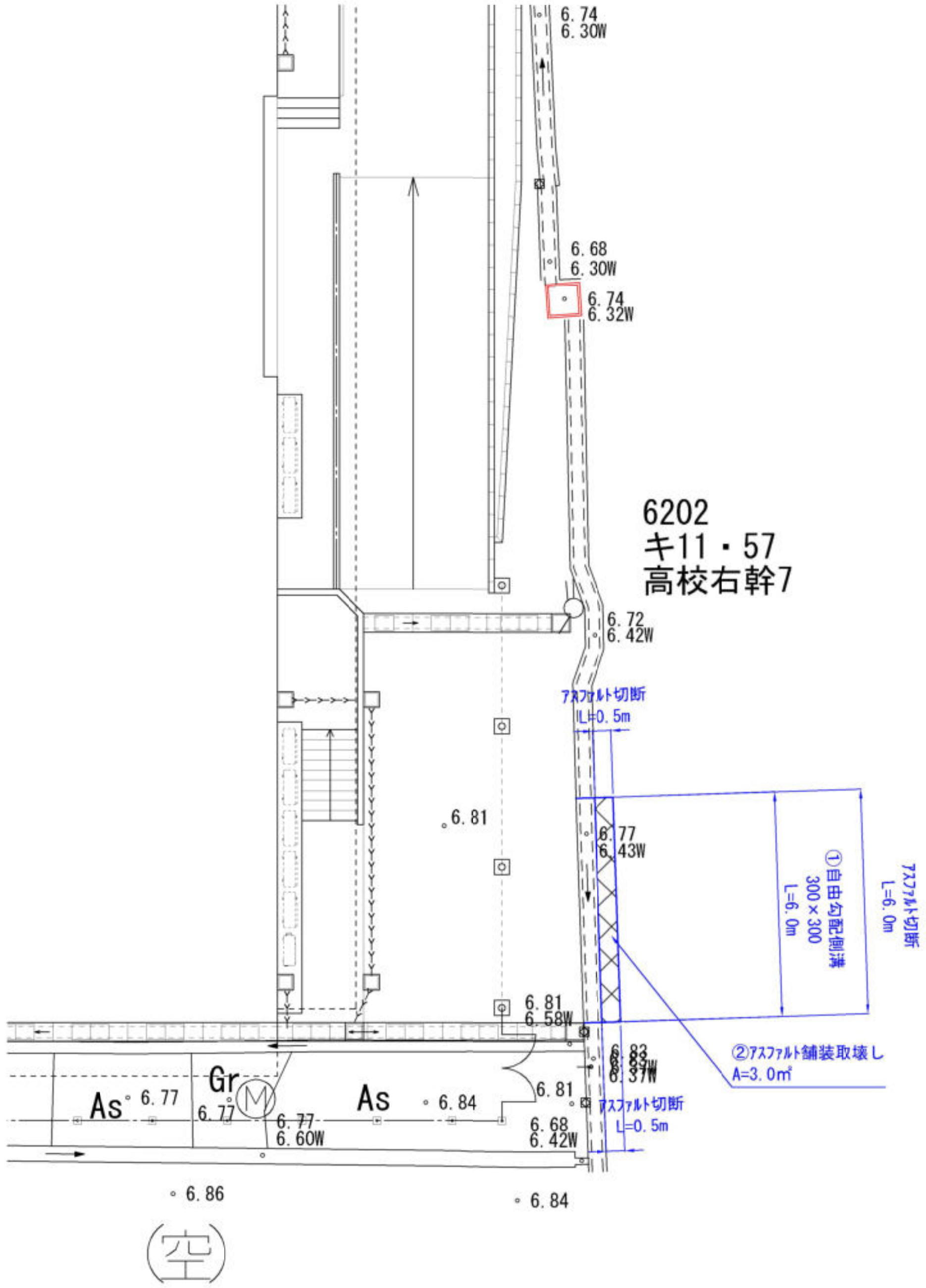
伐採・除根	N=1.0+1.0	2.0 箇所
地被類撤去	A=1.3+1.4	2.7 ㎡
アスファルト	V=1.27+0.41	1.68㎡
鉄筋コンクリート	V=0.94+1.30+1.68	3.92㎡
アスファルト切断(15cm以下)	L=2.6+2.6+0.5+0.5+16.2	22.4 m
グレーチング(300型L=0.5m)	N=2.0	2.0 枚

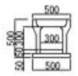
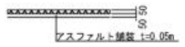
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	乗入部取壊し詳細図（３）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400	図番 A − g30

取壊し詳細図(4)

平面図

S=1:200(A3)



番号	断面図	面積・体積	延長・箇所	数量
①	自由勾配側溝 (300×300) 鉄筋コンクリート S=1:100(A3) 	自由勾配側溝300×300　二次製品 2.0m 336kg 1m当たり168kg≒0.07㎡ 基礎コン　0.50×0.05　=0.03㎡ 底打ちコン0.30×0.05　=0.02㎡ コンクリート蓋300型L=0.5m 43kg 1m当たり1枚　43kg≒0.02㎡ 0.14㎡	6.0m	0.84㎡
②	アスファルト舗装 アスファルト 	0.05m	3.0㎡	0.15㎡

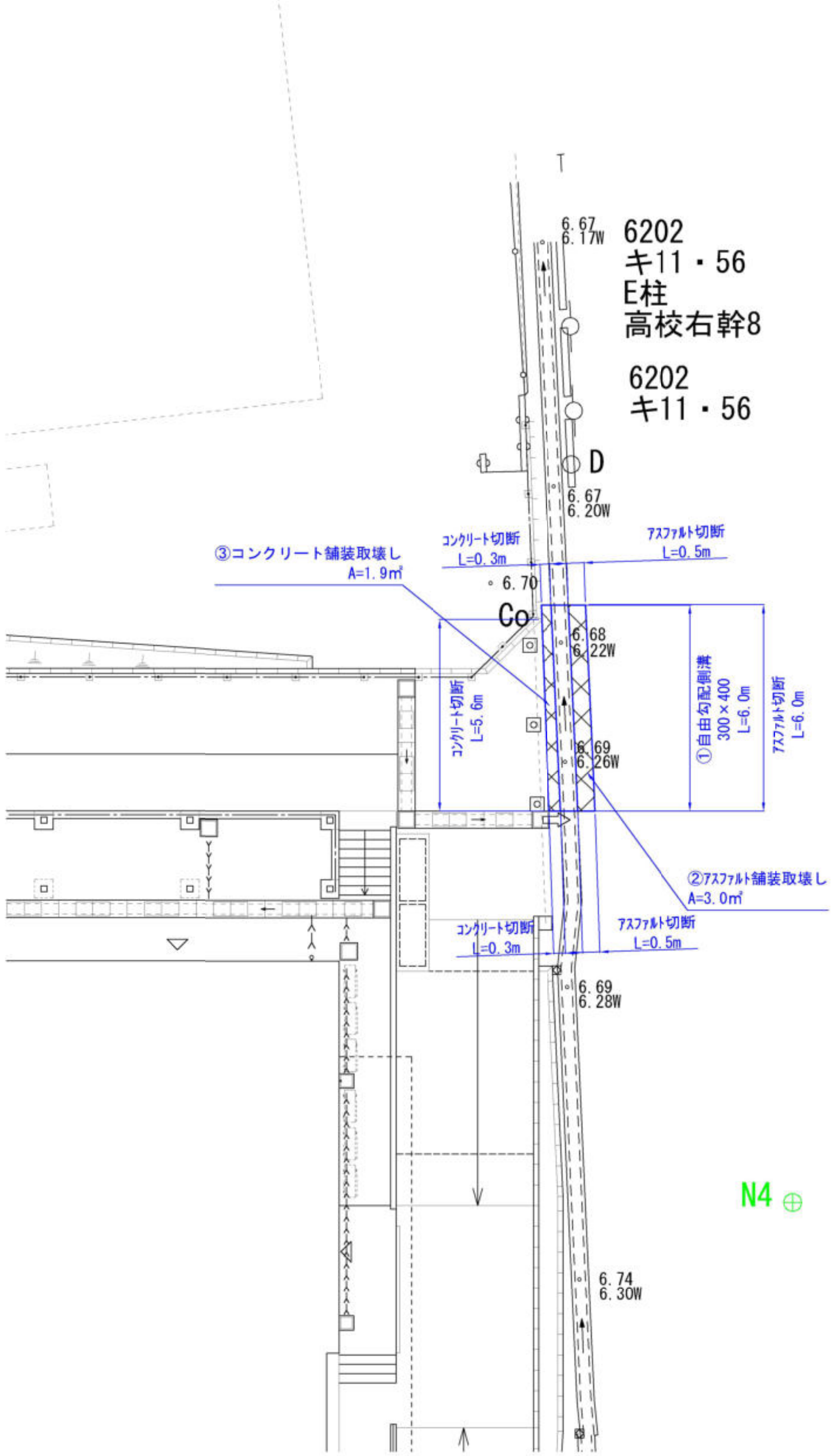
アスファルト	V=0.15	0.15㎡
鉄筋コンクリート	V=0.84	0.84㎡
アスファルト切断(15cm以下)	L=6.0+0.5+0.5	7.0 m
グレーチング(300型L=0.5m)	N=2.0	2.0 枚

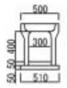
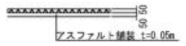
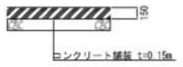
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	乗入部取壊し詳細図（４）	縮尺 A1：1/200 A3：1/400　図番 A－g31

取壊し詳細図(5)

平面図

S=1:200(A3)



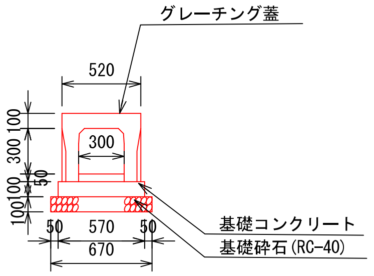
番号	断面図	面積・体積	延長・箇所	数量
①	自由勾配側溝 (300×400) 鉄筋コンクリート S=1:100(A3) 	自由勾配側溝300×400　二次製品 2.0m 403kg 1m当たり202kg≒0.08㎡ 基礎コン　0.50×0.05　=0.03㎡ 底打ちコン0.30×0.05　=0.02㎡ コンクリート蓋300型L=0.5m 43kg 1m当たり1枚　43kg≒0.02㎡ 0.15㎡	6.0m	0.90㎡
②	アスファルト舗装 アスファルト 	0.05m	3.0㎡	0.15㎡
③	コンクリート舗装 無筋コンクリート 	0.15m	1.9㎡	0.29㎡

アスファルト	V=0.15	0.15㎡
無筋コンクリート	V=0.29	0.29㎡
鉄筋コンクリート	V=0.90	0.90㎡
アスファルト切断(15cm以下)	L=6.0+0.5+0.5	7.0 m
コンクリート切断(15cm以下)	L=5.6+0.3+0.3	6.2 m
グレーチング(300型L=0.5m)		2.0 枚

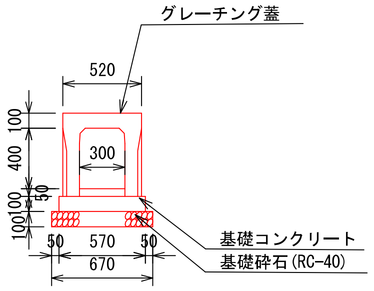
JOB NO.		工事名				設計		標題		縮尺	図番
125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所	株式会社浦建築研究所	一級建築士　第276761号　浦　淳		・　・		乗入部取壊し詳細図（５）	A1：1/200 A3：1/400	A－g32

構造図　S=1:50(A3)

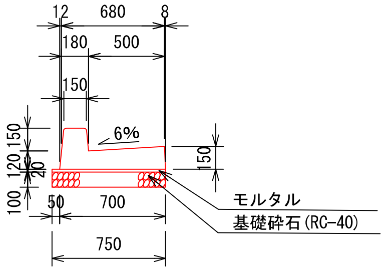
自由勾配側溝(横断用)
B300×H300



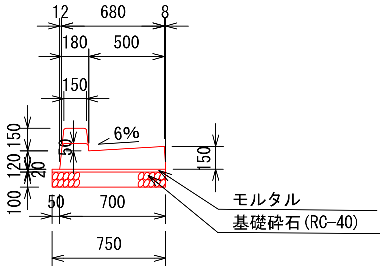
自由勾配側溝(横断用)
B300×H400



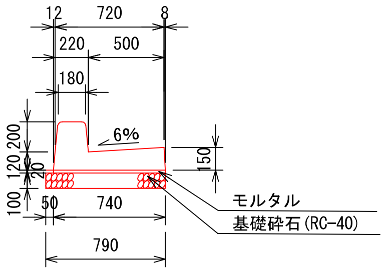
L型側溝
歩車道A 標準



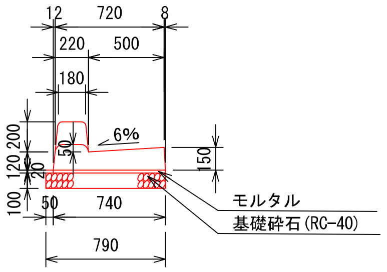
L型側溝
歩車道A 切下げ



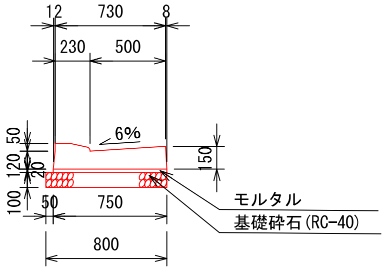
L型側溝
歩車道B 標準



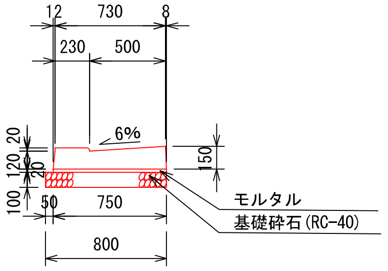
L型側溝
歩車道B 切下げ



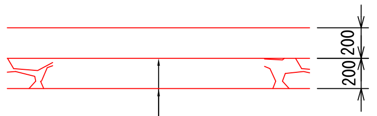
L型側溝
車両部乗入



L型側溝
歩道部乗入

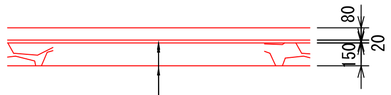


コンクリート舗装Ⅱ種



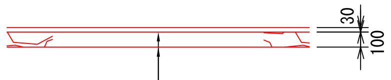
コンクリート舗装Ⅱ種
表層工：ｺﾝｸﾘｰﾄ(21-8-40BB W/C≦65%) t=0.20m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.20m

インターロッキング舗装Ⅰ種



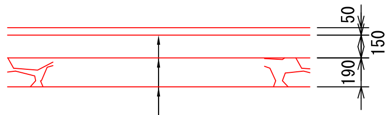
インターロッキング舗装Ⅰ種
ILB層 t=0.08m
敷砂層 t=0.02m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.15m

アスファルト舗装歩道



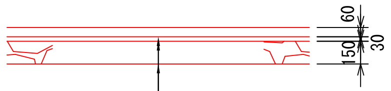
アスファルト舗装歩道
表層工：密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13) t=0.03m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.10m

市道アスファルト舗装復旧



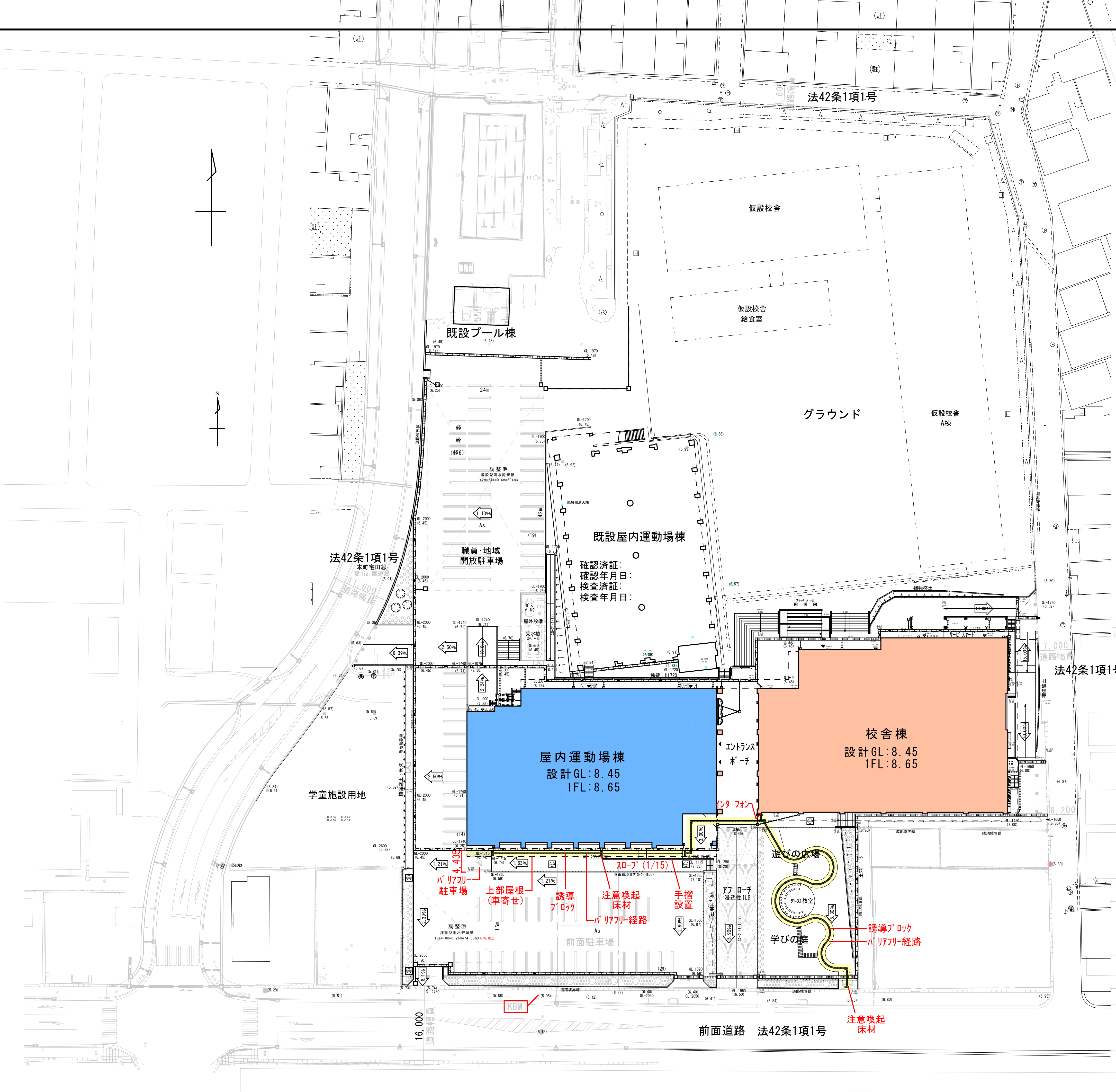
市道アスファルト舗装復旧
表層工：密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(20F) t=0.05m
基層工：粒調砕石(M-40) t=0.15m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.19m
CBR 3%

平板ブロック舗装

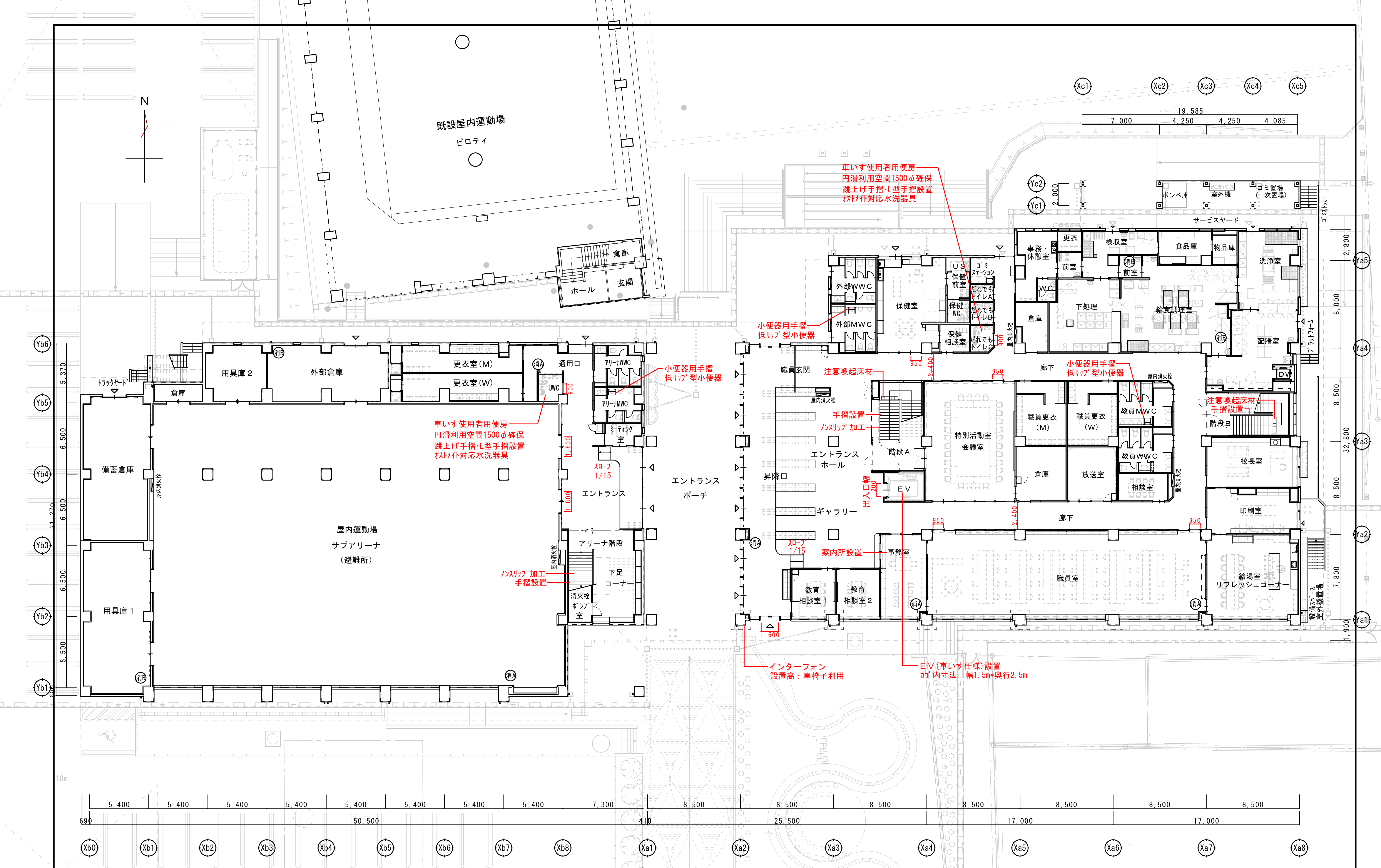


平板ブロック舗装
平板ブロック舗装(ガラス入り) t=0.06m
モルタル(1：3) t=0.03m
路盤工：再生砕石(RC-40) t=0.15m

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	乗入部構造図	縮尺	A1：1/25 A3：1/50	図番	A － g33



JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	（バリアフリー）配　置　図	縮尺	A1：1/400 A3：1/800	図番	A －h01 B －h01



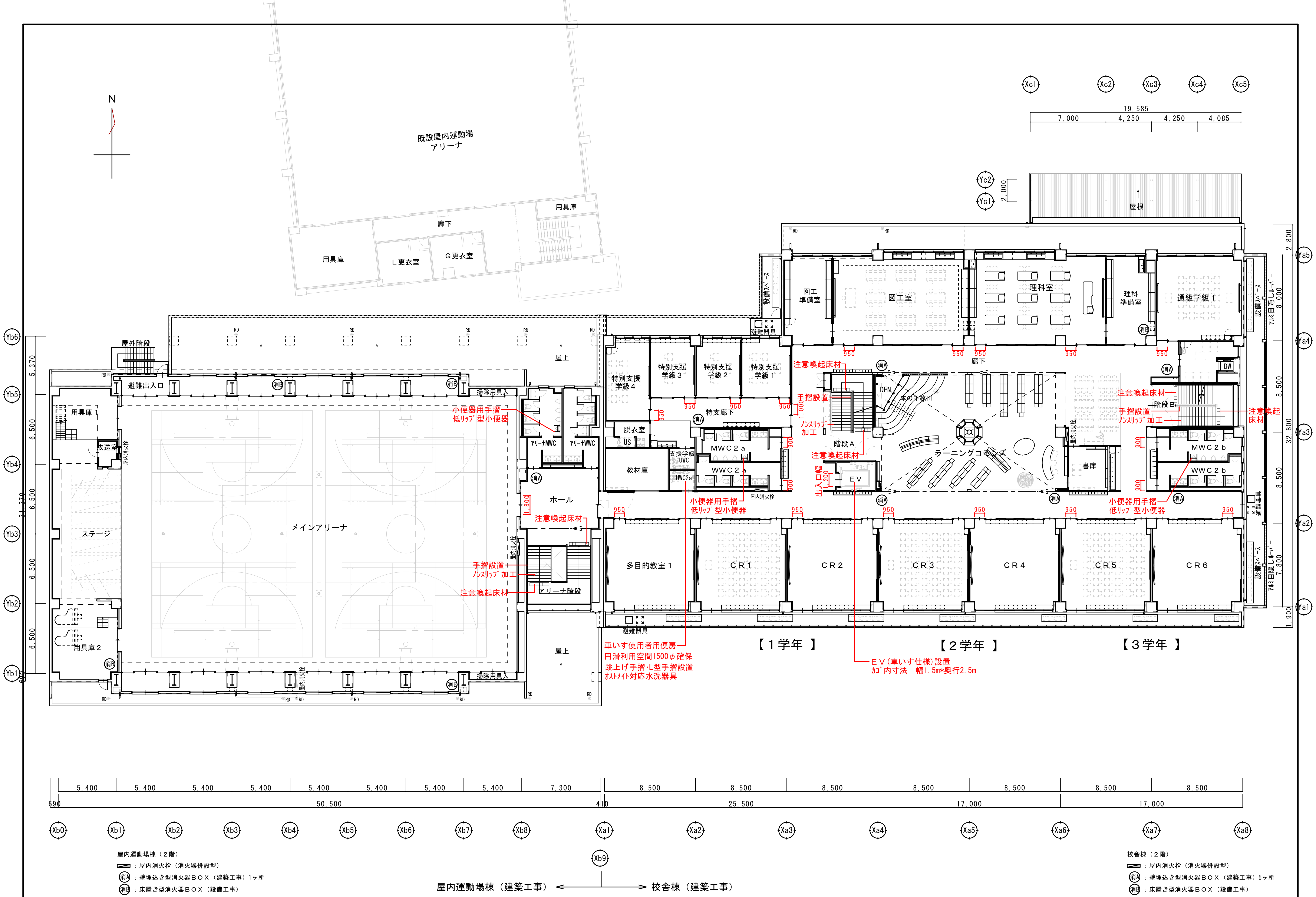
屋内運動場棟（１階）
▭ ：屋内消火栓（消火器併設型）
消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）2ヶ所
消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

前面駐車場

屋内運動場棟（建築工事）⟷ 校舎棟（建築工事）

校舎棟（１階）
▭ ：屋内消火栓（消火器併設型）
消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）3ヶ所
消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 バリアフリー　１階平面図（全体）	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 Ａ－h02 Ｂ－h02

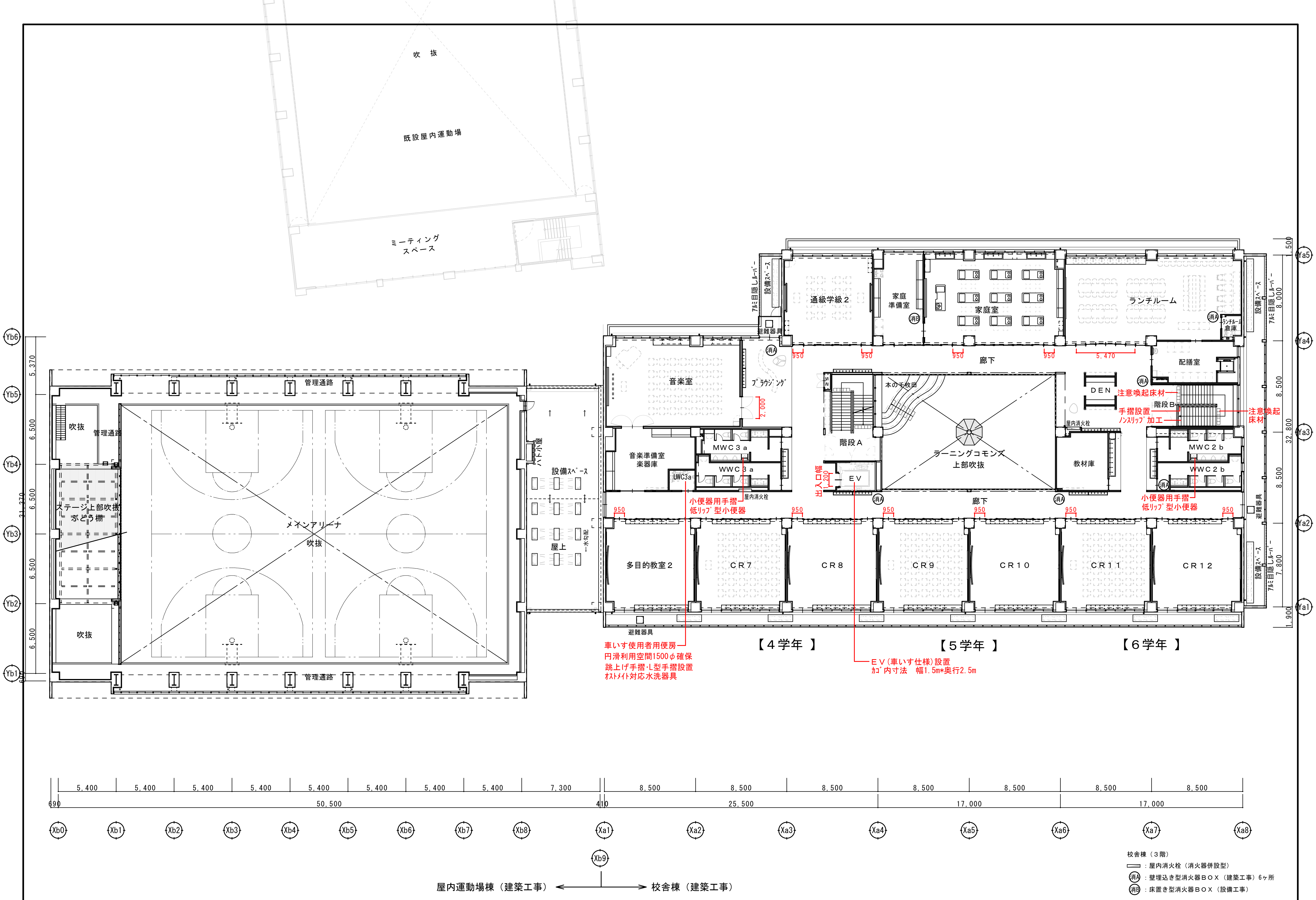


屋内運動場棟（２階）
▭ ：屋内消火栓（消火器併設型）
消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）1ヶ所
消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

屋内運動場棟（建築工事） ← → 校舎棟（建築工事）

校舎棟（２階）
▭ ：屋内消火栓（消火器併設型）
消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）5ヶ所
消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 バリアフリー　２階平面図（全体）	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A －h03 B －h03



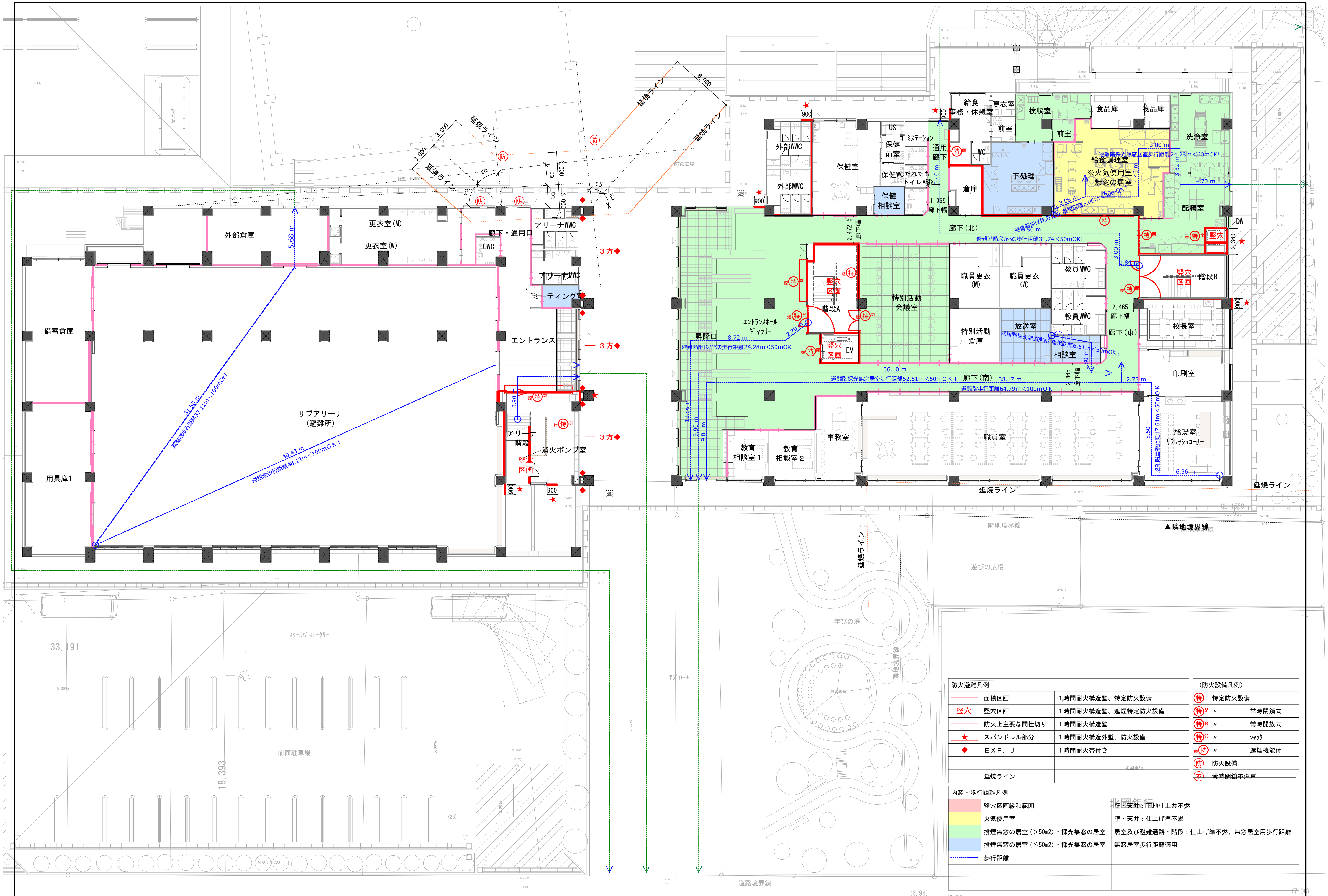
校舎棟（３階）

▭ ：屋内消火栓（消火器併設型）

(消A) ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）6ヶ所

(消B) ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO.											
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	バリアフリー　３階平面図（全体）	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	Ａ －h04 Ｂ －h04



防火避難凡例

🟥	面積区画	1時間耐火構造壁、特定防火設備
竪穴	竪穴区画	1時間耐火構造壁、遮煙特定防火設備
―	防火上主要な間仕切り	1時間耐火構造壁
★	スパンドレル部分	1時間耐火構造外壁、防火設備
◆	ＥＸＰ．Ｊ	1時間耐火帯付き
-------	延焼ライン	

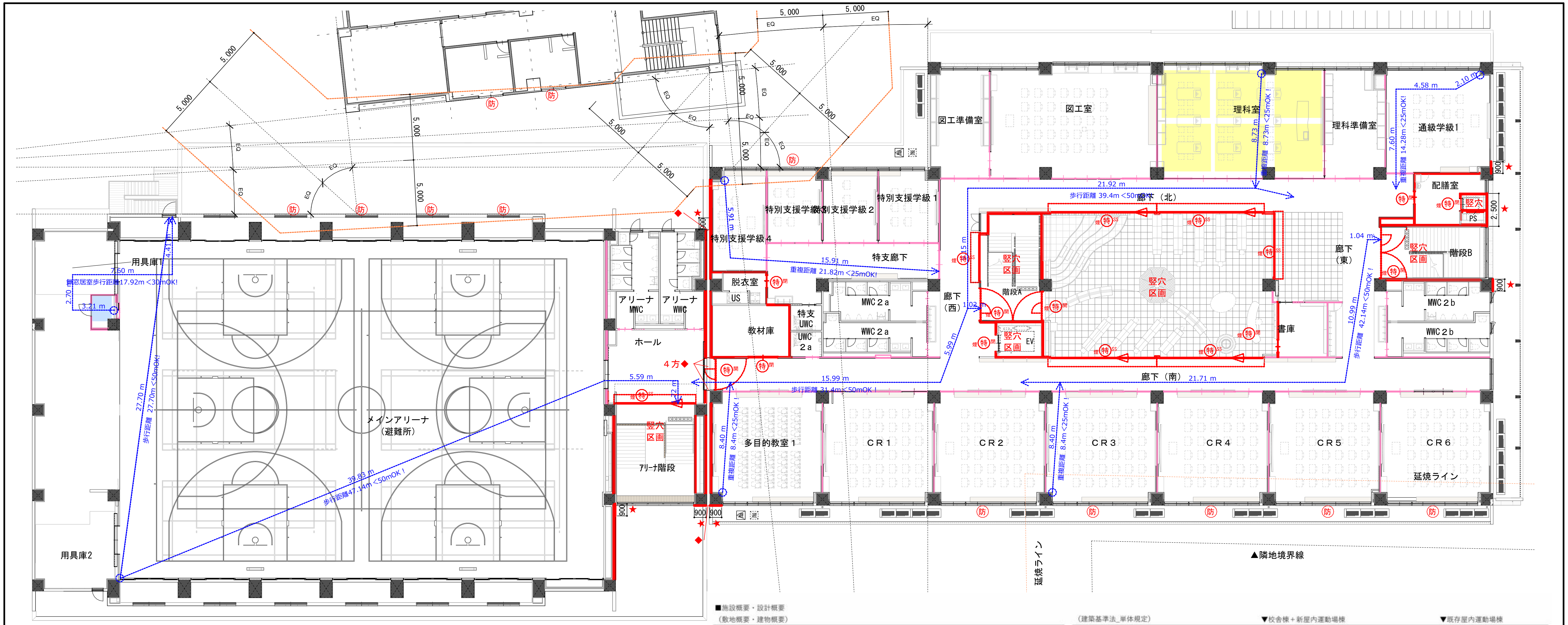
（防火設備凡例）

特	特定防火設備	
特閉	〃	常時閉鎖式
特開	〃	常時開放式
特SS	〃	シャッター
煙特	〃	遮煙機能付
防	防火設備	
~~不~~	~~常時閉鎖不燃戸~~	

内装・歩行距離凡例

🟥	~~竪穴区画緩和範囲~~	~~壁・天井：下地仕上共不燃~~
🟨	火気使用室	壁・天井：仕上げ準不燃
🟩	排煙無窓の居室（＞50m2）・採光無窓の居室	居室及び避難通路・階段：仕上げ準不燃、無窓居室用歩行距離
🟦	排煙無窓の居室（≦50m2）・採光無窓の居室	無窓居室歩行距離適用
-------	歩行距離	

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	法チェック図　防火避難１階	縮尺	図面表記による A3:A1=1:2	図番 A-h05 B-h05



■施設概要・設計概要

（敷地概要・建物概要）

建設地	住所	石川県輪島市河井町１８部1－２	
敷地面積	22,486.39㎡（学童用地除く）（CAD値）		
前面道路	幅員	南側約16m（CAD値）	西側約12m（CAD値）
	接道長さ	南側約97m（CAD値）	西側約122m（CAD値）
地域地区	都市計画区域	市街化区域	
	用途地域	第二種住居地域、一部準住居地域・近隣商業区域	
	高度地区	指定なし	
	防火地域	指定なし	
	その他地域地区	指定なし	
施設用途	建築基準法	学校	
	消防法	学校　７項　収容人員M＝５６０人	児童：約500人　教員等60人 （R10.4月予定）
	バリアフリー新法	学校　特別特定建築物	
	石川県バリアフリー条例	学校　特定公益的施設	
積雪量	1.0m以上（29N/㎡/cm）	（石川県建築基準法施行細則第15条別表）	
災害予測	水害ハザードマップ	河原田川想定最大規模	0.5～3m浸水地域
	地震	令和６年能登半島地震	震度7
	津波ハザードマップ	被害なし	浸水０ｍエリア
	土砂ハザードマップ	被害なし	被害なしエリア
塩害	塩害地域（海岸線から約605m）		
建物概要		▼校舎棟	▼新屋内運動場
	階数	地上３階	地上２階
	建物高さ	約16m	約16.5m
	構造	RC造、一部S造	RC造、SRC、一部S造

（建築基準法_集団規定）

用途地域	第二種住居地域、一部　準住居地域・近隣商業区域	
容積率	第二種住居地域200％以下	9,818.77㎡/22,486.39㎡　（CAD値）43.66％ ＜ 200％　...OK
建ぺい率	第二種住居地域70％以下	4,914.85㎡/22,486.39㎡　（CAD値）21.85 ％ ＜ 70％　...OK
高さ制限	第二種住居地域	高度地区：なし 道路斜線：適用距離20m／勾配1.25 隣地斜線：立上り20m／勾配1.25
日影制限	第二種住居地域、一部準住居地域・近隣商業区域 建築物高さ１０ｍ超	平均地盤面からの高さ　４ｍ 敷地境界線から5～10ｍの範囲：５時間 敷地境界線から10ｍ超える範囲：３時間

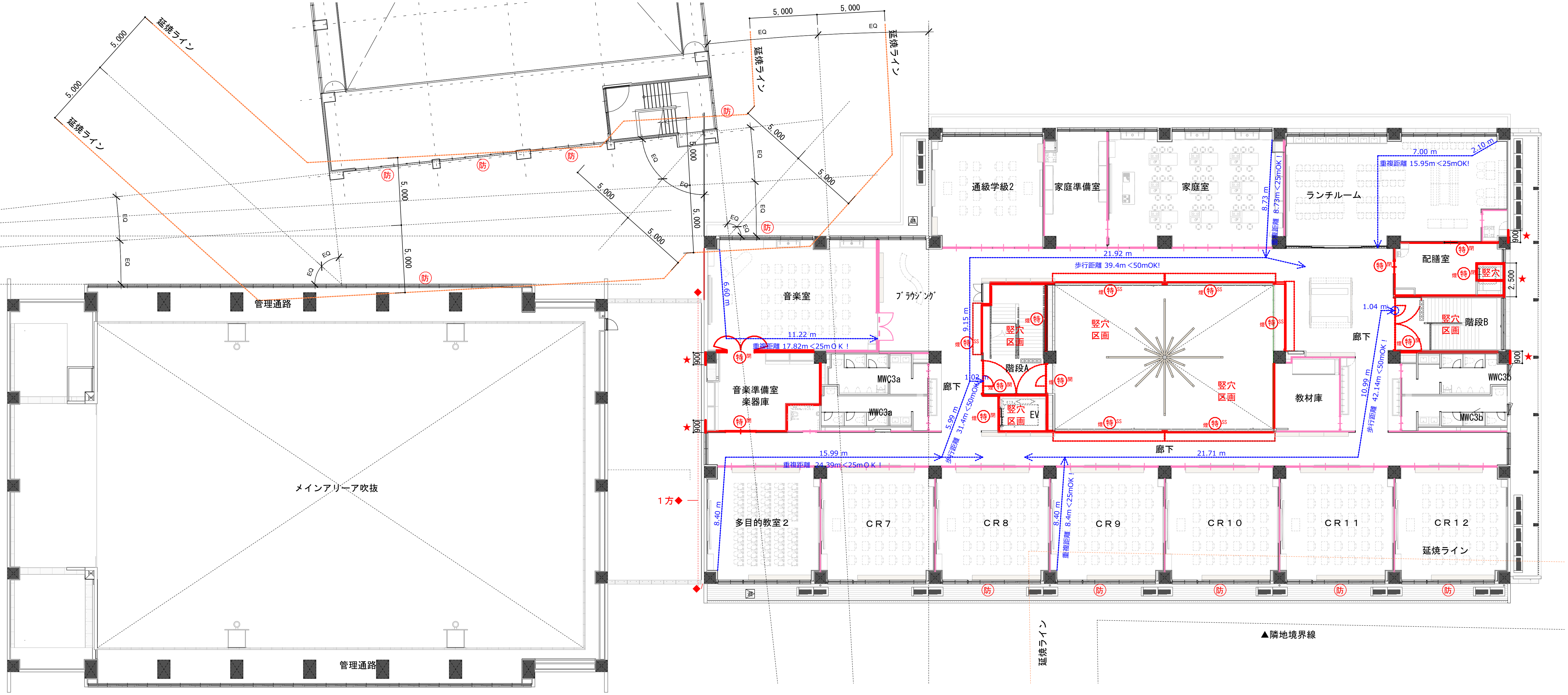
（建築基準法_単体規定）		▼校舎棟＋新屋内運動場棟	▼既存屋内運動場棟
耐火又は準耐火建築物とすべき特殊建築物		・小学校：３階 → 耐火建築物	適用　耐火建築物（既存のまま）
防火区画	面積区画	適用　1500㎡毎に区画	適用　1500㎡毎に区画
	竪穴区画	適用	適用（既存のまま）
	異種用途区画	適用外（給食調理場は自校調理方式のため学校用途）	適用外（該当なし）
防火上主要な間仕切	学校：等小屋裏又は天井裏に達せしめる	適用	適用（既存のまま）
内装制限	大規模建築物	適用外（学校用途）	適用外（学校用途）
	特殊建築物（耐火建築物）		
	排煙無窓の居室：床面積＞５０㎡	適用（１階特別活動室・給食調理室）	
	温湿度管理を要する作業室		
	ボイラー室等火気使用室	適用（１階給食調理室、２階理科室、３階家庭科室）	適用外
	自動車車庫	適用外	適用外
階段	小学校の児童用	適用	適用（既存のまま）
	特殊の用途に専用する階段	体育館３階への階段：管理専用階段	適用外（該当なし）
直通階段に至る歩行距離		・採光無窓の居室：３０ｍ≧（内装加算不使用） ・上記以外の居室：５０ｍ≧（内装加算不使用）	適用（既存のまま）
２以上の直通階段の		適用	適用（既存のまま）
避難階段又は特別避難階段の設置		適用外	適用外
２以上の直通階段の重複距離		・採光無窓の居室≦15m （居室・通路：準不燃の場合≦20m）	適用外（該当なし）
		・上記以外の居室≦25m（内装準不燃の場合≦30m）	適用（既存のまま）
廊下	特殊建築物（小学校の生徒用）：	両側居室≧2.3m、その他の場合≧1.8m	適用（既存のまま）
屋外への出入口等	避難階での階段から屋外への出入口	令120（直通階段に至る歩行距離）	適用（既存のまま）
	居室の各部分から屋外への出入口	令120 の２倍以下	適用（既存のまま）
	屋上広場等	高さ1.1ｍ以上の手すり・柵・金網	適用外（該当なし）
特定天井		適用外（該当なし）	適用外（該当なし）
非常用進入口の設置		代替進入口	適用（既存のまま）
排煙設備		適用外（学校用途） 令126の２-1-2	適用外（学校用途） 令126の２-1-2
換気設備	全ての居室	適用	適用（既存のまま）
	換気無窓居室	①機械換気	適用（既存のまま）
	法別表１(い)(一)の用途の居室（体育館部分準用）		
	火気使用室	適用	適用（既存のまま）
非常用照明		無窓居室のみ設置 その他は学校用途により適用外	適用外（学校用途） 令126の２-1-2
避雷設備		適用外（２０ｍ以下）	適用外（２０ｍ以下）

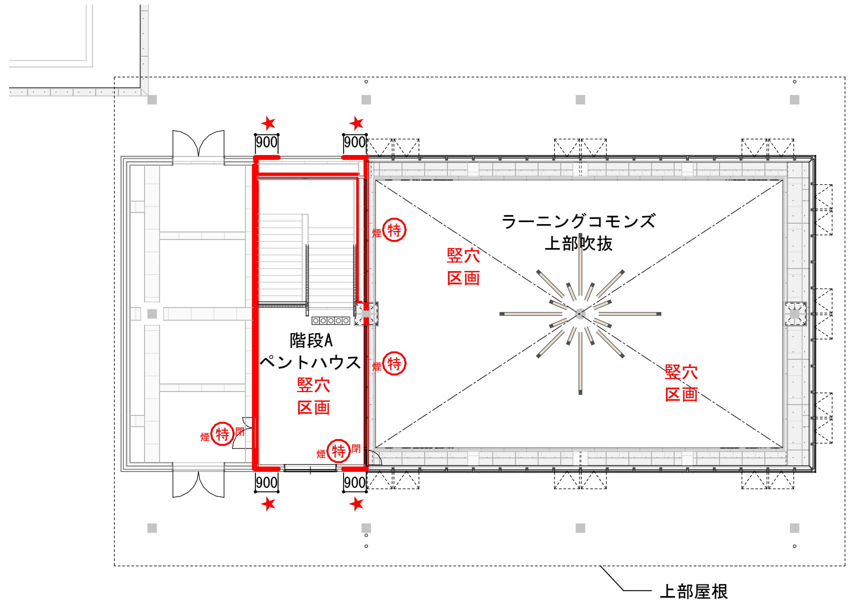
防火避難凡例		
―	面積区画	１時間耐火構造壁、特定防火設備
竪穴	竪穴区画	１時間耐火構造壁、遮煙特定防火設備
―	防火上主要な間仕切り	１時間耐火構造壁
★	スパンドレル部分	１時間耐火構造外壁、防火設備
◆	ＥＸＰ．Ｊ	１時間耐火帯付き
‐‐‐	延焼ライン	

（防火設備凡例）	
特	特定防火設備
特閉	〃　常時閉鎖式
特開	〃　常時開放式
特SS	〃　ｼｬｯﾀｰ
煙特	〃　遮煙機能付
防	防火設備
不	~~常時閉鎖不燃戸~~

内装・歩行距離凡例		
🟥	~~竪穴区画緩和範囲~~	~~壁・天井：下地仕上共不燃~~
🟨	火気使用室	壁・天井：仕上げ準不燃
🟩	排煙無窓の居室（＞50m2）・採光無窓の居室	居室及び避難通路・階段：仕上げ準不燃、無窓居室用歩行距離
🟦	排煙無窓の居室（≦50m2）・採光無窓の居室	無窓居室歩行距離適用
‐‐‐	歩行距離	

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	法チェック図　防火避難２階	縮尺	図面表記による A3:A1=1:2	図番	A-h06 B-h06



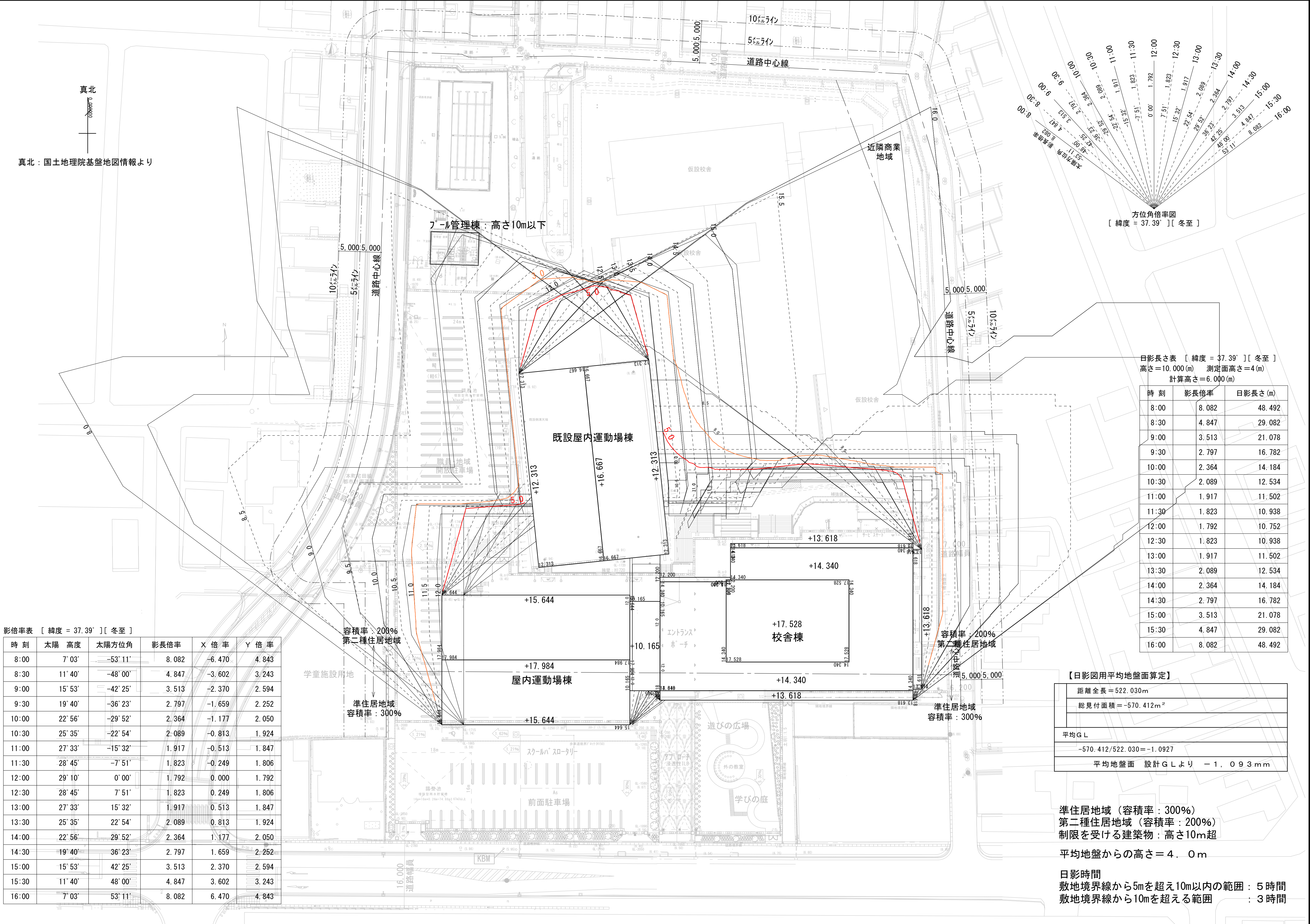


防火避難凡例		
━	面積区画	１時間耐火構造壁、特定防火設備
竪穴	竪穴区画	１時間耐火構造壁、遮煙特定防火設備
━	防火上主要な間仕切り	１時間耐火構造壁
★	スパンドレル部分	１時間耐火構造外壁、防火設備
◆	ＥＸＰ．Ｊ	１時間耐火帯付き
┄┄	延焼ライン	

（防火設備凡例）		
特	特定防火設備	
特閉	〃	常時閉鎖式
特開	〃	常時開放式
特SS	〃	ｼｬｯﾀｰ
煙特	〃	遮煙機能付
防	防火設備	
~~不~~	~~常時閉鎖不燃戸~~	

内装・歩行距離凡例		
~~🟥~~	~~竪穴区画緩和範囲~~	~~壁・天井：下地仕上共不燃~~
🟨	火気使用室	壁・天井：仕上げ準不燃
🟩	排煙無窓の居室（＞50m2）・採光無窓の居室	居室及び避難通路・階段：仕上げ準不燃、無窓居室用歩行距離
🟦	排煙無窓の居室（≦50m2）・採光無窓の居室	無窓居室歩行距離適用
┄┄	歩行距離	

JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	法チェック図　防火避難３階・４階	縮尺	図面表記による A3:A1＝1:2
図番	A-h07 B-h07								



真北：国土地理院基盤地図情報より

影倍率表　[緯度 = 37.39°][冬至]

時 刻	太陽　高度	太陽方位角	影長倍率	X 倍 率	Y 倍 率
8:00	7°03′	-53°11′	8.082	-6.470	4.843
8:30	11°40′	-48°00′	4.847	-3.602	3.243
9:00	15°53′	-42°25′	3.513	-2.370	2.594
9:30	19°40′	-36°23′	2.797	-1.659	2.252
10:00	22°56′	-29°52′	2.364	-1.177	2.050
10:30	25°35′	-22°54′	2.089	-0.813	1.924
11:00	27°33′	-15°32′	1.917	-0.513	1.847
11:30	28°45′	-7°51′	1.823	-0.249	1.806
12:00	29°10′	0°00′	1.792	0.000	1.792
12:30	28°45′	7°51′	1.823	0.249	1.806
13:00	27°33′	15°32′	1.917	0.513	1.847
13:30	25°35′	22°54′	2.089	0.813	1.924
14:00	22°56′	29°52′	2.364	1.177	2.050
14:30	19°40′	36°23′	2.797	1.659	2.252
15:00	15°53′	42°25′	3.513	2.370	2.594
15:30	11°40′	48°00′	4.847	3.602	3.243
16:00	7°03′	53°11′	8.082	6.470	4.843

日影長さ表　[緯度 = 37.39°][冬至]
高さ＝10.000(m)　測定面高さ＝4(m)
計算高さ＝6.000(m)

時 刻	影長倍率	日影長さ(m)
8:00	8.082	48.492
8:30	4.847	29.082
9:00	3.513	21.078
9:30	2.797	16.782
10:00	2.364	14.184
10:30	2.089	12.534
11:00	1.917	11.502
11:30	1.823	10.938
12:00	1.792	10.752
12:30	1.823	10.938
13:00	1.917	11.502
13:30	2.089	12.534
14:00	2.364	14.184
14:30	2.797	16.782
15:00	3.513	21.078
15:30	4.847	29.082
16:00	8.082	48.492

【日影図用平均地盤面算定】

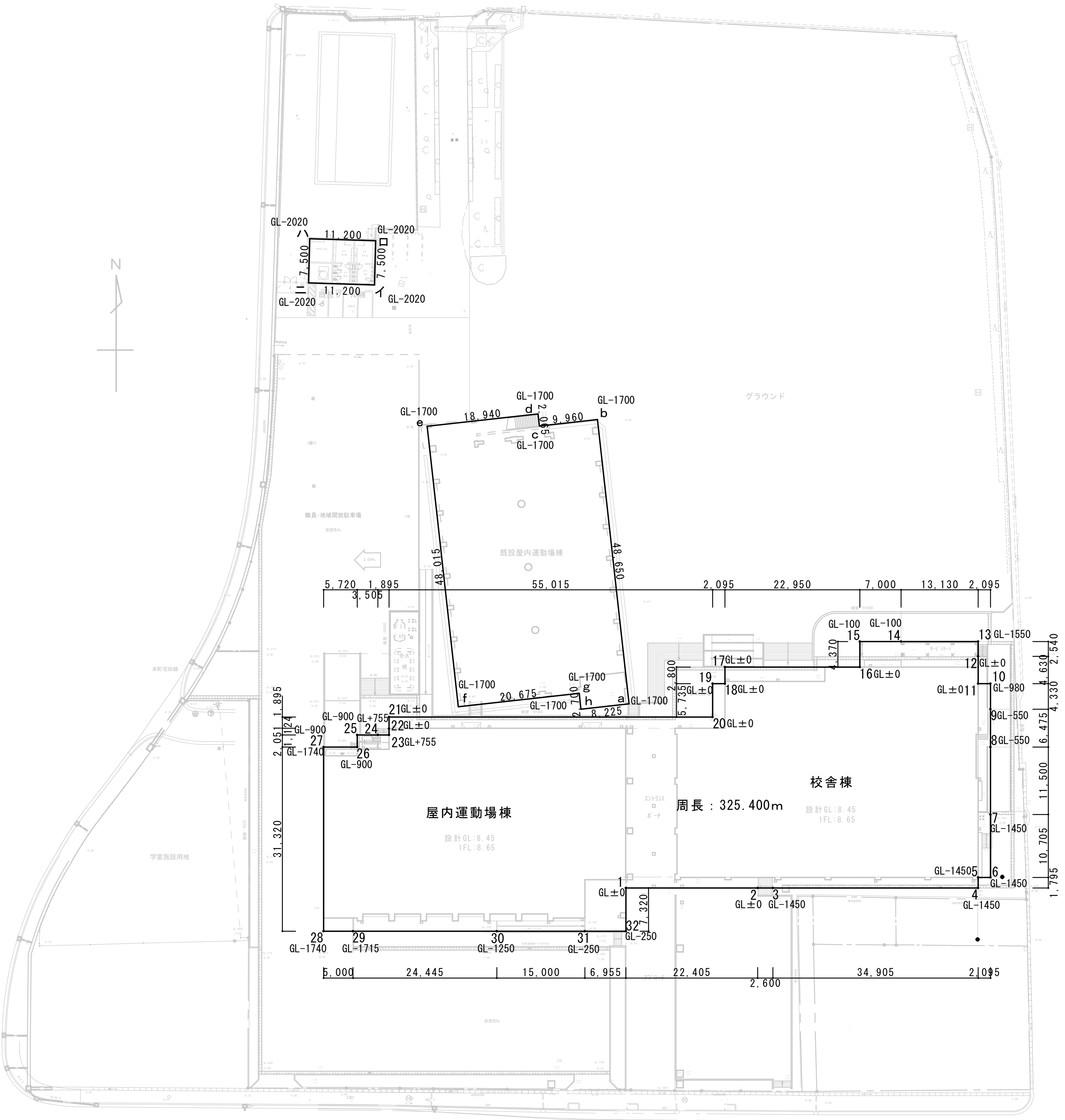
	距離全長＝522.030m
	総見付面積＝-570.412m²
平均ＧＬ	
-570.412/522.030＝-1.0927	
平均地盤面　設計ＧＬより　－１，０９３mm	

準住居地域（容積率：300%）
第二種住居地域（容積率：200%）
制限を受ける建築物：高さ10m超

平均地盤からの高さ＝４．０m

日影時間
敷地境界線から5mを超え10m以内の範囲：５時間
敷地境界線から10mを超える範囲　：３時間

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	法チェック図（日影図）	縮尺 A1：1/400 A3：1/800	図番 A －h08 B －h08



【校舎棟・屋内運動場棟 平均地盤面算定】

	距離(m)	計算式	面積(㎡)
1	22.405	0 × 22.405	0.000
2	2.600	−1.450 × 2.600 × 0.5	-1.885
3	34.905	−1.450 × 34.905	-50.612
4	1.795	−1.450 × 1.795	-2.603
5	2.095	−1.450 × 2.095	-3.038
6	10.705	−1.450 × 10.705	-15.522
7	11.500	−(0.550 ＋ 1.450) × 11.500 × 0.5	-11.500
8	6.475	−0.550 × 6.475	-3.561
9	4.330	−(0.550 ＋ 0.980) × 4.330 × 0.5	-3.312
10	2.095	0 × 2.095	0.000
11	4.630	0 × 4.630	0.000
12	2.540	−1.550 × 2.540 × 0.5	-1.969
13	13.130	−(0.100 ＋ 1.550) × 13.130 × 0.5	-10.832
14	7.000	−0.100 × 7.000	-0.700
15	4.370	−0.100 × 4.370 × 0.5	-0.219
16	22.950	0 × 22.950	0.000
17	2.800	0 × 2.800	0.000
18	2.095	0 × 2.095	0.000
19	5.735	0 × 5.735	0.000
20	55.015	0 × 55.015	0.000
21	1.895	0 × 1.895	0.000
22	1.124	0.755 × 1.124 × 0.5	0.424
23	1.895	0.755 × 1.895	1.431
24	3.505	0 × 3.505	0.000
25	2.051	−0.900 × 2.051	-1.846
26	5.720	−0.900 × 5.720	-5.148
27	31.320	−1.740 × 31.320	-54.497
28	5.000	−(1.740 ＋ 1.715) × 5.000 × 0.5	-8.638
29	24.445	−(1.715 ＋ 1.250) × 24.445 × 0.5	-36.240
30	15.000	−(1.250 ＋ 0.250) × 15.000 × 0.5	-11.250
31	6.955	−0.250 × 6.955	-1.739
32	7.320	−0.250 × 7.320 × 0.5	-0.915
1			
計	325.400		-224.171
平均ＧＬ		-224.171 ／ 325.400 ＝ −0.689	
		平均地盤面　設計ＧＬより　−６８９ｍｍ	

【既設屋内運動場棟 平均地盤面算定】

	距離(m)	計算式	面積(㎡)
a	48.650	−1.700 × 48.650	-82.705
b	9.960	−1.700 × 9.960	-16.932
c	2.065	−1.700 × 2.065	-3.511
d	18.940	−1.700 × 18.940	-32.198
e	48.015	−1.700 × 48.015	-81.626
f	20.675	−1.700 × 20.675	-35.148
g	2.700	−1.700 × 2.700	-4.590
h	8.225	−1.700 × 8.225	-13.983
計	159.230		-270.693
平均ＧＬ		-270.693 ／ 159.230 ＝ −1.700	
		平均地盤面　設計ＧＬより　−１，７００ｍｍ	

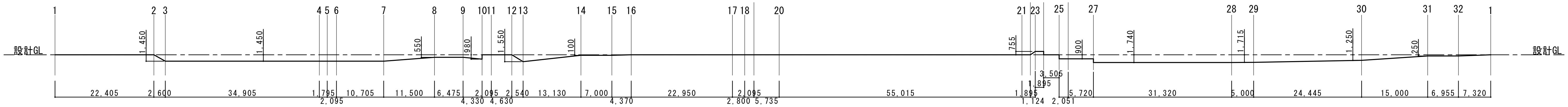
【既設プール棟 平均地盤面算定】

	距離(m)	計算式	面積(㎡)
イ	7.500	−2.020 × 7.500	-15.150
ロ	11.200	−2.020 × 11.200	-22.624
ハ	7.500	−2.020 × 7.500	-15.150
ニ	11.200	−2.020 × 11.200	-22.624
計	37.400		-75.548
平均ＧＬ		-75.548 ／ 37.400 ＝ −2.020	
		平均地盤面　設計ＧＬより　−２，０２０ｍｍ	

【日影図用平均地盤面算定】

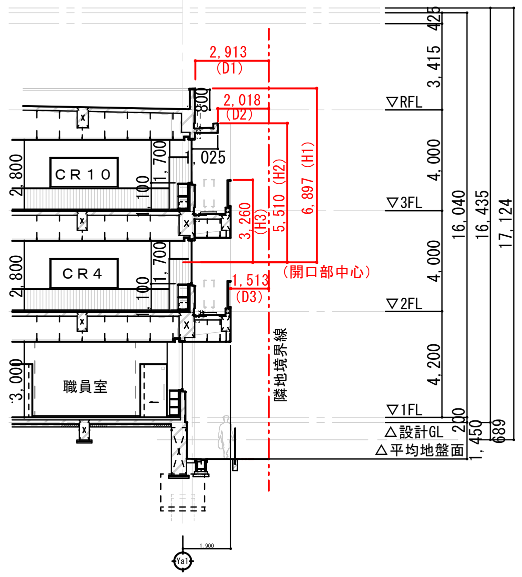
	距離全長＝522.030m
	総見付面積＝-570.412m²
平均ＧＬ	
-570.412/522.030＝-1.0927	
平均地盤面　設計ＧＬより　−１，０９３ｍｍ	

【校舎棟・屋内運動場棟 平均地盤面算定】



JOB NO.											
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	法チェック図（平均地盤面算定図）	縮尺	A1：1/400 A3：1/800	図番	A −h09 B −h09

①



CＲ４【パラペット部】
住居系（Ｄ１／Ｈ１）×６－１．４
（2.913／6.897）×６－１．４＝1.134

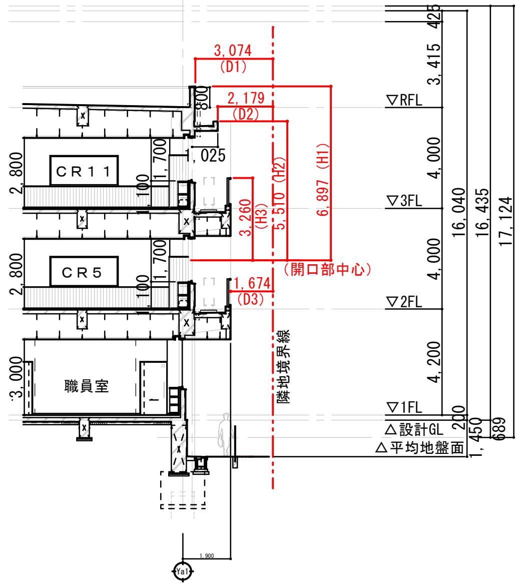
CＲ４【小庇部】
住居系（Ｄ２／Ｈ２）×６－１．４
（2.018／5.510）×６－１．４＝0.797

CＲ４
住居系（Ｄ３／Ｈ３）×６－１．４
（1.513／3.260）×６－１．４＝1.384

0.797　＜　1.136　＜　1.384

※CＲ４　採光補正係数　0.832

②



CＲ５【パラペット部】
住居系（Ｄ１／Ｈ１）×６－１．４
（3.074／6.897）×６－１．４＝1.274

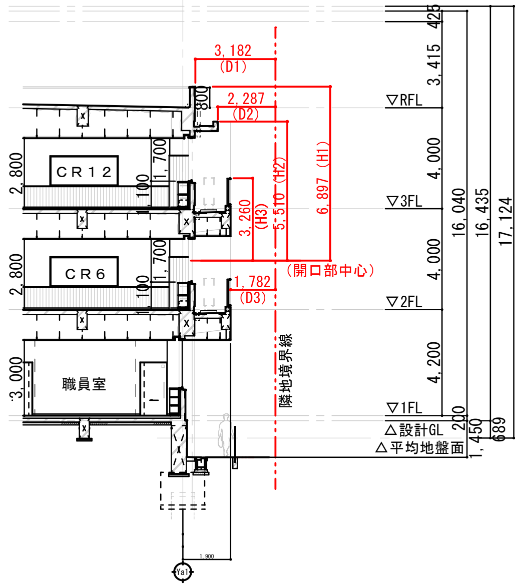
CＲ５【小庇部】
住居系（Ｄ２／Ｈ２）×６－１．４
（2.179／5.510）×６－１．４＝0.973

CＲ５
住居系（Ｄ３／Ｈ３）×６－１．４
（1.674／3.260）×６－１．４＝1.681

0.973　＜　1.314　＜　1.681

※CＲ６　採光補正係数　0.973

③



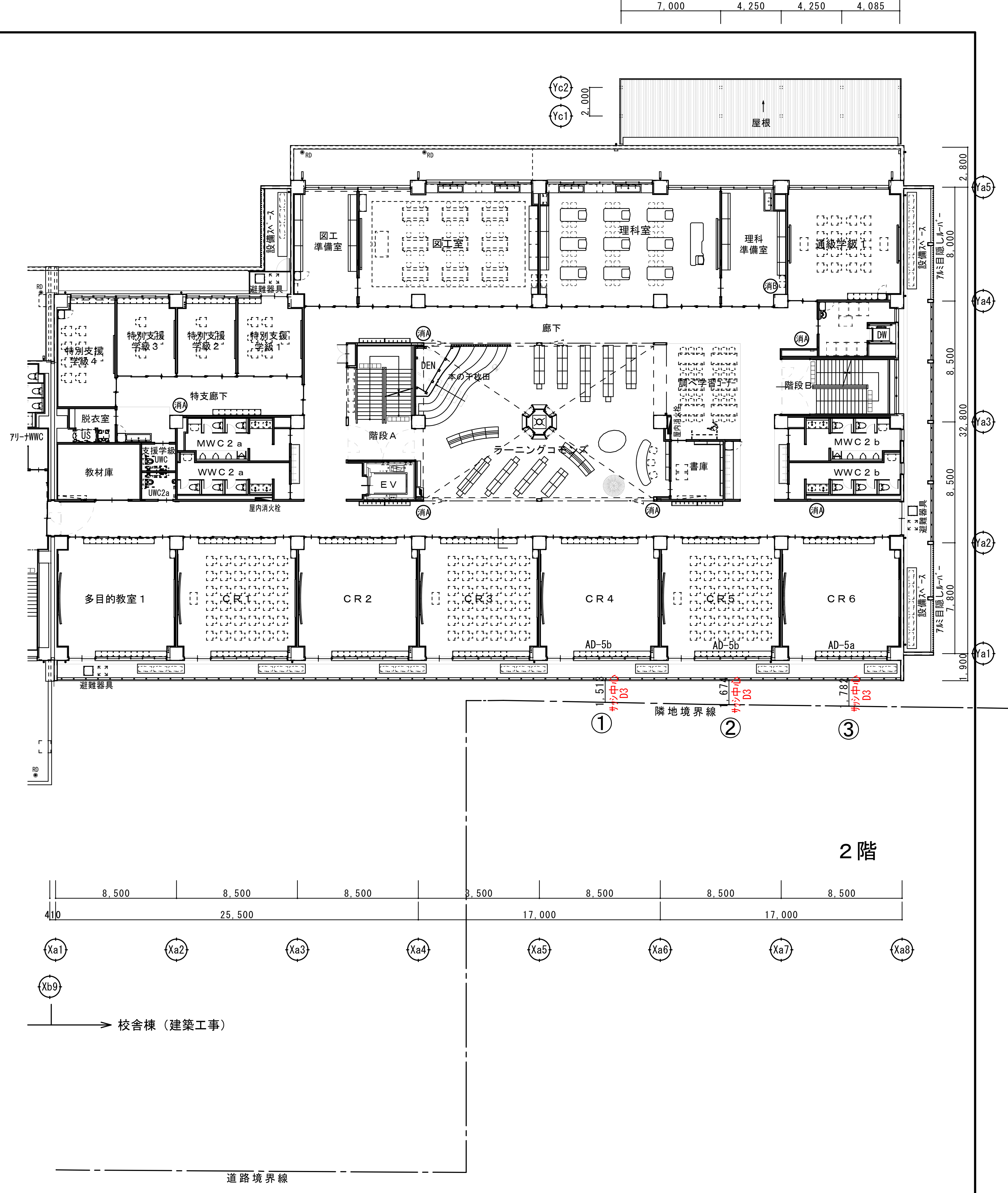
CＲ６【パラペット部】
住居系（Ｄ１／Ｈ１）×６－１．４
（3.182／6.897）×６－１．４＝1.368

CＲ６【小庇部】
住居系（Ｄ２／Ｈ２）×６－１．４
（2.287／5.510）×６－１．４＝1.090

CＲ６
住居系（Ｄ３／Ｈ３）×６－１．４
（1.782／3.260）×６－１．４＝1.879

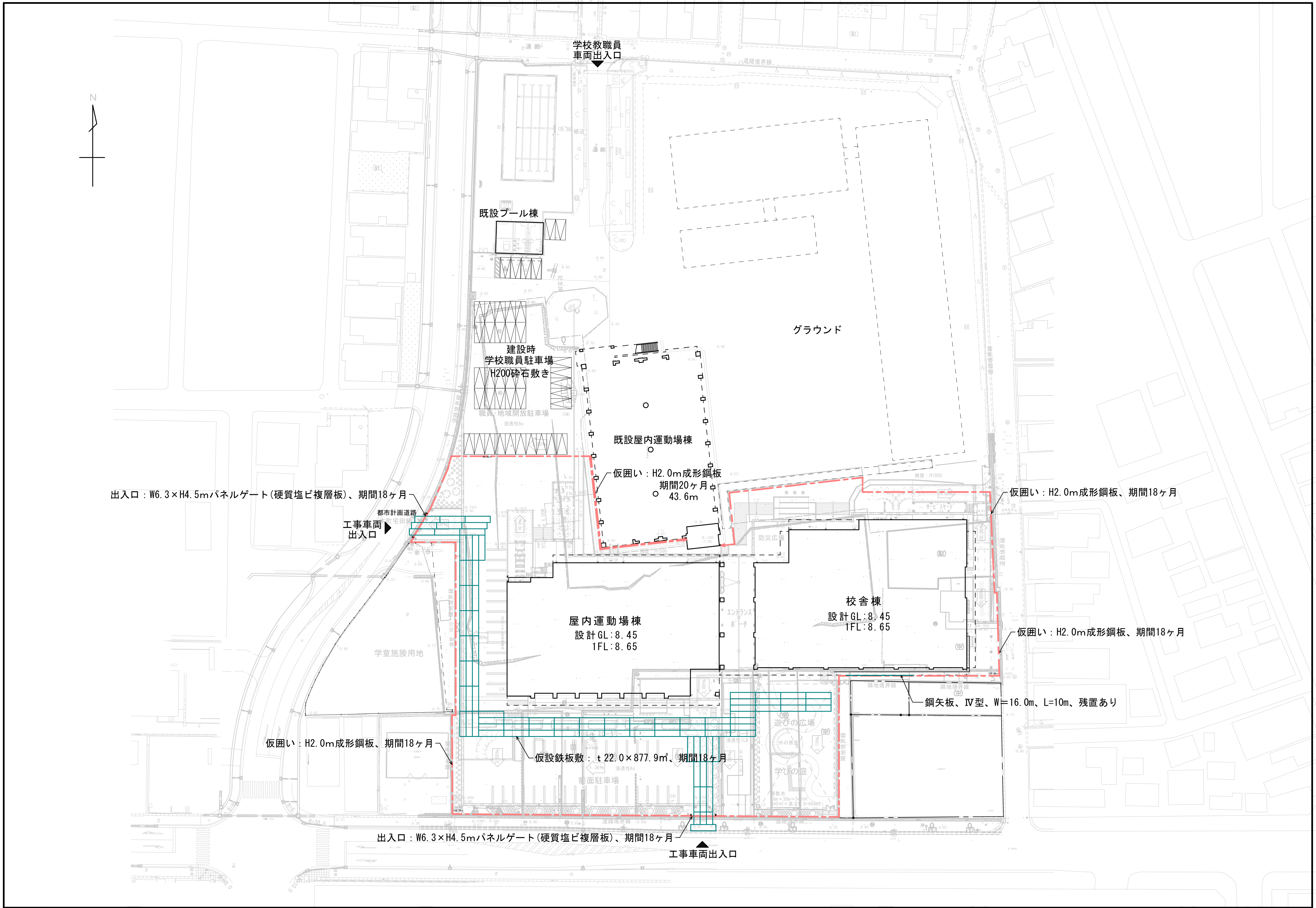
1.090　＜　1.433　＜　1.879

※CＲ６　採光補正係数　1.368



JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	採光補正係数算定図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300

図番　A－h10　B－h10



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	指定仮設図	縮尺	A1：1/400 A3：1/800	図番	A－i01 B－i01

構造設計標準仕様書

適用は●印を記入する。

１．建築物の構造内容

（１）工事名称　中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
　建築場所　石川県輪島市河井町１８－１－２

（２）工事種別　☒新築　□増築　□増改築　□改築

（３）構造種別
□木造(W)　□補強コンクリートブロック造(CB)　☒鉄骨造(S)
☒鉄筋コンクリート造(RC)　□壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)　□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)
□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)

（４）階　数
校舎棟　：地下　階　地上　３階　塔屋　１階
厨房付属棟　：地下　階　地上　１階　塔屋　階

（５）主要用途　小学校

（６）屋上付属物
□広告塔　□高架水槽　□屋外機　□目隠しフェンス
□煙突　□キュービクル　□太陽光パネル　□ハト小屋・給排気塔
□ハイサイドライト

（７）増築計画　□有(Exp.Jにて棟分離)　☒無

（８）付帯工事　□門塀　□擁壁　☒設備機器

（９）特別な荷重
☒エレベーター　□リフト　□ホイスト　□受水槽　☒ＤＷ

２．使用構造材料

（１）コンクリート

使用箇所	種類	設計基準強度 Fc (N/mm^2)	品質基準強度 Fq (N/mm^2)	ｽﾗﾝﾌﾟ (cm)	備考
均し~~・ラップル~~	普通	18	－	15	校舎棟
基礎・ピットスラブ	普通	27	27	15	校舎棟
土間ピットスラブ	普通	24	24	15	校舎棟
１Ｆスラブ	普通	27	27	15	校舎棟
上部躯体	普通	27	27	18	校舎棟
雑・設備基礎	普通	24	24	18	校舎棟
押え	普通	21	21	18	校舎棟
躯体全般	普通	24	24	15	厨房付属棟 屋外設備基礎

☒躯体コンクリート耐久性基準強度:Fd
□短期:18N/mm^2　☒標準:24N/mm^2　□長期:30N/mm^2　□超長期:36N/mm^2
☒躯体コンクリート品質基準強度:Fq = Max (Fc , Fd)
☒躯体コンクリート調合管理強度:Fm = Fq + mSn
※mSn:JASS5-2009 5節 表5.1準拠

（２）コンクリートブロック
□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種　厚□100　□120　□150　□190

（３）鉄　筋

	種類	径	使用箇所	継ぎ手工法
異形鉄筋	☒SD295	D10～D16	図示	☒重ね継ぎ手 D10～D16 ☒ガス圧接継ぎ手 D19以上 □特殊継ぎ手 （　　）
	☒SD345	D19～D25	図示	
	☒SD390	D29	図示	
丸　鋼	□SR235	φ13～φ22		
溶接金網	☒SR235	φ6	図示	

（４）鉄　骨

	種類	使用箇所	現場溶接	備考
鋼　材	図示	図示	□有　☒無	
			□有　□無	

（５）ボルト等
☒高力ボルト　□F10T　☒S10T　認定品(☒M16、☒M20、☒M22、□M24)
　☒F8T　認定品(☒M16、□M20、□M22、□M24)
☒中ボルト　☒強度区分4.6　☒M12、□M16、□M20、□M22
☒アンカーボルト　M16 L=320mm　ナット(ダブル)、Ｊ型フック付
　M20 L=400mm　ナット(ダブル)、Ｊ型フック付
□スタッドボルト　φ　:H=　mm
☒ベースパック柱脚工法　□ハイベースＮＥＯ工法　□ジャストベース工法
□ＩＳベース柱脚工法　□ＮＣベース工法

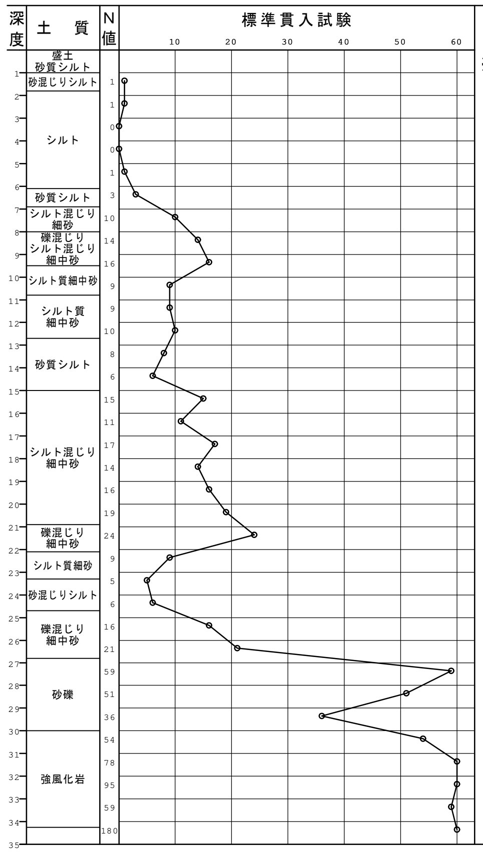
３．地盤

（１）地盤調査資料
☒有(☒敷地内 □近隣)　☒ボーリング調査　□平板載荷試験　☒水平地盤反力係数測定
□表面波探査　□スクリューウェイト貫入試験　☒土質試験　☒標準貫入試験

（２）地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□ラムサウンディング試験

（３）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更することもある。

（４）ボーリング標準貫入値、土質構成



※備考
左図：ＮＯ.６
孔口標高
＝設計ＧＬ－２.６０m

４．地業工事

（１）直接基礎
□ベタ基礎~~(基礎下地盤改良併用)~~　□布基礎　□独立基礎　試験堀□有　□無
基礎下深さ:GL-　m、支持層:　層
基礎下許容支持力度(長期):　kN/m^2

（２）杭基礎支持層:砂礫層・強風化岩層、支持レベル:図示　載荷試験□有　☒無

杭種	材料	施工法	備考
☒PHC杭 □PRC杭(CPRC杭) ☒SC杭 ☒節付PHC杭 □節付PRC杭 □羽根付鋼管杭	PHC(☒Ａ種☒Ｂ種☒Ｃ種) PRC(□Ⅰ種□Ⅱ種□Ⅲ種) SC (□t=6 ☒t=14☒t=16) 鋼材(□STK400☒STK490) □図示	□ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法 □SUPERﾆｰﾃﾞｨﾝｸﾞ工法 ☒Hyper-MEGA工法 □FP-BESTEX工法 □Hyper-ｽﾄﾚｰﾄ工法 □ｽｸﾘｭｰﾊﾟｲﾙEAZET工法 □N-ECSﾊﾟｲﾙ工法	
□場所打ちコンクリート杭	ｺﾝｸﾘｰﾄ　Fc= ｾﾒﾝﾄ量　kg/m^3 鉄筋　主筋　SD345 HOOP　SD295	□ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ　□拡底杭 □ﾘﾊﾞｰｽｻｰｷｭﾚｰｼｮﾝ □ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ　□ﾐﾆｱｰｽ □BH　□深礎　□手堀り □機械堀り	Ｅ拡底杭 日本建築ｾﾝﾀｰ認定 第　号 年　月　日

杭仕様　☒施工計画書承認　☒杭施工結果報告書　試験杭☒有　□無

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭長(m)	SET	特記事項
図示	図示	図示	図示	図示

（３）地盤改良(「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針/日本建築センター、ベターリビング」)
☒浅層地盤改良　☒柱状改良コラム工法
□スラリー系機械撹拌式ブロック状地盤改良工法
深さ:GL-　m、支持層:　層、基礎下許容支持力度(長期):　kN/m^2
※地盤改良施工範囲は、現地における試験堀などの方法により最終決定する。

５．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート

☒コンクリートは、ＪＩＳ認定工場の製品とし施工に関してはＪＡＳＳ５による。

☒セメントは、「ＪＩＳ Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメント」を標準とする。

☒調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(一財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上かつ１５０m^{3}ごと及びその端数につき１回以上とする。また、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

☒構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(ＪＡＳＳ５Ｔ－６０３)は、現場水中養生、または、現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が１５０m^{3}をこえる場合は１５０m^{3}ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車から、その必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り９本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。

☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１２０分、２５℃以上の場合は９０分以内とする。

（２）鉄　筋

☒鉄筋は「ＪＩＳ Ｇ３１１２の規格品」を標準とする。

☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継ぎ手位置、継ぎ手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図」による。

☒Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。継手(Ｄ１９以上)をガス圧接とする場合は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。

☒ガス圧接部の抜取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごとに１回行い、１回の試験は３０本以上とする。
外観検査　☒有 □無、引張試験　□有 ☒無、超音波探傷試験　☒有 □無

☒柱の帯筋(フープ筋)の加工方法は、□Ｈ型(タガ型) ☒Ｗ型(溶接型) □Ｓ型(スパイラル型)とする。

☒コンクリート及び鉄筋の試験は公的試験機関で行う。
試験機関　石川県生コンクリート工業組合　県北(または県南)共同試験場

（３）型　枠

☒材料　合板厚１２mmを標準とする。

☒型枠存置期間

種類		せき板				支柱		
部位		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
存置期間の平均気温								
コンクリート材齢(日)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃-15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5N/mm^2		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注１）片持梁、庇、スパン９ｍ以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注２）大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注３）支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注４）盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注５）支柱の盛りかえは、小梁が終わってからスラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

６．鉄骨工事

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒日本鉄鋼連盟「建築鉄骨工事施工指針」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの
☒製作工場　☒製作要領書　☒工作図　☒施工計画書
☒建築基準法第６８条の２６第１項による認定工場（大臣認定 Ｍ グレード以上）
☒材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材　☒高力ボルト　□特殊ボルト　□スタッドボルト
☒社内検査表　□　□

（３）工事監理者が行う検査項目
（□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
□現寸検査　☒組立・開先検査　☒製品検査　☒建方検査

（４）接合部の溶接は下記によること
☒日本建築学会「溶接工作基準、同解説１～９」

（５）接合部の検査
☒溶接部の検査(検査結果は、後日工事監理者に報告すること。)

検査箇所	検査方法	検査率または検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
☒突合せ溶接	超音波探傷試験	100 %	備考参照	%	（第三者検査） ＡＯＱＬ４.０% 第６水準
☒隅肉溶接	外観(目視)検査	100 %		%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名：ＣＩＷ認定者または監督職員の承諾する機関 第三者検査機関とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注）現場溶接については、原則として第三者による全数検査を行うこと。

☒高力ボルトは「ＪＩＳ Ｂ１１８６の高力ボルト」を標準とする。

（６）防錆塗装

☒防錆塗装範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。外の部分錆止めペイントは、「ＪＩＳ Ｋ５６７４」２回塗りを標準とする。

☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じペイントを使用し２回塗りとする。

７．設備関係

☒特記以外の梁貫通孔は、原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。

☒設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。

☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を５cm以上とする。

☒設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。梁貫通補強筋は、認定品を使用すること。

＜令第１２９条の２の３の事項＞
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☒建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食または腐朽のおそれがないものとすること。

☒屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これに類するものは(以下「屋上水槽等」という。)耐力上主要な支持構造部または建築物の構造部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造または無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、９０cm以下とすること。

□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５cm以上とした鉄筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☒建築物に設ける給水、排水その他の設備配管(給湯設備を除く)は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

☒建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☒管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生じるおそれがある場合において、伸縮継手または可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☒管を支持し、または固定する場合においては、つり金物または防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☒法第２０条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成１２年建設省告示第１３８９号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☒給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が１５kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成１２年建設省告示第１３８８号第５に規定する構造方法によること。
※「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

８．その他

☒諸官庁への届出書類は、遅滞なく提出すること。

☒各試験の供試体は、公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

☒当設計図書に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和７年版)に従うこと。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［１］

１．共通事項

Ａ．適用範囲

１．この標準図は、各種構造（ＲＣ造、ＳＲＣ造、Ｓ造）の鉄筋コンクリート造部分に適用する。

２．設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。
この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事標準仕様書」（以下、標仕）による。

３．使用する鉄筋、及び溶接金網は、特記による。
この標準図は、表１．１に示す鉄筋および溶接金網に適用する。
これ以外は特記による。

表１．１

規格番号	規格名称	種類の記号
ＪＩＳ Ｇ３１１２	鉄筋コンクリート用棒鋼	ＳＲ２３５，ＳＲ２９５ ＳＤ２９５Ａ，ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５，ＳＤ３９０
ＪＩＳ Ｇ３１１７	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	ＳＤＲ２９５，ＳＤＲ３４５
ＪＩＳ Ｇ３５５１	溶接金網	

Ｂ．凡例

ｄ　：鉄筋の直径（異形鉄筋では呼び名に用いた数値、丸鋼では径）
ｈｏ：部材の内法高さ
ｌｏ：部材の内法寸法
ｒ　：半径
＠　：間隔
℄　：中心線

Ｃ．鉄筋の表示

１．鉄筋の表示記号は、表１．２による。

表１．２

表　示　記　号		•	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎
鉄筋径	異形鉄筋	Ｄ１０	Ｄ１３	Ｄ１６	Ｄ１９	Ｄ２２	Ｄ２５	Ｄ２９	Ｄ３２
	丸　鋼	９φ	１３φ	１６φ	１９φ	２２φ	２５φ	２９φ	３２φ

（１）上記の表示記号を使用しない場合は特記による。
（２）上記の表示記号は、この配筋標準図には適用しない。

２．鉄筋の加工・組立て

Ａ．加工・組立て

１．鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。

２．有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋は、使用しない。

３．鉄筋の切断は、シャーカッターや電動カッター、または鉄筋冷間直角切断機等によって行う。ただし、圧接端面となる場合は、ガス切断を行ってはならない。

４．鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行わない。

５．鉄筋の溶接は、アーク溶接とする。溶接技能者は、工事に相応した技量を有する者とする。

６．鉄筋の組立は、鉄筋の交差部および継手部の要所を径０．８mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊り金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また、コンクリート打放しの仕上げとなる箇所には、防錆処理を行ったスペーサーを使用する。

７．前に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付け根で急に曲げないで、できるだけ長い距離で修正する。

８．設備配管、スイッチ等の設置により、設計図書に定める配筋が困難な場合は、設計者及び監督職員と協議する。

Ｂ．末端部のフック

１．次の場合、鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（１）丸鋼
（２）異形鉄筋
ａ．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。
ｂ．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両側にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。
ｃ．煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
ｄ．杭基礎のベース筋。
ｅ．帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

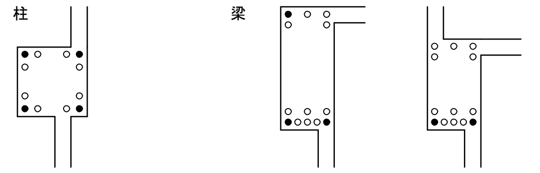


図２．１

Ｃ．折曲げ

１．鉄筋の折り曲げは、表２．１及び表２．２による。

表２．１　鉄筋の折曲げ（末端部）

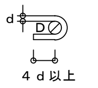
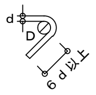
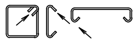
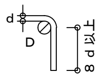
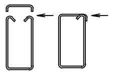
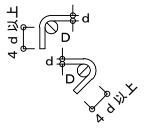
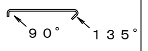
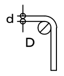
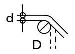
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ）			使用箇所
		ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５		ＳＤ３９０	
		Ｄ１６以下	Ｄ１９～Ｄ３８	Ｄ１０～Ｄ３８	
１８０°		３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 Ｄ１６以上の鉄筋
１３５°		３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 Ｄ１３以下の鉄筋
９０°		３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	Ｔ形及びＬ形の 梁のあばら筋
１３５° 及び ９０°		３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	 幅止め筋

表２．２　鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ）			使用箇所
		ＳＤ２９５Ａ、ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５、ＳＤ３９０			
		Ｄ１９以下	Ｄ１６～Ｄ２５	Ｄ２９～Ｄ３８	
９０°以下		３ｄ以上	４ｄ以上	――	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
		４ｄ以上 （５ｄ以上）	６ｄ以上	８ｄ以上	その他の鉄筋

（注）（　）内はＳＤ３９０の場合を示す。

３．鉄筋の継手・定着

Ａ．鉄筋の継手及び定着長さ

１．鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手または特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第７３条５項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。
特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表３．１による。

表３．１　鉄筋の種類に応じた継手工法

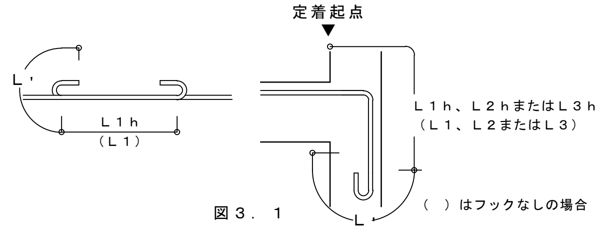
種類の記号	適用径の範囲	
	重ね継手	ガス圧接継手
ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１６以下	――
ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５ ＳＤ３９０	原則として、Ｄ１６以下とする。ただし、基礎、耐圧版、土圧を受ける壁等の大断面部材の場合は、Ｄ２５以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、Ｄ３２以下とする。	Ｄ１９以上

２．重ね継手および定着の長さは、特記がなければ表３．２による。

表３．２　鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	フックなし				フックあり			
		Ｌ１	Ｌ２	Ｌ３		Ｌ１ｈ	Ｌ２ｈ	Ｌ３ｈ	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ	１８	４５ｄ	４０ｄ	２０ｄ	１０ｄ かつ １５０mm 以上	３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）	１０ｄ	――
	２１	４０ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		
	２４、２７ 30、33、36	３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）			２５ｄ （４０ｄ）	２０ｄ （４０ｄ）		
ＳＤ３４５	１８	５０ｄ	４０ｄ			３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）		
	２１	４５ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		
	２４、２７	４０ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		
	30、33、36	３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）			２５ｄ （４０ｄ）	２０ｄ （４０ｄ）		
ＳＤ３９０	２１	５０ｄ	４０ｄ			３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）		
	２４、２７	４５ｄ	４０ｄ			３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）		
	30、33、36	４０ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		

（注）１．（　）は、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さを示す。
ただし、軽量コンクリートを除く。
２．L_1、L_{1h}：３．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
３．L_2、L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
４．L_3　：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く）。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、２０ｄ及び１０ｄを２５ｄ以上とする。
５．L_{3h}　：小梁下端筋のフックあり定着長さ。
６．フックあり定着の場合は、図３．１に示すようにフック部分Ｌ’をを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
７．軽量コンクリートの場合は、表の（　）内の値に１０ｄ、その他の値に５ｄを加えたものとする。



（　）はフックなしの場合

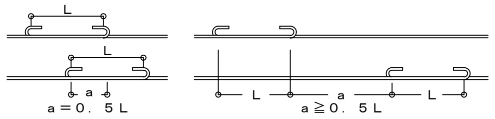
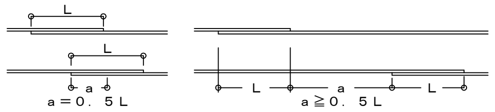
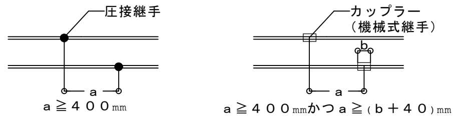
図３．１

３．定着方法は、標仕５．３．４（ｅ）（２）による。

Ｂ．隣合う継手の位置

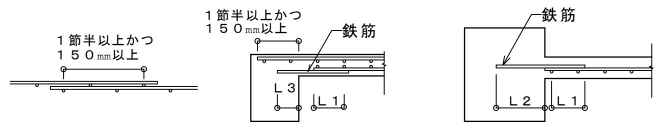
１．隣合う継手の位置は、表３．３による、ただし、スラブ及び壁の場合でＤ１６以下は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表３．３　隣合う継手の位置（壁・床版を除く）

フックのある場合	
フックのない場合	
圧接継手 及び 機械式継手	 圧接継手 ａ ａ≧４００mm カップラー （機械式継手） ｂ ａ ａ≧４００mmかつａ≧（ｂ＋４０）mm

Ｃ．溶接金網の継手及び定着

１．溶接金網の継手及び定着は、図３．２による。



重ね継手　　スラブの場合　　壁の場合

図３．２

４．鉄筋のかぶり厚さ及びあき

Ａ．鉄筋のかぶり厚さ

１．設計かぶり厚さは、特記による。特記が無ければ、表４．１による。
但し柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。

表４．１　鉄筋のかぶり厚さ　（単位：ｍｍ）

構造部分の種別				設計かぶり厚さ	最少かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり		３０	２０
		仕上げなし		４０	３０
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	４０	３０
			仕上げなし	４０	３０
		屋外	仕上げあり	４０	３０
			仕上げなし	５０	４０
	擁壁、耐圧スラブ			５０	４０
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			＊５０	＊４０
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			＊７０	＊６０
煙突等の高熱を受ける部分				７０	６０

（注）１．設計かぶり厚さ：鉄筋加工に用いる標準かぶり厚さ
最小かぶり厚さ：鉄筋組立後のかぶり厚さ
２．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
３．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗装、吹付けまたは塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
４．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
５．杭基礎ベース筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。
６．貫通孔部、及びひびわれ誘発目地部の目地底に接する鉄筋について最小かぶり厚さを確保する。
７．塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、特記による厚さを表４．１の数値に加える。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－02
１９９９．７．１　改訂		
２００８．４．１　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［１］	縮尺
２０１１．４．１　改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１　改訂		
２０２０．４．１　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［２］

４．鉄筋のかぶり厚さ及びあき（続き）

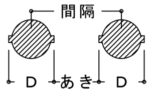
Ｂ．鉄筋の相互のあき

１．鉄筋相互のあきは図４．１により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。

（１）粗骨材の最大寸法の１．２５倍

（２）２５ｍｍ

（３）隣合う鉄筋の平均径（呼名に用いた数値ｄ）の１．５倍



Ｄは、鉄筋の最大外径

図４．１

２．鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは１．による.

Ｃ．鉄筋の保護

１．鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。

２．コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚さ、位置及び間隔の保持に努める。

５．基礎・基礎梁

Ａ．基礎

１．基礎の配筋要領

（１）直接独立基礎

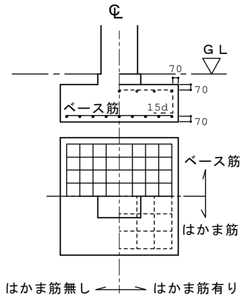


図５．１

（２）杭独立基礎

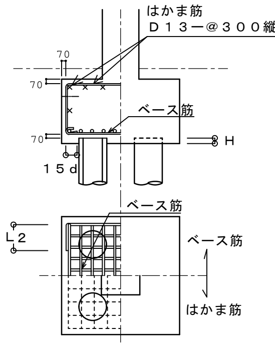


図５．２

（３）直接連続基礎（はかま筋無し）

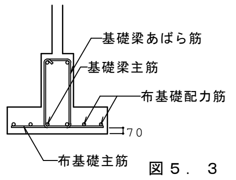


図５．３

（注）１．ベース筋の径・本数は図示による。
原則ベース筋は継手を設けず通し筋とする。
２．はかま筋及び布基礎配力筋の径・本数は図示による。図示が無ければD13-@300とする。
３．杭頭のフーチング内への埋込み深さＨは図示による。図示が無ければＨ=100mmとする。

２．杭頭の補強要領

杭頭補強の要領は図示による。ＰＨＣ杭で図示が無い場合は図５．４による。

〔Ｈ≦300の場合〕

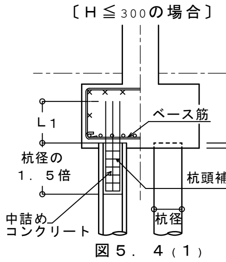


図５．４（１）

〔Ｈ≧杭径かつ杭頭をカットしない場合〕

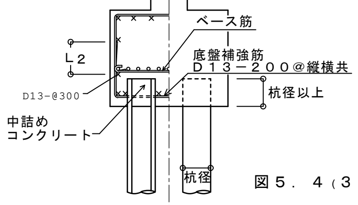


図５．４（３）

〔Ｈ＞300の場合〕

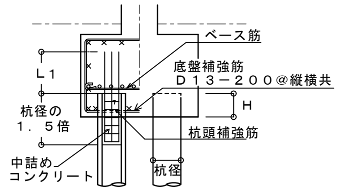


図５．４（２）

杭頭補強筋及び補強帯筋は図示による。
図示が無ければ下記による。

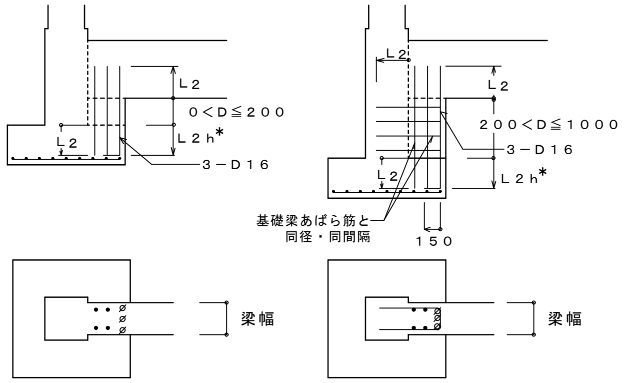
◎ 杭径	３５０φ以下	・・・	６－Ｄ１３
〃	４００φ	・・・	８－Ｄ１３
〃	４５０φ	・・・	１０－Ｄ１３
〃	５００φ	・・・	８－Ｄ１６
〃	６００φ	・・・	１０－Ｄ１６
◎ 帯筋			Ｄ１０ー＠１００

※杭頭補強筋は、フックをつけない。

（注）１．中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用

Ｃ．基礎接合部の補強

１．基礎接合部の補強は、特記による。特記が無ければ図５．５による。



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、
標仕5.3.4(e)(3)によることができる。

図５．５

Ｄ．基礎梁筋の継手及び定着

１．一般事項

（１）梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図５．６による。

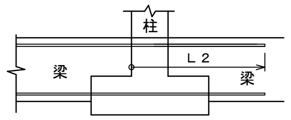


図５．６

（２）梁筋を柱内に定着する場合は、標仕５．３．４（ｅ）（２）による。

（３）継手は原則として，コンクリートに常時圧縮応力が生じている部分、または応力の小さい部分に設ける。

（４）継手は１か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

２．基礎梁に構造スラブがつかない独立基礎の場合

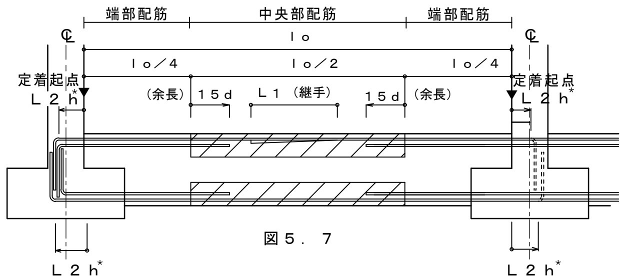


図５．７

３．基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合
※耐圧スラブが付く場合は、図５．９に準ずる。

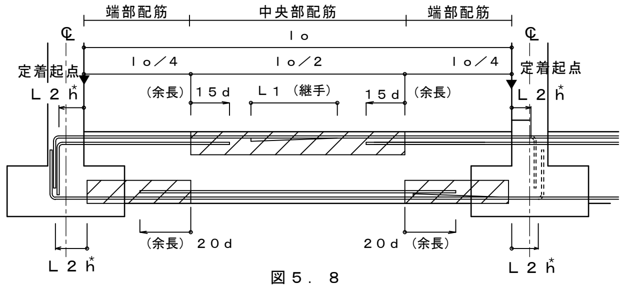
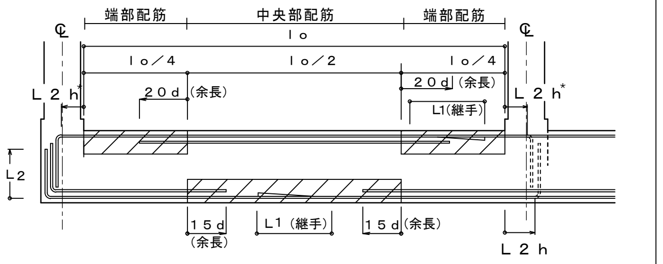


図５．８

４．連続基礎及びべた基礎の場合



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図５．９

（注）・図示のない事項は、９．「大梁」による。
・══ 印は、継手位置を示す。
・破線は、柱内定着の場合を示す。
・ハッチ部分は、望ましい継手位置を示す。

Ｅ．基礎梁のあばら等

１．基礎梁のあばら筋

（１）基礎梁のあばら筋の径及び間隔は、特記による。

（２）基礎梁のあばら筋組立の形及びフックの位置は、１０．「あばら筋等」による。ただし、梁せいが１．５ｍ以上の場合は．図５．１０によることができる。

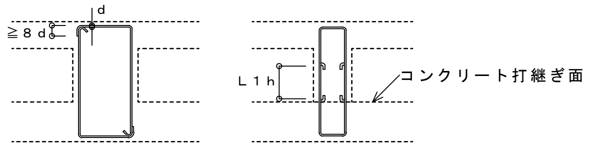


図５．１０

２．腹筋及び幅止め筋は、１０．「あばら筋等」による。ただし、梁せいが、１．５ｍ以上の場合は、特記による。

３．あばら筋の割付は、１０．「あばら筋等」による。

Ｆ．基礎梁の補強

１．打増し補強は、１１．「梁の打増補強」による。

２．土間スラブ等の打継ぎ補強は、１３．「スラブ」（３）スラブ等の補強による。

６．柱

Ａ．柱の主筋

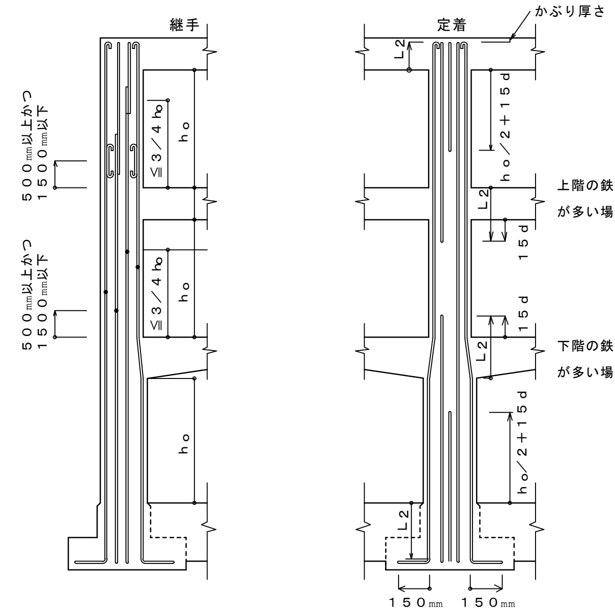
１．柱主筋の継手及び定着は、次による。

（１）継手及び圧接中心位置は、梁上端から５００mm以上、１５００mm以下かつ、３／４ｈｏ（ｈｏは柱の内法高さ）以下とする。

（２）重ね継手長さはＬ１とし、定着及び余長は図６．１による。ただし、柱頭定着長さＬ２が確保できない場合は、特記による。

２．電気設備の埋め込みボックス等は、柱の断面欠損となり、強度、耐久性の低下につながるため、原則として、埋め込まないこととする。やむを得ず埋め込む場合には、柱の打増し、乾式工法（軽鉄下地）等を検討する。また、配管についても１つの柱に集中させないようにするとともに、材軸方向と直交方向に配管する場合には柱の貫通は行わないこととする。

３．柱主筋にＸ形配筋を用いる場合は、「Ｘ形配筋部材の設計と施工（日本建築士事務所協会）」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。



（注）・２．「鉄筋の組立・加工」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・隣合う継手の位置は、表３．３による。
・継手、定着は、すべての階に適用できる。

図６．１

７．帯筋

Ａ．帯筋

１．帯筋は，原則としてＨ形とする。ただし、構造上重要な柱、独立柱等で特記するものはスパイラル筋とする。
やむを得ず上記以外の方法とする場合はｂ、ｃによる。

（１）Ｈ形の１３５°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－１形とする。

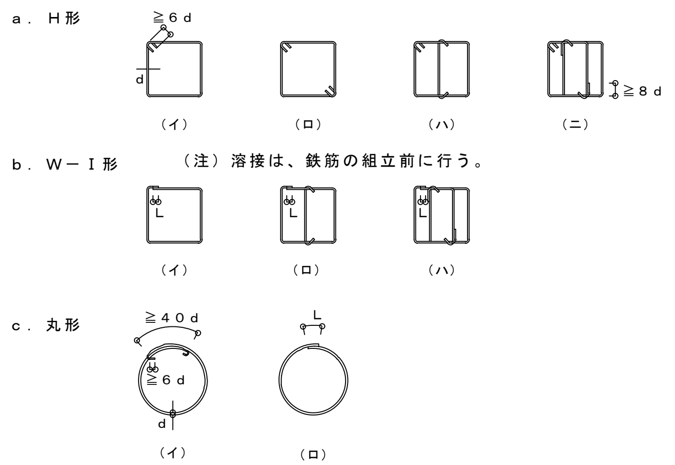


図７．２

（２）溶接する場合の長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とする。
溶接は設備の整った工場で行うことを原則とする。やむを得ず現場で溶接しなければならない場合には、十分に溶接できる作業条件と有資格者によって行うこととする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

19　．　．　制定 1999．7．1　改訂	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－03
2008．4．1　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［２］	縮尺
2011．4．1　改訂 2017．4．1　改訂 2020．4．1　改訂	教育委員会教育総務課	

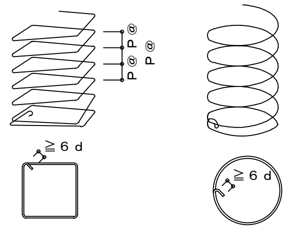
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［３］

７．帯筋（続き）

２．帯筋をスパイラル筋とする場合、次のとおりとし、間隔は特記による。

ＳＰ形（スパイラル筋）



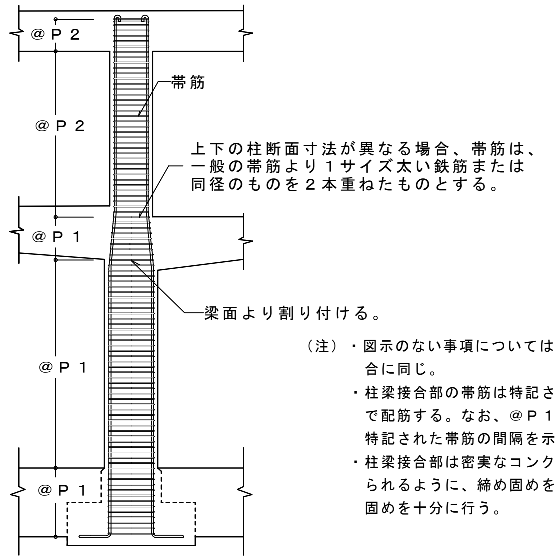
（注）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は、１．５巻以上の添巻きを行う。

図７．１

（１）スパイラル筋の重ね継手は長さ５０ｄ以上、かつ、３０cm以上とし、その末端は９０°フック余長１２ｄ以上、または１３５°フック余長６ｄとする。ただし、スパイラル筋の径は１３mm、または、Ｄ１３以下を原則とする。
原則として角スパイラルは、柱断面が正方形または正方形に近い長方形のものに用いる。

３．フック及び継手の位置は、交互とする。

４．帯筋の割付けは、特記による。特記が無い場合は、図７．２による。


@Ｐ２
帯筋
@Ｐ２
上下の柱断面寸法が異なる場合、帯筋は、一般の帯筋より１サイズ太い鉄筋または同径のものを２本重ねたものとする。
@Ｐ１
梁面より割り付ける。
@Ｐ１
@Ｐ１

（注）・図示のない事項については、一般の場合に同じ。
・柱梁接合部の帯筋は特記されたピッチで配筋する。なお、@Ｐ１、@Ｐ２は、特記された帯筋の間隔を示す。
・柱梁接合部は密実なコンクリートが得られるように、締め固めを十分に締め固めを十分に行う。

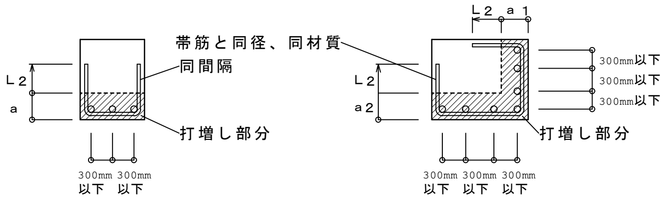
図７．２

８．柱の打増補強

Ａ．柱の打増補強

１．柱の打増しは、特記による。特記が無く、打増し幅が７０mm以上、２００mm以下の場合には図８．１による。

２．梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（ａ）１方向の打増し　　（ｂ）２方向の打増し

（７０mm≦ ａ、ａ１、ａ２ ≦２００mmの場合）

図８．１

９．大梁

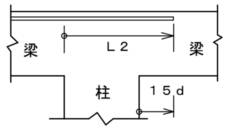
Ａ．大梁の主筋

１．大梁主筋の継手及び定着の一般事項。

（１）継手及び圧接中心位置は、次による。
上端筋：中央Ｌｏ／２以内
下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、Ｌｏ／４以内

（２）継手長さはＬ１とし、定着長さ及び余長は図９．３及び図９．４による。

（３）梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図９．１による。



（注）上階に柱がある場合の定着長さはＬ２とし、１５ｄは必要ないものとする。

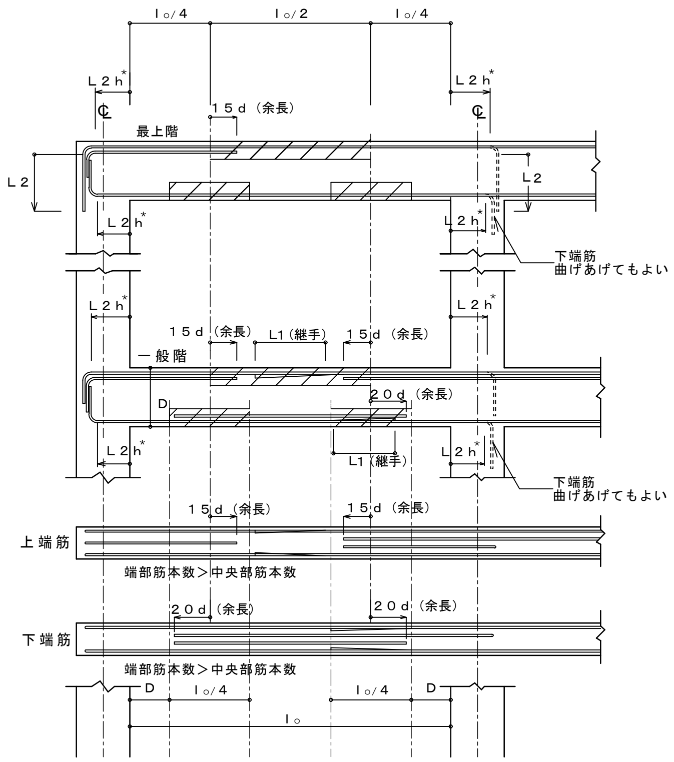
図９．１

（４）梁主筋を外柱内に定着する場合は、原則として梁の上端筋は下向き定着とし、下端筋は上向き定着とする。また、上端筋及び下端筋とも柱梁接合部における投影定着長さを柱せいの３／４倍以上とする。

（５）梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。特記がなければ、１：４とする。

２．ハンチのない場合の重ね継手及び定着は、図９．２による。

ｕＬｈ：上端筋の水平定着長さ　　Ｄ：柱のせい
ｌＬｈ：下端筋の水平定着長さ
ｕＬｈ≧３／４Ｄ、かつｌＬｈ≧３／４Ｄとする。

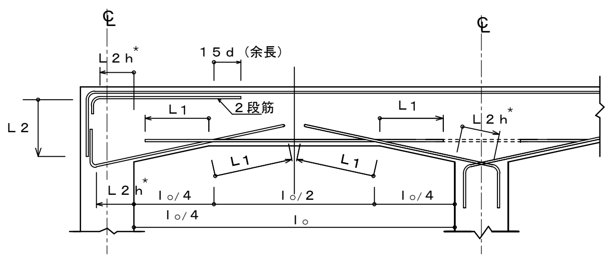


＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．２

（注）・２．「鉄筋の加工・組立て」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・═══ 印は、継手及び余長を示す。
・破線は、柱内定着の場合を示す。
・ハッチ部分は望ましい継ぎ手位置を示す。

３．ハンチのある場合の定着は、図９．３による。

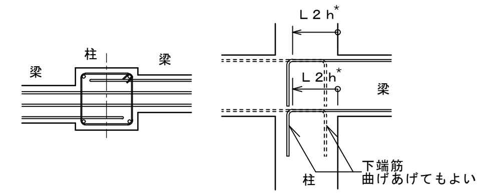


＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．３

（注）・２．「鉄筋の折り曲げ」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・═══ 印は、継手及び余長を示す。
・梁内定着の端部が接近するときは、┄┄┄┄ のように引き通すことができる。
・破線は、柱内定着の場合を示す。

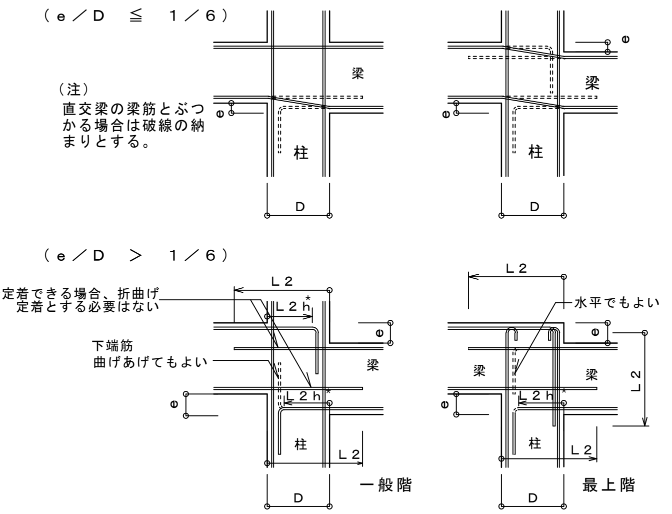
４．水平段差のある場合の定着は、図９．４による。



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．４

５．段違い梁の定着は、図９．５による。



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．５

６．梁主筋にＸ形配筋を用いる場合は、「Ｘ形配筋部材の設計と施工（日本建築士事務所協会）」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。

１０．　あばら筋等

Ａ．あばら筋

１．あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項。

（１）あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。

（２）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、Ｄ１０@１０００程度とする。

（３）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０mm程度とする。

（４）壁梁の場合、腹筋の設定長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければＬ２とする。

（５）ハンチ基点のあばら筋の径、ピッチは特記による。

２．あばら筋組立の形及びフックの位置

（１）形は、図１０．１（イ）とする。ただし、Ｌ形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、Ｔ形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。

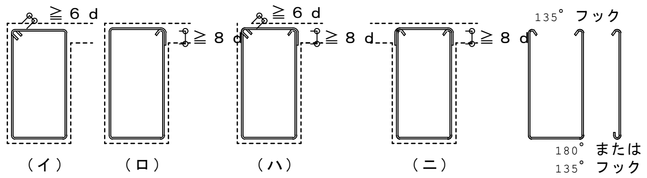


図１０．１

（２）フックの位置は（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合のＬ形ではスラブのつく側、Ｔ形では交互とする。なお（ハ）の場合はスラブのつく側を９０°曲げとする。

３．あばら筋・腹筋の割付け

（１）間隔が一様で、ハンチの無い場合

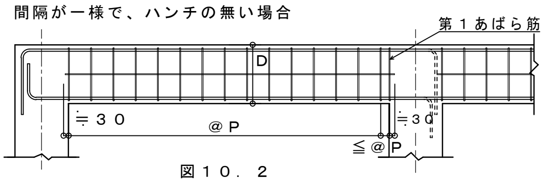


図１０．２

（２）間隔が一様で、ハンチのある場合

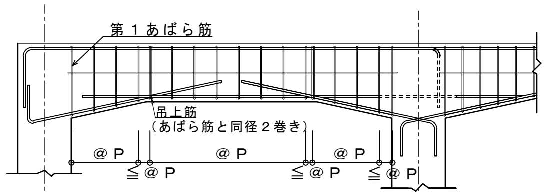


図１０．３

（３）梁の端部で間隔の異なる場合

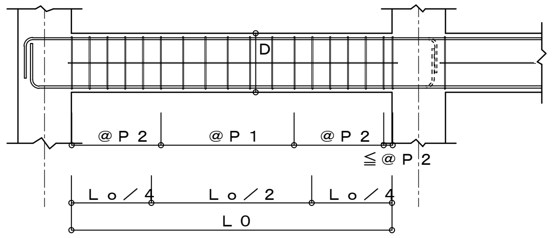


図１０．４

（注）・あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
・図注の@Ｐ１、@Ｐ２は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

Ｂ．腹筋及び幅止筋

１．一般の梁場合は図示による。図示が無い場合図１０．５による。

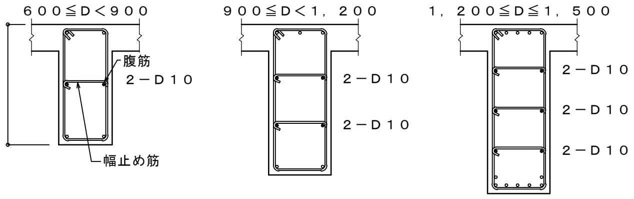


図１０．５

以後梁成が300mm増す毎に１段増やす。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－04
１９９９．７．１　改訂		
２００８．４．１　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［３］	縮尺
２０１１．４．１　改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１　改訂		
２０２０．４．１　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［４］

１０．　あばら筋等（続き）

２．壁梁の場合は、図１０．６による。

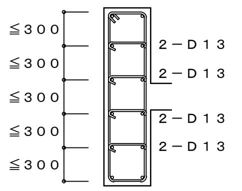


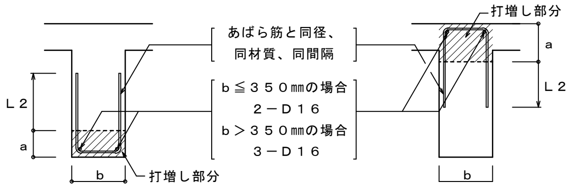
図１０．６

１１．梁の打増し補強

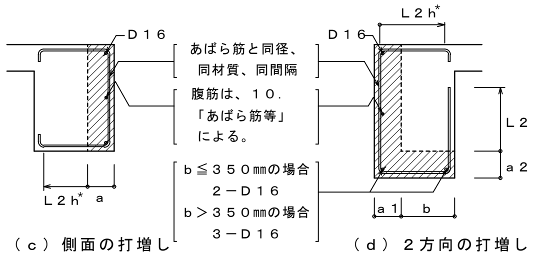
A．梁の打増し補強

１．梁の打増しは図示による。図示が無い場合は図１１．１による。

２．小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（a）下端の打増し　　（b）上端の打増し



（c）側面の打増し　　（d）２方向の打増し

＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。
７０mm≦ａ≦２００mmの場合（ａ＜７０の場合は補強筋不要）

図１１．１

１２．小梁、片持ち梁

A．小梁

１．小梁主筋の継手及び定着

（１）連続小梁の場合

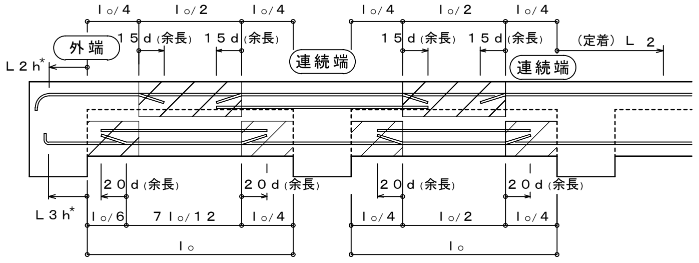
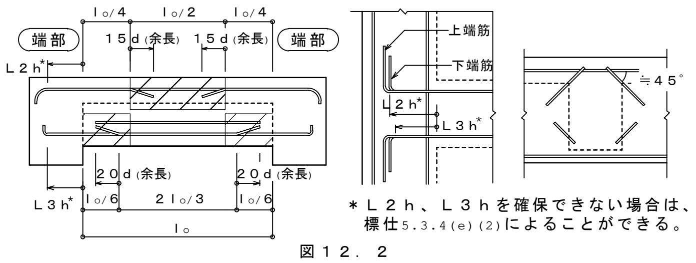


図１２．１

（２）単独小梁の場合



＊Ｌ２ｈ、Ｌ３ｈを確保できない場合は、
標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図１２．２

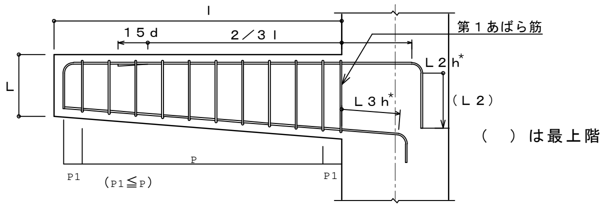
（注）１．━━━ 印は、余長位置を示す。
２．図示のない事項は、５．「基礎・基礎梁」Ｄ「基礎梁の継手及び定着」及び９．「大梁」による。
３．ハッチ部分は望ましい継手位置を示す。

２．あばら筋は、１０．「あばら筋等」による。
３．打増補強筋は、１１．「梁の打増補強」による。

B．片持ち梁

１．片持ち梁の配筋要領

（１）先端に小梁のない場合

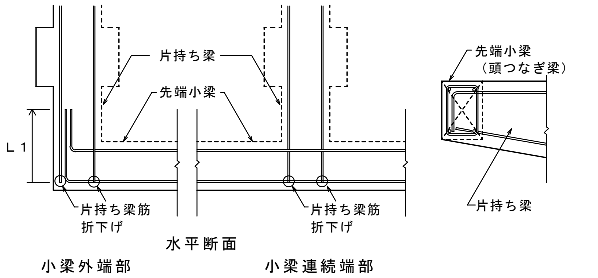


＊Ｌ２ｈ、Ｌ３ｈを確保できない場合は、
標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図１２．３

（注）・図示のない事柄は、９．「大梁」による。
・━━━ 印は、余長を示す。
・先端の折曲げの長さＬは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
・梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取り付く場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、２本以上を柱に定着する。

（２）先端に小梁がある場合



（注）・図示のない場合は、（１）による。
・先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
・先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図１２．４

２．あばら筋は、１０．「あばら筋等」による。
３．打増補強筋は、１１．「梁の打増補強」による。

１３．スラブ

A．スラブ

１．スラブの厚さ及び配筋は、特記による。

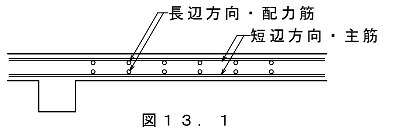
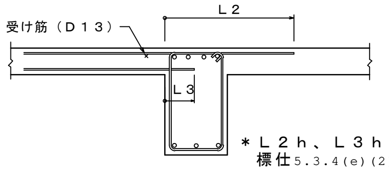


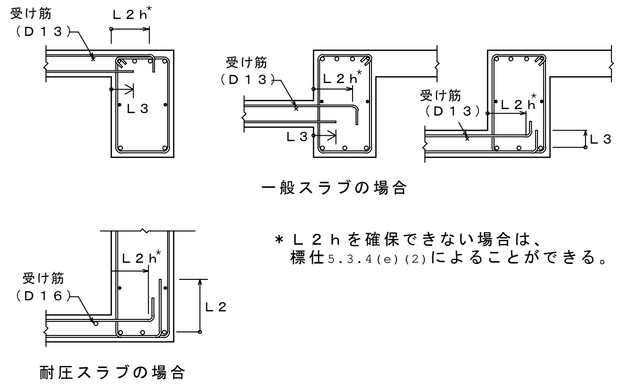
図１３．１

２．配筋可能な限り継手は設けない加工とする。
３．配筋は、中央から割り付け、端部は定められた間隔の１／２以下とする。
４．鉄筋の重ね継手長さは、Ｌ１とする。
５．定着長さ及び受け筋は、図１３．２による。ただし、引き通すことができない場合は、図１３．３により梁内に定着する。
６．スラブ筋の継手は、原則として梁内に設けないこと。



＊Ｌ２ｈ、Ｌ３ｈを確保できない場合は、
標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

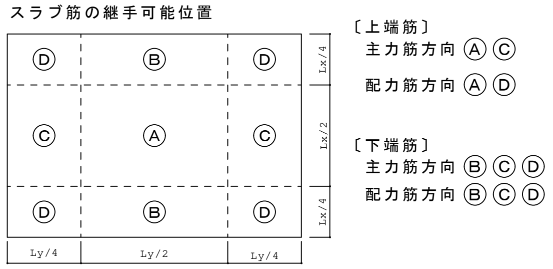
図１３．２



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、
標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図１３．３

７．スラブ筋の継手可能位置



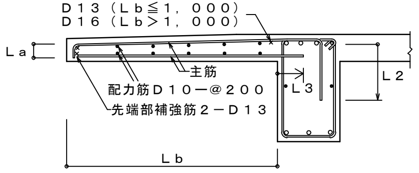
〔上端筋〕
主力筋方向 ⒶⒸ
配力筋方向 ⒶⒹ

〔下端筋〕
主力筋方向 ⒷⒸⒹ
配力筋方向 ⒷⒸⒹ

図１３．４

B．片持ちスラブ

１．片持ちスラブの厚さ及び配筋は、特記による。



（注）・先端の折れ曲げ長さＬａは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
・スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図１３．５

２．鉄筋の上下位置を保持するために一般のスラブよりバーサポートによる鉄筋の保持を堅固にする。

３．先端に壁が付く場合

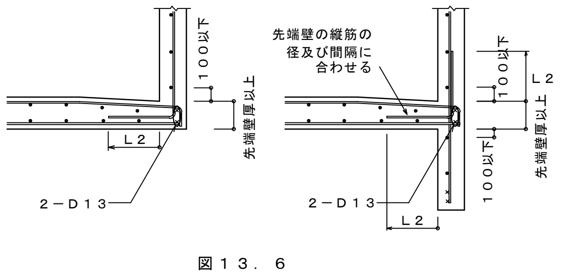


図１３．６

４．出隅部

（１）出隅部及び出隅受け部（図１３．７の斜線部）の補強は、特記による。配筋方法は、図１３．７による。

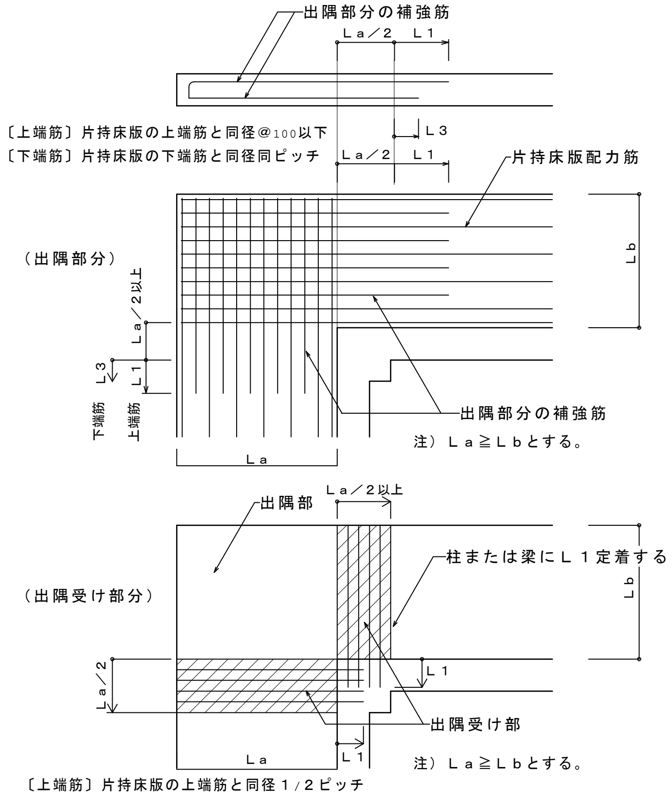


図１３．７

C．スラブ筋等の補強

１．スラブ開口部の補強は、特記による。

（１）スラブ開口の最大径が７００mm以下の場合は、図１３．８により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に２−Ｄ１３（ｌ＝２Ｌ１）シングルを上下筋の内側に配筋する。

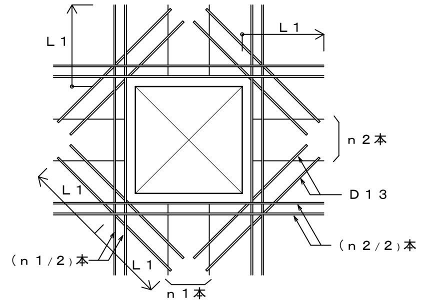


図１３．８

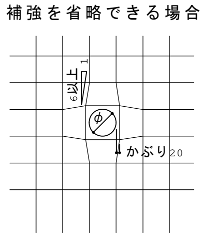
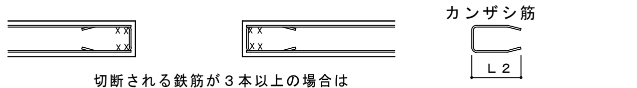


図１３．９



切断される鉄筋が３本以上の場合は
フックまたはカンザシ筋を設ける。

（切断される鉄筋と同径・同ピッチ）

図１３．１０

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

19　.　.　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 S −05
1999．7．1　改訂		
2008．4．1　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［４］	縮尺
2011．4．1　改訂	教育委員会教育総務課	
2017．4．1　改訂		
2020．4．1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［５］

１３．スラブ（続き）

２．屋根スラブの補強

（１）屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図１３．１１により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

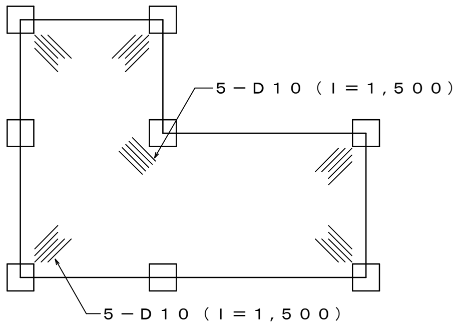
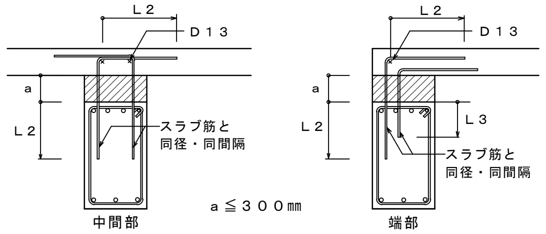


図１３．１１

３．土間スラブの打継ぎ補強

（１）基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図１３．１２による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブをいう。

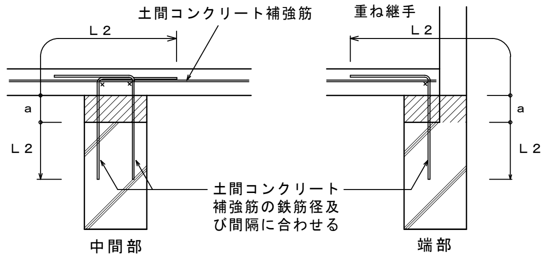


ａ≦３００㎜

図１３．１２

４．土間コンクリートの補強

（１）土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は，図１３．１３による。

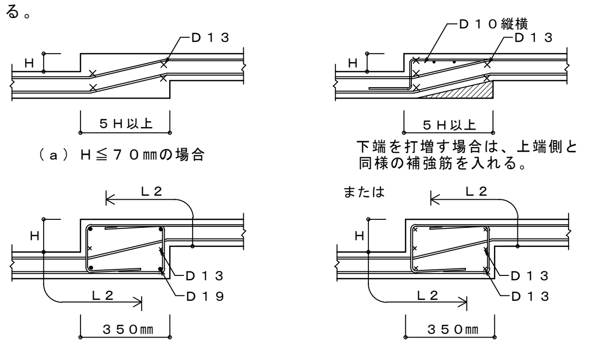


ａ≦３００㎜

図１３．１３

５．段差のあるスラブの補強

（１）段差のあるスラブの補強は図示による。図示が無ければ図１３．１４による。



（ａ）Ｈ≦７０㎜の場合

（ｃ）１５０㎜＜Ｈの場合

（ｂ）７０＜Ｈ≦１５０㎜の場合

図１３．１４

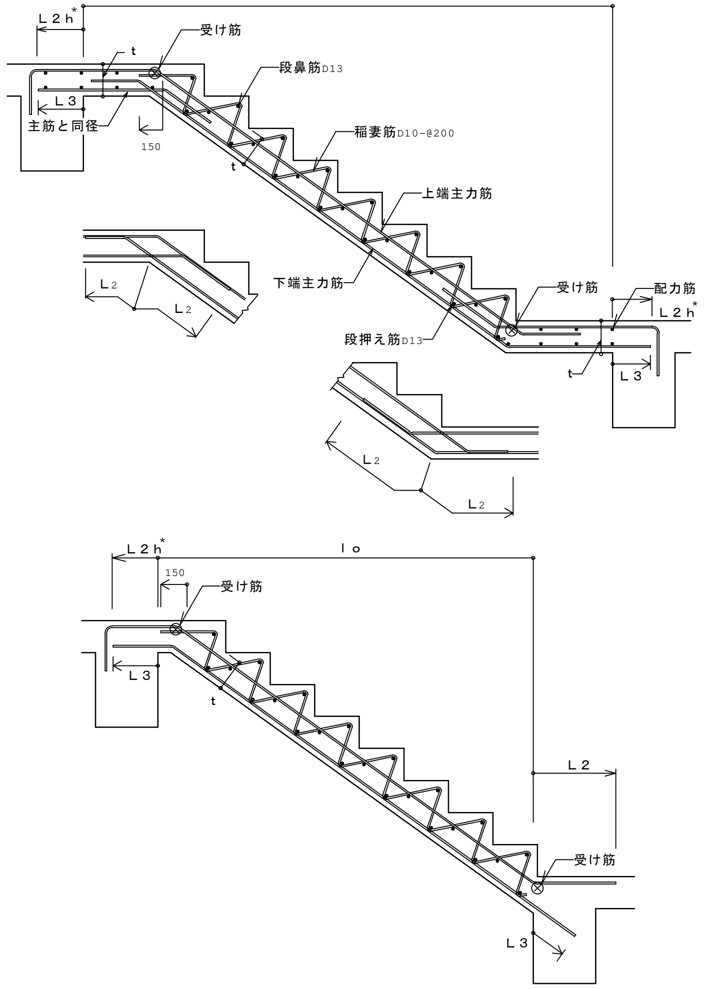
１４．階段の配筋

Ａ．階段

１．階段の配筋は、特記による。

２．階段の配筋方法は、図１４．1による。

〔二辺固定スラブ階段〕



〔片持ちスラブ階段〕

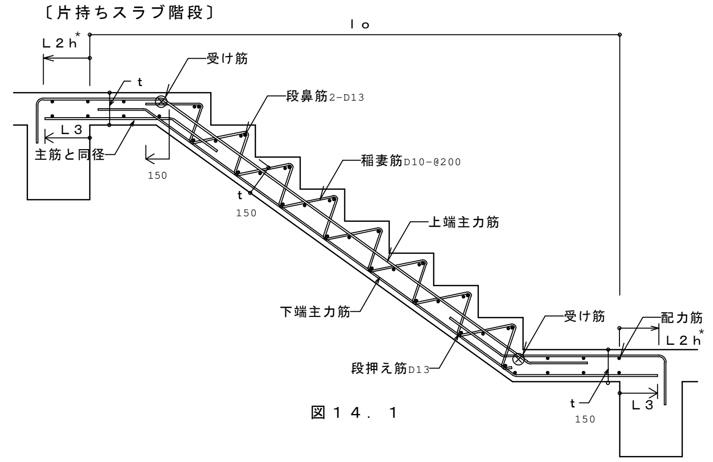


図１４．１

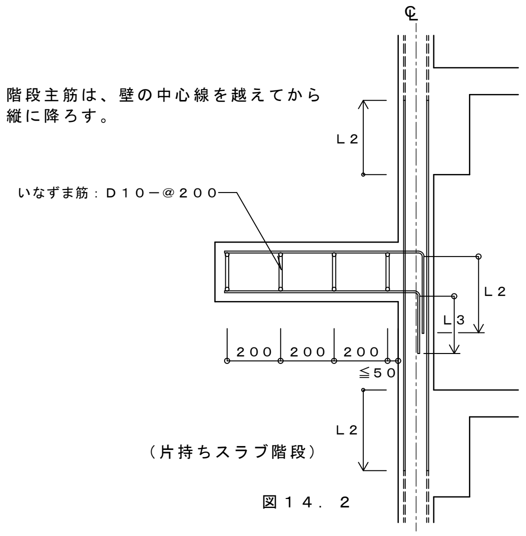
表１４．１　階段受壁の縦筋（Ｌ：片持階段の出寸法）

壁　厚	Ｌ≦1,200	1,200＜Ｌ≦1,500	1,500<Ｌ≦1,800
180	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル	D13-@125ダブル
200、220		D13-@200ダブル	D13-@150ダブル
250			D13-@200ダブル

３．片持ちスラブ階段の配筋方法は、図１４．２による。

４．片持ちスラブ形階段のいなずま筋は、Ｄ１０－＠２００とし、受け壁面より５０㎜のところに第１いなずま筋を配筋する。

（注）・階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。



（片持ちスラブ階段）

図１４．２

１５．梁貫通

Ａ．梁貫通孔の補強

１．梁貫通孔の補強は、特記による。特記がなければ、次による。

（１）梁貫通孔補強筋の名称は、図１５．１による。

（２）孔の径は、梁せいの１／３以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

（３）孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より１／３Ｄの範囲には設けてはならない。

（４）孔は、柱面から、原則として、１．５Ｄ（Ｄは梁せい）以上離す。
ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。

（５）孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の平均値の３倍以上とする。

（６）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

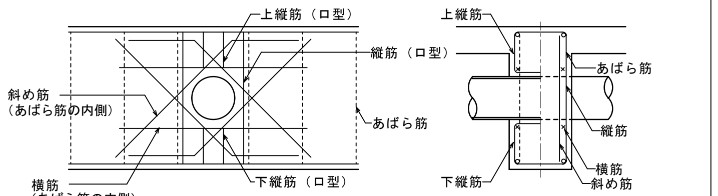
（７）補強筋はｍ主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図１５．２による。

（８）孔の径が梁せいの１／１０以下、かつ、１５０㎜未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補を省略することができる。

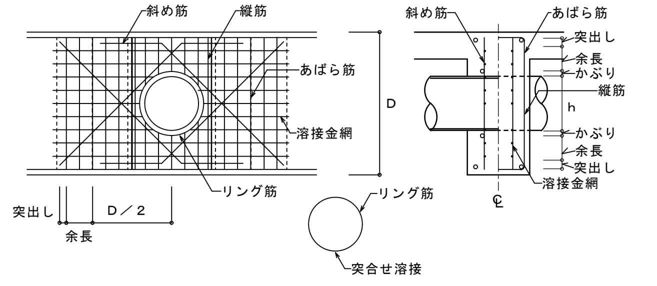
（９）溶接金網の余長は１格子以下とし、突出しは１０㎜以上とする。

（10）溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取りつける。
なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。

（11）溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



〈Ｈ形〉



〈ＭＨ形及びＭ形〉

図１５．１

補強筋の定着長さ

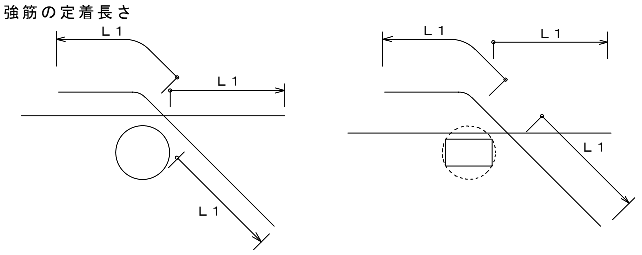
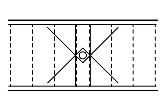
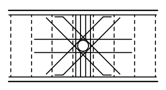
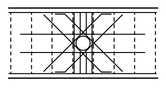


図１５．２

（12）補強形式は表１５．１～表１５．３により、配筋種別は特記による。
選定方法は、建設大臣官房庁営繕部監修「建築構造設計規準及び同解説」による。

（ａ）Ｈ形配筋

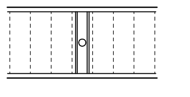
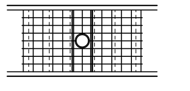
表１５．１　Ｈ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上下縦筋	配　筋　図
Ｈ１	２－２－Ｄ１３	な　し	な　し	な　し	
Ｈ２		２－２－Ｄ１３			
Ｈ３	４－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	
Ｈ４	４－２－Ｄ１６				
Ｈ５	４－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	３－２－Ｄ１３	
Ｈ６	４－２－Ｄ１９				
Ｈ７	４－２－Ｄ２２				

（注）------------ は、一般部のあばら筋を示す。

（ｂ）Ｍ形配筋

表１５．２　Ｍ形配筋

配筋種別	縦　筋	溶接金網	リング筋	配　筋　図
Ｍ１	２－２－Ｄ１３	な　し	な　し	
Ｍ２	４－２－Ｄ１３			
Ｍ３	４－２－Ｄ１３	２－６φ－１００＠	１３φ	
Ｍ４	６－２－Ｄ１３			

（注）---------- は、一般部のあばら筋を示す。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　． 制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－06
１９９９．７．１ 改訂		
２００８．４．１ 改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［５］	縮尺
２０１１．４．１ 改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１ 改訂		
２０２０．４．１ 改訂		

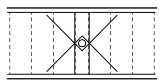
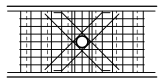
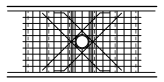
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［６］

１５．梁貫通（続き）

（ｃ）ＭＨ形配筋

表１５．３　ＭＨ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	溶接金網	リング筋	配　筋　図
ＭＨ１	２－２－Ｄ１３	な　し	な　し	な　し	
ＭＨ２		２－２－Ｄ１３			
ＭＨ３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－６φ－１００＠	１３φ	
ＭＨ４	４－２－Ｄ１３				
ＭＨ５	４－２－Ｄ１６				
ＭＨ６	４－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１３	２－６φ－１００＠	１３φ	
ＭＨ７	４－２－Ｄ１９				

（注）---------- は、一般部のあばら筋を示す。

配筋の表示

凡例		配筋
斜め筋	４－２－Ｄ２２	４本のＤ２２が２面入ることを示す。
縦筋	４－２－Ｄ１３	４本のＤ１３があばら筋状に孔の両側に２本ずつ入ることを示す。
上下縦筋	３－２－Ｄ１３	孔の上下の部分にそれぞれＤ１３のあばら筋が３本入ることを示す。
溶接金網	２－６φ－＠１００	６φ－＠１００の溶接金網が２面入ることを示す。

２．建設技術評価規定第９条１項の規定に基づき建設大臣が評価している製品を使用する場合、または、建設省の技術評価が行われた後、開発されまたは改良され、（財）日本建築センターにより評価された製品を使用する場合は、製品の形式による適用範囲のほか、施工上の留意事項も確認すること。

３．梁貫通孔は、原則として、せん断力の大きいところは避けて設け、必要に応じて適切な補強を行う。また、梁には、原則として、配管等の埋設を行わない。

１６．壁，その他

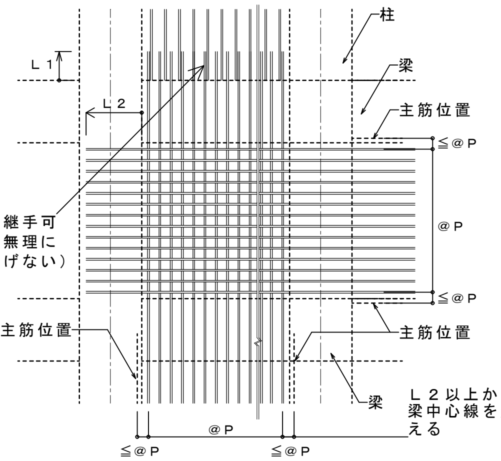
Ａ．壁

１．一般事項

（１）配筋可能な限り継手は設けない加工とする。

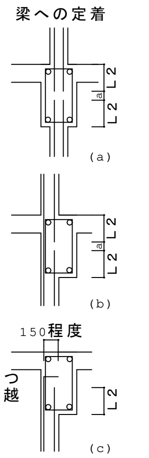
（２）壁筋の重ね継手長さはＬ１とし、定着長さはＬ２とする。

（３）一般部壁筋の配筋は、図１６．１による。



（注）＠Ｐは、壁筋の間隔を示す。

図１６．１



(b)(c)は主筋の外側にある場合

図１６．２

（４）原則として、継手は柱・梁の中には設けないこと。

（５）横筋の場合は、１スパンごとに柱に定着することは差し支えない。

（６）土圧等の面外力を受ける壁の場合は、圧縮側の位置に継手を設ける。

（７）重ね継手及び定着の長さがとれない場合は、監督職員の承諾を受けて、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とすることができる。

（８）幅止め筋は、縦、横ともＤ１０－＠１，０００程度とする。

２．壁の配筋は特記により、その定着は図１６.３による。

３．壁の交差部の補強筋及び端部の補強筋は、特記がなければＤ１３とする。

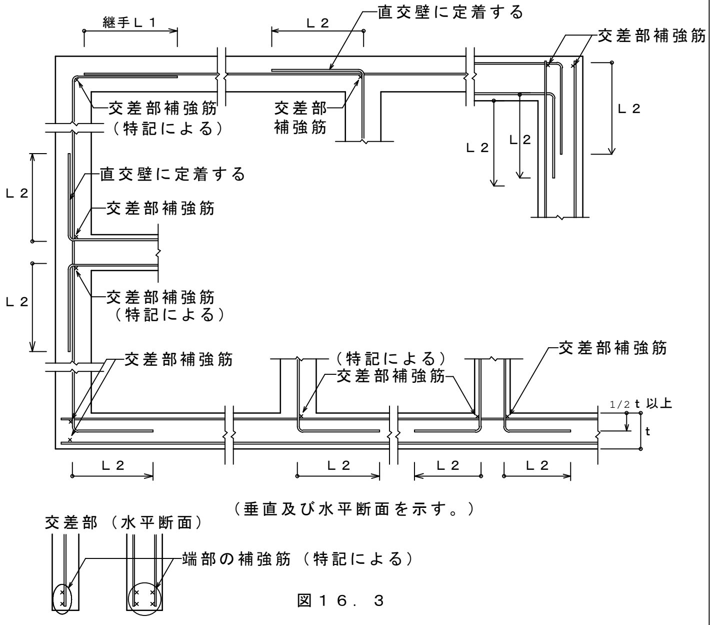


図１６．３

４．壁の開口補強筋は特記による。定着長さは、図１６.４による。

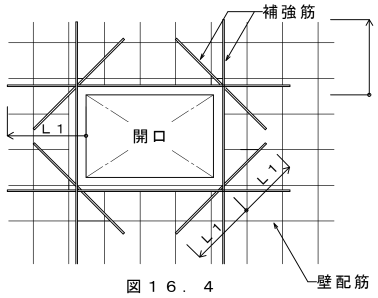
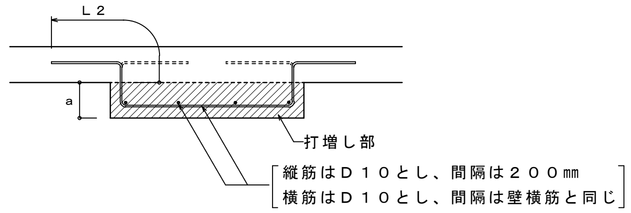


図１６．４

５．片持ちスラブ形階段を受ける壁の縦筋は、横筋の外側に配筋する。

６．コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

７．壁の打増し補強筋は特記による。特記が無く、打増厚さが５０㎜以上、２００㎜以下の場合は図１６.５による。



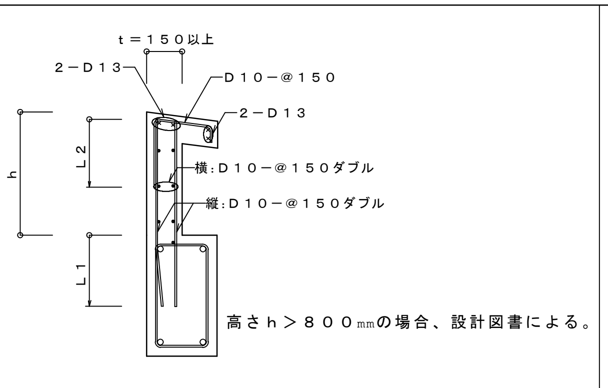
［縦筋はＤ１０とし、間隔は２００㎜
横筋はＤ１０とし、間隔は壁横筋と同じ］

図１６．５

Ｂ．パラペット

１．パラペットの配筋は、特記による。特記が無く、高さｈが８００㎜以下の場合は図１６.６による。

２．パラペットの配筋は、原則として複配筋とし、端部には補強筋を配筋すること。



高さｈ＞８００㎜の場合、設計図書による。

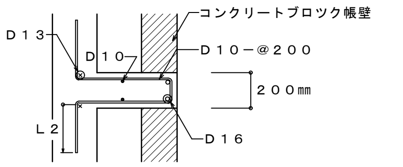
図１６．６

Ｃ．コンクリートブロック帳壁

１．控壁

（１）壁の配置及び配筋は、特記による。

（２）特記が無い場合、配筋は図１６．７による。



（水平断面、垂直断面とも）

図１６．７

２．帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は図１６.８による。

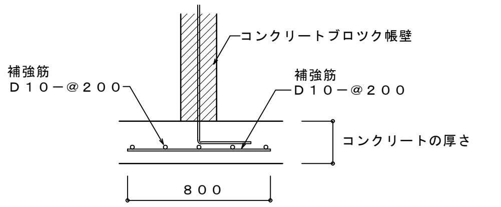


図１６．８

Ｄ．機械吊上げ用フック

１．梁に設ける機械吊上げ用フックは、表１６.１、図１６.９により、種別は特記による。

表１６．１　機械吊上げ用フック

種　　別	Ａ　　種	Ｂ　　種	Ｃ　　種
フック筋	φ２５またはＤ２５	φ２２またはＤ２２	φ１９またはＤ１９
曲げ内のり直径（㎜）	１００		
補強かんざし筋	２－Ｄ１６		
補強腹筋（㎜）	Ｄ１６、ｌ＝９００	Ｄ１６、ｌ＝７５０	Ｄ１６、ｌ＝６００
吊上げ荷重（ＫＮ）	５０≧Ｗ＞３０	３０≧Ｗ＞１０	１０≧Ｗ

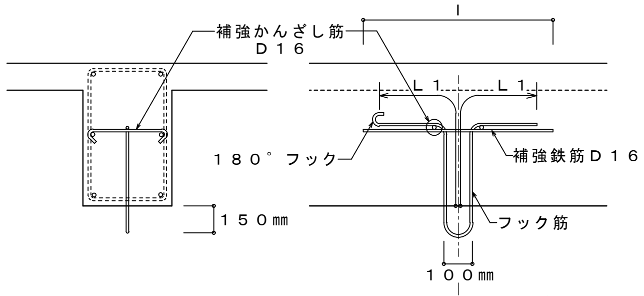


図１６．９

Ｅ．コンクリートブロック塀

１．ブロック塀の配筋は、特記による。

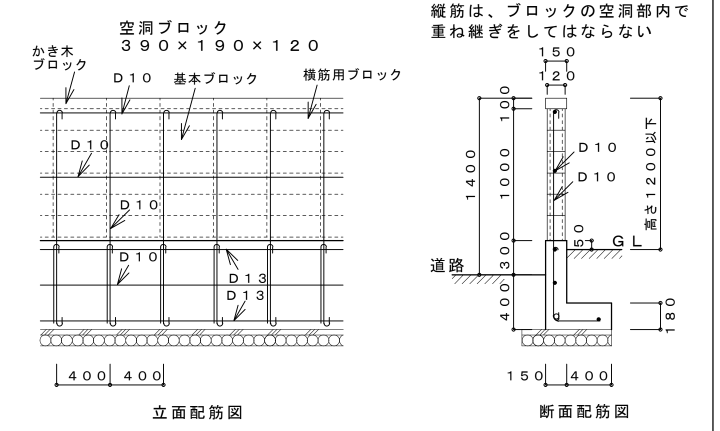
２．塀の高さ（地盤面に高低差のある場合は低い方による）は２．２ｍ以下とする。

３．塀の厚さは、塀の高さ２ｍ以下は１２㎝以上、２ｍを超える場合は１５㎝以上とする。

４．地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は、別途検討する。

５．鉄筋挿入部はモルタルを充てんする。

○控壁のない塀（例）高さ１.２ｍ以下



○控壁のある塀（例）高さ２.２ｍ以下

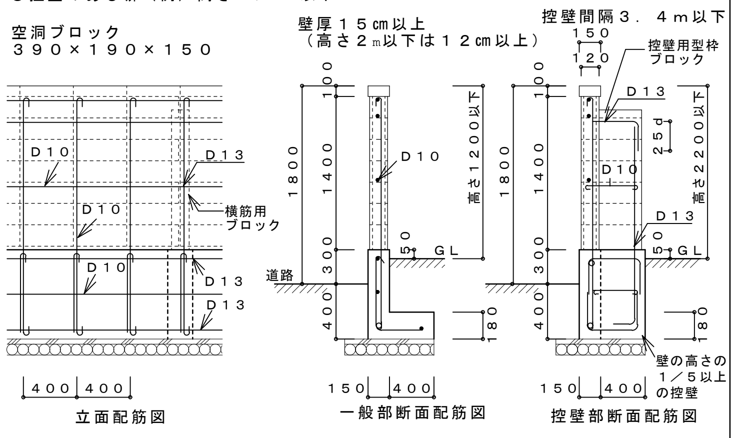


図１６．１０

１７．増築用の配筋

Ａ．増築用の配筋

１．将来増築予定の打増部分の配筋は、特記による。

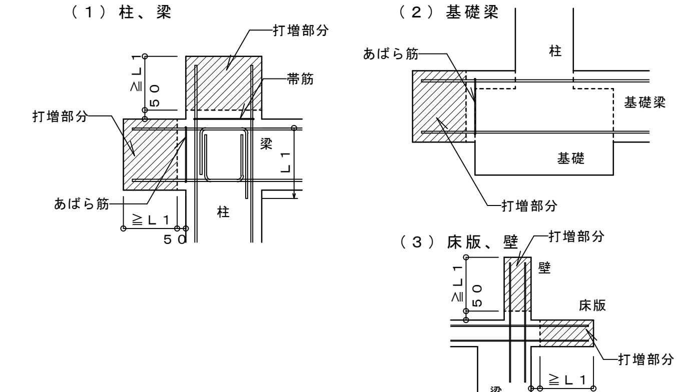


図１７．１

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－07
１９９９．７．１　改訂		
２００８．４．１　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［６］	縮尺
２０１１．４．１　改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１　改訂		
２０２０．４．１　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［１］

１．共通事項

Ａ．適用範囲

１．この標準図は、鉄骨工事に適用する。

２．設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。
この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事共通仕様書」、「鉄骨設計標準図」（建設大臣官房庁営繕部監修）による。

３．使用する鋼材等は特記による。この標準図は、表１．１～表１．４に示す鋼材等に適用する。これ以外は特記による。

表１．１　鋼材の種類

規格番号	規格名称等	種類の記号
ＪＩＳ　Ｇ３１０１	一般構造用圧延鋼材	SS400, SS490, SS540
ＪＩＳ　Ｇ３１０６	溶接構造用圧延鋼材	SM400A, B, C, SM490A, B, C SM490YA, YB, SM520B, C
ＪＩＳ　Ｇ３１１４	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	SMA400AW, AP, BW, BP, CW, CP SMA490AW, AP, BW, BP, CW, CP
ＪＩＳ　Ｇ３１３６	建築構造用圧延鋼材	SN400A, B, C, SN490B, C
ＪＩＳ　Ｇ３１３８	建築構造用圧延棒鋼	SNR400A, B, SNR490B
ＪＩＳ　Ｇ３３５０	一般構造用軽量形鋼	SSC400
ＪＩＳ　Ｇ３３５３	一般構造用溶接軽量Ｈ形鋼	SWH400
ＪＩＳ　Ｇ３４４４	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400, STK490
ＪＩＳ　Ｇ３４６６	一般構造用角形鋼管	STKR400, STKR490
ＪＩＳ　Ｇ３４７５	建築構造用炭素鋼鋼管	STKN400W, STKN400B, STKN490B
―	上記に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鋳鋼	―

表１．２　高力ボルト

規格番号	規格名称等	セットの種類
	トルシア形高力ボルト	２種（Ｓ１０Ｔ）
ＪＩＳ　Ｂ１１８６	ＪＩＳ形高力ボルト	２種（Ｆ１０Ｔ）
めっき後の機械的性質がＪＩＳ　Ｂ１１８６の規定のセットと同等であること	溶融亜鉛めっき高力ボルト	１種（Ｆ８Ｔ相当）

表１．３　普通ボルト

	規格名称等	種類
規格番号 規格名称	ＪＩＳ　Ｂ１１８０ （六角ボルト）	ＪＩＳ　Ｂ１１８１ （六角ナット）
種類	並形六角ボルト	並形六角ナット
材料区分	鋼製	鋼製
強度区分	４．６または４．８	５Ｔ
ねじの交差域クラス及び適用の規格	６ｇ	６Ｈ
	JIS B 0205-4（一般用メートルねじ－第４部：基準寸法）及びJIS B 0209-1（一般用メートルねじ－公差－第１部：原則及び基礎データ）による。	
仕上げの程度	中	中

（１）普通ボルトの座金はＪＩＳ　Ｂ１２５６（平座金）によるみがき丸とし、ボルトに相応したものとする。

（２）アンカーボルトのボルト、ナット及び座金の材質は、特記による。
特記がなければ、構造用アンカーボルトの材質はＳＮＲ４００とする。

表１．４　溶接材料

規格番号	種類	規格名称
ＪＩＳ　Ｚ３２１１ ＪＩＳ　Ｚ３２１４	被覆アーク溶接棒	・軟鋼,高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 ・耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
ＪＩＳ　Ｚ３３１２ ＪＩＳ　Ｚ３３１３ ＪＩＳ　Ｚ３３１５ ＪＩＳ　Ｚ３３２０	ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼,高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・軟鋼,高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ ・耐候性鋼用マグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ ・耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
ＪＩＳ　Ｚ３３１３	セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
ＪＩＳ　Ｚ３１８３ ＪＩＳ　Ｚ３３５１ ＪＩＳ　Ｚ３３５２	サブマージアーク溶接用材料	・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分 ・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ ・サブマージアーク溶接用フラックス
ＪＩＳ　Ｚ３３５３	エレクトロスラグ溶接用材料	・軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
ＪＩＳ　Ｂ１１９８	スタッド溶接用材料	・頭付きスタッド

（３）ターンバックルは、ＪＩＳ　Ａ５５４０（建築用ターンバックル）により、ターンバックル胴、ターンバックルボルトの種類、及びターンバックルボルトのねじの呼びは、特記による。特記がなければ、ターンバックル胴は割枠式、ターンバックルボルトは羽子板ボルトとする。

（４）構造耐力上主要な部分である床版床又は屋根版に使用するデッキプレートは国土交通省告示第3266号（平成１４年制定、平成１９年改正）に定める技術的基準に適合すること。

（５）構造床として使用するデッキプレートは国土交通省国土技術政策総合研究所他「デッキプレート版技術基準解説及び設計・計算例」および(独)建築研究所監修「デッキプレート床構造設計・施工基準」により、材質、形状及び寸法は特記による。

（６）合成スラブとして使用するデッキプレートは国土交通大臣認定品とし、材質、形状及び寸法は特記による。

Ｂ．略語

・ＡＢ	・・・	アンカーボルト
・ＢＨ	・・・	組立Ｈ形鋼
・ＢＰＬ	・・・	ベースプレート
・ＣＨＰＬ	・・・	チェッカープレート
・ＣＰＬ	・・・	カバープレート
・ＤＦＰＬ	・・・	ダイアフラム
・ＦＢ	・・・	フラットバー
・ＦＰＬ	・・・	フランジプレート
・ＧＰＬ	・・・	ガセットプレート
・ＨＴＢ	・・・	高力ボルト
・ＲＰＬ	・・・	リブプレート
・ＳＰＬ	・・・	スプライスプレート
・ＴＢ	・・・	ターンバックル
・ＷＰＬ	・・・	ウェブプレート

２．溶接

Ａ．溶接技能資格者

１．溶接作業における技能資格者（以下「溶接技能者」という。）は、工事に相応した次に示す試験等により（社）日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。

（１）手溶接の場合は、ＪＩＳ　Ｚ３８０１（溶接技術検定における試験方法及び判定基準）。

（２）半自動溶接の場合は、ＪＩＳ　Ｚ３８４１（半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準）。

（３）自動溶接の場合は、（１）または（２）の基本級及び技量を証明する主な工事経歴

（４）組立溶接の場合は、（１）または（２）の基本級以上とする。

２．工事の内容により、１．の溶接技能者に対して、技量付加試験を行う場合は、特記による。

３．溶接技能者の技量に疑いが生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し、監督職員の承諾を受ける。

Ｂ．部材の組立て

１．部材の組立は、適切な治具を用いて正確に行う。特にルート間隔及び密着部分に注意し、不良なものは修正する。

２．組立て順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定め、できるだけ逆ひずみ法を取り入れる。

３．高力ボルト接合と溶接接合を併用する場合は、高力ボルト接合を先に行い、溶接にあたってはボルト接合面の変形やボルトへの入熱を十分考慮して施工する。

４．組立溶接は、次による。

（１）組立溶接の位置は、継手の端部、隅角部、本溶接の始点及び終点等の強度上及び工作上支障がある箇所を避ける。

（２）組立て溶接で本溶接の一部となるものは最小限とし、欠陥を生じたものは全て削り取る。

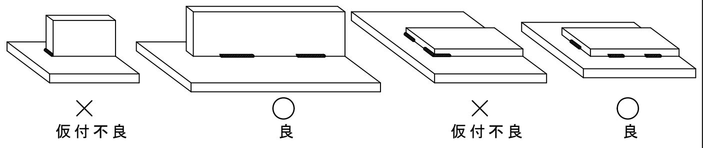
（３）組立て溶接の最小ビード長さの有効長さは表２．１により、その間隔は３００～４００mm程度とする。

表２．１　組立て溶接の最小ビード長さ（単位：ｍｍ）

板厚	手溶接、半自動溶接を行う箇所	自動溶接を行う箇所
６以下	３０	５０
６を超えるもの	４０	７０

（注）板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

ａ．仮付位置



ｂ．完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

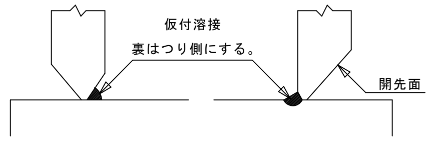


図　２．１

Ｃ．溶接施工

１．溶接方法

（１）アーク手溶接（ＭＣ）

（２）ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）

（３）セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）

（４）アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

２．溶接姿勢

（１）溶接姿勢は、作業架台、ポジショナー等を利用して、できるだけ下向き溶接とする。

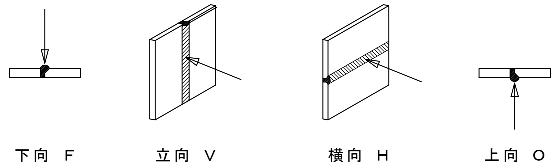


図　２．２

３．エンドタブ

（１）エンドタブの材質、形状は特記による。特記が無い場合は、以下による。

（２）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。

（３）エンドタブの材質は、母材と同質とする。

（４）エンドタブの長さは、ＭＣ：３５mm以上
ＮＧＣ、ＣＧ：４０mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より１０mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。

（５）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して監督職員の承諾を得る。

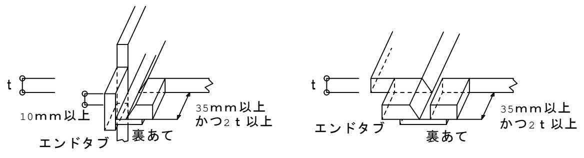


図　２．３

４．裏当て金、スカラップ、裏はつり

（１）裏あて金の材質は特記による。特記が無い場合は以下による。

（２）材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６㎜、半自動溶接で９mm以上とする

（３）スカラップは改良型スカラップ、またはノンスカラップとする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999. 7. 1　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－08
2006. 4.　改訂		
2011. 4.　改訂	図面名 鉄骨構造標準図［１］	縮尺
2017. 4. 1　改訂	教育委員会教育総務課	
2020. 4. 1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［２］

２．溶接（続き）

ａ．改良型スカラップ

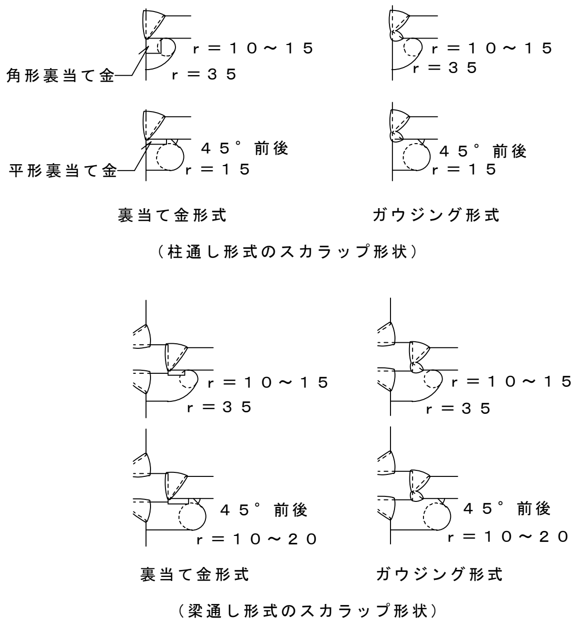


図　２．４

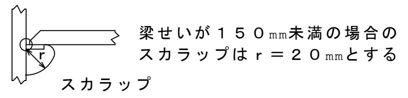


図　２．５

ｂ．ノンスカラップ

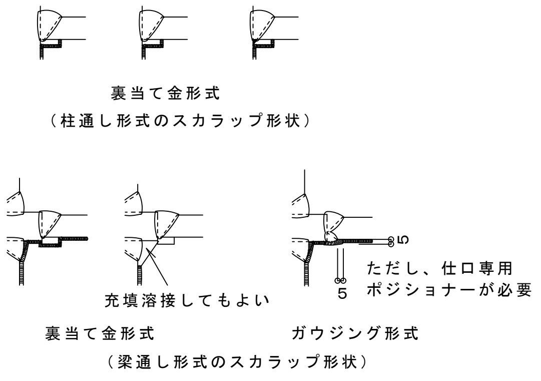


図　２．６

（４）溶接継手の両面から溶接する場合は、表面より溶接を行った後、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりを行い、裏はつり後裏溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶け込みが得られると判断確認できる場合は、監督職員の承諾を受けて、職員の承諾を受けて、裏はつりを省略することができる。

Ｄ．溶接部の試験

１．溶接部の試験は、特記によるが、現場溶接部分は原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

３．ボルト接合

Ａ．高力ボルト

１．摩擦面は、すべり係数値が０．４５以上確保できるよう、ミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の２倍以上の幅を除去した後、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラストまたはグリットブラストにより摩擦面の表面粗度を５０μｍＲｙ以上確保でき、監督職員の承諾を受けた場合には錆の発生を要しない。

２．摩擦面は、摩擦力を低減させるものが発生又は付着しないように保護する。浮き錆、油、塗料、塵あい等が発生または付着した場合は、組立てに先立ち取り除く。

Ｂ．普通ボルト

１．ボルトの接合は、ゆるみ及びずれの無いように締め付ける。
２．ボルトには、有効な戻り止めを行う。
３．せん断ボルトは、座金を用いて、ねじがグリップに掛からないようにし、かつ、ナットの外に３山以上出るようにする。

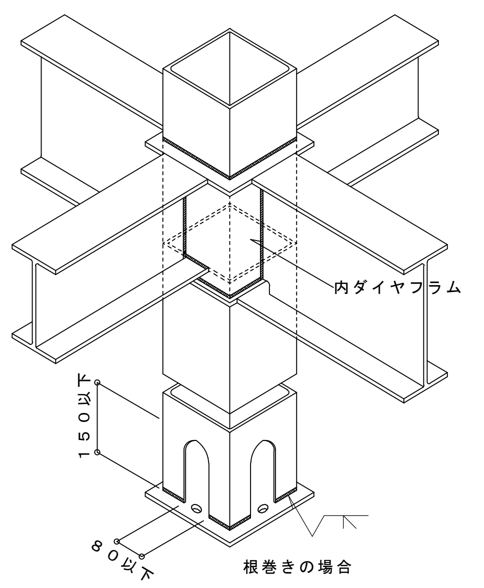
４．錆止め塗装

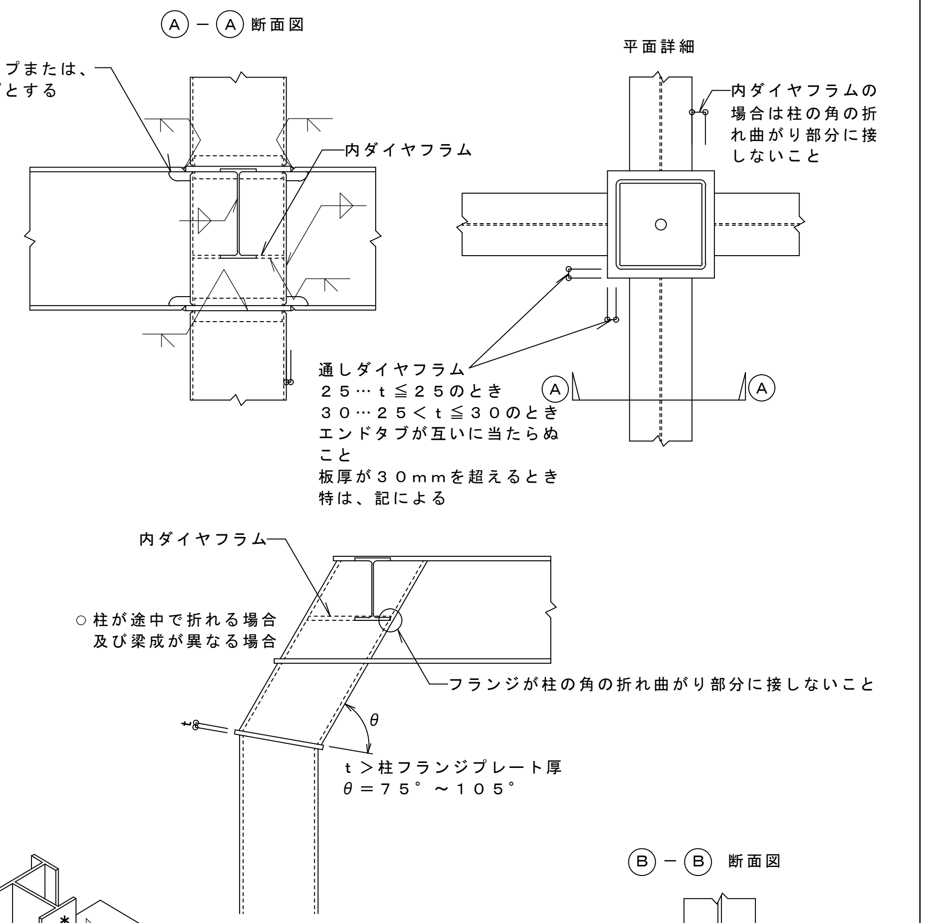
Ａ．錆止め塗装

１．錆止めの塗料の種別は特記による。
２．次の部分には、塗装しない。
（１）コンクリートに接触する部分及び埋め込まれる部分
（２）高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
（３）密閉される閉鎖形断面の内面
（４）耐火被覆材の接着する面
（５）工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ２００㎜の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲
ただし、工事現場溶接を行う部分でも、著しい錆を発生するおそれがある場合は、溶接に無害な適切な防錆処理を行うこと。

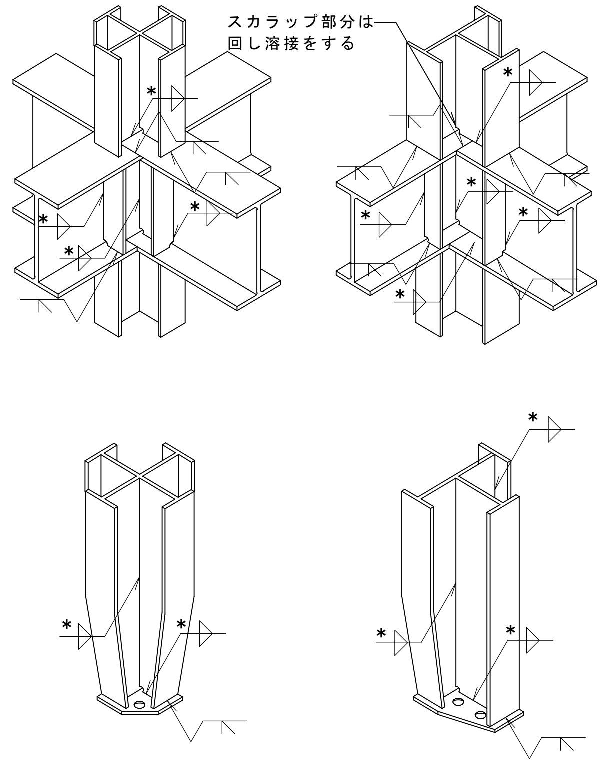
５．接合部標準図

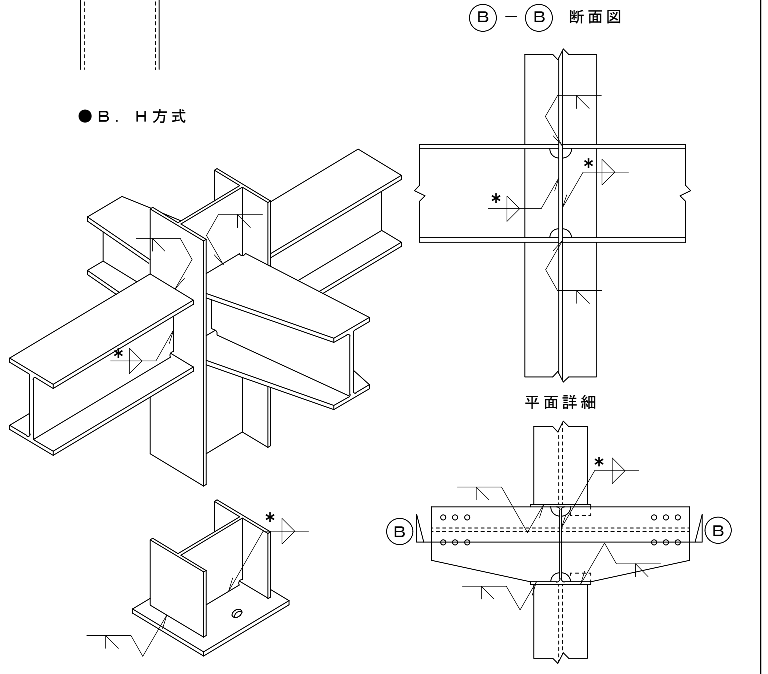
●ＢＯＸ型（通しダイヤフラムの場合）





●╂、╂、├┤、型





＊：ウエブ厚が１６㎜以上のものについては完全溶け込み溶接とする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999. 7. 1 制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－09
2006. 4. 改訂		
2011. 4. 改訂	図面名 鉄骨構造標準図［２］	縮尺
2017. 4. 1 改訂	教育委員会教育総務課	
2020. 4. 1 改訂		

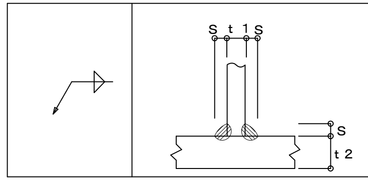
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［３］

６．溶接基準図

（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長（単位㎜）

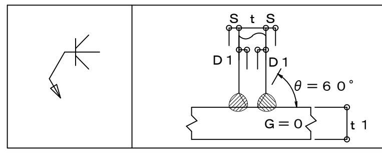
Ａ．　すみ肉溶接



ｔ≦１６㎜				
ｔ	７以下	８～１０	１１～１３	１４～１６
Ｓ	６	７	１０	１２

●但し片面溶接の場合はＳ＝ｔとする
●ｔはｔ１、ｔ２の小なる方とする
　余盛りは（１＋０．１Ｓ）㎜以下ととする
●軸力が加わる場合のＳは母材と同
　厚とすることが望ましい

Ｂ．　部分溶け込み溶接

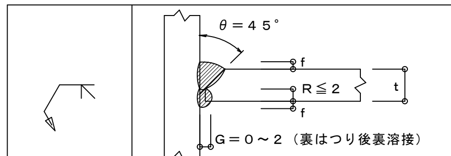


Ｄ１≧ｔ／３　ｔ／４≦Ｓ≦１０㎜
ｔ≦ｔ１

ｔ	ｔ＞１６㎜
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

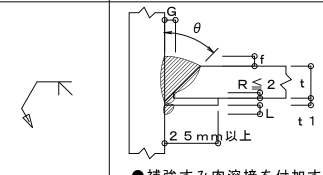
Ｃ．　完全溶け込み溶接



ｆ＝ｔ／４

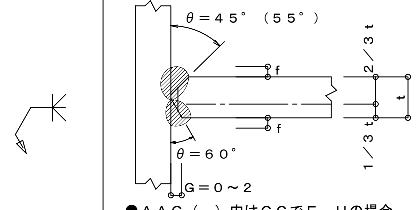
ｔ	６＜ｔ＜１９㎜
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強すみ肉溶接を付加する　ＡＡＧ



	ＭＣ　ＮＧＣ				ＧＣ			
ｔ㎜	θ	Ｇ	t_1	Ｌ	θ	Ｇ	t_1	Ｌ
６≦ｔ≦１２	４５°	６	５	６	４５°	６	６	５
１２≦ｔ＜１６	３５°	９	８	９	３５°	６	９	８
１６≦ｔ	３５°	９	８	９	３５°	９	９	８
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ							

●補強すみ肉溶接を付加する



ｆ＝ｔ／４
Ｔ形突合せ継手余盛

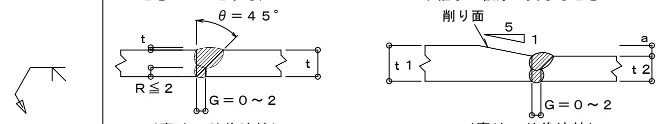
のど厚ｔ㎜	余盛の高さ㎜
ｔ≦４	１
４＜ｔ≦１２	２
１２＜ｔ≦１９	３
１９＜ｔ	４

ｔ	ｔ≧１９㎜
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●ＡＡＧ（　）内はＧＣでＦ．Ｈの場合
●両側に補強すみ肉溶接を付加する

ｔ≧０．５mm（ただし，ｔ≧１５mm のとき４mmとする）

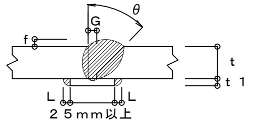
ａ＞４mmの場合
平継手で板厚が異なるとき

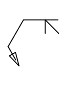


（裏はつり後溶接）　（裏はつり後溶接）

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

ｔ	６＜ｔ≦１９㎜
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ



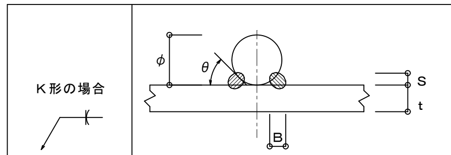


ｆ＝ｔ／４

	ＭＣ　ＮＧＣ				ＧＣ			
ｔ㎜	θ	Ｇ	ｔ１	Ｌ	θ	Ｇ	ｔ１	Ｌ
６＜ｔ＜１２	４５°	６	６	５	４５°	６	６	５
１２≦ｔ≦１９	３５°	９	９	５	３５°	６	９	５
ｔ＞１９	３５°	９	９	８	３５°	９	９	８
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ							

Ｄ．フレアー溶接

Ｋ形の場合



寸法（㎜）		
φ	Ｂ	Ｓ
９	７	４
１３	８	４．５
１６	９	５
１９	１０	６
２２	１１	７
２５	１２	８

●フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
●９㎜～１６㎜は１パス以上、１９㎜以上は２パス以上とする
　溶接棒角度θは３０°～４０°とする

７．継手、その他

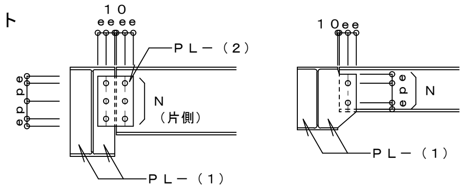
Ａ．ボルトピッチ（Ｐ）、ボルト穴径・最小縁端距離

（㎜）

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（ｅ）				ピッチ（Ｐ）	
		（１）	（２）	（３）	（２）（３）の標準	最小	標準
Ｍ１６	１８	４０	２８	２２	４０	４０	６０
Ｍ２０	２２	５０	３４	２６	４０	５０	６０
Ｍ２２	２４	５５	３８	２８	４０	５５	６０
Ｍ２４	２６	６０	４４	３２	４５	６０	７０

（注）（１）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

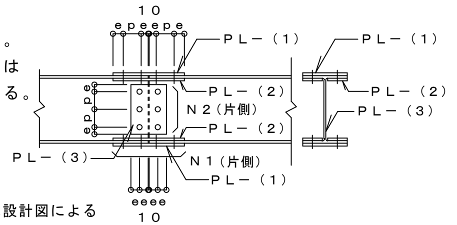
Ｂ．ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ－径

Ｃ．梁剛接合継手リスト

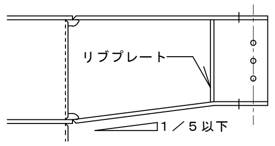
１．梁の継手は特記による。
２．原則として、梁の継手は
　　ＳＣＳＳ－Ｈ９７による。



注）端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

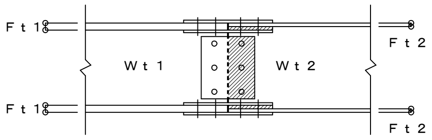
符号	部材	フランジ			ウェブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径

Ｄ．ハンチ部の継手



ハンチ勾配は１／５以下を標準とする

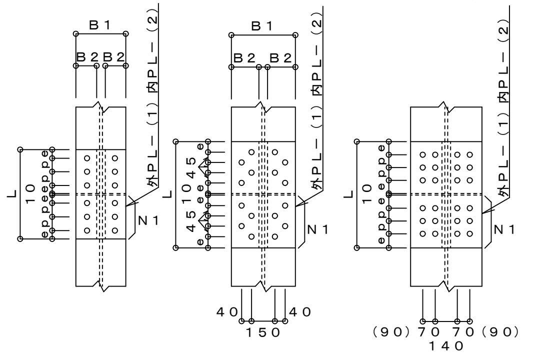
フランジ及びウェブ厚の差のある場合



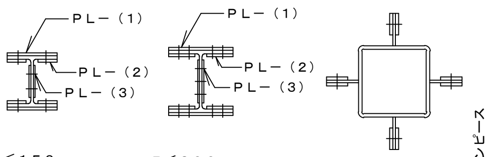
Ｆｔ１－Ｆｔ２≧１㎜
Ｗｔ１－Ｗｔ２≧１㎜　フィラプレート併用のこと

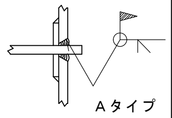
Ｅ．柱継手リスト

１．柱の継手は特記による。
２．原則として、柱の継手はＳＣＳＳ－Ｈ９７による。

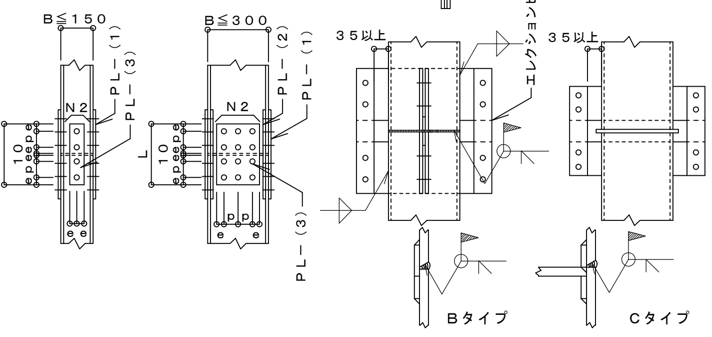


Ｂ１	Ｂ２
１５０	６０
１７５	７０
２００	８０
２５０	１００
３００	１１０
３５０	１４０
４００	１７０





Ａタイプの使用は
柱Ｄ＝２５０mm以下
のときとする



注）現場溶接部分は、原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径

Ｆ．鉄筋ブレース（ＪＩＳ規格品とする・ＪＩＳＡ５５４０～５５４２・１９８２）

１．羽子板ボルト

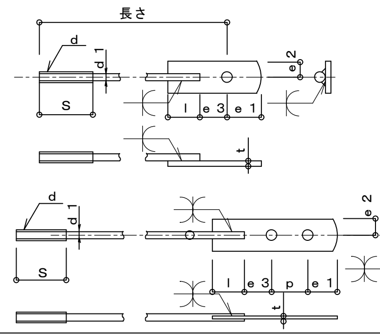
ねじの呼び（ｄ）		Ｍ１２	Ｍ１４	Ｍ１６	Ｍ１８	Ｍ２０	Ｍ２２	Ｍ２４
軸径（ｄ）	最　大	１０.８１	１２.６５	１４.６５	１６.３３	１８.３３	２０.３３	２１.９９
	最　小	１０.６４	１２.４６	１４.４６	１６.１１	１８.１１	２０.１１	２１.７７
調整ねじの長さ　Ｓ		１００	１１５	１２５	１４０	１５０	１６５	１７５
取付ボルト穴径 許容差＋０，－０．５㎜　Ｒ		１３	１７	１７	２１.５	２１.５	２３.５	２１.５
はしあき（最小）（２）ｅ１		３５	４０	４５	５０	５０	５５	５０
切板製	へりあき（最小）（１）ｅ２	２２	２８	２８	３４	３４	３８	３８
	板　厚　ｔ	４．５	６	６	９	９	９	９
平鋼製	へりあき（最小）（１）ｅ２	１９	２５	２５	３２.５	３２.５	３７.５	３７.５
	板　厚　ｔ	４.５	６	６	９	９	９	９
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき（最小）　ｅ３		４７	５２	５９	６６	６６	７３	７０
溶接長さ（最小）　ｌ		４０	５０	５５	６０	７５	８５	８５
（２）取付ボルト	種　類	ＪＩＳ　Ｂ　１１８６　２種高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）又は ＪＩＳ　Ｂ　１１８０　中８ｇ　１０．９						
	ねじの呼び	Ｍ１２	Ｍ１６	Ｍ１６	Ｍ２０	Ｍ２０	Ｍ２２	Ｍ２０
	本　数	１	１	１	１	１	１	２

注）（１）ｅ１、ｅ２が確保されていれば形状は自由でよい
（２）羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

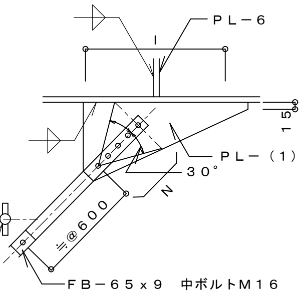
２．　形鋼ブレース

符　号	部　材	ＰＬ－（１）	Ｎ－径	ｌ

羽子板ボルト



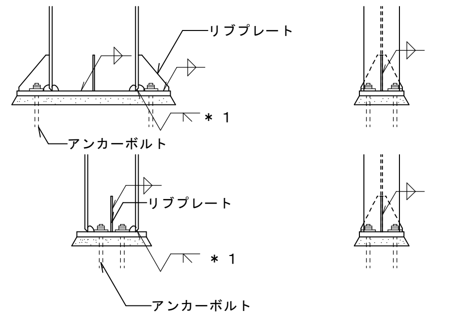
形鋼ブレース



８．柱脚

Ａ．柱脚部詳細

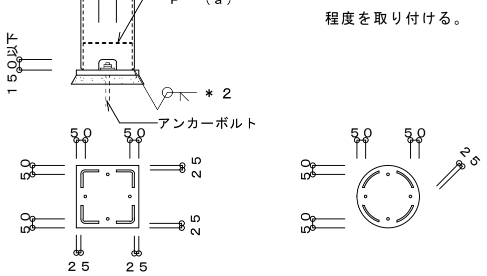
１．柱脚の形状は、特記による。特記がない場合は、２．、３．による。
２．Ｈ形柱



＊１：柱板厚が１２ｍｍ以下の場合は、すみ肉溶接とすることができる。

図　８．１

３．鋼管柱、角形鋼管柱



Ｐ－（ａ）は、厚さ６ｍｍ
程度を取り付ける。

根巻き柱脚の場合

図　８．２

＊２：柱板厚が６ｍｍ以下の場合は、すみ肉溶接とすることができる。

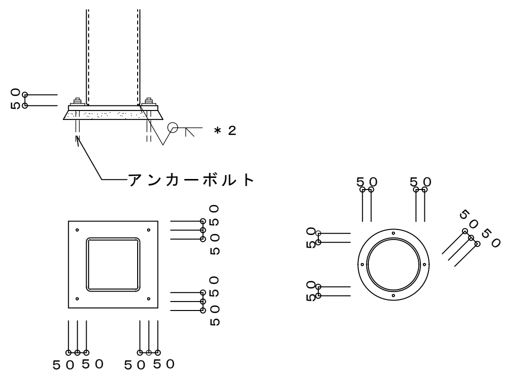
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999. 7. 1　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－10
2006. 4.　改訂	図面名 鉄骨構造標準図［３］	縮尺
2011. 4.　改訂	教育委員会教育総務課	
2017. 4. 1　改訂		
2020. 4. 1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［４］

８．柱脚（続き）



露出柱脚の場合

＊２：柱板厚が６ｍｍ以下の場合は、すみ肉溶接とすることができる。

図　８．３

Ｂ．アンカーボルト

１．アンカーボルト取付け要領は、特記による。特記が無い場合は、図８．５の種別Ｂ種とする。

（１）アンカーボルトの保持及び埋め込み工法

ａ．Ａ種：鋼製フレームを用いてアンカーボルトを保持する方法

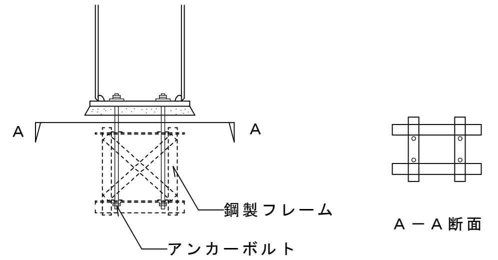


図　８．４

ｂ．Ｂ種：補強材等を用いて周囲の鉄筋にアンカーボルトを保持する方法

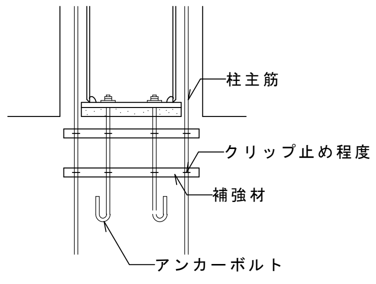


図　８．５

ｂ．Ｃ種：頭部を漏斗状にあけた可動埋め込み式の方法

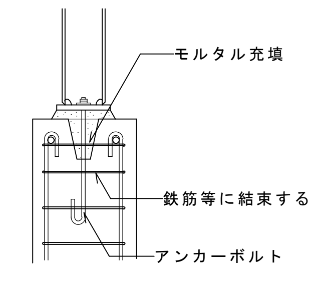


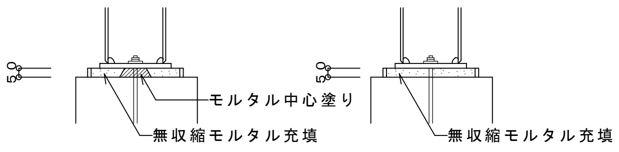
図　８．６

Ｃ．柱底ならしモルタルの工法

１．均しモルタルの工法は、特記による。特記が無い場合は、図８．７のＢ種とする。

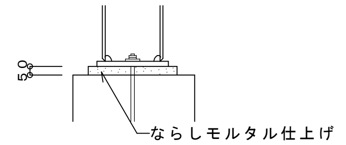
（１）Ａ種：柱の建込みに先立ち、その支持に必要な固練りのモルタル等をベースプレートの中央下部に所定の高さに塗り付け、柱の建て込み後、ベースプレート回りに型枠を設けて、無収縮モルタルをベースプレートの周囲からあふれ出るまで圧入する。

（２）Ｂ種：柱の建込みに先立ち、その支持に必要な堅練りのモルタル等をベースプレートの中央下部に所定の高さに塗り付け、柱の建込み後、ベースプレート下全面に十分行きわたるように、適切な方法でモルタルを詰め込む。ただし、ベースプレートの大きさが３００㎜角程度以下の場合は、モルタルを所定の高さに平滑に仕上げておき、柱を建込むことができる。



（あと詰め中心塗り工法）　（全面あと詰め工法）

Ａ種



（全面塗り仕上げ工法）

Ｂ種

図　８．７

Ｄ．座金の溶接

１．アンカーボルトはコンクリートに埋め込まれる場合を除きダブルナット締めとする。また、アンカーボルトにせん断力を負担させる場合は、座金厚を検討した上で座金はベースプレートに全周溶接する。

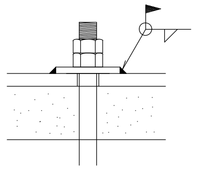


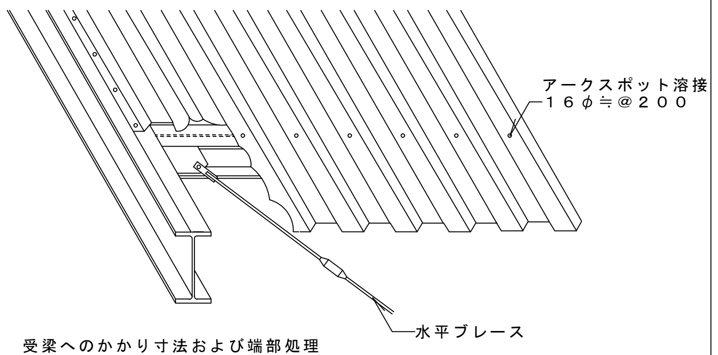
図　８．８

９．その他

Ａ．デッキプレート

（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター



受梁へのかかり寸法および端部処理

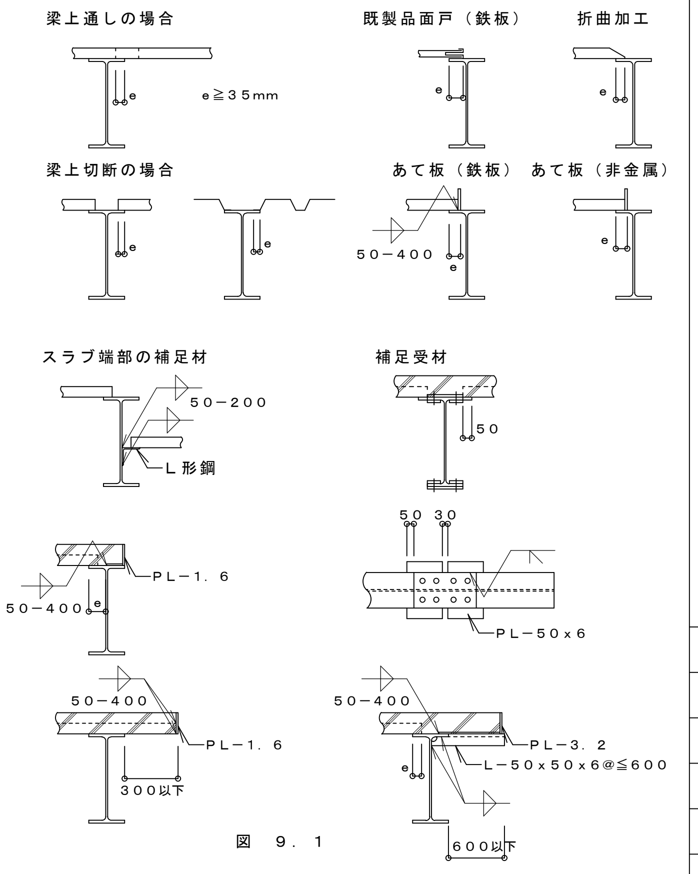
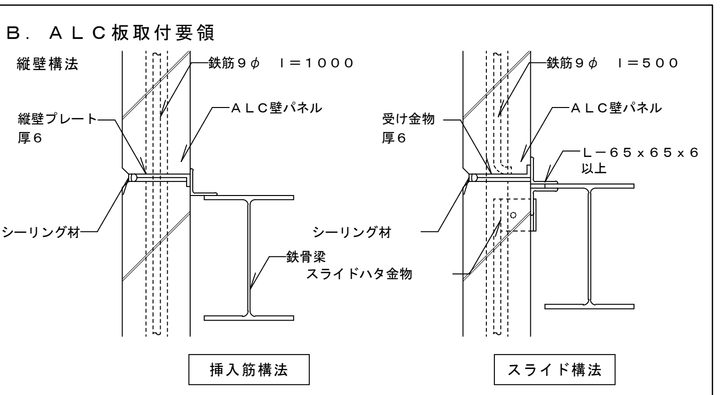


図　９．１

Ｂ．ＡＬＣ板取付要領



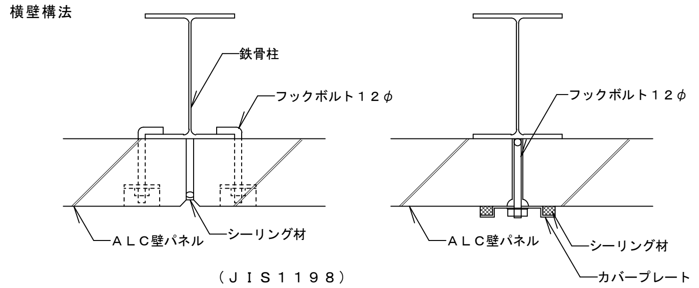
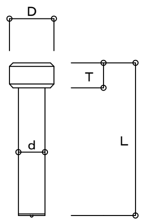


図　９．２

Ｃ．頭付きスタッド

表９．１　スタッド材の標準形状・寸法

	スタッド材				
	呼び名	軸径ｄ ㎜	頭径Ｄ ㎜	頭高さＴ ㎜	溶接後の長さＬ ㎜
	φ１３㎜	１３．０ １２．７	２２．０ ２５．４	１０．０ ７．９	５０、８０ １００、１３０
	φ１６㎜	１６．０ １５．８	２９．０ ３１．７	１０．０ ７．９	８０、１００、１３０
	φ１９㎜	１９．０ １９．０	３２．０ ３１．７	１０．０ ９．５	８０、１００ １３０、１５０
	φ２２㎜	２２．０ ２２．２	３５．０ ３４．９	１０．０ ９．５	１００、１３０、１５０

Ｄ．梁貫通補強

- ●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
- ●梁端部（スパンのｌ／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける
- ●φ≦０．４Ｄ

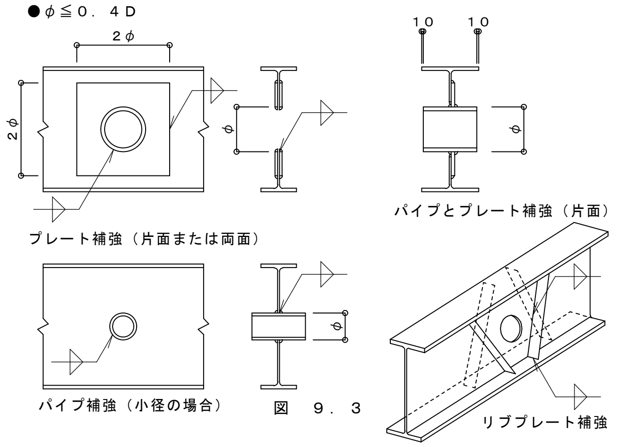


図　９．３

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999．7．1　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟） （建築工事）	番号 Ｓ－11
2006．4．　改訂		
2011．4．　改訂	図面名 鉄骨構造標準図［４］	縮尺
2017．4．1　改訂	教育委員会教育総務課	
2020．4．1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

ＳＣ杭　ＳＣ杭・鋼管杭用杭頭接合工法

クラウンパイルアンカー工法標準図１／２（参考図）

（一財）日本建築センターによる一般評定
「ＢＣＪ評定－ＦＤ０５１１－０４」（令和５年９月８日付）

岡部株式会社
TEL 03 (3624) 6201
2023年10月作成

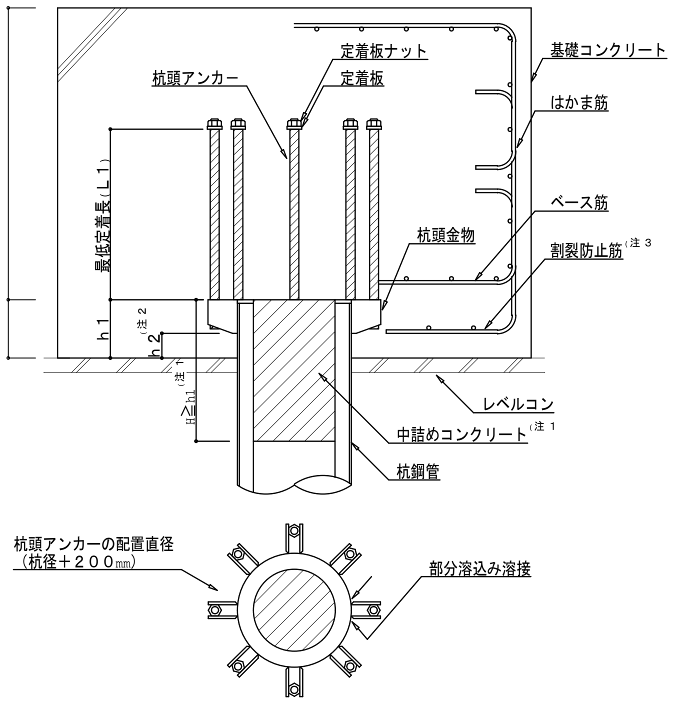
１．工法概要

１．１ 工法概要

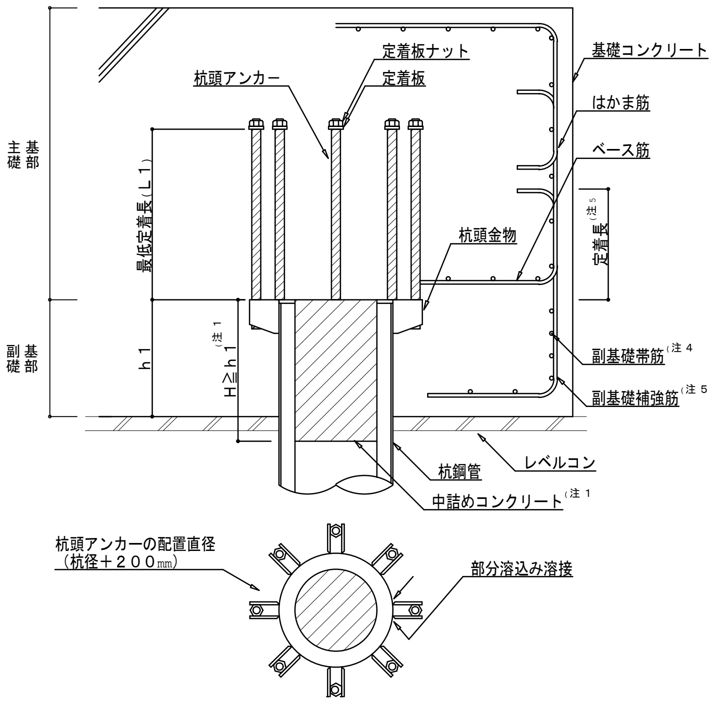
クラウンパイルアンカー工法は、ＳＣ杭の杭頭鋼管外周部に定着部材（以下、杭頭アンカー）を接続する金物（以下、杭頭金物）を部分溶込み溶接した後、杭頭金物のカプラー雌ねじ部に杭頭アンカーのねじ節鉄筋部を螺合することで、杭頭と基礎コンクリートを接合する工法である。

基礎コンクリートは杭頭上端面より上部を「主基礎部」、杭のみ込み部周囲を「副基礎部」と呼称し、杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の適用有無により、杭頭接合部の構造規定が異なる。（杭ごとに、概要図Ａまたは概要図Ｂのいずれかが適用される。）

● 概要図Ａ（主基礎部の応力伝達のみ考慮した設計の場合）



● 概要図Ｂ（杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の場合）



● 杭の中心間隔（設計値）

埋込み杭は杭径の２.０倍、打込み杭は杭径の２.５倍を最小値とする。
ただし、杭頭金物の溶接施工に支障がないことを確認すること。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、中心間隔の最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注１）中詰めコンクリート
中詰めコンクリートの強度と深さ（Ｈ）は 設計者により決定される。
ただし、杭のみ込み高さ（ｈ１）は確保すること。（図は参考図）

注２）かぶり厚さ
杭頭アンカー及び杭頭金物下端部のかぶり厚さ（ｈ２）は、設計かぶり厚さ７０mm以上、最小かぶり厚さ６０mmとする。

注３）割裂防止筋の配筋
杭頭外周部の基礎コンクリートには、終局時の割裂を防止するためにＤ１３－＠３００程度の割裂防止筋を配筋し、無筋部を少なくすることが望ましい。

● 杭と基礎コンクリートのへりあき（設計値）

杭心からの距離で杭径の１.２５倍以上を原則とする。
ただし、杭径が６００mm以上の場合は１.０倍以上としてもよい。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、へりあきの最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注４）副基礎帯筋の配筋（コーン状破壊防止）※
設計者指示の配筋を施す。ただし、Ｄ１３以上ピッチ１５０mm以下を配筋量の下限とする。

注５）副基礎補強筋の配筋（コーン状破壊防止/主基礎部への曲げ伝達）※
設計者指示の配筋を施す。ただし、Ｄ１３以上ピッチ３００mm以下を配筋量の下限とする。主基礎部への定着長は配筋指針等に基づき、設計者により決定される。

※マットスラブ形状の基礎については、上記、副基礎帯筋・副基礎補強筋の鉄筋径とピッチの規定によらず設計者指示の配筋とする.

１．２ 適用範囲

本標準図はクラウンパイルアンカー工法を対象とする。本標準図の適用範囲以外の条件における設計施工は、ＢＣＪ評定－ＦＤ０５１１－０４の評定書による。

● 杭と基礎コンクリートの適用範囲

杭の種類	外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭）
杭径	４００mm以上、１,２００mm以下
杭鋼管　鋼種	ＳＫＫ４００、ＳＴＫ４００、ＳＴＫＮ４００Ｂ ＳＫＫ４９０、ＳＴＫ４９０、ＳＴＫＮ４９０Ｂ
基礎コンクリート強度	２１Ｎ／mm²以上、４５Ｎ／mm²以下

● 杭のみ込み高さ

単位：mm

仕様	杭のみ込み高さ（ｈ１）	
	概要図 Ａ	概要図 Ｂ
Ｄ３２、Ｄ３８－Ｍ	250以上(240)	杭径の0.48倍以上 かつ250以上(240)
Ｄ３８、Ｄ３８Ｈ－Ｌ Ｄ４１Ｈ－Ｌ	280以上(270)	杭径の0.48倍以上 かつ280以上(270)

※（　）内の数値は最小かぶり厚さによる
※杭の鉛直施工許容差を考慮した寸法とする

● 杭頭アンカー設置可能本数の上限

・杭鋼管 鋼種
４００N/mm²級

杭径(mm)	鋼管厚/仕様	
	9mm	12mm以上
	D32-M	D32-M
400	7	8
450	8	9
500	8	9
600	9	10
700	10	12
800	11	13
900	11	14
1,000	12	15
1,100	13	17
1,200	13	18

・杭鋼管 鋼種
４９０N/mm²級

単位：本

杭径(mm)	鋼管厚/仕様									
	6mm	9mm			12mm以上				14mm	16mm以上
	D32-M	D32-M	D38-M	D38-L	D32-M	D38-M	D38-L	D38H-L	D41H-L	D41H-L
400	7	8	7	7	8	7	7	7	6	6
450	8	9	8	8	9	8	8	8	8	8
500	8	9	8	9	9	9	9	9	8	8
600	9	10	9	10	10	10	10	10	10	10
700	10	12	10	11	12	11	11	11	11	11
800	11	13	11	12	13	12	12	12	12	12
900	11	14	12	13	14	14	14	14	13	13
1,000	12	15	13	14	15	15	15	15	14	14
1,100	13	17	13	15	17	16	16	16	14	16
1,200	13	18	14	16	18	17	17	17	15	17

※設置本数の下限は全仕様４本とする

● 杭頭アンカーの最低定着長

単位：mm

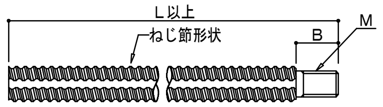
仕様	最低定着長（Ｌ１）
Ｄ３２Ｈ－Ｍ	614
Ｄ３８Ｈ－Ｍ、Ｌ	728
Ｄ３８Ｈ－Ｌ	915
Ｄ４１Ｈ－Ｌ	987

※ 本標準図以外に定着長の指定がある場合は、設計者指示の寸法による

２．構成部材

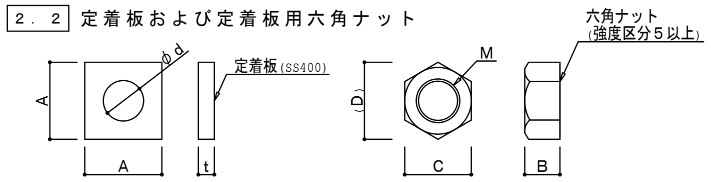
２．１ 杭頭アンカー

杭頭アンカーは片端部にＭねじを設けた異形棒鋼を用いる。
設計者の指定により定着長（Ｌ１）がアンカー呼び径の【３５倍以上(SD390)、４５倍以上(SD490)】となる場合は、Ｍねじ部を設けない仕様も可とする。



仕様	Ｌ(mm)	Ｂ(mm)	Ｍ	鋼種
Ｄ３２－Ｍ	790	39	M27	SD390
Ｄ３８－Ｍ、Ｌ	930	46	M33	
Ｄ３８Ｈ－Ｌ	1130			SD490
Ｄ４１Ｈ－Ｌ	1230	49	M36	

２．２ 定着板および定着板用六角ナット



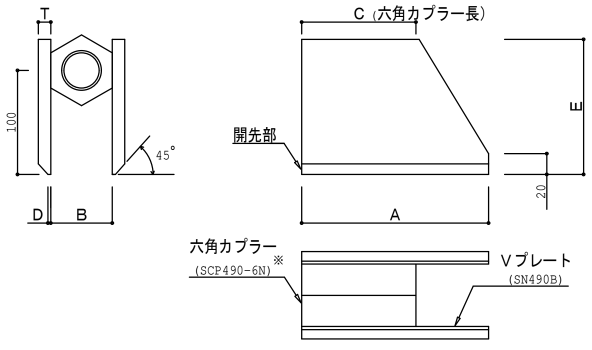
単位：mm

仕様	Ａ	t	φd	Ｍ	Ｂ	Ｃ	（Ｄ）
Ｄ３２－Ｍ	55	9	28	M27	22	41	47
Ｄ３８－Ｍ、Ｌ	65	12	34	M33	26	50	58
Ｄ３８Ｈ－Ｌ							
Ｄ４１Ｈ－Ｌ	80		37	M36	29	55	64

※ 杭頭アンカーにＭねじ部を設けない場合は使用しない

２．３ 杭頭金物

杭頭金物にはＭ、Ｌタイプがあり、杭鋼管の鋼種と鋼管厚の適用範囲に応じて使い分ける。



単位：mm

仕様	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ	Ｔ
Ｄ３２－Ｍ	180	50	90	2	130	12
Ｄ３８－Ｍ		59	110			
Ｄ３８－Ｌ	210		120			
Ｄ３８Ｈ－Ｌ						
Ｄ４１Ｈ－Ｌ		64	130		135	14

※ 国土交通大臣認定材：MSTL-0422またはMSTL-0574

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

ＳＣ杭

ＳＣ杭・鋼管杭用杭頭接合工法　クラウンパイルアンカー工法標準図２／２（参考図）

（一財）日本建築センターによる一般評定
「ＢＣＪ評定－ＦＤ０５１１－０４」（令和５年９月８日付）

岡部株式会社
TEL　03（3624）6201
2023年10月作成

３．工事現場施工

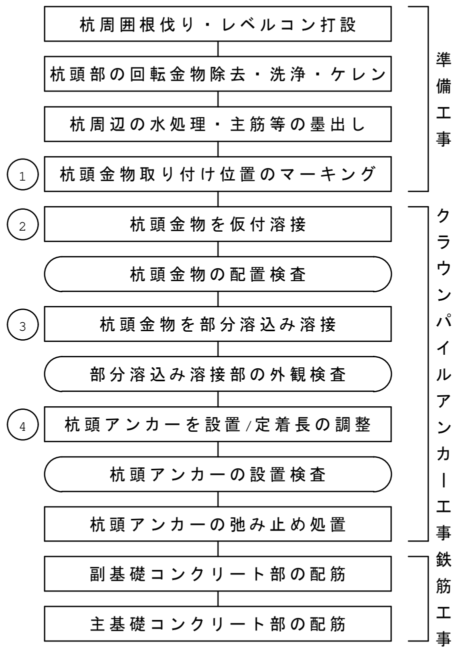
３．１　施工および施工管理

本工法は岡部（株）・グループ会社により教育・技術指導を受けた者が施工及び施工管理を実施する。

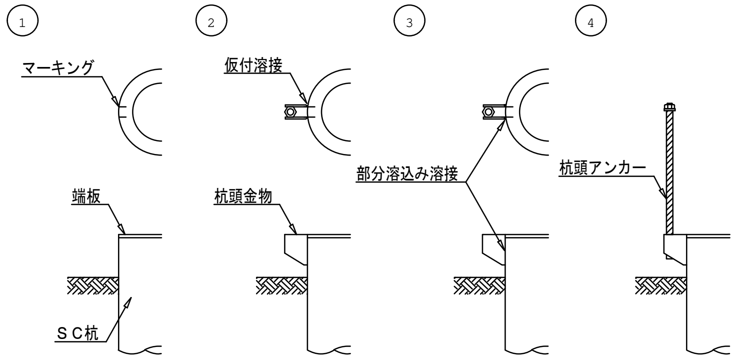
３．２　施工手順

本工法の実施に必要となる準備工事の実施範囲や施工手順について十分に協議する。

● 標準施工手順


杭周囲根伐り・レベルコン打設
杭頭部の回転金物除去・洗浄・ケレン
杭周辺の水処理・主筋等の墨出し
① 杭頭金物取り付け位置のマーキング
準備工事
② 杭頭金物を仮付溶接
杭頭金物の配置検査
③ 杭頭金物を部分溶込み溶接
部分溶込み溶接部の外観検査
④ 杭頭アンカーを設置／定着長の調整
杭頭アンカーの設置検査
杭頭アンカーの弛み止め処置
クラウンパイルアンカー工事
副基礎コンクリート部の配筋
主基礎コンクリート部の配筋
鉄筋工事

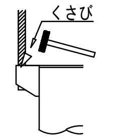
● 施工手順図



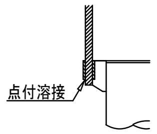
● 杭頭アンカー設置後の弛み止め処置

弛み止めは以下のいずれかの方法による。

・くさびの打ち込み



・カプラー下側余長部への点付溶接



３．３　部分溶込み溶接規準

● 溶接方法と溶接材料

材料は下記の規格を満たし、かつ４９０N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	規格：種類
ガス シールド アーク溶接	・JIS Z 3312：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・JIS Z 3313：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

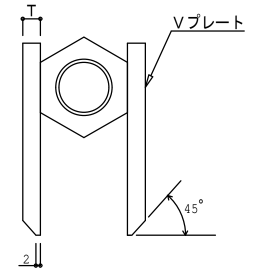
● 溶接資格

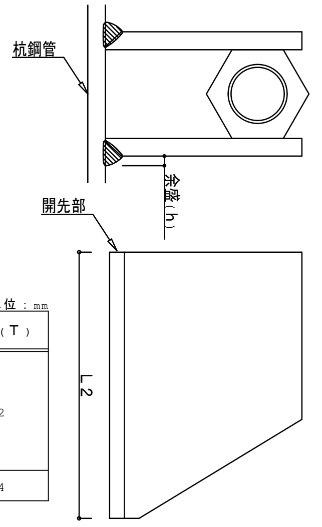
部分溶込み溶接は下記の規格を満たす立向姿勢の有資格者による施工を原則とする。

記号	規格：種類
ＳＡ－２Ｖ または ＳＡ－３Ｖ	・JIS Z 3841：半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準 ・WES 8241　：半自動溶接技能者の資格認証基準

● 溶接寸法

Ｖプレートと杭鋼管の溶接は開先部全長（Ｌ２）にわたって行い、所定の余盛（ｈ）を確保するように施工する。





単位：mm

仕様	溶接長（Ｌ２）	余盛（ｈ）	板厚（Ｔ）
Ｄ３２－Ｍ	180	3以上 10以下	12
Ｄ３８－Ｍ			
Ｄ３８－Ｌ	210		
Ｄ３８Ｈ－Ｌ			
Ｄ４１Ｈ－Ｌ			14

※ 溶接長は溶接始終端の余長を含む

４．仕様一覧

４．１　杭頭接合部仕様の一覧

本工法を採用する杭頭接合部に関し、各杭符号ごとに仕様の一覧を記す。

● 概要図Ａを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領	
杭符号	杭径	杭種（鋼管厚）	杭本数	仕様	本／１杭	備考	杭のみ込み高さ	割裂防止筋
Ｐ３	９００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝１４）	１３	Ｄ４１Ｈ－Ｌ（ＳＤ４９０）	１２		３００mm	Ｄ１３＠３００（ＳＤ２９５）
Ｐ２０	４００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝１２）	４	Ｄ３８Ｈ－Ｌ（ＳＤ４９０）	６		３００mm	Ｄ１３＠３００（ＳＤ２９５）

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した.

※ 上記において、杭のみ込み高さおよび割裂防止筋の配筋量に関する計算上の規定はない

● 概要図Ｂを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領		
杭符号	杭径	杭種（鋼管厚）	杭本数	仕様	本／１杭	備考	杭のみ込み高さ	副基礎補強筋	副基礎帯筋
Ｐ１	７００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝１６）	６	Ｄ４１Ｈ－Ｌ（ＳＤ４９０）	１１		５００mm	８－Ｄ１３（ＳＤ２９５）	３－Ｄ１３（ＳＤ２９５）
Ｐ１Ａ	７００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝１６）	６	Ｄ４１Ｈ－Ｌ（ＳＤ４９０）	１１		５００mm	８－Ｄ１３（ＳＤ２９５）	３－Ｄ１３（ＳＤ２９５）
Ｐ２	８００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝１６）	１０	Ｄ４１Ｈ－Ｌ（ＳＤ４９０）	１２		５００mm	６－Ｄ１６（ＳＤ２９５）	３－Ｄ１３（ＳＤ２９５）
Ｐ２Ａ	８００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝１６）	３	Ｄ４１Ｈ－Ｌ（ＳＤ４９０）	１２		５００mm	６－Ｄ１６（ＳＤ２９５）	３－Ｄ１３（ＳＤ２９５）

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した.

４．２　特記事項、その他

ノンカットパイル

機械式杭頭接合工法

ＮＣＰアンカー工法 標準図（参考図）

（一財）日本建築センターによる技術審査証明「ＢＣＪ－審査証明－３」(2021年6月1日)

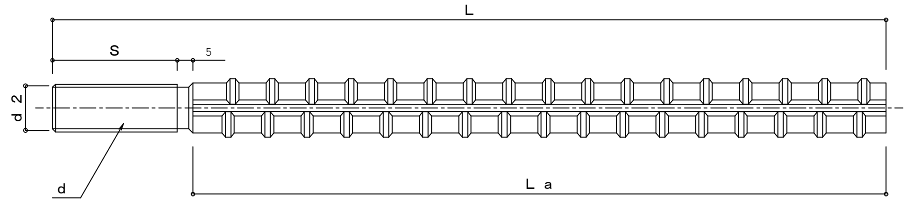
岡部株式会社
TEL03 (3624) 5336
2026年1月作成

Ver2021-1

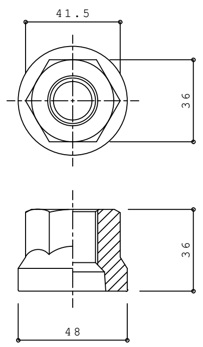
１.ＮＣＰアンカー工法概要

ＮＣＰアンカー工法は、既製コンクリート杭(ＰＨＣ杭・ＰＲＣ杭)の杭頭端板に設けられた雌ねじに、ＮＣＰボルトの雄ねじ部を螺合し、かつ、内面に非螺合部(ねじ無し部)を設けたＮＣＰカプラーを雄ねじ部に装着してトルクレンチにより締め付けることにより、杭と基礎フーチングを接合する機械式杭頭接合工法となる。

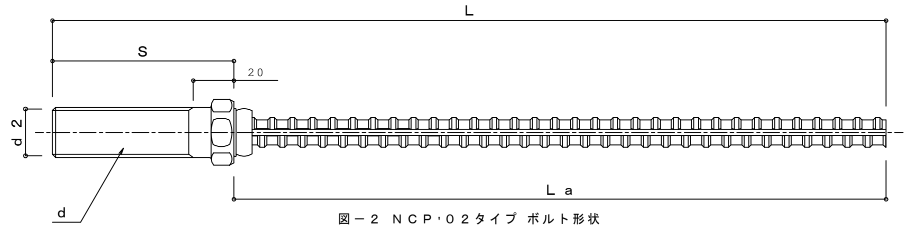
２.ＮＣＰアンカー部材形状及び構成



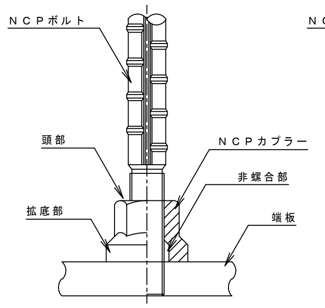
図－１ ＮＣＰ標準タイプ ボルト形状



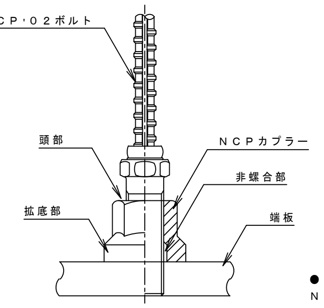
図－３ ＮＣＰカプラー形状



図－２ ＮＣＰ'０２タイプ ボルト形状

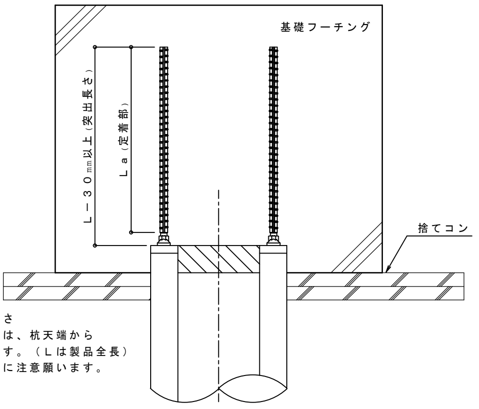


図－４ ＮＣＰ標準タイプ構成図



図－５ ＮＣＰ'０２タイプ構成図

●ＮＣＰアンカー突出長さ
ＮＣＰアンカー突出長さは、杭天端から
Ｌ－３０mm以上となります。（Ｌは製品全長）
基礎上端とのかぶり厚さに注意願います。



図－６ ＮＣＰアンカー工法の一般図

３.杭頭接合仕様

杭　仕　様			ＮＣＰアンカー仕様			
杭径	杭　種	杭本数	鉄筋径	本/１杭	製品長さＬ	備　考
φ４００	ＰＨＣ杭	１０本	Ｄ１３	６本	６００mm	ＮＣＰ'０２タイプ：厨房付属棟

【注意事項】
１）ＮＣＰアンカーの鉄筋径は杭頭端板ねじ径により異なります。
２）杭頭端板ねじ径は、杭メーカー・杭径・杭種により異なります。
３）杭メーカー確定後、杭頭端板ねじ径を確認し上記表中の取付仕様にて接続可能か確認する。
４）杭頭端板ねじ径が異なる場合は、設計時に使用した杭頭部応力にて再検討をする。

４.ＮＣＰアンカーの種類及び寸法(ＳＤ３４５)

単位(mm)

ＮＣＰタイプ	ＮＣＰボルト	ＮＣＰカプラー	鉄筋径 D	ねじ外径 d	ねじ有効径 d2	ねじ部 S	ねじ無し部	定着部 La	製品全長 L	標準トルク値	養生ゴム
ＮＣＰ標準	D19－M18	NCP 18	D19	18	16.376	60	5	485	550	203(N･m)	φ20
	D19－W3/4	NCP 3/4		19.050	17.424					238(N･m)	
	D22－M20	NCP 20	D22	20	18.380			565	630	288(N･m)	
	D22－M22	NCP 22		22	20.376					391(N･m)	φ22
	D22－W7/8	NCP 7/8		22.225	20.418					385(N･m)	
	D25－M24	NCP 24	D25	24	22.051	75		640	720	497(N･m)	φ24
	D25－W1	NCP 1		25.4	23.367					577(N･m)	
	D29－M27	NCP 27	D29	27	25.051			740	820	727(N･m)	φ27
	D29－W1･1/8	NCP 1･1/8		28.575	26.252					818(N･m)	
ＮＣＰ'０２	D13－各ねじサイズ	各ねじサイズ	D13	各ねじサイズ	各ねじサイズ	80 (ねじ無し部含む)	20	520	600	下表	各ねじサイズ
	D16－各ねじサイズ		D16					640	720	下表	

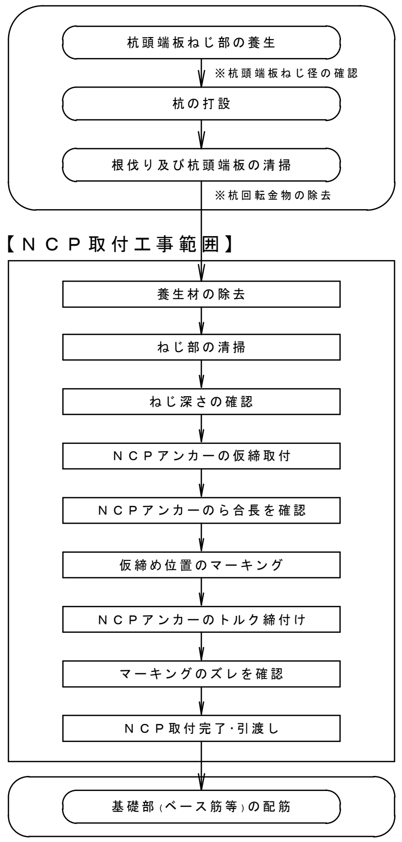
※Ｄ１３・Ｄ１６のねじ径は、Ｍ２７、Ｗ１・1/8以外とする。

５.ＮＣＰ'０２標準トルク値

鉄筋呼び名 ＼ ねじ呼び名	Ｍ１８	Ｗ３/４	Ｍ２０	Ｍ２２	Ｗ７/８	Ｍ２４	Ｗ１
Ｄ１３	134(N･m)	142(N･m)	149(N･m)	164(N･m)	166(N･m)	179(N･m)	189(N･m)
Ｄ１６	210(N･m)	222(N･m)	233(N･m)	257(N･m)	259(N･m)	280(N･m)	296(N･m)

※ＮＣＰ標準、ＮＣＰ'０２共通：トルクレンチの仕様により目盛りが合わない場合は、１目盛り上の値に設定する。

６.ＮＣＰアンカー標準施工フロー


【元請作業範囲】
- 杭頭端板ねじ部の養生
- ※杭頭端板ねじ径の確認
- 杭の打設
- 根伐り及び杭頭端板の清掃
- ※杭回転金物の除去

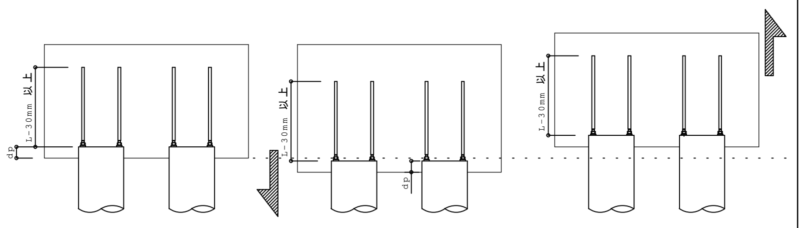
【ＮＣＰ取付工事範囲】
- 養生材の除去
- ねじ部の清掃
- ねじ深さの確認
- ＮＣＰアンカーの仮締取付
- ＮＣＰアンカーのら合長を確認
- 仮締め位置のマーキング
- ＮＣＰアンカーのトルク締付け
- マーキングのズレを確認
- ＮＣＰ取付完了･引渡し

- 基礎部(ベース筋等)の配筋

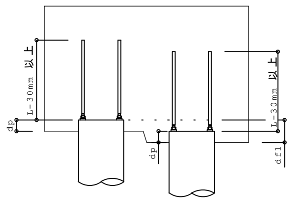
・ＮＣＰ取付工事範囲以外は作業所(元請)の作業範囲とする。
・ＮＣＰ取付工事は岡部(株)・グループ会社の施工指導を受けたものが実施する。
・ＮＣＰアンカーの取付工事の詳細は、ＢＣＪ－審査証明－３「設計･施工マニュアル」及び施工要領書による。

●参考-杭頭施工レベル

注意事項 ： 杭頭部の施工レベルについては参考とするため、詳細については設計者と協議の上、決定することとする。
※１ 杭頭部の基礎への埋込み長さｄｐは、「１００mmかつ指定の長さ以上」とする。
※２ ＮＣＰアンカーの長さはご指定により長くする事は可能です。



ａ)設計時(標準)
ｂ)フーチング全体を下げる(杭施工管理値内)
ｃ) フーチング全体を上げる(杭施工管理値内)

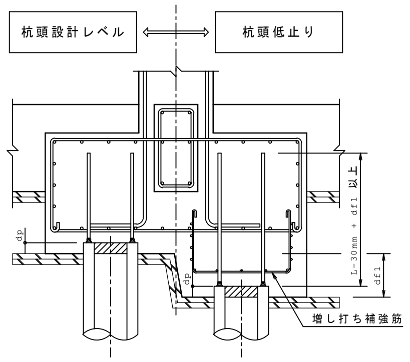


ｄ) フーチングを部分的に下げる(杭施工管理値内)

１) 低止り時の対応として
ｄ) においてｄｆ１が２００mm以上低くなる場合は下記によることとし、設計者の指示に従い、適切な増し打ち補強筋を配置することとする。但し、ｄｆ１は４００mmを上限とし、これを超える低止まりについては、継杭などの詳細な検討の上、適切な処置を講ずる。

２) 高止り時の対応として
杭頭が高止まりして、ベース筋、基礎梁下端筋等と干渉して配筋に支障を生じた場合は、設計者と協議の上、適切な処置を講ずる。

【参考】
杭頭部を所定の長さまで除去し、杭内部ＰＣ鋼線をはつり出した上、中詰め補強筋による補強を行う。
（中詰め補強筋の仕様は、設計者の指示による。）



柱状改良コラム工法　特記仕様書（参考図）　※ウルトラコラム工法、または同等工法以上

§１.工法概容

本地業は、ウルトラコラム工法による、地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、ウルトラコラム専用共回り防止翼（十字型）を装着した攪拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

§２.特記事項

本工事工法は、攪拌能力・攪拌径・品質（変動係数）に対して「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法とする。
特に、未固化改良体に対する比抵抗測定を実施する事で品質の確保を図る。
また、事前にその証明書を管理者に提出し、認証を得ることとする。

§３.一般事項

・本地業は、本特記仕様書によるほか、
「２０１８年版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」
（２０１８年１１月３０日 一般財団法人 日本建築センター、
一般財団法人 ベターリビング、以下指針という）による。

＜１＞施工業者

本工事の施工業者は、地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取扱いに精通したもので、ウルトラコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。

＜２＞設計変更

コラム径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は、設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

§４.コラム仕様

＜１＞設計基準強度

コラムの設計基準強度は$F_c = 800\ \mathrm{kN/m^2}$とする。

＜２＞固化材

固化材の配合は、原則として、改良部分の検査対象土を採取し、３種類以上の添加量にて室内配合試験を行い試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。

※使用する固化材は、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認する。

＜３＞配合強度

配合強度X_fは、設計基準強度F_cと変動係数・採取ヶ所数により割増係数α_tを用いて、次式による。　$X_f=\alpha_t \times F_c$

割増係数α_tは、合格率８０％とした下表による。

採取箇所数　N		１	２	３	４～６	７～８	９～
変動係数 Ｖｃ	25％	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
	30％	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
	35％	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

校舎棟・厨房付属棟↑　　↑屋外擁壁基礎

＜４＞室内配合強度

室内配合強度X_lは、配合強度X_fを現場/室内強度比αｆｌで除して、次式による。　$X_l=X_f/\alpha_{fl}$　（$\alpha_{fl}=0.7$）

Xl 2,242 kN/m² ←校舎棟・厨房付属棟

Xl 2,136 kN/m² ←屋外擁壁基礎

＜５＞固化材液の配合

固化材添加量	※　kg/m³
水／固化材比	60　％

※ 事前配合試験結果より決定とする。

§５.施工仕様

①施工サイクル　：　１サイクル
②羽根切り回数　：　４５０回／ｍ以上
③掘進、引き抜き速度　：　１ｍ／分以下
④固化材スラリーの吐出量　：　固化材の配合、貫入速度、羽根切り回数求まる値以上

§６.品質管理

＜１＞調査ヶ所（検査対象層に対して）

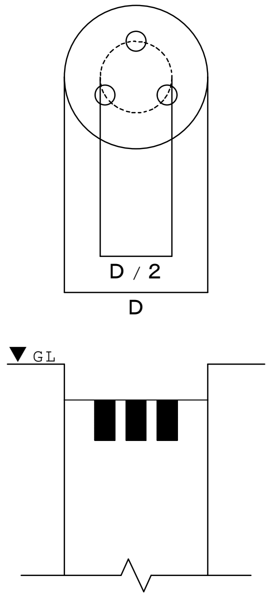
①検査対象層群は、概ねコラム１００本を１単位とし、層厚５０cm以上の土層毎に検査対象層を決める。
②検査対象層は（ 粘性土 ）であり設計対象層を（ 粘性土 ）とする。
③検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Ａによる。
④調査ヶ所数（検査対象群に対して）

検査手法Ａ	頭部コア試験	３	箇所	←校舎棟・厨房付属棟
	全長コア試験	１	箇所	←校舎棟・厨房付属棟
検査手法Ａ	頭部コア試験	５	箇所	←屋外擁壁基礎
	全長コア試験	２	箇所	←屋外擁壁基礎

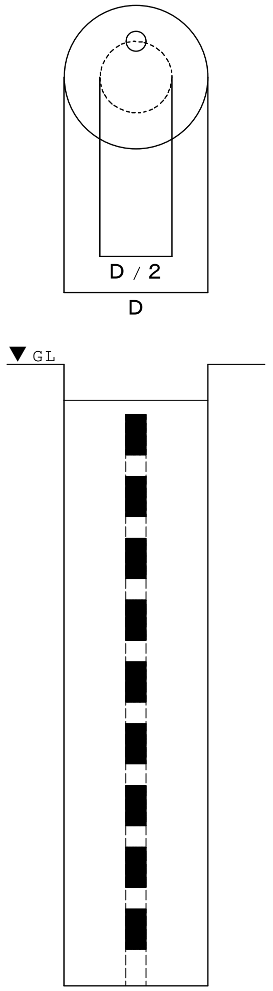
※１箇所当り３個のコア採取を標準とする。
※検査対象群にて抜取箇所数分のコアを採取をする。

＜２＞採取位置

頭部コア



全長コア



＜３＞ボーリングコア採取率（連続性の確認）

コア採取率は、全長に対して砂質土系で９５％以上、粘性土系で９０％以上とし、１ｍ当りのコア採取率は、砂質土系で、９０％以上、粘性土系で８５％以上とする。（塩ビ管などを代用する場合もある。）

＜４＞合否の判定

①設計対象層についての抜取ヶ所をＮとする。１箇所あたり３個の供試体を採取し、強度をその箇所の強度とする。
②一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
③検査手法Ａによる品質検査
合否の判定は設計対象層におけるＮヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$X_N \geqq X_L = F_c + K_a \cdot \sigma_d = F_c + K_a \{ F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d) \}$$

XN:　Ｎヶ所の一軸圧縮強度の平均値
XL:　合格判定値

XL 1,391 kN/㎡ ←校舎棟・厨房付属棟

XL 1,351 kN/㎡ ←屋外擁壁基礎

Fc:　設計基準強度
Ka:　合格判定係数
σd:　標準偏差
Vd:　変動係数（＝ Vc）

合格判定係数

抜取りヶ所数　Ｎ	１	２	３	４～６	７～８	９～
合格判定係数　Ｋa	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

校舎棟・厨房付属棟↑　　↑屋外擁壁基礎

＜５＞未固化改良体の比低抗測定

施工直後の改良体の攪拌混合状況を把握するために、比低抗の深度方向の分布を測定する。
検査数量は、１検査対象層群毎に１箇所以上かつ、５０コラム毎に１箇所以上とする。

☆ 比抵抗測定　３　箇所

	工法	ウルトラコラム工法、または同等工法以上			
	設計基準強度	Fc= ８００ KN/m²			
	コラム径 （mm）	掘削長 （m）	改良長 （m）	空堀長 （m）	本数 （本）
校舎棟	８００	８.００	７.９０	０.１０	４４
厨房付属棟	８００	８.００	８.００	０.００	５４
屋外擁壁基礎	８００	１０.７０	９.９５	０.７５	１５３
	合計				２５１

ＧＢＲＣ性能証明 第０８-０６号

報国エンジニアリング株式会社
〒939-2753 富山県富山市婦中町笹倉591番地1 ブロード朝野テナント1階
TEL:076-461-3303　FAX:076-461-3302

ベースパック

角形鋼管

□-150×150 ～ □-800×800 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「ＢＣＪ評定-ＳＴ０３３５－０１」（2024年1月26日付）

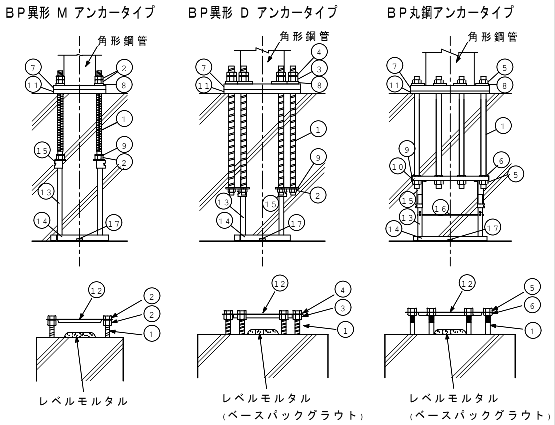
ベースパック柱脚工法設計施工標準図1/3（参考図）

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は１/３～３/３で構成されている。

岡部株式会社　旭化成建材株式会社
TEL 03（3624）5336　TEL 03（3296）3515
2025年11月作成

１．工法概要

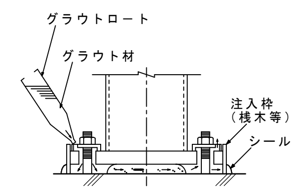
１．１ 構成部材



①アンカーボルト
②ＢＰ Ｍ ナット
③ＢＰ Ｄ ナット
④ＢＰ Ｄ ナット（Ｓ）
⑤ＢＰ丸鋼ナット
⑥ＢＰ位置決めナット
⑦ベースプレート
⑧ＢＰ注入座金
⑨ＢＰ定着板／ＢＰ連結定着板
⑩ＢＰ定着ベルト
⑪ベースパックグラウト
⑫テンプレート
⑬フレームポスト
⑭フレームベース
⑮ＢＰ受け金物
⑯振れ止め金物
⑰ステコンアンカー

（注）上記①～⑪の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
（注）上記⑫～⑰は現場状況により仕様が異なる場合がある。

１．２ 柱脚の定着方法概要



２．柱

F値（N/mm²）	鋼種	採用
２３５	BCP235	
	STKR400	
	SHC400	
２９５	BCR295	○
	JBCR295	
	TSC295	
３２５	BCP325	
	STKR490	
	SHC490	
	BSH325	
３６５	UBCR365	
３８５	JBCR385	
	BCP385	

３．構成部材・寸法

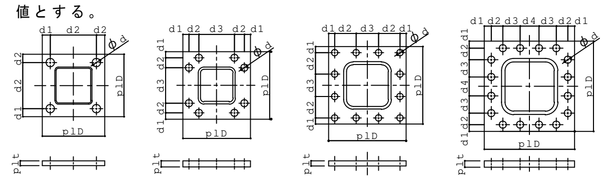
３．１ ベースプレート

●材質

ＳＮ４９０Ｂ【JIS G 3136】、ＴＭＣＰ３８５Ｂ【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●形状寸法

仕様毎の各寸法は、「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。

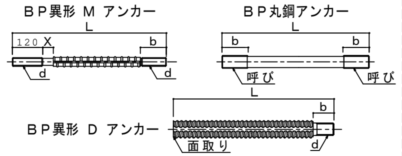


形状タイプ（イ）　形状タイプ（ロ）　形状タイプ（ホ）　形状タイプ（ヘ）

３．２ アンカー用ボルトセット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

３．２．１ アンカーボルト



BP異形 M アンカー　単位 mm

呼び	異形部呼び	基準強度（N/mm²）	アンカーボルト本数	L	X	b
MD27	D29	490	4	650	45	128
MD30	D32	490	4	695	45	133
			8	665		50
MD33	D35	490	4	690、735	45	95、140
			8	700		50
MD36	D38	490	4	770	60	130
			8	830		50
MD39	D41	490	4	770、810	60	98、135

BP異形 D アンカー　単位 mm

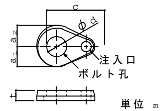
呼び	基準強度（N/mm²）	L	b	端部ねじ d
D35H	490	875	55	M30
D38H	490	1030	60	M33
D41H	490	1085	60	M36
D51L	390	1110	70	M45
D51H	490	1220		

BP丸鋼アンカー　単位 mm

呼び	基準強度（N/mm²）	L	b
M48	600	1100	140
M52	600	1195	155
M56	600	1275、1395	160
M60	600	1350、1475	170
M64	600	1430、1495	175

３．２．３ ＢＰ注入座金

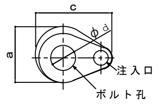
BP異形 M アンカー



単位 mm

記号	a₁	a₂	c	t	Φd
PM27	32	42	101	18	28
PM30	32	42	101	18	31
PM33	35	45	110	18	34
PM36	35	45	110	18	37
PM39	38	48	118	18	40

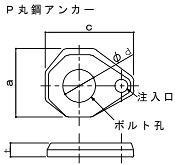
BP異形 D アンカー



単位 mm

記号	a	c	t	Φd
PE35	86	118	18	40
PE38	90	125	22	43
PE41	96	128	22	46
PE51	116	147	22	58

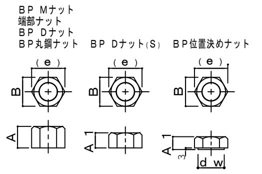
BP丸鋼アンカー



単位 mm

記号	a	c	t	Φd
PA48	102	133	22	49
PA52	110	140	22	53
PA56	116	147	22	58
PA60	122	153	22	61
PA64	128	159	22	65

３．２．２ ナット



BP異形 M アンカー（BP Mナット）
BP異形 D アンカー（端部ナット）
単位 mm

呼び	ナット呼び	A	B	（e）
MD27	M27	22	41	47
MD30 D35H	M30	24	46	53
MD33 D38H	M33	26	50	58
MD36 D41H	M36	29	55	64
MD39	M39	31	60	69
D51L D51H	M45	36	70	81

BP異形 D アンカー　単位 mm

呼び	BP Dナット A	BP Dナット（S） A1	B	（e）
D35H	42	28	60	69
D38H	45	30	65	75
D41H	48	32	70	80
D51L D51H	60	40	80	92

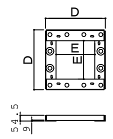
BP丸鋼アンカー　単位 mm

呼び	BP丸鋼ナット A	BP位置決めナット A1	B	（e）	dw
M48	38	29	75	87	59
M52	42	31	80	92	59
M56	45	34	85	98	74
M60	48	36	90	104	74
M64	51	38	95	110	74

３．３ 定着部材

３．３．１ ＢＰ定着ベルト

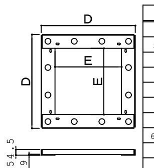
ＢＰ異形 Ｄ アンカー１２本仕様



単位 mm

ベースパック記号	D	E
35-25F3	565	365
35-19F4、35-22F4	575	375
40-22F3、40-16F4	625	425
40-25F3、40-19F4、40-22F4	630	430
45-19F3、45-16F4	675	475
45-22F3、45-19F4	680	480
45-25F3	700	500
45-28F3、45-22F4、45-25F4	714	514
50-19F3	730	530
50-22F3	750	550
50-25F3、50-28F3、50-32F3 50-36F3、50-19F4、50-22F4 50-25F4、50-28F4	774	574
55-19F3	790	590
55-22F3、55-25F3、55-28F3 55-19F4、55-22F4	814	614

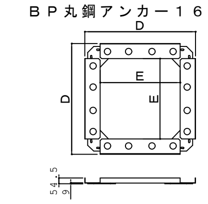
ＢＰ丸鋼アンカー１２本仕様



単位 mm

ベースパック記号	D	E
55-32F3、55-25F4	885	625
55-36F3、55-40F3、55-28F4、55-32F4	899	639
60-19F3	895	695
60-22F3、60-19F4	905	645
60-25F3	915	655
60-28F3、60-22F4	925	665
60-32F3、60-25F4	939	679
60-36F3、60-40F3、60-28F4、60-32F4	953	663
65-22F3	935	675
65-25F3	975	715
65-28F3、65-22F4、65-25F4	989	729
65-32F3、65-36F3、65-28F4	1003	713
70-22F3	1015	755
70-25F3、70-22F4	1029	769
70-28F3	1049	789
70-32F3、70-25F4	1063	773
75-22F3、75-25F3	1089	829
75-28F3、75-22F4	1103	813

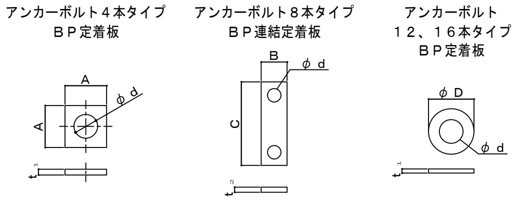
ＢＰ丸鋼アンカー１６本仕様



単位 mm

ベースパック記号	D	E
65-40F3、65-32F4	1047	757
70-36F3、70-28F4	1097	807
70-40F3、70-32F4	1105	795
75-32F3、75-25F4	1177	887
75-36F3、75-40F3、75-28F4、75-32F4	1215	905
80-25F3	1178	918
80-28F3	1197	907
80-32F3、80-36F3、80-25F4、80-28F4	1265	955

３．３．２ ＢＰ定着板



BP異形 Mアンカー　単位 mm

呼び	BP定着板（4本タイプ） A	Φd	t₁	BP連結定着板 B	C	Φd	t₂
MD27	55	28	9	－	－	－	－
MD30	55	31	9	50	163	31	6
MD33	60	34	9	61	174	34	6
MD36	65	37	12	67	180	37	6
MD39	80	40	12	－	－	－	－

BP異形 Dアンカー　単位 mm

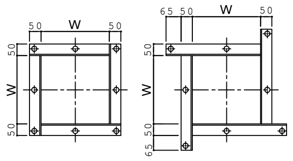
呼び	BP連結定着板 B	C	Φd	t₂	BP定着板（１２本タイプ） ΦD	Φd	t₁
D35H	61	195	31	12	－	－	－
D38H	65	199	34	12	65	34	6
D41H	72	206	37	12	70	37	6
D51L、D51H	－	－	－	－	84	46	9

BP丸鋼アンカー　単位 mm

呼び	BP定着板（１２本タイプ） ΦD	Φd	t₁	BP定着板（１６本タイプ） ΦD	Φd	t₁
M48	85	60	6	－	－	－
M52	95	60	9	－	－	－
M56	105	75	12	118	75	12
M60	119	75	16	137	75	16
M64	133	75	16	145	75	22

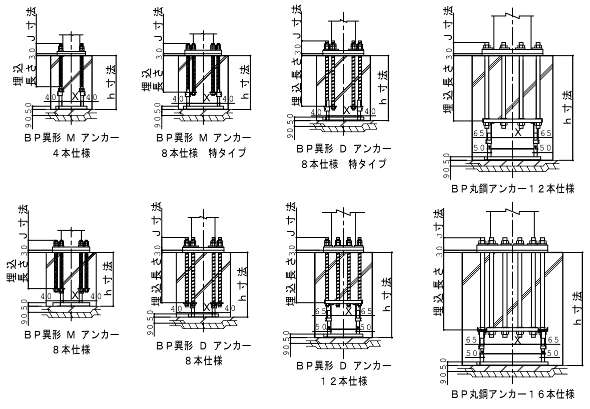
３．４ フレームベース

ｗは３．５に記載のフレームベース内法寸法とする。



３．５ アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（ｈ寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。
据付けに最低限必要な高さ（最低ｈ寸法）は「ベースパック柱脚工法設計施工標準図２／３、３／３」に記載の値とする。



単位 mm

ベースパック記号	フレームベース内法寸法W 標準	特タイプ	フレームポスト間寸法X 標準	特タイプ
15-12F2	250	－	170	－
17-12F2	280	－	200	－
20-09F2	310	－	230	－
20-12F2	310	－	230	－
25-09F2	360	－	280	－
25-12F2	370	－	290	－
25-16F2	222	385	142	305
30-09F2	420	－	340	－
30-12F2	300	447	220	367
30-16F2	288	459	208	379
30-19F2	318	489	238	409
35-12F2	337	500	257	420
35-16F2	367	530	287	450
35-19F2	344	513	264	433
35-22F3	339	518	259	438
35-25F3	476	－	367	－
40-16F3	414	583	334	503
40-19F3	409	588	329	508
40-22F3	536	－	427	－
40-25F3	541	－	432	－
45-16F3	459	638	379	558
45-19F3	586	－	477	－
45-22F3	591	－	482	－
45-25F3	611	－	502	－
45-28F3	608	－	499	－
50-19F3	641	－	532	－
50-22F3	661	－	552	－
50-25F3	668	－	559	－
50-28F3	668	－	559	－
50-32F3	668	－	559	－
50-36F3	668	－	559	－
55-19F3	701	－	592	－
55-22F3	708	－	599	－
55-25F3	708	－	599	－

単位 mm

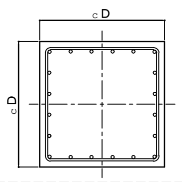
ベースパック記号	フレームベース内法寸法W 標準	特タイプ	フレームポスト間寸法X 標準	特タイプ
55-28F3	708	－	599	－
55-32F3	737	－	628	－
55-36F3	737	－	628	－
55-40F3	737	－	628	－
60-19F3	785	－	676	－
60-22F3	757	－	648	－
60-25F3	767	－	658	－
60-28F3	777	－	668	－
60-32F3	777	－	668	－
60-36F3	771	－	662	－
60-40F3	771	－	662	－
65-22F3	787	－	678	－
65-25F3	827	－	718	－
65-28F3	827	－	718	－
65-32F3	821	－	712	－
65-36F3	821	－	712	－
65-40F3	955	－	846	－
70-22F3	867	－	758	－
70-25F3	867	－	758	－
70-28F3	887	－	778	－
70-32F3	881	－	772	－
70-36F3	1005	－	896	－
70-40F3	1005	－	896	－
75-22F3	927	－	818	－
75-25F3	927	－	818	－
75-28F3	921	－	812	－
75-32F3	1085	－	976	－
75-36F3	1115	－	1006	－
75-40F3	1115	－	1006	－
80-25F3	1105	－	996	－
80-28F3	1105	－	996	－
80-32F3	1165	－	1056	－
80-36F3	1165	－	1056	－

単位 mm

ベースパック記号	フレームベース内法寸法W 標準	特タイプ	フレームポスト間寸法X 標準	特タイプ
35-16F4	339	518	259	438
35-19F4	486	－	377	－
35-22F4	486	－	377	－
40-16F4	536	－	427	－
40-19F4	541	－	432	－
40-22F4	541	－	432	－
45-16F4	586	－	477	－
45-19F4	591	－	482	－
45-22F4	608	－	499	－
45-25F4	608	－	499	－
50-19F4	668	－	559	－
50-22F4	668	－	559	－
50-25F4	668	－	559	－
50-28F4	668	－	559	－
55-19F4	708	－	599	－
55-22F4	708	－	599	－
55-25F4	737	－	628	－
55-28F4	737	－	628	－
55-32F4	737	－	628	－
60-19F4	757	－	648	－
60-22F4	777	－	668	－
60-25F4	777	－	668	－
60-28F4	771	－	662	－
60-32F4	771	－	662	－
65-22F4	827	－	718	－
65-25F4	827	－	718	－
65-28F4	821	－	712	－
65-32F4	955	－	846	－
70-22F4	867	－	758	－
70-25F4	881	－	772	－
70-28F4	1005	－	896	－
70-32F4	1005	－	896	－
75-22F4	921	－	812	－
75-25F4	1085	－	976	－
75-28F4	1115	－	1006	－
75-32F4	1115	－	1006	－
80-25F4	1165	－	1056	－
80-28F4	1165	－	1056	－

４．コンクリート柱型

４．１ 形状・材質



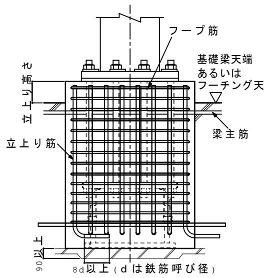
●コンクリート

普通コンクリートとし、設計基準強度は３６Ｎ/mm²を上限とする。設計基準強度の下限は「ベースパック柱脚工法設計施工標準図２/３、３/３」に記載の値とする。

●鉄筋

立上り筋：ＳＤ２９５（D16）、ＳＤ３４５（D19、D22、D25）、ＳＤ３９０（D29）
フープ筋：ＳＤ２９５

４．２ 配筋・基礎立上り



●立上り筋の下部折り曲げは８ｄ以上とする。
●立上り筋の下部折り曲げは梁下端筋より下方に配筋する。
●立上り高さは、５０mm以下とする。ただし、ＢＰ丸鋼アンカータイプは２００mm以下とする。
●立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
●柱型頂部のフープ筋（トップフープ）は、基礎梁主筋より上方へ配置する。

４．３ 特記事項

４．１及び４．２によらない場合は下記による。

採用
□ 鉄筋コンクリート柱として設計
□ 立上り筋に頂部フックが必要
□ 立上り筋の下部折り曲げ不要

５．工場製作（溶接）

■組立

●ベースプレートの中心に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）

●完全溶込み溶接とする。
（ＪＡＳＳ６鉄骨工事による）

■ベースプレートの予熱

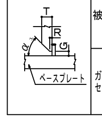
●気温（鋼材表面温度）が５℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。
その他必要に応じて適切な予熱をする。

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。探傷は柱側から行う。

■不良溶接部の補正：有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。

■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

完全溶込み溶接の開先標準（ＪＡＳＳ６鉄骨工事２０１８年版より）

図	溶接方法	適用板厚T（mm）	ルート間隔G（mm） 標準値	許容差	ルート面R（mm） 標準値	許容差	開先角度α₁（°） 標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	６～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	６～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・２段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

溶接方法	鋼種	板厚（mm） t＜32	32≦t≦50	50＜t≦85
低水素系被覆アーク溶接	ＳＮ４９０Ｂ	予熱なし	50℃	－
CO2ガスシールドアーク溶接※1	ＳＮ４９０Ｂ	予熱なし	予熱なし	－
低水素系被覆アーク溶接	TMCP385B※2	－	50℃	50℃
CO2ガスシールドアーク溶接※1	TMCP385B※2	－	予熱なし	予熱なし

※１　フラックス入りワイヤによる炭酸ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、被覆アーク溶接（低水素）に準じる。
※２「建築構造用ＴＭＣＰ鋼材溶接施工指針（2021）に準拠し、TMCP385Bは上記予熱温度の適用に当たり、各メーカーのｙ形溶接割れ試験（JIS Z 3158による）の実績または溶接施工指針を確認している。

６．工事場施工

６．１ 基礎工事

●柱脚部の捨てコンの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

６．２ アンカーボルトの据付け

●４本及び８本タイプのアンカーボルトの据付けは、４隅のアンカーボルト４本（８本）で組立を行う。１２本及び１６タイプのアンカーボルトの据付けは、予め捨てコン上にセットされたフレーム上に、定着部材・アンカーボルト・テンプレート等でアンカーユニットを組立て、フレームに固定する。
●フレームベースは、ステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心位置と地墨等の柱心を合致させることにより行う。標準許容差は下図による。

６．３ 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーフレームもしくはアンカーユニットおよびフレームとの取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

６．４ 建方

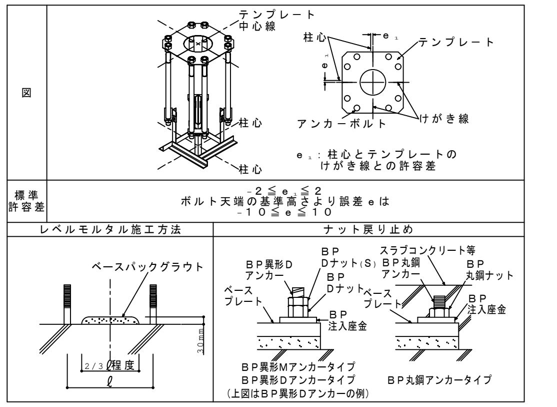
●レベルモルタル施工は、ベースパックグラウト（グラウト材）を使用し、大きさは下図による。

６．５ アンカーボルトの本締め（戻り止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ＢＰ異形 Ｍ アンカー、ＢＰ異形 Ｄ アンカータイプはダブルナットを標準とする。ＢＰ丸鋼アンカータイプはＢＰ丸鋼ナットによるシングルナットを標準とし、コンクリートに埋込む等の戻り止め処置を行う。

６．６ ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（２５kg）に対して、計量カップで４．０～４．６㍑の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。



標準許容差
-2≦e₁≦2
ボルト天端の基準高さより誤差ｅは
-１０≦ｅ≦１０

７．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者または施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち６．２アンカーボルトの据付けおよび６．６ベースパックグラウト（グラウト材）の注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作作業者に属する鉄骨制作管理技術者等による。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

ベースパック

角形鋼管

□-150×150 ～ □-800×800 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「ＢＣＪ評定-ＳＴ０３３５－０１」（2024年1月26日付）

ベースパック柱脚工法設計施工標準図$\frac{2}{3}$(参考図)

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は１/３～３/３で構成されている。

岡部株式会社　旭化成建材株式会社
TEL 03 (3624) 5336　　TEL 03 (3296) 3515
2025年11月作成

採用		RC柱として設計※1	ベースパック記号	柱		ベースプレート									アンカーボルト			コンクリート柱型（側・隅柱、中柱用）※2															コンクリート柱型（独立柱用）※2										最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
柱符号	数量			外径(mm)	板厚(mm)	材質	形状タイプ	寸法(mm)							本数	呼び	埋込長さ(mm)	Fc下限値(N/mm^2)	標準断面寸法cD(mm)	柱型拡幅上限※3		フープ筋(SD295)	立上り筋本数										Fc下限値(N/mm^2)	標準断面寸法cD(mm)	柱型拡幅上限※3		フープ筋(SD295)	立上り筋本数						
								plD(mm)	plt(mm)	d1(mm)	d2(mm)	d3(mm)	d4(mm)	φd(mm)						断面寸法(mm)	片側拡幅量(mm)		側・隅柱用※4					中柱用※5							断面寸法(mm)	片側拡幅量(mm)		D16(SD295)	D19(SD345)	D22(SD345)	D25(SD345)	D29(SD390)		
																							D16(SD295)	D19(SD345)	D22(SD345)	D25(SD345)	D29(SD390)	D16(SD295)	D19(SD345)	D22(SD345)	D25(SD345)	D29(SD390)												
		□	15-12F2	□150	≦12	SN490B	（イ）	300	28	50	200	-	-	45	4	MD27	357	21	500	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	12	-	-	-	-	21	500	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	550	135
		□	17-12F2	□175	≦12	SN490B	（イ）	320	32	45	230	-	-	45	4	MD30	397	21	530	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	12	-	-	-	-	21	530	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	600	135
		□	20-09F2	□200	≦9	SN490B	（イ）	360	28	50	260	-	-	45	4	MD30	397	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	16	12	-	-	-	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	600	135
		□	20-12F2	□200	≦12	SN490B	（イ）	360	32	50	260	-	-	50	4	MD33	430	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	16	12	-	-	-	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	600	135
		□	25-09F2	□250	≦9	SN490B	（イ）	420	32	55	310	-	-	55	4	MD36	460	21	610	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	-	12	12	12	-	21	610	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	650	150
		□	25-12F2	□250	≦12	SN490B	（イ）	420	36	55	310	-	-	55	4	MD39	495	21	630	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	-	12	12	12	-	21	630	-	-	D13@100	-	20	12	12	-	650	150
		□	25-16F2	□250	≦16	SN490B	（ロ）	450	32	50	80	190	-	50	8	MD33	485	21	650	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	20	16	12	-	21	730	-	-	D13@100	-	-	24	16	-	610	135
		□	30-09F2	□300	≦9	SN490B	（イ）	480	36	60	360	-	-	55	4	MD39	495	21	680	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	-	16	12	12	-	21	680	-	-	D13@100	-	-	12	12	-	650	150
		□	30-12F2	□300	≦12	SN490B	（ロ）	520	32	50	80	260	-	50	8	MD30	450	21	700	720	10	D13@100	-	-	16	16	-	-	16	12	12	-	21	710	720	5	D13@100	-	-	24	16	-	570	135
		□	30-16F2	□300	≦16	SN490B	（ロ）	520	40	50	80	260	-	55	8	MD36	600	21	730	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	24	16	16	-	21	770	-	-	D13@100	-	-	-	24	-	720	150
		□	30-19F2	□300	≦19	SN490B	（ロ）	550	50	50	80	290	-	55	8	MD36	600	21	760	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	24	16	16	-	21	790	-	-	D13@100	-	-	-	24	-	720	150
SC1	11	□	35-12F2	□350	≦12	SN490B	（ロ）	580	36	50	95	290	-	55	8	D35H	620	21	810	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	-	20	16	-	21	840	-	-	D13@100	-	-	-	28	-	750	170
		□	35-16F2	□350	≦16	SN490B	（ロ）	610	45	50	95	320	-	55	8	D35H	620	21	830	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	-	20	16	-	21	870	-	-	D13@100	-	-	-	28	-	750	170
		□	35-19F2	□350	≦19	SN490B	（ロ）	610	45	60	95	300	-	60	8	D38H	750	21	820	1090	135	D13@100	-	-	24	20	-	-	-	20	16	-	21	880	1090	105	D13@100	-	-	-	20	-	880	190
		□	35-22F3	□350	≦22	TMCP385B	（ロ）	610	45	60	95	300	-	65	8	D41H	800	21	850	1090	120	D13@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	21	910	1090	90	D13@100	-	-	24	20	-	930	195
		□	35-25F3	□350	≦25	TMCP385B	（ホ）	600	50	60	160	160	-	60	12	D38H	750	21	850	1080	115	D16@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	21	910	1080	85	D16@100	-	-	28	20	-	1090	190
		□	40-16F3	□400	≦16	TMCP385B	（ロ）	670	45	55	95	370	-	60	8	D38H	750	21	870	1160	145	D13@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	21	910	1160	125	D13@100	-	-	24	20	-	880	190
		□	40-19F3	□400	≦19	TMCP385B	（ロ）	680	50	60	95	370	-	65	8	D41H	800	21	900	1160	130	D13@100	-	-	28	20	-	-	-	28	20	-	21	950	1160	105	D13@100	-	-	28	20	-	930	195
		□	40-22F3	□400	≦22	TMCP385B	（ホ）	650	55	55	160	220	-	60	12	D38H	750	21	920	1140	110	D16@100	-	-	28	20	-	-	-	28	20	-	21	970	1140	85	D16@100	-	-	28	24	-	1090	190
		□	40-25F3	□400	≦25	TMCP385B	（ホ）	670	55	65	160	220	-	65	12	D41H	800	21	970	1140	85	D16@100	-	-	32	24	-	-	-	32	24	-	21	1000	1140	70	D16@100	-	-	32	24	-	1140	195
		□	45-16F3	□450	≦16	TMCP385B	（ロ）	740	45	65	95	420	-	65	8	D41H	800	21	950	1210	130	D16@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	21	950	1210	130	D16@100	-	-	28	20	-	930	195
		□	45-19F3	□450	≦19	TMCP385B	（ホ）	710	45	60	160	270	-	60	12	D38H	750	21	1000	1190	95	D16@100	-	-	28	24	-	-	-	28	20	-	21	1020	1190	85	D16@100	-	-	28	24	-	1090	190
		□	45-22F3	□450	≦22	TMCP385B	（ホ）	710	50	60	160	270	-	65	12	D41H	800	21	1010	1190	90	D16@100	-	-	32	24	-	-	-	32	24	-	21	1080	1190	55	D16@100	-	-	32	28	-	1140	195
		□	45-25F3	□450	≦25	TMCP385B	（ホ）	750	55	70	160	290	-	65	12	D41H	800	24	1020	1210	95	D16@100	-	-	32	28	-	-	-	32	28	-	24	1080	1210	65	D16@100	-	-	36	28	-	1140	195
		□	45-28F3	□450	≦28	TMCP385B	（ホ）	750	55	70	200	210	-	75	12	D51L	790	24	1020	1210	95	⊞D16@100	-	-	36	28	-	-	-	36	28	-	24	1080	1210	65	⊞D16@100	-	-	36	28	-	1130	220
		□	50-19F3	□500	≦19	TMCP385B	（ホ）	760	50	60	160	320	-	65	12	D41H	800	24	1040	1240	100	D16@100	-	-	36	28	-	-	-	36	28	20	24	1090	1240	75	D16@100	-	-	36	28	-	1140	195
		□	50-22F3	□500	≦22	TMCP385B	（ホ）	810	55	75	160	340	-	65	12	D41H	800	24	1060	1260	100	D16@100	-	-	36	28	-	-	-	36	28	20	24	1100	1260	80	D16@100	-	-	36	28	-	1140	195
		□	50-25F3	□500	≦25	TMCP385B	（ホ）	810	55	70	200	270	-	75	12	D51L	790	24	1070	1270	100	⊞D16@100	-	-	40	28	-	-	-	40	28	20	24	1100	1270	85	⊞D16@100	-	-	40	32	-	1130	220
		□	50-28F3	□500	≦28	TMCP385B	（ホ）	810	60	70	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	⊞D16@100	-	-	48	36	24	-	-	48	36	24	24	1180	1270	45	⊞D16@100	-	-	48	36	-	1230	230
		□	50-32F3	□500	≦32	TMCP385B	（ホ）	810	60	70	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	⊞D16@100	-	-	48	36	24	-	-	48	36	24	24	1180	1270	45	⊞D16@100	-	-	48	36	28	1230	230
		□	50-36F3	□500	≦36	TMCP385B	（ホ）	840	65	85	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1200	1270	35	⊞D16@100	-	-	48	36	24	-	-	48	36	24	24	1200	1270	35	⊞D16@100	-	-	48	36	28	1230	230
		□	55-19F3	□550	≦19	TMCP385B	（ホ）	850	50	75	160	380	-	65	12	D41H	800	24	1100	1300	100	D16@100	-	-	36	28	-	-	-	36	28	20	24	1140	1300	80	D16@100	-	-	36	28	-	1140	195
		□	55-22F3	□550	≦22	TMCP385B	（ホ）	850	55	70	200	310	-	75	12	D51L	790	24	1100	1310	105	⊞D16@100	-	-	40	32	-	-	-	40	32	24	24	1140	1310	85	⊞D16@100	-	-	40	32	-	1130	220
		□	55-25F3	□550	≦25	TMCP385B	（ホ）	850	60	70	200	310	-	75	12	D51H	890	24	1180	1310	65	⊞D16@100	-	-	48	40	-	-	-	48	40	28	24	1250	1310	30	⊞D16@100	-	-	48	40	28	1230	230
		□	55-28F3	□550	≦28	TMCP385B	（ホ）	850	60	70	200	310	-	75	12	D51H	890	24	1200	1310	55	⊞D16@100	-	-	48	40	28	-	-	48	40	28	24	1250	1310	30	⊞D16@100	-	-	48	40	28	1230	230
		□	55-32F3	□550	≦32	TMCP385B	（ホ）	900	65	70	250	260	-	75	12	M56	970	24	1200	1360	80	⊞D16@100	-	-	-	40	28	-	-	-	40	28	24	1250	1360	55	⊞D16@100	-	-	-	40	28	1360	170
		□	55-36F3	□550	≦36	TMCP385B	（ホ）	900	70	70	250	260	-	80	12	M60	1030	24	1280	1360	40	⊞D16@100	-	-	-	48	36	-	-	-	48	36	24	1320	1360	20	⊞D16@100	-	-	-	48	36	1430	180
		□	55-40F3	□550	≦40	TMCP385B	（ホ）	900	70	70	250	260	-	80	12	M60	1030	24	1300	1360	30	⊞D16@100	-	-	-	48	36	-	-	-	48	36	24	1320	1360	20	⊞D16@100	-	-	-	48	36	1430	180
		□	60-19F3	□600	≦19	TMCP385B	（ホ）	920	55	65	210	370	-	70	12	M48	830	24	1200	1390	95	⊞D16@100	-	-	-	32	24	-	-	-	32	24	24	1200	1390	95	⊞D16@100	-	-	-	36	28	1220	150
		□	60-22F3	□600	≦22	TMCP385B	（ホ）	920	60	65	210	370	-	75	12	M52	900	24	1200	1390	95	⊞D16@100	-	-	-	40	28	-	-	-	40	28	24	1230	1390	80	⊞D16@100	-	-	-	40	28	1290	165
		□	60-25F3	□600	≦25	TMCP385B	（ホ）	940	65	70	250	300	-	75	12	M52	900	24	1250	1400	75	⊞D16@100	-	-	-	40	28	-	-	-	40	28	24	1250	1400	75	⊞D16@100	-	-	-	40	28	1290	165
		□	60-28F3	□600	≦28	TMCP385B	（ホ）	940	65	70	250	300	-	75	12	M56	970	24	1250	1400	75	⊞D16@100	-	-	-	44	32	-	-	-	44	32	24	1250	1400	75	⊞D16@100	-	-	-	44	32	1360	170
		□	60-32F3	□600	≦32	TMCP385B	（ホ）	940	70	70	250	300	-	80	12	M60	1030	24	1320	1400	40	⊞D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1340	1400	30	⊞D16@100	-	-	-	52	36	1430	180
		□	60-36F3	□600	≦36	TMCP385B	（ホ）	950	75	75	250	300	-	85	12	M64	1100	24	1380	1400	10	⊞D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1400	-	-	⊞D16@100	-	-	-	56	40	1500	185
		□	60-40F3	□600	≦40	TMCP385B	（ホ）	980	75	90	250	300	-	85	12	M64	1100	24	1400	-	-	⊞D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1400	-	-	⊞D16@100	-	-	-	56	40	1500	185
		□	65-22F3	□650	≦22	TMCP385B	（ホ）	960	60	70	210	400	-	75	12	M52	900	24	1350	1420	35	⊞D16@100	-	-	-	36	24	-	-	-	36	24	24	1350	1420	35	⊞D16@100	-	-	-	36	28	1290	165
		□	65-25F3	□650	≦25	TMCP385B	（ホ）	1000	65	75	250	350	-	75	12	M56	970	24	1350	1450	50	⊞D16@100	-	-	-	44	32	-	-	-	44	32	24	1350	1450	50	⊞D16@100	-	-	-	44	32	1360	170
		□	65-28F3	□650	≦28	TMCP385B	（ホ）	1000	70	75	250	350	-	80	12	M60	1030	24	1350	1450	50	⊞D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1400	1450	25	⊞D16@100	-	-	-	52	36	1430	180
		□	65-32F3	□650	≦32	TMCP385B	（ホ）	1000	75	75	250	350	-	85	12	M64	1100	24	1400	1450	25	⊞D16@100	-	-	-	60	40	-	-	-	60	40	24	1440	1450	5	⊞D16@100	-	-	-	60	40	1500	185
		□	65-36F3	□650	≦36	TMCP385B	（ホ）	1050	80	100	250	350	-	85	12	M64	1100	24	1450	-	-	⊞D16@100	-	-	-	60	40	-	-	-	60	40	24	1450	-	-	⊞D16@100	-	-	-	60	40	1500	185
		□	65-40F3	□650	≦40	TMCP385B	（ヘ）	1050	75	80	135	200	220	80	16	M60	1150	24	1490	-	-	⊞D16@100	-	-	-	64	44	-	-	-	64	44	24	1500	-	-	⊞D16@100	-	-	-	64	44	1380	185
		□	70-22F3	□700	≦22	TMCP385B	（ホ）	1030	65	70	250	390	-	75	12	M56	970	24	1350	1490	70	⊞D16@100	-	-	-	44	32	-	-	-	44	32	24	1350	1490	70	⊞D16@100	-	-	-	48	32	1360	170
		□	70-25F3	□700	≦25	TMCP385B	（ホ）	1050	70	80	250	390	-	80	12	M60	1030	24	1430	1490	30	⊞D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1480	1490	5	⊞D16@100	-	-	-	52	36	1430	180
		□	70-28F3	□700	≦28	TMCP385B	（ホ）	1090	75	90	250	410	-	80	12	M60	1030	24	1450	1510	30	⊞D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1510	-	-	⊞D16@100	-	-	-	52	36	1430	180
		□	70-32F3	□700	≦32	TMCP385B	（ホ）	1090	75	90	250	410	-	85	12	M64	1100	24	1500	1510	5	⊞D16@100	-	-	-	60	40	-	-	-	60	40	24	1560	-	-	⊞D16@100	-	-	-	60	40	1500	185
		□	70-36F3	□700	≦36	TMCP385B	（ヘ）	1100	75	80	135	210	250	80	16	M60	1150	24	1550	-	-	⊞D16@100	-	-	-	64	44	-	-	-	64	44	24	1610	-	-	⊞D16@100	-	-	-	64	44	1380	185
		□	70-40F3	□700	≦40	TMCP385B	（ヘ）	1100	80	80	135	210	250	85	16	M64	1150	27	1740	-	-	⊞D16@100	-	-	-	68	48	-	-	-	68	48	27	1840	-	-	⊞D16@100	-	-	-	68	48	1450	200
		□	75-22F3	□750	≦22	TMCP385B	（ホ）	1100	70	75	250	450	-	80	12	M60	1030	24	1500	1550	25	⊞D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1510	1550	20	⊞D16@100	-	-	-	56	40	1430	180
		□	75-25F3	□750	≦25	TMCP385B	（ホ）	1100	70	75	250	450	-	80	12	M60	1030	24	1500	1550	25	⊞D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1510	1550	20	⊞D16@100	-	-	-	56	40	1430	180
		□	75-28F3	□750	≦28	TMCP385B	（ホ）	1100	75	75	250	450	-	85	12	M64	1100	24	1550	-	-	⊞D16@100	-	-	-	60	44	-	-	-	60	44	24	1580	-	-	⊞D16@100	-	-	-	60	44	1500	185
		□	75-32F3	□750	≦32	TMCP385B	（ヘ）	1200	75	90	135	250	250	80	16	M60	1150	24	1600	1620	10	⊞D16@100	-	-	-	68	48	-	-	-	68	48	24	1670	-	-	⊞D16@100	-	-	-	68	48	1380	185
		□	75-36F3	□750	≦36	TMCP385B	（ヘ）	1250	85	100	135	260	260	85	16	M64	1150	27	1840	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	48	-	-	-	72	48	27	1890	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	48	1450	200
		□	75-40F3	□750	≦40	TMCP385B	（ヘ）	1250	85	100	135	260	260	85	16	M64	1150	27	1840	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	48	-	-	-	72	48	27	1890	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	48	1450	200
		□	80-25F3	□800	≦25	TMCP385B	（ヘ）	1220	70	90	135	250	270	75	16	M56	1080	24	1550	1640	45	⊞D16@100	-	-	-	60	40	-	-	-	60	40	24	1560	1640	40	⊞D16@100	-	-	-	60	44	1310	180
		□	80-28F3	□800	≦28	TMCP385B	（ヘ）	1220	70	90	135	250	270	80	16	M60	1150	24	1630	1640	5	⊞D16@100	-	-	-	68	48	-	-	-	68	48	24	1700	-	-	⊞D16@100	-	-	-	68	48	1380	185
		□	80-32F3	□800	≦32	TMCP385B	（ヘ）	1300	85	100	135	270	290	85	16	M64	1150	27	1920	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	52	-	-	-	72	52	27	1940	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	52	1450	200
		□	80-36F3	□800	≦36	TMCP385B	（ヘ）	1300	85	100	135	270	290	85	16	M64	1150	27	1920	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	52	-	-	-	72	52	27	1940	-	-	⊞D16@100	-	-	-	72	52	1450	200

※１　コンクリート柱型をＲＣ柱として設計する場合は、独立柱用の仕様を下回らないこと。

※２　立上り高さが５０mm以下（ＢＰ丸鋼アンカータイプの場合は２００mm以下）の場合に適用できる。
ただし、いずれの場合でも、ブレースが接合する方向の立上り高さが５０mmを超える場合には適用できない。

※３　柱型は、補強鉄筋（鉄筋径、本数、ピッチ及び強度）が上表の通りであることを条件に、柱型拡幅上限まで拡幅することができる。
なお、断面寸法は柱心と柱型心が一致する場合の最大値であり、方向別の拡幅上限は片側拡幅量以内とする。

※４　基礎梁が直交する２方向から取り付き、かつ立上げ部段差が５０mm以下（ＢＰ丸鋼アンカータイプの場合は２００mm以下）の場合は側・隅柱用を選択できる。
ただし、□３５０以上においては側・隅柱であっても、取り付く基礎梁内のスタラップ筋の径がＤ１３より小さくなる場合は、独立柱用による。

※５　基礎梁が４方向から取り付き、かつ立上げ部段差が５０mm以下（ＢＰ丸鋼アンカータイプの場合は２００mm以下）の場合は中柱用を選択できる。
ただし、中柱であっても、取り付く基礎梁内のスタラップ筋がＤ１３より小さくなる場合、もしくはピッチが２００mmを超える場合は、独立柱用による。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.
125280
2026 年 03 月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所
設計　・　・
標題　露出型弾性固定柱脚工法設計施工標準図（２）
縮尺
図番　S－17

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管

Ｆ値235N/mm²　　　　ϕ190～ϕ812 用
Ｆ値325N/mm²以下　　ϕ190～ϕ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」（令和6年6月21日付）

ベースパック柱脚工法 設計施工 標準図 1/2

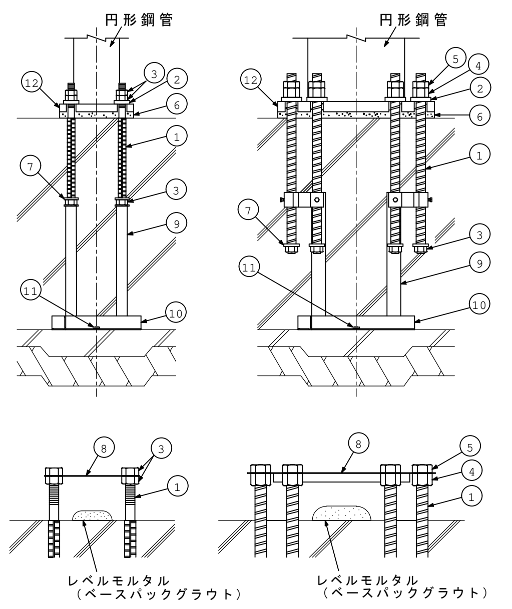
- ●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
- ●本標準図に記載のベースパック記号の末尾にＴがつく仕様は、旧仕様と一部材質・寸法が異なるが、構造計算上は同じ回転剛性値、柱脚耐力を用いることができる。
  （例：406-25V2Tの旧仕様→406-25V2）
- ●本標準図は１/２～２/２で構成されている。

岡部株式会社　TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社　TEL03（3296）3515

2025年11月作成

１．工法概要

１．１ 構成部材

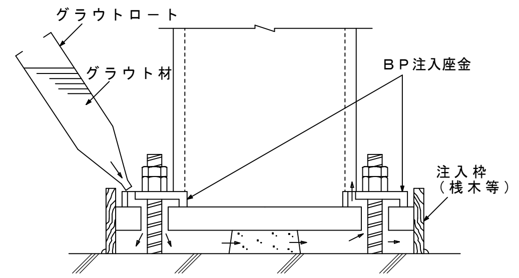


（ＢＰ異形Ｍアンカー）　　（ＢＰ異形Ｄアンカー）

①アンカーボルト	⑧テンプレート
②ＢＰ 注入座金	⑨フレームポスト
③ＢＰ Ｍナット	⑩フレームベース
④ＢＰ Ｄナット	⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑤ＢＰ Ｄナット（Ｓ）	
⑥ベースパックグラウト（グラウト材）	
⑦ＢＰ 定着座金	⑫ベースプレート

（注）上記①～⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
（注）上記⑧～⑪は現場状況により仕様が異なる場合がある。
（注）アンカーボルト１２本の場合はつなぎプレートが取り付く。

１．２ 柱脚の定着方法概要



２．柱

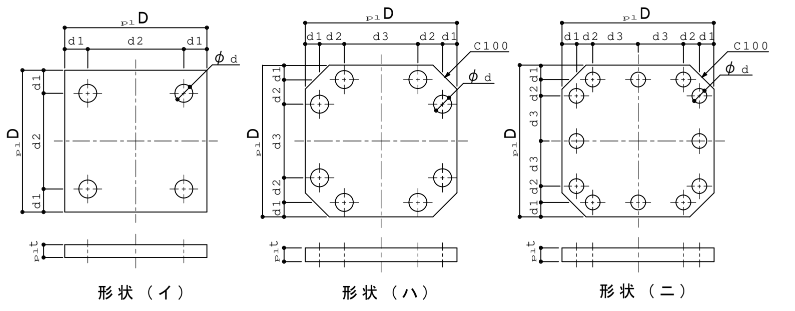
Ｆ値（N/mm²）	鋼種	採用
２３５	ＳＴＫ４００	○
	ＳＴＫＮ４００	
３２５	ＳＴＫ４９０	
	ＳＴＫＮ４９０	

３．構成部材・寸法

３．１ ベースプレート

●材質

ＳＮ４９０Ｂ	【ＪＩＳ Ｇ ３１３６】
ＴＭＣＰ３２５Ｂ	【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】（建築構造用ＴＭＣＰ鋼板）
ＴＭＣＰ３８５Ｂ	【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】（建築構造用ＴＭＣＰ鋼板）

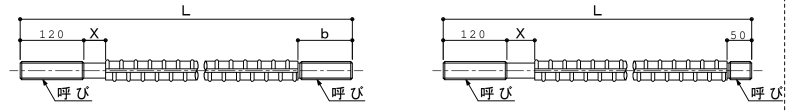


形状（イ）　　形状（ハ）　　形状（ニ）

３．２ アンカーボルト【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●ＢＰ異形Ｍアンカー

i)アンカーフレームＡタイプの場合　　ii)アンカーフレームＣタイプの場合



i)　単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L注1)	X	b注1)	基準強度（N/mm²）
MD30	D32	695	45	133	490
MD33	D35	690,735	45	95,140	490

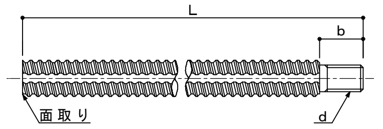
ii)　単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度（N/mm²）
MD30	D32	695	45	490
MD33	D35	720	45	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

●ＢＰ異形Ｄアンカー

iii)アンカーフレームＣタイプ・Ｄタイプの場合

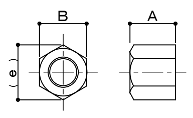


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度（N/mm²）
D38L	850	46	M33	390
D41L	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51L	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

３．３ ＢＰ Ｍナット・ＢＰ Ｄナット

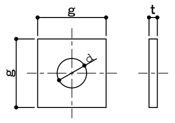
【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(e)
ＢＰ Ｍナット	M30	24	46	53
	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
ＢＰ Ｄナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
ＢＰ Ｄナット（Ｓ）	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

３．４ 定着座金



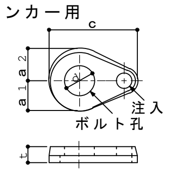
単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
MD30	55	9	31	SS400
MD33	60	9	34	
D38L	65	12	37	
D41L,D41H	70	12	37	SS490
D51L,D51H	85	12	46	

３．５ ＢＰ注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料、ＳＳ４９０】

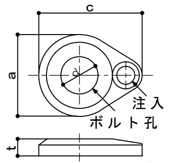
i)ＢＰ異形Ｍアンカー用



単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM30	MD30	32	42	101	18	31
PM33	MD33	35	45	110	18	34

ii)ＢＰ異形Ｄアンカー用

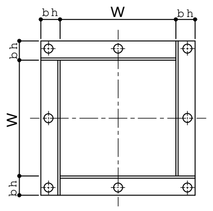


単位 mm

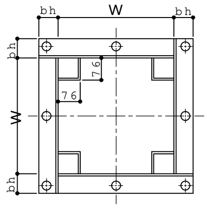
記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38L	96	122	20	43
PD41	D41L,D41H	100	127	20	46
PD51	D51L,D51H	110	140	20	58

３．６ フレームベース

i)Ａタイプ・Ｃタイプ



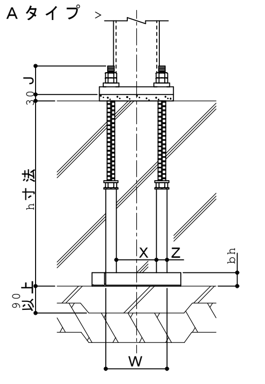
ii)Ｄタイプ



３．７ アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

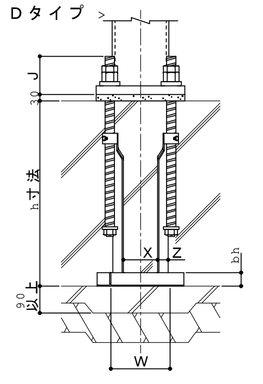
●ベースパックの据付け高さ（ｈ寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。
　据付けに最低限必要な高さ（最低ｈ寸法）は「円形鋼管用ベースパック柱脚工法設計施工標準図２/２」（以下「標準図２/２」と記す）の表に記載の値とする。

＜ Ａタイプ ＞



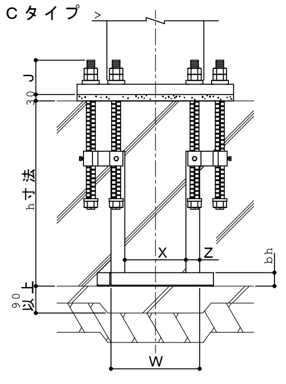
（ＢＰ異形Ｍアンカー４本仕様）

＜ Ｄタイプ ＞



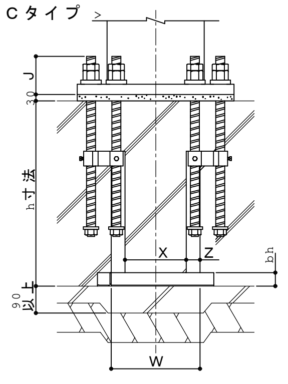
（ＢＰ異形Ｄアンカー４本仕様）

＜ Ｃタイプ ＞



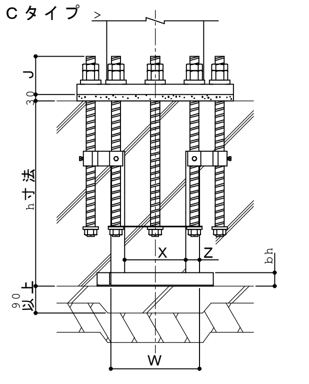
（ＢＰ異形Ｍアンカー８本仕様）

＜ Ｃタイプ ＞



（ＢＰ異形Ｄアンカー８本仕様）

＜ Ｃタイプ ＞



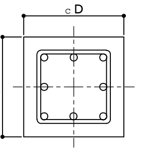
（ＢＰ異形Ｄアンカー１２本仕様）

単位 mm

４．コンクリート柱型

４．１ 形状・材質

●形状
　形状は正方形とし、寸法は「標準図２/２」表に記載の値とする。

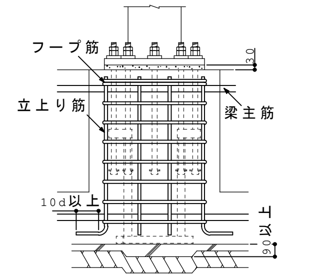


●コンクリート
　普通コンクリートとし、設計基準強度は「標準図２/２」表に記載の値とする。

●鉄筋
　ＳＤ２９５（Ｄ１３、Ｄ１６）
　ＳＤ３４５（Ｄ１９、Ｄ２２、Ｄ２５）

４．２ 配筋

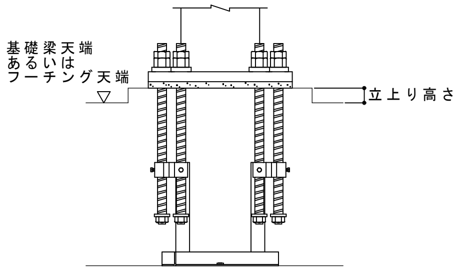
配筋仕様は「標準図２/２」の表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

４．３ 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは５０mm以下とする。



４．４ 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

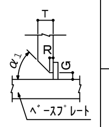
採用
- □「標準図２/２」表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
- □「標準図２/２」表標準配筋仕様からの変更あり
- □ 立上り筋に頂部フックが必要

５．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ケガキ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。（ＪＡＳＳ６ 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（ＪＡＳＳ６ 鉄骨工事 ２０１８年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α_1(°) 標準値	開先角度α_1(°) 許容差	溶接姿勢
 T R G α_1 ベースプレート	被覆アーク溶接	6～	7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α_1:45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			9	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α_1:35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α_1:45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α_1:35		

許容差　・記号+∞は制限無しを示す。
　　　　・２段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温（鋼材表面温度）が５℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 32≦t＜40	板厚(mm) 40≦t≦50	板厚(mm) 50＜t≦80
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50 ℃	50 ℃	
	TMCP325B		25 ℃	
	TMCP385B※2		50 ℃	50 ℃
ＣＯ₂ガスシールドアーク溶接※1	SN490B	予熱なし	予熱なし	
	TMCP325B		予熱なし	
	TMCP385B※2		予熱なし	予熱なし

※１ フラックス入りワイヤによるＣＯ₂ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素系被覆アーク溶接に準じる。
※２ 「建築構造用ＴＭＣＰ鋼材溶接施工指針（２０２１）」に準拠し、ＴＭＣＰ３８５Ｂは上記予熱温度の適用に当たり、各メーカーのｙ形溶接割れ試験（ＪＩＳ Ｚ ３１５８による）の実績または溶接施工指針を確認している。

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林 信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長 了

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管
F値235N/mm² φ190～φ812 用
F値325N/mm²以下 φ190～φ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」（令和6年6月21日付）

ベースパック柱脚工法設計施工標準図 2/2

- ●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
- ●本標準図に記載のベースパック記号の末尾にTがつく仕様は、旧仕様と一部材質・寸法が異なるが、構造計算上は同じ回転剛性値、柱脚耐力を用いることができる。
（例：406-25V2Tの旧仕様→406-25V2）
- ●本標準図は１/２～２/２で構成されている。

岡部株式会社　旭化成建材株式会社
TEL03 (3624) 5336　TEL03 (3296) 3515
2025年11月作成

６．工事場施工

６．１ 基礎工事

●柱脚部の捨てコンの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

６．２ アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、４隅のアンカーボルト４本（８本）で組立てを行う。
●フレームベースは捨てコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

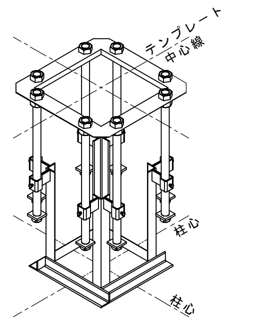
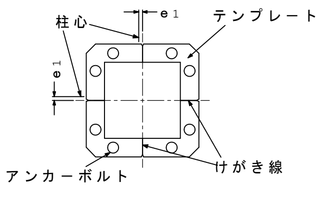


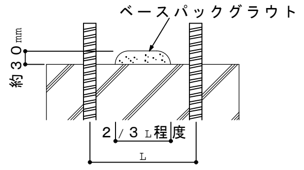
図	 柱心 e1 テンプレート e1 アンカーボルト けがき線 e1:柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	−２≦e1≦２ 基準高さより誤差は −３≦e≦１０

６．３ 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

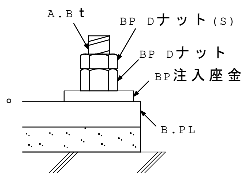
６．４ 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し、大きさは右図による。



６．５ アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。
●ＢＰ Ｄナット(Ｓ)による弛み止めは右図による。



６．６ ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋(６kg)に対して、計量カップで１.０～１.１Lの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

７．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者または施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック記号	柱		ベースプレート								アンカーボルト		コンクリート柱型				アンカーフレームタイプ	フレームベース		フレームポスト間		最低h寸法	J寸法
			外径(mm)	板厚(mm)	材質	形状	寸法(mm)						本数-呼び	基準強度	寸法(mm)	配筋		設計基準強度		寸法(mm)		寸法(mm)			
							$_{p1}$D	$_{p1}$t	d1	d2	d3	φd		(N/mm²)	$_{c}$D	立上り筋	フープ筋	(N/mm²)		W	bh	X	Z	(mm)	(mm)
V2 V2T 柱材F値235用		216-13V2	φ190.7,φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ45	4-MD30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-16V2	φ190.7,φ216.3	t≦16.0	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ50	4-MD33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-13V2	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ50	4-MD33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-16V2	φ267.4	t≦16.0	SN490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ60	4-D38L	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-13V2	φ300.0,φ318.5	t≦12.7	SN490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ60	4-D38L	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-16V2	φ300.0,φ318.5	t≦16.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(イ)	460	50	65	330	-	φ65	4-D41L	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-25V2	φ300.0,φ318.5	t≦25.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38L	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-13V2	φ350.0,φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-MD30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-16V2	φ350.0,φ355.6	t≦16.0	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-MD33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-22V2	φ350.0,φ355.6	t≦22.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38L	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-13V2	φ400.0,φ406.4	t≦12.7	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-MD30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
	○	406-19V2	φ400.0,φ406.4	t≦19.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-22V2	φ400.0,φ406.4	t≦22.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41L	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-25V2T	φ400.0,φ406.4	t≦25.0	TMCP385B	(ハ)	610	50	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-13V2	φ450.0,φ457.2	t≦12.7	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-MD33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-19V2	φ450.0,φ457.2	t≦19.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41L	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-25V2T	φ450.0,φ457.2	t≦25.0	TMCP385B	(ニ)	740	55	65	120	185	φ60	12-D38L	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-36V2T	φ450.0,φ457.2	t≦36.0	TMCP385B	(ニ)	740	65	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-14V2	φ500.0,φ508.0	t≦14.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38L	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-22V2T	φ500.0,φ508.0	t≦22.0	TMCP385B	(ハ)	700	60	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-32V2T	φ500.0,φ508.0	t≦32.0	TMCP385B	(ニ)	810	65	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-40V2T	φ500.0,φ508.0	t≦40.0	TMCP385B	(ニ)	830	75	75	135	205	φ75	12-D51L	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-16V2T	φ550.0,φ558.8	t≦16.0	TMCP385B	(ハ)	710	55	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-28V2T	φ550.0,φ558.8	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	850	70	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-36V2T	φ550.0,φ558.8	t≦36.0	TMCP385B	(ニ)	870	75	75	135	225	φ75	12-D51L	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-22V2T	φ600.0,φ609.6	t≦22.0	TMCP385B	(ハ)	820	60	80	110	440	φ75	8-D51L	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-28V2T	φ600.0,φ609.6	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	910	70	75	155	225	φ75	12-D51L	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-36V2T	φ600.0,φ609.6	t≦36.0	TMCP385B	(ニ)	910	75	75	155	225	φ75	12-D51L	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-28V2T	φ650.0,φ660.4	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	970	75	75	160	250	φ75	12-D51L	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-36V2T	φ650.0,φ660.4	t≦36.0	TMCP385B	(ニ)	970	80	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-28V2T	φ700.0,φ711.2	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	1030	75	75	175	265	φ75	12-D51L	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-32V2T	φ700.0,φ711.2	t≦32.0	TMCP385B	(ニ)	1030	80	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-25V2T	φ750.0,φ762.0	t≦25.0	TMCP385B	(ニ)	1070	75	75	185	275	φ75	12-D51L	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-28V2T	φ750.0,φ762.0	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	1070	80	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-22V2T	φ800.0,φ812.8	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	1150	75	75	200	300	φ75	12-D51L	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-28V2T	φ800.0,φ812.8	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	1150	80	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235
V3 V3T 柱材F値325以下用		216-10V3	φ190.7 φ216.3	t≦12.7 t≦9.5	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ45	4-MD30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-13V3	φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ50	4-MD33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-09V3	φ267.4	t≦9.3	SN490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ50	4-MD33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-13V3	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ60	4-D38L	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-09V3	φ300.0,φ318.5	t≦9.0	SN490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ60	4-D38L	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-13V3	φ300.0,φ318.5	t≦12.7	TMCP325B,TMCP385B	(イ)	460	50	65	330	-	φ65	4-D41L	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-19V3	φ300.0,φ318.5	t≦19.0	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38L	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-10V3	φ350.0,φ355.6	t≦9.5	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-MD30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-13V3	φ350.0,φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-MD33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-16V3	φ350.0,φ355.6	t≦16.0	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38L	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-10V3	φ400.0,φ406.4	t≦9.5	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-MD30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-13V3	φ400.0,φ406.4	t≦12.7	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38L	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-16V3	φ400.0,φ406.4	t≦16.0	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41L	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-19V3T	φ400.0,φ406.4	t≦19.0	TMCP385B	(ハ)	610	50	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-10V3	φ450.0,φ457.2	t≦9.5	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-MD33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-13V3	φ450.0,φ457.2	t≦12.7	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41L	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-19V3T	φ450.0,φ457.2	t≦19.0	TMCP385B	(ニ)	740	55	65	120	185	φ60	12-D38L	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-28V3T	φ450.0,φ457.2	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	740	65	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-10V3	φ500.0,φ508.0	t≦9.5	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38L	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-16V3T	φ500.0,φ508.0	t≦16.0	TMCP385B	(ハ)	700	60	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-22V3T	φ500.0,φ508.0	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	810	65	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-32V3T	φ500.0,φ508.0	t≦32.0	TMCP385B	(ニ)	830	75	75	135	205	φ75	12-D51L	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-13V3T	φ550.0,φ558.8	t≦12.7	TMCP385B	(ハ)	710	55	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-22V3T	φ550.0,φ558.8	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	850	70	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-28V3T	φ550.0,φ558.8	t≦28.0	TMCP385B	(ニ)	870	75	75	135	225	φ75	12-D51L	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-16V3T	φ600.0,φ609.6	t≦16.0	TMCP385B	(ハ)	820	60	80	110	440	φ75	8-D51L	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-22V3T	φ600.0,φ609.6	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	910	70	75	155	225	φ75	12-D51L	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-25V3T	φ600.0,φ609.6	t≦25.0	TMCP385B	(ニ)	910	75	75	155	225	φ75	12-D51L	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-22V3T	φ650.0,φ660.4	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	970	75	75	160	250	φ75	12-D51L	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-25V3T	φ650.0,φ660.4	t≦25.0	TMCP385B	(ニ)	970	80	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-22V3T	φ700.0,φ711.2	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	1030	75	75	175	265	φ75	12-D51L	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-25V3T	φ700.0,φ711.2	t≦25.0	TMCP385B	(ニ)	1030	80	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-19V3T	φ750.0,φ762.0	t≦19.0	TMCP385B	(ニ)	1070	75	75	185	275	φ75	12-D51L	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-22V3T	φ750.0,φ762.0	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	1070	80	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-19V3T	φ800.0,φ812.8	t≦19.0	TMCP385B	(ニ)	1150	75	75	200	300	φ75	12-D51L	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-22V3T	φ800.0,φ812.8	t≦22.0	TMCP385B	(ニ)	1150	80	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

高強度せん断補強筋（エムケーフープ：７８５級）特記仕様書（参考図）

株式会社 向山工場
ＢＣＪ評定-RC0419-05

１.一般事項

１－１適用範囲

本指針は、建築物の鉄筋コンクリート造梁及び柱のせん断補強筋（溶接閉鎖形筋、フック付閉鎖形筋等）として、高強度せん断補強筋用異形棒鋼ＭＫ７８５（以下、ＭＫ７８５と呼ぶ）を使用する場合の設計・施工に適用する。

１－２コンクリート

コンクリートの種類は普通コンクリートとし、設計基準強度の範囲は２１Ｎ/mm²以上６０Ｎ/mm²以下とする。

１－３共通事項

本仕様書に記載無き事項については、ＪＡＳＳ５によるものとする。

２.ＭＫ７８５フープの品質

２－１ 区分、種類の記号及び認定番号は下記による

区　　分	種類の記号	認定番号
高強度せん断補強筋用異形棒鋼	ＭＫ７８５	ＭＳＲＢ-００６７ ＭＳＲＢ-０１１６

２－２エムケーフープの化学成分（％）

種類の記号	Ｃ	Ｓｉ	Ｍｎ	Ｐ	Ｓ	炭素当量
ＭＫ７８５	０.４０ 以下	０.３５ 以下	１.４０ 以下	０.０３５ 以下	０.０３ 以下	０.６５ 以下

２－３エムケーフープの形状・寸法、質量およびその許容差

呼び名	公称直径 (mm)	公称周長 (cm)	公称断面積 (cm²)	単位質量 (kg/m)	質量の許容差
					（％）
ＭＤ１０	９.５３	３.０	０.７１３３	０.５６０	±６
ＭＤ１３	１２.７	４.０	１.２６７	０.９９５	±６
ＭＤ１６	１５.９	５.０	１.９８６	１.５６０	±５

※設計図本編での呼び名（記号）は、「Ｓ〇〇」と表記する。

２－４エムケーフープの機械的性質

試験片の区分	降伏点 (N/mm²)	引張強さ (N/mm²)	伸び （％）	曲げ性	
				曲げ角度	内側直径
母材	７８５以上	９３０以上	８以上	１８０°	３.０ｄ
溶接を含んだ部分			５以上	——	

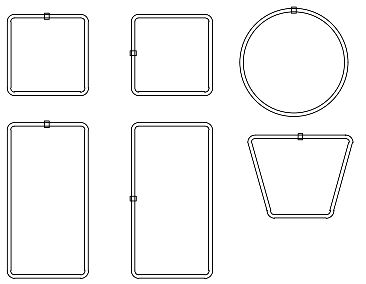
降伏点は、降伏点または０.２％耐力とする。
注）ｄは公称直径を示す

３.加工

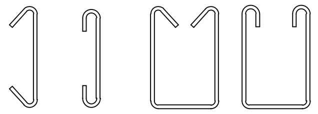
３－１加工形状

せん断補強筋ＭＫ７８５の加工形状は、溶接閉鎖形帯筋及びあばら筋、１３５°フック付き閉鎖形帯筋及びあばら筋、キャップタイ付きＵ字形あばら筋、Ｕ字形副あばら筋、Ｉ字形の副帯筋及び副あばら筋とする。

①基本加工形状（溶接閉鎖形）



［溶接閉鎖形帯筋、あばら筋］

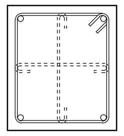


（Ｉ形）　（Ｕ形）

［フック付副帯筋、副あばら筋］

②基本加工形状（フック付き閉鎖形）

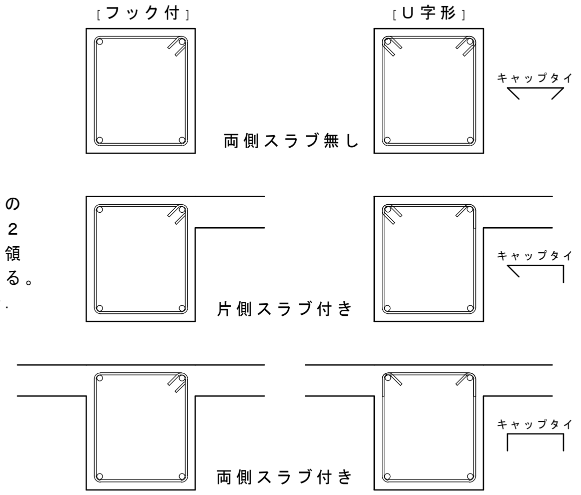
［　帯筋　］



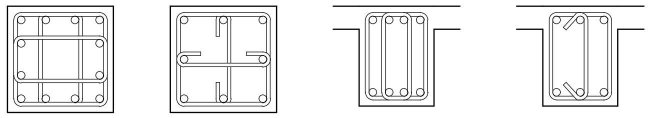
［フック付］
［副帯筋配置］

注）梁面から中央に柱の最大径の１．５倍、または最小径の２倍に、いずれか大きい方の領域において副帯筋を配筋する。
（設計施工指針・同解説６条．構造細則４項参照）

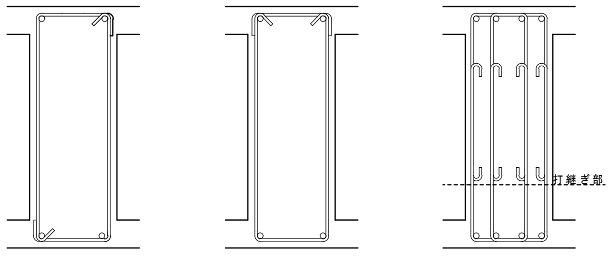
［　あばら筋　］



③中子筋の加工形状



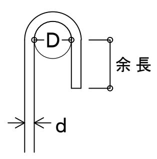
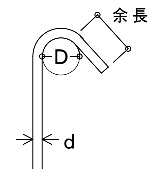
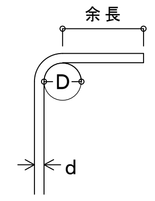
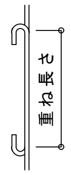
④せいの大きな梁（基礎梁）のせん断補強筋の加工形状



［Ｌ形筋］　［フック付］　［重ね継手］

３－２折曲げ部及び重ね継手の形状・寸法

せん断補強筋ＭＫ７８５の折曲げ部及び梁せいの大きな梁（基礎梁）における重ね継手の形状・寸法は、下記によるものとし、冷間加工を原則とする。

種類の記号	ＭＫ７８５			
折曲げ角度	１８０°	１３５°	９０°	１８０°
内側直径（Ｄ）	４ｄ以上	４ｄ以上	４ｄ以上	４ｄ以上
余　長	６ｄ以上	６ｄ以上	１２ｄ以上	６ｄ以上
重ね長さ	——	——	——	表Ｉによる
図				

注）ｄは 呼び名に用いた数値とする。

表Ｉ　コンクリート強度と重ね長さ寸法

コンクリート Ｆｃ(N/mm²)	Ｆｃ ＜ ３６	３６≦Ｆｃ＜４５	４５ ≦ Ｆｃ
重ね長さＬ(mm)	５０ｄ	４５ｄ	４０ｄ

３－３コンクリート強度に対応した継手の重ね長さ以上を確保し、かつ①～③を全て満たす梁に重ね継手を設けることができる。

① 基礎梁の上下にスラブが取り付く場合かつ梁せい１．５m以上
（ただし、基礎梁の片側（上または下）にスラブが取り付く場合は梁せい２．０m以上）

② 曲げ降伏しないことが確認された基礎梁

③ せん断補強筋のかぶり厚さ５０mm以上

４.その他

４－１加工は下記のメーカーによる溶接加工とする。

（ＭＫ７８５によるＡ級継ぎ手認定企業）

- （株）青山商事
- （株）小財昭和スチール
- 藤工業（株）
- （株）ワイビーテクノ
- コーリョー建販（株）
- 近藤鋼材（株）
- 北興昭和（株）
- （株）小財スチール
- 昭和産業（株）
- 宮城昭和産業（株）

４－２溶接

エムケーフープは現場溶接を行ってはならない。

４－３保管

エムケーフープは直接地面に接するように置かない。

４－４清掃

エムケーフープは組み立てに先立ち、コンクリートの付着を妨害する汚れ、塵や土の付着が無いことを確認し、汚れが認められる場合は取り除くこと。

梁貫通孔補強材

ダイヤレンＮＳ設計・施工標準仕様書（参考図）

ＢＣＪ評定－ＲＣ０１２４－０８、ＢＣＪ評定－ＳＳ００５６－０２

コーリョー建販株式会社
2025.11.14作成

１．一般事項

（１）本仕様書は、ダイヤレンＮＳの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

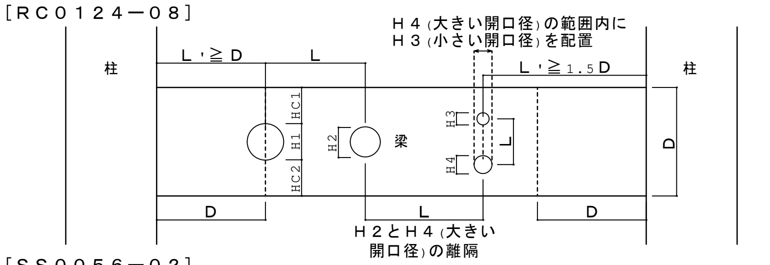
（２）本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイヤレンＮＳ技術マニュアル、及びダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口の補強技術マニュアルによる。

２．使用材料・貫通孔の適用範囲

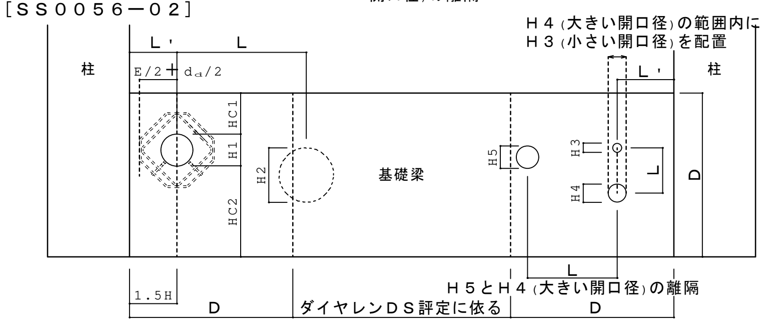
（１）各評定の適用範囲

	ダイヤレンＮＳ	ダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口補強
評定番号	ＢＣＪ評定－［ＲＣ０１２４－０８］	ＢＣＪ評定－［ＳＳ００５６－０２］
対象とする部材	鉄筋コンクリート造及び 鉄骨鉄筋コンクリート造の梁	有効な柱梁接合部に取り付く 非降伏の基礎梁及び地下階の梁 ※1
コンクリート	Ｆｃ＝２１～１００N/mm²	
鉄筋	主筋：基準強度２９５～４９０N/mm²のＪＩＳ鉄筋、４９０を超え６８５N/mm²以下の大臣認定品 あばら筋：基準強度２９５～４９０N/mm²のＪＩＳ鉄筋、４９０を超え１,２７５N/mm²以下の大臣認定品 ダイヤレンＮＳ：ＫＳＳ７８５－Ｋ（ＭＳＲＢ－０００４）、ＭＫ７８５（ＭＳＲＢ－００６７）	
梁せい（Ｄ）	――	Ｄ≧７５０mm
開口形状	円形または多角形とする（多角形の場合はその外接円を開口とみなす）	
開口径（外径）（Ｈ）	Ｈ≦７５０mm　かつ　Ｈ≦Ｄ/３	Ｈ＜３５０mm　かつ　Ｈ≦Ｄ/５
上下に複数開口を設ける場合の合計径（ΣＨ）	ΣＨ≦Ｄ/３	ΣＨ≦Ｄ/３.７５
柱際から開口中心までの距離（Ｌ’）	Ｌ’≧Ｄ 上下に複数開口を設ける場合はＬ'≧１.５Ｄ	Ｌ'＜Ｄ　かつ　Ｌ'≧１.５Ｈ　かつ Ｌ'≧Ｅ/２＋ｄ_a/２
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離（Ｌ）	隣接する開口径の平均値の３倍以上 （隣接する開口が縦並び開口の場合、縦並び開口の一番大きい径との平均値の３倍以上とする）	
へりあき（ＨＣ１、ＨＣ２）	ＨＣ１、ＨＣ２≧製品サイズによる最小寸法（下式） $(E-H)/2+d_a/2+d_w+t_c$ Ｅ　：ダイヤレンＮＳのＥ寸法 d_a：ダイヤレンＮＳの鉄筋の呼び径 d_w：あばら筋の呼び径 t_c：コンクリートのかぶり厚さ（４０mm以上）	ＨＣ１、ＨＣ２≧製品サイズによる最小寸法 かつ　ＨＣ１、ＨＣ２≧Ｄ/４ ※2 ※２γ≧０.６かつｐｔ≦１.０％を満足する場合、 ・Ｄ/４＞４００mmのとき、ＨＣ≧４００mm ・Ｈ≦Ｄ/１０かつＨ＜１５０mmのとき、ＨＣ≧２５０mm γ：複筋比　ｐｔ：引張鉄筋比

［ＲＣ０１２４－０８］



［ＳＳ００５６－０２］



※１ダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口補強［ＢＣＪ評定－ＳＳ００５６－０２］の対象とする部材

①及び②に適合する基礎梁を対象とする。なお、本評定［ＢＣＪ評定－ＳＳ００５６－０２］は基礎梁を対象としているが、構造計算上地下部分として扱う地下階の鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の梁に適用することができる。

①非降伏の鉄筋コンクリート造の基礎梁
非降伏の基礎梁とは、大地震時に設計上曲げ降伏せず、かつ、せん断破壊しない基礎梁をいう。

②有効な柱梁接合部に取り付く基礎梁

- ●鉄筋コンクリート造の柱梁接合部に取り付く基礎梁を対象とする。壁式鉄筋コンクリート造の場合は、壁柱と基礎梁の接合部を鉄筋コンクリート造の柱梁接合部とみなす。
- ●鉄骨造建築物の基礎梁は、告示※3に従って設計された柱脚（露出形式・根巻き形式・埋込み形式）または評定等を取得した柱脚工法の基礎柱型　に取り付くものを対象とする。
- ●木造建築物の基礎梁は、鉄筋コンクリート造の柱梁接合部または基礎柱型※4に取り付くものを対象とし、小規模木造の基礎梁（木造住宅等の布基礎及びべた基礎等の基礎梁）は対象外とする。

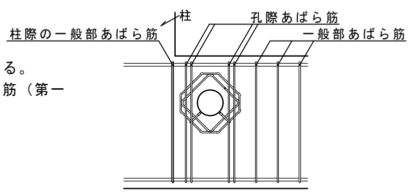
※３平成１２年建設省告示第１４５６号

※４基礎柱型の配筋は、評定等を取得した工法を用いる場合はその規定に従うとともに、主筋及び帯筋が配筋されたものとする。

３．仕様規定

（１）ダイヤレンＮＳの使用枚数は、開口１ヵ所当たり２枚以上とする。

（２）柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも１組の一般部あばら筋（第一あばら筋）を配筋する。［ＳＳ００５６－０２］

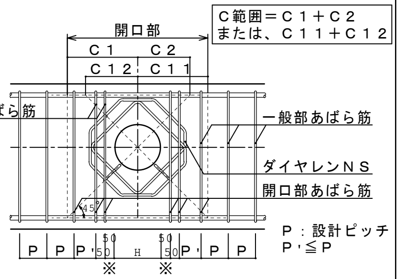


４．開口部あばら筋の配筋要領

（１）開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。

（２）孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。［ＳＳ００５６－０２］

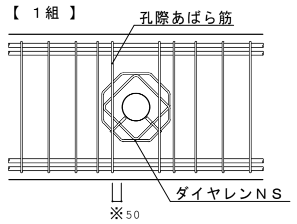
（３）孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。



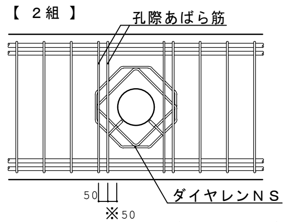
【開口に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】

開口径	一般部あばら筋比（p_w）	
	１％未満	１％以上
Ｈ＜１５０	１組	２組
１５０≦Ｈ＜３００	２組	３組
３００≦Ｈ	３組	３組

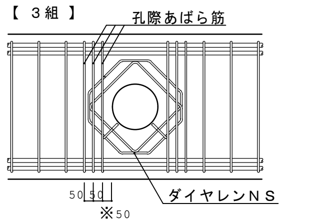
【 １組 】



【 ２組 】



【 ３組 】



※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は５０mmとする。

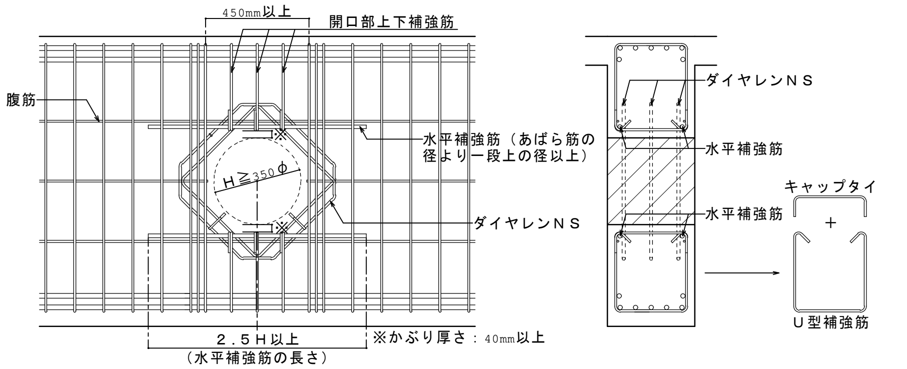
５．開口部上下補強要領（３５０φ以上の場合）

（１）開口の左右に配筋する１組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの１/２以上または４５０mm以上（開口径で３５０mm以上）になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
ただし、水平力による応力を負担しない梁（小梁等）の場合は梁せいの１/２は考慮しなくともよい。

（２）開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。
（丸鋼及びインデントは不可）

（３）形状にはコ型・Ｕ型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅－２×かぶり厚さ」または３５ｄ以上とし、水平補強筋側（梁内側）の重ね長さは１２ｄ以上とする。ただし、梁幅が４００mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが２５ｄ（ｄは鉄筋の呼び径）以下の場合は、Ｕ型またはΠ型の形状で補強を行う。

（４）水平補強筋は、一般部あばら筋より１段上の径以上とし（ＳＤ２９５Ａ程度）、開口径の２.５倍以上の長さとする。



【開口上下部分の補強要領（Ｕ型補強筋で補強する場合の例）】

６．施工要領例

（１）型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。

（２）補強設計上必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、１組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、２組目以降はそれぞれ５０mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。

（３）孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。
（束ね配筋は、２組までは束ねることができるが、３組以上は束ねてはならない。）

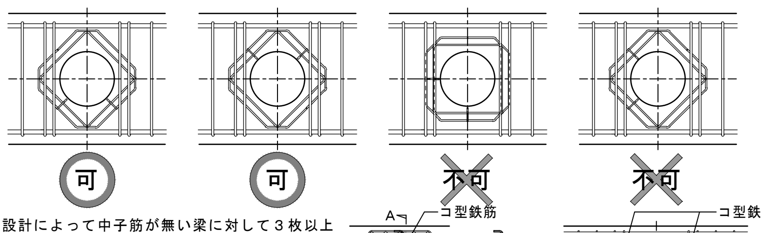
（４）ダイヤレンＮＳを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に４ヵ所以上結束する。

（５）スリーブをダイヤレンＮＳのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。

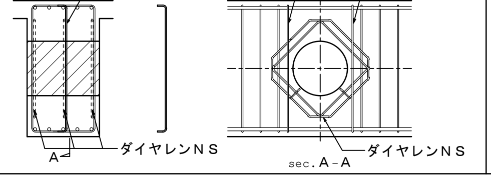
（６）開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

７．施工における注意事項

（１）ダイヤレンＮＳはあばら筋に対して斜め４５度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



（２）補強設計によって中子筋が無い梁に対して３枚以上のダイヤレンＮＳが必要になった場合は、右図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ１本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンＮＳを結束して固定する。



８．ダイヤレンＮＳ標準製品寸法表

（特記外単位：mm）

スリーブ径（対応径）	型	サイズ	寸法 A	寸法 B	寸法 C	寸法 D	寸法 E	寸法 F	形状	重量（kgf/枚）	Ho
100φ（H≦115）	Ⅰ	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	Ⅱ	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	Ⅲ	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	Ⅳ	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	Ⅴ	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	Ⅴ-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ（H≦141）	Ⅰ	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	Ⅱ	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	Ⅲ	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	Ⅳ	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	Ⅴ	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	Ⅴ-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ（H≦166）	Ⅰ	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	Ⅱ	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	Ⅲ	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	Ⅳ	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	Ⅴ	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	Ⅴ-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ（H≦191）	Ⅰ	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	Ⅱ	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	Ⅲ	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	Ⅳ	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	Ⅴ	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	Ⅴ-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ（H≦216）	Ⅰ	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	Ⅱ	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	Ⅲ	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	Ⅳ	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	Ⅴ	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	Ⅴ-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ（H≦270）	Ⅰ	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	Ⅱ	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	Ⅲ	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	Ⅳ	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	Ⅴ	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	Ⅴ-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ（H≦320）	Ⅰ	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	Ⅱ	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	Ⅲ	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	Ⅳ	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	Ⅴ	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	Ⅴ-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ（H≦370）	Ⅰ	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	Ⅱ	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	Ⅲ	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	Ⅳ	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	Ⅴ	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	Ⅴ-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ（H≦420）	Ⅰ	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	Ⅱ	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	Ⅲ	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	Ⅳ	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
	Ⅳ-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519
450φ（H≦470）	Ⅰ	8	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456
	Ⅱ	10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
	Ⅲ	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
	Ⅳ	16	580	420	226	80	820	55	②	7.94	474
	Ⅳ-3R	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554
500φ（H≦520）	Ⅱ	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492
	Ⅲ	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
	Ⅳ	16	630	470	226	80	890	55	②	8.56	509
	Ⅳ-3R	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589
550φ（H≦570）	Ⅱ	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	Ⅲ	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
	Ⅳ	16	680	520	226	80	961	55	②	9.18	545
	Ⅳ-3R	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625
600φ（H≦630）	Ⅱ	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	Ⅲ	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	Ⅳ	16	750	590	226	80	1060	60	②	10.07	594
	Ⅳ-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674
650φ（H≦680）	Ⅱ	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	Ⅲ	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
	Ⅳ	16	800	640	226	80	1131	60	②	10.69	630
	Ⅳ-3R	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.17	710
700φ（H≦730）	Ⅱ	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	Ⅲ	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649
	Ⅳ	16	850	690	226	80	1202	60	②	11.32	665
	Ⅳ-3R	16	850	756	292	80	1362	60	④	18.11	745
750φ（H≦750）	Ⅱ	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676
	Ⅲ	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685
	Ⅳ	16	900	740	226	80	1272	60	②	11.94	700
	Ⅳ-3R	16	900	806	292	80	1432	60	④	19.05	780

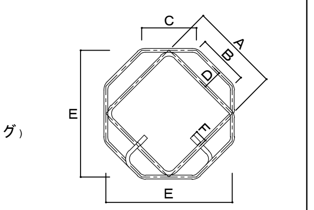
※対応径は、スリーブ面とダイヤレンＮＳ内リング筋の内側面までのかぶり厚さを４０mmとした場合の開口外径

※表中Ｈｏは、かぶり厚さ４０mm、あばら筋１６mmとした場合の梁上下端から端から開口芯までの距離

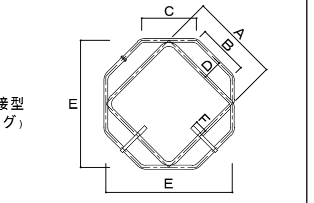
※寸法は、鉄筋の芯－芯間とする

【ダイヤレンＮＳ　標準形状】

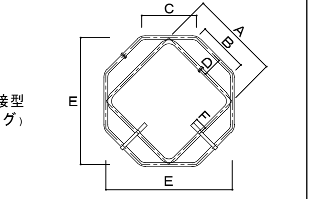
①一筆型
（２重リング）



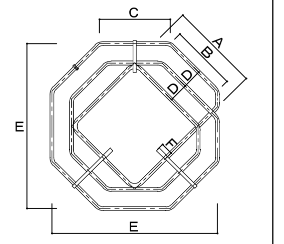
②１箇所溶接型
（２重リング）



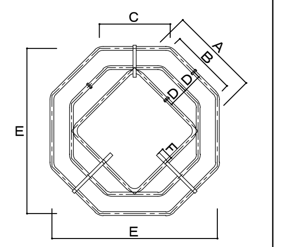
③２ヵ所溶接型
（２重リング）



④１ヵ所溶接型
（３重リング）

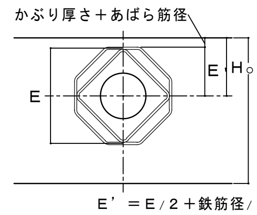


⑤３ヵ所溶接型
（３重リング）



【へりあきの最小寸法】

ダイヤレンＮＳを使用した場合の梁上下端から開口芯までの距離（Ｈｏ）を左表に示す。
（かぶり厚さ４０mm、あばら筋径を１６mmと仮定した数値）



Ｅ’＝Ｅ/２＋鉄筋径/２
Ｈｏ＝かぶり厚さ＋あばら筋径＋Ｅ’

【型式の表記について】

Ｖ-３Ｒ ⇒ Ｖ（型式）-３Ｒ（リング形状※）

※リング形状は「２Ｒ（２重リング）」と「３Ｒ（３重リング）」（上記の形状①～⑤）があり、３Ｒの表記以外は２Ｒとする。

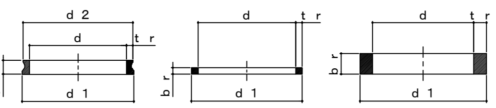
鉄骨梁貫通孔補強工法　ＯＳリング®工法設計施工標準図（参考図）

(一財)日本建築センターによる一般評定　「ＢＣＪ評定-ＳＴ０１３５-１４」（2025年01月17日付）

岡部株式会社
TEL:03(3624)6201
2025年09月作成

１.形状寸法及び鋼種

標準貫通孔径(do)	適用貫通孔径(dw)[*1]	品名	形状	寸法(mm) d	d1	d2	br	tr	s[*4]
φ100	φ75〜100	100SS	B	102	122	ー	10	10	5(6)
		100S	A	100	122	120	20	11	5(6)
		100L		100	144	140	33	22	9
φ125	φ101〜125	125SS	B	127	151	ー	12	12	5(6)
		125S	A	125	151	149	24	13	5(6)
		125L		125	177	171	39	26	9
φ150	φ126〜150	150SS	B	152	178	ー	13	13	5(6)
		150S	A	150	178	176	27	14	5(6)
		150L		150	208	202	44	29	9
φ175	φ151〜175	175SS	B	177	205	ー	14	14	6
		175S	A	175	207	203	30	16	6
		175L		175	241	233	50	33	9
φ200	φ176〜200	200SS	B	202	232	ー	15	15	6
		200S	A	200	234	230	32	17	6
		200L		200	270	262	53	35	9
φ250	φ201〜250	250SS	B	252	288	ー	18	18	6
		250S	A	250	290	286	39	20	6
		250L		250	332	322	63	41	9
φ300	φ251〜300	300SS	B	302	342	ー	20	20	7
		300S	A	300	346	340	43	23	7
		300L	B	300	374	ー	70	37	12
		300L[*2]	C	313[*3]	391	ー	64	39	12
φ350	φ301〜350	350SS	B	352	396	ー	22	22	7
		350S	A	350	400	394	47	25	7
		350L	B	350	430	ー	78	40	12
		350L[*2]	C	363[*3]	448	ー	73	42.5	12
φ400	φ351〜400	400S	B	400	446	ー	51	23	7
		400S[*2]	C	413[*3]	461	ー	48	24	7
		400L	B	400	490	ー	89	45	13
		400L[*2]	C	413[*3]	508	ー	84	47.5	13
φ450	φ401〜450	450S	B	450	504	ー	51	27	7
		450S[*2]	C	463[*3]	525	ー	44	31	7
		450L	B	450	552	ー	90	51	13
		450L[*2]	C	463[*3]	568	ー	88	52.5	13
φ500	φ451〜500	500S	B	500	558	ー	55	29	8
		500S[*2]	C	513[*3]	575	ー	51	31	8
φ600	φ501〜600	600S	B	600	664	ー	63	32	8
		600S[*2]	C	613[*3]	683	ー	57	35	8



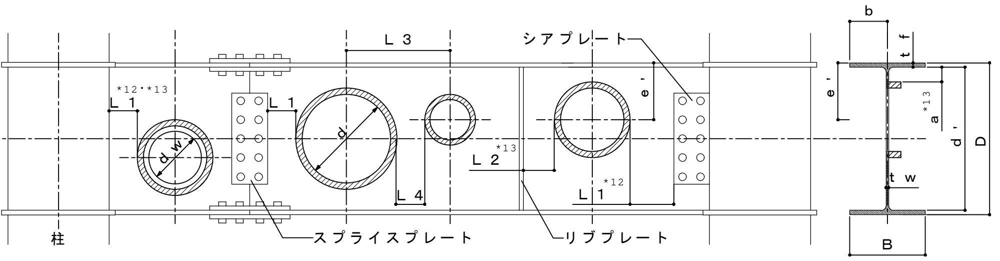
形状（Ａ）　形状（Ｂ）　形状（Ｃ）

鋼材の種類及び製造方法

形状（Ａ/Ｂ）建築基準法第３７条二号 国土交通大臣認定材
認定番号：MSTL-0561、0601(SNR490B相当)ローリング鍛造加工
形状（Ｃ）STKN490B 鋼管切断加工 または SN490B 厚板切断加工

２.設計（ＯＳリングの採用を検討の際は、「ＯＳリング工法設計ハンドブック」を必ず確認すること）

- 本工法は鉄骨造(以下Ｓ造)、または、鉄骨鉄筋コンクリート造(以下ＳＲＣ造)の鉄骨部分(以下Ｓ部分)のＨ形断面(ロールＨまたはビルドＨ)の鉄骨梁に適用する。
- 貫通孔無しで構造設計を行った結果から得られる貫通孔位置の存在応力に対して、ＯＳリング工法を用いた貫通孔部分の耐力が上回る事を確認する必要があるので、ＯＳリングの使用の決定は構造設計者により行う。



記号の説明（アルファベット順）

A　：無孔梁断面積
Aw：無孔梁ウェブ断面積（d×tw）
b　：フランジ半幅（＝Ｂ/２）
De：De＝D（D＞1,200の場合はDe＝1,200）
d　：ＯＳリング内径
dw：鉄骨貫通孔径
d'　：D－2・tf
d''：D－2・tf－2・r（ビルドHの場合は、D－2・tf）
$_{SRC}$D：ＳＲＣ梁せい
e'　：鉄骨天端から貫通孔中心までの距離
E　：梁のヤング係数
F　：梁の許容応力度の基準強度
L　：スパン
N　：作用軸力
Ny：無孔梁降伏軸力（＝A・F）
r　：ロールＨ形鋼のフィレットまたはビルドＨ形鋼の溶接サイズ
S　：ＯＳリングのすみ肉溶接サイズ
tr：ＯＳリング肉厚
tf：フランジ厚

● 梁の適用範囲

Ｈ形断面形状

梁せい（D）	梁幅[*5]（B）	ウェブ厚[*6]（tw）	フランジ厚（tf）	塑性域[*7]に適用する場合の梁幅/梁せい（D/B）	ＳＲＣ梁に適用する場合のＳ部分の梁せい（D/$_{SRC}$D）
1,800mm以下	600mm以下	32mm以下	100mm以下	1/4以上	0.37以上

鋼種

			SS400、SM400 SN400[*9]	SM490、SN490 F=325の認定材[*8]	SM520 F=355の認定材[*8]	F=385または F=440の認定材[*8]
Ｓ造	作用軸力	N/Ny≦0.05	○	○	○	○
		0.05＜N/Ny≦0.25	○	○	／	／
ＳＲＣ造の鉄骨部分			○	○	○	／

幅厚比

			フランジ（b/tf）	ウェブ（d'/tw、N/Ny≦0.25で弾性域はd''/tw）
Ｓ造	作用軸力	軸力無し	／	$96\sqrt{235/F}$以下
		N/Ny≦0.25　塑性域[*7]	$0.23\sqrt{E/F}$以下	$2.4\sqrt{E/F}-0.9\sqrt{E/F}\cdot A/Aw\cdot N/Ny$以下
		N/Ny≦0.25　弾性域	$0.53\sqrt{E/F}$以下	$2.4\sqrt{E/F}-0.8\sqrt{E/F}\cdot A/Aw\cdot N/Ny$以下
ＳＲＣ造の鉄骨部分	梁鋼種235N/mm²級		23以下	96以下
	梁鋼種325N/mm²級		20以下	81以下
	梁鋼種355N/mm²級		19以下	78以下

部材種別

FA･FB･FC･FD[*9]

ＯＳリングと梁の組み合わせ

ＯＳリング	大梁	小梁	片持梁
ＳＳタイプ	×	○	○
Ｓタイプ	○	○	○
Ｌタイプ	○	○	○

ＳＳタイプで補強する場合の適用スパン（L/D）

貫通孔径/梁せい	小梁	片持梁
1/2＜dw/D≦2/3	10.0以上	5.0以上
1/4＜dw/D≦1/2	6.4以上	3.2以上
1/6＜dw/D≦1/4	2.0以上	1.0以上

● 貫通孔およびＯＳリングの適用範囲

貫通孔径/梁せい（dw/D）

Ｓ造	作用軸力	N/Ny≦0.05	2/3以下(F＞385は、1/2以下)
		0.05＜N/Ny≦0.25	1/2以下
ＳＲＣ造の鉄骨部分			2/3以下

梁長さ方向の連続孔中心間距離（L3）・（L4）

平均径の1.5倍以上、かつ、ＯＳリング同士のあき（L4）は70mm以上
dw/Dが1/2以上の貫通孔を最小連続孔中心間距離で連続して設ける場合は,下記適用スパン（L/D）を満足すること

ＯＳリング補強仕様[*14]	両孔のdw/Dが1/2の場合	どちらかの孔のdw/Dが1/2越えの場合
Ｓ片面/両面、Ｌ片面	6.0以上	6.0以上
Ｌ両面	4.0以上	6.0以上

鉄骨天端から貫通孔中心までの距離（e'）

1/2×D－(1/3×De－1/2×dw)≦e'≦1/2×D＋(1/3×De－1/2×dw)
【F＞385は、1/2×D－(1/4×De－1/2×dw)≦e'≦1/2×D＋(1/4×De－1/2×dw)】
かつ、tf＋a＋tr＋1/2×dw ≦e'≦ D－(tf＋a＋tr＋1/2×dw)
a[*13]は梁フランジ内面からＯＳリング外縁までの最小あきである。

600mm＜B	a＝max(70mm、r+1.8S)
400mm＜B≦600mm	a＝max(40mm、r+1.8S)
150mm＜B≦400mm	a＝max(30mm、r+1.8S)
B≦150mm[*10]	a＝max(24mm、r+1.8S)

各部材とＯＳリング外縁とのあき

柱面、ｳｪﾌﾞｽﾌﾟﾗｲｽﾌﾟﾚｰﾄ、ｼｱﾌﾟﾚｰﾄ	L1	50mm以上
ﾘﾌﾞﾌﾟﾚｰﾄ、ｶﾞｾｯﾄﾌﾟﾚｰﾄ	L2	30mm以上

ＯＳリングを後付けする場合は、梁フランジ内面からＯＳリング外縁までの最小あき（a）の考え方に準じる。[*11・*13]

軸力が作用し、塑性域[*7]に適用する場合の適用スパン（L/D）

ＯＳリング補強仕様[*14]	作用軸力（0.05＜N/Ny≦0.25） 貫通孔径/梁せい（dw/D） 0.36以下	0.36超え0.50以下
Ｓ片面/両面	6.0以上	6.0以上
Ｌ片面	4.0以上	6.0以上
Ｌ両面	4.0以上	4.0以上

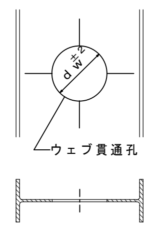
ＳＲＣ梁の鉄骨部分に用いる場合のＲＣ部分について

- ＲＣ梁貫通孔補強部分は、評定審査対象外で有り、別途検討を行う必要がある。
- 本工法を適用できるＳＲＣ梁は、(一財)日本建築ｾﾝﾀｰなど第三者機関による評価(評定等)を取得したＲＣ梁貫通孔補強工法で、ＳＲＣ梁に適用することが認められたもの、または、ＳＲＣ構造計算規準等の日本建築学会の規準や指針に基づいてＲＣ梁貫通孔補強部分の計算を行ったものに限る。
- 組み合わせるＲＣ梁貫通孔補強工法の適用範囲を遵守する必要がある。

３.施工（鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者による施工管理のもと、溶接施工を行うこと。ＯＳリングを溶接施工する際は、納品時に付属している「ＯＳリング溶接施工マニュアル」を必ず確認すること）

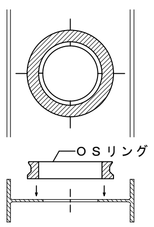
■施工手順

（１）けがき・孔あけ



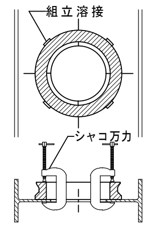
梁ウェブに貫通孔径（dw）をけがく。
梁ウェブに円形貫通孔をあける。
貫通孔径の管理許容差は±２mmとする。
貫通孔まわりの切断バリはグラインダー等で除去する。

（２）位置決め



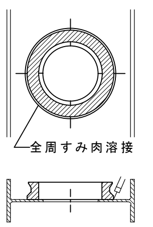
ＯＳリングと貫通孔の中心が合うように位置決めをする。
刻印面を上に向ける。
(刻印が無いものはどちらでも可)
ＯＳリング中心と貫通孔中心ずれは２mm以下とする。

（３）組立溶接



シャコ万力等によりウェブ面に密着させ、ＯＳリング外周に組立溶接を行う。組立溶接は等間隔に３〜４箇所、１箇所の長さは４０mm以上とし、ショートビードにならないようにする。

（４）本溶接



シャコ万力等を外し、本溶接を行う。ＯＳリングの溶接部とＨ形鋼のフィレット部またはビルドＨ形鋼のフランジとウェブの溶接部が重ならないように十分注意する。

（注）ＯＳリングの重量は、５００Ｓ・３００Ｌが約２３kg、６００Ｓ・３５０Ｌが３３kg、４００Ｌが約４７kg、４５０Ｌが約６１kgと重量物のため、移動の際はクレーンを用いる等、取扱には十分に注意する。

■溶接方法

溶接はＯＳリング外周の全周すみ肉溶接とし、溶接姿勢は水平すみ溶接とする。必ず鉄骨ウェブ面を上面に向け、溶接条件（溶接姿勢・溶接環境等）を確保する。

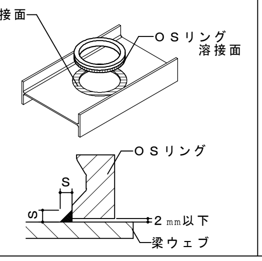
■溶接材料

下記の表に示す規格を満たし、かつ、４９０N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	種類
被覆アーク溶接	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒(JIS Z 3211)
ガスシールドアーク溶接	軟鋼、高張力鋼、低温用鋼用マグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ(JIS Z 3312)
	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ(JIS Z 3313)

■溶接面の清掃

ＯＳリング及び梁ウェブ溶接面は溶接に先立ち、水分･スラグ･ごみ･さび･油･塗料･はがれやすいスケール、及びその他溶接に支障となるものは、あらかじめ適切な方法で除去する。



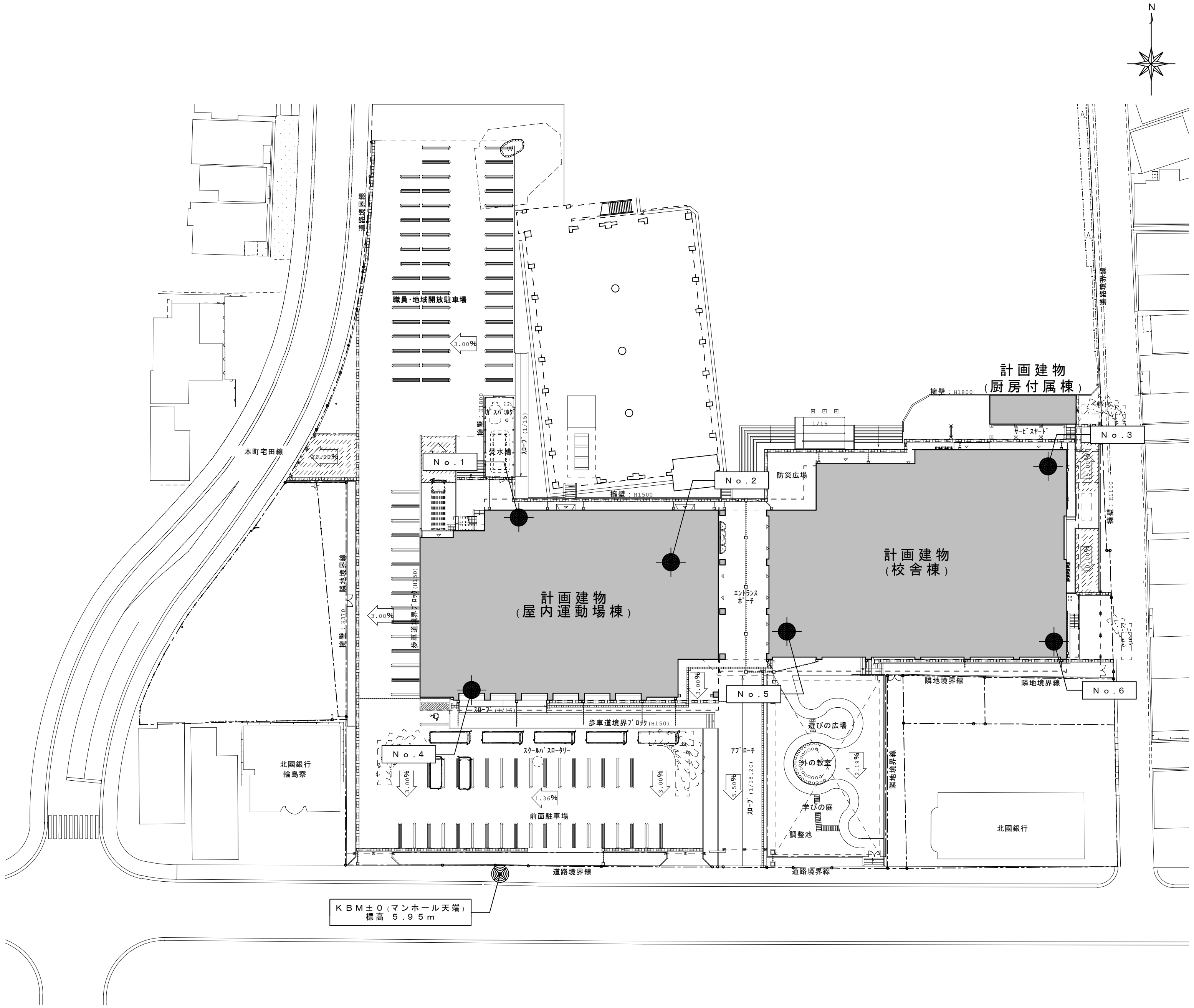
■検査

本溶接のすみ肉溶接サイズは、ＯＳリングに規定する必要すみ肉溶接サイズ（Ｓ）以上とすること。また、ＯＳリングと梁ウェブすき間は２mm以下とする。
その他、外観・表面欠陥検査の合否判定は、「日本建築学会：鉄骨精度検査基準」による。
不合格となった箇所は適切な処置を行う。

[*1] 原則、梁ウェブ貫通孔径は標準貫通孔径とする。ただし、適用貫通孔径（dw）の範囲内で小さくすることができる。
[*2] 形状（Ｃ）において梁ウェブ貫通孔径をＯＳリング内径（d）まで拡げたい場合は、必ず事前に岡部（株）に問い合わせること。
[*3] 形状（Ｃ）は製造上、最大１１mm小さくなる事があるので納まりに注意すること。
[*4] 括弧内の数値は、梁鋼種がＳＡ４４０の場合のすみ肉溶接サイズを示す。
[*5] Ｄ≧７５０mm、かつ、Ｂ＜０.９×Ｄの関係を満たせば、Ｂ≦１,０００mm。
[*6] 鋼種がＳＳ材、ＳＭ材またはＳＮ４００Ａの場合はｔｗ≦２５mm以下とする。
[*7] 塑性化が予想される領域（梁の材端から梁長さ×１/１０、または、梁せいの２倍のうち大きい方の範囲、もしくは、長期荷重を考慮した上で地震力などによって塑性化が予想が予想される範囲
[*8] 適用可能鋼材リストは、設計ハンドブックの４・５ページを参照すること。
[*9] ＦＣ･ＦＤまたは、鋼種がＳＮ４００Ａの場合は塑性域に適用不可とする。
[*10] すみ肉溶接サイズが６mm以下の仕様に限る。
[*11] 仮設金物等も含む。狭小部において障害物の高さによりあき寸法を確保する。
[*12] 梁端部近くは応力が大きく、設置不可となる場合があるので注意する。
[*13] ＯＳリングの溶接部は、Ｈ形鋼のフィレットや他の溶接部と重ねてはならない。
[*14] 両面取付の場合は同仕様とする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	鉄骨梁貫通孔補強工法標準図	縮尺		図番	Ｓ－22

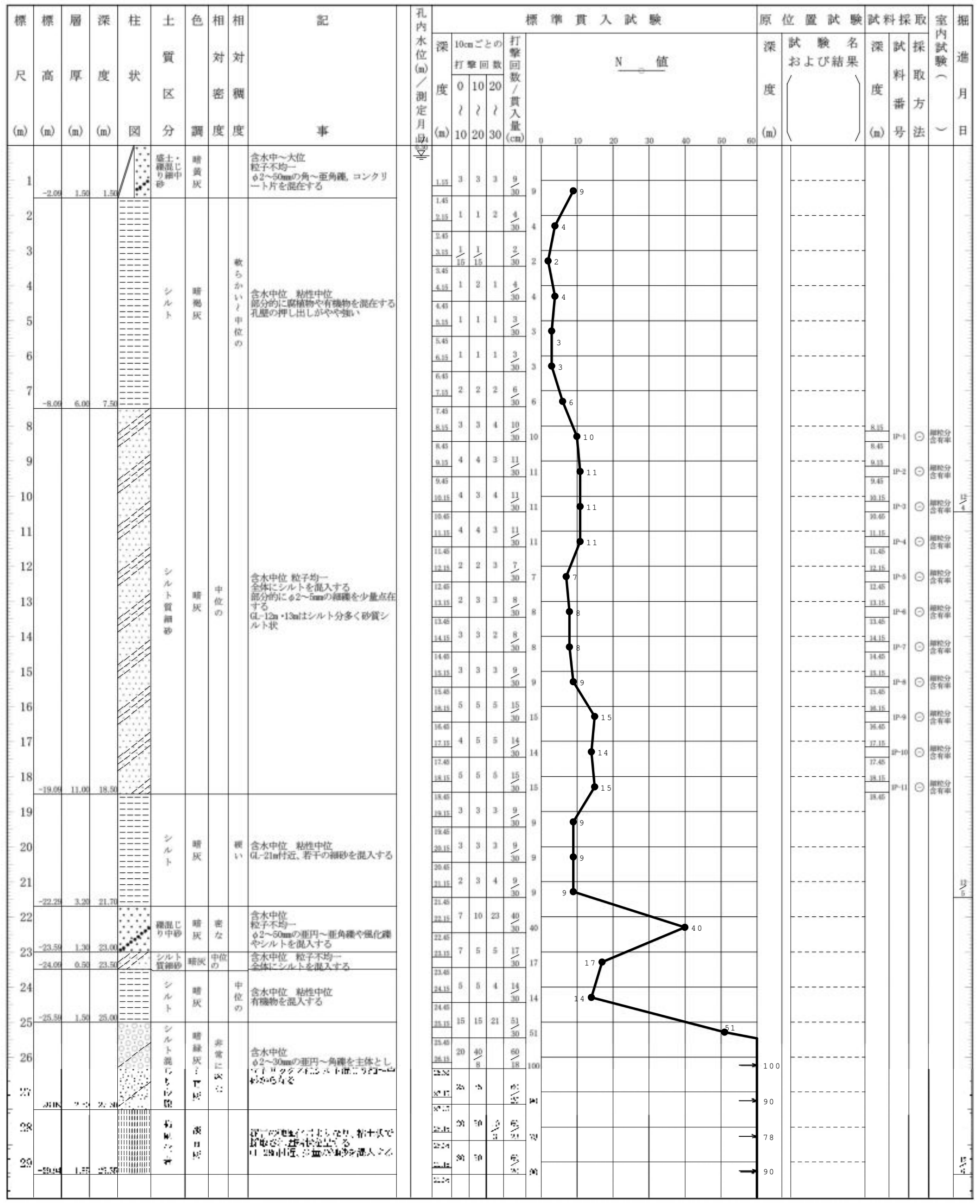


調査位置図

ボーリング柱状図 ※設計GL＝KBM＋2.50m

NO.1
孔口標高＝設計GL－3.09m
＜＝KBM －0.59m＞

ボーリング名	No.1	調査位置	石川県輪島市河井町			北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 7日		東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	吉岡昇一郎
ボーリング責任者	磯部伸介						
孔口標高	KBM -0.59m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90°
総掘進長	29.35m	使用機種	試錐機	YBM-05	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
		使用機種	エンジン	TF-90	ポンプ	GP-5	



標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-2.09	1.50	1.50	盛土・礫混じり細中砂	暗黄灰			含水中～大位 粒子不均一 φ2～50mmの角～亜角礫，コンクリート片を混在する
-8.09	6.00	7.50	シルト	暗褐灰		軟らかい～中位の	含水中位 粘性中位 部分的に腐植物や有機物を混在する 孔壁の押し出しがやや強い
-19.09	11.00	18.50	シルト質細砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 部分的にφ2～5mmの細礫を少量点在する GL-12m・13mはシルト分多く砂質シルト状
-22.29	3.20	21.70	シルト	暗灰		硬い	含水中位 粘性中位 GL-21m付近、若干の細砂を混入する
-23.59	1.30	23.00	礫混じり中砂	暗灰	密な		含水中位 粒子不均一 φ2～50mmの亜円～亜角礫や風化礫やシルトを混入する
-24.09	0.50	23.50	シルト質細砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 全体にシルトを混入する
-25.59	1.50	25.00	シルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 有機物を混入する
[illegible]	[illegible]	[illegible]	シルト混じり砂礫	暗緑灰～[illegible]	非常に密な		含水中位 φ2～30mmの亜円～角礫を主体とし [illegible]
-29.94	1.55	29.35	[illegible]	[illegible]			[illegible]

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数/貫入量 (cm)	N値	試料深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45	3	3	3	9/30	9				
2.15～2.45	1	1	2	4/30	4				
3.15～3.45	1/15	1/15		2/30	2				
4.15～4.45	1	2	1	4/30	4				
5.15～5.45	1	1	1	3/30	3				
6.15～6.45	1	1	1	3/30	3				
7.15～7.45	2	2	2	6/30	6				
8.15～8.45	3	3	4	10/30	10	8.15～8.45	IP-1	⊖	細粒分含有率
9.15～9.45	4	4	3	11/30	11	9.15～9.45	IP-2	⊖	細粒分含有率
10.15～10.45	4	3	4	11/30	11	10.15～10.45	IP-3	⊖	細粒分含有率
11.15～11.45	4	4	3	11/30	11	11.15～11.45	IP-4	⊖	細粒分含有率
12.15～12.45	2	2	3	7/30	7	12.15～12.45	IP-5	⊖	細粒分含有率
13.15～13.45	2	3	3	8/30	8	13.15～13.45	IP-6	⊖	細粒分含有率
14.15～14.45	3	3	2	8/30	8	14.15～14.45	IP-7	⊖	細粒分含有率
15.15～15.45	3	3	3	9/30	9	15.15～15.45	IP-8	⊖	細粒分含有率
16.15～16.45	5	5	5	15/30	15	16.15～16.45	IP-9	⊖	細粒分含有率
17.15～17.45	4	5	5	14/30	14	17.15～17.45	IP-10	⊖	細粒分含有率
18.15～18.45	5	5	5	15/30	15	18.15～18.45	IP-11	⊖	細粒分含有率
19.15～19.45	3	3	3	9/30	9				
20.15～20.45	3	3	3	9/30	9				
21.15～21.45	2	3	4	9/30	9				
22.15～22.45	7	10	23	40/30	40				
23.15～23.45	7	5	5	17/30	17				
24.15～24.45	5	5	4	14/30	14				
25.15～25.45	15	15	21	51/30	51				
26.15～[illegible]	20	40/8		60/18	100				
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	90				
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	78				
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	90				

掘進月日：12/4，12/5，[illegible]

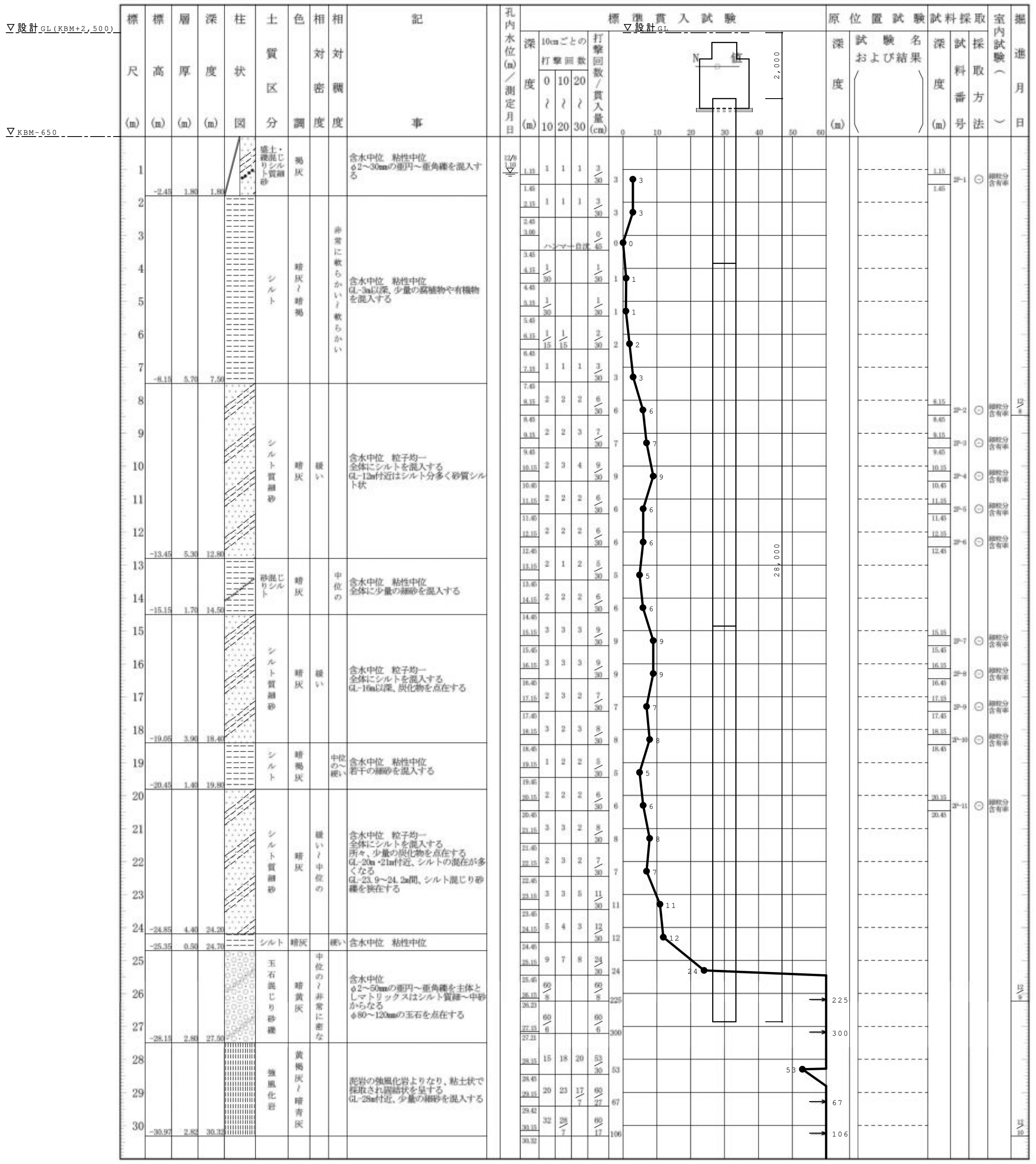
構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	標題	地質調査図（１）	縮尺	A1:1/ 500 A3:1/1,000	図番 S－23

ＮＯ．２

孔口標高＝設計ＧＬ－３．１５ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．６５ｍ＞

ボーリング名	No. 2	調査位置	石川県輪島市河井町			北　緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 8日 ～ 7年 12月 10日		東　経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	吉岡昇一郎
						ボーリング責任者	廣瀬靖彦
孔口標高	KBM -0.65m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	30.32m	使用機種	試錐機	TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	TF-90M	ポンプ	GP-3	



標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-2.45	1.80	1.80	盛土・礫混じりシルト質細砂	褐灰			含水中位　粘性中位 φ2～30mmの亜円～亜角礫を混入する
-8.15	5.70	7.50	シルト	暗灰～暗褐		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位　粘性中位 GL-3m以深、少量の腐植物や有機物を混入する
-13.45	5.30	12.80	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位　粒子均一 全体にシルトを混入する GL-12m付近はシルト分多く砂質シルト状
-15.15	1.70	14.50	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位　粘性中位 全体に少量の細砂を混入する
-19.05	3.90	18.40	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位　粒子均一 全体にシルトを混入する GL-16m以深、炭化物を点在する
-20.45	1.40	19.80	シルト	暗褐灰		中位の～硬い	含水中位　粘性中位 若干の細砂を混入する
-24.85	4.40	24.20	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位　粒子均一 全体にシルトを混入する 所々、少量の炭化物を点在する GL-20m・21m付近、シルトの混在が多くなる GL-23.9～24.2m間、シルト混じり砂礫を挟在する
-25.35	0.50	24.70	シルト	暗灰		硬い	含水中位　粘性中位
-28.15	2.80	27.50	玉石混じり砂礫	暗黄灰	中位の～非常に密な		含水中位 φ2～50mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト質細～中砂からなる φ80～120mmの玉石を点在する
-30.97	2.82	30.32	強風化岩	黄褐灰～暗青灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する GL-28m付近、少量の細砂を混入する

孔内水位（m）／測定月日：12/8　1.10

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15 1.45	1	1	1	3/30	3
2.15 2.45	1	1	1	3/30	3
3.00 3.45	ハンマー自沈			0/45	0
4.15 4.45	1/30			1/30	1
5.15 5.45	1/30			1/30	1
6.15 6.45	1/15	1/15		2/30	2
7.15 7.45	1	1	1	3/30	3
8.15 8.45	2	2	2	6/30	6
9.15 9.45	2	2	3	7/30	7
10.15 10.45	2	3	4	9/30	9
11.15 11.45	2	2	2	6/30	6
12.15 12.45	2	2	2	6/30	6
13.15 13.45	2	1	2	5/30	5
14.15 14.45	2	2	2	6/30	6
15.15 15.45	3	3	3	9/30	9
16.15 16.45	3	3	3	9/30	9
17.15 17.45	2	3	2	7/30	7
18.15 18.45	3	2	3	8/30	8
19.15 19.45	1	2	2	5/30	5
20.15 20.45	2	2	2	6/30	6
21.15 21.45	3	3	2	8/30	8
22.15 22.45	2	3	2	7/30	7
23.15 23.45	3	3	5	11/30	11
24.15 24.45	5	4	3	12/30	12
25.15 25.45	9	7	8	24/30	24
26.15 26.23	60/8			60/8	225
27.13 27.21	60/6			60/6	300
28.15 28.45	15	18	20	53/30	53
29.15 29.42	20	23	17/7	60/27	67
30.15 30.32	32	28/7		60/17	106

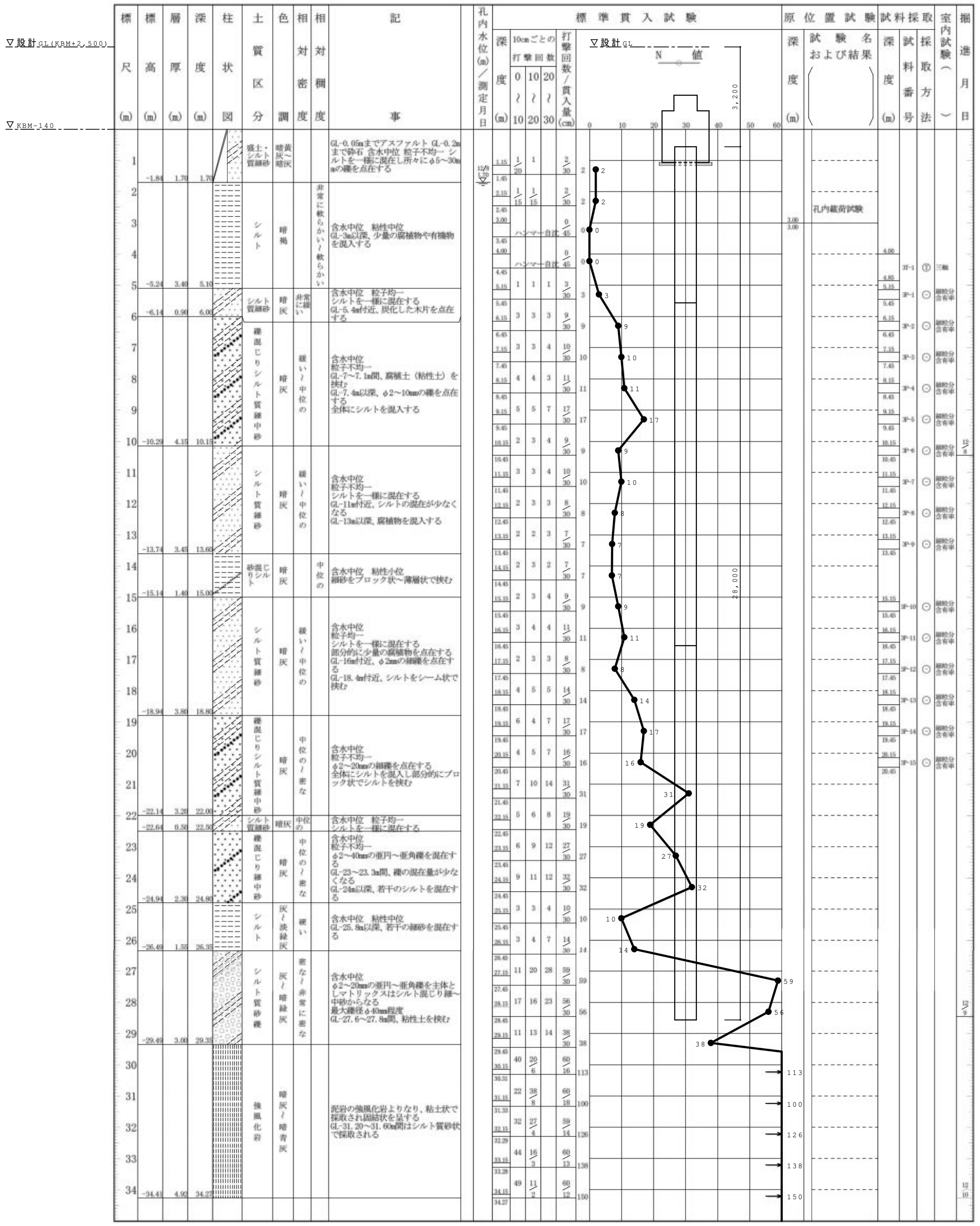
深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15 1.45	2P-1	㊀	細粒分含有率
8.15 8.45	2P-2	㊀	細粒分含有率
9.15 9.45	2P-3	㊀	細粒分含有率
10.15 10.45	2P-4	㊀	細粒分含有率
11.15 11.45	2P-5	㊀	細粒分含有率
12.15 12.45	2P-6	㊀	細粒分含有率
15.15 15.45	2P-7	㊀	細粒分含有率
16.15 16.45	2P-8	㊀	細粒分含有率
17.15 17.45	2P-9	㊀	細粒分含有率
18.15 18.45	2P-10	㊀	細粒分含有率
20.15 20.45	2P-11	㊀	細粒分含有率

掘進月日：12/8、12/9、12/10

ＮＯ．３

孔口標高＝設計ＧＬ－２．６４ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．１４ｍ＞

ボーリング名	No. 3	調査位置	石川県輪島市河井町			北　緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 8日 ～ 7年 12月 10日		東　経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	吉岡昇一郎
						ボーリング責任者	足立悦朗
孔口標高	KBM -0.14m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°
総掘進長	34.27m	使用機種	試錐機	TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置	
			エンジン	TF-90	ポンプ	BG-3	



標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.84	1.70	1.70	盛土・シルト質細砂	暗黄灰～暗灰			GL-0.05mまでアスファルト GL-0.2mまで砕石 含水中位 粒子不均一 シルトを一様に混在し所々にφ5～30mmの礫を点在する
-5.24	3.40	5.10	シルト	暗褐		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位　粘性中位 GL-3m以深、少量の腐植物や有機物を混入する
-6.14	0.90	6.00	シルト質細砂	暗灰	非常に緩い		含水中位　粒子均一 シルトを一様に混在する GL-5.4m付近、炭化した木片を点在する
-10.29	4.15	10.15	礫混じりシルト質細中砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子不均一 GL-7～7.1m間、腐植土（粘性土）を挟む GL-7.4m以深、φ2～10mmの礫を点在する 全体にシルトを混入する
-13.74	3.45	13.60	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子不均一 シルトを一様に混在する GL-11m付近、シルトの混在が少なくなる GL-13m以深、腐植物を混入する
-15.14	1.40	15.00	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位　粘性小位 細砂をブロック状～薄層状で挟む
-18.94	3.80	18.80	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子均一 シルトを一様に混在する 部分的に少量の腐植物を点在する GL-16m付近、φ2mmの細礫を点在する GL-18.4m付近、シルトをシーム状で挟む
-22.14	3.20	22.00	礫混じりシルト質細中砂	暗灰	中位の～密な		含水中位 粒子不均一 φ2～20mmの細礫を点在する 全体にシルトを混入し部分的にブロック状でシルトを挟む
-22.64	0.50	22.50	シルト質細砂	暗灰	中位の		含水中位　粒子均一 シルトを一様に混在する
-24.94	2.30	24.80	礫混じり細中砂	暗灰	中位の～密な		含水中位 粒子不均一 φ2～40mmの亜円～亜角礫を混在する GL-23～23.3m間、礫の混在量が少なくなる GL-24m以深、若干のシルトを混在する
-26.49	1.55	26.35	シルト	灰～淡緑灰		硬い	含水中位　粘性中位 GL-25.8m以深、若干の細砂を混在する
-29.49	3.00	29.35	シルト質砂礫	灰～暗緑灰	密な～非常に密な		含水中位 φ2～20mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる 最大礫径φ40mm程度 GL-27.6～27.8m間、粘性土を挟む
-34.41	4.92	34.27	強風化岩	暗灰～暗青灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する GL-31.20～31.60m間はシルト質砂状で採取される

孔内水位（m）／測定月日：12/8　1.70

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15 1.45	1/20	1		2/30	2
2.15 2.45	1/15	1/15		2/30	2
3.00 3.45	ハンマー自沈			0/45	0
4.00 4.45	ハンマー自沈			0/45	0
5.15 5.45	1	1	1	3/30	3
6.15 6.45	3	3	3	9/30	9
7.15 7.45	3	3	4	10/30	10
8.15 8.45	4	4	3	11/30	11
9.15 9.45	5	5	7	17/30	17
10.15 10.45	2	3	4	9/30	9
11.15 11.45	3	3	4	10/30	10
12.15 12.45	2	3	3	8/30	8
13.15 13.45	2	2	3	7/30	7
14.15 14.45	2	3	2	7/30	7
15.15 15.45	2	3	4	9/30	9
16.15 16.45	3	4	4	11/30	11
17.15 17.45	2	3	3	8/30	8
18.15 18.45	4	5	5	14/30	14
19.15 19.45	6	4	7	17/30	17
20.15 20.45	4	5	7	16/30	16
21.15 21.45	7	10	14	31/30	31
22.15 22.45	5	6	8	19/30	19
23.15 23.45	6	9	12	27/30	27
24.15 24.45	9	11	12	32/30	32
25.15 25.45	3	3	4	10/30	10
26.15 26.45	3	4	7	14/30	14
27.15 27.45	11	20	28	59/30	59
28.15 28.45	17	16	23	56/30	56
29.15 29.45	11	13	14	38/30	38
30.15 30.32	40	20/6		60/16	113
31.15 31.33	22	38/8		60/18	100
32.15 32.29	32	27/4		59/14	126
33.15 33.28	44	16/3		60/13	138
34.15 34.27	49	11/2		60/12	150

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
3.00 3.00	孔内載荷試験

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
4.00 4.85	3T-1	①	三軸
5.15 5.45	3P-1	㊀	細粒分含有率
6.15 6.45	3P-2	㊀	細粒分含有率
7.15 7.45	3P-3	㊀	細粒分含有率
8.15 8.45	3P-4	㊀	細粒分含有率
9.15 9.45	3P-5	㊀	細粒分含有率
10.15 10.45	3P-6	㊀	細粒分含有率
11.15 11.45	3P-7	㊀	細粒分含有率
12.15 12.45	3P-8	㊀	細粒分含有率
13.15 13.45	3P-9	㊀	細粒分含有率
15.15 15.45	3P-10	㊀	細粒分含有率
16.15 16.45	3P-11	㊀	細粒分含有率
17.15 17.45	3P-12	㊀	細粒分含有率
18.15 18.45	3P-13	㊀	細粒分含有率
19.15 19.45	3P-14	㊀	細粒分含有率
20.15 20.45	3P-15	㊀	細粒分含有率

掘進月日：12/8、12/9、12/10

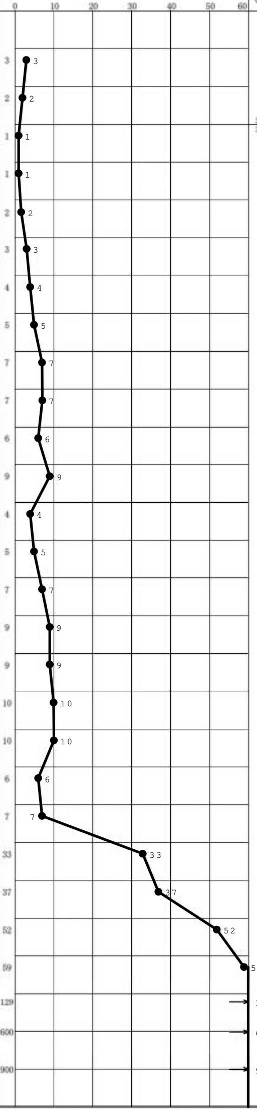
ＮＯ．４
孔口標高＝設計ＧＬ－２．９４ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．４４ｍ＞

ボーリング名	No.4	**調査位置**	石川県輪島市河井町			**北　緯**	
発注機関	株式会社浦建築研究所		**調査期間**	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 7日		**東　経**	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	**主任技師**	**現場代理人**		**コア鑑定者** 吉岡昇一郎	**ボーリング責任者**	廣瀬靖彦
孔口標高	KBM -0.44m	**角度** 180° 上 90° 下 0° 0°	**方向** 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配** 水平0° 鉛直90° 0°	**使用機種** 試錐機 TOHO DO-D	**ハンマー落下用具**	半自動落下装置
総掘進長	28.02m				エンジン TF-90M	**ポンプ**	GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-1.04	0.60	0.60	盛土・礫混じりシルト	褐灰			含水中位 粘性中位 細中砂，コンクリート片，栗石，玉石，木片を混入する GL-26.8m以深、逸水性がある
	-7.84	6.80	7.40	シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位 粘性中位 GL-5m以深、少量の腐植物や有機物を混在する GL-6.1m付近、細中砂を挟在する
	-13.34	5.50	12.90	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 部分的に炭化物を点在する
	-15.24	1.90	14.80	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に少量の細砂を混入する GL-13m付近、少量の腐植物を点在する
	-19.84	4.60	19.40	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入し部分的に少量の腐植物を混在する GL-17m付近はシルト分多く砂質シルト状 所々、φ2～5mmの細礫を点在する
	-22.44	2.60	22.00	砂質シルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に細砂を混入し部分的に混在量が増減する
	-25.84	3.40	25.40	シルト混じり砂礫	暗灰	密な～非常に密な		含水中位 φ2～40mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる GL-23m付近、礫の混在が少なくなる
	-28.46	2.62	28.02	玉石混じり砂礫	暗灰	非常に密な		含水中位 φ2～70mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスは細～粗砂からなる φ80～120mmの玉石を点在する

孔内水位(m)／測定月日：12/4　1.35

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15 1.45	1	1	1	3/30	3
2.15 2.45	1/15	1/15		2/30	2
3.15 3.45	1/30			1/30	1
4.15 4.45	1/30			1/30	1
5.15 5.50	1/20	1/15		2/35	2
6.15 6.45	1	1	1	3/30	3
7.15 7.45	1	1	2	4/30	4
8.15 8.45	1	2	2	5/30	5
9.15 9.45	2	2	3	7/30	7
10.15 10.45	2	2	3	7/30	7
11.15 11.45	2	2	2	6/30	6
12.15 12.45	2	3	4	9/30	9
13.15 13.45	1	2	1	4/30	4
14.15 14.45	1	2	2	5/30	5
15.15 15.45	2	2	3	7/30	7
16.15 16.45	3	3	3	9/30	9
17.15 17.45	3	3	3	9/30	9
18.15 18.45	3	3	4	10/30	10
19.15 19.45	3	4	3	10/30	10
20.15 20.45	2	2	2	6/30	6
21.15 21.45	2	2	3	7/30	7
22.15 22.45	10	10	13	33/30	33
23.15 23.45	13	12	12	37/30	37
24.15 24.45	17	18	17	52/30	52
25.15 25.45	13	15	31	59/30	59
26.15 26.29	18/3	35	7/1	60/14	129
27.00 27.03	60/3			60/3	600
28.00 28.02	60/2			60/2	900



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
3.00 3.00	孔内載荷試験

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
4.00 4.85	4T-1	Ⓣ	三軸
8.15 8.45	4P-1	⊖	細粒分含有率
9.15 9.45	4P-2	⊖	細粒分含有率
10.15 10.45	4P-3	⊖	細粒分含有率
11.15 11.45	4P-4	⊖	細粒分含有率
12.15 12.45	4P-5	⊖	細粒分含有率
15.15 15.45	4P-6	⊖	細粒分含有率
16.15 16.45	4P-7	⊖	細粒分含有率
17.15 17.45	4P-8	⊖	細粒分含有率
18.15 18.45	4P-9	⊖	細粒分含有率
19.15 19.45	4P-10	⊖	細粒分含有率

掘進月日：12/4　12/5　12/6

ＮＯ．５
孔口標高＝設計ＧＬ－２．７３ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．２３ｍ＞

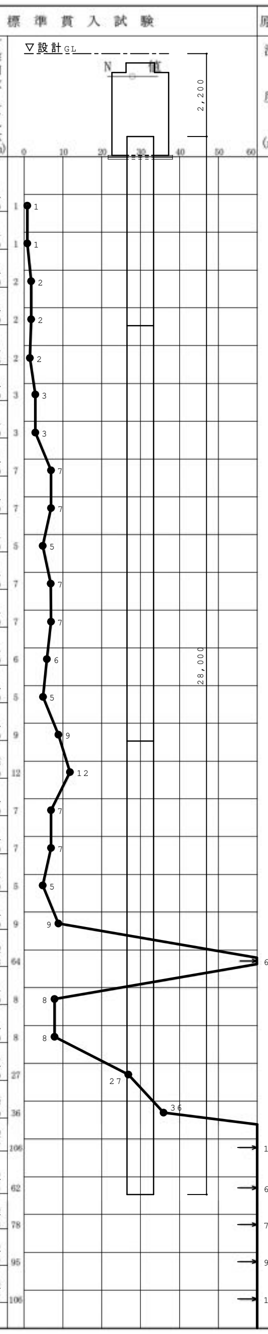
▽設計GL(KBM+2,500)
▽KBM-230

ボーリング名	No.5	**調査位置**	石川県輪島市河井町			**北　緯**	
発注機関	株式会社浦建築研究所		**調査期間**	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 8日		**東　経**	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	**主任技師**	**現場代理人**		**コア鑑定者** 吉岡昇一郎	**ボーリング責任者**	廣瀬靖彦
孔口標高	KBM -0.23m	**角度** 180° 上 90° 下 0° 0°	**方向** 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配** 水平0° 鉛直90° 0°	**使用機種** 試錐機 TOHO DO-D	**ハンマー落下用具**	半自動落下装置
総掘進長	30.32m				エンジン TF-90M	**ポンプ**	GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-0.53	0.30	0.30					
	-0.83	0.30	0.60	盛土・砂礫	褐灰			GL-0.05mまでアスファルト 含水小位 φ2～30mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスは粗中砂からなる コンクリート片を混入する
				盛土・礫混じり細中砂	褐灰			含水小位 粒子不均一 φ2～30mmの亜円～亜角礫を点在する
	-7.73	6.90	7.50	シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位 粘性中位 GL-5m以浅、植物片を点在する GL-5m以深、少量の腐植物や有機物を混入する GL-6m付近、少量の細砂を混在する
	-14.03	6.30	13.80	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 所々、少量の腐植物を点在する 部分的にφ2～5mmの細礫を点在する
	-15.03	1.00	14.80	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に少量の細砂を混入する
	-18.83	3.80	18.60	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 部分的にφ2～5mmの細礫を点在する GL-16.9～17.1m間、砂質シルトを挟在する GL-18m付近、シルト分多く砂質シルト状
	-20.13	1.30	19.90	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に少量の細砂を混入する
	-21.33	1.20	21.10	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する
	-21.93	0.60	21.70	シルト混じり砂礫	暗灰	非常に密な		含水中～大位 φ2～40mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる
	-24.03	2.10	23.80	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する
	-27.03	3.00	26.80	シルト混じり砂礫	暗灰	中位の～非常に密な		含水中位 φ2～40mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる
	-27.93	0.90	27.70	シルト質細砂	緑灰	非常に密な		含水小～中位 粒子均一 全体にシルトを混入する
	-30.55	2.62	30.32	強風化岩	灰～青灰			泥岩の強風化岩よりなり，粘土状で採取され固結状を呈する GL-29m以深、少量の細砂を混入する

孔内水位(m)／測定月日：12/4　1.35

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15 1.45	1/30			1/30	1
2.15 2.45	1/30			1/30	1
3.15 3.45	1/15	1/15		2/30	2
4.15 4.45	1/15	1/15		2/30	2
5.15 5.50	1/20	1/15		2/35	2
6.15 6.45	1	1	1	3/30	3
7.15 7.45	1	1	1	3/30	3
8.15 8.45	2	2	3	7/30	7
9.15 9.45	2	2	3	7/30	7
10.15 10.45	1	2	2	5/30	5
11.15 11.45	2	2	3	7/30	7
12.15 12.45	2	2	3	7/30	7
13.15 13.45	2	2	2	6/30	6
14.15 14.45	1	2	2	5/30	5
15.15 15.45	2	3	4	9/30	9
16.15 16.45	3	4	5	12/30	12
17.15 17.45	2	2	3	7/30	7
18.15 18.45	2	2	3	7/30	7
19.15 19.45	1	2	2	5/30	5
20.15 20.45	3	3	3	9/30	9
21.15 21.43	18	10	32/8	60/28	64
22.15 22.45	2	3	3	8/30	8
23.15 23.45	3	2	3	8/30	8
24.15 24.45	10	9	8	27/30	27
25.15 25.45	10	11	15	36/30	36
26.15 26.32	18	42/7		60/17	106
27.15 27.44	12	19	29/9	60/29	62
28.15 28.38	22	27	11/3	60/23	78
29.15 29.34	26	34/9		60/19	95
30.15 30.32	33	27/7		60/17	106



試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
8.15 8.45	5P-1	⊖	細粒分含有率
9.15 9.45	5P-2	⊖	細粒分含有率
10.15 10.45	5P-3	⊖	細粒分含有率
11.15 11.45	5P-4	⊖	細粒分含有率
12.15 12.45	5P-5	⊖	細粒分含有率
13.15 13.45	5P-6	⊖	細粒分含有率
15.15 15.45	5P-7	⊖	細粒分含有率
16.15 16.45	5P-8	⊖	細粒分含有率
17.15 17.45	5P-9	⊖	細粒分含有率
18.15 18.45	5P-10	⊖	細粒分含有率
20.15 20.45	5P-11	⊖	細粒分含有率

掘進月日：12/4　12/5　12/8

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 地質調査図（３）	縮尺	図番 S－25

NO.6

孔口標高＝設計GL－2.60m
＜＝KBM　－0.10m＞

ボーリング名	No.6	**調査位置**	石川県輪島市河井町			**北　緯**	
発注機関	株式会社浦建築研究所	**調査期間**	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 8日			**東　経**	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者** 吉岡昇一郎	**ボーリング責任者** 足立悦朗
孔口標高	KBM -0.10m	**角度** 180° 上 90° 下 0° 0°	**方向** 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配** 鉛直 水平0° 90° 0°	**使用機種**	**試錐機** TOHO DO-D	**ハンマー落下用具** 半自動落下装置
総掘進長	34.25m					**エンジン** TF-90	**ポンプ** BG-3

▽設計GL(KBM+2,500)

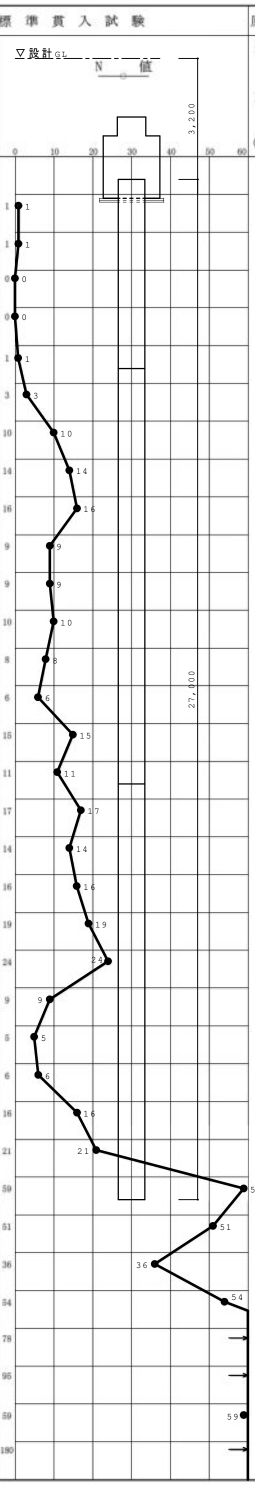
▽KBM-100

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.10	1.00	1.00	盛土・砂質シルト	黄灰～黄褐～淡灰			GL-0.1mまで砕石 含水中位　粘性中位 不規則に細砂を混在する
-1.90	0.80	1.80	砂混じりシルト	灰		非常に軟らかい	含水中位　粘性小位 全体に少量の細砂を混入する
-6.20	4.30	6.10	シルト	灰～暗灰		非常に軟らかい	含水中位　粘性中位 上部に若干の細砂を混在する GL-3m以深、腐植物や有機物を混入する GL-3m付近、木片を点在する
-7.00	0.80	6.90	砂質シルト	暗灰	非常に緩い		含水中位　粘性中位 砂は細砂を混入する
-8.10	1.10	8.00	シルト混じり細砂	暗灰	中位の		含水中位　粒子不均一 所々、φ2mmの細礫を点在する 少量のシルトを混入する
-9.60	1.50	9.50	礫混じりシルト混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位　粒子不均一 φ2～50mmの亜円～亜角礫を混在する 全体に少量のシルトを混入する
-10.90	1.30	10.80	シルト質細中砂	暗灰	緩い		含水中位　粒子不均一 全体にシルトを混入する
-12.80	1.90	12.70	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位　粒子均一 全体にシルト混在する
-15.10	2.30	15.00	砂質シルト	暗灰		緩い	含水中位　粘性中位 全体に細砂を混入する
-21.00	5.90	20.90	シルト混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 所々、φ2～20mmの亜円礫を点在する 全体に少量のシルトを混入する
-22.20	1.20	22.10	礫混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 φ2～50mmの亜円～亜角礫を点在する
-23.40	1.20	23.30	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 シルトを一様に混在する
-24.80	1.40	24.70	砂混じりシルト	暗灰		軟らかい～中位の	含水中位　粘性小位 全体にシルト質細砂との互層状を呈する
-26.90	2.10	26.80	礫混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 φ2～20mmの亜円～亜角礫を点在する
-30.10	3.20	30.00	砂礫	暗灰～灰	密な～非常に密な		含水中位 φ2～20mmの亜円～角礫を主体とし マトリックは細～中砂からなる 最大礫径φ50mm程度 GL-28m以深、シルトを混在する GL-29m以深、逸水性が激しい
-34.35	4.25	34.25	強風化岩	緑灰～淡褐灰～灰～暗褐灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する 少量の有機物を混入する GL-31.3m付近、亜炭を挟む GL-32.5m以深、細砂を混在する

孔内水位(m)／測定月日：12/4 0.50

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15 1.45	1/30			1/30	1
2.15 2.45	1/30			1/30	1
3.00 3.45	ハンマー自沈			0/45	0
4.00 4.45	ハンマー自沈			0/45	0
5.15 5.50	1/35			1/35	1
6.15 6.45	1	1	1	3/30	3
7.15 7.45	3	4	3	10/30	10
8.15 8.45	5	4	5	14/30	14
9.15 9.45	5	6	5	16/30	16
10.15 10.45	3	3	3	9/30	9
11.15 11.45	2	3	4	9/30	9
12.15 12.45	3	3	4	10/30	10
13.15 13.45	2	3	3	8/30	8
14.15 14.45	2	2	2	6/30	6
15.15 15.45	3	5	7	15/30	15
16.15 16.45	3	4	4	11/30	11
17.15 17.45	5	6	6	17/30	17
18.15 18.45	4	5	5	14/30	14
19.15 19.45	5	5	6	16/30	16
20.15 20.45	6	6	7	19/30	19
21.15 21.45	7	8	9	24/30	24
22.15 22.45	3	3	3	9/30	9
23.15 23.45	2	2	1	5/30	5
24.15 24.45	2	2	2	6/30	6
25.15 25.45	4	5	7	16/30	16
26.15 26.45	6	7	8	21/30	21
27.15 27.45	12	16	31	59/30	59
28.15 28.45	21	17	13	51/30	51
29.15 29.45	10	12	14	36/30	36
30.15 30.45	7	21	26	54/30	54
31.15 31.38	18	32	10/3	60/23	78
32.15 32.34	22	38/9		60/19	95
33.15 33.45	15	20	24	59/30	59
34.15 34.25	60			60/10	180



原位置試験：深度 (m)／試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
6.15 6.45	6P-1	⊖	細粒分含有率
7.15 7.45	6P-2	⊖	細粒分含有率
8.15 8.45	6P-3	⊖	細粒分含有率
9.15 9.45	6P-4	⊖	細粒分含有率
10.15 10.45	6P-5	⊖	細粒分含有率
11.15 11.45	6P-6	⊖	細粒分含有率
12.15 12.45	6P-7	⊖	細粒分含有率
15.15 15.45	6P-8	⊖	細粒分含有率
16.15 16.45	6P-9	⊖	細粒分含有率
17.15 17.45	6P-10	⊖	細粒分含有率
18.15 18.45	6P-11	⊖	細粒分含有率
19.15 19.45	6P-12	⊖	細粒分含有率
20.15 20.45	6P-13	⊖	細粒分含有率

掘進月日：12/4（GL-21m付近）、12/5（GL-32m付近）、12/8（GL-34.25m）

杭伏図	1/100

特記無き限り

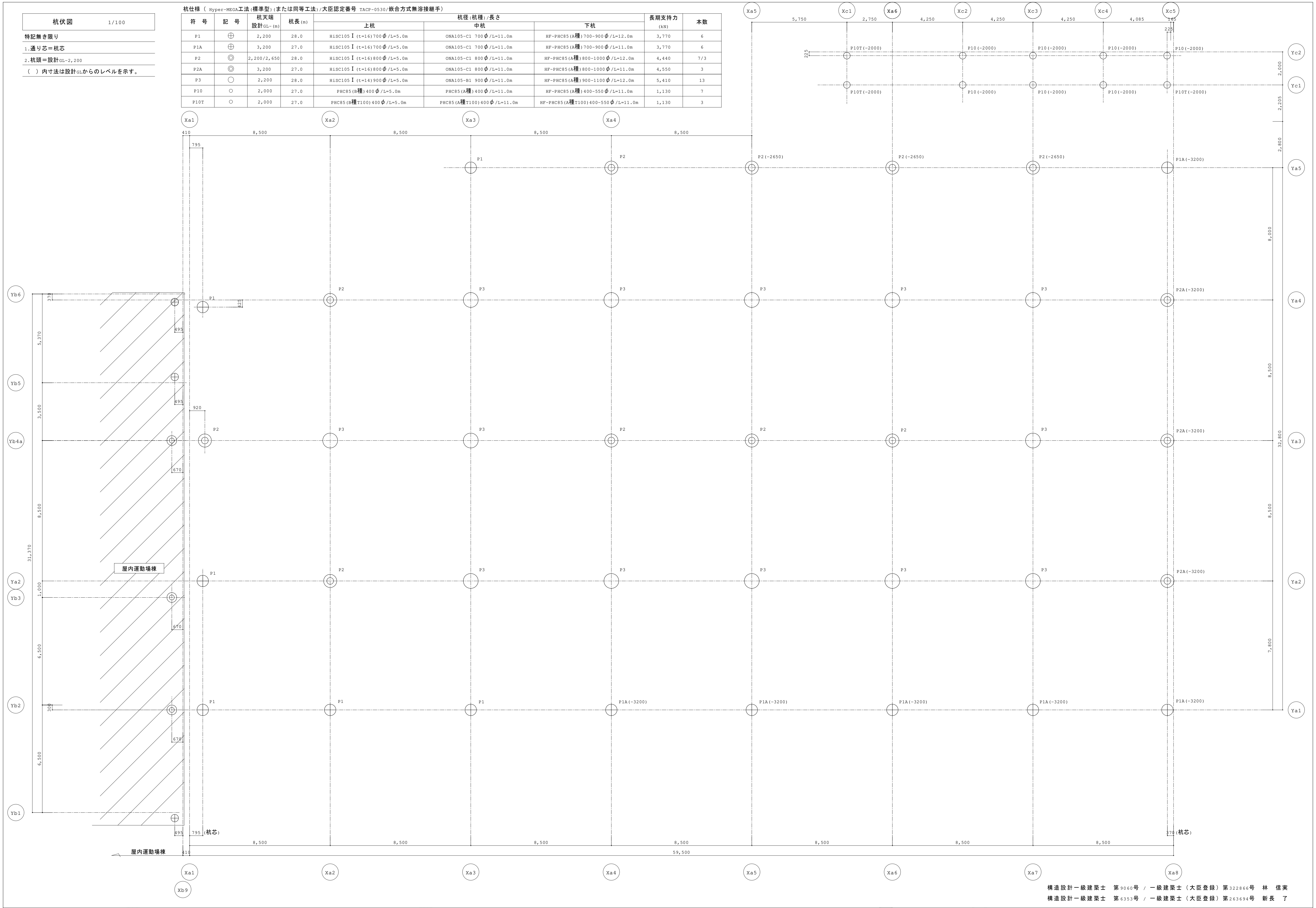
1.通り芯＝杭芯

2.杭頭＝設計GL-2,200

（　）内寸法は設計GLからのレベルを示す。

杭仕様（ Hyper-MEGA工法(標準型)(または同等工法)/大臣認定番号 TACP-0530/嵌合方式無溶接継手）

符　号	記　号	杭天端 設計GL-(m)	杭長(m)	杭径(杭種)/長さ			長期支持力 (kN)	本数
				上杭	中杭	下杭		
P1	⊕	2,200	28.0	HiSC105 I (t=16)700φ/L=5.0m	ONA105-C1 700φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)700-900φ/L=12.0m	3,770	6
P1A	⊕	3,200	27.0	HiSC105 I (t=16)700φ/L=5.0m	ONA105-C1 700φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)700-900φ/L=11.0m	3,770	6
P2	◎	2,200/2,650	28.0	HiSC105 I (t=16)800φ/L=5.0m	ONA105-C1 800φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)800-1000φ/L=12.0m	4,440	7/3
P2A	◎	3,200	27.0	HiSC105 I (t=16)800φ/L=5.0m	ONA105-C1 800φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)800-1000φ/L=11.0m	4,550	3
P3	○	2,200	28.0	HiSC105 I (t=14)900φ/L=5.0m	ONA105-B1 900φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)900-1100φ/L=12.0m	5,410	13
P10	○	2,000	27.0	PHC85(B種)400φ/L=5.0m	PHC85(A種)400φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)400-550φ/L=11.0m	1,130	7
P10T	○	2,000	27.0	PHC85(B種T100)400φ/L=5.0m	PHC85(A種T100)400φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種T100)400-550φ/L=11.0m	1,130	3



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	杭伏図	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S－27

基礎伏図　1/100

特記無き限り

1.通り芯＝基礎芯

2.▨部分はピットを示す。

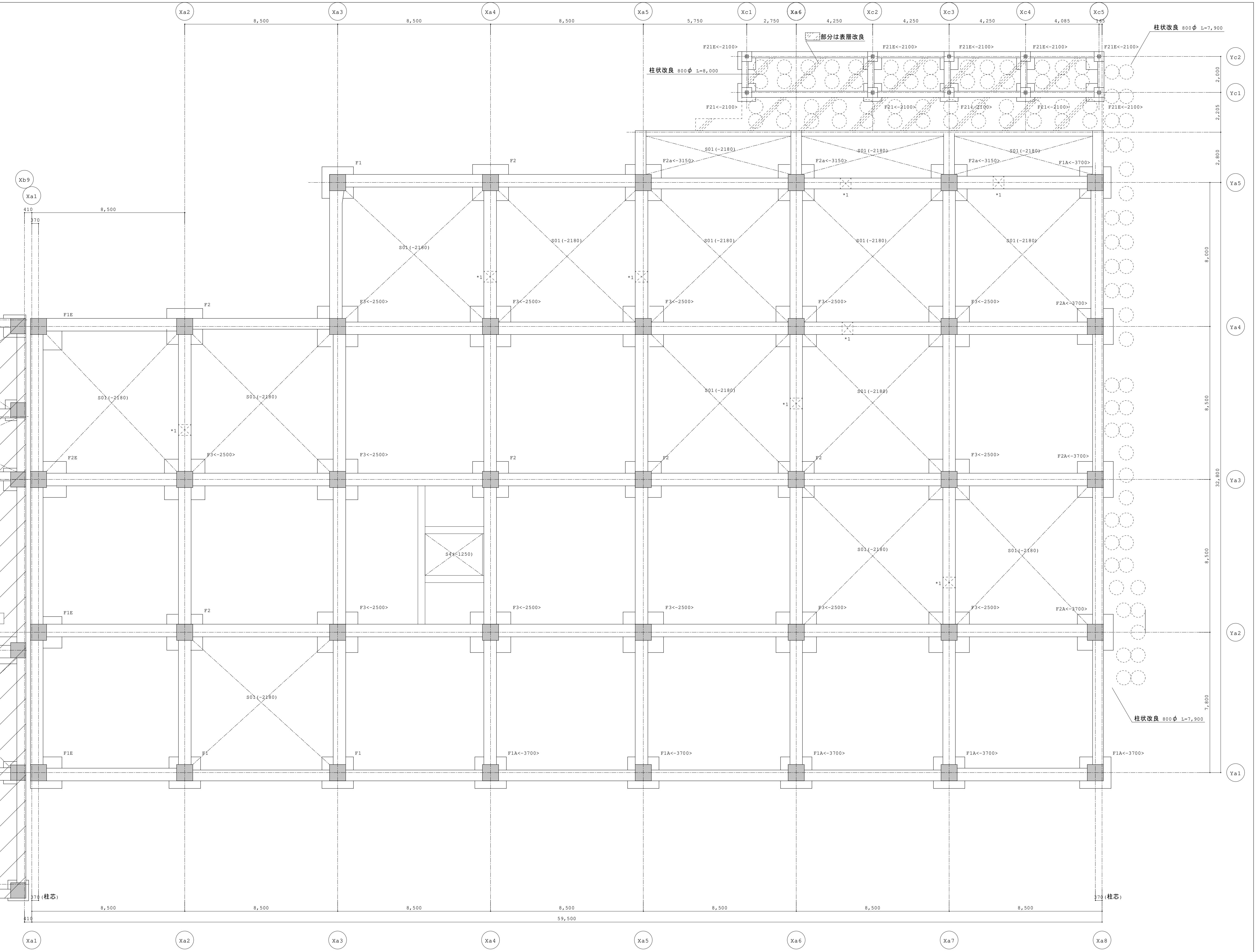
　▨部分は地盤改良範囲(表層改良+柱状改良)

3.（　）内寸法は1FLからのレベルを示す。

4.フーチング下端レベルは設計GL-2,700

　<　>内寸法は設計GLからのレベルを示す。

5.*1は人通口を示す。



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.		工事名称	設計事務所	設計	標題	縮尺	図番
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	・　・	基礎伏図	A1:1/100 A3:1/200	S－28

1階床梁伏図　1/100

特記無き限り

1.柱芯＝通り芯

2.基礎梁天端＝設計GL-200（1FL-400）

FB梁天端＝設計GL±0（1FL-200）

3.スラブは S1(1FL-35)

（　）内寸法は1FLからのレベルを示す。

▨部分は1FL-200スラブ天端を示す。

▨部分は1FL-100スラブ天端を示す。

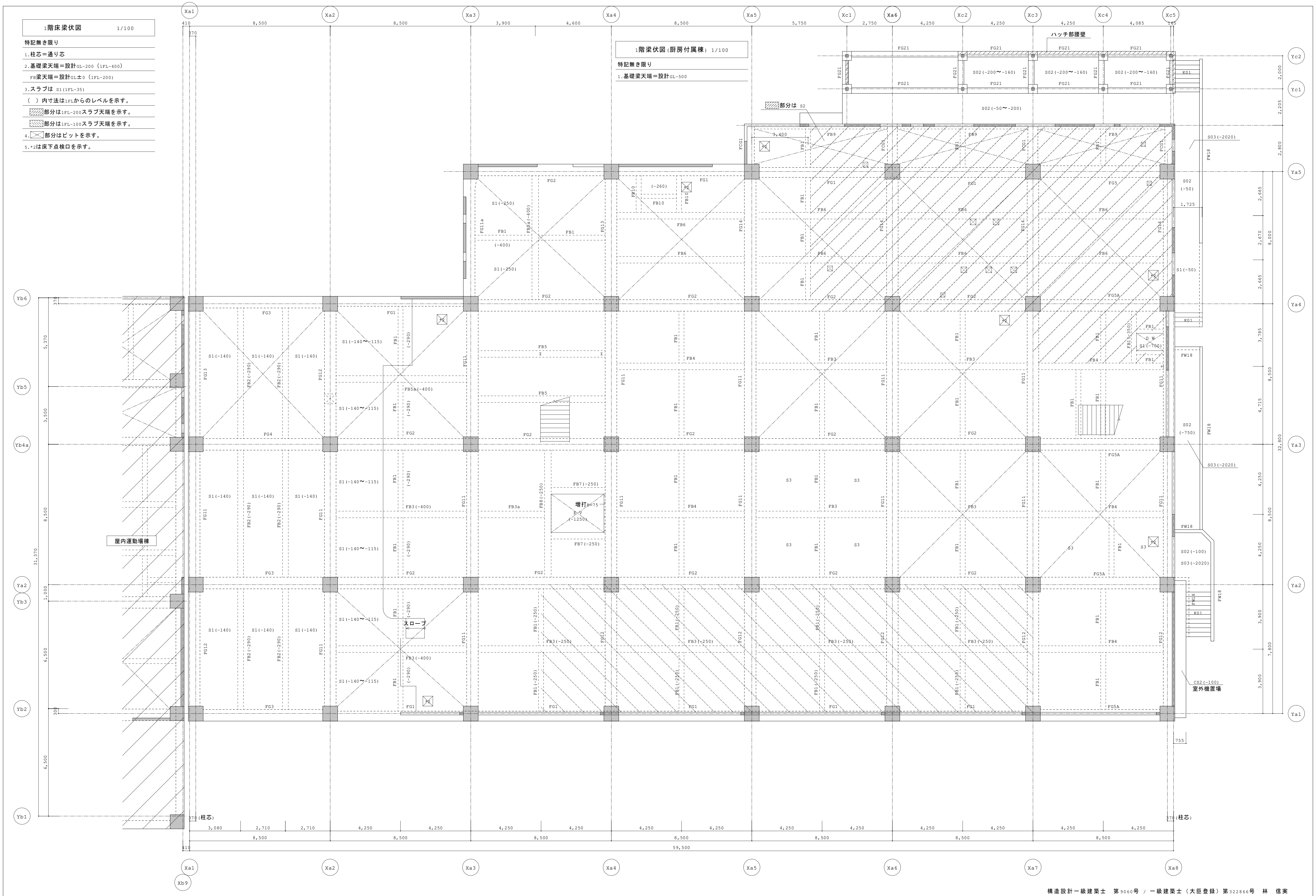
4.☒部分はピットを示す。

5.*2は床下点検口を示す。

1階梁伏図（厨房付属棟）1/100

特記無き限り

1.基礎梁天端＝設計GL-500



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

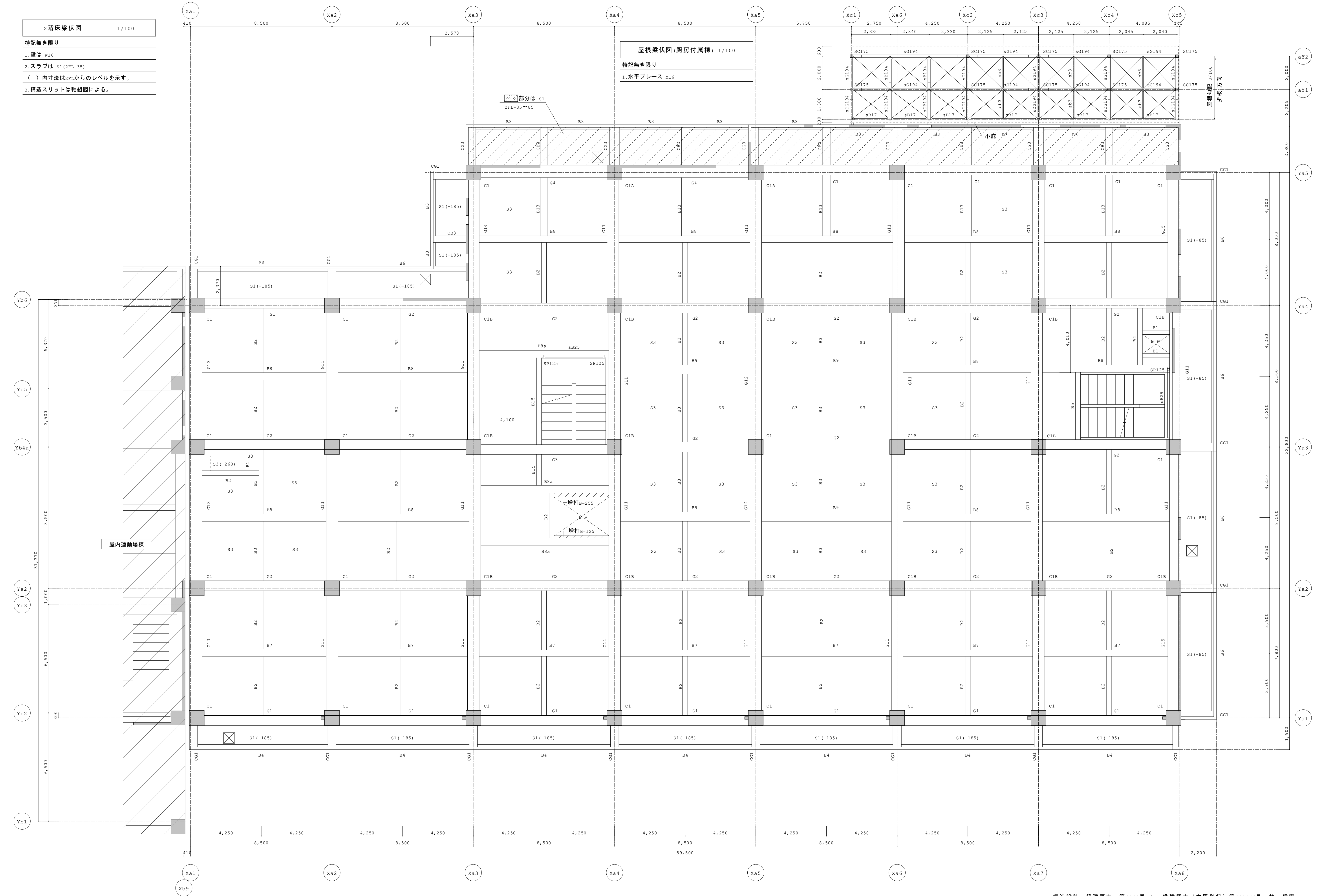
JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題 1階柱壁1階床梁伏図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S－29

2階床梁伏図　1/100

特記無き限り
1.壁は W16
2.スラブは S1(2FL-35)
（　）内寸法は2FLからのレベルを示す。
3.構造スリットは軸組図による。

屋根梁伏図(厨房付属棟) 1/100

特記無き限り
1.水平ブレース M16



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題 1階柱壁2階床梁伏図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S — 30

3階床梁伏図　　1/100

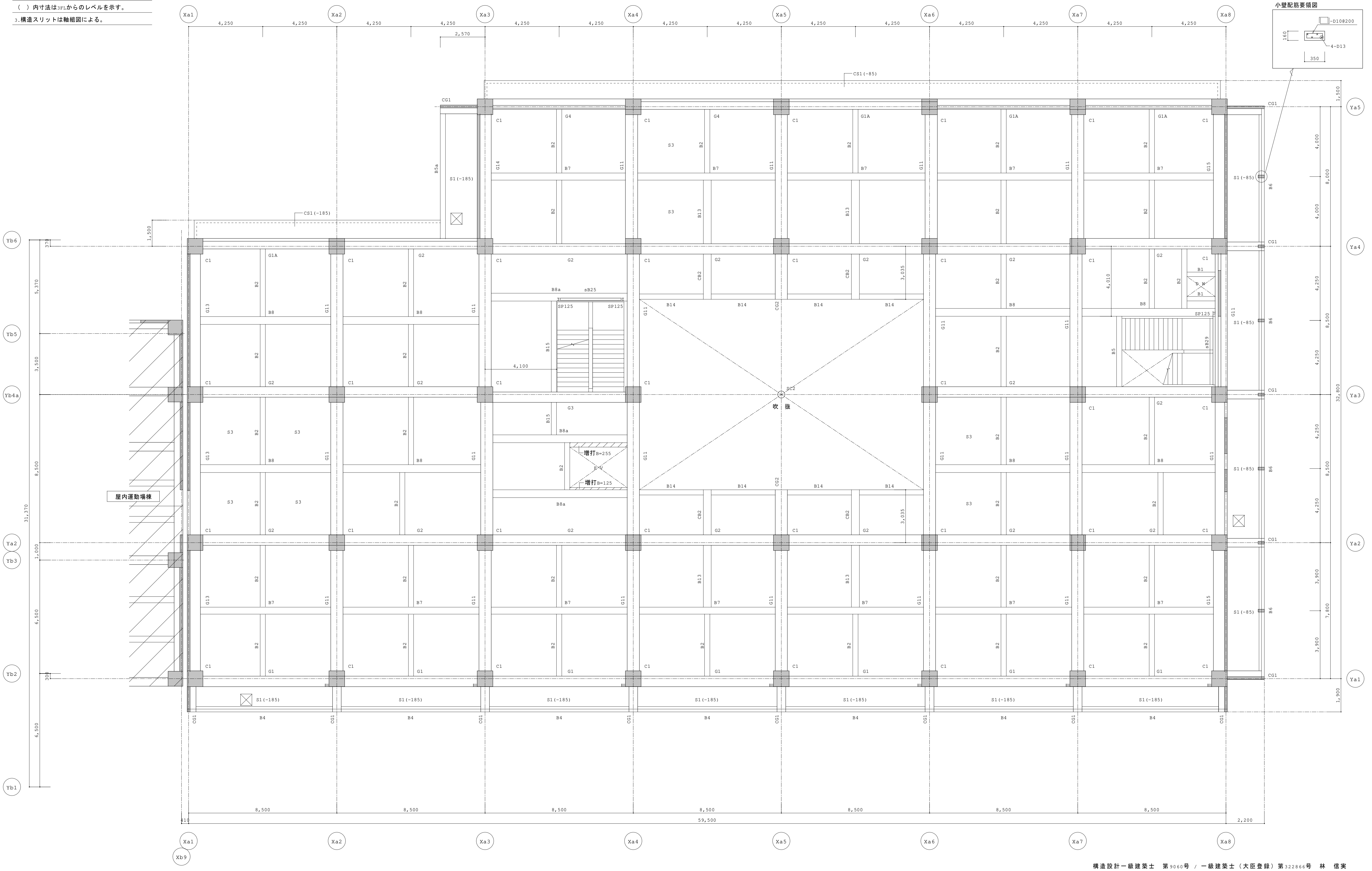
特記無き限り

1.壁は W16

2.スラブは S1(3FL-35)

（　）内寸法は3FLからのレベルを示す。

3.構造スリットは軸組図による。



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	2階柱壁3階床梁伏図	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番 S − 31

R階床梁伏図　1/100

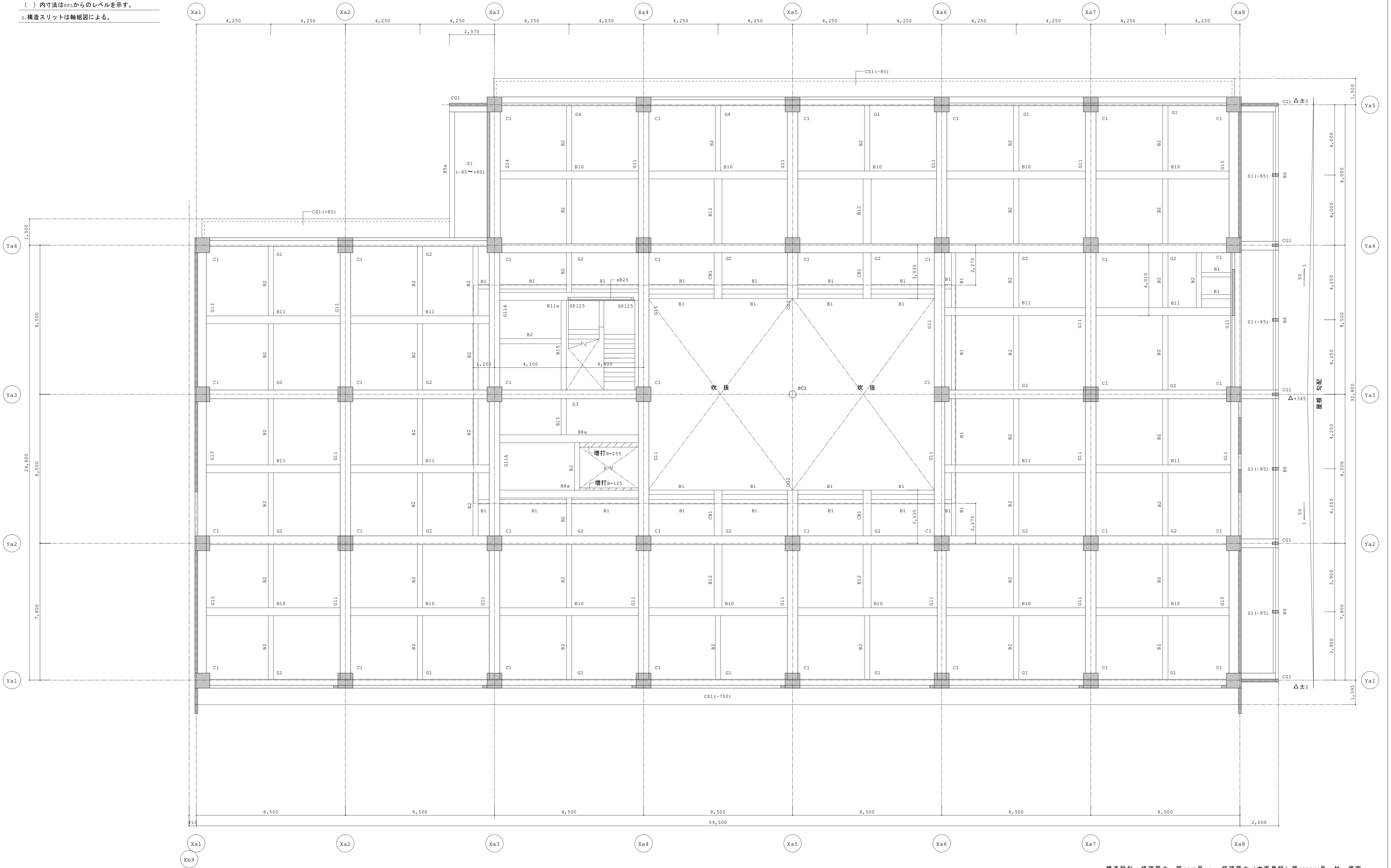
特記無き限り

1.壁は W16

2.スラブは S1

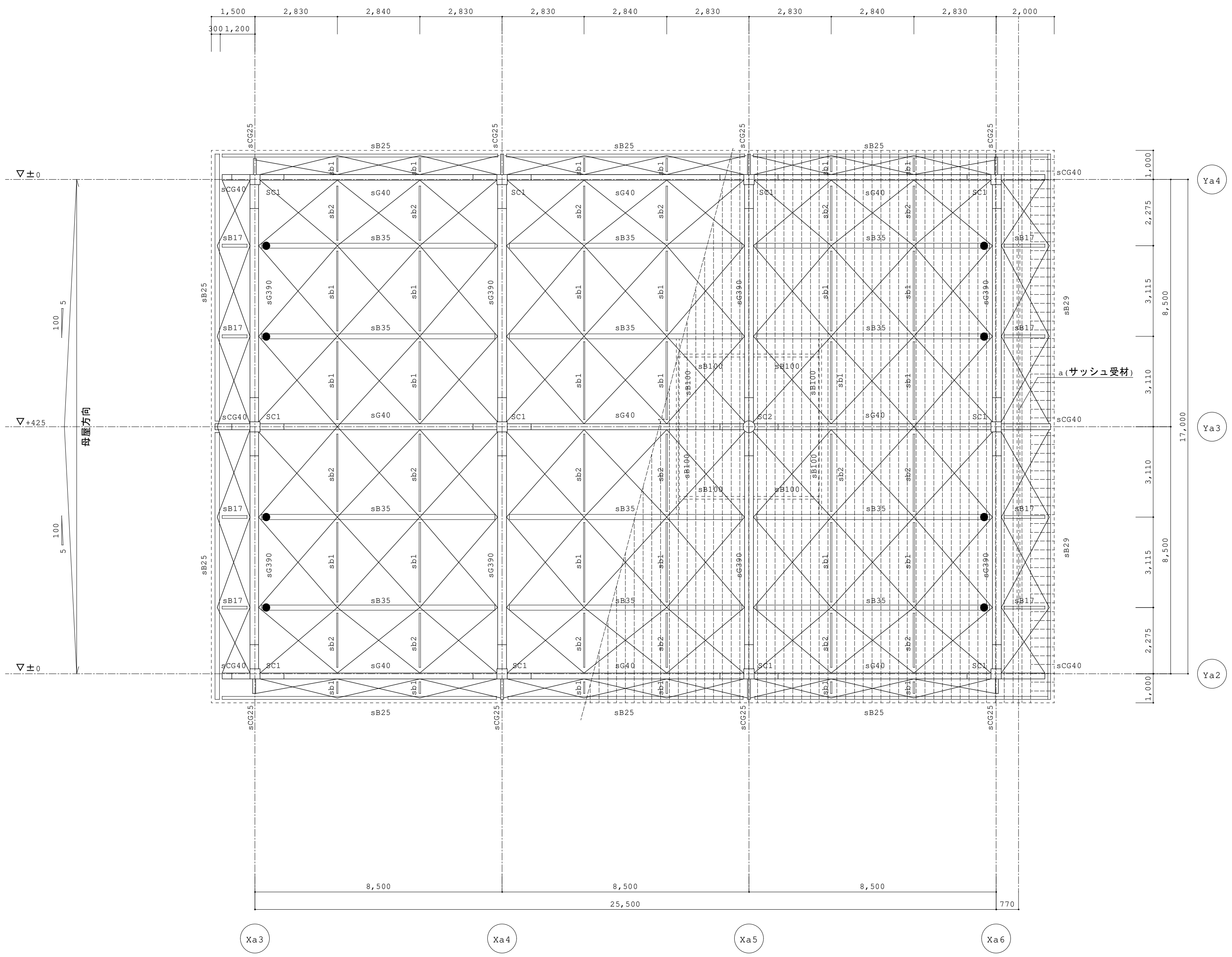
（　）内寸法はRFLからのレベルを示す。

3.構造スリットは軸組図による。



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.			設計	標題	縮尺	図番
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	・　・	3階柱壁R階床梁伏図	A1:1/100 A3:1/200	S－32



PH階梁伏図　1/100

特記無き限り

1.水平ブレース M20

2.母屋 C-100x50x20x2.3@303

2C-100x50x20x2.3@1820

3.●印は小梁接合部を確認の事。

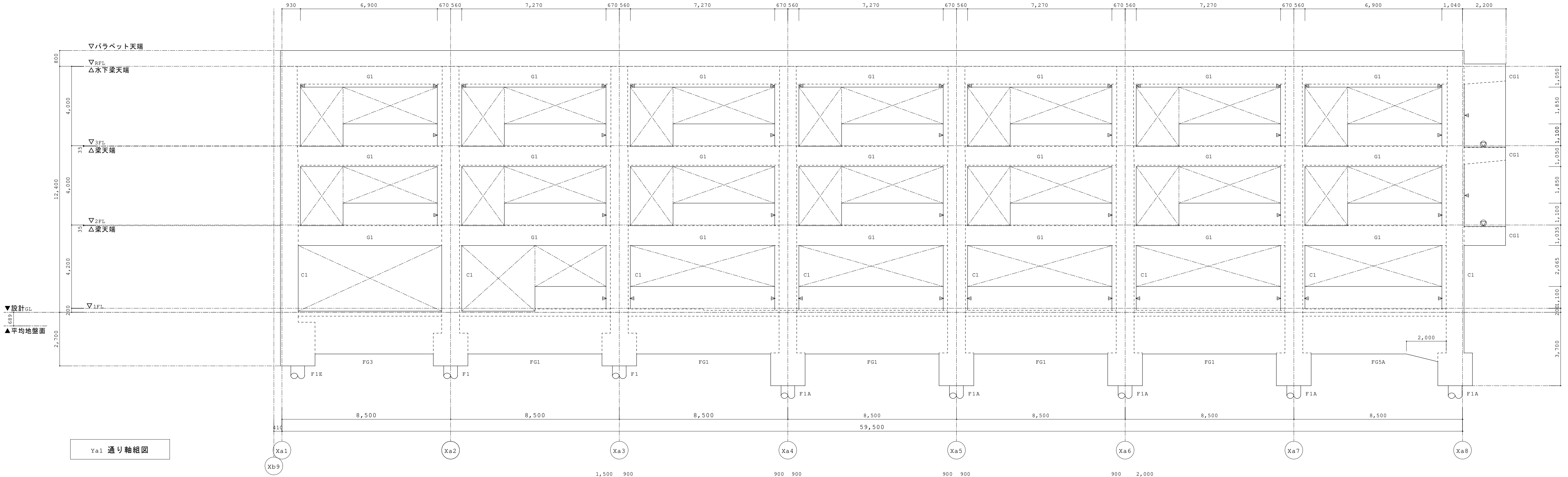
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実

構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

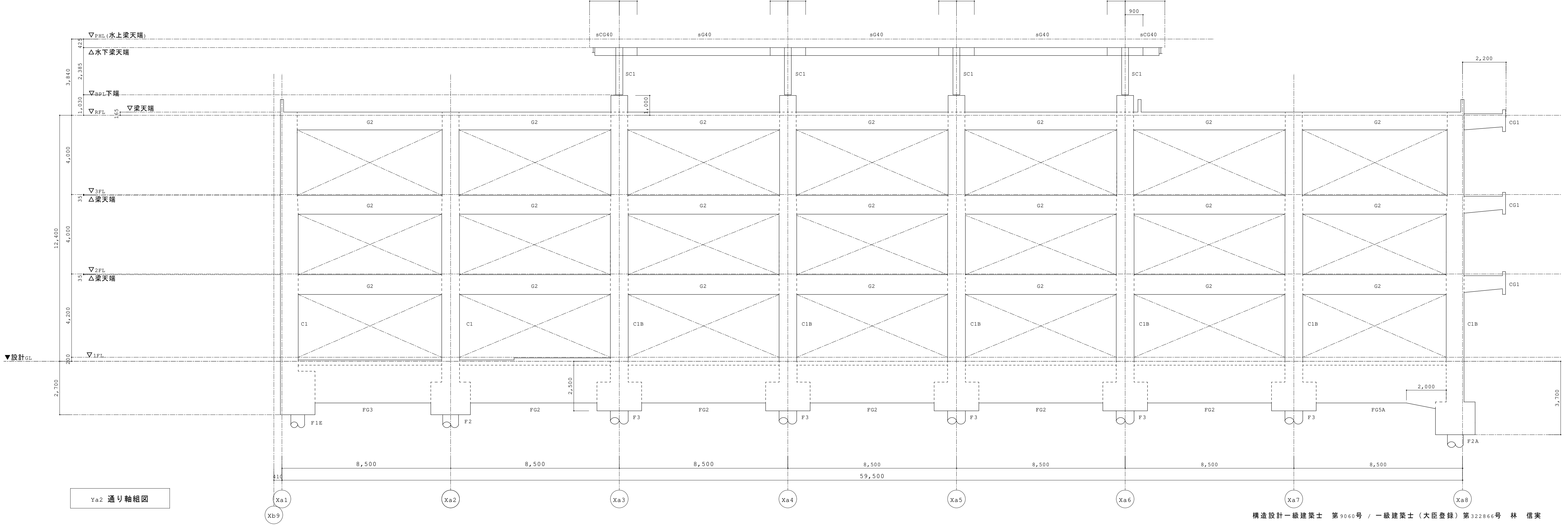
JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	標題	PH階梁伏図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S － 33

軸組図(1)　1/100

特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、Ⓥ印は水平スリットを示す。



Ya1 通り軸組図



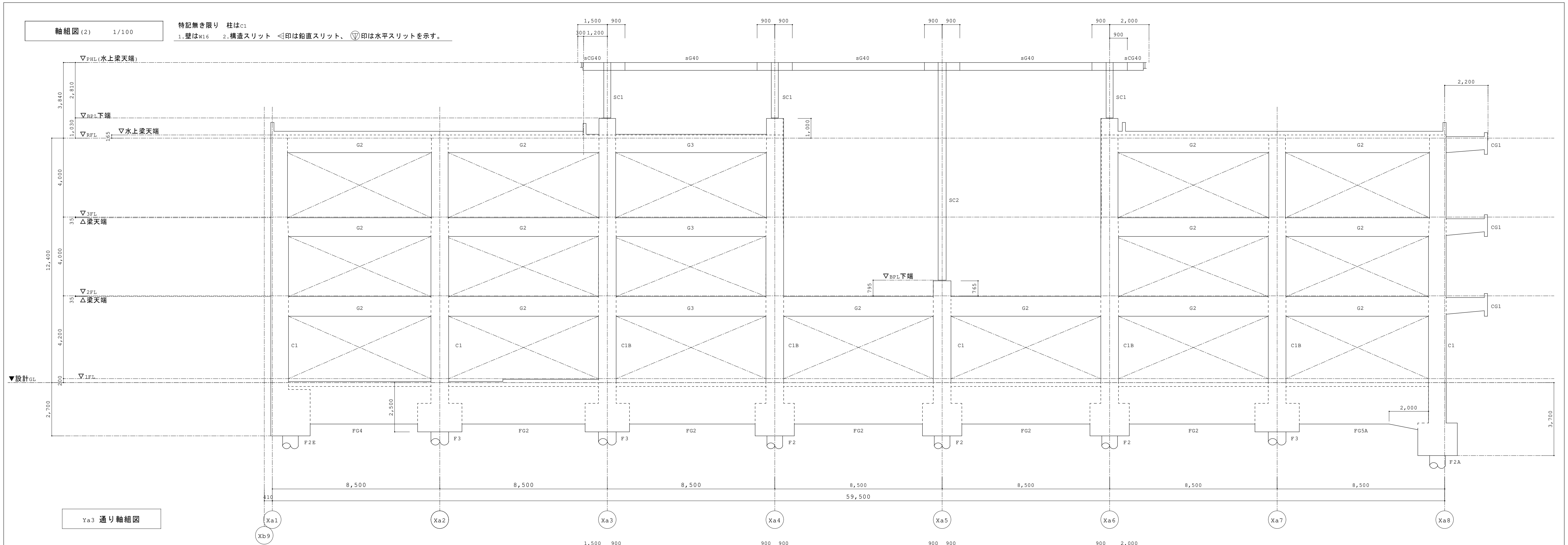
Ya2 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

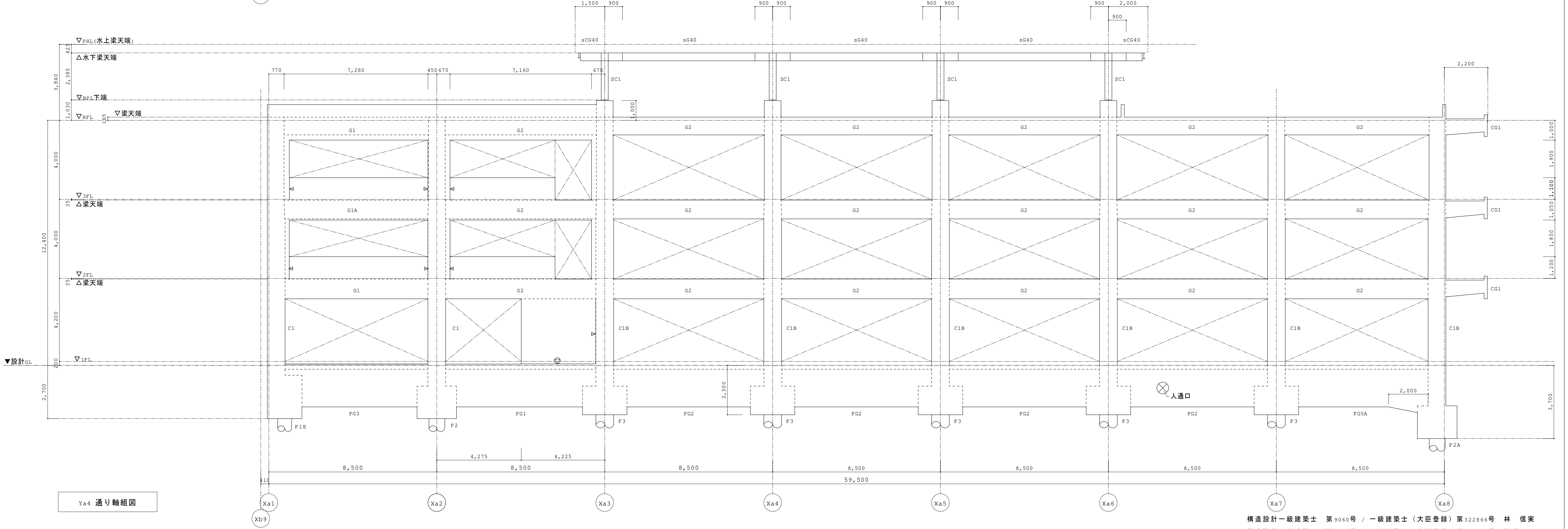
JOB NO.										
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（1）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番 S ― 34

軸組図(2)　1/100

特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、▽印は水平スリットを示す。



Ya3 通り軸組図



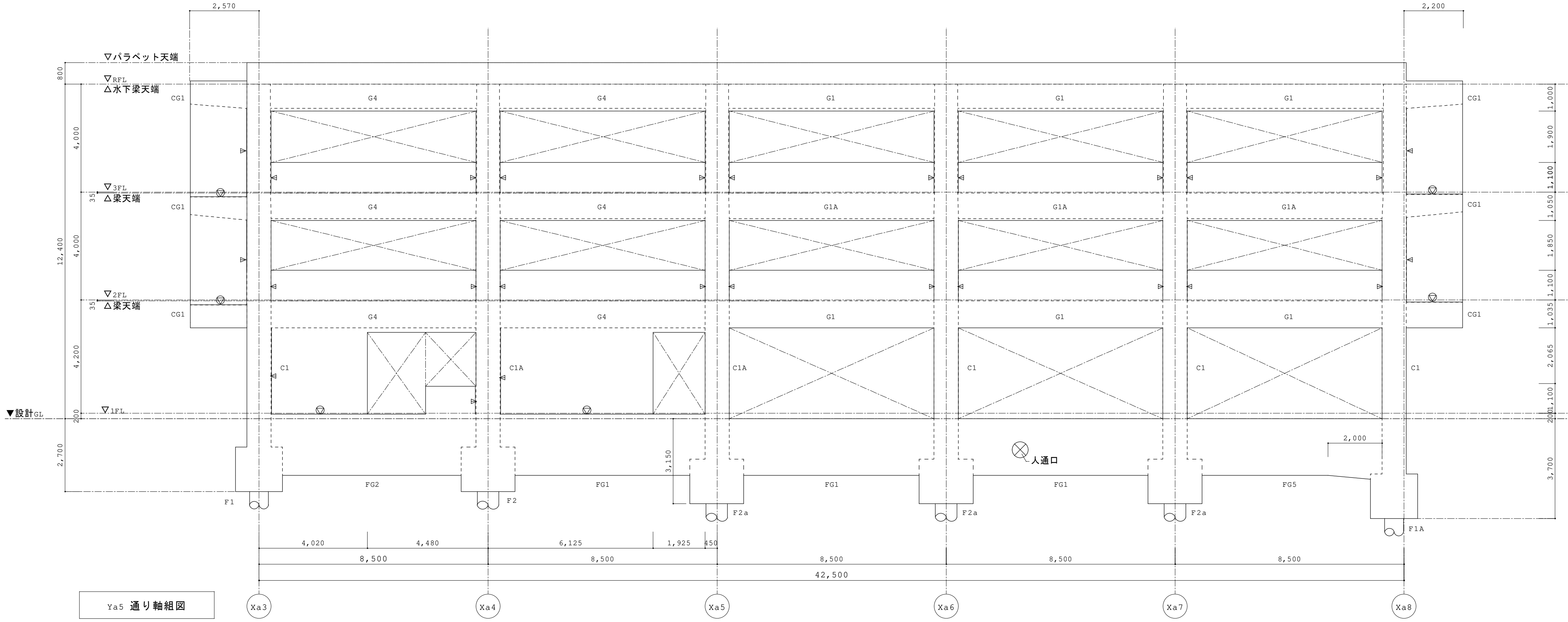
Ya4 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

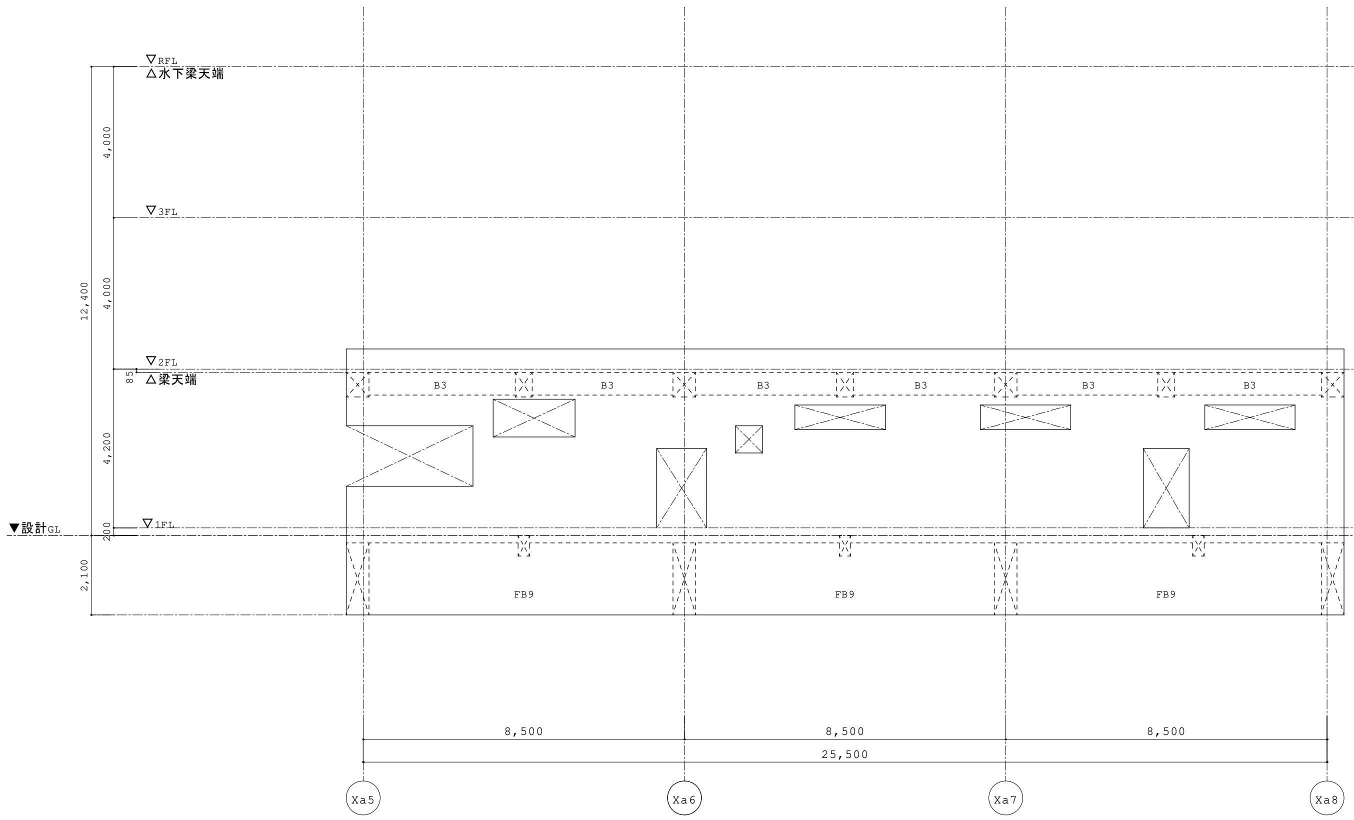
JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題	軸組図（2）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S－35

軸組図(3)　1/100

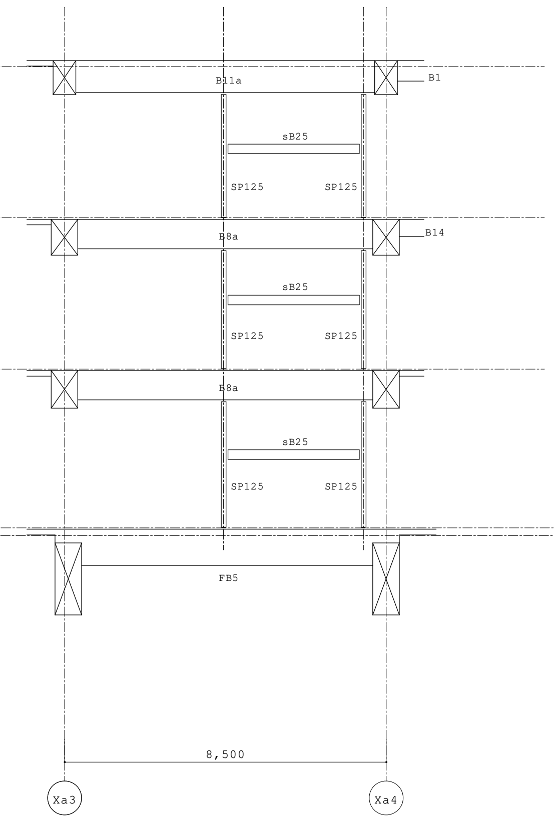
特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、▽印は水平スリットを示す。



Ya5 通り軸組図



Ya5+2,800 通り軸組図



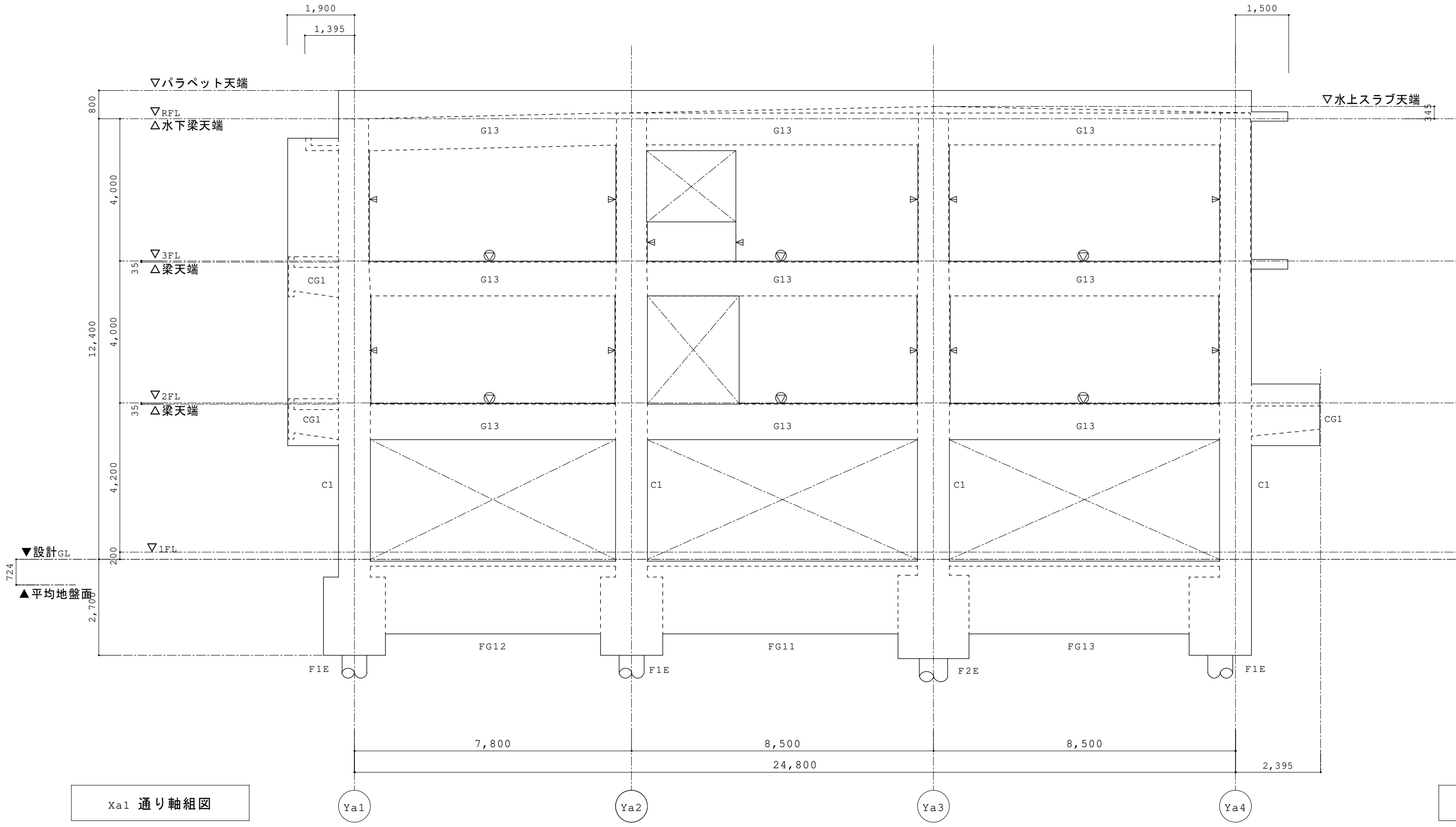
階段A(鉄骨受材) 軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

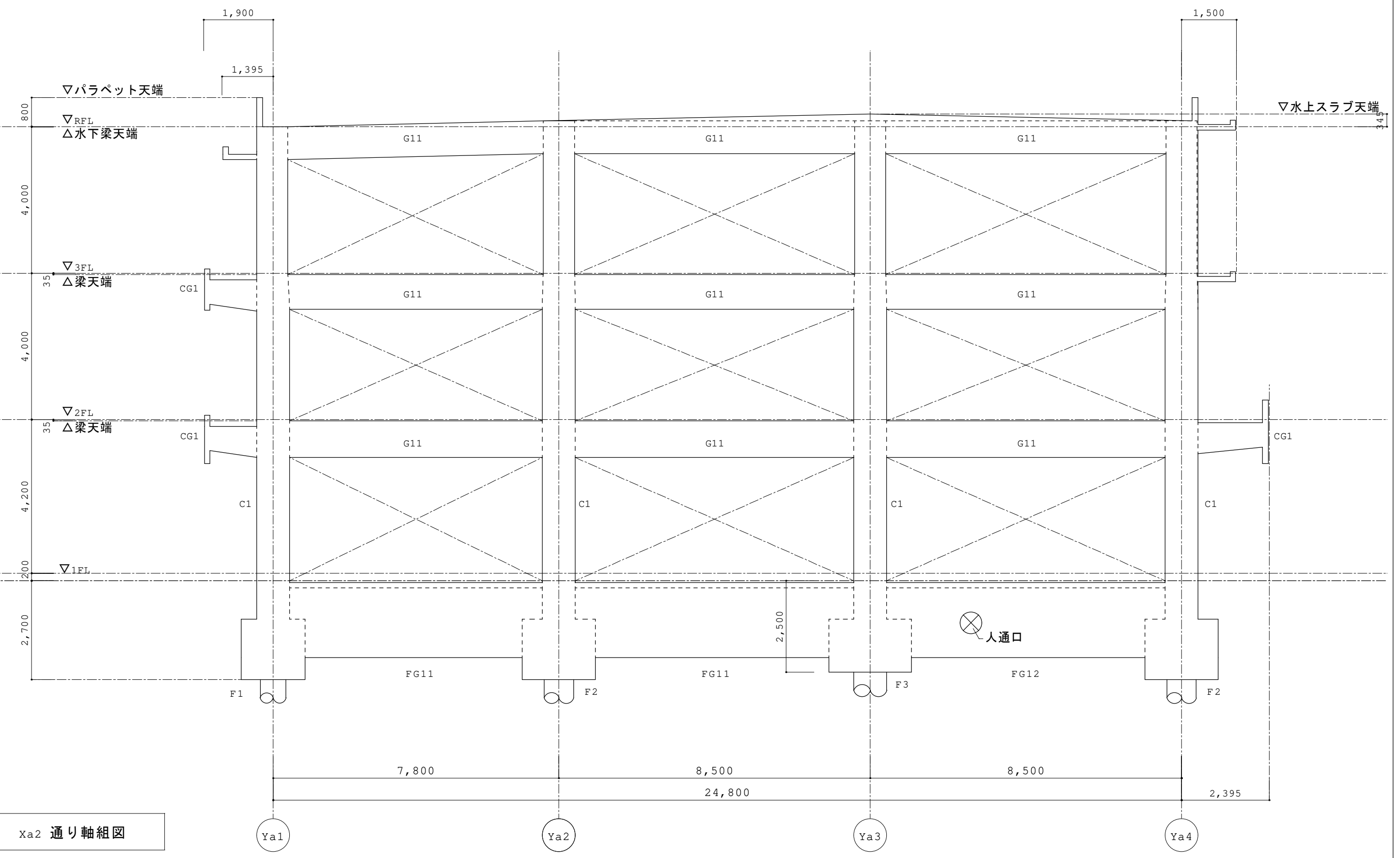
JOB NO.	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（3）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S — 36
125280											

軸組図(4)　1/100

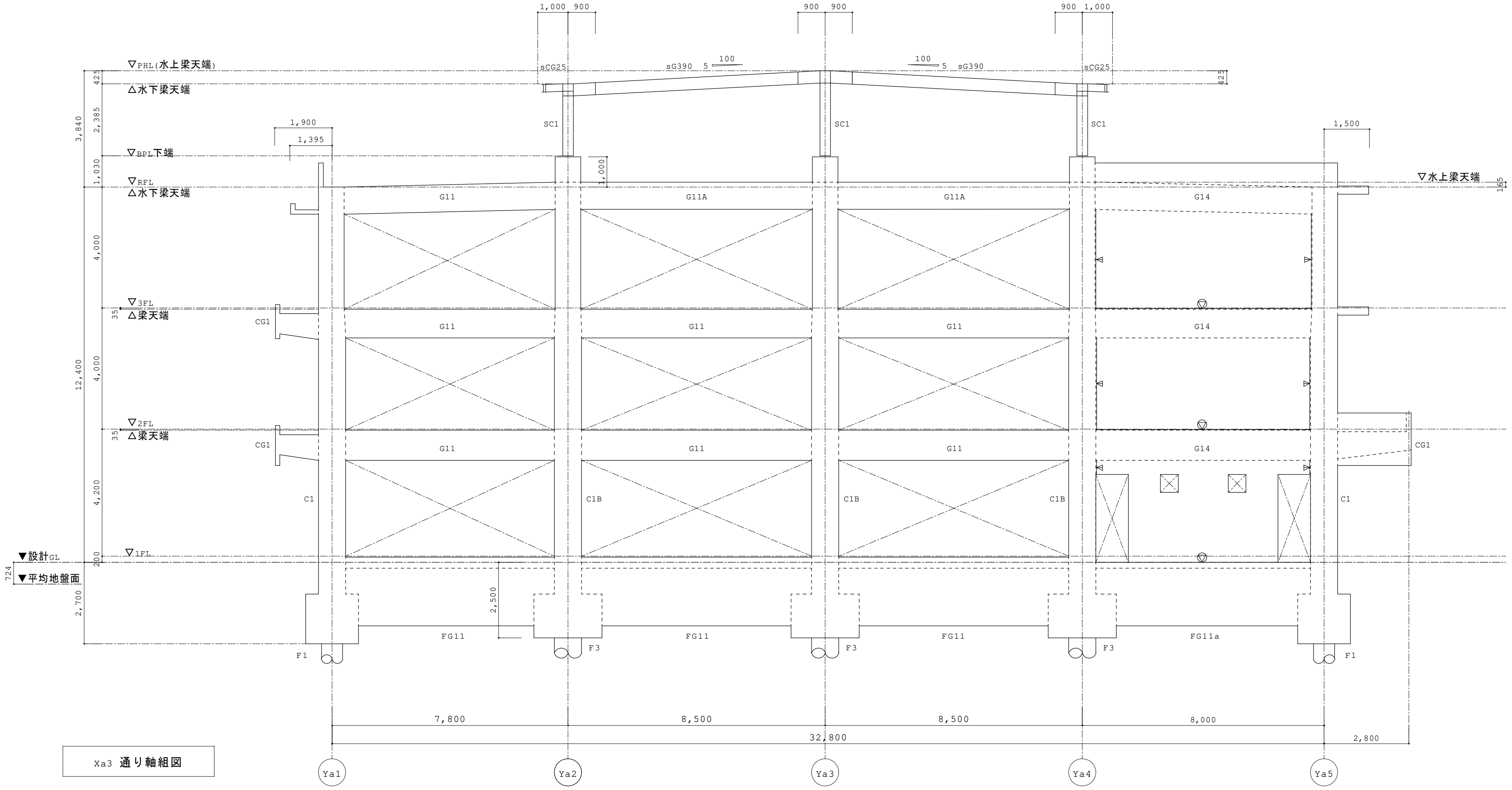
特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、㊦印は水平スリットを示す。



Xa1 通り軸組図



Xa2 通り軸組図



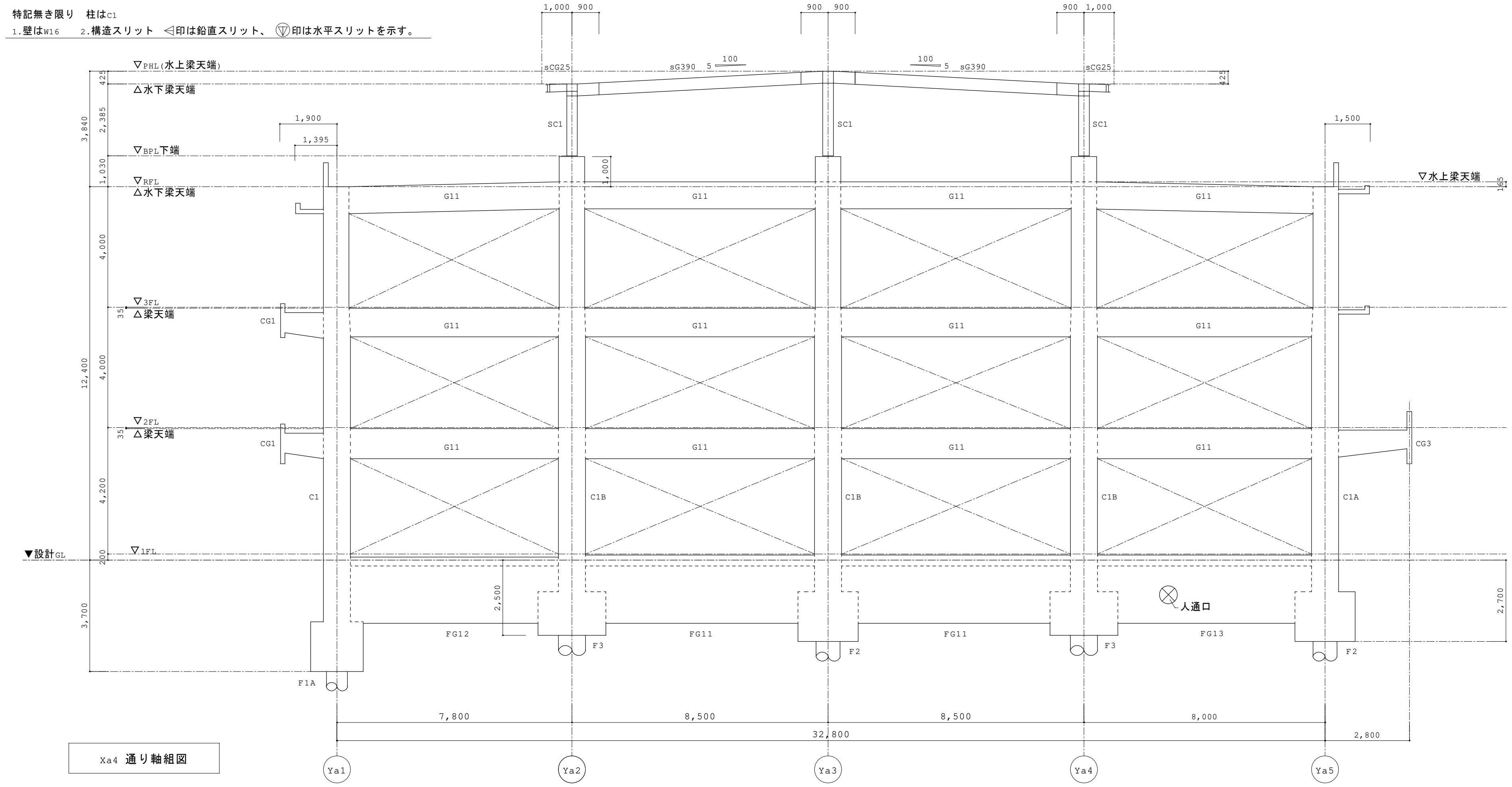
Xa3 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

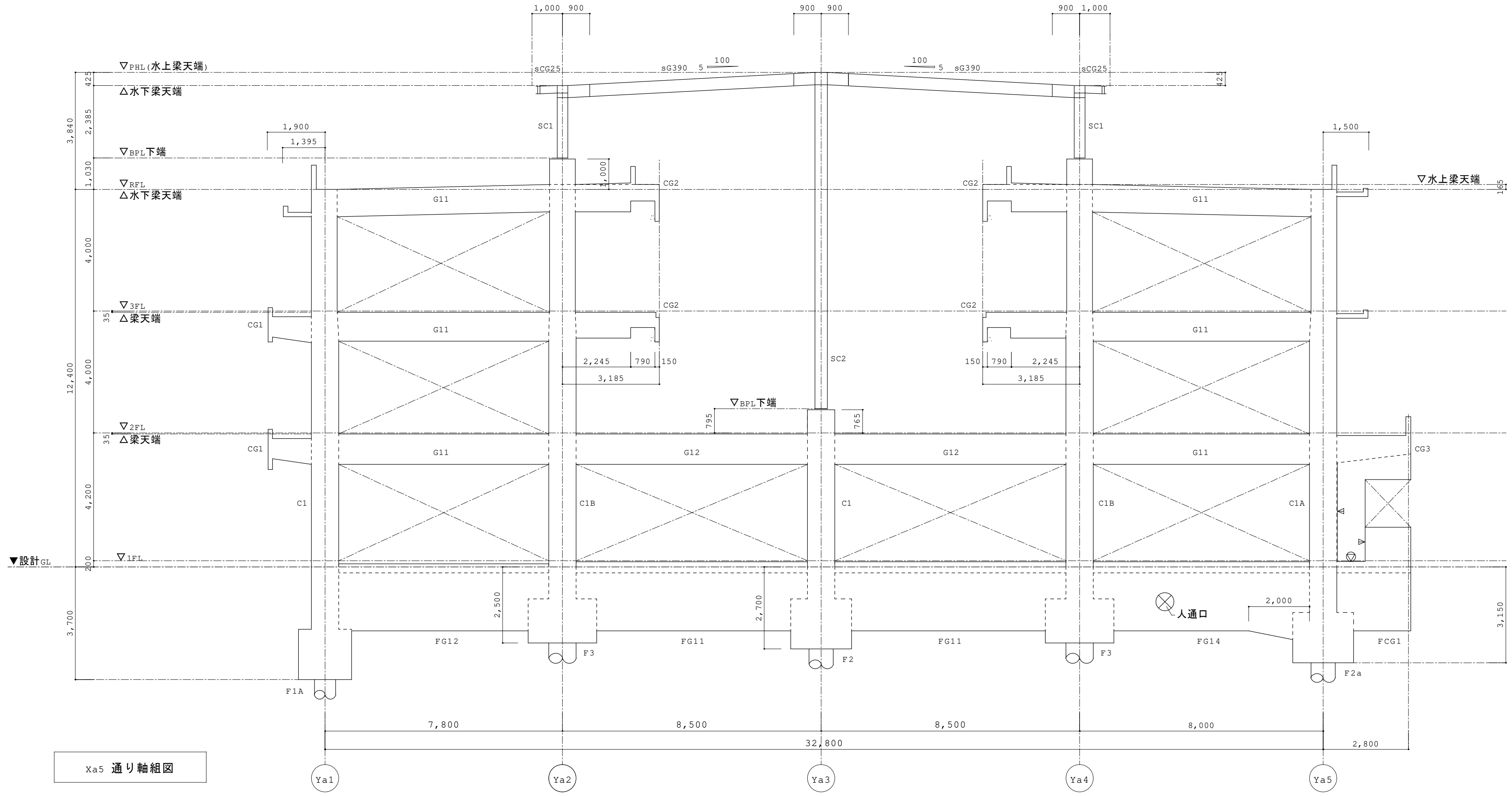
JOB NO.										
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（4）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番 S — 37

軸組図(5)　　1/100

特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、Ⓥ印は水平スリットを示す。



Xa4 通り軸組図



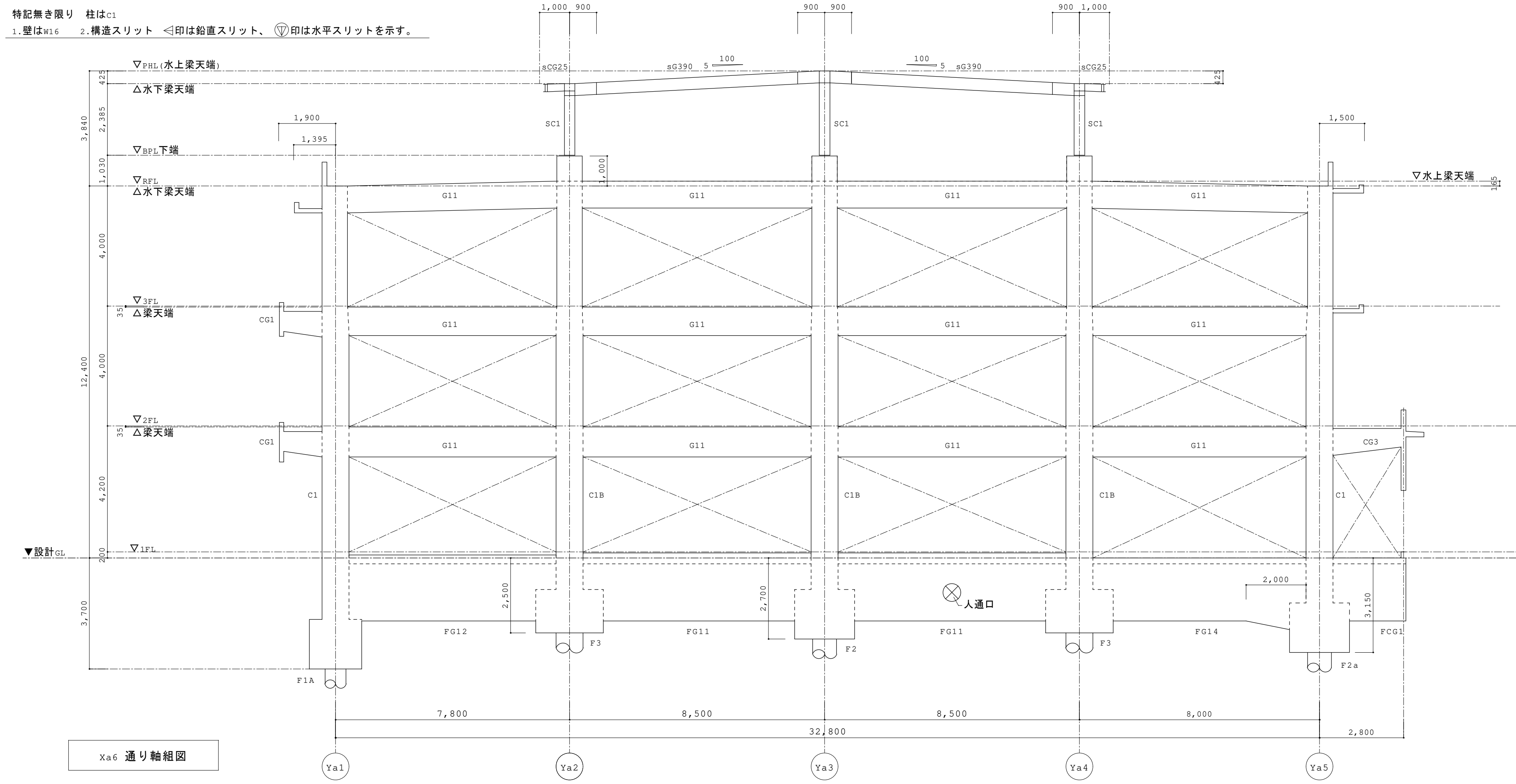
Xa5 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

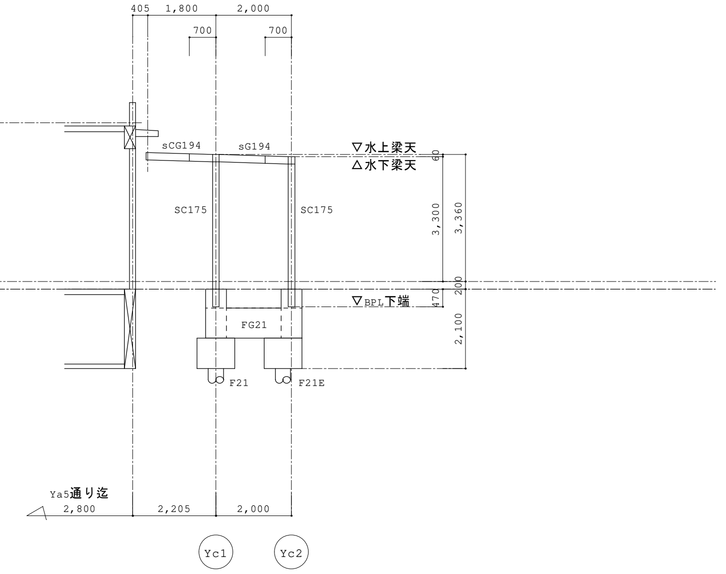
JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	標題	軸組図（5）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200　図番 S－38

軸組図(6)　　1/100

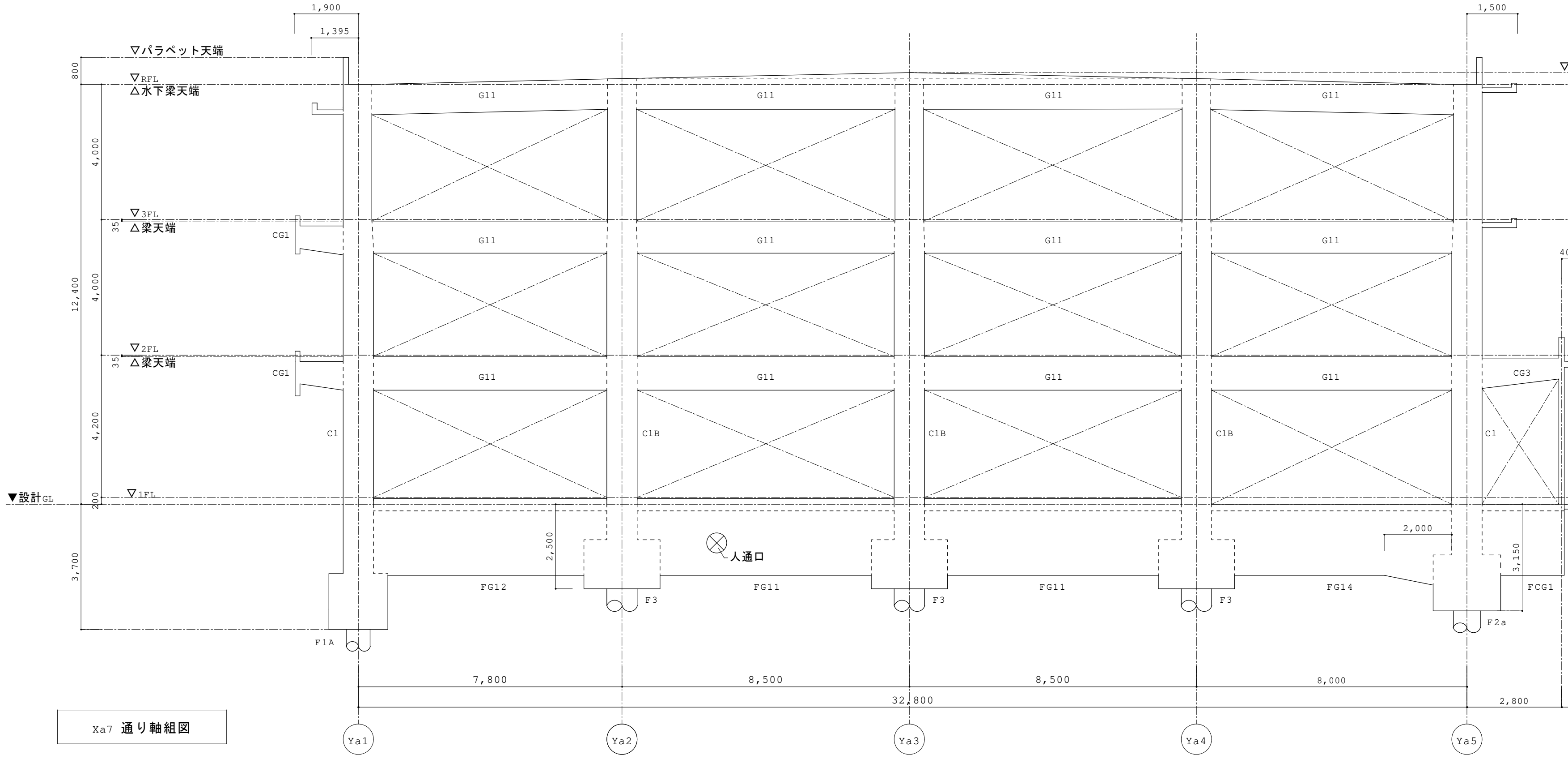
特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、Ⓥ印は水平スリットを示す。



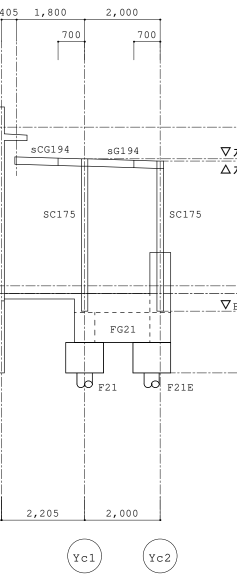
Xa6 通り軸組図



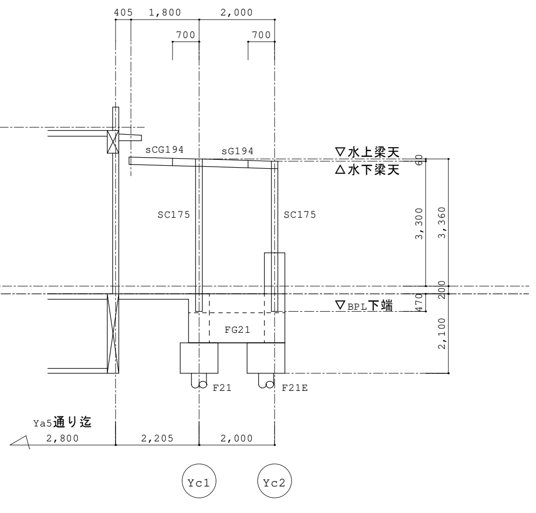
Xc1 通り軸組図



Xa7 通り軸組図



Xc3 通り軸組図



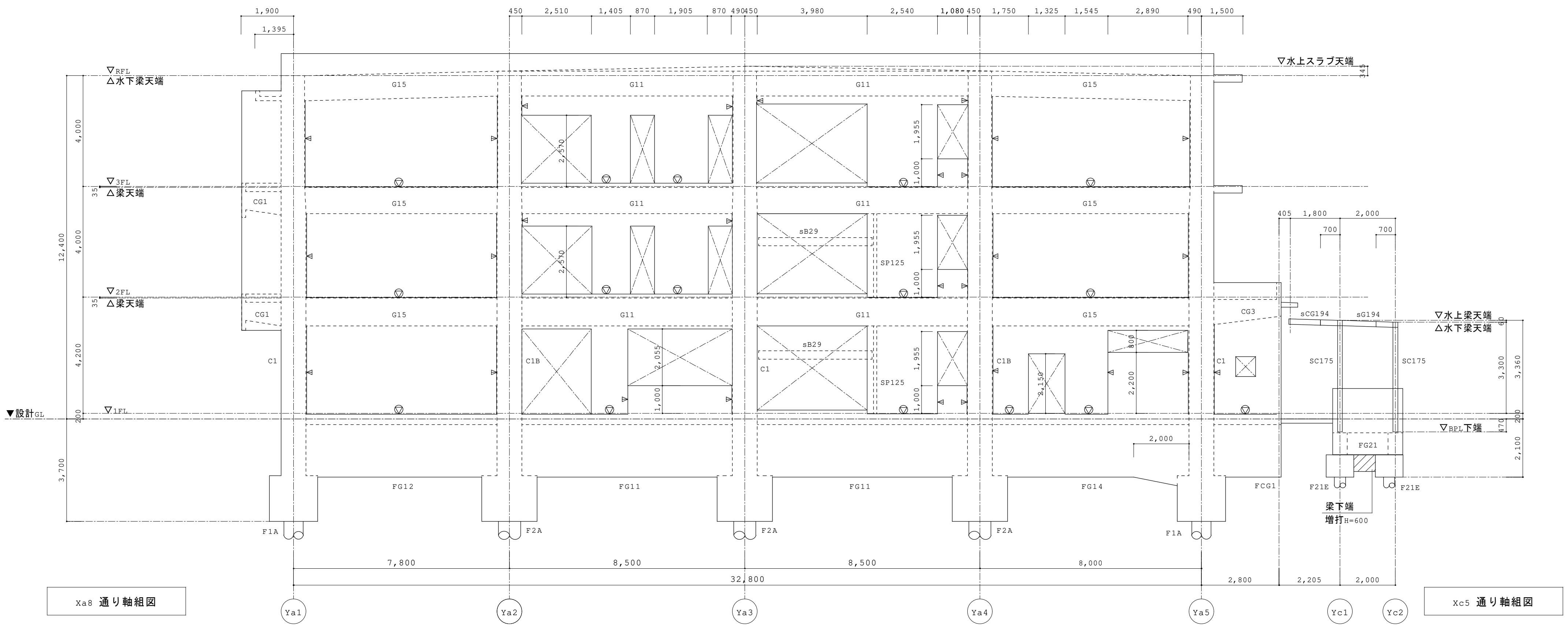
Xc2・Xc4 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（6）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S － 39

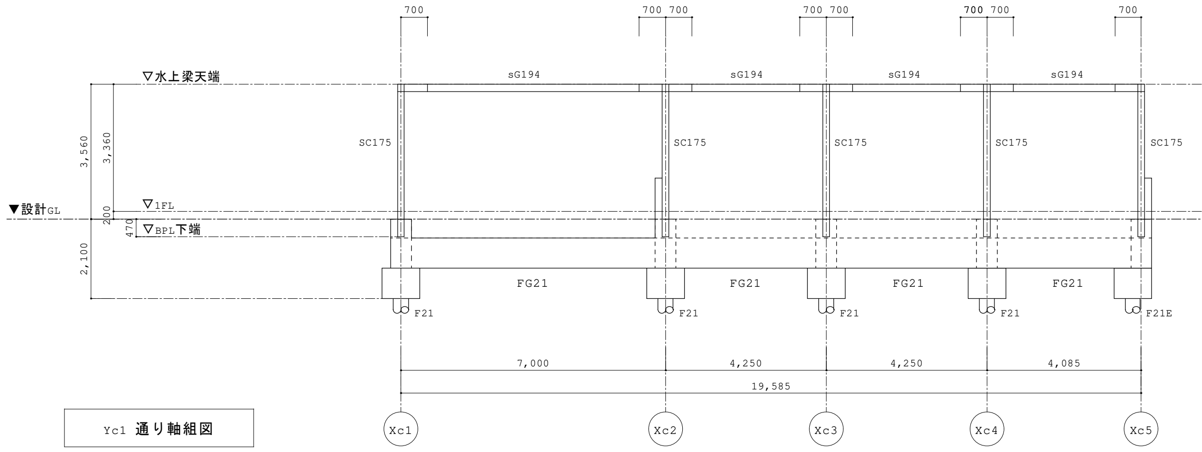
軸組図(7)　　1/100

特記無き限り　柱はC1
1.壁はW16　　2.構造スリット　◁印は鉛直スリット、 ⓥ印は水平スリットを示す。

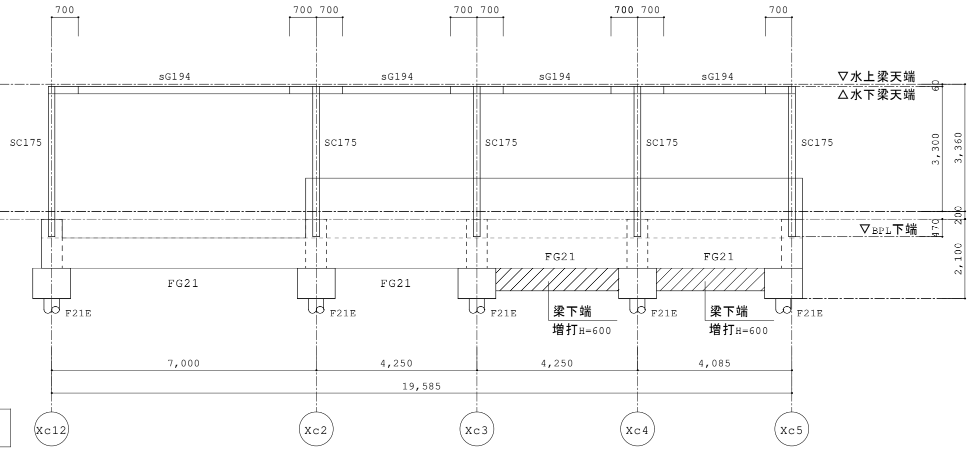


Xa8 通り軸組図

Xc5 通り軸組図



Yc1 通り軸組図

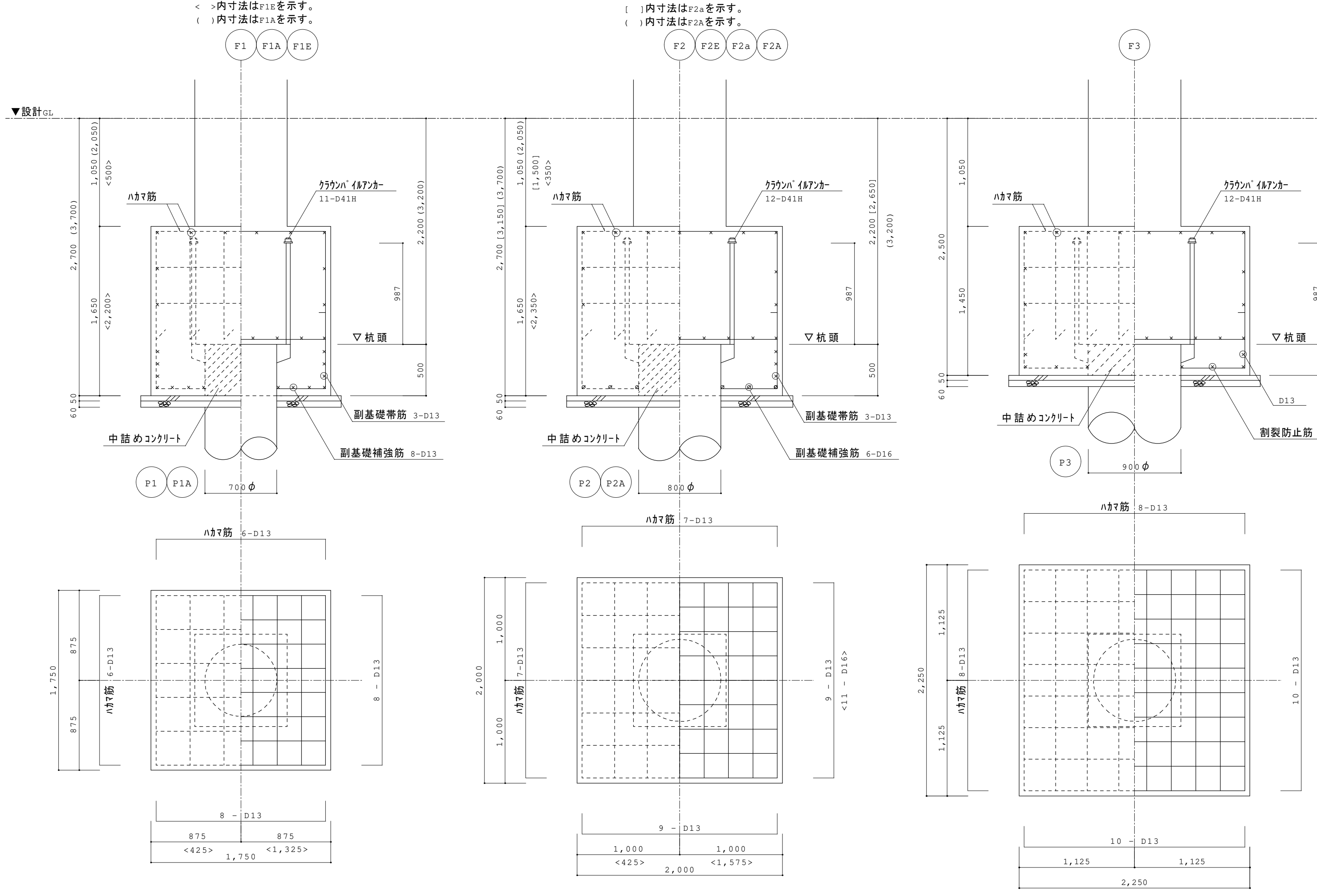


Yc2 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

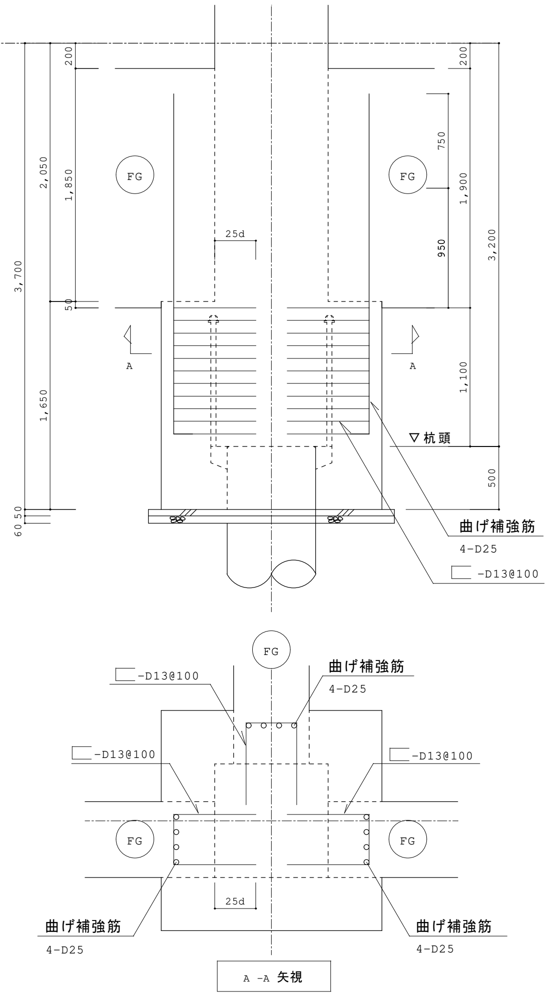
JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	標題	軸組図（7）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S－40

基礎リスト　1/30



フーチング補強要領図

フーチング上端と基礎梁下端の重なりが100mm以下の場合
補強該当箇所
X方向：Ya1/Xa4～Xa7通り
Y方向：Xa4～Xa8/Ya1通り



杭仕様（ Hyper-MEGA工法(標準型)(または同等工法)/大臣認定番号 TACP-0530/嵌合方式無溶接継手）

符　号	杭天端 設計GL-(m)	杭長(m)	杭径(杭種)/長さ 上杭	中杭	下杭	長期支持力 (kN)	本数
P1	2,200	28.0	HiSC105 I (t=16)700φ/L=5.0m	ONA105-C1 700φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)700-900φ/L=12.0m	3,770	6
P1A	3,200	27.0	HiSC105 I (t=16)700φ/L=5.0m	ONA105-C1 700φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)700-900φ/L=11.0m	3,770	6
P2	2,200/2,650	28.0	HiSC105 I (t=16)800φ/L=5.0m	ONA105-C1 800φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)800-1000φ/L=12.0m	4,440	7/3
P2A	3,200	27.0	HiSC105 I (t=16)800φ/L=5.0m	ONA105-C1 800φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)800-1000φ/L=11.0m	4,550	3
P3	2,200	28.0	HiSC105 I (t=14)900φ/L=5.0m	ONA105-B1 900φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)900-1100φ/L=12.0m	5,410	13
						合　計	38

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.
125280

2026 年 03 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）

一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所

設計 ・ ・

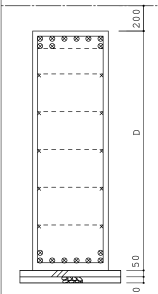
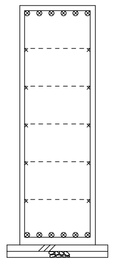
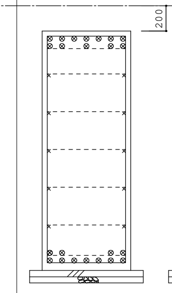
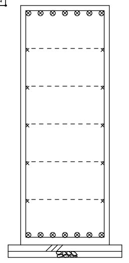
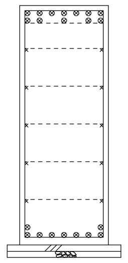
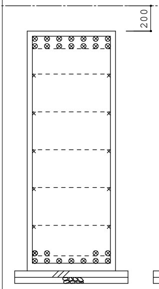
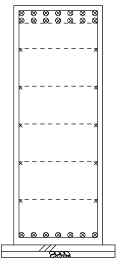
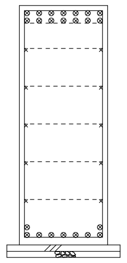
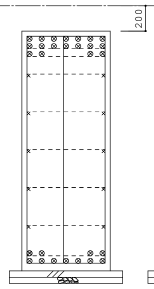
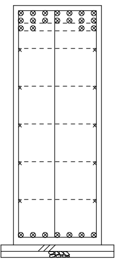
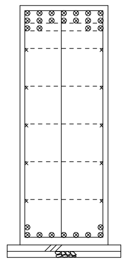
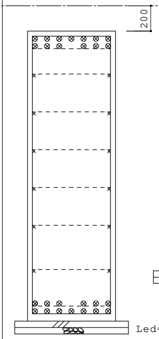
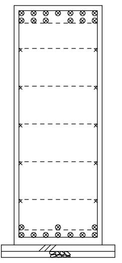
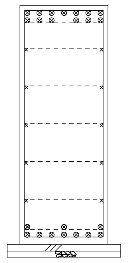
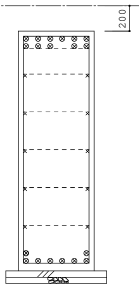
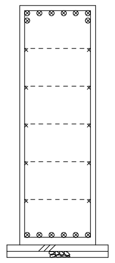
標題 基礎リスト

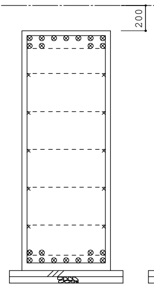
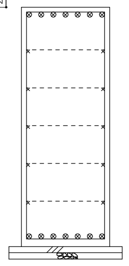
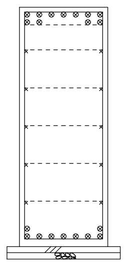
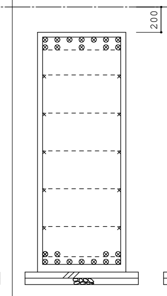
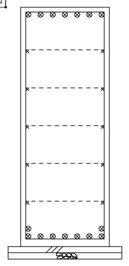
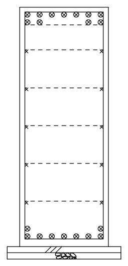
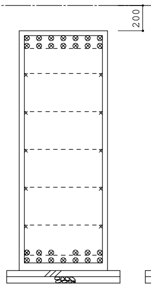
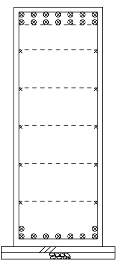
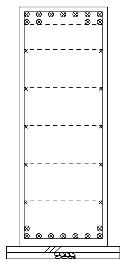
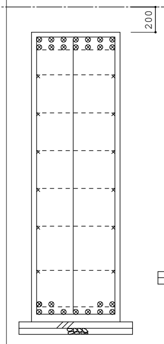
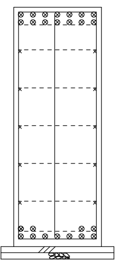
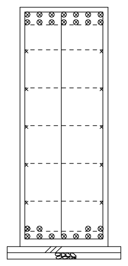
縮尺 A1:1/30 A3:1/60

図番 S－41

基礎梁リスト 1/30

特記なき限り 幅止め筋 D10 @1000以内

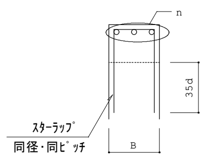
符 号	FG1			FG2			FG3			FG4			FG5(FG5A)			FCG1	
位 置	両端部	中央部		外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	Xa8端部	中央部	Xa7端部	元端・中央部	先端部
▽1FL 200	Leu=3100			Leu=3500		Leu=3500											
△設計G.L 断 面	 Led=2800			 Led=2900		 Led=2700	 Led=2800		 Led=2700	 Led=2700		 Led=2700	 Led=3700				
B x D	600x1900			700x1900			700x1900			700x1900			700x2300 ～ 700x1900			600x1900	
上端筋	6/3-D29	6-D29		7/5-D29	7-D29	7/5-D29	7/7-D29	7/7-D29	7/7-D29	7/7/4-D29	7/7/4-D29	7/7/4-D29	7/6-D29	7/6-D29	7/6-D29	6/5-D29	6/2-D29
下端筋	6/2-D29	6-D29		7/4-D29	7-D29	7/2-D29	7/4-D29	7-D29	7/2-D29	7/4-D29	7-D29	7/2-D29	7/6-D29	7/3-D29	7/3-D29	6/2-D29	6-D29
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200			□-D13@150			□-D13@100			3◫-D13@100			□-D13@100 (3◫-D13@100)			□-D13@200	
腹 筋	10-D13			10-D13			10-D13			10-D13			10～12-D13			10-D13	

符 号	FG11(FG11a)			FG12			FG13			FG14		
位 置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	Ya5端部	中央部	Ya4端部
▽1FL 200	Leu=3100		Leu=3100	Leu=3500		Leu=3100						
△設計G.L 断 面	 Led=2900		 Led=2700	 Led=2900		 Led=3300	 Led=3300					
B x D	(800x1900) 700x1900			700x1900			700x1900			700x2300 ～ 700x1900		
上端筋	7/4-D29	7-D29	7/4-D29	7/5-D29	7-D29	7/4-D29	7/7-D29	7/7-D29	7/4-D29	7/7-D29	7/7-D29	7/7-D29
下端筋	7/4-D29	7-D29	7/2-D29	7/4-D29	7/2-D29	7/2-D29	7/6-D29	7/2-D29	7/2-D29	7/4-D29	7/4-D29	7/4-D29
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@150			□-D13@150			□-D13@100			3◫-D13@100		
腹 筋	10-D13			10-D13			10-D13			10～12-D13		

増打ち補強筋

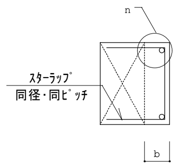
上・下端共

B＜300	n= 2-D13
300≦B＜450	n= 3-D16
450≦B＜650	n= 4-D16
650≦B	n= D16@200

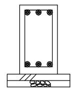
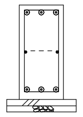
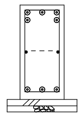
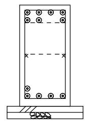
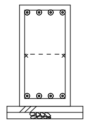
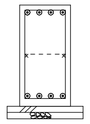
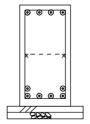
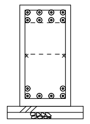
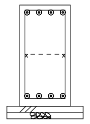
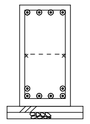
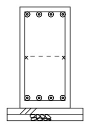
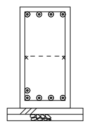
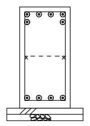
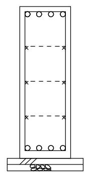
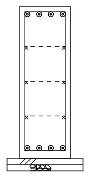
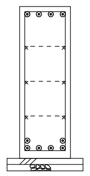
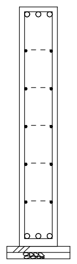


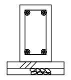
側面

100＜b＜200	n= 1-D16
200≦b＜350	n= 2-D16
350≦b＜550	n= 3-D16
550≦b	n= D19@200

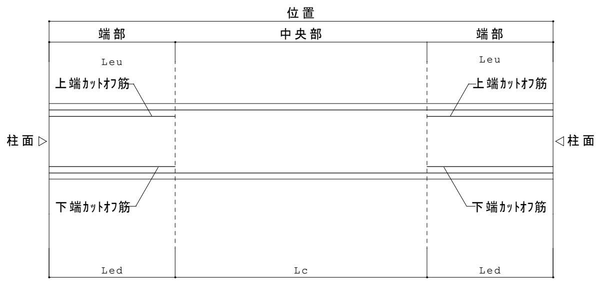


※腹筋 同径@200程度

符 号	FB1	FB2		FB3(FB3a)		FB4			FB5(FB5a)		FB6			FB7	FB8		FB9
位 置	全断面	外端・中央部	連続端	両端部	中央部（全断面）	他端部	中央部	連続端	両端部	中央部	他端部	中央部	連続端	全断面	両端部	中央部	全断面
断 面				 （ ）内はFB3aを示す。					 （ ）内はFB5aを示す。								
B x D	300x550	350x750		400x800		400x800			400x800		400x800			400x1200	400x1200		300x1900
上端筋	3-D19	3-D25	3/2-D25	4/3-D25	4-D25(4/1-D25)	4-D25	4-D25	4/4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4/2-D25	4-D22	4-D25	4-D25	3-D22
下端筋	3-D19	3-D25	3-D25	4/1-D25	4-D25(4/1-D25)	4-D25	4/2-D25	4/2-D25	4-D25	4/2-D25(4/4-D25)	4-D25	4/1-D25	4-D25	4-D22	4-D25	4/2-D25	3-D22
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200		□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200
腹 筋	-	2-D10		2-D13		2-D13			2-D13		2-D13			6-D13	6-D13		10-D10

符 号	FB10
位 置	全断面
断 面	
B x D	250x450
上端筋	2-D19
下端筋	2-D19
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200
腹 筋	-

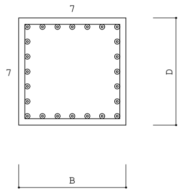
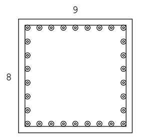
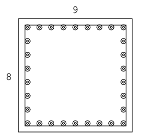
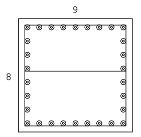
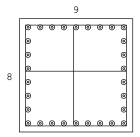
ｶｯﾄｵﾌ筋長さ（断面ﾘｽﾄにｶｯﾄｵﾌ筋長さ参照）



構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 基礎梁リスト	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図番 S－42

柱リスト 1/30

符 号		C1	C1A	C1B
3 階				
B x D		850 x 850		
主 筋		24 - D25		
HooP	X方向	□-S13@100		
	Y方向	□-S13@100		
2 階				
B x D		900 x 900		
主 筋		30 - D25		
HooP	X方向	□-S13@100(3⊟-S13@100)		
	Y方向	□-S13@100(3◫-S13@100)		
1 階				
B x D		900 x 900	900 x 900	900 x 900
主 筋		30 - D25	30 - D25	30 - D25
HooP	X方向	□-S13@100(3⊟-S13@100)	X方向 3⊟-S13@100	X方向 3⊟-S13@100
	Y方向	□-S13@100(3◫-S13@100)	Y方向 □-S13@100(3◫-S13@100)	Y方向 3◫-S13@100

特記なき限り

1. コンクリート　Fc=27N/mm²
2. 鉄 筋　D10〜D16(SD295)/D19〜D25(SD345)
3. HooP　HooPは全て溶接閉鎖型とする。S13:高強度せん断補強筋 MK785
（ ）内HooPは仕口部を示す。

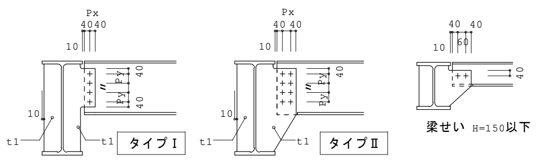
鉄骨部材リスト

特記なき限り
鉄骨材質 SS400（PLはSN400B）ボルト H.T.B S10T

符 号	部 材	備 考
sG40/sCG40	全断面 H -400x200x8x13(SN400B)	J1
sG390	全断面 H -390x300x10x16(SN400B)	J2
sCG25	全断面 H -250x125x6x9(SN400B)	
sB35	H -350x175x7x11(GPL-9,3-M20(Py=90))	伏図中●印部G·PL- 9,2x3-M20(Py=90)/タイプⅠ
sB29	H -298x149x5.5x8	G·PL- 9,3-M20(Py=80)
sB25	H -250x125x6x9	G·PL- 9,2-M20(Py=90)
sB17	H -175x90x5x8	G·PL- 6,2-M16
sB100	H -100x100x6x8	G·PL- 6,2-M16
sb1	[-100x50x5x7.5	G·PL-6,2-M16
sb2	[-125x65x6x8	G·PL-9,2-M20(Px=80)
a	□-100x100x3.2(STKR400)	G·PL-6,2-M16(中ボルト)
水平ブレース	M20	G·PL-9,1-M20
母 屋	C-100x50x20x2.3@303(SSC400)	G·PL-4.5,2-M12(中ボルト)
	2C-100x50x20x2.3@1820(SSC400)	G·PL-4.5,2-M12(中ボルト)
内部階段	ササラ PL-19x350	G·PL-19,2-M20　踊場補強材 L-50x50x5@300
	PL-4.5(踏板)	B·PL-19x380x150, A·Bolt 2-M16(L=400フック付)

共通事項

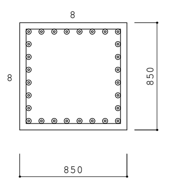
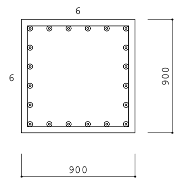
1. H形鋼梁ピン接合継ぎ手要領
指示なき場合はタイプⅠとし、ガセットプレート厚はt1とする。（下記図はガセットプレートタイプを示す。）
特記なき限り　Px=60,Py=60



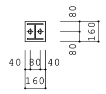
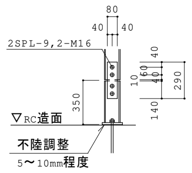
EV 鉄骨部材リスト（配置等はEV詳細図参照）

符 号	部材用途	部 材
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元（荷重19.6kN用）	t22（φ75穴付）
EB17T	トロリービーム（荷重29.4kN）	H-175x175x7.5x11
EB15T	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10
EB12T	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-125x125x6.5x9

鉄骨柱リスト 1/30

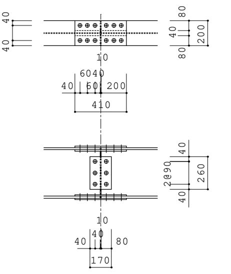
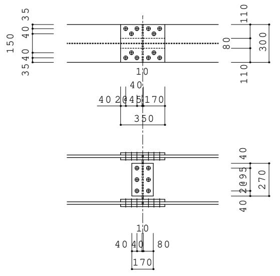
符 号	SC1	SC2
PH 階	□-350x350x12(BCR295)	○-406.4x16(STK400)
柱 脚	ベースパック 35-12F2	ベースパック 406-19V2
柱 型		
主 筋	28-D25	20-D25
HooP	□-D13@100	□-D13@100

間柱リスト 1/30

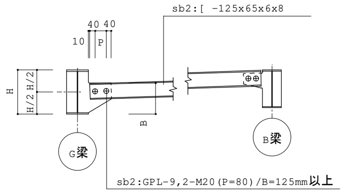
符 号	SP125
部 材	H- 125x125x6.5x9(SS400)
接合部	2SPL-9,2-M16
柱 頭 柱 脚	
ベースプレート	BPL-16x160x160(SN400B)
アンカーボルト	2-M16(L=320,フック付,DN/SS400)
RC造 接合部	

継手リスト 1/30

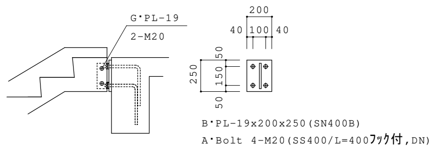
特記なき限り
鉄骨材質SN400B　スプライス PLはSN材かつ母材と同等強度とする。

J1	H -400×200×8×13(SN400B)				J2	H -390×300×10×16(SN400B)			
									
フランジ	外	S·PL- 9×410×200	H.T.B	6-M22	フランジ	外	S·PL-12×350×300	H.T.B	6-M22
	内	2S·PL- 9×410× 80				内	2S·PL-12×350×110		
ウェブ		2S·PL- 9×170×260	H.T.B	3-M22	ウェブ		2S·PL- 9×170×270	H.T.B	3-M22

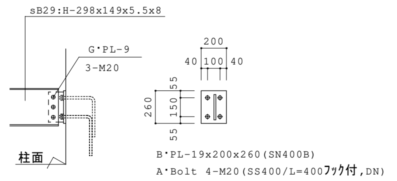
横補剛接合部詳細図 1/30



ササラプレートRC造部接合詳細図 1/30



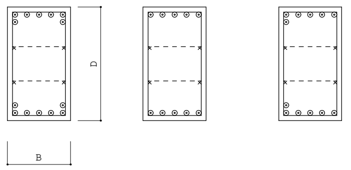
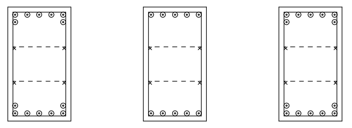
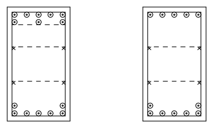
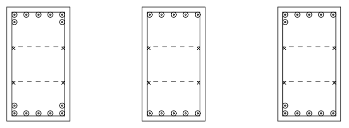
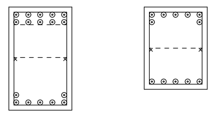
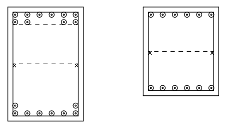
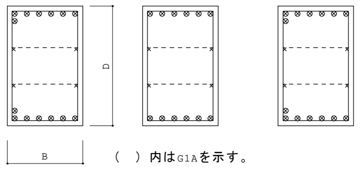
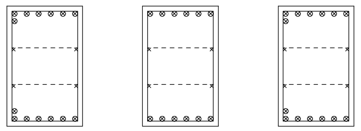
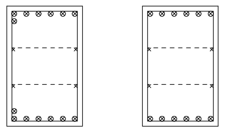
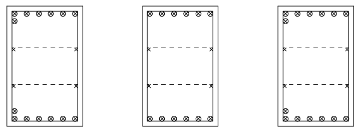
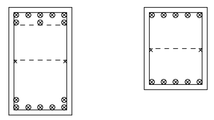
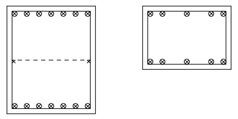
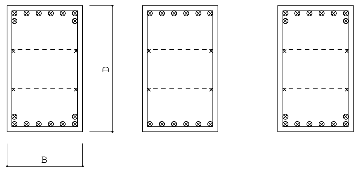
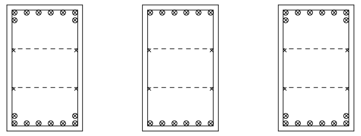
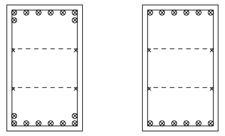
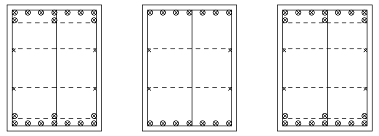
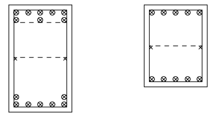
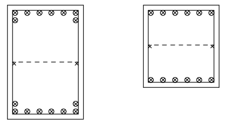
sB29 RC造部接合詳細図 1/30



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

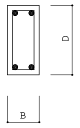
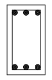
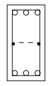
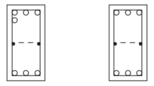
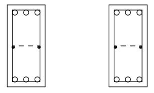
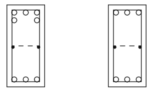
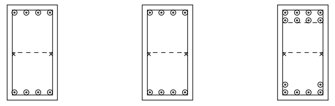
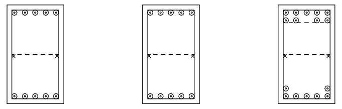
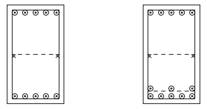
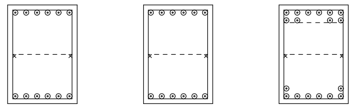
大梁リスト(1)　1/30

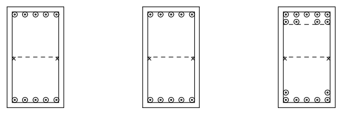
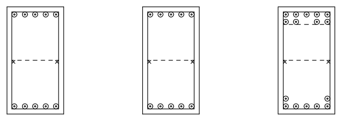
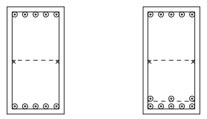
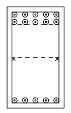
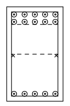
特記なき限り　1. 巾止め筋　D10 @1,000 以内とする。

符 号	G1(G1A)			G2			G3			G4			CG1			CG2			CG3		
位 置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	両端部	中央部		外端部	中央部	内端部	元端・中央部	先端部		元端・中央部	先端部				
R 階																					
B x D	500x900			500x900			500x900			500x900			500x650〜815			600x550〜900					
上端筋	5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/2-D25	5-D25	5/2-D25	5/3-D25	5-D25		5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/5-D25	5/2-D25		6/4-D25	6-D25				
下端筋	5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/2-D25	5-D25	5/2-D25	5/2-D25	5/2-D25		5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/2-D25	5-D25		6/2-D25	6-D25				
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200			□-D13 @200			□-D13 @150			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200					
腹 筋	4-D13			4-D13			4-D13			4-D13			2-D13			2-D13					
位 置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	両端部	中央部		外端部	中央部	内端部	元端・中央部	先端部		元端・中央部	先端部				
3 階	 （ ）内はG1Aを示す。																				
B x D	600x950			600x950			600x950			600x950			500x650〜850			700x500〜850					
上端筋	6/1-D29	6-D29	6/1-D29	6/1-D29	6-D29	6/1-D29	6/1-D29	6-D29		6/1-D29	6-D29	6/1-D29	5/3-D29	5-D29		7-D29	5-D29				
下端筋	6/1-D29	6-D29	6/1-D29	6/1-D29	6-D29	6/1-D29	6/1-D29	6-D29		6/1-D29	6-D29	6/1-D29	5/2-D29	5-D29		7-D29	5-D29				
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200(□-D13@100)			□-D13@200			□-D13 @150			□-D13@150			□-D13 @200			□-D13 @150					
腹 筋	4-D13			4-D13			4-D13			4-D13			2-D13			2-D13					
位 置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	両端部	中央部		外端部	中央部	内端部	元端・中央部	先端部					元端・中央部	先端部	
2 階																					
B x D	600x1000			600x1000			600x1000			750x1000			500x650〜850						600x650〜900		
上端筋	6/2-D29	6-D29	6/2-D29	6/2-D29	6-D29	6/2-D29	6/2-D29	6-D29		7/3-D29	7-D29	7/3-D29	5/3-D29	5-D29					6/2-D29	6-D29	
下端筋	6/2-D29	6-D29	6/2-D29	6/2-D29	6-D29	6/2-D29	6/2-D29	6-D29		7/3-D29	7-D29	7/3-D29	5/2-D29	5-D29					6/2-D29	6-D29	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100			□-D13@100			□-D13@100			3□-D13@100			□-D13 @200						□-D13 @200		
腹 筋	4-D13			4-D13			4-D13			4-D13			2-D13						2-D13		

小梁リスト(1)　1/30

特記なき限り　1.巾止め筋　D10 @1,000 以内とする。

符 号	B1	B2	B3	B4		B5(B5a)		B6		B7			B8			B8a			B9		
位 置	全断面	全断面	全断面	内端部	外端・中央部	両端部	中央部	内端部	外端・中央部	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	両端部	中央部		外端部	中央部	内端部
断 面						 ※( )内はB5aを示す。															
B x D	250x550	300x550	300x600	300x600		300x650(350x650)		300x650		400x750			450x780			450x780			550x780		
上端筋	2-D19	3-D19	3-D22	3/1-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	4-D25	4-D25	4/4-D25	5-D25	5-D25	5/4-D25	5-D25	5-D25		6-D25	6-D25	6/4-D25
下端筋	2-D19	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22(3/2-D22)	3-D22	3-D22	4-D25	4-D25	4/2-D25	5-D25	5-D25	5/2-D25	5-D25	5/3-D25		6-D25	6-D25	6/2-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D13@200			□-D13@150			□-D13@200			□-D13@200		
腹 筋	-	-	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D13			2-D13			2-D13			2-D13		

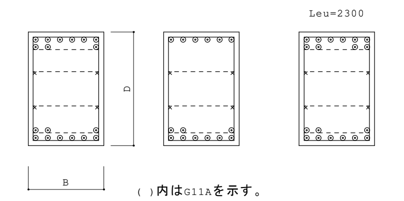
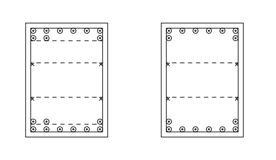
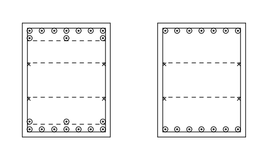
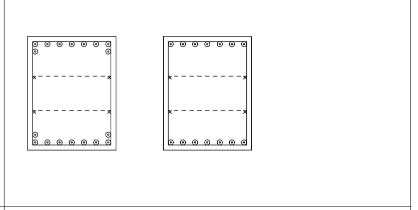
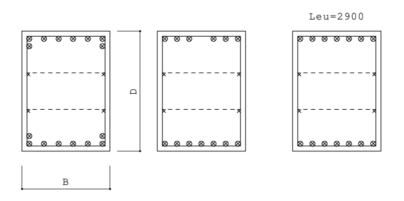
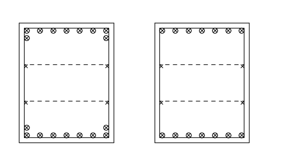
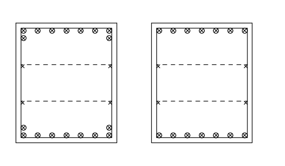
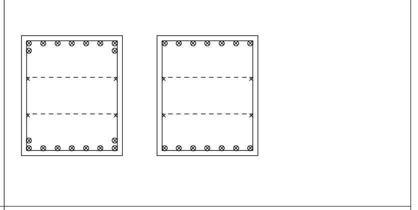
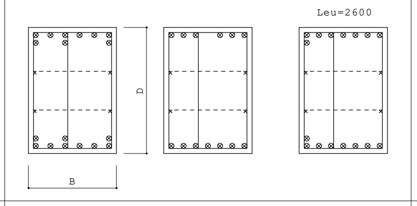
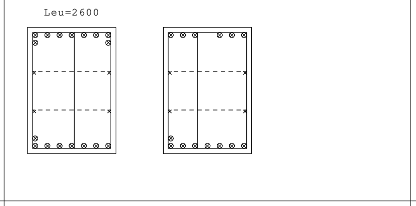
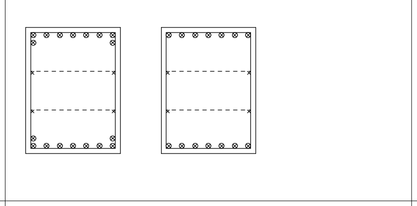
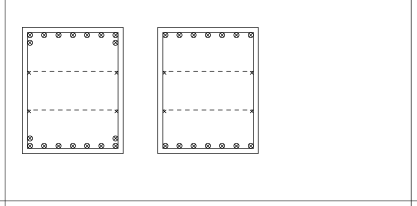
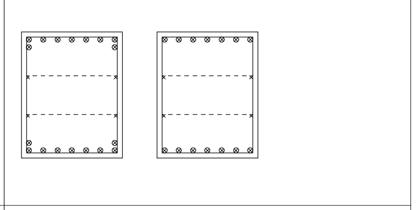
符 号	B10			B11			B11a		B12	B13
位 置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部	両端部	中央部	全断面	全断面
断 面										
B x D	450x800			450x850			450x850		450x800	450x750
上端筋	5-D25	5-D25	5/4-D25	5-D25	5-D25	5/4-D25	5-D25	5-D25	5/5-D25	5/5-D25
下端筋	5-D25	5-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5/2-D25	5-D25	5/3-D25	5-D25	5-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200			□-D13@150			□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200
腹 筋	2-D13			2-D13			2-D13		2-D13	2-D13

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	大梁リスト（1）/小梁リスト（1）	縮尺 A1:1/30 A3:1/60　図番 S－44

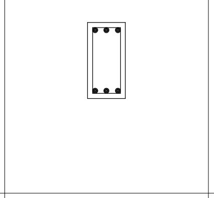
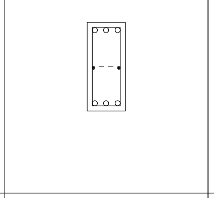
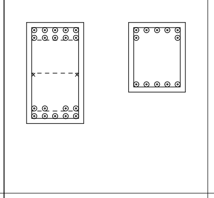
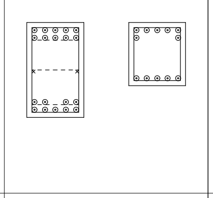
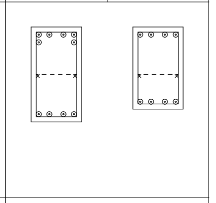
大梁リスト(2)　1/30

特記なき限り　1. 巾止め筋　D10 @1,000 以内とする。

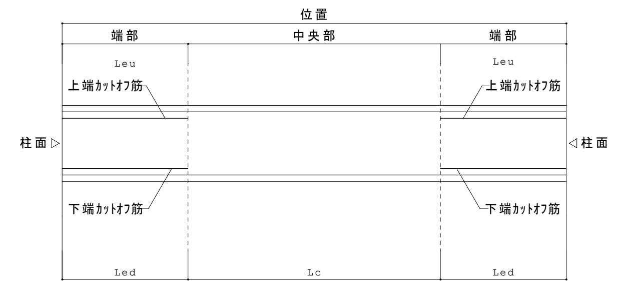
符号	G11(G11A)			G12			G13			G14			G15		
位置	外端部	中央部	内端部				両端部	中央部		両端部	中央部		両端部	中央部	
R階	 Leu=2300 ( )内はG11Aを示す。														
B x D	600x900						650x900			700x900			700x900		
上端筋	6/3-D25	6-D25	6/4-D25				6/3-D25	6/2-D25		7/3-D25	7-D25		7/2-D25	7-D25	
下端筋	6/3-D25	6/3-D25	6/3-D25				6/3-D25	6/2-D25		7/3-D25	7-D25		7/2-D25	7-D25	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200(@150)						□-D13@100			□-D13@100			□-D13@100		
腹筋	4-D13						4-D13			4-D13			4-D13		
位置	外端部	中央部	内端部				両端部	中央部		両端部	中央部		両端部	中央部	
3階	 Leu=2900														
B x D	700x950						750x950			800x950			800x950		
上端筋	6/2-D29	6-D29	7-D29				7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29	
下端筋	6/2-D29	7-D29	7-D29				7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@150						□-D13@100			□-D13@100			□-D13@100		
腹筋	4-D13						4-D13			4-D13			4-D13		
位置	外端部	中央部	内端部	両端部	中央部		両端部	中央部		両端部	中央部		両端部	中央部	
2階	 Leu=2600			 Leu=2600											
B x D	700x1000			700x1000			750x1000			800x1000			800x1000		
上端筋	6/3-D29	6-D29	7/1-D29	7/2-D29	6-D29		7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29	
下端筋	6/3-D29	7-D29	7/1-D29	7/1-D29	7/1-D29		7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29		7/2-D29	7-D29	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	3□-D13@100			3□-D13@100			□-D13@100			□-D13@100			□-D13@100		
腹筋	4-D13			4-D13			4-D13			4-D13			4-D13		

小梁リスト(2)　1/30

特記なき限り　1.巾止め筋　D10 @1,000 以内とする。

符号	B14	B15	CB1		CB2		CB3	
位置	全断面	全断面	元端・中央部	先端部	元端・中央部	先端部	元端・中央部	先端部
断面								
B x D	300x500	300x700	450x550〜800		450x500〜750		400x650〜750	
上端筋	3-D19	3-D22	5/5-D25	5/2-D25	5/5-D25	5/2-D25	4/2-D25	4-D25
下端筋	3-D19	3-D22	5/4-D25	5-D25	5/4-D25	5-D25	4-D25	4-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	
腹筋	-	2-D10	2-D13		2-D13		2-D13	

ｶｯﾄｵﾌ筋長さ（断面ﾘｽﾄにｶｯﾄｵﾌ筋長さ参照）



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

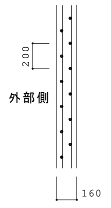
JOB NO.	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	大梁リスト（2）/小梁リスト（2）	縮尺	A1:1/30 A3:1/60	図番	S — 45
125280											

スラブリスト

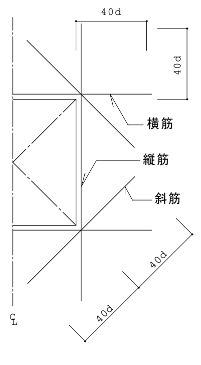
符号	ｽﾗﾌﾞ厚	位置	短辺方向（主筋方向）			長辺方向（配力筋方向）			備考
			端部	中央部	周辺部	端部	中央部	周辺部	
S1	150	上端筋	D10･D13 @200	←	←	D10･D13 @200	←	←	土に接する場合
		下端筋	D10 @200	←	←	D10 @200	←	←	砕石 ｱ100
S2	150	上端筋	D10･D13 @150	←	←	D10･D13 @200	←	←	土に接する場合
		下端筋	D10 @150	←	←	D10 @200	←	←	砕石 ｱ100
S3	150	上端筋	D10･D13 @150	←	←	D10･D13 @150	←	←	土に接する場合
		下端筋	D10 @150	←	←	D10 @150	←	←	砕石 ｱ100
S4	200	上端筋	D13 @200	←	←	D13 @200	←	←	EVピット
		下端筋	D13 @200	←	←	D13 @200	←	←	砕石 ｱ100
S01	120	ｼﾝｸﾞﾙ配筋	D10 @200	←	←	D10 @200	←	←	砕石 ｱ100 ピット床
S02	150	ｼﾝｸﾞﾙ配筋	D10D13@200	←	←	D10D13@200	←	←	砕石 ｱ100
S03	180	上端筋	D10･D13 @200	←	←	D10･D13 @200	←	←	捨てコン ア50
		下端筋	D10･D13 @200	←	←	D10･D13 @200	←	←	

壁リスト

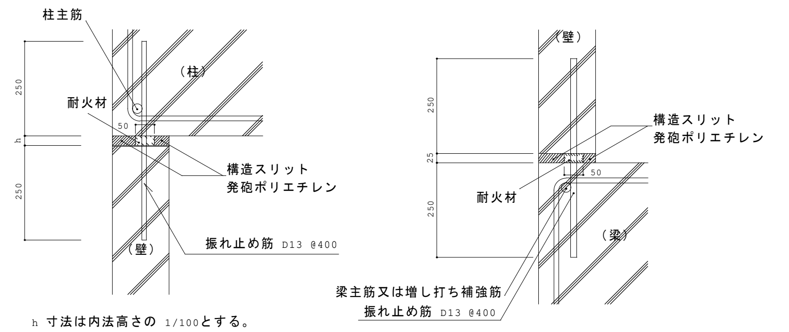
特記なき限り 1.巾止筋は、D10 @1,000以内とする。

符号		W16			
断面					
縦筋		D10 @200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ			
横筋		D10 @200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ			
開口補強	縦筋	1-D13			
	横筋	1-D13			
	斜筋	1-D10			
備考					

開口部補強要領



耐震スリット詳細図（完全スリット型）

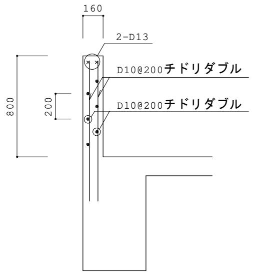


垂直スリット

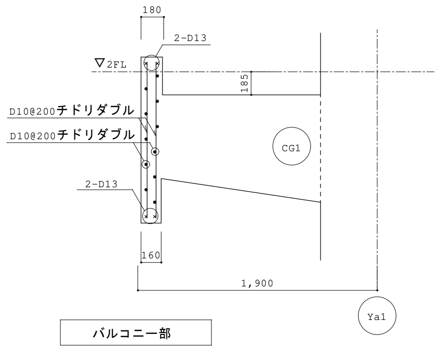
水平スリット

h 寸法は内法高さの 1/100とする。

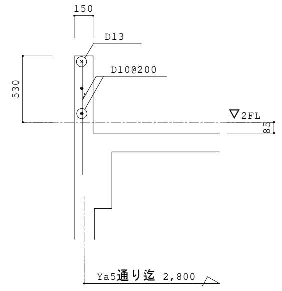
立上り配筋詳細図 1/30



パラペット部

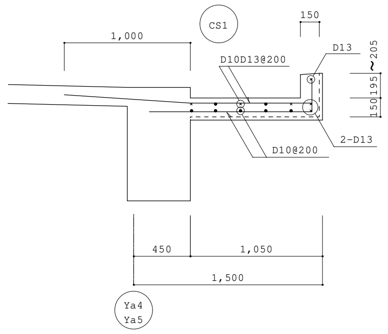


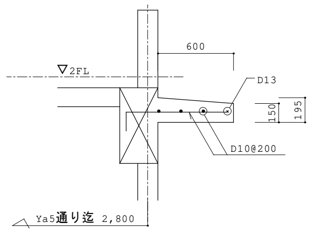
バルコニー部



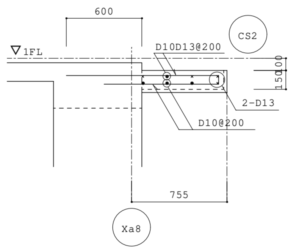
2階 パラペット部

片持ち床リスト 1/30

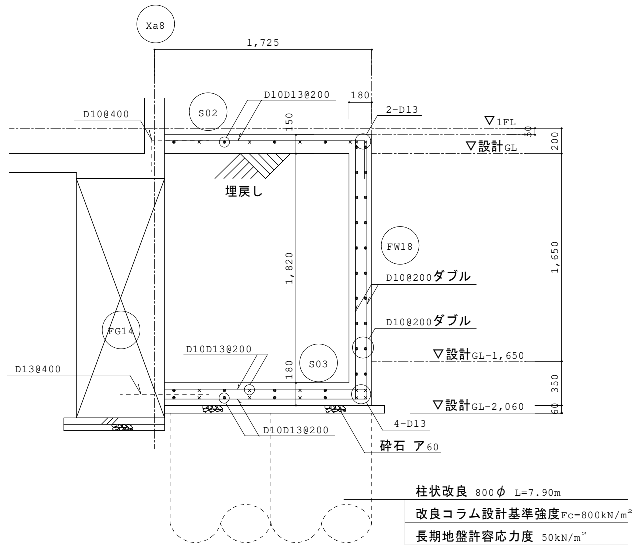




小庇部



1階設備置場配筋詳細図 1/30

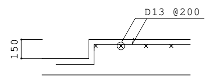


柱状改良 800φ L=7.90m

改良コラム設計基準強度Fc=800kN/m²

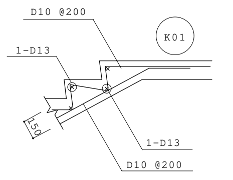
長期地盤許容応力度 50kN/m²

設備基礎配筋図 1/30



土間階段配筋詳細図 1/30

・表層改良を行わない箇所 砕石ｱ100



構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO.	年月	工事名	事務所	設計	標題	縮尺	図番
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	・ ・	スラブリスト・壁リスト/雑リスト	A1:1/30 A3:1/60	S — 46

Xa6 通り鉄骨詳細図 1/50

特記無き限り

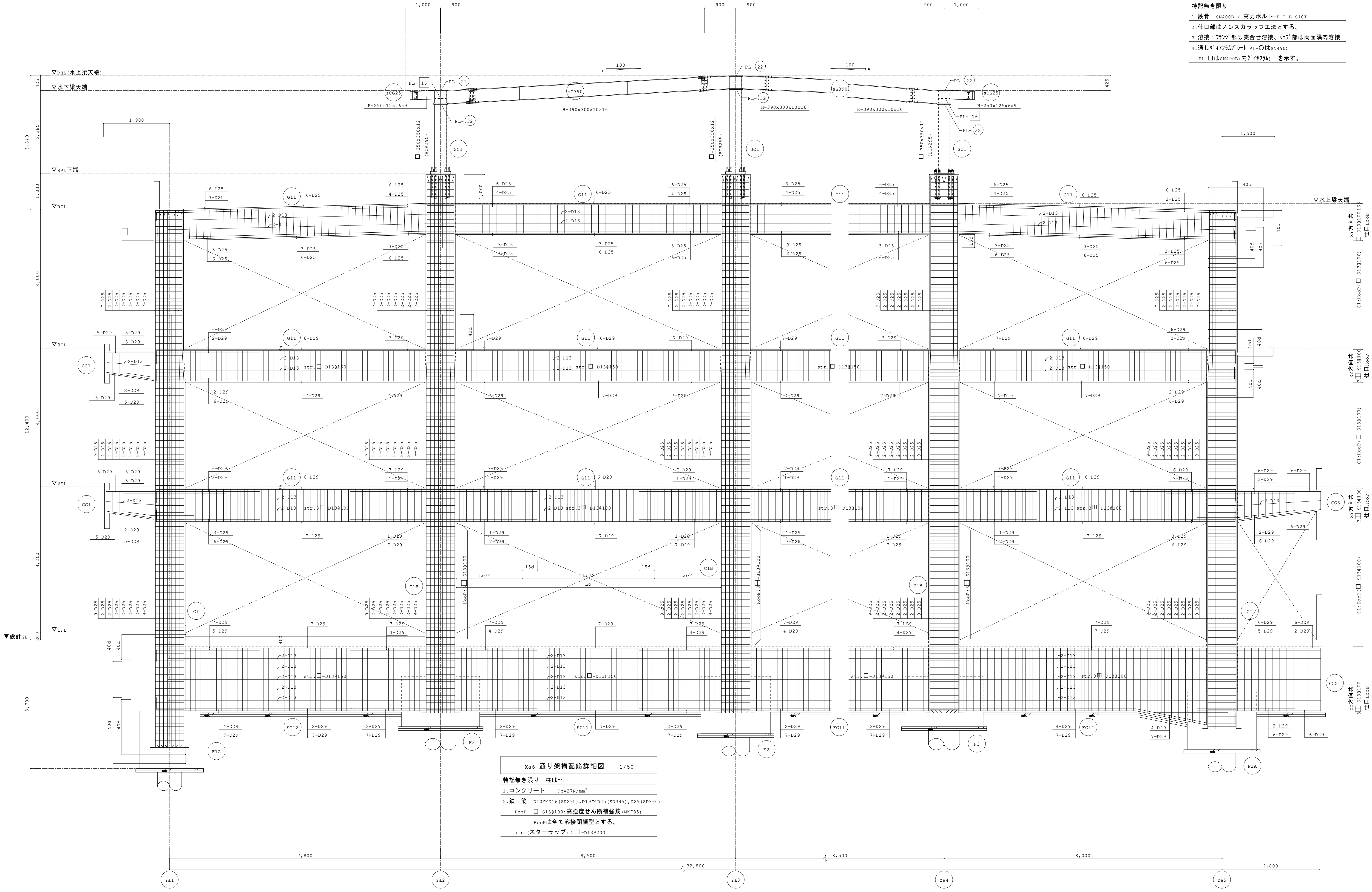
1.鉄骨 SN400B / 高力ボルト:H.T.B S10T

2.仕口部はノンスカラップ工法とする。

3.溶接：ﾌﾗﾝｼﾞ部は突合せ溶接、ｳｪﾌﾞ部は両面隅肉溶接

4.通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑﾌﾟﾚｰﾄ PL-○はSN490C

PL-□はSN490B(内ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ) を示す。



Xa6 通り架構配筋詳細図 1/50

特記無き限り 柱はC1

1.コンクリート Fc=27N/mm^2

2.鉄 筋 D10〜D16(SD295),D19〜D25(SD345),D29(SD390)

HooP □-S13@100:高強度せん断補強筋(MK785)

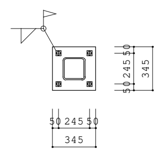
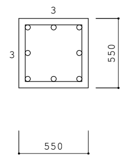
HooPは全て溶接閉鎖型とする。

str.(スターラップ)：□-D13@200

構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO.	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	標題	架構配筋詳細図/鉄骨詳細図	縮尺	A1:1/50 A3:1/100	図番	S － 47
125280											

鉄骨柱リスト 1/30

符　号	SC175
1 階	□-175x175x9(BCR295)
柱　脚	 ※座金は現場隅肉溶接
BPL	BPL-28x345x345(SN490B)
ABolt	4-M20(L=460,SNR490)
備　考	-
根巻き柱　脚	根巻き高さH=450以上(基礎梁天端より) 
主　筋	8-D22
HooP	□-D10@100

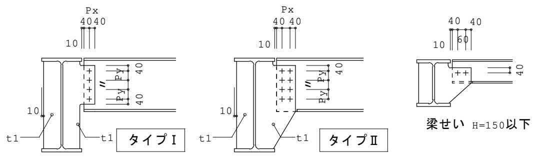
鉄骨部材リスト

特記なき限り
鉄骨材質 SS400（PLはSN400B）溶融亜鉛メッキ,高力ボルト F8T

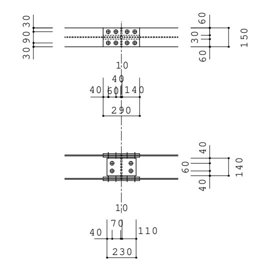
符　号	部　材		備　考
sG194	全断面	H -194x150x6x9(SN400B)	(J11)
sCG194/sCB194	全断面	H -194x150x6x9(SN400B)	(J11)
sB194	全断面	H -194x150x6x9(SN400B)	G･PL- 6,2-M16 (J11)
sB17	H -175x90x5x8		G･PL- 6,2-M16
sb3	[-100x50x5x7.5		G･PL-6,2-M16
水平ブレース	M16		G･PL-9,1-M16

共通事項

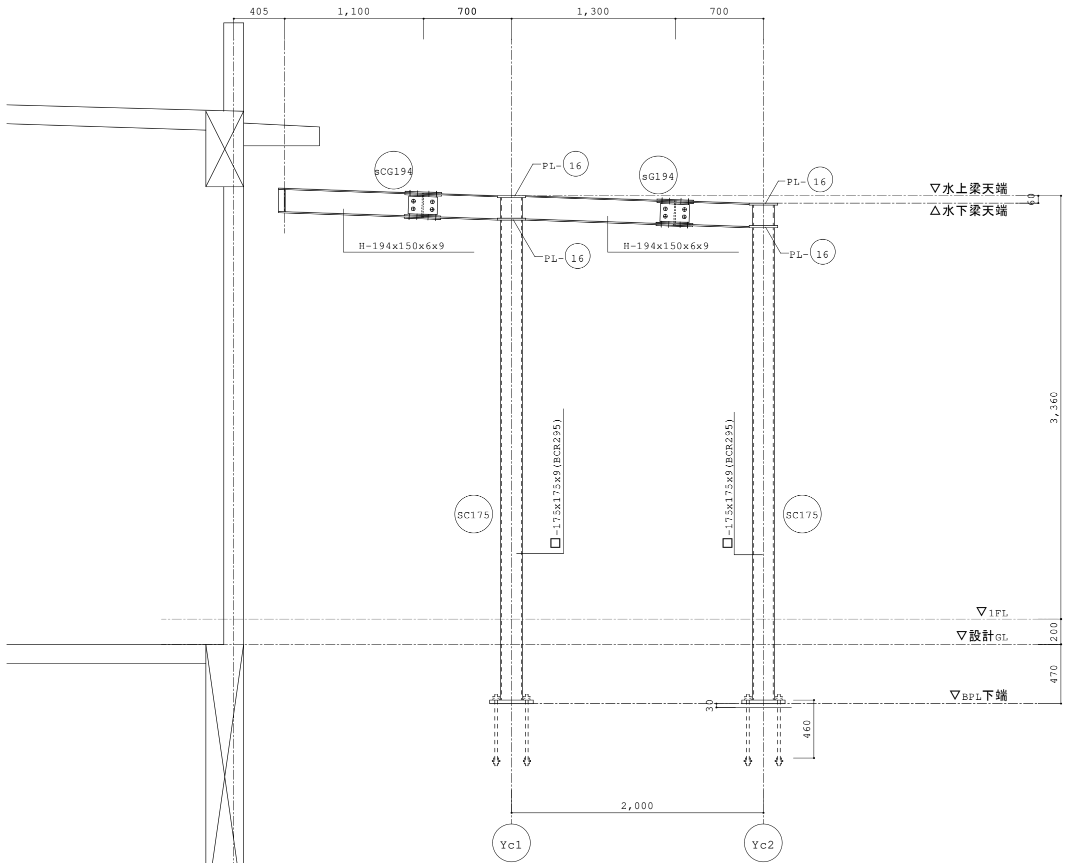
1. H形鋼梁ピン接合継ぎ手要領
指示なき場合はタイプⅠとし、ガセットプレート厚はt1とする。（下記図はガセットプレートタイプを示す。）
特記なき限り　Px=60,Py=60



(J11) H - 194×150×6×9



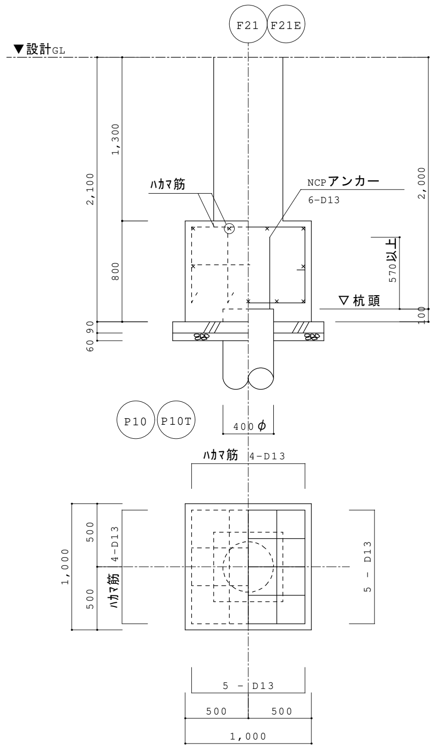
フランジ	外	S･PL- 9×290×150	H.T.B	4-M16
	内	2S･PL- 9×290× 60		
ウェブ		2S･PL- 6×230×140	H.T.B	2-M16



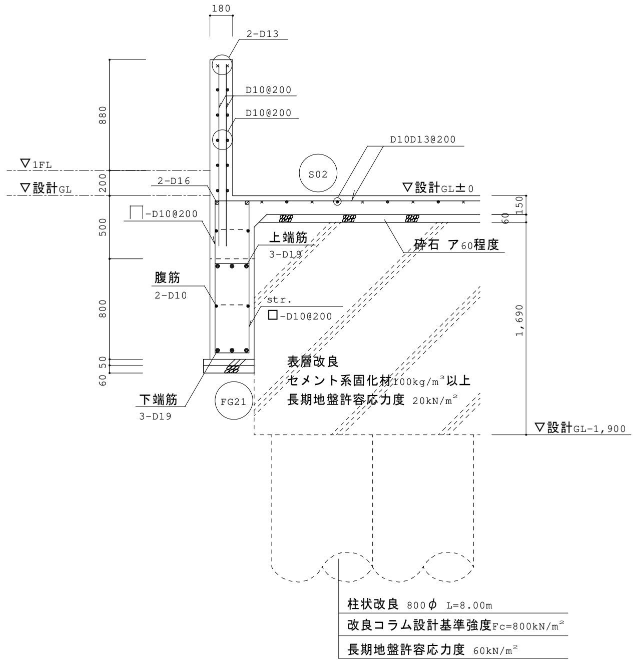
Xc2 通り鉄骨架構詳細図 1/50

特記無き限り
1.鉄骨　SN400B,溶融亜鉛メッキ / 高力ボルト:F8T
2.仕口部はノンスカラップ工法とする。
3.溶接：フランジ部は突合せ溶接、ウェブ部は両面隅肉溶接
4.通しダイアフラムプレート PL-○はSN490C

基礎リスト 1/30



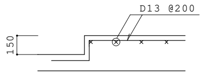
基礎梁リスト、腰壁・土間スラブ配筋詳細図 1/30



杭仕様（ Hyper-MEGA工法(または同等工法以上)/嵌合方式無溶接継手）

符　号	杭天端設計GL-(m)	杭長(m)	杭径(杭種)/長さ			長期支持力(kN)	本数
			上杭	中杭	下杭		
P10	2,000	27.0	PHC85(B種)400φ/L=5.0m	PHC85(A種)400φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)400-550φ/L=11.0m	1,130	7
P10T	2,000	27.0	PHC85(B種T100)400φ/L=5.0m	PHC85(A種T100)400φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種T100)400-550φ/L=11.0m	1,130	3
						合　計	10

設備架台配筋図 1/30

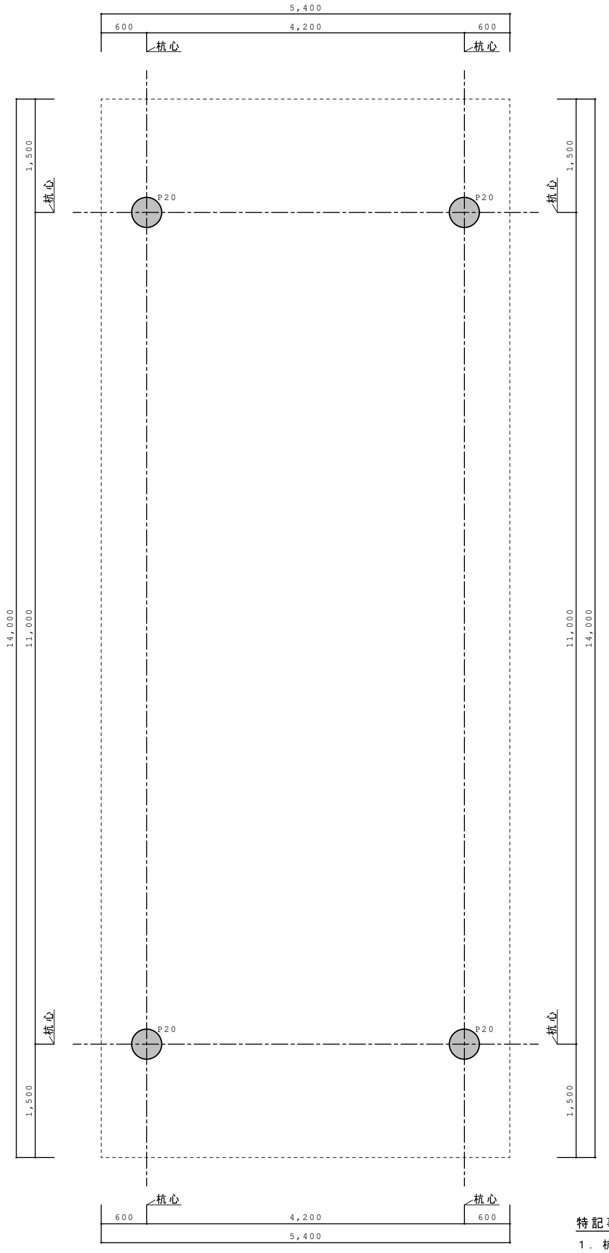


特記事項

1.コンクリート	Fc=24N/mm²
2.鉄　筋	D10〜D16(SDS295),D19〜D22(SD345)

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

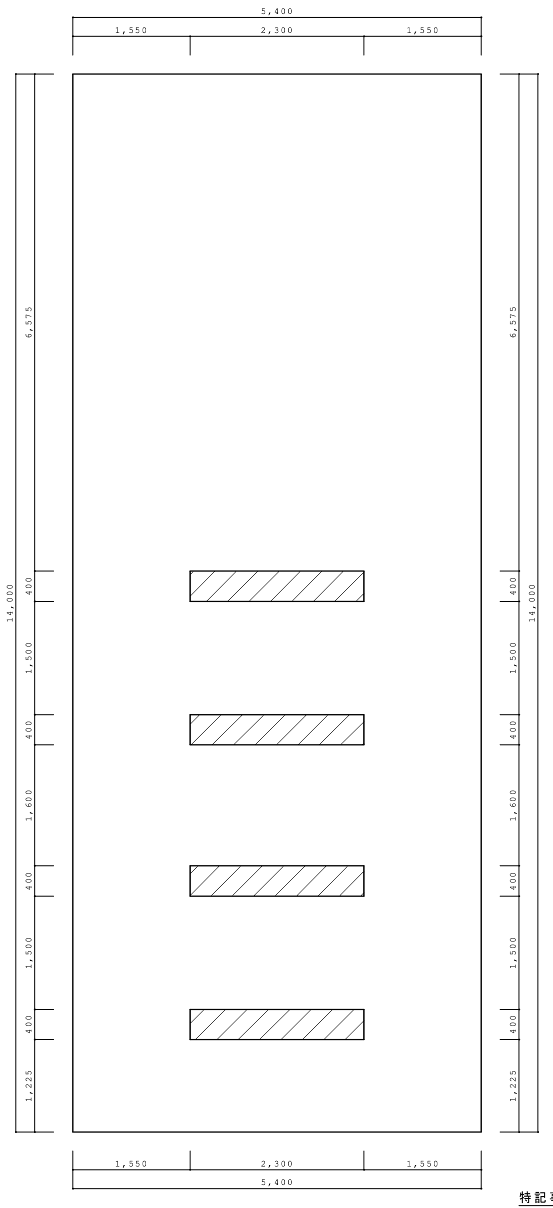
屋外設備基礎



杭伏図 1/50

特記事項

1．杭工法は、Ｈｙｐｅｒ－ＭＥＧＡ工法（標準型）（砂質地盤：認定番号ＴＡＣＰ－０５３０、礫質地盤：認定番号ＴＡＣＰ－０５３１）、または同等工法以上とする。
2．杭天端レベルは、設計ＧＬ－１,６５０mmとする。（※杭３００mm呑込み）



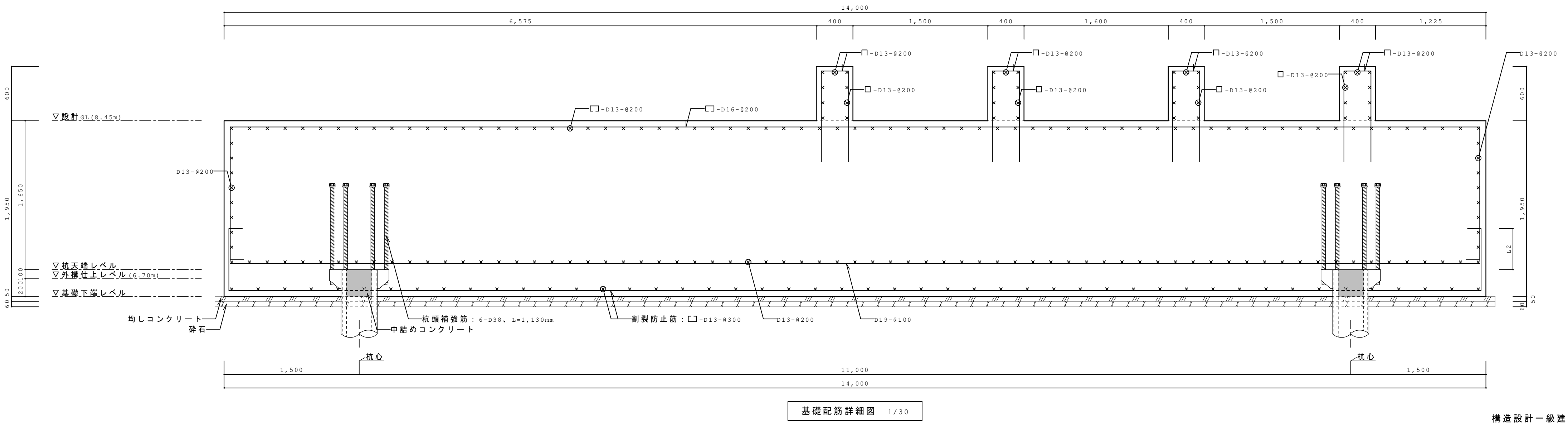
基礎伏図 1/50

特記事項

1．基礎下端レベルは、ＧＬ－１,９５０mmとする。
2．ＲＣ躯体天端レベル凡例（特記なきＲＣ躯体天端レベルは、ＧＬ±０mmとする。）
　▨：ＧＬ＋６００mm
3．コンクリート設計基準強度：ＦＣ２４－１５－２５
4．鉄筋：ＳＤ２９５（Ｄ１６以下）、ＳＤ３４５（Ｄ１９）

杭リスト

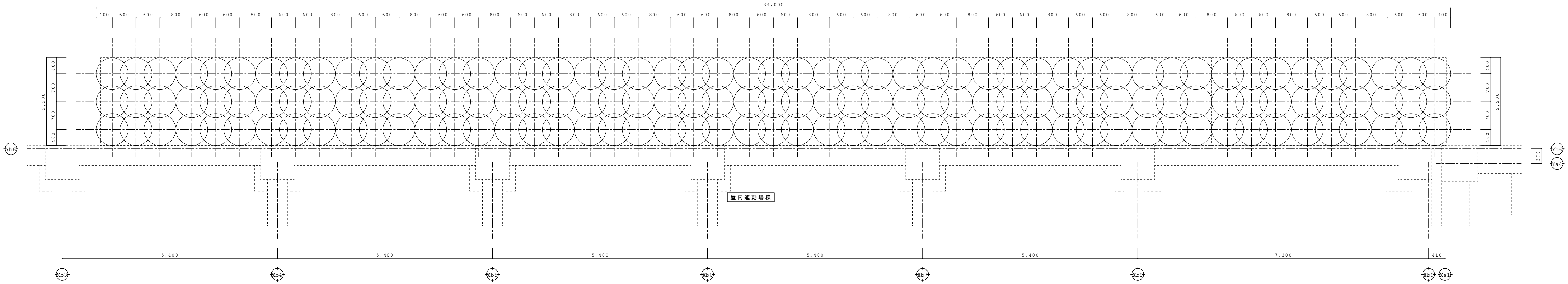
杭記号	杭符号	位置	杭径	杭種	杭長	杭全長	拡大比	杭設計用支持力（長期）	杭ＳＥＴ数	杭継手方法	杭頭補強筋
●	Ｐ２０	上杭	φ４００	ＳＣ杭　（１０５Ｎ）：ＨｉＳＣ１０５　－Ｉ種	７m	２７m	１.０	１,３９０ｋＮ/ＳＥＴ	４ＳＥＴ	無溶接型（機械式継手） Ｔ·Ｐジョイント 【ＢＣＪ評定-FD0183-08】	クラウンパイルアンカー工法　６－Ｄ３８ Ｄ３８Ｈ－Ｌ　Ｌ＝１,１３０mm 【ＢＣＪ評定-FD0511-04】　（ＳＤ４９０）
		中杭	φ４００	ＰＨＣ杭　（８５Ｎ）：ＰＨＣ８５　－Ａ種	１０m						
		下杭	φ４００－５５０mm	節付ＰＨＣ杭　（８５Ｎ）：ＨＦ－ＰＨＣ８５－Ａ種	１０m						



基礎配筋詳細図 1/30

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実

JOB NO.										
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	屋外設備基礎構造図	縮尺	A1:1/30、50 A3:1/60、100	図番 S－49



地盤改良伏図

特記事項

1．擁壁基礎底盤下端レベル＝ＧＬ－２，６００mmとする。

2．地盤改良は、柱状改良コラム工法とし、建築技術性能証明を取得した工法（ウルトラコラム工法、または同等工法以上）とする。

改良体設計基準強度　　Ｆｃ＝８００kN/m²
掘削深度　　ＧＬ－１２，６００mm
改良長　　Ｌ　＝９，９５０mm
改良コラム径
符号凡例
○：φ８００mm　　計：１５３ヶ所
柱状改良コラム天端レベル（均しコンクリート下端レベル）＝ＧＬ－２，６５０mm

3．擁壁設置位置は、監理者と協議の上、最終決定することとする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実

JOB NO. 125280
2026 年 03 月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所
設計　・　・
標題　屋外擁壁地盤改良図
縮尺　A1:1/ 50　A3:1/100
図番　S－50

屋内運動場棟　図面リスト

建築意匠

図面番号	図面内容
a	目次・特記仕様書
b	基本図
c	詳細図　矩計・平面詳細図
d	詳細図　展開図
e	詳細図　建具図・家具図・サイン図
f	詳細図　部分詳細図
g	付帯外構図（本工事）
h	付帯外構図（別途工事）
Ｂ－ a01	建築工事仕様書　その１
Ｂ－ a02	建築工事仕様書　その２
Ｂ－ a03	建築工事仕様書　その３
Ｂ－ a04	建築工事仕様書　その４
Ｂ－ a05	建築工事仕様書　その５
Ｂ－ a06	建築工事仕様書　その６
Ｂ－ b01	敷地求積図，付近見取図
Ｂ－ b02	配置図
Ｂ－ b03	面積表　１
Ｂ－ b04	面積表　２
Ｂ－ b05	面積表　３
Ｂ－ b06	面積表　４
Ｂ－ b07	面積表　５
Ｂ－ b08	１階平面図（全体）
Ｂ－ b09	２階平面図（全体）
Ｂ－ b10	３階平面図（全体）
Ｂ－ b11	Ｒ階平面図（全体）
Ｂ－ b12	ピット伏図（全体）
Ｂ－ b13	屋内運動場棟　仕上表　１
Ｂ－ b14	屋内運動場棟　仕上表　２
Ｂ－ b15	立面図（１）
Ｂ－ b16	立面図（２）
Ｂ－ b17	屋内運動場棟　１階天井伏図
Ｂ－ b18	屋内運動場棟　２階天井伏図
Ｂ－ b19	屋内運動場棟　３階天井伏図
Ｂ－ b20	１階　壁リスト
Ｂ－ b21	２階　壁リスト
Ｂ－ b22	３階、Ｒ階　壁リスト

図面番号	図面内容
Ｂ－ c01	屋内運動場棟　矩計図　（１）
Ｂ－ c02	屋内運動場棟　矩計図　（２）
Ｂ－ c03	校舎棟/屋内運動場棟　矩計図　（３）
Ｂ－ c04	屋内運動場棟　矩計図　（４）
Ｂ－ c05	屋内運動場棟　矩計図　（５）
Ｂ－ c06	屋内運動場棟　屋外階段詳細図
Ｂ－ c07	１階平面詳細図　（１）　屋内運動場棟
Ｂ－ c08	１階平面詳細図　（２）　屋内運動場棟
Ｂ－ c09	１階平面詳細図　（３）　校舎棟/屋内運動場棟
Ｂ－ c10	１階平面詳細図　（４）　校舎棟/屋内運動場棟
Ｂ－ c11	２階平面詳細図　（１）　屋内運動場棟
Ｂ－ c12	２階平面詳細図　（２）　屋内運動場棟
Ｂ－ c13	２階平面詳細図　（３）　校舎棟/屋内運動場棟
Ｂ－ c14	２階平面詳細図　（４）　校舎棟/屋内運動場棟
Ｂ－ c15	３階平面詳細図　（１）　屋内運動場棟
Ｂ－ c16	３階平面詳細図　（２）　屋内運動場棟
Ｂ－ c17	３階平面詳細図　（３）　校舎棟/屋内運動場棟
Ｂ－ c18	３階平面詳細図　（４）　校舎棟/屋内運動場棟
Ｂ－ d01	屋内運動場棟　展開図　１
Ｂ－ d02	屋内運動場棟　展開図　２
Ｂ－ d03	屋内運動場棟　展開図　３
Ｂ－ d04	屋内運動場棟　展開図　４
Ｂ－ d05	屋内運動場棟　展開図　５

図面番号	図面内容
Ｂ－ e01	１階　建具符号図
Ｂ－ e02	２階　建具符号図
Ｂ－ e03	３階・Ｒ階　建具符号図
Ｂ－ e04	建具リスト（１）　屋内運動場棟
Ｂ－ e05	建具リスト（２）　屋内運動場棟
Ｂ－ e06	１階　家具符号図
Ｂ－ e07	２階　家具符号図
Ｂ－ e08	家具リスト　屋内運動場棟
Ｂ－ e09	１階サイン配置図
Ｂ－ e10	２階サイン配置図
Ｂ－ e11	サインリスト
Ｂ－ f01	部分詳細図（１）
Ｂ－ f02	部分詳細図（２）
Ｂ－ f03	部分詳細図（３）
Ｂ－ f04	部分詳細図（４）
Ｂ－ f05	部分詳細図（５）
Ｂ－ f06	部分詳細図（６）
Ｂ－ f07	木・アルミ複合サッシ詳細図
Ｂ－ f08	ＥＸＰ．Ｊ詳細図　参考図
Ｂ－ f09	体育器具詳細図（１）
Ｂ－ f10	体育器具詳細図（２）
Ｂ－ f11	体育器具詳細図（３）
Ｂ－ f12	体育器具詳細図（４）
Ｂ－ f13	アリーナ　システム壁詳細図
Ｂ－ f14	システム床詳細図（１）　1階　ｻﾌﾞｱﾘｰﾅ
Ｂ－ f15	システム床詳細図（２）　2階　ﾒｲﾝｱﾘｰﾅ
Ｂ－ f16	アリーナ　舞台設備詳細図

建築構造

図面番号	図面内容
Ｓ－ 01	構造設計標準仕様書
Ｓ－ 02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［１］
Ｓ－ 03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［２］
Ｓ－ 04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［３］
Ｓ－ 05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［４］
Ｓ－ 06	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［５］
Ｓ－ 07	鉄筋コンクリート構造配筋標準図［６］
Ｓ－ 08	鉄骨構造標準図［１］
Ｓ－ 09	鉄骨構造標準図［２］
Ｓ－ 10	鉄骨構造標準図［３］
Ｓ－ 11	鉄骨構造標準図［４］
Ｓ－ 12	クラウンパイルアンカーエ法標準図（１）
Ｓ－ 13	クラウンパイルアンカーエ法標準図（２）
Ｓ－ 14	プレストレストコンクリート特記仕様書
Ｓ－ 15	高強度せん断補強筋特記仕様書
Ｓ－ 16	ＲＣ梁貫通孔補強筋設計施工仕様書
Ｓ－ 17	地質調査図（１）
Ｓ－ 18	地質調査図（２）
Ｓ－ 19	地質調査図（３）
Ｓ－ 20	地質調査図（４）
Ｓ－ 21	杭伏図
Ｓ－ 22	基礎伏図
Ｓ－ 23	１階柱壁１階床梁伏図
Ｓ－ 24	１階柱壁２階床梁伏図
Ｓ－ 25	２階柱壁３階床梁伏図
Ｓ－ 26	２階柱壁Ｒ階床梁伏図／ブドウ棚梁伏図
Ｓ－ 27	屋根梁伏図
Ｓ－ 28	軸組図（１）
Ｓ－ 29	軸組図（２）
Ｓ－ 30	軸組図（３）
Ｓ－ 31	軸組図（４）
Ｓ－ 32	軸組図（５）
Ｓ－ 33	軸組図（６）
Ｓ－ 34	軸組図（７）
Ｓ－ 35	軸組図（８）
Ｓ－ 36	基礎リスト
Ｓ－ 37	基礎梁リスト
Ｓ－ 38	柱リスト／鉄骨部材リスト
Ｓ－ 39	大梁リスト（１）

図面番号	図面内容
Ｓ－ 40	大梁リスト（２）
Ｓ－ 41	スラブ・壁リスト／雑リスト
Ｓ－ 42	架構配筋詳細図
Ｓ－ 43	鉄骨詳細図
Ｓ－ 44	ＰＣ梁：２階ＫＥＹＰＬＡＮ図
Ｓ－ 45	ＰＣ梁：部材リスト、配線断面図、定着端部詳細図

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	図　リ　ス　ト	縮尺		図番	B－

最終改訂　令和８年４月１日

建築工事仕様書

Ⅰ 工事概要

１ 工事場所　輪島　市郡　河井　町　　　地内

２ 工事内容　（１）・本体工事　（種別．棟別．構造．階．面積）

校舎棟	ＲＣ造（一部：Ｓ造）	３階建て	5,505.32㎡
屋内運動場棟	ＳＲＣ造	２階建て	2,960.90㎡
厨房付属棟	Ｓ造	平屋建て	37.63㎡
既設屋内運動場一部改修			

（２）・屋外付帯工事

（３）・電気設備工事　※別契約関連工事

（４）・給排水衛生設備工事　※別契約関連工事

（５）・解体工事

３ 完成期日　令和 10 年 4 月 末日　（概成工期　令和　年　月　日）
（余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。）

４ 別契約関連工事

・屋外付帯工事 本工事	・植栽工事 本工事
⊙電気設備工事	⊙給排水衛生設備工事
⊙暖房設備工事	⊙冷房設備工事
⊙換気設備工事	⊙空調設備工事
・昇降機設備工事 本工事	⊙電話設備工事
・浄化槽設備工事	・
・	・

Ⅱ 建築工事仕様

１ 共通仕様

１）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標仕」という。）による。

２）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図、機械設備工事は（　／　）図による。

２ 特記仕様

１）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

２）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

３）特記事項に記載の（　．　．　）内表示番号は、「標仕」の該当項目、当該図又は当該表を示す。

４）特記事項に記載の（別図－　．　．　）は、「標仕」の別図「各部配筋」の当該番号を示す。

５）特記事項に記載の［　．　．　］内表示番号は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「改修標仕」という。）の当該項目、当該図又は当該表を示す。

６）G 印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）の特定調達品目を示す。該当する項目については、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。

７）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（　）内は製品名を示す。

８）斜線で消去した章は適用しない。

１章　一般共通事項

項目　／　特記事項

① 適用基準等

設計図書の他に、下記の図書の該当事項を適用する。
⊙建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和４年版）
⊙建築構造設計基準の資料（国土交通省大臣官房官庁営繕部　令和３年通知）のうち第３章
⊙営繕工事写真撮影要領（令和３年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
⊙営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部　令和３年度版）
・建築物解体工事共通仕様書（令和４年度版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
・公共建築木造工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成３１年版）
・屋根瓦工事共通仕様書（石川県土木部営繕課監修　令和５年版）
⊙鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
・壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
⊙鉄骨構造標準図（石川県土木部営繕課監修）
⊙石川県バリアフリー社会の推進に関する条例に基づく整備基準（施設整備の手引き）
⊙石川県公共事業景観形成ガイドライン

② 工事実績情報の登録

※登録する（但し工事請負代金額500万円以上の工事。）　(1.1.4)

③ 情報共有システム

石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。　(1.1.5)
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html

・利用する（発注者指定型）
※現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

4 発生材の処理

１）産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により運搬し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。
また、処分に際しては産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。

２）発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に引き渡す。　(1.3.11)
イ）引渡しを要するもの及び引渡し場所　・引渡を要するもの
・引渡し場所
ロ）特別管理産業廃棄物の有無　・有　・無
ハ）特別管理産業廃棄物の処理方法　※図面　番　図参照

３）発生材のうち、現場で再利用を図るもの及び再資源化を図るものは、下記による。
・現場で再利用を図るもの　・
・再資源化を図るもの　・

４）建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法第18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無
・有　・無

⑤ 電気保安技術者

※　適用する　(1.3.3)

⑥ 施工条件

・仮設校舎、既設屋内運動場、既設プール施設を使用しながらの工事である。

⑦ 建築材料等

１）本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、又はこれらと同等のものとする。　(1.4.1)(1.4.2)(1.4.4)
①「評価名簿による」と特記されたものについては、「建築材料・設備機械等品質性能評価事業評価名簿（最新年版）」（(社)公共建築協会）によるほか、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、次の②に準じ監督員の承諾を受ける。また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとみなす。
②JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次のイ）からへ）の事項を満たすものとする。また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等品以上を使用するものとし、監督員の承諾を受けるものとする。
イ）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
ロ）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
ハ）安定的な供給が可能であること。
ニ）法令等で定める許可、認定、又は免許等を取得していること。
ホ）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
ヘ）販売保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出する。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。

２）請負契約約款第６条の２第７項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認願」により監督員の確認を受け、工事完了後は地元産品について「使用材料報告書」を提出する。

３）請負契約約款第13条第２項に定める監督員等の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。
⊗杭　⊙型枠類　⊙防水材料　・石材　⊙木材
但し、杭以外のJIS規格品は除く。

４）請負契約約款第14条第１項に定める監督員等の立会いのうえ調合等をし使用すべき工事材料は次のものとする。
※高強度コンクリート試し練り　⊙地盤改良材の調合　・土壁仕上げ材調合

５）請負契約約款第14条第３項に定める見本は次のものとする。
⊙金属製品　・合成樹脂製品　⊙木製建具　⊙塗装　・土壁仕上げ材調合
⊙家具及び家具の金物　・畳　⊙内外装材料　⊙屋根材料
なお、監督員が承諾した材料は、証明となる資料と使用箇所を付し、工事完成まで現場事務所に掲示する。ただし、掲示が困難な材料等はカタログ、その他に代えることができる。

６）本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないものとする。（「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則等の一部を改正する省令の施行等について」（厚生労働省労働基準局長通達平成18年８月）参照）。安全データシート（SDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。

⑧ 特別な材料の工法

「標仕」に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。

⑨ 技能士等

適用する技能士等及び技能士の適用工事種別及び作業の種別は次の通りとする。
※　技能士　(1.5.2)

適用工事種別	技能検定作業
仮設工事	⊙とび作業
鉄筋工事	⊙鉄筋組立て作業
コンクリート工事	⊙型枠作業　⊙コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	⊙構造物鉄工作業　⊙とび作業
ブロック・ALCパネル工事 押出成形セメント板工事	・コンクリートブロック工事作業 ⊙エーエルシーパネル工事作業
防水工事	⊙アスファルト防水工事作業　・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業　・FRP防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業　・セメント系防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業　⊙シーリング防水工事作業
石工事	・石材加工作業　・石張り作業　・石積み作業
タイル工事	⊙タイル張り作業
木工事	⊙大工工事作業
屋根及びとい工事	⊙内外装板金作業　・かわらぶき作業
金属工事	⊙鋼製下地工事作業　⊙内外装板金作業
左官工事	⊙左官作業
建具工事	⊙ビル用サッシ施工作業　・自動ドア施工作業 ⊙ガラス工事作業
カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	⊙建築塗装作業
内装工事	⊙プラスチック系床仕上げ工事作業 ⊙カーペット系床仕上げ工事作業　・木質系床仕上げ工事作業 ⊙ボード仕上げ工事作業　・壁装作業
排水工事	⊙建築配管作業
植栽工事	⊙造園工事作業

・「石川の伝統的建造技術を伝える会」のうち、金沢城公園整備工事従事者の認定を受けた者。

⑩ 総合試運転調整

・行う　(1.5.7)

⑪ 完成図等

１）完成図　(1.7.1～3)(表1.7.1)
工事完成図は、A3版製本（※１部　⊙２部　・　部）を提出する。
⊙工事完成図の作成は、設計変更による訂正を含め、施工会社の責任において行うものとする。

２）屋外付帯工事実測図　※提出する（１部）　⊙提出しない

３）保全に関する資料　※提出する（１部）　・提出しない
保全に関する資料のうち「建物等の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物保全の手引き(改訂版)」（（一財）建築保全センター）に建物の構造、機器、保全業務等の説明及び清掃の要点、使用材料の製造品名、連絡先等を記載したものに代えることができる。
別契約の関連する設備工事等がある場合は、連携のうえ作成する。

⑫ 工事写真等の記録

１）工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和３年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）により整備し、下記により提出する。また、本仕様書の「第１章29電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
各区分の写真はA4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。

※写真帳

区分	分類	大きさ	撮影枚数	部数
着工前	※カラー ・	※100×148程度 ・	※　6 景以上	※　1 部
工事中	※カラー ・	※85×115程度 ・	「営繕工事写真撮影要領」による	※　1 部
完成時	※カラー ・	※100×148程度 ・	※　60 景以上	※　1 部 ・

・アルバム

区分	分類	大きさ	撮影枚数	部数
完成時	※カラー ・	※127×178程度 ・	※　60 景以上	※　1 部 ・

・写真パネル

区分	分類	大きさ	仕様	部数
完成時	※カラー ・	※457×560程度 ・	※木製枠ﾌｯｸ付き	※　1 部 ・

２）完成写真の撮影　⊙専門業者の撮影（撮影者を明記）　・専門業者以外の撮影

３）原版の使用権を次の者に移譲する。　⊗発注者　⊙設計者
移譲を受けた者は、写真を撮影者の了解なしに撮影者名を表示しないで自由に使用できる。
撮影者が写真を使用する場合は、発注者・設計者の承諾を必要とする。

４）中間検査または、監督員の指示により手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

⑬ 責任施工

特記事項中、責任施工の指示のあるものは、受注者及び下負請人の連帯責任とし保証書を提出する。

⑭ 工事報告書

工事の進捗度表、作業員の出面報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月~~15日及び~~月末毎に提出する。

⑮ 設備工事との取合い

１）設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受ける。

２）設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。なお箇所数等は下記による。
位置、大きさ、箇所数等

位置／大きさ		100mm	150mm	200mm	250mm	300mm	350mm	400 x 200	700 x 200	
補強筋箇所数	RC梁	34	73	12	4	6	6			
	RC床								2	
	RC壁							3	1	

３）鉄骨部のスリーブ及び補強は本工事に含むものとする。

４）軽鉄下地で天井、壁等の補強は本工事に含むものとする。なお箇所数は、下記による。
イ）天井部分　箇所　ロ）壁部分　箇所

設備関連工事との取合いは下記による。

他工事との取合い		建築工事	電気工事	機械工事	備考
機器の基礎、換気扇取付用枠				○	
梁、床、壁貫通部の補強		○			
梁、床、壁貫通部のスリーブ、型枠			○	○	
外気取付ガラリ、床下水槽マンホール蓋		○			ガラリは立面図に図示
ステンレス流し台等		○			排水トラップ共
排気フード、レンジフードファン取り付け枠（鋼製）とも		○			建築図に図示 ダクト接続は設備工事
天井、壁、床、点検口、プロパンボンベ庫		○			
下流し、足洗場の給水、排水、玄関の排水				○	
小便器仕切板(陶器製）、タオル掛(下地共)				○	下地補強は建築工事
洗面所、手洗所等の鏡		○		○	特殊なものは建築工事
ボイラーの煙突					鋼板製は機械設備工事
実験台に付属する設備機器		○			
実験台の配管等の接続					
埋込み分電盤、端子盤等の壁補強		○			
埋込み分電盤、端子盤等の型枠			○		
天井、壁ボード類の下地補強		○			墨出し、ボード類切り込みは設備工事
簡易間仕切り(内装ﾊﾟﾈﾙ)内の位置ボックス及び配管の取付		○			
屋内・屋外に設置する発電機、配電盤、制御盤、受水槽、ポンプ等の基礎、防油堤		○			
屋上に設置するテレビアンテナ、避雷針等の設備基礎		○			屋根伏図に図示
配線ピット及び蓋		○			
照明器具幹線等の吊りボルト用インサート			○		
身体障害者用の手すり		○			
洗濯機用防水パン及びトラップ				○	
ＦＦ暖房機・クーラー等の配管用スリーブ		○			
電話・テレビ等の配線用スリーブ			○		
クーラー取付ボルト用インサート		○			建築図に図示
ユニットバス本体・付属品（シャワー金具・手すり・鏡・照明）		○			配管接続以降は設備工事
ユニットバス用換気扇				○	
消火器				○	
自動扉、電動S、電動ルーバー、防火設備の閉鎖制御機器、感知器	１次側配管配線		○		機器は建築工事
	２次側配管配線	○			
地下タンク室		○			

⑯ 設計ＧＬ

※図示　・設計ＧＬ＝現状ＧＬ

⑰ 建築基準法に基づき指定する条件

⊙地区の区分に応じた風速（Ｖ（m/sec））　30（県内全域）
⊙地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ
⊙多雪地域の指定　垂直積雪量　１００ｃｍ

⑱ 工事現場の掲示板

工事現場には、下記掲示板を設置する。　（記入例）　(2.3.1)

90cm

工事名
工期　自　年　月　日～至　年　月　日
発注者　石川県土木部営繕課
（監修）
設計
監理
施工　建築（業者名を記入する）
電気（業者名を記入する）
給排水（業者名を記入する）
暖房（業者名を記入する）
この工事は、週休２日に取り組んでいます

60cm（75cm）

上段の地色は、白色
文字は、青色
下段の地色は、青色
文字は、白色

（注意事項）
①（監　修）内は、監修を委託した場合。
②業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。
③工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

19 総合評価時における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

⑳ 施工の検査等

監督員等の検査を受ける工種は次のものとする。　(1.5.5)
※敷地状況確認及び縄張り　※ベンチマーク　※遣方　※根切り掘削完了時
※主要構造部の配筋　・型枠の組立て　・鉄骨原寸図　※鉄骨ボルト締付け　※鉄骨建方
その他監督員等の指示するもの

㉑ 施工の立会い等

請負契約約款第14条第２項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。
※杭打ち　⊙コンクリートのスランプ確認及び打込み　・屋外タイル接着力試験
・地盤改良部試験体採取　その他監督員等の指示するもの　(1.5.7)

㉒ 中間検査

中間検査の実施　※有　・無　(1.6.2)
実施時期　※躯体工事完了時　⊙２階の梁、床配筋工事完了時

㉓ 公共事業労務費調査等に対する協力

・受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。

１）調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。

２）調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。

３）正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。

４）対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前各号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

５）本工事が「建設副産物実態調査」の対象となった場合、県の求めに対して速やかに調査票を作成し、県に提出しなければならない。

㉔ 保険

工事目的物、工事材料等に生ずる損害を填補する保険は、下記による。
※建設工事保険または組立保険（工事対象物を全て解体する工事を除く）
加入期間　引渡しまで（引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで）

㉕ 室内空気汚染対策

※実施する　・実施しない　(1.5.9)

１）測定の有無等
イ）測定の有無　※有　・無
測定する場合は、下記のとおり揮発性有機化合物について室内濃度を測定し、厚生労働省の定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
ロ）測定対象室
測定は原則として、内装仕上げ材料の仕様が大きく異なる居室毎に行う。ただし、居室の規模が著しく異なる場合は、それぞれ実施する。
内装工事を行った居室について測定を行う。
ミーティング室（1カ所）、サブアリーナ（4カ所）、メインアリーナ（4カ所）
計　９カ所
ハ）１室当たりの測定箇所数

室の床面積　Ａ（㎡）	Ａ≦50	50＜Ａ≦200	200＜Ａ≦500	500＜Ａ
測定個所数	1	2	3	4

全ての測定個所において、ニ）の測定対象化学物質全ての濃度を同時に測定する。
ニ）測定対象化学物質及び測定方法
測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンとし、同時に測定する。測定方法は、パッシブ型採取機器を用い、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長通知（平成２４年４月５日　国営整第４号）「官庁営繕部におけるホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により行う。
ホ）測定時期
測定は下記の時期に行うものとする。
①測定対象化学物質が、関連工事による測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引き渡し後の室内空気環境と同程度になった時期。
②別途工事又は家具の設置等が行われる前。
③内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。
④中央式空気調和設備のように換気を行いながら空気調和を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していること。
ヘ）測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合の措置
測定結果が厚労省の指針値を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。
ト）その他採取、測定及び分析の方法は、上記ニ）の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。

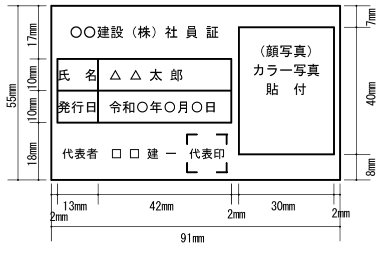
２）施工中・施工後の通風、換気
接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に放散した溶剤成分等の希釈を図るものとする。

３）引き渡し時
室内空気中に化学物質を発散するおそれのある建築材料等を使用している場合は、監督員の指示により、その使用状況の一覧表を提出する。

４）揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のイ)からホ)の事項を満たすものとする。
イ）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗り材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ロ）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ハ）接着剤は、フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ニ）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ホ）上記のイ)、ハ)、ニ)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。
※「規制対象外」のもの
①JIS又はJASのＦ☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の７第４項による国土交通大臣認定品
③下記表示のあるJAS規格品
ア）非ホルムアルデヒド系接着剤使用
イ）接着剤等不使用
ウ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料を使用
エ）ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
オ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
カ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
・「第三種」のもの
①JIS又はJASのＦ☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の７第３項による国土交通大臣認定品
③旧JISのＥ０規格品
③旧JASのＦ０規格品

㉖ 名札の着帯

現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。（ただし、請負額1,000万円以上の工事）



（注意事項）
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。
②顔写真（ｶﾗｰ写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。

㉗ 施工体制台帳の作成等

当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げること。

設計
教育委員会教育総務課

工事名
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

図面名　建築工事仕様書　その１

図面番号　Ｂ－a01

㉘ 排出ガス対策型建設機械 G

次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。
1）バックホウ
2）トラクターショベル
3）発動発電機
4）空気圧縮機
5）ローラ類
6）ホイールクレーン

㉙ 創意工夫等

工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

㉚ 保険の付与及び事故の補償

1）受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。

2）受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）

3）受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結１ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

㉛ 電子納品

※行う（「電子納品仕様書」による。）　　・行わない

電子納品仕様書

1　電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。
ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名　　称
営繕工事電子納品要領（令和３年版）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和３年度版）

基準・要領類のダウンロード　http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html

2　工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＲ－Ｄで１部納品する。

3　工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。

4　発注者が行うＣＡＬＳ／ＥＣ電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

㉜ 騒音振動の防止

低騒音（ G ）、低振動型建設機械を使用する。

㉝ 隣接建物又は工作物の調査

※行う　　・行わない

㉞ 敷地の状況確認

着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がないか関係機関の協力を得て確認し、監督員に報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。

㉟ ダンプトラック等による過積載等の防止

1）積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

2）さし枠装着車、不表示車等に土砂を積み込まず、また積み込ませないこと。

3）過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。

4）取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。

5）建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。

6）「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年８月月２日法律第131号。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。

7）１から６につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

㊱ 景観への配慮

当該工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施工に努めること。

37 住宅瑕疵担保履行法に基づく資力確保措置

本建物の住宅瑕疵担保履行法に基づく資力確保措置は、本工事に含める。

２章　仮設工事

項目　特記事項

① 監督職員事務所

※設ける　　・設けない　　(2.3.1)

イ）監督職員事務所の規模（単位：㎡）

種別号	・１号	・２号	⊙３号	・４号	・５号
面積程度	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

ロ）監督職員事務所に設ける備品等
※保護帽　※墜落制止用器具　※長靴　※合羽　※原図大及びＡ３縮小の設計図面製本各２部
※机　※椅子　※懐中電灯　・書棚　・黒板　・寒暖計　⊙ネットワーク接続・オンライン会議が可能な環境

② 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）

・快適トイレを設置すること。
※監督員へ提案･協議し、快適トイレを設置することができる。
快適トイレを設置した場合は設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。

③ 工事用水

構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）

④ 工事用電力

構内既存の施設　※利用できない　⊙利用できる（※有償　・無償）

⑤ 指定仮設

指定仮設の適用　⊙仮囲い　・敷鉄板（※図示）

仮囲いは、下記により強風に対して倒壊、飛散しない堅固な構造とし、事前に施工図を提出して監督員の承諾を受けること。
イ）材料　⊙鋼板　・亜鉛波形鉄板　・
ハ）塗装　・する　・しない　⊙塗装品
ロ）高さ　・1.8m　・2.0m　・3.0m
ニ）延長　図示　m
その他の指定仮設　・
（種別、規格、仕様）

⑥ 工事用道路

工事用道路は、良好な維持管理を行い、使用後は受注者にて速やかに原形に復旧すること。

⑦ 足場

1）足場の種類
※枠組本足場（手すり先行足場）　(2.2.4)
・くさび緊結式足場（手すり先行足場）

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省 令和5年12月26日）に規定する「（別紙1）手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２（１）手すり据置き方式又は（２）手すり先行専用足場方式により行うこと。

2）建枠・布枠の寸法等

建枠	・1200枠	・900枠	・600枠
布枠	・500布枠×２枚	※500＋240布枠 ・	・500布枠×１枚

3）防護シート等による養生
イ）防護シート等の有無　※設置する　・設置しない
ロ）防護シート種類
※ネット状養生シート又は養生シート（出入口等上部は必要に応じて防護柵を設ける。）

⑧ 危険物貯蔵所

シンナー等有機溶剤を使用する場合は、特に火災及び盗難について管理を徹底する。　(2.3.2)

３章　土工事

項目　特記事項

① 埋戻し及び盛土

種別 ⊙Ａ種 ⊗Ｂ種 ・Ｃ種 ・Ｄ種 ・建設汚泥から再生した処理土 G　(3.2.3)（表3.2.1）
なお、処理に当たっては「建設発生土情報交換システム」等を活用する。

② 建設発生土の処理

⊙現場内で処理
⊙現場外仮置き（旧大屋小学校屋外プール解体跡地、旧鵠巣小学校屋外プール解体跡地）
⊙構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し　(3.2.5)
⊙構外搬出適正処理　（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと）
・指定（想定）搬出先　受入場所：
受入時間帯：　時　分～　時　分
仮置き等：

③ 六価クロム溶出試験

（1）「六価クロム溶出試験」の対象工事の有無　⊙有　・無

（2）本工事が「六価クロム溶出試験」の対象工事である場合は、下記の要領で「六価クロム溶出試験」を実施し、厚生労働省の定める指針値（0.05mg/l）以下であることを確認し、試験結果（計量証明書）を提出すること。
参照：「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領(案)」
（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課長ほか　H13.4.20改正）
1）「六価クロム溶出試験」対象工種名及び検体数
イ）地盤改良 工表層安定処理工法
⊙配合設計段階＿＿１検体　・施工後段階＿＿検体
ロ）＿＿工＿＿工法
・配合設計段階＿＿検体　・施工後段階＿＿検体
2）タンクリーチング試験対象工種名及び検体
イ）＿＿工＿＿工法＿＿検体
ロ）＿＿工＿＿工法＿＿検体

4 山留め

・存置する　・存置しない

４章　地業工事

項目　特記事項

① 既製コンクリート杭地業

1）種類
※遠心力高強度プレストレストコンクリート杭　(4.3.1)(4.3.3)
・

	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	継手数	セット数	備考
試験杭	※本杭の１本目を試験杭とする。				
本杭	図示	図示	図示	図示	

イ）杭頭の処理　※切断しない　・　(4.3.8)
ロ）先端部形状　※開放形　・閉そく平たん形　(4.3.3)
ハ）杭の継手　・溶接継手　⊙機械式継手　(4.3.6)

2）施工法　(4.3.5)
⊙特定埋込杭工法（杭材料条件に適合するもの）
Ｈｙｐｅｒ－ＭＥＧＡ工法、または同等工法以上
・

2 場所打ちコンクリート杭地業

コンクリートの種別、設計基準強度及びスランプ　(4.5.4)(表4.5.1)
（　）種かつ（　）N/mm^{2}以上　スランプ　※21cm　・18cm　・
イ）鉄筋の種類　５章鉄筋工事の鉄筋の種類による　(4.5.4)
ロ）掘削工法　・アースドリル工法（・安定液使用　・無水掘削）　(4.5.5)
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張　・行う　・行わない）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　(4.5.6)
・拡底杭工法（※安定液使用　・　）
ハ）セメントの種類　※高炉セメントB種 G　・　(4.5.4)
ニ）孔壁測定　・行う（　）　・行わない　(4.5.5)

③ 砂利地業

※再生クラッシャラン G　・切込み砂利及び切込み砕石　(4.6.3)

④ 床下防湿層

施工箇所　※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）　(4.6.5)

⑤ 地盤改良

1）深層混合処理工法　(4.7.2)(4.7.3)
イ）固化材の種類　・セメント固化材　・
ロ）工法　※機械撹拌方式　・
ハ）六価クロム溶出試験　・適用する（３章３（２）による）　・適用しない

2）浅層混合処理工法　(4.8.2)(4.8.3)
イ）固化材の種類　⊙セメント固化材　・
ロ）工法　※原位置混合方式　・
ハ）六価クロム溶出試験　⊙適用する（３章３（２）による）　・適用しない

５章　鉄筋工事

項目　特記事項

① 鉄筋の種類

(5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び名（mm）
⊙SD295	※D16以下
⊙SD345	※D19～D25
⊙SD390	※D29

2 溶接金網

網目の形状、寸法等　(5.2.2)

形状、寸法等（縦×横）（mm）	鉄線の径又は呼び名(mm)	規格
※100×100　・	※6.0　・	JIS G 3551による
・	・	

③ 鉄筋の継手

呼び名19mm以上の柱、梁の主筋　(5.3.4)
※ガス圧接継手　・重ね継手　・機械式継手　・溶接継手

④ 鉄筋の台直し

鉄筋の台直しは絶対に認めない。止むを得ず生じた場合は、監督員の承認を得た後に補修または補強を行うこと。監督員の承諾なきものは、全てやり直しとする。

⑤ 鉄筋の最小かぶり厚さ

1）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地底から算定する。　(5.3.5)

2）塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	「標仕」表5.3.6の値に加える寸法（mm）
柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面	※10　・20　・25

⑥ 帯筋

※Ｈ形　・ＳＰ形　⊙溶接閉鎖形　(別図2.2)

⑦ 最上階柱頭補強

※行う　・行わない　(別図2.1)

⑧ 壁開口部の補強

一般壁　※Ａ形　・Ｂ形　⊙図示　(別図4.3)(別表4.3～4)
耐震壁　※図示

⑨ 梁貫通孔の補強形式

※Ｈ形　・ＭＨ形　・Ｍ形　⊙既製品　(別図7.1)(別表7.1～3)

⑩ 圧接完了後の試験

※超音波探傷試験　・引張試験　(5.4.10)

６章　コンクリート工事

項目　特記事項

① コンクリートの種類及び強度等

普通コンクリートの設計基準強度　(6.2.1～2)（6.14.1)

設計基準強度Fc（N/㎟）	スランプ（cm）	施工箇所
⊙18	⊙15　・18	⊙無筋コンクリート適用箇所
⊙24	⊙15　・18	⊙土間ピットスラブ
⊙27	⊙15　・18	⊙基礎、ピットスラブ、１Ｆスラブ
⊙27	※18　・	⊙上部躯体
⊙24	・15　⊙18	⊙雑、設備基礎

軽量コンクリートの設計基準強度　(6.2.1～2)(6.10.1)(表6.10.1)

設計基準強度Fc（N/㎟）		種別	施工箇所
・21	・21　・	・１種　・２種	
・	・		

② 寒中コンクリート マスコンクリート 無筋コンクリート 流動化コンクリート 高流動コンクリート

(6.11.1～6.16.4)

種類	適用箇所	備考（適用期間）
・寒中コンクリート		
マスコンクリート ・高炉セメントＢ種 G ・中庸熱ポルトランドセメント		
⊙無筋コンクリート		
・流動化コンクリート	均しコンクリート	
・高流動コンクリート		

③ レディーミクストコンクリートの類別

※Ⅰ類　・Ⅱ類　(6.2.1)(6.4.1～2)(表6.2.1)
JISマーク表示認証製品を製造している工場で、かつ、コンクリート主任技士等が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国生コンクリート品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）で製造したものとする。

④ セメントの種類

※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種（マスコンクリートを除く）
・高炉セメントＢ種 G　(6.3.1)(表6.3.1)
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	７ｄ：350J/ｇ以下	28ｄ：400J/ｇ以下	

⑤ 骨材の品質

アルカリシリカ反応性による区分　(6.3.4)(6.5.4)
※Ａ　・Ｂ（※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m3以下）

⑥ 混和材料の種別

※混和剤　・混和材　(6.3.1～2)

⑦ 構造体強度補正値

構造体強度補正値の決定に用いる「予想平均気温θ」は、気象庁金沢地方気象台発表の過去の平均値より決定する。　(6.3.2)(監理指針 表6.11.2)

⑧ 型枠（せき板）の種別

1）塗装の有無　※無　・有

2）打放し仕上げの種別　(表6.2.4)

種別（表面の仕上り程度）	材料（せき板）	塗装	施工箇所
⊙Ａ種 目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とする	厚さ12mmのJAS規格品による表面加工品又は同等と見なせる程度のもの	⊙有 ・無	図示
⊙Ｂ種 目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とし、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとする	厚さ12mmのJAS規格品によるＢ－Ｃ又は同等と見なせて、ほとんど損傷のないもの	⊙有 ・無	図示
⊙Ｃ種 打放しのままで、目違いばらいを行ったもの	厚さ12mmのJAS規格品によるＢ－Ｃ又は同等と見なせて、使用上差支えのない程度のもの	⊙有 ・無	図示

⑨ コンクリートの打増し

仕上げその他の納まりによる打増しは下記による。

打増し（mm）	・	・
施工箇所	外断熱取合い（図示）	

10 断熱材兼用型枠

適用箇所及び品質等は19章９断熱材による　(6.8.3)

11 コンクリート躯体の表面処理

外装タイル後張り面の躯体表面の処理　(6.8.3)(11.3.5)
ＭＣＲ工法又は15.3.4(3)による目荒らし工法とする。なお、目荒らし工法の場合は、モルタルの接着に適した粗面に仕上げる工法を、1.2.2「施工計画」による品質計画で定める。
また、粗面の状態は、監督職員の承諾を受ける。
適用範囲は11章タイル工事　コンクリート素地面の処理による
コンクリートの増打ち厚さ　※20mm

７章　鉄骨工事

項目　特記事項

① 鉄骨の製作工場

⊙監督職員の承諾する製作工場　(7.1.3)
⊗建築基準法第77条の56第１項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた㈱日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構により下記グレードとして国土交通省から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。
・Ｓグレード以上　⊙Ｈグレード以上　・Ｍグレード以上　・Ｒグレード以上

② 施工管理技術者

※適用する　(7.1.3～4)(7.6.2)(7.12.2)

③ 鋼材

鋼材の材質　(7.2.1)(7.2.10)(表7.2.1)

種類の記号	使用箇所	規格等
図示	図示	※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による
		※JIS規格による

④ 普通ボルト

ボルトの径、縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※図示　(7.2.3)(7.3.2)

⑤ 高力ボルト

1）ボルトの区分　(7.2.2)(7.3.2)(7.4.1～9)
※トルシア形高力ボルト　・JIS形高力ボルト

2）ボルトの径、縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※図示

3）すべり係数試験　※行わない　・行う　試験方法等（　）

⑥ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

1）ボルトの径、縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　※図示

2）摩擦面の処理　(7.2.2)(7.3.2)(7.12.4)
※　ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・　リン酸塩処理

3）すべり耐力等の確認方法
※　すべり耐力等の確認方法等　※図示

⑦ 完全溶込み溶接部の試験

1）現場溶接　※全て　(7.6.12)

2）工場溶接
ＡＯＱＬ　・レベルⅠ（2.5%以下）　※レベルⅡ（4.0%以下）
検査水準　※第６水準　・図示

(7.6.12)(表7.6.2～3)

検査の種別	試験箇所	試験方法
⊙超音波探傷試験	柱梁等の突合せ溶接部	※「標仕」7.6.12(イ)による ・図示
・放射線試験		
・マクロ試験		

8 耐火被覆

(7.9.2～8)

種別		所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・	
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		
・耐火塗料		

⑨ アンカーボルトの保持及び埋込み方法

⊙構造用アンカーボルト（Ｍ１６、Ｍ２０、Ｍ２７　）
・建方用アンカーボルト（・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種）　(7.10.3)(表7.10.1)

⑩ 柱底均しモルタル工法

※Ａ種　・Ｂ種　(7.10.3)(表7.10.2)

⑪ 溶融亜鉛めっき工法

(7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
Ａ種	最低板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	図示
Ｂ種	最低板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	図示
Ｃ種	最低板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板 普通ボルト、アンカーボルト	図示

⑫ スカラップ

・改良型スカラップ　⊙ノンスカラップ　(7.6.7)

⑬ 溶接条件

1）入熱、パス間温度の溶接条件
適用箇所　・図示
⊙柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・

2）鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料の規格	溶接材料の種類	入熱	パス間温度
400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	40kJ/cm以下	350℃以下
		YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3211	引張強さが570MPa以上のものを除く。	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3214	引張強さが570N/mm2以上のものを除く。		
	JIS Z 3315	YGA-50W, YGA-50P		
490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3211	引張強さが570MPa以上のものを除く。	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3214	引張強さが570N/mm2以上のものを除く。		
	JIS Z 3315	YGA-50W, YGA-50P		
520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	250℃以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級炭素鋼 （STKR, BCR及びBCPに限る。）	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
490N級炭素鋼 （STKR及び BCPに限る。）	JIS Z 3312	YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	250℃以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

⑭ 仮組

・行う　⊙行わない　(7.3.10)

⑮ 錆止め塗装

耐火被覆材の接着する面の塗装　(7.8.2)
・行う（※「標仕」18.3.2による　・　）　・行わない

設計 教育委員会教育総務課	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	
	図面名 建築工事仕様書　その２	図面番号 Ｂ－ａ02

8　章　　コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事

項　目　／　特　記　事　項

1　建築用コンクリートブロック

1）補強コンクリートブロック造　(8.2.2)

断面形状及び圧縮強さによる区分	厚さ（mm）	適用箇所
※空洞ブロックC(16)		
・空洞ブロックC(16)-W		

2）コンクリートブロック帳壁及び塀　(8.3.2)
　※「標仕」表8.3.1及び下表による。

適用箇所			厚さ（mm）
・外壁			・
・間仕切壁			・
・地下二重壁			・
・塀	高さ	２m以下	・120
		２mを超える	・150

2　ALCパネル

(8.4.2～6)(表8.4.2～4)

種　類	単位荷量（N/㎡）	厚さ（mm）	取付け工法種別等
・外壁パネル ※平パネル ・意匠パネル	・1180　・1960	・100 ・120 ・	・A種　・B種 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する
・間仕切壁パネル ※平パネル	――――	・80　・100 ・	・C種　・D種 伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する
・屋根パネル	・960	・100　・	※F種 耐火性能　・有り （・１時間　・２時間）
・床パネル	・2350　・3530	・100　・150	

外壁と間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅
　※　２０　・　図示による　(mm)

③　押出成形セメント板（ECP）

(8.5.2～5)(表8.5.1～2)

施工箇所	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	ロックウール充填	工法	耐火性能
⊙外壁パネル	※F	・50　⊙60		・有　⊙無	・A種 ・B種	⊙有り（1.0h） ・無し
	・D	・50　・60		・有　・無		
	・T	・60		・有　・無		
・間仕切壁パネル	※F			・有　・無	・B種 ・C種	・有り（　　） ・無し
	・D			・有　・無		
	・T			・有　・無		

製造所 JIS A 5441による
⊙ECPはLZ工法とする

4　外壁パネル工法

外壁パネルの取り付け工法　(8.4.3)(8.5.3)
　パネルの取り付け工法は図示による。なお、建築基準法に定める風圧力に対応した工法（建設省告示第109号による）を、1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。

9　章　防　水　工　事

項　目　／　特　記　事　項

1　アスファルト防水

1）種別及び施工箇所　(9.2.2～3)(表9.2.3～9)

種　別	施　工　箇　所
※AI－2	
・A－2	
・D－2	
・BI－2	床型枠用鋼製デッキプレートを使用したコンクリートスラブ
・	
・	

2）アスファルト　※３種　・４種　(9.2.2)

3）断熱工法の断熱材　厚さ（mm）　※25　・　(9.2.2)
　ただし、オゾン層破壊物質を含まないもの。

4）立ち上り部の保護材　(9.2.2)
　・乾式保護材
　・れんが　※市販品れんが、又は市販品のれんが形コンクリートブロック（見え隠れ部分）

乾式保護材の種類		厚　さ（mm）	適　用
・押出成形セメント板 （窯業系パネル）	※Ⅰ類 ・Ⅱ類	・約15×300 ・約26×600 ・	※無石綿に限る
・金属複合板		・約12×900	

製造所 JIS規格又は「評価名簿」による

②　改質アスファルトシート防水

種別及び施工箇所　(9.3.2～3)(表9.3.1～3)

種　別	施　工　箇　所
⊙AS－T1	図示（屋上）
・AS－T2	
・	

3　合成高分子系ルーフィングシート防水

1）種別及び施工箇所　(9.4.2～3)(表9.4.1～2)

種　別	厚さ（mm）	施　工　箇　所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・S－F1	※1.2　・		・シルバー　・カラー	※非歩行 ・軽歩行
・S－F2	※2.0　・			
・S－M1	※1.5　・		・シルバー　・カラー	
・S－M2	※1.5　・			

2）PCコンクリート部材下地　(9.4.4)
　目地処理（接着工法）　※図示
　入隅部の増張り（S-F1, SI-F1及びS-C1工法の場合）　※行わない　・行う（幅　　mm程度）

④　塗膜防水

1）種別及び施工箇所　(9.5.2～3)(表9.5.1～2)

種　別	施　工　箇　所	備　考
・X－1		仕上げ塗料塗り
⊙X－2	小庇	⊙シルバー　・カラー
・Y－1	地下外壁防水	Y－2工法の保護シート
・Y－2	屋内防水	※適用する　・適用しない

2）種別X－1の脱気装置　・設ける

種　類	材　料	設置数量
・平面部脱気型	※製造所標準仕様 ・ステンレス製　・アルミ製又はアルミ鋳物	・製造所指定数量 ・１箇所／約50㎡当たり
・立上がり部脱気型	※製造所標準仕様	・製造所指定数量 ・１箇所／約10m間隔

⊙水槽専用塗膜防水（消火水槽）

⑤　シーリング

1）下表以外は、「標仕」表9.7.1による。　(9.7.2)(表9.7.1)

施　工　箇　所	シーリング材の種類（記号）
図示	変成シリコーン系（MS－2）

2）接着性試験　※簡易接着性試験　・引張接着性試験（施工部位　　）(9.7.5)

⑥　防水工事保証年限

防水工事は責任施工とし、下記により保証書を提出する。

施工箇所	種　別	保証年限	備　考
・屋上	⊙AS－T1	⊙10年　・	
・小庇	⊙X－2	⊙10年　・	
		・10年　・	

10　章　石　工　事

項　目　／　特　記　事　項

1　天然石張り

1）石の品質　(10.2.1)
　イ）床用石材　※２等品　・１等品（施工箇所　　）
　ロ）壁及びその他の石材　※１等品　・２等品（施工箇所　　）
2）石の種類・表面仕上げ　(10.2.1)(表10.2.1～2)

施　工　箇　所	種　類	産地・名称	厚さ（m）	仕上げの種類

2　テラゾ張り

1）種石の種類　※大理石　・　(10.2.1)

2）表面仕上げ　※本磨き　・　(表10.2.2)

3　壁の石張り工法

1）外壁石張り　(10.2.2)(10.3.2～3)
　①工法　(10.5.2～3)(表10.2.4)
　・外壁湿式工法（※流し筋工法　・　）
　・外壁乾式工法（・スライド方式　・ロッキング方式）
　　※外壁乾式工法の場合は、「建築基準法に基づき指定する条件」により、建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を、1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。
　②あと施工アンカー　材質　※ステンレス（SUS304）　・
　③石裏面処理　※行う（・小口共）　・行わない
　④裏打ち処理　※行う　・行わない
　⑤ドレインパイプ　※樹脂ネット製パイプ25～30φ（クロスメッシュ巻）
　　・ステンレス（SUS304）

2）内壁石張り　(10.2.2)(10.4.2～3)(10.5.2～3)
　①工法
　・内壁空積工法（※あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法）
　・乾式工法　（・スライド方式　・ロッキング方式）
　②あと施工アンカー　材質　※ステンレス（SUS304）　・
　③石裏面処理　※行う（・小口共）　・行わない
　④裏打ち処理　※行う　・行わない

4　床及び階段の石張り

1）床石張りの石裏面処理　※行う　・行わない　(10.6.2)

2）階段石張りの裏面の処理　※行う　・行わない　(10.6.3)

3）屋内のワックス掛け　※行う　・行わない　(10.1.5)

11　章　タ　イ　ル　工　事

項　目　／　特　記　事　項

①　セラミックタイル

1）タイルの種類　(11.2.2)(11.3.2)

施工箇所	形状寸法（mm）	再生材の適用 G	吸水率による区分			釉薬		役物		色		備　考
			Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	施釉	無釉	有	無	標準	特注	
エントランス	50角磁器質		⊙	・	・	・	⊙	⊙	・	⊙	・	LIXILアコルディG同等品
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	

備考欄に記載された商品名等は、品質の程度を示すための参考商品名である。
役物：標準曲がり　（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする

2）タイルの見本焼き　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　）

3）原料に再生材料を用いる再生材利用タイルの品質
　イ）20章　ユニット及びその他工事の「石川県リサイクル認定製品」を使用すると特記されている場合は、特記による。
　ロ）イ）以外は、再生材料を用い焼成されたタイルとし、再生材料利用率は総原材料の重量比で20%以上（複数の再生材料を用いる場合は、その合計）使用されているものとし、再生材に用いる原料の種類及び焼成前処理方法は下表による。ただし、再生材料は通常製造している同一工場からの廃材は除くものとする。（グリーン購入法「特定調達品目」判断基準）

再生材に用いる原料の種類	焼成前処理方法
採石及び窯業廃土、無機珪砂、鐵鋼スラグ、非鉄スラグ、鋳物砂、陶磁器屑、石灰廃、廃プラスチック、建設廃材（汚泥を除く）、廃ゴム、廃ガラス、製紙スラッジ、アルミスラッジ、磨き砂汚泥、石材屑、上水道汚泥、湖沼等の汚泥	前処理によらず対象
都市ゴミの焼成灰	熔解スラグ化
下水道汚泥	焼成灰化又は溶融スラグ化

2　壁タイル張りの工法

1）内装タイル　※壁タイル接着剤張り　・改良積上げ張り　(11.2.6)(11.3.5)(表11.2.3)(表11.3.2)

2）外装タイル　・密着張り　・マスク張り　・改良圧着張り　・接着剤張り

3）下地モルタル塗り　※「標仕」15.2.2～5

4）タイルの試験張り　※行わない　・行う（※外壁タイル　・　）(11.2.2)(11.1.4)

5）既調合モルタルの品質及び性能　(11.2.3)

項　目	単位容積質量（kg／l）	保水率（%）	接着強さ（N／mm2） 標準時	接着強さ（N／mm2） 温冷繰返し後	長さ変化率（%）	曲げ強さ（N／mm2）
品質・項目	1.8以上	70.0以上	0.6以上	0.4以上	0.2以上	4.0以上

3　コンクリート素地面の処理

・MCR工法　・目荒らし工法　(11.2.6)(11.3.5)(6.8.3)(15.2.3)
　施工範囲　※図示　・

12　章　木　工　事

項　目　／　特　記　事　項

①　県産材の使用

能登ヒバ、杉は、県産材とし、代用樹種は認めない。

②　木材の品質

木材の材質等は、下記による。　(12.2.1)
　1）現場搬入時の含水率　※A種　・B種
　2）木材の品質
　（イ）製材 G　・日本農林規格　・一般建築用材
　（ロ）保存処理木材の適用箇所　※「標仕」12.4.1(2)による。
　　日本農林規格に規定する保存処理k3以上とし、木材保存剤はクレオソート油を除く。
　　※JAS1083（木質材料の加圧式保存処理方法）による防腐処理木材
　（ハ）下地材の等級は２級とする　(12.2.1(2)(ｱ))
　（ニ）造作材の材面の品質　※A種　・B種
　（ホ）壁板類の品質　・無節　⊙上小節　・小節　・

※能登ヒバ　FIR乾燥品（遠赤外線乾燥）とする

※杉不燃集成材　「もえんげん」すぎ不燃集成材 米ぬか系油塗装 NM-１７１６同等品
　リン系薬剤不使用すぎ不燃集成材　同等品

3）樹種

	土台、水掛り枠類	見え掛り部分	見え隠れ部分	備　考
下地材（柱等を含む）	・檜・能登ヒバ・草槇	・松・檜・杉	・松・杉	
造作材	・檜・能登ヒバ・草槇	・松・檜・杉⊙能登ヒバ・ラワン無節	――――	・ラワン材 防虫処理
板　材	・	・	・	

（イ）代用樹種（県産材を除く）　※認める　・認めない
（ロ）堅木と図示のあるものの樹種は、ナラ、シオジ、セン、タモ、とし等級は１等とする。
（ハ）断面の割増し
　代用樹種を使用する場合は、建築基準法施行令第89条の規定の許容応力度に基づき断面を検討し、監督員の承諾を得て使用する。

3　集成材 G

1）造作用集成材　(12.2.1)

品　名	見付け材面の品質	樹種名
	※１等　・２等	※たも　・なら　・しおじ
	※１等　・２等	※たも　・なら　・しおじ

2）化粧ばり造作用集成材

品　名	見付け材面の品質	化粧薄板樹種名	化粧薄板の厚さ（mm）
	※１等　・２等		
	※１等　・２等		
	※１等　・２等		

3）造作用単板積層材

品　名	表面の品質	防虫処理
	・天然木化粧 ・塗装加工あり　・化粧加工なし（　　等）	・する　・しない

④　合板等 G

ホルムアルデヒドの放散量　(12.2.1)
　※規制対象外　・第三種

⑤　接着剤

1）接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。　(12.2.2)

2）ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
　※規制対象外　・第三種

6　防腐・防蟻処理

1）防腐処理　・薬剤加圧注入　・薬剤塗布（適用範囲　　）(12.3.1)

2）防蟻処理　・薬剤加圧注入　・薬剤塗布（適用範囲　　）

3）防腐・防蟻剤は、クロルピリホス等を含有しない非有機リン系の表面処理用木材保存材とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督職員に提出し承諾を受ける。

4）防腐・防蟻処理の方法
　現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に、現場にて表面処理用木材保存材を塗布することとする。

⑦　防虫処理

(12.3.2)
ラワン材及びならを使用する場合は、JAS1083-6（製材－第６部：広葉樹製材）による保存処理の性能区分K1の防虫処理を行う。

⑧　出荷証明及び県産材使用証明 G

木材及び合板等は、品質や出荷量等を記録した出荷証明書を提出する。　(12.2.1)
また、設計図書において、県産材の使用が明記されている場合は、工事受注者（資材の発注者）は、合法木材供給事業者の認定を受けた納品者が発行する「県産材産地及び合法木材証明書」及び「納品書」（合法木材団体認定番号及び産地名が（石川県産）と明記されたもの）を監督員に提出する。

13　章　屋　根　及　び　と　い　工　事

項　目　／　特　記　事　項

①　長尺金属板葺

(13.2.2～3)(表13.2.1)

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板　厚（mm）
・立平葺き（勘合式） ・	⊙ハイレタンSGL（厚膜ウレタン塗装　SGL鋼板） 及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）	※0.4 ⊙0.5

建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法（建設省告示第109号による）を1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。
　保証年限　・10年　・15年　・20年
　※塩害保証条件により素材を決定すること。

2　折板葺

1）折板葺の形式等　(13.2.2～3)(表13.2.1)

形　式	※重ね形　・はぜ締め形　・かん合形
形状（mm）	山高（　　）山ピッチ（　　）　板厚※0.6　・0.8
材　料（規格等）	※塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金めっき鋼板（CZACCR-20-Y25） ・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板（CGLCCR-20-AZ150） ・
軒先面戸板	※有り　・無し
断　熱　材	※有り（種別：　　厚さ：　　mm）　・無し
耐火性能	※30分耐火　・無し　｜その他｜材料はJIS規格に基づく

建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法（建設省告示第109号による）を1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。

2）保証年限　・10年

3　粘土瓦葺

(13.4.2)

形状による区分	寸法による区分	製法による区分	備　考
※J形	※53A　・	・ゆう薬がわら	色調（　　）
・S形	・49A　・49B	・いぶしがわら	
・F形	・40	・無ゆうがわら	役物瓦（図示）

建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法（建設省告示第109号による）を、1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。
（イ）産地　※指定無し　・
（ロ）下地コンクリートの場合の特殊モルタル
　①材料の使用量（１㎡当たり）セメント480kg、川砂0.45㎥、水280kg
　　特殊パーライト560㎥（メーカ仕様による）
　②水セメント比60%、スランプ15cm
　③４週保釘力40kg/本以上

④　とい

1）材　種　(13.5.2)(表13.5.1)
　⊙配管用鋼管　⊙硬質ポリ塩化ビニル管（カラー） G　⊙アルミ市場品

2）鋼管製といの防露　※「標仕」表13．５．４による　(13.5.2)(表13.5.3～4)

3）防露材のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・第三種

4）掃除口　※有り　・無し

14　章　金　属　工　事

項　目　／　特　記　事　項

1　あと施工アンカーの引抜き耐力試験

※適用する　・適用しない　(14.1.3)

2　アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表14.2.1)

種　別	色合い	施　工　箇　所
・BB－1種	無着色	
・BB－2種	・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー	

③　鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施　工　箇　所
溶融亜鉛めっき	⊙A種	屋外階段、外部手摺の鉄部
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

④　軽量鉄骨天井下地

天井材の質量が20kg/㎡を超える天井、水平でない天井、システム天井は図示による。これら以外は以下による。
1）野縁等の種類　屋外　※25型　・19型　(14.4.2)(表14.4.1)
　　　　　　　　屋内　※19型　・25型

2）屋外の場合の形式及び寸法　(14.4.3～4)(表14.4.2)
　※下記以外は、「標仕」14．４．３及び表14．４．２による。

下地材の間隔（mm）			施　工　箇　所
野縁受、吊りボルト、インサート		野縁	
中央部	周辺部		

3）天井下地材における耐震性を考慮した補強　※行う　補強箇所　※図示　(14.4.4)

5　金属成形板張り

(14.6.2)

形　状	製　法	材　種	寸法（mm）	厚（mm）	表面処理	色合い
・スパンドレル形	・押出し ・ロール	※アルミニウム製 ・			・BB－１種	無着色
・パネル形	※プレス ・				・BB－２種 ・	・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー

伸縮調整継手　※設けない　・設ける（施工箇所は図示）　(14.6.3)

⑥　アルミニウム製笠木

(14.7.2～3)(表14.2.1)(表14.7.1)

種　類	最小呼称肉厚（mm）	表面処理及び色合い	固定間隔・方法
⊙250形	1.6以上	※AB－1又はBB－1種 無着色 ・BB－2種 （・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）	・「建築基準法に基づき指定する条件」により、建築基準法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した工法を、1.2.2（施工計画書）による品質管理で定める。
・300形	1.8以上		
・350形	2.0以上		

隅角部及び突当り部等の役物は笠木本体製造所の仕様による。

7　体育館の鋼製床下地

体育館の鋼製床下地は、JIS A 6519（体育館用鋼製床下地構成材）による。

15　章　左　官　工　事

項　目　／　特　記　事　項

1　モルタル塗り材料

1）防水剤（モルタルに混入する防水剤）の品質　(15.3.2)

項目	混合割合	凝結及び安定性（JIS R 5201） 凝結時間	凝結及び安定性（JIS R 5201） 安定性	曲げ及び圧縮強度比（%）	吸水比（%）	透水比（%）
品質	セメント質量の５%以下	始発１時間以上 終結10時間以内	収縮性、膨張性のひび割れ・そりがないこと	70以上	95以下	80以下

2）既製目地材　※適用しない　・適用する（形状　　）(15.3.2)

②　床コンクリートの直均し仕上げ

下表以外は「標仕」表6.2.5及び「標仕」15.4.2による。　(表6.2.5)(15.4.1～2)

施工箇所	平たんさ（mm）	備　考
フリーアクセスフロア（パネル構法）範囲	１mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
フリーアクセスフロア（溝構法）範囲	３mにつき７以下	

③　セルフレベリング材塗り

1）せっこう系　施工箇所及び厚さ　※図示　(15.5.2)
2）セメント系　施工箇所及び厚さ　※図示

④　仕上塗材仕上げ

1）仕上塗材の種類等　(15.6.2)(表15.6.1)

種　類	呼　び　名	仕上げの形状等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・外装薄塗材E	・砂壁状　・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状
	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状　・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材S	砂壁状
	・内装薄塗材C	・
	・内装薄塗材L	・
	・内装薄塗材Si	・
	・内装薄塗材E	砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材W	京壁状じゅらく
・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・ゆず肌状　・凸部処理　※凹凸模様
	⊗複層塗材RE	耐候性　※３種　・
	・複層塗材Si	上塗材
	・複層塗材E	溶媒　※水系　・溶剤系
	・可とう形複層塗材CE	樹脂　※アクリル系
	・防水形複層塗材CE	・ポリウレタン系
	・防水形複層塗材RE	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材E	・メタリック
		防水形の増塗材　※行う
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	平たん状

2）建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・第三種

3）防火材料の指定　※屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。　(15.6.2)

⑤　ロックウール吹付け

厚さ（mm）　※図示　・　(15.12.3)

設　計 教育委員会教育総務課	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	
	図面名　建築工事仕様書　その３	図面番号　B－a03

16 章　建具工事

項目　特記事項

1 **見本の製作等**
・特殊な建具の仮組等（建具番号：　　　　　　　　）(16.1.4)

2 **防犯建物部品**
※建具表による (16.1.6)

③ **アルミニウム製建具**

1）外部に面する建具の性能値等 (16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	※Ａ－３	※Ｗ－４	※70（(注)共）	図示
⊙Ｂ種	Ｓ－５	・	・	・	
・Ｃ種	Ｓ－６	・Ａ－４	・Ｗ－５	・100	

(注)引違い、片引き、上げ下げ窓で複層ガラスの時は、100mmとする。

2）表面処理 (16.2.4)(表14.2.1)

施工箇所	種別	色合い等
外部建具	※ＢＢ－１種	無着色
	・ＢＢ－２種	※標準色(・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー)
	・	
内部建具	※AC－１種又はBB－１種	無着色
	・AC－２種又はBB－２種	※標準色(・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー)

3）防音ドアセット　※適用は建具表による

4）断熱ドアセット　※適用は建具表による

5）耐震ドアセット　※適用は建具表による

4 **樹脂製建具**

1）外部に面する建具の性能値等 (16.3.2)(16.3.4)(表16.3.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・Ａ種	Ｓ－４	・Ａ－４	※Ｗ－４	・60　・80	
・Ｂ種	Ｓ－５		・Ｗ－５	・100	
・Ｃ種	Ｓ－６			・125	

2）表面色　※白色　・（　　　　　）

3）ガラス　※複層ガラス　・単層ガラス　・三重ガラス (16.3.3)

⑤ **網戸**

防虫網 (16.2.3)
イ）網の種別　・合成樹脂製　⊙ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス製（SUS316）
ロ）形　式　※外部可動式　・固定式

⑥ **鋼製建具**

1）簡易気密型ドアセット性能値 (16.4.2)(表16.4.1)
※適用する（適用箇所は建具表による）

2）外部に面する建具の耐風圧性 (16.4.2)(表16.2.1)
・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
※施工箇所は建具表による

3）鋼板類の厚さ（１枚の戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,400mmを越える場合）
※下表以外は表16．４．２による。(16.4.4)(表16.4.2)

区分		使用箇所	厚さ（mm）
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3
出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3
	戸	中骨	2.3

⊙図示

7 **標準型鋼製建具**

1）簡易気密型ドアセット性能値 (16.4.2)(16.4.6)(表16.4.1)
※適用する（適用箇所は建具表による）

2）外部に面する建具の耐風圧性 (16.4.2)(16.4.6)(表16.2.1)
・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
※施工箇所は建具表による

⑧ **鋼製軽量建具**

1）簡易気密型ドアセット性能値の適用は建具表による (16.5.2)

2）防音性能を高める場合の充填材　・グラスウール　・ロックウール (16.5.3)

9 **標準型鋼製軽量建具**
簡易気密型ドアセット性能値の適用は建具表による (16.5.2)(16.5.6)

⑩ **ステンレス製建具**

1）簡易気密型ドアセット性能値 (16.4.2)(16.6.2)(表16.4.1)
※適用する（適用箇所は建具表による）

2）外部に面する建具の耐風圧性 (16.2.2)(16.6.2)(表16.2.1)
・Ｓ－４　⊙Ｓ－５　・Ｓ－６
※施工箇所は建具表による

3）表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・No８鏡面仕上げ　・ (16.6.4)

4）曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（補強あり）(16.6.5)

⑪ **木製建具**

1）建物内部の木製建具に使用する表面剤及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (16.7.2)
※規制対象外　・第三種

2）フラッシュ戸の表面材の種類 (16.7.2)(表16.7.2)(表16.7.6)
※難燃合板　⊙ ポリ合板

3）かまち戸の樹種　かまち（ タモ　　　）　鏡板（　　　　　）

4）ふすまの上張り　※新鳥の子又はビニル紙程度　・鳥の子

5）枠及び靴ずりの材料
枠　※木枠　・
靴ずり　※ステンレス　・木製

⑫ **建具用金物**

1）マスターキー　※製作する　・製作しない (16.8.4)

2）建具用金物 (表16.8.1)

金物の種類	製造所
シリンダー箱錠　シリンダー本締まり錠	「評価名簿」による
ドアクローザ、ヒンジクローザ、フロアヒンジ	

13 **自動ドア開閉装置**

1）自動ドアの開閉機構 (16.9.2～3)(表16.9.1～6)

開閉方法	検出装置の種類
※スライディングドア ・スイングドア	※光線(反射)センサー　・電波センサー　・タッチスイッチ ・熱線センサー　・音波センサー　・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ　・光電センサー

2）凍結防止措置　※行わない　・行う（　　　　　）(16.9.3)

3）製造所　大型回転自動ドア機構のみ「評価名簿」による。

⑭ **自閉式上吊り引戸装置**
製造所「評価名簿」による (16.10.2)

⑮ **重量シャッター**

1）外部に面するシャッターの耐風圧強度 (16.11.2)
耐風圧性能（　　　　）N/㎡

2）開閉機能　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式 (16.11.2)(表16.11.1)

3）危害防止機構　※危害防止装置 (16.11.2)
・

4）一般重量シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない (16.11.2)

16 **軽量シャッター**

1）開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）(16.12.2)(表16.12.1)

2）外部に面するシャッターの耐風圧強度 (16.12.2)
耐風圧性能（　　　　）N/㎡

3）電動式の場合の安全装置 (16.12.2)
急降下停止装置　・設置する（適用箇所は建具表による）　・設置しない

4）スラット　厚さ（mm）　※0.5　・0.8 (表16.12.2)
材質　※JISG3312(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) (16.12.3)
・JISG3322(塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形 (16.12.4)

5）ガイドレール等　※鋼板製　・ステンレス製SUS304 (表16.12.2)
厚さ　※1.0　・1.5

17 **オーバーヘッドドア**

(16.13.2～3)

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 （SUS304）

耐風圧性能（　　　　）N/㎡ (16.13.2)

⑱ **ガラス**

ガラスの厚さ・構成等は建具表により、その他ガラス性能等は下記による。(16.14.2)

1）合わせガラス
特性による種類　※Ⅱ－１類（JIS R 3205）

2）強化ガラス

材料板ガラスによる種類	衝撃特性による種類（JIS R 3206）
※フロート強化ガラス ・型板強化ガラス	Ⅲ類（曲面はⅠ類）

3）熱線吸収板ガラス

板ガラスによる種類	日射熱取得率	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	※２種	・ブルー　・グレー　・ブロンズ ・グリーン

4）複層ガラス

種類	断熱性、日射遮へい性による区分（JIS R 3209）
※断熱複層ガラス	※Ｕ３－１　・Ｕ３－２　・Ｕ１　・Ｕ２
・日射熱遮へい複層ガラス	・Ｅ４　・Ｅ５

5）熱線反射板ガラス

品質	反射皮膜面	材料板ガラスの種類	映像調整
※熱線反射ガラス ・高性能熱線反射ガラス	※内面・外面 内面	・フロート板ガラス ・熱線吸収フロート板ガラス ・強化ガラス ・倍強度ガラス ・	※行わない ・行う ただし、メタルカーテンウォール工事は17章による

6）倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※フロート倍強度ガラス	
・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー　・ブルー　・ブロンズ　・

7）ガラスの小口処理 (16.14.4)
ガラス端部で枠にのみ込まない部分の小口加工　※適用は建具表による

⑲ **ガラス留め材及び溝**

ガラス留め材 (16.14.2)(表9.7.1)

建具の種類	材種
アルミニウム製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材
樹脂製	※シーリング材　・ガスケット（FIX部はシーリング材）

ただし、防火戸は建築基準法に基づく規定に定められたもの又は認定を受けた条件による。

板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16.14.3)(図16.14.1)
※「標仕」図16.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等が確認できる資料を監督員に提出し、承認を受ける。

20 **ガラスブロック積み**

ガラスブロック (16.14.5)

寸法（mm）		表面形状		性能等	
呼び寸法	厚さ	色調	パターン	防火性能	耐火性能
		※クリア ・		※無し ・	※無し ・

壁用金属枠及び補強材 (16.14.5)

壁用金属枠の種類	規格及び補強材等
※アルミニウム製	※「標仕」16.2.3のアルミニウム製建具の材料による ・

化粧目地モルタルの色　※モルタル色　・

シーリング材料
下記以外は「標仕」表9.7.1による。(9.7.2)(表9.7.1)

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記号	主成分による区分	耐久性による区分

ただし、防火区画等に用いる場合は、建築基準法に基づく規定に定められたもの、又は認定を受けた条件による。
製造所等 JIS A 5212によるもの又は「評価名簿」による。

㉑ **ガラス用フィルム**

名称	記号	張り面
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	ＧＩ	※内張り　・外張り
・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	ＧＤ	
⊙ガラス飛散防止フィルム（透明タイプ）		

品質　ＪＩＳ Ａ５７５９による。

17 章　カーテンウォール工事

項目　特記事項

1 **メタルカーテンウォール**

設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14による。

カーテンウォール材料の種類 (17.2.2)

種類	規格等
※アルミニウム製	※「標仕」16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	・

カーテンウォール方式
- ・方立方式
- ・バックマリオン方式（・単純２辺支持構法　・ＳＳＧ構法）
- ・スパンドレル方式
- ・パネル方式
- ・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式　・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料
下記以外は「標仕」表9.7.1による。(17.2.2)(9.7.2)(表9.7.1)

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記号	主成分による区分	耐久性による区分
金属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造ガスケット　※適用しない (17.2.2)
・適用する（施工箇所：　　　　　　）

断熱材 Ｇ　※適用しない (17.2.2)
・適用する（種類：　　　厚さ（mm）　　　：施工箇所※図示）

製品の寸法許容差　※下記以外は「標仕」表17.2.1による。(17.2.3)(表17.2.1)
・製造所標準製作規定寸法許容差による。

アルミニウムの表面処理 (17.2.3)(表17.2.1)

種別	色合い等
・ＡＢ－１種　・ＢＢ－１種	無着色
・ＡＢ－２種　・ＢＢ－２種	※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー　・
・着色塗膜　塗装材料（　　　　　）焼付け方法（　　）コート（　　）ベーク	

耐風圧性能 (17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　　N/㎡以上及び負圧　　N/㎡以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（ｈ）	たわみ量	状態
※４ｍ以下	※±（1/150）×ｈ かつ絶対量20mm以下	※各部の破損、残留変形 有害な変形が起らないこと
・４ｍを超える		

耐震性能 (17.1.3)
設計用震度　水平方向（K_H）　※1.0　・
垂直方向（K_V）　※0.5　・

構造種別	許容層間変位量（ｈ＝支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	※±（1/100）×ｈ以上 ・	※部材・ガラス等の損傷、破損及び脱落が起こらないこと 主要部材に有害な歪みが起こらないこと シーリングの損傷は補修程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×ｈ以上 ・	

水密性　・Ｗ－４　・Ｗ－５ (17.1.3)(表16.2.1)

気密性　・Ａ－３　・Ａ－４ (17.1.3)(表16.2.1)

耐火性能　※適用しない　・適用する（　　時間、施工箇所：図示）

映像調整　※行わない　・行う（建具表による）

2 **ＰＣカーテンウォール**

設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14による。(17.3.2)

コンクリートの種類及び品質
※「標仕」17.3.2による。
・下表による。ただし下表以外は17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Ｆｏ）	所要スランプ（cm）

鉄筋　※SD295　・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質
下記以外はカーテンウォール製作所の仕様による。(17.3.2)(14.2.2)(表14.2.2)

金物種類及び部位	内部	外部
PC版打込み金物	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
PC版打込み取付けボルト	※Ｅ種　・	※ステンレスボルト
２次ファスナー	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
取付けボルト	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
レベル調整ボルト	※Ｅ種　・	※Ａ種　・
	・	・

シーリング材料
下記以外は「標仕」表9.7.1による。(17.2.2)(9.7.2)(表9.7.1)

施工箇所	シーリング材の種別		
	記号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

断熱材 Ｇ　※適用しない
・適用する（種類：　　　厚さ（mm）　　　：施工箇所※図示）

製品の寸法許容差　※下記以外は「標仕」表17.3.1による。(17.3.3)(表17.3.1)
・製造所標準製作規定寸法許容差による。

表面仕上げ　（　　　　　　　　　）

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能 (17.1.3)
性能値　※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧　　N/㎡以上及び負圧　　N/㎡以上に対して安全であること。

耐震性能 (17.1.3)
設計用震度　水平方向（K_H）　※1.0　・
垂直方向（K_V）　※0.5　・

構造種別	許容層間変位量（ｈ＝支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	※±（1/100）×ｈ以上	※部材・ガラス等の損傷、破損及び脱落が起こらないこと シーリングの損傷は破損程度
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×ｈ以上	

18 章　塗装工事

項目　特記事項

① **材料**
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いたホルムアルデヒドの放散量 (18.1.3)
※規制対象外　・第三種
屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。

② **素地ごしらえ**
木部の素地ごしらえ　不透明塗料塗り　※Ａ種　・Ｂ種 (18.2.2)(表18.2.1)
透明塗料塗り　・Ａ種　※Ｂ種
鉄鋼面の素地ごしらえ　・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種 (表18.2.2)
亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ　⊙Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種 (表18.2.3)
モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ (表18.2.4)
・Ａ種　※Ｂ種
コンクリート面、ＡＬＣパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ (表18.2.5～6)
・Ａ種　※Ｂ種 (表18.2.7)
せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ
・Ａ種　※Ｂ種

③ **錆止め塗料塗り**
錆止め塗料種別 (18.3.2)
・鉄鋼面　・Ａｓ種　・Ｂｓ種　・Ｃｓ種　・Ｄｓ種 (表18.3.1)
・亜鉛めっき鋼面　・Ａｚ種　・Ｂｚ種　・Ｃｚ種 (表18.3.2)

錆止め塗料塗り (18.3.3)
・鉄鋼面（SOP、EP-G、錆止め塗装のままの場合）　見え掛り　※Ａ種　・Ｂ種 (表18.3.3)
見え隠れ　・Ａ種　※Ｂ種
・亜鉛めっき鋼面（SOP、EP-Gの場合）　鋼製建具　※Ａ種　・Ｂ種 (表18.3.5)
その他　・Ａ種　※Ｂ種

④ **合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)**
塗料の種別　※１種　・２種 (18.4.2)
・鉄鋼面種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.4.3)(表18.4.2)

⑤ **クリヤラッカー塗り(CL)**
種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.5.2)(表18.5.1)

6 **アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）**
種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.6.2)(表18.6.1)

⑦ **耐候性塗料塗り（DP）**
鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面 (18.7.2～3)
等級　・１級　・２級　・３級
コンクリート面及び押出成形セメント板面 (18.7.4)(表18.7.3)
種別　・Ａ種　・Ｂ種　⊙Ｃ種

⑧ **つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)**
種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.8.2)(表18.8.1)
(18.8.4)(表18.8.3)

9 **合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)**
種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.9.2)(表18.9.1)

10 **ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)**
種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.10.2)(表18.10.1)

⑪ **木材保護着色塗料塗り（WP）**
種別　・Ａ種　※Ｂ種 (18.12.2)(表18.12.1)

19 章　内装工事

項目　特記事項

① **材料**
(19.2.2)(19.3.2)(19.4.2)(19.5.2)(19.7.2)(19.8.2)(19.9.2)
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤、塗料、フェノールフォーム保温材のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

② **ビニル床シート張り Ｇ**
(19.2.2)

種類	ＪＩＳの記号	色柄	厚さ（mm）
※発泡層のないもの	※ＦＳ　・	※無地　⊙マーブル	※2.0　・2.5
・発泡層のあるもの	・ＨＳ	※柄物　・無地	
・			
・			

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されていること。
（ＫＳの場合を除く）

工法　※熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　　　　　）(19.2.3)

3 **ビニル床タイル張り Ｇ**
(19.2.2)

種類	JISの記号	厚さ（mm）	寸法（mm）	備考
※コンポジションビニル床タイル［接着形］	ＫＴ	※2.0 ・	・300×300 ・450×450	
・複層ビニル床タイル［接着形］	ＦＴ	※2.0 ・	・300×300 ・450×450	

再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されていること。

4 **帯電防止床タイル張り**
(19.2.2)

種類	厚さ（mm）	性能
・コンポジションビニル床タイル	※２	体積抵抗値（JIS K 6911による） 1.0×10^9Ω以下、または、 漏洩抵抗値（JIS A 1454による） 1.0×10^{10}Ω未満
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は5.0	
・	・	
・	・	

⑤ **ビニル幅木**
高さ（mm）　※60　・ (19.2.2)

設計 教育委員会教育総務課	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	
	図面名 建築工事仕様書　その４	図面番号 Ｂ－a04

⑥ カーペット敷き 🄶

防炎性能は、消防法で定める防炎性能を有し、登録されているものとする。 (19.3.1)

・織じゅうたん (19.3.2〜3)(表19.3.1)

種別	織り方	パイル形状	色柄等	帯電性
・A種	・ウィルトンカーペット	・カットパイル	※単一色（無地）	人体帯電圧
・B種	・ダブルフェースカーペット	・ループパイル	・柄物（標準色）	※3kv以下
・C種	・アキスミンスターカーペット	・カット、ループ併用	・	・

・タフテッドカーペット (19.3.2〜3)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長（mm）	工法	帯電性
・カットパイル	※5〜7 ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	人体帯電圧 ※3kv以下 ・
・マルチレベルループ	※4〜6 ・		
・レベルループパイル	※4 ・		
・カット、ループ併用	・		

・ニードルパンチカーペット (19.3.2)
厚さ(mm)　　・帯電性　人体帯電圧　3kv以下　　備考

⊙タイルカーペット (19.3.2)

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	帯電性	備考
※第一種 ・第二種	※ループパイル ・カットパイル ・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※500×500 ・	※6.5 ・	人体 耐電圧 3kv以下	

7 合成樹脂塗り床

(19.4.2〜3)(表19.4.1〜8)

種別		仕上げの種類
厚膜型	・弾性ウレタン樹脂系塗床材	※平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
	・エポキシ樹脂系塗床材	※薄膜流し展べ工法（※平滑　・防滑） ・厚膜流し展べ工法（※平滑　・防滑） ・樹脂モルタル工法（※平滑　・防滑）
薄膜型	・エポキシ樹脂系塗床材	※平滑仕上げ ・

8 床用塗料塗り

材質　ウレタン樹脂系塗料（※標準色　・　）
仕上種別　※平滑仕上げ　・防滑仕上げ
塗布量　プライマー塗のうえ主剤2回塗りとし、総塗布量は0.5kg/㎡以上とする。

⑨ 防塵用塗料塗り

材質　水性アクリル系樹脂塗料（※標準色　・　）
仕上種別　コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量　主剤2回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする。

⑩ フローリング張り

(19.5.2〜6)(表19.5.1〜6)

品名	樹種	工法	種別	仕上塗装等
※天然木化粧 複合フローリング 🄶	・なら ・ひのき ⊙能登ひば ・	※釘どめ工法（根太張工法） ・釘どめ工法（直張り工法） ⊙接着工法（直張用）	・A種 ・B種 ・C種	※塗装品 ・無塗装品 ・合成樹脂発泡シート
・	・	・	・	・

11 畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)

下地の種類	畳の種別
「標仕」表12.6.1による床組	・A種（畳表：・JS　・J1） ※B種 ・C種（畳床：・PS-C20　・PS-C25　・PS-C30） ・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）
ポリスチレンフォーム床下地	・C種（畳床：・PS-C20　・PS-C25　・PS-C30） ※D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）

12 ポリスチレンフォーム床下地材

畳下地　厚さ（mm）　※40　・65　・80
フローリング類下地　厚さ（mm）　※80　・95

13 特殊合板等の種類

特殊合板の仕上げの種類などは、下記による。 (19.7.2)

施工箇所		
仕上げの種類	・天然木化粧合板（・　）	・特殊加工化粧合板（・　）
防火性能	・難燃　・準不燃　・不燃	・難燃　・準不燃　・不燃
表面の品質	・1等　・2等　・3等	・1等　・2等　・3等
接着剤の種類	・1種　・2種　・3種	・1種　・2種　・3種
工法	・A種　・B種　・釘打　・タッピング	・A種　・B種　・釘打　・タッピング
目地処理	・目透し・突付け・V目地・底目地	・目透し・突付け・V目地・底目地

⑭ 壁紙張り

(19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能の級別	備考
	紙製	繊維（織物）	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ（ﾋﾞﾆﾙ）	無機質製	その他		
図示	・	・	⊙	・	・	※不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・	・	※不燃　・準不燃　・難燃	

素地ごしらえ (19.8.3)(表19.8.1〜3)
モルタル面及びせっこうプラスター面　※B種　・A種（施工箇所：　）
コンクリート面　※B種　・A種（施工箇所：　）
せっこうボード面及びけい酸カルシウム板面　※B種　・A種（施工箇所：　）

⑮ 断熱材 🄶

断熱材は、原則として「グリーン購入法」における特定調達品目を使用する。
ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種 (19.9.2)

(19.9.2)(19.9.3)

種類		施工箇所	厚さ（mm）	品質等
⊙押出法ポリスチレンフォーム保温板	※2種b	※一般部	⊙25 ・	特定フロンを使用しないもの 🄶
	※3種b（スキン層付）	・接地部分 ・	・25 ・	
・現場発泡断熱材		※断熱材補修部分	―――	特定フロンを使用しないもの 難燃性　※3級　・2級
		⊙一般部 ・	・15 ⊙30	
		製造所 JIS A 9526又は「評価名簿」による		
・断熱材兼用型枠		・壁（図示の範囲） ・	・40以下 ・	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.676以上 （㎡・K/w）

16 体育館のフローリング張り

体育館のフローリング張りは、下記による。
（イ）材種　下張り（組床式の場合）・1類ラワン合板（厚15）・構造用合板1類2級（厚15）
上張り　・かば桜18mm　・
（ロ）工法　下張りとは、鋼製下地にタッピングビス止め。上張りは、下張り材に接着剤と釘打ち併用とする。
上張り材と他の材料との取合いは、ネオプレンゴムとし、コートラインは、上塗り前に、監督員の指示により施工する。

17 浴室天井材

市販品

材質	表面仕上げ	性能	幅（mm）	備考
※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※200	回り縁は樋付きとし、製造所の標準品とする。
	・アルマイト処理品		・100	
・硬質塩ビ製	※塗装品 ・木目調		※300 ・100	

⑱ せっこうボードその他のボード張り

(19.7.2)(表19.7.1)

種類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等	
・硬質木毛セメント板 🄶	HW	・15　・20　・25	再生の木質材又は植物繊維の質量比割合が50%以上であること。ただし、体積比20%以下の接着材、混和剤等の質量は除くことができる。
・普通木毛セメント板 🄶	NW	・15　・20　・25	
・ミディアムデンシティファイバーボード 🄶	MDF	・	
・パーティクルボード 🄶		・	
⊙けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ2（無石綿）	
⊙ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ（※9　・12　・　） ・凹凸タイプ（※12　・15　・19　・　）	
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）		※フラットタイプ9（（個）不燃） ・凹凸タイプ（※12　・15）（（個）不燃）	
⊙せっこうボード	GB－R	・12.5（不燃） （テーパエッジボード施工箇所は図示）	
⊙不燃積層せっこうボード	GB－NC	9.5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）	
⊙シージングせっこうボード	GB－S	12.5（（個）不燃）	
⊙強化せっこうボード	GB－F	※12.5（不燃）　・15.0（不燃）	
・せっこうラスボード	GB－L	9.5	
・化粧せっこうボード（木目）	GB－D	12.5（不燃）　幅440mm程度 模様（※柾目　・板目）専用下地材付き	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による　厚さ1.2	
・難燃合板 🄶			

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (19.7.2)(表19.7.1)
※適用する　・適用しない

19 吸音材

(表19.7.1)

種類	記号	厚さ（mm）
・ロックウール吸音ボード1号	RW－B	※25　・
※グラスウール吸音ボード2号32K	GW－B	※25　・

⑳ 乾式耐火間仕切壁

耐火性能	下地材	構造方法	仕上げ材等
60分耐火 （非耐力壁）	軽量鉄骨壁下地	両面	⊙強化せっこうボード（厚さ15mm）下張り＋せっこうボード系（厚さ12.5mm） ・けい酸カルシウム板系（厚さ8mm）二重張り ・けい酸カルシウム板系（厚さ8mm）＋せっこうボード系（厚さ12.5mm）
		片面	⊙強化せっこうボード系（厚さ21mm二重張り）

品質・規格　建築基準法に基づく耐火構造の通則的指定及び個別的指定を受けたもの。

㉑ 誘導用及び注意喚起用床材

視覚障害者用タイル (19.2.2)

適用箇所	種類	寸法（mm）	形状
屋内	⊙ステンレス系	※300×300　・	ブロックパターンはJIS T 9251による
	・磁器又はせっ器タイル	・	
屋外	⊙コンクリート系	※300×300×60　・300×300×30	
	・レジンコンクリート系	※300×300　・	
	・磁器又はせっ器タイル	・	

20 章　ユニット及びその他工事

項目　特記事項

① 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
⊙垂直方向	※完全（全貫通型）スリット	⊙耐火型	⊙有り
⊙水平方向	・部分スリット	・非耐火型	・無し

目地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※20×10　⊙ 図示	※20×10　⊙ 図示

2 ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ金物

材質	クリアランス	防火性能	防水性能
・アルミ　・ステンレス	・50　・100　・150　・	・あり　・なし	・あり　・なし

③ 止水板

形状　⊙差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　※図示

4 フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	仕上り高（mm）	適用地震時水平力	耐荷重性能（注1）	表面仕上げ材（注2）
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット

注1　耐荷重性能5,000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等のものとする。
注2　表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による。

構成材の材質　・アルミニウム　・鋼製　・
スロープ及びボーダー　※製造所の標準仕様（ただし、構成材は「標仕」による）　・図示
コンセント等の取付け対応　※製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）
コンセントの箇所数は図示
配線用取り出しパネル　※配線取り出し開口：パネル1枚につき40mm×80mm程度の開口1ヶ所以上

フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
※20～30パーセント　・
空調用吹き出しパネル　※無し
・有り（※固定式　・可変式　：施工箇所は図示）

5 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式	パネル部の総厚さ(mm)	表面材種厚さ(mm)	仕上げ	遮音性（透過損失）	不燃材料の認定
※パネル式 ・スタッド式 ・スタッドパネル式	・	※鋼板 （※0.5　・　） ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・15dB程度 ・30dB程度 ・36dB以上 ・	・あり

製造所等 JIS A 6512によるもの又は「評価名簿」によるもの

6 移動間仕切

(20.2.4)

遮音性能による区分	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ（注2）	操作方法	施工箇所
・一般タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式	
・遮音タイプ（注1）		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式　・電動式 ・部分電動式	

注1　JIS A 1416による試験方法において、中心周波数500Hzの音の透過損失が36dB以上の性能を有するものとする。
注2　表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事 14壁紙張りによる。

パネル圧接装置操作方法　※製造所標準仕様　・

⑦ トイレブース

(20.2.5)

表面仕上げ材	脚部の形状・材質		ドアエッジの形状・材質	
※メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・支柱タイプ	・アルミニウム ・ステンレス	・フラット形 ・曲面形	※アルミニウム製 ・ステンレス製

⑧ 手すり

(20.2.6)

材料の種別	表面処理
※ステンレスSUS304	※HL程度　・鏡面程度　・
⊙鉄	亜鉛めっき　外部　※C種　・ 内部　※E種　・

⑨ 階段滑止め

材種　ステンレスSUS304 (20.2.7)
形状　ビニルタイヤ入り
両端フラットエンド　※有り（・ステンレス製　※ビニル製）　・無し
幅（mm）　約35
取付け工法　※接着工法　・埋込み工法

⑩ 階段手すり

種別	仕上げ等	手すり径等（mm）	施工箇所
⊙集成材（市販品）	※クリアラッカー	・45　・	
・ビニル製ハンドレール ※アルミ製　塩ビ被覆	・耐候性タイプ ・	・50（幅） ・34　・40	
・ステンレスパイプ ・鋼製パイプ	・HL ・	・40 ・	

11 黒板及びホワイトボード

(20.2.9)

種類		寸法（mm）	備考
・黒板	・焼付け		※平面　⊙曲面　・スクリーン付引分
・ホワイトボード	・ほうろう		※平面　・曲面　・スクリーン付引分

12 表示標識

衝突防止表示　※図示 (20.2.11)
（市販品　※ステンレス製　径　約30mm　・　）
・無し
法令に基づく表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。
製造所　監督職員の承諾する製造所

⑬ タラップ

(20.2.12)

材料の種別	表面処理
⊗ステンレスSUS304	※研磨なし　・
⊙鉄	亜鉛めっき　内外部　※C種　・ ・

14 煙突用成形ライニング材

適用安全使用温度　※400℃　・650℃ (20.2.13)
製造所「評価名簿」による。

15 ブラインド

(20.2.14)

形式	種類	スラットの材質	スラットの幅（mm）
※横型	※ギア式　・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25
・縦型	・1本操作コード ・2本操作コード	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100

⑯ ブラインドボックス及びカーテンボックス

※市販品（アルミニウム製　押出し型材）

使用区分	溝幅×深さ（mm）
⊙横型ブラインド	※90×150　・120×150　・
・縦型ブラインド	※120×80　・150×80　・
⊙カーテン（又はレース共）	※150×80　・180×80　・
・カーテン＋横型ブラインド	※180×150　・

色彩　※B－1　・B－2（※ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）　・図示

⑰ ロールスクリーン

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの種類	品質等
・プルコード式（ストッパー付）	⊙無地	
・ワンタッチチェーン式	・柄物	
⊙チェーン式	・遮光タイプ	
・電動式		

製造所

⑱ カーテン及びカーテンレール

(20.2.16)

施工箇所	形式		装置			名称・品質	ひだの種類	備考
	片引	引分	電動	ひも引	手引			
⊙図示	⊙	⊙	・	・	⊙			
	・	・	・	・	・			
	・	・	・	・	・			

19 ピクチャーレール

レール　材質　アルミニウム製（シルバー）
形式　先付け天井埋込型（見切縁兼用）
ランナー　材質　本体：真鍮性　フック：ステンレス製（可動式）
耐荷重　25kg程度/個
個数　2個/レール1m

⑳ 天井点検口

目地形状	運用箇所	寸法（mm）
額縁タイプ	下記以外全て	※450×450 ・600×600 ・
目地タイプ	※図示 ・天井仕上げ材がDRの範囲	

品質及び性能等 (表14.2.1)

項目	材料の品質・規格及び性能	
内外枠の材質	アルミニウム合金押出型材（表面処理：C－1種又はC－2種による）	
内外の仕上げ材留付け金具	アルミニウム合金押出型材、亜鉛めっき鋼板類及び同等の性能を有するもの	
コーナービス及び取付け金物等	鋼材に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの	
寸法許容差	枠の許容差	±0.5mm以内
	外枠と内枠のクリアランス	2.0mm以内

㉑ 床点検口

本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法（mm）
※アルミ製 ・ステンレス製	※アルミ　・ステンレス　・黄銅	下記以外全て	※600×600 ・

品質及び性能等

材質	品質・規格及び性能	
アルミ合金押出型材	JIS H 4100 A6063Sによる	表面処理 A－1種又はA－2種による
アルミニウム板	JIS H 4000 A1100PH24による	
ステンレス製	JIS G 4305（目地材はG 4308も含む）のSUS304による	表面処理 HL又はNo2B程度
寸法許容差（mm）	受け枠寸法の許容差	±0.5
	蓋枠寸法の許容差	±0.5
	受け枠と蓋枠のクリアランス（片側）	2.0以内
耐荷重性能	荷重Pn＝1,000Nにおける蓋中央部の残留たわみ	点検口有効径の0.08%以内
	耐破壊荷重	荷重値Pnの2倍以上

㉒ 収納家具・書架・物品棚

	品質	主要構造部材の材料	形状寸法(mm)	備考
・収納家具	JIS S1033(ｵﾌｨｽ用収納家具)による	・鋼製 ・木製	・図示 ・	
・書架	JIS S1039(書架物品棚)による	・鋼製 ・	・図示 ・	JIS S1039による種類 ・1種　・2種　・3種
・物品棚		・鋼製 ・	・図示 ・	JIS S1039による種類 ・5種　・6種　・7種
・移動式 書架・物品棚		・図示 ・木製	・図示 ・	

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種

㉓ かぎ箱

⊙図示
市販品
形式　⊙30組用　・60組用　・120組用

24 くつふきマット

市販品
材質　・塩化ビニル製（コイル状　ステンレス製受枠）
・ビニル製（ステンレス製受枠）
・硬質アルミニウム製（受枠とも）
・ステンレス製（受枠とも）

25 流し台ユニット

種類	寸法（L＝mm）	適用内容	規格・品質等
・流し台	※1200　・1500　・1800	トラップ付き	※優良住宅部品 (ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝⅠ型) ・
・コンロ台	※600　・700　・	バックガード　※有り	
・つり戸棚	※1200　・900　・800		
・水切り棚	※1200　・900	ステンレス製　※1段式	※市販品

26 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

㉗ 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧張り（心材：集成材）　・人工大理石（仕様は図示）
奥行き（mm）　・約450　・約600
⊙図示

28 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備考
・網入り磨板ガラス	※6.8	※500	アルミ製枠付き
・線入り磨板ガラス	・	・	

・可動式

種類	材質	高さ（mm）	備考
・垂直降下式（巻取り型）	不燃布（不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）
品質、規格　（財）日本建築センターの防災性能評定品

29 敷地境界石標

・かこう岩（文字記号等入り）
※コンクリートブロック製の市販品程度

30 旗竿

材質　※アルミニウム合金製
形式　※テーパー型　・同一断面型
地上高さ（m）　・6　・8　・10　・12
操作方法　※ハンドル式　・ロープ式
固定方法　・埋込式　・ベース式　・バンド式

31 旗竿受金物

材種　ステンレス製SUS304

32 フェンス

・耐雪型　・一般型
・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス　・鋼管フェンス

33 屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し
製造所

34 車止め支柱

・ステンレス製（上下式鎖内蔵型、反射テープ付き）　径114.3mm　t＝2.5mm　H＝GL＋700mm
※スプリング付　・スプリング無し
・図示

㉟ 建築銘板

建築銘板の設置等は、下記による。
（イ）設置　⊙設置する　・設置しない
（ロ）材料、大きさ　⊙黒又は白御影石水磨き仕上げ（450×600×25）
・アクリル樹脂板（450×600×10）
（ハ）記入内容（参考）

45（60）
60（45）

工事名
完成　令和　年　月　日
（監修）
設計
監理
建築　（業者名を記入する）
電気　（業者名を記入する）
給排水　（業者名を記入する）
空調　（業者名を記入する）
合併処理（業者名を記入する）
昇降機　（業者名を記入する）

設計 教育委員会教育総務課	工事名 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	
	図面名 建築工事仕様書　その5	図面番号 B－a05

㊱ リサイクル製品の使用

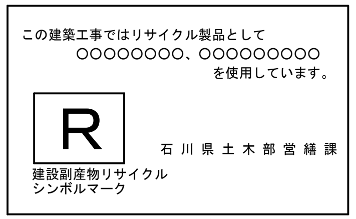
(1)リサイクル製品は、「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。
石川県エコ・リサイクル認定製品　⊙使用する

使用箇所	製　　品	備考
・		
・		
・		

「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。
http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県 生活環境部 資源循環推進課）

(2)その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。

(3)建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの）
看板の寸法は90cm×60cm程度とする。



（注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること

37 伝統産業工芸品の使用

使用箇所	製　　品	備考
・		
・		
・		

21 章　排　水　工　事

項　目		特　記　事　項

① 排水管

排水管用材料　(21.2.1)(表21.2.1)

材　種	管の種類	管形状（接合方法）
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（※１種　・２種）	Ｂ形（ゴム接合）
・硬質ポリ塩化ビニル管	※ＶＰ　・ＶＵ	
・ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ三層管 G	※ＲＳ-ＶＵ	

② 排水桝及びふた　(21.2.1)

種　類	適用荷重	鍵
・水封形　・密閉形（テーパー・パッキン式） ・簡易気密形（パッキン式） ・中ふた付密閉形（テーパー・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－20用	・あり ・なし

グレーチングふた　(21.2.1)

材　質	形　式	種　類	適用荷重	ﾒﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	上面形状
・鋼製 ・ステンレス製	※受枠付き ・ ボルト固定 ※無し ・図示	・溝ふた用（横断） ・溝ふた用（縦断） ・桝ふた用 ・かき上げ用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	※細目	※凹凸形
			・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－14用 ・Ｔ－20用	※普通目 ・細目	※平形 ・凹凸形

3 埋戻し土　※Ｂ種　・建設汚泥から再生した処理土 G　(21.2.1)

22 章　舗　装　工　事

項　目		特　記　事　項

1 盛土に用いる材料　(22.2.3)(表3.2.1)
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 G

2 凍上抑制層の材料　※再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切り込み砂利　(22.2.3)

3 路床

１）路床安定処理　(22.2.2～3)(表22.2.1)
※添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントＢ種
・高炉セメントＢ種 G　・生石灰（　　）　・消石灰（　　）
添加量　　kg／㎥（目標ＣＢＲ　※５以上　・　　）
・ジオテキスタイルによる安定処理
ジオテキスタイルの品質
単位面積質量　60ｇ／㎡以上
厚さ（ｍｍ）　0.5～1.0
引張り強さ　98Ｎ／５cm（10kgf／５cm）以上
透水計数　1.5×10cm／sec以上

２）透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ　(22.2.2)
車道部　※150㎜　・（　　）
歩道部　※50㎜　・（　　）

３）路床土の支持力比試験　※行う（※乱した土　・乱さない土）　(22.2.5)

４）路床締固め度の試験　※行う　(22.2.5)

５）砂の粒度試験　※行う　(22.2.5)

4 路盤

１）材料 G
※再生クラッシャラン（ＲＣ－40）　(22.3.3)(表22.3.1)
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－40）

２）路盤の厚さ　(22.3.2)

舗装の種類	路盤の厚さ（㎜）	
	車道部	歩道部
アスファルト舗装	・100　・150　・250　・300	・100
コンクリート舗装	・150	・100
カラー舗装	・100　・150　・250　・300	・100
透水性アスファルト舗装		・100
インターロッキングブロック舗装	・100　・150　・250	・100

３）路盤の締固め度試験　※行う　(22.3.5)

5 アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　(22.4.2)

部位	舗装の厚さ（㎜）	
	基層	表層
車道部（基層なし）		・50　・
車道部（基層あり）	・50　・	・30　・
歩道部		・30　・

アスファルト　※再生アスファルト G　・ストレートアスファルト　(22.4.3)

再生加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.4)(表22.4.4)

区分	・一般地域	※寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・細粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13Ｆ）

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲：　　）　(22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

6 コンクリート舗装

早強セメント　※使用しない　・使用する　(22.5.3)
注入材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ　(22.5.3)(表22.5.2)
溶接金網　※有り　・無し　(22.5.3～4)
厚さ試験　※行う　・行わない　(22.5.6)

7 カラー舗装

カラー舗装の種類　(22.6.2～4)(表22.6.1～2)

種　類	車道部の基層	着色骨材等	顔料の添加量等	カラー舗装の厚さ（㎜）
※アスファルト混合物	※なし	・有色骨材（焼成）	・５～７％	※50
・石油樹脂系混合物	・あり	・着色骨材（樹脂被覆）	・　％	・30　・
・樹脂系混合物		・自然石		５～10
・ニート工法		・エメリー ・着色磁器質骨材		３～５
・塗布工法				１程度以下

8 透水性アスファルト舗装　アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22.7.6)

9 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.8.2～3)

種　類	寸法（㎜）	厚さ（㎜）	目地材	表面加工
※普通平板（Ｎ）	※300角	※60	※砂	・研ぎ出し　・洗い出し
・透水平板（Ｐ）	・		・モルタル	・たたき出し

・インターロッキングブロック舗装　(22.8.2～3)

種　類	曲げ強度	厚さ（㎜）	表面加工及び色彩等
※普通タイプ ・誘導、注意喚起用タイプ	５N/mm² 以上	車道部　※80　・ 歩道部　※60　・	※標準タイプ ・表面化粧タイプ 誘導、注意喚起用は 黄色とする
・透水性タイプ	３N/mm² 以上		
・植生タイプ	４N/mm² 以上	※100　・80	

製造所 JIS A 5371による。

・舗石舗装　(22.8.2～3)

種　類	厚さ（㎜）	施工方法	基　層
※小舗石（花こう岩）	※80～100	※うろこ張り	※コンクリート舗装
・	・	・	・アスファルト舗装

10 区画線

路面表示用塗料

規格番号	種　類	施工時の条件	適　用	寸法（ｍｍ）	色　彩
JIS K 5665	・１種 G	常　温	液状	幅　※150　・ 厚さ　※1.0　・	※　白 ・　黄
	・２種 G	加　熱			
	※３種１号	溶　融	粉体状		

揮発性有機溶剤の含有率は、塗料総質量に対して５％以下とする。

23 章　植　栽　工　事

項　目		特　記　事　項

1 土壌の酸度、塩分量試験　※行う　(23.1.3)

2 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類　(23.2.2～3)(表23.2.1～2)

適　用	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
※行う　・行わない	※30　・	※Ｂ種　・	※植栽範囲　・図示

樹木　(23.2.2～3)(表23.2.1～2)

樹木の樹高（ｍ）	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
・12以上	※100　・	※Ａ種	※葉張りの範囲 ただし、低木は植栽範囲 ・図示
・７以上～12未満	※80　・	・Ｂ種	
・３以上～７未満	※60　・	・Ｃ種	
・３未満	※50　・	・Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

3 植込み用土　※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土）　(23.2.3)

4 土壌改良材 G

※適用する　(23.2.3～4)
施工箇所　※植栽範囲　・図示
・バークたい肥
有機物の含有量（乾物）　：70%以上
炭素窒素比（Ｃ／Ｎ比）　：35以下
陽イオン交換容量（乾物）　：70meq／100g以上
ｐＨ　：5.5～7.5
水分　：55～65%
幼植物試験の結果　：生育阻害その他の異常が認められない
窒素全量（現物）　：0.5%以上
りん酸全量（現物）　：0.2%以下
カリ全量（現物）　：0.1%以上
・発酵下水汚泥コンポスト
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。
ひ素　：0.005%以下
カドミウム　：0.0005%以下
水銀　：0.0002%以下
ニッケル　：0.03%以下
クロム　：0.05%以下
鉛　：0.01%以下
有機物の含有量（乾物）　：35%以上
炭素窒素比（Ｃ／Ｎ比）　：20以下
ｐＨ　：8.5以下
水分　：50%以下
窒素全量（現物）　：0.8%以上
りん酸全量（現物）　：1.0%以上
アルカリ分（現物）　：15%以下

5 支柱材　※丸太又は間伐材 G　・竹　(23.3.2)

6 幹巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら及びこも　(23.3.2)

7 芝張り　種類　※こうらい芝　・野芝　(23.4.2)

8 枯補償　※１年　・　(23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)(23.5.5)

9 吹付けは種
種子の種類　※洋芝類又はクローバー（採取後２年以内）　(23.4.2)
種子の量　※発芽率80%以上

10 屋上緑化 G
植栽基盤及び材料　(23.5.2～3)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示
保水・排水層　・軽量骨材（層の厚さ：　　）　・板状成型品
植込み用土　※改良土　・人工軽量土
樹木の材種、寸法、株立数、寸法等　※図示
・屋上緑化軽量システム　(23.5.3)
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示　(23.5.4)
固定方法は、「建築基準法に基づき指定する条件」により。建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。
支柱　・設置する（種類　・図示　・　　）
かん水装置　・設置する（工事区分は図示による）

24 章　そ　の　他

項　目		特　記　事　項

① いしかわ週休２日工事

工事現場において週休２日に取り組む「いしかわ週休２日工事」（以下、「週休２日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。
なお、週休２日工事の定義(様式)等については、石川県土木部監理課技術管理室ＨＰの「いしかわ週休２日工事　実施要領」を参照すること。

（１）当初設計において、週単位の週休２日にかかる補正係数を乗じている。
（２）受注者は、工事現場に週休２日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。
（３）受注者は、現場着手前に休日取得［計画］表を作成し、監督員に提出・共有すること。
（４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得［計画］表を修正し、監督員に提出・共有すること。
（５）受注者は、工期最終日までに、休日取得［実績］表を記入し、監督員に提出すること。
（６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて１日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。
（７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休２日に満たない場合は、月単位の週休２日（４週８休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休２日（４週８休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。
なお、週休２日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。

2 余裕期間制度試行工事

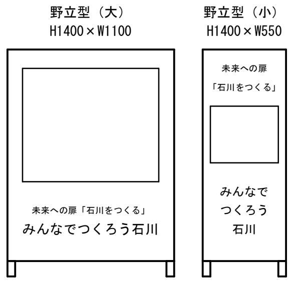
１）余裕期間制度対象工事の内容
（１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。
（２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。
（３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。
（４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。
（５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。
（６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。
（７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。
（８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。
（９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。
（10）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。

（着工日の期限）　契約締結日から起算して◯ヶ月以内

3 イメージアップ看板

・設置する
・設置しない（別途工事で設置等）
※監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする）

【参考図】



（注）看板のデザインは監督員に確認すること

改訂履歴
平成10年４月１日
平成10年11月１日
平成12年４月１日
平成13年４月１日
平成14年４月１日
平成15年４月１日
平成15年７月１日
平成15年10月１日
平成16年４月１日
平成16年８月20日
平成17年４月１日
平成17年６月１日
平成19年10月１日
平成20年４月１日
平成21年４月１日
平成21年８月１日
平成22年４月６日
平成23年４月１日
平成24年４月１日
平成25年４月１日
平成26年４月１日
平成27年４月１日
平成28年４月１日
平成29年４月１日
平成29年７月１日
平成30年４月１日
令和２年４月１日
令和３年４月１日
令和３年５月１日
令和４年４月１日
令和５年４月１日
令和６年７月１日
令和６年10月１日
令和７年４月１日
令和７年10月１日
令和８年４月１日

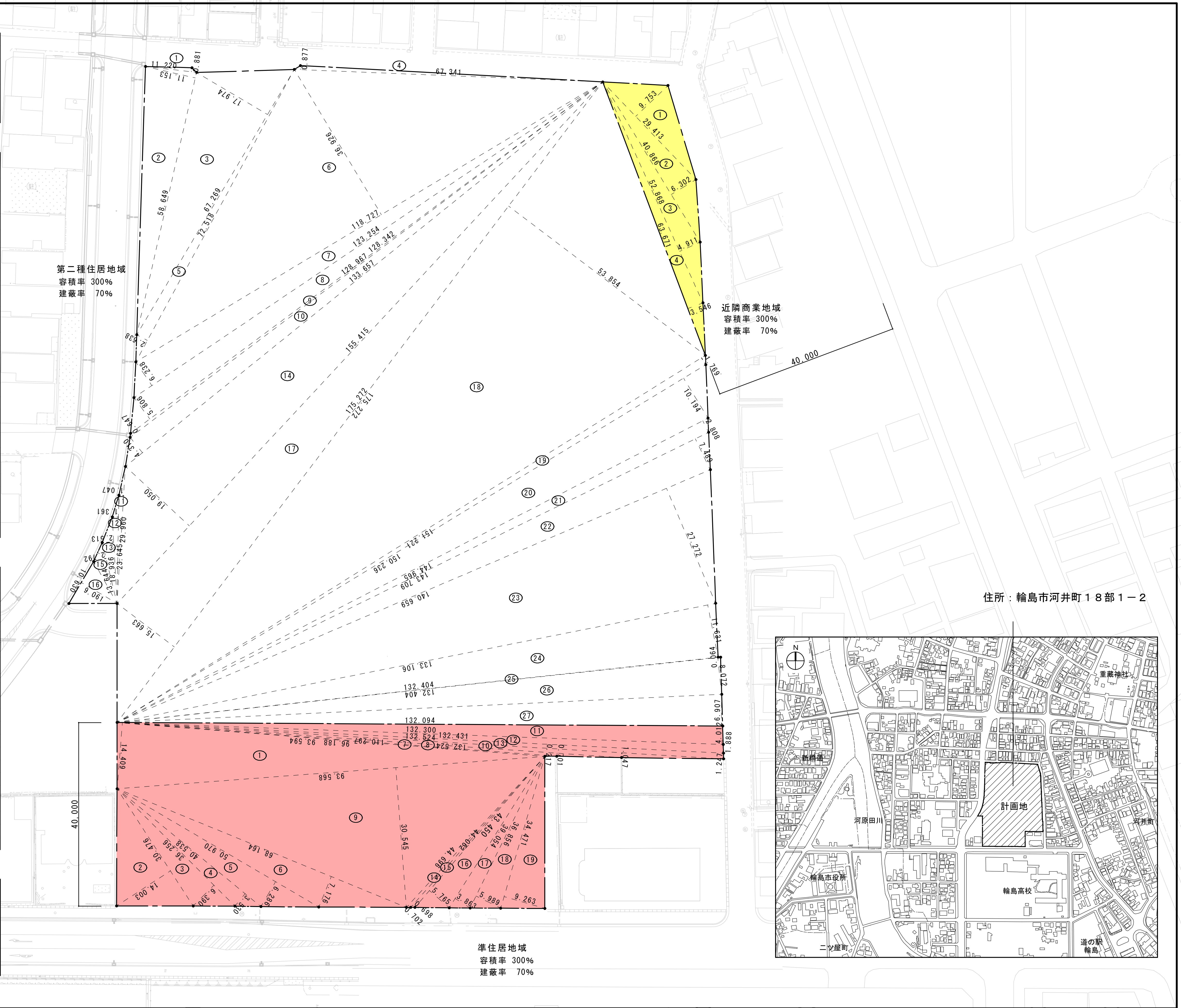
設　計	教育委員会教育総務課
工事名	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
図面名	建築工事仕様書　その６
図面番号	Ｂ－a06

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	29.413	9.753	286.864989	143.4324945
2	40.866	6.302	257.537532	128.7687660
3	52.868	4.911	259.634748	129.8173740
4	63.671	3.546	225.777366	112.8886830
			合　　計	514.9073175
近隣商業地域			敷 地 面 積	514.907 m²

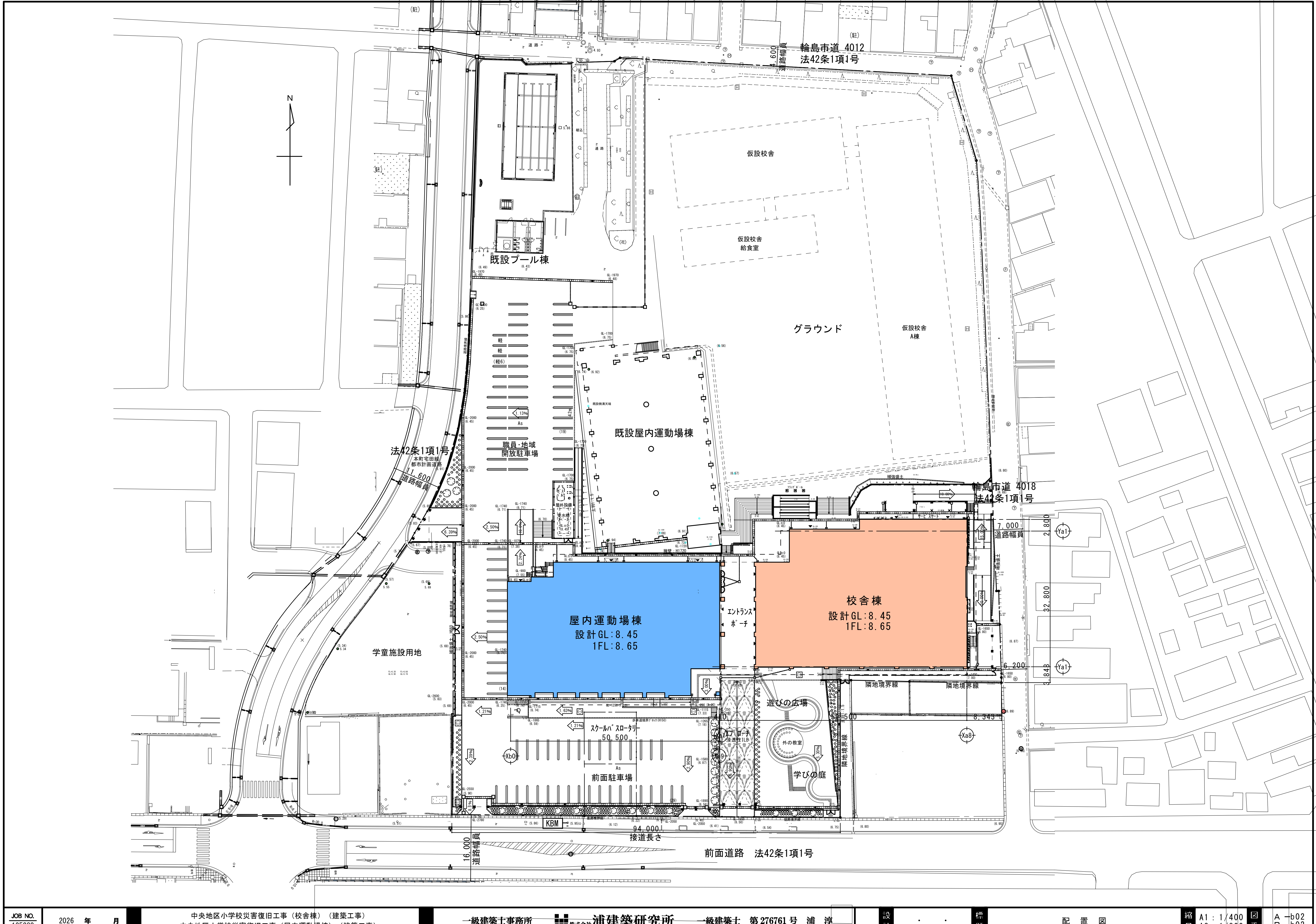
番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	11.220	0.881	9.884820	4.9424100
2	58.649	11.153	654.112297	327.0561485
3	67.269	17.974	1,209.093006	604.5465030
4	67.341	0.877	59.058057	29.5290285
5	72.518	2.638	191.302484	95.6512420
6	118.727	36.926	4,384.113202	2,192.0566010
7	123.254	6.238	768.858452	384.4292260
8	128.342	5.806	745.153652	372.5768260
9	128.967	0.647	83.441649	41.7208245
10	133.657	4.310	576.061670	288.0308350
11	29.960	1.047	31.368120	15.6840600
12	23.645	1.361	32.180845	16.0904225
13	18.936	2.513	47.586168	23.7930840
14	155.415	19.050	2,960.655750	1,480.3278750
15	13.644	2.792	38.094048	19.0470240
16	10.630	9.061	96.318430	48.1592150
17	175.272	15.663	2,745.285336	1,372.6426680
18	175.272	53.854	9,439.098288	4,719.5491440
19	151.221	1.769	267.509949	133.7549745
20	150.236	10.194	1,531.505784	765.7528920
21	144.965	2.808	407.061720	203.5308600
22	143.709	7.489	1,076.236701	538.1183505
23	140.659	27.272	3,836.052248	1,918.0261240
24	133.106	11.631	1,548.155886	774.0779430
25	132.404	0.064	8.473856	4.2369280
26	132.404	8.072	1,068.765088	534.3825440
27	132.094	6.907	912.373258	456.1866290
			合　　計	17,363.9003820
第二種住居地域			敷 地 面 積	17,363.900 m²

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	93.594	14.409	1,348.595946	674.2979730
2	30.476	14.003	426.755428	213.3777140
3	36.256	6.390	231.675840	115.8379200
4	40.538	3.530	143.099140	71.5495700
5	50.970	6.286	320.397420	160.1987100
6	68.164	7.176	489.144864	244.5724320
7	96.188	0.217	20.872796	10.4363980
8	110.297	0.701	77.318197	38.6590985
9	93.568	30.545	2,858.034560	1,429.0172800
10	132.524	1.047	138.752628	69.3763140
11	132.300	4.012	530.787600	265.3938000
12	132.431	1.888	250.029728	125.0148640
13	132.524	1.247	165.257428	82.6287140
14	44.696	0.702	31.376592	15.6882960
15	44.062	0.698	30.755276	15.3776380
16	43.450	5.765	250.489250	125.2446250
17	39.054	3.863	150.865602	75.4328010
18	36.856	5.989	220.730584	110.3652920
19	34.471	9.263	319.304873	159.6524365
			合　　計	4,002.1218760
準住居地域			敷 地 面 積	4,002.121 m²

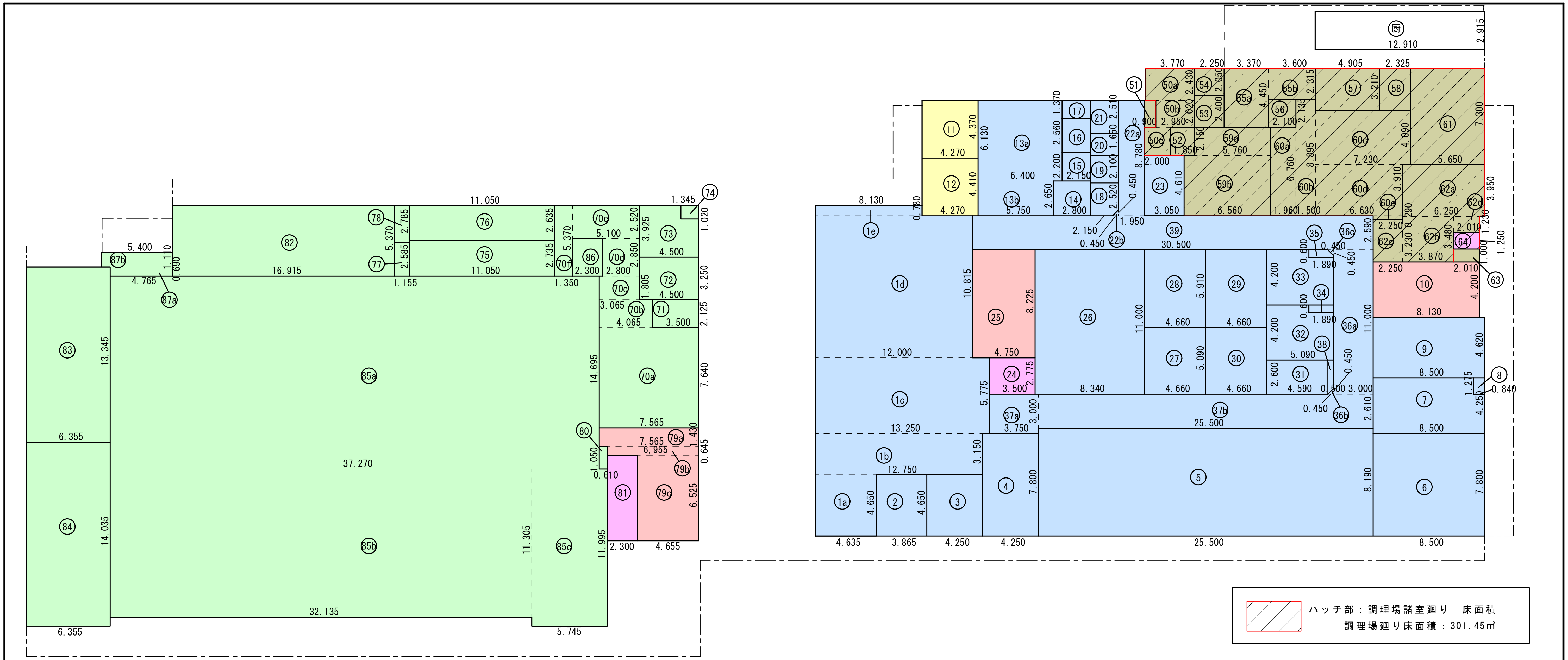
敷地面積	
近隣商業地域	514.907 m²
第二種住居地域	17,363.900 m²
準住居地域	4,002.121 m²
計	21,880.928 m²



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計	・ ・	標題	敷地求積図・付近見取図	縮尺 A1：1/400 A3：1/800	図番 A －b01 B －b01



JOB NO.										
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	配 置 図	縮尺	A1：1/400 A3：1/800	図番 A－b02 B－b02



ハッチ部：調理場諸室廻り　床面積
調理場廻り床面積：301.45㎡

1階延床面積表（屋内運動場棟）

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
70a	ｴﾝﾄﾗﾝｽ・廊下	7.565 × 7.640	57.7966	
70b		4.065 × 2.125	8.6381	
70c		3.065 × 1.805	5.5323	
70d		2.800 × 2.850	7.9800	
70e		5.100 × 2.520	12.8520	
70f		1.350 × 5.370	7.2495	100.0485
71	ミーティング室	3.500 × 2.125		7.4375
72	Mwc	4.500 × 3.250		14.6250
73	Wwc	4.500 × 3.925	17.6625	
	ー［番号74］	×	▲ 1.3719	16.2906
74	PS	1.345 × 1.020		1.3719
75	更衣室M	11.050 × 2.735		30.2218
76	更衣室W	11.050 × 2.635		29.1168
77	シャワーM	1.155 × 2.585		2.9857
78	シャワーW	1.155 × 2.785		3.2167
79a	階段	7.565 × 1.430	10.8180	
79b		6.955 × 0.645	4.4860	
79c		4.655 × 6.525	30.3739	45.6779
80	NS	0.610 × 1.695		1.0340
81	消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室	2.300 × 6.525		15.0075
82	外部倉庫	16.915 × 5.370		90.8336
83	備蓄倉庫	6.355 × 13.345		84.8075
84	用具庫	6.355 × 14.035		89.1924
85a	サブアリーナ	37.270 × 14.695	547.6827	
85b		32.135 × 11.305	363.2862	
85c		5.745 × 11.995	68.9113	979.8802
86	UWC	2.300 × 2.850		6.5550
87a	掃除具入れ	4.765 × 0.690	3.2879	
87b		5.400 × 1.110	5.9940	9.2819
			列小計	1,527.5845

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
屋内運動場棟１階　延床面積合計				1,527.5845
改め				1,527.58
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）				
【容積率非算入部分】		83	備蓄倉庫	-84.8075
屋内運動場棟１階　容積率算定用床面積				1,442.7770
改め				1,442.77

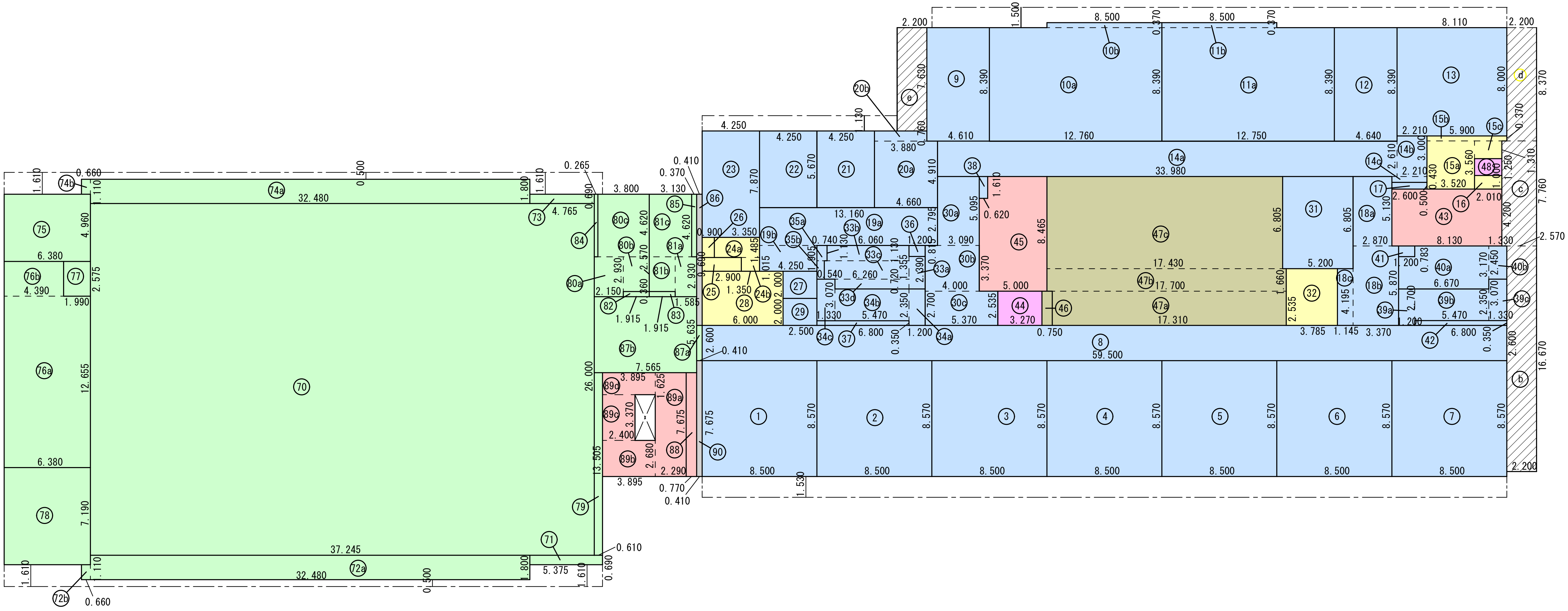
１階延床面積表（校舎棟）

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
1a	昇降口・ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	4.635 × 4.650	21.5528	
1b		12.750 × 3.150	40.1625	
1c		13.250 × 5.775	76.5188	
1d		12.000 × 10.815	129.7800	
1e		8.130 × 0.780	6.3414	274.3555
2	教育相談室１	3.865 × 4.650		17.9723
3	教育相談室２	4.250 × 4.650		19.7625
4	事務室	4.250 × 7.800		33.1500
5	職員室	25.500 × 8.190		208.8450
6	給湯室・ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	8.500 × 7.800		66.3000
7	印刷室	8.500 × 4.250	36.1250	
	ー［番号８］		▲ 1.0710	35.0540
8	PS	0.840 × 1.275		1.0710
9	校長室	8.500 × 4.620		39.2700
10	階段B	8.130 × 4.200		34.1460
11	外部WWC	4.270 × 4.370		18.6599
12	外部MWC	4.270 × 4.410		18.8307
13a	保健室	6.400 × 6.130		39.2320
13b		5.750 × 2.650		15.2375
14	保健相談室	2.800 × 2.650		7.4200
15	保健WC	2.150 × 2.200		4.7300
16	保健前室	2.150 × 2.560		5.5040
17	保健US	2.150 × 1.370		2.9455
18	だれでもwcC	2.150 × 2.520	5.4180	
	ー［番号22b］	×	▲ 0.1013	5.3167
19	だれでもwcB	2.150 × 2.100		4.5150
20	だれでもwcA	2.150 × 1.650		3.5475
21	ゴミステーション	2.150 × 2.510		5.3965
22a	通用廊下	1.950 × 8.780	17.1210	
22b		0.45*0.45/2	0.1013	17.2223
			列小計	878.4839

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
23	倉庫	3.050 × 4.610		14.0605
24	EV	3.500 × 2.775		9.7125
25	階段A	4.750 × 8.225		39.0688
26	特別活動会議室	8.340 × 11.000		91.7400
27	同、倉庫	4.660 × 5.090		23.7194
28	職員更衣（M）	4.660 × 5.910		27.5406
29	職員更衣（W）	4.660 × 5.910		27.5406
30	放送室	4.660 × 5.090		23.7194
31	相談室	4.590 × 2.600		11.9340
32	教員Wwc	5.090 × 4.200	21.3780	
	ー［番号34］	×	▲ 1.1340	20.2440
33	教員Mwc	5.090 × 4.200	21.3780	
	ー［番号35］	×	▲ 1.0327	
	ー［番号36c］	×	▲ 0.1013	20.2440
34	PS	1.890 × 0.600		1.1340
35	PS	1.890 × 0.600	1.1340	
	ー［番号36c］	×	▲ 0.1013	1.0327
36a	廊下（東）	3.000 × 11.000	33.0000	
36b		0.45*0.45/2	0.1013	
36c		0.45*0.45/2	0.1013	33.2026
37a	廊下（南）	3.750 × 3.000	11.2500	
37b		25.500 × 2.610	66.5550	77.8050
38	PS	0.500 × 2.600	1.3000	
	ー［番号36b］	0.45*0.45/2	▲ 0.1013	1.1987
39	廊下（北）	30.500 × 2.590		78.9950
50a	給食事務	3.770 × 2.430	9.1611	
50b		2.950 × 2.020	5.9590	
50c		2.000 × 2.150	4.3000	19.4201
51	PS	0.900 × 2.020		1.8180
			列小計	524.1299

番号	室名	計算式　X-Y	面積	合計
52	給食WC	1.850 × 2.150		3.9775
53	前室１	2.250 × 2.400		5.4000
54	更衣室	2.250 × 2.050		4.6125
55a	検収室	3.370 × 4.450	14.9965	
55b		3.600 × 2.315	8.3340	23.3305
56	前室２	2.100 × 2.135		4.4835
57	食品庫	4.905 × 3.210		15.7451
58	物品庫	2.325 × 3.210		7.4633
59a	下処理室	5.760 × 2.150	12.3840	
59b		6.560 × 4.610	30.2416	42.6256
60a	調理室	1.960 × 6.760	13.2496	
60b		1.500 × 8.895	13.3425	
60c		7.230 × 4.090	29.5707	
60d		6.630 × 3.910	25.9233	
60e		2.250 × 0.290	0.6525	82.7386
61	洗浄室	5.650 × 7.300		41.2450
62a	配膳室	6.250 × 3.950	24.6875	
62b		3.870 × 3.480	13.4676	
62c		2.250 × 3.230	7.2675	
62d		2.010 × 1.230	2.4723	47.8949
63	PS	2.010 × 1.000		2.0100
64	DW	2.010 × 1.250		2.5125
校舎棟１階　延床面積合計				1,686.6528
改め				1,686.65
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）				
【容積率非算入部分】		24	EV	-9.7125
【容積率非算入部分】		64	DW	-2.5125
校舎棟１階　容積率算定用床面積				1,674.4278
改め				1,674.42

JOB NO. 125280
2026 年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳
設計　・　・
標題　面積表　1
縮尺　A1：1/150　A3：1/300
図番　A －b03　B －b03



２階延床面積表(屋内運動場棟)

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
70	アリーナ	37.245 × 26.000		968.3700
71	掃除用具置場	5.375 × 0.690		3.7088
72a	設備置場	32.480 × 1.800	58.4640	
72b		0.660 × 1.110	0.7326	59.1966
73	掃除用具置場	4.765 × 0.690		3.2879
74a	設備置場	32.480 × 1.800	58.4640	
74b		0.660 × 1.110	0.7326	59.1966
75	用具庫１	6.380 × 4.960		31.6448
76a	ステージ	4.390 × 2.575	11.3043	
76b		6.380 × 12.655	80.7389	92.0432
77	放送室	1.990 × 2.575		5.1243
78	用具庫２	6.380 × 7.190		45.8722
79	NS	0.610 × 13.505		8.2381
80a	アリーナMWC	2.150 × 2.930	6.2995	
80b		1.915 × 2.570	4.9216	
80c		3.800 × 4.620	17.5560	28.7771
81a	アリーナWWC	1.585 × 2.930	4.6441	
81b		1.915 × 2.570	4.9216	
81c		3.130 × 4.620	14.4606	24.0263
82	PS	1.915 × 0.360		0.6894
83	PS	1.915 × 0.360		0.6894
84	PS	0.265 × 4.620		1.2243
85	PS	0.370 × 4.620		1.7094
86	EXP	9.690 × 0.410		3.9729
87a	ホール	0.410 × 2.600	1.0660	
87b		7.565 × 5.635	42.6288	43.6948
88	NS	0.770 × 7.675		5.9098
89a	階段	2.290 × 7.675	17.5758	
89b		3.895 × 2.680	10.4386	
89c		2.400 × 3.370	8.0880	
89d		3.895 × 1.625	6.3294	42.4318
90	EXP	0.410 × 8.570		3.5137
			屋内運動場棟２階　延床面積合計	1,433.3214
			改め	1,433.32

建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）

２階延床面積表（校舎棟）

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
1	多目的教室	8.500 × 8.570		72.8450
2	CR1	8.500 × 8.570		72.8450
3	CR2	8.500 × 8.570		72.8450
4	CR3	8.500 × 8.570		72.8450
5	CR4	8.500 × 8.570		72.8450
6	CR5	8.500 × 8.570		72.8450
7	CR6	8.500 × 8.570		72.8450
8	廊下（南）	59.500 × 2.600		154.7000
9	図工準備室	4.610 × 8.390		38.6779
10a	図工室	12.760 × 8.390	107.0564	
10b		8.500 × 0.370	3.1450	110.2014
11a	理科室	12.750 × 8.390	106.9725	
11b		8.500 × 0.370	3.1450	110.1175
12	理科準備室	4.640 × 8.390		38.9296
13	通級教室	8.110 × 8.000		64.8800
14a	廊下（北）	33.980 × 2.610	88.6878	
14b		2.210 × 3.000	6.6300	
14c		2.600 × 0.430	1.1180	96.4358
15a	配膳室	3.520 × 3.560	12.5312	
15b		5.900 × 0.370	2.1830	
15c		2.010 × 1.310	2.6331	17.3473
16	PS	2.010 × 1.000		2.0100
17	PS	2.600 × 0.500		1.3000
18a	廊下（東）	2.870 × 5.130	14.7231	
18b		3.370 × 5.870	19.7819	
18c		1.145 × 4.195	4.8033	39.3083
			列小計	1,183.8228

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
19a	特支廊下	13.160 × 2.795	36.7822	
19b		4.250 × 1.905	8.0963	44.8785
20a	特別支援学級１	4.660 × 4.910	22.8806	
20b		3.880 × 0.760	2.9488	25.8294
21	特別支援学級２	4.250 × 5.670		24.0975
22	特別支援学級３	4.250 × 5.670		24.0975
23	特別支援学級４	4.250 × 7.870		33.4475
24a	脱衣室	3.350 × 1.485	4.9748	
24b		1.350 × 1.015	1.3703	6.3451
25	US	2.900 × 1.015		2.9435
26	PS	0.900 × 1.485		1.3365
27	支援学級UWC	2.500 × 2.000		5.0000
28	教材庫	6.000 × 4.000		24.0000
29	UWC	2.500 × 2.000		5.0000
30a	廊下（西）	3.090 × 5.095	15.7436	
30b		4.000 × 3.370	13.4800	
30c		5.370 × 2.535	13.6130	42.8366
31	フリースペース	5.200 × 6.805		35.3860
32	書庫	3.785 × 4.195		15.8781
33a	WWCa	1.200 × 2.390	2.8680	
33b		6.060 × 1.130	6.8478	
33c		6.260 × 1.355	8.4823	
33d		5.470 × 0.720	3.9384	22.1365
34a	MWCa	1.200 × 2.700	3.2400	
34b		5.470 × 2.350	12.8545	
34c		1.330 × 3.070	4.0831	20.1776
35a	PS	0.740 × 1.130	0.8362	
35b		0.540 × 1.355	0.7317	1.5679
36	PS	1.200 × 0.815		0.9780
37	PS	6.800 × 0.350		2.3800
38	PS	0.620 × 1.610		0.9982
			列小計	339.3144

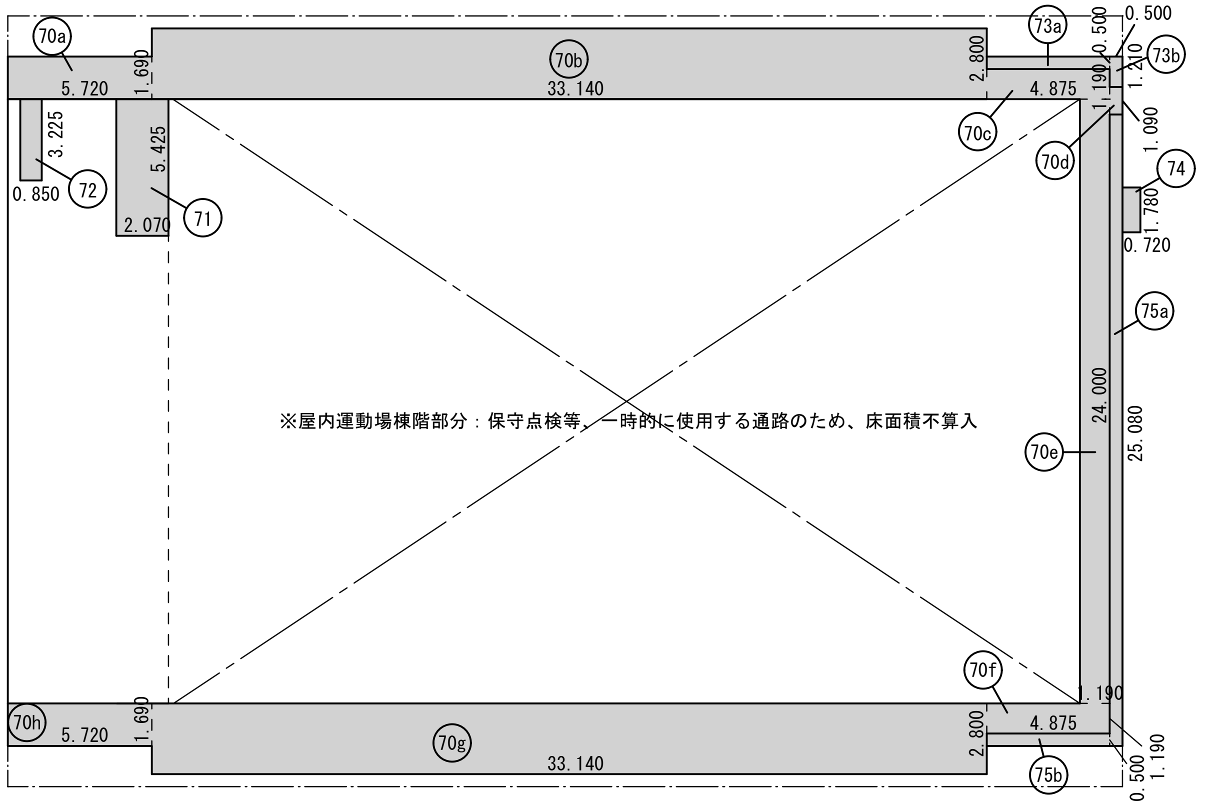
番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
39a	WWCb	1.200 × 2.700	3.2400	
39b		5.470 × 2.350	12.8545	
39c		1.330 × 3.070	4.0831	20.1776
40a	MWCb	6.670 × 3.170	21.1439	
	ー［番号41］	×	▲ 0.9420	
40b		1.330 × 2.450	3.2585	23.4604
41	PS	1.200 × 0.785		0.9420
42	PS	6.800 × 0.350		2.3800
43	階段Ｂ	8.130 × 4.200		34.1460
44	EV	3.270 × 2.535		8.2895
45	階段A	5.000 × 8.465	42.3250	
	ー［番号38］	×	▲ 0.9982	41.3268
46	PS	0.750 × 2.535		1.9013
47a	ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ	17.310 × 2.535	43.8809	
47b		17.700 × 1.660	29.3820	
47c		17.430 × 6.805	118.6112	191.8741
48	DW	2.010 × 1.250		2.5125
			列小計	327.0102

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
a	欠番			
b	外部算入部分	2.200 × 16.670		36.6740
c	外部算入部分	2.570 × 7.760		19.9432
d	外部算入部分	2.200 × 8.370		18.4140
e	外部算入部分	2.200 × 7.630		16.7860
			校舎棟２階　延床面積合計	1,941.9646
			改め	1,941.96

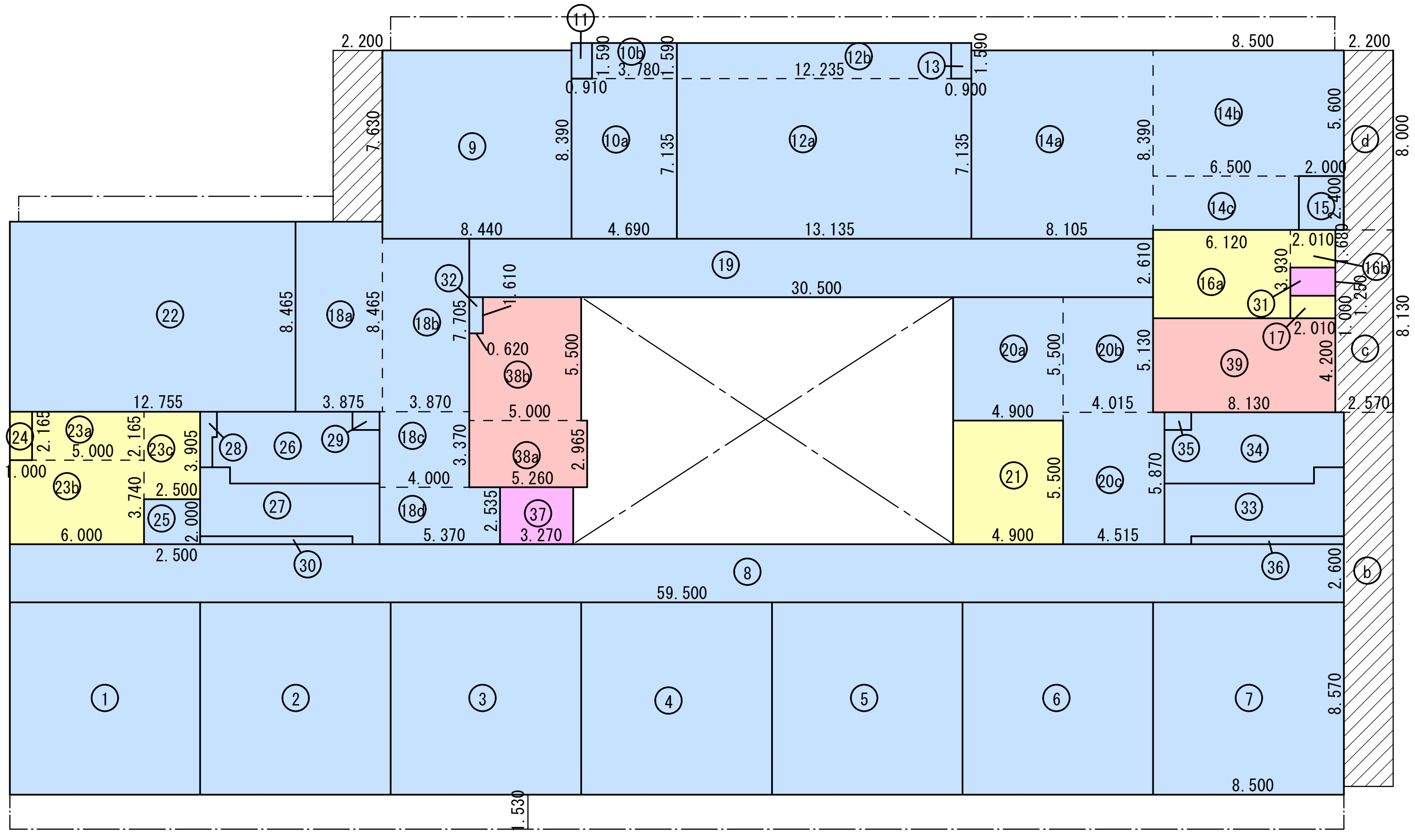
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）

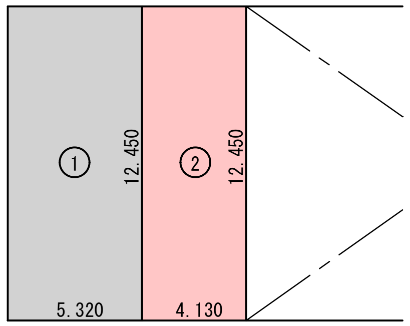
【容積率非算入部分】	44	EV	−8.2895
【容積率非算入部分】	48	DW	−2.5125
		校舎棟２階　容積率算定用床面積	1,931.1626
		改め	1,931.16

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	面積表 2	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番 A －b04 B －b04



※屋内運動場棟階部分：保守点検等、一時的に使用する通路のため、床面積不算入





３階延床面積表(屋内運動場棟)

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
70a	ﾒﾝﾃﾅﾝｽ通路	5.720 × 1.690	9.6668	
70b		33.140 × 2.800	92.7920	
70c		4.875 × 1.190	5.8013	
70d		0.500 × 1.090	0.5450	
70e		1.190 × 24.000	28.5600	
70f		4.875 × 1.190	5.8013	
70g		33.140 × 2.800	92.7920	
70h		5.720 × 1.690	9.6668	245.6252
71	通路	2.070 × 5.425		11.2298
72	ﾒﾝﾃﾅﾝｽ通路階段	0.850 × 3.225		2.7413
73a	NS	4.875 × 0.500	2.4375	
73b		0.500 × 1.210	0.6050	3.0425
74	ハト小屋	0.720 × 1.780		1.2816
75a	NS	0.500 × 25.080	12.5400	
75b		4.875 × 0.500	2.4375	14.9775
			屋内運動場棟３階　延床面積合計	278.8979
			改め	278.89

※新体育館3階部分：保守点検等、一時的に使用する通路のため、床面積不算入

３階延床面積表（校舎棟）

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
1	多目的教室	[2階１より]		72.8450
2	CR7	[2階２より]		72.8450
3	CR8	[2階３より]		72.8450
4	CR9	[2階４より]		72.8450
5	CR10	[2階５より]		72.8450
6	CR11	[2階６より]		72.8450
7	CR12	[2階７より]		72.8450
8	廊下（南）	59.500 × 2.600		154.7000
9	通級学級２	8.440 × 8.390		70.8116
10a	家庭準備室	4.690 × 7.135	33.4632	
10b		3.780 × 1.590	6.0102	39.4734
11	PS	0.910 × 1.590		1.4469
12a	家庭室	13.135 × 7.135	93.7182	
12b		12.235 × 1.590	19.4537	113.1719
13	PS	0.900 × 1.590		1.4310
14a	ランチルーム	8.105 × 8.390	68.0010	
14b		8.500 × 5.600	47.6000	
14c		6.500 × 2.400	15.6000	131.2010
15	ランチルーム倉庫	2.000 × 2.400		4.8000
16a	配膳室	6.120 × 3.930	24.0516	
16b		2.010 × 1.680	3.3768	27.4284
17	PS	2.010 × 1.000		2.0100
18a	廊下（西）	3.875 × 8.465	32.8019	
18b		3.870 × 7.705	29.8184	
18c		4.000 × 3.370	13.4800	
18d		5.370 × 2.535	13.6130	89.7133
19	廊下（北）	30.500 × 2.610		79.6050
			列小計	1,225.7075

番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
20a	廊下（東）	4.900 × 5.500	26.9500	
20b		4.015 × 5.130	20.5970	
20c		4.515 × 5.870	26.5031	74.0501
21	教材庫	4.900 × 5.500		26.9500
22	音楽室	12.755 × 8.465		107.9711
23a	楽器庫	5.000 × 2.165	10.8250	
23b		6.000 × 3.740	22.4400	
23c		2.500 × 3.905	9.7625	43.0275
24	PS	1.000 × 2.165		2.1650
25	UWC	2.500 × 2.000		5.0000
26	WWCa	[2階33より]		22.1365
27	MWCa	[2階34より]		20.1776
28	PS	[2階35より]		1.5679
29	PS	[2階36より]		0.9780
30	PS	[2階37より]		2.3800
31	DW	2.010 × 1.250		2.5125
32	PS	0.620 × 1.610		0.9982
33	WWCa	[2階39より]		20.1776
34	MWCa	[2階40より]		23.4604
35	PS	[2階41より]		0.9420
36	PS	[2階42より]		2.3800
37	EV	3.270 × 2.535		8.2895
38a	階段A	5.260 × 2.965	15.5959	
38b		5.000 × 5.500	27.5000	
	－［番号32］	×	▲ 0.9982	42.0977
39	階段B	8.130 × 4.200		34.1460
			列小計	441.4076

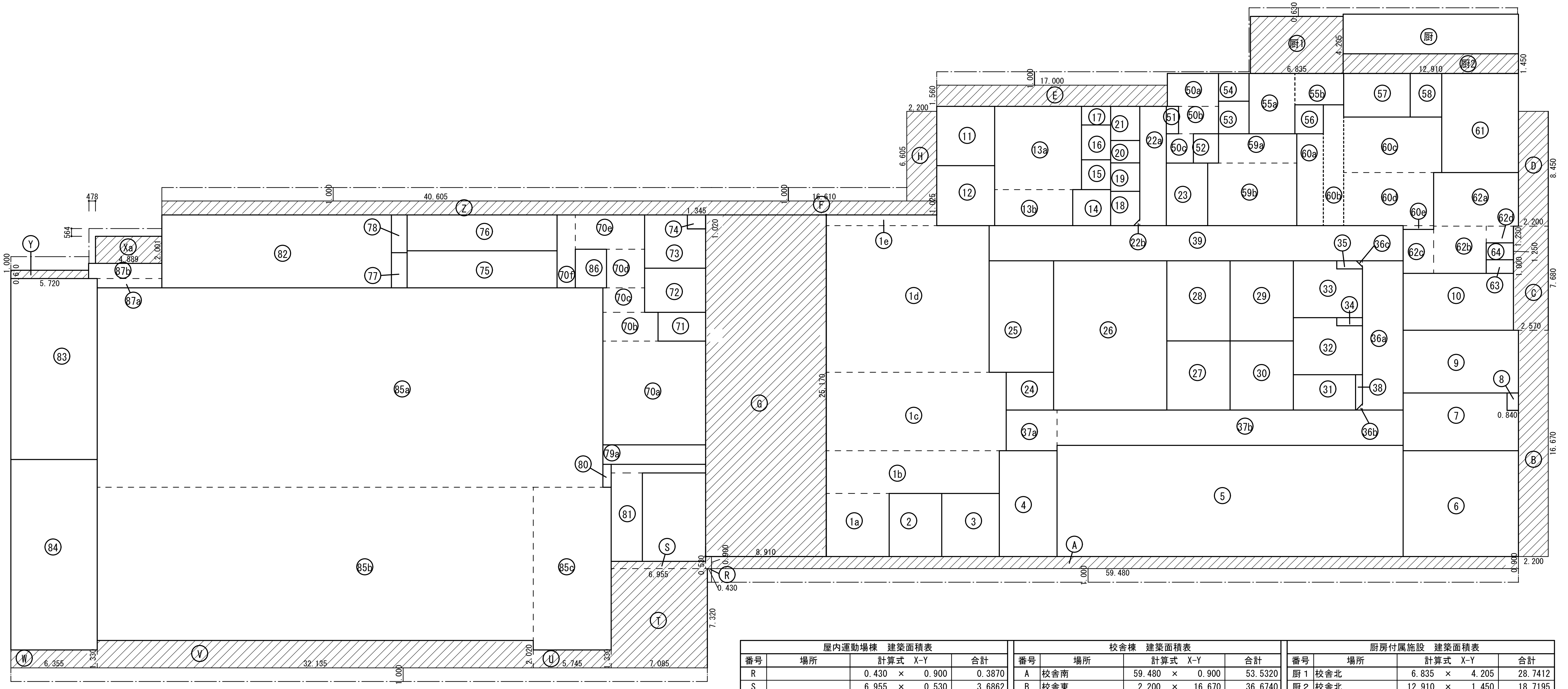
番号	室名	計算式 X-Y	面積	合計
a	欠番			
b	外部算入部分	[2階oより]		36.6740
c	外部算入部分	2.570 × 8.130		20.8941
d	外部算入部分	2.200 × 8.000		17.6000
e	外部算入部分	2.200 × 7.630		16.7860
			校舎棟３階　延床面積合計	1,759.0692
			改め	1,759.06
		建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）		
	【容積率非算入部分】	31	DW	-2.5125
	【容積率非算入部分】	37	階段A	-8.2895
			校舎棟３階　容積率算定用床面積	1,748.2672
			改め	1,748.26

PH階延床面積表(校舎棟)

1	電気室	5.320 × 12.450		66.2340
2	階段A	4.130 × 12.450		51.4185
			校舎棟PH階　延床面積合計	117.6525
			改め	117.65

建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所	株式会社浦建築研究所	一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題 面積表 3	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－b05 B－b05



面積区画集計表（m2）							
区画	範囲		１階	２階	３階	４階	合計
A	１階校舎	１階1-9、13-23、26-39	1,260.9578				1,260.9578
B	校舎階段A	１階25、２階45、３階38、４階2	39.0688	41.3268	42.0977	51.4185	173.9118
C	校舎階段B	１階10、２階43、３階39	34.1460	34.1460	34.1460		102.4380
D	校舎EV	１階24、２階44、３階37	9.7125	8.2895	8.2895		26.2915
E	校舎DW	１階64、２階48、３階31	2.5125	2.5125	2.5125		7.5375
F	厨房	１階50-63	302.7646				302.7646
G	サブアリーナ	１階70-78、80、82-86	1,466.8991				1,466.8991
H	体育館階段	１階79、２階89	45.6779	48.3416			94.0195
I	消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室	１階81、２階88	15.0075				15.0075
J	外部トイレ	１階11-12	37.4906				37.4906
K	２階校舎	２階1-14、18-23、27、29-31、33-42		1,498.9367			1,498.9367
L	２階ラーニングコモンズ	２階46-47		193.7754			193.7754
M	２階配膳室	２階15-16		19.3573			19.3573
N	２階教材庫	２階32		34.6251			34.6251
O	２階書庫廻り	２階24-26、28		15.8781			15.8781
P	EXP	２階86		3.9729			3.9729
Q	EXP	２階90		3.5137			3.5137
R	アリーナ	２階70-85、87、		1,377.4932			1,377.4932
S	３階校舎	３階1-15、18-20、25-36			1,478.4885		1,478.4885
T	３階配膳室	３階16-17			29.4384		29.4384
U	３階教材庫	３階21			26.9500		26.9500
V	３階楽器庫廻り	３階23-24			45.1925		45.1925
W	４階電気室	４階1				66.2340	66.2340
X	２階PS	２階17		1.3000			
		合計面積（参考面積、屋内面積）	3,214.2373	3,283.4688	1,667.1151	117.6525	8,281.1737

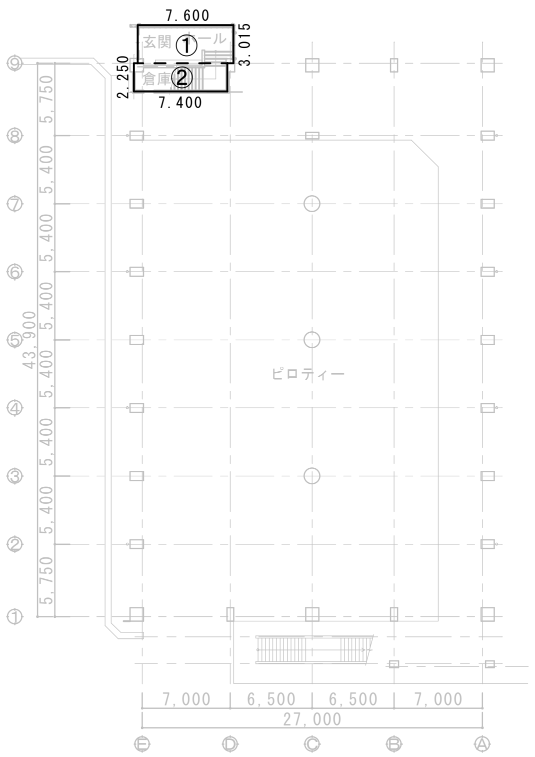
屋内運動場棟　建築面積表					
番号	場所	計算式　X-Y			合計
R		0.430	×	0.900	0.3870
S		6.955	×	0.530	3.6862
T		7.085	×	7.320	51.8622
U		5.745	×	1.330	7.6409
V		32.135	×	2.020	64.9127
W		6.355	×	1.330	8.4522
Xa		4.889	×	2.001	9.7829
Y		5.720	×	0.610	3.4892
Z	体育館北	40.605	×	1.025	41.6201
	１階床面積	床面積表より			1,527.5845
屋内運動場棟　建築面積合計					1,719.4179
改め					1,719.41

校舎棟　建築面積表					
番号	場所	計算式　X-Y			合計
A	校舎南	59.480	×	0.900	53.5320
B	校舎東	2.200	×	16.670	36.6740
C	〃	2.570	×	7.680	19.7376
D	〃	2.200	×	8.450	18.5900
E	校舎北	17.000	×	1.560	26.5200
F	〃	16.610	×	1.025	17.0253
G	校舎西	8.910	×	25.170	224.2647
H	〃	2.200	×	6.605	14.5310
	１階床面積	床面積表より			1,686.6528
校舎棟　建築面積合計					2,097.5274
改め					2,097.52

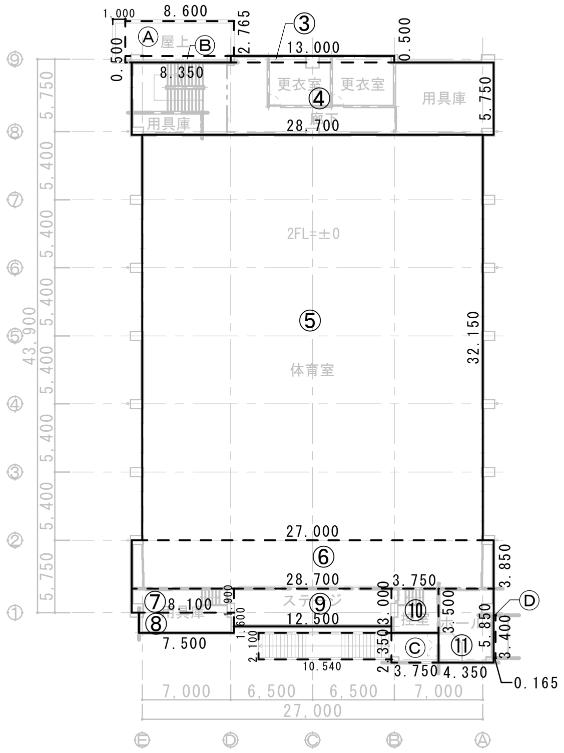
厨房付属施設　建築面積表					
番号	場所	計算式　X-Y			合計
厨１	校舎北	6.835	×	4.205	28.7412
厨２	校舎北	12.910	×	1.450	18.7195
	１階床面積	床面積表より			37.6327
厨房付属施設　建築面積合計					85.0934
改め					85.09

延床面積 建築面積 集計表	申請部分				申請以外の部分			合計
	校舎棟	屋内運動場棟	厨房付属棟	申請部分合計	既存屋内運動場棟	プール管理棟	申請以外部分合計	
１階(㎡)	1,686.65	1,527.58	37.63	3,251.86	39.56	84.00	123.56	3,375.42
２階(㎡)	1,941.96	1,433.32	–	3,375.28	1,253.53	–	1,253.53	4,628.81
３階(㎡)	1,759.06	–	–	1,759.06	166.63	–	166.63	1,925.69
PH階(㎡)	117.65	–	–	117.65	–	–	0.00	117.65
延床面積　計	5,505.32	2,960.90	37.63	8,503.85	1,459.72	84.00	1,543.72	10,047.57
建築基準法施行令 第２条第１項第４号（ただし書きを除く）								
【容積率算定面積】								
１階(㎡)	1,674.42	1,442.77	37.63	3,154.82	39.56	84.00	123.56	3,278.38
２階(㎡)	1,931.16	1,433.32	–	3,364.48	1,253.53	–	1,253.53	4,618.01
３階(㎡)	1,748.26	–	–	1,748.26	166.63	–	166.63	1,914.89
PH階(㎡)	117.65	–	–	117.65	–	–	0.00	117.65
容積率算定延床面積　計	5,471.49	2,876.09	37.63	8,385.21	1,459.72	84.00	1,543.72	9,928.93
建築面積(㎡)	2,097.52	1,719.41	85.09	3,902.02	1,312.99	84.00	1,396.99	5,299.01

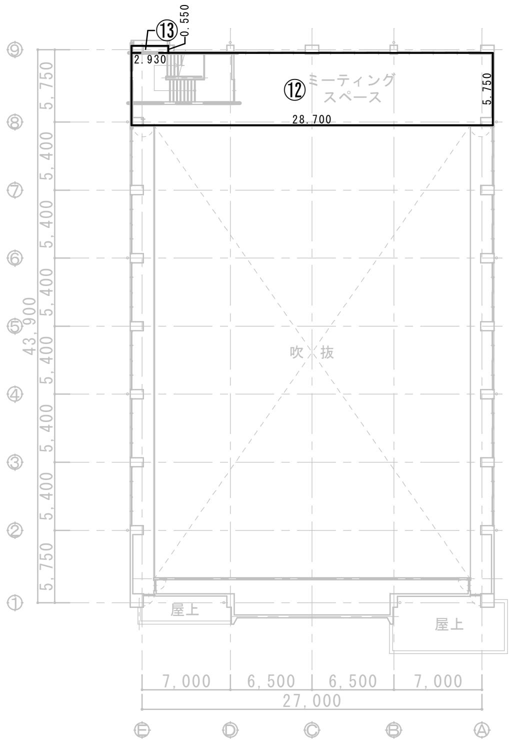
JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	面積表　4	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A －b06 B －b06



既存屋内運動場１階平面図



既存屋内運動場２階平面図



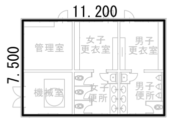
既存屋内運動場３階平面図

既存屋内運動場棟　延べ床面積表

番号	室　名	計 算 式	面　積	改　め	小　計
①	１階床面積	7.600 × 3.015 = 22.9140	39.5640	39.56	1,459.72
②	↑	7.400 × 2.250 = 16.6500			
③	２階床面積	13.000 × 0.500 = 6.5000	1,253.533	1,253.53	
④	↑	28.700 × 5.750 = 165.0250			
⑤	↑	27.000 × 32.150 = 868.050			
⑥	↑	28.700 × 3.850 = 110.4950			
⑦	↑	8.100 × 1.900 = 15.3900			
⑧	↑	7.500 × 1.600 = 12.0000			
⑨	↑	12.500 × 3.000 = 37.5000			
⑩	↑	3.750 × 3.500 = 13.1250			
⑪	↑	4.350 × 5.850 = 25.4475			
⑫	３階床面積	2.930 × 0.550 = 1.6115	166.6365	166.63	
⑬	↑	28.700 × 5.750 = 165.0250			

既存屋内運動場棟　建築面積表

番号	室　名	計 算 式	面　積	改　め	小　計
	２階床面積	1,253.533	1,312.995	1,312.99	1,312.99
Ⓐ	屋外算入部分	8.600 × 2.765 = 23.7790			
Ⓑ	屋外算入部分	8.350 × 0.500 = 4.1750			
Ⓒ	屋外算入部分	3.750 × 2.350 = 8.8125			
Ⓓ	屋外算入部分	0.165 × 3.400 = 0.5610			
Ⓔ	屋外算入部分	10.540 × 2.100 = 22.1340			

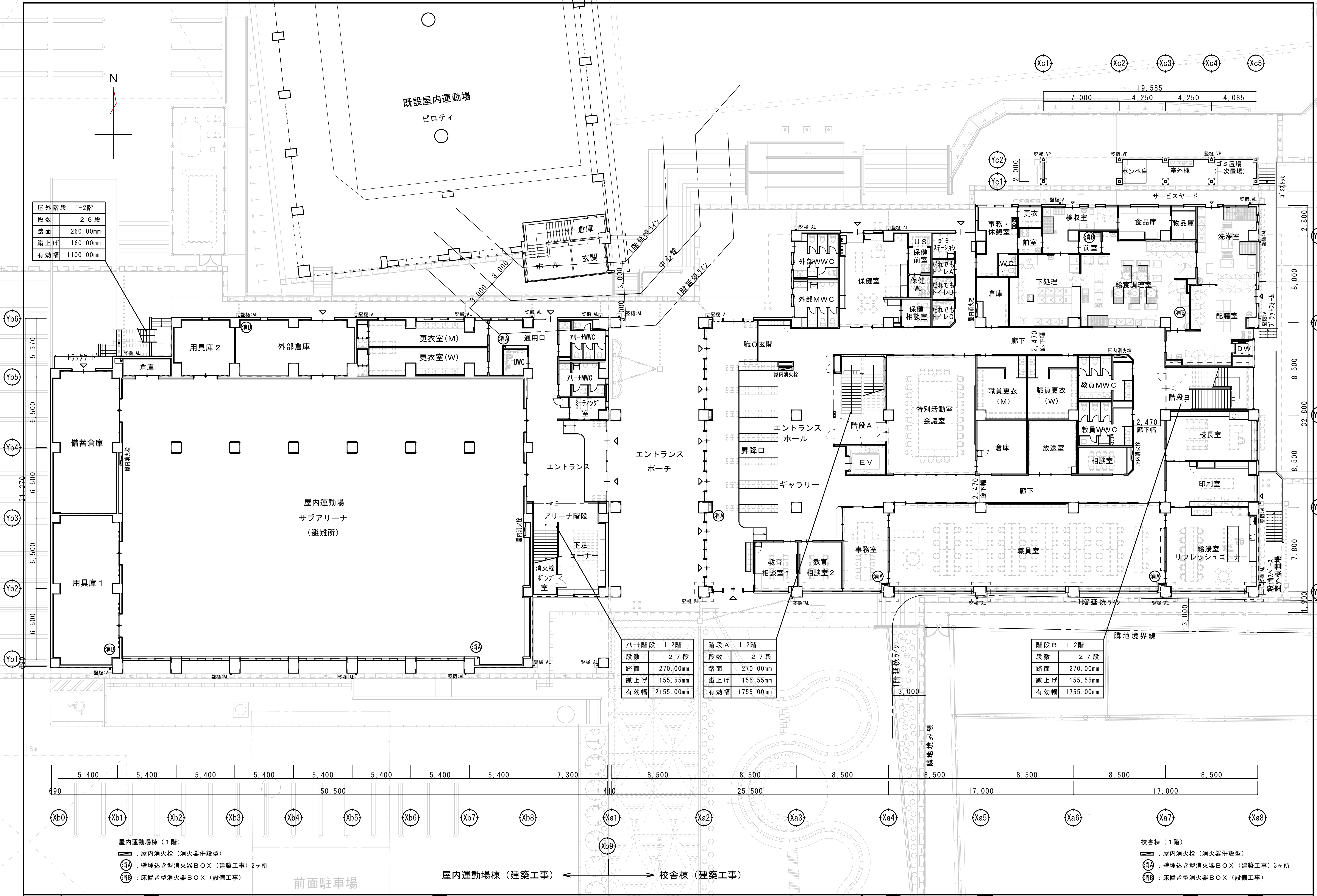


既存プール管理棟

既存プール管理棟　延床・建築面積表

番号	室　名	計 算 式	面　積	改　め	小　計
	プール管理棟	11.200 × 7.500 =	84.000	84.00	84.00

JOB NO.										
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	面 積 表 ５	縮尺	A1:1/300 A3:1/600	図番 A －b07 B －b07



屋外階段　1-2階	
段数	２６段
踏面	260.00mm
蹴上げ	160.00mm
有効幅	1100.00mm

ｱﾘｰﾅ階段　1-2階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.55mm
有効幅	2155.00mm

階段Ａ　1-2階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.55mm
有効幅	1755.00mm

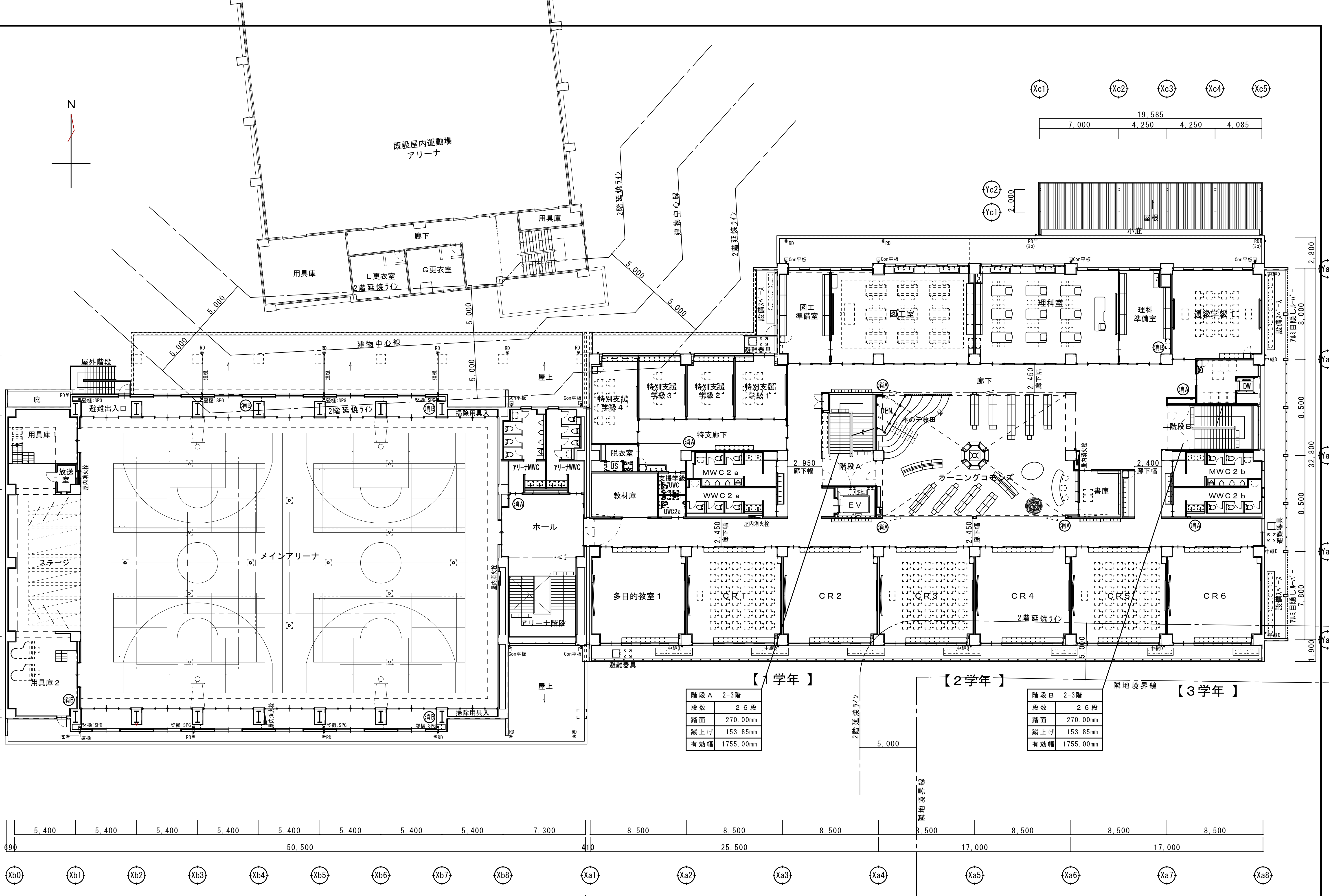
階段Ｂ　1-2階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.55mm
有効幅	1755.00mm

屋内運動場棟（１階）
▭：屋内消火栓（消火器併設型）
消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）2ヶ所
消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

屋内運動場棟（建築工事）←→校舎棟（建築工事）

校舎棟（１階）
▭：屋内消火栓（消火器併設型）
消A：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）3ヶ所
消B：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	１階平面図（全体）	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－b08 B－b08



階段A　2-3階	
段数	２６段
踏面	270.00mm
蹴上げ	153.85mm
有効幅	1755.00mm

階段B　2-3階	
段数	２６段
踏面	270.00mm
蹴上げ	153.85mm
有効幅	1755.00mm

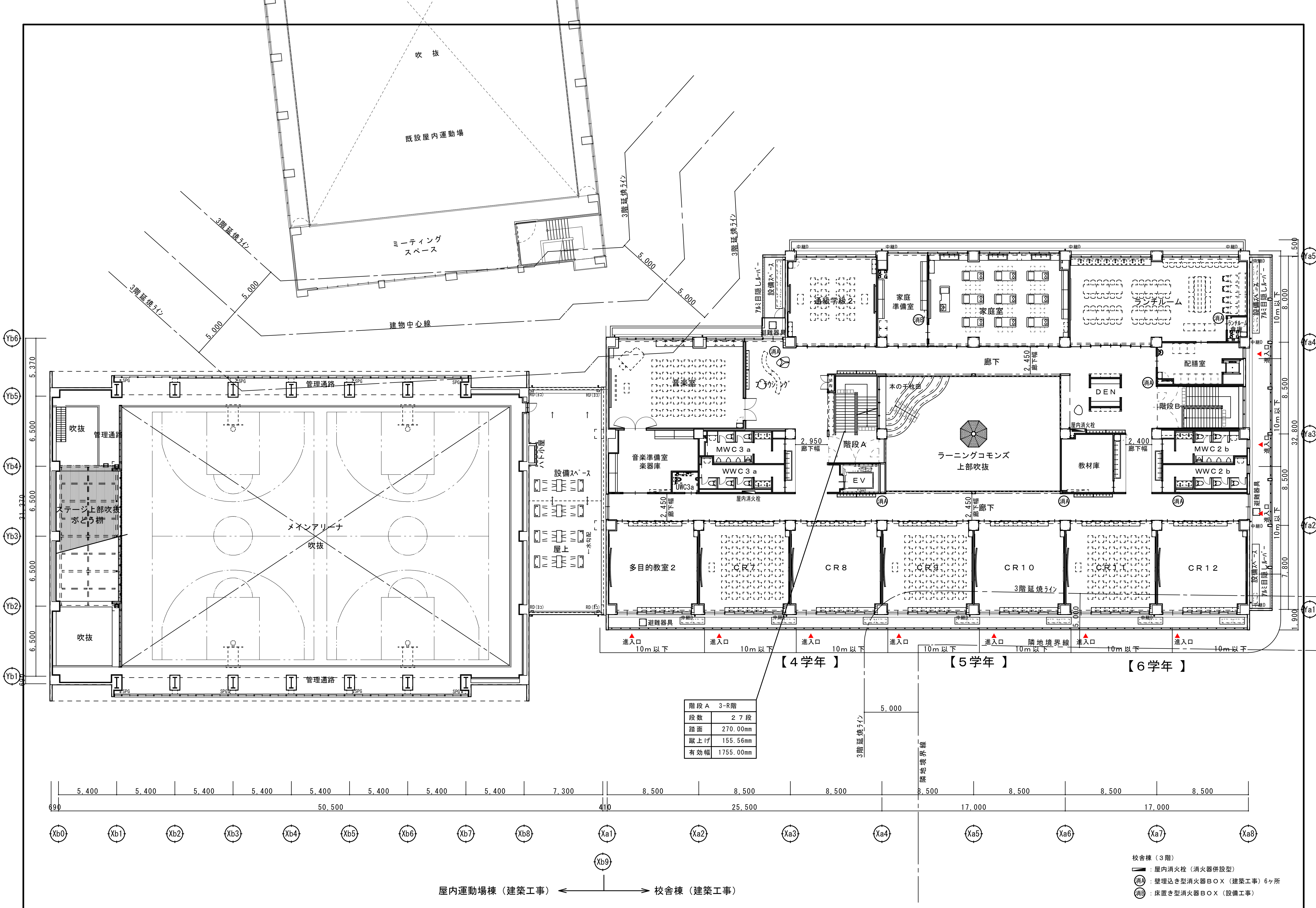
Xb9

屋内運動場棟（2階）
▬ ：屋内消火栓（消火器併設型）
消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）1ヶ所
消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

屋内運動場棟（建築工事） ←→ 校舎棟（建築工事）

校舎棟（2階）
▬ ：屋内消火栓（消火器併設型）
消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）5ヶ所
消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO.		工事名							
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	2階平面図（全体）	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A －b09 B －b09



階段Ａ　3-R階	
段数	２７段
踏面	270.00mm
蹴上げ	155.56mm
有効幅	1755.00mm

屋内運動場棟（建築工事） ←→ 校舎棟（建築工事）

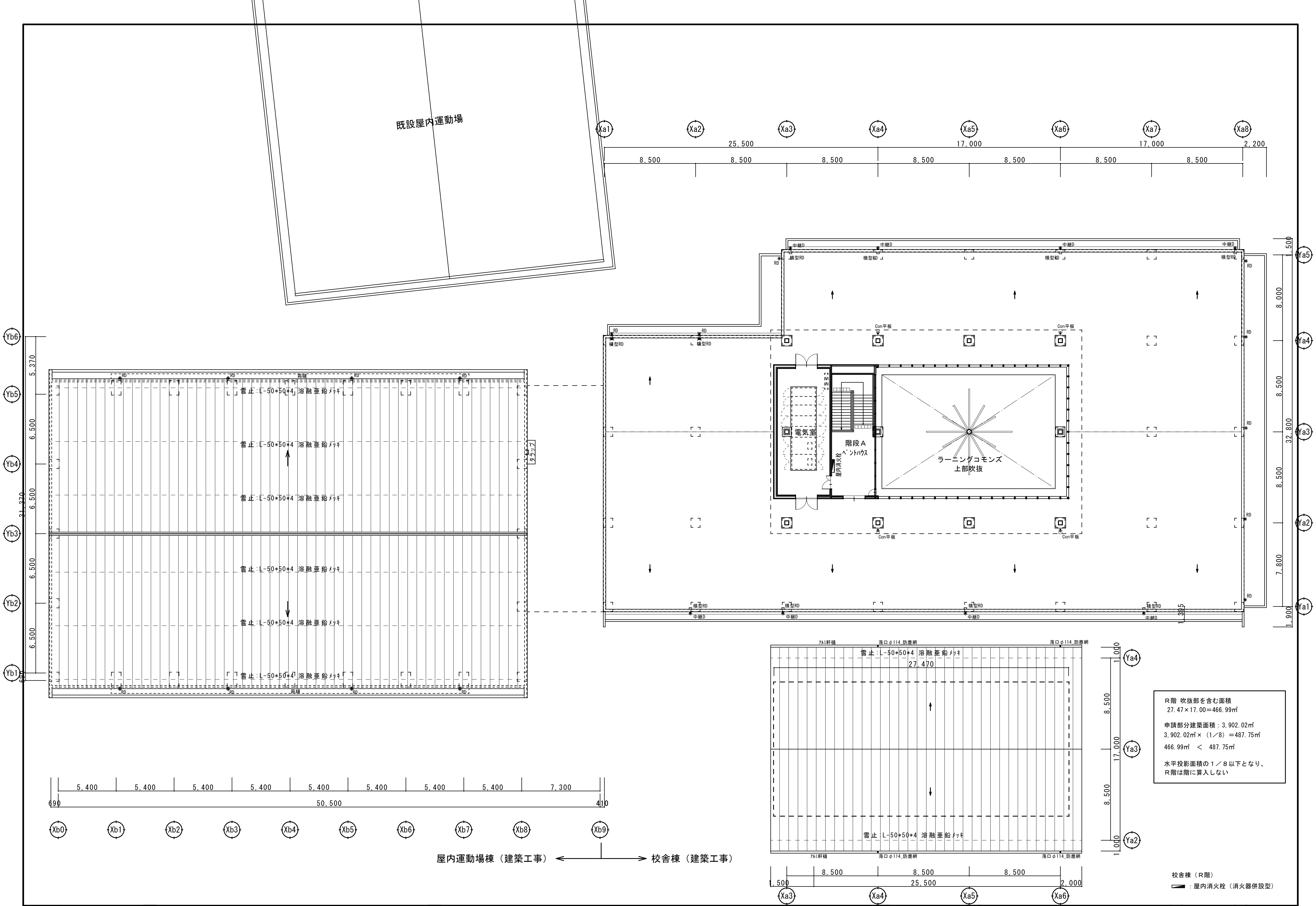
校舎棟（３階）

▬ ：屋内消火栓（消火器併設型）

消A ：壁埋込き型消火器ＢＯＸ（建築工事）6ヶ所

消B ：床置き型消火器ＢＯＸ（設備工事）

JOB NO.							
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 ３階平面図（全体）	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A －b10 B －b10

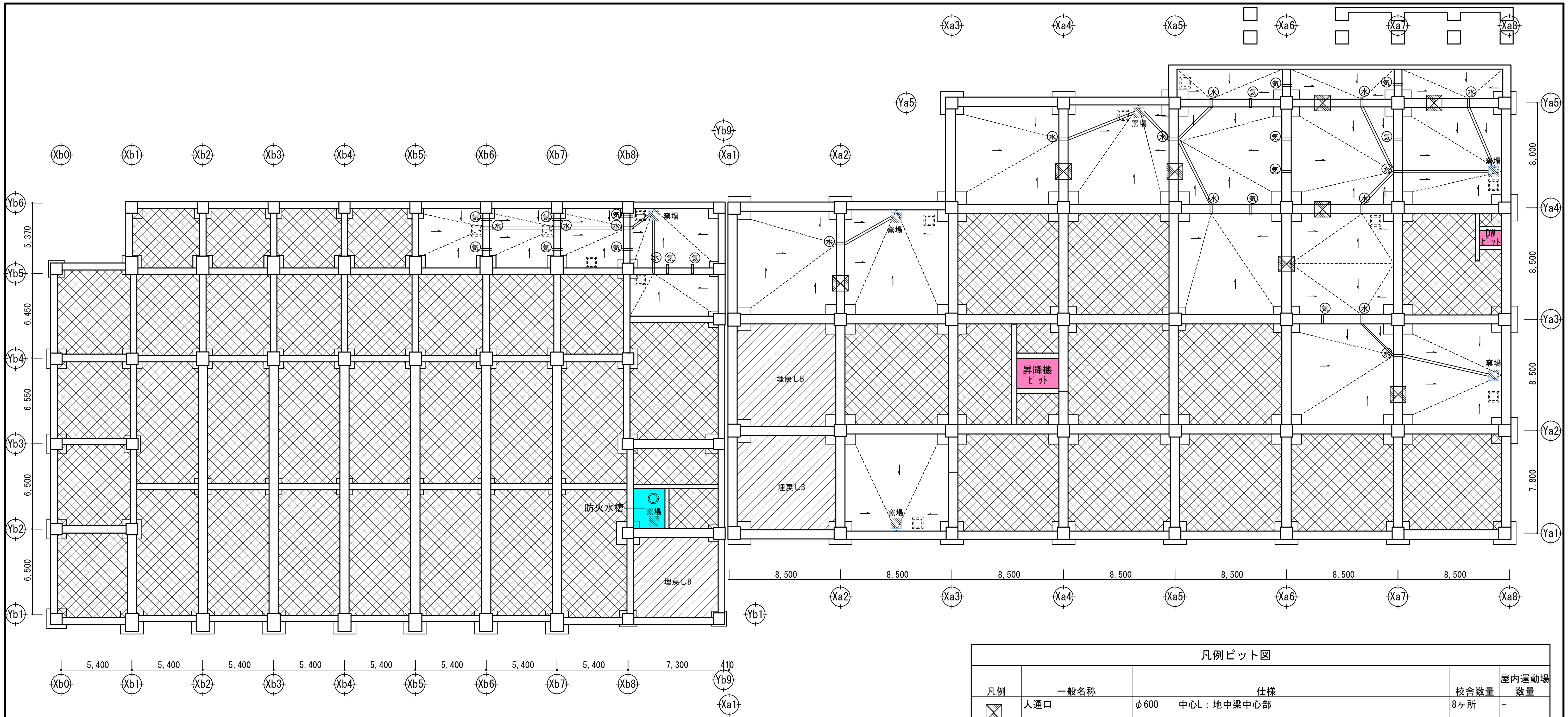


Ｒ階 吹抜部を含む面積
27.47×17.00＝466.99㎡

申請部分建築面積：3,902.02㎡
3,902.02㎡×（1／8）＝487.75㎡
466.99㎡ ＜ 487.75㎡

水平投影面積の１／８以下となり、
Ｒ階は階に算入しない

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	Ｒ階平面図（全体）	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A －b11 B －b11



凡例ピット図

凡例	一般名称	仕様	校舎数量	屋内運動場数量
⊠	人通口	φ600　　中心L：地中梁中心部	8ヶ所	−
㊌═	連通管	VPφ100　中心L：1FL−1850	11ヶ所	4ヶ所
㊋═	通気管	VPφ100　中心L：地中梁中心部	8ヶ所	8ヶ所
▨	窯場	（500×500×H500）防水モルタル	5ヶ所	2ヶ所
⬚	上部：床下点検口	（600×600）（防臭・防水・鍵付）タラップ４段共	7ヶ所	5ヶ所
◌	上部：マンホール	（φ600）（防臭・防水・鍵付）水槽を除き、タラップ４段共	−	1ヶ所
	配管ピット 排水勾配0.25%	床L：1FL−1900、床：t120土間スラブ、壁：コンクリート打放し 断熱：屋内床に面するスラブ裏：t30ポリスチレン３種ｂ打ち込み 土・外気に面する壁：t30現場発泡ウレタン吹付		
🟪	昇降機ピット	EVピット床L：1FL−1250、DWピット床L：1FL−700 床壁共：コンクリート打放補修、無機質浸透性塗布防水		
🟦	防火水槽	床L：1FL−1900 床壁5面：t1.5塩ビシート防水		
▩	埋戻しA	ｔ30発泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ敷込み＋ｔ0.15防湿ｼｰﾄ		
▨	埋戻しB	ｔ0.15防湿ｼｰﾄ		

※タラップ：SUSφ22打込み式タラップ、200＊400

JOB NO.						
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　ピット図（全体）	縮尺　A1：1/150 A3：1/300	図番　A − b12 B − b12

外部仕上表

A	屋上	改質アスファルトシート防水　AS-T1	L	手摺	St.FB12×40加工 溶融亜鉛メッキ3
B	屋根	t0.5ハイレタンSGL鋼板立平葺き（勘合式）	M	軒裏	t12.0×ｗ105アテ板（能登ヒバ）目透かし張り＋ＷＰ 下地：スギ野縁ｔ15×ｗ57＠230
C	屋根	t0.5ハイレタンSGL鋼板立平葺き（勘合式）	N	屋外階段	鉄部　溶融亜鉛メッキ
D	外壁	コンクリート打放し＋複層塗材ＲＥ吹付	O	竪樋	アルミ製竪樋　Φ114（バンドレスタイプ）シルバー
E	外壁	コンクリート打放し＋DP塗装			
G	笠木	アルミ押出型材　シルバー（市場品）			
H	柱型	コンクリート打放し＋ＤＰ塗			

【その他　共通事項】
水回り：t12.5GB-R+9.5GB-S
ガラス　アルミサッシ：
ペアガラス　建具図による

【断熱】
外壁裏：t30現場発泡ｳﾚﾀﾝ吹付　　内部下地　外壁側：t12.5GB-R
ｽﾗﾌﾞ裏：t30現場発泡ｳﾚﾀﾝ吹付　　内部下地　界壁部：t12.5+9.5GB-R（2重張り）両面

共通事項

（不燃材）
柱・梁：鉄骨「建告第1400号」

GB-R(12.5)	：不燃	NM-8619	国交省HP記載
GB-F(12.5)	：不燃	NM-8615	国交省HP記載
GB-NC(9.5)	：不燃	NM-0441	国交省HP記載
GB-R-H(9.5)	：不燃	NM-9645	国交省HP記載
GB-D(9.5)	：不燃	NM-1864	国交省HP記載
KB	：不燃	NM-8578	国交省HP記載
化粧KB	：不燃	NM-8577	国交省HP記載
AT	：不燃	NM-8599	国交省HP記載
GB-S(12.5)	：不燃	NM-9639	国交省HP記載
ECP(60)	：不燃	NM-9259	国交省HP記載
EPG/EP	：不燃	NM-8585	国交省HP記載
t9.5吸音PB	：不燃	NM-0879	国交省HP記載

（準不燃材）

GB-R(9.5)	：準不燃	QM-9828	国交省HP記載
GB-S	：準不燃	QM-0898	国交省HP記載

（耐火間仕切壁：面積区画）
GB-F(12.5)+GB-R-H(9.5)　両面張り（LGS下地）：
　1時間耐火　FP060NP-0199　国交省HP記載
（耐火間仕切壁：防火上主要な間仕切）
GB-F(12.5)+GB-R-H(9.5)　両面張り（LGS下地）：
　1時間耐火　FP060NP-0199　国交省HP記載

※ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板	不燃NM-8599
※ﾛｯｸｳｰﾙ保温材	不燃NM-8600
※ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	不燃NM-8605
※ｸﾞﾗｽｳｰﾙｶﾞﾗｽｸﾛｽ額縁貼り	不燃NM-8606
※ｸﾛｽ　防火１級	不燃NM-0532、NM-0391
※ｸﾛｽ　防火２級	準不燃QM-9440、QM-9411
※ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞﾌｨﾙﾑ	不燃NM-2394
※木目ｼｰﾄ貼り（横）	不燃PB下地NM-1431
※化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	不燃材認定品ﾄｽﾙ
※無石綿硅酸ｶﾙｼｳﾑ板	不燃材認定品ﾄｽﾙ
※t12ﾊﾟﾙﾌﾟ繊維混入ｾﾒﾝﾄ板	不燃 NM-3010
※t9.5 ﾆｭｰﾀｲｶﾞｰﾄﾝ	不燃NM-5430
※ﾓｰｴﾝ3	不燃NM-5152

※天井下地ﾊ　特記ﾅｷ限ﾘ　軽鉄下地ﾄｼ
　内部19形　外部25形ﾄｽﾙ
※壁軽鉄下地ﾊ　特記ﾅｷ限ﾘ　65形ﾄｽﾙ
※特記ﾅｷ限ﾘ内部仕上・塗料・建具・造付家具等ﾊ
　Ｆ☆☆☆☆以上ﾄｽﾙ
※特記ﾅｷ限ﾘ天井裏等の使用材料ﾊ
　Ｆ☆☆☆以上ﾄｽﾙ
※法37条に定める指定建築材料はJIS、JASに
　適合するものとする

柱　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第2.第1号(イ
梁　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第4.第1号(イ
外壁　：一部t60ECPﾀﾃ張　FP060NE-9037　国交省HP記載
　ECP 耐火1h
屋根　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第5.第1号
床　：鉄筋コンクリート造：建告1399.第3.第1号(イ

屋根30分耐火構造：一部耐火野地板
　鉄骨耐火被覆（ｔ25ロックウール吹付耐火被覆）
　柱1時間耐火：FP060CN-9460（CD登載）
　梁1時間耐火：FP060BM-9408（CD登載）

　一部：耐火シート張り：FP060CN-0009（CD登載）

屋内運動場棟
内部仕上表

■下地
C　：ｺﾝｸﾘｰﾄ
CB　：ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ
LGS　：軽量鉄骨
W　：木下地
2W　：二重床
WF　：木組床下地
NF　：ﾈﾀﾞﾌｫｰﾑ
SL　：ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ

■仕上
VS　：長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ
VT　：ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙ
CF　：ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱｰ
CP　：ｶｰﾍﾟｯﾄ
CPT　：ｶｰﾍﾟｯﾄﾀｲﾙ
F　：ﾌｪﾙﾄ
VF　：ﾋﾞﾆｰﾙ巾木
HF　：硬質樹脂巾木
RF　：ﾚﾝｼﾞﾃﾗｿﾞｰ巾木
WF　：木製巾木
M　：ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ
GB-R　：石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-F　：強化石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-S　：ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-RH　：硬質石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
GB-NC　：不燃積層石膏ﾎﾞｰﾄﾞ
GB-D　：化粧石ｺｳﾎﾞｰﾄﾞ
FB　：ﾌﾚｼｷﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ
C　：ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ
KB　：硅酸ｶﾙｼｳﾑ板
PB(杉)　：杉柾化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ
AT　：岩綿吸音板
WB　：練付合板
GT　：磁器質ﾀｲﾙ
TT　：陶器質ﾀｲﾙ
TB　：ﾃﾗｿﾞｰﾌﾞﾛｯｸ
TP　：内部用吹付ﾀｲﾙ

■塗料
SOP　：合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ
VEP　：ﾋﾞﾆﾙ系ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
AEP　：ｱｸﾘﾙ系ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
EPG　：つや有ｱｸﾘﾙ系ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
FP　：ﾌﾀﾙ酸樹脂ｴﾅﾒﾙﾍﾟｲﾝﾄ
AP　：ｱｸﾘﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙﾍﾟｲﾝﾄ
PW　：ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂
LE　：ﾗｰｶｰｴﾅﾒﾙ
CL　：着色ｸﾘｱｰﾗｯｶｰ
PUC　：ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｸﾘｱ
OSW　：ｵｲﾙｽﾃｲﾝﾜｯｸｽ
OSCL　：ｵｲﾙｽﾃｲﾝｸﾘｱｰﾗｯｶｰ
FE　：ﾌﾀﾙ酸樹脂ｴﾅﾒﾙ
WP　：木材保護塗料
DP　：耐候性塗料

■廻縁
E　：塩ﾋﾞ製
A　：ｱﾙﾐ製
W　：木製

■ｶｰﾃﾝBOX
W　：木製
S　：鋼製

■ｶｰﾃﾝ
VB　：ﾀﾃ型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ
BB　：ﾖｺ型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ
L　：ﾚｰｽｶｰﾃﾝ
D　：ﾄﾞﾚｰﾌﾟｶｰﾃﾝ
K　：ｹｰｽﾒﾝﾄｶｰﾃﾝ
R　：ﾛｰﾙｽｸﾘｰﾝ
S　：ｼｪｰﾄﾞｶｰﾃﾝ

室名	床			幅木		壁				天井		廻縁	H	ｶｰﾃﾝBOX	ｶｰﾃﾝﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ	ｻｲﾝ	備考
	仕上	ﾚﾍﾞﾙ FL±0	下地	材料	H	仕上	外壁断熱	下地	間仕切壁ｽﾗﾌﾞ下まで	仕上	下地						
1階																	
エントランス	50角モザイクタイル ｔ15.0複合フローリング 直張り	-100 ±0	C+ ﾓﾙﾀﾙ SL	50角 ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ	150	コンクリート打ち放し 上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C, LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	3000				
通用口	ｔ15.0複合フローリング 直張り	±0	SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	C, LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	3000				SK（設備工事）
サブアリーナ	ｔ6.2屋内ｽﾎﾟｰﾂ用長尺弾性塩ﾋﾞｼｰﾄ(ﾀﾗﾌﾚｯｸｽ同等品) 下地材(3層目)：ｔ5.5ラワン合板 下地材(2層目)：ｔ12.0針葉樹合板 下地材(1層目)：ｔ12.0ｽﾎﾟｰﾂボード(裏面耐水塗料塗布) ｔ19.0ネオクッションゴム	±0	ｔ10SL	タモ集成材 塗装品	100	ｔ15天然木化粧板 （タモ柾目） 有孔パネル+グラスウール(24kg/m3)	●	LGS（衝撃吸収仕様）	●	ｔ25不燃 木毛セメント板	C	W+WP	3960 梁下2915	W+WP	L･D		ベンチ
用具庫１・２	ｔ2.5塩ビシート	±0	SL	VF	60	コンクリート打放 ｔ6.0ＫＢ+ＧＥＰ塗	●	C	●	ｔ25不燃 木毛セメント板	C	E					
更衣室(M)(W)・脱衣室	ｔ2.5塩ビシート	±0	SL	VF	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：化粧ケイカル板（不燃）	●	C, LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ	洗面カウンター、鏡（設備工事） ユニットシャワー
ミーティング室	ｔ6.5カーペットタイル	±0	SL	VF	60	クロス張り（不燃）	●	C, LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700	W+WP	L･D		
ｱﾘｰﾅWC(M)(W)	ｔ2.0長尺塩ビシート（消臭） 汚垂石(TOTOハイドロセラ・フロアPU薄型同等品)	±0	SL	VF	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：化粧ケイカル板	●	C, LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ	小便器手洗いカウンター、鏡（設備工事） （M）小便器用手すり
UWC	ｔ2.0長尺塩ビシート（消臭）	±0	SL	VF	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：化粧ケイカル板（不燃）		C, LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700			ﾋﾟｸﾄｻｲﾝ	ﾍﾞﾋﾞーシート(設備工事)
外部倉庫・備蓄倉庫	防塵塗装	±0	C	VF	60	コンクリート打放 ｔ6.0ＫＢ+ＧＥＰ塗　（不燃）	●	C	●	ｔ25不燃 木毛セメント板	C	E	3960 梁下3015				
消火栓ポンプ室	防塵塗装	±0	C	VF	60	ＧＥＰ塗　（不燃）	●	C, LGS	● 鉄骨階段下端まで	鉄骨階段裏+ｔ30ロックウール吹付		E	図示				φ600マンホール

JOB NO.			設計	標題	縮尺	図番
125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	・　・	屋内運動場棟　仕上表　1	N.S.	Ｂ－b13

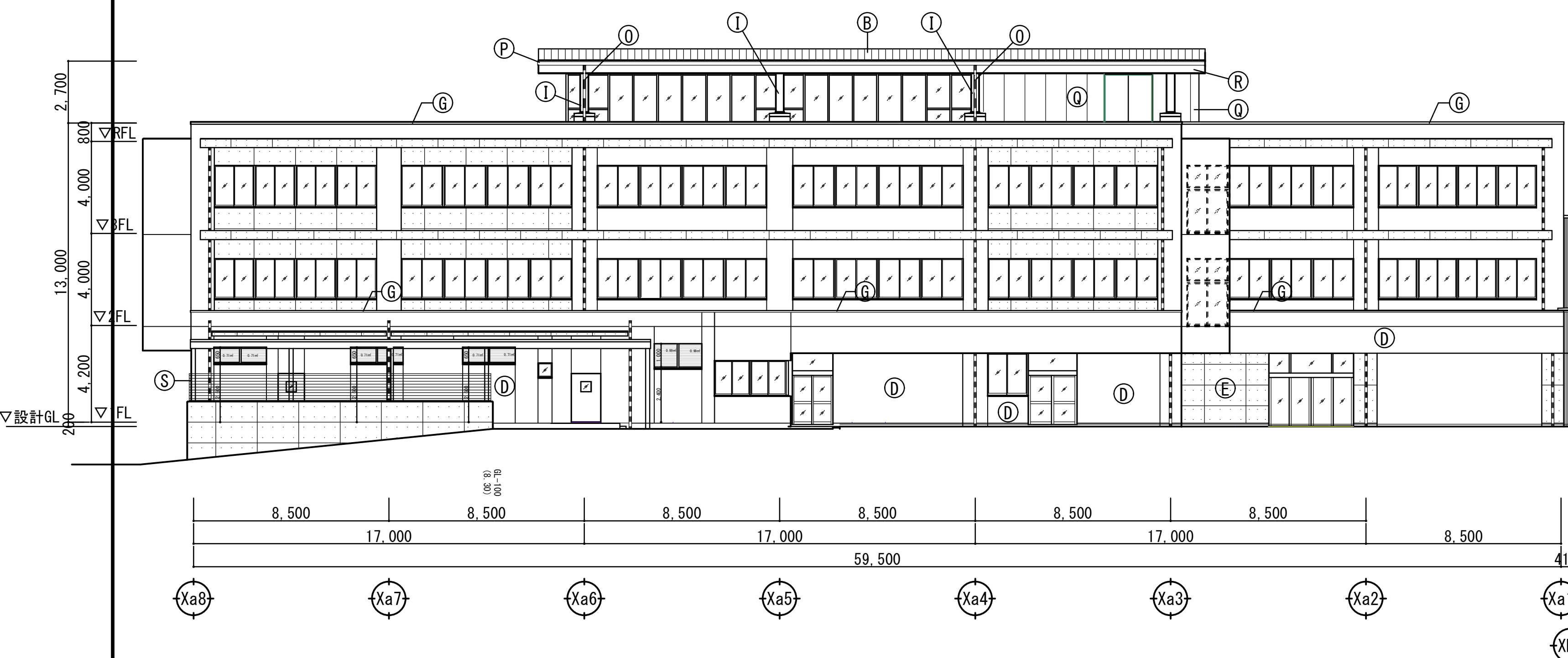
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

仕上表 別名	床			幅　　木		壁				天　　井		廻縁	H	カーテンBOX	カーテンブラインド	サイン	備　　考
	仕　　上	レベルFL±0	下地	材　料	H	仕　　上	外壁断熱	下地	間仕切壁スラブ下まで	仕　　上	下地						
2階																	
ホール	ｔ15.0複合フローリング直張り	±0	SL	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）		C,LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2950				
メインアリーナ	ｔ6.2屋内ｽﾎﾟｰﾂ用長尺弾性塩ﾋﾞｼｰﾄ(ﾀﾗﾌﾚｯｸｽ同等品) 下地材(3層目)：ｔ5.5ラワン合板 下地材(2層目)：ｔ12.0針葉樹合板 下地材(1層目)：ｔ12.0ｽﾎﾟｰﾂﾎﾞｰﾄﾞ(裏面耐水塗料塗布) ｔ19.0ネオクッションゴム	±0	ｔ10SL	タモ集成材塗装品	100	ｔ15天然木化粧板 （タモ柾目） 有孔パネル+グラスウール(24kg/m3)	●	LGS（衝撃吸収仕様）		小屋裏現し			11，230～9，700	W+WP	L･D		体育器具 防球ネット
ステージ	t18フローリングボード（カバ）特殊貼　ｻﾝﾀﾞｰ掛け ウレタン塗装４回塗 ステージ下:コンクリート金ゴテ	+850	ｔ12.0構造用合板 鋼製床組下地				●			ブドウ棚現し 鉄部SOP			6400				可動式階段 舞台装置 ステージ下収納台車
放送室	ｔ6.5カーペットタイル	+850	ｔ12.0合板２重張り 鋼製床組下地			コンクリート打放 ｔ25化粧グラスウールボード(24kg/m3)		C,LGS		ｔ25化粧グラスウールボード			2700	W+WP	L･D		
用具庫1	ｔ2.5塩ビシート	±0	SL	VF	60	コンクリート打放 ｔ6.0ＫＢ+ＧＥＰ塗　（不燃）	●	C,LGS		小屋裏現し				W+WP			
用具庫2	ｔ2.5塩ビシート	±0	SL	VF	60	コンクリート打放 ｔ6.0ＫＢ+ＧＥＰ塗　（不燃）	●	C		小屋裏現し							
ｱﾘｰﾅWC(M)(W)	ｔ2.0長尺塩ビシート（消臭） 汚垂石(TOTOハイドロセラ・フロアPU薄型同等品)	±0	SL	VF	60	上壁：ビニルクロス 腰壁：化粧ケイカル板(24kg/m3)	●	C	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	2700				小便器手洗いカウンター、鏡（設備工事） （M）小便器用手すり
3階																	
管理廊下	ｔ2.5塩ビシート	±0	C	VF	60	ｔ50グラスウール（黒寒冷紗）＋ ｔ5.5有孔シナ合板目透かし張り＋ＷＰ	●	LGS		小屋裏現し							防球ネット
共通																	
アリーナ階段	ｔ15.0複合フローリング直張り 踏面ｔ30ナラ集成材＋ＰＵＣ 蹴上ｔ18ナラ集成材＋ＰＵＣ		S	WF+WP	60	上壁：ｔ5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：ｔ15.0不燃能登スギ羽板張り+ＷＰ（不燃）	●	LGS	●	ｔ9.5GB-NC+ ｔ9.0岩綿吸音板	LGS	E	7200				

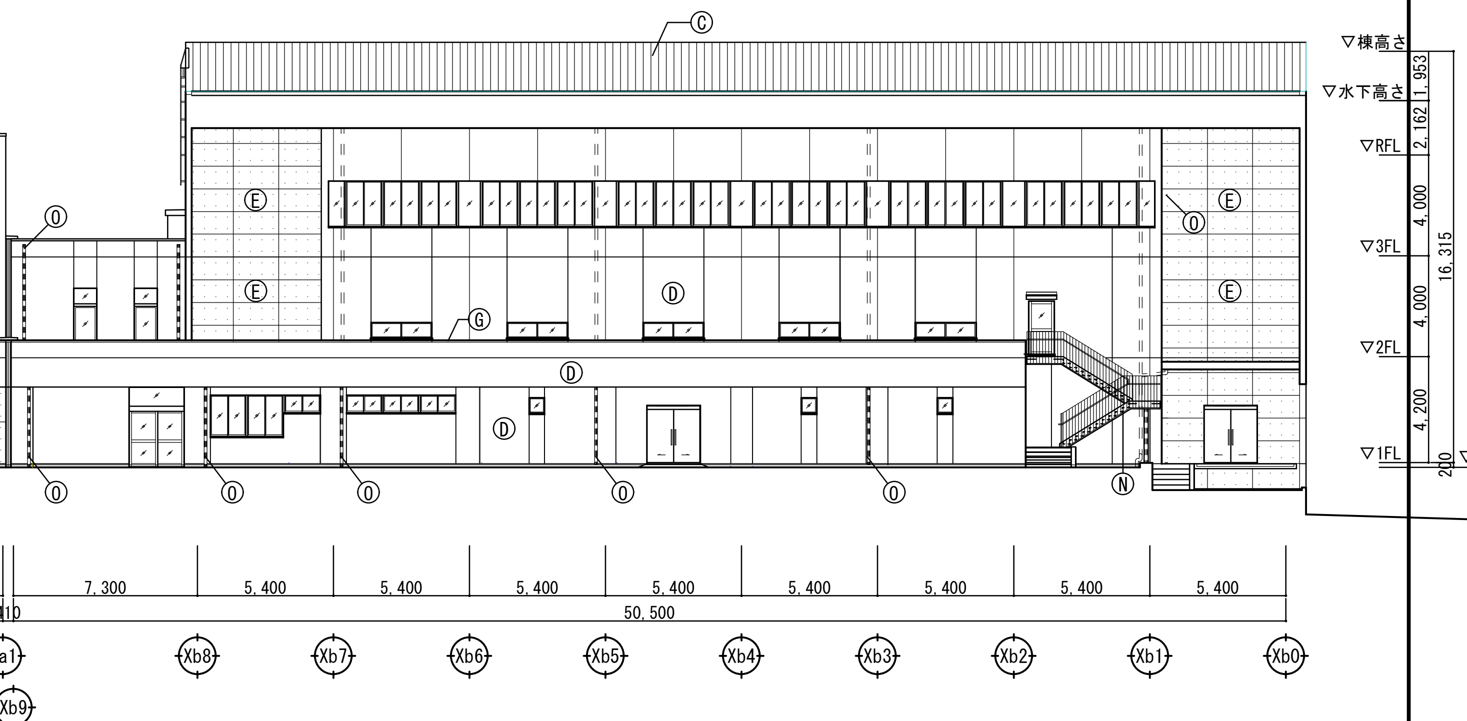
JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟　仕上表　2	縮尺	N.S.	図番	B －b14

Ⓐ	屋上	改質アスファルトシート防水ＡＳ－Ｔ１
Ⓑ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）0.5寸
Ⓒ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）1.5寸
Ⓓ	外壁	コンクリート打放し＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓔ	外壁	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓕ	水切り	アルミシルバー
Ⓖ	笠木	アルミ押出型材　シルバー（市場品）
Ⓗ	柱型	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓘ	柱型	スチール＋耐火シート張り
Ⓙ	ルーバー	木調アルミルーバー　50*50@150

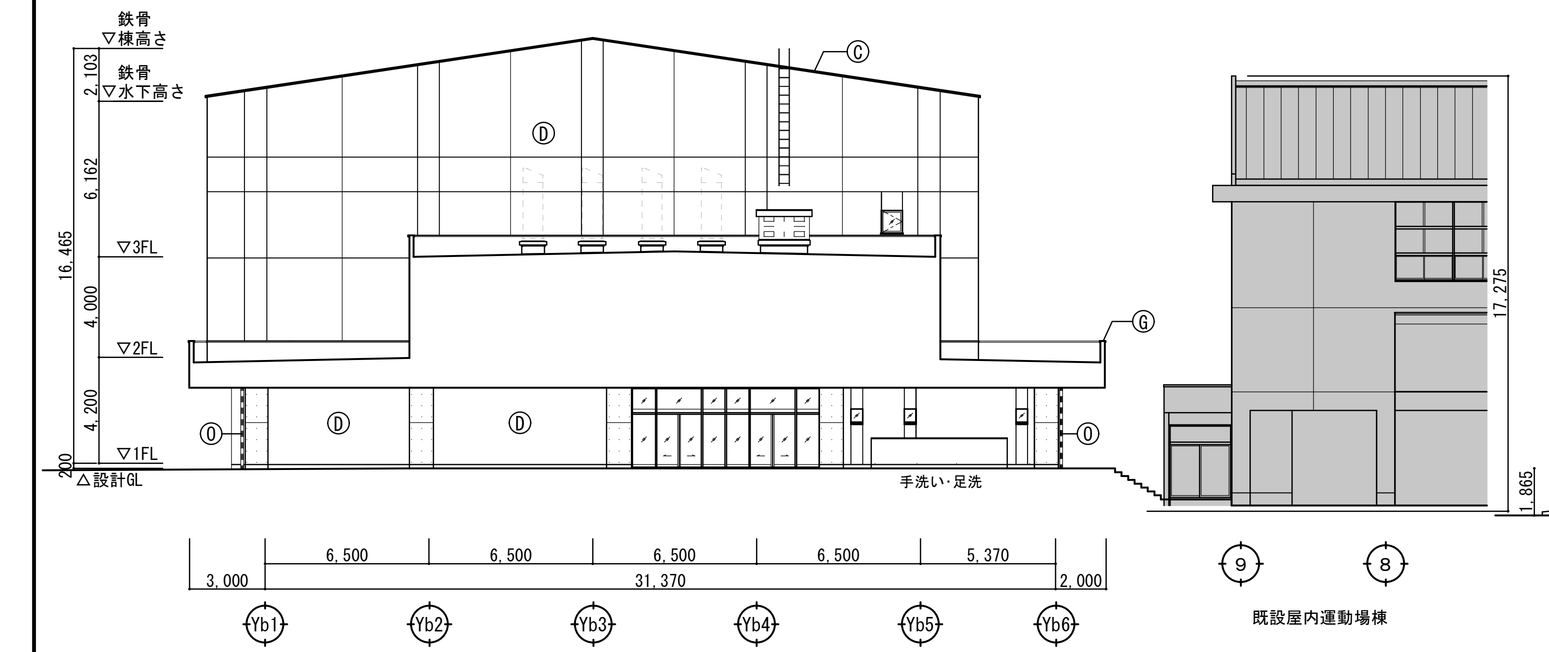
Ⓚ	手摺	木調アルミ手摺
Ⓛ	手摺	St.FB12×40加工 溶融亜鉛メッキ
Ⓝ	屋外階段	鉄部　溶融亜鉛メッキ
Ⓞ	竪樋	アルミ製竪樋　Φ114（バンドレスタイプ）シルバー
Ⓟ	軒樋	アルミ製　１２型
Ⓠ	外壁	ｔ60押出成形セメント板＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓡ	幕板	ｔ2.0アルミパネル（焼付塗装）ｔ4.0グライト裏打
Ⓢ	ｽｸﾘｰﾝ	H1600　アルミ製目隠しスクリーン



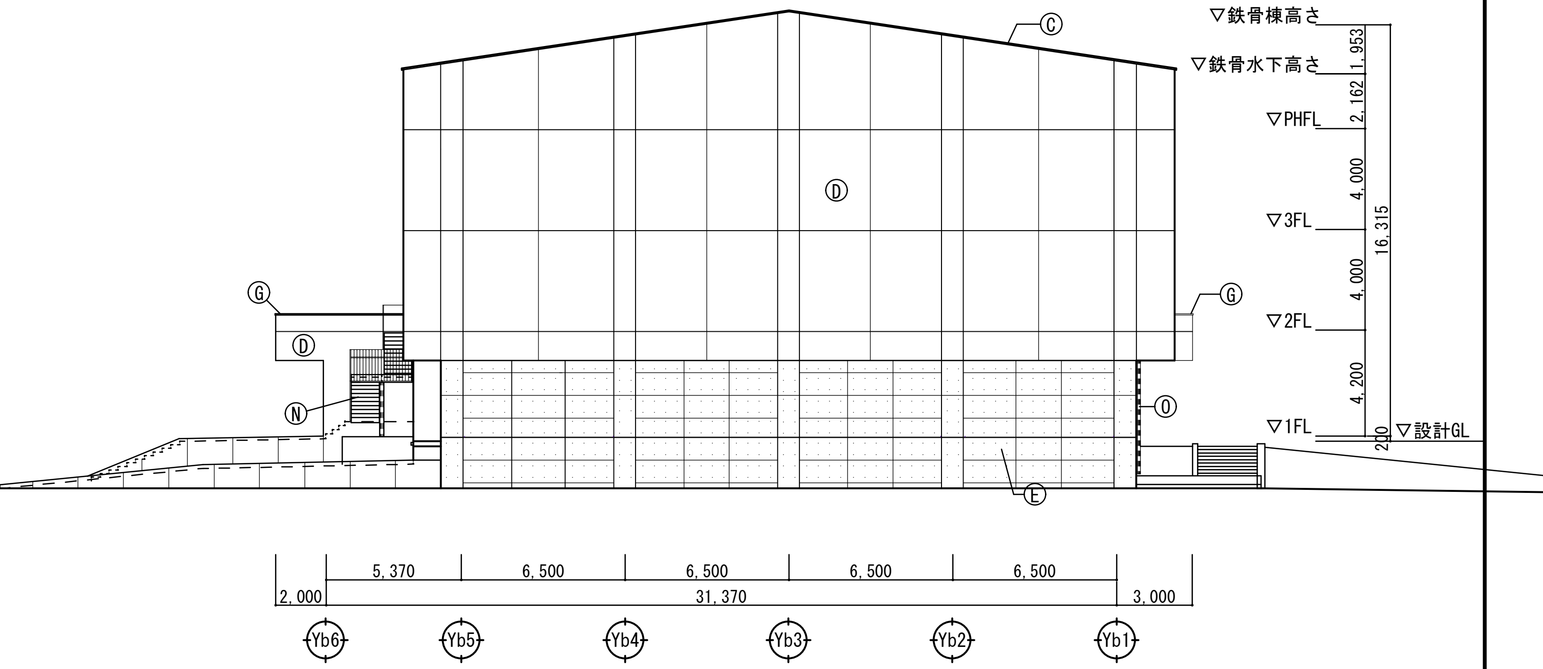
校舎棟　北側　立面図　s=1/150



屋内運動場棟　北側　立面図　s=1/150



屋内運動場棟　東側　立面図　s=1/150

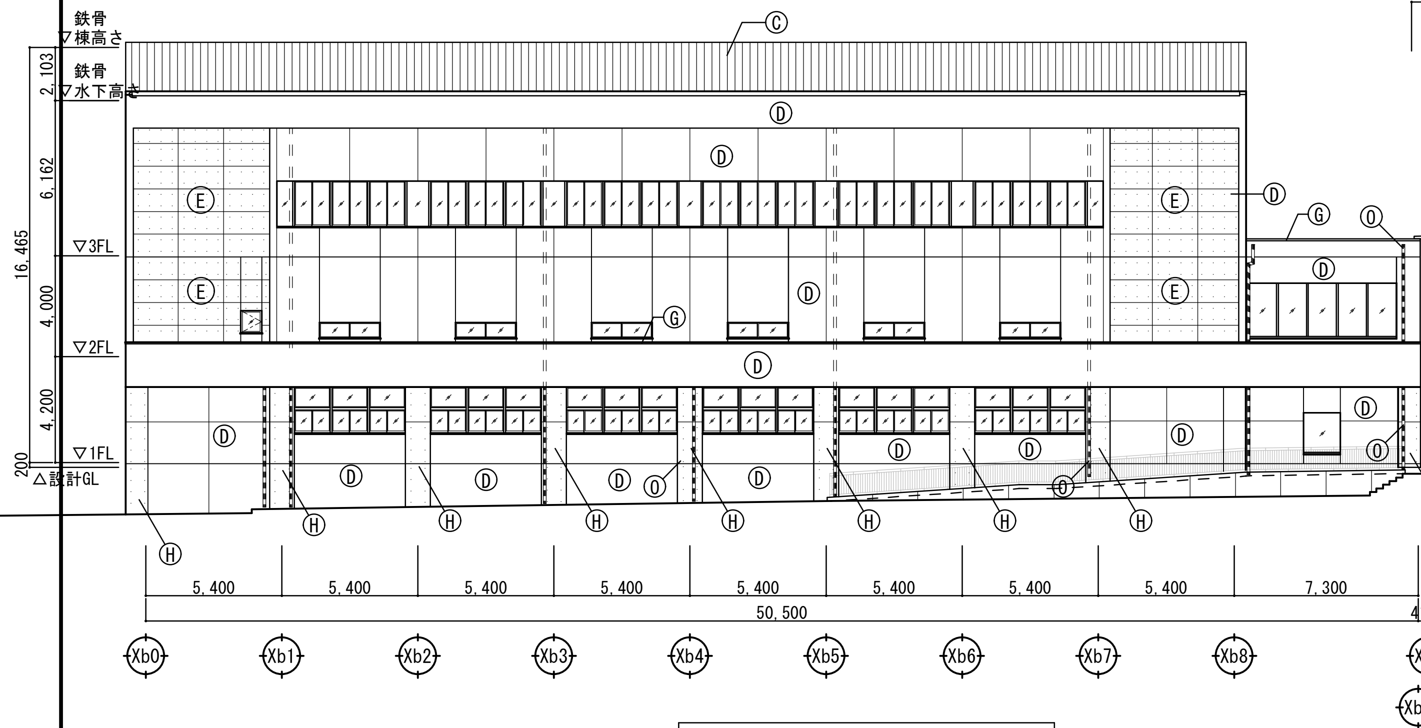


屋内運動場棟　西側　立面図　s=1/150

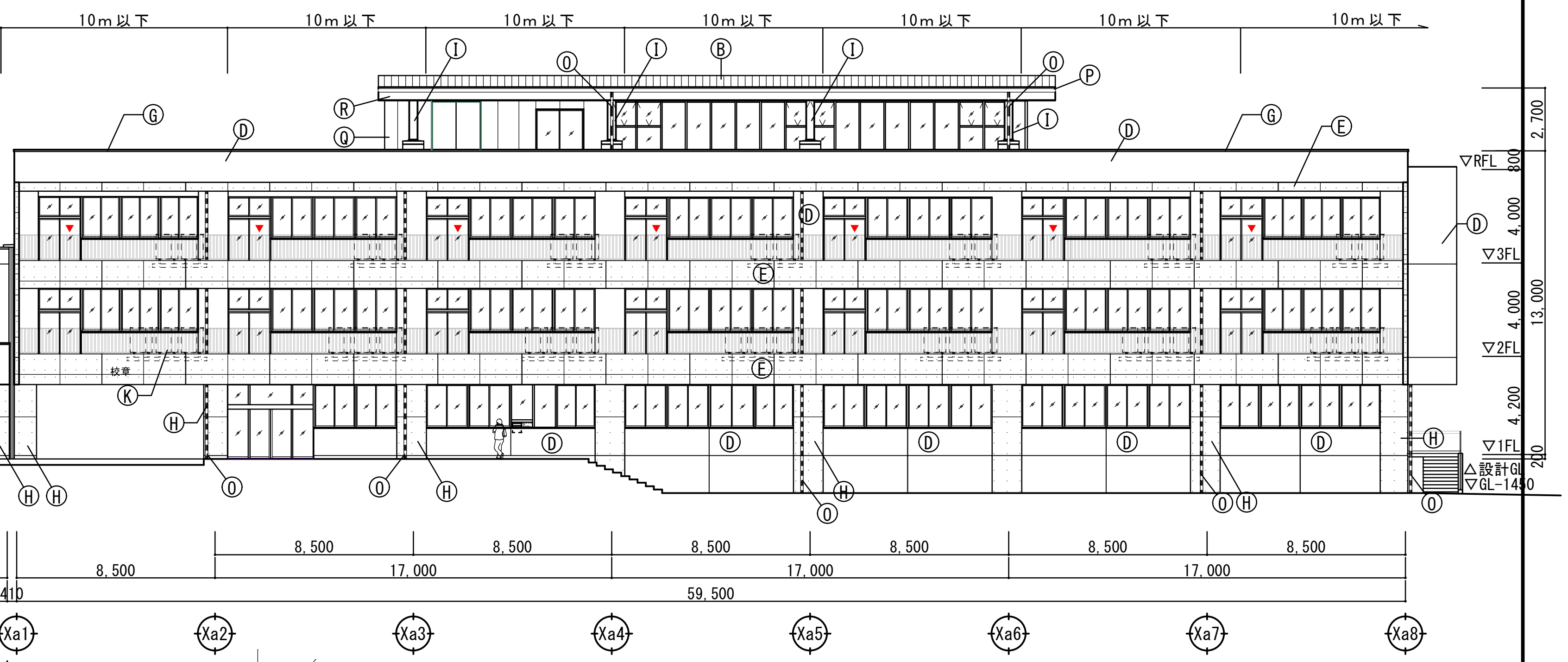
JOB NO.	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	立面図（１）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －b16 B －b15
124135											

Ⓐ	屋上	改質アスファルトシート防水ＡＳ－Ｔ１
Ⓑ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）0.5寸
Ⓒ	屋根	ｔ0.5ハイレタンＳＧＬ鋼板立平葺き（勘合式）1.5寸
Ⓓ	外壁	コンクリート打放し＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓔ	外壁	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓕ	水切り	アルミシルバー
Ⓖ	笠木	アルミ押出型材　シルバー（市場品）
Ⓗ	柱型	コンクリート打放し＋ＤＰ塗
Ⓘ	柱型	スチール＋耐火シート張り
Ⓙ	ルーバー	木調アルミルーバー　50*50@150

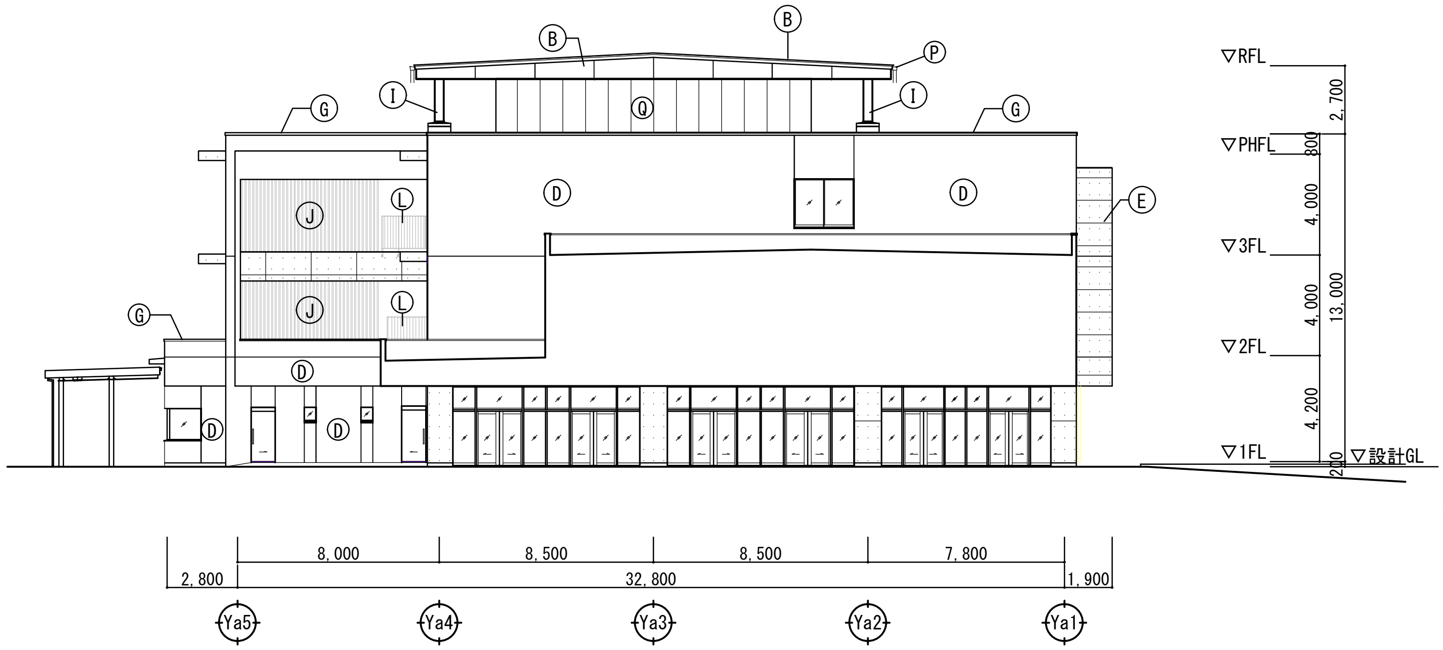
Ⓚ	手摺	木調アルミ手摺
Ⓛ	手摺	St.FB12×40加工 溶融亜鉛メッキ3
Ⓝ	屋外階段	鉄部　溶融亜鉛メッキ
Ⓞ	竪樋	アルミ製竪樋　Φ114（バンドレスタイプ）シルバー
Ⓟ	軒樋	アルミ製　１２型
Ⓠ	外壁	ｔ60押出成形セメント板＋複層塗材ＲＥ吹付
Ⓡ	幕板	ｔ2.0アルミパネル（焼付塗装）ｔ4.0グライト裏打
Ⓢ	ｽｸﾘｰﾝ	H1600　アルミ製目隠しスクリーン



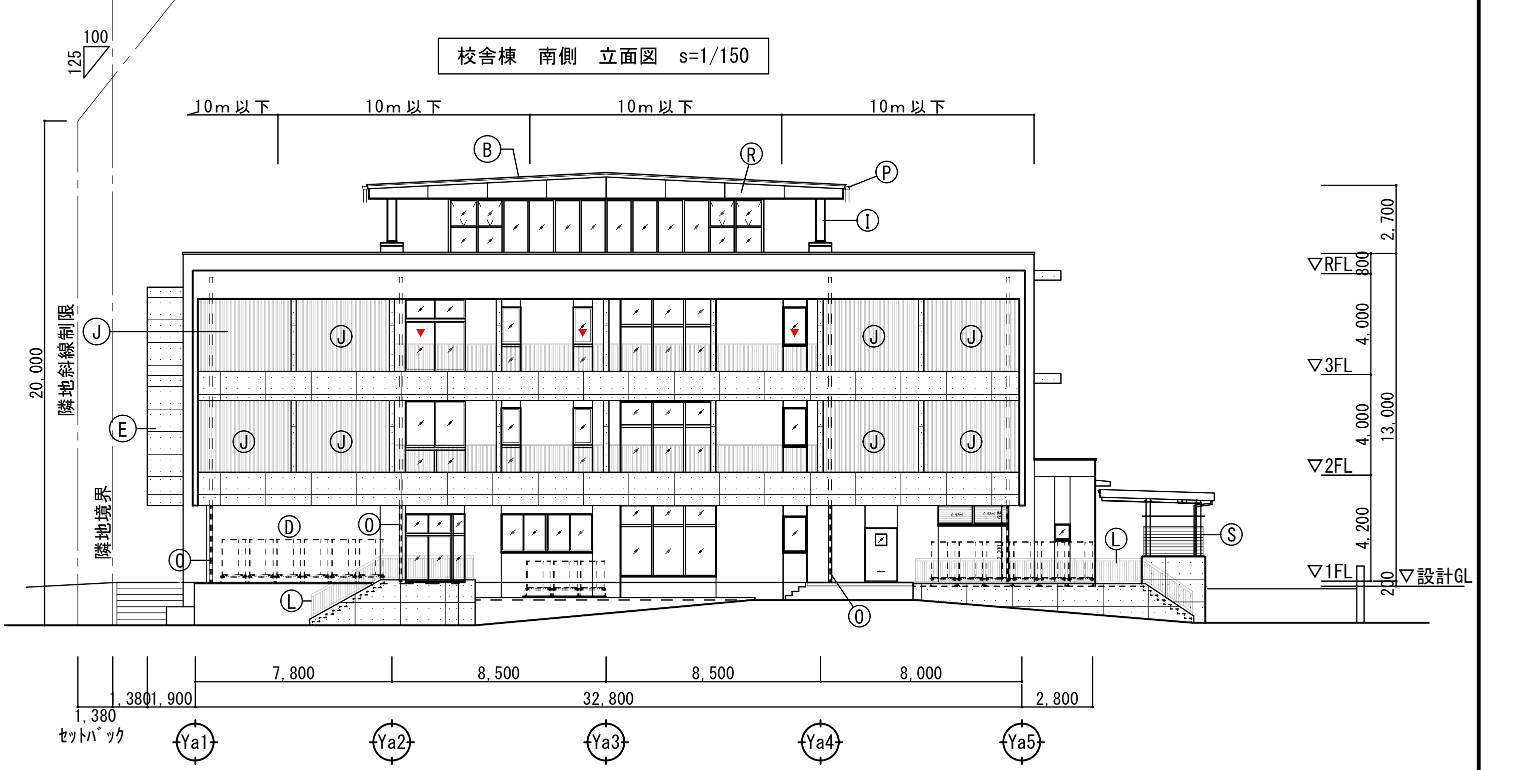
屋内運動場棟　南側　立面図　s=1/150



校舎棟　南側　立面図　s=1/150



校舎棟　西側　立面図　s=1/150

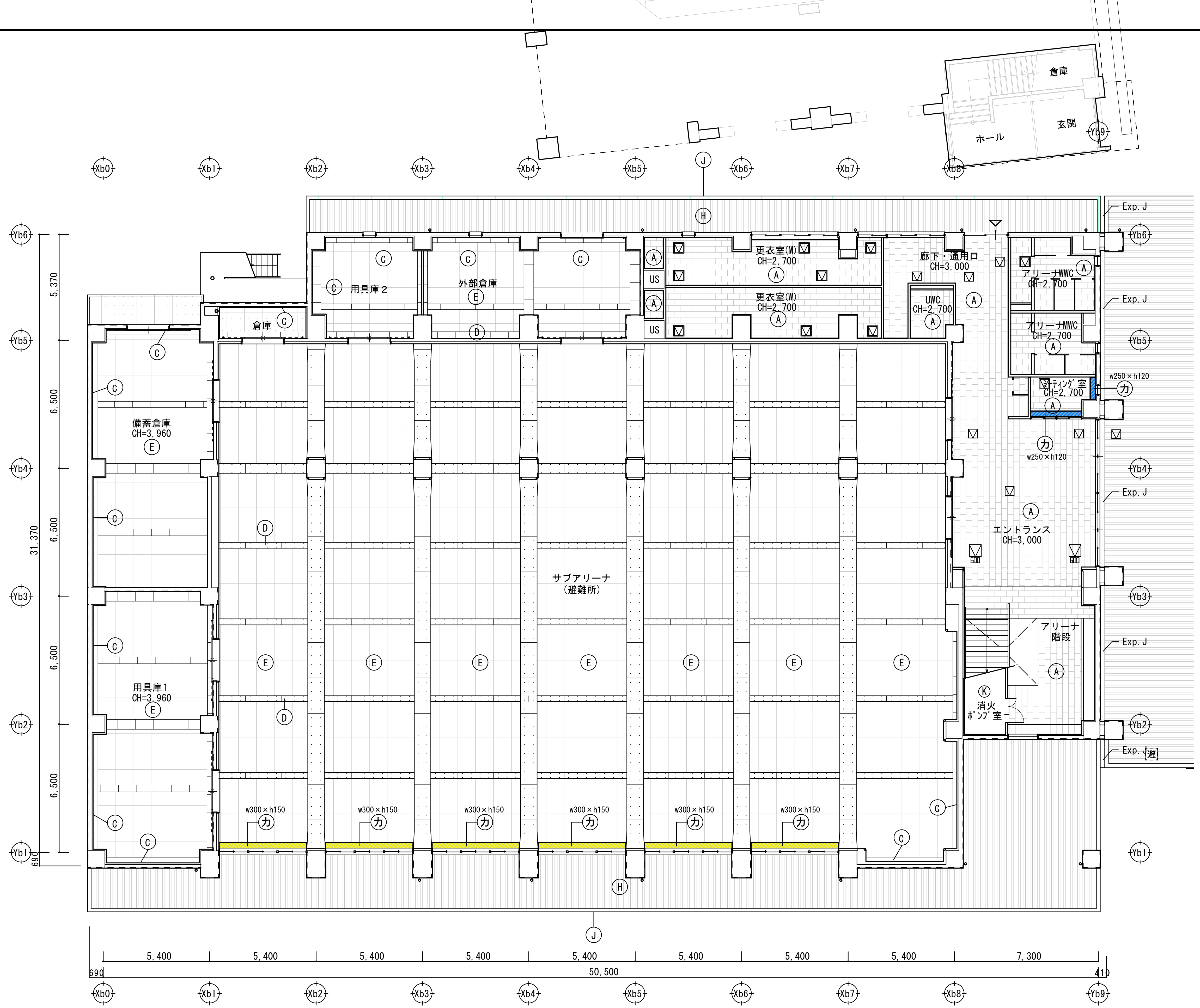


校舎棟　東側　立面図　s=1/150

JOB NO.											
124135	2026　年　　月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	立面図（２）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －b17 B －b16

	凡例
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG
D	現し
E	t25不燃木毛セメント板
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付
G	鉄部SOP
H	t12.0×w105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装
K	t25グラスウールマット
N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
カ	カーテンBOX:t25堅木+CL

⊠	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
⊠	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)



🟦 木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120

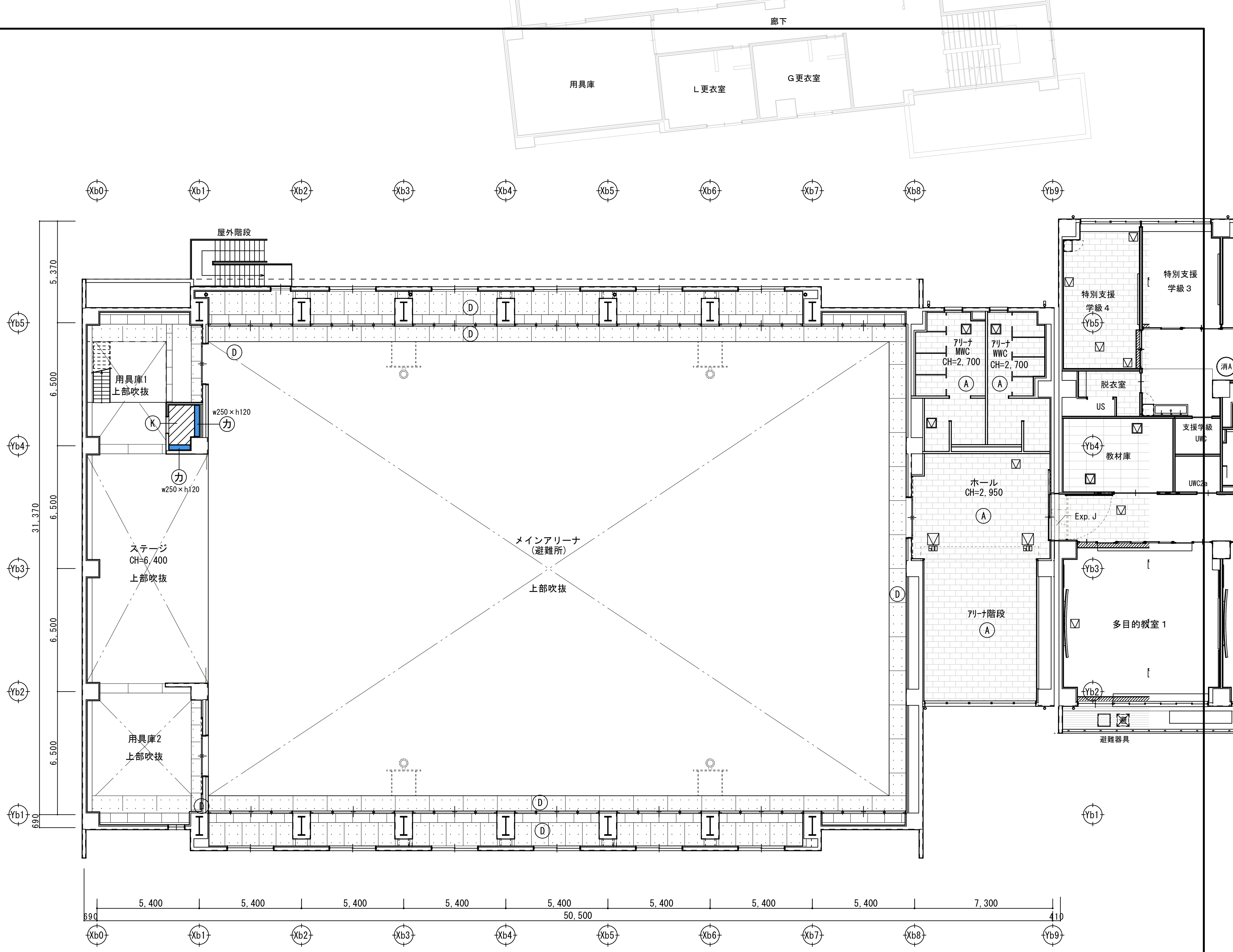
🟥 木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120　壁付

🟨 木製ｶｰﾃﾝBOX:W300×H120

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社 浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟_１階天井伏図	縮尺	A1= 1:100 A3= 1:200	図番	B －b17

	凡例
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG
D	現し
E	t25不燃木毛セメント板
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付
G	鉄部SOP
H	t12.0×ｗ105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装
K	t25グラスウールマット
N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
カ	カーテンBOX:t25竪木+CL

⍂	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
⍂	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)



🟦 木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120

🟥 木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120　壁付

🟨 木製ｶｰﾃﾝBOX:W300×H120

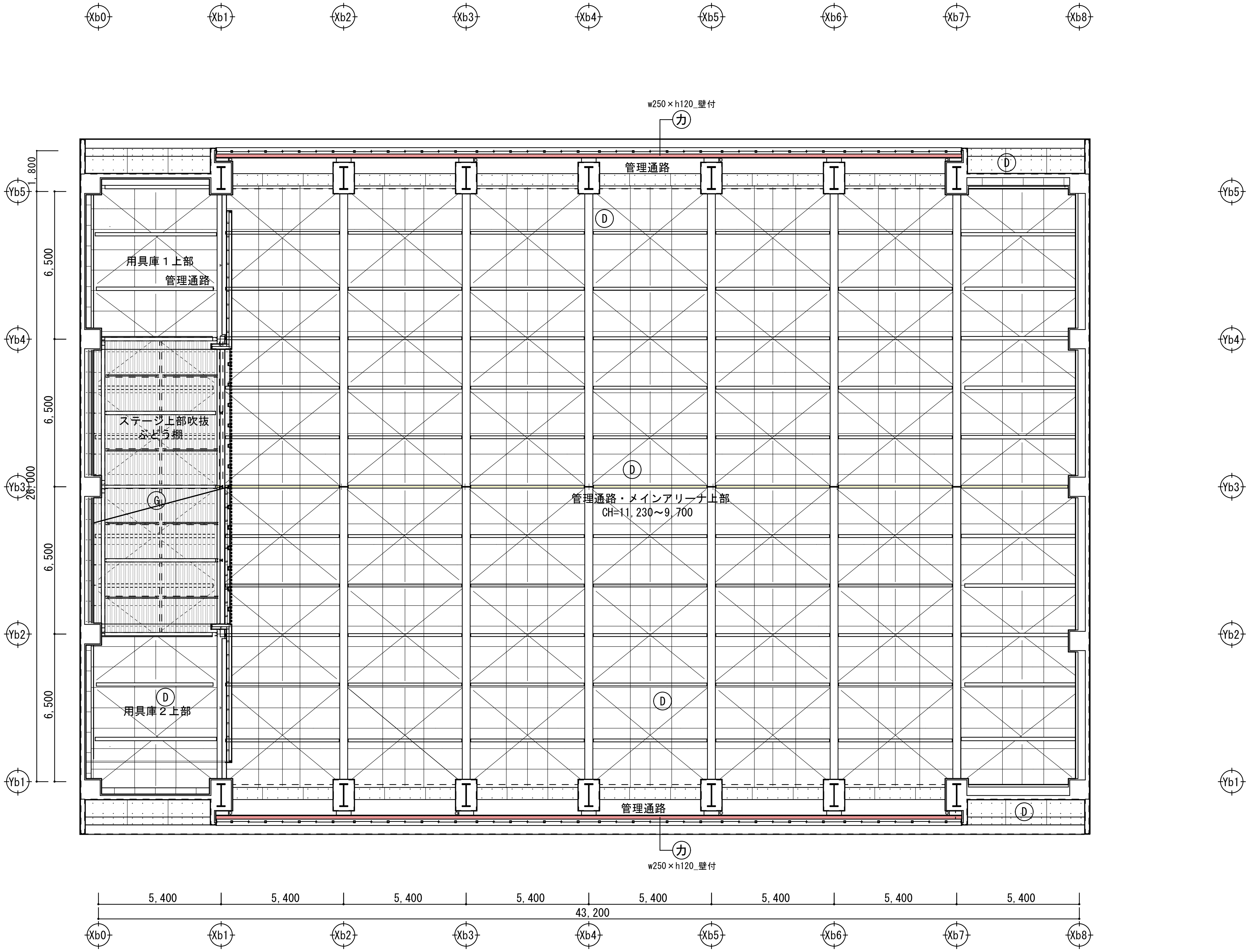
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟_２階天井伏図	縮尺	A1= 1:100 A3= 1:200	図番	B －b18

	凡例
A	t9.5GB-NC+t9.0岩綿吸音板
B	t9.5化粧石膏ボード（不燃）
C	t6.0ケイカル板（V目地）+EPG
D	現し
E	t25不燃木毛セメント板
F	鉄骨階段裏t25ロックウール吹付
G	鉄部SOP
H	t12.0×ｗ105ｱﾃ板(能登ﾋﾊﾞ) 目透ｶｼ張り+WP
I	t8.0ケイカル板(V目地)+EPG
J	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放+DP塗装
K	t25グラスウールマット
N	鉄部　溶融亜鉛メッキ
カ	カーテンBOX:t25竪木+CL

⍂	点検口:目地ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)
⊠	点検口:額縁ﾀｲﾌﾟ(□450,□600)

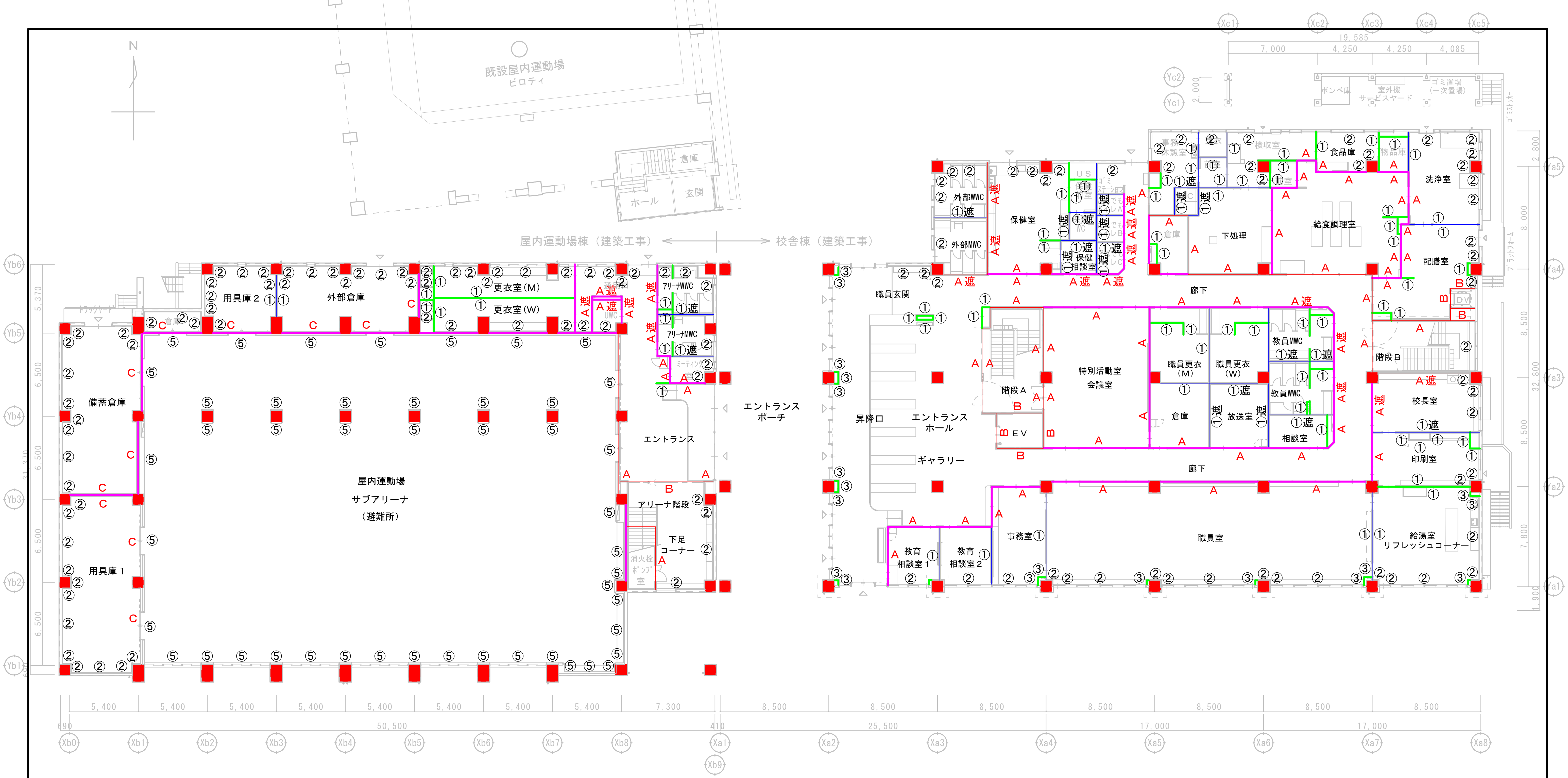
天井点検口集計表

場所	タイプ	呼びサイズ	個数
屋内運動場棟　１階	目地タイプ	450	6
屋内運動場棟　１階	目地タイプ	600	2
屋内運動場棟　１階	額縁タイプ	450	10
18			
屋内運動場棟　２階	目地タイプ	450	1
屋内運動場棟　２階	目地タイプ	600	2
屋内運動場棟　２階	額縁タイプ	450	3
6			
校舎棟　１階	目地タイプ	450	26
校舎棟　１階	目地タイプ	600	2
校舎棟　１階	額縁タイプ	450	63
91			
校舎棟　２階	目地タイプ	450	77
校舎棟　２階	目地タイプ	600	12
校舎棟　２階	額縁タイプ	450	12
101			
校舎棟　３階	目地タイプ	450	68
校舎棟　３階	目地タイプ	600	14
校舎棟　３階	額縁タイプ	450	10
92			
校舎棟　R階	目地タイプ	450	1
1			



🟦	木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120
🟥	木製ｶｰﾃﾝBOX:W250×H120　壁付
🟨	木製ｶｰﾃﾝBOX:W300×H120

JOB NO.								
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟_３階天井伏図	縮尺 A1= 1:100 A3= 1:200	図番 B －b19



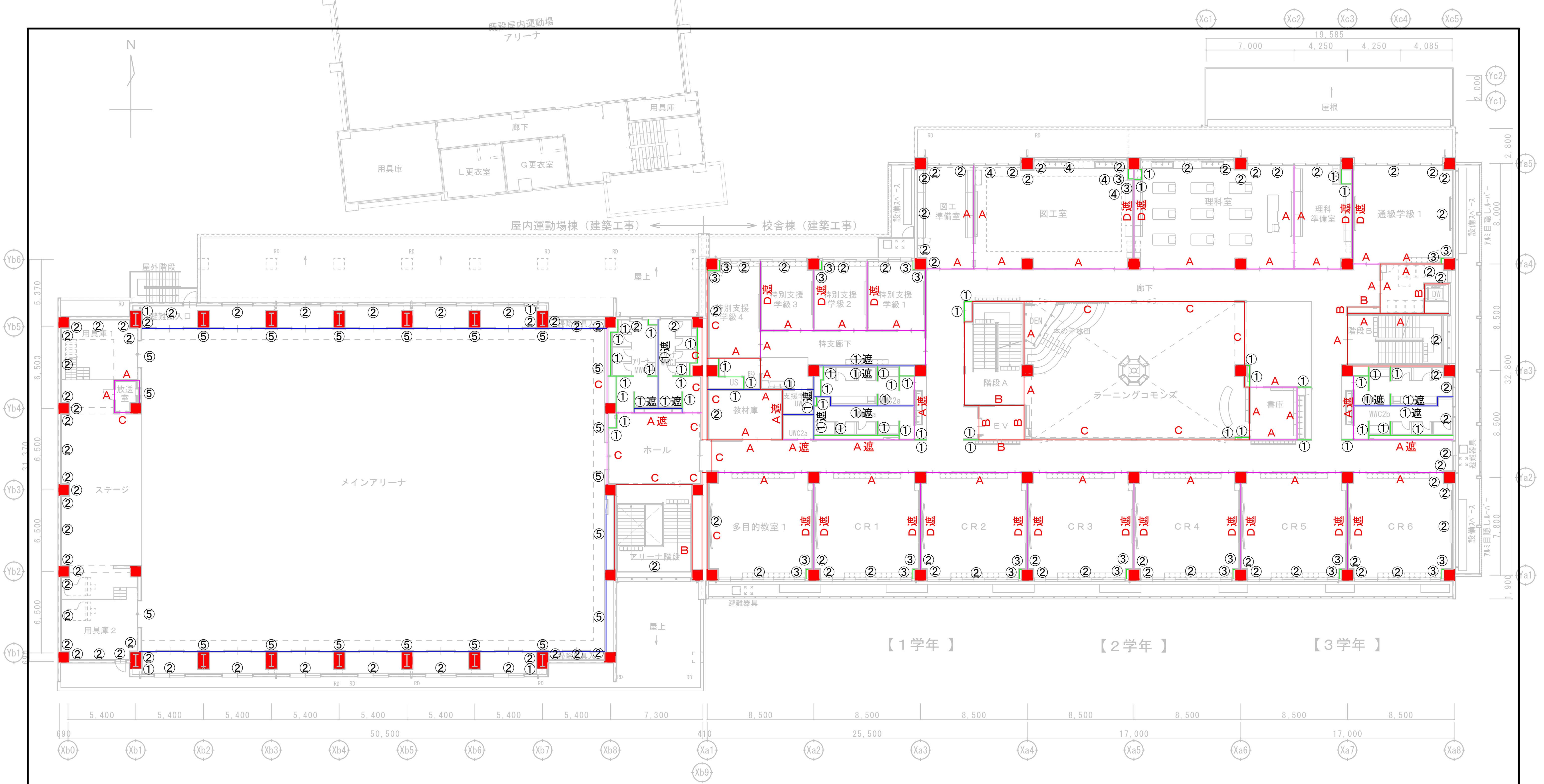
番号	下地	備考
A	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、両面、吉野石膏S12（FP060NP-0483(1)）同等品以上
A遮	〃	1時間耐火構造壁、両面、GW充填、吉野石膏S12（FP060NP-0483(2)）同等品以上
B	t21GB-F(強化)+t21GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、片面、吉野石膏Sｳｫｰﾙ（FP060NP-0007）同等品以上
C	コンクリート壁、柱	1時間耐火構造、壁：建告1399_第1_第1号(ｲ)、柱：建告1399_第2_第1号(ｲ)
D遮	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏S12WI(FP060NP-0290、SOI-0110)同等品以上
E遮	t9.5GB-R-H(硬質)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏A-2000・WI-60(FP060NP-0473-1(2)、SOI-0170-1)同等品以上
①	t12.5+12.5GB-R	LGS下地
①遮	t12.5+12.5GB-R	LGS下地、GW充填
②	t12.5GB-R(GL)	GL工法
③	t12.5GB-R	LGS下地
④	木下地	（仕上げ表参照）
⑤	LGS下地	（仕上げ表参照）

※壁リストは壁下地を記載、仕上げは仕上げ表を参照
※水廻り（給湯、ＷＣ、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）の床・壁の取り合いはｼｰﾘﾝｸﾞ処理をすること
※水廻り（給湯、ＷＣ、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）は　GB-R→ GB-S　とする
※GW:グラスウール充填　24kg/m3

🟥	耐火１時間壁　面積区画　梁下スラブ裏まで
🟪	耐火１時間壁　防火上主要間仕切り　梁下スラブ裏まで
🟦	雑壁　梁下スラブ裏まで
🟩	雑壁　天井まで

※建具が着色されている場合、建具が取付く壁の仕様を示す。

JOB NO.
125280
2026　年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　１階　壁リスト
縮尺　A1：1/150　A3：1/300
図番　A－b22　B－b20



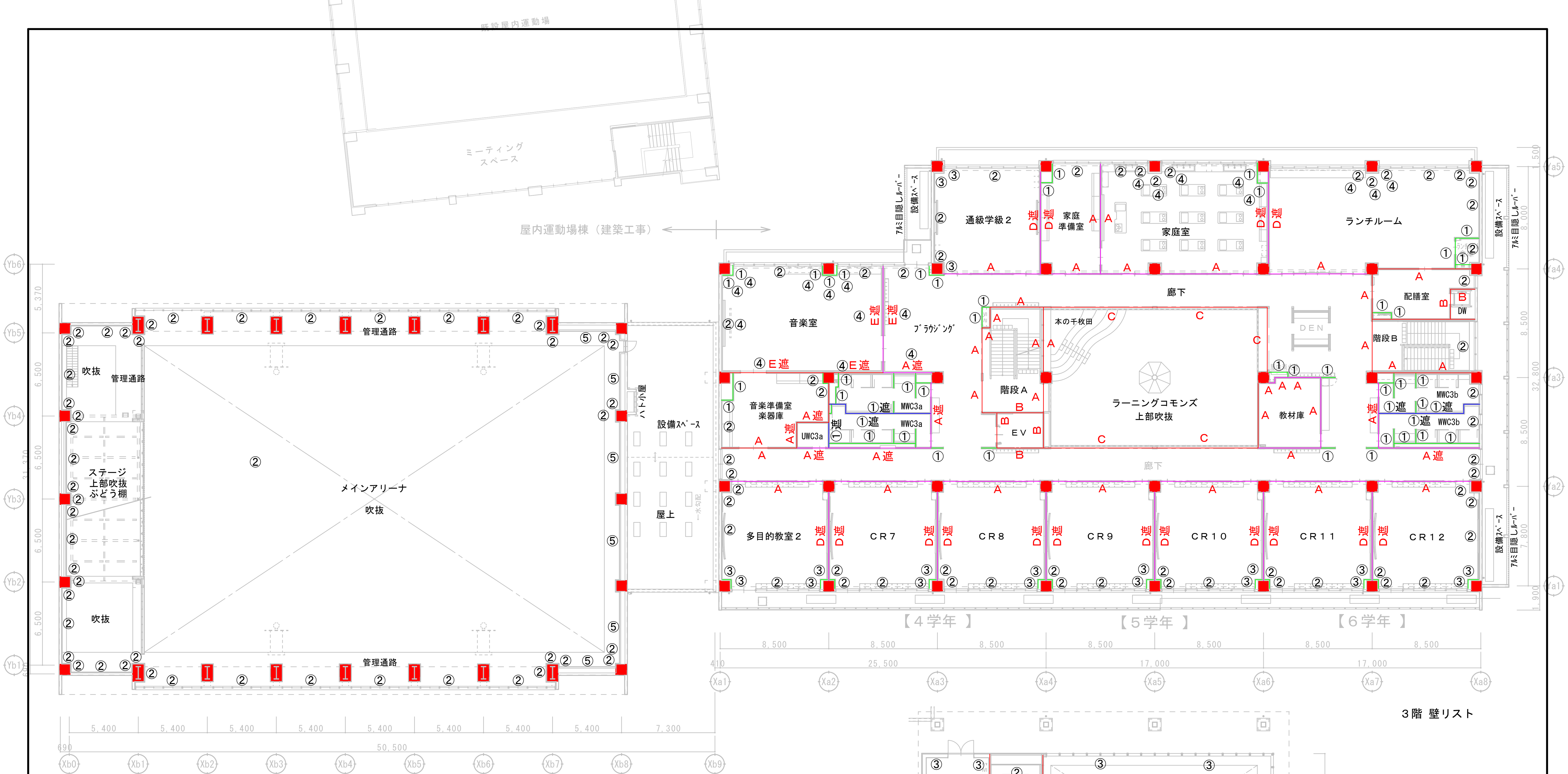
番号	下地	備考
A	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、両面、吉野石膏S12（FP060NP-0483(1)）同等品以上
A遮	〃	1時間耐火構造壁、両面、GW充填、吉野石膏S12（FP060NP-0483(2)）同等品以上
B	t21GB-F(強化)+t21GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、片面、吉野石膏Sｳｫｰﾙ（FP060NP-0007）同等品以上
C	コンクリート壁、柱	1時間耐火構造、壁：建告1399_第1_第1号(ｲ)、柱：建告1399_第2_第1号(ｲ)
D遮	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏S12WI(FP060NP-0290、SOI-0110)同等品以上
E遮	t9.5GB-R-H(硬質)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏A-2000・WI-60(FP060NP-0473-1(2)、SOI-0170-1)同等品以上
①	t12.5+12.5GB-R	LGS下地
①遮	t12.5+12.5GB-R	LGS下地、GW充填
②	t12.5GB-R(GL)	GL工法
③	t12.5GB-R	LGS下地
④	木下地	（仕上げ表参照）
⑤	LGS下地	（仕上げ表参照）

※壁リストは壁下地を記載、仕上げは仕上げ表を参照
※水廻り（給湯、WC、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）の床・壁の取り合いはｼｰﾘﾝｸﾞ処理をすること
※水廻り（給湯、WC、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）は　GB-R→ GB-S　とする
※GW:グラスウール充填　24kg/m3

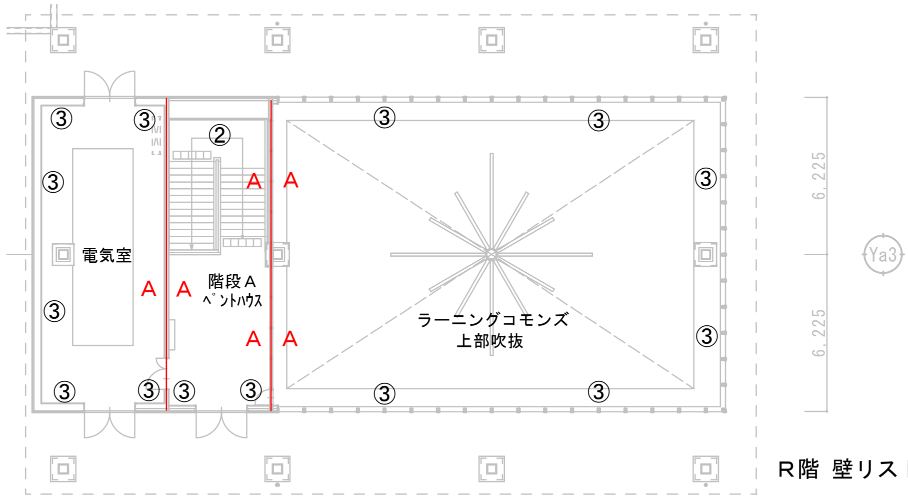
—	耐火１時間壁　面積区画　梁下スラブ裏まで
—	耐火１時間壁　防火上主要間仕切り　梁下スラブ裏まで
—	雑壁　梁下スラブ裏まで
—	雑壁　天井まで

※建具が着色されている場合、建具が取付く壁の仕様を示す。

JOB NO.								
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題 2階 壁リスト	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－b23 B－b21



３階 壁リスト



Ｒ階 壁リスト

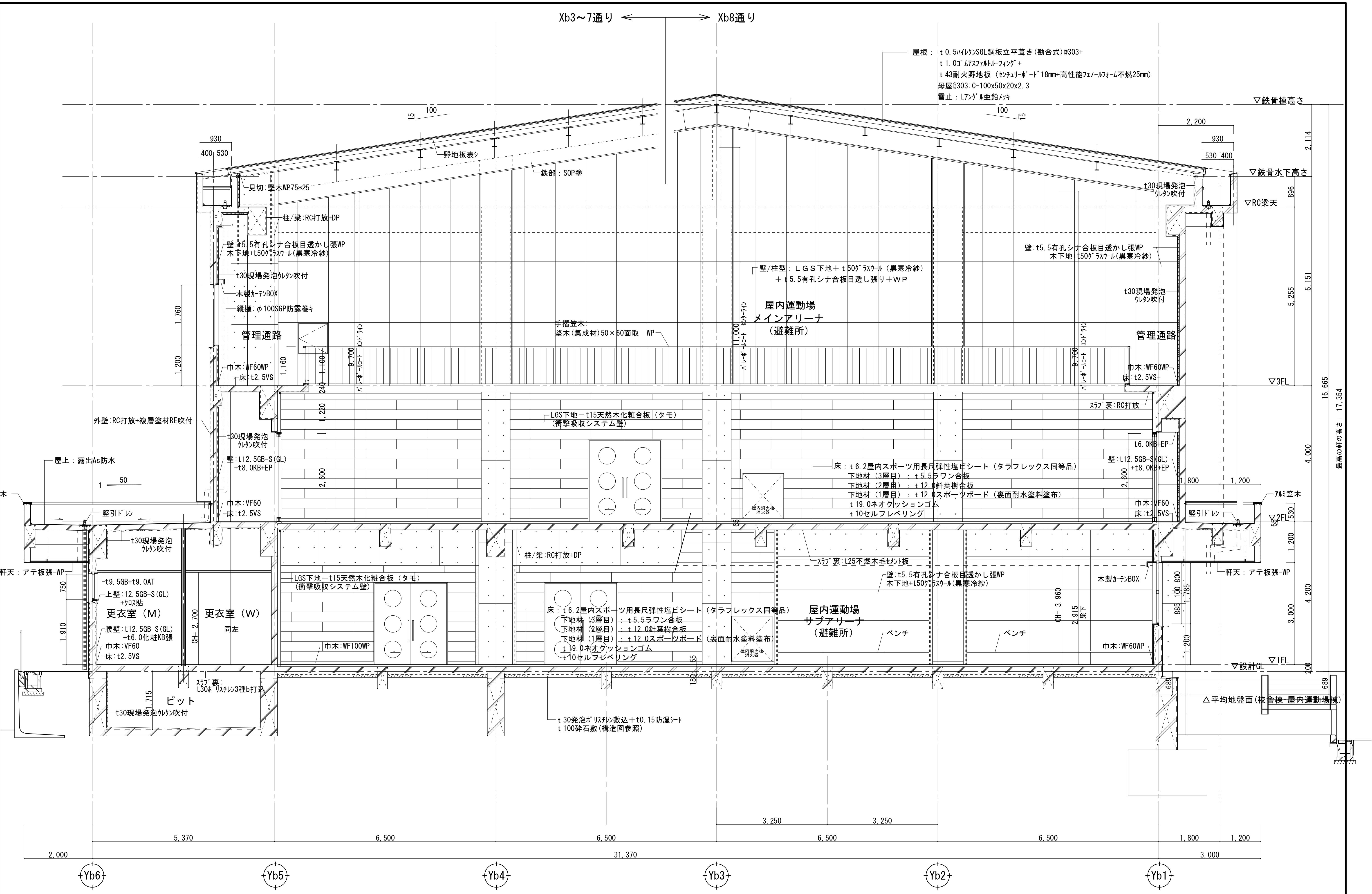
番号	下地	備考
Ａ	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、両面、吉野石膏S12（FP060NP-0483(1)）同等品以上
Ａ遮	〃	1時間耐火構造壁、両面、GW充填、吉野石膏S12（FP060NP-0483(2)）同等品以上
Ｂ	t21GB-F(強化)+t21GB-F(強化)	1時間耐火構造壁、片面、吉野石膏Sｳｫｰﾙ（FP060NP-0007）同等品以上
Ｃ	コンクリート壁、柱	1時間耐火構造、壁：建告1399_第1_第1号(ｲ)、柱：建告1399_第2_第1号(ｲ)
Ｄ遮	t12.5GB-F(強化)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏S12WI(FP060NP-0290、SOI-0110)同等品以上
Ｅ遮	t9.5GB-R-H(硬質)+t12.5GB-F(強化)	1時間耐火構造遮音壁、両面、LGS千鳥配置、GW充填　吉野石膏A-2000･ WI-60(FP060NP-0473-1(2)、SOI-0170-1)同等品以上
①	t12.5+12.5GB-R	LGS下地
①遮	t12.5+12.5GB-R	LGS下地、GW充填
②	t12.5GB-R(GL)	GL工法
③	t12.5GB-R	LGS下地
④	木下地	（仕上げ表参照）
⑤	LGS下地	（仕上げ表参照）

※壁リストは壁下地を記載、仕上げは仕上げ表を参照
※水廻り（給湯、ＷＣ、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）の床・壁の取り合いはｼｰﾘﾝｸﾞ処理をすること
※水廻り（給湯、ＷＣ、脱衣、洗面、シャワー室周り、昇降口、エントランス廻り、特別教室、消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室、給食調理室廻り）は　GB-R→ GB-S　とする
※GW:グラスウール充填　24kg/m3

━	耐火１時間壁　面積区画　梁下スラブ裏まで
━	耐火１時間壁　防火上主要間仕切り　梁下スラブ裏まで
━	雑壁　梁下スラブ裏まで
━	雑壁　天井まで

※建具が着色されている場合、建具が取付く壁の仕様を示す。

JOB NO. 125280
2026　年　月
中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳
設計　・　・
標題　３・Ｒ階　壁リスト
縮尺　A1：1/150　A3：1/300
図番　Ａ－b24　Ｂ－b22



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

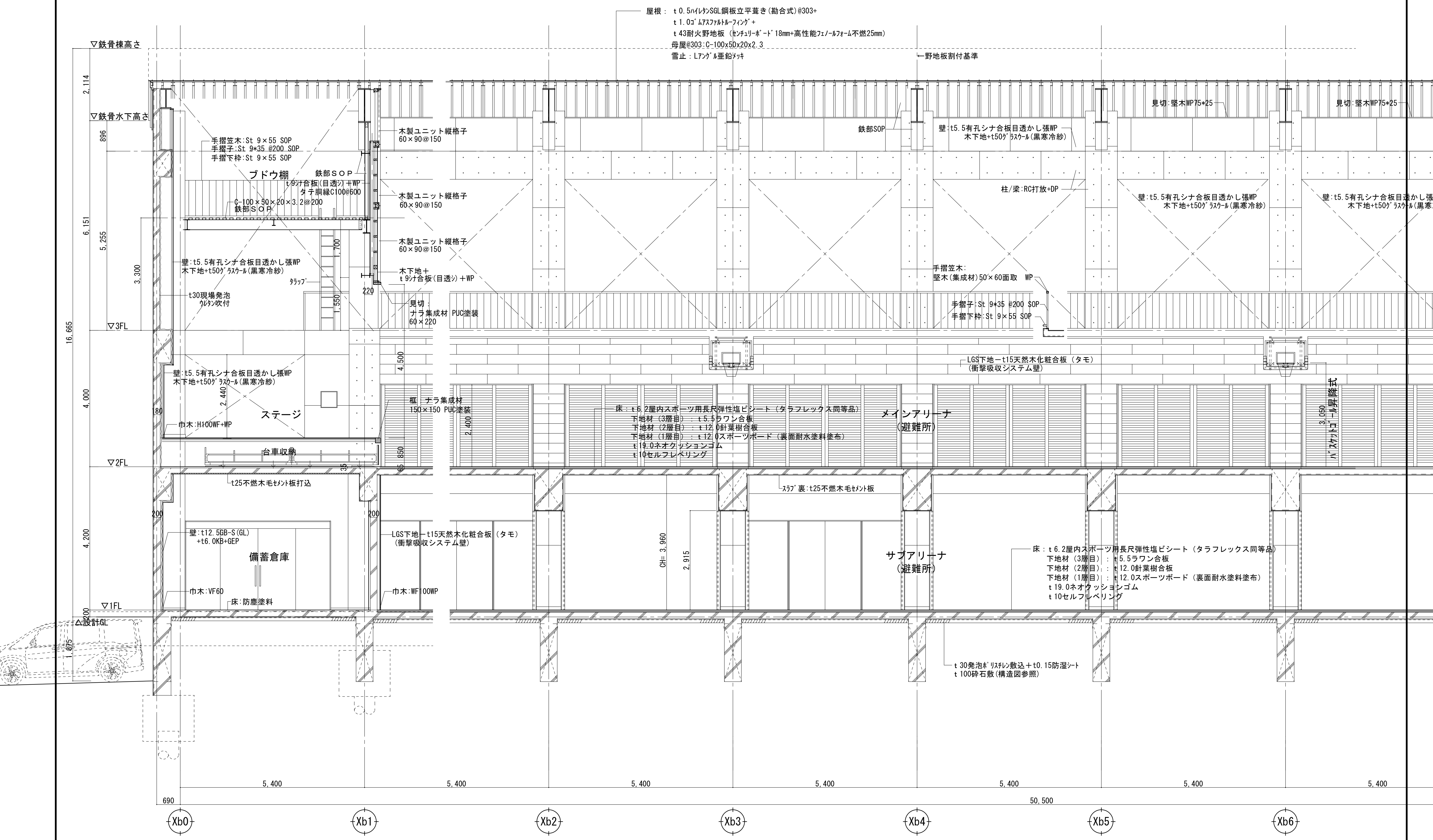
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

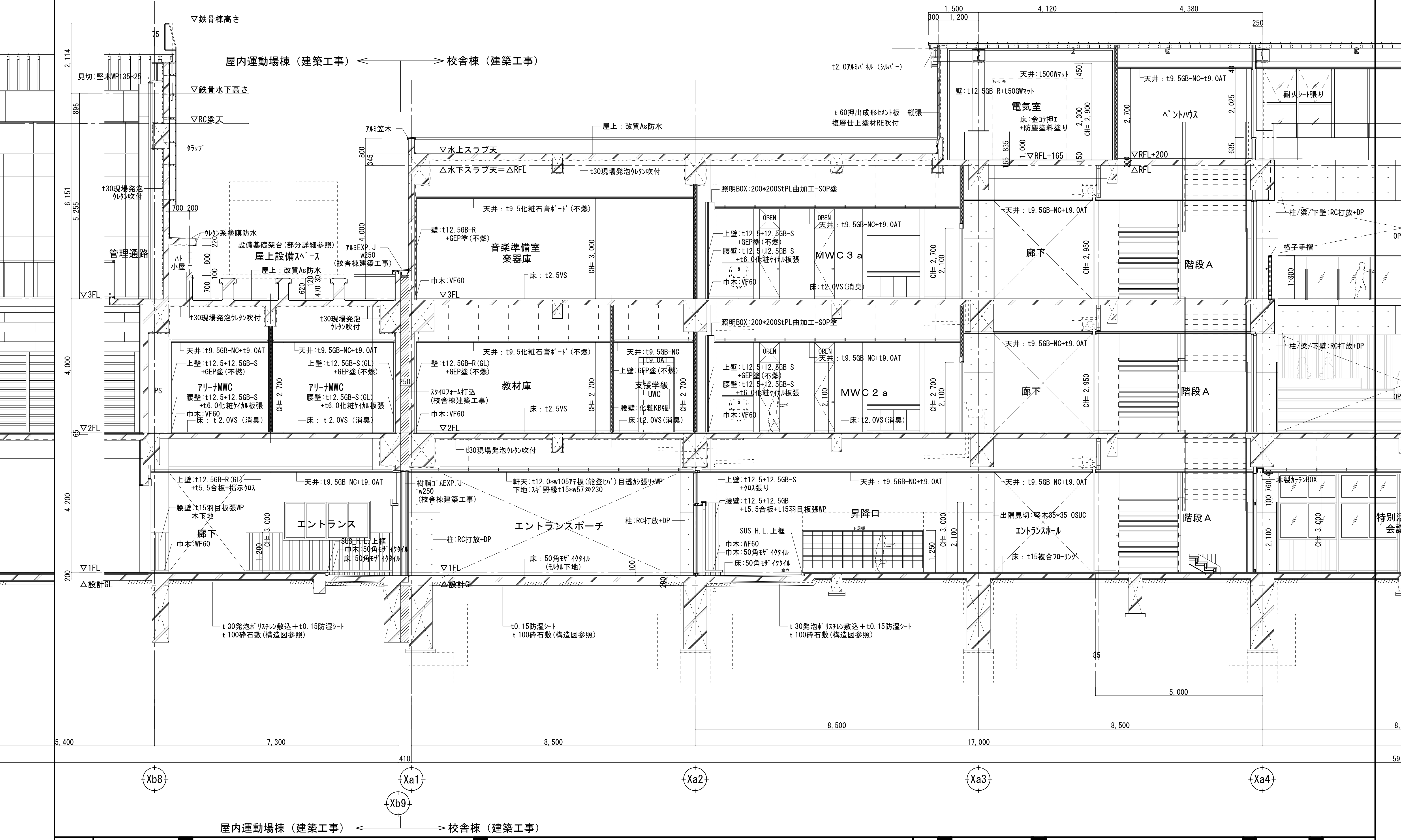
標題 屋内運動場棟 矩計図（1）

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

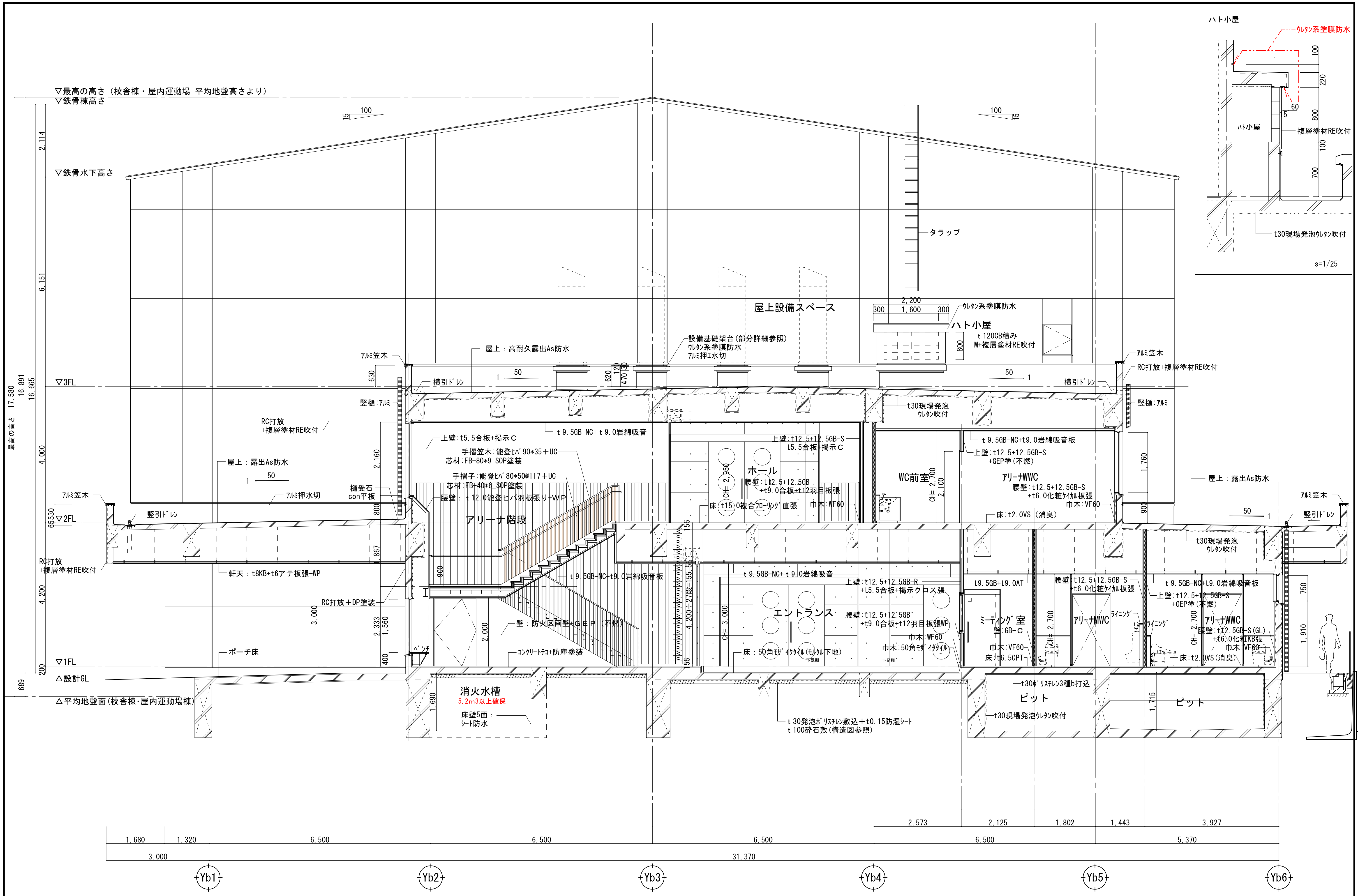
図番 B －c01



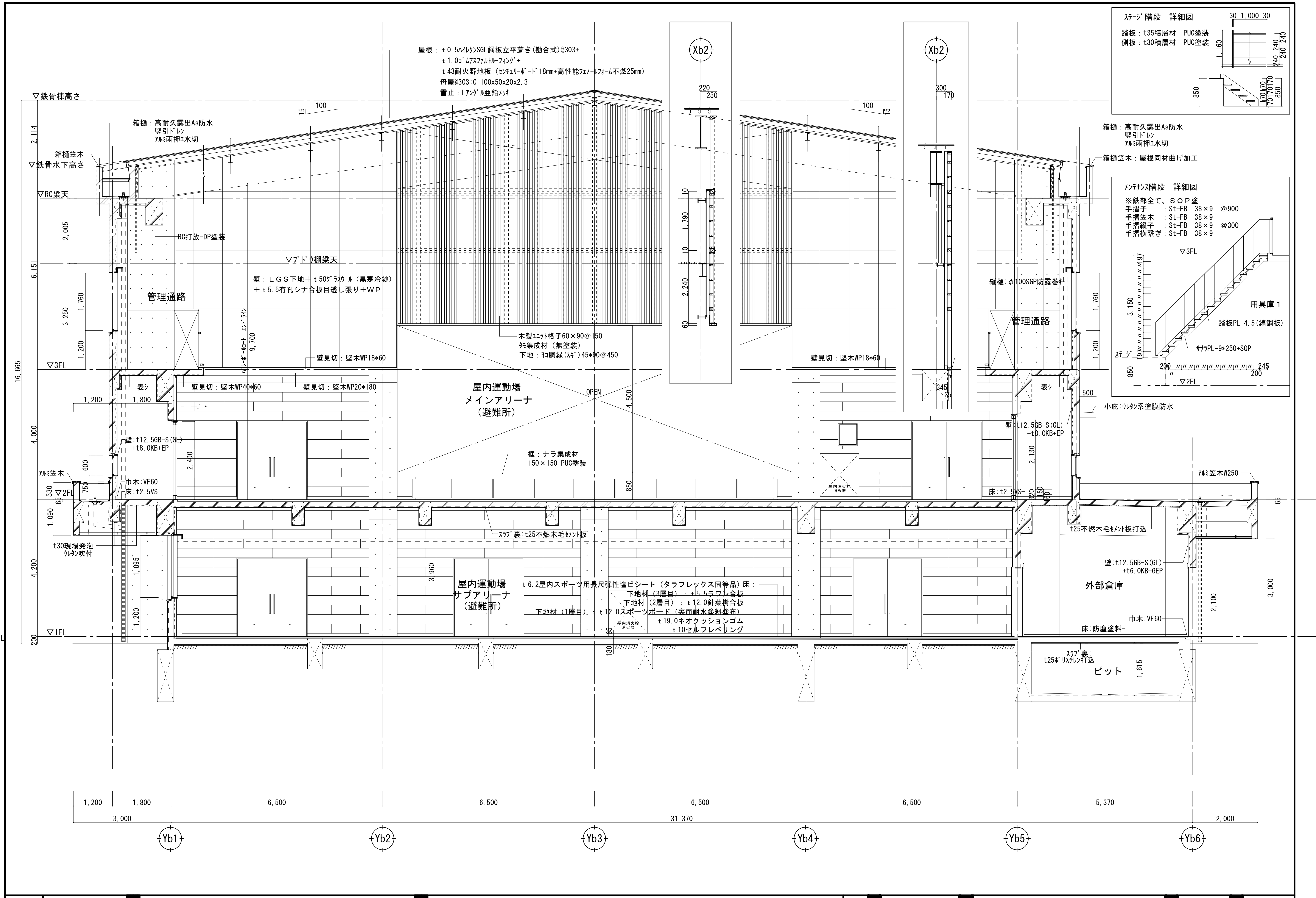
JOB NO. 125280
2026 年 月
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳
設計 ・ ・
標題 屋内運動場棟 矩計図（２）
縮尺 A1：1/ 50 A3：1/100
図番 B －c02



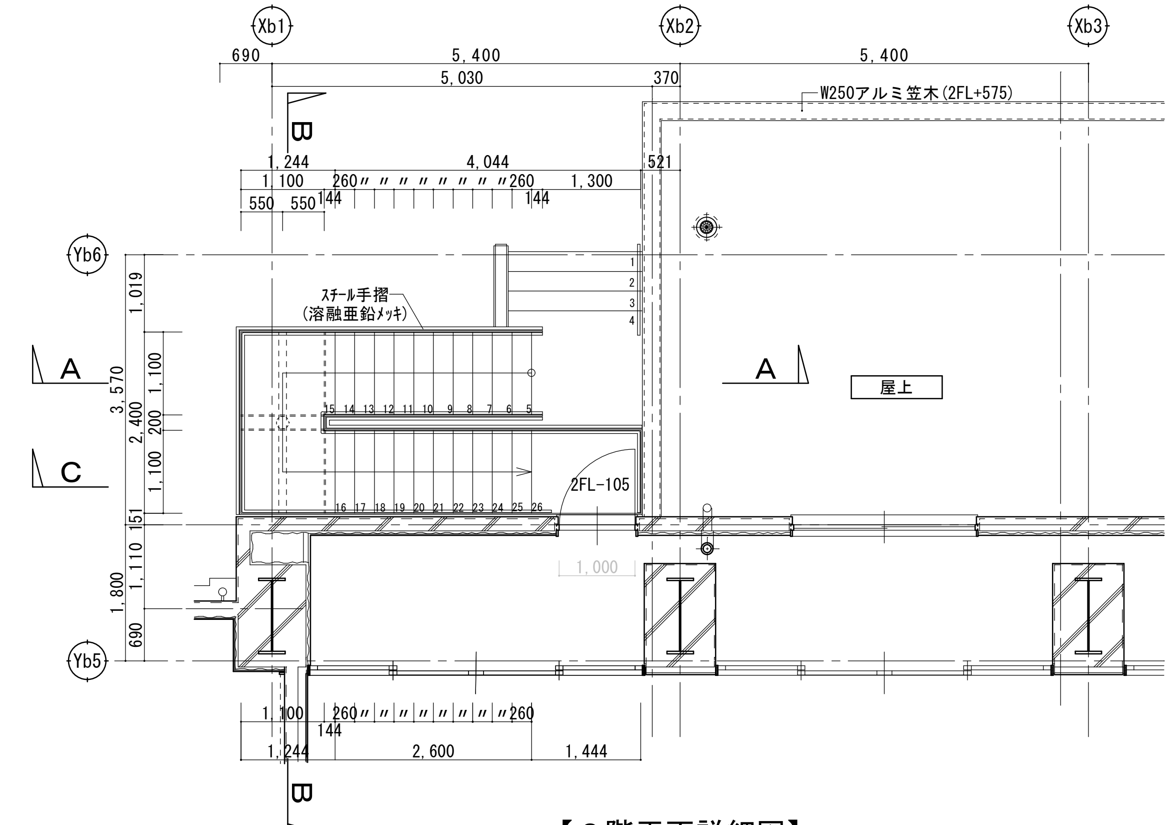
JOB NO.									
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	校舎棟/屋内運動場棟 矩計図（3）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	A －c03 B －c03



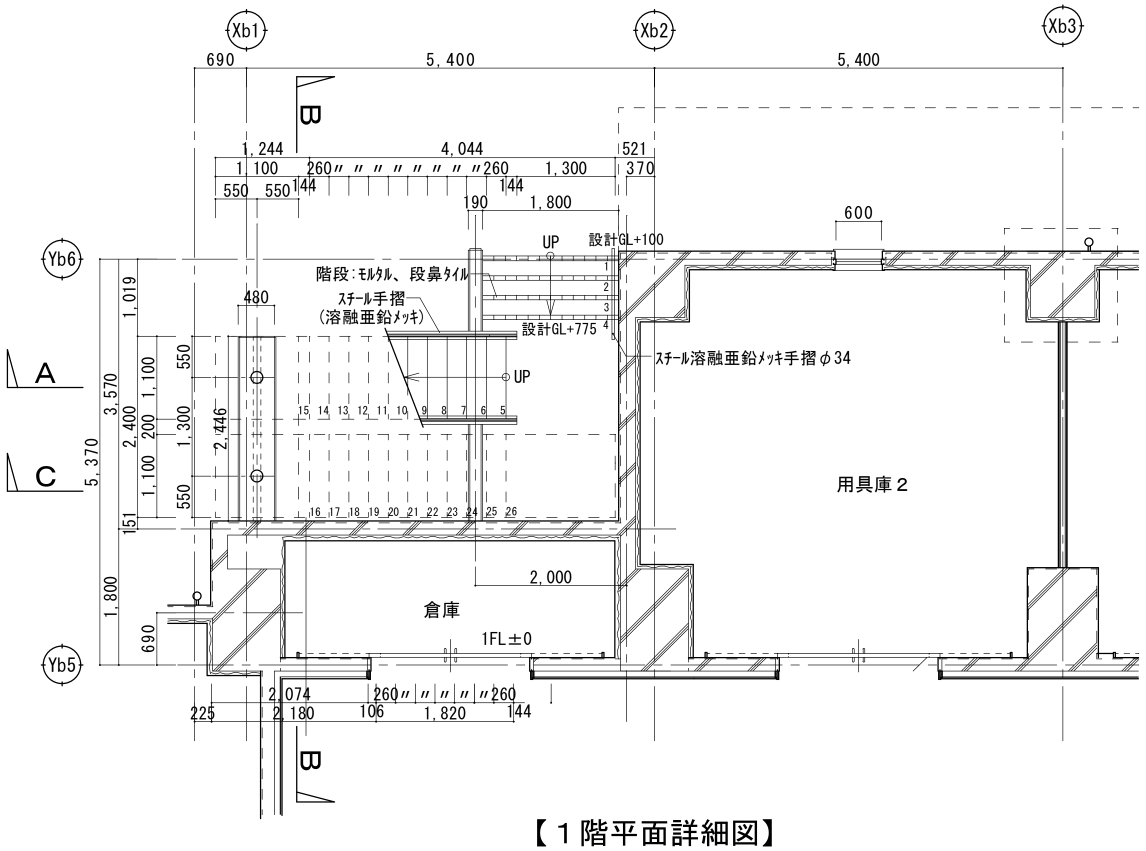
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	屋内運動場棟 矩計図（4）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	B －c04



JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟　矩計図（５）	縮尺	A1：1/ 50 A3：1/100	図番	Ｂ－c05



【２階平面詳細図】

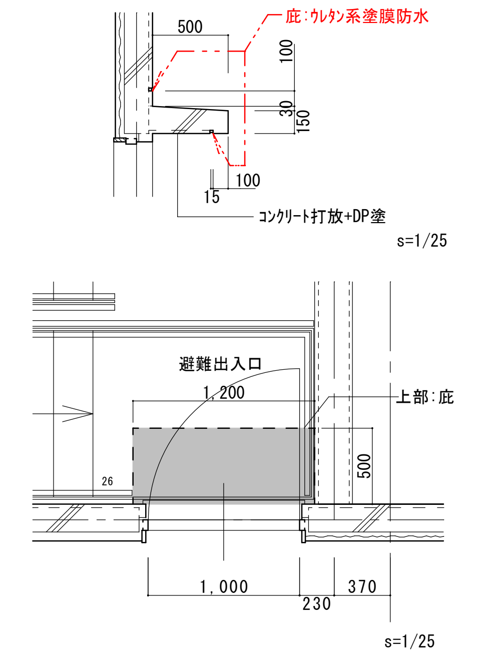


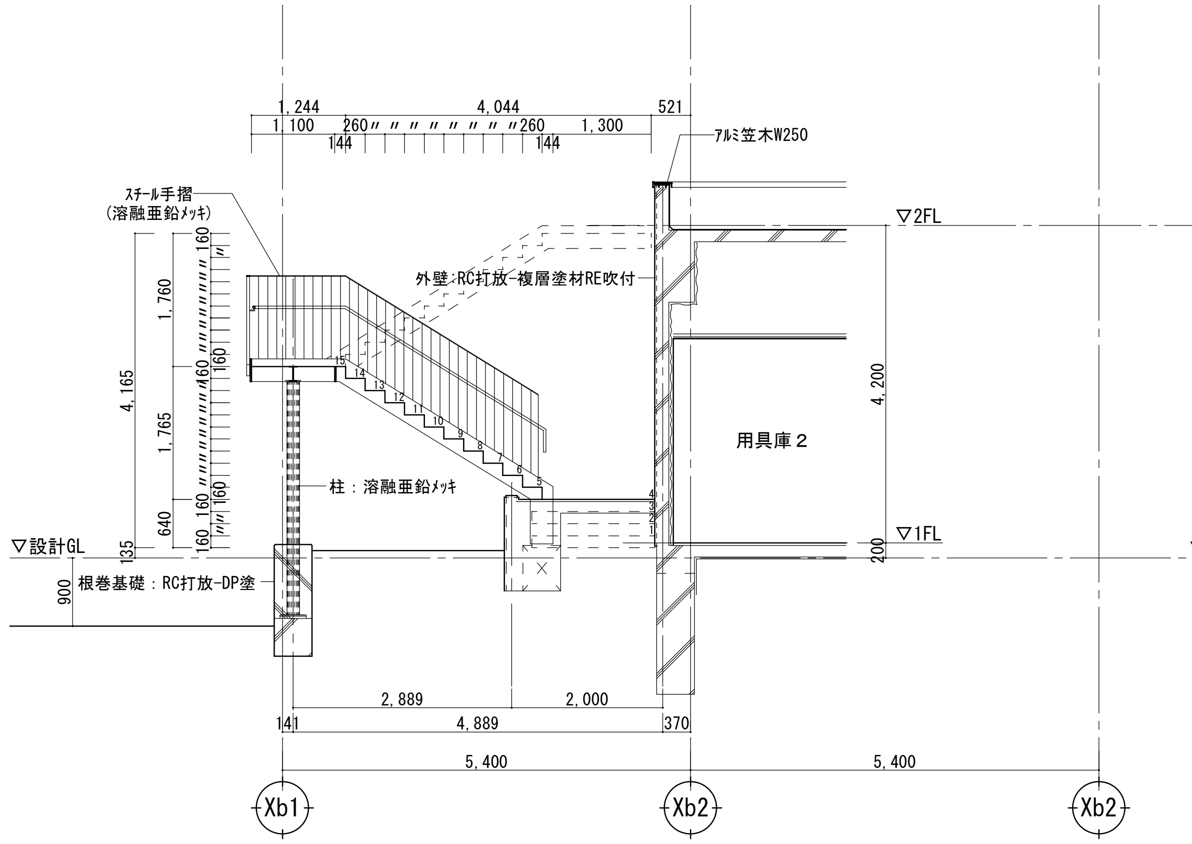
【１階平面詳細図】

【屋外階段　仕様】

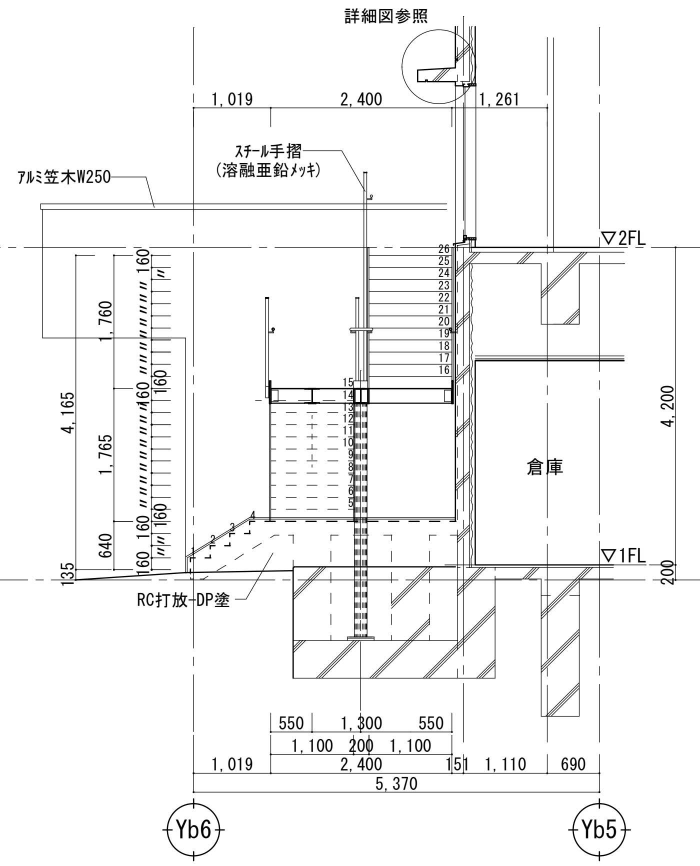
鉄部は全て溶融亜鉛メッキとする
階段踏板　：t6.0　Stチェッカープレート（水抜穴加工Φ30）
踊場踏板　：t6.0　Stチェッカープレート（同上、ｱﾝｸﾞﾙ止メ）
ササラ　　：スチールW300×t16　構造図参照
手摺子　　：スチールFB　38×9　@110(ササラ止@1200以下)
手摺笠木　：スチールFB　38×9
手摺下繋ぎ：スチールFB　38×9
手摺握り　：スチールΦ34
同上ﾌﾞﾗｹｯﾄ：スチールFB　12×9、9×9
各支持材　：構造図参照

庇（２階メインアリーナ避難出入口上部）

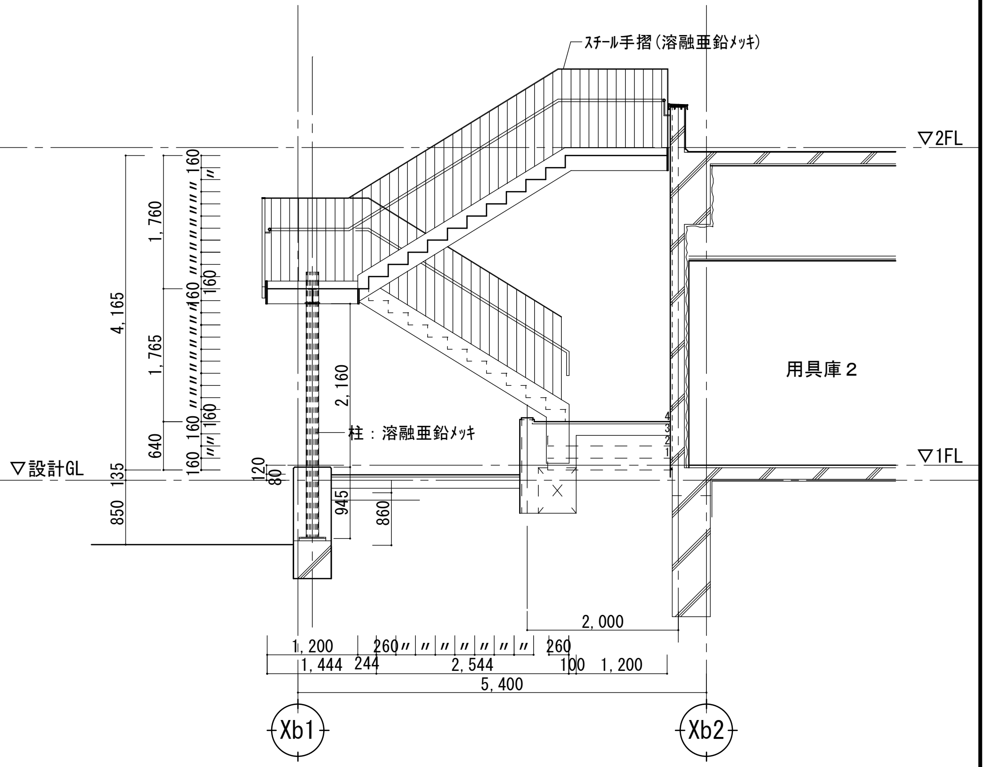




【A　断面詳細図】

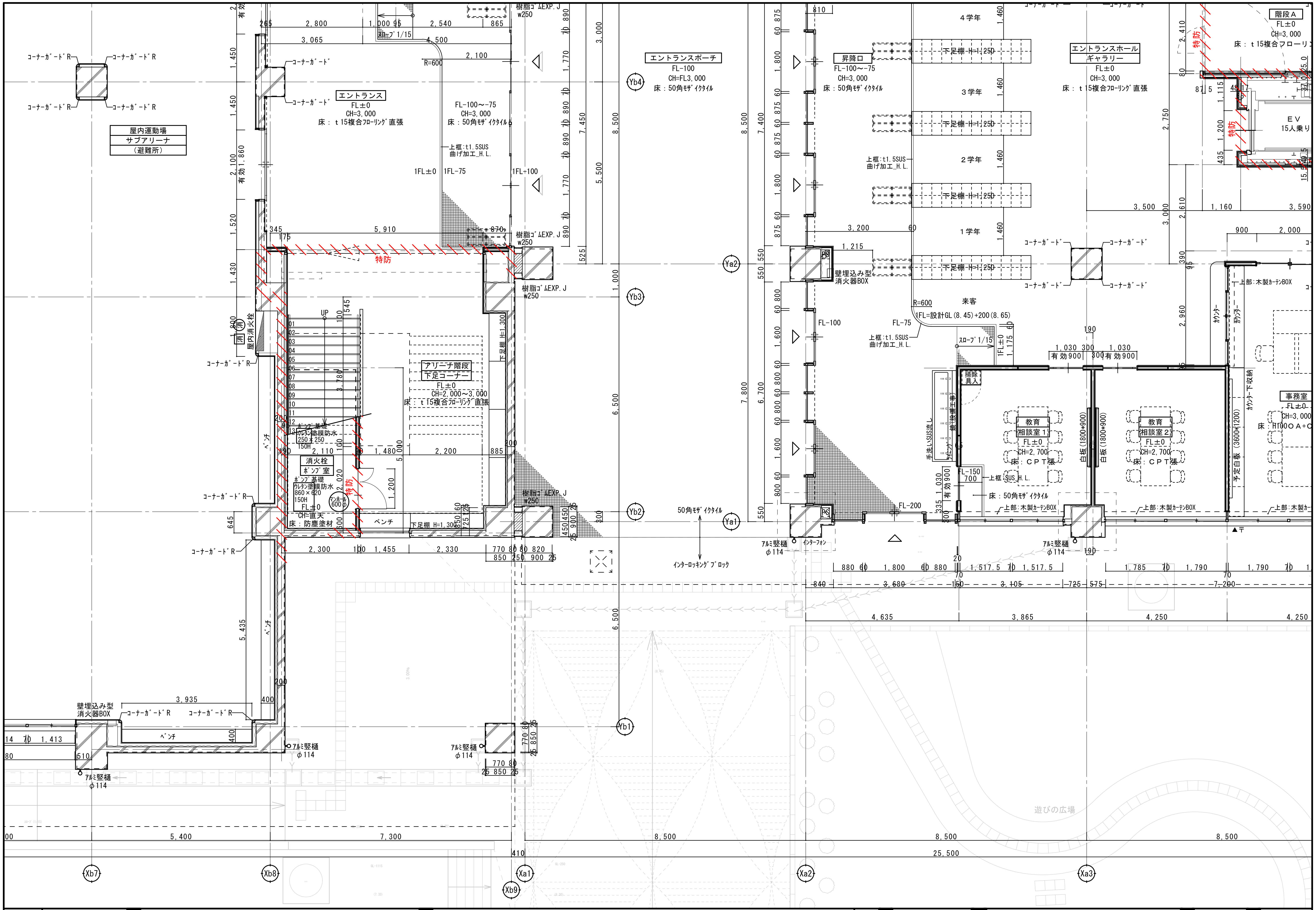


【B　断面詳細図】



【C　断面詳細図】

JOB NO. 125280
2026　年　月
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳
設計　・　・
標題　屋内運動場棟　屋外階段詳細図
縮尺　A1：1/ 50　A3：1/100
図番　B －c06



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

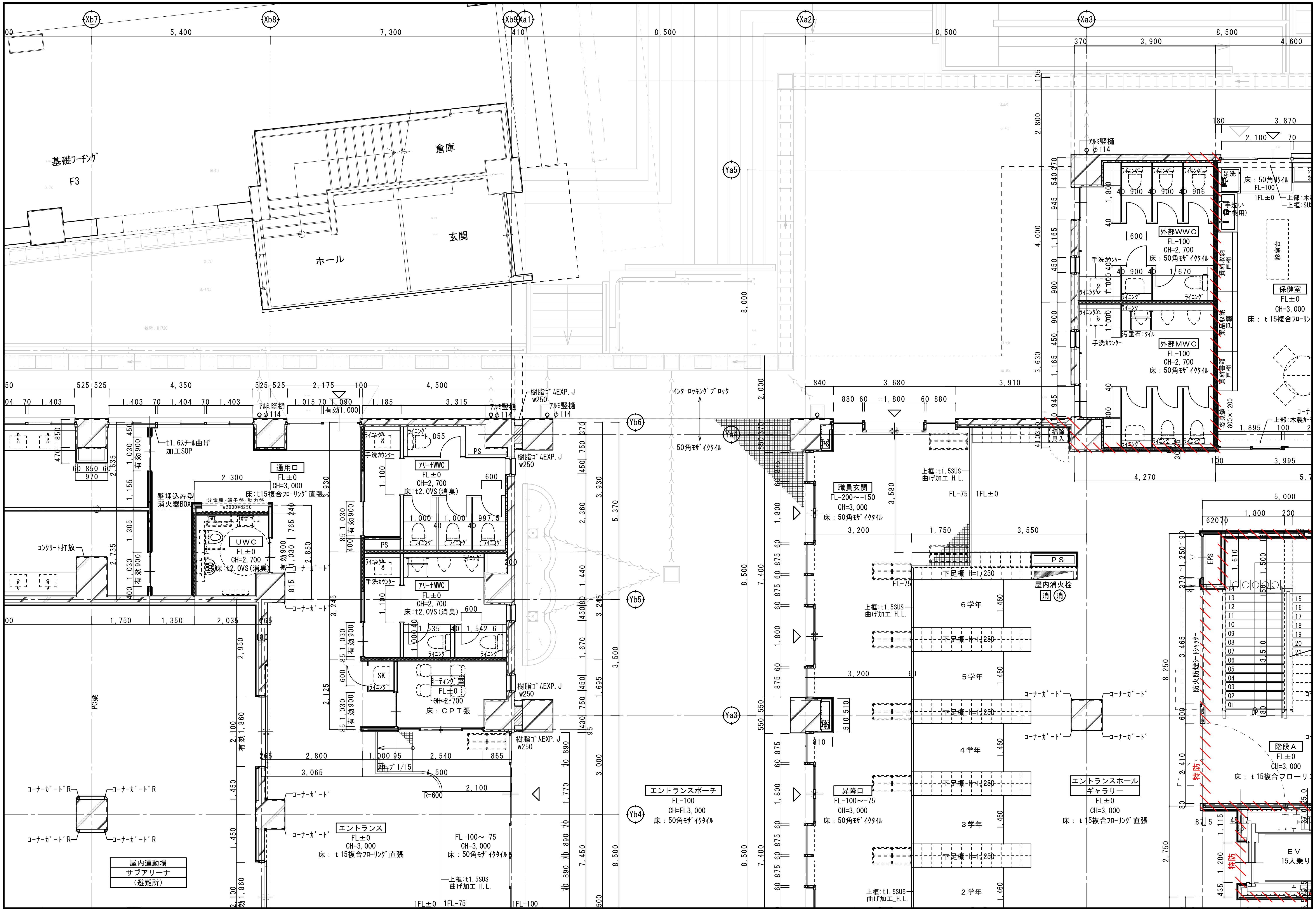
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

標題 1階平面詳細図 （1）

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

図番 A－c07 B－c07



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

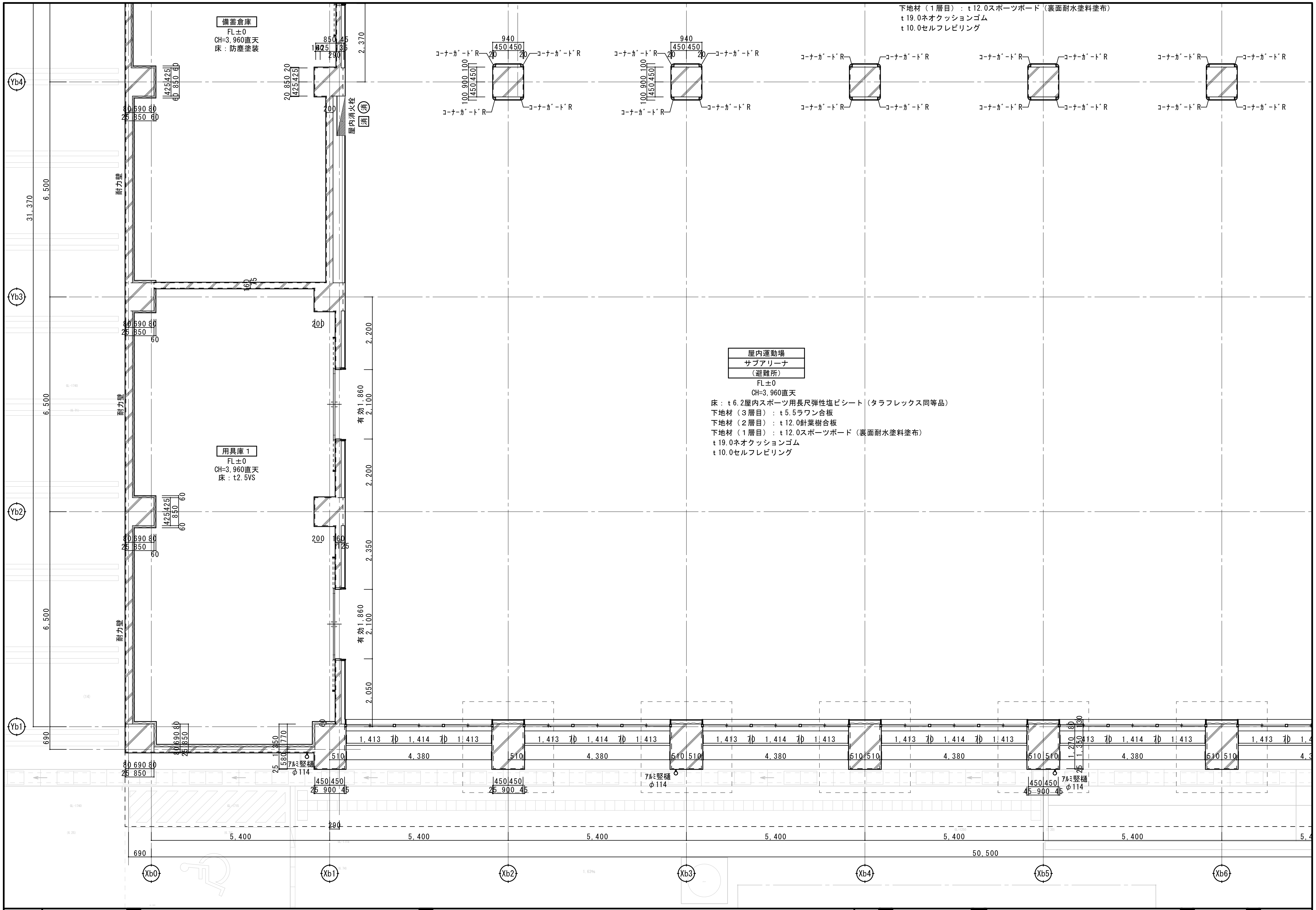
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

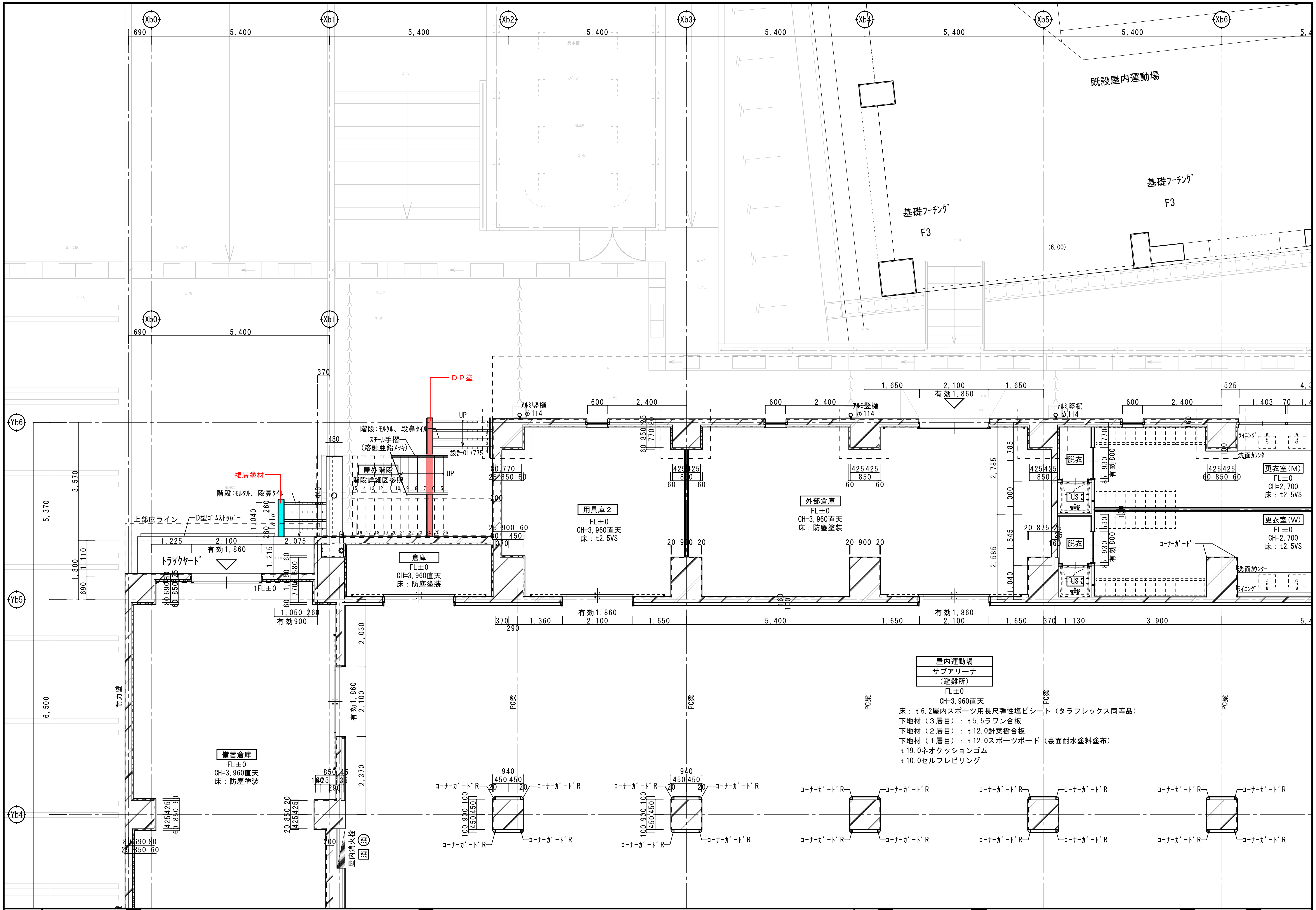
標題 1階平面詳細図 （2）

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

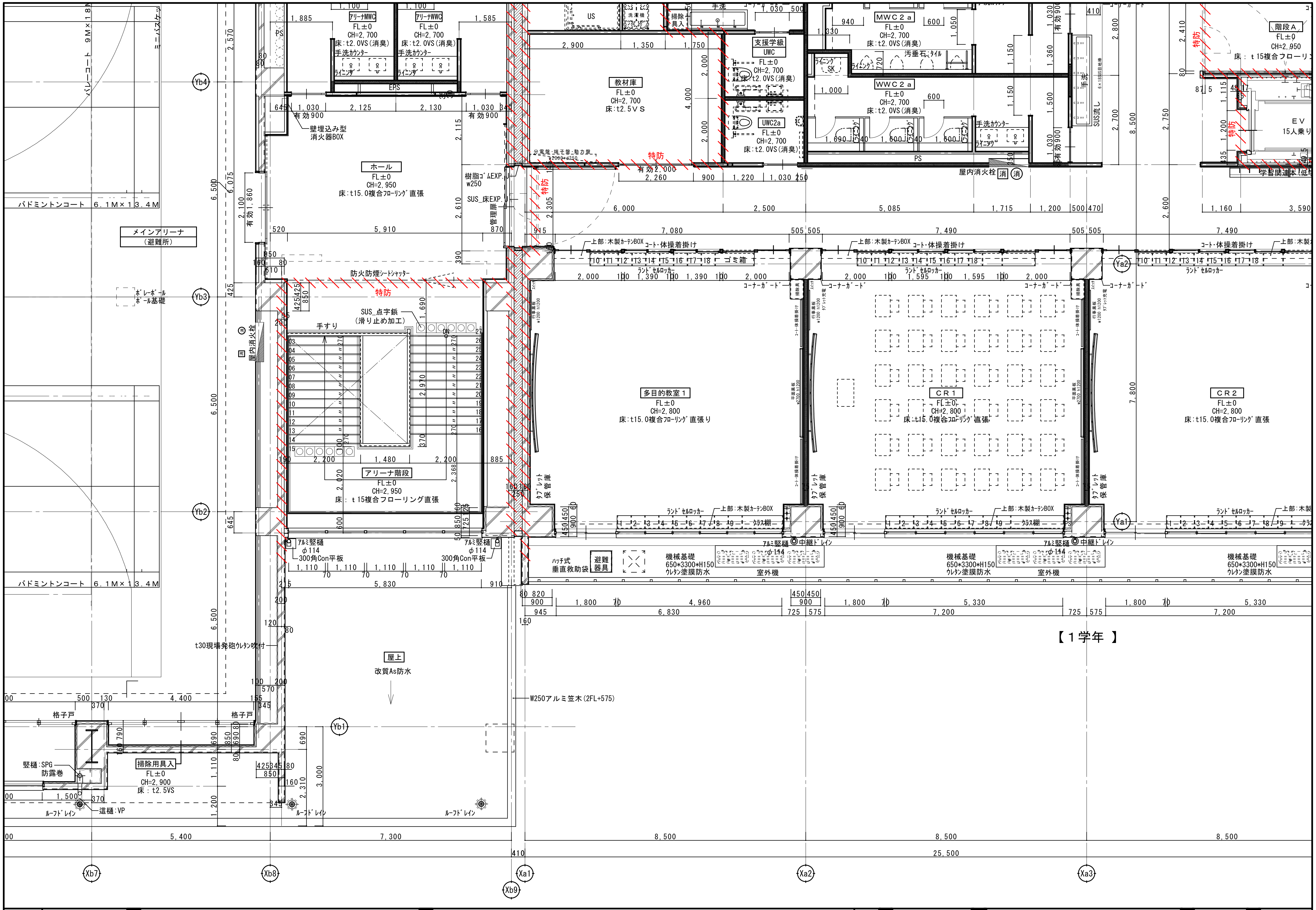
図番 A－c08 B－c08



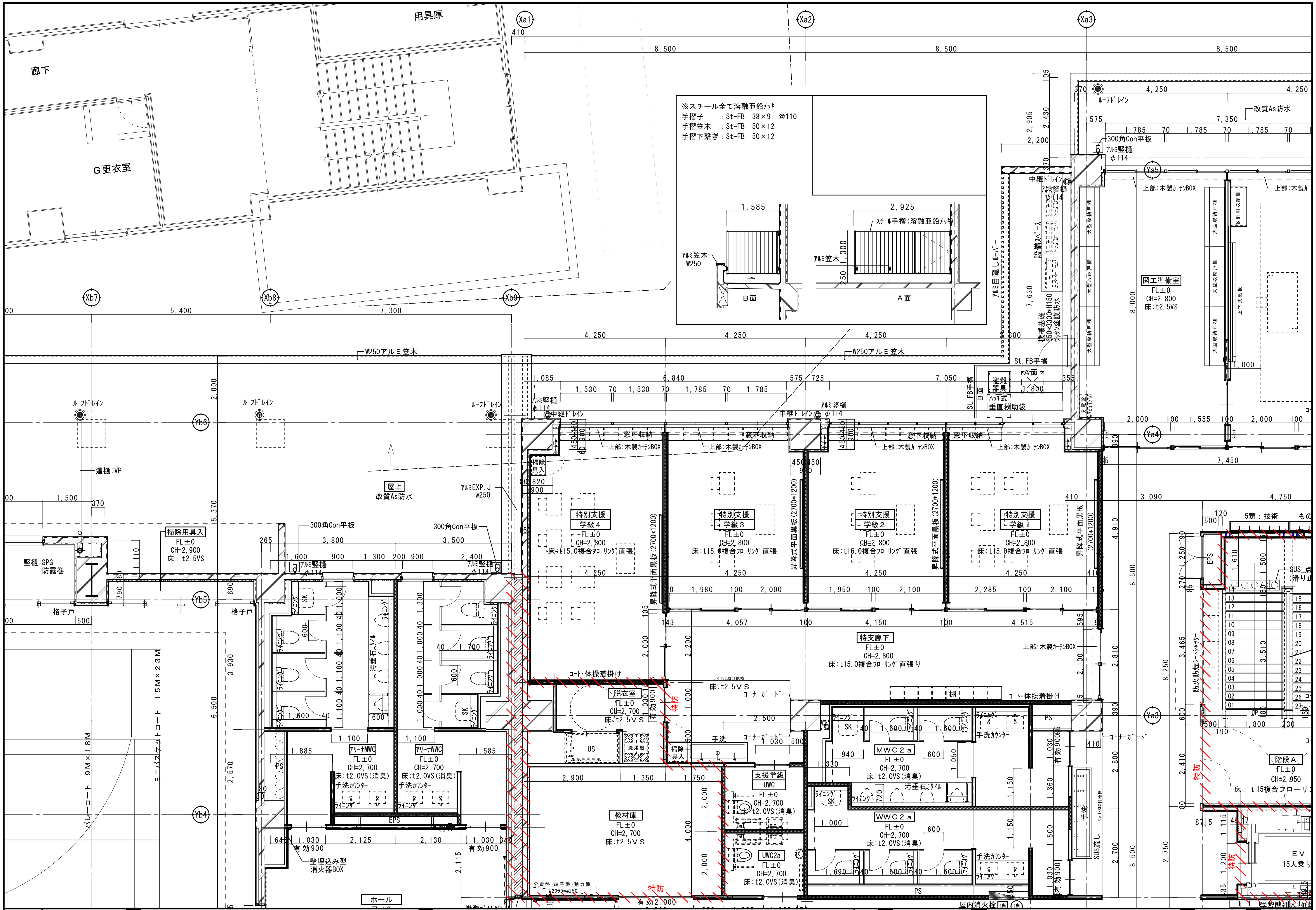
JOB NO.									
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	1階平面詳細図 （3）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	B－c09



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 1階平面詳細図 （4）	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図番 B－c10

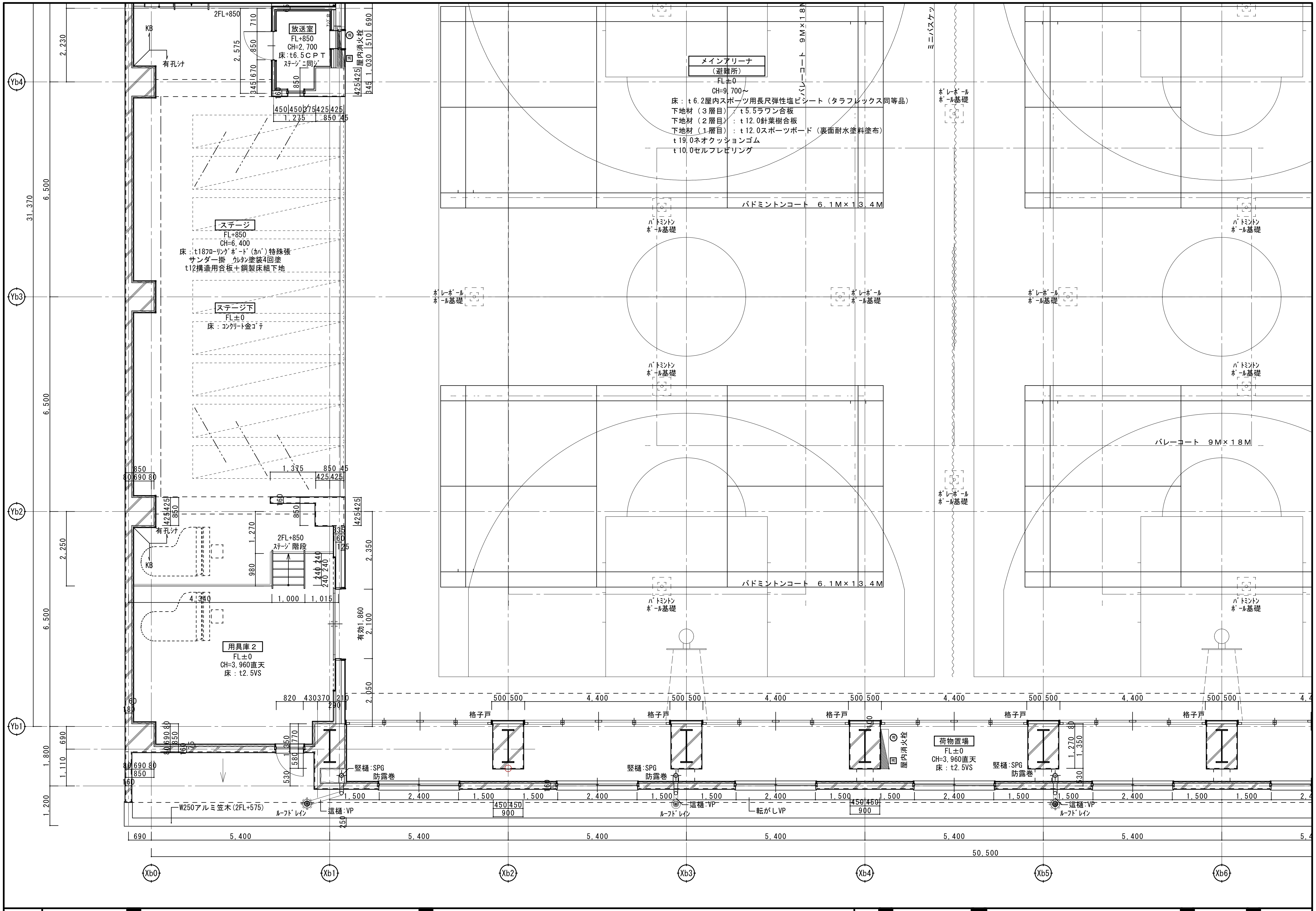


JOB NO.	2026 年 月	工事名	設計者	設計	標題	縮尺	図番
125280		中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	・ ・	２階平面詳細図 （１）	A1：1/50 A3：1/100	A－c11 B－c11

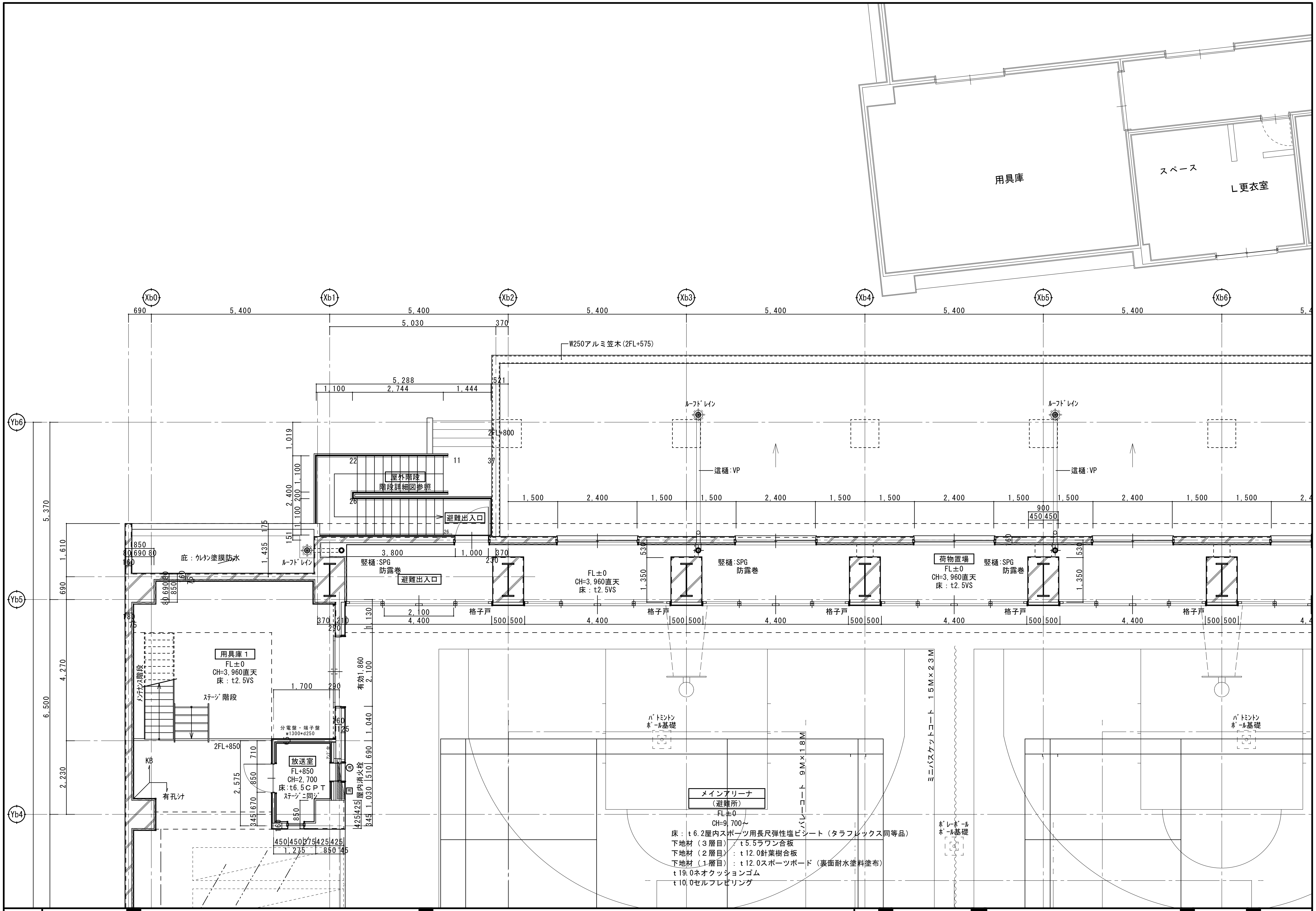


JOB NO.			
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

設計	・　・	標題	2階平面詳細図　（2）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	A－c12 B－c12



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 ２階平面詳細図 （３）	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図番 B－c13



JOB NO.
125280

2026 年 月

中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

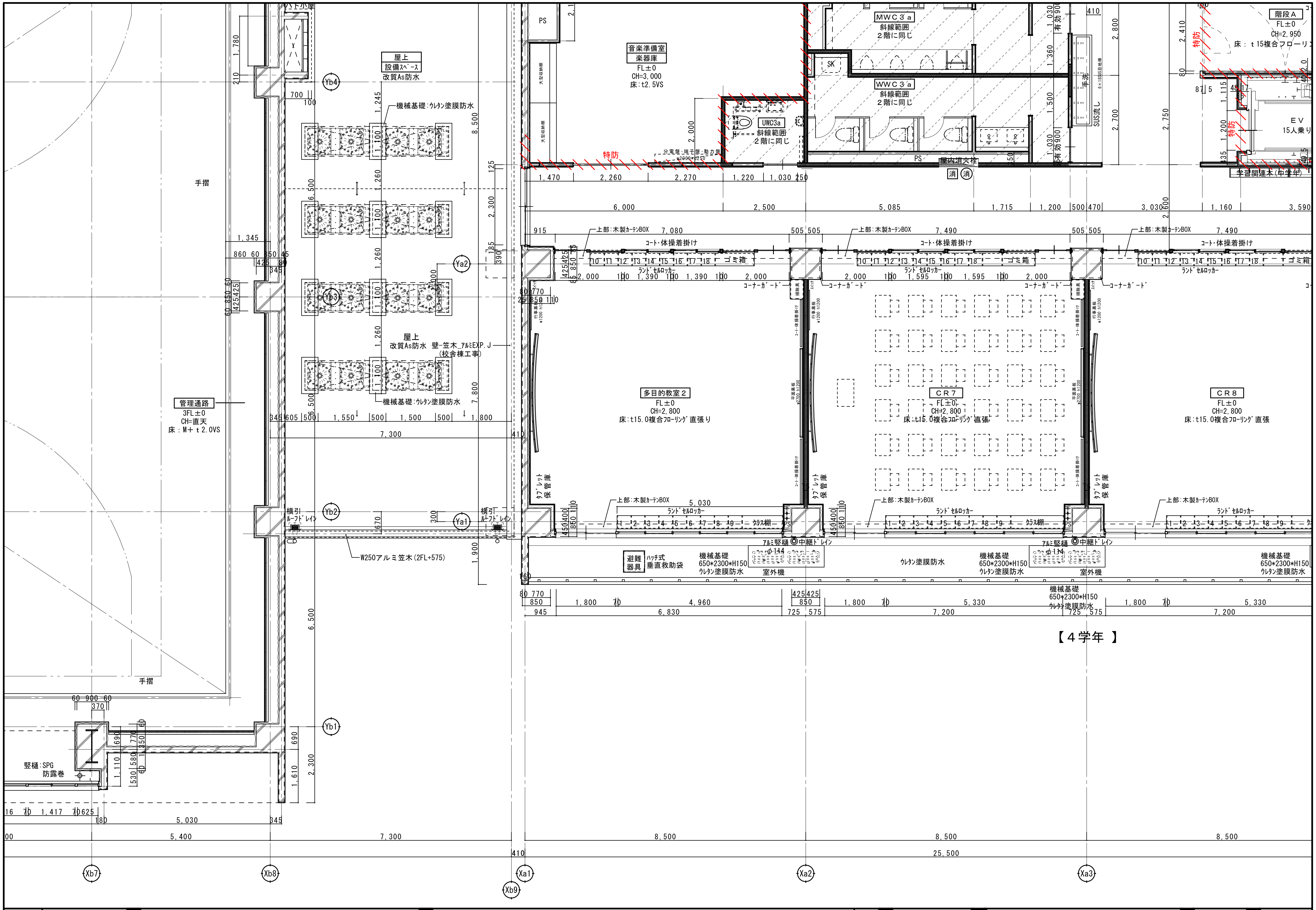
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳

設計 ・ ・

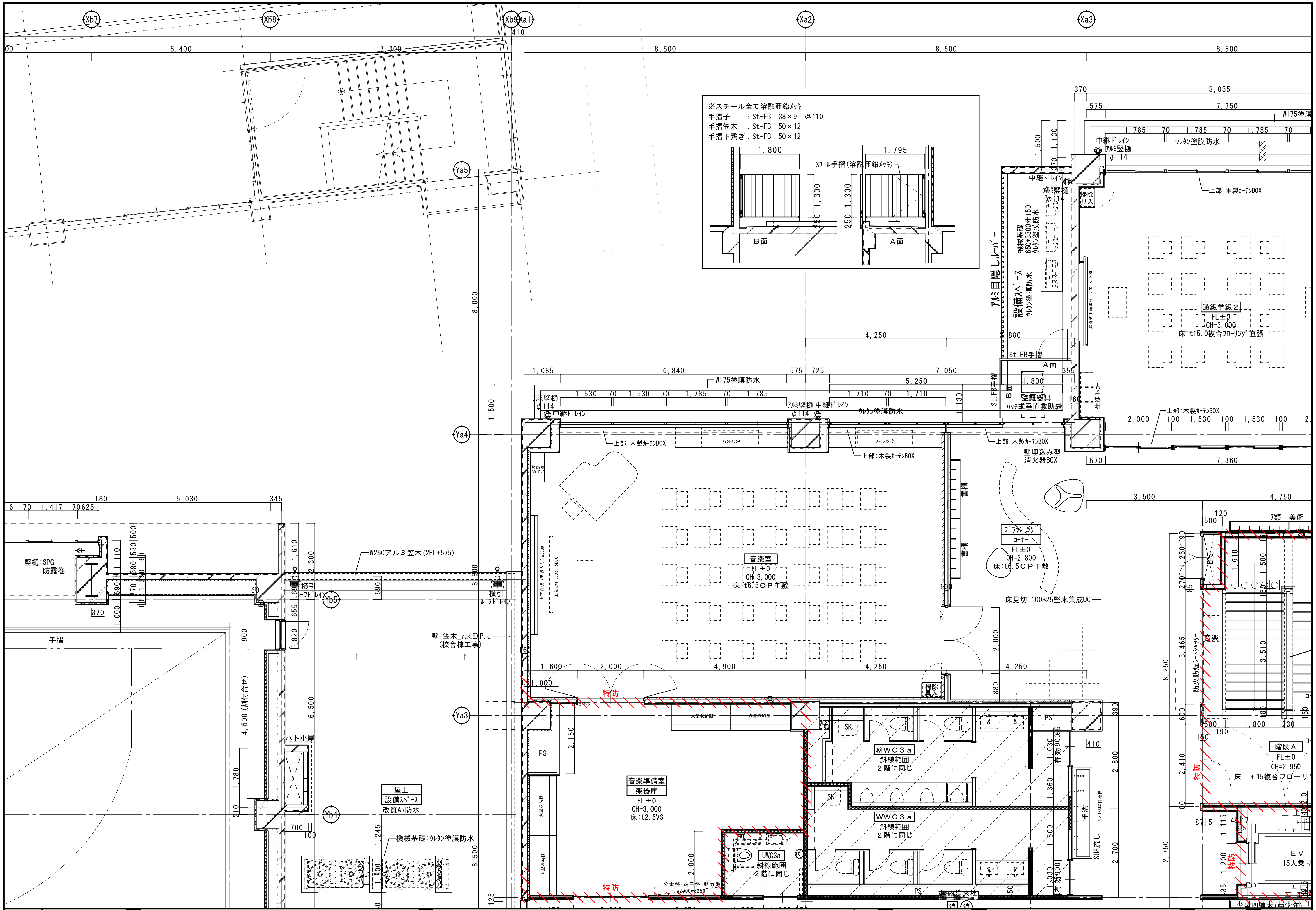
標題 2階平面詳細図 （4）

縮尺 A1：1/50 A3：1/100

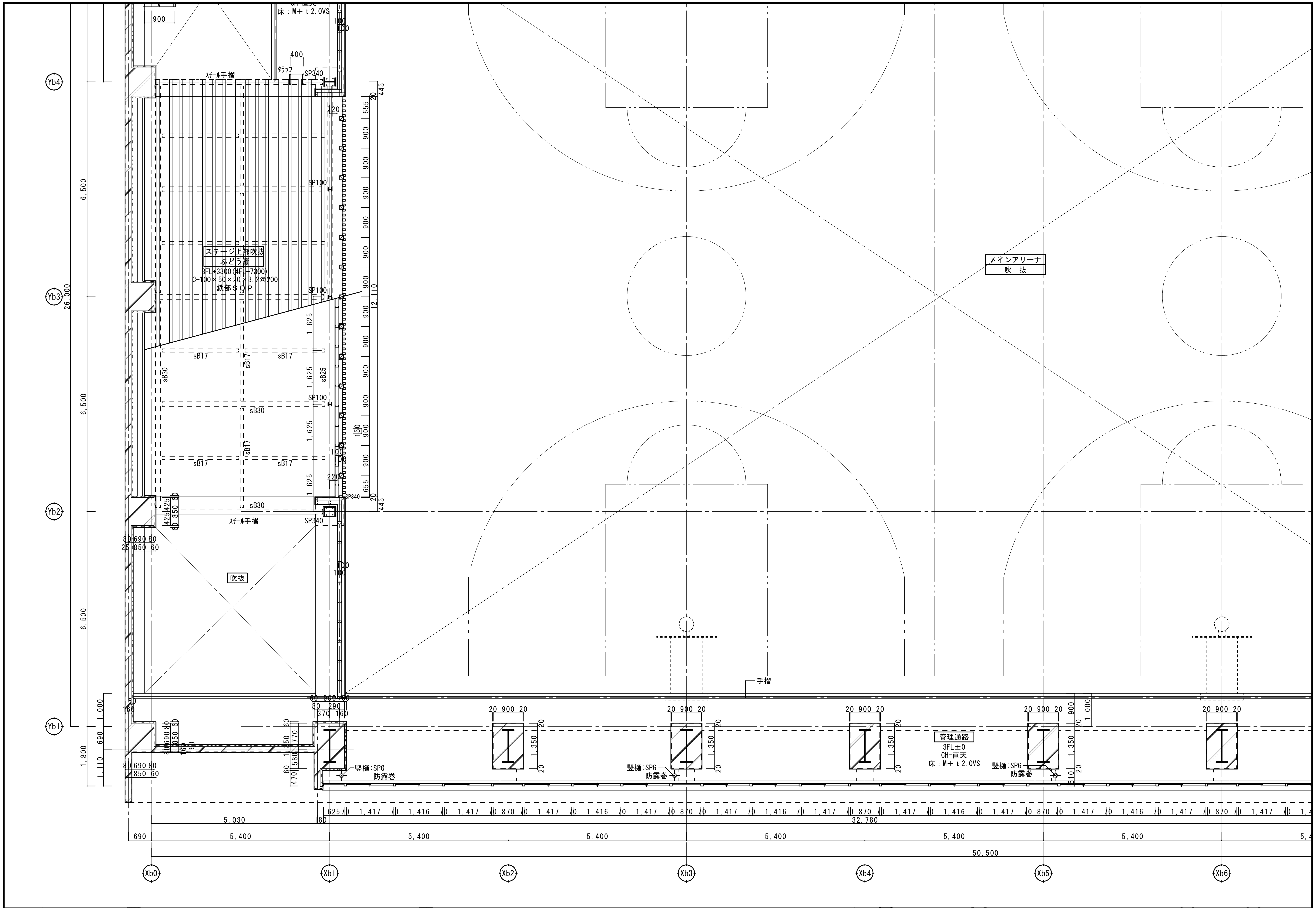
図番 B－c14



JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 3階平面詳細図 （1）	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図番 A－c15 B－c15

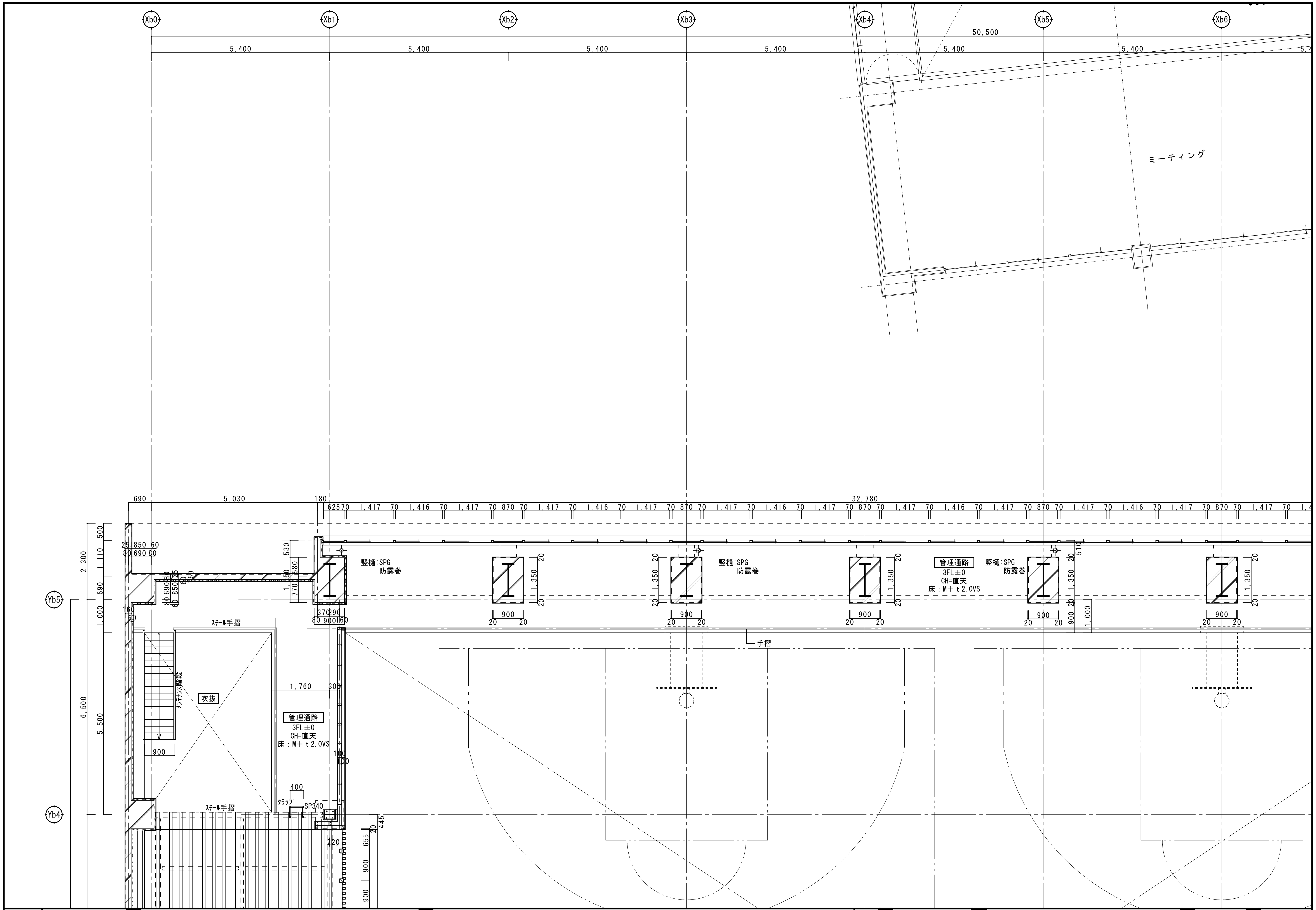


JOB NO.									
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	3階平面詳細図 （2）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	A －c16 B －c16

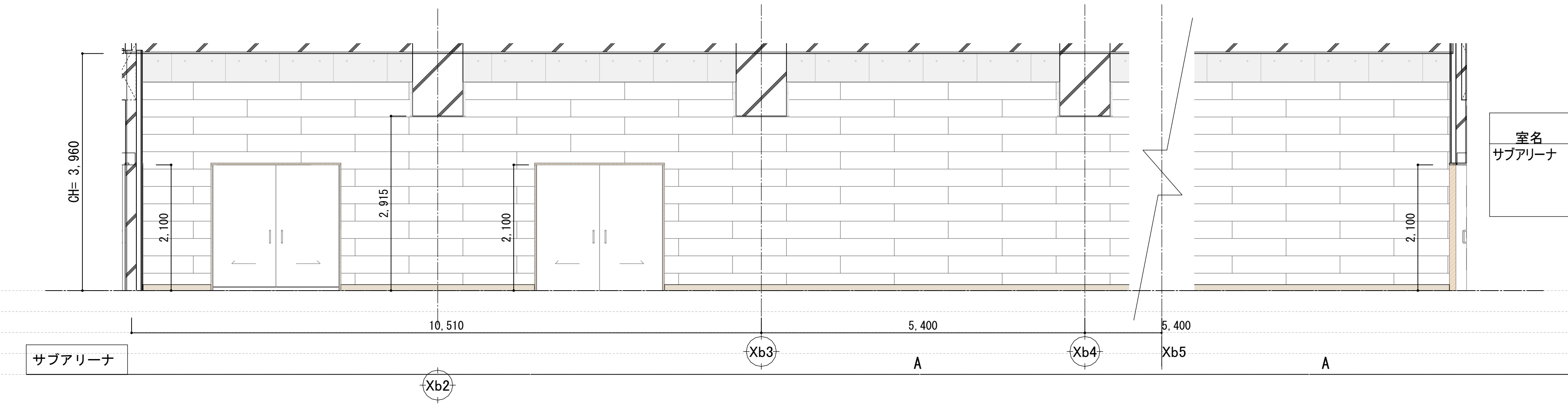


JOB NO.									
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	３階平面詳細図 （３）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100

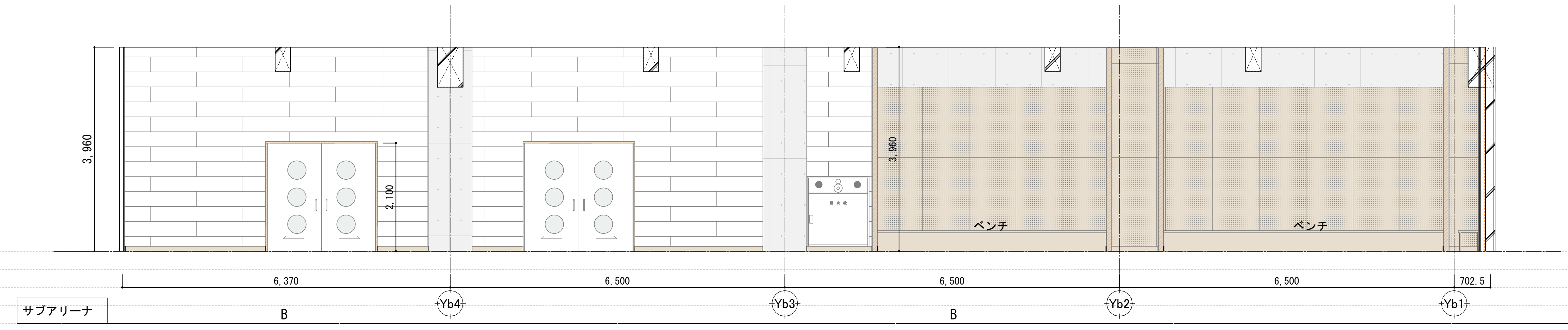
図番 B－c17

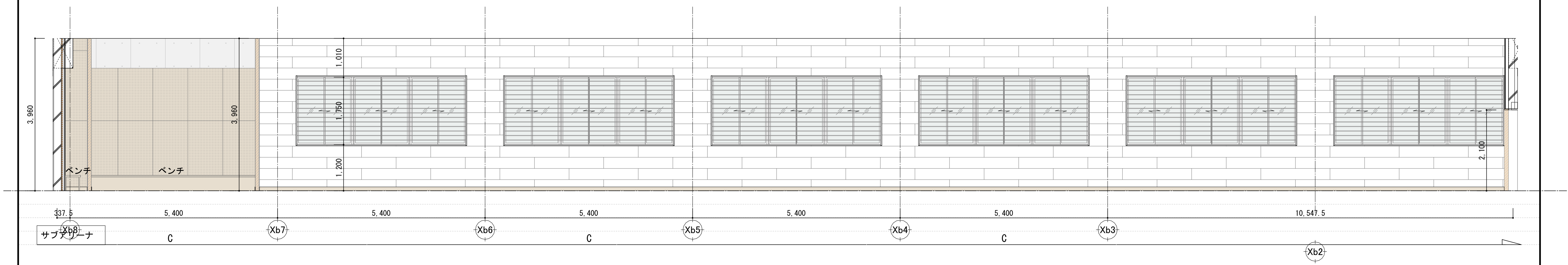


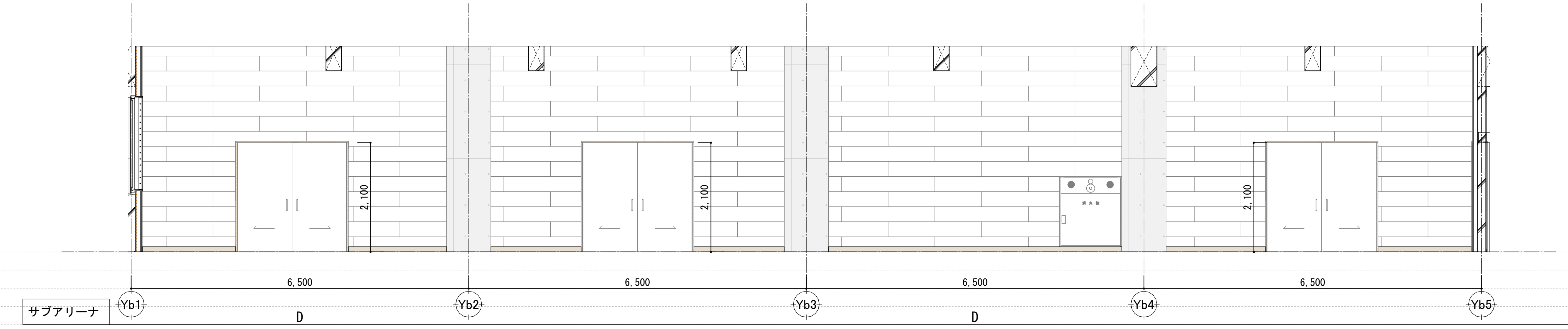
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	３階平面詳細図　（４）	縮尺	A1：1/50 A3：1/100	図番	A－c18



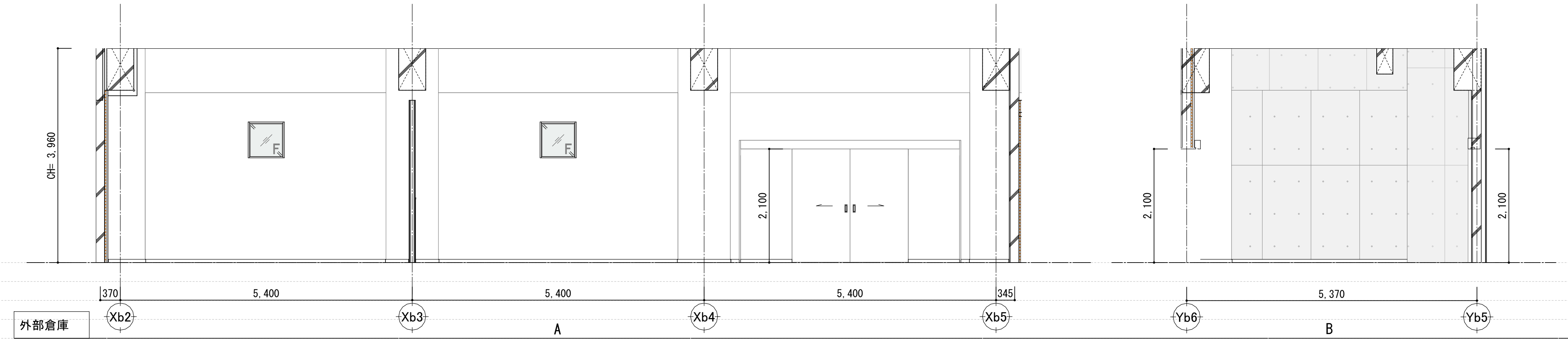
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
サブアリーナ	t6.2屋内ｽﾎﾟｰﾂ用長尺弾性塩ﾋﾞｼｰﾄ(ﾀﾗﾌﾚｯｸｽ同等品) 下地材(3層目):t5.5ラワン合板 下地材(2層目):t12.0針葉樹合板 下地材(1層目):t12.0ｽﾎﾟｰﾂボード(裏面耐水塗料塗布) t19.0ネオクッションゴム	WF+WP	100	t15天然木化粧板 (タモ柾目) 有孔パネル+グラスウール(24kg/㎥)	t25不燃 木毛セメント板	3960 梁下2915

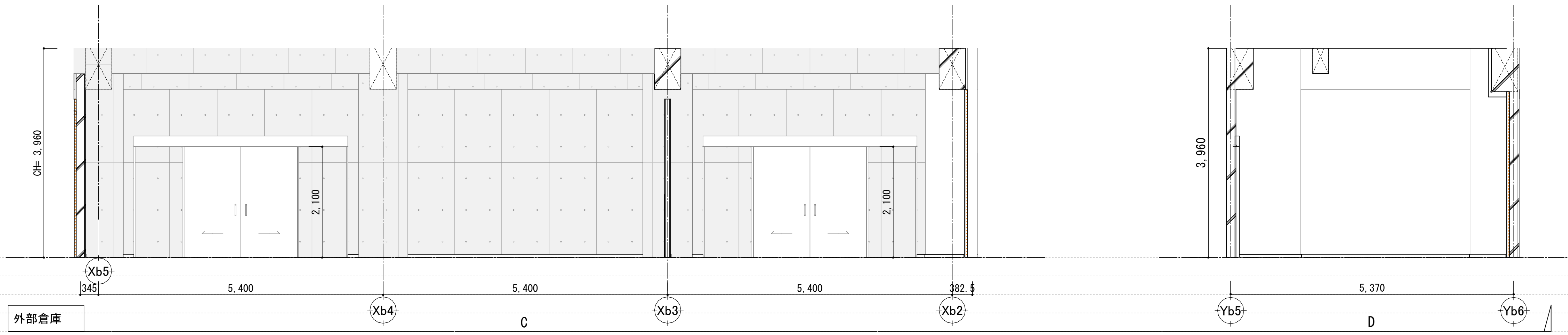


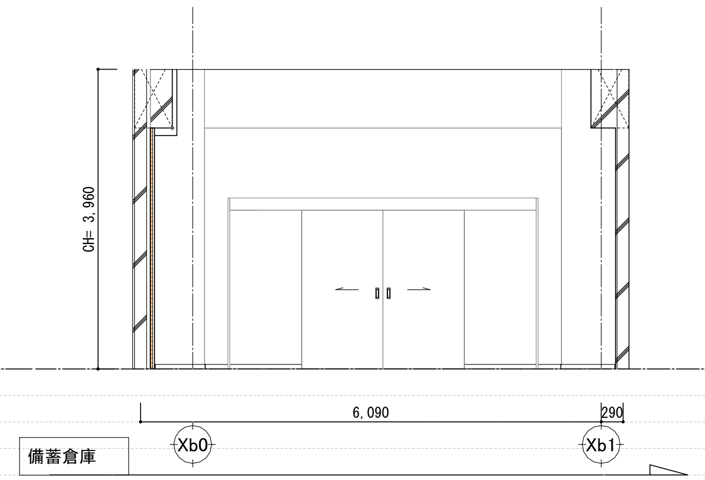


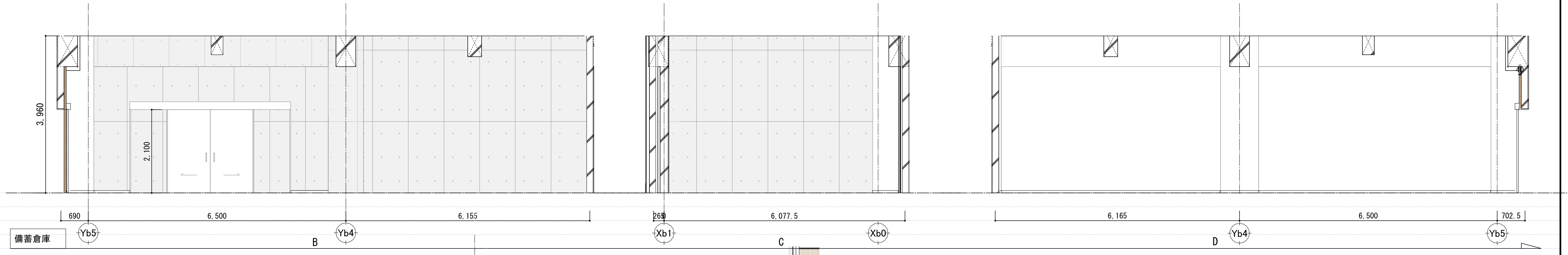


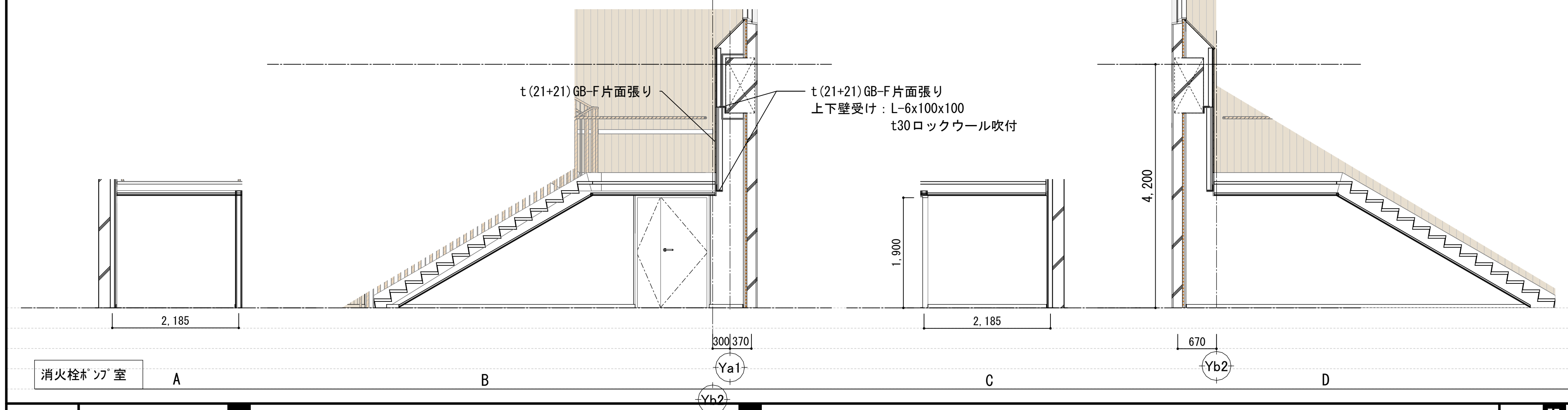
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟　展開図 1	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2
								図番	B-d01





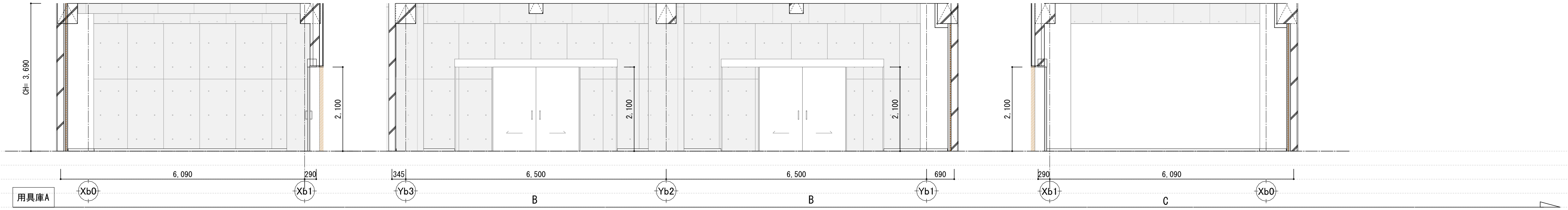


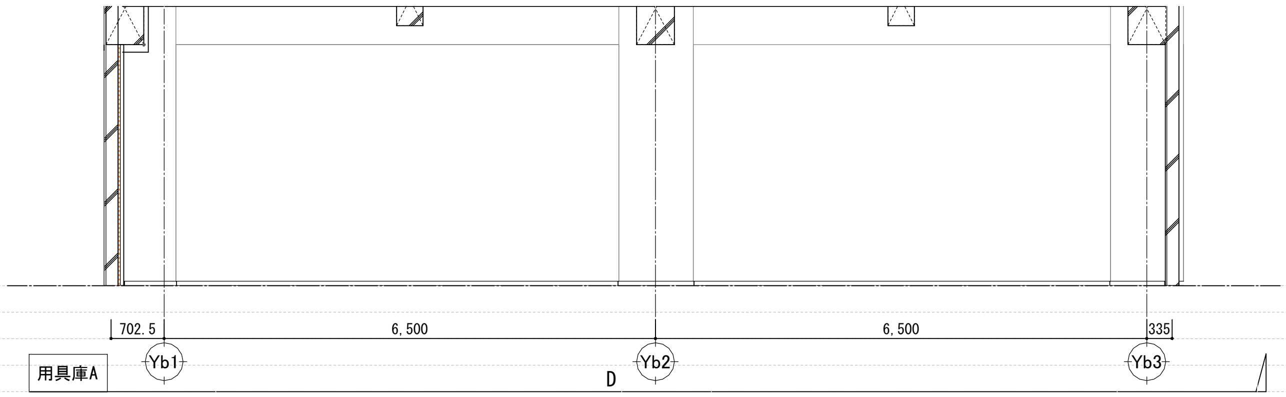


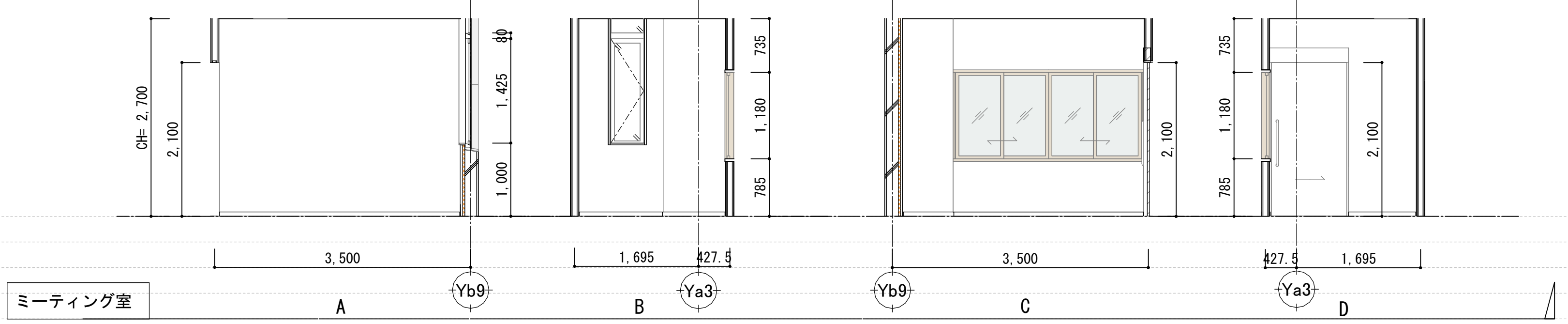


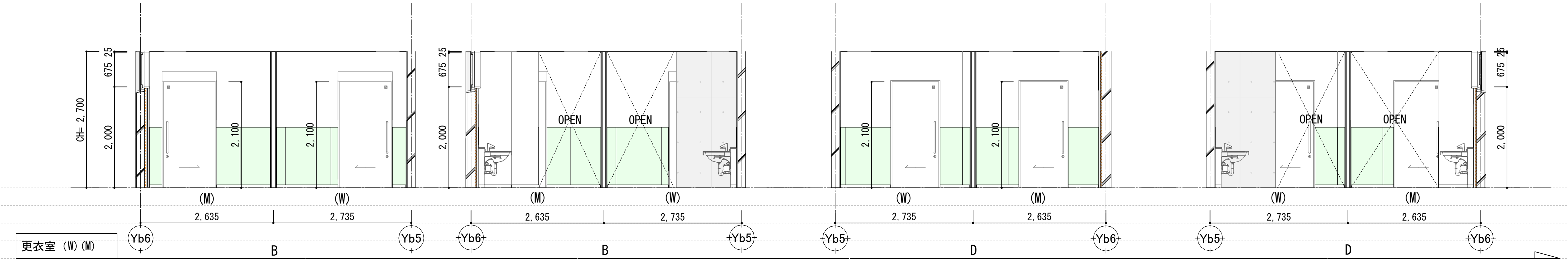
室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
消火栓ポンプ室	防塵塗装	VF	60	GEP塗 （不燃）	鉄骨階段裏+t30ロックウール吹付	図示
備蓄倉庫	防塵塗装	VF	60	コンクリート打放 t6.0KB+GEP塗 （不燃）	t25不燃 木毛セメント板	3960 梁下3015
外部倉庫・備蓄倉庫	防塵塗装	VF	60	コンクリート打放 t6.0KB+GEP塗 （不燃）	t25不燃 木毛セメント板	3960 梁下3015

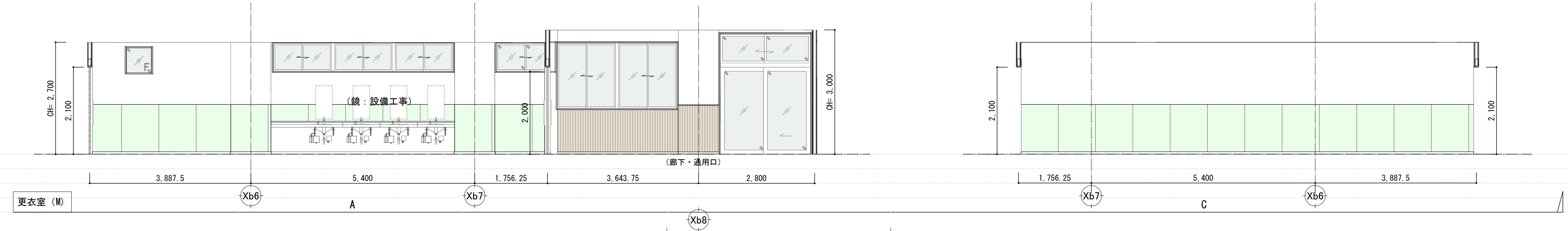
JOB NO. 125280	2026 年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	屋内運動場棟　展開図２	縮尺	A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番	B-d02

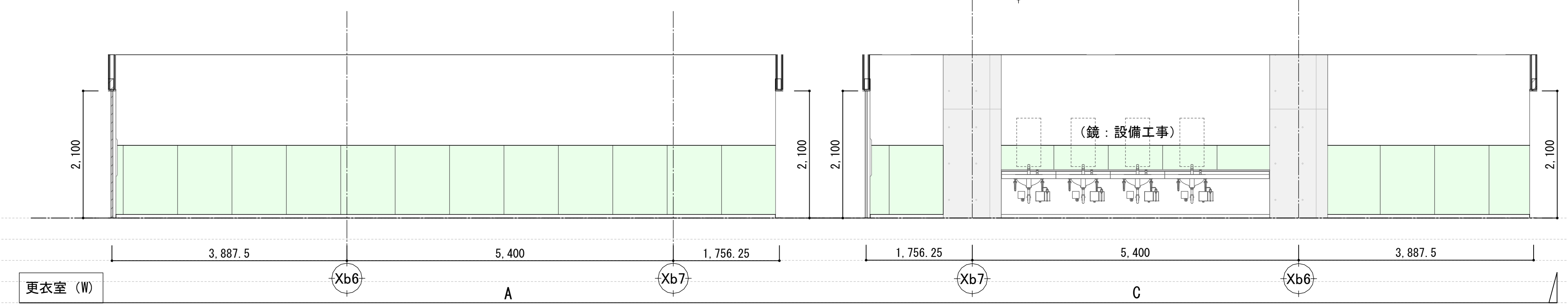












室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
用具庫1・2	t2.5塩ビシート	VF	60	コンクリート打放 t6.0KB+GEP塗	t25不燃 木毛セメント板	
更衣室(M)(W)・脱衣室	t2.5塩ビシート	VF	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：化粧ケイカル板（不燃）	t9.5GB−NC+ t9.0岩綿吸音板	2700
ミーティング室	t6.5カーペットタイル	VF	60	クロス張り（不燃）	t9.5GB−NC+ t9.0岩綿吸音板	2700

JOB NO.
125280

2026 年　月

中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳

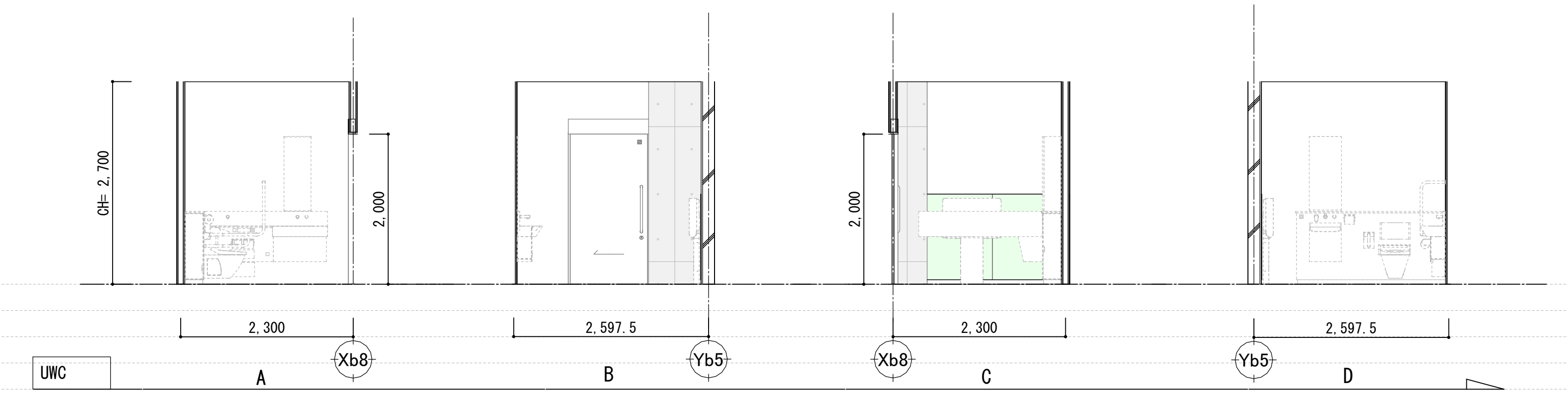
設計　・　・

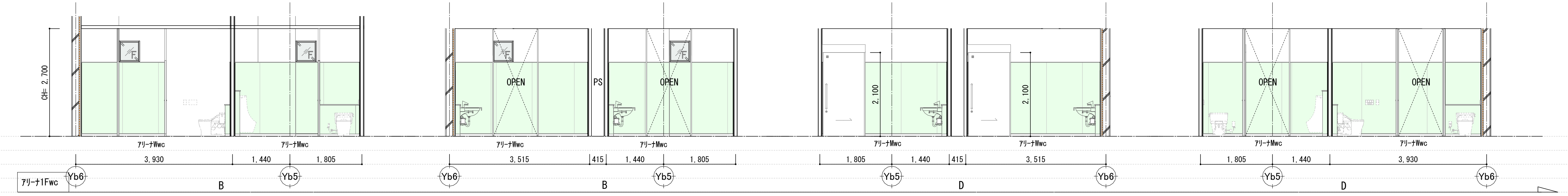
標題　屋内運動場棟　展開図３

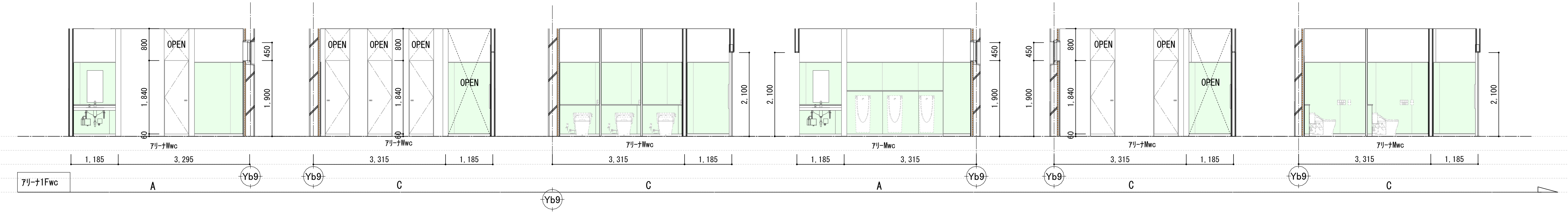
縮尺　A1= 1 : 50　A3:A1 = 1:2

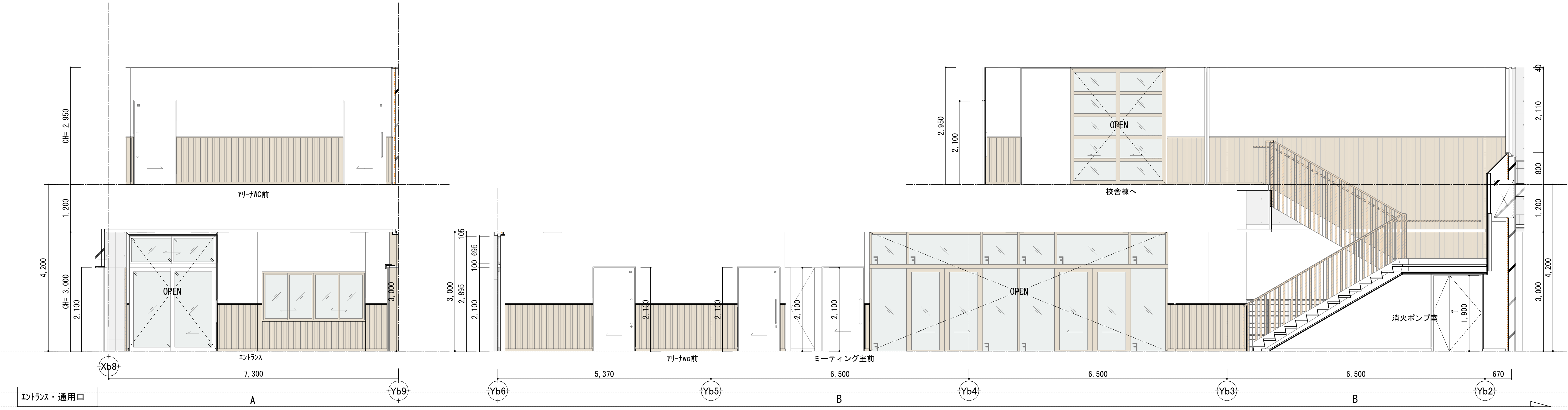
図番　B-d03

室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
アリーナWC(M)(W)	t2.0長尺塩ビシート（消臭） 汚垂石(TOTOハイドロセラ・フロアPU薄型同等品)	VF	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：化粧ケイカル板	t9.5GB−NC+ t9.0岩綿吸音板	2700
UWC	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：クロス張り（不燃） 腰壁：化粧ケイカル板（不燃）	t9.5GB−NC+ t9.0岩綿吸音板	2700
通用口	t15.0複合フローリング 直張り	WF+WP	60	上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB−NC+ t9.0岩綿吸音板	3000
エントランス	50角モザイクタイル t15.0複合フローリング 直張り	50角 モザイクタイル	150	コンクリート打ち放し 上壁：t5.5合板+掲示クロス張り 腰壁：t12.0能登ヒバ羽板張り+WP	t9.5GB−NC+ t9.0岩綿吸音板	3000



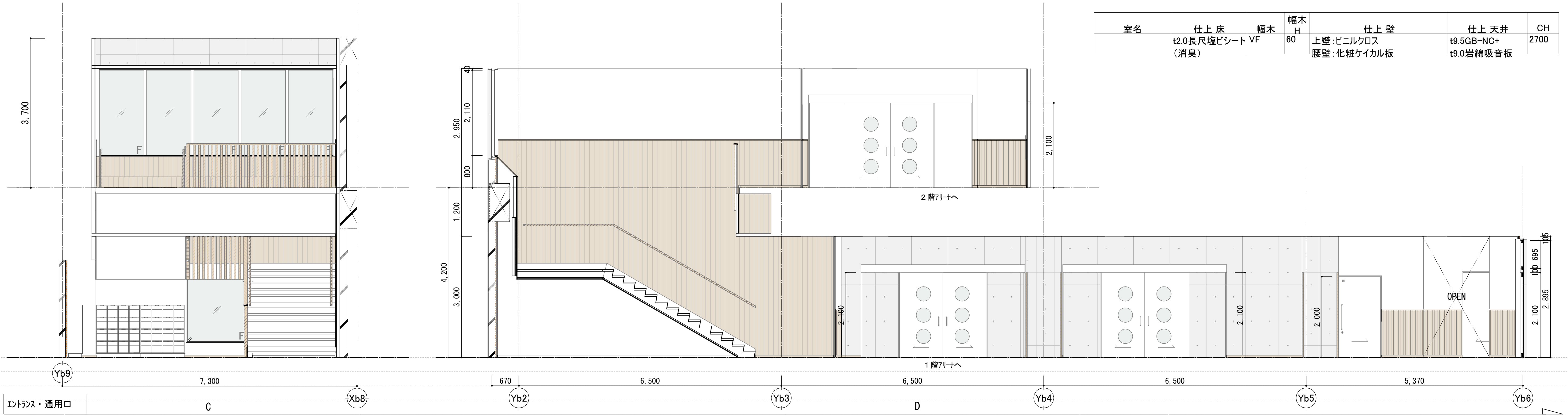


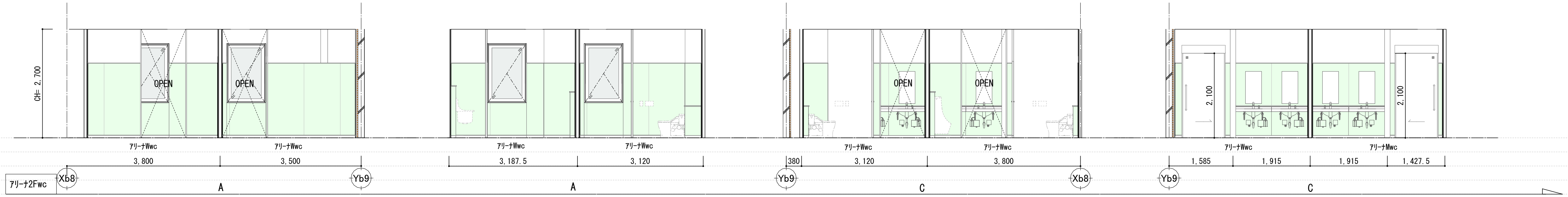


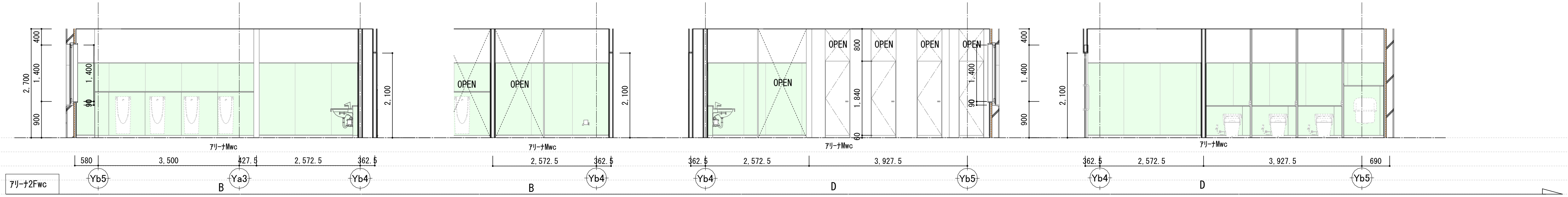


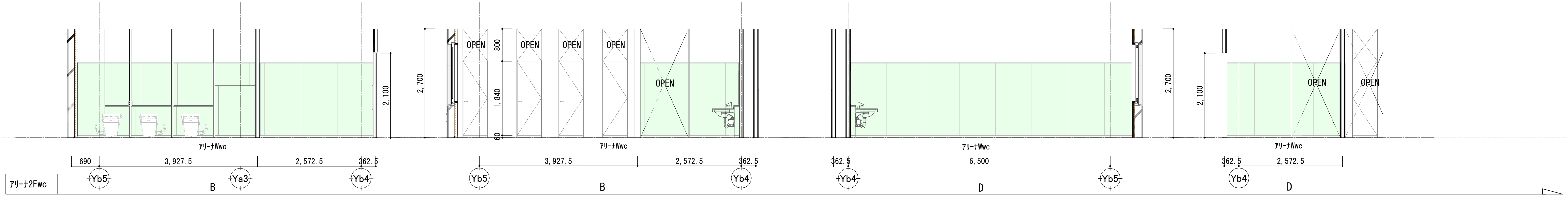
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 屋内運動場棟 展開図４	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 B-d04

室名	仕上 床	幅木	幅木H	仕上 壁	仕上 天井	CH
	t2.0長尺塩ビシート（消臭）	VF	60	上壁：ビニルクロス 腰壁：化粧ケイカル板	t9.5GB-NC+ t9.0岩綿吸音板	2700

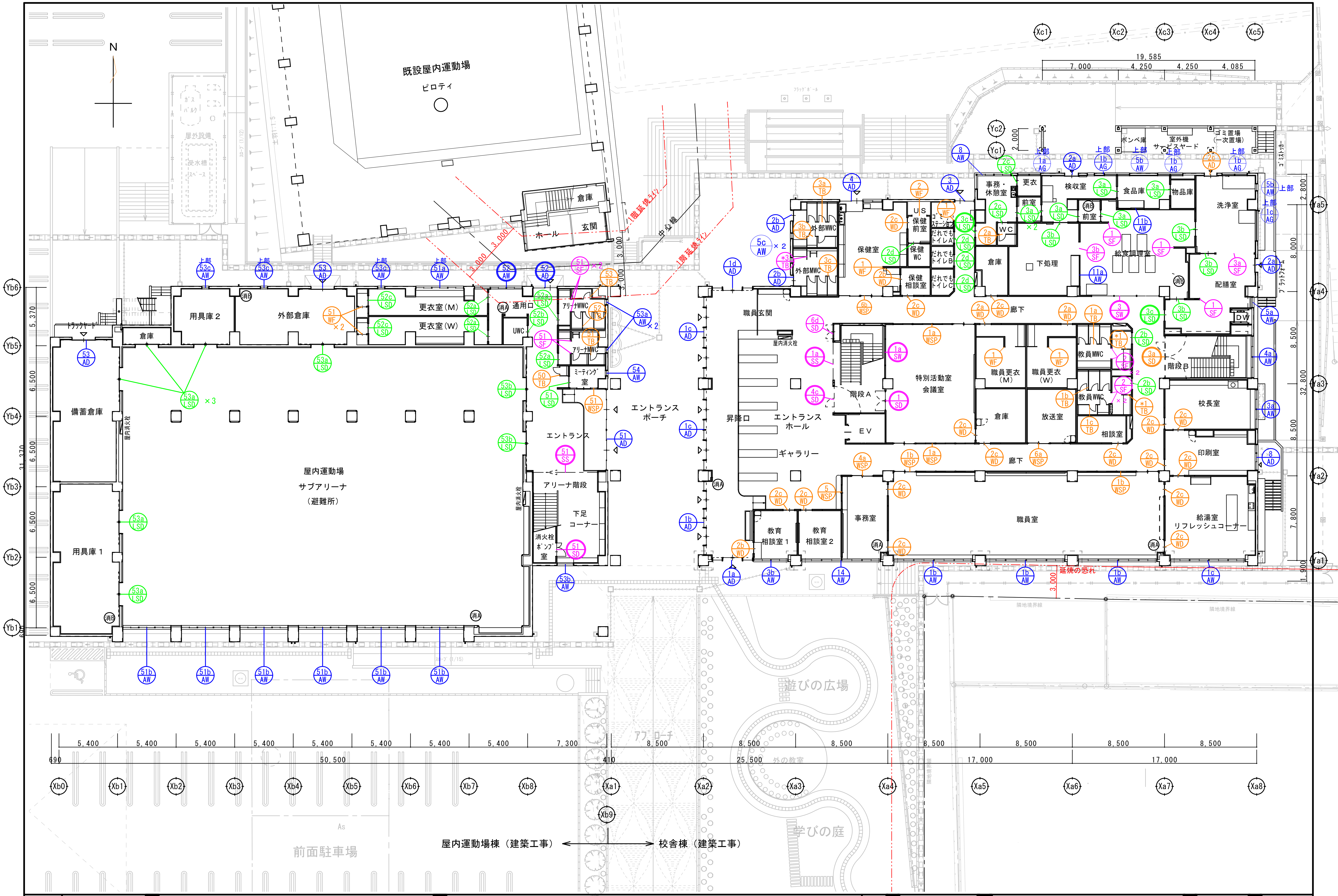




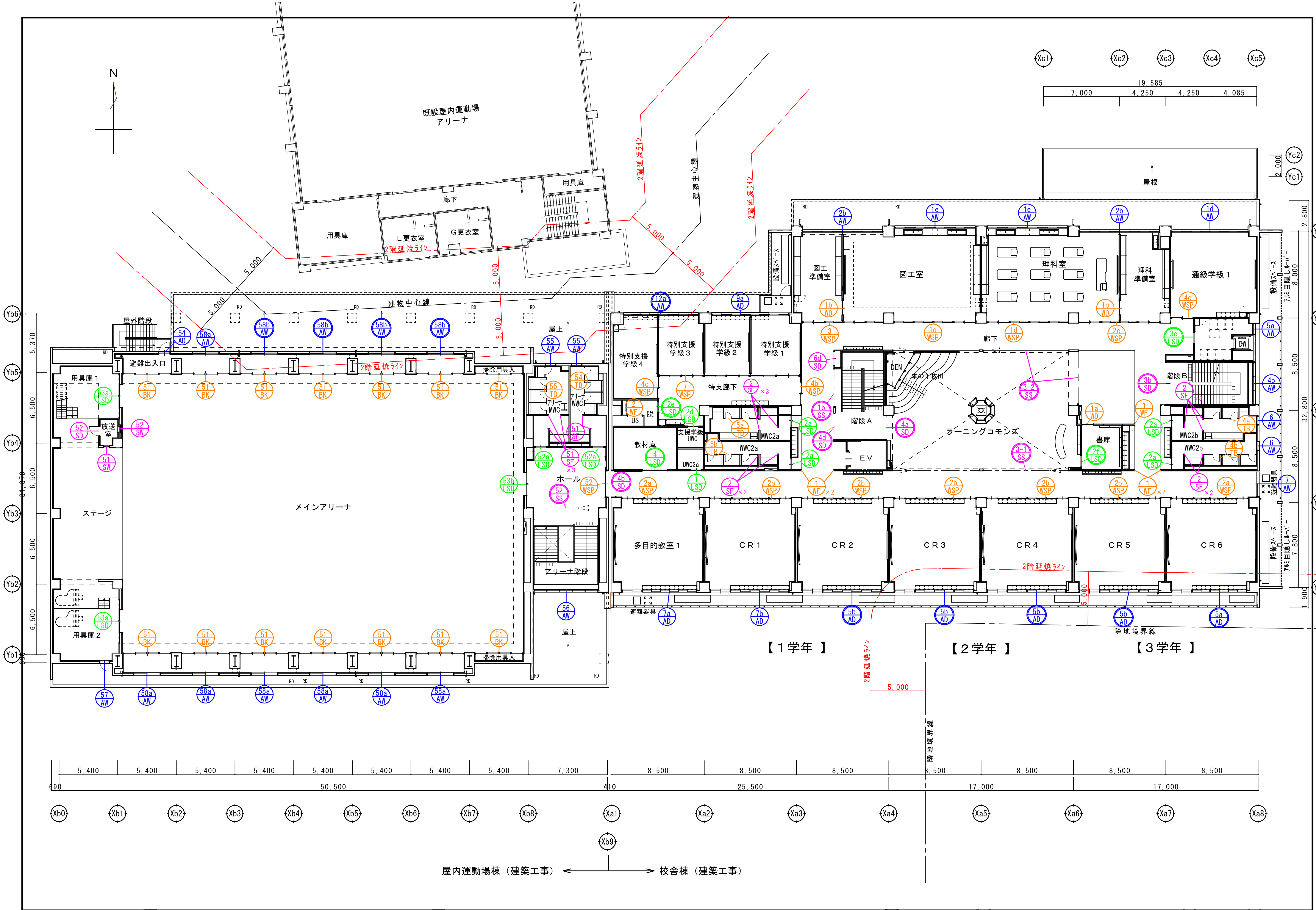




JOB NO.									
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	屋内運動場棟 展開図５	縮尺 A1= 1 : 50 A3:A1 = 1:2	図番 B-d05

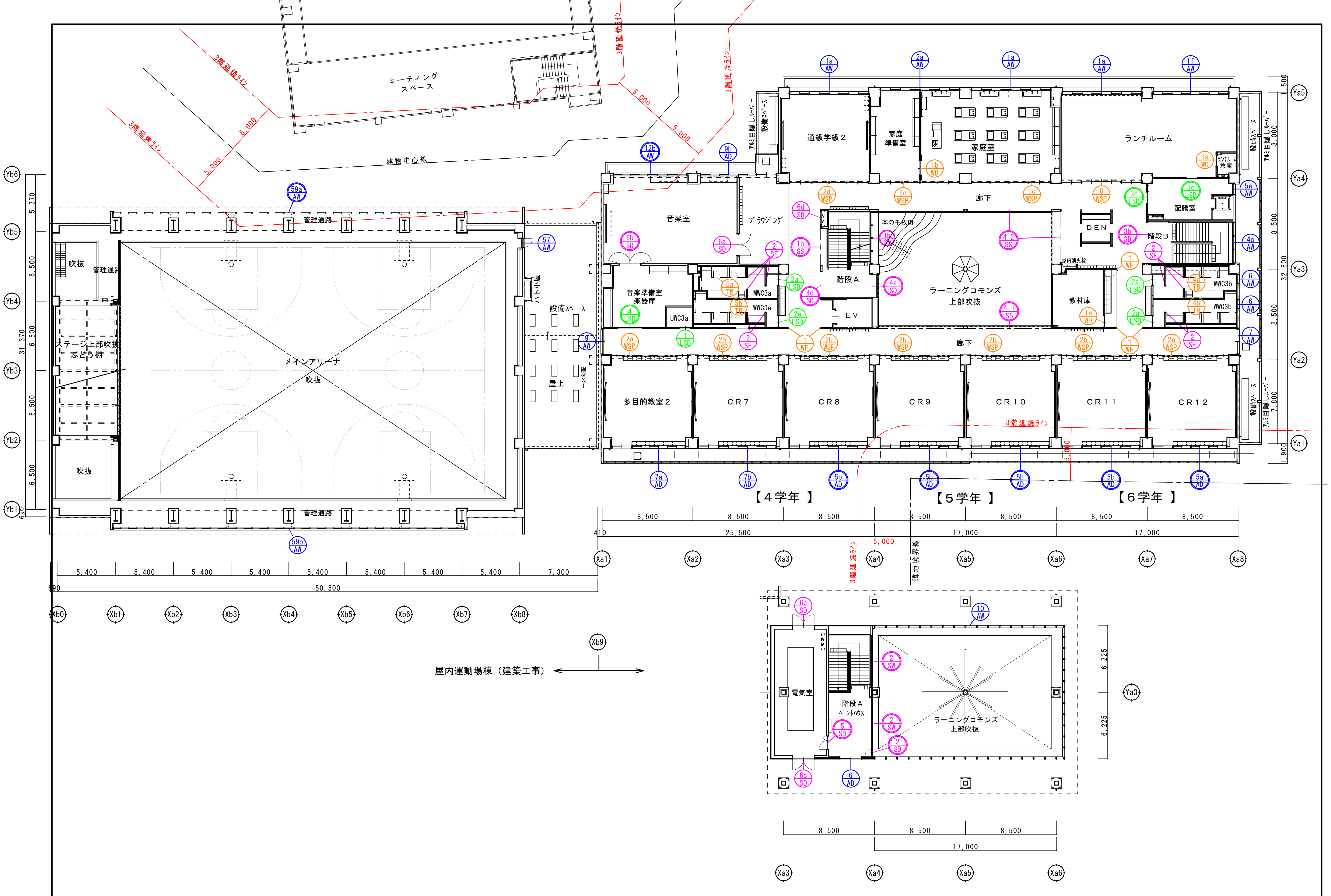


JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 1 階 建具符号図	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－e01 B－e01

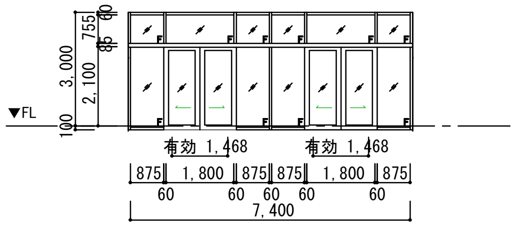
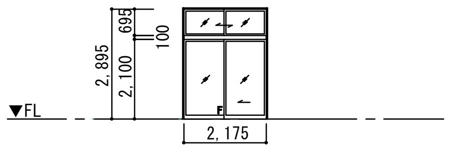
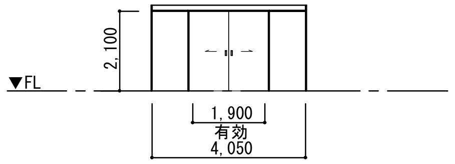
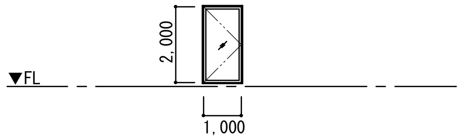


屋内運動場棟（建築工事）⟵⟶校舎棟（建築工事）

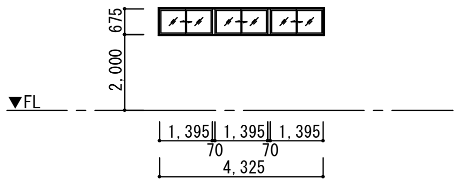
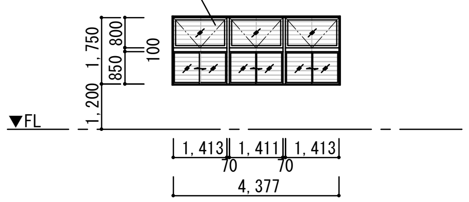
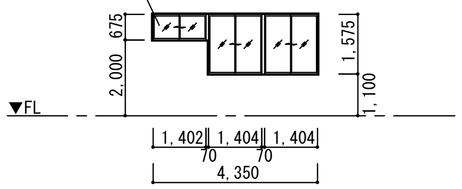
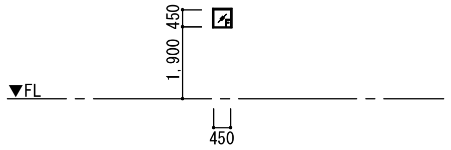
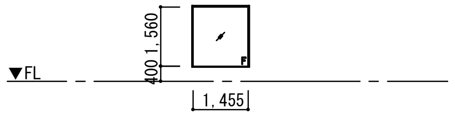
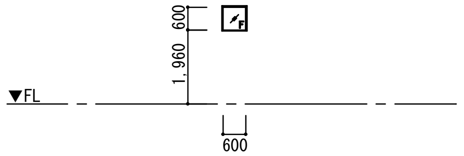
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	２階 建具符号図	縮尺 A1：1/150 A3：1/300	図番 A－e02 B－e02

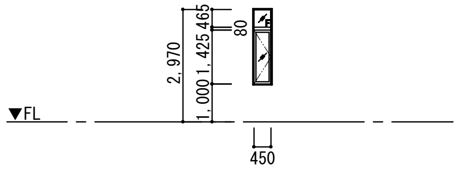
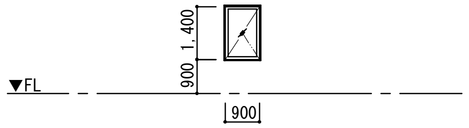
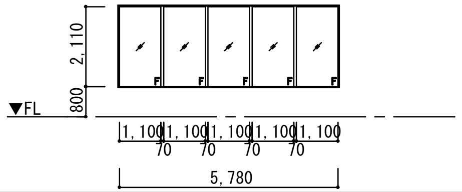
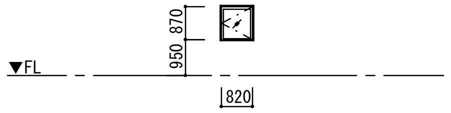
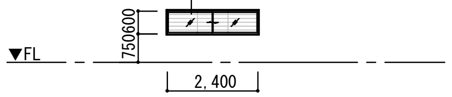
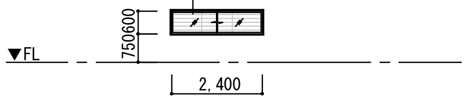


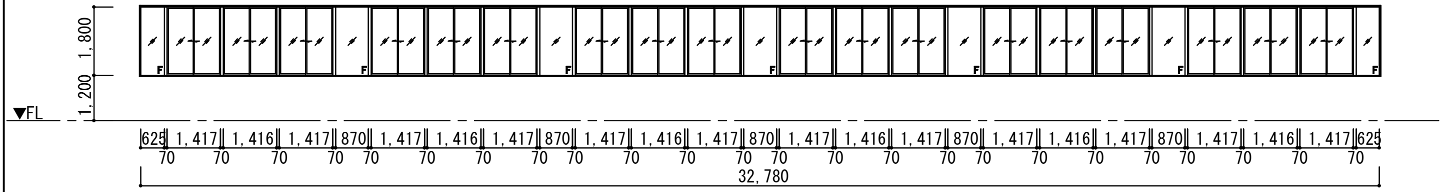
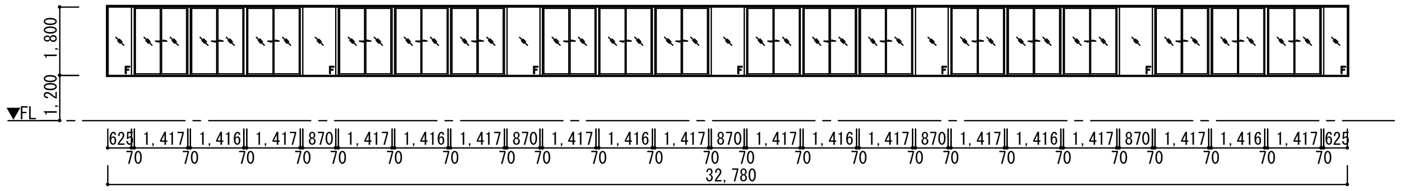
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	３階・Ｒ階 建具符号図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	Ａ－e03 Ｂ－e03

名称	建具特記事項は校舎棟と同様とする Ａ－ｅ04　建具リスト（１）を参照	㊿(51) AD 木・アルミ複合建具 欄間Fix窓＋引き分け戸	(52) AD 欄間引き違い窓＋片引き戸【防火設備】	(53) AD 引き分け戸	(54) AD 框ﾄﾞｱ
数量		１カ所	１ヶ所	２ヶ所	１ヶ所
場所		１階：ｱﾘｰﾅ昇降口	１階：通用廊下	１階：外部倉庫、備蓄倉庫	２階：ﾒｲﾝｱﾘｰﾅ
仕上		右表参照	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物		引棒、PD、戸先安全ゴム	WF、C、M	WF、CL、M、引手	WF、M、PD、LH
硝子		右表参照	強化Low-E5＋A12＋耐熱強化t5		Low-E強化8＋A12＋強化8
備考		電気錠１ヶ所			
形状		 755 85 60 3,000 2,100 100 ▼FL 有効 1,468 有効 1,468 875 1,800 875 875 1,800 875 60 60 60 60 60 7,400	EB-3236-1 		

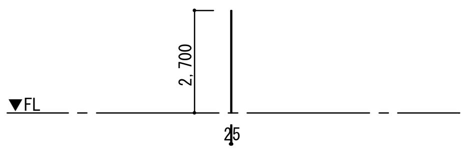
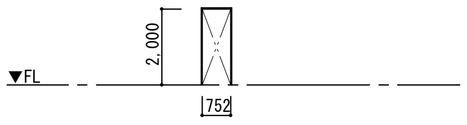
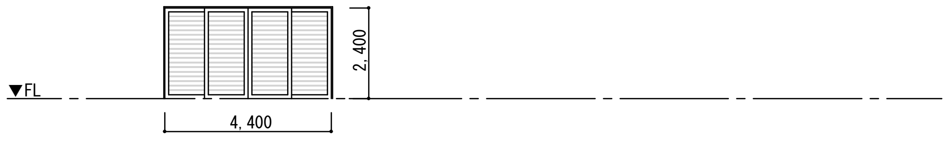
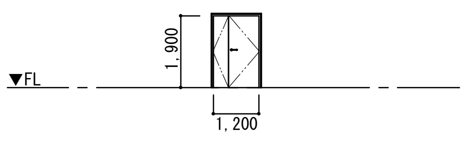
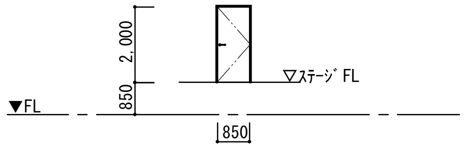
木アルミ複合断熱サッシ仕様
■仕上
・外部アルミ：陽極酸化複合被膜
・外部化粧木：熱処理木
・内部集成材：市産能登ヒバ集成材
・方立・無目： UC塗装（２回塗）
・扉　　　　： WP塗装
■ガラス
・欄間部： Low-E3+A12+FL3
・障子部： Low-E 強化 5+A12+TP5
・他Fix部：障子部に同じ
■断熱材
・ｸﾞﾗｽﾌｧｲﾊﾞｰ入りﾎﾟﾘｱﾐﾄﾞ樹脂
■その他
・ニュースト
　アルタスウッドスクリー　同等品以上

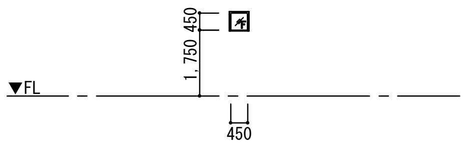
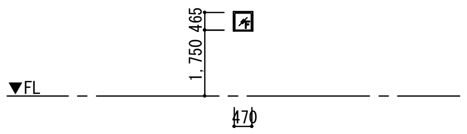
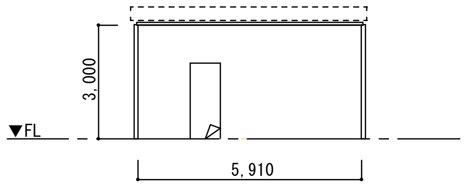
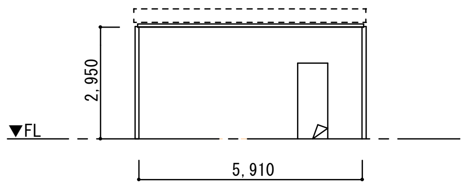
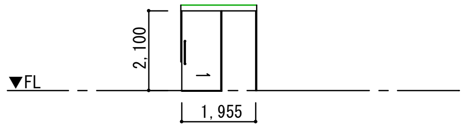
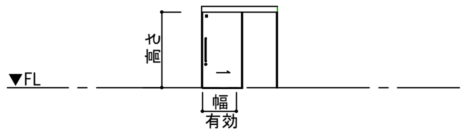
名称	(51a) AW 連窓引き違い窓	(51b) AW 防球格子＋欄間：排煙窓付き＋連窓引き違い窓	(52) AW 連窓引き違い窓【防火設備】	(53a) AW FIX窓	(53b) AW FIX窓	(53c) AW FIX窓
数量	１カ所	６ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	１ヶ所	３ヶ所
場所	１階：更衣室（Ｍ）	１階：サブアリーナ	１階：更衣室（Ｍ）、通用口	１階：ｱﾘｰﾅＷＣ	１階：ホール	１階：外部倉庫×２、更衣室（Ｍ）
仕上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物	WF、C、M	WF、C、M、OP、排煙窓装置一式	C、M、WF	M、WF	M、WF	AF、M
硝子	Low-E5＋A12＋型4	Low-E5＋A12＋TP5	LowE5＋A12＋耐熱強化t5、欄間部：下記	強化Low-E5＋A12＋型4	Low-E5＋A12＋TP4	Low-E5＋A12＋型4
備考	網戸	網戸、防球格子	網戸			
形状	 675 2,000 ▼FL 1,395 1,395 1,395 70 70 4,325	防球格子（室内側に設置） 縦桟：StFB12x50＋SOP 横桟：Stφ12＋SOP@120以下 枠　：StFB5x50＋SOP  800 850 100 1,750 1,200 ▼FL 1,413 1,411 1,413 70 70 4,377	欄間部：Low-E型4＋A12＋耐熱強化5  675 2,000 1,575 1,100 ▼FL 1,402 1,404 1,404 70 70 4,350			

名称	(54) AW 欄間FIX窓＋開き窓	(55) AW 縦すべり窓	(56) AW 連窓FIX窓	(57) AW 開き窓	(58a) AW 防球格子＋引き違い戸	(58b) AW 防球格子＋引き違い戸【防火設備】
数量	１カ所	２ヶ所	１ヶ所	２ヶ所	７ヶ所	４ヶ所
場所	１階：ミーティング室	２階：ｱﾘｰﾅＷＣ	２階：ｱﾘｰﾅ階段	２階：用具庫２、３階：管理廊下	２階：第１ｱﾘｰﾅ	２階：第１ｱﾘｰﾅ
仕上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物	開き窓金物一式、GH、M、WF	AF、GH、M、縦すべり装置一式	WF	AF、T、開放制限装置、C	AF、C、M	AF、C、M
硝子	Low-E3＋A12＋FL3	Low-E強化4＋A12＋型4	Low-E5＋A12＋FL5	Low-E5＋A12＋FL5	Low-E5＋A12＋FL5	Low-E5＋A12＋PW6.8
備考	網戸	網戸		網戸	網戸	網戸
形状			 2,110 800 ▼FL 1,100 1,100 1,100 1,100 1,100 70 70 70 70 5,780		防球格子 縦桟：StFB9x50＋SOP 横桟：Stφ12＋SOP@120以下 枠　：StFB5x50＋SOP 	防球格子 縦桟：StFB9x50＋SOP 横桟：Stφ12＋SOP@120以下 枠　：StFB5x50＋SOP 

名称	(59a) AW 連窓FIX窓＋引き違い窓【防火設備】	(59b) AW 連窓FIX窓＋引き違い窓
数量	１ヶ所	１ヶ所
場所	３階：ｱﾘｰﾅ上部	３階：ｱﾘｰﾅ上部
仕上	陽極酸化複合被膜	陽極酸化複合被膜
金物	C、M、AF	C、M、AF
硝子	Low-E5＋A12＋耐熱強化5	Low-E5＋A12＋TP5
備考	網戸	網戸
形状	EB-3244-1  1,800 1,200 ▼FL 625 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 625 70 32,780	 1,800 1,200 ▼FL 625 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 870 1,417 1,416 1,417 625 70 32,780

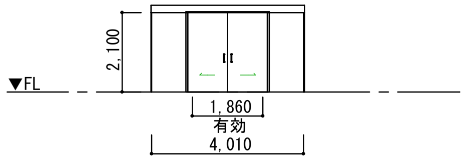
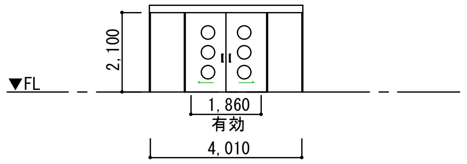
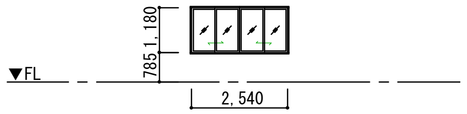
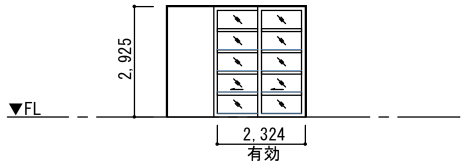
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	建具リスト（１）　屋内運動場棟	縮尺	A1：1/100 A3：1/200	図番	Ｂ－e04

名称	(51/SF) スチール製一方枠	(51/WF) 樹脂製三方枠	(51/BK) 防球格子引き分け戸	(51/SD) 常閉親子開き戸【特定防火設備・遮煙】	(52/SD) 片開き戸
数量	９か所	２ヶ所	１４ヶ所	１ヶ所	１ヶ所
場所	下記	１階：男女更衣室　各１	２階：第１ｱﾘｰﾅ	１階：消火栓ﾎﾟﾝﾌﾟ室	２階：放送室
仕上	t1.9　亜鉛メッキ鋼板＋SOP	PVC（化粧面ｱｸﾘﾙｺｰﾃｨﾝｸﾞ）	ホワイトアッシュ集成材・アルミ押出型材	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP、ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填
金物			WF、F、CL、重量用調整式戸車、戸当り、SUS沓摺（フラットタイプ）	T、DCN、順位調整器、PD、LH、TA、SUS沓摺	PD、SF、T、四周エアタイト、TA、SUS沓摺
硝子					
備考	枠見込：135			枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
形状	１階：ｱﾘｰﾅWC×４　H:2700 ２階：ｱﾘｰﾅWC×５　H:2700 				

名称	(51/SW) FIX窓	(52/SW) FIX窓	(51/SS) 防火シートシャッター【特定防火設備・遮煙】	(52/SS) 防火シートシャッター　【特定防火設備・遮煙】	(51/LSD) 引込みﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	(52a/LSD)～(52c/LSD) 窓付引込ﾌﾗｯｼｭﾊﾝｶﾞｰﾄﾞｱ
数量	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所	１ヶ所	集計表参照
場所	２階　放送室	２階：ｱﾘｰﾅ	１階：ホール	２階：ホール	１階：ミーティング室	集計表参照
仕上	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ・ SUSHL	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ・座板・ﾏｸﾞｻ：SUSHL	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	t0.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り
金物	SF	SF、WF	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構、ｳｫｰｸｽﾙｰ潜り戸	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、座板、ﾏｸﾞｻ、煙検知器連動装置、ｽｲｯﾁBox鍵付、手動開閉装置、危害防止機構、ｳｫｰｸｽﾙｰ潜り戸	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、自在ｽﾄｯﾊﾟｰ付き、引棒、SUS沓摺	自閉装置、制動装置、ﾊﾝｶﾞｰ戸金物一式、自在ｽﾄｯﾊﾟｰ付き、引棒、SUS沓摺
硝子	TP4	TP4	シート：耐熱ガラスクロス	シート：耐熱ガラスクロス		型４
備考	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板+SOP	天井内納まり	天井内納まり	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り	枠：t1.6亜鉛メッキ鋼板木調シート張り
形状			認定番号:CAS-0255 	認定番号:CAS-0255 		

屋内運動場棟 LSD集計表

記号	番号	個数	場所	有効幅	高さ	鍵	備考
LSD	51	1	１階：ミーティング室	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
LSD	52a	6	１階：ｱﾘｰﾅWC×2、更衣室×2、２階：ｱﾘｰﾅWC×2	900	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	
LSD	52b	1	１階：UWC	900	2,000	表示錠	
LSD	52c	2	１階：更衣室各１	800	2,100	ｼﾘﾝﾀﾞｰ鎌錠	

名称	(53a/LSD) 体育館用引き分けハンガードア 扉芯材ウレタン注入発泡充填	(53b/LSD) 体育館用窓付き引き分けハンガードア 扉芯材ウレタン注入発泡充填	(51/WSP) 引き分け窓	(52/WSP) ２連引き込み戸
数量	８ヶ所	３ヶ所	１ヶ所	１ヶ所
場所	１階：ｻﾌﾞｱﾘｰﾅ×６、２階：ｱﾘｰﾅ×２	１階：ホール×２、２階：ホール	１階：ミーティング室	２階：ホール
仕上	t0.8亜鉛めっき鋼板焼付塗装鋼板	t0.8亜鉛めっき鋼板焼付塗装	別表参照	別表参照
金物	PD、WF、ﾊﾝｶﾞｰ金物一式、引き手、SUSﾚｰﾙ	PD、WF、ﾊﾝｶﾞｰ金物一式、引き手、SUSﾚｰﾙ	別表参照	別表参照
硝子		φ300　TP5＋飛散防止フィルム	別表参照	別表参照
備考	t1.6亜鉛めっき鋼板焼付塗装	t1.6亜鉛めっき鋼板焼付塗装		
形状				

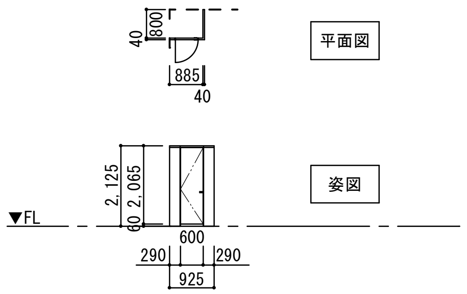
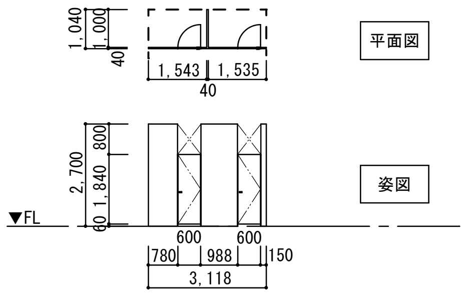
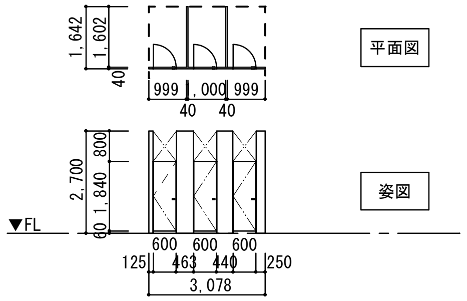
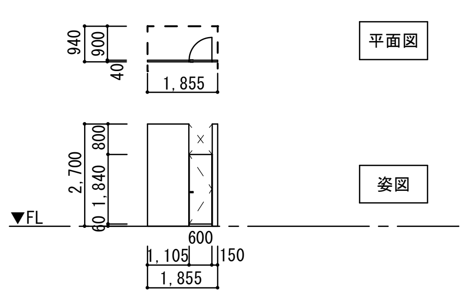
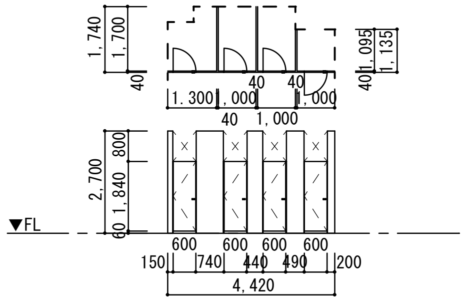
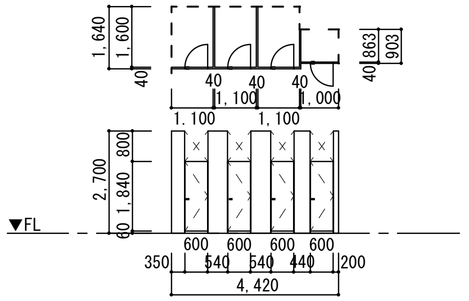
木製学校用パーティション仕様
特記無き限り下記仕様とする

■仕上
・枠材表面材：ラジアタパイン集成材＋桧突板貼り
・枠材心材　：t1.6亜鉛メッキ鋼板＋SOP
・パネル部　：市産能登ヒバ羽目板＋WP
・扉部　　　：ラジアタパイン集成材＋桧突板貼り

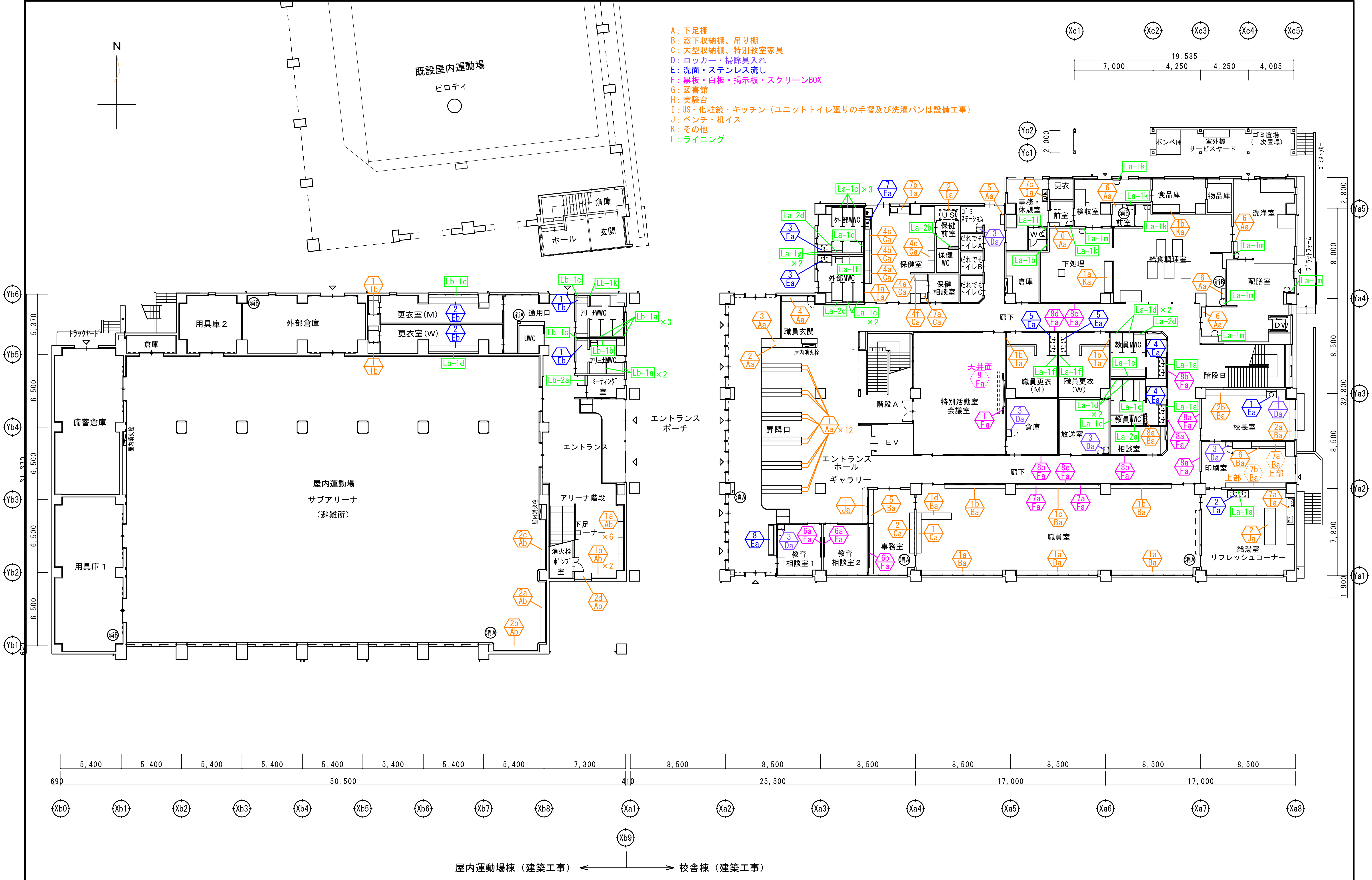
■ガラス
・欄間部：FL3
・扉部　：TP4＋飛散防止フィルム
・窓部　：FL5

■金物他
・枠　　：WF
・扉部　：PD、SUS製M型ﾚｰﾙ、ﾍﾞｱﾘﾝｸﾞ入り戸車、
　　　　 SUS船底引手、 TA、手詰防止ﾊﾟｯｷﾝ、
　　　　その他付属金物一式
・窓部　：C、ｱﾙﾐﾚｰﾙ、その他付属金物一式

■その他
・コマニー
　SPart Wタイプ　同等品以上

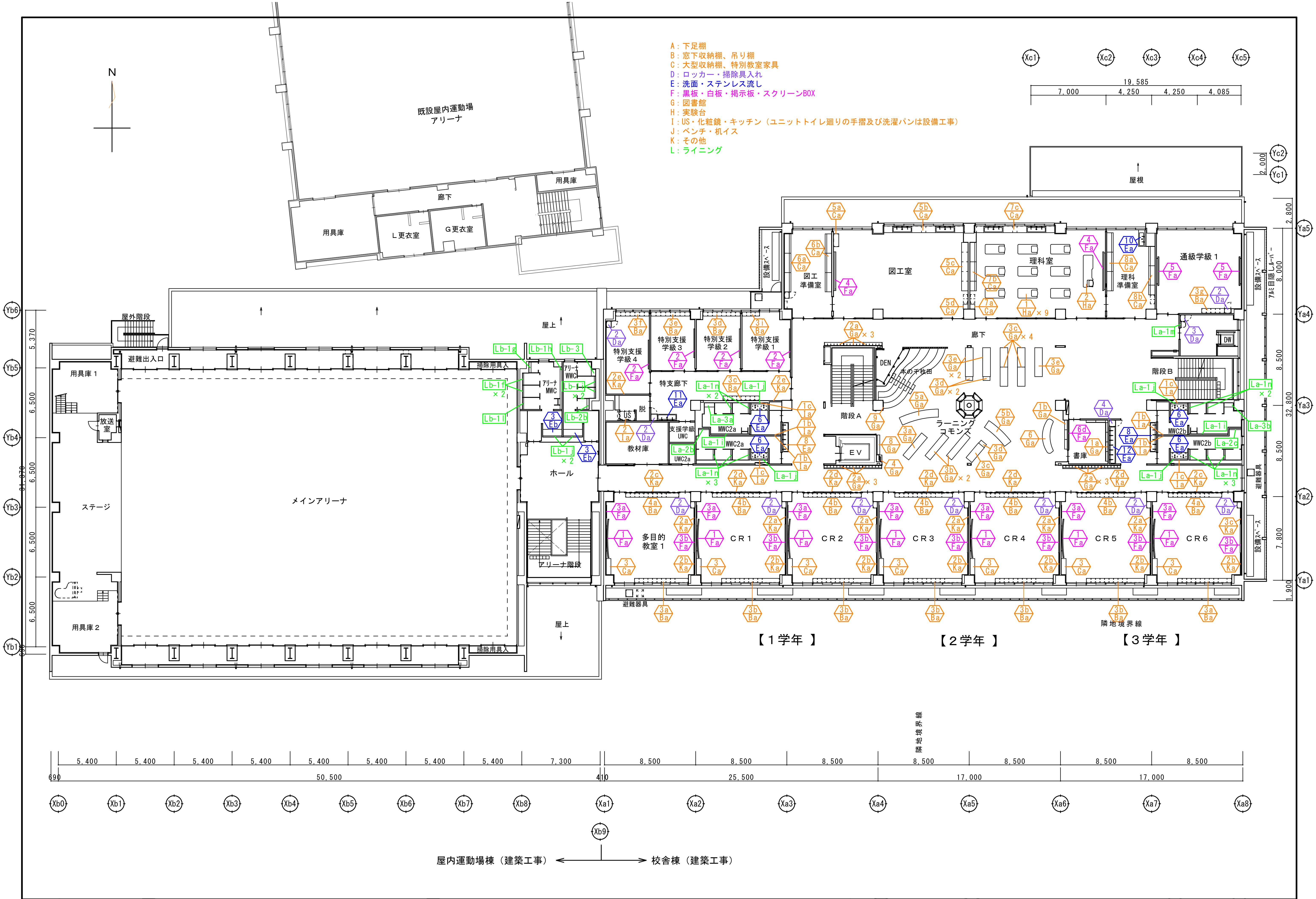
名称	(50/TB) トイレブース	(51/TB) トイレブース	(52/TB) トイレブース	(53/TB) トイレブース	(54/TB) トイレブース	(55/TB) トイレブース
数量	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所	１カ所
場所	１階：エントランス	１階：アリーナＭＷＣ	１階：アリーナＷＷＣ	１階：アリーナＷＷＣ	２階：アリーナＷＷＣ	２階：アリーナＭＷＣ
仕上	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ	高圧ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板、心材：ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱ
金物	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木	ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾋﾝｼﾞ（中心吊型）、戸当、取手、表示錠、ｱﾙﾐｴｯｼﾞ、SUS頭ﾂﾅｷﾞ、SUS巾木
硝子						
備考						
形状						

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 建具リスト（２） 屋内運動場棟	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図番 B－e05



A：下足棚
B：窓下収納棚、吊り棚
C：大型収納棚、特別教室家具
D：ロッカー・掃除具入れ
E：洗面・ステンレス流し
F：黒板・白板・掲示板・スクリーンBOX
G：図書館
H：実験台
I：US・化粧鏡・キッチン（ユニットトイレ廻りの手摺及び洗濯パンは設備工事）
J：ベンチ・机イス
K：その他
L：ライニング

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	１階　家具符号図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	A－e11 B－e06



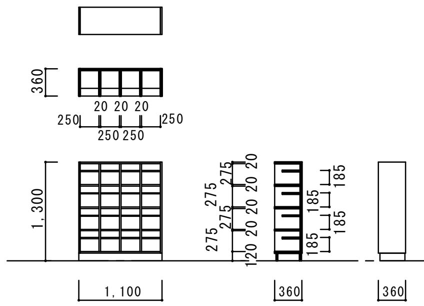
A：下足棚
B：窓下収納棚、吊り棚
C：大型収納棚、特別教室家具
D：ロッカー・掃除具入れ
E：洗面・ステンレス流し
F：黒板・白板・掲示板・スクリーンBOX
G：図書館
H：実験台
I：US・化粧鏡・キッチン（ユニットトイレ廻りの手摺及び洗濯パンは設備工事）
J：ベンチ・机イス
K：その他
L：ライニング

JOB NO.								
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	２階 家具符号図	縮尺 A1：1/150 A3：1/300

図番 A－e12 B－e07

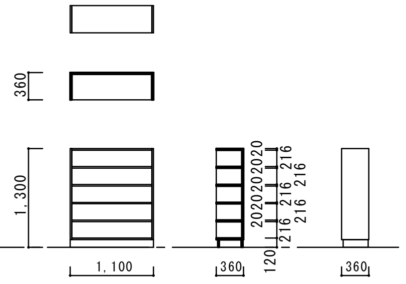
記号	数量	名称		場所
1a/Ab	6	体育館下足入れ		昇降口

形状



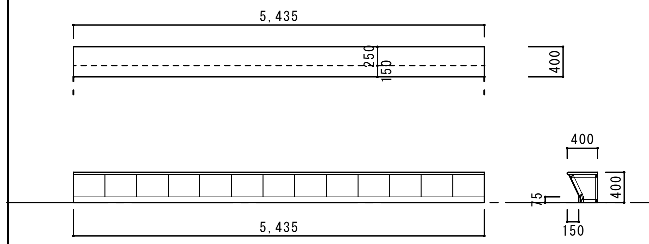
仕上・材料	天板･側板:t25堅木集成材＋UC、背板･内部･仕切板:t4ﾎﾟﾘ化粧合板貼り（ﾌﾗｯｼｭ）
建具	
金物	
硝子	
備考	木口:t4ﾒﾗﾐﾝ化粧合板、棚板:ﾒﾗﾐﾝ化粧合板貼り（t9合板下地）

記号	数量	名称		場所
1b/Ab	2	体育館下足入れ		昇降口



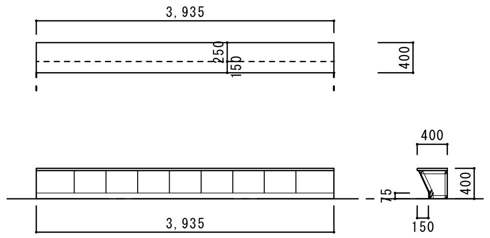
仕上・材料	←
建具	
金物	
硝子	
備考	←

記号	数量	名称	場所
2a/Ab	1	ベンチ	1階サブアリーナ



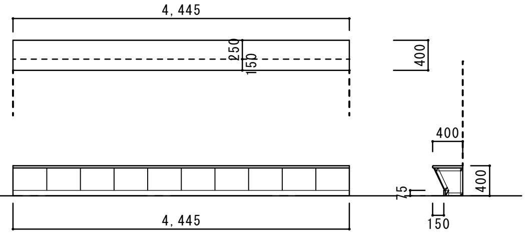
仕上・材料	座板:t30タモ積層材＋ウレタン塗装
建具	前板:木下地＋t5.5シナ合板＋ＷＰ、巾木:H=75堅木＋ＷＰ
金物	
硝子	
備考	

記号	数量	名称	場所
2b/Ab	1	ベンチ	1階サブアリーナ



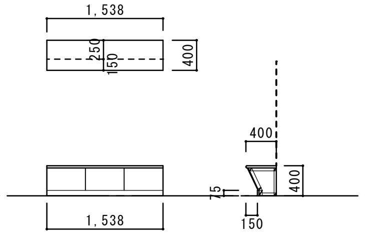
仕上・材料	座板:t30タモ積層材＋ウレタン塗装
建具	前板:木下地＋t5.5シナ合板＋ＷＰ、巾木:H=75堅木＋ＷＰ
金物	
硝子	
備考	

記号	数量	名称		場所
2c/Ab	1	ベンチ		1階サブアリーナ



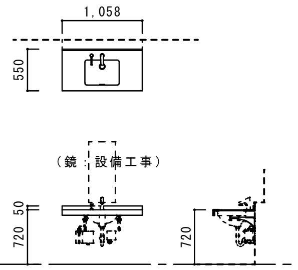
仕上・材料	座板:t30タモ積層材＋ウレタン塗装
建具	前板:木下地＋t5.5シナ合板＋ＷＰ、巾木:H=75堅木＋ＷＰ
金物	
硝子	
備考	

記号	数量	名称	場所
2d/Ab	1	ベンチ	1階アリーナ階段下部



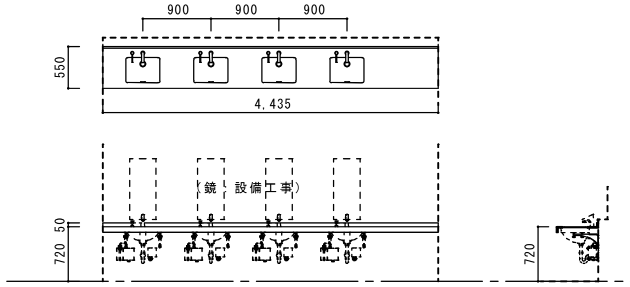
仕上・材料	座板:t30タモ積層材＋ウレタン塗装
建具	前板:木下地＋t5.5シナ合板＋ＷＰ、巾木:H=75堅木＋ＷＰ
金物	
硝子	
備考	

記号	数量	名称	場所
1/Eb	2	手洗いカウンター	1階ｱﾘｰﾅMwc、ｱﾘｰﾅWwc



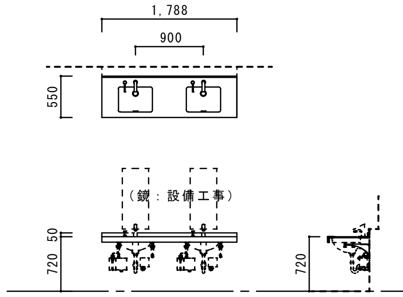
仕上・材料	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ
建具	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:Lb参照
金物	支持金物
硝子	
備考	（設備工事：鏡・水栓・手洗器）

記号	数量	名称	場所
2/Eb	2	手洗いカウンター	1階更衣室（M・W）



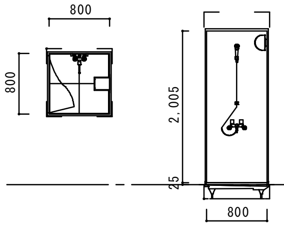
仕上・材料	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ
建具	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:Lb参照
金物	支持金物
硝子	
備考	（設備工事：鏡・水栓・手洗器）

記号	数量	名称	場所
3/Eb	2	手洗いカウンター	2階ｱﾘｰﾅMwc、ｱﾘｰﾅWwc



仕上・材料	天板：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑｶｳﾝﾀｰ
建具	ﾗｲﾆﾝｸﾞ:Lb参照
金物	支持金物
硝子	
備考	（設備工事：鏡・水栓・手洗器）

記号	数量	名称	場所
1/Ib	2	ユニットシャワー	1階更衣室(M)(W)

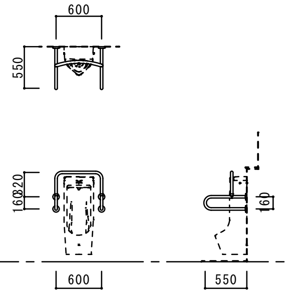


仕上・材料	メーカー標準仕様による
建具	2枚折戸
金物	シャワーヘッド、サーモスタット水栓、半球型照明、換気扇
硝子	
備考	（TOTO ユニットシャワールーム0808サイズ同等品以上）

記号	数量	名称	場所
2/Ib	2	小便器手摺	1･2階ｱﾘｰﾅMWC

※符号図に記載省略

※下地補強共

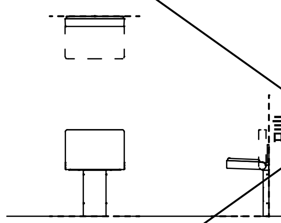


仕上・材料	φ34 SUS軟質樹脂被覆 抗菌ﾀｲﾌﾟ
建具	
金物	
硝子	
備考	（TOTO：T112CU2同等品）

記号	数量	名称	場所
3/Ib	1	おむつ替えシート	1階：UWC

※符号図に記載省略

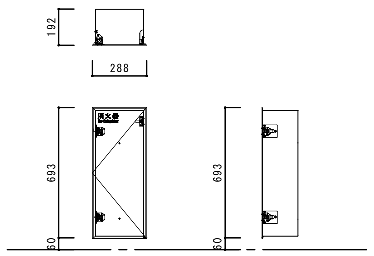
※下地補強共



設備工事

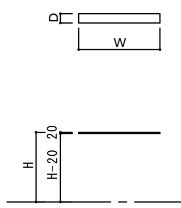
仕上・材料	樹脂製ベビーシート
建具	
金物	
硝子	
備考	（TOTO：YKA25R同等品）

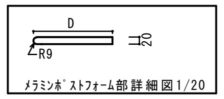
記号	数量	名称	場所
A/消	3	壁埋め込み型消火器ＢＯＸ	各所



仕上・材料	本体：ｔ1.6ボンデ鋼板 焼付塗装
建具	扉：ｔ2.3ボンデ鋼板 焼付塗装
金物	プッシュラッチ、マグネットキャッチ
硝子	
備考	ﾕﾆｵﾝ:UFB-1F-3025-PWH同等品

記号	数量	名称	場所
1-3/Lb	下記	ライニング	下記





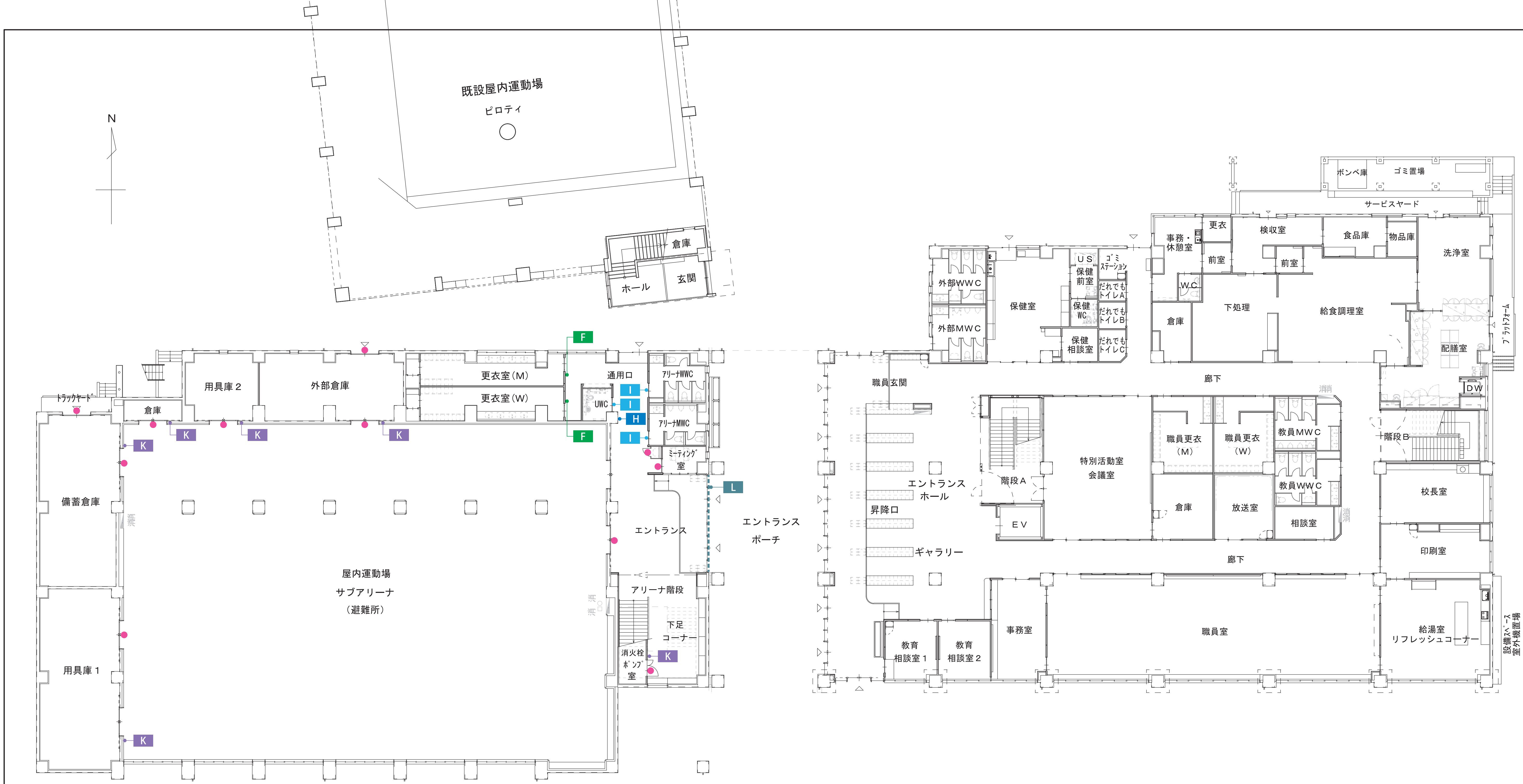
ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ部詳細図1/20

番号	数量	D	W	参考腰高	場所	材質
1a	5	120	995	800	1F：アリーナMWC、アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1b	1	120	2,415	1,150	1F：アリーナMWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1c	2	120	1,060	800	1F：アリーナMWC、アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1d	1	120	4,440	800	1F：更衣室(W)	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1e	1	120	4,430	800	1F：更衣室(M)	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1f	2	120	1,100	800	2F：アリーナMWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1g	1	120	1,000	1,300	2F：アリーナMWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1h	1	120	3,950	1,150	2F：アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1i	2	120	1,000	800	2F：アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1j	2	120	1,790	800	2F：アリーナWWC、アリーナMWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1k	1	120	895	800	1F：アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
1l	1	120	1,095	800	2F：アリーナMWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
2a	1	200	890	1,300	1F：廊下	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
2b	1	200	995	1,300	2F：アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ
3	1	405	605	800	2F：アリーナWWC	ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ

右記：ﾒﾗﾐﾝﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ：NPAﾀｲﾌﾟ t=20

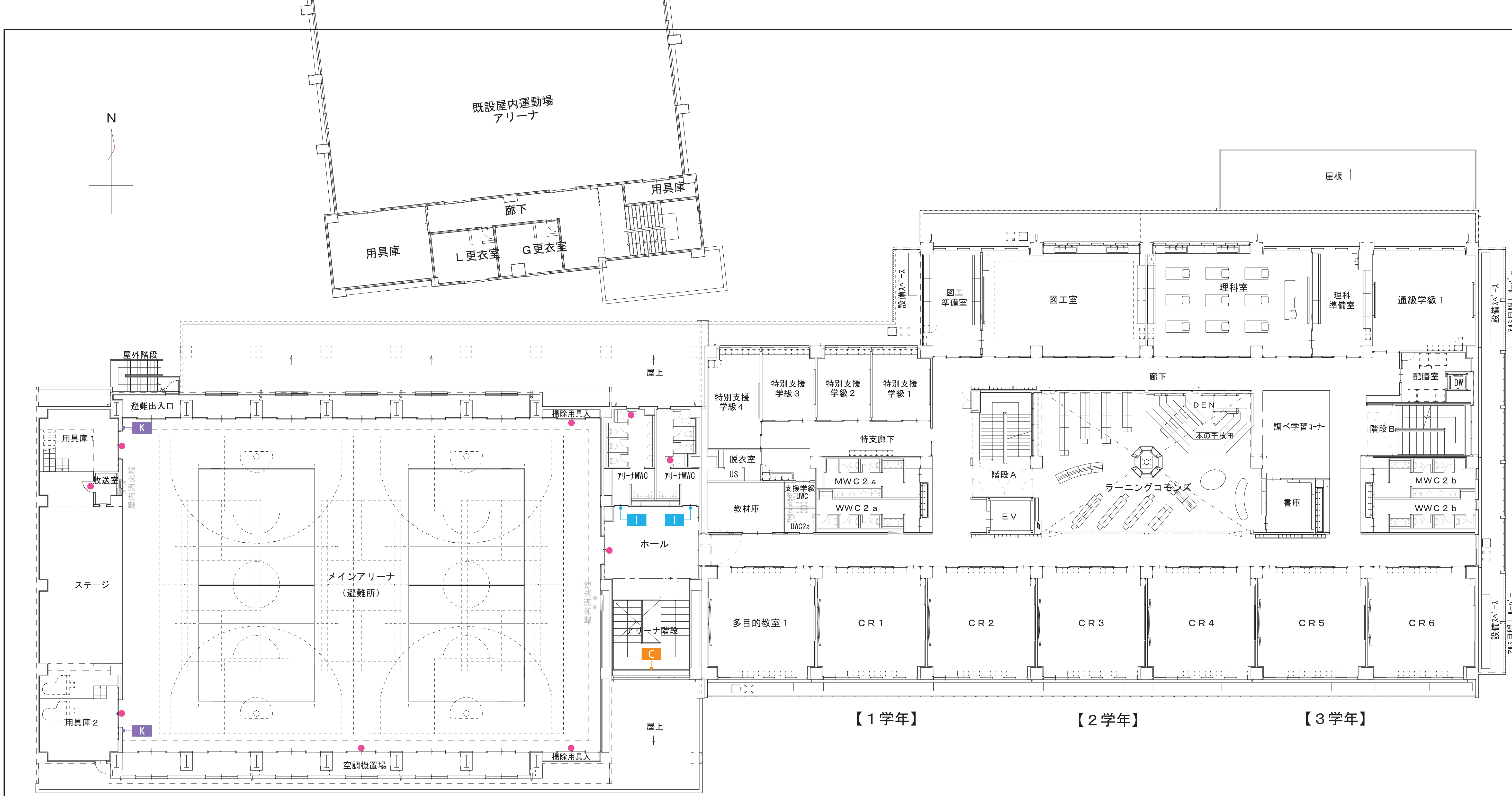
腰高は展開図参照

JOB NO.						
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 家具リスト	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	図番 Ｂ －e08



符号	名　称	1F	2F	3F	RF	計
C	階数表示サイン	-	1	-	-	1
F	室名サイン（平付）	2	-	-	-	2
H	ピクトサイン（突出）	1	-	-	-	1
I	ピクトサイン（切文字）	3	2	-	-	5
● J	切文字サイン	11	9	-	-	20
K	火元責任者名札	6	2	-	-	8
L	衝突防止サイン	≒7.4m	-	-	-	≒7.4m

JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	１階サイン配置図	縮尺	A1：1/150 A3：1/300	図番	B －e09

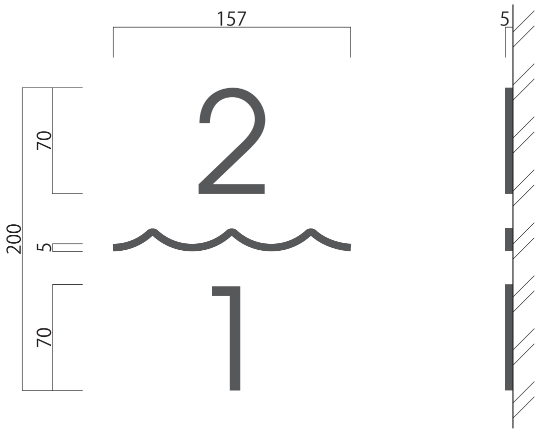


符号	名　称	1F	2F	3F	RF	計
C	階数表示サイン	-	1	-	-	1
F	室名サイン（平付）	2	-	-	-	2
H	ピクトサイン（突出）	1	-	-	-	1
I	ピクトサイン（切文字）	3	2	-	-	5
● J	切文字サイン	11	9	-	-	20
K	火元責任者名札	6	2	-	-	8
L	衝突防止サイン	≒7.4m	-	-	-	≒7.4m

JOB NO.								
125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	２階サイン配置図	縮尺 A1：1/150 A3：1/300

図番 B −e10

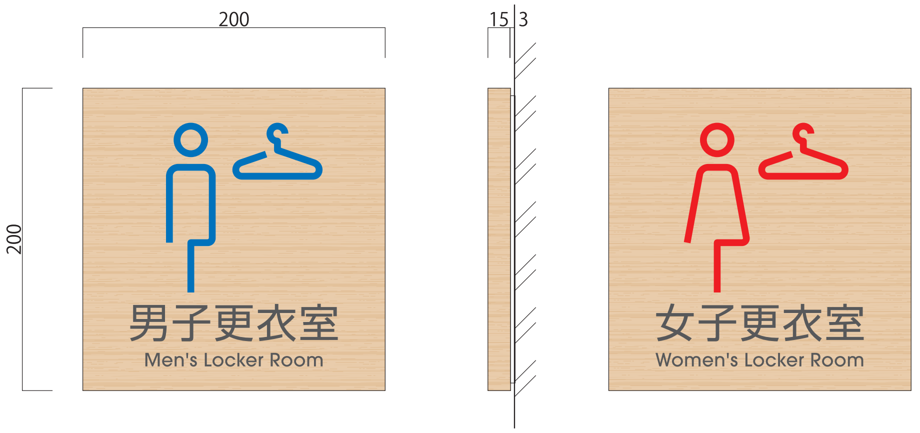
C 階数表示サイン S=1/5 1ヶ所



表示／アクリル板 切文字 t=5.0mm
塗装仕上げ

F 室名サイン(平付) S=1/5 2ヶ所

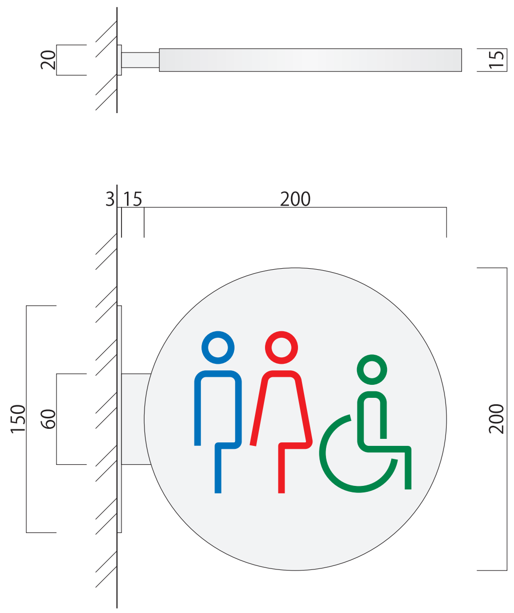
室名	1F	2F
男子更衣室	1	-
女子更衣室	1	-
計	5	-



板面／木板 t=15mm　捨て板 t=3.0mm
ピクト・文字／凹彫り加工(色入れ)

H ピクトサイン(突出) S=1/5 1ヶ所

室名	1F	2F
多目的トイレ	1	-
計	1	-

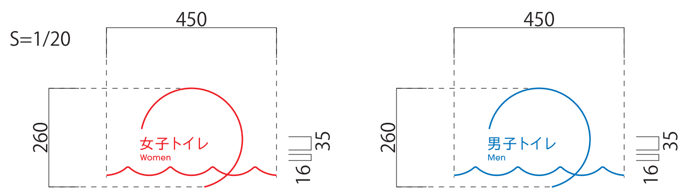


本体／SUS加工　焼付塗装仕上げ
ピクト／MF貼り

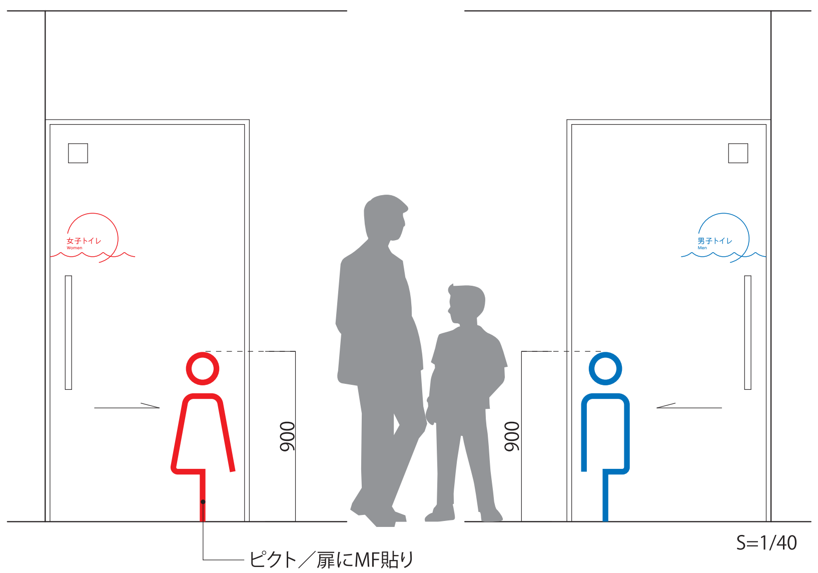
I ピクトサイン(切文字) S=1/20 5ヶ所

室名	1F	2F
多目的トイレ	1	-
男子トイレ	1	1
女子トイレ	1	1
計	3	2

S=1/20



表示／扉にMF貼り

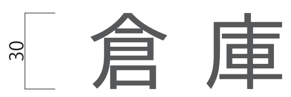


ピクト／扉にMF貼り

S=1/40

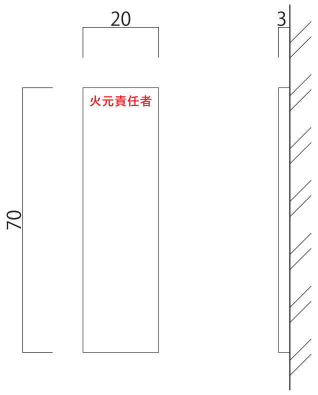
J 切文字サイン S=1/3 20ヶ所

室名	1F	2F
サブアリーナ	1	-
ミーティング室	1	-
消火栓ポンプ室	1	-
外部倉庫	2	-
備蓄倉庫	2	-
用具庫1	1	1
用具庫2	1	1
倉庫	1	-
SK	1	2
メインアリーナ	-	1
掃除用具入	-	2
空調機置場	-	1
放送室	-	1
計	11	9



表示／扉にMF貼り

K 火元責任者名札 S=1/2 8ヶ所

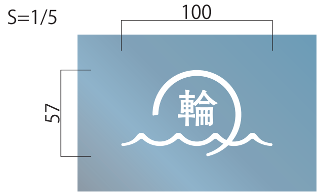


本体／アクリル板(白)t=3.0mm
表示／IJP貼り
※名前はテプラにて表示

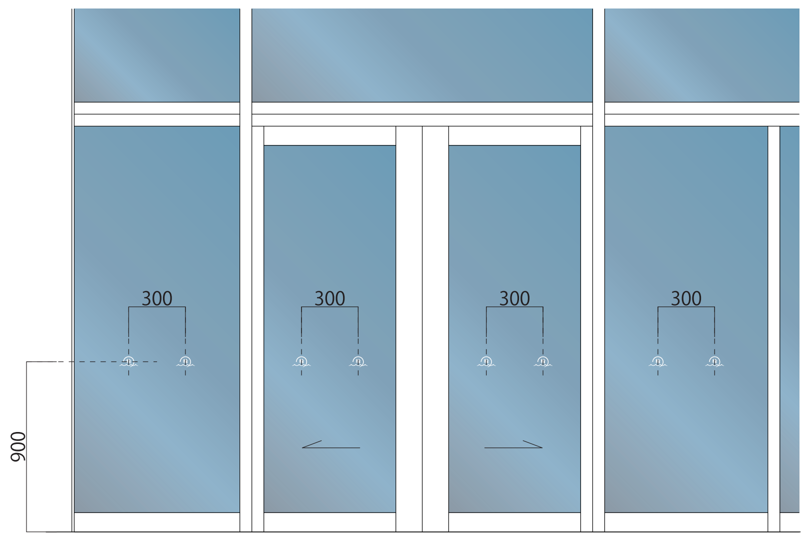
L 衝突防止サイン S=1/5 ≒7.4m

※校章 要確認

S=1/5



表示／ガラス面にMF貼り

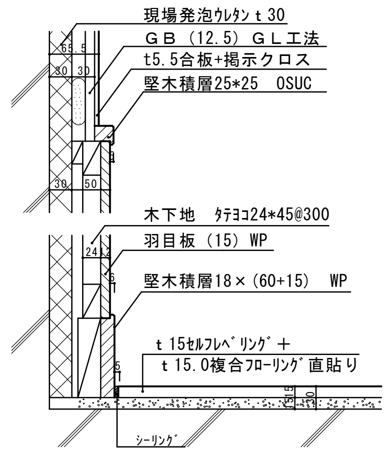


S=1/40

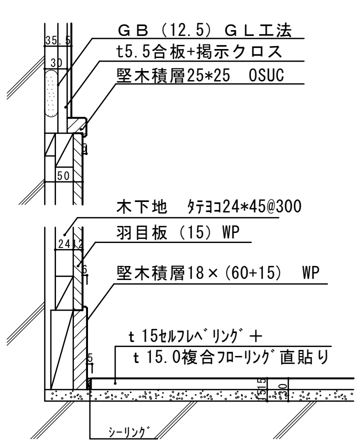
JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第 276761 号 浦 淳	設計 ・ ・	標題 サインリスト	縮尺	図番 B −e11

Ａ－１　内部標準詳細図

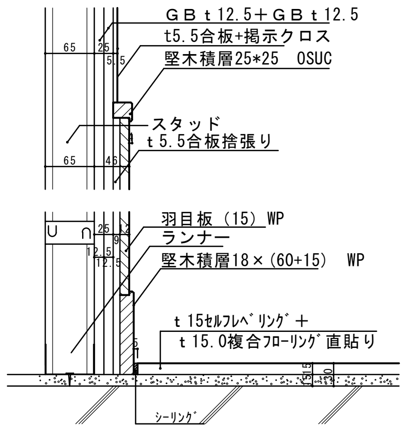
Ａ－１　内部一般諸室（床～壁）　エントランス、廊下　A1:S=1/5 A3:S=1/10



【断熱あり】

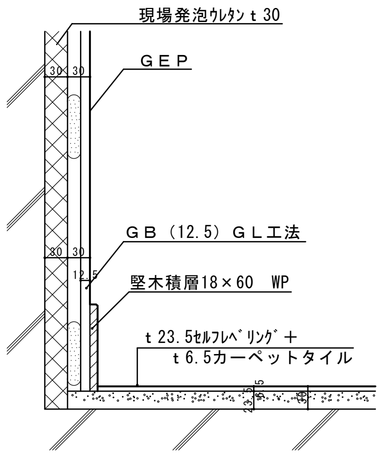


【断熱なし】

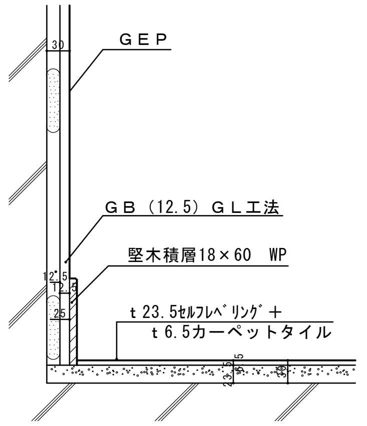


【ＬＧＳ】

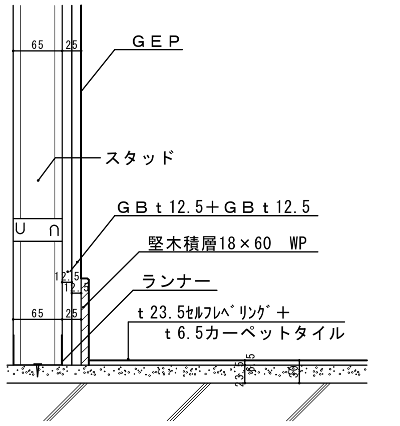
Ａ－２　内部一般諸室（床～壁）　ミーティング室　A1:S=1/5 A3:S=1/10



【断熱あり】

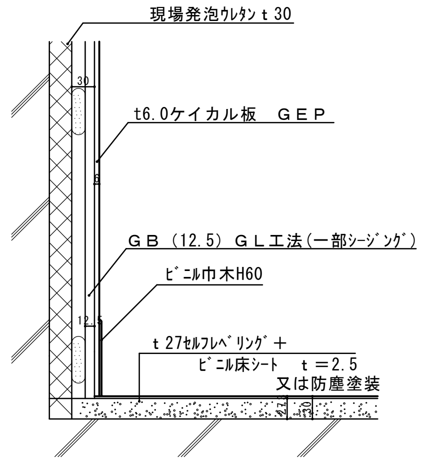


【断熱なし】

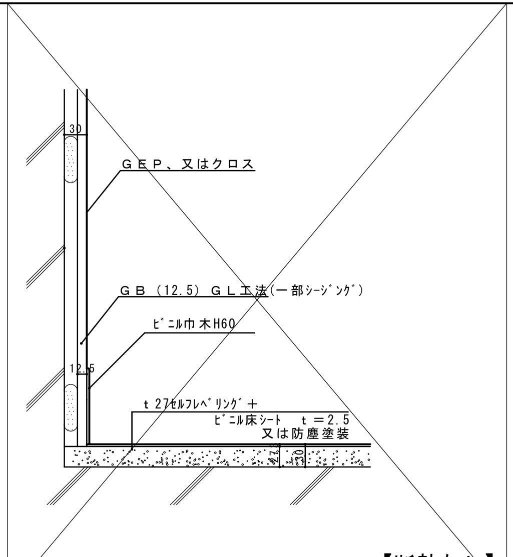


【ＬＧＳ】

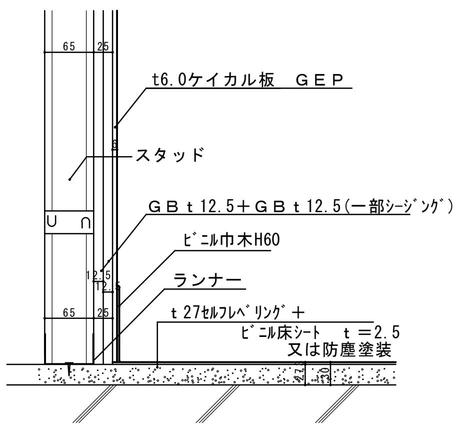
Ａ－３　内部一般諸室（床～壁）　用具庫、外部倉庫、備蓄倉庫　A1:S=1/5 A3:S=1/10



【断熱あり】

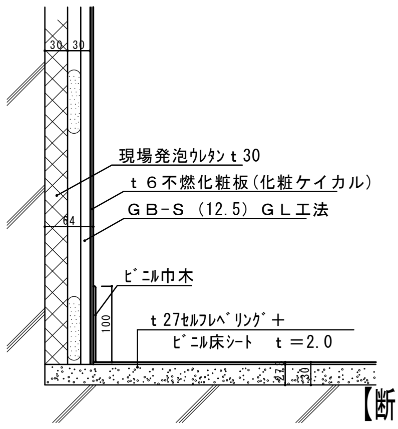


【断熱なし】

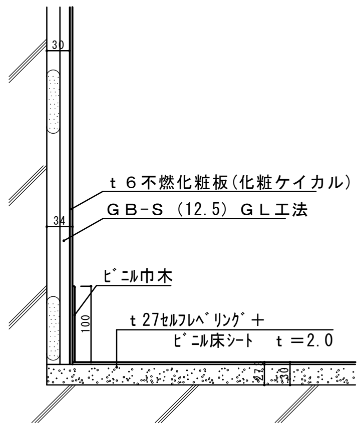


【ＬＧＳ】

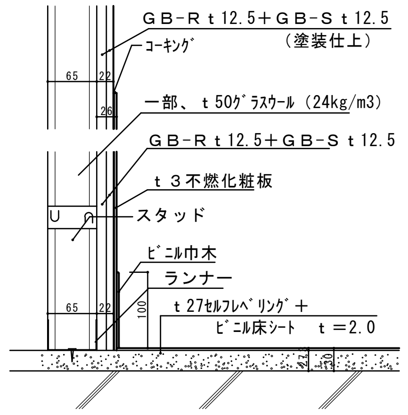
Ａ－４　内部一般諸室（床～壁）　各更衣室　A1:S=1/5 A3:S=1/10



【断熱あり】

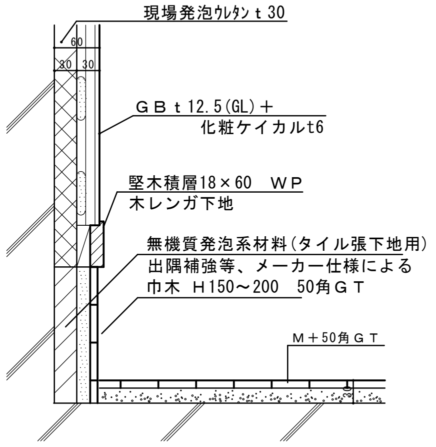


【断熱なし】

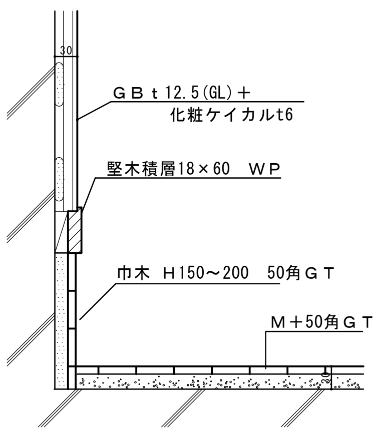


【ＬＧＳ】

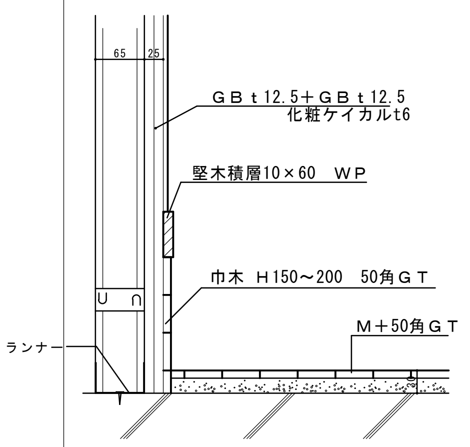
Ａ－５　内部　タイル床周り諸室（床～壁）　エントランス　A1:S=1/5 A3:S=1/10



【断熱あり】



【断熱なし】



【ＬＧＳ】

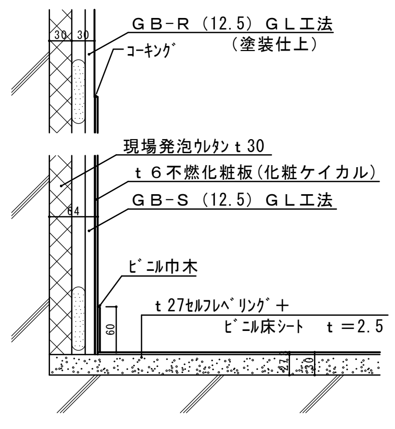
Ａ－６

JOB NO. 125280	2026 年 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳	設計	・ ・	標題	部分詳細図（１）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ｂ－f01

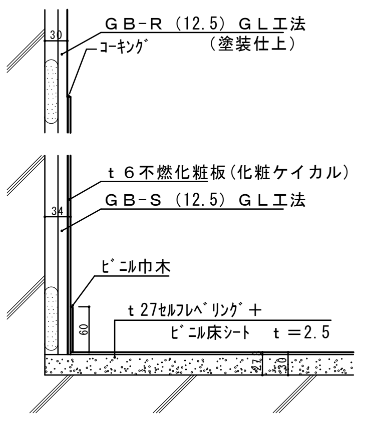
Ａ－１　内部標準詳細図

Ａ－７　内部　水周り諸室（床～壁）

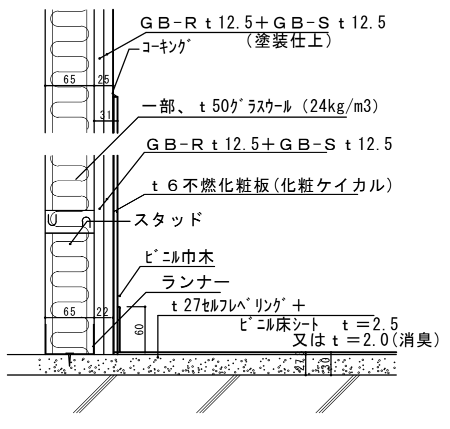
各ＷＣ
A1:S=1/5
A3:S=1/10



【断熱あり】



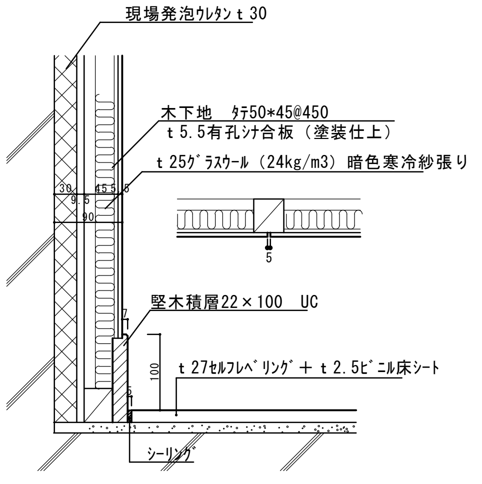
【断熱なし】



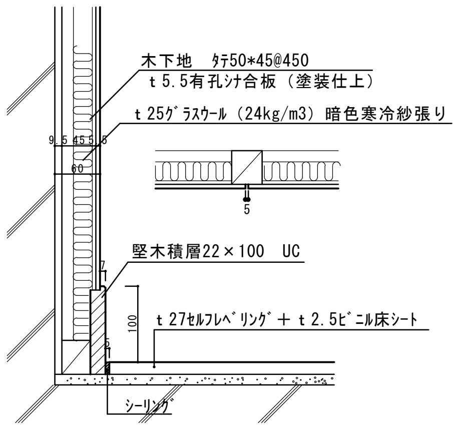
【ＬＧＳ】

Ａ－８　内部　吸音壁諸室（床～壁）

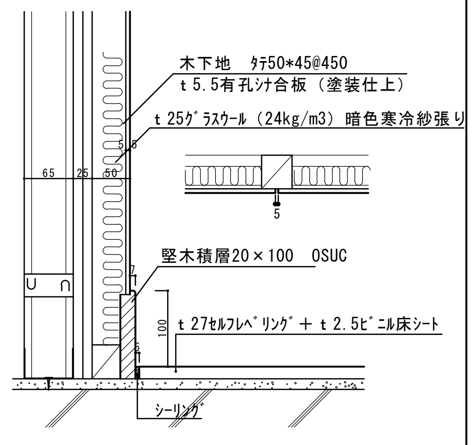
メインアリーナ上部メンテナンス通路
A1:S=1/5
A3:S=1/10



【断熱あり】



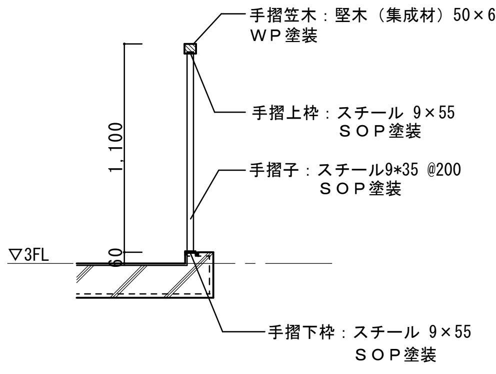
【断熱なし】

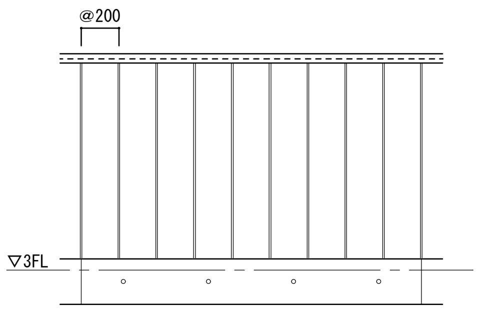


【ＬＧＳ】

Ａ－９　内部手摺（メンテナンス通路 手摺）

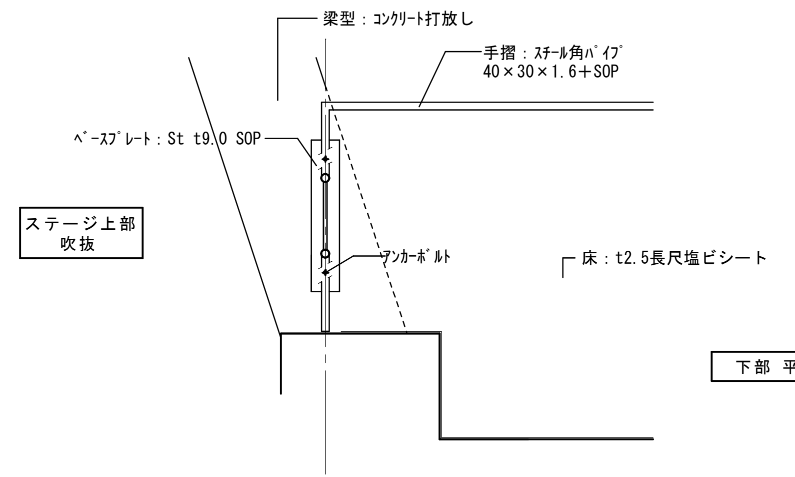
３Ｆ　メンテナンス通路
A1:S=1/20
A3:S=1/40



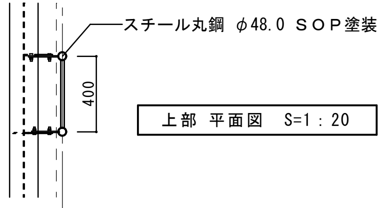


Ａ－１０　内部　ぶどう棚メンテナンス用タラップ

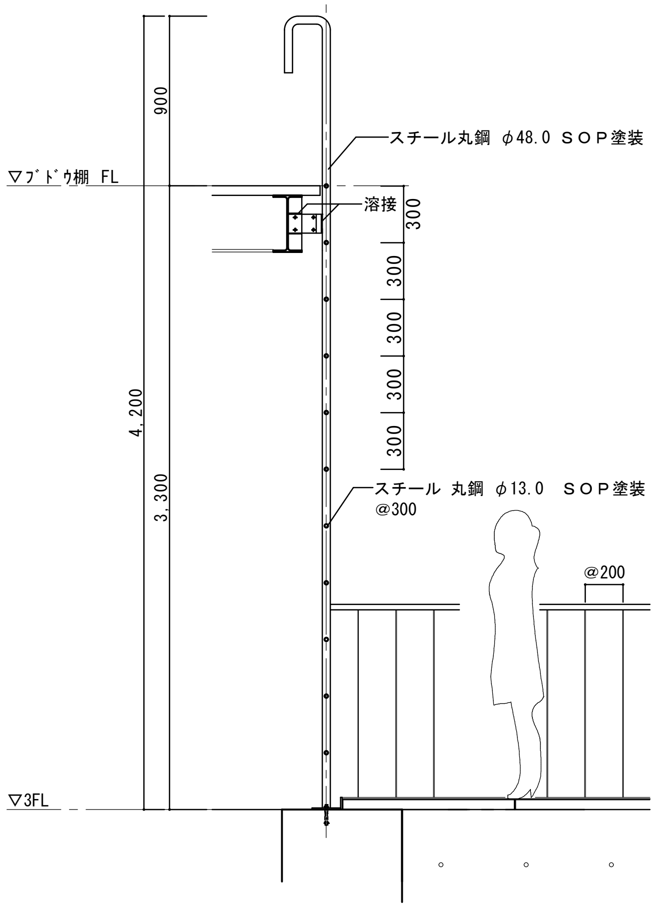
3F メンテナンス通路
A1:S=1/20
A3:S=1/40



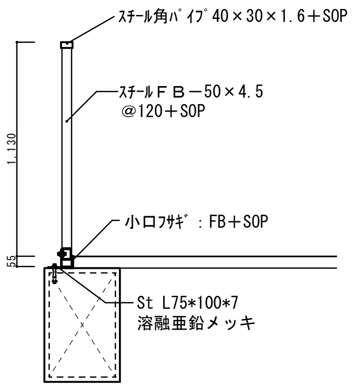
下部 平面図　S=1：20



上部 平面図　S=1：20



断面図　S=1:20

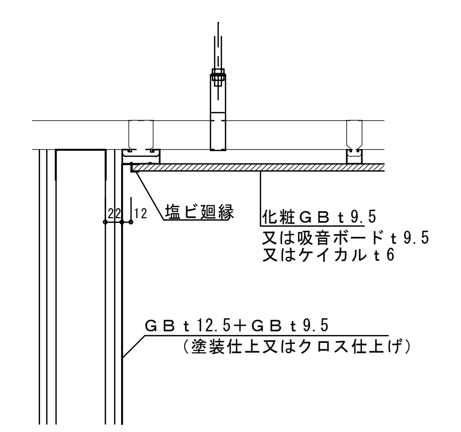


手摺 断面図　S=1:20

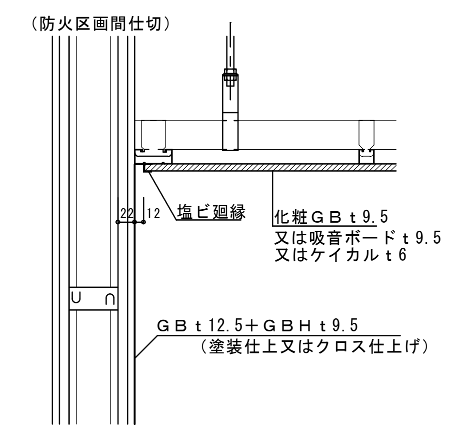
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（２）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ｂ－f02

Ａ－２　内部標準詳細図

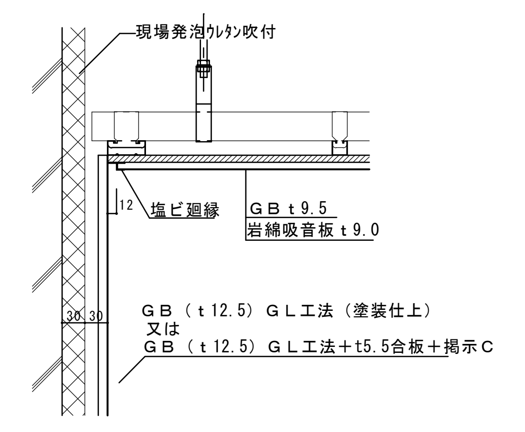
Ａ－１１　内部一般諸室（壁～天井）　A1:S=1/5　A3:S=1/10



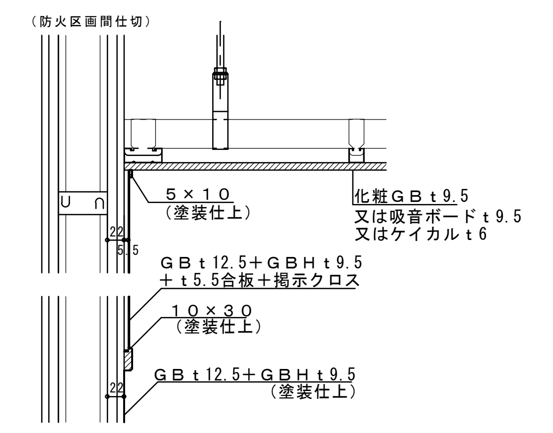
Ａ－１２　内部一般諸室（壁～天井）　A1:S=1/5　A3:S=1/10



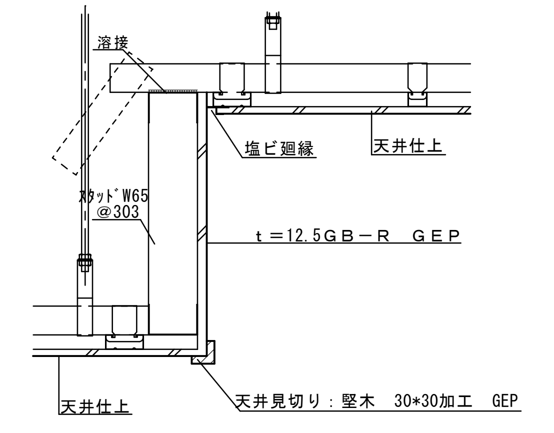
Ａ－１３　内部一般諸室（壁～天井）　A1:S=1/5　A3:S=1/10



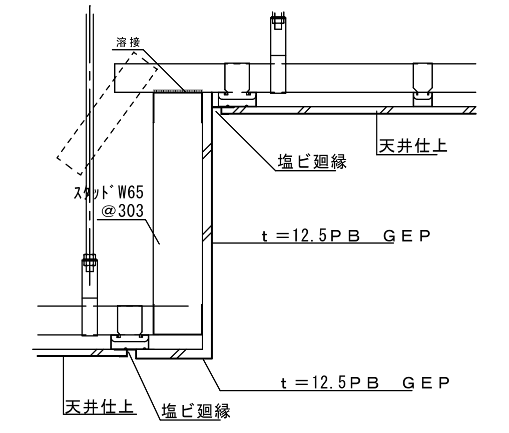
Ａ－１４　内部掲示ｸﾛｽ壁（壁～天井）　A1:S=1/5　A3:S=1/10



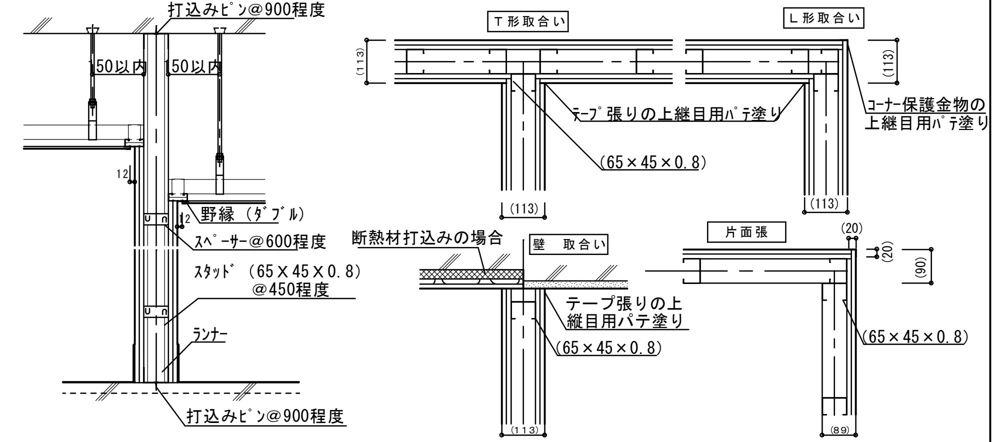
Ａ－１５　内部一般諸室下り天井　仕上納まり　A1:S=1/5　A3:S=1/10



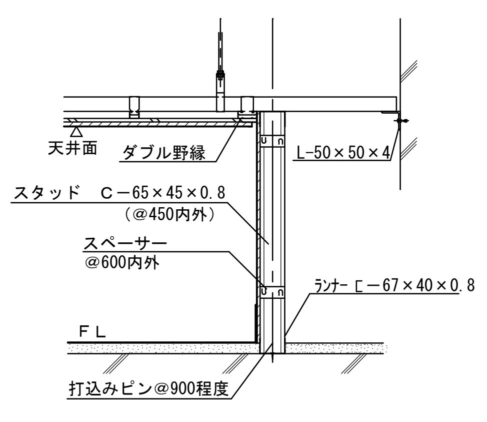
Ａ－１６　内部一般諸室下り天井　仕上納まり　A1:S=1/5　A3:S=1/10



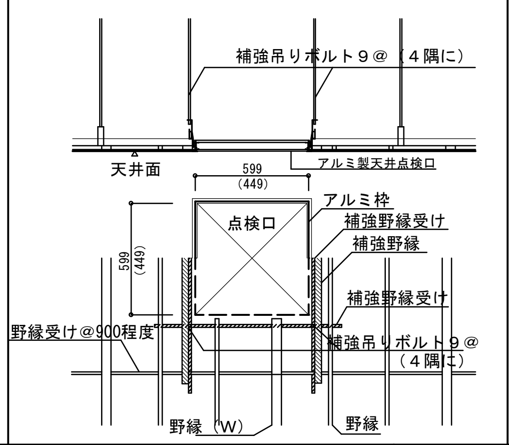
Ａ－１７　軽量鉄骨壁下地：各部取合　A1:S=1/10　A3:S=1/20



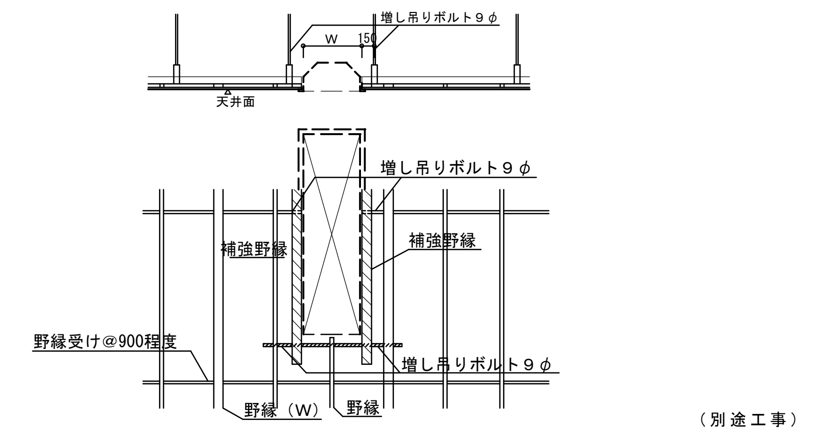
Ａ－１８　簡易軽鉄間仕切　A1:S=1/10　A3:S=1/20



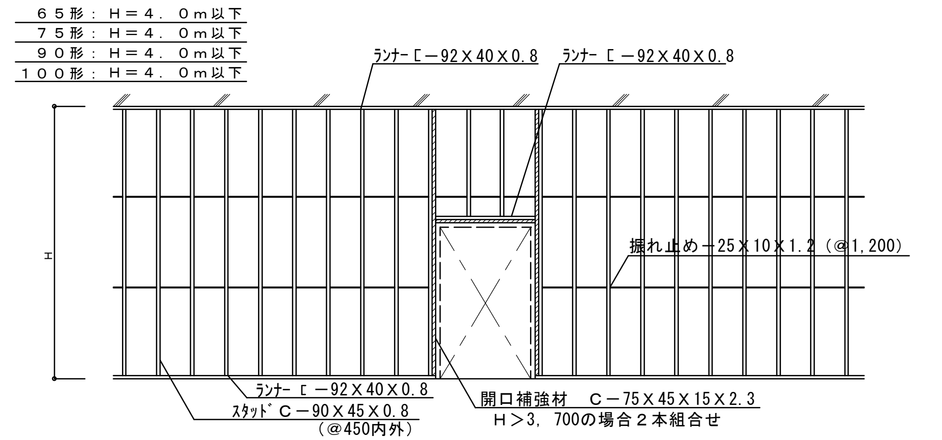
Ａ－１９　天井点検口　開口補強　A1:S=1/20　A3:S=1/40



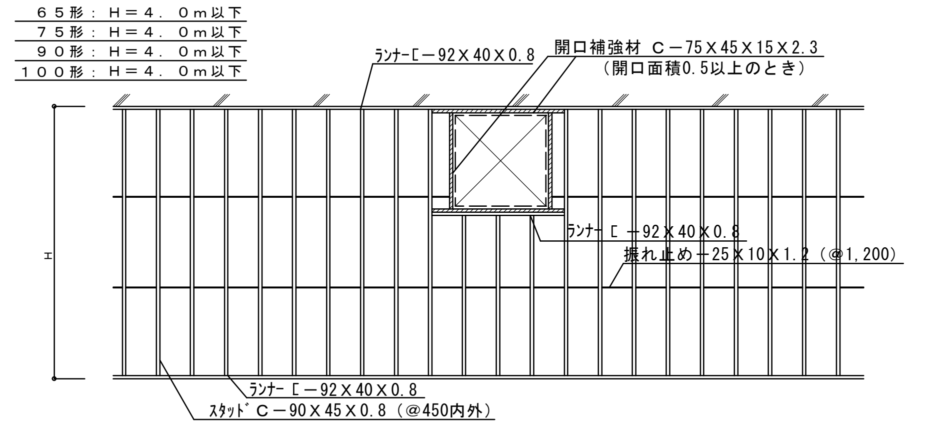
Ａ－２０　照明器具開口補強（別途工事）　A1:S=1/20　A3:S=1/40



Ａ－２１　軽鉄間仕切開口補強（ドア）　A1:S=1/50　A3:S=1/100



Ａ－２２　軽鉄間仕切開口補強（ダクト　等）　A1:S=1/50　A3:S=1/100



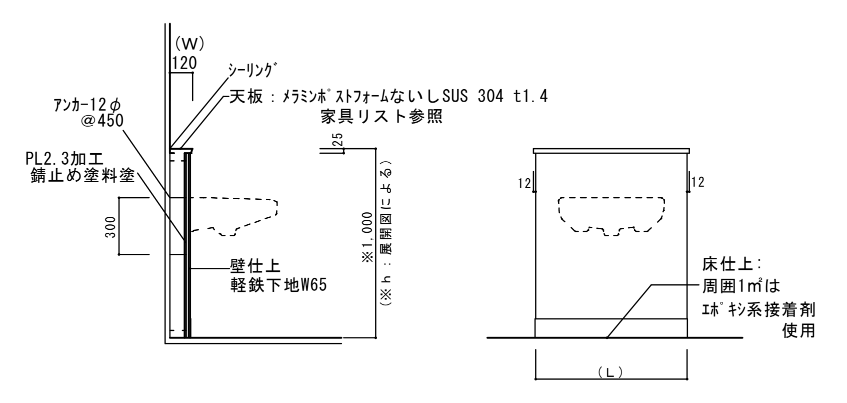
Ａ－２３

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（３）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ｂ－f03

Ａ－３　内部標準詳細図

Ａ－２４　洗面ライニング（ＬＧＳ）

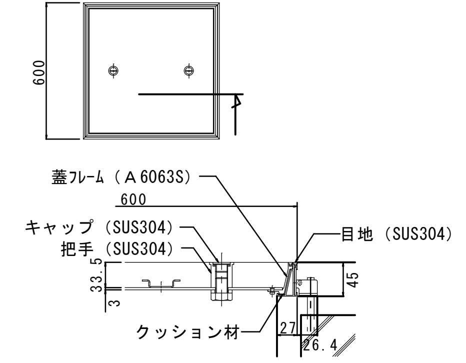
A1:S=1/20
A3:S=1/40



Ａ－２５　床点検口詳細図

A1:S=1/5
A3:S=1/10

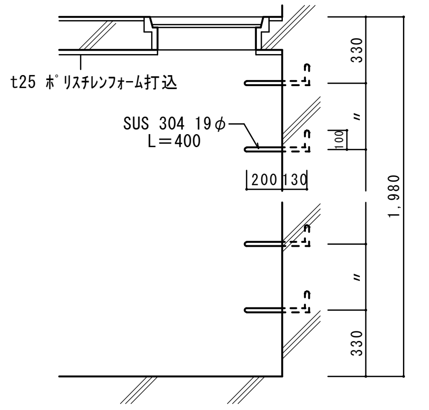
※特記なき限り、仕上材充填タイプ
※水槽部は密閉式、断熱仕様



Ａ－２６　床点検口詳細図

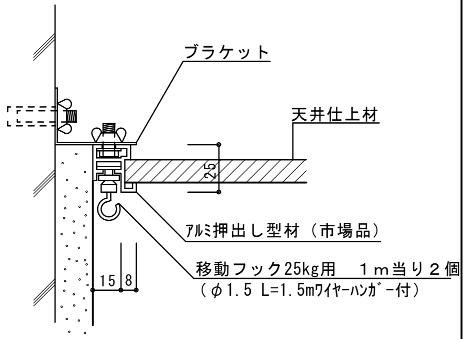
A1:S=1/20
A3:S=1/40

配管ピット　FL-1980：４段



Ａ－２７　ピクチャーレール

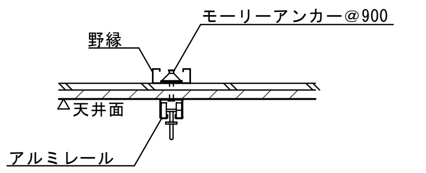
A1:S=1/2
A3:S=1/4



※　詳細はメーカー仕様による

Ａ－２８　カーテンレール

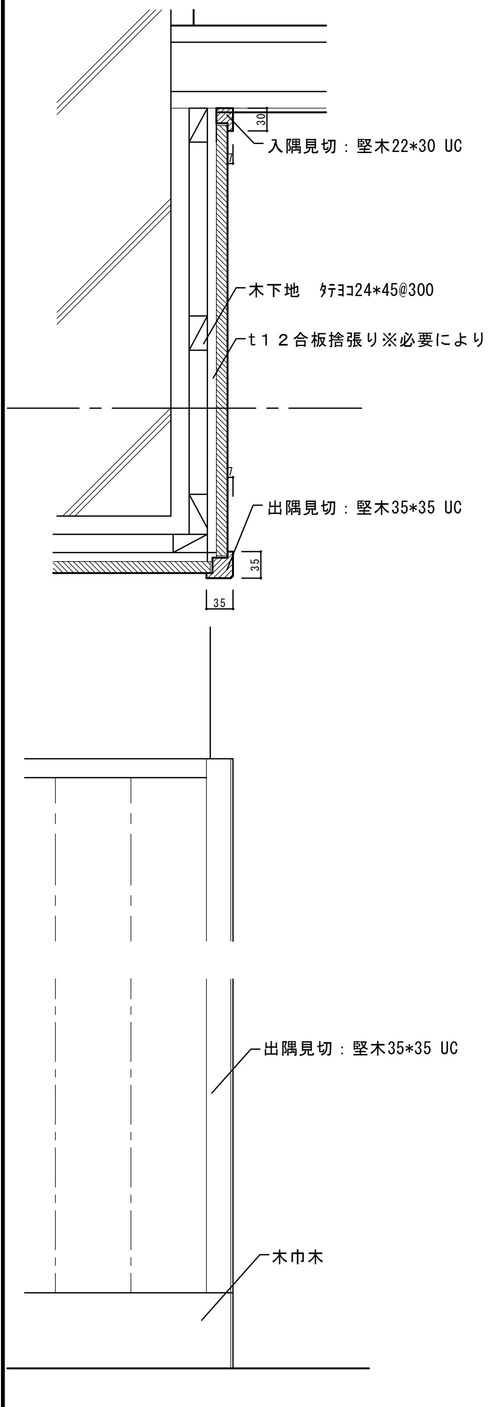
A1:S=1/5
A3:S=1/10



※　枠直付も本図に準ずる

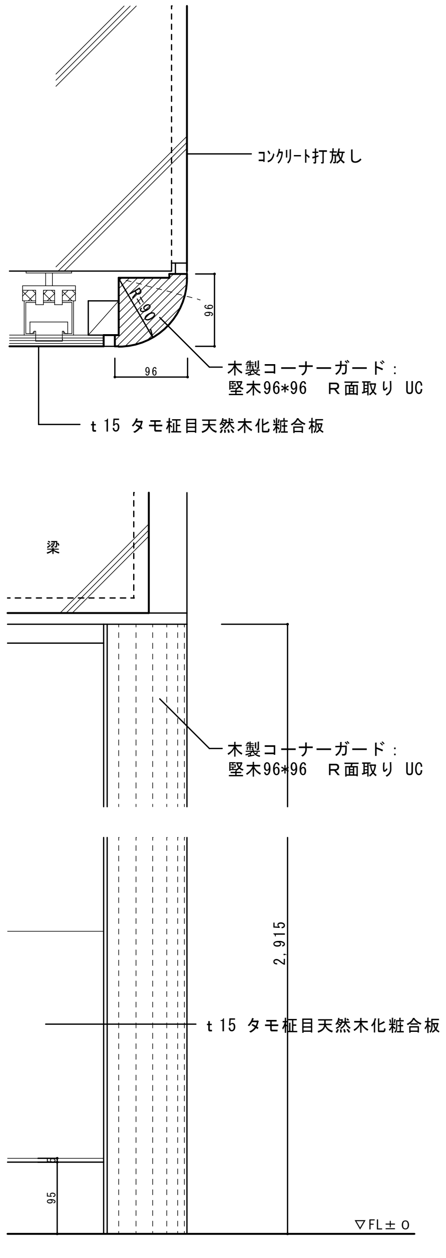
Ａ－２９　木部壁(柱型)出隅・入隅見切

A1:S=1/5
A3:S=1/10



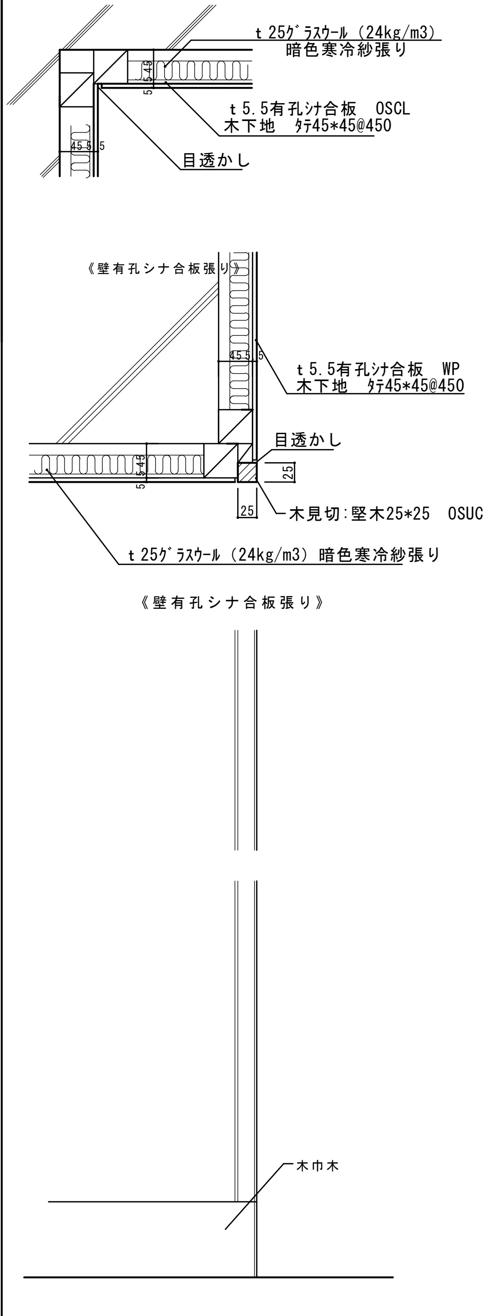
Ａ－３０　打放柱出隅コーナーガードＲ

A1:S=1/5
A3:S=1/10



Ａ－３１　木部壁見切（入隅・出隅）

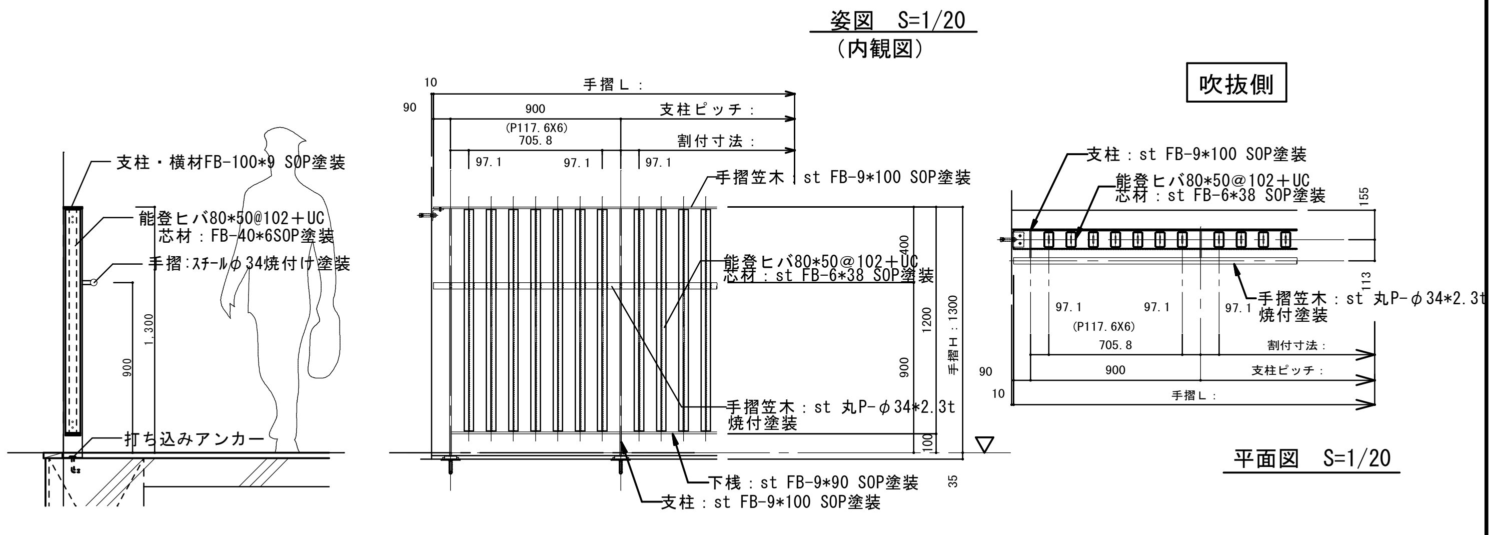
A1:S=1/5
A3:S=1/10



《壁有孔シナ合板張り》

Ａ－３２　アリーナ階段　２階吹抜手摺

A1:S=1/20
A3:S=1/40

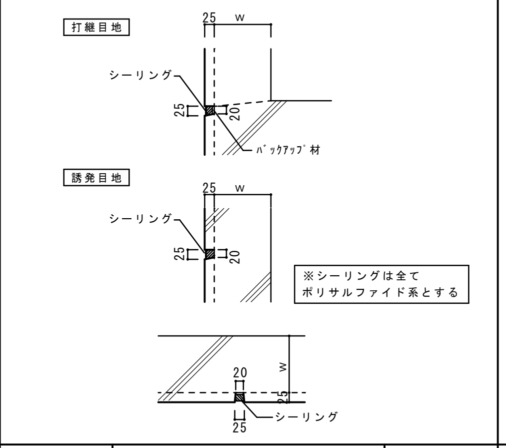


Ａ－３３

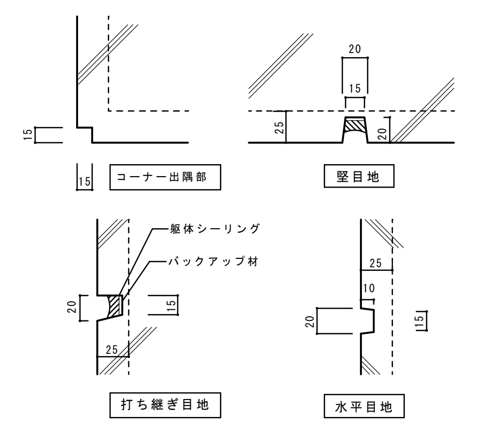
JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（４）	縮尺	A1:- A3:-	図番	Ｂ－f04	

Ｂ－　外部標準詳細図

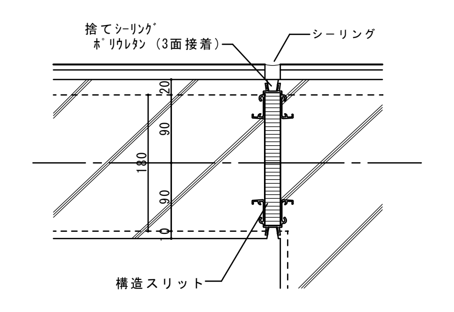
Ｂ－１　外壁目地　１：２０



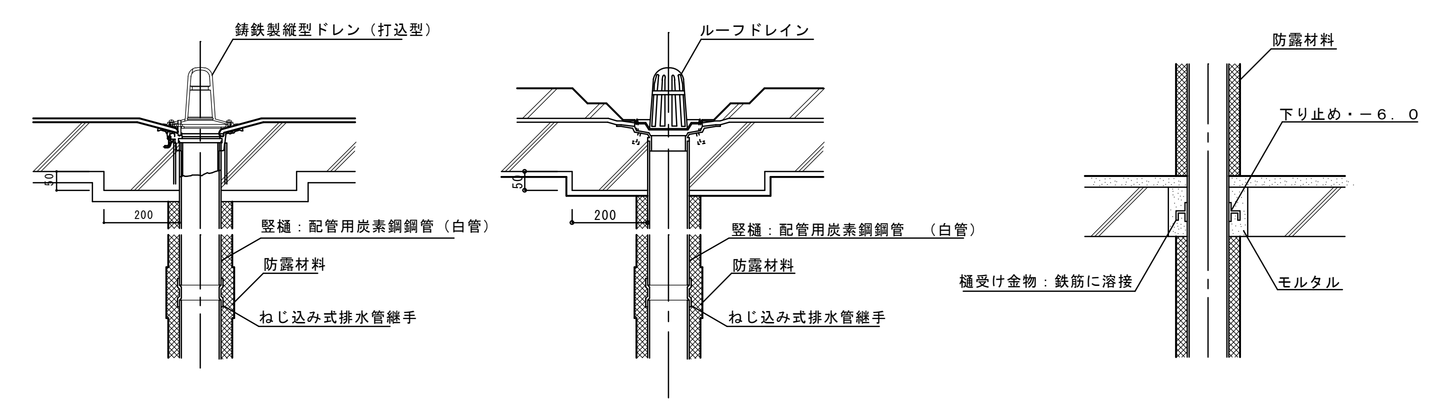
Ｂ－２　誘発目地　１：５



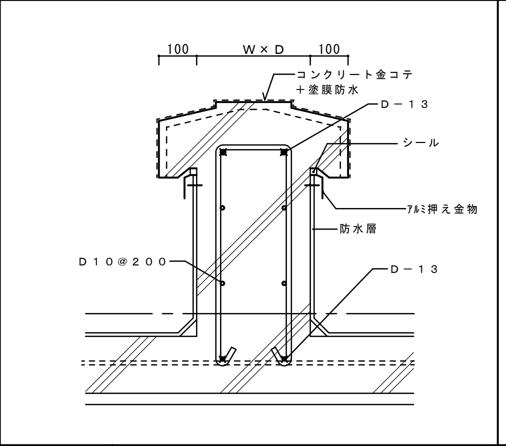
Ｂ－３　構造スリット　１：５



Ｂ－４　ルーフドレイン及び縦樋継手　１：１０

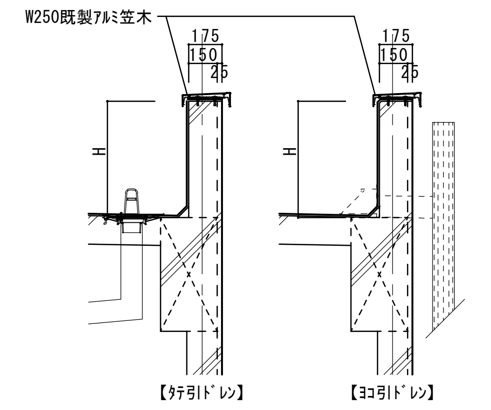


Ｂ－５　屋上　設備基礎　A1:S=1/10 A3:S=1/20

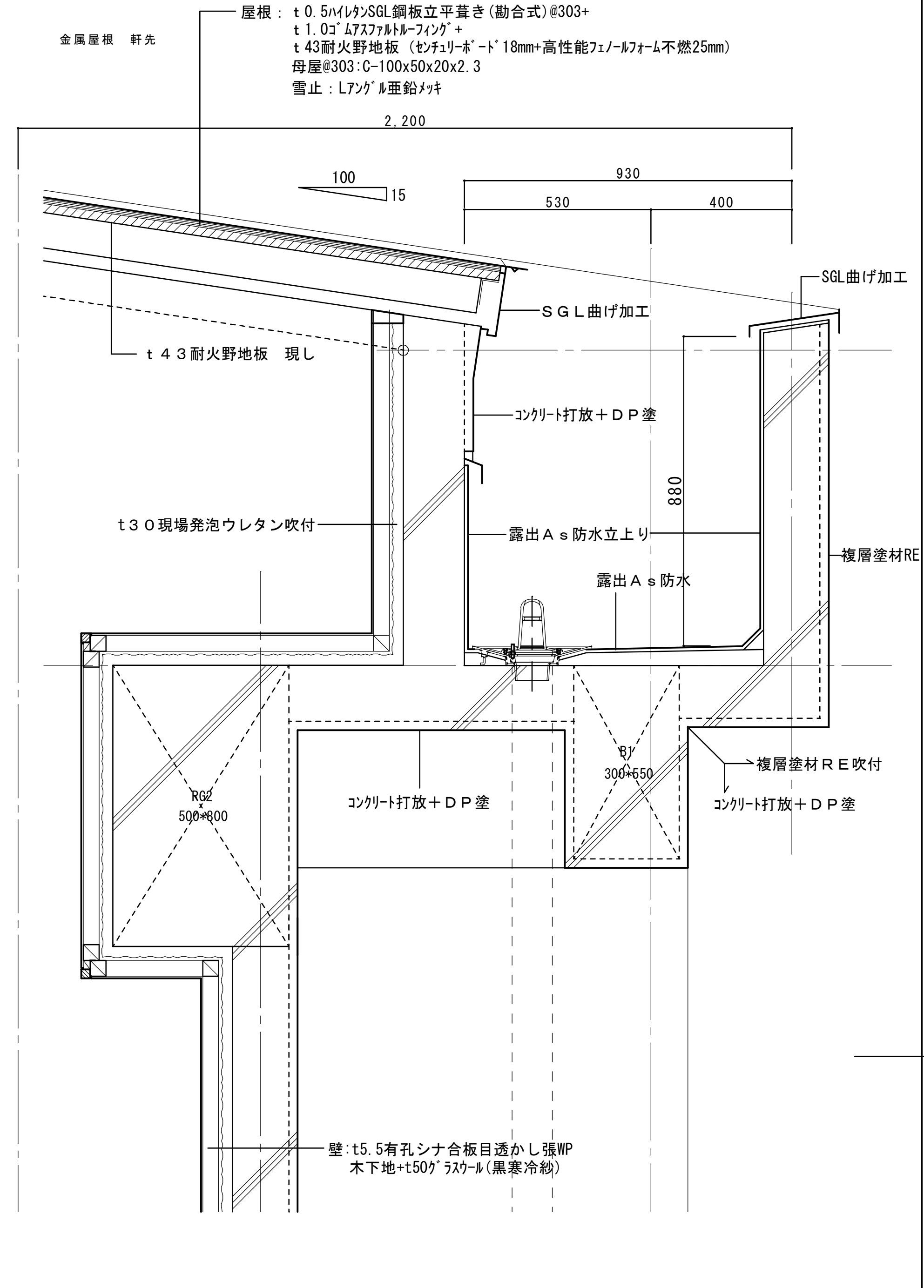


Ｂ－６　パラペット　A1:S=1/10 A3:S=1/20

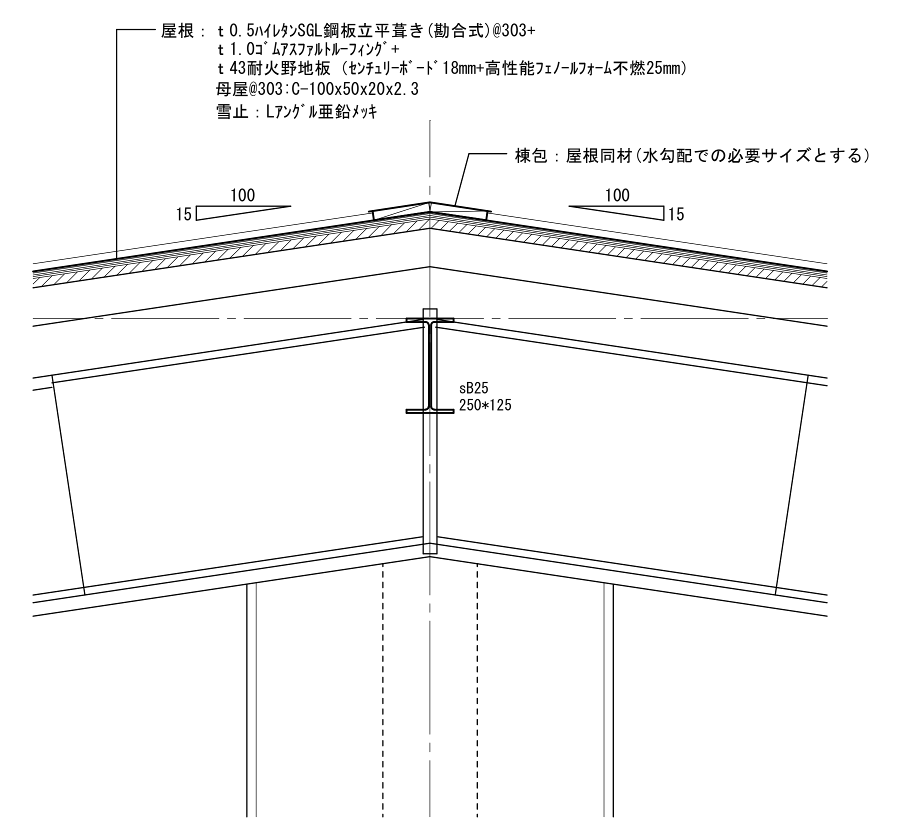
H＝各部による



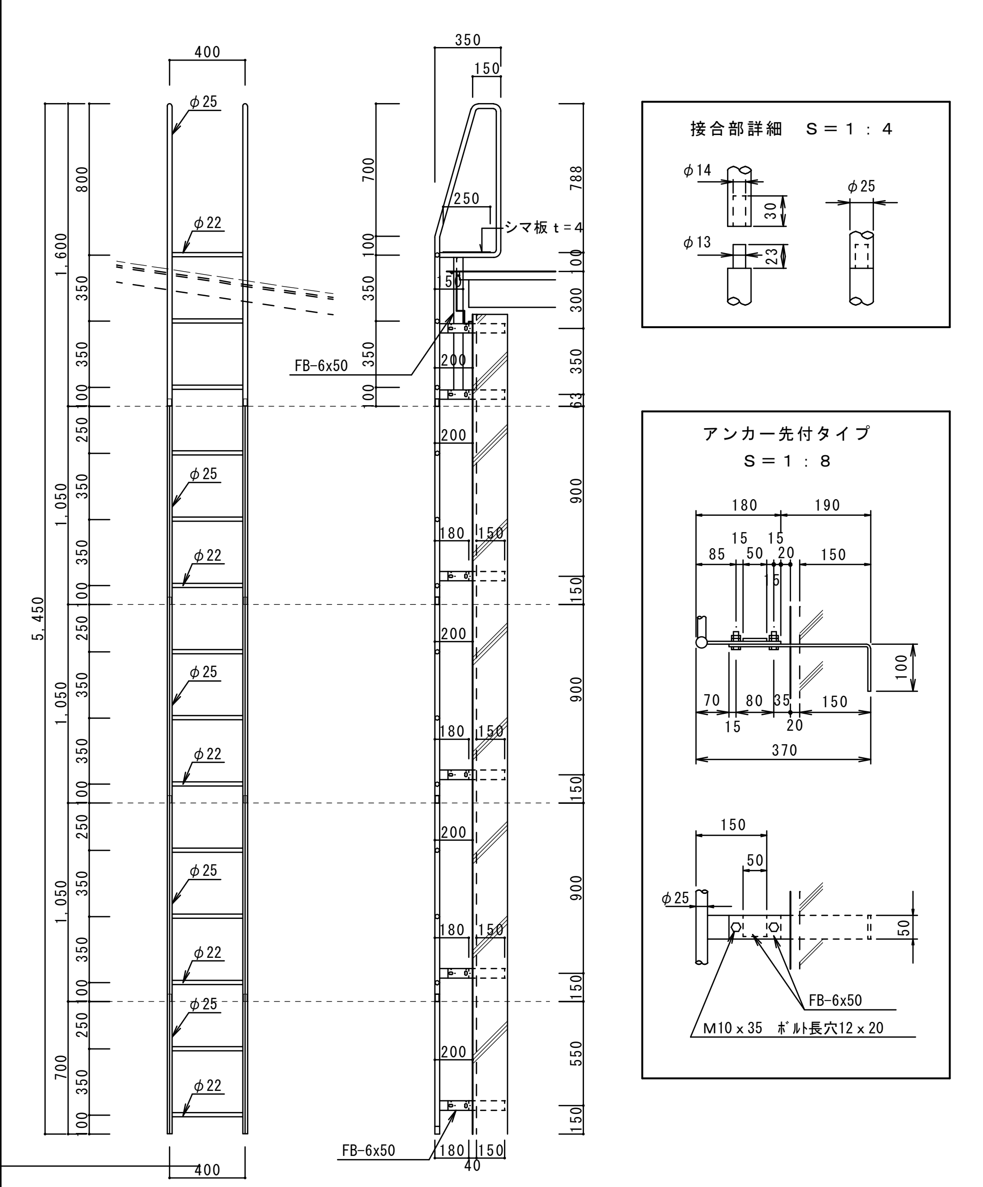
Ｂ－７　金属屋根　軒先　箱樋　A1:S=1/10 A3:S=1/20



Ｂ－８　金属屋根　棟　A1:S=1/10 A3:S=1/20


屋根：ｔ0.5ﾊｲﾚﾀﾝSGL鋼板立平葺き(勘合式)@303+
ｔ1.0ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ+
ｔ43耐火野地板（ｾﾝﾁｭﾘｰﾎﾞｰﾄﾞ18mm+高性能ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ不燃25mm）
母屋@303:C-100x50x20x2.3
雪止：Lｱﾝｸﾞﾙ亜鉛ﾒｯｷ
棟包：屋根同材(水勾配での必要サイズとする)
100
15
100
15
sB25
250*125

Ｂ－１１　タラップ　音楽室　A1:S=1/20 A3:S=1/40



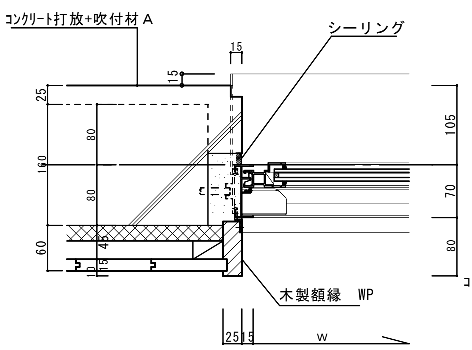
品　番	サイズ	仕　上	材　質
KS-RTR832S-1	タラップ上部　φ22ｘ400ｘφ25ｘ1600	ﾊﾞﾌ研磨	ｽﾃﾝﾚｽ SUS304
KS-RTR832S-2	タラップ中部　φ22ｘ400ｘφ25ｘ1050		
KS-RTR832S-3	タラップ下部　φ22ｘ400ｘφ25ｘ700		
KS-RTR832S-4	先付アンカープレート　300ｘ100ｘ50		
KS-RTR832S-5	後付けプレート　130ｘ65ｘ50		

株式会社ナスタ_塔屋タラップ建設省型　同等品

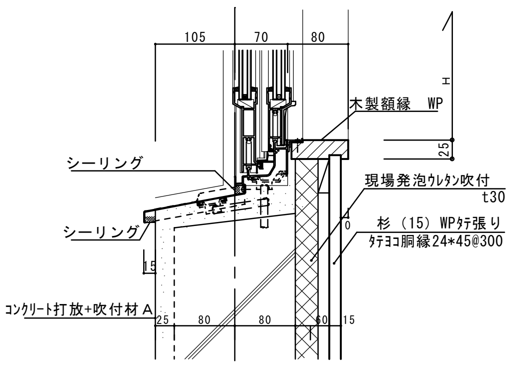
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　部分詳細図（５）	縮尺　A1:- A3:-	図番　Ｂ－f05

Ｃ－　建具詳細図

Ｃ－１　アルミサッシ枠廻り（一般）



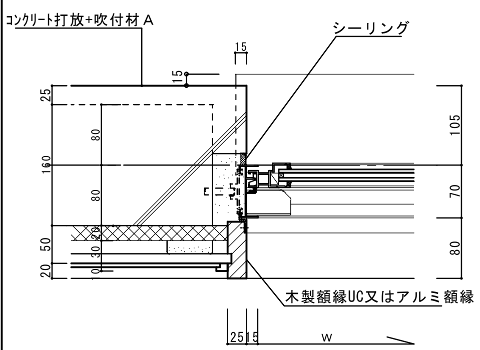
《腰壁　杉羽目板張り》



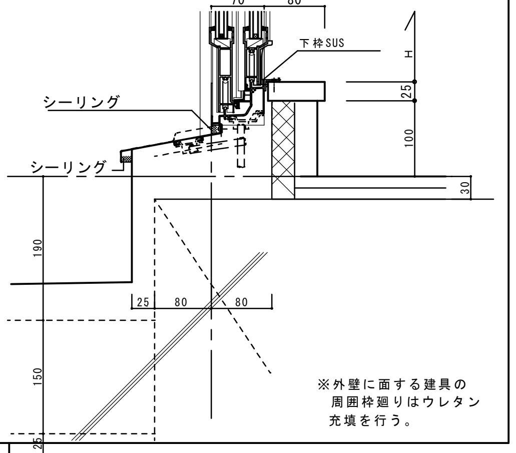
《腰壁　杉羽目板張り》

※外壁に面する建具の
周囲枠廻りはウレタン
充填を行う。

Ｃ－２　アルミサッシ枠廻り１（掃き出し部）　１：５

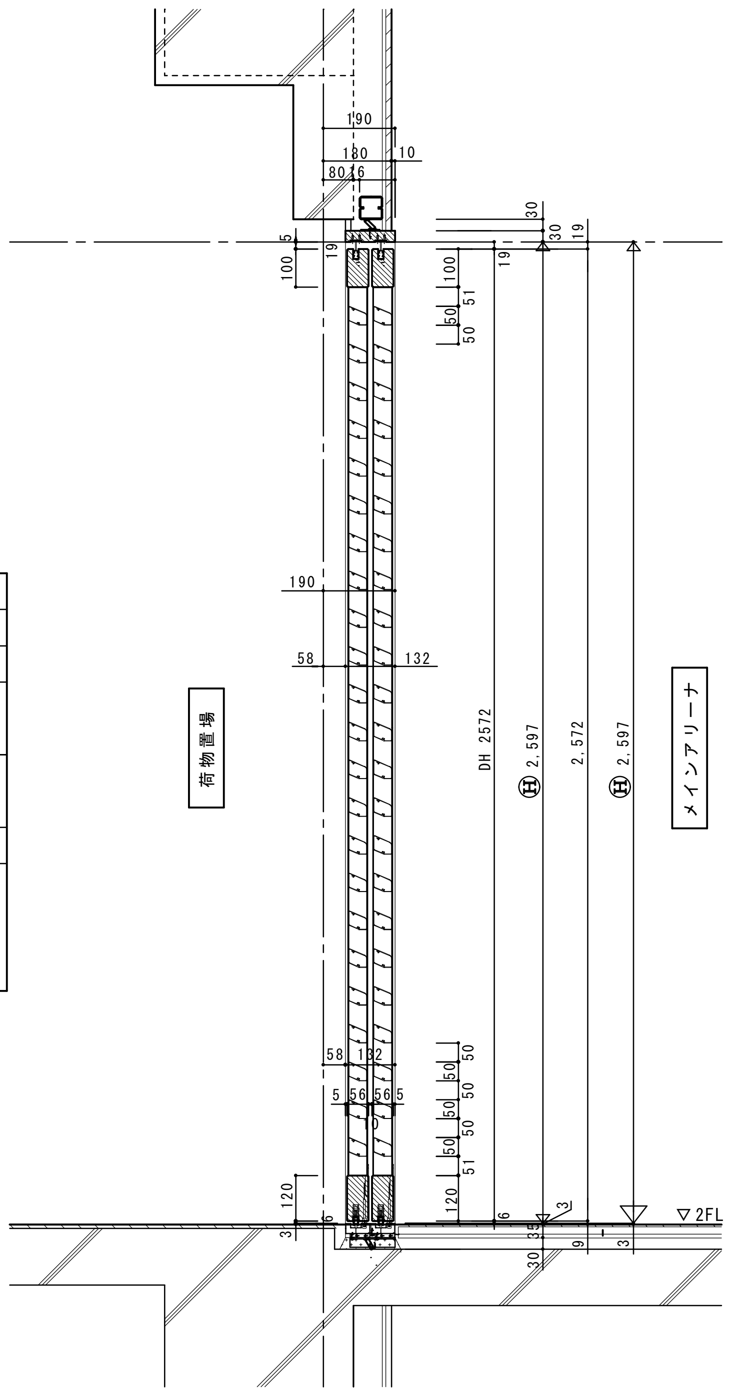


《上壁　掲示クロス壁》

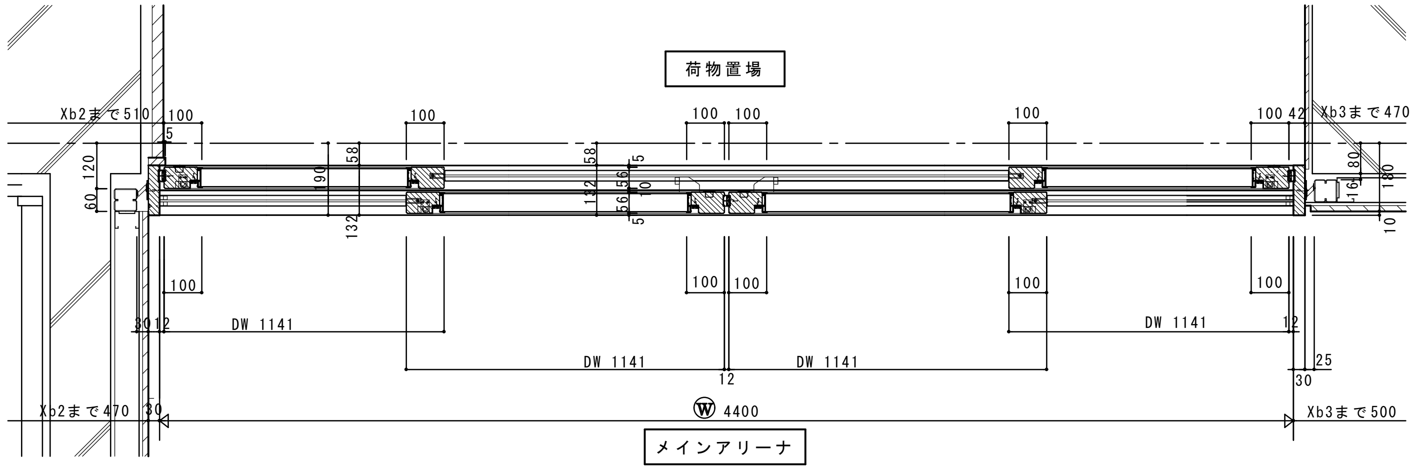


※外壁に面する建具の
周囲枠廻りはウレタン
充填を行う。

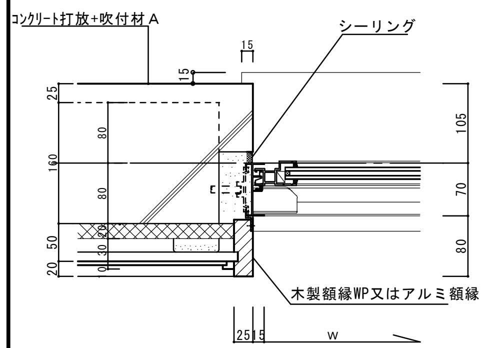
Ｃ－３　ＢＫ＋５１　防球格子引分け戸　A1:S=1/10 A3:S=1/20



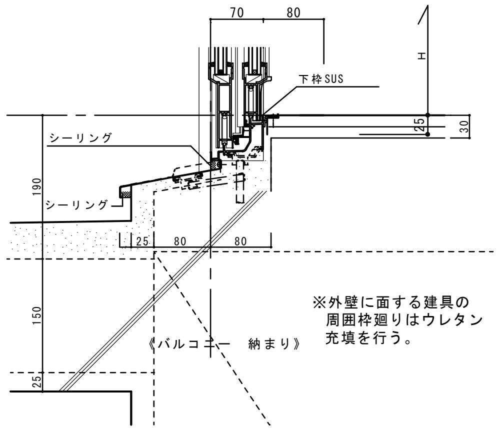
木・アルミ複合防球格子建具		
枠見込	枠見込　132mm　扉厚：56mm	
材　質	木　部	輪島産能登ヒバ集成材
	アルミ部	アルミニウム 合金押出形材
仕　上	木　部	ウレタンクリア塗装 （F☆☆☆☆）
	アルミ部	陽極酸化塗装複合皮膜
付属金物	掘込引手、重量用調整式戸車、 戸当りストッパー、手ばさみ防止ゴム、 スライド式フランス落し、 付属金物一式	



Ｃ－４　アルミサッシ枠廻り２（掃き出し部）　１：５



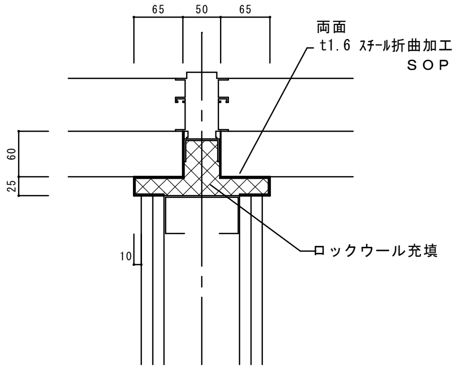
《上壁　掲示クロス壁》



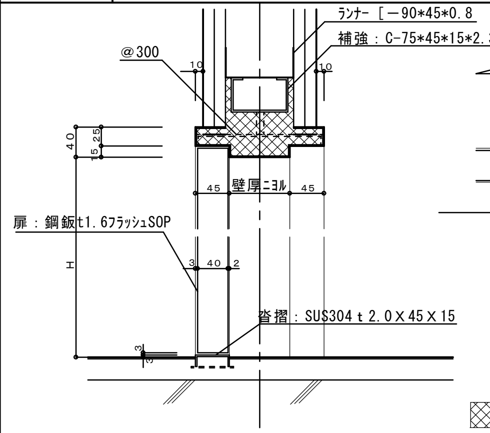
《バルコニー　納まり》

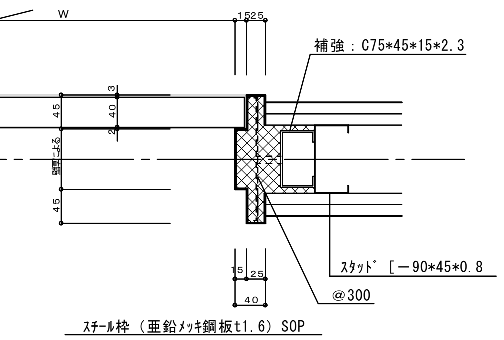
※外壁に面する建具の
周囲枠廻りはウレタン
充填を行う。

Ｃ－５　建具取合い枠　１：５



Ｃ－６　内部扉枠（ＬＳＧ壁）取合　１：５





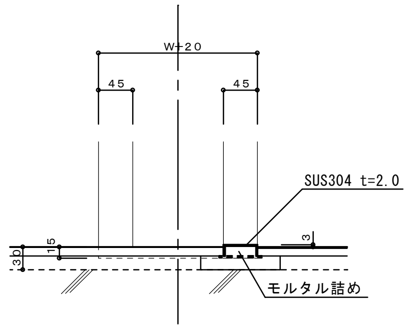
ｽﾁｰﾙ枠（亜鉛ﾒｯｷ鋼板t1.6）SOP

▨：三方枠廻りは耐火壁、遮音壁の場合はロックウール充填とする。

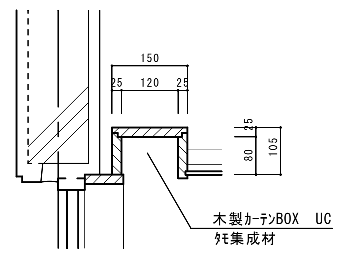
Ｃ－７　１：５

Ｃ－８

Ｃ－９　沓摺　１：５



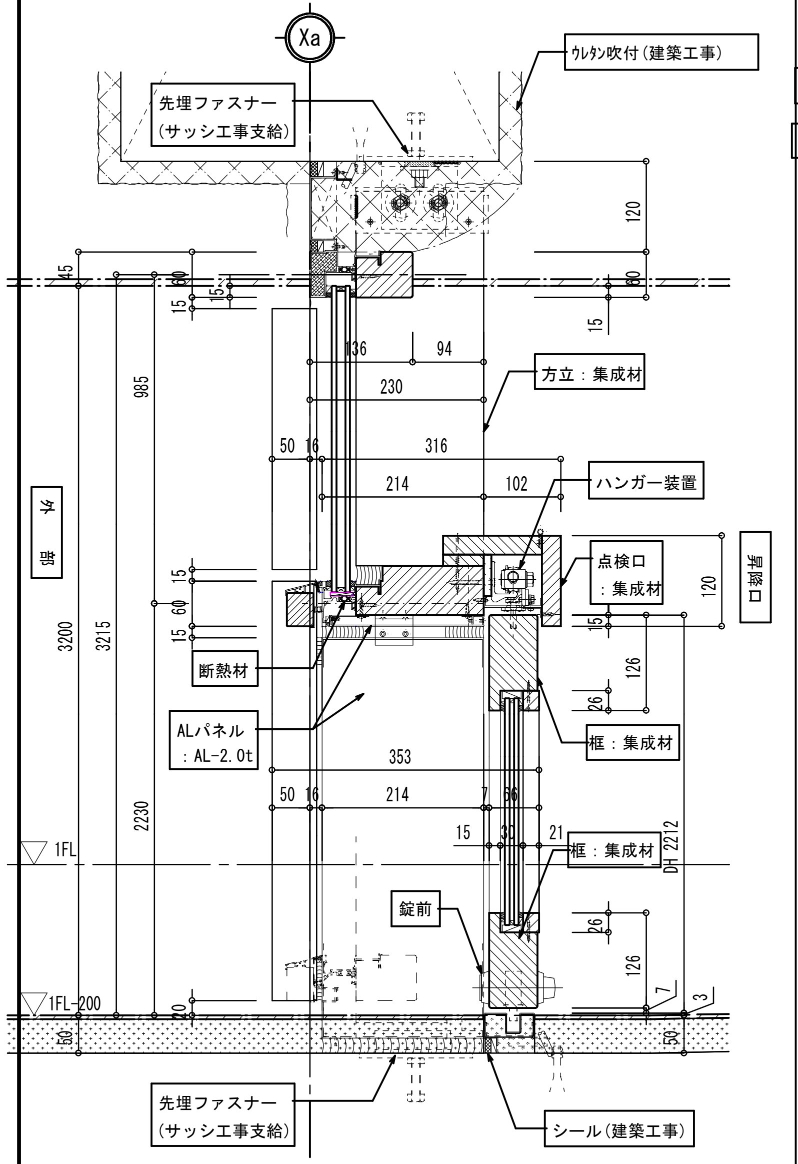
Ｃ－９　木製カーテンボックス　１：１０



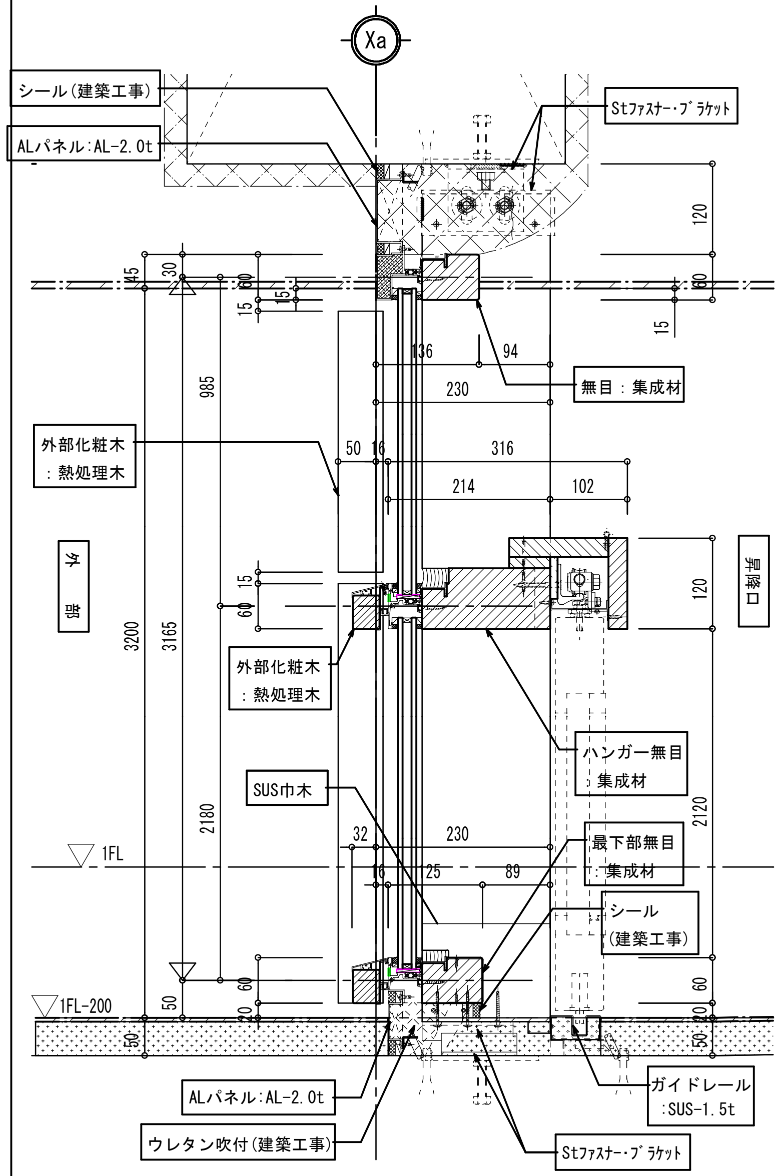
特記以外　一般部分

JOB NO.									
125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	部分詳細図（６）	縮尺 A1:- A3:-	図番 Ｂ－f06

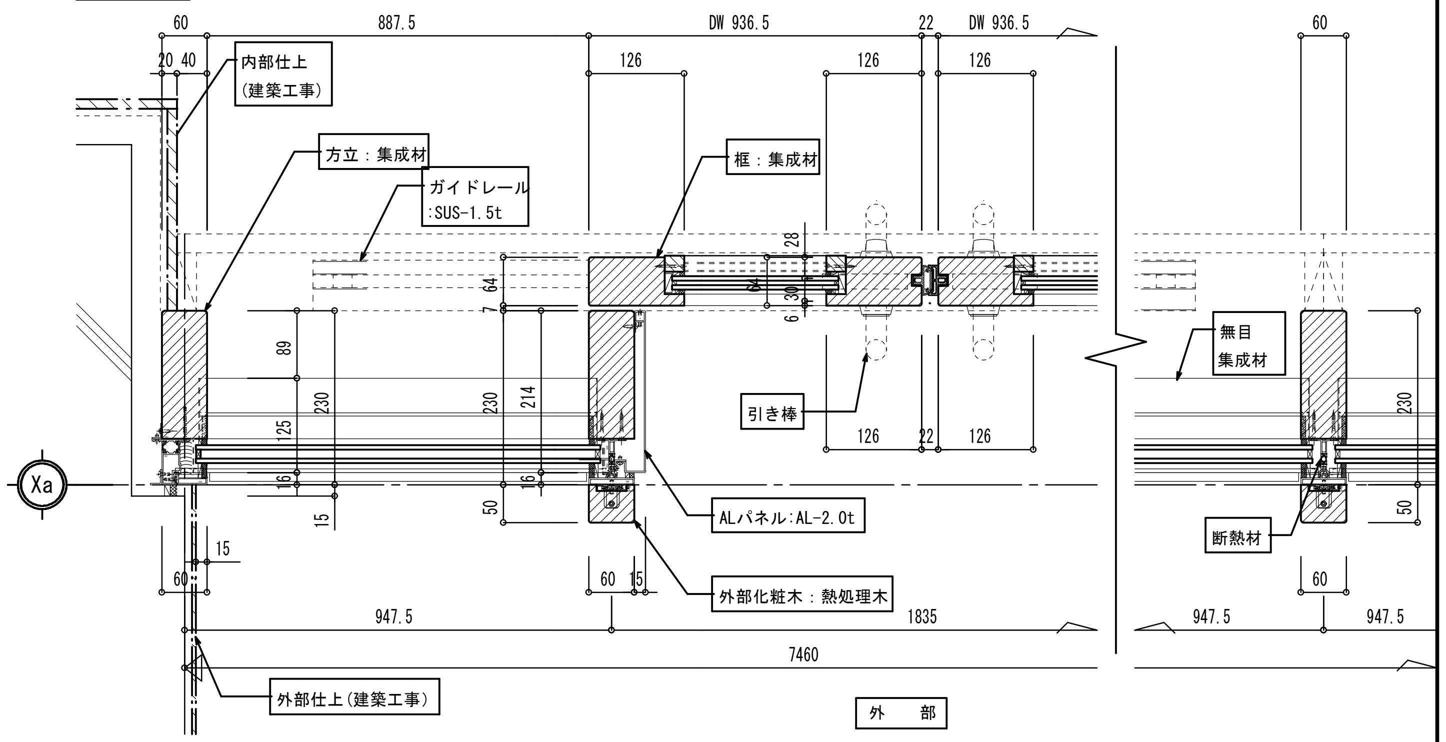
A sec　S=1/5



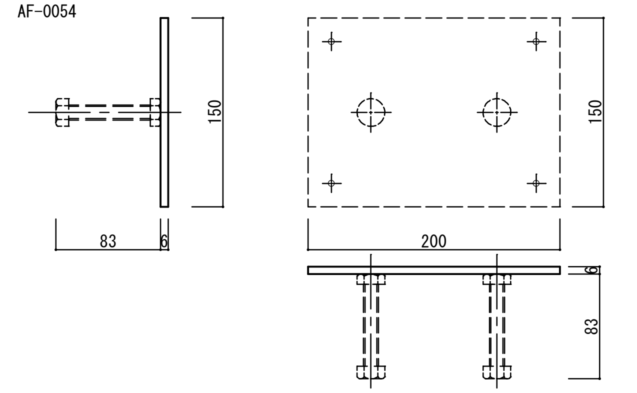
B sec　S=1/5



C sec　S=1/5

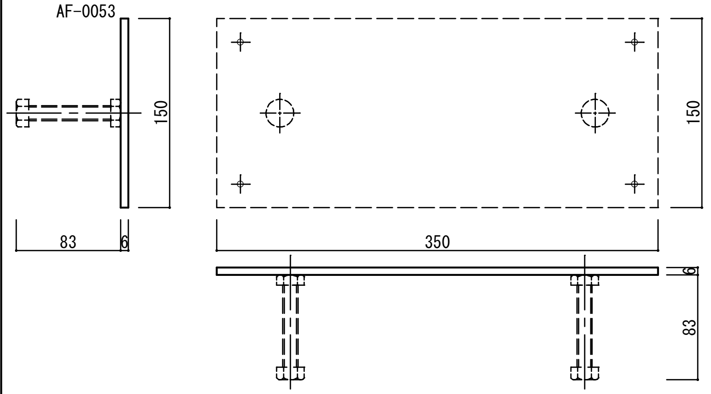


①ファスナー詳細　ＳｔＰＬ－200×150×ｔ6.0ｔ
AF-0054



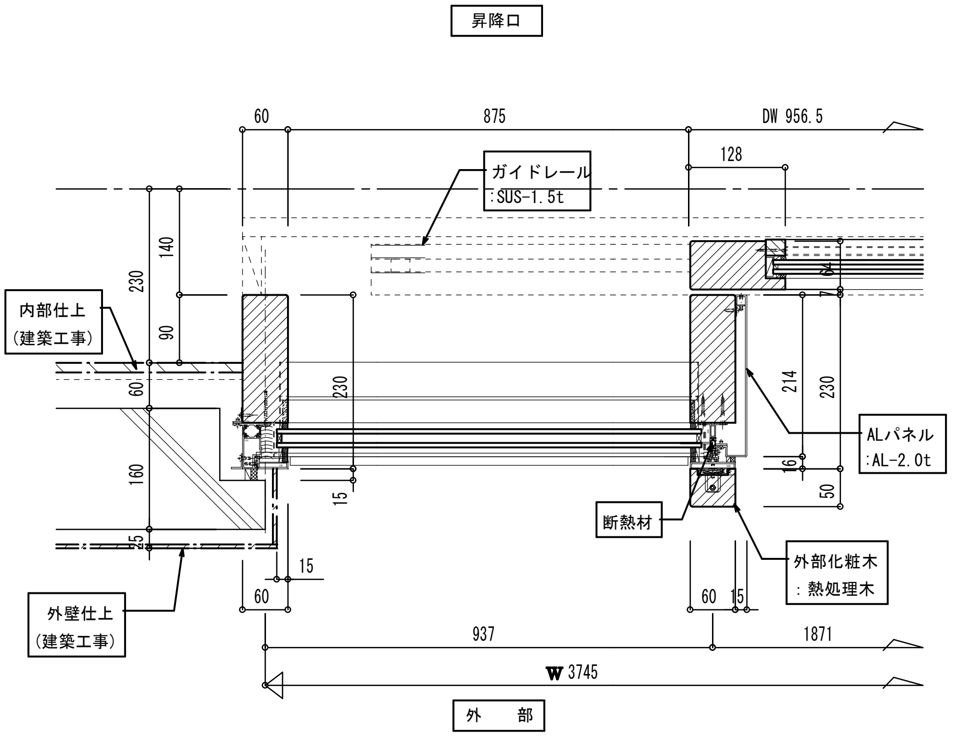
３２カ所（校舎棟26カ所、屋内運動場棟6カ所）

②ファスナー詳細　ＳｔＰＬ－350×150×ｔ6.0ｔ
AF-0053

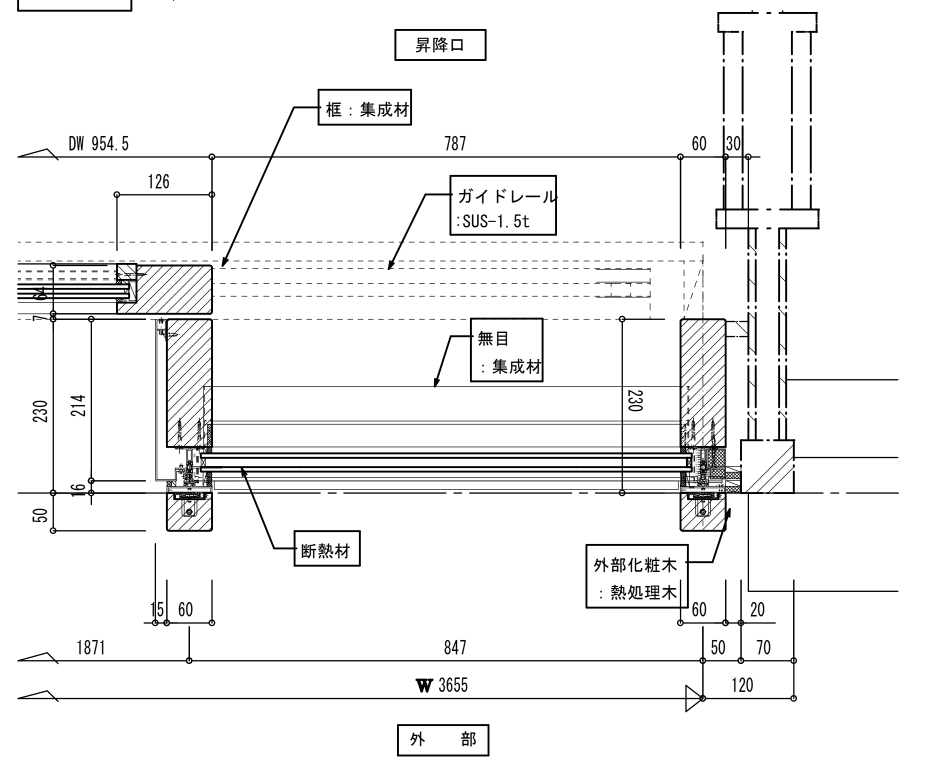


４カ所（校舎棟3カ所、屋内運動場棟1カ所）

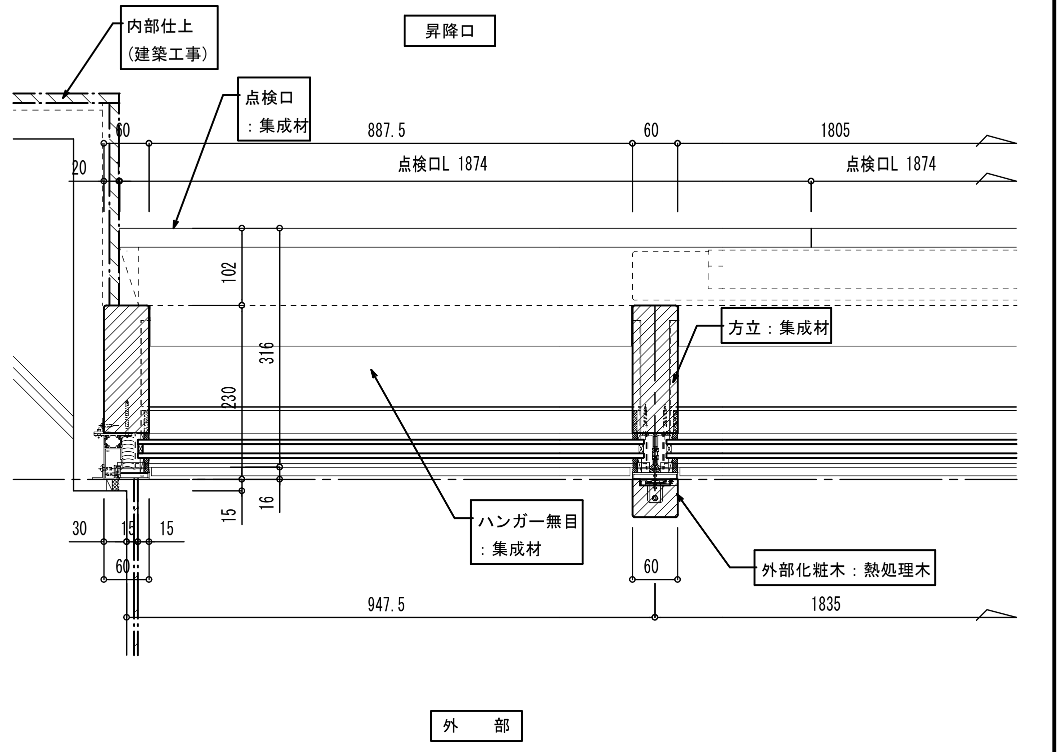
D sec　S=1/5



E sec　S=1/5

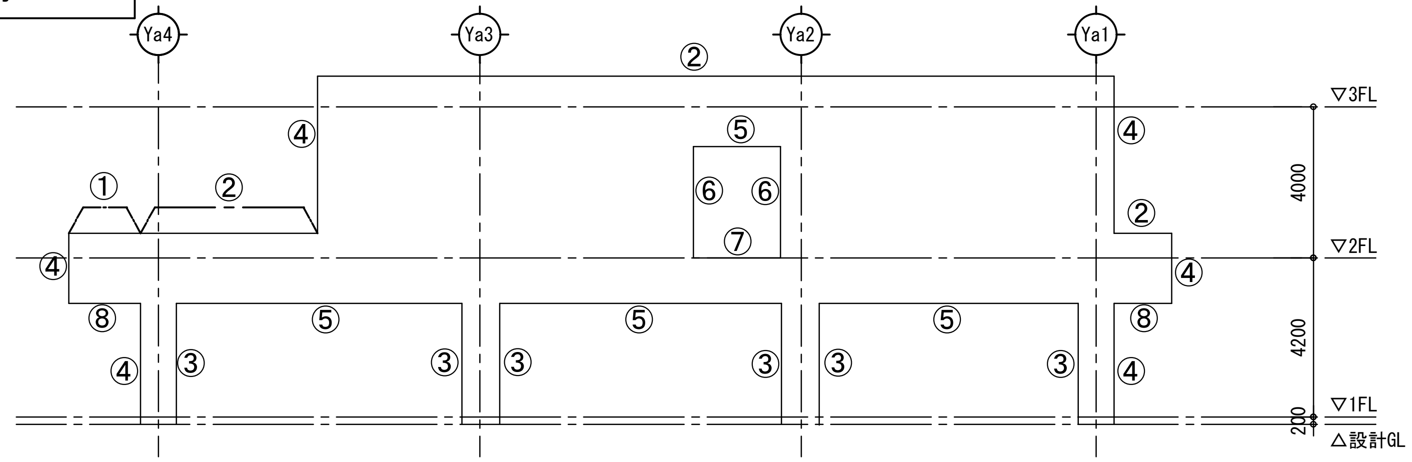


F sec　S=1/5



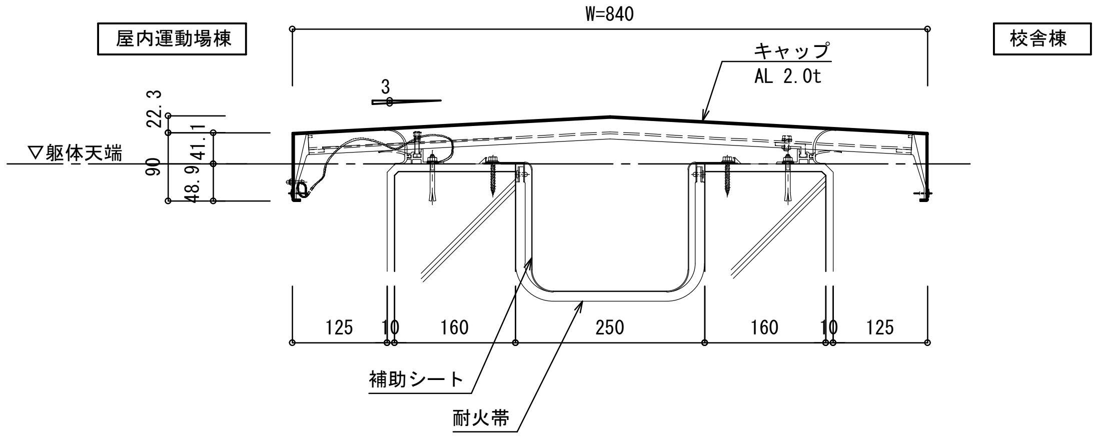
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事） 中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　木・アルミ複合サッシ詳細図	縮尺　A1：1/5 A3：1/10	図番　A －f09 B －f07

KeyPLAN



① 屋根 － 屋根(耐火仕様)12.5mm

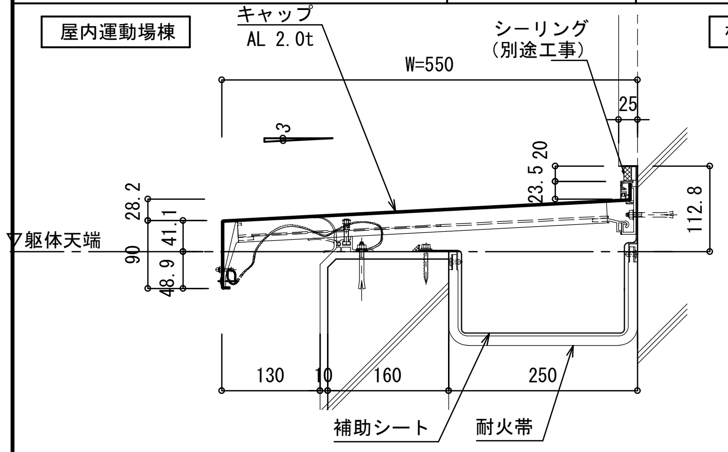
種別： アルミ
色：シルバー
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋フリー －フリー
Z	＋30mm －30mm

② 屋根コーナー(耐火仕様)12.5mm

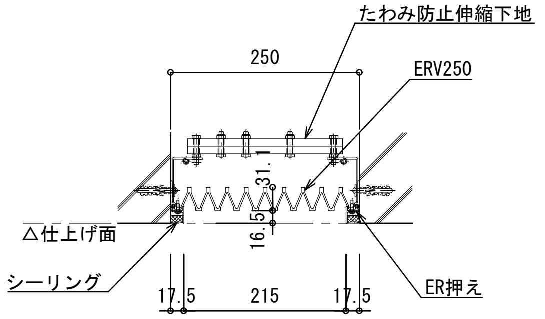
種別： アルミ
色：シルバー
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋フリー －フリー
Z	＋30mm －30mm

③ 内壁 － 内壁

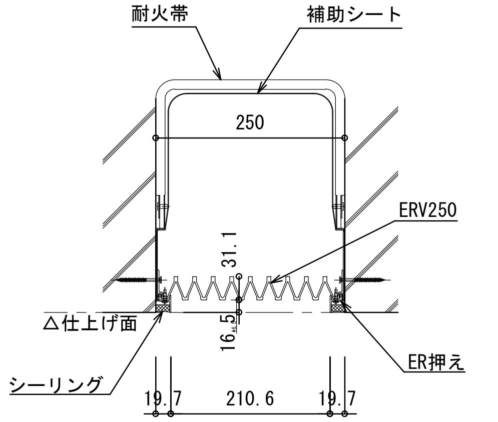
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋125mm －125mm
Z	＋125mm －125mm

④ 外壁 － 外壁(耐火仕様)12.5mm

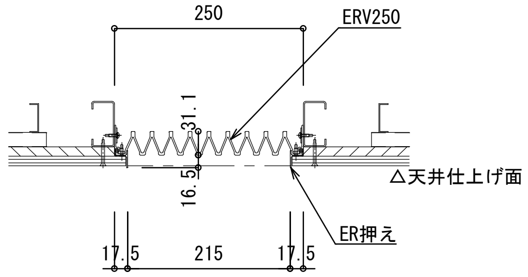
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋125mm －125mm
Z	＋125mm －125mm

⑤ 天井 － 天井

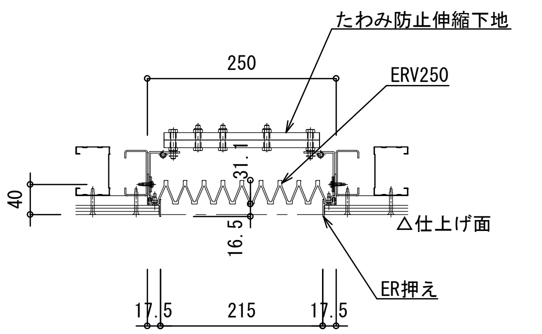
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋125mm －125mm
Z	＋125mm －125mm

⑥ 内壁 － 内壁 （ボード貼り）

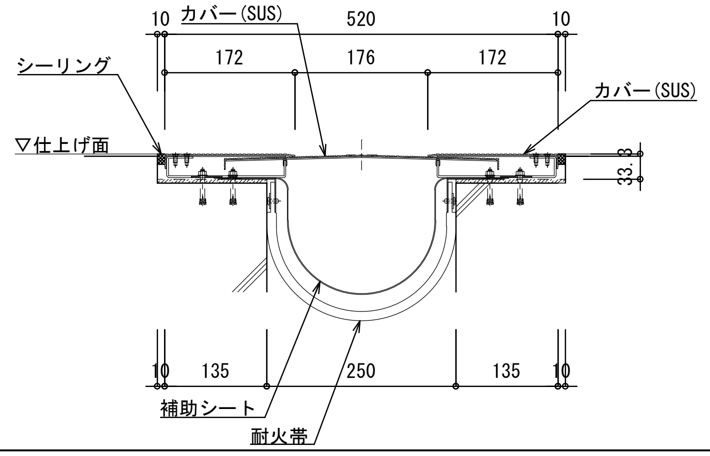
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋125mm －125mm
Z	＋125mm －125mm

⑦ 床 － 床(耐火仕様)12.5mm

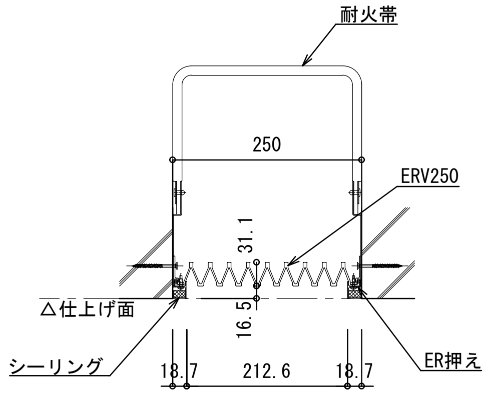
種別： ステンレス
クリアランス：250mm
S= 1:5



可動図	可動量
X	＋141mm -92mm
Y	＋フリー －フリー
Z	＋20mm －20mm

⑧ 天井 － 天井(耐火仕様)12.5mm

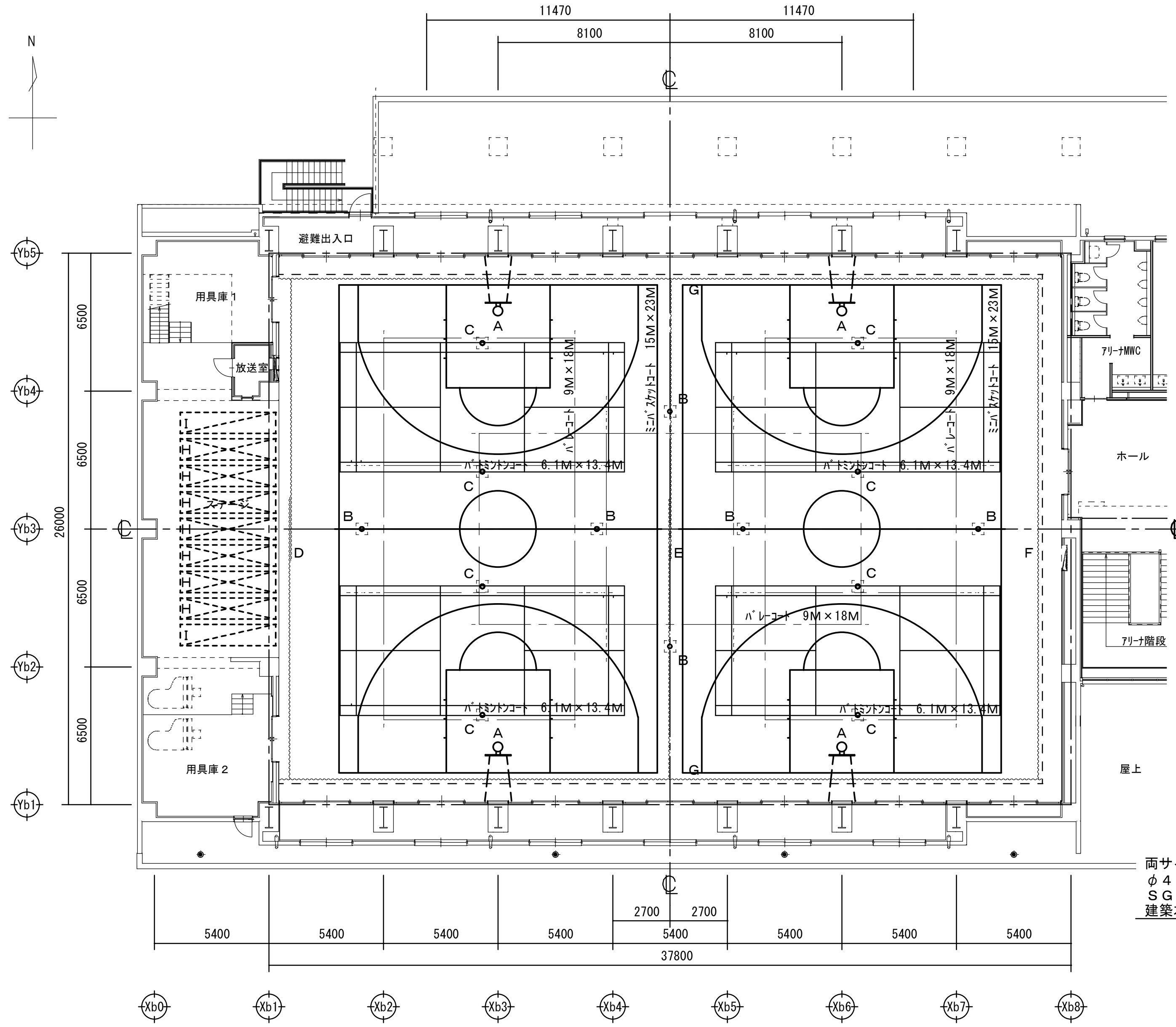
種別： 樹脂ゴム
色：規格色
クリアランス：250mm
S= 1:5

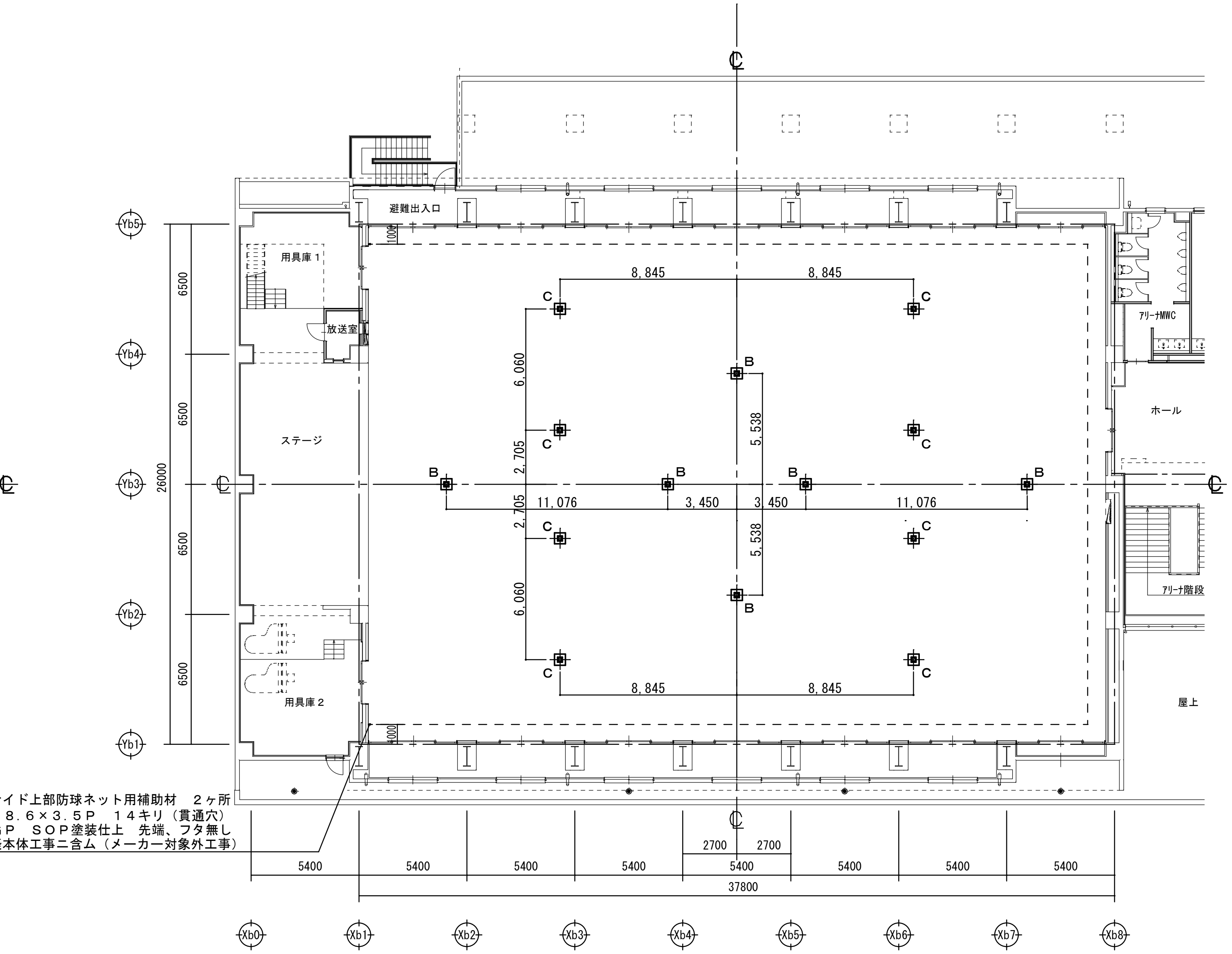


可動図	可動量
X	＋125mm －125mm
Y	＋125mm －125mm
Z	＋125mm －125mm

校舎棟工事とする

JOB NO. 125280
2026 年 月
中央地区小学校建設工事（校舎棟）（建築工事）
中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所 一級建築士 第276761号 浦 淳
設計 ・ ・
標題 ＥＸＰ．Ｊ詳細図
縮尺 A1：1/ 5 A3：1/10
図番 A －f10 B －f08





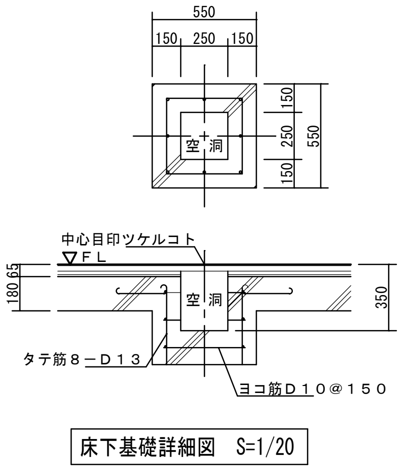
両サイド上部防球ネット用補助材　２ヶ所
φ４８．６×３．５Ｐ　１４キリ（貫通穴）
ＳＧＰ　ＳＯＰ塗装仕上　先端、フタ無し
建築本体工事ニ含ム（メーカー対象外工事）

体育施設明細				
記号	品番	品　名	仕　様	量 数
A	BA-4185	ジャバラ式ミニバスケット	日本バスケットボール協会検定品 木製板ｔ３０　　手動ハンドル式	２ 対
B	VT-6058	バレーポスト用床金具	板張用アップターン式　亜鉛合金製 ソケットダクロ仕上	３ 組
C	VT-7060	バドミントンポスト用床金具	板張用アップターン式　亜鉛合金製 ソケットダクロ仕上	４ 組
D	GF-5071	防球ネット（ロープ操作式）	ピアノ線張り　両開式　ステージ前 ポリエチレンネット 100mm目　グリーン	１ 張
E	GF-5071	防球ネット（ロープ操作式）	ピアノ線張り　両開式　中央 ポリエチレンネット 100mm目　グリーン	１ 張
F	GF-5076	防球ネット（手引式）	ピアノ線張り　片開式　妻側上部 ポリエチレンネット 100mm目　グリーン	１ 張
G	GF-5076	防球ネット（手引式）	ピアノ線張り　片開式　両サイド上部 ポリエチレンネット 100mm目　グリーン	２ 張
H	GF-7087	ＭＴ型椅子運搬車	スチール製　レール付 １Ｍ×４．５Ｍ　化粧パネル付	７ 台
I	GF-7087	ＭＴ型多目的運搬車	スチール製　レール付 １Ｍ×４．５Ｍ　化粧パネル付	２ 台

ライン引き明細						
優先順	記号	コート名	コート寸法	仕様	色	数量
2	──	ミニバスケットコート	１５Ｍ×２３Ｍ	全線　スリーポイントライン付 ライン巾５０ｍｍ	白	２ 面
1	━━	バレーコート（６人制）	９Ｍ×１８Ｍ	全線　ＦＩＶＢ仕様 ライン巾５０ｍｍ	青	１ 面
3	─-─	バレーコート（６人制）	９Ｍ×１８Ｍ	全線　ＦＩＶＢ仕様 ライン巾５０ｍｍ	黄	２ 面
4	──	バドミントンコート	６．１Ｍ×１３．４Ｍ	全線 ライン巾４０ｍｍ	緑	４ 面

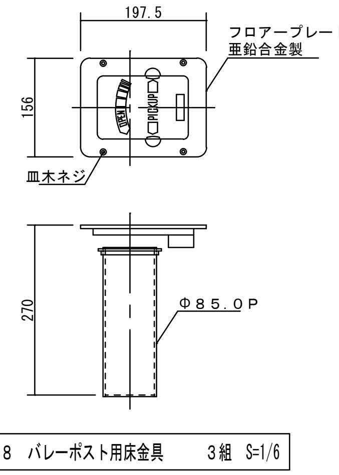
※優先順、ライン色は参考とする。

床下基礎明細		
記号	名　称	数　量
B	バレーポスト用	６ケ所
C	バドミントンポスト用	８ケ所
	合　計	１４ケ所

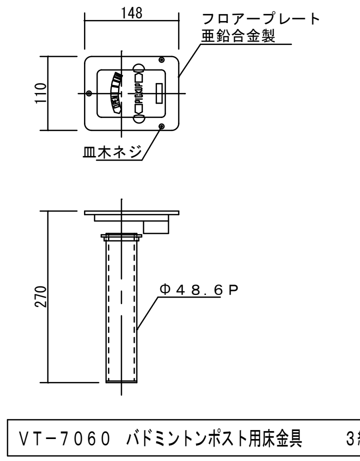


床下基礎詳細図　S=1/20

（建築本体工事ニ含ム）



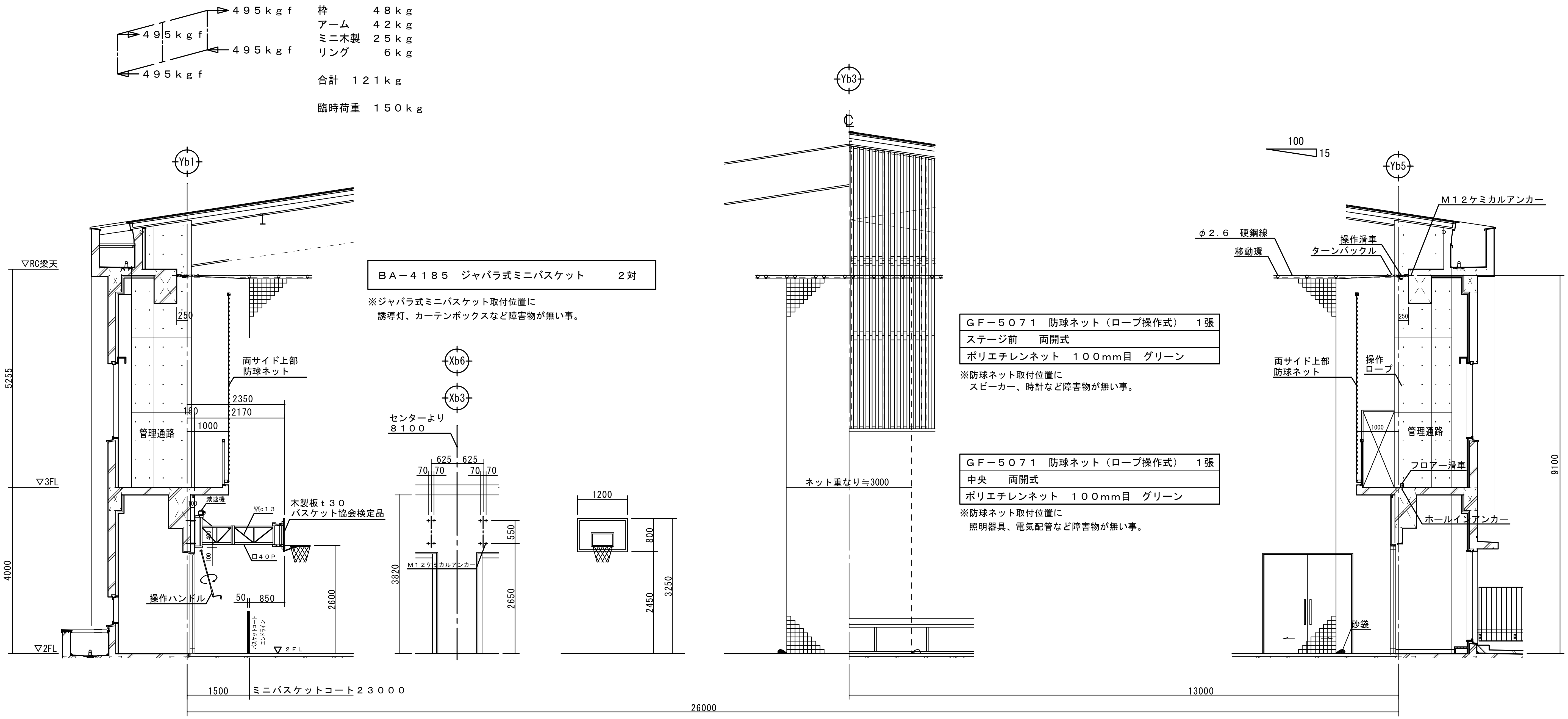
ＶＴ－６０５８　バレーポスト用床金具　　３組　S=1/6



ＶＴ－７０６０　バドミントンポスト用床金具　　３組　S=1/6

JOB NO.									
125280	2026 年 月	中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	体育器具　詳細図（１）（参考図）	縮尺	A1：1/10.50 A3：1/20.100

図番　Ｂ－f09



枠	４８ｋｇ
アーム	４２ｋｇ
ミニ木製	２５ｋｇ
リング	６ｋｇ
合計	１２１ｋｇ
臨時荷重	１５０ｋｇ

ＢＡ－４１８５　ジャバラ式ミニバスケット　２対

※ジャバラ式ミニバスケット取付位置に
誘導灯、カーテンボックスなど障害物が無い事。

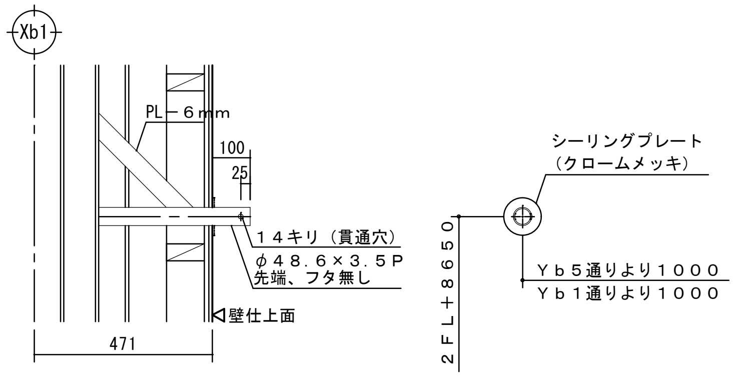
ＧＦ－５０７１　防球ネット（ロープ操作式）　１張
ステージ前　両開式
ポリエチレンネット　１００ｍｍ目　グリーン

※防球ネット取付位置に
スピーカー、時計など障害物が無い事。

ＧＦ－５０７１　防球ネット（ロープ操作式）　１張
中央　両開式
ポリエチレンネット　１００ｍｍ目　グリーン

※防球ネット取付位置に
照明器具、電気配管など障害物が無い事。

JOB NO.											
125280	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	体育器具　詳細図（２）（参考図）	縮尺	A1：1/10.50 A3：1/20.100	図番	Ｂ－f10

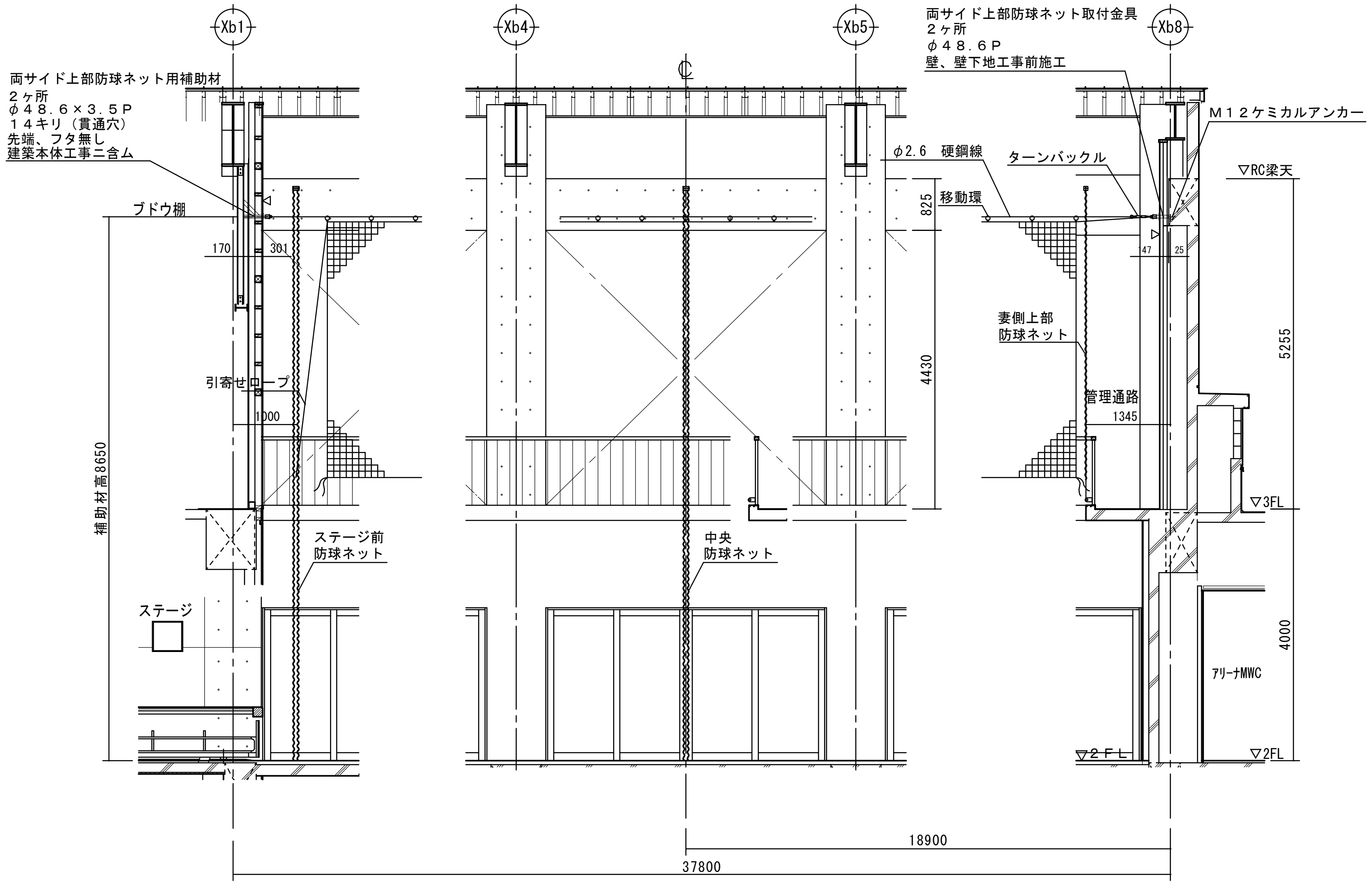


防球ネット用補助材詳細図　S=1/10

※両サイド上部　２ヶ所（ステージ側）
建築本体工事ニ含ム

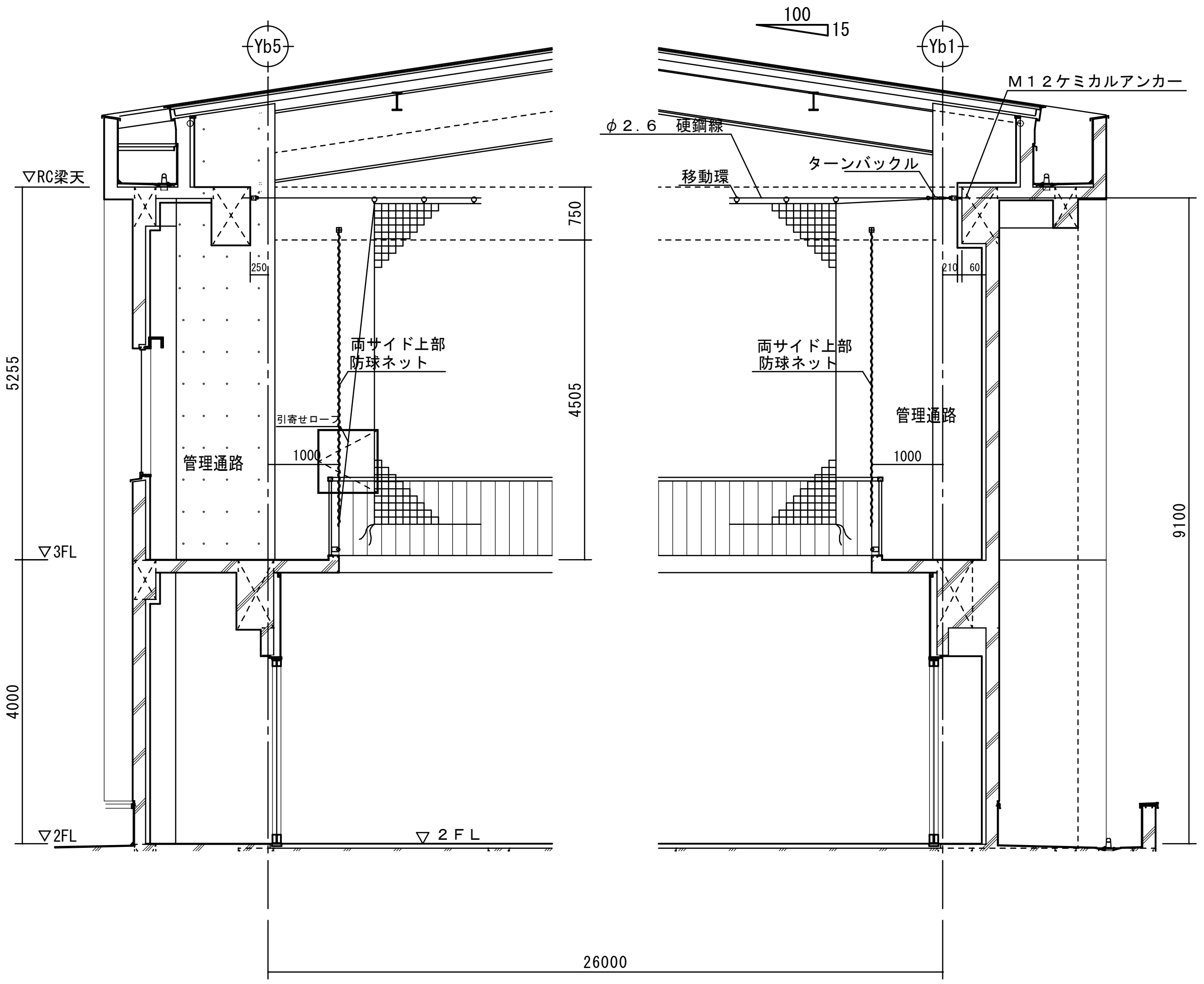
ＧＦ－５０７６　防球ネット（手引式）	２張
両サイド上部　　片開式	
ポリエチレンネット　１００mm目　グリーン	

※防球ネット取付位置に
スピーカー、時計など障害物が無い事。



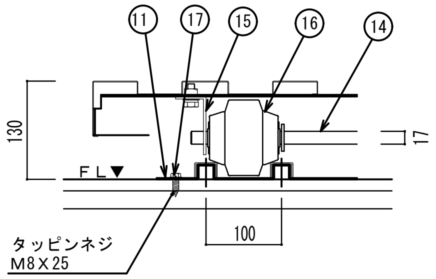
ＧＦ－５０７６　防球ネット（手引式）	１張
妻側上部　　片開式	
ポリエチレンネット　１００mm目　グリーン	

※防球ネット取付位置に
スピーカー、時計など障害物が無い事。

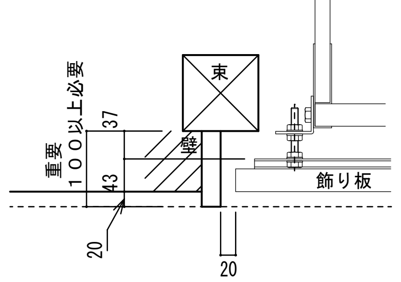


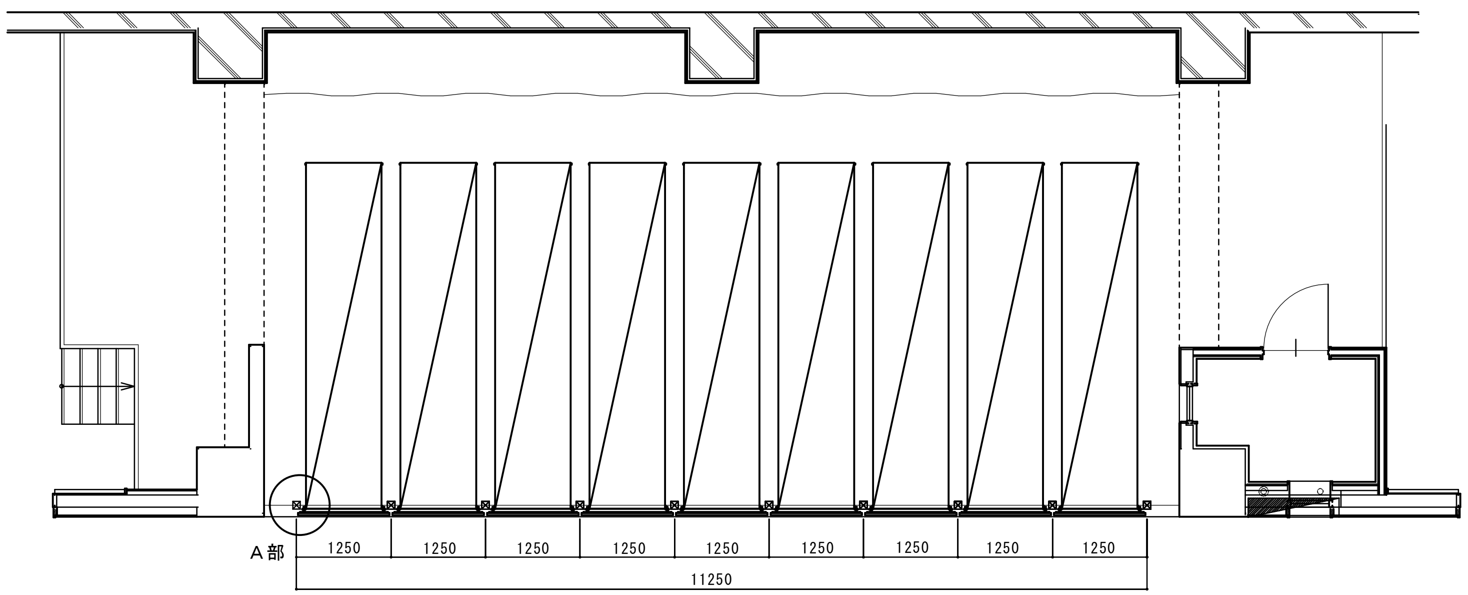
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第 276761 号　浦　淳	設計	・　・	標題	体育器具　詳細図（３）（参考図）	縮尺	A1：1/10.50 A3：1/20.100	図番	Ｂ－f11

車輪部詳細（S＝１／５）



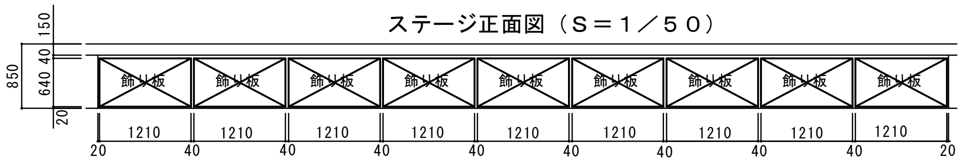
A部詳細図（S＝１／５）



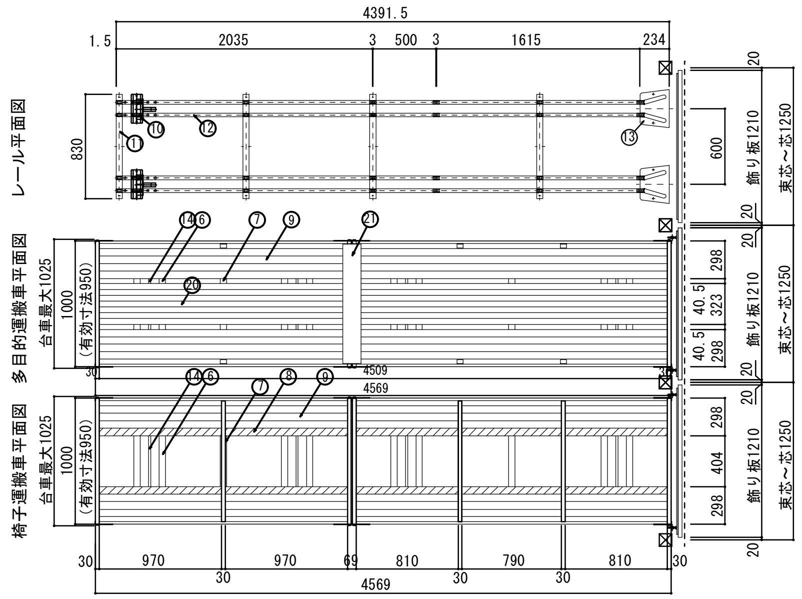


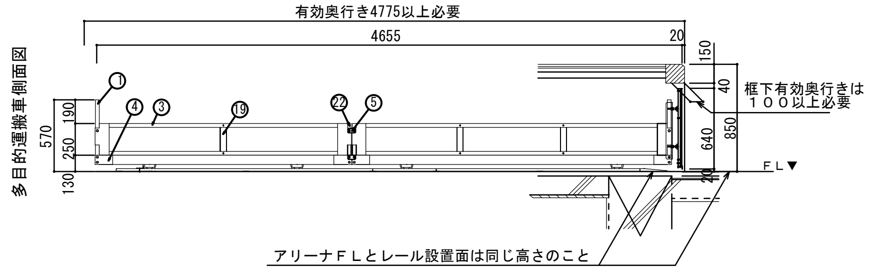
台車収納時平面配置図（S＝１／５０）

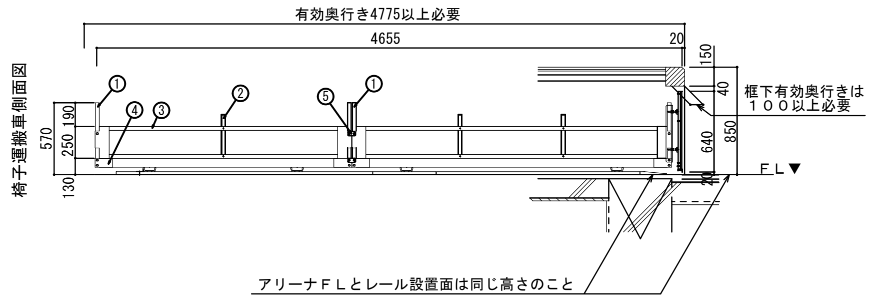
ステージ正面図（S＝１／５０）



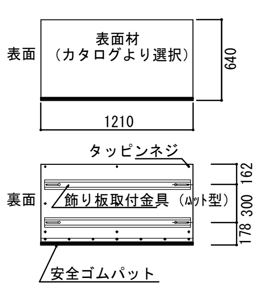
収納台車（S＝１／３０）



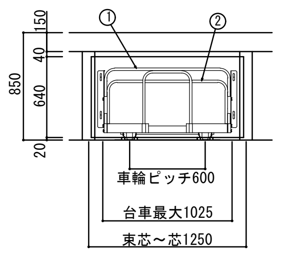




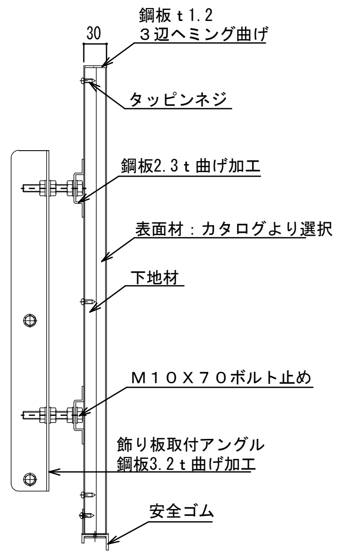
飾り板詳細図（S＝１／３０）



台車正面図（S＝１／３０）



飾り板断面図（S＝１／５）



仕　様

１．ＧＦ-７０８７　椅子運搬車　７ピット７台

寸法　Ｗ１０００×Ｌ４５００×Ｈ５７０

２．ＧＦ-７０８７　多目的運搬車　２ピット２台

寸法　Ｗ１０００×Ｌ４５００×Ｈ５７０

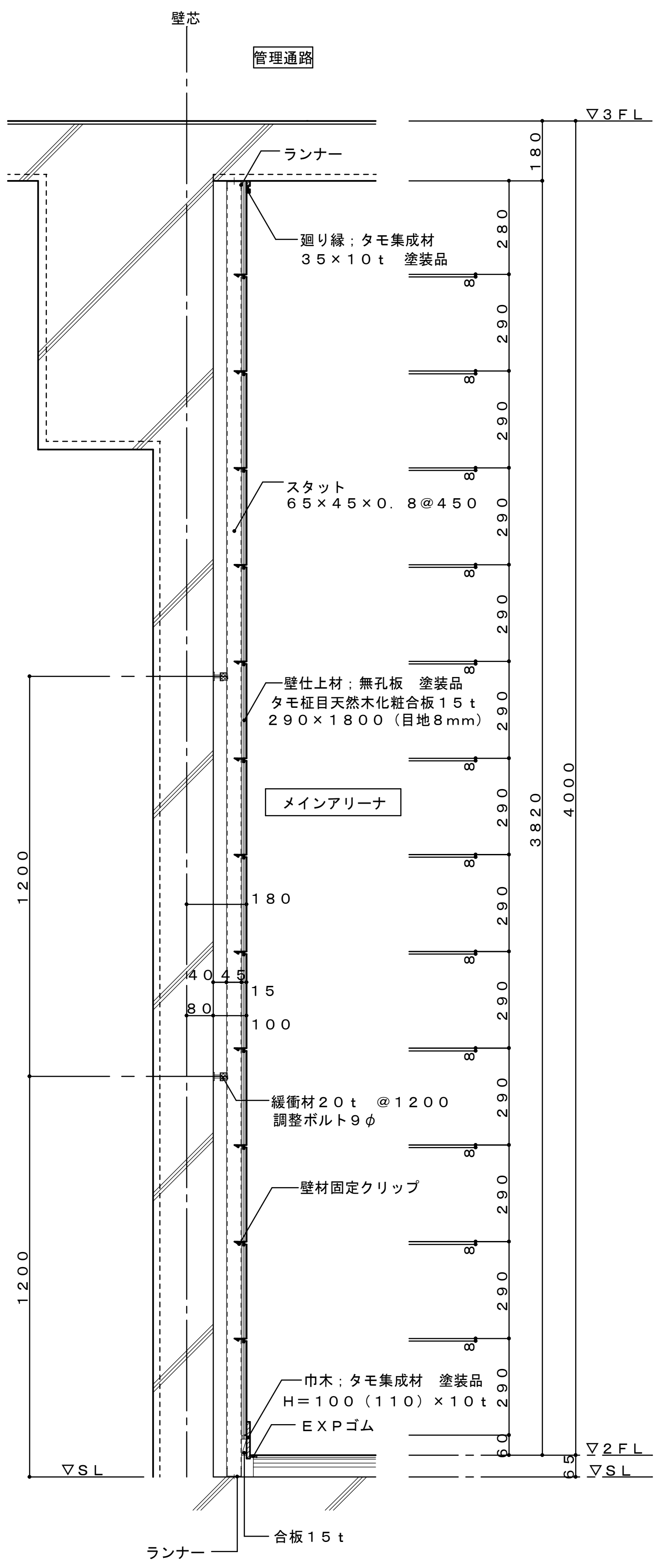
３．飾り板　９ピット９枚

４．

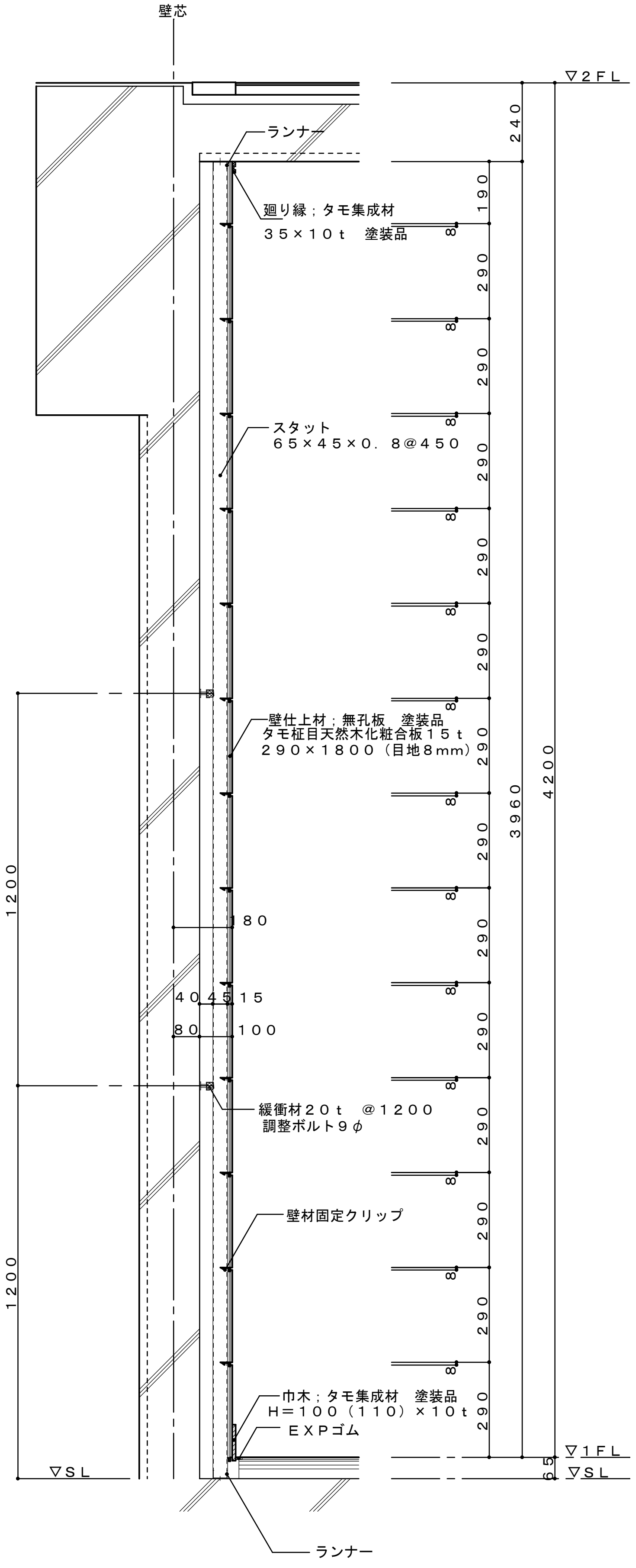
主　要　構　成　部　品　仕　様　書

品番	品　　名	材　料　・　加　工　等	表面処理
１	押　　手	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
２	椅子倒れ止め	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
３	サ　イ　ド枠	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
４	コーナーガセット	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
５	連結ＰＬＴ１	鋼板　2.3ｔ	亜鉛メッキ
６	車輪サポート	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
７	補助サポート	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
８	椅子滑り止め	ポリエチレンシート	
９	床　　板	亜鉛メッキ鋼板　1.0ｔ	亜鉛メッキ
１０	ストッパー	鋼材　4.5ｔ	黒色焼付
１１	レールサポート	鋼板　1.6ｔ	亜鉛メッキ
１２	ガイドレール	鋼板　1.6ｔ	亜鉛メッキ
１３	車輪ｶﾞｲﾄﾞﾍﾞｰｽ	鋼板　1.6ｔ	亜鉛メッキ
１４	車　　軸	丸棒　φ17	亜鉛メッキ
１５	軸　　受	鋼材　4.5ｔ	黒色焼付
１６	車　　輪	車輪外径　φ１００ ＭＴトラック専用車輪	本体は 亜鉛メッキ
１７	タッピンネジ	Ｍ８×２５	亜鉛メッキ
１８	飾り板	表面ポリエステル化粧合板（カタログより選択） 下地鋼板　1.2ｔ	黒色焼付
１９	サイド枠倒れ止	鋼材　4.5ｔ	亜鉛メッキ
２０	中床板	亜鉛メッキ鋼板　1.0ｔ	亜鉛メッキ
２１	連結ＰＬＴ２	鋼板　2.3ｔ	黒色焼付
２２	パイプ	角鋼管　30*20*1.2	亜鉛メッキ

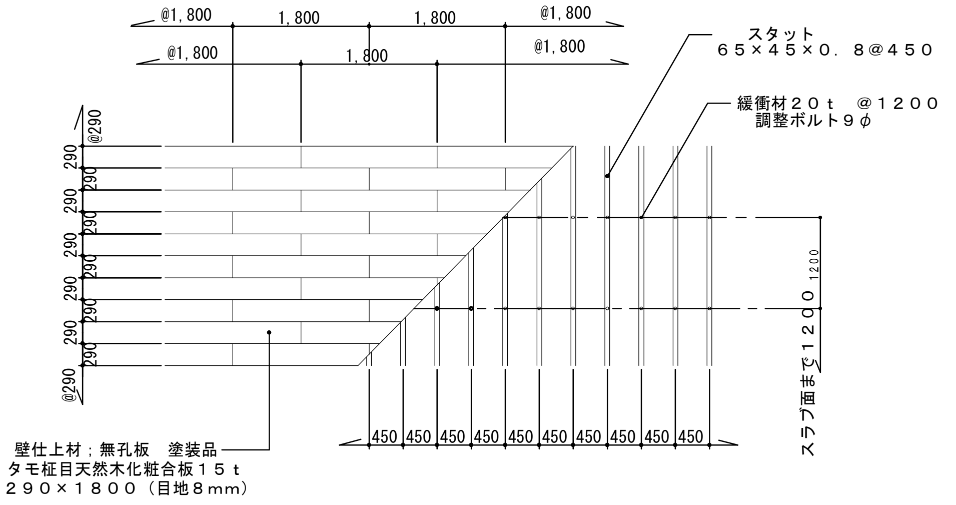
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	体育器具　詳細図（４）（参考図）	縮尺	A1：1/10.50 A3：1/20.100	図番　Ｂ －f12



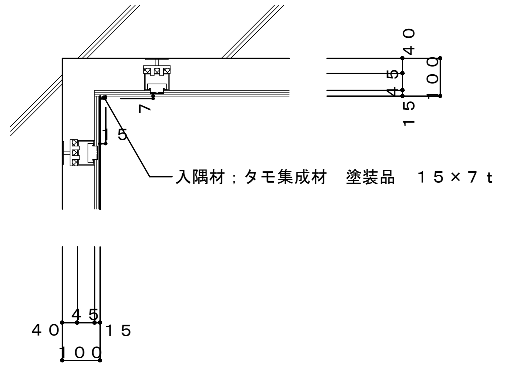
２階　メインアリーナ　システム壁　基本断面詳細図　　Ｓ＝１／１０



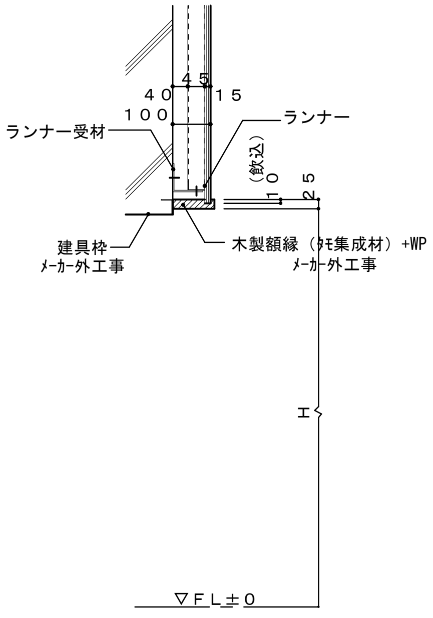
１階　サブアリーナ　システム壁　基本断面詳細図　　Ｓ＝１／１０



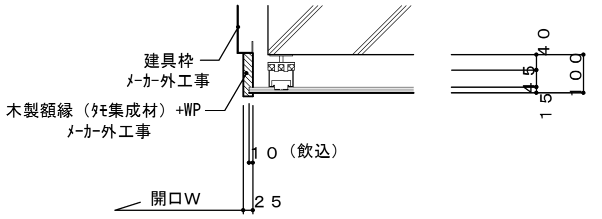
各室共通　システム壁　基本割付図　　Ｓ＝１／５０



各室共通　入隅廻り　平面詳細図　　Ｓ＝１／１０

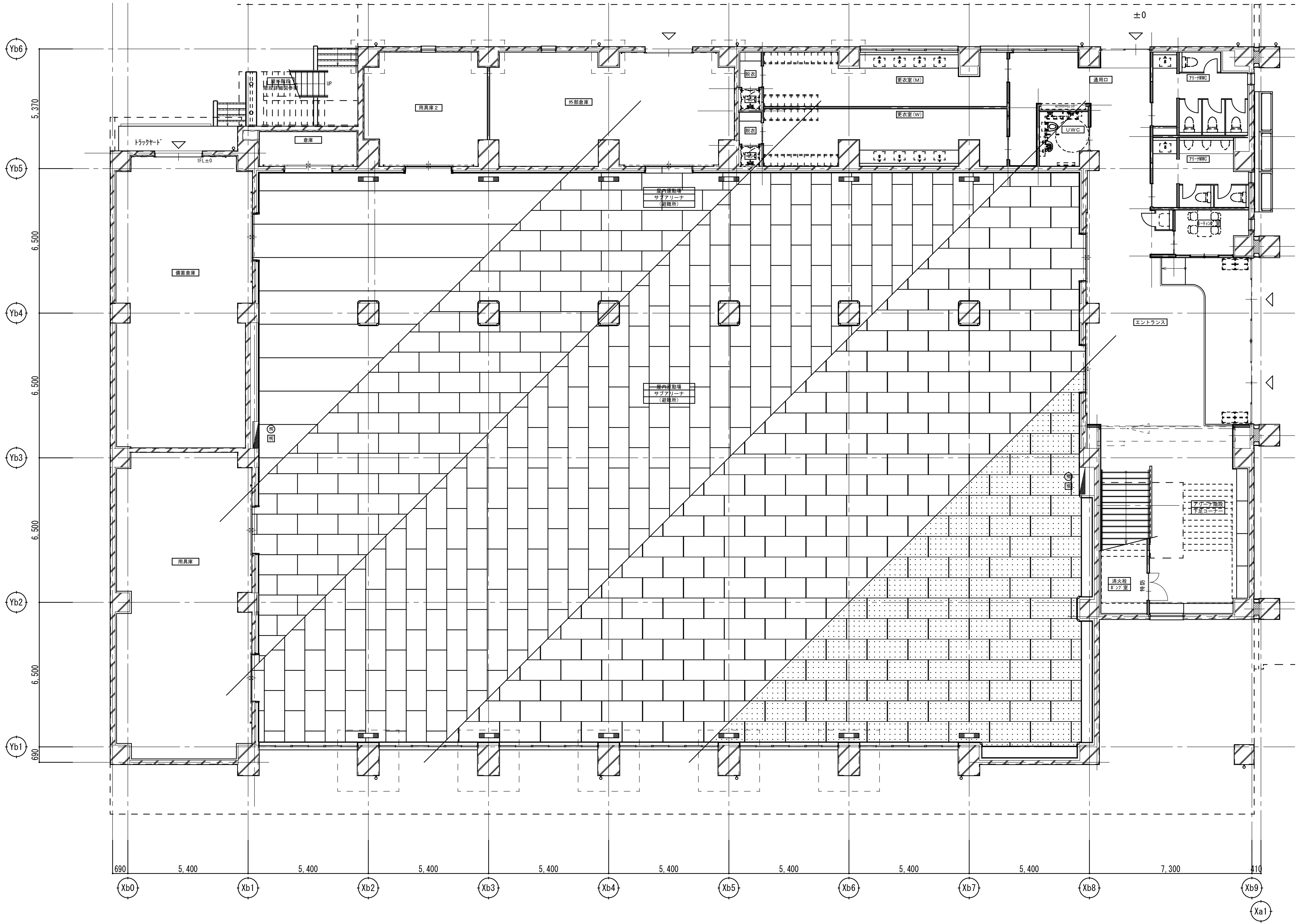


各室共通　建具開口廻り　断面詳細図　　Ｓ＝１／１０

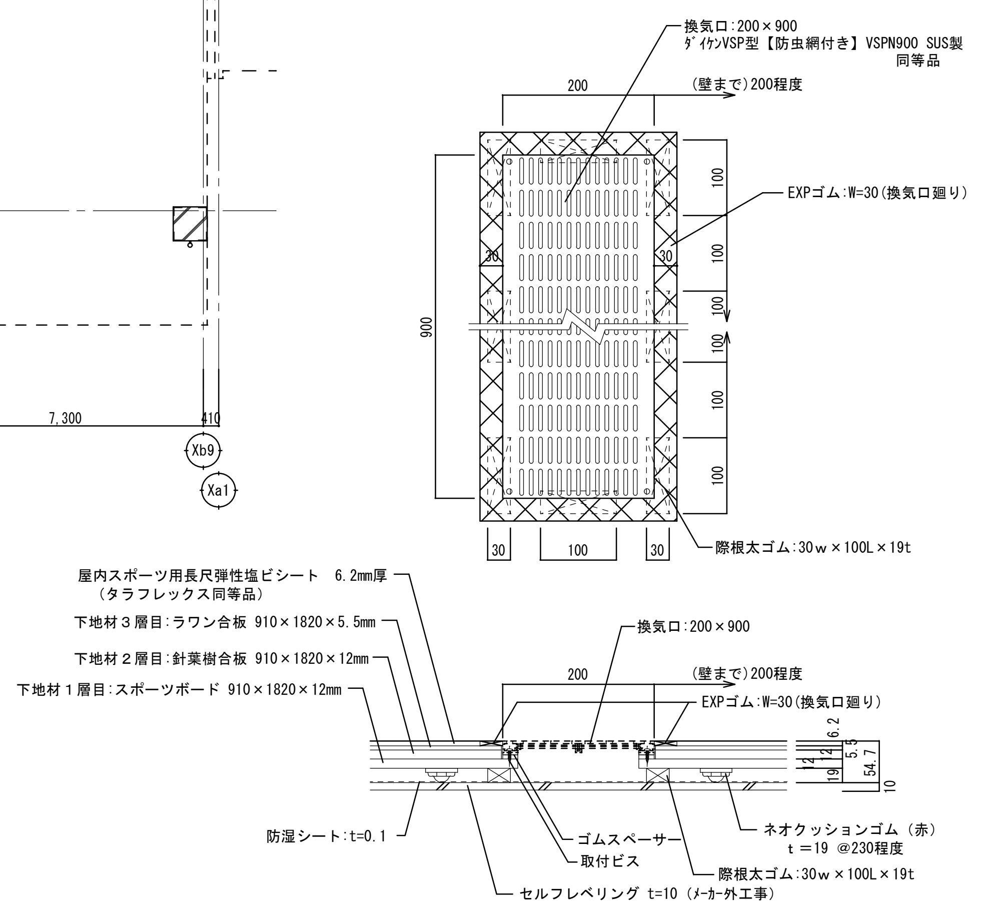


各室共通　建具開口廻り　平面詳細図　　Ｓ＝１／１０

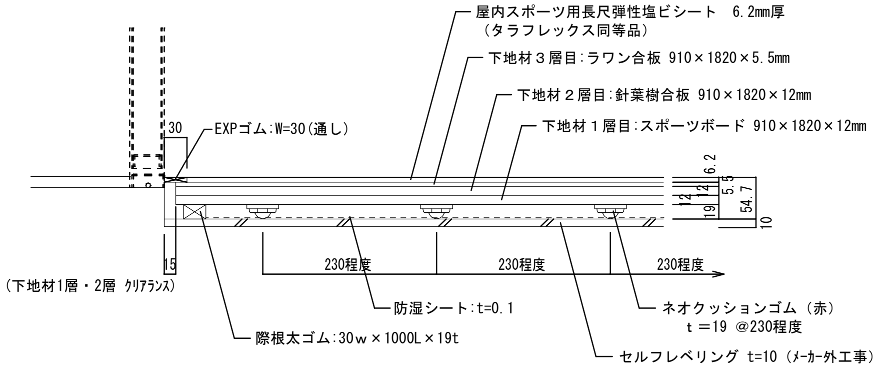
JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校建設工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	システム壁　詳細図（参考図）	縮尺 A1：1/10.50 A3：1/20.100	図番 B －f13



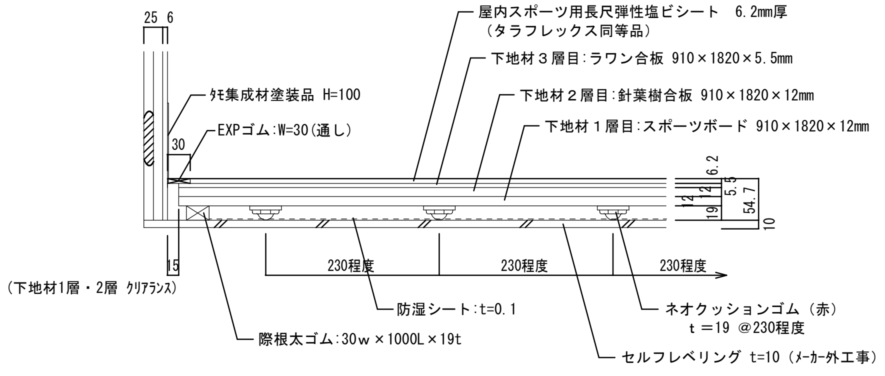
ネオクッションシステム　詳細図（換気口廻り）　S=1/5



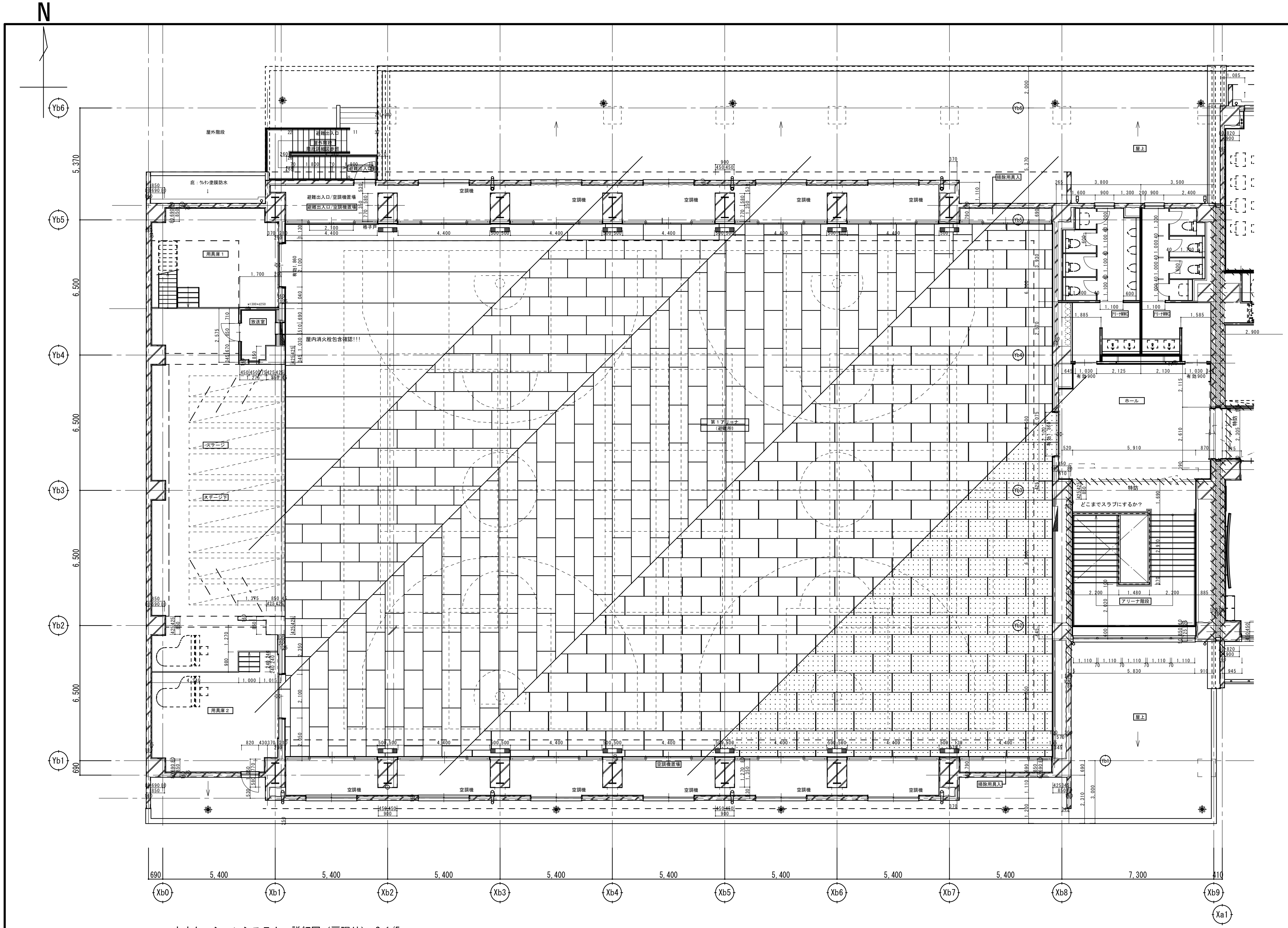
ネオクッションシステム　詳細図（扉廻り）　S=1/5


屋内スポーツ用長尺弾性塩ビシート　6.2mm厚
（タラフレックス同等品）
下地材３層目:ラワン合板 910×1820×5.5mm
下地材２層目:針葉樹合板 910×1820×12mm
下地材１層目:スポーツボード 910×1820×12mm
30
EXPゴム:W=30(通し)
6.2
5.5
12
12
19
54.7
10
15
（下地材1層・2層 ｸﾘｱﾗﾝｽ)
230程度
230程度
230程度
防湿シート:t=0.1
ネオクッションゴム（赤）
t ＝19 @230程度
際根太ゴム:30ｗ×1000L×19t
セルフレベリング t=10（ﾒｰｶｰ外工事）

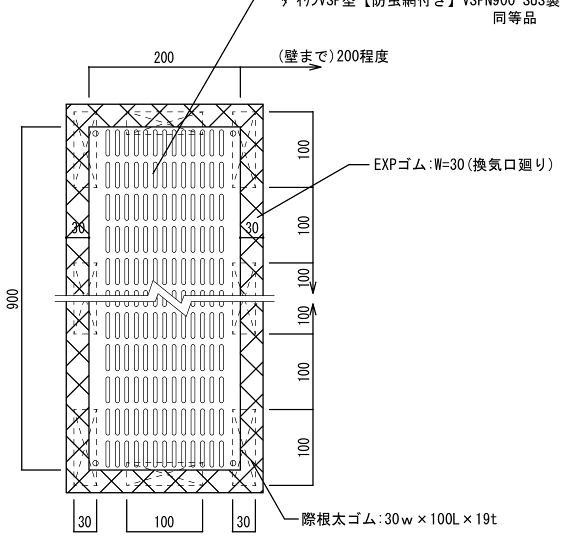
ネオクッションシステム　詳細図（壁取合い）　S=1/5



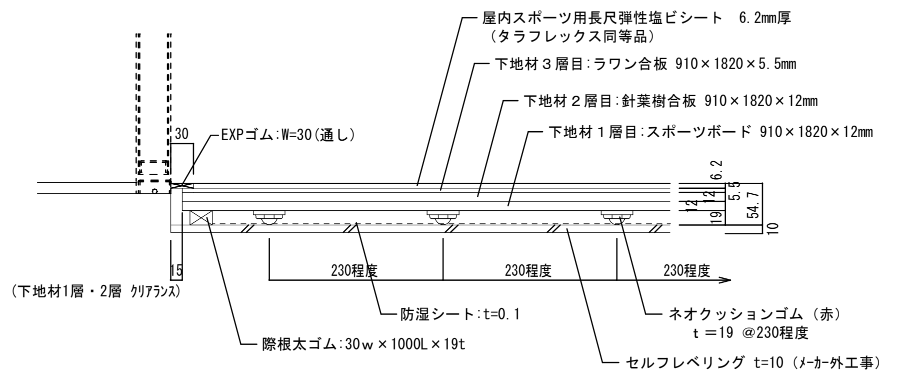
JOB NO. 125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	システム床詳細図（1）　1階サブアリーナ	縮尺	A1：1/100 A3：1/200	図番 B －f14



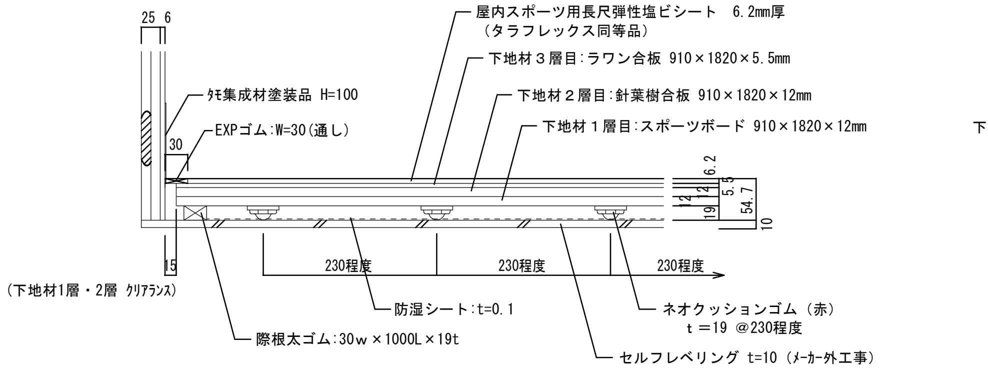
ネオクッションシステム　詳細図（換気口廻り）　S=1/5

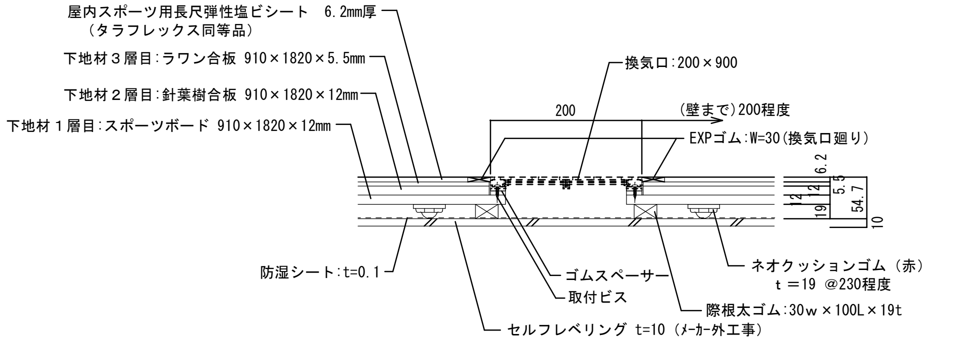


ネオクッションシステム　詳細図（扉廻り）　S=1/5

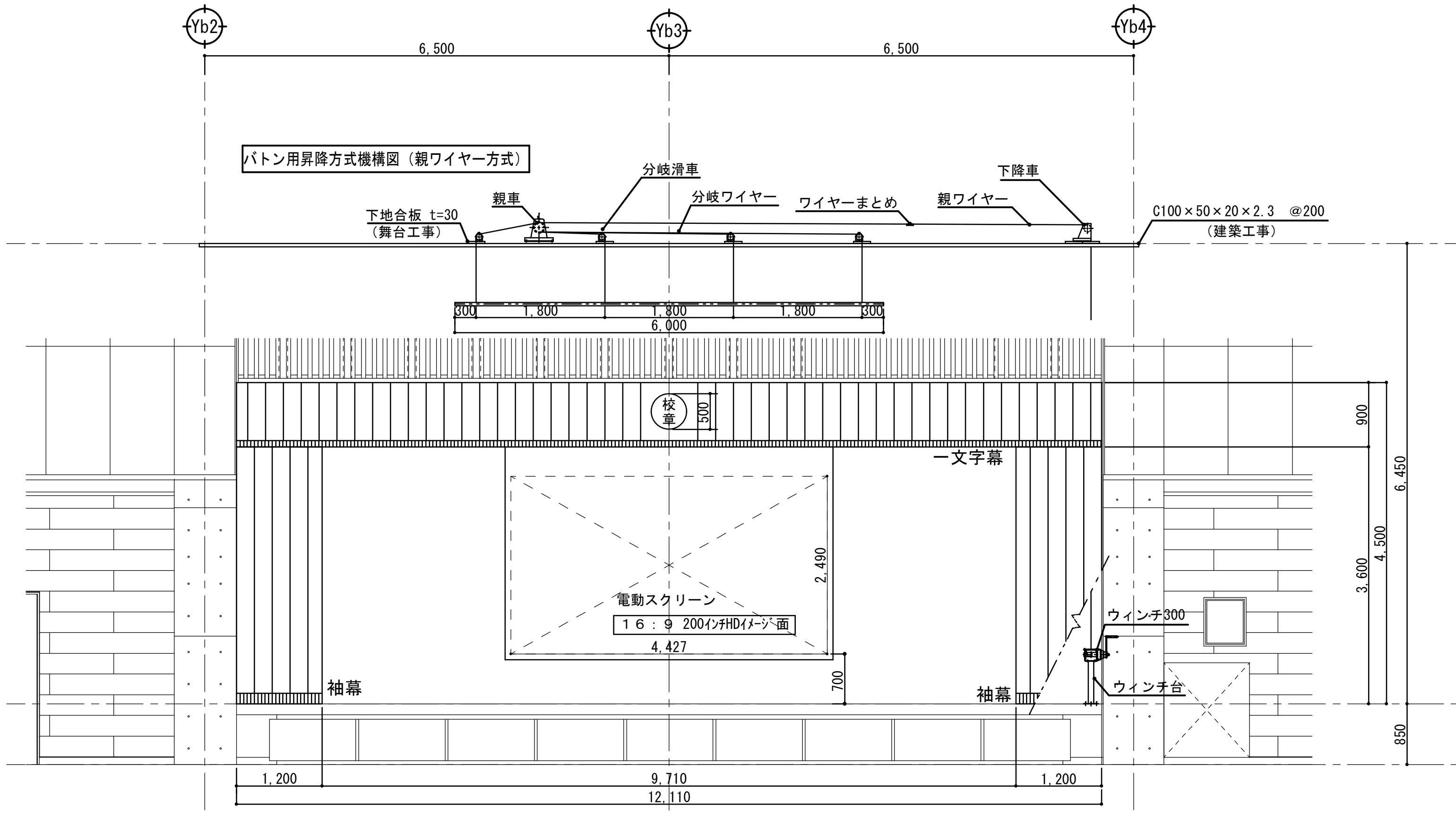

屋内スポーツ用長尺弾性塩ビシート　6.2mm厚
（タラフレックス同等品）
下地材３層目：ラワン合板 910×1820×5.5mm
下地材２層目：針葉樹合板 910×1820×12mm
下地材１層目：スポーツボード 910×1820×12mm
30
EXPゴム:W=30(通し)
6.2
5.5
12
12
19
54.7
10
15
(下地材1層・2層 ｸﾘｱﾗﾝｽ)
230程度
230程度
230程度
防湿シート：t=0.1
ネオクッションゴム（赤）
t＝19 @230程度
際根太ゴム:30w×1000L×19t
セルフレベリング t=10 (ﾒｰｶｰ外工事)

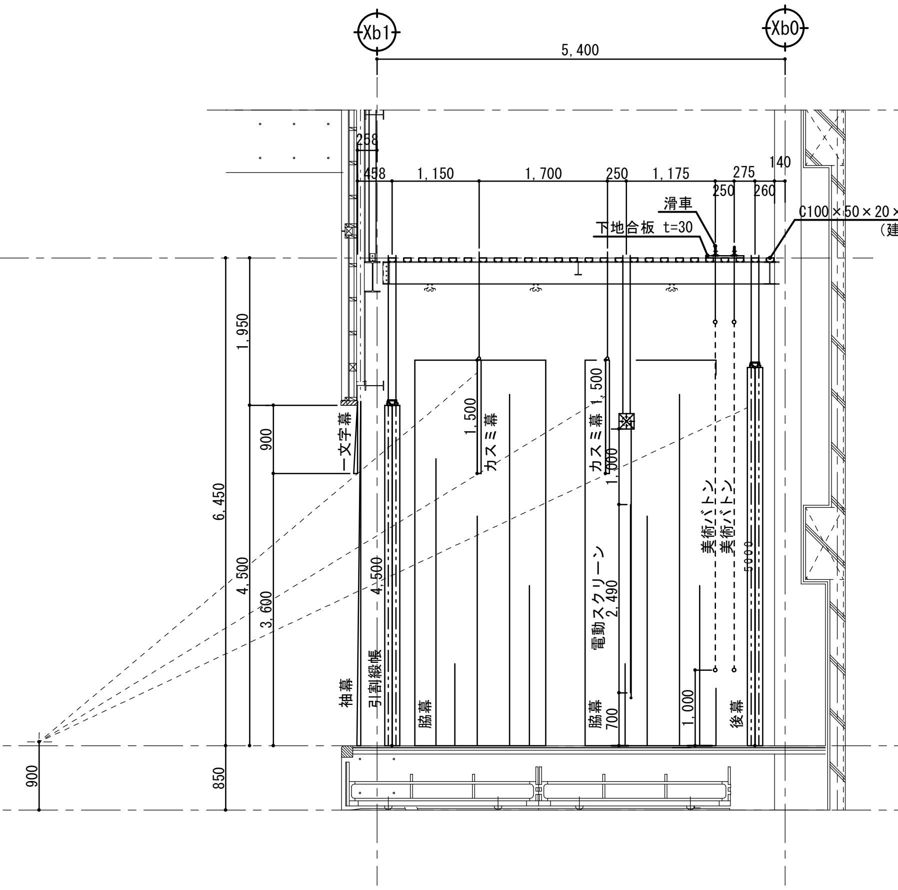
ネオクッションシステム　詳細図（壁取合い）　S=1/5

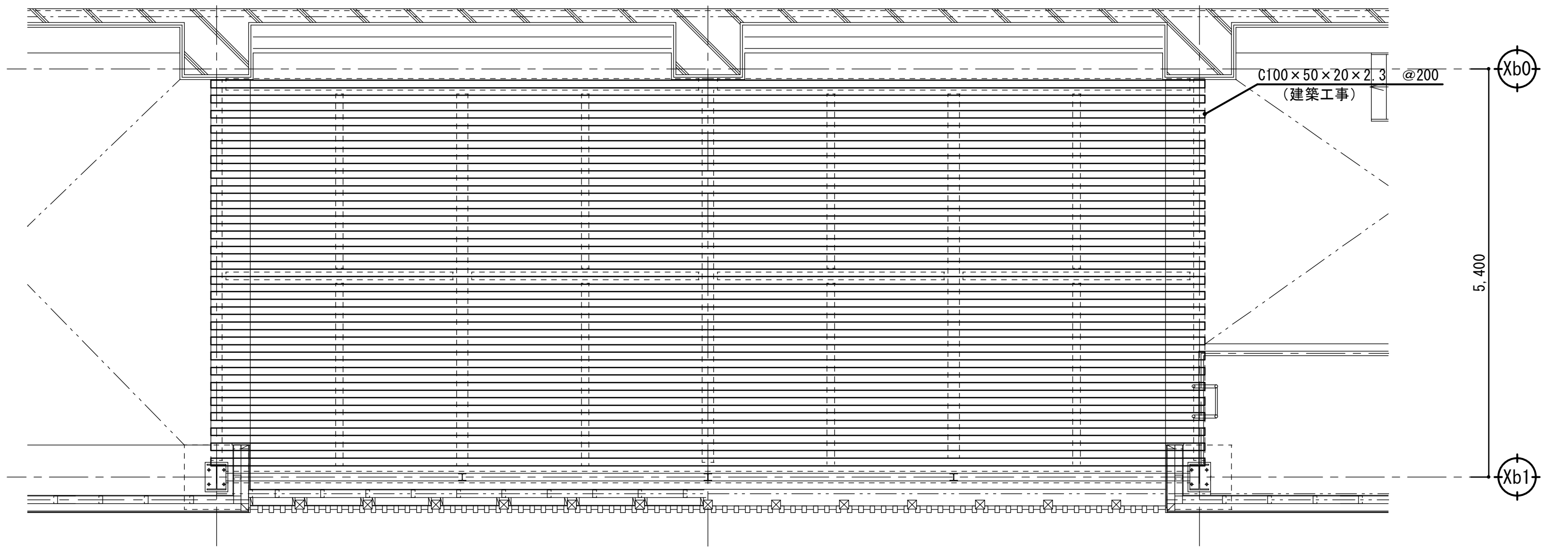


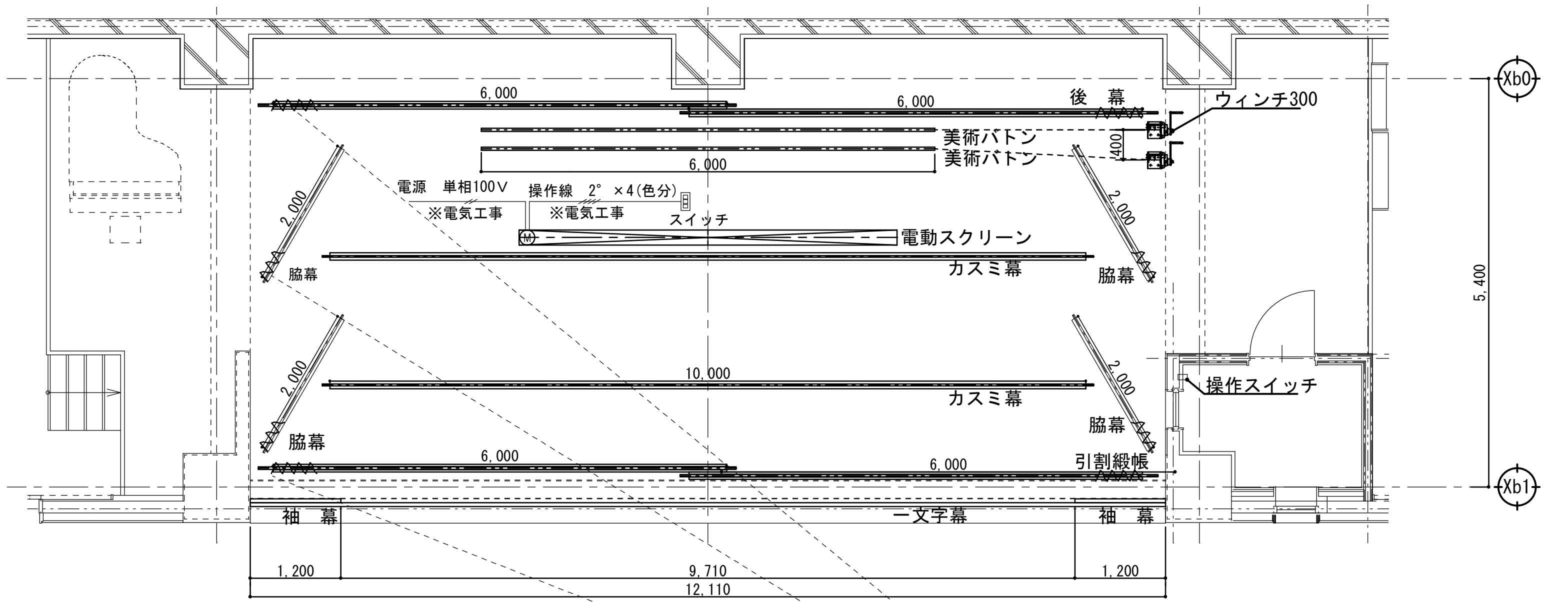


JOB NO.									
125280	2026　年　　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計	・　・	標題	システム床詳細図（2）　2階メインアリーナ	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図番 B －f15

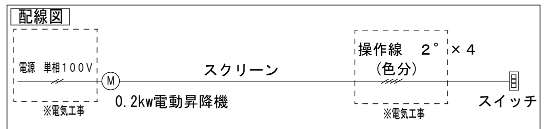








電動スクリーン用スイッチ
スイッチ詳細図　1／5



※　埋め込みボックス（深型）まで、電気工事
※　スイッチの位置は、設計指定位置。
ただし、バトンの動作が見える位置に設置。

仕様表		
一文字幕	1ヵ所	W12500×H950　舞台用難燃性起毛幕地　2倍ﾋﾀﾞ 90ﾌﾚﾝｼﾞ　鋲打ち固定吊　校章　H500
袖幕	2ヵ所	W1300×H4550　舞台用難燃性起毛幕地　2倍ﾋﾀﾞ 150ﾌﾚﾝｼﾞ　鋲打ち固定吊
引割緞帳	1ヵ所	W12000×H4500（両開き）難燃性紋織緞帳地　ヒダ無し 150ﾌﾚﾝｼﾞ　難燃性裏地 緞帳用手動ロープ開閉装置　40型レール＋31φパイプ　3φワイヤー吊
後　幕	1ヵ所	W12000×H5000（両開き）舞台用難燃性起毛幕地　2倍ﾋﾀﾞ　後幕用手引き開閉装置　40型レール＋31φパイプ　3φワイヤー吊
脇　幕	4ヵ所	W2000×H5000　舞台用難燃性起毛幕地　2倍ﾋﾀﾞ　脇幕用手引き開閉装置　40型レール＋31φパイプ　3φワイヤー吊
カスミ幕	2ヵ所	W10000×H1500　舞台用難燃性起毛幕地　2倍ﾋﾀﾞ　カスミ幕用固定吊装置　31φパイプ　3φワイヤー吊
美術バトン	2ヵ所	L=6000　38ﾐﾘＳＵＳﾊﾟｲﾌﾟ　手動ウィンチ昇降方式（親ワイヤー方式）3φワイヤー吊（親ワイヤーは５φ）　ウィンチ３００ 最大吊り下げ荷重　８０kg以下（均等荷重）
電動スクリーン	1ヵ所	電動昇降式スクリーン ハイビジョンサイズ１６：９　２００インチ（ホワイト：イメージサイズW4427×H2490）ケース入　上黒Ｈ1000　特別仕様 スクリーン用電動ドラム巻上げ式　単相１００Ｖ２００Ｗ電動機　3φワイヤー吊
特記事項	ブドウ棚、下地補強等は、建築工事とする。電気配線工事(電源及び操作線、配管等) 及び 舞台照明装置等は、電気工事とする。	

JOB NO. 125280	2026　年　月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所　一級建築士　第276761号　浦　淳	設計　・　・	標題　屋内運動場　舞台設備詳細図（参考図）	縮尺　A1：1/50　A3：1/100	図番　B－f16

構造設計標準仕様書

適用は●印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1）工事名称　中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
　　建築場所　石川県輪島市河井町１８－１－２

（2）工事種別　□新築　☒増築　□増改築　□改築

（3）構造種別
　□木造（W）　□補強コンクリートブロック造（CB）　☒鉄骨造（S）
　☒鉄筋コンクリート造（RC）　□壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
　☒鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）
　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）

（4）階　数
　屋内運動場棟：地下　階　地上　２階　塔屋　階

（5）主要用途　小学校

（6）屋上付属物
　□広告塔　□高架水槽　☒屋外機　□目隠しフェンス
　□煙突　□キュービクル　□太陽光パネル　□ハト小屋・給排気塔
　□ハイサイドライト

（7）増築計画　□有（Exp.Jにて棟分離）　☒無

（8）付帯工事　□門塀　□擁壁　□設備機器

（9）特別な荷重
　□エレベーター　□リフト　□ホイスト　□受水槽　□ＤＷ

2．使用構造材料

（1）コンクリート

使用箇所	種類	設計基準強度 Fc（N/mm²）	品質基準強度 Fq（N/mm²）	ｽﾗﾝﾌﾟ（cm）	備考
均し~~・ラップル~~	普通	18	－	15	屋内運動場棟
基礎・ピットスラブ	普通	27	27	15	屋内運動場棟
土間ピットスラブ	普通	24	24	15	屋内運動場棟
１Ｆスラブ	普通	27	27	15	屋内運動場棟
上部躯体	普通	27	27	18	屋内運動場棟
雑・設備基礎	普通	24	24	18	屋内運動場棟

☒躯体コンクリート耐久性基準強度：Fd
　□短期：18N/mm²　☒標準：24N/mm²　□長期：30N/mm²　□超長期：36N/mm²
☒躯体コンクリート品質基準強度：Fq = Max (Fc , Fd)
☒躯体コンクリート調合管理強度：Fm = Fq + mSn
　※mSn:JASS5-2009 5節 表5.1準拠

（2）コンクリートブロック
　□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種　厚□100　□120　□150　□190

（3）鉄　筋

	種類	径	使用箇所	継ぎ手工法
異形鉄筋	☒SD295	D10～D16	図示	☒重ね継ぎ手 D10～D16 ☒ガス圧接継ぎ手 D19以上 □特殊継ぎ手 （　　）
	☒SD345	D19～D25	図示	
	☒SD390	D29	図示	
丸　鋼	□SR235	ϕ13～ϕ22		
溶接金網	□SR235	ϕ6		

（4）鉄　骨

	種類	使用箇所	現場溶接	備考
鋼　材	図示	図示	□有　☒無	
			□有　□無	

（5）ボルト等
　☒高力ボルト　□F10T　☒S10T 認定品（☒M16、☒M20、☒M22、□M24）
　　☒F8T 認定品（☒M16、☒M20、□M22、□M24）
　☒中ボルト　☒強度区分4.6　□M12、☒M16、□M20、□M22
　☒アンカーボルト　M20 L=400mm　ナット（ダブル）、Ｊ型フック付
　　M22 L=440mm　ナット（ダブル）、Ｊ型フック付
　□スタッドボルト　ϕ　:H=　mm
　□ベースパック柱脚工法　□ハイベースＮＥＯ工法　□ジャストベース工法
　□ＩＳベース柱脚工法　□ＮＣベース工法

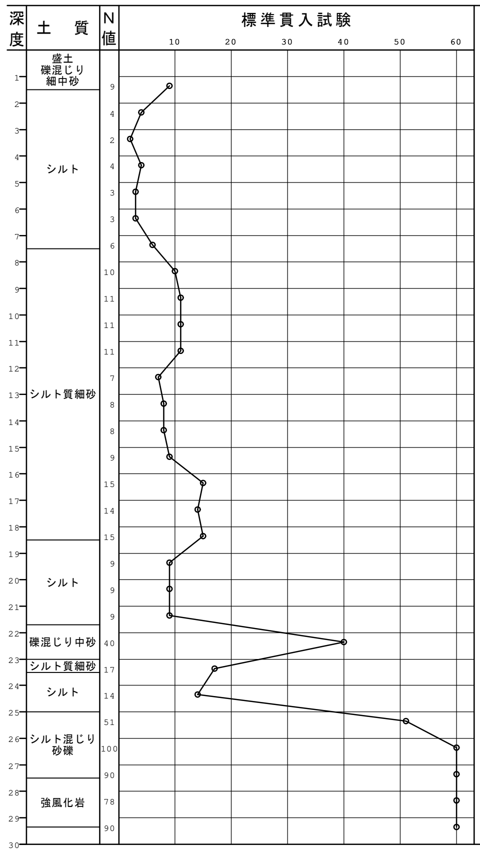
3．地盤

（1）地盤調査資料
☒有（☒敷地内 □近隣）　☒ボーリング調査　□平板載荷試験　☒水平地盤反力係数測定
□表面波探査　□スクリューウェイト貫入試験　☒土質試験　☒標準貫入試験

（2）地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□ラムサウンディング試験

（3）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更することもある。

（4）ボーリング標準貫入値、土質構成



※備考
　左図：ＮＯ．１
　孔口標高
　　＝設計ＧＬ－３．０９m

4．地業工事

（1）直接基礎
□独立基礎~~（基礎下地盤改良併用）~~　□布基礎　□ベタ基礎　試験堀 □有　□無
　基礎下深さ：　m、支持層：
　基礎下許容支持力度（長期）：　kN/m²

（2）杭基礎支持層：砂礫層または強風化岩、支持レベル：図示　載荷試験 □有　☒無

杭種	材料	施工法	備考
☒PHC杭 □PRC杭（CPRC杭） ☒SC杭 ☒節付PHC杭 □節付PRC杭 □羽根付鋼管杭	PHC（☒Ａ種 ☒Ｂ種 ☒Ｃ種） PRC（□Ⅰ種 □Ⅱ種 □Ⅲ種） SC（□t=6 □t=9 □t=12） 鋼材（□STK400 □STK490） □図示	□ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法 □SUPERﾆｰﾃﾞｨﾝｸﾞ工法 ☒Hyper-MEGA工法 □FP-BESTEX工法 □Hyper-ｽﾄﾚｰﾄ工法 □ｽｸﾘｭｰﾊﾟｲﾙEAZET工法 □N-ECSﾊﾟｲﾙ工法	
□場所打ちコンクリート杭	ｺﾝｸﾘｰﾄ　Fc= ｾﾒﾝﾄ量　kg/m³ 鉄筋　主筋　SD345 HOOP　SD295A	□ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ　□拡底杭 □ﾘﾊﾞｰｽｻｰｷｭﾚｰｼｮﾝ □ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ　□ﾐﾆｱｰｽ □BH　□深礎（□手堀り　□機械堀り）	Ｅ拡底杭 日本建築ｾﾝﾀｰ認定 第　号 年　月　日

杭仕様　☒施工計画書承認　☒杭施工結果報告書　試験杭 ☒有　□無

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭長（m）	SET	特記事項
図示	図示	図示	図示	図示

（3）地盤改良（「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針／日本建築センター、ベターリビング」）
☒浅層地盤改良　□柱状改良コラム工法
□スラリー系機械撹拌式ブロック状地盤改良工法
　深さ：　、支持層：　、基礎下許容支持力度（長期）：　kN/m²
　※地盤改良施工範囲は、現地における試験堀などの方法により最終決定する。

5．鉄筋コンクリート工事

（1）コンクリート
☒コンクリートは、ＪＩＳ認定工場の製品とし施工に関してはＪＡＳＳ５による。
☒セメントは、「ＪＩＳ　Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメント」を標準とする。
☒調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上かつ１５０m³ごと及びその端数につき１回以上とする。また、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
☒構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（ＪＡＳＳ５Ｔ－６０３）は、現場水中養生、または、現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が１５０m³をこえる場合は１５０m³ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車から、その必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当り９本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１２０分、２５℃以上の場合は９０分以内とする。

（2）鉄　筋
☒鉄筋は「ＪＩＳ　Ｇ３１１２の規格品」を標準とする。
☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継ぎ手位置、継ぎ手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」~~または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図」~~による。
☒Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。継手（Ｄ１９以上）をガス圧接とする場合は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。
☒ガス圧接部の抜取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごとに１回行い、１回の試験は３０本以上とする。
　外観検査　☒有 □無、引張試験　□有 ☒無、超音波探傷試験　☒有 □無
☒柱の帯筋（フープ筋）の加工方法は、□Ｈ型（タガ型）☒Ｗ型（溶接型）□Ｓ型（スパイラル型）とする。
☒コンクリート及び鉄筋の試験は公的試験機関で行う。
　　試験機関　石川県生コンクリート工業組合　県北（または県南）共同試験場

（3）型　枠
☒材料　合板厚１２mmを標準とする。
☒型枠存置期間

種類		せき板				支柱		
部位		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントＡ種 シリカセメントＡ種
存置期間の平均気温								
コンクリート材齢（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃-15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		5N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注１）片持梁、庇、スパン９ｍ以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注２）大梁の支柱の盛りかえは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注３）支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注４）盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注５）支柱の盛りかえは、小梁が終わってからスラブを行う。
　　一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

6．鉄骨工事

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒日本鉄鋼連盟「建築鉄骨工事施工指針」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの
☒製作工場　☒製作要領書　☒工作図　☒施工計画書
☒建築基準法第６８条の２６第１項による認定工場（大臣認定 Ⓜ グレード以上）
☒材料規格証明書または試験成績書
　☒鋼材　☒高力ボルト　□特殊ボルト　□スタッドボルト
　☒社内検査表　□　□

（3）工事監理者が行う検査項目
　（□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
　□現寸検査　☒組立・開先検査　☒製品検査　☒建方検査

（4）接合部の溶接は下記によること
☒日本建築学会「溶接工作基準、同解説１～９」

（5）接合部の検査
☒溶接部の検査（検査結果は、後日工事監理者に報告すること。）

検査箇所	検査方法	検査率または検査数			備考
		社　内	第三者	工事監理者	
☒突合せ溶接	超音波探傷試験	100 %	備考参照	%	（第三者検査） ＡＯＱＬ４．０% 第６水準
☒隅肉溶接	外観（目視）検査	100 %		%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名：ＣＩＷ認定者または監督職員の承諾する機関					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

　注）現場溶接については、原則として第三者による全数検査を行うこと。
☒高力ボルトは「ＪＩＳ　Ｂ１１８６の高力ボルト」を標準とする。

（6）防錆塗装
☒防錆塗装範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。外の部分錆止めペイントは、「ＪＩＳ　Ｋ５６７４」２回塗りを標準とする。
☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じペイントを使用し２回塗りとする。

7．設備関係

☒特記以外の梁貫通孔は、原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
☒設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合は、スラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を５cm以上とする。
☒設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。梁貫通補強筋は、認定品を使用すること。
＜令第１２９条の２の３の事項＞
建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
☒建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食または腐朽のおそれがないものとすること。
☒屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これに類するものは（以下「屋上水槽等」という。）耐力上主要な支持構造部または建築物の構造部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造または無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、９０cm以下とすること。
□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを５cm以上とした鉄筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
☒建築物に設ける給水、排水その他の設備配管（給湯設備を除く）は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
☒建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☒管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生じるおそれがある場合において、伸縮継手または可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☒管を支持し、または固定する場合においては、つり金物または防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☒法第２０条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成１２年建設省告示第１３８９号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
☒給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が１５kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成１２年建設省告示第１３８８号第５に規定する構造方法によること。
　※「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

8．その他

☒諸官庁への届出書類は、遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は、公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒当設計図書に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和７年版）に従うこと。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計　・　・	標題　構造設計標準仕様書	縮尺	図番　Ｓ－01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［１］

１．共通事項

Ａ．適用範囲

１．この標準図は、各種構造（ＲＣ造、ＳＲＣ造、Ｓ造）の鉄筋コンクリート造部分に適用する。

２．設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。
この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事標準仕様書」（以下、標仕）による。

３．使用する鉄筋、及び溶接金網は、特記による。
この標準図は、表１．１に示す鉄筋および溶接金網に適用する。
これ以外は特記による。

表１．１

規格番号	規格名称	種類の記号
ＪＩＳ Ｇ３１１２	鉄筋コンクリート用棒鋼	ＳＲ２３５，ＳＲ２９５ ＳＤ２９５Ａ，ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５，ＳＤ３９０
ＪＩＳ Ｇ３１１７	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	ＳＤＲ２９５，ＳＤＲ３４５
ＪＩＳ Ｇ３５５１	溶接金網	

Ｂ．凡例

ｄ　：鉄筋の直径（異形鉄筋では呼び名に用いた数値、丸鋼では径）
ｈｏ：部材の内法高さ
ｌｏ：部材の内法寸法
ｒ　：半径
＠　：間隔
℄　：中心線

Ｃ．鉄筋の表示

１．　鉄筋の表示記号は、表１．２による。

表１．２

表示記号		•	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎
鉄筋径	異形鉄筋	Ｄ１０	Ｄ１３	Ｄ１６	Ｄ１９	Ｄ２２	Ｄ２５	Ｄ２９	Ｄ３２
	丸鋼	９φ	１３φ	１６φ	１９φ	２２φ	２５φ	２９φ	３２φ

（１）上記の表示記号を使用しない場合は特記による。
（２）上記の表示記号は、この配筋標準図には適用しない。

２．鉄筋の加工・組立て

Ａ．加工・組立て

１．鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。

２．有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋は、使用しない。

３．鉄筋の切断は、シャーカッターや電動カッター、または鉄筋冷間直角切断機等によって行う。ただし、圧接端面となる場合は、ガス切断を行ってはならない。

４．鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行わない。

５．鉄筋の溶接は、アーク溶接とする。溶接技能者は、工事に相応した技量を有する者とする。

６．鉄筋の組立は、鉄筋の交差部および継手部の要所を径０．８mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊り金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また、コンクリート打放しの仕上げとなる箇所には、防錆処理を行ったスペーサーを使用する。

７．前に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付け根で急に曲げないで、できるだけ長い距離で修正する。

８．設備配管、スイッチ等の設置により、設計図書に定める配筋が困難な場合は、設計者及び監督職員と協議する。

Ｂ．末端部のフック

１．次の場合、鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（１）丸鋼
（２）異形鉄筋
ａ．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。
ｂ．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両側にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。
ｃ．煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
ｄ．杭基礎のベース筋。
ｅ．帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

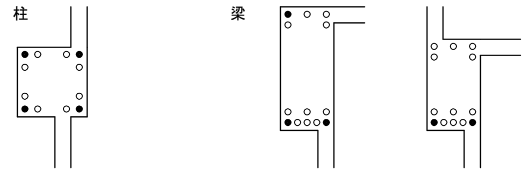


図２．１

Ｃ．折曲げ

１．鉄筋の折り曲げは、表２．１及び表２．２による。

表２．１　鉄筋の折曲げ（末端部）

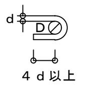
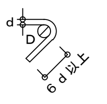
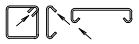
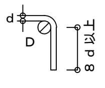
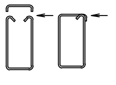
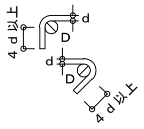
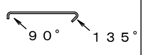
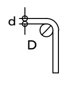
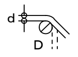
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５ Ｄ１６以下	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５ Ｄ１９～Ｄ３８	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ３９０ Ｄ１０～Ｄ３８	使用箇所
１８０°	 ｄ Ｄ ４ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 Ｄ１６以上の鉄筋
１３５°	 ｄ Ｄ ６ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 Ｄ１３以下の鉄筋
９０°	 ｄ Ｄ ８ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	 Ｔ形及びＬ形の 梁のあばら筋
１３５°及び９０°	 ４ｄ以上 ｄ Ｄ ｄ Ｄ ４ｄ以上	３ｄ以上	４ｄ以上	５ｄ以上	 ９０°　１３５° 幅止め筋

表２．２　鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ、ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５、ＳＤ３９０ Ｄ１９以下	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ、ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５、ＳＤ３９０ Ｄ１６～Ｄ２５	折曲げ内法直径（Ｄ） ＳＤ２９５Ａ、ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５、ＳＤ３９０ Ｄ２９～Ｄ３８	使用箇所
９０°以下	 ｄ Ｄ	３ｄ以上	４ｄ以上	――――	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
	 ｄ Ｄ	４ｄ以上 （５ｄ以上）	６ｄ以上	８ｄ以上	その他の鉄筋

（注）（　）内はＳＤ３９０の場合を示す。

３．鉄筋の継手・定着

Ａ．鉄筋の継手及び定着長さ

１．鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手または特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第７３条５項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。
特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表３．１による。

表３．１　鉄筋の種類に応じた継手工法

種類の記号	適用径の範囲 重ね継手	適用径の範囲 ガス圧接継手
ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１６以下	――――
ＳＤ２９５Ｂ ＳＤ３４５ ＳＤ３９０	原則として、Ｄ１６以下とする。ただし、基礎、耐圧版、土圧を受ける壁等の大断面部材の場合は、Ｄ２５以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、Ｄ３２以下とする。	Ｄ１９以上

２．重ね継手および定着の長さは、特記がなければ表３．２による。

表３．２　鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	フックなし Ｌ１	フックなし Ｌ２	フックなし Ｌ３ 小梁	フックなし Ｌ３ スラブ	フックあり Ｌ１ｈ	フックあり Ｌ２ｈ	フックあり Ｌ３ｈ 小梁	フックあり Ｌ３ｈ スラブ
ＳＤ２９５Ａ ＳＤ２９５Ｂ	１８	４５ｄ	４０ｄ	２０ｄ	１０ｄかつ１５０mm以上	３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）	１０ｄ	――
	２１	４０ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		
	２４、２７ 30、33、36	３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）			２５ｄ （４０ｄ）	２０ｄ （４０ｄ）		
ＳＤ３４５	１８	５０ｄ	４０ｄ			３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）		
	２１	４５ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		
	２４、２７	４０ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		
	30、33、36	３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）			２５ｄ （４０ｄ）	２０ｄ （４０ｄ）		
ＳＤ３９０	２１	５０ｄ	４０ｄ			３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）		
	２４、２７	４５ｄ	４０ｄ			３５ｄ （４０ｄ）	３０ｄ （４０ｄ）		
	30、33、36	４０ｄ	３５ｄ （４０ｄ）			３０ｄ （４０ｄ）	２５ｄ （４０ｄ）		

（注）１．（　）は、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さを示す。
ただし、軽量コンクリートを除く。
２．Ｌ１、Ｌ１ｈ：３．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
３．Ｌ２、Ｌ２ｈ：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。
４．Ｌ３　：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く）。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、２０ｄ及び１０ｄを２５ｄ以上とする。
５．Ｌ３ｈ　：小梁下端筋のフックあり定着長さ。
６．フックあり定着の場合は、図３．１に示すようにフック部分Ｌ’をを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
７．軽量コンクリートの場合は、表の（　）内の値に１０ｄ、その他の値に５ｄを加えたものとする。

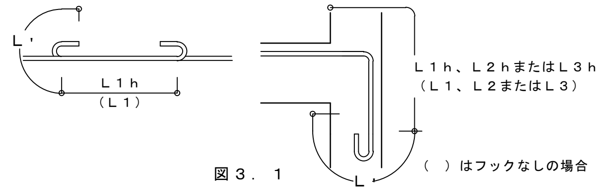


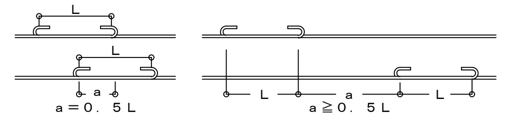
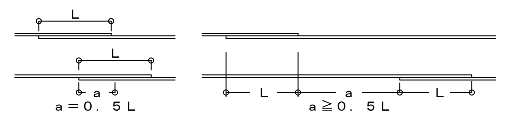
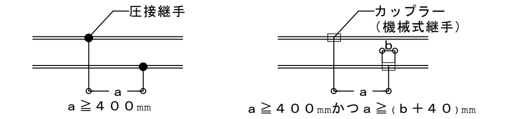
図３．１

３．定着方法は、標仕５．３．４（ｅ）（２）による。

Ｂ．隣合う継手の位置

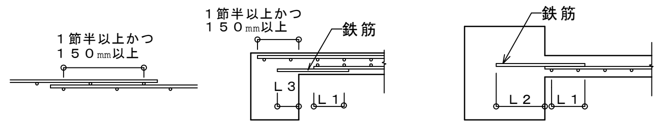
１．隣合う継手の位置は、表３．３による、ただし、スラブ及び壁の場合でＤ１６以下は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表３．３　隣合う継手の位置（壁・床版を除く）

フックのある場合	 Ｌ　Ｌ　ａ　ａ＝０．５Ｌ　Ｌ　ａ　Ｌ　ａ≧０．５Ｌ
フックのない場合	 Ｌ　Ｌ　ａ　ａ＝０．５Ｌ　Ｌ　ａ　Ｌ　ａ≧０．５Ｌ
圧接継手及び機械式継手	 圧接継手　ａ　ａ≧４００mm　カップラー（機械式継手）　ｂ　ａ　ａ≧４００mmかつａ≧（ｂ＋４０）mm

Ｃ．溶接金網の継手及び定着

１．溶接金網の継手及び定着は、図３．２による。



重ね継手　スラブの場合　壁の場合

図３．２

４．鉄筋のかぶり厚さ及びあき

Ａ．鉄筋のかぶり厚さ

１．設計かぶり厚さは、特記による。特記が無ければ、表４．１による。
但し柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の１．５倍以上として最小かぶり厚さを定める。

表４．１　鉄筋のかぶり厚さ　（単位：ｍｍ）

構造部分の種別				設計かぶり厚さ	最少かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり		３０	２０
		仕上げなし		４０	３０
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	４０	３０
			仕上げなし	４０	３０
		屋外	仕上げあり	４０	３０
			仕上げなし	５０	４０
	擁壁、耐圧スラブ			５０	４０
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			＊５０	＊４０
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			＊７０	＊６０
煙突等の高熱を受ける部分				７０	６０

（注）１．設計かぶり厚さ：鉄筋加工に用いる標準かぶり厚さ
最小かぶり厚さ：鉄筋組立後のかぶり厚さ
２．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
３．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗装、吹付けまたは塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
４．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
５．杭基礎ベース筋のかぶり厚さは、杭天端からとする。
６．貫通孔部、及びひびわれ誘発目地部の目地底に接する鉄筋について最小かぶり厚さを確保する。
７．塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、特記による厚さを表４．１の数値に加える。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－02
１９９９．７．１　改訂		
２００８．４．１　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［１］	縮尺
２０１１．４．１　改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１　改訂		
２０２０．４．１　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［２］

４．鉄筋のかぶり厚さ及びあき（続き）

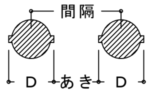
Ｂ．鉄筋の相互のあき

１．鉄筋相互のあきは図４．１により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。

（１）粗骨材の最大寸法の１.２５倍

（２）２５ｍｍ

（３）隣合う鉄筋の平均径（呼名に用いた数値ｄ）の１.５倍



Ｄは、鉄筋の最大外径

図４．１

２．鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは１．による.

Ｃ．鉄筋の保護

１．鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。

２．コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚さ、位置及び間隔の保持に努める。

５．基礎・基礎梁

Ａ．基礎

１．基礎の配筋要領

（１）直接独立基礎

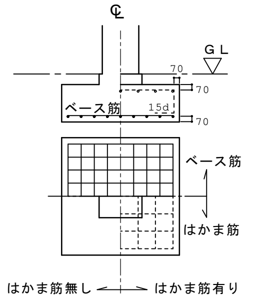


図５．１

（２）杭独立基礎

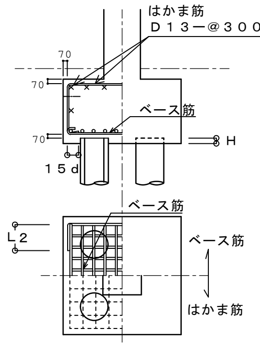


図５．２

（３）直接連続基礎（はかま筋無し）

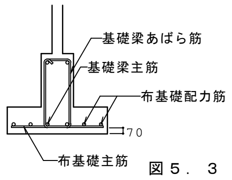


図５．３

（注）１．ベース筋の径・本数は図示による。原則ベース筋は継手を設けず通し筋とする。
２．はかま筋及び布基礎配力筋の径・本数は図示による。図示が無ければD13-@300とする。
３．杭頭のフーチング内への埋込み深さＨは図示による。図示が無ければＨ=100mmとする。

２．杭頭の補強要領

杭頭補強の要領は図示による。ＰＨＣ杭で図示が無い場合は図５．４による。

〔Ｈ≦300の場合〕

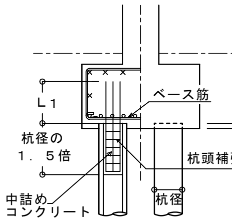


図５．４（１）

〔Ｈ≧杭径かつ杭頭をカットしない場合〕

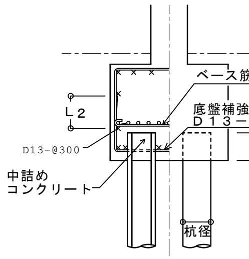


図５．４（３）

〔Ｈ＞300の場合〕

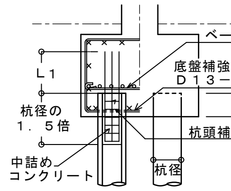


図５．４（２）

杭頭補強筋及び補強帯筋は図示による。図示が無ければ下記による。

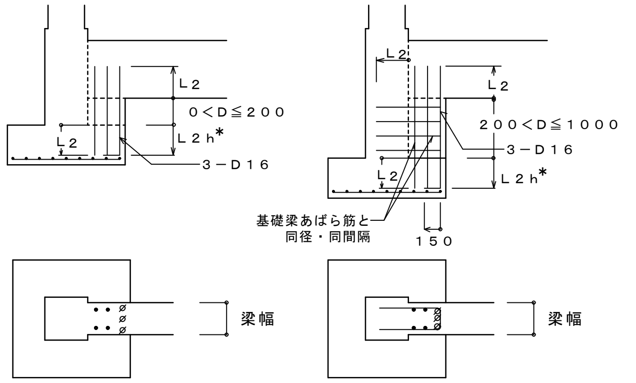
◎ 杭径	３５０φ以下	・・・　６－Ｄ１３
〃	４００φ	・・・　８－Ｄ１３
〃	４５０φ	・・・１０－Ｄ１３
〃	５００φ	・・・　８－Ｄ１６
〃	６００φ	・・・１０－Ｄ１６
◎ 帯筋		Ｄ１０ー＠１００

※杭頭補強筋は、フックをつけない。

（注）１．中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用

Ｃ．基礎接合部の補強

１．基礎接合部の補強は、特記による。特記が無ければ図５．５による。



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(3)によることができる。

図５．５

Ｄ．基礎梁筋の継手及び定着

１．一般事項

（１）梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図５．６による。

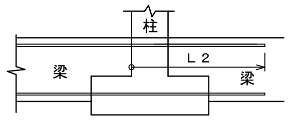


図５．６

（２）梁筋を柱内に定着する場合は、標仕５．３．４（ｅ）（２）による。

（３）継手は原則として，コンクリートに常時圧縮応力が生じている部分、または応力の小さい部分に設ける。

（４）継手は１か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

２．基礎梁に構造スラブがつかない独立基礎の場合

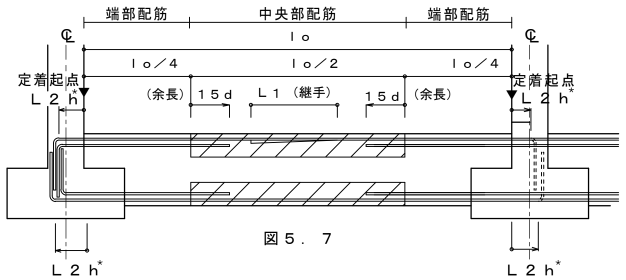


図５．７

３．基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合
※耐圧スラブが付く場合は、図５．９に準ずる。

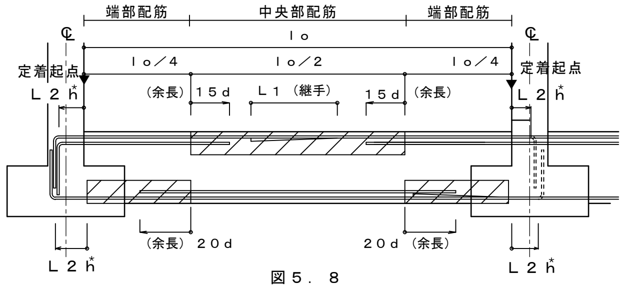
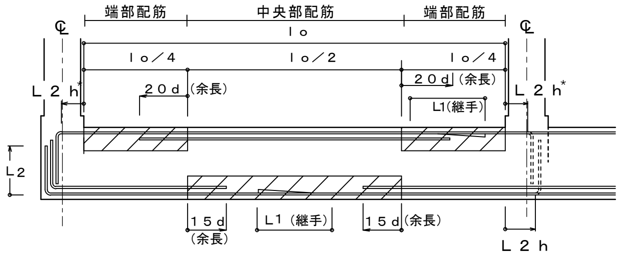


図５．８

４．連続基礎及びべた基礎の場合



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図５．９

（注）
・図示のない事項は、９．「大梁」による。
・═══ 印は、継手位置を示す。
・破線は、柱内定着の場合を示す。
・ハッチ部分は、望ましい継手位置を示す。

Ｅ．基礎梁のあばら等

１．基礎梁のあばら筋

（１）基礎梁のあばら筋の径及び間隔は、特記による。

（２）基礎梁のあばら筋組立の形及びフックの位置は、１０．「あばら筋等」による。ただし、梁せいが１．５ｍ以上の場合は. 図５．１０によることができる。

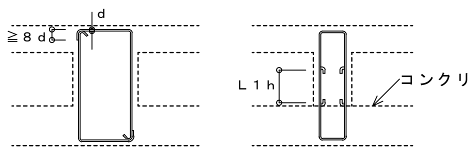


図５．１０

２．腹筋及び幅止め筋は、１０．「あばら筋等」による。ただし、梁せいが、１．５ｍ以上の場合は、特記による。

３．あばら筋の割付は、１０．「あばら筋等」による。

Ｆ．基礎梁の補強

１．打増し補強は、１１．「梁の打増補強」による。

２．土間スラブ等の打継ぎ補強は、１３．「スラブ」（３）スラブ等の補強による。

６．柱

Ａ．柱の主筋

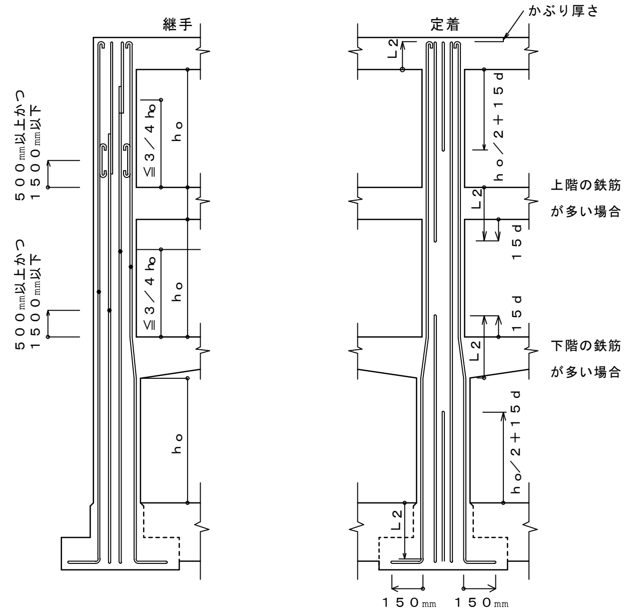
１．柱主筋の継手及び定着は、次による。

（１）継手及び圧接中心位置は、梁上端から５００mm以上、１５００mm以下かつ、３／４ｈｏ（ｈｏは柱の内法高さ）以下とする。

（２）重ね継手長さはＬ１とし、定着及び余長は図６．１による。ただし、柱頭定着長さＬ２が確保できない場合は、特記による。

２．電気設備の埋め込みボックス等は、柱の断面欠損となり、強度、耐久性の低下につながるため、原則として、埋め込まないこととする。やむを得ず埋め込む場合には、柱の打増し、乾式工法（軽鉄下地）等を検討する。また、配管についても１つの柱に集中させないようにするとともに、材軸方向と直交方向に配管する場合には柱の貫通は行わないこととする。

３．柱主筋にＸ形配筋を用いる場合は、「Ｘ形配筋部材の設計と施工（日本建築士事務所協会）」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。



（注）・２．「鉄筋の組立・加工」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・隣合う継手の位置は、表３．３による。
・継手、定着は、すべての階に適用できる。

図６．１

７．帯筋

Ａ．帯筋

１．帯筋は, 原則としてＨ形とする。ただし、構造上重要な柱、独立柱等で特記するものはスパイラル筋とする。
やむを得ず上記以外の方法とする場合はｂ、ｃによる。

（１）Ｈ形の１３５°曲げのフックが困難な場合は、Ｗ－１形とする。

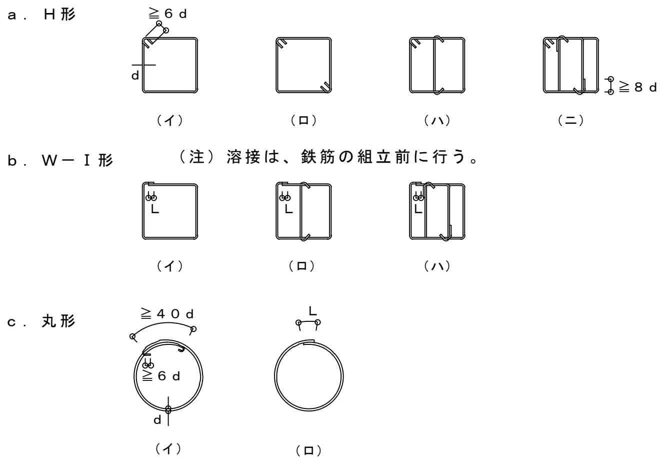


図７．２

（２）溶接する場合の長さＬは、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とする。
溶接は設備の整った工場で行うことを原則とする。やむを得ず現場で溶接しなければならない場合には、十分に溶接できる作業条件と有資格者によって行うこととする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

19　.　.　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－03
1999．7．1　改訂		
2008．4．1　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［２］	縮尺
2011．4．1　改訂	教育委員会教育総務課	
2017．4．1　改訂		
2020．4．1　改訂		

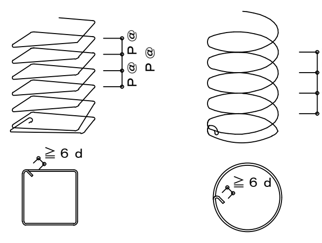
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［３］

７．帯筋（続き）

２．帯筋をスパイラル筋とする場合、次のとおりとし、間隔は特記による。

ＳＰ形（スパイラル筋）



（イ）　（ロ）

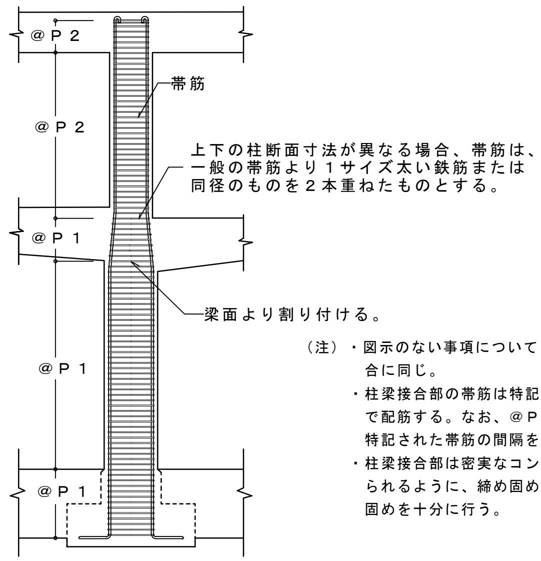
（注）ＳＰ形において、柱頭及び柱脚の端部は、１．５巻以上の添巻きを行う。

図７．１

（１）スパイラル筋の重ね継手は長さ５０ｄ以上、かつ、３０cm以上とし、その末端は９０°フック余長１２ｄ以上、または１３５°フック余長６ｄとする。ただし、スパイラル筋の径は１３mm、または、Ｄ１３以下を原則とする。
原則として角スパイラルは、柱断面が正方形または正方形に近い長方形のものに用いる。

３．フック及び継手の位置は、交互とする。

４．帯筋の割付けは、特記による。特記が無い場合は、図７．２による。


@Ｐ２
@Ｐ２
帯筋
上下の柱断面寸法が異なる場合、帯筋は、一般の帯筋より１サイズ太い鉄筋または同径のものを２本重ねたものとする。
@Ｐ１
梁面より割り付ける。
@Ｐ１
@Ｐ１

（注）・図示のない事項については、一般の場合に同じ。
・柱梁接合部の帯筋は特記されたピッチで配筋する。なお、@Ｐ１、@Ｐ２は、特記された帯筋の間隔を示す。
・柱梁接合部は密実なコンクリートが得られるように、締め固めを十分に締め固めを十分に行う。

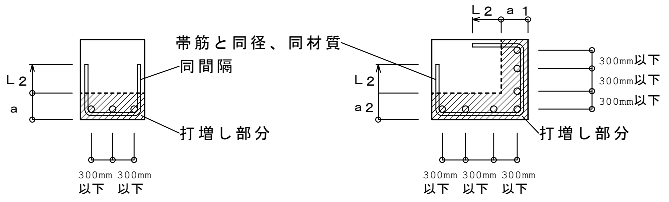
図７．２

８．柱の打増補強

Ａ．柱の打増補強

１．柱の打増しは、特記による。特記が無く、打増し幅が７０mm以上、２００mm以下の場合には図８．１による。

２．梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（ａ）１方向の打増し　（ｂ）２方向の打増し

（７０mm≦ ａ、ａ１、ａ２ ≦２００mmの場合）

図８．１

９．大梁

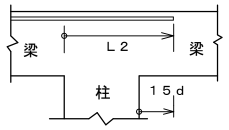
Ａ．大梁の主筋

１．大梁主筋の継手及び定着の一般事項。

（１）継手及び圧接中心位置は、次による。
上端筋：中央Ｌｏ／２以内
下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、Ｌｏ／４以内

（２）継手長さはＬ１とし、定着長さ及び余長は図９．３及び図９．４による。

（３）梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図９．１による。



（注）上階に柱がある場合の定着長さはＬ２とし、１５ｄは必要ないものとする。

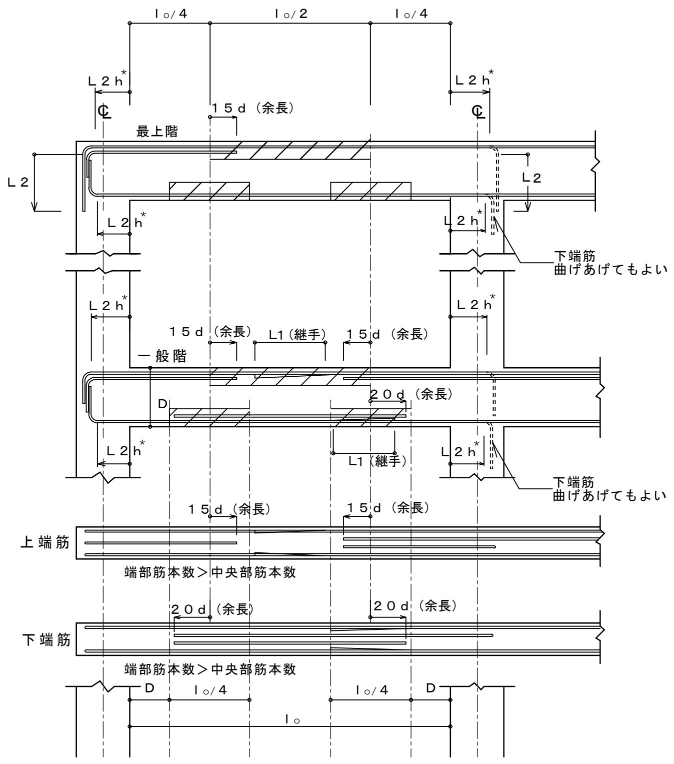
図９．１

（４）梁主筋を外柱内に定着する場合は、原則として梁の上端筋は下向き定着とし、下端筋は上向き定着とする。また、上端筋及び下端筋とも柱梁接合部における投影定着長さを柱せいの３／４倍以上とする。

（５）梁にハンチをつける場合、その傾斜は特記による。特記がなければ、１：４とする。

２．ハンチのない場合の重ね継手及び定着は、図９．２による。

ｕＬｈ：上端筋の水平定着長さ　Ｄ：柱のせい
ｌＬｈ：下端筋の水平定着長さ
ｕＬｈ≧３／４Ｄ、かつｌＬｈ≧３／４Ｄとする。

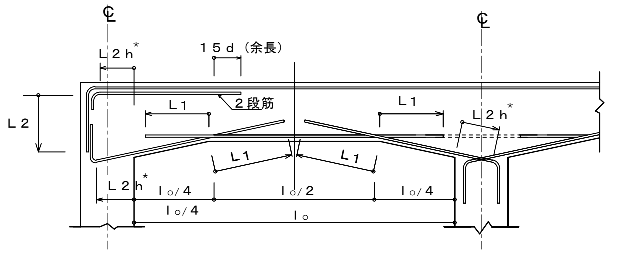


＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．２

（注）・２．「鉄筋の加工・組立て」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・＝＝＝ 印は、継手及び余長を示す。
・破線は、柱内定着の場合を示す。
・ハッチ部分は望ましい継ぎ手位置を示す。

３．ハンチのある場合の定着は、図９．３による。

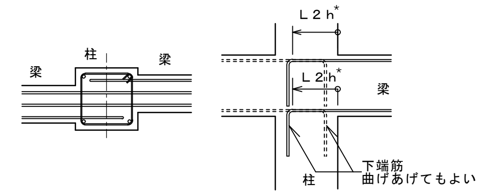


＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．３

（注）・２．「鉄筋の折り曲げ」で定めた鉄筋には、フックをつける。
・＝＝＝ 印は、継手及び余長を示す。
・梁内定着の端部が接近するときは、:::::::::::: のように引き通すことができる。
・破線は、柱内定着の場合を示す。

４．水平段差のある場合の定着は、図９．４による。

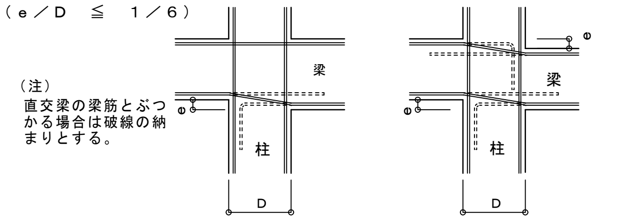


＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

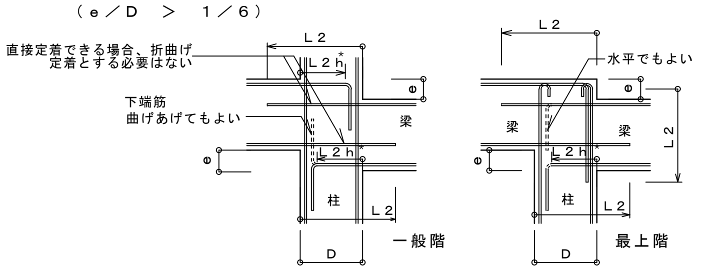
図９．４

５．段違い梁の定着は、図９．５による。

（ｅ／Ｄ ≦ １／６）



（ｅ／Ｄ ＞ １／６）



＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図９．５

６．梁主筋にＸ形配筋を用いる場合は、「Ｘ形配筋部材の設計と施工（日本建築士事務所協会）」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。

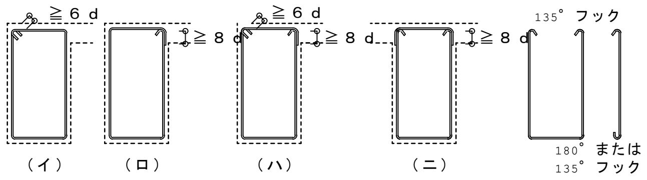
１０．あばら筋等

Ａ．あばら筋

１．あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項。
（１）あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
（２）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、Ｄ１０@１０００程度とする。
（３）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０mm程度とする。
（４）壁梁の場合、腹筋の設定長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければＬ２とする。
（５）ハンチ基点のあばら筋の径、ピッチは特記による。

２．あばら筋組立の形及びフックの位置

（１）形は、図１０．１（イ）とする。ただし、Ｌ形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、Ｔ形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。



（イ）　（ロ）　（ハ）　（ニ）　（副あばら筋）

図１０．１

（２）フックの位置は（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合のＬ形ではスラブのつく側、Ｔ形では交互とする。なお（ハ）の場合はスラブのつく側を９０°曲げとする。

３．あばら筋・腹筋の割付け

（１）間隔が一様で、ハンチの無い場合

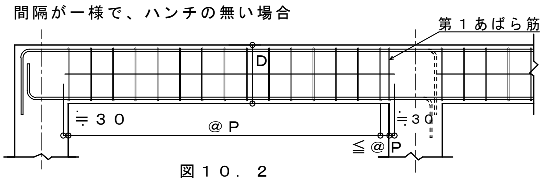


図１０．２

（２）間隔が一様で、ハンチのある場合

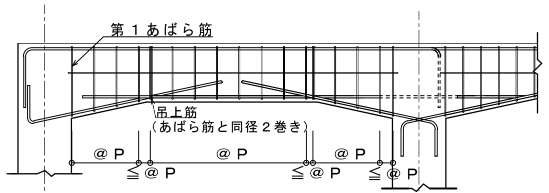


図１０．３

（３）梁の端部で間隔の異なる場合

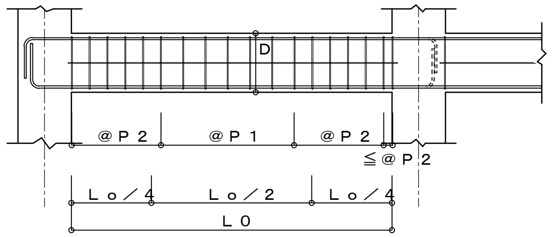


図１０．４

（注）・あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
・図注の@Ｐ１、@Ｐ２は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

Ｂ．腹筋及び幅止筋

１．一般の梁場合は図示による。図示が無い場合図１０．５による。

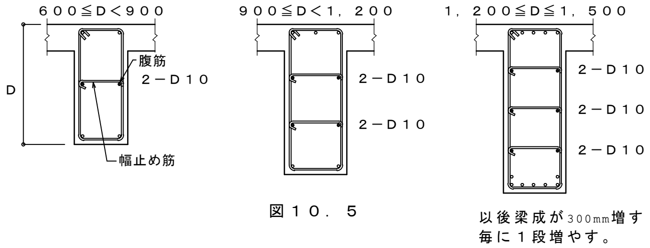


図１０．５

以後梁成が300mm増す毎に１段増やす。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

19　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－04
1999．7．1　改訂		
2008．4．1　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［３］	縮尺
2011．4．1　改訂	教育委員会教育総務課	
2017．4．1　改訂		
2020．4．1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［４］

１０．　あばら筋等（続き）

２．壁梁の場合は、図１０．６による。

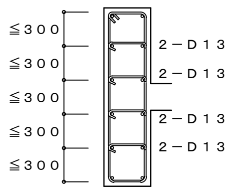


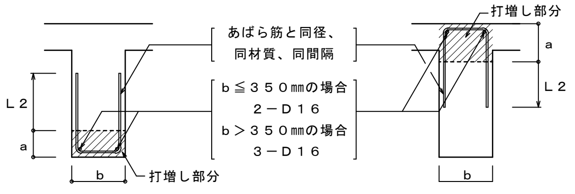
図１０．６

１１．梁の打増し補強

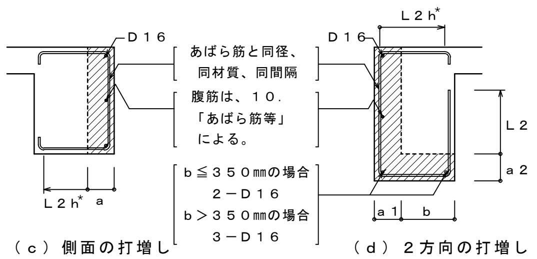
Ａ．梁の打増し補強

１．梁の打増しは図示による。図示が無い場合は図１１．１による。

２．小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



（ａ）下端の打増し　　（ｂ）上端の打増し



（ｃ）側面の打増し　　（ｄ）２方向の打増し

＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。
７０㎜≦ａ≦２００㎜の場合（ａ＜７０の場合は補強筋不要）

図１１．１

１２．小梁、片持ち梁

Ａ．小梁

１．小梁主筋の継手及び定着

（１）連続小梁の場合

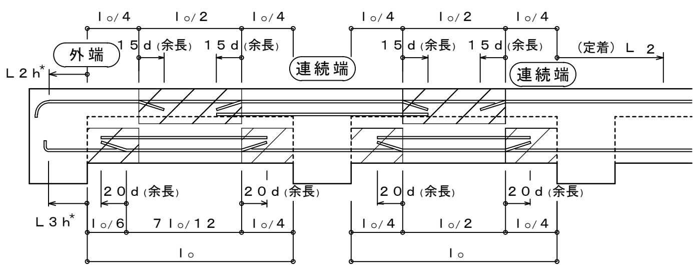
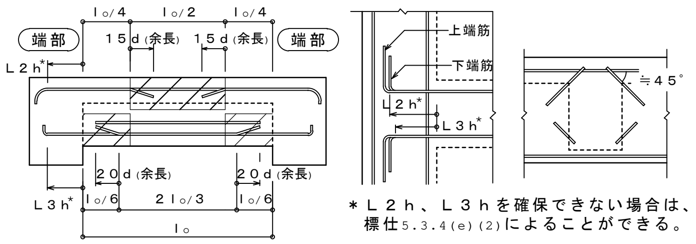


図１２．１

（２）単独小梁の場合



＊Ｌ２ｈ、Ｌ３ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図１２．２

（注）１．══ 印は、余長位置を示す。
２．図示のない事項は、５．「基礎・基礎梁」Ｄ「基礎梁の継手及び定着」及び９．「大梁」による。
３．ハッチ部分は望ましい継手位置を示す。

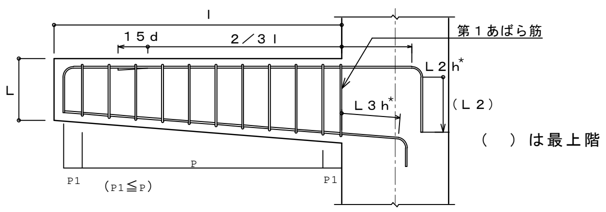
２．あばら筋は、１０．「あばら筋等」による。

３．打増補強筋は、１１．「梁の打増補強」による。

Ｂ．片持ち梁

１．片持ち梁の配筋要領

（１）先端に小梁のない場合



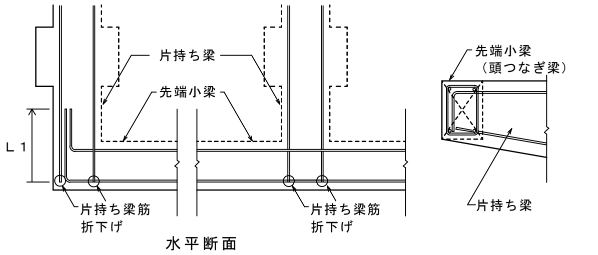
（　）は最上階

＊Ｌ２ｈ、Ｌ３ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図１２．３

（注）・図示のない事柄は、９．「大梁」による。
・══ 印は、余長を示す。
・先端の折曲げの長さＬは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
・梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取り付く場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、２本以上を柱に定着する。

（２）先端に小梁がある場合



水平断面

小梁外端部　　小梁連続端部

図１２．４

（注）・図示のない場合は、（１）による。
・先端小梁終端部の主筋は、片持ち梁内に水平定着する。
・先端小梁の連続端は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

２．あばら筋は、１０．「あばら筋等」による。

３．打増補強筋は、１１．「梁の打増補強」による。

１３．スラブ

Ａ．スラブ

１．スラブの厚さ及び配筋は、特記による。

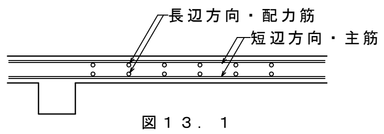


図１３．１

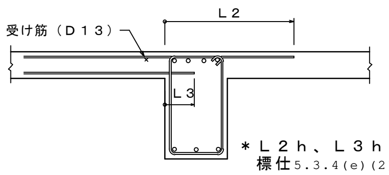
２．配筋可能な限り継手は設けない加工とする。

３．配筋は、中央から割り付け、端部は定められた間隔の１／２以下とする。

４．鉄筋の重ね継手長さは、Ｌ１とする。

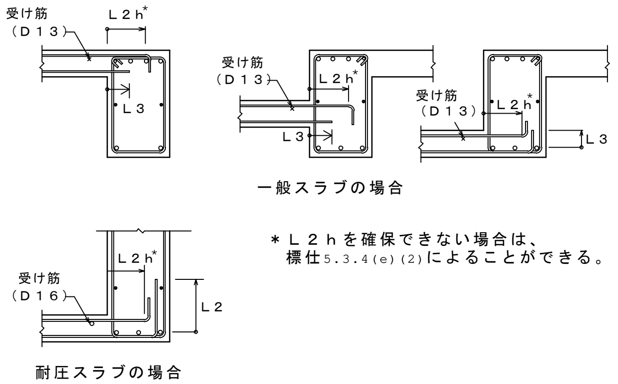
５．定着長さ及び受け筋は、図１３．２による。ただし、引き通すことができない場合は、図１３．３により梁内に定着する。

６．スラブ筋の継手は、原則として梁内に設けないこと。



＊Ｌ２ｈ、Ｌ３ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

図１３．２



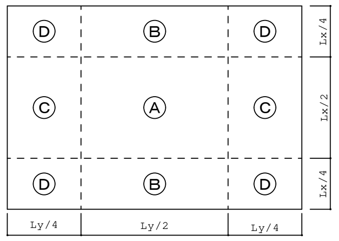
一般スラブの場合

＊Ｌ２ｈを確保できない場合は、標仕5.3.4(e)(2)によることができる。

耐圧スラブの場合

図１３．３

７．スラブ筋の継手可能位置



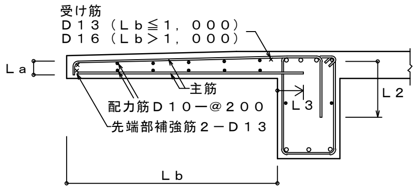
〔上端筋〕
主力筋方向 Ⓐ Ⓒ
配力筋方向 Ⓐ Ⓓ

〔下端筋〕
主力筋方向 Ⓑ Ⓒ Ⓓ
配力筋方向 Ⓑ Ⓒ Ⓓ

図１３．４

Ｂ．片持ちスラブ

１．片持ちスラブの厚さ及び配筋は、特記による。



（注）・先端の折れ曲げ長さＬａは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
・スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図１３．５

２．鉄筋の上下位置を保持するために一般のスラブよりバーサポートによる鉄筋の保持を堅固にする。

３．先端に壁が付く場合

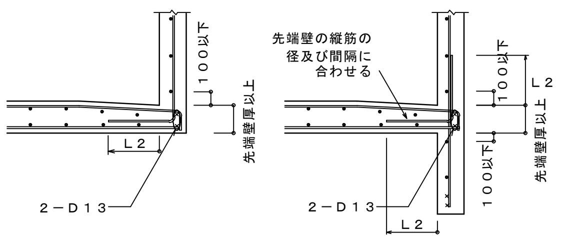
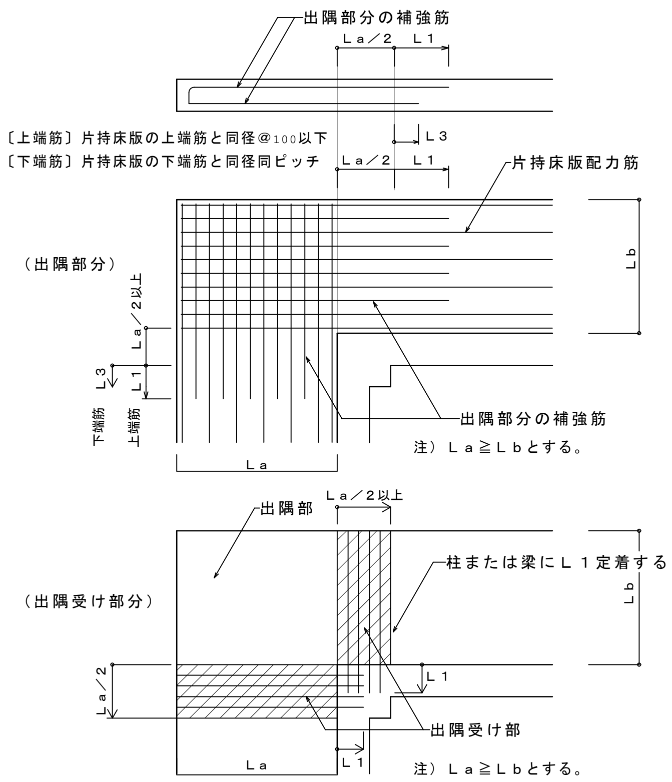


図１３．６

４．出隅部

（１）出隅部及び出隅受け部（図１３．７の斜線部）の補強は、特記による。配筋方法は、図１３．７による。



〔上端筋〕片持床版の上端筋と同径＠100以下
〔下端筋〕片持床版の下端筋と同径同ピッチ

注）Ｌａ≧Ｌｂとする。

注）Ｌａ≧Ｌｂとする。

〔上端筋〕片持床版の上端筋と同径１/２ピッチ
〔下端筋〕片持床版の下端筋と同径１/２ピッチ

図１３．７

Ｃ．スラブ筋等の補強

１．スラブ開口部の補強は、特記による。

（１）スラブ開口の最大径が７００㎜以下の場合は、図１３．８により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に２－Ｄ１３（ｌ＝２Ｌ１）シングルを上下筋の内側に配筋する。

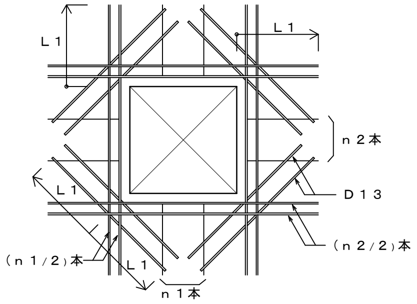


図１３．８

補強を省略できる場合

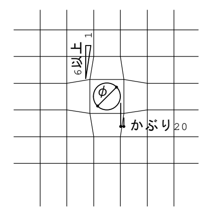
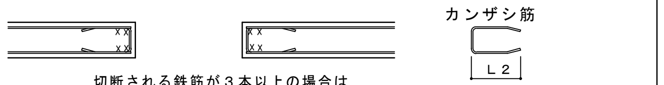


図１３．９



切断される鉄筋が３本以上の場合はフックまたはカンザシ筋を設ける。

（切断される鉄筋と同径・同ピッチ）

図１３．１０

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－05
１９９９．７．１　改訂		
２００８．４．１　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［４］	縮尺
２０１１．４．１　改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１　改訂		
２０２０．４．１　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［５］

１３．スラブ（続き）

２．屋根スラブの補強

（１）屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図１３．１１により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

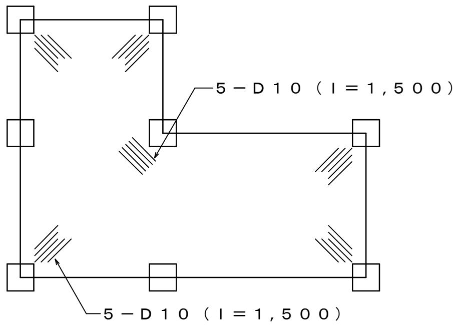
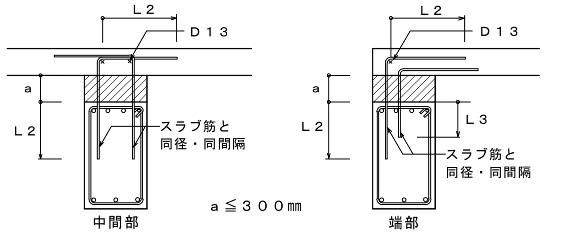


図１３．１１

３．土間スラブの打継ぎ補強

（１）基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、図１３．１２による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブをいう。

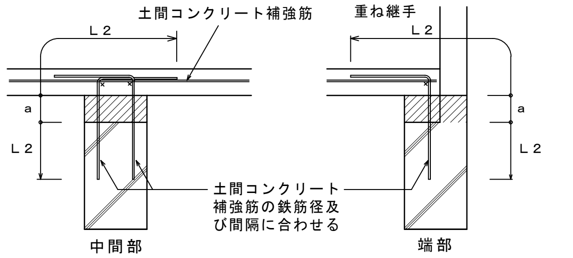


ａ≦３００㎜

図１３．１２

４．土間コンクリートの補強

（１）土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は，図１３．１３による。

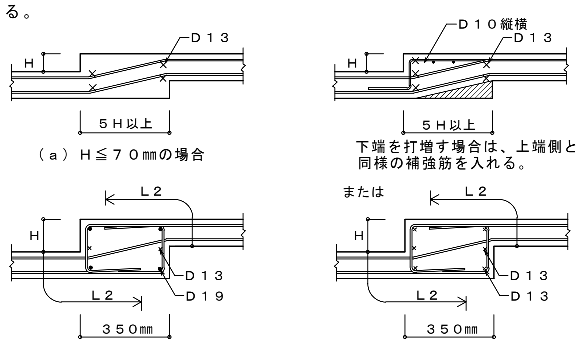


ａ≦３００㎜

図１３．１３

５．段差のあるスラブの補強

（１）段差のあるスラブの補強は図示による。図示が無ければ図１３．１４による。



（ａ）Ｈ≦７０㎜の場合

下端を打増す場合は、上端側と同様の補強筋を入れる。

（ｃ）１５０㎜＜Ｈの場合

（ｂ）７０＜Ｈ≦１５０㎜の場合

図１３．１４

１４．階段の配筋

Ａ．階段

１．階段の配筋は、特記による。

２．階段の配筋方法は、図１４．１による。

〔二辺固定スラブ階段〕

〔片持ちスラブ階段〕

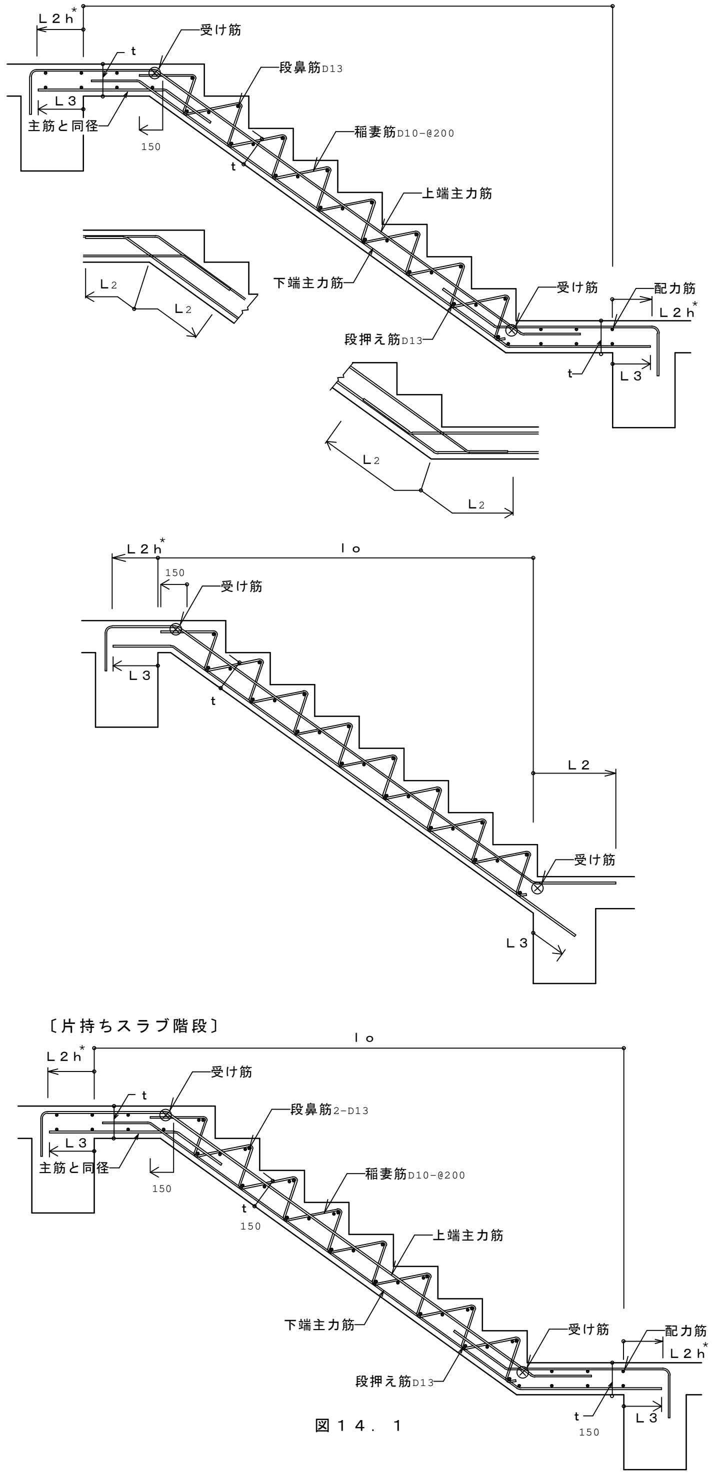


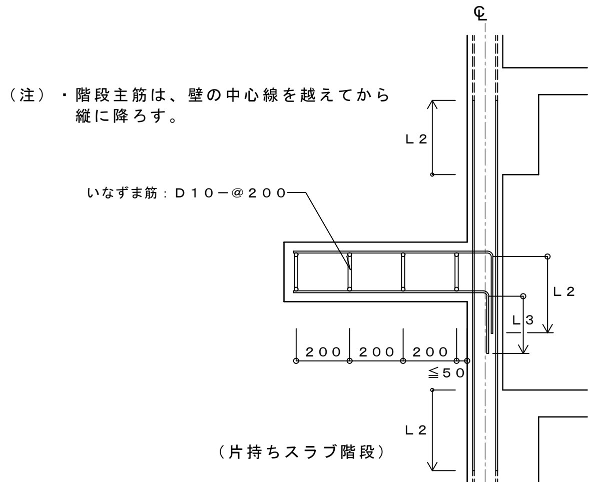
図１４．１

表１４．１　階段受壁の縦筋（Ｌ：片持階段の出寸法）

壁　厚	Ｌ≦1,200	1,200＜Ｌ≦1,500	1,500<Ｌ≦1,800
180	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル	D13-@125ダブル
200、220		D13-@200ダブル	D13-@150ダブル
250			D13-@200ダブル

３．片持ちスラブ階段の配筋方法は、図１４．２による。

４．片持ちスラブ形階段のいなずま筋は、Ｄ１０－@２００とし、受け壁面より５０㎜のところに第１いなずま筋を配筋する。



（注）・階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。

（片持ちスラブ階段）

図１４．２

１５．梁貫通

Ａ．梁貫通孔の補強

１．梁貫通孔の補強は、特記による。特記がなければ、次による。

（１）梁貫通孔補強筋の名称は、図１５．１による。

（２）孔の径は、梁せいの１／３以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

（３）孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より１／３Ｄの範囲には設けてはならない。

（４）孔は、柱面から、原則として、１．５Ｄ（Ｄは梁せい）以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。

（５）孔が並列する場合は、その中心間隔は、孔の平均値の３倍以上とする。

（６）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

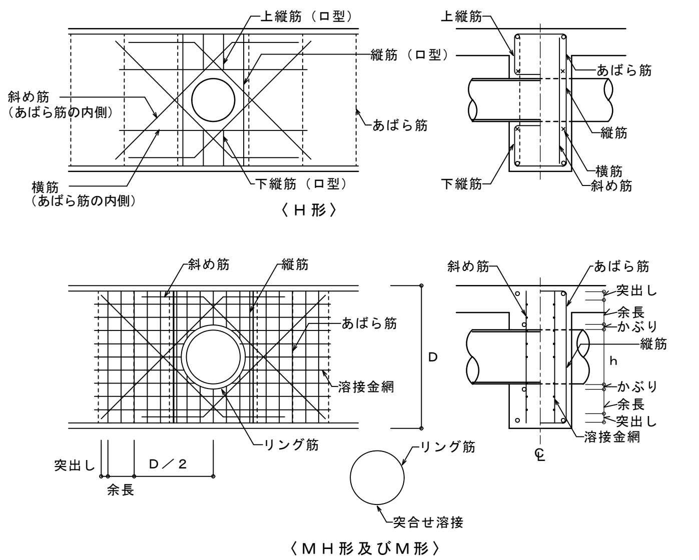
（７）補強筋はｍ主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図１５．２による。

（８）孔の径が梁せいの１／１０以下、かつ、１５０㎜未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補を省略することができる。

（９）溶接金網の余長は１格子以下とし、突出しは１０㎜以上とする。

（10）溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取りつける。なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。

（11）溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



〈Ｈ形〉

〈ＭＨ形及びＭ形〉

図１５．１

補強筋の定着長さ

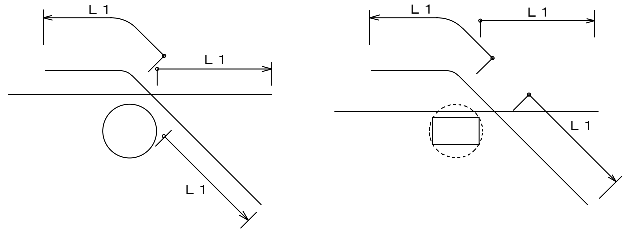
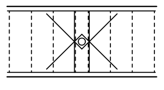
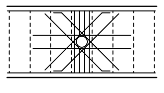
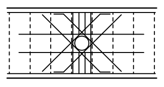


図１５．２

（12）補強形式は表１５．１～表１５．３により、配筋種別は特記による。選定方法は、建設大臣官房庁営繕部監修「建築構造設計規準及び同解説」による。

（ａ）Ｈ形配筋

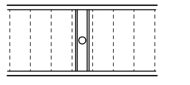
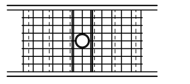
表１５．１　Ｈ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	横　筋	上下縦筋	配　筋　図
Ｈ１	２－２－Ｄ１３	な　し	な　し	な　し	
Ｈ２		２－２－Ｄ１３			
Ｈ３	４－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	
Ｈ４	４－２－Ｄ１６				
Ｈ５	４－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	３－２－Ｄ１３	
Ｈ６	４－２－Ｄ１９				
Ｈ７	４－２－Ｄ２２				

（注）------------ は、一般部のあばら筋を示す。

（ｂ）Ｍ形配筋

表１５．２　Ｍ形配筋

配筋種別	縦　筋	溶接金網	リング筋	配　筋　図
Ｍ１	２－２－Ｄ１３	な　し	な　し	
Ｍ２	４－２－Ｄ１３			
Ｍ３	４－２－Ｄ１３	２－６φ－１００@	１３φ	
Ｍ４	６－２－Ｄ１３			

（注）--------- は、一般部のあばら筋を示す。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

１９　．　．　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－06
１９９９．７．１　改訂		
２００８．４．１　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［５］	縮尺
２０１１．４．１　改訂	教育委員会教育総務課	
２０１７．４．１　改訂		
２０２０．４．１　改訂		

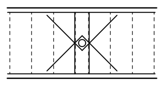
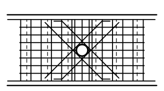
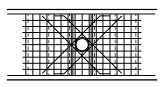
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図［６］

１５．梁貫通（続き）

（ｃ）ＭＨ形配筋

表１５．３　ＭＨ形配筋

配筋種別	斜め筋	縦　筋	溶接金網	リング筋	配　筋　図
ＭＨ１	２－２－Ｄ１３	な　し	な　し	な　し	
ＭＨ２		２－２－Ｄ１３			
ＭＨ３	２－２－Ｄ１３	２－２－Ｄ１３	２－６φ－１００＠	１３φ	
ＭＨ４	４－２－Ｄ１３				
ＭＨ５	４－２－Ｄ１６				
ＭＨ６	４－２－Ｄ１６	４－２－Ｄ１３	２－６φ－１００＠	１３φ	
ＭＨ７	４－２－Ｄ１９				

（注）----------- は、一般部のあばら筋を示す。

配筋の表示

凡例	配筋
斜め筋　４－２－Ｄ２２	４本のＤ２２が２面入ることを示す。
縦筋　４－２－Ｄ１３	４本のＤ１３があばら筋状に孔の両側に２本ずつ入ることを示す。
上下縦筋　３－２－Ｄ１３	孔の上下の部分にそれぞれＤ１３のあばら筋が３本入ることを示す。
溶接金網　２－６φ－＠１００	６φ－＠１００の溶接金網が２面入ることを示す。

２．建設技術評価規定第９条１項の規定に基づき建設大臣が評価している製品を使用する場合、または、建設省の技術評価が行われた後、開発されまたは改良され、（財）日本建築センターにより評価された製品を使用する場合は、製品の形式による適用範囲のほか、施工上の留意事項も確認すること。

３．梁貫通孔は、原則として、せん断力の大きいところは避けて設け、必要に応じて適切な補強を行う。また、梁には、原則として、配管等の埋設を行わない。

１６．壁，その他

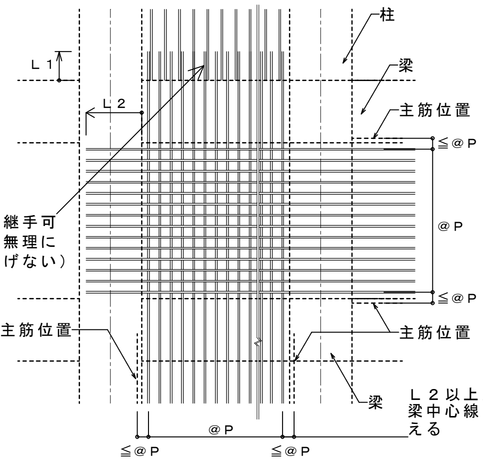
Ａ．壁

１．一般事項

（１）配筋可能な限り継手は設けない加工とする。

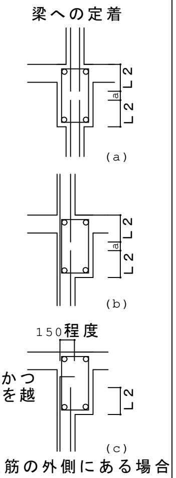
（２）壁筋の重ね継手長さはＬ１とし、定着長さはＬ２とする。

（３）一般部壁筋の配筋は、図１６．１による。



（注）＠Ｐは、壁筋の間隔を示す。

図１６．１



(b) (c) は主筋の外側にある場合

図１６．２

（４）原則として、継手は柱・梁の中には設けないこと。

（５）横筋の場合は、１スパンごとに柱に定着することは差し支えない。

（６）土圧等の面外力を受ける壁の場合は、圧縮側の位置に継手を設ける。

（７）重ね継手及び定着の長さがとれない場合は、監督職員の承諾を受けて、両面フレア溶接の場合は５ｄ以上、片面フレア溶接の場合は１０ｄ以上とすることができる。

（８）幅止め筋は、縦、横ともＤ１０－＠１，０００程度とする。

２．壁の配筋は特記により、その定着は図１６．３による。

３．壁の交差部の補強筋及び端部の補強筋は、特記がなければＤ１３とする。

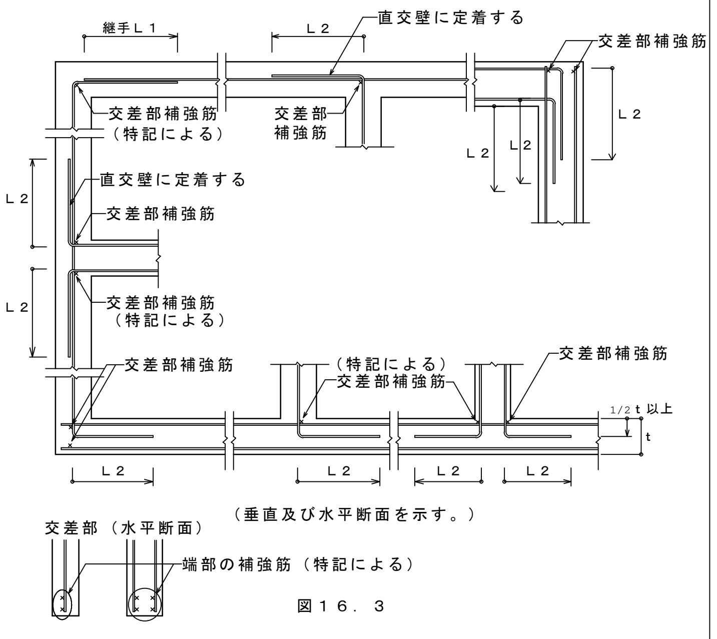


図１６．３

４．壁の開口補強筋は特記による。定着長さは、図１６．４による。

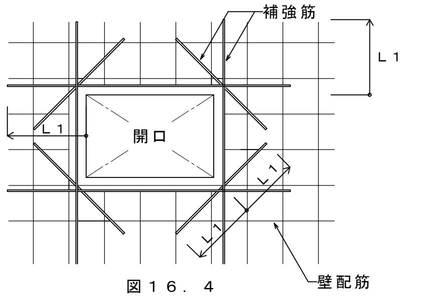


図１６．４

５．片持ちスラブ形階段を受ける壁の縦筋は、横筋の外側に配筋する。

６．コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

７．壁の打増し補強筋は特記による。特記が無く、打増厚さが５０㎜以上、２００㎜以下の場合は図１６．５による。

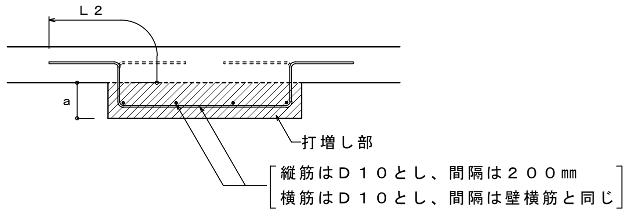


図１６．５

Ｂ．パラペット

１．パラペットの配筋は、特記による。特記が無く、高さｈが８００㎜以下の場合は図１６．６による。

２．パラペットの配筋は、原則として複配筋とし、端部には補強筋を配筋すること。

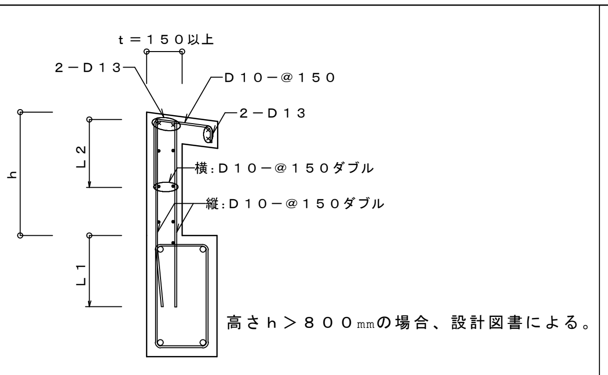


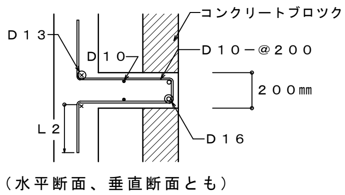
図１６．６

Ｃ．コンクリートブロック帳壁

１．控壁

（１）壁の配置及び配筋は、特記による。

（２）特記が無い場合、配筋は図１６．７による。



（水平断面、垂直断面とも）

図１６．７

２．帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は図１６．８による。

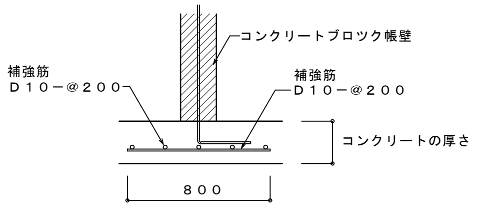


図１６．８

Ｄ．機械吊上げ用フック

１．梁に設ける機械吊上げ用フックは、表１６．１、図１６．９により、種別は特記による。

表１６．１　機械吊上げ用フック

種　別	Ａ　種	Ｂ　種	Ｃ　種
フック筋	φ２５またはＤ２５	φ２２またはＤ２２	φ１９またはＤ１９
曲げ内のり直径（㎜）	１００		
補強かんざし筋	２－Ｄ１６		
補強腹筋（㎜）	Ｄ１６、ｌ＝９００	Ｄ１６、ｌ＝７５０	Ｄ１６、ｌ＝６００
吊上げ荷重（ＫＮ）	５０≧Ｗ＞３０	３０≧Ｗ＞１０	１０≧Ｗ

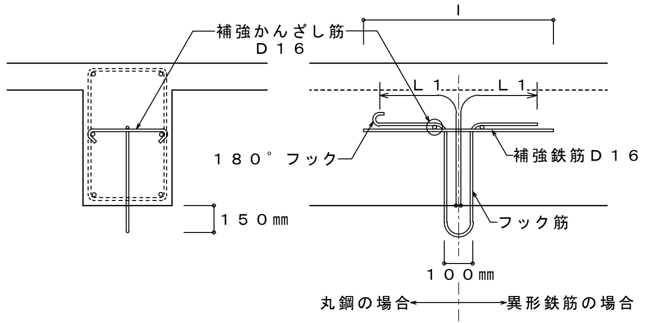


図１６．９

Ｅ．コンクリートブロック塀

１．ブロック塀の配筋は、特記による。

２．塀の高さ（地盤面に高低差のある場合は低い方による）は２．２ｍ以下とする。

３．塀の厚さは、塀の高さ２ｍ以下は１２㎝以上、２ｍを超える場合は１５㎝以上とする。

４．地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は、別途検討する。

５．鉄筋挿入部はモルタルを充てんする。

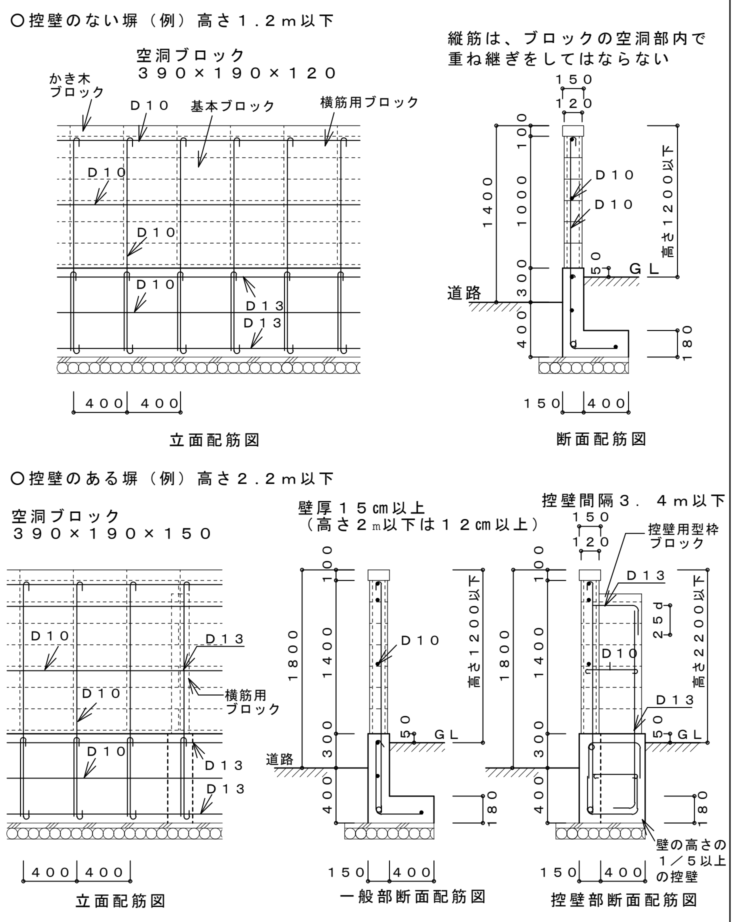


図１６．１０

１７．増築用の配筋

Ａ．増築用の配筋

１．将来増築予定の打増部分の配筋は、特記による。

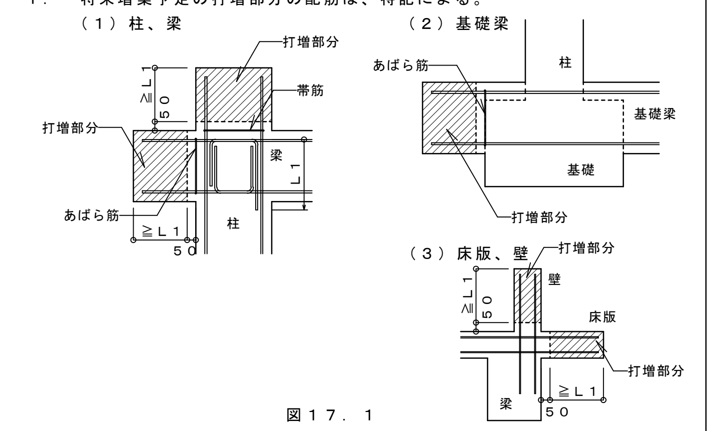


図１７．１

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

改訂履歴	工事名	番号
19　．　．　制定	中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	Ｓ－07
1999．7．1　改訂		
2008．4．1　改訂	図面名 鉄筋コンクリート構造配筋標準図［６］	縮尺
2011．4．1　改訂	教育委員会教育総務課	
2017．4．1　改訂		
2020．4．1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［１］

１．共通事項

Ａ．適用範囲

１．この標準図は、鉄骨工事に適用する。

２．設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事共通仕様書」、「鉄骨設計標準図」（建設大臣官房庁営繕部監修）による。

３．使用する鋼材等は特記による。この標準図は、表１．１～表１．４に示す鋼材等に適用する。これ以外は特記による。

表１．１　鋼材の種類

規格番号	規格名称等	種類の記号
ＪＩＳ　Ｇ３１０１	一般構造用圧延鋼材	ＳＳ４００，ＳＳ４９０，ＳＳ５４０
ＪＩＳ　Ｇ３１０６	溶接構造用圧延鋼材	ＳＭ４００Ａ，Ｂ，Ｃ，ＳＭ４９０Ａ，Ｂ，Ｃ ＳＭ４９０ＹＡ，ＹＢ，ＳＭ５２０Ｂ，Ｃ
ＪＩＳ　Ｇ３１１４	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	ＳＭＡ４００ＡＷ，ＡＰ，ＢＷ，ＢＰ，ＣＷ，ＣＰ ＳＭＡ４９０ＡＷ，ＡＰ，ＢＷ，ＢＰ，ＣＷ，ＣＰ
ＪＩＳ　Ｇ３１３６	建築構造用圧延鋼材	ＳＮ４００Ａ，Ｂ，Ｃ，ＳＮ４９０Ｂ，Ｃ
ＪＩＳ　Ｇ３１３８	建築構造用圧延棒鋼	ＳＮＲ４００Ａ，Ｂ，ＳＮＲ４９０Ｂ
ＪＩＳ　Ｇ３３５０	一般構造用軽量形鋼	ＳＳＣ４００
ＪＩＳ　Ｇ３３５３	一般構造用溶接軽量Ｈ形鋼	ＳＷＨ４００
ＪＩＳ　Ｇ３４４４	一般構造用炭素鋼鋼管	ＳＴＫ４００，ＳＴＫ４９０
ＪＩＳ　Ｇ３４６６	一般構造用角形鋼管	ＳＴＫＲ４００，ＳＴＫＲ４９０
ＪＩＳ　Ｇ３４７５	建築構造用炭素鋼鋼管	ＳＴＫＮ４００Ｗ，ＳＴＫＮ４００Ｂ，ＳＴＫＮ４９０Ｂ
――	上記に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鋳鋼	――

表１．２　高力ボルト

規格番号	規格名称等	セットの種類
	トルシア形高力ボルト	２種（Ｓ１０Ｔ）
ＪＩＳ　Ｂ１１８６	ＪＩＳ形高力ボルト	２種（Ｆ１０Ｔ）
めっき後の機械的性質がＪＩＳ　Ｂ１１８６の規定のセットと同等であること	溶融亜鉛めっき高力ボルト	１種（Ｆ８Ｔ相当）

表１．３　普通ボルト

	規格名称等	種類
規格番号 規格名称	ＪＩＳ　Ｂ１１８０ （六角ボルト）	ＪＩＳ　Ｂ１１８１ （六角ナット）
種類	並形六角ボルト	並形六角ナット
材料区分	鋼製	鋼製
強度区分	４．６または４．８	５Ｔ
ねじの交差域クラス及び適用の規格	６ｇ	６Ｈ
	JIS B 0205-4（一般用メートルねじ－第４部：基準寸法）及びJIS B 0209-1（一般用メートルねじ－公差－第１部：原則及び基礎データ）による。	
仕上げの程度	中	中

（１）普通ボルトの座金はＪＩＳ　Ｂ１２５６（平座金）によるみがき丸とし、ボルトに相応したものとする。

（２）アンカーボルトのボルト、ナット及び座金の材質は、特記による。特記がなければ、構造用アンカーボルトの材質はＳＮＲ４００とする。

表１．４　溶接材料

規格番号	種類	規格名称
ＪＩＳ　Ｚ３２１１ ＪＩＳ　Ｚ３２１４	被覆アーク溶接棒	・軟鋼,高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 ・耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
ＪＩＳ　Ｚ３３１２ ＪＩＳ　Ｚ３３１３ ＪＩＳ　Ｚ３３１５ ＪＩＳ　Ｚ３３２０	ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼,高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・軟鋼,高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ ・耐候性鋼用マグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ ・耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
ＪＩＳ　Ｚ３３１３	セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
ＪＩＳ　Ｚ３１８３ ＪＩＳ　Ｚ３３５１ ＪＩＳ　Ｚ３３５２	サブマージアーク溶接用材料	・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分 ・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ ・サブマージアーク溶接用フラックス
ＪＩＳ　Ｚ３３５３	エレクトロスラグ溶接用材料	・軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
ＪＩＳ　Ｂ１１９８	スタッド溶接用材料	・頭付きスタッド

（３）ターンバックルは、ＪＩＳ　Ａ５５４０（建築用ターンバックル）により、ターンバックル胴、ターンバックルボルトの種類、及びターンバックルボルトのねじの呼びは、特記による。特記がなければ、ターンバックル胴は割枠式、ターンバックルボルトは羽子板ボルトとする。

（４）構造耐力上主要な部分である床版床又は屋根版に使用するデッキプレートは国土交通省告示第3266号（平成１４年制定、平成１９年改正）に定める技術的基準に適合すること。

（５）構造床として使用するデッキプレートは国土交通省国土技術政策総合研究所他「デッキプレート版技術基準解説及び設計・計算例」および(独)建築研究所監修「デッキプレート床構造設計・施工基準」により、材質、形状及び寸法は特記による。

（６）合成スラブとして使用するデッキプレートは国土交通大臣認定品とし、材質、形状及び寸法は特記による。

Ｂ．略語

・ＡＢ	・・・	アンカーボルト
・ＢＨ	・・・	組立Ｈ形鋼
・ＢＰＬ	・・・	ベースプレート
・ＣＨＰＬ	・・・	チェッカープレート
・ＣＰＬ	・・・	カバープレート
・ＤＦＰＬ	・・・	ダイアフラム
・ＦＢ	・・・	フラットバー
・ＦＰＬ	・・・	フランジプレート
・ＧＰＬ	・・・	ガセットプレート
・ＨＴＢ	・・・	高力ボルト
・ＲＰＬ	・・・	リブプレート
・ＳＰＬ	・・・	スプライスプレート
・ＴＢ	・・・	ターンバックル
・ＷＰＬ	・・・	ウェブプレート

２．溶接

Ａ．溶接技能資格者

１．溶接作業における技能資格者（以下「溶接技能者」という。）は、工事に相応した次に示す試験等により（社）日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。

（１）手溶接の場合は、ＪＩＳ　Ｚ３８０１（溶接技術検定における試験方法及び判定基準）。

（２）半自動溶接の場合は、ＪＩＳ　Ｚ３８４１（半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準）。

（３）自動溶接の場合は、（１）または（２）の基本級及び技量を証明する主な工事経歴

（４）組立溶接の場合は、（１）または（２）の基本級以上とする。

２．工事の内容により、１．の溶接技能者に対して、技量付加試験を行う場合は、特記による。

３．溶接技能者の技量に疑いが生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し、監督職員の承諾を受ける。

Ｂ．部材の組立て

１．部材の組立は、適切な治具を用いて正確に行う。特にルート間隔及び密着部分に注意し、不良なものは修正する。

２．組立て順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定め、できるだけ逆ひずみ法を取り入れる。

３．高力ボルト接合と溶接接合を併用する場合は、高力ボルト接合を先に行い、溶接にあたってはボルト接合面の変形やボルトへの入熱を十分考慮して施工する。

４．組立溶接は、次による。

（１）組立溶接の位置は、継手の端部、隅角部、本溶接の始点及び終点等の強度上及び工作上支障がある箇所を避ける。

（２）組立て溶接で本溶接の一部となるものは最小限とし、欠陥を生じたものは全て削り取る。

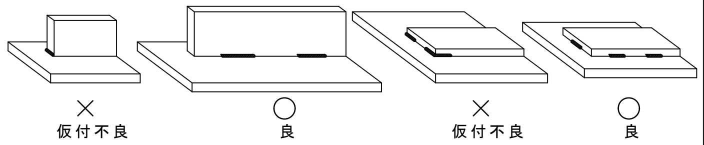
（３）組立て溶接の最小ビード長さの有効長さは表２．１により、その間隔は３００～４００㎜程度とする。

表２．１　組立て溶接の最小ビード長さ（単位：ｍｍ）

板厚	手溶接、半自動溶接を行う箇所	自動溶接を行う箇所
６以下	３０	５０
６を超えるもの	４０	７０

（注）板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

ａ．仮付位置



ｂ．完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

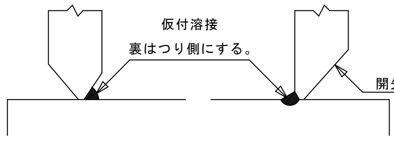


図　２．１

Ｃ．溶接施工

１．溶接方法

（１）アーク手溶接（ＭＣ）

（２）ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）

（３）セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）

（４）アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

２．溶接姿勢

（１）溶接姿勢は、作業架台、ポジショナー等を利用して、できるだけ下向き溶接とする。

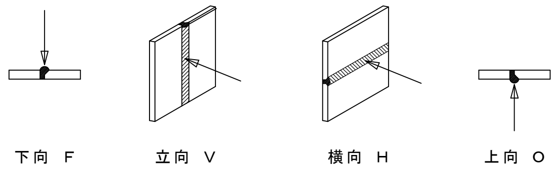


図　２．２

３．エンドタブ

（１）エンドタブの材質、形状は特記による。特記が無い場合は、以下による。

（２）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。

（３）エンドタブの材質は、母材と同質とする。

（４）エンドタブの長さは、ＭＣ：３５㎜以上
ＮＧＣ、ＣＧ：４０㎜以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より１０㎜程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。

（５）プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して監督職員の承諾を得る。

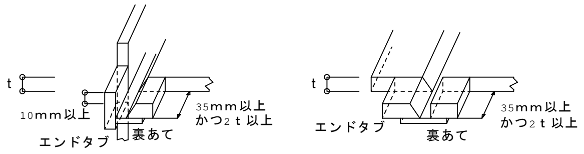


図　２．３

４．裏当て金、スカラップ、裏はつり

（１）裏あて金の材質は特記による。特記が無い場合は以下による。

（２）材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で６㎜、半自動溶接で９㎜以上とする

（３）スカラップは改良型スカラップ、またはノンスカラップとする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

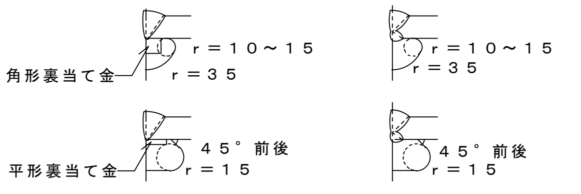
1999. 7. 1　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－08
2006. 4.　改訂		
2011. 4.　改訂	図面名 鉄骨構造標準図［１］	縮尺
2017. 4. 1　改訂	教育委員会教育総務課	
2020. 4. 1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［２］

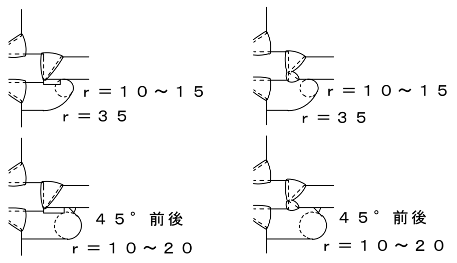
２．溶接（続き）

ａ．改良型スカラップ



裏当て金形式　　ガウジング形式

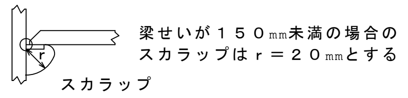
（柱通し形式のスカラップ形状）



裏当て金形式　　ガウジング形式

（梁通し形式のスカラップ形状）

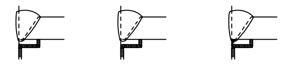
図　２．４



梁せいが１５０㎜未満の場合のスカラップはｒ＝２０㎜とする

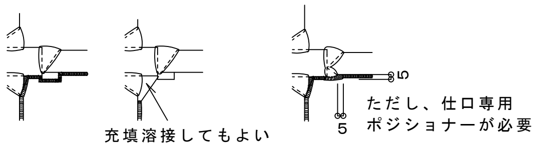
図　２．５

ｂ．ノンスカラップ



裏当て金形式

（柱通し形式のスカラップ形状）



裏当て金形式　　ガウジング形式

（梁通し形式のスカラップ形状）

図　２．６

（４）溶接継手の両面から溶接する場合は、表面より溶接を行った後、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりを行い、裏はつり後裏溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶け込みが得られると判断確認できる場合は、監督職員の承諾を受けて、職員の承諾を受けて、裏はつりを省略することができる。

D．溶接部の試験

１．溶接部の試験は、特記によるが、現場溶接部分は原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

３．ボルト接合

A．高力ボルト

１．摩擦面は、すべり係数値が０．４５以上確保できるよう、ミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の２倍以上の幅を除去した後、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラストまたはグリットブラストにより摩擦面の表面粗度を５０μｍＲｙ以上確保でき、監督職員の承諾を受けた場合には錆の発生を要しない。

２．摩擦面は、摩擦力を低減させるものが発生又は付着しないように保護する。浮き錆、油、塗料、塵あい等が発生または付着した場合は、組立てに先立ち取り除く。

B．普通ボルト

１．ボルトの接合は、ゆるみ及びずれの無いように締め付ける。
２．ボルトには、有効な戻り止めを行う。
３．せん断ボルトは、座金を用いて、ねじがグリップに掛からないようにし、かつ、ナットの外に３山以上出るようにする。

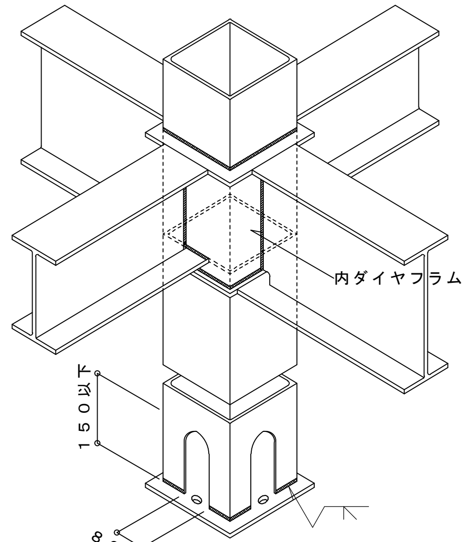
４．錆止め塗装

A．錆止め塗装

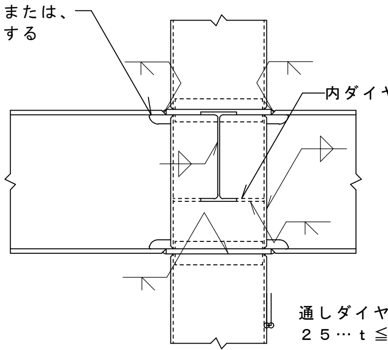
１．錆止めの塗料の種別は特記による。
２．次の部分には、塗装しない。
（１）コンクリートに接触する部分及び埋め込まれる部分
（２）高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
（３）密閉される閉鎖形断面の内面
（４）耐火被覆材の接着する面
（５）工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ２００㎜の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲
ただし、工事現場溶接を行う部分でも、著しい錆を発生するおそれがある場合は、溶接に無害な適切な防錆処理を行うこと。

５．接合部標準図

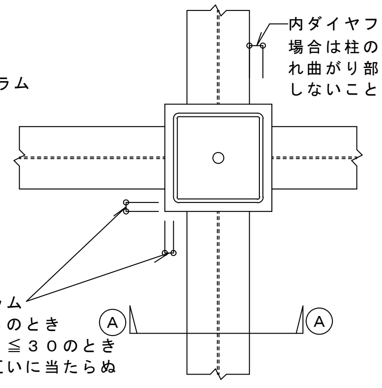
●ＢＯＸ型（通しダイヤフラムの場合）



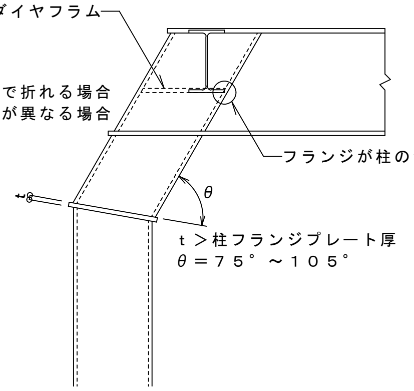
Ⓐ－Ⓐ断面図



平面詳細

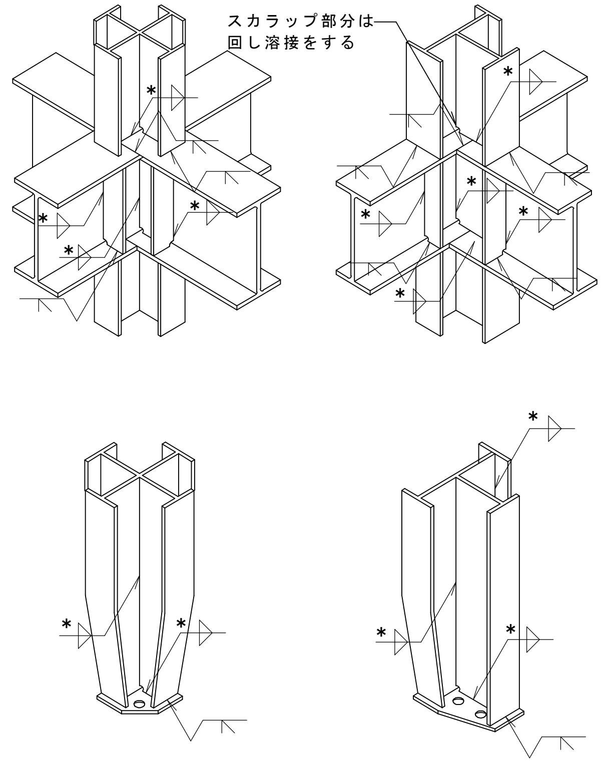


通しダイヤフラム
２５…ｔ≦２５のとき
３０…２５＜ｔ≦３０のとき
エンドタブが互いに当たらぬこと
板厚が３０ｍｍを超えるとき
特は、記による



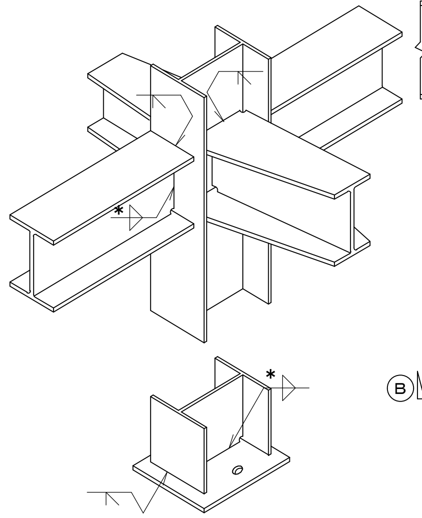
ｔ＞柱フランジプレート厚
θ＝７５°～１０５°

●┣╋┫、┣┳┫、┣━┫、型

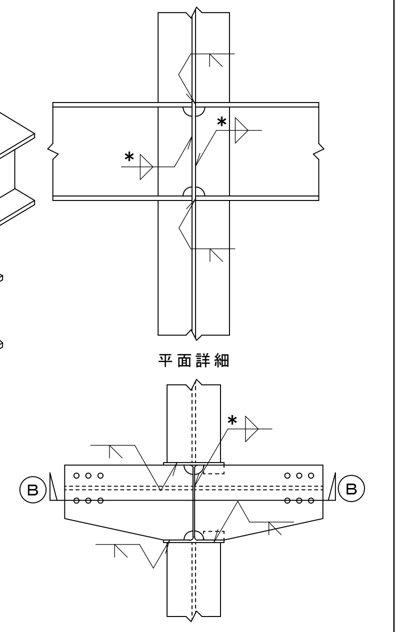


＊：ウエブ厚が１６㎜以上のものについては完全溶け込み溶接とする。

●Ｂ．Ｈ方式



Ⓑ－Ⓑ 断面図



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999. 7. 1　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－09
2006. 4.　改訂		
2011. 4.　改訂	図面名 鉄骨構造標準図［２］	縮尺
2017. 4. 1　改訂	教育委員会教育総務課	
2020. 4. 1　改訂		

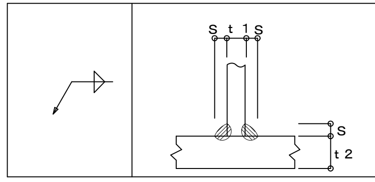
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［３］

６．溶接基準図

（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：フェース　Ｓ：脚長（単位mm）

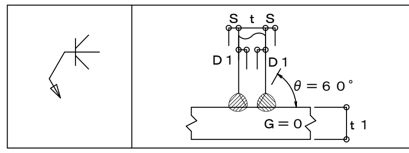
Ａ．　すみ肉溶接



ｔ≦１６mm				
ｔ	７以下	８～１０	１１～１３	１４～１６
Ｓ	６	７	１０	１２

●但し片面溶接の場合はＳ＝ｔとする
●ｔはｔ１、ｔ２の小なる方とする
余盛りは（１＋０．１Ｓ）mm以下ととする
●軸力が加わる場合のＳは母材と同厚とすることが望ましい

Ｂ．　部分溶け込み溶接

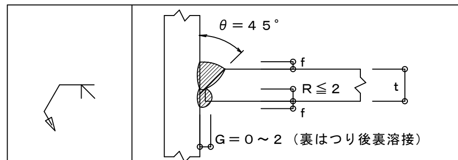


Ｄ１≧ｔ／３　ｔ／４≦Ｓ≦１０mm
ｔ≦ｔ１

ｔ	ｔ＞１６mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

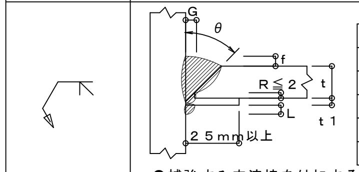
Ｃ．　完全溶け込み溶接



ｆ＝ｔ／４

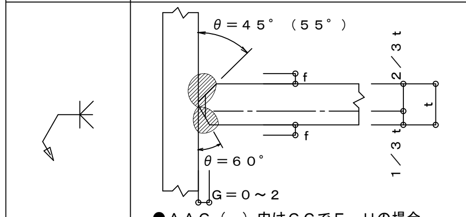
ｔ	６＜ｔ＜１９mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強すみ肉溶接を付加する　ＡＡＧ



	ＭＣ　ＮＧＣ				ＧＣ			
ｔmm	θ	Ｇ	ｔ１	Ｌ	θ	Ｇ	ｔ１	Ｌ
６≦ｔ≦１２	４５°	６	５	６	４５°	６	６	５
１２≦ｔ＜１６	３５°	９	８	９	３５°	６	９	８
１６≦ｔ	３５°	９	８	９	３５°	９	９	８
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ							

●補強すみ肉溶接を付加する



ｆ＝ｔ／４

Ｔ形突合せ継手余盛

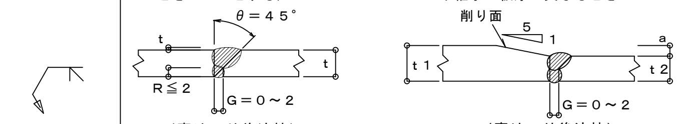
のど厚ｔmm	余盛の高さmm
ｔ≦４	１
４＜ｔ≦１２	２
１２＜ｔ≦１９	３
１９＜ｔ	４

ｔ	ｔ≧１９mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●ＡＡＧ（　）内はＧＣでＦ．Ｈの場合
●両側に補強すみ肉溶接を付加する

ｔ≧０．５mm（ただし，ｔ≧１５mmのとき４mmとする）

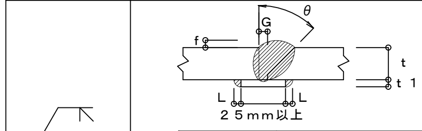
ａ＞４mmの場合
平継手で板厚が異なるとき



（裏はつり後溶接）　（裏はつり後溶接）

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

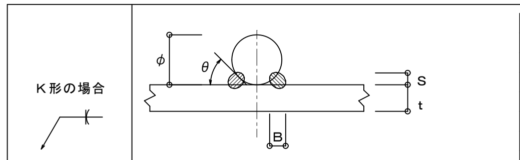
ｔ	６＜ｔ≦１９mm
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ



ｆ＝ｔ／４

	ＭＣ　ＮＧＣ				ＧＣ			
ｔmm	θ	Ｇ	ｔ１	Ｌ	θ	Ｇ	ｔ１	Ｌ
６＜ｔ＜１２	４５°	６	６	５	４５°	６	６	５
１２≦ｔ≦１９	３５°	９	９	５	３５°	６	９	５
ｔ＞１９	３５°	９	９	８	３５°	９	９	８
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ							

Ｄ．フレアー溶接



寸法（mm）		
φ	Ｂ	Ｓ
９	７	４
１３	８	４．５
１６	９	５
１９	１０	６
２２	１１	７
２５	１２	８

●フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
●９mm～１６mmは１パス以上、１９mm以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは３０°～４０°とする

７．継手、その他

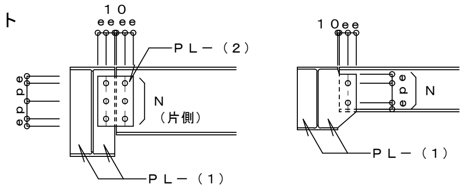
Ａ．ボルトピッチ（Ｐ）、ボルト穴径・最小縁端距離

（mm）

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（ｅ）				ピッチ（Ｐ）	
		（１）	（２）	（３）	（２）（３）の標準	最小	標準
Ｍ１６	１８	４０	２８	２２	４０	４０	６０
Ｍ２０	２２	５０	３４	２６	４０	５０	６０
Ｍ２２	２４	５５	３８	２８	４０	５５	６０
Ｍ２４	２６	６０	４４	３２	４５	６０	７０

（注）（１）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

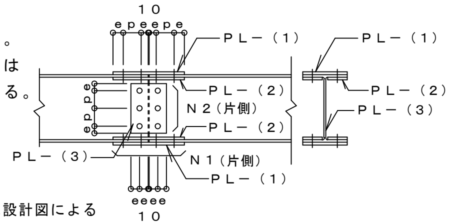
Ｂ．ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ－径

Ｃ．梁剛接合継手リスト

１．梁の継手は特記による。
２．原則として、梁の継手はＳＣＳＳ－Ｈ９７による。

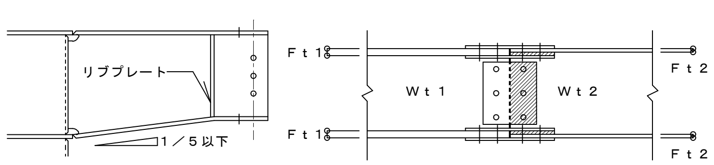


注）端部をＢＨとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径

Ｄ．ハンチ部の継手

フランジ及びウェブ厚の差のある場合

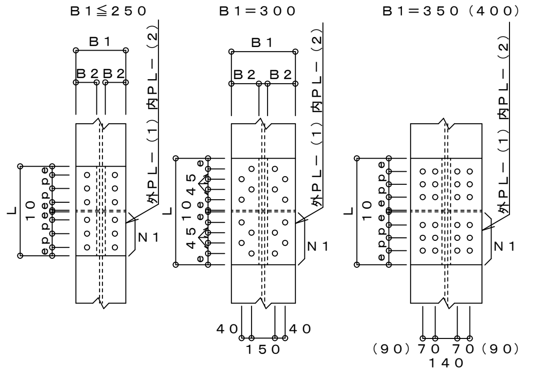


ハンチ勾配は１／５以下を標準とする

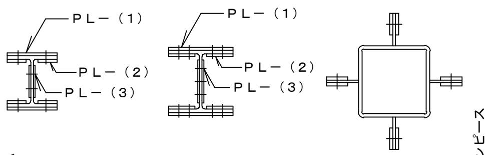
Ｆｔ１－Ｆｔ２≧１mm
Ｗｔ１－Ｗｔ２≧１mm
フィラプレート併用のこと

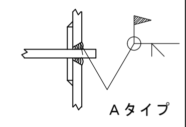
Ｅ．柱継手リスト

１．柱の継手は特記による。
２．原則として、柱の継手はＳＣＳＳ－Ｈ９７による。

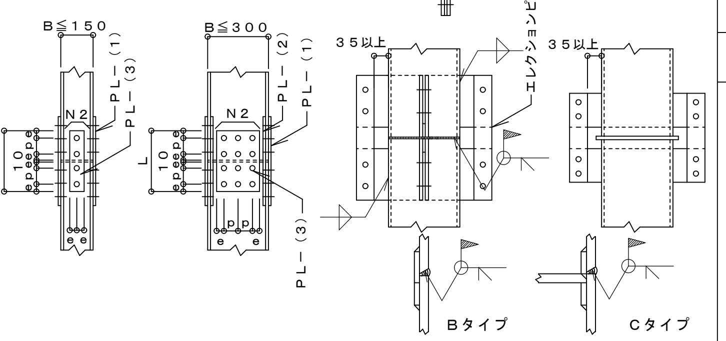


Ｂ１	Ｂ２
１５０	６０
１７５	７０
２００	８０
２５０	１００
３００	１１０
３５０	１４０
４００	１７０





Ａタイプの使用は
柱Ｄ＝２５０mm以下
のときとする



注）現場溶接部分は、原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径

Ｆ．鉄筋ブレース（ＪＩＳ規格品とする・ＪＩＳＡ５５４０～５５４２・１９８２）

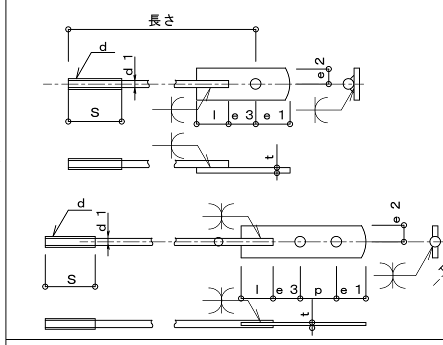
１．羽子板ボルト

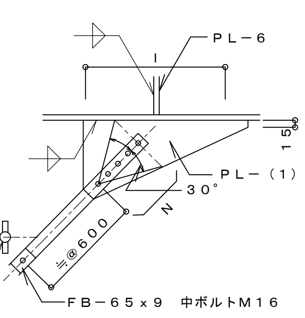
ねじの呼び（ｄ）			Ｍ１２	Ｍ１４	Ｍ１６	Ｍ１８	Ｍ２０	Ｍ２２	Ｍ２４
軸径（ｄ）	最　大		１０．８１	１２．６５	１４．６５	１６．３３	１８．３３	２０．３３	２１．９９
	最　小		１０．６４	１２．４６	１４．４６	１６．１１	１８．１１	２０．１１	２１．７７
調整ねじの長さ		Ｓ	１００	１１５	１２５	１４０	１５０	１６５	１７５
取付ボルト穴径 許容差＋０，－０．５mm		Ｒ	１３	１７	１７	２１．５	２１．５	２３．５	２１．５
はしあき（最小）（２）		ｅ１	３５	４０	４５	５０	５０	５５	５０
切板製	へりあき（最小）（１）	ｅ２	２２	２８	２８	３４	３４	３８	３８
	板　厚	ｔ	４．５	６	６	９	９	９	９
平鋼製	へりあき（最小）（１）	ｅ２	１９	２５	２５	３２．５	３２．５	３７．５	３７．５
	板　厚	ｔ	４．５	６	６	９	９	９	９
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき（最小）		ｅ３	４７	５２	５９	６６	６６	７３	７０
溶接長さ（最小）		ｌ	４０	５０	５５	６０	７５	８５	８５
（２）取付ボルト	種　類		ＪＩＳ　Ｂ　１１８６　２種高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）又は ＪＩＳ　Ｂ　１１８０　中８ｇ　１０．９						
	ねじの呼び		Ｍ１２	Ｍ１６	Ｍ１６	Ｍ２０	Ｍ２０	Ｍ２２	Ｍ２０
	本　数		１	１	１	１	１	１	２

注）（１）ｅ１、ｅ２が確保されていれば形状は自由でよい
（２）羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

２．　形鋼ブレース

符　号	部　材	ＰＬ－（１）	Ｎ－径	ｌ

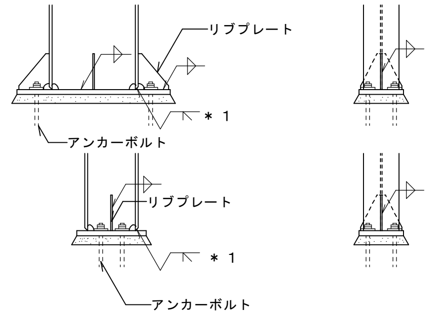




８．柱脚

Ａ．柱脚部詳細

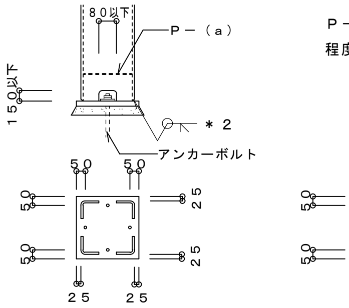
１．柱脚の形状は、特記による。特記がない場合は、２．、３．による。
２．Ｈ形柱



＊１：柱板厚が１２mm以下の場合は、すみ肉溶接とすることができる。

図　８．１

３．鋼管柱、角形鋼管柱



Ｐ－（ａ）は、厚さ６mm
程度を取り付ける。

根巻き柱脚の場合

図　８．２

＊２：柱板厚が６mm以下の場合は、すみ肉溶接とすることができる。

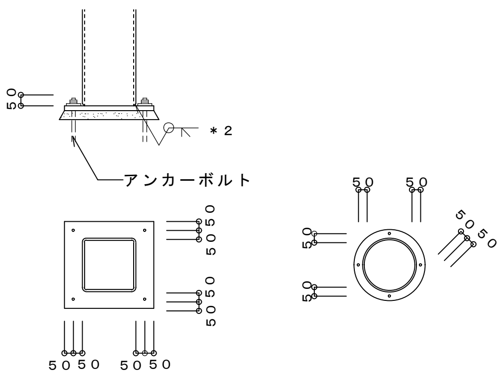
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999. 7. 1　制定	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－10
2006. 4.　改訂	図面名 鉄骨構造標準図［３］	縮尺
2011. 4.　改訂		
2017. 4. 1　改訂	教育委員会教育総務課	
2020. 4. 1　改訂		

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

鉄骨構造標準図［４］

８．柱脚（続き）



露出柱脚の場合

＊２：柱板厚が６ｍｍ以下の場合は、すみ肉溶接とすることができる。

図　８．３

Ｂ．アンカーボルト

１．アンカーボルト取付け要領は、特記による。特記が無い場合は、図８．５の種別Ｂ種とする。

（１）アンカーボルトの保持及び埋め込み工法

ａ．Ａ種：鋼製フレームを用いてアンカーボルトを保持する方法

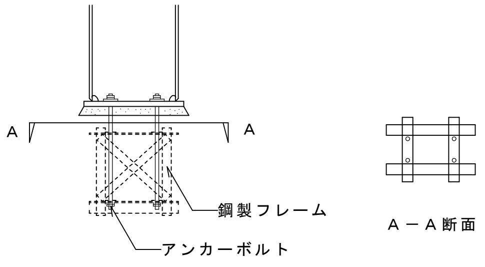


図　８．４

ｂ．Ｂ種：補強材等を用いて周囲の鉄筋にアンカーボルトを保持する方法

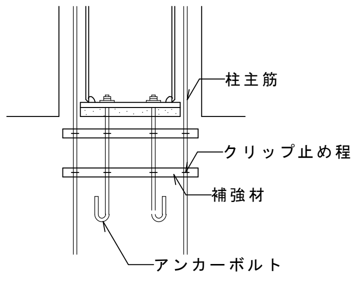


図　８．５

ｂ．Ｃ種：頭部を漏斗状にあけた可動埋め込み式の方法

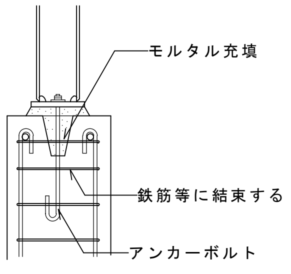


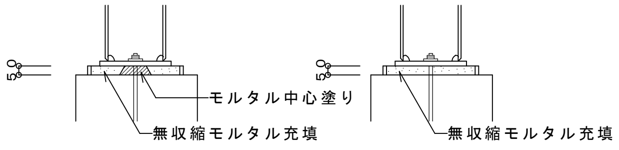
図　８．６

Ｃ．柱底ならしモルタルの工法

１．均しモルタルの工法は、特記による。特記が無い場合は、図８．７のＢ種とする。

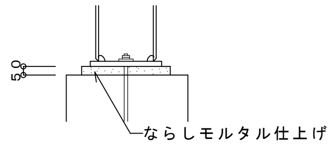
（１）Ａ種：柱の建込みに先立ち、その支持に必要な固練りのモルタル等をベースプレートの中央下部に所定の高さに塗り付け、柱の建て込み後、ベースプレート回りに型枠を設けて、無収縮モルタルをベースプレートの周囲からあふれ出るまで圧入する。

（２）Ｂ種：柱の建込みに先立ち、その支持に必要な堅練りのモルタル等をベースプレートの中央下部に所定の高さに塗り付け、柱の建込み後、ベースプレート下全面に十分行きわたるように、適切な方法でモルタルを詰め込む。ただし、ベースプレートの大きさが３００㎜角程度以下の場合は、モルタルを所定の高さに平滑に仕上げておき、柱を建込むことができる。



（あと詰め中心塗り工法）　（全面あと詰め工法）

Ａ種



（全面塗り仕上げ工法）

Ｂ種

図　８．７

Ｄ．座金の溶接

１．アンカーボルトはコンクリートに埋め込まれる場合を除きダブルナット締めとする。また、アンカーボルトにせん断力を負担させる場合は、座金厚を検討した上で座金はベースプレートに全周溶接する。

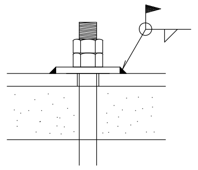


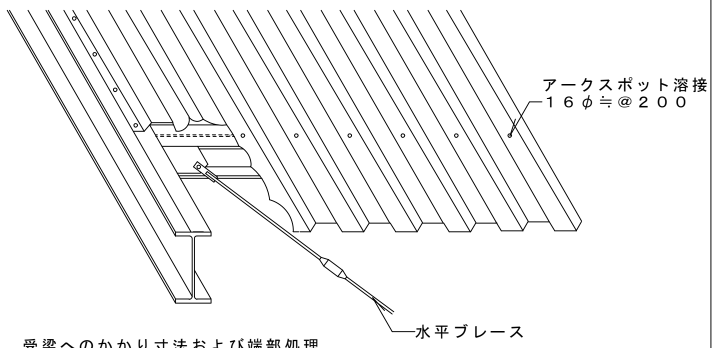
図　８．８

９．その他

Ａ．デッキプレート

（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

梁との溶接およびコネクター



受梁へのかかり寸法および端部処理

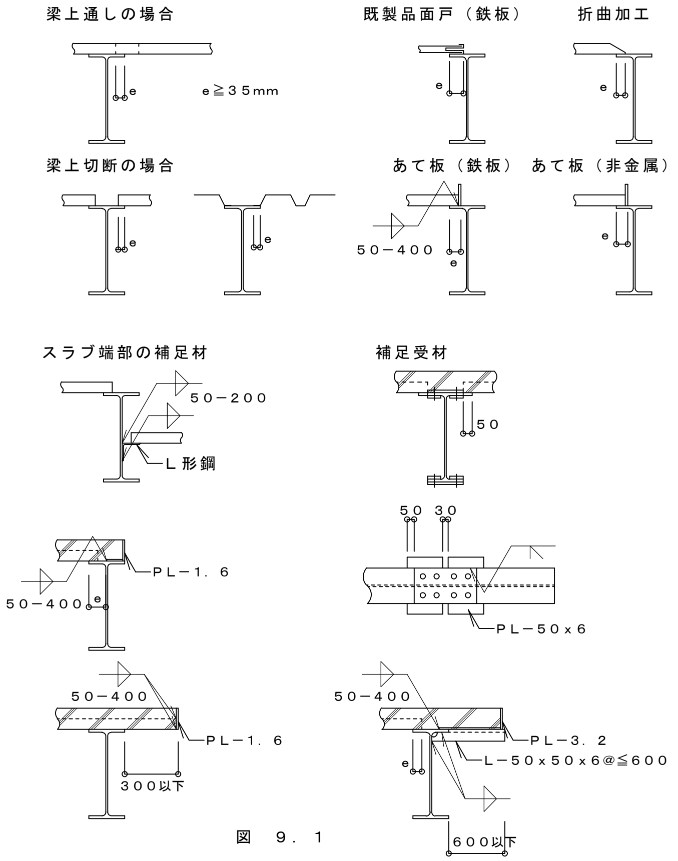


図　９．１

Ｂ．ＡＬＣ板取付要領

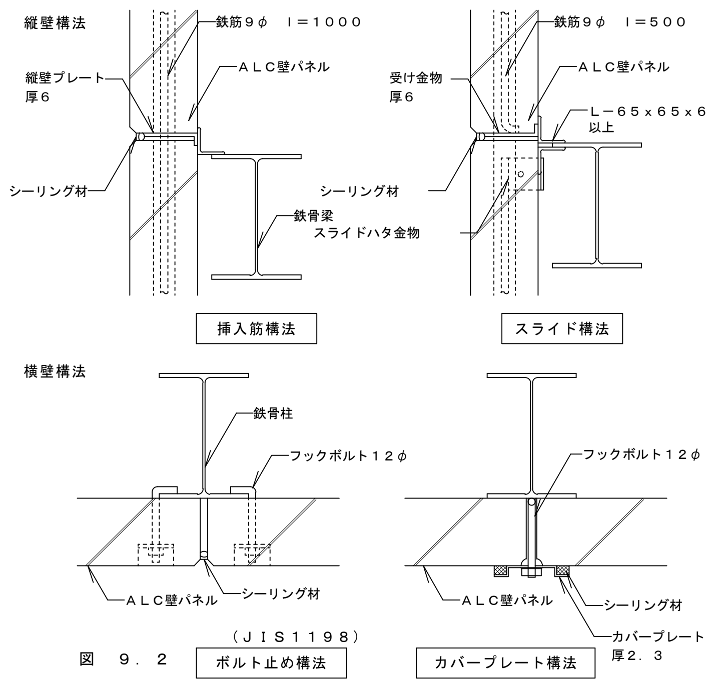
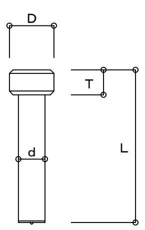


図　９．２

Ｃ．頭付きスタッド

表９．１　スタッド材の標準形状・寸法

	スタッド材				
	呼び名	軸径ｄ ㎜	頭径Ｄ ㎜	頭高さＴ ㎜	溶接後の長さＬ ㎜
	φ１３㎜	１３．０ １２．７	２２．０ ２５．４	１０．０ ７．９	５０、８０ １００、１３０
	φ１６㎜	１６．０ １５．８	２９．０ ３１．７	１０．０ ７．９	８０、１００、１３０
	φ１９㎜	１９．０ １９．０	３２．０ ３１．７	１０．０ ９．５	８０、１００ １３０、１５０
	φ２２㎜	２２．０ ２２．２	３５．０ ３４．９	１０．０ ９．５	１００、１３０、１５０

Ｄ．梁貫通補強

- ●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくて良い。
- ●梁端部（スパンのｌ／１０以内かつ２Ｄ以内）は避ける
- ●φ≦０．４Ｄ

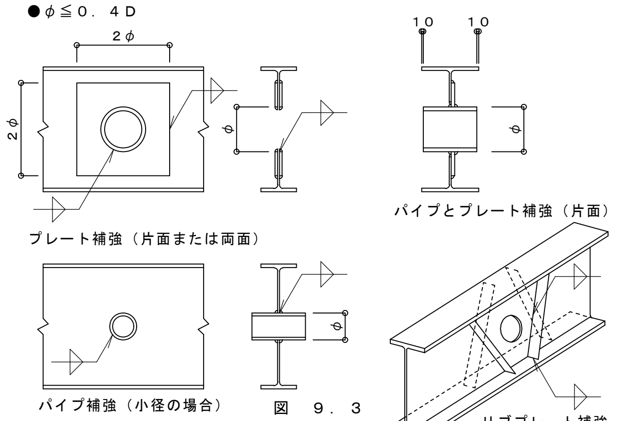


図　９．３

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

1999．7．1　制定 2006．4．　改訂 2011．4．　改訂 2017．4．1　改訂 2020．4．1　改訂	工事名 中央地区小学校災害復旧工事 （屋内運動場棟）（建築工事）	番号 Ｓ－11
	図面名 鉄骨構造標準図［４］	縮尺
	教育委員会教育総務課	

一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所

ＳＣ杭　ＳＣ杭・鋼管杭用杭頭接合工法

クラウンパイルアンカー工法標準図１／２（参考図）

（一財）日本建築センターによる一般評定
「ＢＣＪ評定－ＦＤ０５１１－０４」（令和５年９月８日付）

岡部株式会社
TEL 03（3624）6201
2023年10月作成

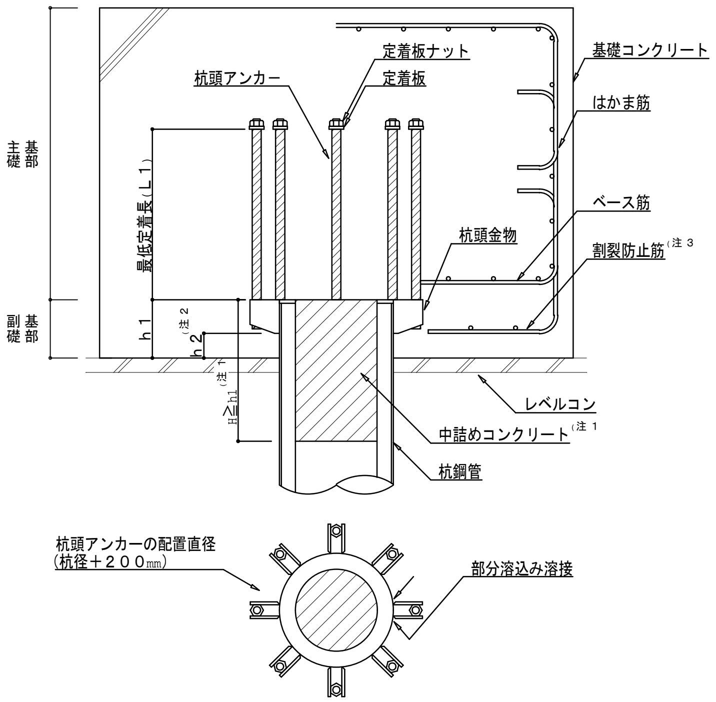
１．工法概要

１．１ 工法概要

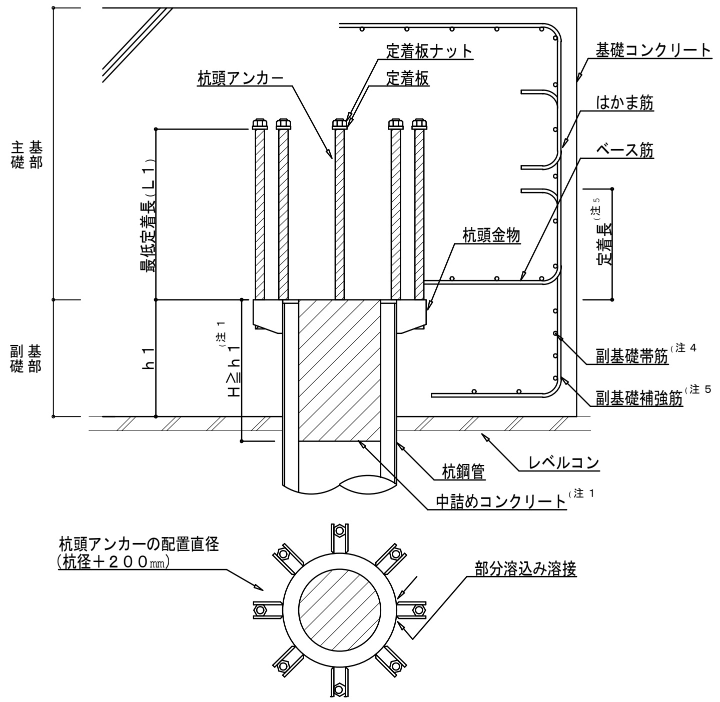
クラウンパイルアンカー工法は、ＳＣ杭の杭頭鋼管外周部に定着部材（以下、杭頭アンカー）を接続する金物（以下、杭頭金物）を部分溶込み溶接した後、杭頭金物のカプラー雌ねじ部に杭頭アンカーのねじ節鉄筋部を螺合することで、杭頭と基礎コンクリートを接合する工法である。

基礎コンクリートは杭頭上端面より上部を「主基礎部」、杭のみ込み部周囲を「副基礎部」と呼称し、杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の適用有無により、杭頭接合部の構造規定が異なる。（杭ごとに、概要図Ａまたは概要図Ｂのいずれかが適用される。）

● 概要図Ａ（主基礎部の応力伝達のみ考慮した設計の場合）



● 概要図Ｂ（杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の場合）



● 杭の中心間隔（設計値）

埋込み杭は杭径の２.０倍、打込み杭は杭径の２.５倍を最小値とする。
ただし、杭頭金物の溶接施工に支障がないことを確認すること。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、中心間隔の最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注１）中詰めコンクリート
中詰めコンクリートの強度と深さ（Ｈ）は 設計者により決定される。
ただし、杭のみ込み高さ（ｈ１）は確保すること。（図は参考図）

注２）かぶり厚さ
杭頭アンカー及び杭頭金物下端部のかぶり厚さ（ｈ２）は、設計かぶり厚さ７０mm以上、最小かぶり厚さ６０mmとする。

注３）割裂防止筋の配筋
杭頭外周部の基礎コンクリートには、終局時の割裂を防止するためにＤ１３－＠３００程度の割裂防止筋を配筋し、無筋部を少なくすることが望ましい。

● 杭と基礎コンクリートのへりあき（設計値）

杭心からの距離で杭径の１.２５倍以上を原則とする。
ただし、杭径が６００mm以上の場合は１.０倍以上としてもよい。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、へりあきの最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注４）副基礎帯筋の配筋（コーン状破壊防止）※
設計者指示の配筋を施す。ただし、Ｄ１３以上ピッチ１５０mm以下を配筋量の下限とする。

注５）副基礎補強筋の配筋（コーン状破壊防止/主基礎部への曲げ伝達）※
設計者指示の配筋を施す。ただし、Ｄ１３以上ピッチ３００mm以下を配筋量の下限とする。主基礎部への定着長は配筋指針等に基づき、設計者により決定される。

※マットスラブ形状の基礎については、上記、副基礎帯筋・副基礎補強筋の鉄筋径とピッチの規定によらず設計者指示の配筋とする.

１．２ 適用範囲

本標準図はクラウンパイルアンカー工法を対象とする。本標準図の適用範囲以外の条件における設計施工は、ＢＣＪ評定－ＦＤ０５１１－０４の評定書による。

● 杭と基礎コンクリートの適用範囲

杭の種類	外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭）
杭径	４００mm以上、１,２００mm以下
杭鋼管　鋼種	ＳＫＫ４００、ＳＴＫ４００、ＳＴＫＮ４００Ｂ ＳＫＫ４９０、ＳＴＫ４９０、ＳＴＫＮ４９０Ｂ
基礎コンクリート強度	２１Ｎ／mm²以上、４５Ｎ／mm²以下

● 杭のみ込み高さ

単位：mm

仕様	杭のみ込み高さ（ｈ１）	
	概要図　Ａ	概要図　Ｂ
Ｄ３２、Ｄ３８－Ｍ	250以上（240）	杭径の0.48倍以上 かつ250以上（240）
Ｄ３８、Ｄ３８Ｈ－Ｌ Ｄ４１Ｈ－Ｌ	280以上（270）	杭径の0.48倍以上 かつ280以上（270）

※（　）内の数値は最小かぶり厚さによる
※杭の鉛直施工許容差を考慮した寸法とする

● 杭頭アンカー設置可能本数の上限

・杭鋼管 鋼種
　４００N/mm²級

杭径(mm)	鋼管厚/仕様	
	9mm	12mm以上
	D32-M	D32-M
400	7	8
450	8	9
500	8	9
600	9	10
700	10	12
800	11	13
900	11	14
1,000	12	15
1,100	13	17
1,200	13	18

・杭鋼管 鋼種
　４９０N/mm²級

単位：本

杭径(mm)	鋼管厚/仕様									
	6mm	9mm			12mm以上				14mm	16mm以上
	D32-M	D32-M	D38-M	D38-L	D32-M	D38-M	D38-L	D38H-L	D41H-L	D41H-L
400	7	8	7	7	8	7	7	7	6	6
450	8	9	8	8	9	8	8	8	8	8
500	8	9	8	9	9	9	9	9	8	8
600	9	10	9	10	10	10	10	10	10	10
700	10	12	10	11	12	11	11	11	11	11
800	11	13	11	12	13	12	12	12	12	12
900	11	14	12	13	14	14	14	14	13	13
1,000	12	15	13	14	15	15	15	15	14	14
1,100	13	17	13	15	17	16	16	16	14	16
1,200	13	18	14	16	18	17	17	17	15	17

※設置本数の下限は全仕様４本とする

● 杭頭アンカーの最低定着長

単位：mm

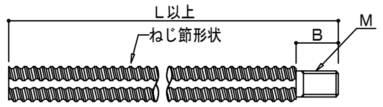
仕様	最低定着長（Ｌ１）
Ｄ３２Ｈ－Ｍ	614
Ｄ３８Ｈ－Ｍ、Ｌ	728
Ｄ３８Ｈ－Ｌ	915
Ｄ４１Ｈ－Ｌ	987

※ 本標準図以外に定着長の指定がある場合は、設計者指示の寸法による

２．構成部材

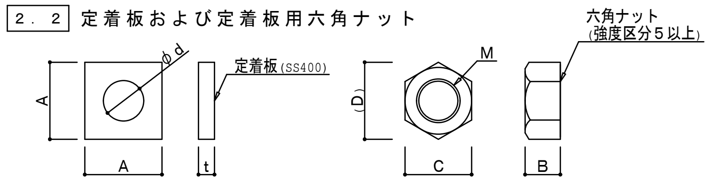
２．１ 杭頭アンカー

杭頭アンカーは片端部にＭねじを設けた異形棒鋼を用いる。
設計者の指定により定着長（Ｌ１）がアンカー呼び径の【３５倍以上（SD390）、４５倍以上（SD490）】となる場合は、Ｍねじ部を設けない仕様も可とする。



仕様	Ｌ (mm)	Ｂ (mm)	Ｍ	鋼種
Ｄ３２－Ｍ	790	39	M27	SD390
Ｄ３８－Ｍ、Ｌ	930	46	M33	
Ｄ３８Ｈ－Ｌ	1130			SD490
Ｄ４１Ｈ－Ｌ	1230	49	M36	

２．２ 定着板および定着板用六角ナット



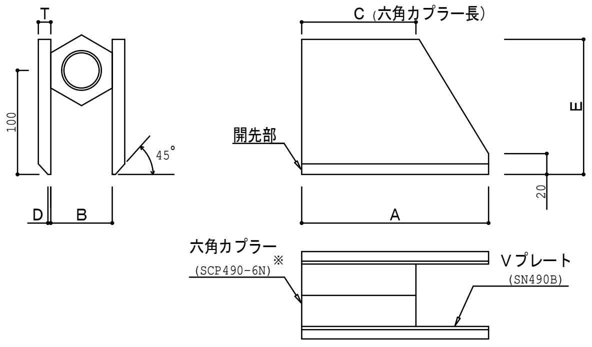
単位：mm

仕様	Ａ	ｔ	φｄ	Ｍ	Ｂ	Ｃ	（Ｄ）
Ｄ３２－Ｍ	55	9	28	M27	22	41	47
Ｄ３８－Ｍ、Ｌ	65	12	34	M33	26	50	58
Ｄ３８Ｈ－Ｌ							
Ｄ４１Ｈ－Ｌ	80		37	M36	29	55	64

※ 杭頭アンカーにＭねじ部を設けない場合は使用しない

２．３ 杭頭金物

杭頭金物にはＭ、Ｌタイプがあり、杭鋼管の鋼種と鋼管厚の適用範囲に応じて使い分ける。



単位：mm

仕様	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ	Ｔ
Ｄ３２－Ｍ	180	50	90	2	130	12
Ｄ３８－Ｍ		59	110			
Ｄ３８－Ｌ	210		120			
Ｄ３８Ｈ－Ｌ						
Ｄ４１Ｈ－Ｌ		64	130		135	14

※ 国土交通大臣認定材：MSTL-0422またはMSTL-0574

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.												
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	クラウンパイルアンカー工法標準図（１）	縮尺		図番	Ｓ－12

ＳＣ杭

ＳＣ杭・鋼管杭用杭頭接合工法　クラウンパイルアンカー工法標準図２／２（参考図）

（一財）日本建築センターによる一般評定
「ＢＣＪ評定－ＦＤ０５１１－０４」（令和５年９月８日付）

岡部株式会社
TEL　03（3624）6201
2023年10月作成

３．工事現場施工

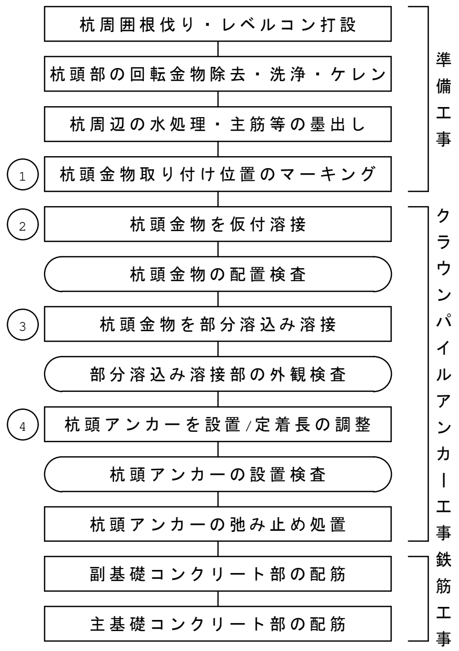
３．１　施工および施工管理

本工法は岡部（株）・グループ会社により教育・技術指導を受けた者が施工及び施工管理を実施する。

３．２　施工手順

本工法の実施に必要となる準備工事の実施範囲や施工手順について十分に協議する。

● 標準施工手順

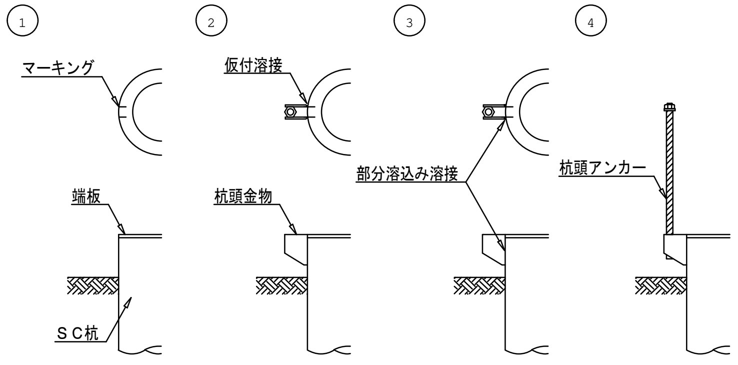


準備工事
- 杭周囲根伐り・レベルコン打設
- 杭頭部の回転金物除去・洗浄・ケレン
- 杭周辺の水処理・主筋等の墨出し
- ① 杭頭金物取り付け位置のマーキング

クラウンパイルアンカー工事
- ② 杭頭金物を仮付溶接
- 杭頭金物の配置検査
- ③ 杭頭金物を部分溶込み溶接
- 部分溶込み溶接部の外観検査
- ④ 杭頭アンカーを設置/定着長の調整
- 杭頭アンカーの設置検査
- 杭頭アンカーの弛み止め処置

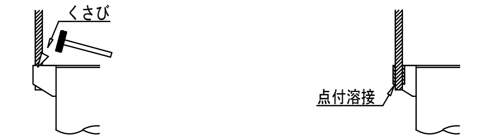
鉄筋工事
- 副基礎コンクリート部の配筋
- 主基礎コンクリート部の配筋

● 施工手順図



● 杭頭アンカー設置後の弛み止め処置

弛み止めは以下のいずれかの方法による。


・くさびの打ち込み　　・カプラー下側余長部への点付溶接

３．３　部分溶込み溶接規準

● 溶接方法と溶接材料

材料は下記の規格を満たし、かつ４９０N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	規格：種類
ガス シールド アーク溶接	・JIS Z 3312：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・JIS Z 3313：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

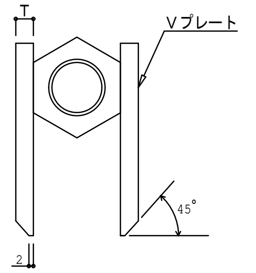
● 溶接資格

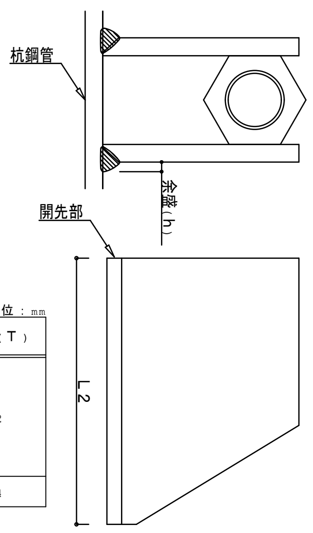
部分溶込み溶接は下記の規格を満たす立向姿勢の有資格者による施工を原則とする。

記号	規格：種類
ＳＡ－２Ｖ または ＳＡ－３Ｖ	・JIS Z 3841：半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準 ・WES 8241　：半自動溶接技能者の資格認証基準

● 溶接寸法

Ｖプレートと杭鋼管の溶接は開先部全長（Ｌ２）にわたって行い、所定の余盛（ｈ）を確保するように施工する。





単位：mm

仕様	溶接長（Ｌ２）	余盛（ｈ）	板厚（Ｔ）
Ｄ３２－Ｍ	180	3 以上 10 以下	12
Ｄ３８－Ｍ			
Ｄ３８－Ｌ	210		
Ｄ３８Ｈ－Ｌ			
Ｄ４１Ｈ－Ｌ			14

※ 溶接長は溶接始終端の余長を含む

４．仕様一覧

４．１　杭頭接合部仕様の一覧

本工法を採用する杭頭接合部に関し、各杭符号ごとに仕様の一覧を記す。

● 概要図Ａを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領	
杭符号	杭径	杭種（鋼管厚）	杭本数	仕様	本/１杭	備考	杭のみ込み高さ	割裂防止筋
Ｐ１	４５０	ＳＫＫ４９０（ｔ＝９）	１４	Ｄ３８－Ｍ（ＳＤ３９０）	６		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ１Ｔ	４５０	ＳＫＫ４９０（ｔ＝９）	１	Ｄ３８－Ｍ（ＳＤ３９０）	６		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ１ＡＴ	４５０	ＳＫＫ４９０（ｔ＝９）	１	Ｄ３８Ｈ－Ｌ（ＳＤ３９０）	６		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ２	６００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝９）	１５	Ｄ３８－Ｍ（ＳＤ３９０）	８		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ２Ａ	６００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝９）	５	Ｄ３８－Ｍ（ＳＤ３９０）	８		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ２ＡＴ	６００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝９）	１	Ｄ３８Ｈ－Ｌ（ＳＤ３９０）	８		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ３	７００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝６）	８	Ｄ３２－Ｍ（ＳＤ３９０）	９		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
Ｐ３Ａ	７００	ＳＫＫ４９０（ｔ＝６）	８	Ｄ３２－Ｍ（ＳＤ３９０）	９		３００mm	Ｄ１３－@３００（ＳＤ２９５）
上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した.								

※ 上記において、杭のみ込み高さおよび割裂防止筋の配筋量に関する計算上の規定はない

● 概要図Ｂを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領		
杭符号	杭径	杭種（鋼管厚）	杭本数	仕様	本/１杭	備考	杭のみ込み高さ	副基礎補強筋	副基礎帯筋
上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した.									

４．２　特記事項、その他

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

プレストレストコンクリート特記仕様書

１．一般事項

ａ．適用の範囲

本工事は設計図書並びに本特記仕様書の他、
全国官報販売協同組合
　『２００９年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』（２００９年版）
日本建築学会
　『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』（２０２２年版）
　『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種ＰＣ）構造設計・施工指針・同解説』（２００３年版）
　『建築工事標準仕様書・同解説　ＪＡＳＳ５　鉄筋コンクリート工事』（２０１８年版）
による。

ただし、グラウト工事については
プレストレスト・コンクリート建設業協会
　『ＰＣグラウト施工マニュアル　建築編　２０１３』（２０１３年版）
　『プレストレストコンクリート工事における緊張管理の手引き（建築編）』（２０１９年版）による。

ｂ．構造方式

本構造の方式は鉄筋コンクリート造とプレストレストコンクリート（以下ＰＣ）造とを組み合わせたものであり、プレストレス導入はポストテンション方式である。

緊張方法については伏図参照とする。

ｃ．施工計画書

施工の順序・方法・工法等の施工計画は工事着手前に充分検討し、その計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。

ｄ．ＰＣ工事

ＰＣ工事の施工は、株式会社建研、オリエンタル白石株式会社、ピーエス・コンストラクション株式会社の３社の内１社の責任施工とし、施工の範囲はＰＣ鋼材の配置・緊張・グラウトまでの一式とする。

２．材料

ａ．鉄　筋

建築工事標準仕様書による。

ｂ．ＰＣ鋼材

ＰＣ鋼材は有害な傷のないもので次に適合するものを使用する。

ＰＣ鋼材より線　ＪＩＳ Ｇ ３５３６

記　号		ＳＷＰＲ７ＢＬ
呼び径		１５．２mm
断面積		１３８．７０mm^2
引張荷重		２６１．０ｋＮ／本
降伏荷重		２２２．０ｋＮ／本
許容引張荷重	導入時	１８８．７ｋＮ／本
	定着完了時	１７７．６ｋＮ／本
緊張端部設計導入力		１７７．６ｋＮ／本

※　一時的に過緊張する場合には降伏荷重の０．９倍まで許容するものとする。

ｃ．セメント

セメントは ＪＩＳ Ｒ ５２１０ に規定するポルトランドセメントを使用し、普通ポルトランドセメントを原則とする。

ｄ．コンクリート

コンクリートの品質は次の通りとする。

設計基準強度	２７　Ｎ／mm^2
プレストレス導入時強度	２０　Ｎ／mm^2　以上

ｅ．混和剤

コンクリート中に混和剤を用いる場合は、その品質・使用量について監督職員の承諾を受ける。

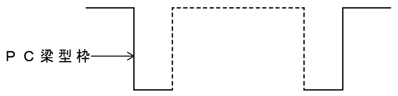
ｆ．プレストレッシング定着工法

（一財）日本建築センターの評定または評価を取得している定着工法（ＶＳＬ工法等）とする。

３．型枠工事

１．緊張端定着具取り付け柱型枠にＰＣ鋼材の貫通孔を空けておき、柱型枠の締め付け金物・バタ角・単管等はＰＣ鋼材位置を避けて配置する。

２．ＰＣ梁型枠の組立は、ＰＣ鋼材の配置作業を考慮して下図実線を先組し、鉄筋ＰＣ鋼材配置後に破線部を組み立てる。



※　施工状況に応じ、型枠の両側面を開放することも検討すること。

３．梁側枠組立に際しては、事前にセパレーターの配置計画を行いＰＣ鋼材位置を避ける。

４．ＰＣ部分は壁の少ない構造であるので、支保工の横つなぎ・筋かい等を充分に入れ、横力に対して安全な仮設計画を行う。

５．ＰＣ梁のコンクリートは打ち込みの際、セメントペーストが漏れることのないようにする。

６．型枠及びサポートは必ず２階分のサポートを使用し、コンクリート打設荷重を２層の梁で支持すること。かつサポートの存置期間はプレストレス導入完了までとする。

７．ＰＣ梁の貫通孔は監督職員の指示により行う。

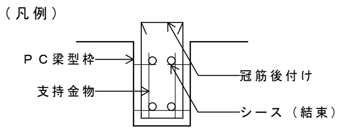
４．鉄筋工事

１．ＰＣ鋼材と鉄筋との取り合い（定着部近傍・直交梁交差部等）は、事前に施工図を作成して充分検討しておく。

２．ＰＣ鋼材配線作業中及び配線後は、原則として電気溶接及び溶断の作業は行わない。やむを得ず行う場合は充分に養生を置くこと。

５．ＰＣ鋼材の配置

１．ＰＣ鋼材（シース）の配置は、支持金物等により正確・強固に取り付ける。



２．緊張端端部は充分養生し、シース内に雨水等が入らないように注意する。

３．シース位置の許容誤差は下記による。

部材の最小寸法が６０cm未満の部分　±１．０cm
部材の最小寸法が６０cm以上の部分　±１．５cm
　上記の許容差は、水平・垂直の方向に別々に適用される。

４．グラウト注入管及び排気管の口元はセメントペースト等が流入しないように充分養生する。

６．コンクリート工事

プレストレストコンクリートのコンクリート打設にあたっては次のことに留意する。

１．ＰＣ梁のコンクリートは、原則として打ち継ぎをしてはならない。
２．ＰＣ梁に低強度のコンクリートが混ざらないように打設順序及び養生等を考慮する。
３．定着部近傍は、プレストレス導入時局部応力が発生するので特に入念に締め固める。
４．ＰＣ鋼材・鉄筋・型枠が移動・損傷しないように注意する。
５．ＰＣ鋼材（シース）にはバイブレーターが触れてはならない。
６．スラブにもバイブレーターを使用して充分締め固める。

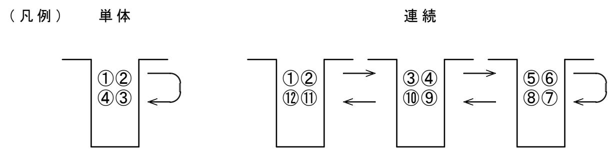
７．緊張工事

ａ．準備作業

１．ＰＣ鋼材・定着具の点検・清掃を行う。
２．緊張装置は事前にキャリブレーションを行う。
３．プレストレス導入時期は、コンクリートの圧縮強度が所定の強度以上に達したことを確認した後とし、監督職員の指示により行う。導入時期確認用テストピースは現場水中養生、または、現場封かん養生とする。

ｂ．緊張順序

プレストレス導入は、局部的に緊張を完了してしまうことなく構造全体にわたって進めなければならない。



ｃ．緊張管理

緊張力の管理は緊張装置の荷重計の示度及びＰＣ鋼材の伸びとを測定して行う。

８．グラウト工事

グラウトは、ＰＣ鋼材を充分包み込みＰＣ鋼材を錆させないように保護すると共にＰＣ鋼材とコンクリートとの付着を得ることを目的とする。

ａ．配　合

グラウトの配合は次を標準とし、圧縮強度は３０Ｎ／mm^2以上とする。

セメント・・・普通ポルトランドセメント

水　セメント　比	４５％以下
混和剤（ノンブリージングタイプ）	セメント量の１．０％

グラウトの練り混ぜは電動グラウトミキサーまたはハンドミキサーを用いる。

プレミックスタイプを使用する場合は、監督職員の承諾を得る。

ｂ．作　業

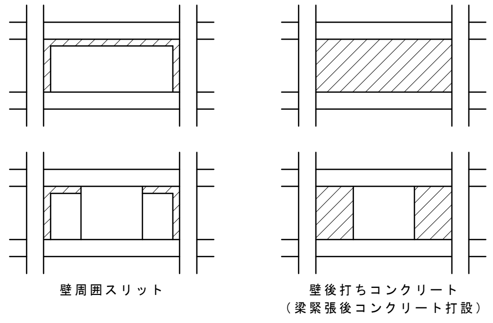
１．シース内の閉塞の有無を確認する。
２．グラウトの注入は、グラウトポンプを用いシース内に空隙を残さないように入念に行う。
３．排出孔より流出するグラウトが注入孔より注入するものと同じ濃度になるまで注入を続け、排出孔を塞ぐ。
４．排出孔を塞いだ後に続いて注入孔を塞ぐ。

９．ＰＣ鋼材の端部処理

ＰＣ鋼材定着具の露出部は、プレストレスト導入後すみやかに無収縮モルタル等で完全に保護する。

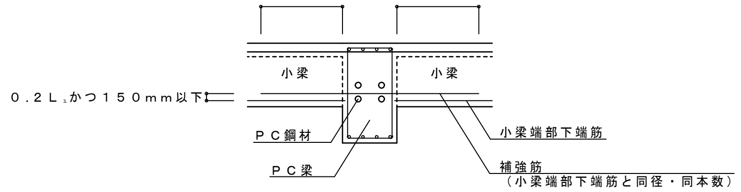
１０．壁の取り扱い

ＰＣ梁を含む場合あるいはＰＣ梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合は、所定の軸方向圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を施す。



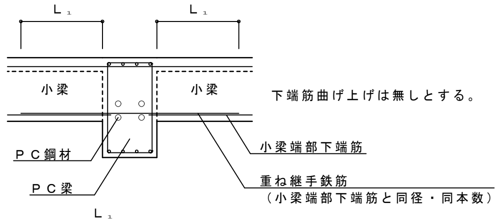
１１．小梁下端筋の取り扱い

小梁の下端筋がシースとあたる場合には、シースの配置を優先し、以下のような配慮を施す。

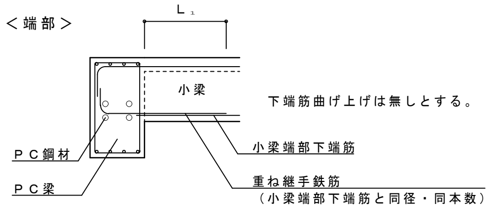


※　重ね継手が可能な場合、下記の通りとする。

＜連梁＞



＜端部＞



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

高強度せん断補強筋（エムケーフープ：７８５級）特記仕様書（参考図）

株式会社 向山工場
ＢＣＪ評定-RC0419-05

1.一般事項

1－1適用範囲

本指針は、建築物の鉄筋コンクリート造梁及び柱のせん断補強筋（溶接閉鎖形筋、フック付閉鎖形筋等）として、高強度せん断補強筋用異形棒鋼ＭＫ７８５（以下、ＭＫ７８５と呼ぶ）を使用する場合の設計・施工に適用する。

1－2コンクリート

コンクリートの種類は普通コンクリートとし、設計基準強度の範囲は２１Ｎ/mm²以上６０Ｎ/mm²以下とする。

1－3共通事項

本仕様書に記載無き事項については、ＪＡＳＳ５によるものとする。

2.ＭＫ７８５フープの品質

2－1 区分、種類の記号及び認定番号は下記による

区　分	種類の記号	認定番号
高強度せん断補強筋用異形棒鋼	ＭＫ７８５	ＭＳＲＢ-００６７ ＭＳＲＢ-０１１６

2－2エムケーフープの化学成分（％）

種類の記号	Ｃ	Ｓｉ	Ｍｎ	Ｐ	Ｓ	炭素当量
ＭＫ７８５	０．４０ 以下	０．３５ 以下	１．４０ 以下	０．０３５ 以下	０．０３ 以下	０．６５ 以下

2－3エムケーフープの形状・寸法、質量およびその許容差

呼び名	公称直径 (mm)	公称周長 (cm)	公称断面積 (cm²)	単位質量 (kg/m)	質量の許容差
					（％）
ＭＤ１０	９．５３	３．０	０．７１３３	０．５６０	±６
ＭＤ１３	１２．７	４．０	１．２６７	０．９９５	±６
ＭＤ１６	１５．９	５．０	１．９８６	１．５６０	±５

※設計図本編での呼び名（記号）は、「Ｓ〇〇」と表記する。

2－4エムケーフープの機械的性質

試験片の区分	降伏点 (N/mm²)	引張強さ (N/mm²)	伸び （％）	曲げ性	
				曲げ角度	内側直径
母材	７８５以上	９３０以上	８以上	１８０°	３．０ｄ
溶接を含んだ部分			５以上	——	

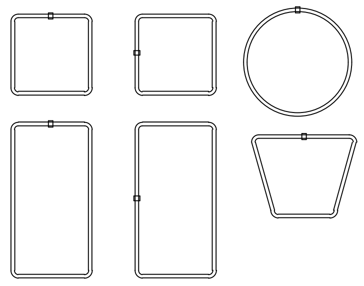
降伏点は、降伏点または０．２％耐力とする。
注） ｄは公称直径を示す

3.加工

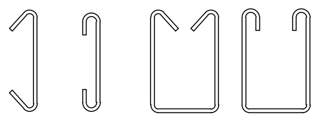
3－1加工形状

せん断補強筋ＭＫ７８５の加工形状は、溶接閉鎖形帯筋及びあばら筋、１３５° フック付き閉鎖形帯筋及びあばら筋、キャップタイ付きＵ字形あばら筋、Ｕ字形副あばら筋、Ｉ字形の副帯筋及び副あばら筋とする。

①基本加工形状（溶接閉鎖形）



［溶接閉鎖形帯筋、あばら筋］



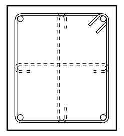
（Ｉ形）　（Ｕ形）

［フック付副帯筋、副あばら筋］

②基本加工形状（フック付き閉鎖形）

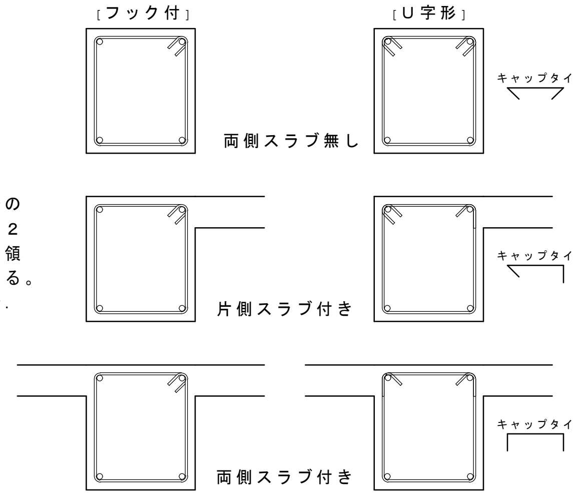
［　帯筋　］

［フック付］
［副帯筋配置］

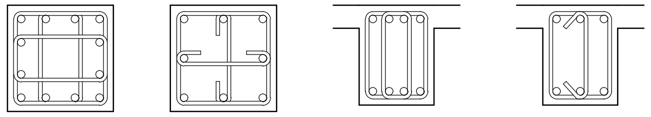


注）梁面から中央に柱の最大径の１．５倍、または最小径の２倍に、いずれか大きい方の領域において副帯筋を配筋する。（設計施工指針・同解説６条．構造細則４項参照）

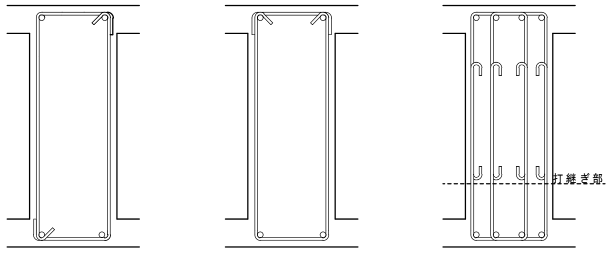
［　あばら筋　］



③中子筋の加工形状



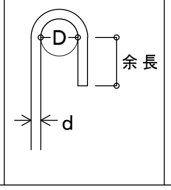
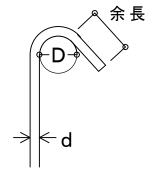
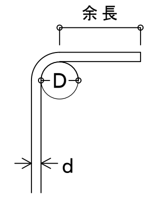
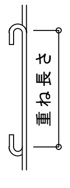
④せいの大きな梁（基礎梁）のせん断補強筋の加工形状



［Ｌ形筋］　［フック付］　［重ね継手］

3－2折曲げ部及び重ね継手の形状・寸法

せん断補強筋ＭＫ７８５の折曲げ部及び梁せいの大きな梁（基礎梁）における重ね継手の形状・寸法は、下記によるものとし、冷間加工を原則とする。

種類の記号	ＭＫ７８５			
折曲げ角度	１８０°	１３５°	９０°	１８０°
内側直径（Ｄ）	４ｄ以上	４ｄ以上	４ｄ以上	４ｄ以上
余　長	６ｄ以上	６ｄ以上	１２ｄ以上	６ｄ以上
重ね長さ	——	——	——	表Ｉによる
図	 Ｄ 余長 ｄ	 Ｄ 余長 ｄ	 余長 Ｄ ｄ	 重ね長さ

注） ｄは 呼び名に用いた数値とする。

表Ｉ　コンクリート強度と重ね長さ寸法

コンクリート Ｆｃ(N/mm²)	Ｆｃ ＜ ３６	３６≦Ｆｃ＜４５	４５ ≦ Ｆｃ
重ね長さＬ(mm)	５０ｄ	４５ｄ	４０ｄ

３－３コンクリート強度に対応した継手の重ね長さ以上を確保し、かつ①～③を全て満たす梁に重ね継手を設けることができる。

① 基礎梁の上下にスラブが取り付く場合かつ梁せい１．５m以上
（ただし、基礎梁の片側（上または下）にスラブが取り付く場合は梁せい２．０m以上）

② 曲げ降伏しないことが確認された基礎梁

③ せん断補強筋のかぶり厚さ５０mm以上

4.その他

４－１加工は下記のメーカーによる溶接加工とする。

（ＭＫ７８５によるＡ級継ぎ手認定企業）

- （株）青山商事
- （株）小財昭和スチール
- 藤工業（株）
- （株）ワイビーテクノ
- コーリョー建販（株）
- 近藤鋼材（株）
- 北興昭和（株）
- （株）小財スチール
- 昭和産業（株）
- 宮城昭和産業（株）

４－２溶接
エムケーフープは現場溶接を行ってはならない。

４－３保管
エムケーフープは直接地面に接するように置かない。

４－４清掃
エムケーフープは組み立てに先立ち、コンクリートの付着を妨害する汚れ、塵や土の付着が無いことを確認し、汚れが認められる場合は取り除くこと。

2025.11.25

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.									
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	高強度せん断補強筋特記仕様書	縮尺	図番 S－15

梁貫通孔補強材

ダイヤレンＮＳ設計・施工標準仕様書（参考図）

ＢＣＪ評定－ＲＣ０１２４－０８、ＢＣＪ評定－ＳＳ００５６－０２

コーリョー建販株式会社
2025.11.14作成

１．一般事項

（１）本仕様書は、ダイヤレンＮＳの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

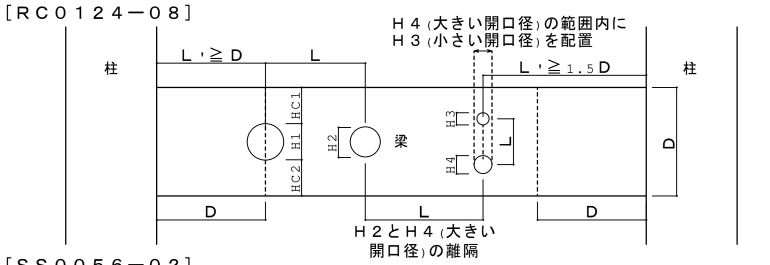
（２）本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイヤレンＮＳ技術マニュアル、及びダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口の補強技術マニュアルによる。

２．使用材料・貫通孔の適用範囲

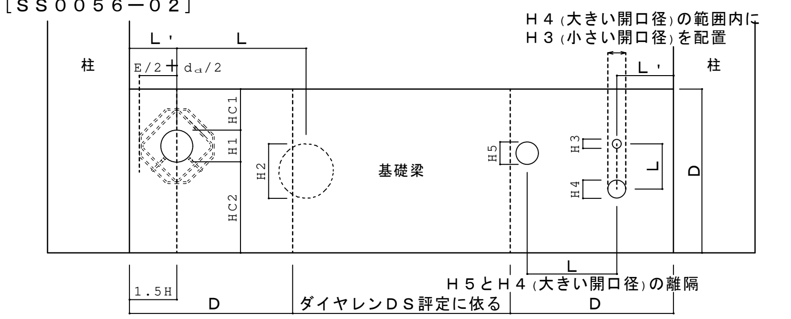
（１）各評定の適用範囲

	ダイヤレンＮＳ	ダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口補強
評定番号	ＢＣＪ評定－［ＲＣ０１２４－０８］	ＢＣＪ評定－［ＳＳ００５６－０２］
対象とする部材	鉄筋コンクリート造及び 鉄骨鉄筋コンクリート造の梁	有効な柱梁接合部に取り付く 非降伏の基礎梁及び地下階の梁 ※１
コンクリート	Ｆｃ＝２１～１００N/mm²	
鉄筋	主筋：基準強度２９５～４９０N/mm²のＪＩＳ鉄筋、４９０を超え６８５N/mm²以下の大臣認定品 あばら筋：基準強度２９５～４９０N/mm²のＪＩＳ鉄筋、４９０を超え１,２７５N/mm²以下の大臣認定品 ダイヤレンＮＳ：ＫＳＳ７８５－Ｋ(ＭＳＲＢ-０００４)、ＭＫ７８５(ＭＳＲＢ-００６７)	
梁せい（Ｄ）	――	Ｄ≧７５０mm
開口形状	円形または多角形とする（多角形の場合はその外接円を開口とみなす）	
開口径(外径)（Ｈ）	Ｈ≦７５０mm　かつ　Ｈ≦Ｄ/３	Ｈ＜３５０mm　かつ　Ｈ≦Ｄ/５
上下に複数開口を設ける場合の合計径（ΣＨ）	ΣＨ≦Ｄ/３	ΣＨ≦Ｄ/３.７５
柱際から開口中心までの距離（Ｌ’）	Ｌ’≧Ｄ 上下に複数開口を設ける場合はＬ'≧１.５Ｄ	Ｌ'＜Ｄ　かつ　Ｌ'≧１.５Ｈ　かつ Ｌ'≧Ｅ/２+ｄ$_a$/２
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離（Ｌ）	隣接する開口径の平均値の３倍以上 （隣接する開口が縦並び開口の場合、縦並び開口の一番大きい径との平均値の３倍以上とする）	
へりあき（ＨＣ１、ＨＣ２）	ＨＣ１、ＨＣ２≧製品サイズによる最小寸法（下式） (Ｅ-Ｈ)/２＋ｄ$_a$/２＋ｄ$_w$＋ｔ$_c$ Ｅ　：ダイヤレンＮＳのＥ寸法 ｄ$_a$：ダイヤレンＮＳの鉄筋の呼び径 ｄ$_w$：あばら筋の呼び径 ｔ$_c$：コンクリートのかぶり厚さ(４０mm以上)	ＨＣ１、ＨＣ２≧製品サイズによる最小寸法 かつ　ＨＣ１、ＨＣ２≧Ｄ/４※２ ※２γ≧０.６かつｐｔ≦１.０％を満足する場合、 ・Ｄ/４＞４００mmのとき、ＨＣ≧４００mm ・Ｈ≦Ｄ/１０かつＨ＜１５０mmのとき、ＨＣ≧２５０mm γ：複筋比　ｐｔ：引張鉄筋比

［ＲＣ０１２４－０８］



［ＳＳ００５６－０２］



※１ダイヤレンＮＳを用いた基礎梁端部小開口補強［ＢＣＪ評定－ＳＳ００５６－０２］の対象とする部材

①及び②に適合する基礎梁を対象とする。なお、本評定［ＢＣＪ評定－ＳＳ００５６－０２］は基礎梁を対象としているが、構造計算上地下部分として扱う地下階の鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の梁に適用することができる。

①非降伏の鉄筋コンクリート造の基礎梁
非降伏の基礎梁とは、大地震時に設計上曲げ降伏せず、かつ、せん断破壊しない基礎梁をいう。

②有効な柱梁接合部に取り付く基礎梁

- ●鉄筋コンクリート造の柱梁接合部に取り付く基礎梁を対象とする。壁式鉄筋コンクリート造の場合は、壁柱と基礎梁の接合部を鉄筋コンクリート造の柱梁接合部とみなす。
- ●鉄骨造建築物の基礎梁は、告示※３に従って設計された柱脚（露出形式・根巻き形式・埋込み形式）または評定等を取得した柱脚工法の基礎柱型　に取り付くものを対象とする。
- ●木造建築物の基礎梁は、鉄筋コンクリート造の柱梁接合部または基礎柱型※４に取り付くものを対象とし、小規模木造の基礎梁(木造住宅等の布基礎及びべた基礎等の基礎梁)は対象外とする。

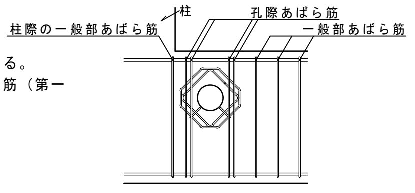
※３平成１２年建設省告示第１４５６号

※４基礎柱型の配筋は、評定等を取得した工法を用いる場合はその規定に従うとともに、主筋及び帯筋が配筋されたものとする。

３．仕様規定

（１）ダイヤレンＮＳの使用枚数は、開口１ヵ所当たり２枚以上とする。

（２）柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも１組の一般部あばら筋（第一あばら筋）を配筋する。［ＳＳ００５６－０２］

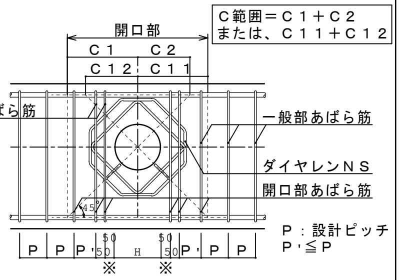


４．開口部あばら筋の配筋要領

（１）開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。

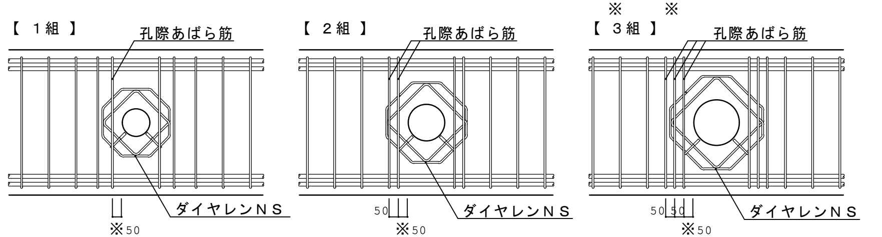
（２）孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。［ＳＳ００５６－０２］

（３）孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。



【開口に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】

開口径	一般部あばら筋比（ｐ$_w$）	
	１％未満	１％以上
Ｈ＜１５０	１組	２組
１５０≦Ｈ＜３００	２組	３組
３００≦Ｈ	３組	３組



※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は５０mmとする。

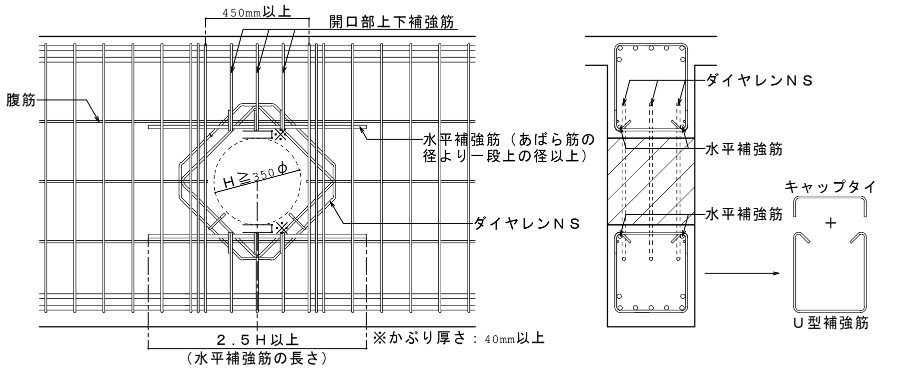
５．開口部上下補強要領（３５０φ以上の場合）

（１）開口の左右に配筋する１組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの１/２以上または４５０mm以上（開口径で３５０mm以上）になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
ただし、水平力による応力を負担しない梁（小梁等）の場合は梁せいの１/２は考慮しなくともよい。

（２）開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。
（丸鋼及びインデントは不可）

（３）形状にはコ型・Ｕ型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅－２×かぶり厚さ」または３５ｄ以上とし、水平補強筋側（梁内側）の重ね長さは１２ｄ以上とする。ただし、梁幅が４００mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが２５ｄ（ｄは鉄筋の呼び径）以下の場合は、Ｕ型またはΠ型の形状で補強を行う。

（４）水平補強筋は、一般部あばら筋より１段上の径以上とし（ＳＤ２９５Ａ程度）、開口径の２.５倍以上の長さとする。



【開口上下部分の補強要領（Ｕ型補強筋で補強する場合の例）】

６．施工要領例

（１）型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。

（２）補強設計上必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、１組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、２組目以降はそれぞれ５０mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。

（３）孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。
（束ね配筋は、２組までは束ねることができるが、３組以上は束ねてはならない。）

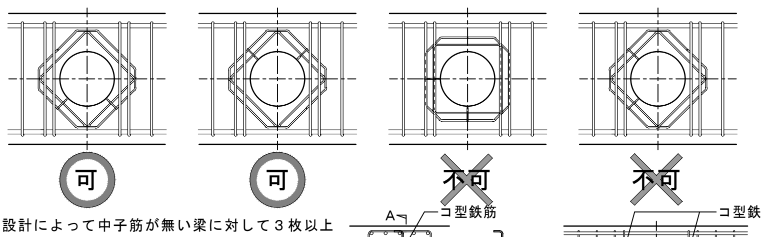
（４）ダイヤレンＮＳを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に４ヵ所以上結束する。

（５）スリーブをダイヤレンＮＳのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。

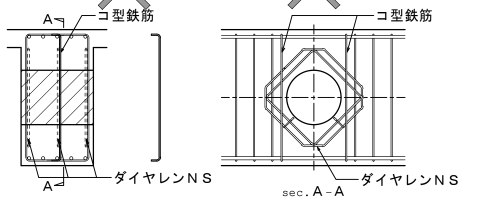
（６）開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

７．施工における注意事項

（１）ダイヤレンＮＳはあばら筋に対して斜め４５度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



（２）補強設計によって中子筋が無い梁に対して３枚以上のダイヤレンＮＳが必要になった場合は、右図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ１本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンＮＳを結束して固定する。



８．ダイヤレンＮＳ標準製品寸法表

（特記外単位：mm）

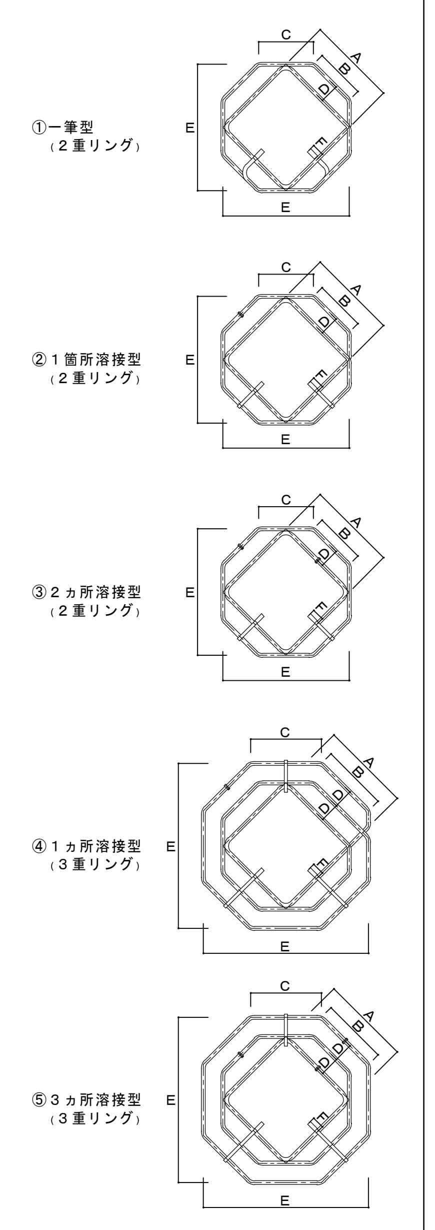
スリーブ径(対応径)	型	サイズ	寸法						形状	重量(kgf/枚)	Ｈo
			Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ	Ｅ	Ｆ			
100φ (H≦115)	Ⅰ	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	Ⅱ	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	Ⅲ	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	Ⅳ	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	Ⅴ	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	Ⅴ-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≦141)	Ⅰ	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	Ⅱ	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	Ⅲ	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	Ⅳ	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	Ⅴ	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	Ⅴ-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≦166)	Ⅰ	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	Ⅱ	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	Ⅲ	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	Ⅳ	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	Ⅴ	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	Ⅴ-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≦191)	Ⅰ	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	Ⅱ	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	Ⅲ	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	Ⅳ	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	Ⅴ	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	Ⅴ-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≦216)	Ⅰ	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	Ⅱ	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	Ⅲ	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	Ⅳ	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	Ⅴ	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	Ⅴ-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≦270)	Ⅰ	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	Ⅱ	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	Ⅲ	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	Ⅳ	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	Ⅴ	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	Ⅴ-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ (H≦320)	Ⅰ	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	Ⅱ	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	Ⅲ	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	Ⅳ	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	Ⅴ	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	Ⅴ-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ (H≦370)	Ⅰ	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	Ⅱ	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	Ⅲ	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	Ⅳ	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	Ⅴ	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	Ⅴ-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ (H≦420)	Ⅰ	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	Ⅱ	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	Ⅲ	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	Ⅳ	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
	Ⅳ-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519
450φ (H≦470)	Ⅰ	8	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456
	Ⅱ	10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
	Ⅲ	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
	Ⅳ	16	580	420	226	80	820	55	②	7.94	474
	Ⅳ-3R	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554
500φ (H≦520)	Ⅱ	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492
	Ⅲ	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
	Ⅳ	16	630	470	226	80	890	55	②	8.56	509
	Ⅳ-3R	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589
550φ (H≦570)	Ⅱ	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	Ⅲ	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
	Ⅳ	16	680	520	226	80	961	55	②	9.18	545
	Ⅳ-3R	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625
600φ (H≦630)	Ⅱ	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	Ⅲ	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	Ⅳ	16	750	590	226	80	1060	60	②	10.07	594
	Ⅳ-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674
650φ (H≦680)	Ⅱ	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	Ⅲ	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
	Ⅳ	16	800	640	226	80	1131	60	②	10.69	630
	Ⅳ-3R	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.17	710
700φ (H≦730)	Ⅱ	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	Ⅲ	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649
	Ⅳ	16	850	690	226	80	1202	60	②	11.32	665
	Ⅳ-3R	16	850	756	292	80	1362	60	④	18.11	745
750φ (H≦750)	Ⅱ	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676
	Ⅲ	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685
	Ⅳ	16	900	740	226	80	1272	60	②	11.94	700
	Ⅳ-3R	16	900	806	292	80	1432	60	④	19.05	780

※対応径は、スリーブ面とダイヤレンＮＳ内リング筋の内側面までのかぶり厚さを４０mmとした場合の開口外径

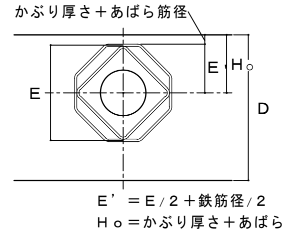
※表中Ｈoは、かぶり厚さ４０mm、あばら筋１６mmとした場合の梁上下端から端から開口芯までの距離

※寸法は、鉄筋の芯－芯間とする

【ダイヤレンＮＳ　標準形状】



【へりあきの最小寸法】
ダイヤレンＮＳを使用した場合の梁上下端から開口芯までの距離（Ｈo）を左表に示す。
（かぶり厚さ４０mm、あばら筋径を１６mmと仮定した数値）

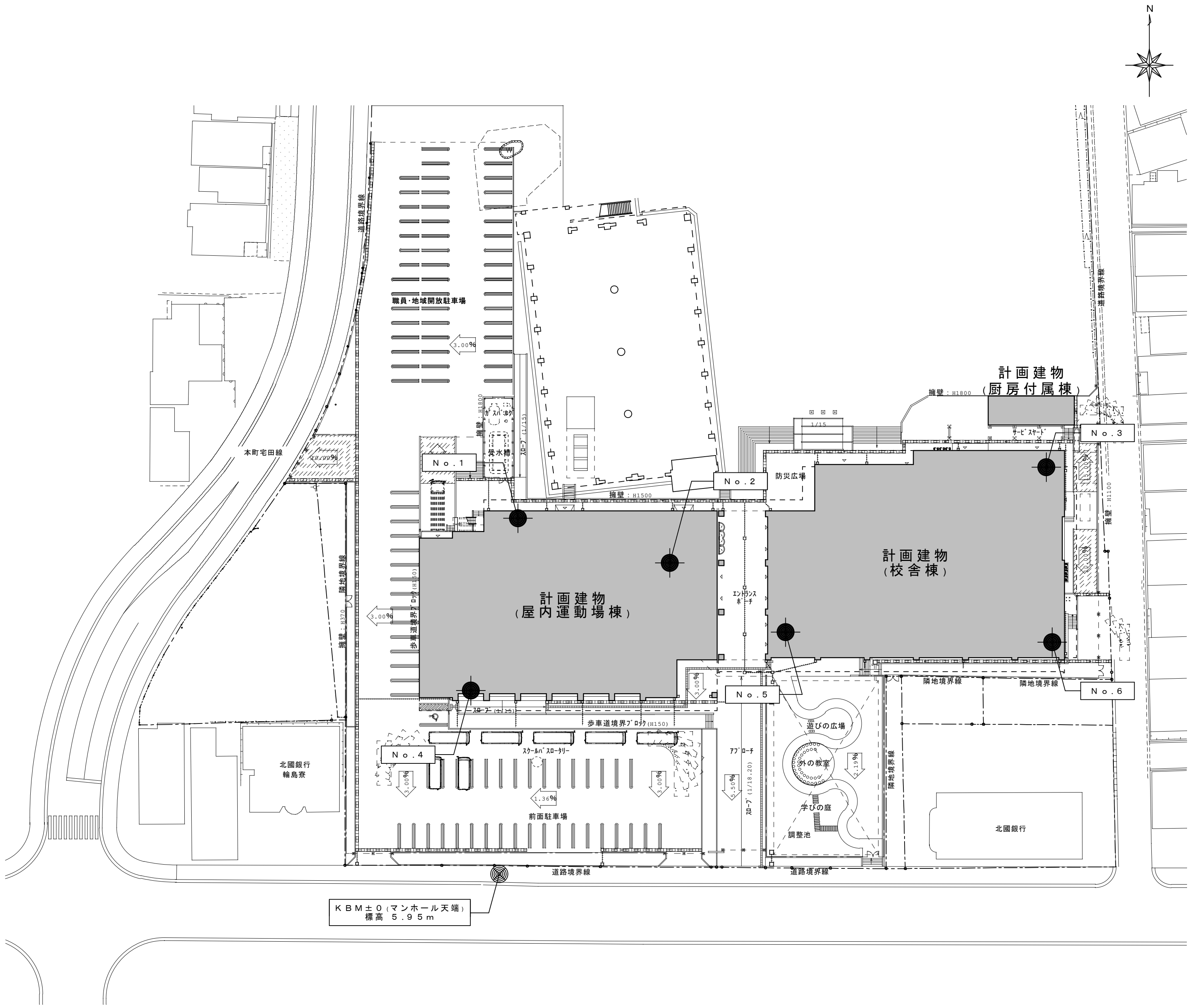


Ｅ’＝Ｅ/２＋鉄筋径/２
Ｈo＝かぶり厚さ＋あばら筋径＋Ｅ’

【型式の表記について】
Ｖ-３Ｒ ⇒ Ｖ(型式)-３Ｒ(リング形状※)
※リング形状は「２Ｒ(２重リング)」と「３Ｒ(３重リング)」（上記の形状①～⑤）があり、３Ｒの表記以外は２Ｒとする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	ＲＣ梁貫通孔補強筋設計施工仕様書	縮尺		図番	Ｓ－16



調査位置図

ボーリング柱状図 ※設計GL＝KBM＋2.50m

NO.1

孔口標高＝設計GL－3.09m
<＝KBM －0.59m>

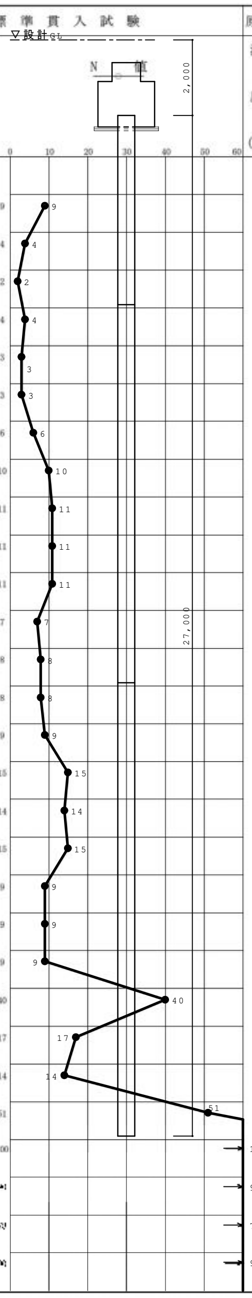
ボーリング名	No.1	調査位置	石川県輪島市河井町			北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 7日		東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師		現場代理人	コア鑑定者 吉岡昇一郎	ボーリング責任者	磯部伸介
孔口標高	KBM −0.59m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°
総掘進長	29.35m	使用機種	試錐機 YBM－05	ハンマー落下用具	半自動落下装置		
			エンジン TF－90	ポンプ	GP－5		

▽設計GL(KBM+2,500)

▽KBM-590

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位 (m)／測定月日
-2.09	1.50	1.50	盛土・礫混じり細中砂	暗黄灰			含水中～大位 粒子不均一 φ2～50mmの角～亜角礫, コンクリート片を混在する	0.30
-8.09	6.00	7.50	シルト	暗褐灰		軟らかい～中位の	含水中位 粘性中位 部分的に腐植物や有機物を混在する 孔壁の押し出しがやや強い	
-19.09	11.00	18.50	シルト質細砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 部分的にφ2～5mmの細礫を少量点在する GL-12m・13mはシルト分多く砂質シルト状	
-22.29	3.20	21.70	シルト	暗灰		硬い	含水中位 粘性中位 GL-21m付近、若干の細砂を混入する	
-23.59	1.30	23.00	礫混じり中砂	暗灰	密な		含水中位 粒子不均一 φ2～50mmの亜円～亜角礫や風化礫やシルトを混入する	
-24.09	0.50	23.50	シルト質細砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 全体にシルトを混入する	
-25.59	1.50	25.00	シルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 有機物を混入する	
-28.39	2.80	27.80	シルト混じり砂礫	暗緑灰～暗灰	非常に密な		含水中位 φ2～30mmの亜円～角礫を主体とし [illegible]	
-29.94	1.55	29.35	[illegible]	[illegible]			[illegible] GL-29m付近、[illegible]	

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	3	3	3	9/30	9
2.15～2.45	1	1	2	4/30	4
3.15～3.45	1/15	1/15		2/30	2
4.15～4.45	1	2	1	4/30	4
5.15～5.45	1	1	1	3/30	3
6.15～6.45	1	1	1	3/30	3
7.15～7.45	2	2	2	6/30	6
8.15～8.45	3	3	4	10/30	10
9.15～9.45	4	4	3	11/30	11
10.15～10.45	4	3	4	11/30	11
11.15～11.45	4	4	3	11/30	11
12.15～12.45	2	2	3	7/30	7
13.15～13.45	2	3	3	8/30	8
14.15～14.45	3	3	2	8/30	8
15.15～15.45	3	3	3	9/30	9
16.15～16.45	5	5	5	15/30	15
17.15～17.45	4	5	5	14/30	14
18.15～18.45	5	5	5	15/30	15
19.15～19.45	3	3	3	9/30	9
20.15～20.45	3	3	3	9/30	9
21.15～21.45	2	3	4	9/30	9
22.15～22.45	7	10	23	40/30	40
23.15～23.45	7	5	5	17/30	17
24.15～24.45	5	5	4	14/30	14
25.15～25.45	15	15	21	51/30	51
26.15～[illegible]	20	40/8		60/18	100
[illegible]	[illegible]	[illegible]		60/[illegible]	90
[illegible]	20	30	[illegible]/3	60/[illegible]	78
[illegible]	20	30		60/20	90



試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
8.15～8.45	1P-1	⊖	細粒分含有率
9.15～9.45	1P-2	⊖	細粒分含有率
10.15～10.45	1P-3	⊖	細粒分含有率
11.15～11.45	1P-4	⊖	細粒分含有率
12.15～12.45	1P-5	⊖	細粒分含有率
13.15～13.45	1P-6	⊖	細粒分含有率
14.15～14.45	1P-7	⊖	細粒分含有率
15.15～15.45	1P-8	⊖	細粒分含有率
16.15～16.45	1P-9	⊖	細粒分含有率
17.15～17.45	1P-10	⊖	細粒分含有率
18.15～18.45	1P-11	⊖	細粒分含有率

掘進月日：12/4、12/5、[illegible]

構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 地質調査図（1）	縮尺 A1:1/ 500 A3:1/1,000	図番 S－17

ＮＯ．２
孔口標高＝設計ＧＬ－３．１５ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．６５ｍ＞

ボーリング名	No．2	調査位置	石川県輪島市河井町				北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 8日 ～ 7年 12月 10日			東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師	現場代理人		コア鑑定者	吉岡昇一郎	ボーリング責任者	廣瀬靖彦
孔口標高	KBM -0.65m	角度 180° 上 90° 下 0° 0°	方向 北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直90° 水平0° 0°	使用機種 試錐機	TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	30.32m				エンジン	TF-90M	ポンプ	GP-3

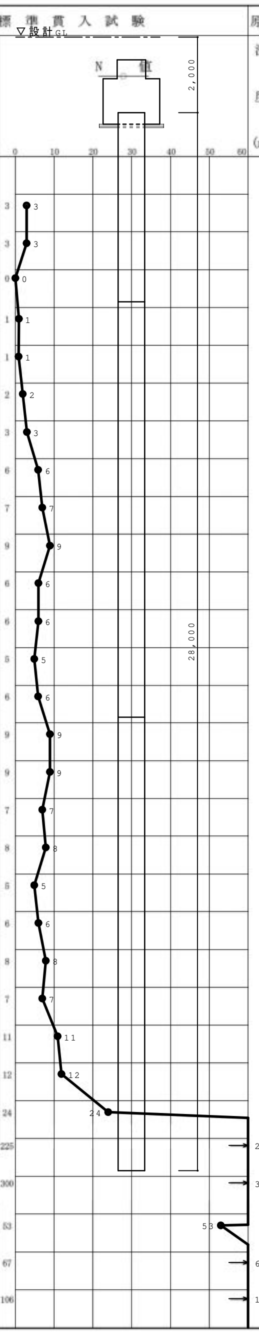
▽設計GL（KBM+2,500）
▽KBM-650

孔内水位（m）／測定月日：12/8 1.10

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-2.45	1.80	1.80	盛土・礫混じりシルト質細砂	褐灰			含水中位　粘性中位 φ2～30mmの亜円～亜角礫を混入する
-8.15	5.70	7.50	シルト	暗灰～暗褐		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位　粘性中位 GL-3m以深、少量の腐植物や有機物を混入する
-13.45	5.30	12.80	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位　粒子均一 全体にシルトを混入する GL-12m付近はシルト分多く砂質シルト状
-15.15	1.70	14.50	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位　粘性中位 全体に少量の細砂を混入する
-19.05	3.90	18.40	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位　粒子均一 全体にシルトを混入する GL-16m以深、炭化物を点在する
-20.45	1.40	19.80	シルト	暗褐灰		中位の～硬い	含水中位　粘性中位 若干の細砂を混入する
-24.85	4.40	24.20	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位　粒子均一 全体にシルトを混入する 所々、少量の炭化物を点在する GL-20m～21m付近、シルトの混在が多くなる GL-23.9～24.2m間、シルト混じり砂礫を挟在する
-25.35	0.50	24.70	シルト	暗灰		硬い	含水中位　粘性中位
-28.15	2.80	27.50	玉石混じり砂礫	暗黄灰	中位の～非常に密な		含水中位 φ2～50mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト質細～中砂からなる φ80～120mmの玉石を点在する
-30.97	2.82	30.32	強風化岩	黄褐灰～暗青灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する GL-28m付近、少量の細砂を混入する

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	1	1	1	3/30	3
2.15～2.45	1	1	1	3/30	3
3.00～3.45	ハンマー自沈			0/45	0
4.15～4.45	1/30			1/30	1
5.15～5.45	1/30			1/30	1
6.15～6.45	1/15	1/15		2/30	2
7.15～7.45	1	1	1	3/30	3
8.15～8.45	2	2	2	6/30	6
9.15～9.45	2	2	3	7/30	7
10.15～10.45	2	3	4	9/30	9
11.15～11.45	2	2	2	6/30	6
12.15～12.45	2	2	2	6/30	6
13.15～13.45	2	1	2	5/30	5
14.15～14.45	2	2	2	6/30	6
15.15～15.45	3	3	3	9/30	9
16.15～16.45	3	3	3	9/30	9
17.15～17.45	2	3	2	7/30	7
18.15～18.45	3	2	3	8/30	8
19.15～19.45	1	2	2	5/30	5
20.15～20.45	2	2	2	6/30	6
21.15～21.45	3	3	2	8/30	8
22.15～22.45	2	3	2	7/30	7
23.15～23.45	3	3	5	11/30	11
24.15～24.45	5	4	3	12/30	12
25.15～25.45	9	7	8	24/30	24
26.15～26.23	60/8			60/8	225
27.15～27.21	60/6			60/6	300
28.15～28.45	15	18	20	53/30	53
29.15～29.42	20	23	17/7	60/27	67
30.15～30.32	32	28/7		60/17	106



試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
1.15～1.45	2P-1	⊖	細粒分含有率
8.15～8.45	2P-2	⊖	細粒分含有率
9.15～9.45	2P-3	⊖	細粒分含有率
10.15～10.45	2P-4	⊖	細粒分含有率
11.15～11.45	2P-5	⊖	細粒分含有率
12.15～12.45	2P-6	⊖	細粒分含有率
15.15～15.45	2P-7	⊖	細粒分含有率
16.15～16.45	2P-8	⊖	細粒分含有率
17.15～17.45	2P-9	⊖	細粒分含有率
18.15～18.45	2P-10	⊖	細粒分含有率
20.15～20.45	2P-11	⊖	細粒分含有率

掘進月日：12/8、12/9、12/10

ＮＯ．３
孔口標高＝設計ＧＬ－２．６４ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．１４ｍ＞

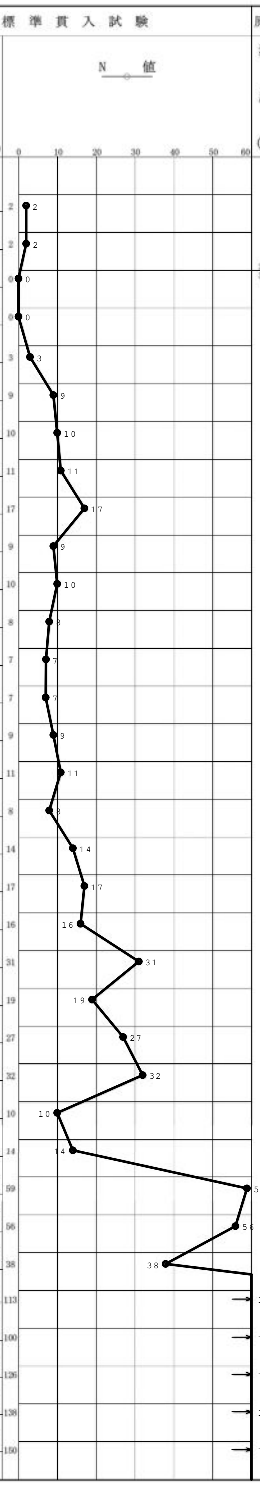
ボーリング名	No．3	調査位置	石川県輪島市河井町				北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 8日 ～ 7年 12月 10日			東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師	現場代理人		コア鑑定者	吉岡昇一郎	ボーリング責任者	足立悦朗
孔口標高	KBM -0.14m	角度 180° 上 90° 下 0° 0°	方向 北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直90° 水平0° 0°	使用機種 試錐機	TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	34.27m				エンジン	TF-90	ポンプ	BG-3

孔内水位（m）／測定月日：12/8 1.20

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.84	1.70	1.70	盛土・シルト質細砂	暗黄灰～暗灰			GL-0.05mまでアスファルト GL-0.2mまで砕石 含水中位 粒子不均一 シルトを一様に混在し所々にφ5～30mmの礫を点在する
-5.24	3.40	5.10	シルト	暗褐		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位　粘性中位 GL-3m以深、少量の腐植物や有機物を混入する
-6.14	0.90	6.00	シルト質細砂	暗灰	非常に緩い		含水中位　粒子均一 シルトを一様に混在する GL-5.4m付近、炭化した木片を点在する
-10.29	4.15	10.15	礫混じりシルト質細中砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子不均一 GL-7～7.1m間、腐植土（粘性土）を挟む GL-7.4m以深、φ2～10mmの礫を点在する 全体にシルトを混入する
-13.74	3.45	13.60	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子不均一 シルトを一様に混在する GL-11m付近、シルトの混在が少なくなる GL-13m以深、腐植物を混入する
-15.14	1.40	15.00	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位　粘性小位 細砂をブロック状～薄層状で挟む
-18.94	3.80	18.80	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子均一 シルトを一様に混在する 部分的に少量の腐植物を点在する GL-16m付近、φ2mmの細礫を点在する GL-18.4m付近、シルトをシーム状で挟む
-22.14	3.20	22.00	礫混じりシルト質細中砂	暗灰	中位の～密な		含水中位 粒子不均一 φ2～20mmの細礫を点在する 全体にシルトを混入し部分的にブロック状でシルトを挟む
-22.64	0.50	22.50	シルト質細砂	暗灰	中位の		含水中位　粒子均一 シルトを一様に混在する
-24.94	2.30	24.80	礫混じり細中砂	暗灰	中位の～密な		含水中位 粒子不均一 φ2～40mmの亜円～亜角礫を混在する GL-23～23.3m間、礫の混在量が少なくなる GL-24m以深、若干のシルトを混在する
-26.49	1.55	26.35	シルト	灰～淡緑灰		硬い	含水中位　粘性中位 GL-25.8m以深、若干の細砂を混在する
-29.49	3.00	29.35	シルト質砂礫	灰～暗緑灰	密な～非常に密な		含水中位 φ2～20mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる 最大礫径φ40mm程度 GL-27.6～27.8m間、粘性土を挟む
-34.41	4.92	34.27	強風化岩	暗灰～暗青灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する GL-31.20～31.60m間はシルト質砂状で採取される

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	1/20	1		2/30	2
2.15～2.45	1/15	1/15		2/30	2
3.00～3.45	ハンマー自沈			0/45	0
4.00～4.45	ハンマー自沈			0/45	0
5.15～5.45	1	1	1	3/30	3
6.15～6.45	3	3	3	9/30	9
7.15～7.45	3	3	4	10/30	10
8.15～8.45	4	4	3	11/30	11
9.15～9.45	5	5	7	17/30	17
10.15～10.45	2	3	4	9/30	9
11.15～11.45	3	3	4	10/30	10
12.15～12.45	2	3	3	8/30	8
13.15～13.45	2	2	3	7/30	7
14.15～14.45	2	3	2	7/30	7
15.15～15.45	2	3	4	9/30	9
16.15～16.45	3	4	4	11/30	11
17.15～17.45	2	3	3	8/30	8
18.15～18.45	4	5	5	14/30	14
19.15～19.45	6	4	7	17/30	17
20.15～20.45	4	5	7	16/30	16
21.15～21.45	7	10	14	31/30	31
22.15～22.45	5	6	8	19/30	19
23.15～23.45	6	9	12	27/30	27
24.15～24.45	9	11	12	32/30	32
25.15～25.45	3	3	4	10/30	10
26.15～26.45	3	4	7	14/30	14
27.15～27.45	11	20	28	59/30	59
28.15～28.45	17	16	23	56/30	56
29.15～29.45	11	13	14	38/30	38
30.15～30.31	40	20/6		60/16	113
31.15～31.33	22	38/8		60/18	100
32.15～32.29	32	27/4		59/14	126
33.15～33.28	44	16/3		60/13	138
34.15～34.27	49	11/2		60/12	150



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
3.00	孔内載荷試験

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
4.00～4.85	3T-1	Ⓣ	三軸
5.15～5.45	3P-1	⊖	細粒分含有率
6.15～6.45	3P-2	⊖	細粒分含有率
7.15～7.45	3P-3	⊖	細粒分含有率
8.15～8.45	3P-4	⊖	細粒分含有率
9.15～9.45	3P-5	⊖	細粒分含有率
10.15～10.45	3P-6	⊖	細粒分含有率
11.15～11.45	3P-7	⊖	細粒分含有率
12.15～12.45	3P-8	⊖	細粒分含有率
13.15～13.45	3P-9	⊖	細粒分含有率
15.15～15.45	3P-10	⊖	細粒分含有率
16.15～16.45	3P-11	⊖	細粒分含有率
17.15～17.45	3P-12	⊖	細粒分含有率
18.15～18.45	3P-13	⊖	細粒分含有率
19.15～19.45	3P-14	⊖	細粒分含有率
20.15～20.45	3P-15	⊖	細粒分含有率

掘進月日：12/8、12/9、12/10

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計　・　・	標題　地質調査図（２）	縮尺	図番　S－18

ＮＯ．４

孔口標高＝設計ＧＬ－２．９４ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．４４ｍ＞

ボーリング名	No．4	調査位置	石川県輪島市河井町			北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 7日		東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師	現場代理人		コア鑑定者 吉岡昇一郎	ボーリング責任者	廣瀬靖彦
孔口標高	KBM -0.44m	角度 180° 上 90° 下 0° 0°	方向 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配 鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種 試錐機 TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	28.02m				エンジン TF-90M	ポンプ	GP-3

▽設計GL(KBM+2,500)

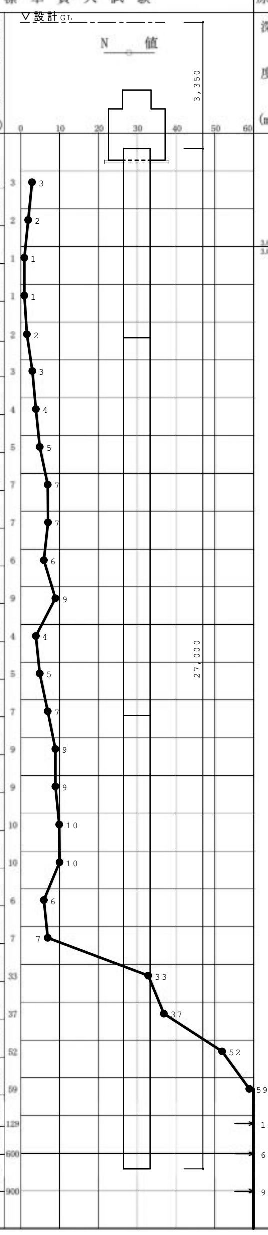
▽KBM-440

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.04	0.60	0.60	盛土・礫混じりシルト	褐灰			含水中位 粘性中位 細中砂, コンクリート片, 栗石, 玉石, 木片を混入する GL-26.8m以深、逸水性がある
-7.84	6.80	7.40	シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位 粘性中位 GL-5m以深、少量の腐植物や有機物を混在する GL-6.1m付近、細中砂を挟在する
-13.34	5.50	12.90	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 部分的に炭化物を点在する
-15.24	1.90	14.80	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に少量の細砂を混入する GL-13m付近、少量の腐植物を点在する
-19.84	4.60	19.40	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入し部分的に少量の腐植物を混在する GL-17m付近はシルト分多く砂質シルト状 所々、φ2～5mmの細礫を点在する
-22.44	2.60	22.00	砂質シルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に細砂を混入し部分的に混在量が増減する
-25.84	3.40	25.40	シルト混じり砂礫	暗灰	密な～非常に密な		含水中位 φ2～40mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる GL-23m付近、礫の混在が少なくなる
-28.46	2.62	28.02	玉石混じり砂礫	暗灰	非常に密な		含水中位 φ2～70mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスは細～粗砂からなる φ80～120mmの玉石を点在する

孔内水位(m)／測定月日: 12/1 1.35

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15～1.45	1	1	1	3/30	3
2.15～2.45	1/15	1/15		2/30	2
3.15～3.45	1/30			1/30	1
4.15～4.45	1/30			1/30	1
5.15～5.50	1/20	1/15		2/35	2
6.15～6.45	1	1	1	3/30	3
7.15～7.45	1	1	2	4/30	4
8.15～8.45	1	2	2	5/30	5
9.15～9.45	2	2	3	7/30	7
10.15～10.45	2	2	3	7/30	7
11.15～11.45	2	2	2	6/30	6
12.15～12.45	2	3	4	9/30	9
13.15～13.45	1	2	1	4/30	4
14.15～14.45	1	2	2	5/30	5
15.15～15.45	2	2	3	7/30	7
16.15～16.45	3	3	3	9/30	9
17.15～17.45	3	3	3	9/30	9
18.15～18.45	3	3	4	10/30	10
19.15～19.45	3	4	3	10/30	10
20.15～20.45	2	2	2	6/30	6
21.15～21.45	2	2	3	7/30	7
22.15～22.45	10	10	13	33/30	33
23.15～23.45	13	12	12	37/30	37
24.15～24.45	17	18	17	52/30	52
25.15～25.45	13	15	31	59/30	59
26.15～26.29	18/3	35	7/1	60/14	129
27.00～27.03	60/3			60/3	600
28.00～28.02	60/2			60/2	900



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
3.00 3.00	孔内載荷試験

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
4.00～4.85	4T-1	ⓣ	三軸
8.15～8.45	4P-1	⊖	細粒分含有率
9.15～9.45	4P-2	⊖	細粒分含有率
10.15～10.45	4P-3	⊖	細粒分含有率
11.15～11.45	4P-4	⊖	細粒分含有率
12.15～12.45	4P-5	⊖	細粒分含有率
15.15～15.45	4P-6	⊖	細粒分含有率
16.15～16.45	4P-7	⊖	細粒分含有率
17.15～17.45	4P-8	⊖	細粒分含有率
18.15～18.45	4P-9	⊖	細粒分含有率
19.15～19.45	4P-10	⊖	細粒分含有率

掘進月日: 12/4, 12/5, 12/6

ＮＯ．５

孔口標高＝設計ＧＬ－２．７３ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．２３ｍ＞

ボーリング名	No．5	調査位置	石川県輪島市河井町			北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所		調査期間	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 8日		東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師	現場代理人		コア鑑定者 吉岡昇一郎	ボーリング責任者	廣瀬靖彦
孔口標高	KBM -0.23m	角度 180° 上 90° 下 0° 0°	方向 北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配 鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種 試錐機 TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	30.32m				エンジン TF-90M	ポンプ	GP-3

▽設計GL(KBM+2,500)

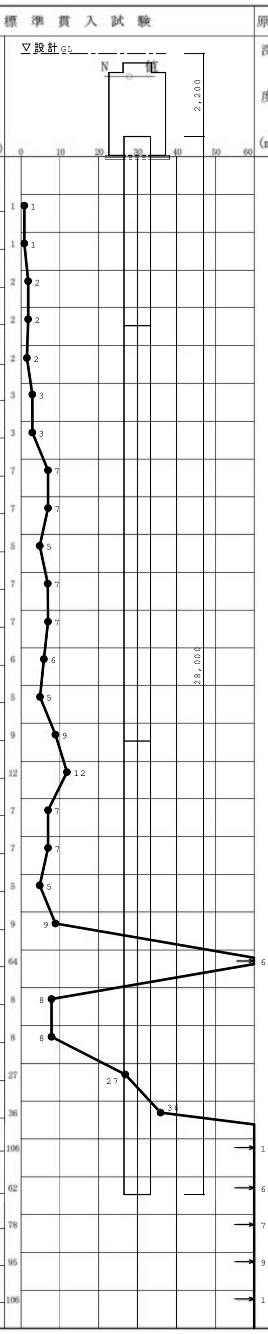
▽KBM-230

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-0.53	0.30	0.30					
-0.83	0.30	0.60	盛土・砂礫	褐灰			GL-0.05mまでアスファルト 含水小位 φ2～30mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスは粗中砂からなる コンクリート片を混入する
			盛土・礫混じり細中砂	褐灰			含水小位 粒子不均一 φ2～30mmの亜円～亜角礫を点在する
-7.73	6.90	7.50	シルト	暗灰		非常に軟らかい～軟らかい	含水中位 粘性中位 GL-5m以浅、植物片を点在する GL-5m以深、少量の腐植物や有機物を混入する GL-6m付近、少量の細砂を混在する
-14.03	6.30	13.80	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 所々、少量の腐植物を点在する 部分的にφ2～5mmの細礫を点在する
-15.03	1.00	14.80	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に少量の細砂を混入する
-18.83	3.80	18.60	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する 部分的にφ2～5mmの細礫を点在する GL-16.9～17.1m間、砂質シルトを挟在する GL-18m付近、シルト分多く砂質シルト状
-20.13	1.30	19.90	砂混じりシルト	暗灰		中位の	含水中位 粘性中位 全体に少量の細砂を混入する
-21.33	1.20	21.10	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する
-21.93	0.60	21.70	シルト混じり砂礫	暗灰	非常に密な		含水中～大位 φ2～40mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる
-24.03	2.10	23.80	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 全体にシルトを混入する
-27.03	3.00	26.80	シルト混じり砂礫	暗灰	中位の～非常に密な		含水中位 φ2～40mmの亜円～亜角礫を主体としマトリックスはシルト混じり細～中砂からなる
-27.93	0.90	27.70	シルト質細砂	緑灰	非常に密な		含水小～中位 粒子均一 全体にシルトを混入する
-30.55	2.62	30.32	強風化岩	灰～青灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する GL-29m以深、少量の細砂を混入する

孔内水位(m)／測定月日: 12/4 1.25

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15～1.45	1/30			1/30	1
2.15～2.45	1/30			1/30	1
3.15～3.45	1/15	1/15		2/30	2
4.15～4.45	1/15	1/15		2/30	2
5.15～5.50	1/20	1/15		2/35	2
6.15～6.45	1	1	1	3/30	3
7.15～7.45	1	1	1	3/30	3
8.15～8.45	2	2	3	7/30	7
9.15～9.45	2	2	3	7/30	7
10.15～10.45	1	2	2	5/30	5
11.15～11.45	2	2	3	7/30	7
12.15～12.45	2	2	3	7/30	7
13.15～13.45	2	2	2	6/30	6
14.15～14.45	1	2	2	5/30	5
15.15～15.45	2	3	4	9/30	9
16.15～16.45	3	4	5	12/30	12
17.15～17.45	2	2	3	7/30	7
18.15～18.45	2	2	3	7/30	7
19.15～19.45	1	2	2	5/30	5
20.15～20.45	3	3	3	9/30	9
21.15～21.43	18	10	32/8	60/28	64
22.15～22.45	2	3	3	8/30	8
23.15～23.45	3	2	3	8/30	8
24.15～24.45	10	9	8	27/30	27
25.15～25.45	10	11	15	36/30	36
26.15～26.32	18	42/7		60/17	106
27.15～27.44	12	19	29/9	60/29	62
28.15～28.38	22	27	11/3	60/23	78
29.15～29.34	26	34/9		60/19	95
30.15～30.32	33	27/7		60/17	106



試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
8.15～8.45	5P-1	⊖	細粒分含有率
9.15～9.45	5P-2	⊖	細粒分含有率
10.15～10.45	5P-3	⊖	細粒分含有率
11.15～11.45	5P-4	⊖	細粒分含有率
12.15～12.45	5P-5	⊖	細粒分含有率
13.15～13.45	5P-6	⊖	細粒分含有率
15.15～15.45	5P-7	⊖	細粒分含有率
16.15～16.45	5P-8	⊖	細粒分含有率
17.15～17.45	5P-9	⊖	細粒分含有率
18.15～18.45	5P-10	⊖	細粒分含有率
20.15～20.45	5P-11	⊖	細粒分含有率

掘進月日: 12/4, 12/5, 12/8

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.				設計	標題	縮尺	図番
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	・　・	地質調査図（３）		S－19

ＮＯ．６
孔口標高＝設計ＧＬ－２．６０ｍ
＜＝ＫＢＭ　－０．１０ｍ＞

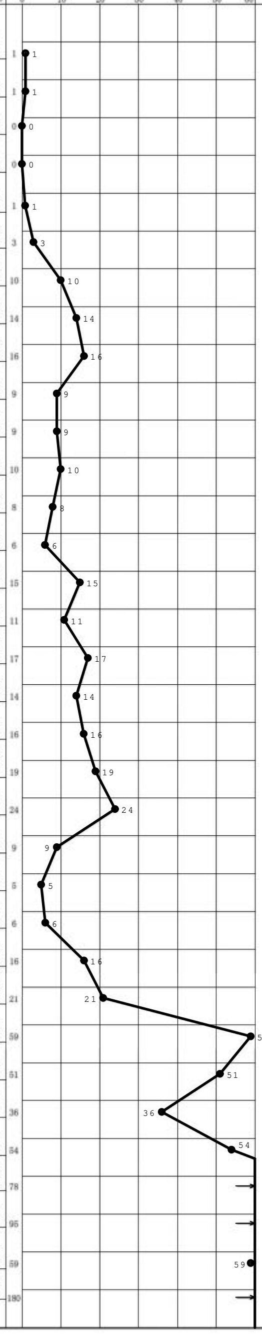
ボーリング名	No. 6	調査位置	石川県輪島市河井町			北緯	
発注機関	株式会社浦建築研究所	調査期間	令和 7年 12月 4日 ～ 7年 12月 8日			東経	
調査業者名	株式会社本久 電話（026-241-1151）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	吉岡昇一郎
						ボーリング責任者	足立悦朗
孔口標高	KBM -0.10m	角度	180° 上 下 90° 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°
総掘進長	34.25m						
使用機種	試錐機	TOHO DO-D	ハンマー落下用具	半自動落下装置			
	エンジン	TF-90	ポンプ	BG-3			

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
-1.10	1.00	1.00	盛土・砂質シルト	黄灰～黄褐～淡灰			GL-0.1mまで砕石 含水中位　粘性中位 不規則に細砂を混在する
-1.90	0.80	1.80	砂混じりシルト	灰		非常に軟らかい	含水中位　粘性小位 全体に少量の細砂を混入する
-6.20	4.30	6.10	シルト	灰～暗灰		非常に軟らかい	含水中位　粘性中位 上部に若干の細砂を混在する GL-3m以深、腐植物や有機物を混入する GL-3m付近、木片を点在する
-7.00	0.80	6.90	砂質シルト	暗灰	非常に緩い		含水中位　粘性中位 砂は細砂を混入する
-8.10	1.10	8.00	シルト混じり細砂	暗灰	中位の		含水中位　粒子不均一 所々、φ2mmの細礫を点在する 少量のシルトを混入する
-9.60	1.50	9.50	礫混じりシルト混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位　粒子不均一 φ2～50mmの亜円～亜角礫を混在する 全体に少量のシルトを混入する
-10.90	1.30	10.80	シルト質細中砂	暗灰	緩い		含水中位　粒子不均一 全体にシルトを混入する
-12.80	1.90	12.70	シルト質細砂	暗灰	緩い～中位の		含水中位　粒子均一 全体にシルト混在する
-15.10	2.30	15.00	砂質シルト	暗灰		硬い	含水中位　粘性中位 全体に細砂を混入する
-21.00	5.90	20.90	シルト混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 所々、φ2～20mmの亜円礫を点在する 全体に少量のシルトを混入する
-22.20	1.20	22.10	礫混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 φ2～50mmの亜円～亜角礫を点在する
-23.40	1.20	23.30	シルト質細砂	暗灰	緩い		含水中位 粒子均一 シルトを一様に混在する
-24.80	1.40	24.70	砂混じりシルト	暗灰		軟らかい～中位の	含水中位　粘性小位 全体にシルト質細砂との互層状を呈する
-26.90	2.10	26.80	礫混じり細中砂	暗灰	中位の		含水中位 粒子不均一 φ2～20mmの亜円～亜角礫を点在する
-30.10	3.20	30.00	砂礫	暗灰～灰	密な～非常に密な		含水中位 φ2～20mmの亜円～角礫を主体とし マトリックスは細～中砂からなる 最大礫径φ50mm程度 GL-28m以深、シルトを混在する GL-29m以深、逸水性が激しい
-34.35	4.25	34.25	強風化岩	緑灰～淡褐灰～灰～暗褐灰			泥岩の強風化岩よりなり、粘土状で採取され固結状を呈する 少量の有機物を混入する GL-31.3m付近、亜炭を挟む GL-32.5m以深、細砂を混在する

孔内水位(m)／測定月日：12/4　0.50

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15～1.45	1/30			1/30	1
2.15～2.45	1/30			1/30	1
3.00～3.45	ハンマー自沈			0/45	0
4.00～4.45	ハンマー自沈			0/45	0
5.15～5.50	1/35			1/35	1
6.15～6.45	1	1	1	3/30	3
7.15～7.45	3	4	3	10/30	10
8.15～8.45	5	4	5	14/30	14
9.15～9.45	5	6	5	16/30	16
10.15～10.45	3	3	3	9/30	9
11.15～11.45	2	3	4	9/30	9
12.15～12.45	3	3	4	10/30	10
13.15～13.45	2	3	3	8/30	8
14.15～14.45	2	2	2	6/30	6
15.15～15.45	3	5	7	15/30	15
16.15～16.45	3	4	4	11/30	11
17.15～17.45	5	6	6	17/30	17
18.15～18.45	4	5	5	14/30	14
19.15～19.45	5	5	6	16/30	16
20.15～20.45	6	6	7	19/30	19
21.15～21.45	7	8	9	24/30	24
22.15～22.45	3	3	3	9/30	9
23.15～23.45	2	2	1	5/30	5
24.15～24.45	2	2	2	6/30	6
25.15～25.45	4	5	7	16/30	16
26.15～26.45	6	7	8	21/30	21
27.15～27.45	12	16	31	59/30	59
28.15～28.45	21	17	13	51/30	51
29.15～29.45	10	12	14	36/30	36
30.15～30.45	7	21	26	54/30	54
31.15～31.38	18	32	10/3	60/23	78
32.15～32.34	22	38/9		60/19	95
33.15～33.45	15	20	24	59/30	59
34.15～34.25	60			60/10	180

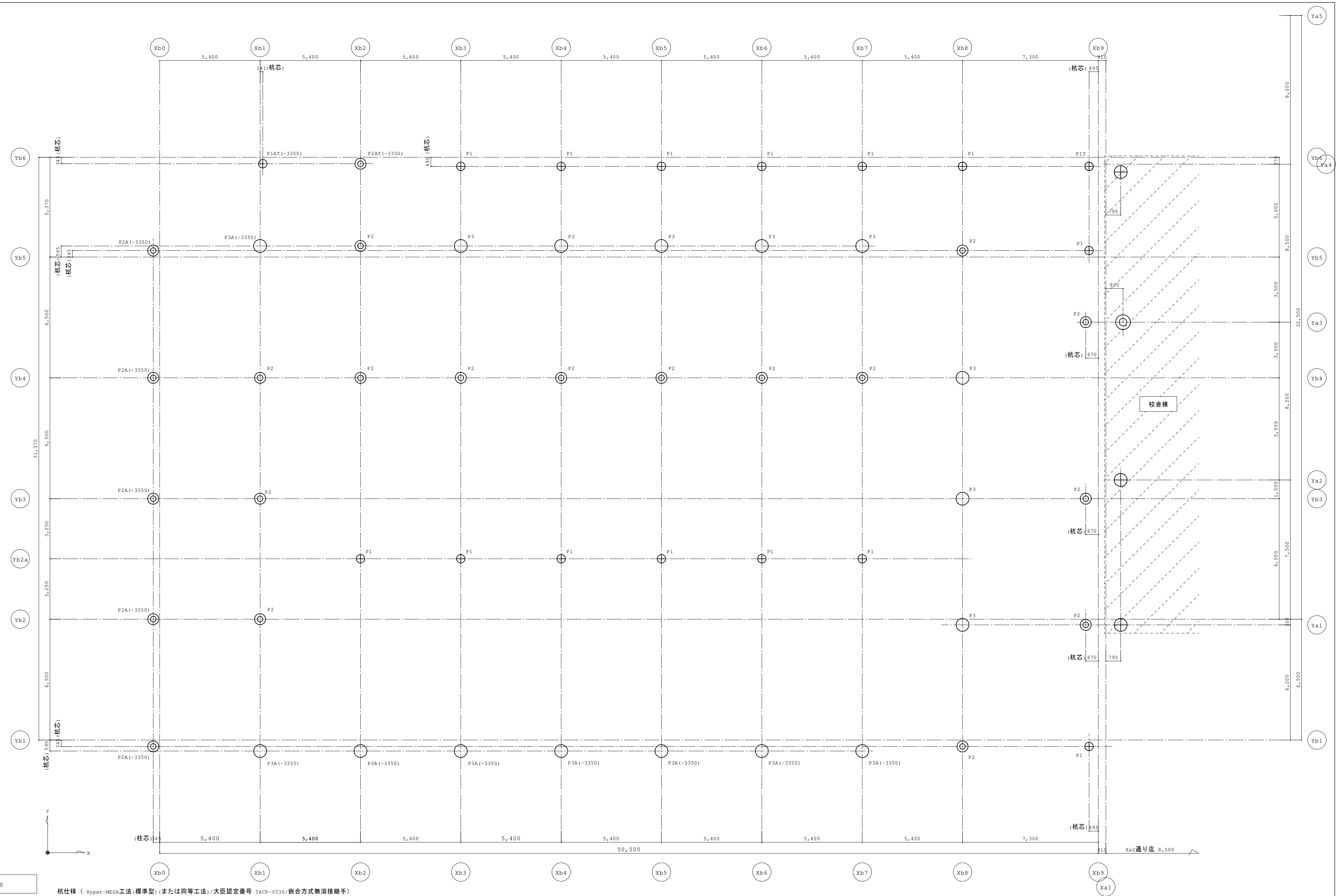


深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験
6.15～6.45	6P-1	⊝	細粒分含有率
7.15～7.45	6P-2	⊝	細粒分含有率
8.15～8.45	6P-3	⊝	細粒分含有率
9.15～9.45	6P-4	⊝	細粒分含有率
10.15～10.45	6P-5	⊝	細粒分含有率
11.15～11.45	6P-6	⊝	細粒分含有率
12.15～12.45	6P-7	⊝	細粒分含有率
15.15～15.45	6P-8	⊝	細粒分含有率
16.15～16.45	6P-9	⊝	細粒分含有率
17.15～17.45	6P-10	⊝	細粒分含有率
18.15～18.45	6P-11	⊝	細粒分含有率
19.15～19.45	6P-12	⊝	細粒分含有率
20.15～20.45	6P-13	⊝	細粒分含有率

掘進月日：12/4（～20.90m）、12/5（～32.3m）、12/8（～34.25m）

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	地質調査図（４）	縮尺		図番	S－20



杭伏図	1/100

特記無き限り
1.通り芯＝杭芯
2.杭頭天端＝設計GL-2,000
（　）内寸法は設計GLからのレベルを示す。

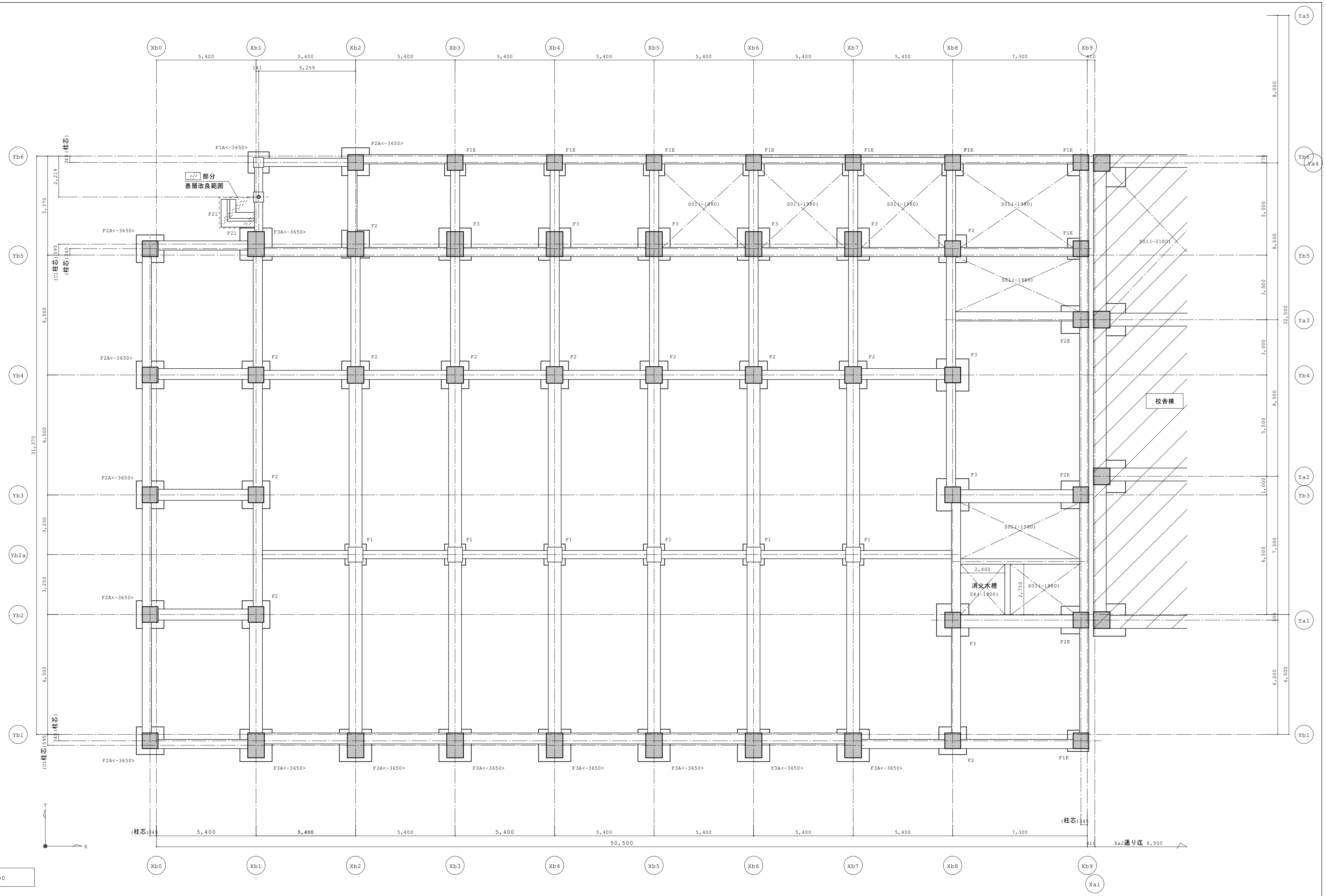
杭仕様（ Hyper-MEGA工法(標準型)(または同等工法)/大臣認定番号 TACP-0530/嵌合方式無溶接継手）

符　号	記　号	杭天端 設計GL-(m)	杭長(m)	杭径(杭種)/長さ			長期支持力 (kN)	本数
				上杭	中杭	下杭		
P1	⊕	2,000	28.0	HiSC105 I (t=9)450φ/L=5.0m	PHC85(C種)450φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)450-600φ/L=12.0m	1,240	14
P1T	⊕	2,000	28.0	HiSC105 I (t=9)450φ/L=5.0m	PHC85(C種/T100)450φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種/T100)450-600φ/L=12.0m	1,240	1
P1AT	⊕	3,350	27.0	HiSC105 I (t=12)450φ/L=5.0m	PHC85(C種/T100)450φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種/T100)450-600φ/L=12.0m	1,240	1
P2	◎	2,000	28.0	HiSC105 I (t=9)600φ/L=5.0m	PHC85(B種)600φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)600-800φ/L=12.0m	2,410	15
P2A	◎	3,350	27.0	HiSC105 I (t=9)600φ/L=5.0m	PHC85(B種)600φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種)600-800φ/L=12.0m	2,410	5
P2AT	◎	3,350	27.0	HiSC105 I (t=12)600φ/L=5.0m	PHC85(B種/T100)600φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種/T100)600-800φ/L=12.0m	2,410	1

符　号	記　号	杭天端 設計GL-(m)	杭長(m)	杭径(杭種)/長さ			長期支持力 (kN)	本数
				上杭	中杭	下杭		
P3	○	2,000	28.0	HiSC105 I (t=6)700φ/L=5.0m	PHC85(A種)700φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種)700-900φ/L=12.0m	3,760	8
P3A	○	3,350	27.0	HiSC105 I (t=6)700φ/L=5.0m	PHC85(A種)700φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種)700-900φ/L=12.0m	3,840	8

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 杭伏図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S－21



基礎伏図 1/100

特記無き限り

1.通り芯＝基礎芯

2.☒部分はピットを示す。

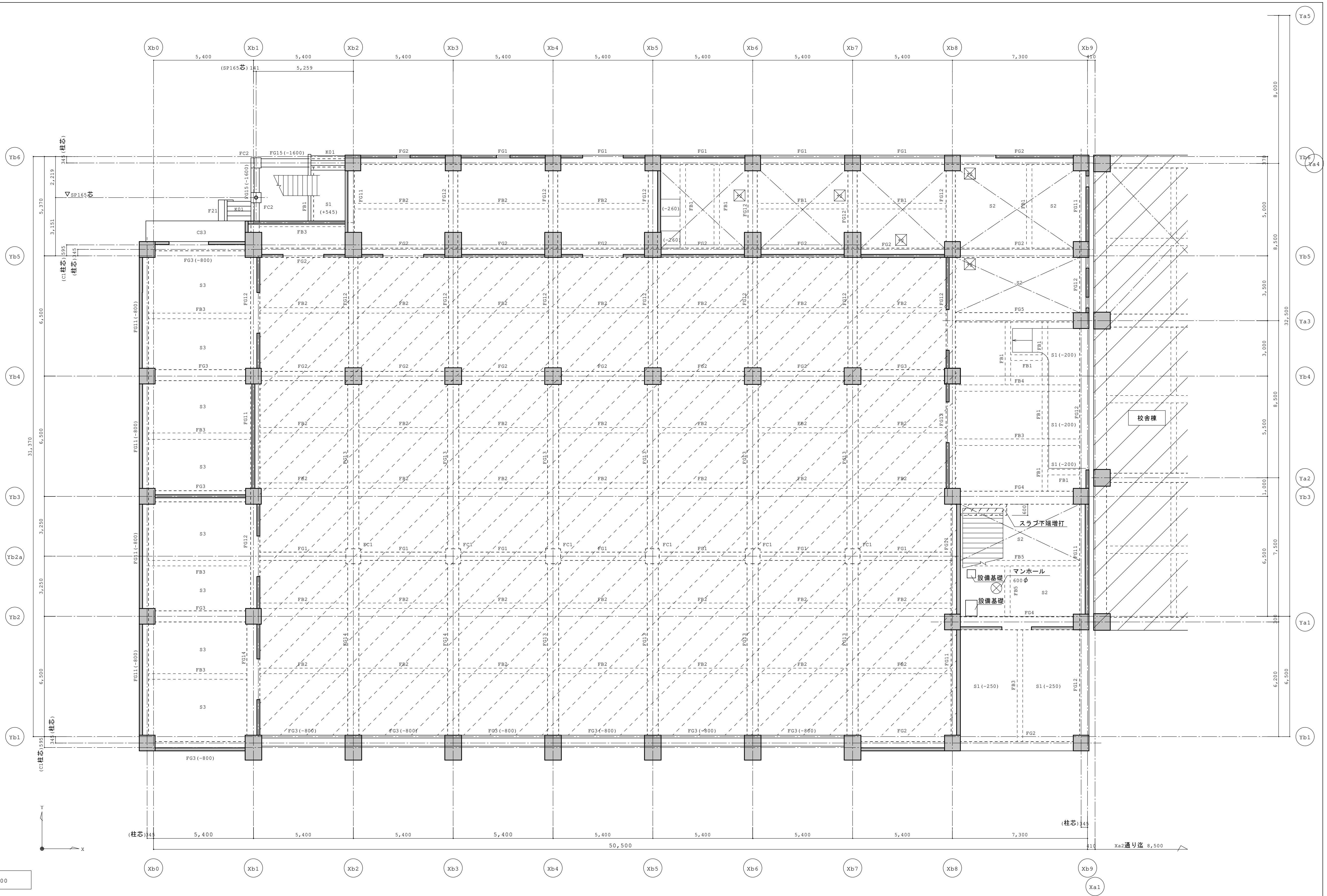
3.（　）内寸法は1FLからのレベルを示す。

4.フーチング下端レベルは設計GL-2,300

<　>内寸法は設計GLからのレベルを示す。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280
2026 **年** 03 **月**
中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）
一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所
設計　・　・
標題　基礎伏図
縮尺　A1:1/100　A3:1/200
図番　S — 22



1階床梁伏図　1/100

特記無き限り

1.通り芯＝柱芯

2.基礎梁天端＝設計GL-200(1FL-400)

FB梁天端はスラブ合せとする。

3.スラブは S1(1FL-35)

（ ）内寸法は1FLからのレベルを示す。

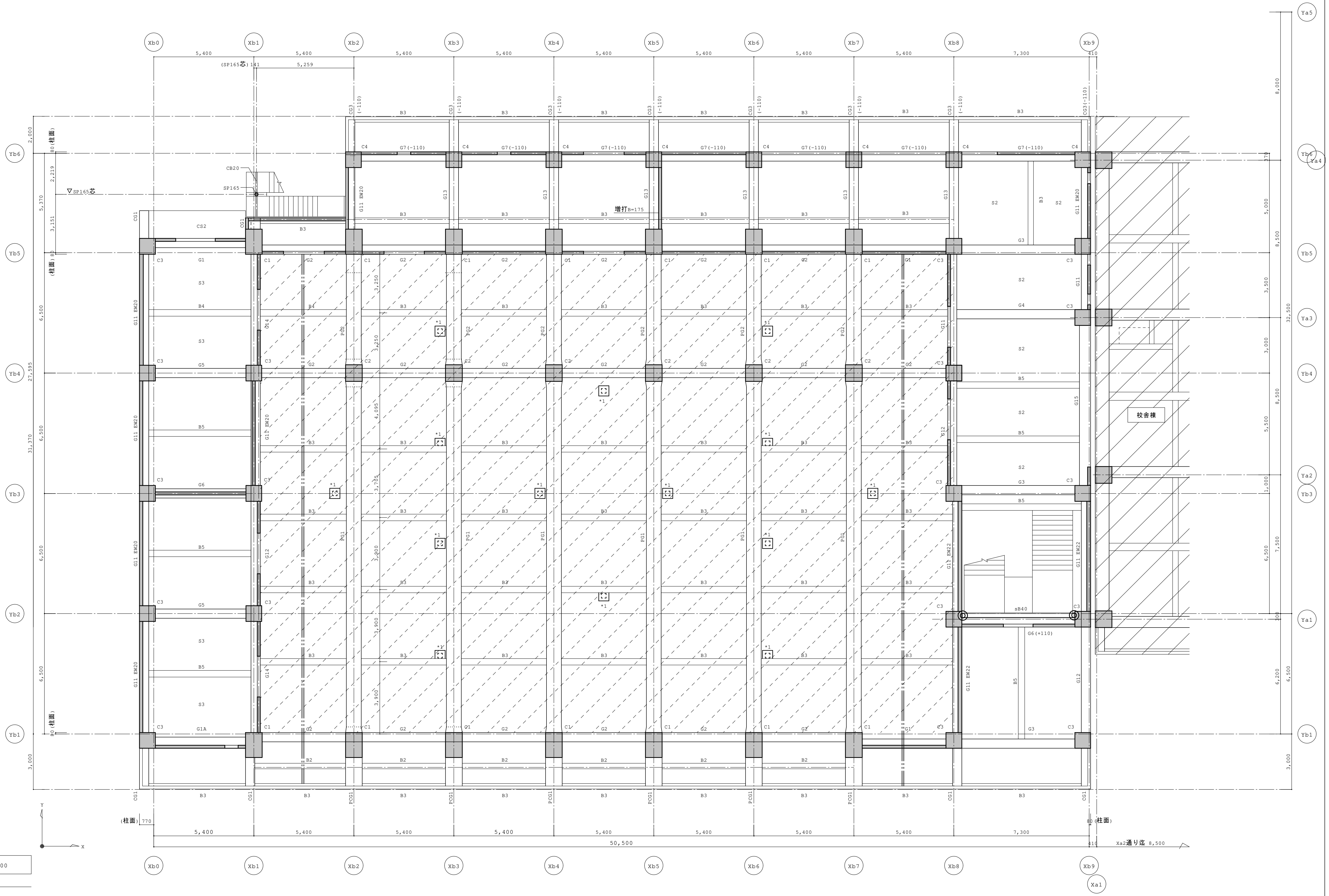
▨ 部分スラブ天端＝1FL-65

☒ 部分はピットを示す。

*2部分は床下点検口を示す。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	1階柱壁1階床梁伏図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S－23



2階床梁伏図　1/100

特記無き限り

1.壁は W16

2.スラブは S1(2FL-35)

（　）内寸法は2FLからのレベルを示す。

G梁天端＝2FL-65、B梁天端はスラブ合せとする。

▨ 部分スラブ天端＝2FL-65

3.═══ はスラブスリットを示す。

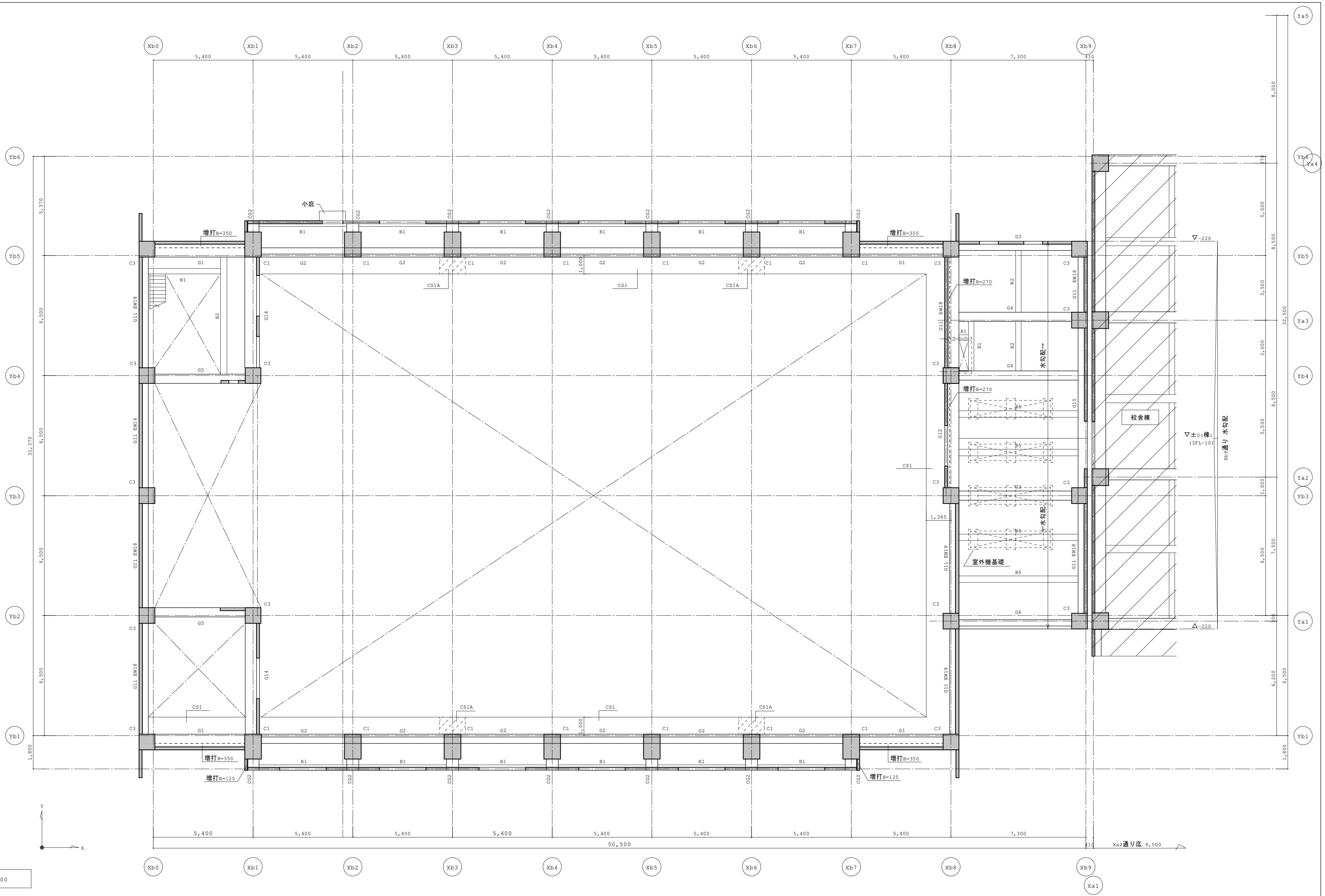
4.構造スリットは軸組図による。

5.*1印はポール支柱基礎位置を示す。

6.◎印は鉄骨とRC取合いを示す。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.							
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計　・　・	標題　1階柱壁2階床梁伏図	縮尺　A1:1/100 A3:1/200	図番　S－24



3階床梁伏図　1/100

特記無き限り

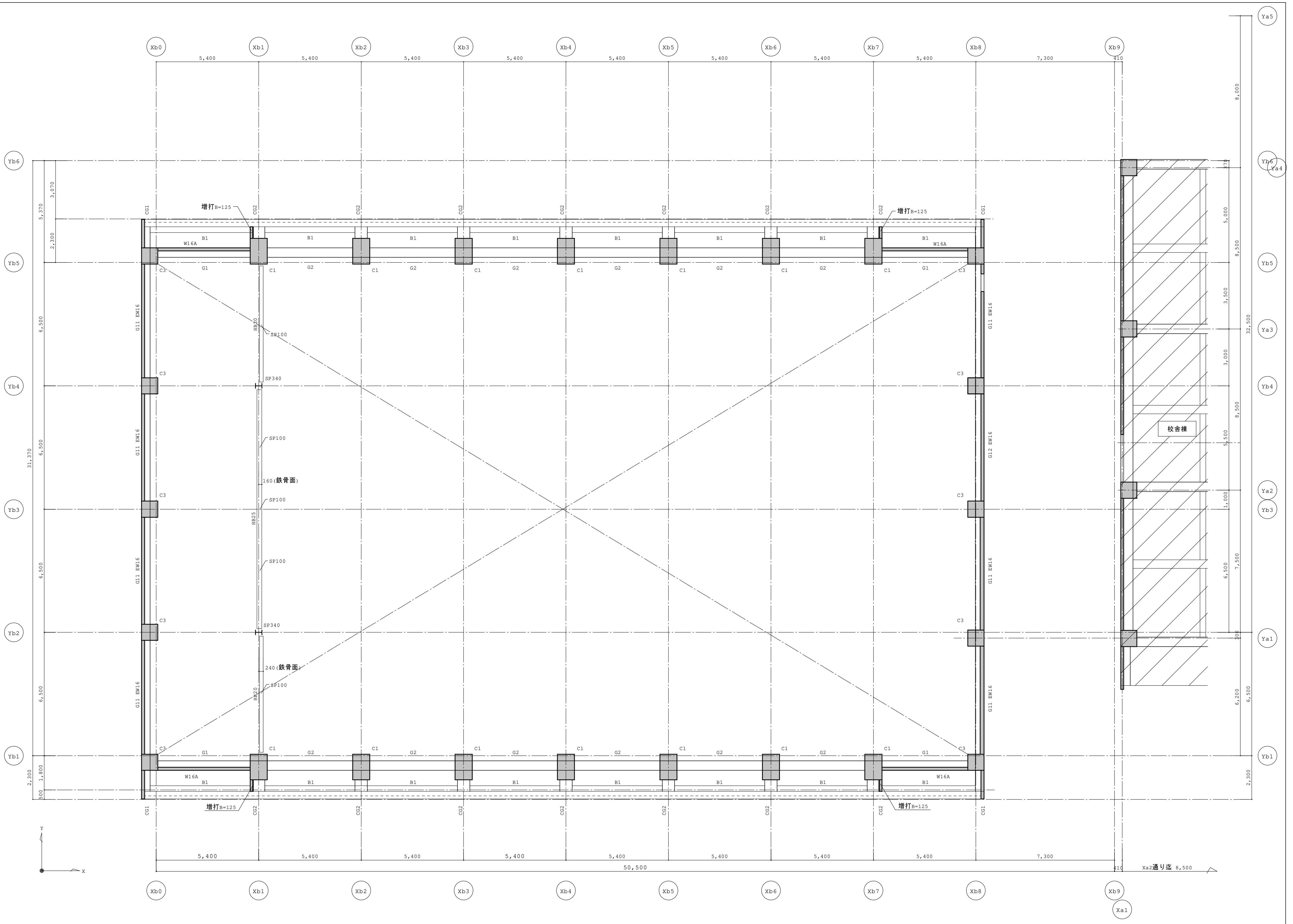
1.壁は W16

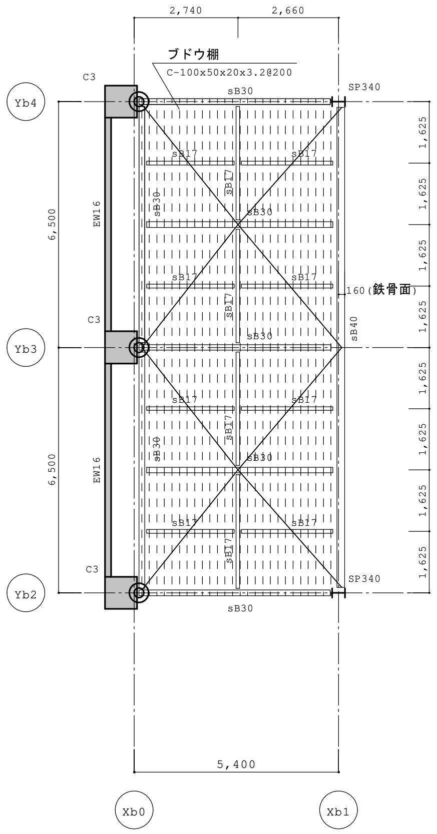
2.スラブは S1

3.構造スリットは軸組図による。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 2階柱壁3階床梁伏図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S − 25





ブドウ棚梁伏図　1/100

特記無き限り

1.水平ブレース M30

R階床梁伏図　1/100

特記無き限り

1.壁は W16

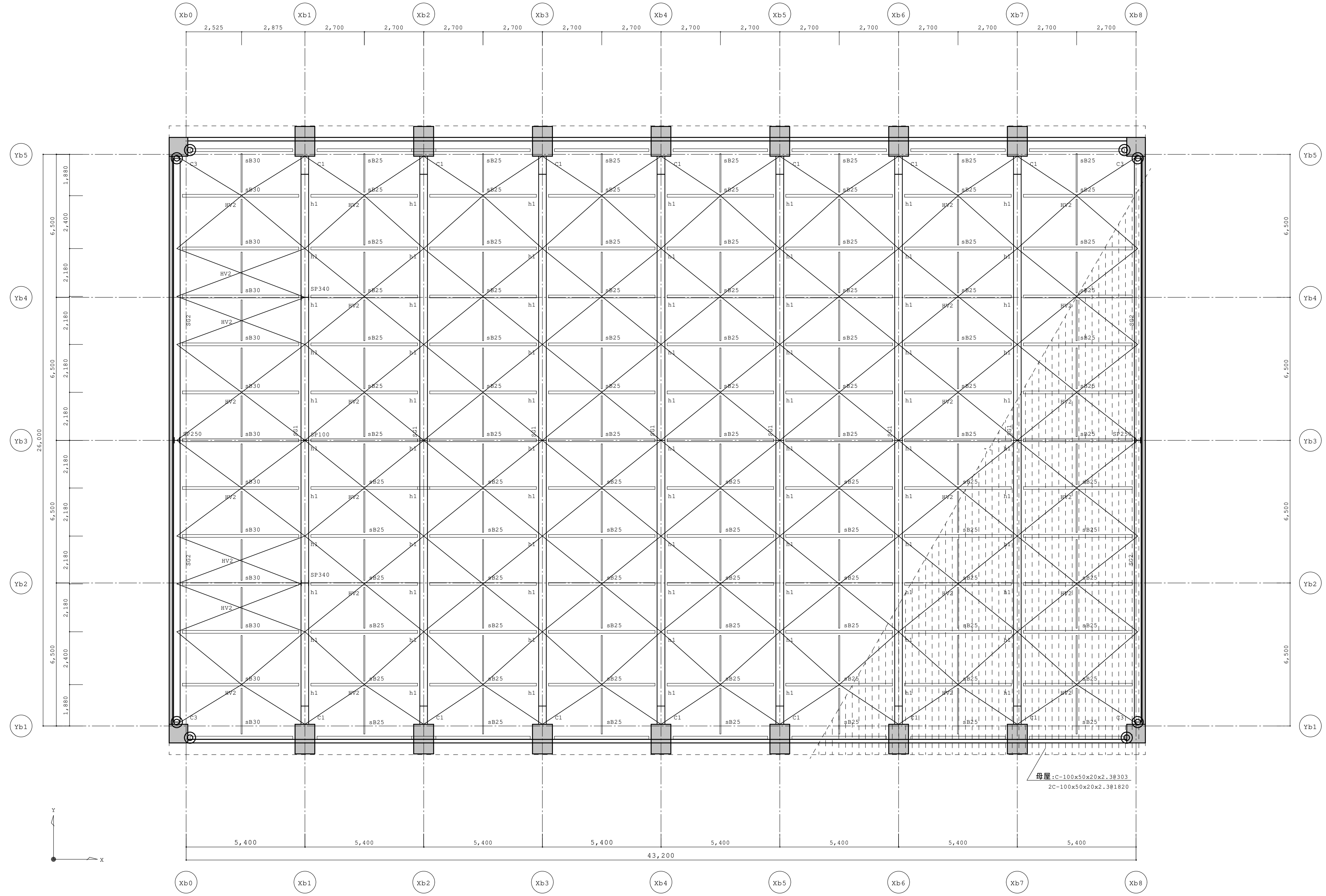
2.スラブは S1

3.構造スリットは軸組図による。

4.◎印は鉄骨とRC取合いを示す。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.											
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	3階柱壁R階床梁伏図/ブドウ棚梁伏図	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S ー 26



屋根梁伏図	1/100

特記無き限り

1.水平ブレース HV1

2.壁は W16

3.梁は sb1

4.母屋 C-100x50x20x2.3@303

2C-100x50x20x2.3@1820

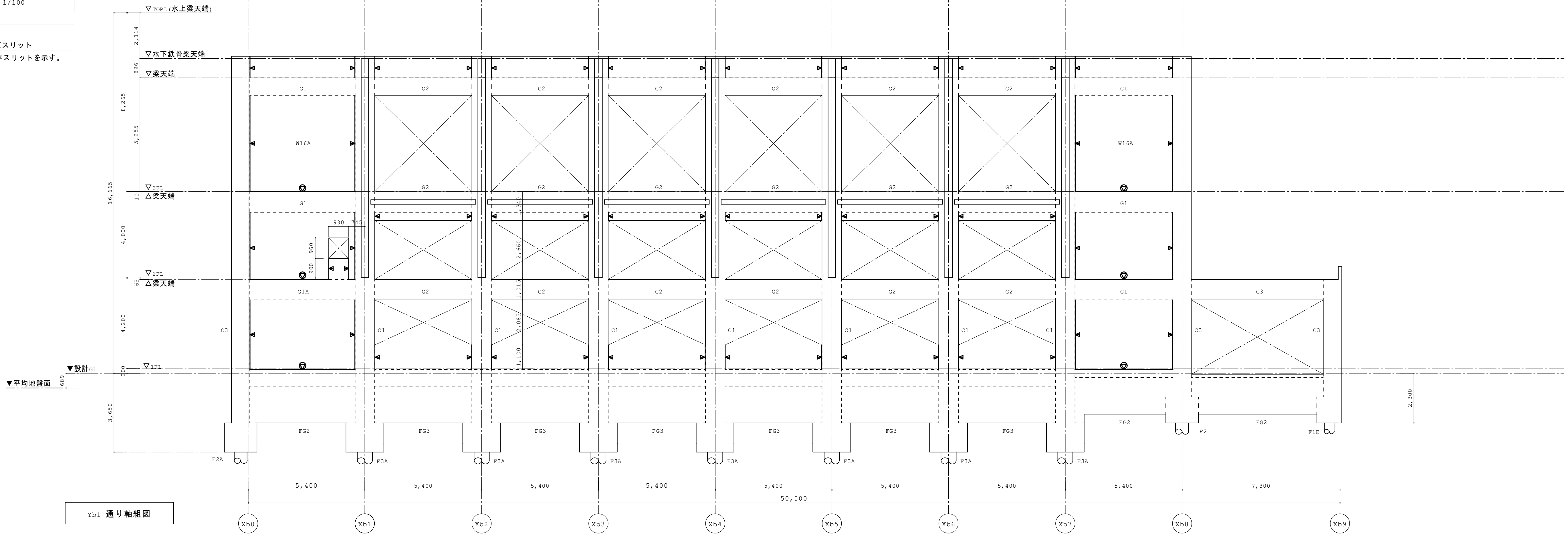
5.構造スリットは軸組図による

6.◎印は鉄骨とRC取合いを示す。

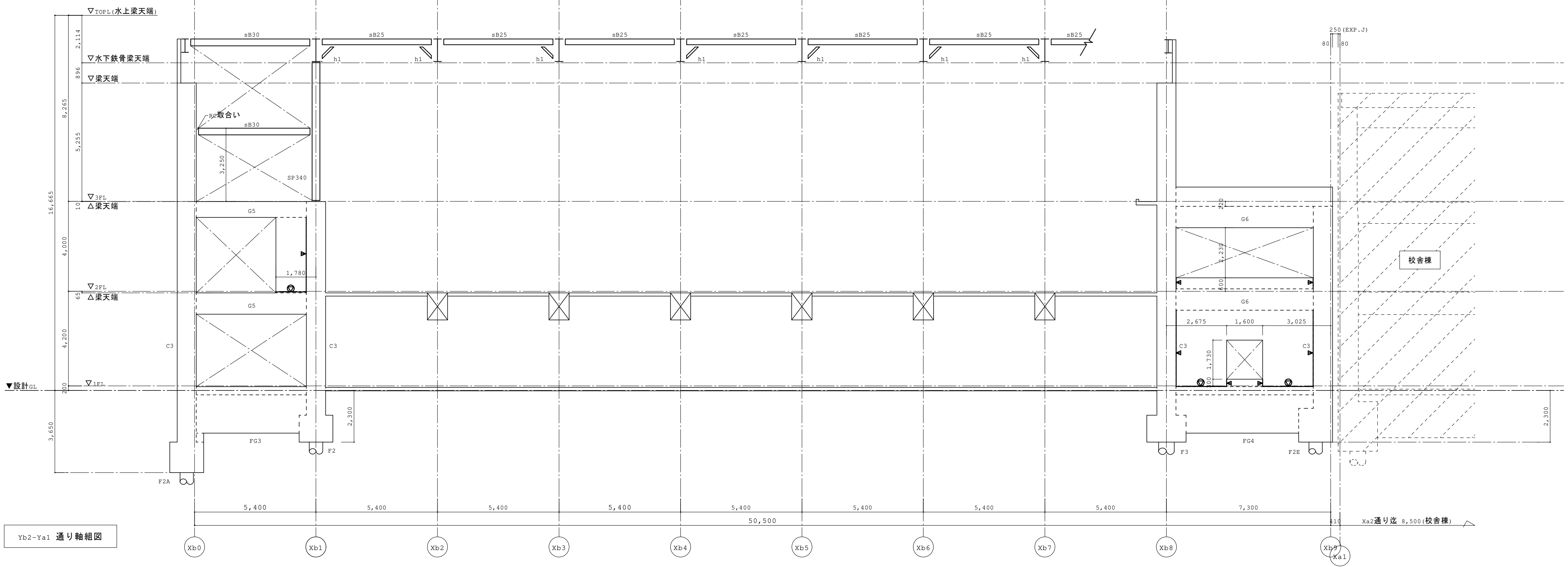
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社 浦建築研究所	設計	・ ・	標題	屋根梁伏図	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番 S－27

軸組図(1)　　1/100
特記無き限り
1.壁はW16
2.構造スリット　◁印は鉛直スリット
▽印は水平スリットを示す。



Yb1 通り軸組図



Yb2-Ya1 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（1）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S ― 28

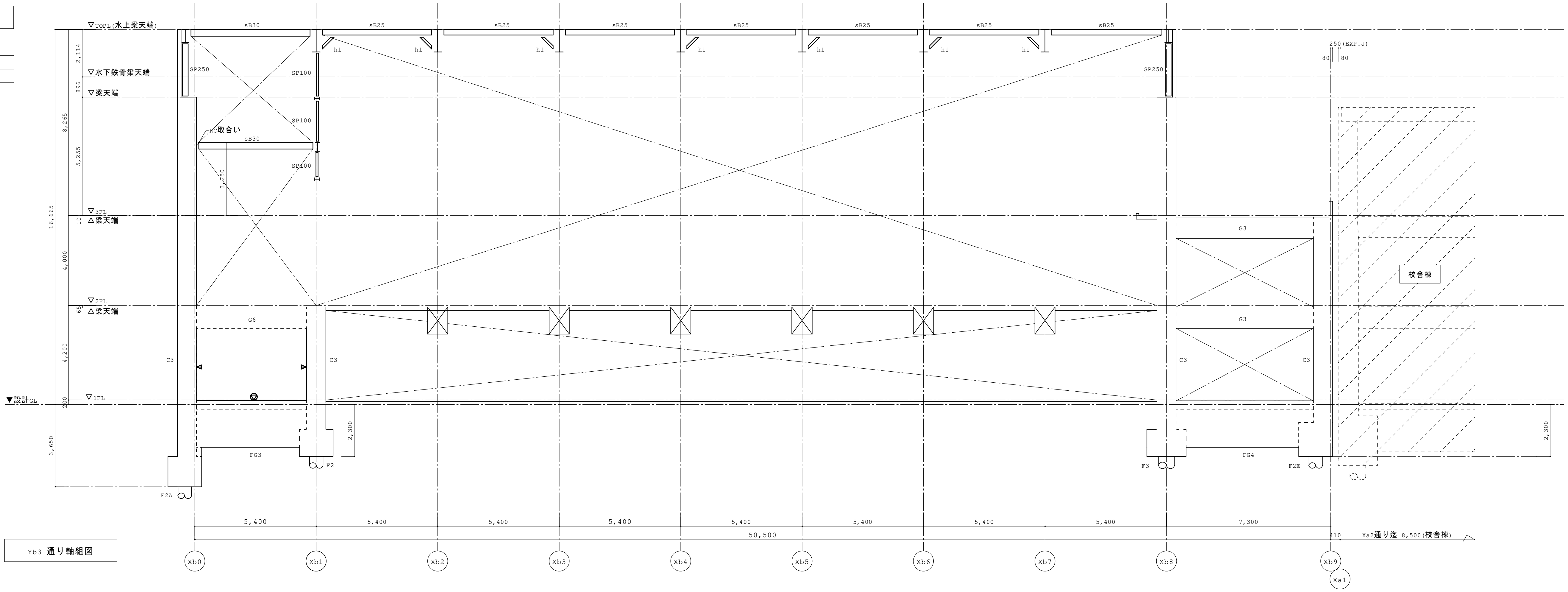
軸組図(2)　1/100

特記無き限り

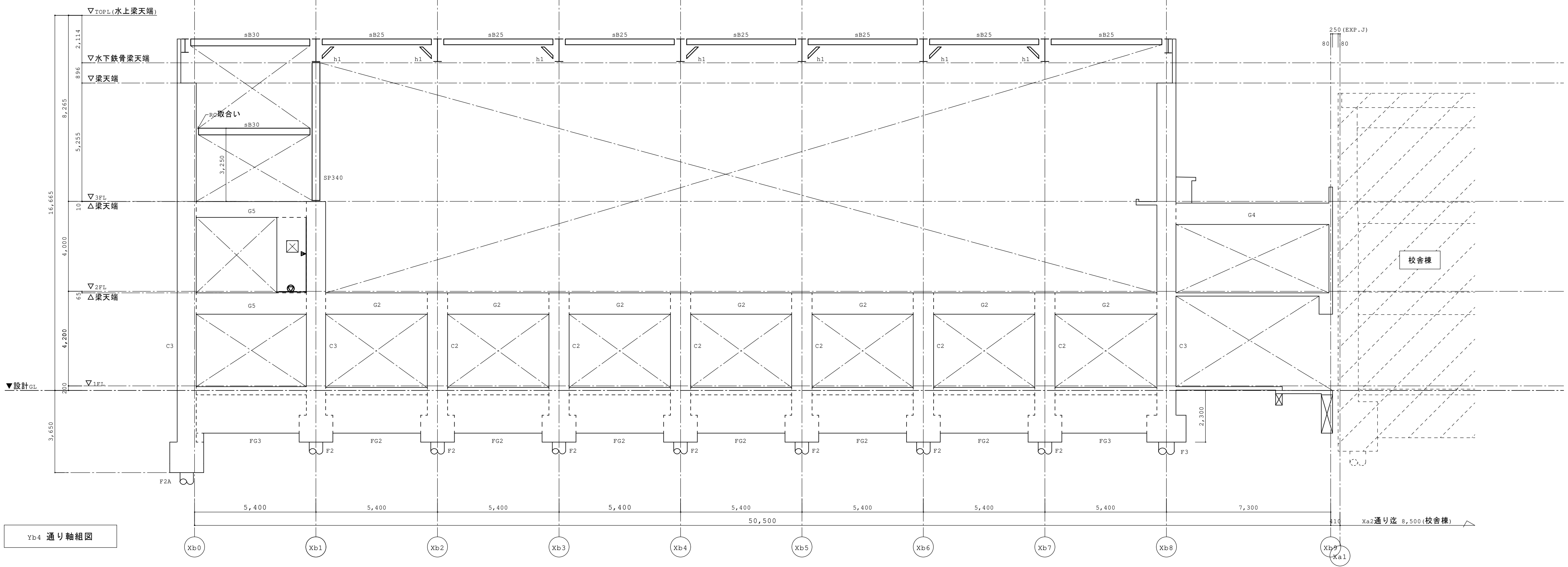
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

▽印は水平スリットを示す。



Yb3 通り軸組図



Yb4 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（2）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S－29

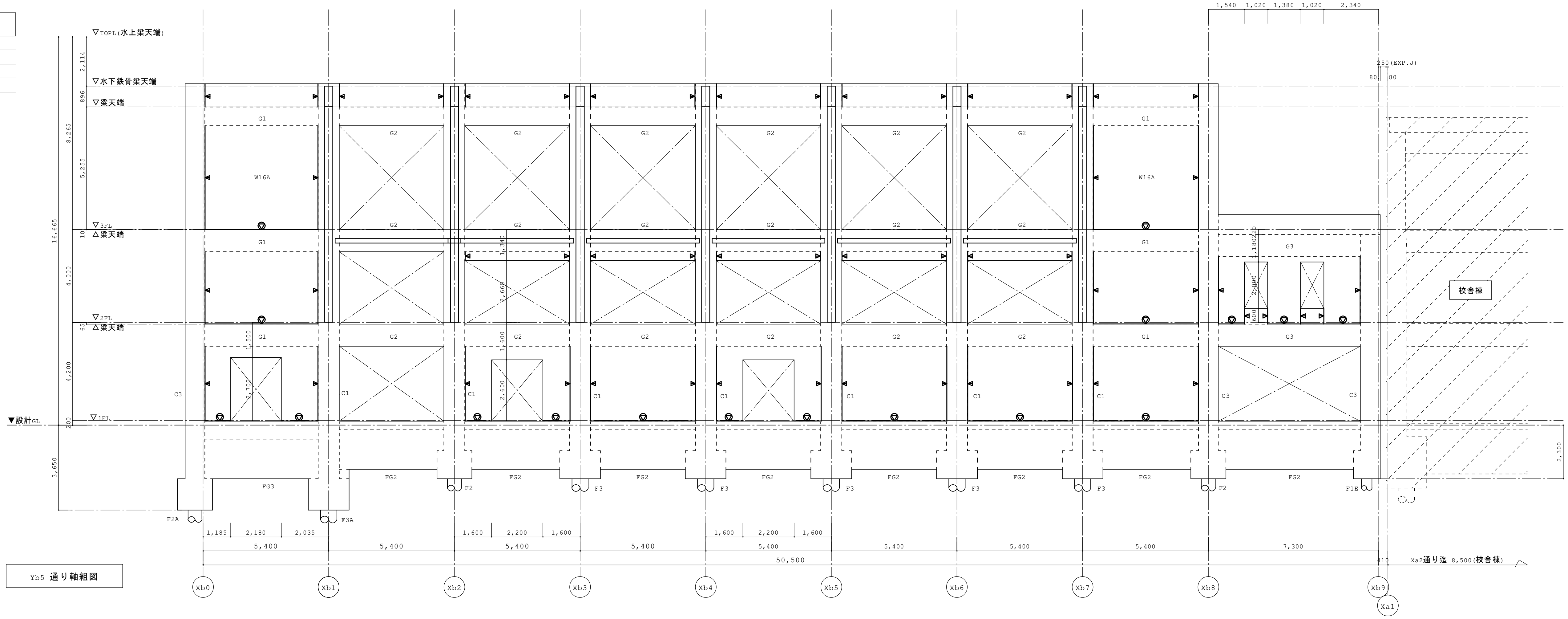
軸組図(3)　1/100

特記無き限り

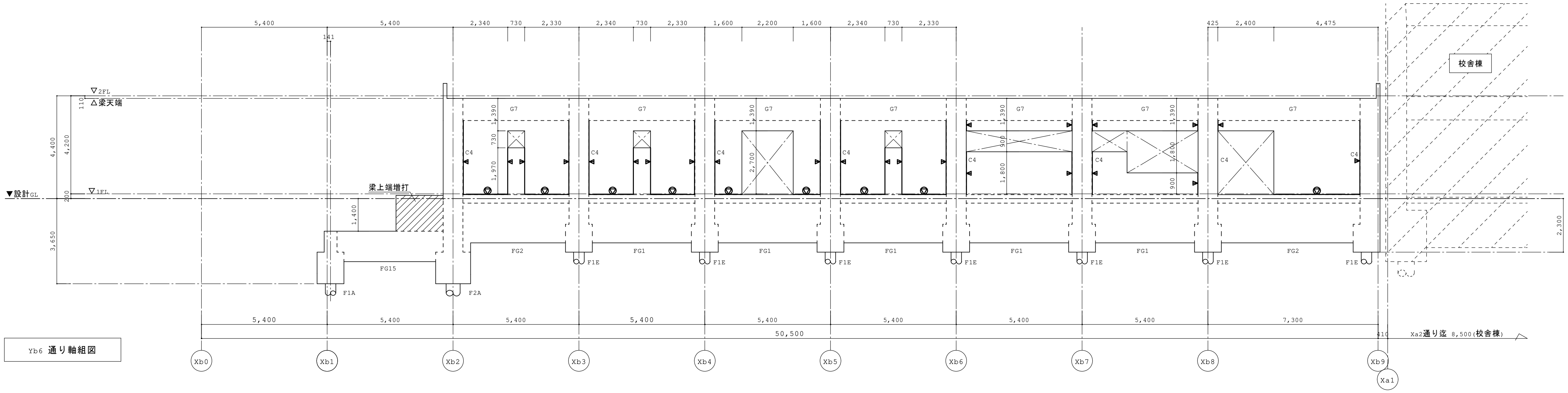
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

　　　　　　　　▽印は水平スリットを示す。



Yb5 通り軸組図



Yb6 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（3）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S－30

軸組図(4)　1/100

特記無き限り

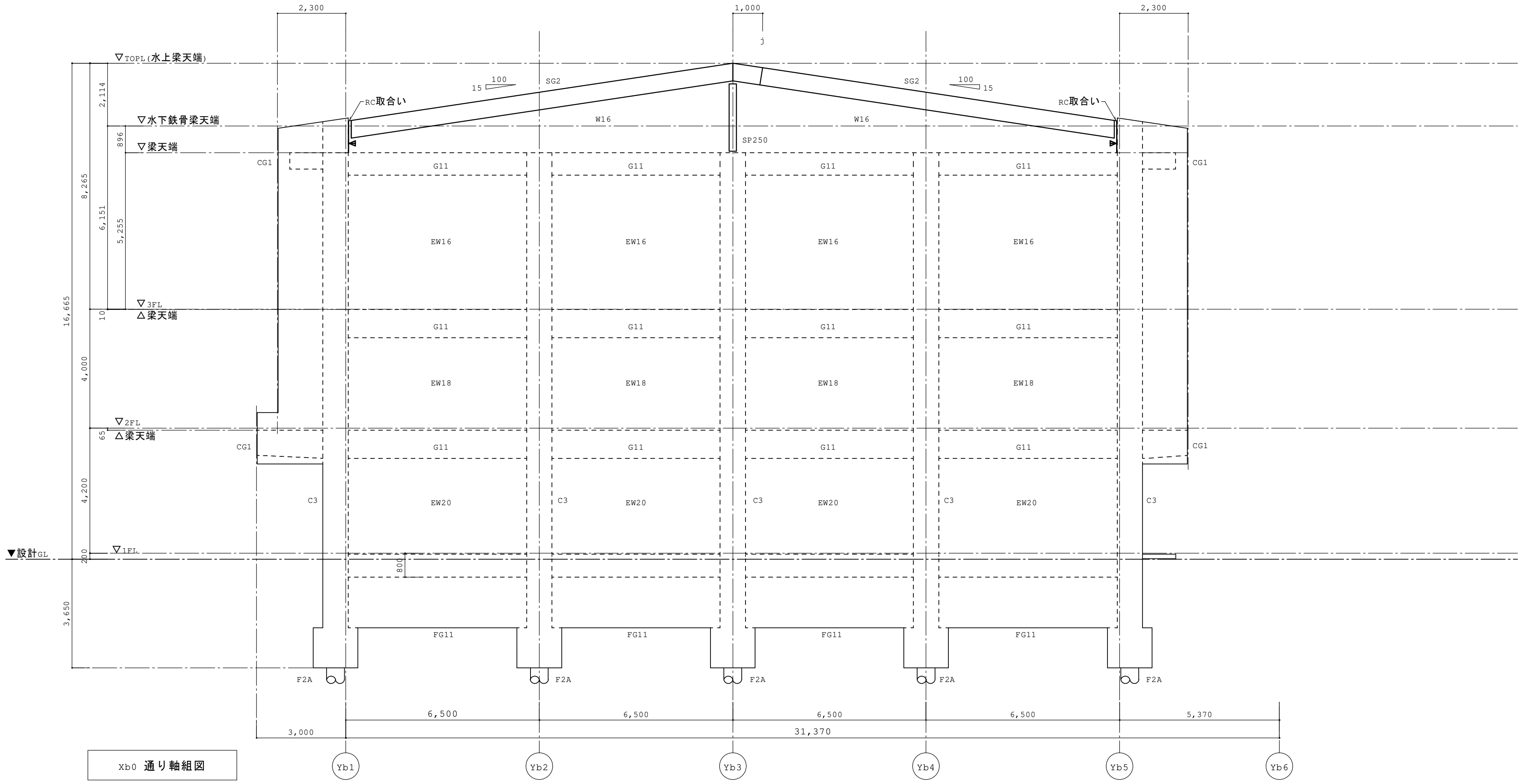
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

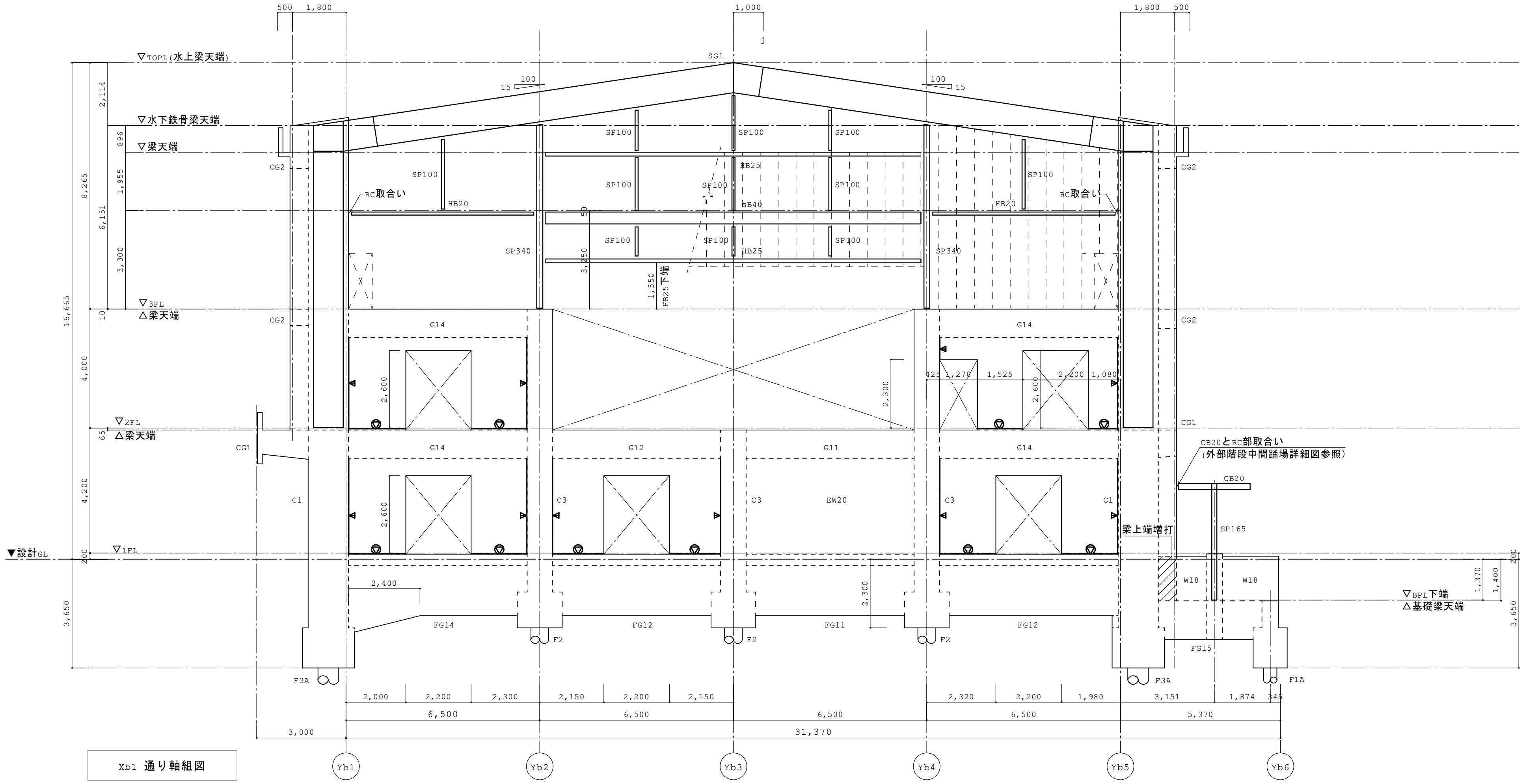
　　　　　　　　▽印は水平スリットを示す。

3.大梁ジョイント位置 柱芯 L=1500

「j」はジョイント位置を示す。



Xb0 通り軸組図



Xb1 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.						
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 軸組図（4）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200

図番 S－31

軸組図(5)　1/100

特記無き限り

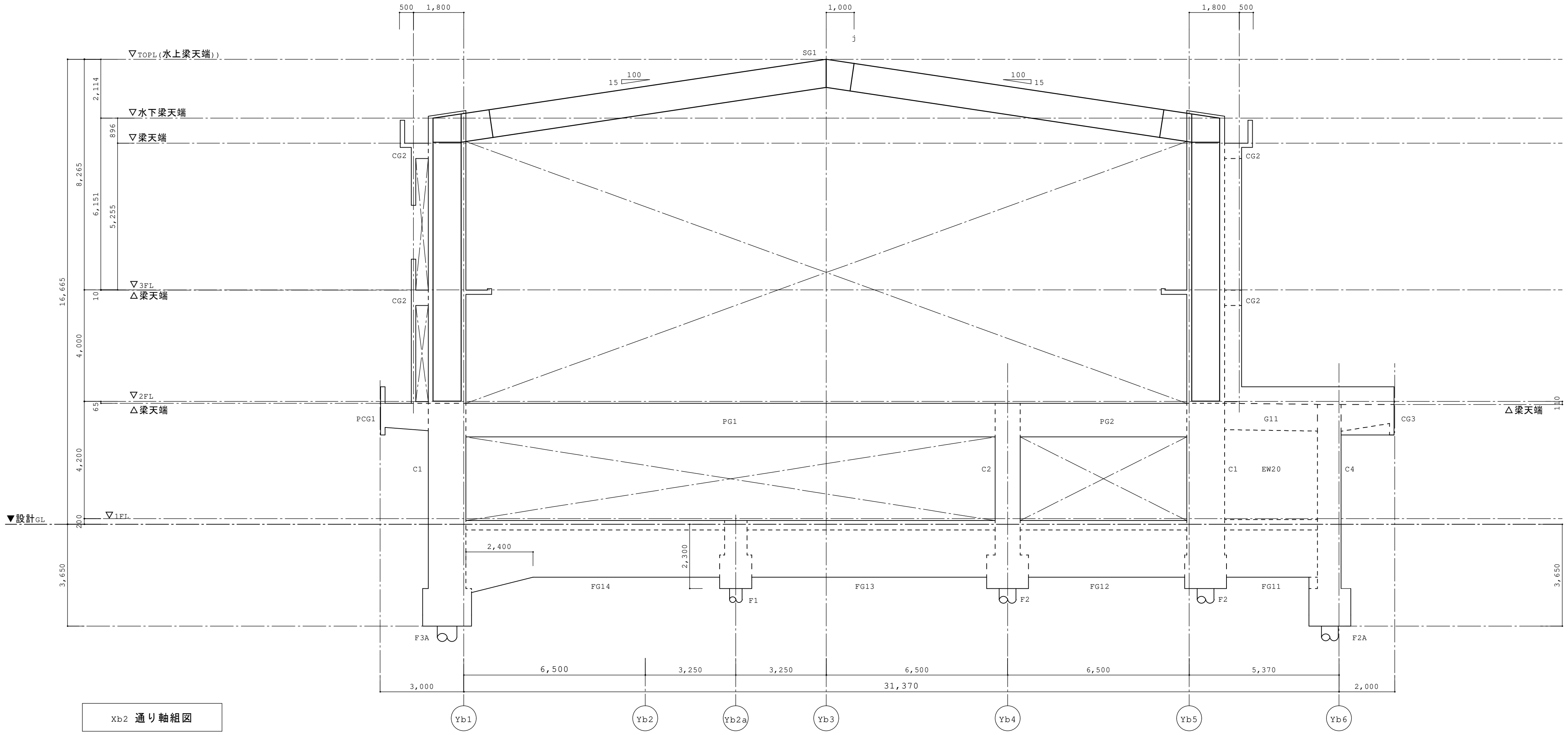
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

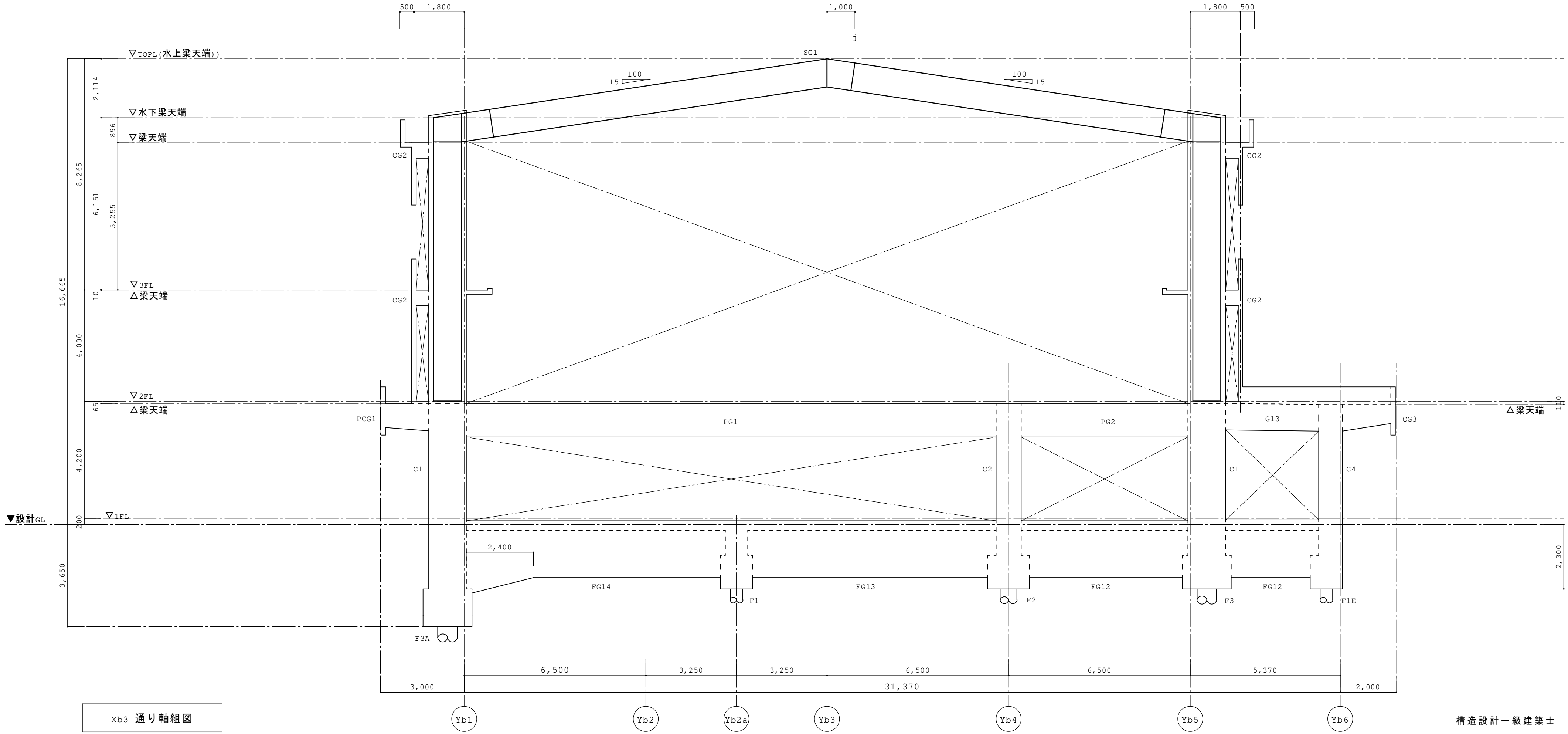
　　　　　　　　Ⓥ印は水平スリットを示す。

3.大梁ジョイント位置 柱芯 L=1500

「j」はジョイント位置を示す。



Xb2 通り軸組図



Xb3 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	標題 軸組図（5）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S — 32

軸組図(6)　1/100

特記無き限り

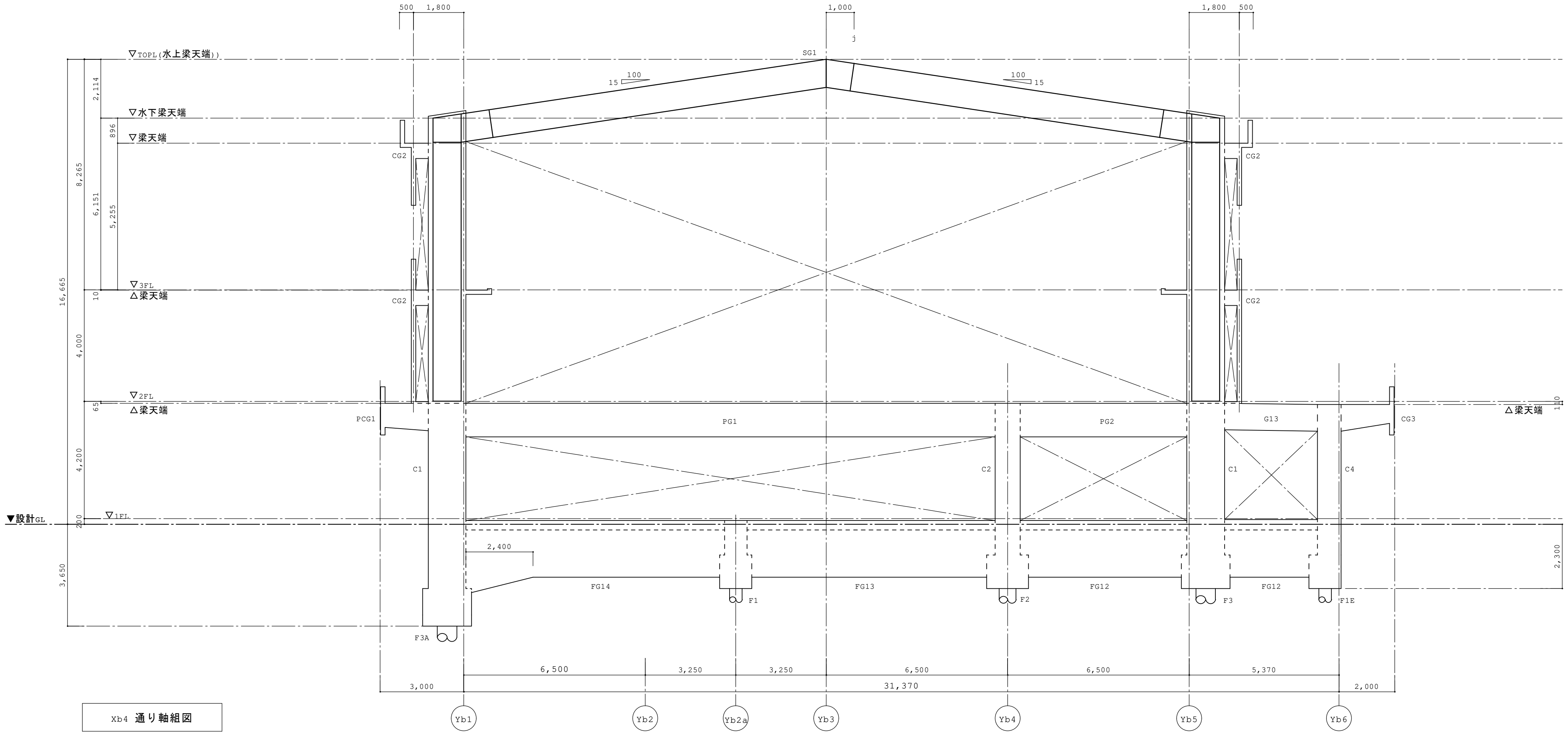
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

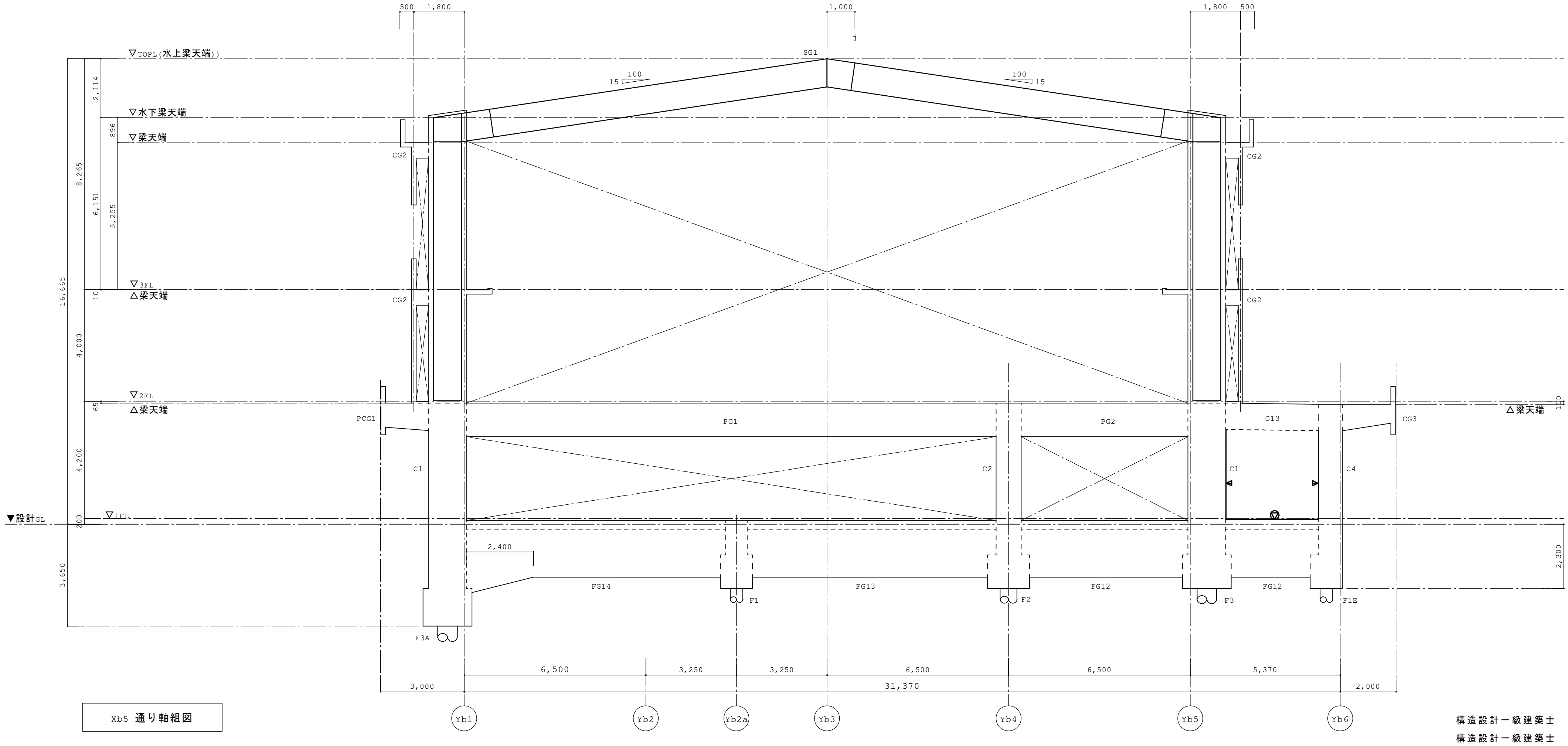
ⓥ印は水平スリットを示す。

3.大梁ジョイント位置 柱芯 L=1500

「j」はジョイント位置を示す。



Xb4 通り軸組図



Xb5 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（6）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S － 33

軸組図(7)　1/100

特記無き限り

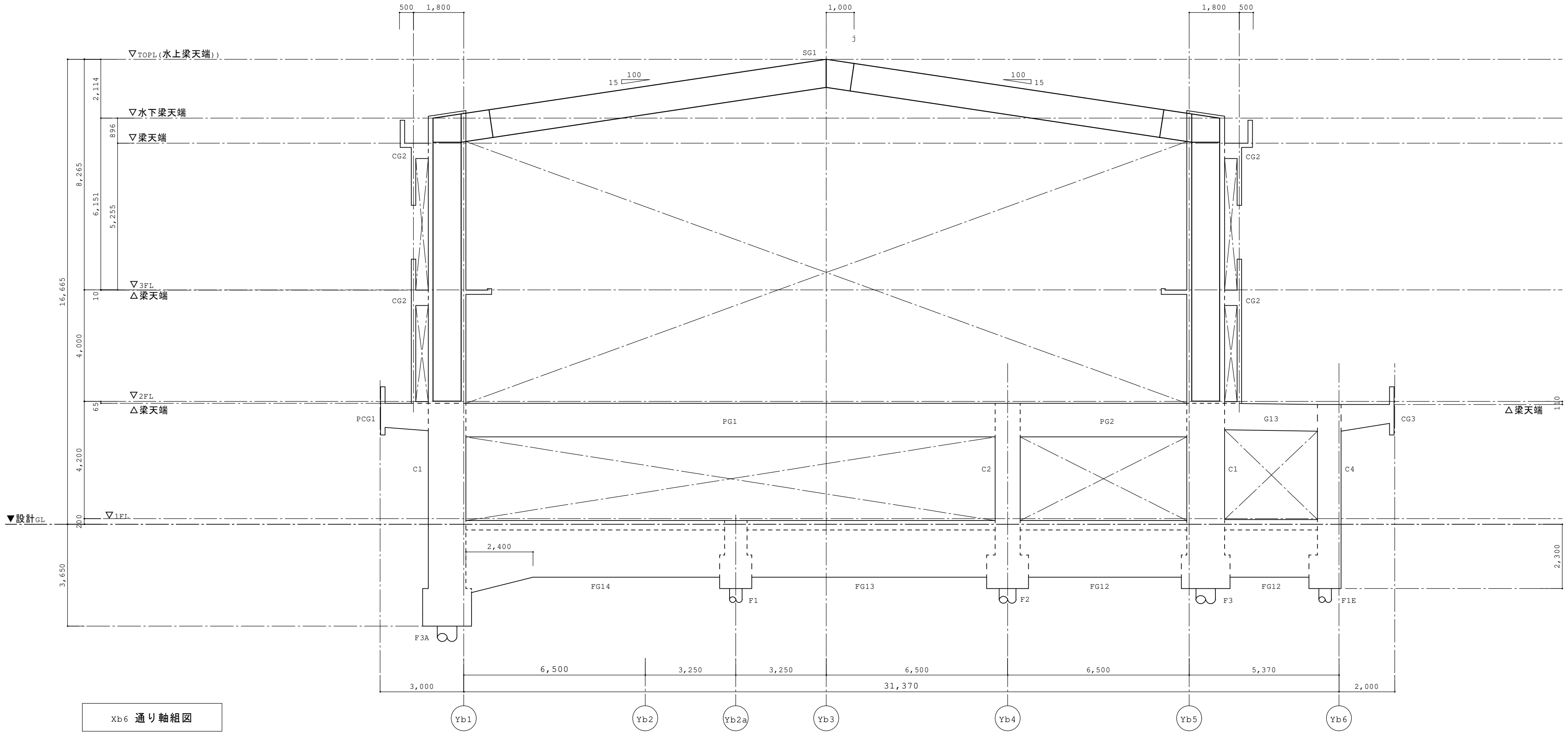
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

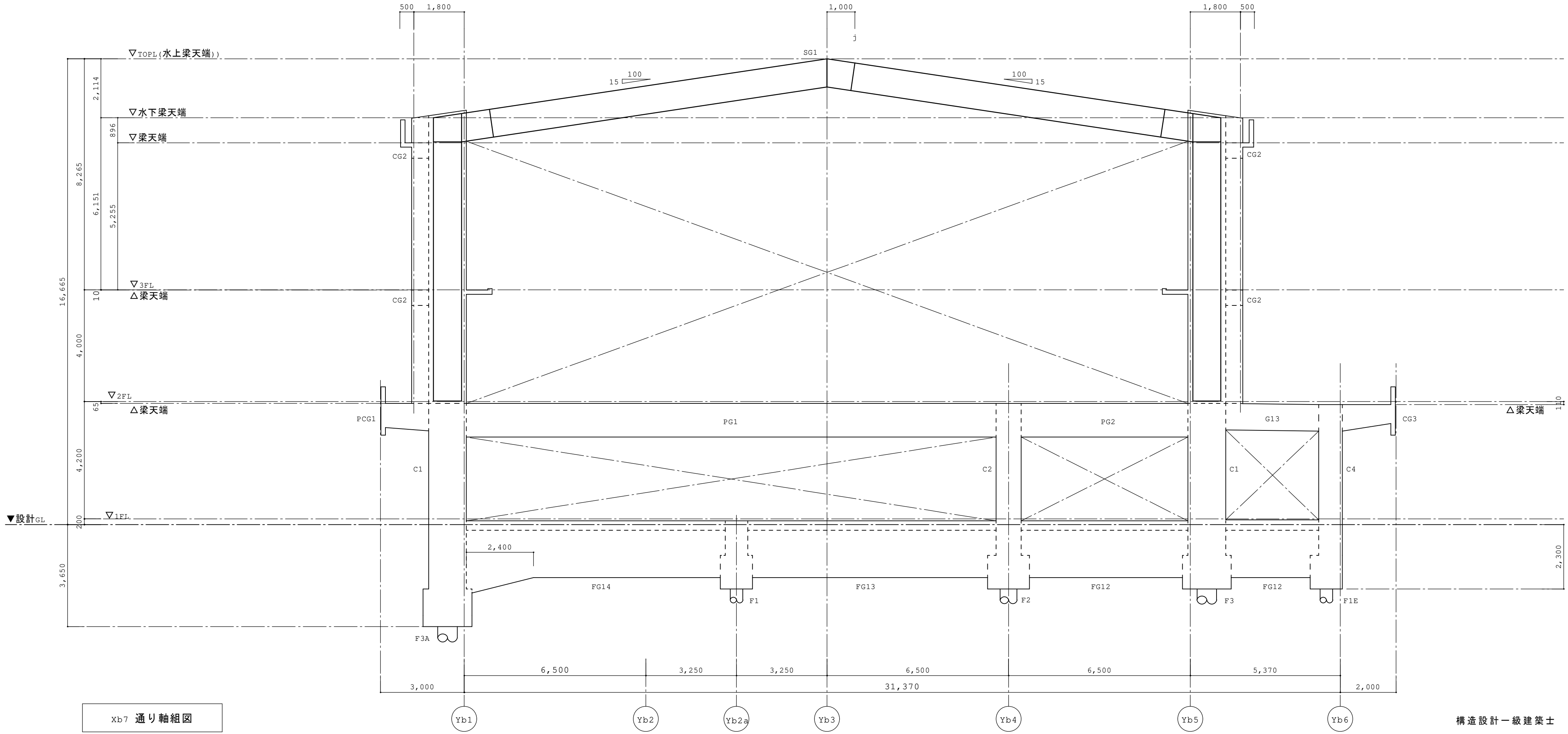
　　　　　　　　▽印は水平スリットを示す。

3.大梁ジョイント位置 柱芯 L=1500

「j」はジョイント位置を示す。



Xb6 通り軸組図



Xb7 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実

構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題 軸組図（7）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図番 S－34

軸組図(8)　1/100

特記無き限り

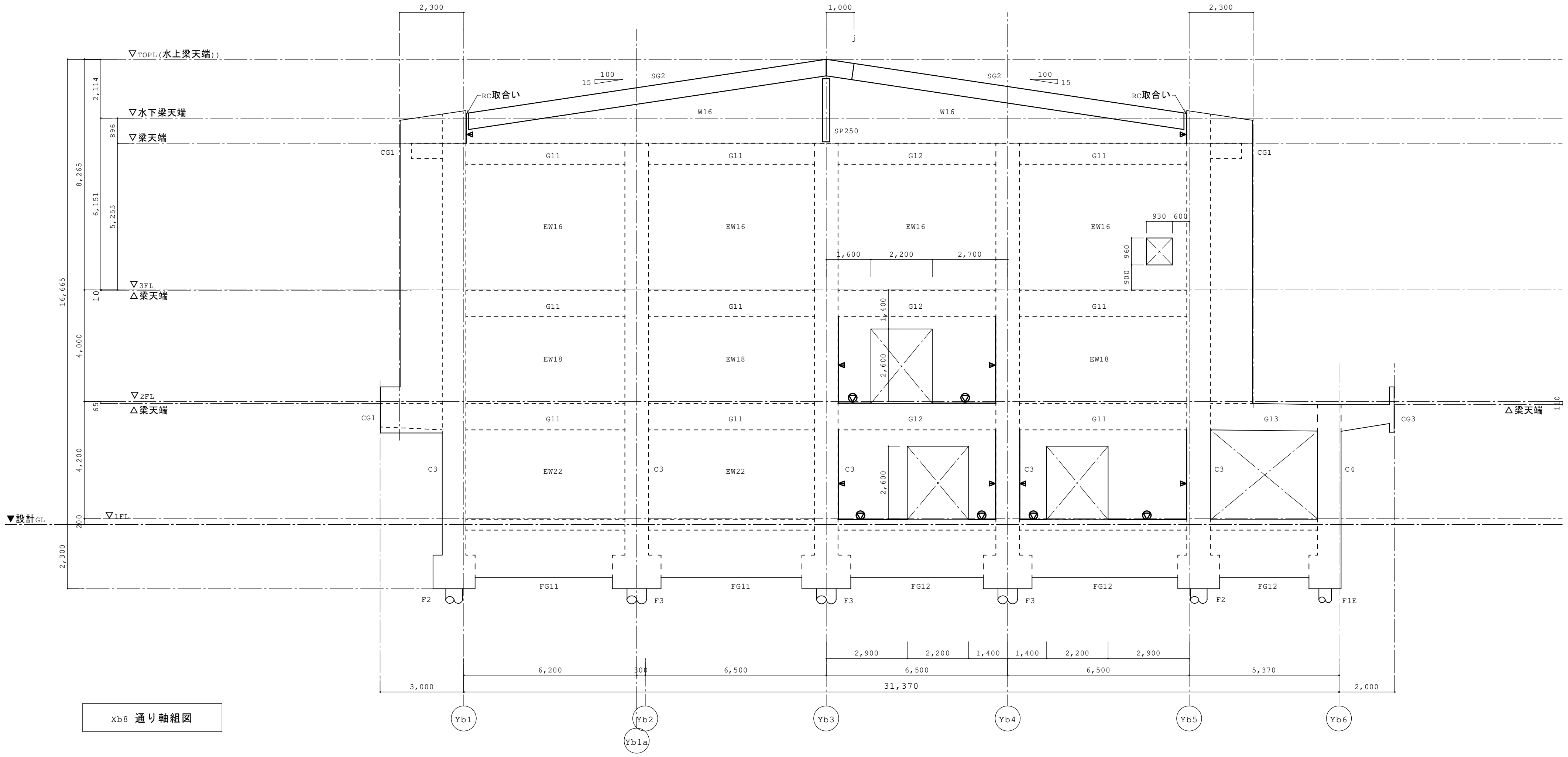
1.壁はW16

2.構造スリット　◁印は鉛直スリット

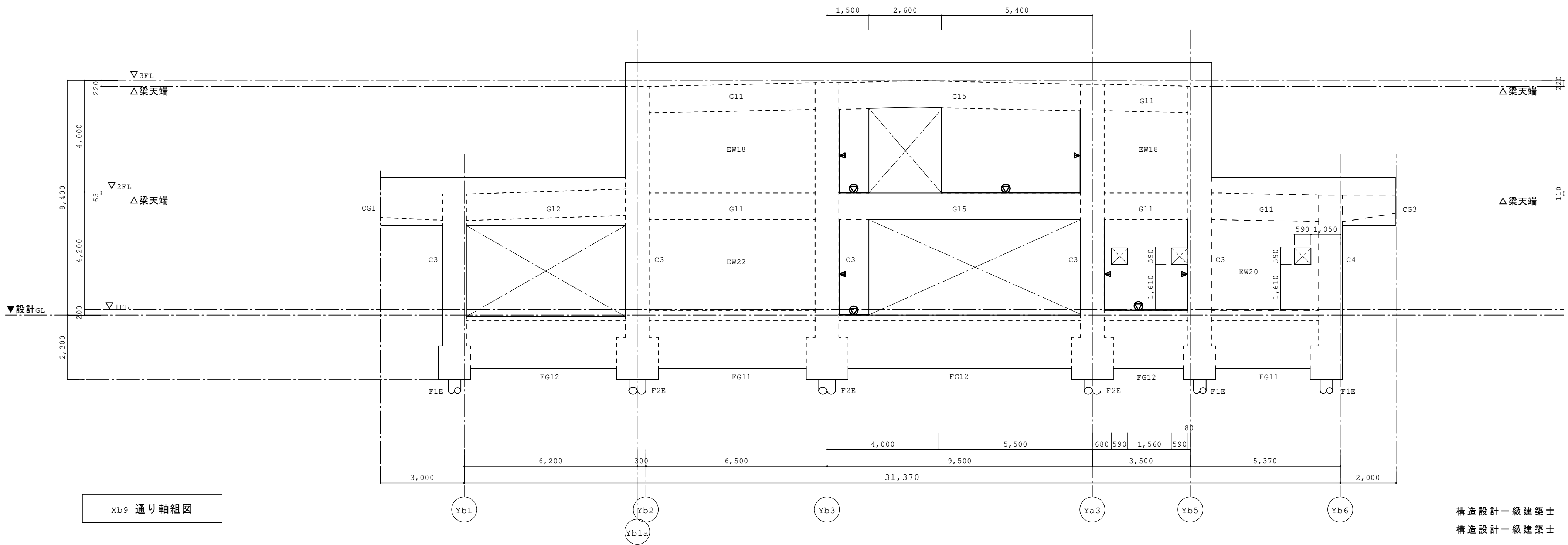
　　　　　　　Ⓥ印は水平スリットを示す。

3.大梁ジョイント位置 柱芯 L=1500

「j」はジョイント位置を示す。



Xb8 通り軸組図



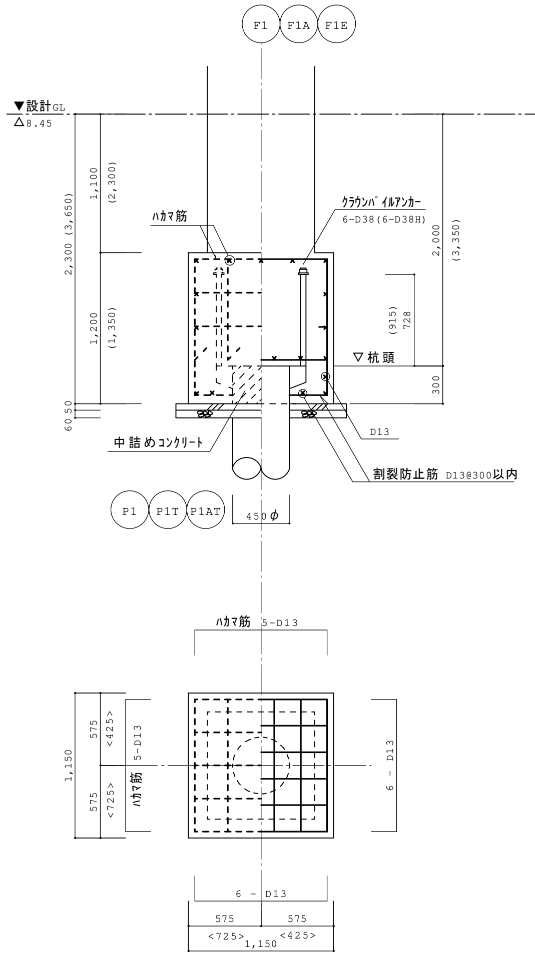
Xb9 通り軸組図

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

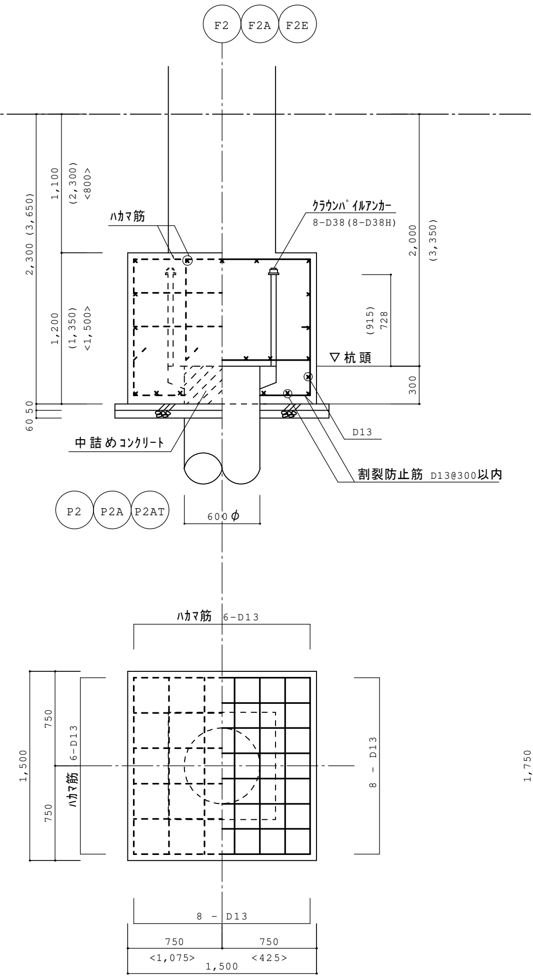
JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	軸組図（8）	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	図番	S－35

基礎リスト　1/30

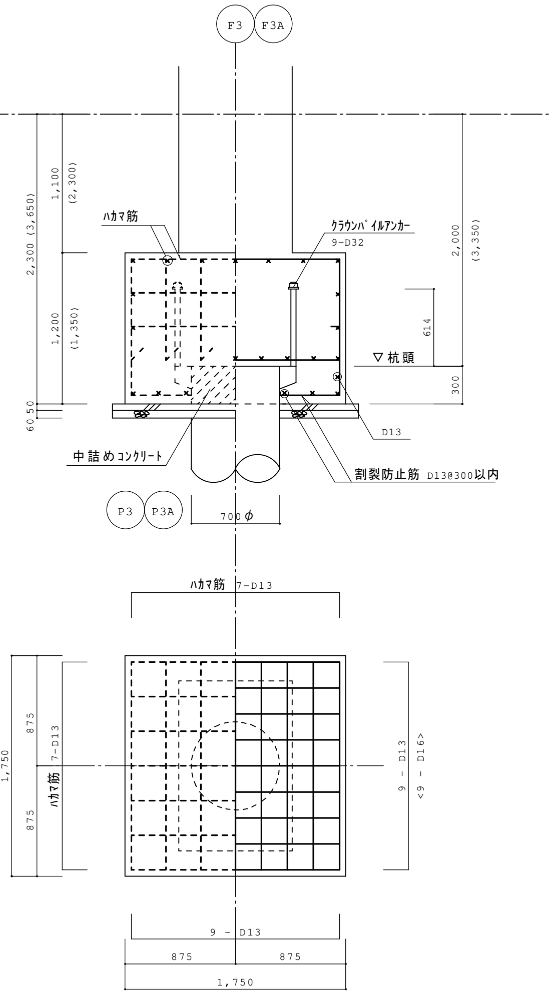
(　)内寸法はF1Aを示す。
<　>内寸法はF1Eを示す。



(　)内寸法はF2Aを示す。
<　>内寸法はF2Eを示す。

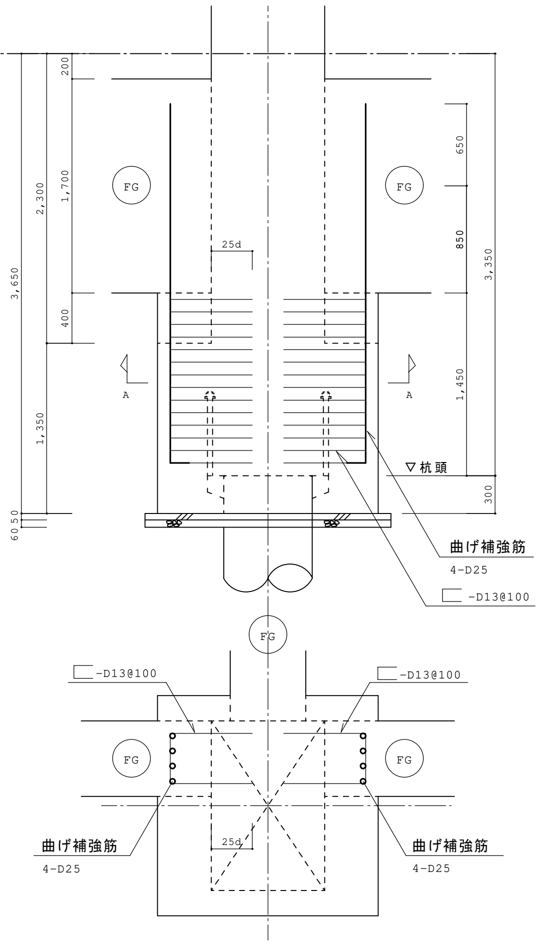


(　)内寸法はF3Aを示す。



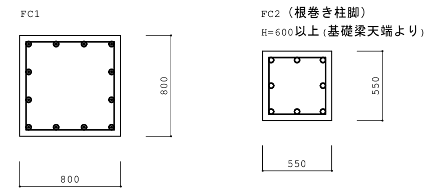
フーチング補強要領図

基礎梁下端以下にフーチングがある場合
補強該当箇所
X方向：Yb1/Xb0〜Xb7通り、Yb2,Yb3,Yb4,Yb5/Xb0通り
Y方向：Xb0/Ya1〜Ya5通り、Xb1/Xb5通り、Xb2/Yb6通り



A -A 矢視

柱型リスト　1/30



FC1	
主　筋	12-D25
HooP	□-D13@100

FC2	
主　筋	8-D22
HooP	□-D10@100
TopHoop	2-D10

杭仕様（ Hyper-MEGA工法(標準型)(または同等工法)/大臣認定番号 TACP-0530/嵌合方式無溶接継手）

符　号	杭天端 設計GL-(m)	杭長(m)	杭径(杭種)/長さ			長期支持力 (kN)	本数
			上杭	中杭	下杭		
P1	2,000	28.0	HiSC105 I (t=9) 450φ/L=5.0m	PHC85(C種) 450φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種) 450-600φ/L=12.0m	1,240	14
P1T	2,000	28.0	HiSC105 I (t=9) 450φ/L=5.0m	PHC85(C種/T100) 450φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種/T100) 450-600φ/L=12.0m	1,240	1
P1AT	3,350	27.0	HiSC105 I (t=12) 450φ/L=5.0m	PHC85(C種/T100) 450φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種/T100) 450-600φ/L=12.0m	1,240	1
P2	2,000	28.0	HiSC105 I (t=9) 600φ/L=5.0m	PHC85(B種) 600φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種) 600-800φ/L=12.0m	2,410	15
P2A	3,350	27.0	HiSC105 I (t=9) 600φ/L=5.0m	PHC85(B種) 600φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種) 600-800φ/L=12.0m	2,410	5
P2AT	3,350	27.0	HiSC105 I (t=12) 600φ/L=5.0m	PHC85(B種/T100) 600φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種/T100) 600-800φ/L=12.0m	2,410	1
P3	2,000	28.0	HiSC105 I (t=6) 700φ/L=5.0m	PHC85(A種) 700φ/L=11.0m	HF-PHC85(A種) 700-900φ/L=12.0m	3,760	8
P3A	3,350	27.0	HiSC105 I (t=6) 700φ/L=5.0m	PHC85(A種) 700φ/L=10.0m	HF-PHC85(A種) 700-900φ/L=12.0m	3,840	8
						合計	53

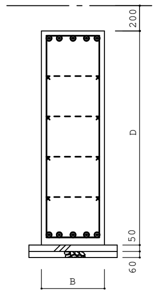
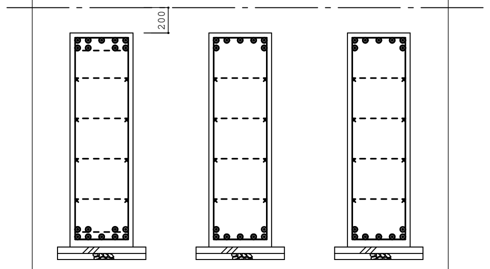
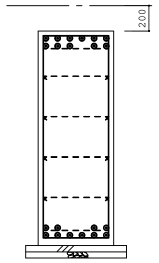
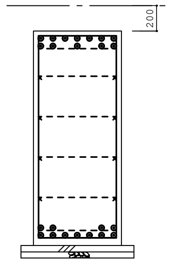
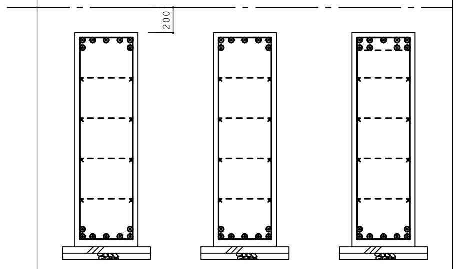
特記事項

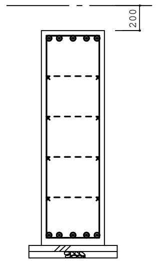
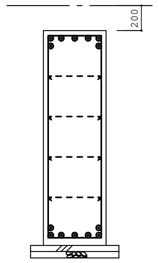
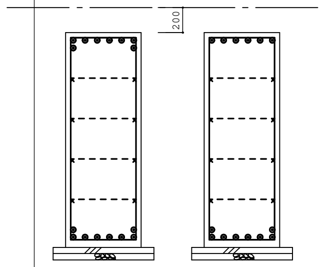
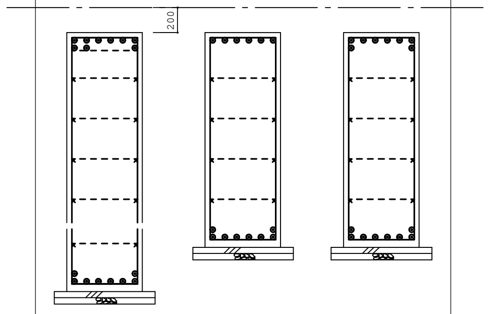
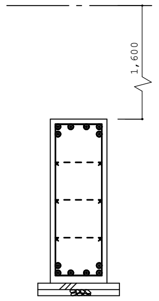
1.	コンクリート	$Fc=27N/mm^2$
2.	鉄　筋	D10〜D16(SD295)/D19〜D25(SD345)/D32,D38(SD390)

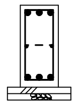
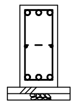
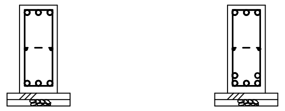
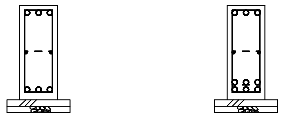
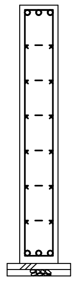
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

基礎梁リスト　1/30

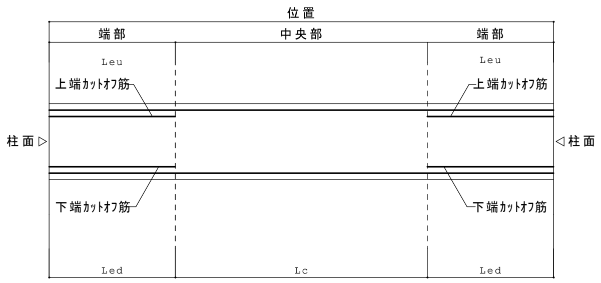
特記なき限り　幅止め筋 D10 @1000以内

符　号	FG1	FG2			FG3	FG4	FG5		
位　置	全断面	外端部(Yb6/Xb2端)	中央部	内端部(連続端)	全断面	全断面	Xb8端部	中央部	Xb9端部
▽1FL 200 △設計G.L		Leu=2900							Leu=2900
断　面		 Led=2500							
B x D	500x1700	500x1700			600x1700	700x1700	500x1700		
上端筋	5-D25	5/4-D25	5/2-D25	5/2-D25	6/5-D25	7/5-D25	5/2-D25	5/2-D25	5/4-D25
下端筋	5-D25	5/4-D25	5/2-D25	5/2-D25	6/4-D25	7/4-D25	5/2-D25	5/2-D25	5/2-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200		
腹　筋	8-D13	8-D13			8-D13	8-D13	8-D13		

符　号	FG11	FG12	FG13			FG14			FG15
位　置	全断面	全断面	両端部	中央部		Yb1端部	中央部	内端部	全断面
▽1FL 200 △設計G.L			Leu=2800			Leu=3000		Leu=2400	
断　面									
B x D	500x1700	500x1700	600x1700			600x2300　～　600x1700			450x1300
上端筋	5-D25	5/2-D25	6/2-D25	6-D25		6/3-D25	6-D25	6/2-D25	4/2-D25
下端筋	5-D25	5/2-D25	6/2-D25	6/2-D25		6/2-D25	6/2-D25	6/2-D25	4/2-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200
腹　筋	8-D13	8-D13	8-D13			8～12-D13			6-D13

符　号	FB1	FB2	FB3		FB4		FB5
位　置	全断面	全断面	両端部	中央部	両端部	中央部	全断面
断　面							
B x D	300x650	300x650	300x700		300x750		300x2050
上端筋	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3-D19	3-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	3/3-D22	3-D22
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200		□-D13@200
腹　筋	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		12-D13

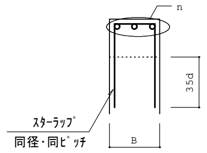
ｶｯﾄｵﾌ筋長さ（断面ﾘｽﾄにｶｯﾄｵﾌ筋長さ参照）



増打ち補強筋

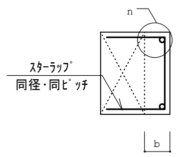
上・下端共

B＜300	n= 2-D13
300≦B＜450	n= 3-D16
450≦B＜650	n= 4-D16
650≦B	n= D16@200



側面

100＜b＜200	n= 1-D16
200≦b＜350	n= 2-D16
350≦b＜550	n= 3-D16
550≦b	n= D19@200

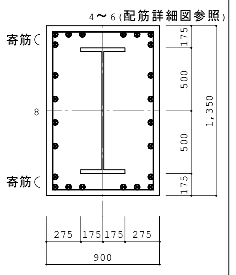
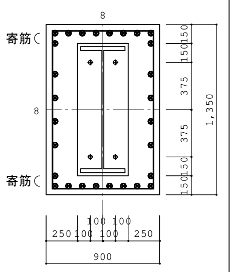
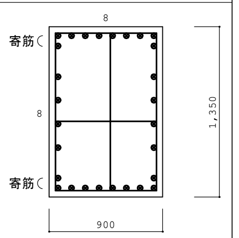


※腹筋　同径@200程度

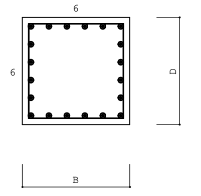
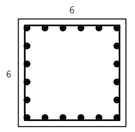
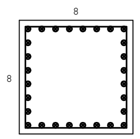
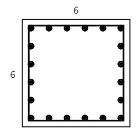
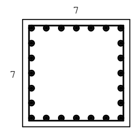
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	基礎梁リスト	縮尺 A1:1/30 A3:1/60

柱リスト 1/30

符号	C1	
2～3階 柱頭		
B x D	900 x 1350	
鉄骨	H-1000x350x16x32(SN400B)	
主筋	20～24 - D29(SD390)	
HooP	□-D13@100	
2～3階 柱脚		
B x D	900 x 1350	
鉄骨	H-1000x350x16x32(SN400B)	
BPL	BPL-36x400x1050(SN490B)	
ABolt	4-M27(ABR490/L=630)	
主筋	28 - D29(SD390)	
HooP	□-D13@100	
1階		
B x D	900 x 1350	
主筋	28 - D29(SD390)	
HooP(仕口)	X方向	3⊟-S13@100(4⊟-S13@100)
	Y方向	3◫-S13@100(4◫-S13@100)

特記無き限り HooP ( ) 内は仕口部を示す。

符号	C2	C3		C4
3階				
B x D		850 x 850		
主筋		20 - D25		
HooP(仕口)		X方向	□-S13@100	
		Y方向	□-S13@100	
2階				
B x D		850 x 850		
主筋		20 - D25		
HooP(仕口)		X方向	□-S13@100	
		Y方向	□-S13@100	
1階				
B x D	900 x 900	850 x 850		850 x 850
主筋	28 - D29(SD390)	20 - D25		24 - D25
HooP(仕口)	X方向 □-S13@100(3⊟-S13@100)	X方向	□-S13@100	X方向 □-S13@100
	Y方向 □-S13@100(3◫-S13@100)	Y方向	□-S13@100	Y方向 □-S13@100

特記なき限り

1. コンクリート Fc=27N/mm²
2. 鉄筋 D10～D16(SD295), D19～D25(SD345)
3. HooP HooPは全て溶接閉鎖型とする。S13:高強度せん断補強筋 MK785
( ) 内HooPは仕口部を示す。

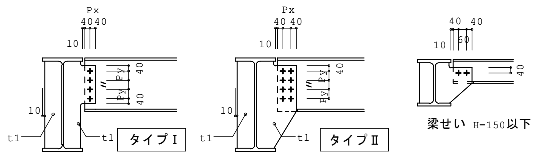
鉄骨部材リスト

特記なき限り
鉄骨材質 SS400 (PLはSN400B) ボルト H.T.B S10T

符号	部材		備考
SG1	両端部	H -1000x350x16x32(SN400B)	(J1)
	中央部	H -1000x350x16x28(SN400B)	
SG2	全断面	H -588x300x12x20(SN400B)	接合部:GPL-16,6-M22(Py=80) (J2)
sB40	H -400x200x8x13		G'PL- 9,4-M20(Py=80)
sB30	H -300x150x6.5x9		G'PL- 9,3-M20(Py=80)
sB25	H -250x125x6x9		G'PL- 9,2-M20(Py=90)
CB20	H -200x100x5.5x8(SN400B/溶融亜鉛メッキ)		G'PL- 6,2-M16(F8T,外部階段)
sB17	H -175x90x5x8		G'PL- 6,2-M16
sb1	[-100x50x5x7.5		G'PL-6,2-M16
h1	L -75x75x6		G'PL-9,2-M20
HB25	H -250x125x6x9(横使い)		G'PL- 9,2-M20(Py=90)
HB20	H -200x100x5.5x8(横使い)		G'PL- 6,2-M16(Py=80)
SP100	H -100x100x6x8		G'PL- 6,2-M16
HV1	2L-65x65x6		G'PL-9,5-M16
HV2	2L-75x75x9		G'PL-12,5-M20
水平ブレース	M30		G'PL-12,2-M22（ブドウ棚）
母屋	C-100x50x20x2.3@303(SSC400)		G'PL-4.5,2-M12(中ボルト)
	2C-100x50x20x2.3@1820(SSC400)		G'PL-4.5,2-M12(中ボルト)
ブドウ棚	C-100x50x20x3.2@200(SSC400/横使い)		
アリーナ階段	ササラ PL-22x370以上		G'PL-22,2-M20 踊場補強材 L-50x50x5@300
	PL-4.5(踏板)		B'PL-22x370x150, A'Bolt 2-M16(L=400フック付)
外部階段	ササラ PL-16x300(溶融亜鉛メッキ)		G'PL-16,2-M20(F8T) 踊場補強材 L-50x50x5@300
	PL-4.5(踏板/縞鋼板)		B'PL-16x280x150, A'Bolt 2-M16(L=400フック付)
メンテナンス階段	ササラ PL-9x250		G'PL-9,2-M20
	PL-4.5(踏板/縞鋼板)		B'PL-12x280x150, A'Bolt 2-M16(L=400フック付)

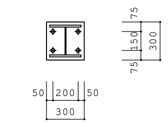
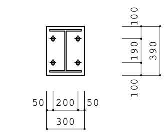
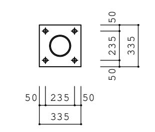
共通事項

1. H形鋼梁ピン接合継ぎ手要領
指示なき場合はタイプIとし、ガセットプレート厚はt1とする。
特記なき限り Px=60,Py=60



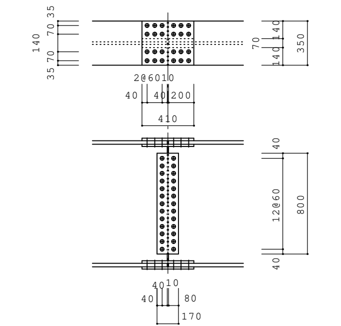
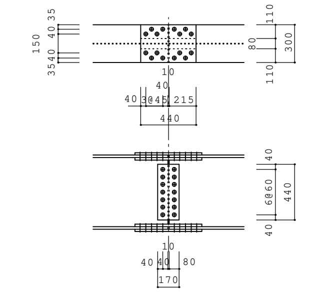
間柱リスト 1/30

特記なき限り 鉄骨材質 SS400

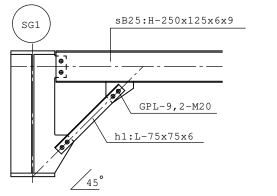
符号	SP250	SP340	SP165
部材	H -250x250x9x14	H -340x250x9x14	○-165.2x7.1(STK400/溶融亜鉛メッキ)
接合部	2SPL-9,2x2-M20	2SPL-9,3-M22	-
柱脚			
ベースプレート	BPL-25x300x300(SN400B)	BPL-25x300x390(SN400B)	BPL-16x335x335(SN400B)
アンカーボルト	4-M20(L=400フック付/SS400)	4-M20(L=400フック付/SS400)	4-M20(L=400フック付/SS400)

継手リスト 1/30

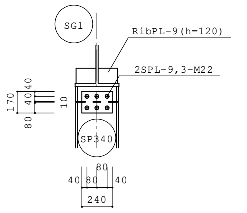
特記なき限り
鉄骨は SN400B スプライス PLはSN材かつ母材と同等強度とする。

(J1)	H -1000×350×16×28(SN400B)				(J2)	H -588×300×12×20(SN400B)			
									
フランジ	外	S'PL-19×410×350	H.T.B	12-M22	フランジ	外	S'PL-12×440×300	H.T.B	8-M22
	内	2S'PL-22×410×140				内	2S'PL-16×440×110		
ウェブ		2S'PL-12×170×800	H.T.B	13-M22	ウェブ		2S'PL- 9×170×440	H.T.B	7-M22

h1(方杖)接合詳細図 1/30

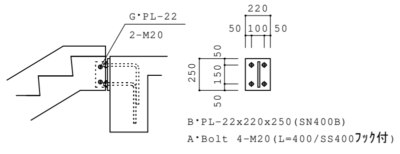


P340(柱頭)接合詳細図 1/30



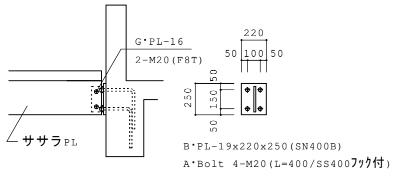
ササラプレートRC造部接合詳細図 1/30

内部階段



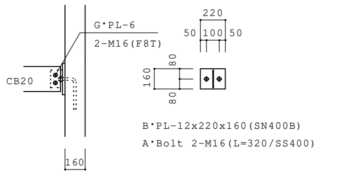
B'PL-22x220x250(SN400B)
A'Bolt 4-M20(L=400/SS400フック付)

外部階段(鉄骨は溶融亜鉛メッキ)



B'PL-19x220x250(SN400B)
A'Bolt 4-M20(L=400/SS400フック付)

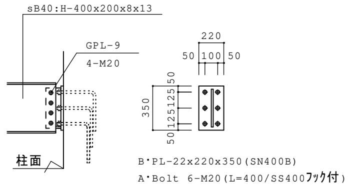
外部階段中間踊場(鉄骨は溶融亜鉛メッキ)



B'PL-12x220x160(SN400B)
A'Bolt 2-M16(L=320/SS400)

sB40 RC造部接合詳細図 1/30

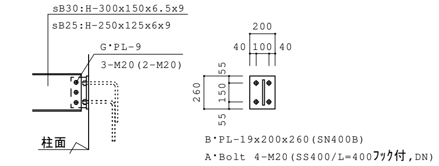
アリーナ階段踊場受部分



B'PL-22x220x350(SN400B)
A'Bolt 6-M20(L=400/SS400フック付)

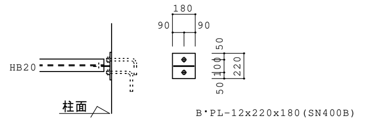
sB25,sB30 RC造部接合詳細図 1/30

( )内ボルトはsB25を示す。



B'PL-19x200x260(SN400B)
A'Bolt 4-M20(SS400/L=400フック付,DN)

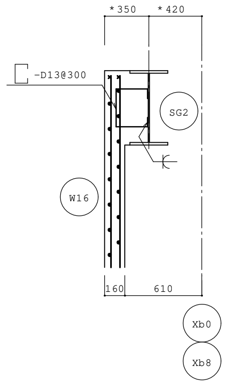
HB20 RC造部接合詳細図 1/30

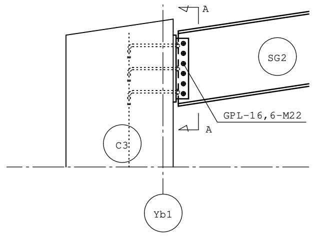


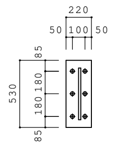
B'PL-12x220x180(SN400B)
A'Bolt 2-M16(L=320/SS400)

SG2梁,RC壁取合い詳細図 1/30

*印寸法は納まり調整寸法とし施工前にて確認の事。







B'PL-25x220x530(SN400B)
A'Bolt 6-M22(L=440/SS400フック付)

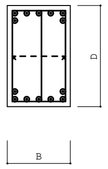
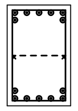
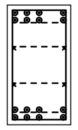
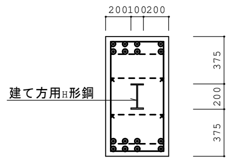
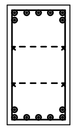
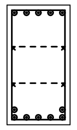
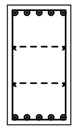
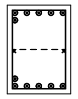
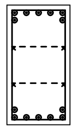
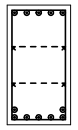
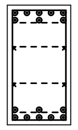
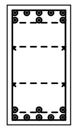
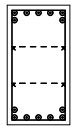
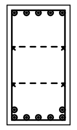
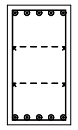
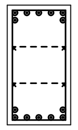
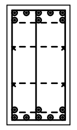
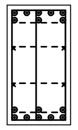
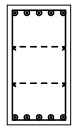
A-A 矢視

構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO.		工事名				標題	縮尺	図番
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計	・ ・	柱リスト/鉄骨部材リスト	A1:1/30 A3:1/60	S－38

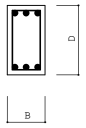
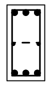
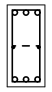
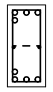
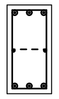
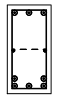
大梁リスト(1)　1/30

特記なき限り 1. 巾止め筋 D10 @1,000 以内とする。

符号	G1(G1A)	G2	G3		G4	G5	G6		G7
位置	全断面	全断面							
R階									
B x D	500x800	500x800							
上端筋	5/2-D25	5/2-D25							
下端筋	5/2-D25	5/2-D25							
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	3◫-D13@100	□-D13@200							
腹筋	2-D13	2-D13							
位置	全断面	全断面	両端部	中央部	全断面	全断面	両端部	中央部	
3階		 建て方用H形鋼:H-200x100x5.5x8/GPL-9,2-M20							
B x D	500x950	500x950	500x950		500x950	500x700	500x950		
上端筋	4/4-D25	4/4-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5/1-D25	5/2-D25	5-D25	
下端筋	4/4-D25	4/4-D25	5/2-D25	5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/2-D25	5/2-D25	
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		
腹筋	4-D13	4-D13	4-D13		4-D13	2-D13	4-D13		
位置	全断面	全断面	両端部	中央部	全断面	全断面	両端部	中央部	全断面
2階									
B x D	500x950(600x950)	500x950	500x950		500x950	500x950	500x950		500x950
上端筋	5/3-D25(6/5-D25)	5/3-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5/2-D25	5/3-D25	5/3-D25	5-D25
下端筋	5/3-D25(6/4-D25)	5/3-D25	5/2-D25	5/2-D25	5-D25	5/2-D25	5/3-D25	5/3-D25	5-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@100(3◫-D13@100)	□-D13@100	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	3◫-D13@100		□-D13@200
腹筋	4-D13	4-D13	4-D13		4-D13	4-D13	4-D13		4-D13

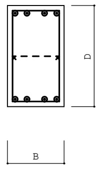
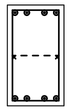
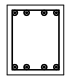
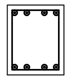
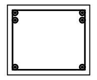
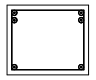
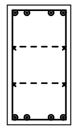
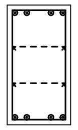
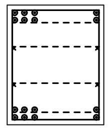
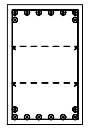
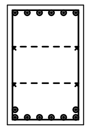
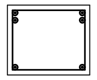
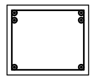
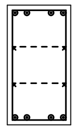
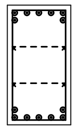
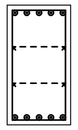
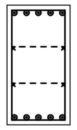
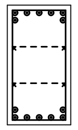
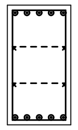
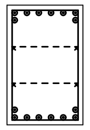
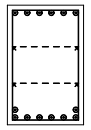
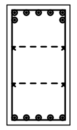
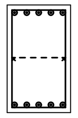
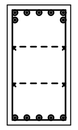
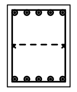
小梁リスト　1/30

特記なき限り 1.巾止め筋 D10 @1,000 以内とする。

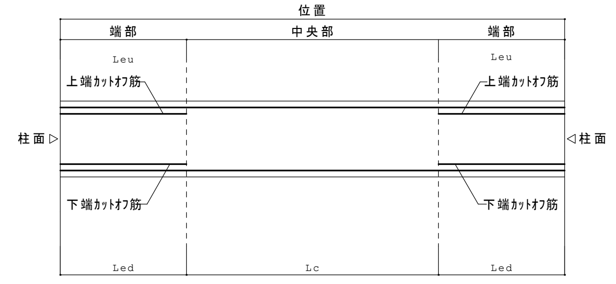
符号	B1	B2	B3	B4	B5	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	両端部	中央部
断面						
B x D	300x550	300x600	300x650	300x650	350x700	
上端筋	3-D19	3-D19	3-D22	3/1-D22	3-D25	3-D25
下端筋	3-D19	3-D19	3-D22	3/1-D22	3-D25	3/2-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	
腹筋	–	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	

大梁リスト(2)　1/30

特記なき限り　1. 巾止め筋　D10 @1,000 以内とする。

符　号	G11	G12		G13	G14		G15		CG1		CG2		CG3	
位　置	全断面	全断面							元端・中央部	先端部	元端・中央部	先端部		
R　階														
B x D	450x750	450x750							450x550		650x550			
上端筋	4-D25	4-D25							4-D25	4-D25	2/2-D25	2/2-D25		
下端筋	4-D25	4-D25							4-D25	4-D25	2-D25	2-D25		
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D13@200							□-D13@200		□-D13@150			
腹　筋	2-D13	2-D13							-		-			
位　置	全断面	全断面			全断面		両端部	中央部			元端・中央部	先端部		
3　階														
B x D	500x950	500x950			770x950		600x950				650x550			
上端筋	4-D25	4-D25			4/4-D25		6/2-D25	6-D25			2/2-D25	2/2-D25		
下端筋	4-D25	4-D25			4/4-D25		6/2-D25	6/2-D25			2-D25	2-D25		
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@100		□-D13@200				□-D13@150			
腹　筋	4-D13	4-D13			4-D13		4-D13				-			
位　置	全断面	両端部	中央部	全断面	両端部	中央部	両端部	中央部	元端・中央部	先端部			元端・中央部	先端部
2　階		Le-1900 												
B x D	500x950	500x950		500x950	500x950		600x950		500x850〜950				500x650〜950	
上端筋	4-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5/2-D25	5-D25	6/2-D25	6-D25	5/2-D25	5-D25			5/2-D25	5-D25
下端筋	4-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5/2-D25	5-D25	6/2-D25	6/2-D25	5-D25	5-D25			5-D25	5-D25
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		□-D13 @200				□-D13 @200	
腹　筋	4-D13	4-D13		4-D13	4-D13		4-D13		2〜4-D13				2〜4-D13	

ｶｯﾄｵﾌ筋長さ（断面ﾘｽﾄにｶｯﾄｵﾌ筋長さ参照）



構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

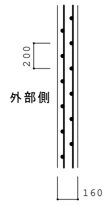
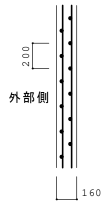
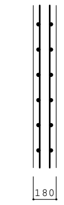
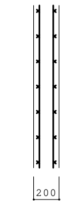
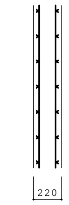
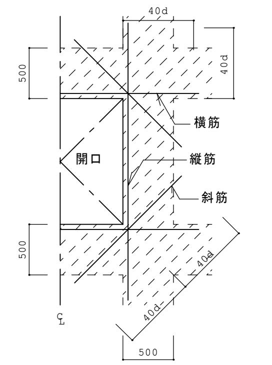
JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 大梁リスト（2）	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図番 S－40

スラブリスト

<table>
<tr><th rowspan="2">符号</th><th rowspan="2">ｽﾗﾌﾞ厚</th><th rowspan="2">位置</th><th colspan="3">短辺方向（主筋方向）</th><th colspan="3">長辺方向（配力筋方向）</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>端部</th><th>中央部</th><th>周辺部</th><th>端部</th><th>中央部</th><th>周辺部</th></tr>
<tr><td rowspan="2">S1</td><td rowspan="2">150</td><td>上端筋</td><td>D10･D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>D10･D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>土に接する場合</td></tr>
<tr><td>下端筋</td><td>D10 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>D10 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>砕石 ｱ100</td></tr>
<tr><td rowspan="2">S2</td><td rowspan="2">150</td><td>上端筋</td><td>D10･D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>D10･D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>土に接する場合</td></tr>
<tr><td>下端筋</td><td>D10 @150</td><td>←</td><td>←</td><td>D10 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>砕石 ｱ100</td></tr>
<tr><td rowspan="2">S3</td><td rowspan="2">150</td><td>上端筋</td><td>D13 @150</td><td>←</td><td>←</td><td>D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>土に接する場合</td></tr>
<tr><td>下端筋</td><td>D10･D13 @150</td><td>←</td><td>←</td><td>D10･D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>砕石 ｱ100</td></tr>
<tr><td rowspan="2">S4</td><td rowspan="2">200</td><td>上端筋</td><td>D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>消化水槽</td></tr>
<tr><td>下端筋</td><td>D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>D13 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>砕石 ｱ100</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>S01</td><td>120</td><td>ｼﾝｸﾞﾙ配筋</td><td>D10 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>D10 @200</td><td>←</td><td>←</td><td>砕石 ｱ100
ピット床（Fc=24N/mm²）</td></tr>
</table>

壁リスト

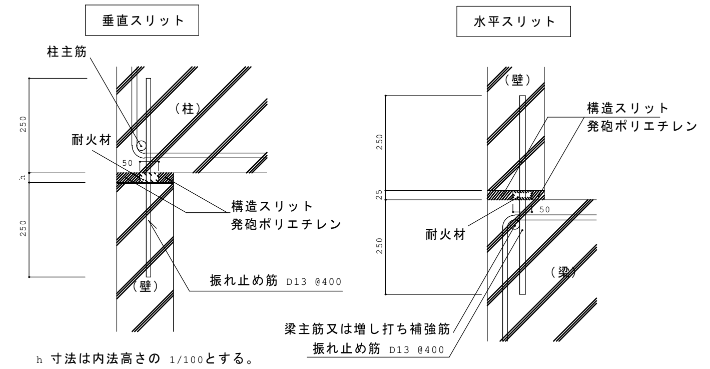
特記なき限り 1. 巾止筋は、D10 @1,000以内とする。

<table>
<tr><th colspan="2">符号</th><th>W16/EW16</th><th>W16A</th><th>EW18</th><th>EW20</th><th>EW22</th><th>開口部補強要領</th></tr>
<tr><td colspan="2">断面</td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td rowspan="6">※開口補強筋は開口廻り500mm以内に配置の事。


40d
500
40d
横筋
開口
縦筋
斜筋
500
40d
40d
CL
500

</td></tr>
<tr><td colspan="2">縦筋</td><td>D10 @200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D10 @150 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D10 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ</td></tr>
<tr><td colspan="2">横筋</td><td>D10 @200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D10 @200 ﾁﾄﾞﾘﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D10 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ</td><td>D13 @200 ﾀﾞﾌﾞﾙ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">開口補強</td><td>縦筋</td><td>1-D13</td><td>-</td><td>-</td><td>2-D13</td><td>-</td></tr>
<tr><td>横筋</td><td>1-D13</td><td>-</td><td>-</td><td>2-D13</td><td>-</td></tr>
<tr><td>斜筋</td><td>1-D13</td><td>-</td><td>-</td><td>2-D13</td><td>-</td></tr>
<tr><td colspan="2">備考</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

耐震スリット詳細図（完全スリット型）

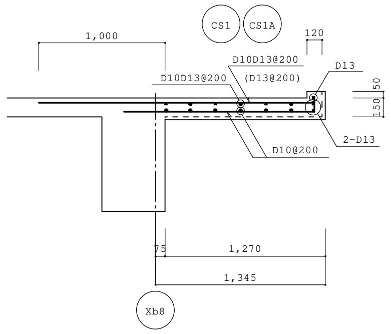

垂直スリット

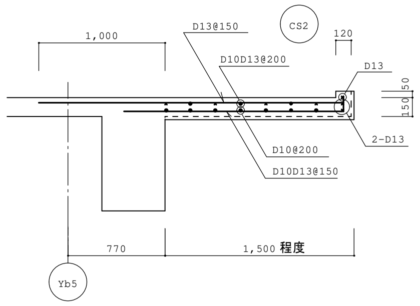
水平スリット

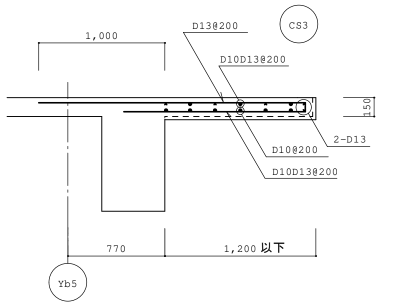
h 寸法は内法高さの 1/100とする。

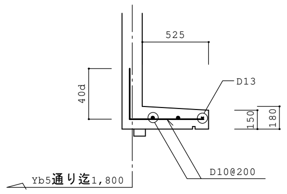
片持ち床リスト 1/30

※（ ）内はCS1Aを示す。



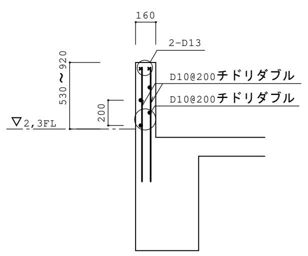


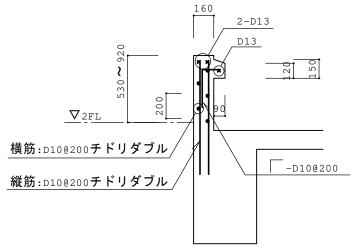




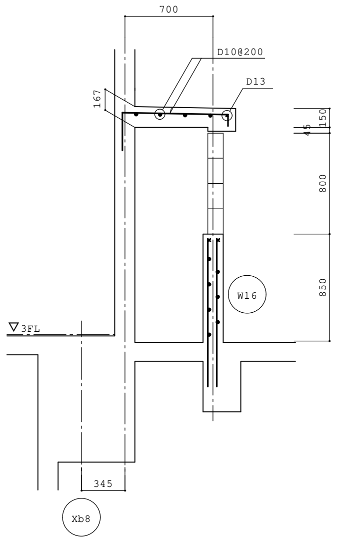
2階 避難階段出入り口 小庇

立上り配筋詳細図 1/30



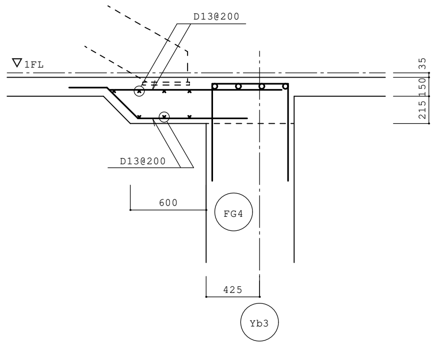


ハト小屋配筋詳細図 1/30



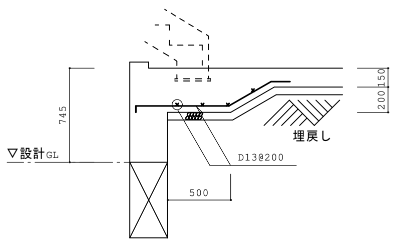
スラブ下端増打ち配筋詳細図（アリーナ階段） 1/30

※下記配筋はスラブ筋以外に配置の事。

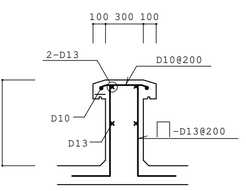


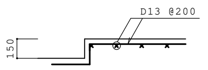
外部階部ササラPL受増打ち詳細図 1/30

※下記配筋はスラブ筋以外に配置の事。

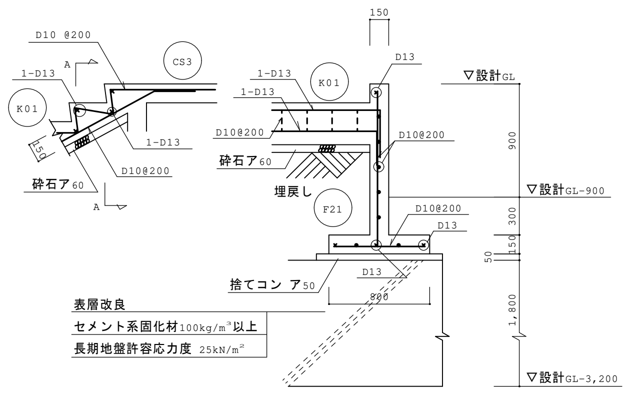


設備基礎配筋詳細図 1/30





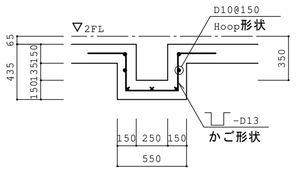
土間階段配筋詳細図 1/30

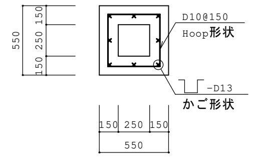


A － A 矢視

ポール支柱基礎詳細図 1/30

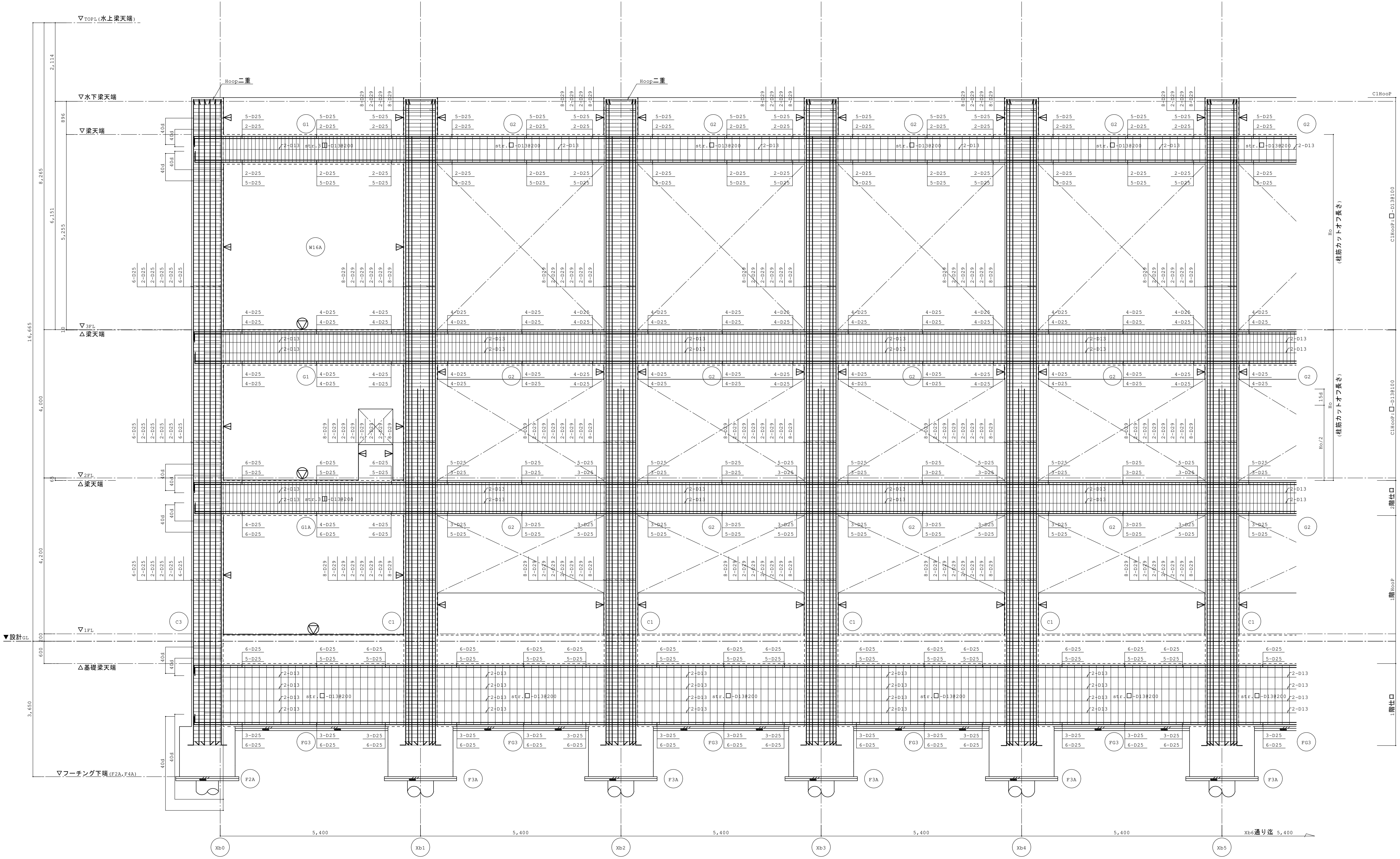
・2階床梁伏図*1印部分





構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO. 125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 スラブ・壁リスト/雑リスト	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図番 S － 41



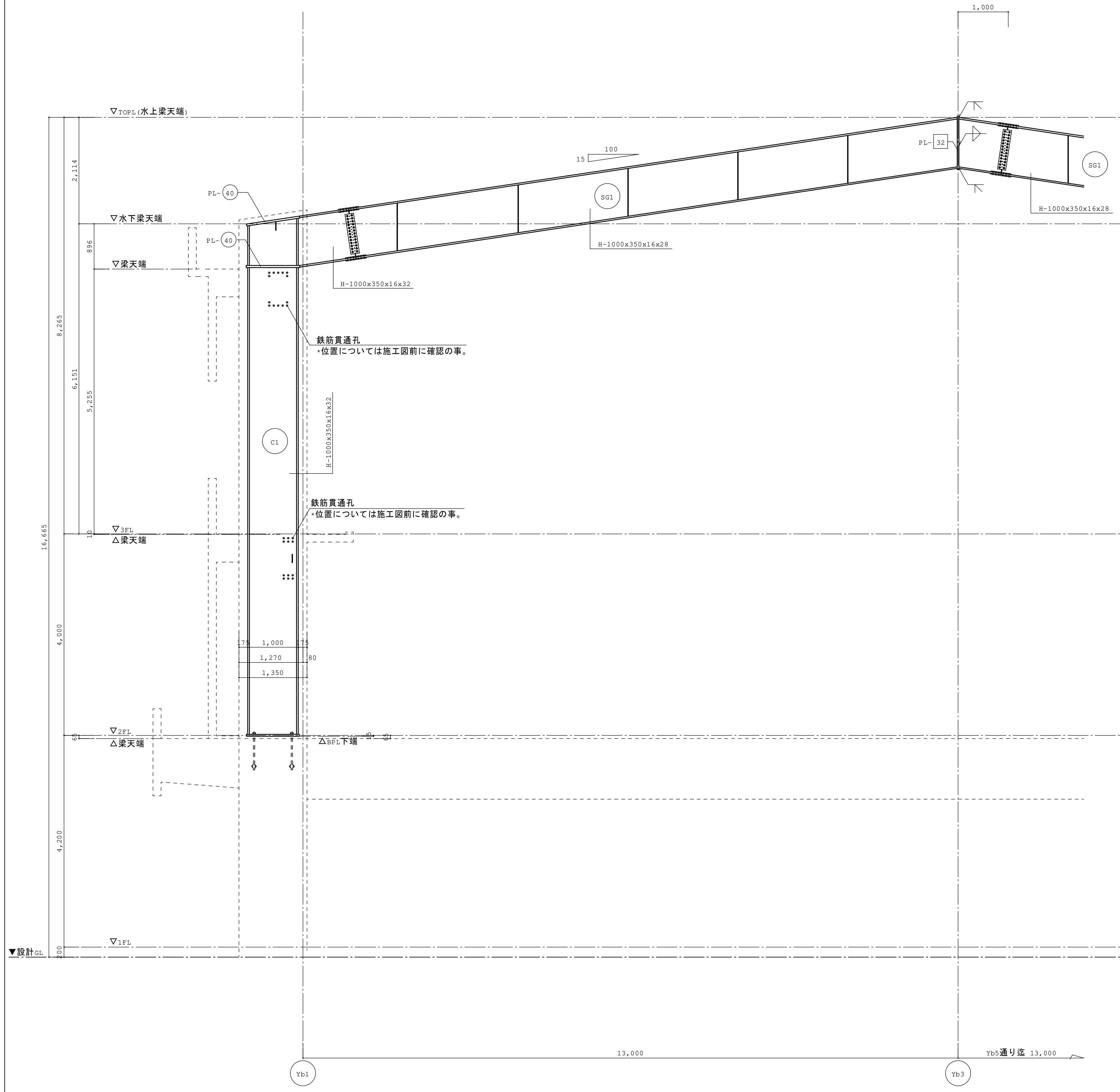
Yb1 通り架構配筋詳細図 1/50
特記無き限り
1.コンクリート Fc=27N/mm²
2.鉄 筋 D10〜D16(SD295)/D19〜D25(SD345)/D29(SD390)
HooP □-S13@100:高強度せん断補強筋(MK785)
HooPは全て溶接閉鎖型とする。
str.(スターラップ)：□-D13@200
3.壁はW16
4.構造スリット ◁ 印は鉛直スリット
Ⓥ印は水平スリットを示す。

柱 HooP

符 号	位 置	X方向	Y方向
C1	2階仕口	4⊟-S13@100	3◫-S13@100
	1階	3⊟-S13@100	3◫-S13@100
	1階仕口	4⊟-S13@100	3◫-S13@100

構造設計一級建築士 第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号 林 信実
構造設計一級建築士 第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号 新長 了

JOB NO.							
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所 株式会社浦建築研究所	設計 ・ ・	標題 架構配筋詳細図	縮尺 A1:1/50 A3:1/100	図番 S — 42

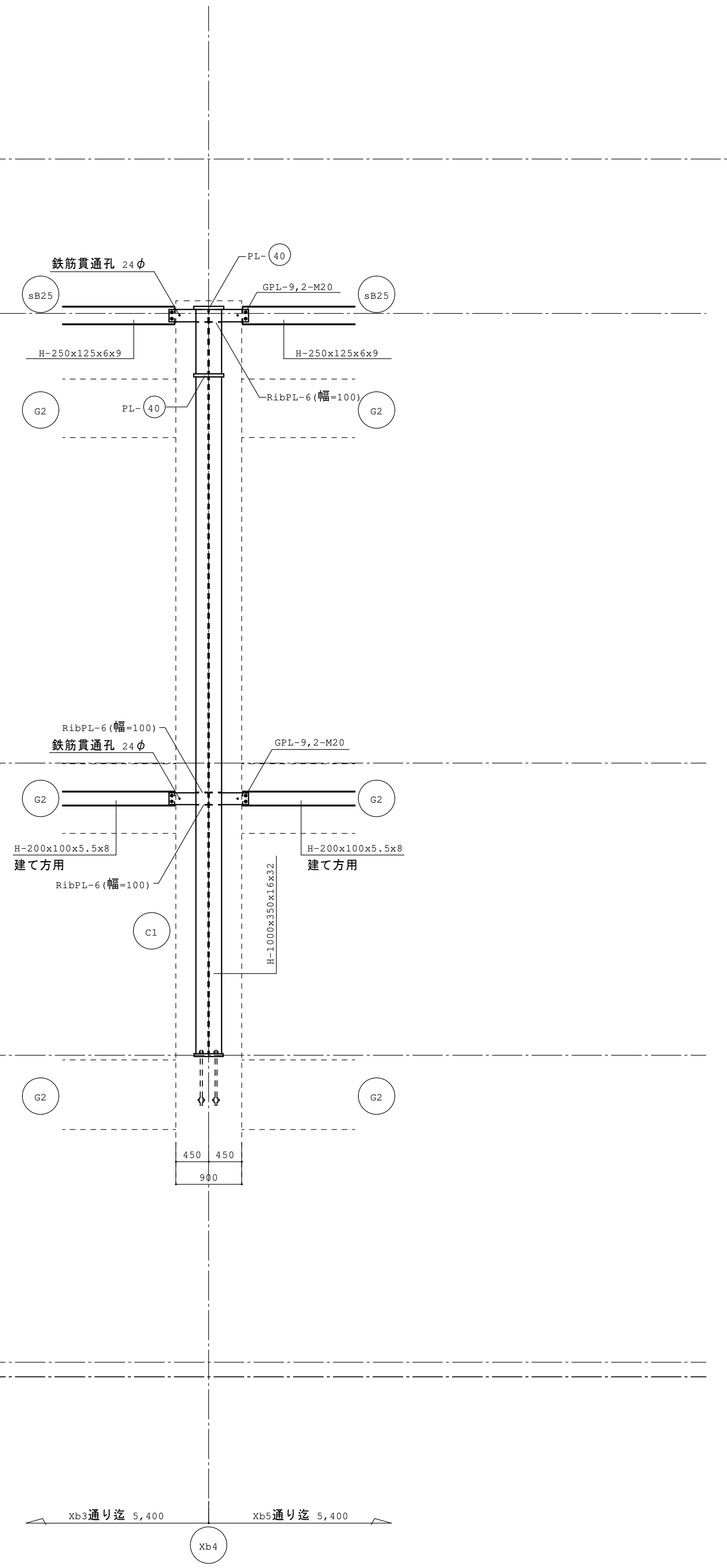


Xb4 通り鉄骨架構詳細図　1/50

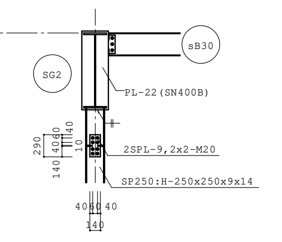
1. 鉄骨　SN400B / 高力ボルト:H.T.B S10T
2. 仕口部はノンスカラップ工法とする。
3. 溶接：ﾌﾗﾝｼﾞ部は突合せ溶接、ｳｪﾌﾞ部は両面隅肉溶接
4. 通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑﾌﾟﾚｰﾄ PL-○はSN490C
   PL-□はSN490B(内ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ)　を示す。
5. 大梁継手位置　柱芯　L=1,500

鉄筋貫通孔径(mm)

呼び径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
貫通孔	21	24	28	31	35	38	43



Yb1 通り鉄骨架構詳細図　1/50

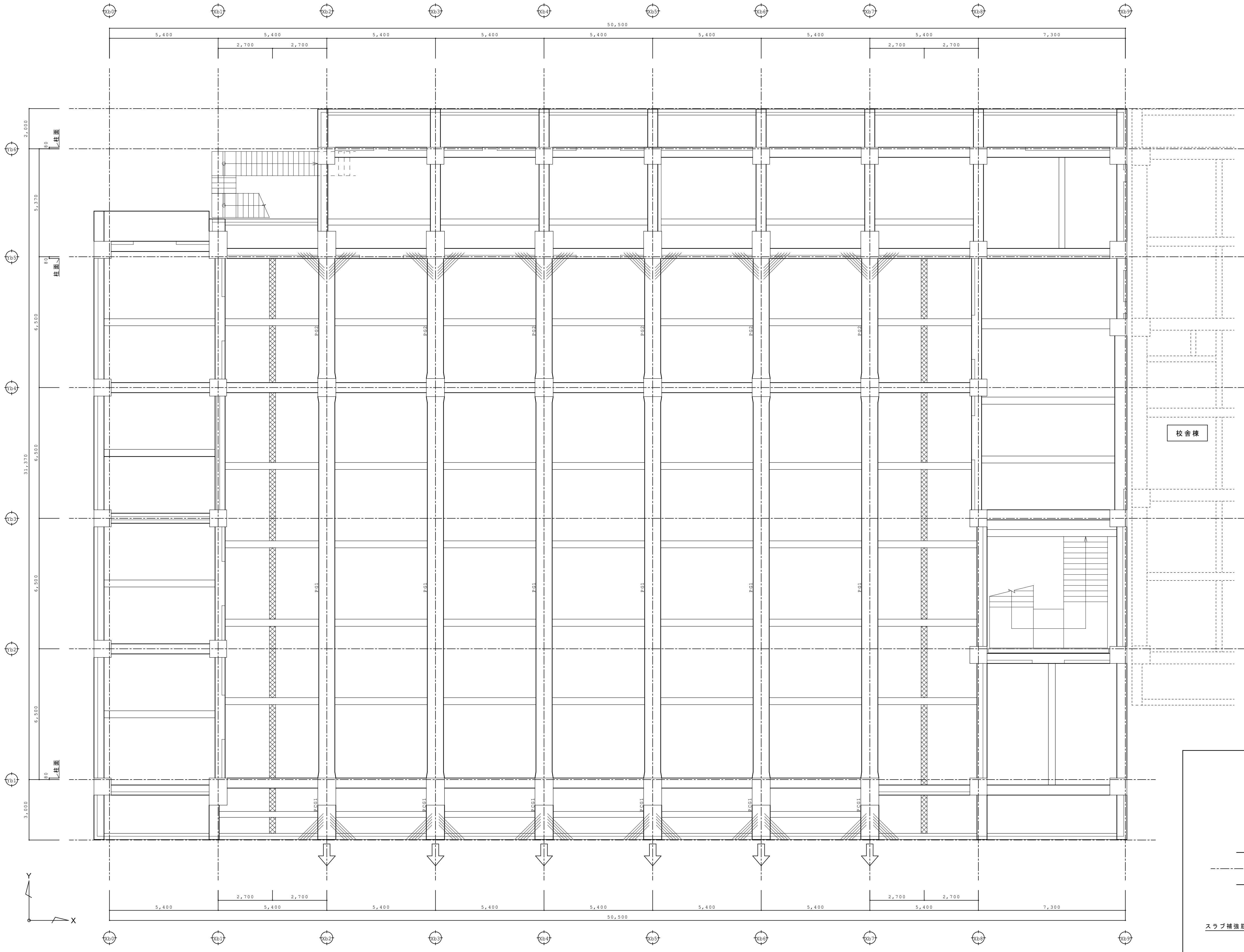


SP250柱頭詳細図　1/50

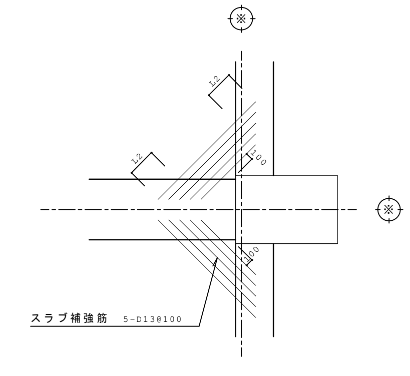
構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	鉄骨詳細図	縮尺 A1:1/50 A3:1/100

図番 S－43



2階ＫＹＥＰＬＡＮ



スラブ補強筋要領図　1/50

※スラブ補強筋は、スラブ上端筋の下に配置する。

特記事項

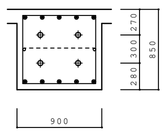
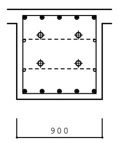
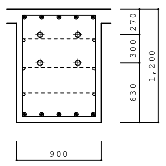
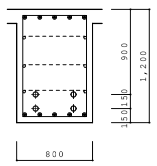
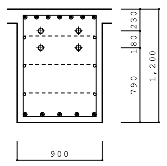
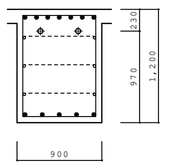
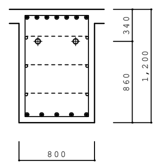
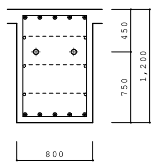
1．⇨印は、ＰＣ梁緊張方向を示す。

2．▨は、スラブスリット（幅３００mm）を示し、ＰＣ緊張後コンクリート打設するものとする。

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

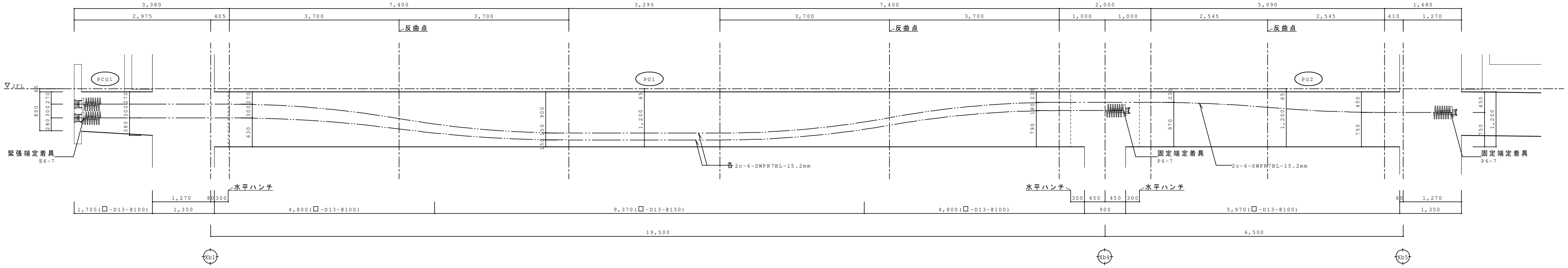
JOB NO.								
125280	2026 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題　ＰＣ梁：２階ＫＹＥＰＬＡＮ図	縮尺　A1:1/ 50、100 A3:1/100、200	図番　Ｓ－44

ＰＣ梁リスト 1/40　　※幅止め筋：Ｄ１０－＠１００以内

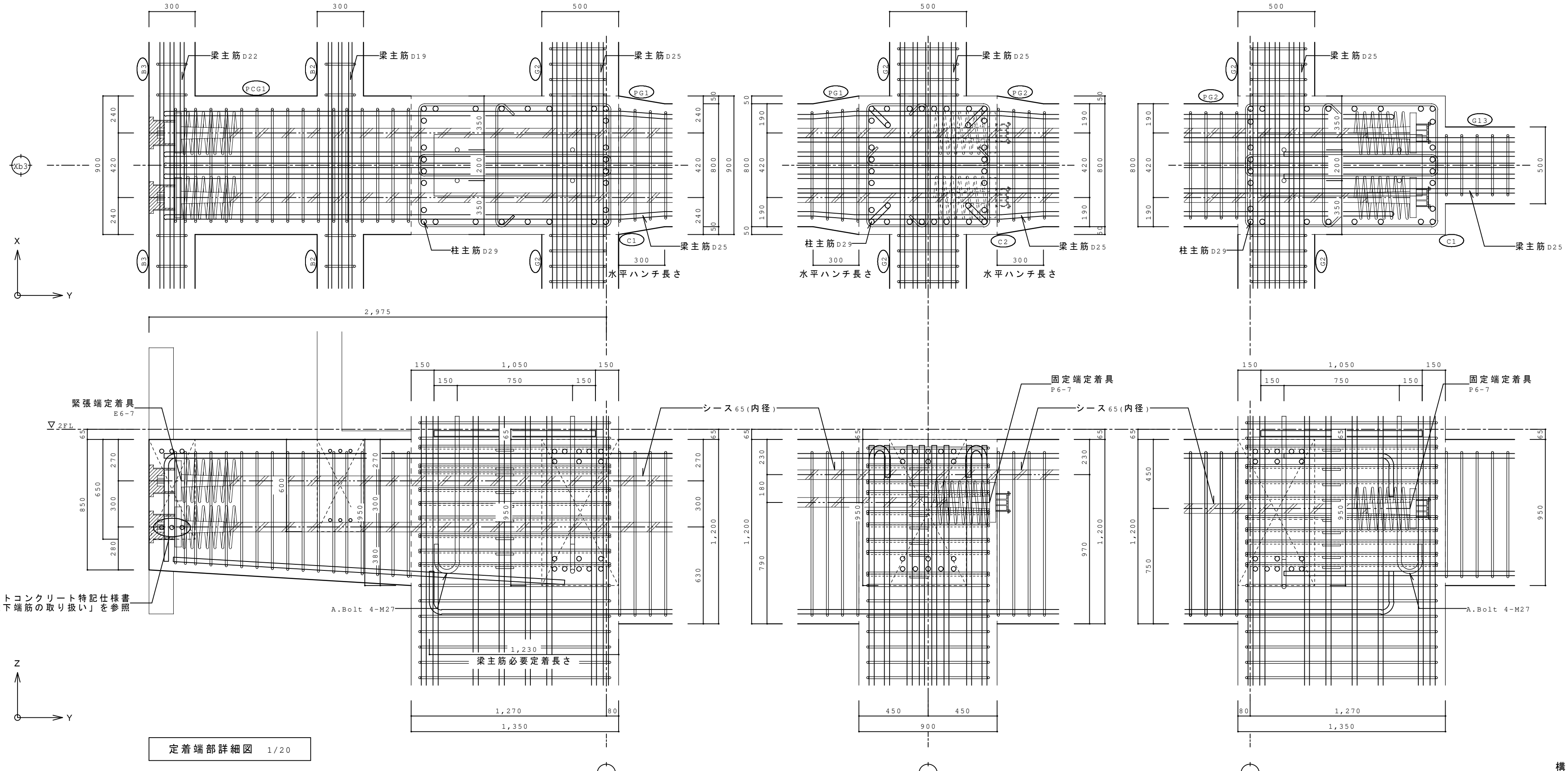
符号	ＰＣＧ１		ＰＧ１			ＰＧ２		
位置	先端	基端	Ｙｂ１端	中央	Ｙｂ４端	Ｙｂ４端	中央	Ｙｂ５端
２階								
断面寸法	９００×８５０	９００×９５０	９００×１,２００	８００×１,２００	９００×１,２００	９００×１,２００	８００×１,２００	８００×１,２００
上端筋	５－Ｄ２５		５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	７－Ｄ２５	７－Ｄ２５	７－Ｄ２５	５－Ｄ２５
下端筋	５－Ｄ２５		５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５	５－Ｄ２５
あばら筋	□－Ｄ１３－＠１００		□－Ｄ１３－＠１００	□－Ｄ１３－＠１５０	□－Ｄ１３－＠１００	□－Ｄ１３－＠１００		
腹筋	２－Ｄ１０	４－Ｄ１０	６－Ｄ１０			６－Ｄ１０		
ケーブル	４ｃ－６－ＳＷＰＲ７ＢＬ－１５.２mm		４ｃ－６－ＳＷＰＲ７ＢＬ－１５.２mm			２ｃ－６－ＳＷＰＲ７ＢＬ－１５.２mm		
備考	――――		――――			――――		

部材リスト

コンクリート	設計基準強度		Ｆｃ　＝２７N/mm2
	導入時強度		Ｆｃｉ＝２０N/mm2
ＰＣ鋼材	名称		６－ＳＷＰＲ７ＢＬ－１５.２mm
	引張荷重		Ｐｕ＝１,５６６kN/ケーブル
	降伏荷重		Ｐｙ＝１,３３２kN/ケーブル
	許容引張荷重	導入時	１,１３２kN/ケーブル
		定着時	１,０６６kN/ケーブル
	緊張端部設計導入力		Ｐｏ＝１,０６６kN/ケーブル
鉄筋	ＳＤ２９５(～Ｄ１６)、ＳＤ３４５(Ｄ１９～Ｄ２５)、ＳＤ３９０(Ｄ２９～)		



Ｘｂ２～Ｘｂ７通り配線断面図 1/50



プレストレストコンクリート特記仕様書
「11．小梁下端筋の取り扱い」を参照

定着端部詳細図 1/20

Yb1　Yb4　Yb5

構造設計一級建築士　第9060号 / 一級建築士（大臣登録）第322866号　林　信実
構造設計一級建築士　第6353号 / 一級建築士（大臣登録）第263694号　新長　了

JOB NO. 125280	2025 年 03 月	中央地区小学校災害復旧工事（屋内運動場棟）（建築工事）	一級建築士事務所　株式会社浦建築研究所	設計	・　・	標題	ＰＣ梁：部材リスト、配線断面図、定着端部詳細図	縮尺 A1:1/20、40、50 A3:1/40、80、100
図番	Ｓ－45							